2017年度放送大学学部開設予定授業科目講義内容

2016年11月発行

第　34　版

放送大学学園
学務部教務課

目　　次

新カリキュラム

１．基盤科目

番号		頁	メディア	単位
1	運動と健康（’１３）	1	TV	2
2	小学校外国語教育教授基礎論(’１７)（２０１７年度新規開設科目） －新学習指導要領に向けた外国語活動・外国語への対応－	4	OL	2
3	市民自治の知識と実践（’１５）	7	R	2
4	問題解決の進め方（’１２）	10	TV	2
5	国際理解のために（’１３）	13	R	2
6	「ひと学」への招待（’１２）－人類の文化と自然－	16	R	2
7	自然科学はじめの一歩(’１５)	19	TV	2
8	日本語リテラシー(’１６)	23	TV	2
9	日本語アカデミックライティング(’１７)（２０１７年度新規開設科目）	26	R	2
10	遠隔学習のためのパソコン活用（’１７）（２０１７年度新規開設科目）	29	TV	2
11	情報学へのとびら(’１６)	32	TV	2
12	初歩からの数学（’１２）	35	TV	2
13	身近な統計（’１２）	38	TV	2

２．基盤科目（外国語科目）

		頁	メディア	単位
	（英語）			
14	英語事始め(’１７)（２０１７年度新規開設科目）	41	R	2
15	英語で描いた日本（’１５）	44	TV	2
16	英語の軌跡をたどる旅（’１３）－*The Adventure of English*を読む－	47	R	2
17	英語で読む科学（’１５）	50	R	2
18	Walking with Writers（’１６）－A Literary Journey around England－	53	TV	2
	（ドイツ語）			
19	ドイツ語Ⅰ（’１５）	57	TV	2
20	ドイツ語Ⅱ（’１５）	60	R	2
	（フランス語）			
21	フランス語入門Ⅰ（’１２）	63	TV	2
22	フランス語入門Ⅱ（’１２）	66	R	2
	（中国語）			
23	中国語Ⅰ（’１４）－北京のふたり－	70	TV	2
24	中国語Ⅱ（’１４）－汪曾祺「我的母親」他－	74	R	2
	（韓国語）			
25	韓国語Ⅰ（’１６）	78	TV	2
26	韓国語Ⅱ（’１６）	81	R	2
	（スペイン語）			
27	初歩のスペイン語（’１７）（２０１７年度新規開設科目）	84	R	2
	（イタリア語）			
28	初歩のイタリア語（’１７）（２０１７年度新規開設科目）	87	TV	2

３．コース科目

	生活と福祉コース	頁	メディア	単位
	（導入科目）			
29	生活経済学(’１６）	90	R	2
30	生活者のための不動産学入門（’１３）	93	TV	2
31	生活における地理空間情報の活用(’１６）	96	TV	2
32	女性のキャリアデザイン入門(’１６）	99	OL	1
33	健康と社会（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	101	R	2
34	市民のための健康情報学入門（’１３）	105	R	2
35	疾病の成立と回復促進（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	109	TV	2
36	疾病の回復を促進する薬（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	112	TV	2
37	人体の構造と機能（’１２）	115	TV	2
38	睡眠と健康（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	118	R	2
39	がんを知る(’１６）	121	OL	2
40	社会福祉への招待(’１６）	125	TV	2
41	貧困と社会（’１５）	128	R	2
	（専門科目）			
42	生活環境と情報認知（’１５）	131	TV	2
43	リスク社会のライフデザイン（’１４）－変わりゆく家族をみすえてー	134	R	2
44	人口減少社会の構想（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	137	TV	2
45	ソーシャルシティ（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	140	TV	2
46	食と健康（’１２）	143	TV	2
47	食安全性学（’１４）	147	TV	2
48	臨床家族社会学（’１４）	150	R	2
49	女性のキャリアデザインの展開(’１７） （２０１７年度新規開設科目）	153	OL	1
50	公衆衛生（’１５）	155	R	2
51	健康長寿のためのスポートロジー（’１５）	159	TV	2
52	認知症と生きる(’１５）	162	TV	2
53	感染症と生体防御（’１４）	165	R	2
54	リハビリテーション（’１３）	168	R	2
55	今日のメンタルヘルス（’１５）	171	TV	2
56	看護学概説（’１６）	174	R	2
57	基礎看護学（’１６）	177	TV	2
58	在宅看護論（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	181	TV	2
59	災害看護学・国際看護学（’１４）	184	TV	2
60	少子社会の子ども家庭福祉（’１５）	187	TV	2
61	高齢期の生活と福祉（’１５）	190	R	2
62	障害を知り共生社会を生きる（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	193	TV	2
63	地域福祉の展開（’１４）	196	TV	2
64	社会保険のしくみと改革課題(’１６）	199	R	2
65	アジアの社会福祉と国際協力（’１４）	202	R	2
66	社会福祉の国際比較（’１５）	205	TV	2
67	民法(’１７） 【社会と産業コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	428	R	2
68	家族と高齢社会の法(’１７） 【社会と産業コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	434	TV	2
69	雇用社会と法(’１７） 【社会と産業コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	447	R	2
70	生物の進化と多様化の科学(’１７） 【自然と環境コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	788	TV	2
	（総合科目）			
71	社会福祉と法(’１６）	208	R	2
72	音を追究する(’１６） 【人間と文化コースと共用】	655	R	2

	心理と教育コース	頁	メディア	単位
	（導入科目）			
73	教育学入門（’１５）	211	R	2
74	教育の社会学（’１５）	214	TV	2
75	教育史入門（’１２）	217	R	2
76	発達科学の先人たち(’１６)	220	R	2
77	学校と社会を考える（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	223	OL	2
78	心理と教育を学ぶために(’１２)	226	R	2
79	教育心理学概論（’１４）	230	R	2
80	発達心理学概論（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	233	R	2
81	心理学概論（’１２）	236	TV	2
82	人格心理学（’１５）	239	TV	2
	（専門科目）			
83	生涯学習を考える（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	242	OL	2
84	地域社会の教育的再編（’１２）	245	TV	2
85	家庭教育論（’１２）	248	R	2
86	現代社会の児童生徒指導（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	251	TV	2
87	乳幼児の保育・教育（’１５）	255	R	2
88	学校と法（’１６）	258	R	2
89	日本の教育改革(’１５)	261	R	2
90	子ども・青年の文化と教育（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	264	R	2
91	カリキュラムと学習過程(’１６)	267	R	2
92	道徳教育の方法（’１５）	270	R	2
93	肢体不自由児の教育（’１４）	273	TV	2
94	特別支援教育基礎論（’１５）	276	R	2
95	特別支援教育総論（’１５）	279	R	2
96	知的障害教育総論（’１５）	282	R	2
97	現代日本の教師－仕事と役割－（’１５）	285	R	2
98	幼児教育の指導法(’１５)	288	R	2
99	教育課程の意義及び編成の方法(’１５)	291	OL	1
100	幼児理解の理論及び方法(’１５)	293	OL	1
101	認知神経科学（’１２）	295	TV	2
102	錯覚の科学（’１４）	298	TV	2
103	認知心理学（’１３）	301	TV	2
104	乳幼児心理学(’１６)	304	TV	2
105	交通心理学（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	307	TV	2
106	心理統計法（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	310	TV	2
107	比較認知科学（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	313	R	2
108	心理学研究法（’１４）	316	R	2
109	社会心理学（’１４）	319	R	2
110	危機の心理学(’１７) （２０１７年度新規開設科目）	322	TV	2
111	学力と学習支援の心理学（’１４）	326	TV	2
112	心理臨床の基礎（’１４）	329	R	2
113	心理カウンセリング序説（’１５）	332	R	2
114	精神分析とユング心理学（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	335	R	2
115	認知行動療法（’１４）	338	TV	2
116	心理臨床とイメージ（’１６）	341	TV	2
117	心理臨床と身体の病(’１６)	344	TV	2
118	乳幼児・児童の心理臨床（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	347	TV	2
119	思春期・青年期の心理臨床（’１３）	350	R	2
120	中高年の心理臨床（’１４）	353	R	2
121	ソーシャルシティ（’１７） 【生活と福祉コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	140	TV	2
122	女性のキャリアデザインの展開(’１７) 【生活と福祉コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	153	OL	1
123	障害を知り共生社会を生きる（’１７） 【生活と福祉コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	193	TV	2
124	教育のためのICT活用(’１７) 【情報コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	711	TV	2
	（総合科目）			
125	色と形を探究する(’１７) （２０１７年度新規開設科目）	356	TV	2
126	音を追究する(’１６) 【人間と文化コースと共用】	655	R	2

	社会と産業コース	頁	メディア	単位
	（導入科目）			
127	経済学入門（’１３）	359	R	2
128	社会調査の基礎（’１５）	362	TV	2
129	社会統計学入門（’１２）	365	R	2
130	社会学入門(’１６）	368	TV	2
131	市民社会と法（’１２）	371	R	2
132	事例から学ぶ日本国憲法（’１３）	374	TV	2
133	政治学へのいざない(’１６）	377	R	2
134	グローバル化と私たちの社会（’１５）	380	R	2
135	経営学入門（’１２）	384	R	2
136	現代会計(’１６）	387	TV	2
137	新しい時代の技術者倫理（’１５）	390	TV	2
138	技術経営の考え方（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	393	R	2
139	環境問題のとらえ方と解決方法(’１７） （２０１７年度新規開設科目）	396	R	2
	（専門科目）			
140	都市社会の社会学（’１２）	400	R	2
141	移動と定住の社会学(’１６）	403	TV	2
142	社会と銀行（’１４）	406	TV	2
143	現代経済学（’１３）	409	TV	2
144	労働経済（’１２）	412	TV	2
145	日本経済史（’１２）	415	R	2
146	財政と現代の経済社会(’１５）	418	TV	2
147	市民生活と裁判（’１２）	421	TV	2
148	刑事法(’１６）	425	R	2
149	民法（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	428	R	2
150	行政法（’１２）	431	R	2
151	家族と高齢社会の法（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	434	TV	2
152	日本政治思想史（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	438	R	2
153	国際法（’１４）	441	R	2
154	著作権法概論（’１４）	444	R	2
155	雇用社会と法（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	447	R	2
156	現代日本の政治（’１５）	450	TV	2
157	日本政治外交史（’１３）	453	TV	2
158	現代の行政と公共政策(’１６）	456	R	2
159	現代の国際政治（’１３）	459	TV	2
160	東アジアの政治社会と国際関係（’１６）	462	R	2
161	パレスチナ問題(’１６）	466	TV	2
162	ロシアの政治と外交(’１５）	469	R	2
163	マーケティング論（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	472	TV	2
164	国際経営（’１３）	475	R	2
165	管理会計（’１４）	478	R	2
166	初級簿記(’１６）	481	R	2
167	ファイナンス入門（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	484	TV	2
168	ケースで学ぶ現代経営学（’１２）	487	TV	2
169	現代の内部監査（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	490	TV	2
170	ＮＰＯマネジメント（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	493	R	2
171	大学マネジメント論（’１４）	496	R	2
172	アグリビジネスと日本農業（’１４）	499	R	2
173	グローバル化と日本のものづくり（’１５）	502	TV	2
174	アジア産業論(’１７）－経済の高度化と統合－ （２０１７年度新規開設科目）	505	R	2
175	社会技術概論（’１２）	508	TV	2
176	物質・材料工学と社会（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	511	TV	2
177	地域と都市の防災(’１６）	515	TV	2
178	産業とデザイン（’１２）	519	TV	2
179	環境の可視化（’１５）－地球環境から生活環境までー	522	TV	2
180	都市・建築の環境とエネルギー（’１４）	525	TV	2
	（総合科目）			
181	権力の館を考える(’１６）	529	TV	2
182	海からみた産業と日本(’１６）	532	R	2
183	社会福祉と法(’１６） 【生活と福祉コースと共用】	208	R	2
184	音を追究する(’１６） 【人間と文化コースと共用】	655	R	2
185	色と形を探究する(’１７） 【心理と教育コースと共用】 （２０１７年度新規開設科目）	356	TV	2

	人間と文化コース	頁	メディア	単位
	（導入科目）			
186	哲学への誘い（’１４）	535	R	2
187	近代哲学の人間像（’１２）	538	R	2
188	西洋哲学の起源(’１６）	541	R	2
189	歴史と人間（’１４）	544	TV	2
190	日本の近現代（’１５）	548	R	2
191	ヨーロッパの歴史Ⅰ（’１５）－ヨーロッパ史の視点と方法－	551	TV	2
192	日本文学概論（’１２）	554	R	2
193	『古事記』と『万葉集』（’１５）	557	R	2
194	世界文学への招待(’１６）	560	TV	2
195	日本語とコミュニケーション(’１５）	564	TV	2
196	ラテン語の世界(’１６）	567	R	2
197	博物館概論（’１１）	570	TV	2
198	グローバル化時代の人文地理学（’１２）	573	TV	2
	（専門科目）			
199	現代フランス哲学に学ぶ(’１７） （２０１７年度新規開設科目）	576	R	2
200	経験論から言語哲学へ(’１６）	579	R	2
201	ドイツ哲学の系譜（’１４）	582	R	2
202	仏教と儒教（’１３）－日本人の心を形成してきたものー	585	R	2
203	西洋芸術の歴史と理論(’１６）	588	TV	2
204	西洋音楽史（’１３）	591	R	2
205	舞台芸術の魅力（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	594	TV	2
206	日本の古代中世（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	597	TV	2
207	日本近世史（’１３）	600	R	2
208	韓国朝鮮の歴史（’１５）	603	R	2
209	歴史からみる中国（’１３）	606	TV	2
210	ヨーロッパの歴史Ⅱ（’１５）－植物からみるヨーロッパの歴史－	609	TV	2
211	南北アメリカの歴史（’１４）	612	TV	2
212	和歌文学の世界（’１４）	615	TV	2
213	日本文学の名作を読む（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	618	R	2
214	上田秋成の文学(’１６）	621	R	2
215	ヨーロッパ文学の読み方－古典篇（’１４）	624	R	2
216	日本語概説(’１５）	627	TV	2
217	文化人類学（’１４）	630	TV	2
218	フィールドワークと民族誌(’１７） （２０１７年度新規開設科目）	633	OL	2
219	博物館教育論（’１６）	637	R	2
220	博物館資料論（’１２）	640	TV	2
221	博物館資料保存論（’１２）	643	TV	2
222	博物館展示論（’１６）	646	TV	2
223	博物館情報・メディア論（’１３）	649	TV	2
224	博物館経営論（’１３）	652	R	2
225	生涯学習を考える（’１７） 【心理と教育コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	242	OL	2
226	心理統計法（’１７） 【心理と教育コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	310	TV	2
227	比較認知科学（’１７） 【心理と教育コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	313	R	2
228	日本政治思想史（’１７） 【社会と産業コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	438	R	2
	（総合科目）			
229	音を追究する(’１６）	655	R	2
230	色と形を探究する(’１７） 【心理と教育コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	356	TV	2

	情報コース	頁	メディア	単位
	（導入科目）			
231	計算事始め（’１３）	658	TV	2
232	デジタル情報と符号の理論（’１３）	661	TV	2
233	日常生活のデジタルメディア（’１４）	664	TV	2
234	情報社会の法と倫理（’１４）	667	R	2
235	情報ネットワーク（’１４）	670	R	2
	（専門科目）			
236	データ構造とプログラミング（’１３）	673	TV	2
237	コンピュータの動作と管理（’１７）（２０１７年度新規開設科目）	676	TV	2
238	ソフトウェアのしくみ（’１４）	679	TV	2
239	アルゴリズムとプログラミング(’１６）	682	R	2
240	Javaプログラミングの基礎(’１６）	685	OL	1
241	問題解決の数理（’１７）（２０１７年度新規開設科目）	687	TV	2
242	データの分析と知識発見(’１６）	690	TV	2
243	記号論理学（’１４）	693	TV	2
244	数値の処理と数値解析（’１４）	696	R	2
245	CGと画像合成の基礎(’１６）	699	R	2
246	映像コンテンツの制作技術(’１６）	702	TV	2
247	デジタル情報の処理と認識（’１２）	705	TV	2
248	自然言語処理(’１５）	708	R	2
249	教育のためのICT活用法（’１７）（２０１７年度新規開設科目）	711	TV	2
250	ユーザ調査法(’１６）	714	TV	2
251	情報社会のユニバーサルデザイン（’１４）	718	TV	2
252	情報化社会と教育（’１４）	721	R	2
253	感性工学入門(’１６）	724	OL	1
254	メディアと知的財産（’１６）	726	OL	2
255	コンピュータのしくみ（’１４）	729	TV	2
256	身近なネットワークサービス(’１６）	732	TV	2
257	情報のセキュリティと倫理（’１４）	736	TV	2
258	通信概論（’１４）	739	R	2
259	Webのしくみと応用(’１５）	742	TV	2
260	データベース(’１７）※２学期開設（２０１７年度新規開設科目）	745	TV	2
	（総合科目）			
261	色と形を探究する(’１７）【心理と教育コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	356	TV	2

	自然と環境コース	頁	メディア	単位
	（導入科目）			
262	初歩からの生物学（’１４）	748	TV	2
263	生物環境の科学(’１６）	751	TV	2
264	初歩からの物理（’１６）	754	TV	2
265	初歩からの化学（’１２）	757	TV	2
266	化学結合論－分子の構造と機能（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	760	TV	2
267	物理の世界（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	763	TV	2
268	はじめての気象学(’１５）	766	TV	2
269	初歩からの宇宙の科学（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	769	TV	2
270	ダイナミックな地球(’１６）	773	TV	2
271	解析入門（’１４）	776	R	2
272	入門線型代数（’１４）	779	TV	2
273	入門微分積分（’１６）	782	TV	2
274	環境問題のとらえ方と解決方法(’１７） 【社会と産業コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	396	R	2
	（専門科目）			
275	生命分子と細胞の科学（’１３）	785	TV	2
276	生物の進化と多様化の科学（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	788	TV	2
277	植物の科学（’１５）	791	TV	2
278	動物の科学（’１５）	794	TV	2
279	力と運動の物理（’１３）	797	TV	2
280	場と時間空間の物理（’１４）－電気、磁気、重力と相対性理論－	800	TV	2
281	量子と統計の物理（’１５）	803	TV	2
282	分子分光学（’１５）	806	TV	2
283	生活と化学（’１４）	809	R	2
284	化学反応論－分子の変化と機能（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	812	TV	2
285	エントロピーからはじめる熱力学(’１６）	815	R	2
286	物理演習(’１６）	818	OL	1
287	宇宙とその進化（’１５）	820	TV	2
288	太陽系の科学（’１４）	823	TV	2
289	非ユークリッド幾何と時空（’１５）	827	TV	2
290	微分方程式（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	830	TV	2
291	統計学（’１３）	833	R	2
292	数学の歴史（’１３）	836	TV	2
293	線型代数学(’１７） （２０１７年度新規開設科目）	839	R	2
294	物質・材料工学と社会（’１７） 【社会と産業コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	511	TV	2
295	問題解決の数理（’１７） 【情報コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	687	TV	2
	（総合科目）			
296	音を追究する(’１６） 【人間と文化コースと共用】	655	R	2
297	色と形を探究する(’１７） 【心理と教育コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	356	TV	2

４．総合科目(全コース開設)

		頁	メディア	単位
298	安全・安心と地域マネジメント（’１４）	842	TV	2
299	死生学入門（’１４）	847	R	2
300	証券市場と私たちの経済(’１５）	851	R	2
301	途上国を考える（’１４）	854	TV	2
302	世界の中の日本（’１５）	857	TV	2
303	多様なキャリアを考える(’１５）	860	TV	2
304	環境と社会（’１５）	863	R	2
305	エネルギーと社会（’１５）	866	TV	2
306	文学のエコロジー（’１３）	869	R	2
307	国際ボランティアの世紀（’１４）	872	TV	2
308	技術マネジメントの法システム（’１４）	876	R	2
309	進化する情報社会（’１５）	879	TV	2
310	暮らしに役立つバイオサイエンス(’１５）	882	TV	2

５．夏季集中科目

司書教諭資格取得に資する科目

		頁	メディア	単位
311	学校経営と学校図書館（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	885	R	2
312	学校図書館メディアの構成（’１６）	888	R	2
313	学習指導と学校図書館（’１６）	891	TV	2
314	読書と豊かな人間性（’１５）	894	R	2
315	情報メディアの活用（’１６）	897	TV	2

看護師資格取得に資する科目

		頁	メディア	単位
316	成人看護学（’１４）	900	R	2
317	老年看護学（’１３）	903	R	2
318	小児看護学（’１６）	906	TV	2
319	母性看護学（’１４）	909	TV	2
320	精神看護学（’１５）	912	TV	2
321	看護管理と医療安全（’１２）	915	R	2

目　　次

’09・’13カリキュラム、’99カリキュラム

１．基礎科目

番号		頁	メディア	単位
1	運動と健康（’１３）	1	TV	2
2	小学校外国語教育教授基礎論(’１７)（２０１７年度新規開設科目）	4	OL	2
	－新学習指導要領に向けた外国語活動・外国語への対応－			
3	市民自治の知識と実践（’１５）	7	R	2
4	問題解決の進め方（’１２）	10	TV	2
5	国際理解のために（’１３）	13	R	2
6	「ひと学」への招待（’１２）－人類の文化と自然－	16	R	2
7	自然科学はじめの一歩(’１５）	19	TV	2
8	日本語リテラシー(’１６）	23	TV	2
9	日本語アカデミックライティング(’１７）（２０１７年度新規開設科目）	26	R	2
10	遠隔学習のためのパソコン活用（’１７）（２０１７年度新規開設科目）	29	TV	2
11	情報学へのとびら(’１６）	32	TV	2
12	初歩からの数学（’１２）	35	TV	2
13	身近な統計（’１２）	38	TV	2
14	市民のための健康情報学入門（’１３）	105	R	2
15	心理と教育を学ぶために（’１２）	226	R	2
16	グローバル化と私たちの社会（’１５）	380	R	2
17	新しい時代の技術者倫理（’１５）	390	TV	2
18	哲学への誘い（’１４）	535	R	2
19	歴史と人間（’１４）	544	TV	2
20	日本語とコミュニケーション(’１５）	564	TV	2
21	初歩からの生物学（’１４）	748	TV	2
22	初歩からの化学（’１２）	757	TV	2
23	はじめての気象学(’１５）	766	TV	2

２．共通科目（一般科目）

		頁	メディア	単位
24	生活経済学(’１６)	90	R	2
25	生活者のための不動産学入門（’１３）	93	TV	2
26	生活における地理空間情報の活用(’１６)	96	TV	2
27	女性のキャリアデザイン入門(’１６)	99	OL	1
28	健康と社会（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	101	R	2
29	疾病の成立と回復促進（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	109	TV	2
30	疾病の回復を促進する薬（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	112	TV	2
31	人体の構造と機能（’１２）	115	TV	2
32	睡眠と健康（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	118	R	2
33	がんを知る(’１６)	121	OL	2
34	社会福祉への招待(’１６)	125	TV	2
35	貧困と社会（’１５）	128	R	2
36	教育学入門（’１５）	211	R	2
37	教育の社会学（’１５）	214	TV	2
38	教育史入門（’１２）	217	R	2
39	発達科学の先人たち(’１６)	220	R	2
40	学校と社会を考える（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	223	OL	2
41	教育心理学概論（’１４）	230	R	2
42	発達心理学概論（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	233	R	2
43	心理学概論（’１２）	236	TV	2
44	人格心理学（’１５）	239	TV	2
45	経済学入門（’１３）	359	R	2
46	社会調査の基礎（’１５）	362	TV	2
47	社会統計学入門（’１２）	365	R	2
48	社会学入門(’１６)	368	TV	2
49	市民社会と法（’１２）	371	R	2
50	事例から学ぶ日本国憲法（’１３）	374	TV	2
51	政治学へのいざない(’１６)	377	R	2
52	経営学入門（’１２）	384	R	2
53	現代会計(’１６)	387	TV	2
54	技術経営の考え方（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	393	R	2
55	環境問題のとらえ方と解決方法(’１７) （２０１７年度新規開設科目）	396	R	2
56	近代哲学の人間像（’１２）	538	R	2
57	西洋哲学の起源(’１６)	541	R	2
58	日本の近現代（’１５）	548	R	2
59	ヨーロッパの歴史Ⅰ（’１５）－ヨーロッパ史の視点と方法－	551	TV	2
60	日本文学概論（’１２）	554	R	2
61	『古事記』と『万葉集』（’１５）	557	R	2
62	世界文学への招待(’１６)	560	TV	2
63	ラテン語の世界(’１６)	567	R	2
64	博物館概論（’１１）	570	TV	2
65	グローバル化時代の人文地理学（’１２）	573	TV	2
66	計算事始め（’１３）	658	TV	2
67	デジタル情報と符号の理論（’１３）	661	TV	2
68	日常生活のデジタルメディア（’１４）	664	TV	2
69	情報社会の法と倫理（’１４）	667	R	2
70	情報ネットワーク（’１４）	670	R	2
71	生物環境の科学(’１６)	751	TV	2
72	初歩からの物理（’１６）	754	TV	2
73	化学結合論－分子の構造と機能（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	760	TV	2
74	物理の世界（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	763	TV	2
75	初歩からの宇宙の科学（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	769	TV	2
76	ダイナミックな地球(’１６)	773	TV	2
77	解析入門（’１４）	776	R	2
78	入門線型代数（’１４）	779	TV	2
79	入門微分積分（’１６）	782	TV	2

３．共通科目（外国語科目）

		頁	メディア	単位
	（英語）			
80	英語事始め(’１７） ……（２０１７年度新規開設科目）…	41	R	2
81	英語で描いた日本（’１５）……	44	TV	2
82	英語の軌跡をたどる旅（’１３）－*The Adventure of English*を読む－ ……	47	R	2
83	英語で読む科学（’１５）……	50	R	2
84	Walking with Writers（’１６）－A Literary Journey around England－ ……	53	TV	2
	（ドイツ語）			
85	ドイツ語Ⅰ（’１５）……	57	TV	2
86	ドイツ語Ⅱ（’１５）……	60	R	2
	（フランス語）			
87	フランス語入門Ⅰ（’１２）……	63	TV	2
88	フランス語入門Ⅱ（’１２）……	66	R	2
	（中国語）			
89	中国語Ⅰ（’１４）－北京のふたり－ ……	70	TV	2
90	中国語Ⅱ（’１４）－汪曾祺「我的母親」他－ ……	74	R	2
	（韓国語）			
91	韓国語Ⅰ（’１６）……	78	TV	2
92	韓国語Ⅱ（’１６）……	81	R	2
	（スペイン語）			
93	初歩のスペイン語（’１７）……（２０１７年度新規開設科目）…	84	R	2
	（イタリア語）			
94	初歩のイタリア語（’１７）……（２０１７年度新規開設科目）…	87	TV	2

４．専門科目

	生活と福祉コース	頁	メディア	単位
	（生活）			
95	生活環境と情報認知（’１５）㊥	131	TV	2
96	リスク社会のライフデザイン（’１４）－変わりゆく家族をみすえて－ ㊥	134	R	2
97	人口減少社会の構想（’１７）㊥ （２０１７年度新規開設科目）	137	TV	2
98	ソーシャルシティ（’１７）㊥ （２０１７年度新規開設科目）	140	TV	2
99	食と健康（’１２）㊥	143	TV	2
100	食安全性学（’１４） ㊥	147	TV	2
101	臨床家族社会学（’１４） ㊥	150	R	2
102	女性のキャリアデザインの展開（’１７）㊥ （２０１７年度新規開設科目）	153	OL	1
	（健康）			
103	公衆衛生（’１５） ㊥	155	R	2
104	健康長寿のためのスポートロジー（’１５）㊥	159	TV	2
105	認知症と生きる(’１５） ㊥	162	TV	2
106	感染症と生体防御（’１４） ㊥	165	R	2
107	リハビリテーション（’１３）㊥	168	R	2
108	今日のメンタルヘルス（’１５）㊥	171	TV	2
109	看護学概説（’１６）㊥	174	R	2
110	基礎看護学（’１６） ㊥	177	TV	2
111	在宅看護論（’１７）㊥ （２０１７年度新規開設科目）	181	TV	2
112	災害看護学・国際看護学（’１４） ㊥	184	TV	2
	（福祉）			
113	少子社会の子ども家庭福祉（’１５)㊥	187	TV	2
114	高齢期の生活と福祉（’１５）㊥	190	R	2
115	障害を知り共生社会を生きる（’１７）㊥ （２０１７年度新規開設科目）	193	TV	2
116	地域福祉の展開（’１４）㊥	196	TV	2
117	社会保険のしくみと改革課題(’１６） ㊥	199	R	2
118	アジアの社会福祉と国際協力（’１４） ㊥	202	R	2
119	社会福祉の国際比較（’１５）㊥	205	TV	2
	（共用科目）			
120	民法(’１７） ㊥ 【社会と産業コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	428	R	2
121	家族と高齢社会の法(’１７）㊥ 【社会と産業コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	434	TV	2
122	雇用社会と法(’１７） ㊥ 【社会と産業コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	447	R	2
123	生物の進化と多様化の科学(’１７）㊥ 【自然と環境コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	788	TV	2

㊥：’99カリキュラム「生活と福祉専攻」の科目です。

	心理と教育コース	頁	メディア	単位
	(教育)			
124	生涯学習を考える（’１７）㊫ ……（２０１７年度新規開設科目）…	242	OL	2
125	地域社会の教育的再編（’１２）㊫ ……	245	TV	2
126	家庭教育論（’１２）㊫ ……	248	R	2
127	現代社会の児童生徒指導（’１７）㊫ ……（２０１７年度新規開設科目）…	251	TV	2
128	乳幼児の保育・教育（’１５）㊫ ……	255	R	2
129	学校と法（’１６）㊫ ……	258	R	2
130	日本の教育改革(’１５）㊫ ……	261	R	2
131	子ども・青年の文化と教育（’１７）㊫ ……（２０１７年度新規開設科目）…	264	R	2
132	カリキュラムと学習過程(’１６） ㊫ ……	267	R	2
133	道徳教育の方法（’１５）㊫ ……	270	R	2
134	肢体不自由児の教育（’１４）㊫ ……	273	TV	2
135	特別支援教育基礎論（’１５）㊫ ……	276	R	2
136	特別支援教育総論（’１５）㊫ ……	279	R	2
137	知的障害教育総論（’１５）㊫ ……	282	R	2
138	現代日本の教師－仕事と役割－（’１５）㊫ ……	285	R	2
139	幼児教育の指導法(’１５）㊫ ……	288	R	2
140	教育課程の意義及び編成の方法(’１５） ㊫ ……	291	OL	1
141	幼児理解の理論及び方法(’１５） ㊫ ……	293	OL	1
	（心理）			
142	認知神経科学（’１２）㊫ ……	295	TV	2
143	錯覚の科学（’１４） ㊫ ……	298	TV	2
144	認知心理学（’１３） ㊫ ……	301	TV	2
145	乳幼児心理学（’１６）㊫ ……	304	TV	2
146	交通心理学（’１７） ㊫ ……（２０１７年度新規開設科目）…	307	TV	2
147	心理統計法（’１７）㊫ ……（２０１７年度新規開設科目）…	310	TV	2
148	比較認知科学（’１７）㊫ ……（２０１７年度新規開設科目）…	313	R	2
149	心理学研究法（’１４）㊫ ……	316	R	2
150	社会心理学（’１４） ㊫ ……	319	R	2
151	危機の心理学(’１７）㊫ ……（２０１７年度新規開設科目）…	322	TV	2
152	学力と学習支援の心理学（’１４） ㊫ ……	326	TV	2
	（臨床心理）			
153	心理臨床の基礎（’１４） ㊫ ……	329	R	2
154	心理カウンセリング序説（’１５）㊫ ……	332	R	2
155	精神分析とユング心理学（’１７）㊫ ……（２０１７年度新規開設科目）…	335	R	2
156	認知行動療法（’１４） ㊫ ……	338	TV	2
157	心理臨床とイメージ（’１６）㊫ ……	341	TV	2
158	心理臨床と身体の病(’１６） ㊫ ……	344	TV	2
159	乳幼児・児童の心理臨床（’１７）㊫ ……（２０１７年度新規開設科目）…	347	TV	2
160	思春期・青年期の心理臨床（’１３）㊫ ……	350	R	2
161	中高年の心理臨床（’１４） ㊫ ……	353	R	2
	（共用科目）			
162	ソーシャルシティ（’１７）㊫ ……【生活と福祉コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）…	140	TV	2
163	女性のキャリアデザインの展開(’１７)㊫ ……【生活と福祉コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）…	153	OL	1
164	障害を知り共生社会を生きる（’１７）㊫ ……【生活と福祉コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）…	193	TV	2
165	教育のためのICT活用(’１７）㊫ ……【情報コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）…	711	TV	2

㊫：’99カリキュラム「発達と教育専攻」の科目です。

	社会と産業コース	頁	メディア	単位
	（社会・経済）			
166	都市社会の社会学（’１２）㊫	400	R	2
167	移動と定住の社会学(’１６)㊫	403	TV	2
168	社会と銀行（’１４）㊫	406	TV	2
169	現代経済学（’１３）㊫	409	TV	2
170	労働経済（’１２）㊫	412	TV	2
171	日本経済史（’１２）㊫	415	R	2
172	財政と現代の経済社会(’１５）㊫	418	TV	2
	（法律・政治）			
173	市民生活と裁判（’１２）㊫	421	TV	2
174	刑事法(’１６）㊫	425	R	2
175	民法（’１７）㊫ （２０１７年度新規開設科目）	428	R	2
176	行政法（’１２）㊫	431	R	2
177	家族と高齢社会の法（’１７）㊫ （２０１７年度新規開設科目）	434	TV	2
178	日本政治思想史（’１７）㊫ （２０１７年度新規開設科目）	438	R	2
179	国際法（’１４）㊫	441	R	2
180	著作権法概論（’１４）㊫	444	R	2
181	雇用社会と法（’１７）㊫ （２０１７年度新規開設科目）	447	R	2
182	現代日本の政治（’１５）㊫	450	TV	2
183	日本政治外交史（’１３）㊫	453	TV	2
184	現代の行政と公共政策(’１６）㊫	456	R	2
185	現代の国際政治（’１３）㊫	459	TV	2
186	東アジアの政治社会と国際関係（’１６)㊫	462	R	2
187	パレスチナ問題(’１６）㊫	466	TV	2
188	ロシアの政治と外交(’１５）㊫	469	R	2
	（産業・経営）			
189	マーケティング論（’１７）㊨ （２０１７年度新規開設科目）	472	TV	2
190	国際経営（’１３）㊨	475	R	2
191	管理会計（’１４）㊨	478	R	2
192	初級簿記(’１６）㊨	481	R	2
193	ファイナンス入門（’１７)㊨ （２０１７年度新規開設科目）	484	TV	2
194	ケースで学ぶ現代経営学（’１２）㊨	487	TV	2
195	現代の内部監査（’１７）㊨ （２０１７年度新規開設科目）	490	TV	2
196	ＮＰＯマネジメント（’１７）㊨ （２０１７年度新規開設科目）	493	R	2
197	大学マネジメント論（’１４）㊨	496	R	2
198	アグリビジネスと日本農業（’１４）㊨	499	R	2
199	グローバル化と日本のものづくり（’１５)㊨	502	TV	2
200	アジア産業論(’１７)－経済の高度化と統合－㊨ （２０１７年度新規開設科目）	505	R	2
	（社会技術）			
201	社会技術概論（’１２）㊨	508	TV	2
202	物質・材料工学と社会（’１７）㊨ （２０１７年度新規開設科目）	511	TV	2
203	地域と都市の防災（’１６）㊨	515	TV	2
204	産業とデザイン（’１２）㊨	519	TV	2
205	環境の可視化（’１５）－地球環境から生活環境までー ㊨	522	TV	2
206	都市・建築の環境とエネルギー（’１４）㊨	525	TV	2

㊫ :’99カリキュラム「社会と経済専攻」の科目です。
㊨ :’99カリキュラム「産業と技術専攻」の科目です。

	人間と文化コース	頁	メディア	単位
	（哲学・芸術）			
207	現代フランス哲学に学ぶ(’１７)㊓ ……（２０１７年度新規開設科目）…	576	R	2
208	経験論から言語哲学へ(’１６)㊓ ……	579	R	2
209	ドイツ哲学の系譜（’１４）㊓ ……	582	R	2
210	仏教と儒教（’１３）－日本人の心を形成してきたものー　㊓ ……	585	R	2
211	西洋芸術の歴史と理論(’１６)㊓ ……	588	TV	2
212	西洋音楽史（’１３）㊓ ……	591	R	2
213	舞台芸術の魅力（’１７）㊓ ……（２０１７年度新規開設科目）…	594	TV	2
	（歴史・地域文化）			
214	日本の古代中世（’１７）㊓ ……（２０１７年度新規開設科目）…	597	TV	2
215	日本近世史（’１３）㊓ ……	600	R	2
216	韓国朝鮮の歴史（’１５）㊓ ……	603	R	2
217	歴史からみる中国（’１３）㊓ ……	606	TV	2
218	ヨーロッパの歴史Ⅱ（’１５）－植物からみるヨーロッパの歴史－㊓ ……	609	TV	2
219	南北アメリカの歴史（’１４）㊓ ……	612	TV	2
	（文学・言語文化）			
220	和歌文学の世界（’１４）㊓ ……	615	TV	2
221	日本文学の名作を読む（’１７）㊓ ……（２０１７年度新規開設科目）…	618	R	2
222	上田秋成の文学(’１６)　㊓ ……	621	R	2
223	ヨーロッパ文学の読み方－古典篇（’１４）㊓ ……	624	R	2
224	日本語概説(’１５)　㊓ ……	627	TV	2
	（人類学・比較文化）			
225	文化人類学（’１４）㊓ ……	630	TV	2
226	フィールドワークと民族誌(’１７)㊓ ……（２０１７年度新規開設科目）…	633	OL	2
227	博物館教育論（’１６）㊓ ……	637	R	2
228	博物館資料論（’１２）㊓ ……	640	TV	2
229	博物館資料保存論（’１２）㊓ ……	643	TV	2
230	博物館展示論（’１６）㊓ ……	646	TV	2
231	博物館情報・メディア論（’１３）㊓ ……	649	TV	2
232	博物館経営論（’１３）㊓ ……	652	R	2
	（共用科目）			
233	生涯学習を考える（’１７）㊓ ……【心理と教育コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）…	242	OL	2
234	心理統計法（’１７）㊓ ……【心理と教育コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）…	310	TV	2
235	比較認知科学（’１７）㊓ ……【心理と教育コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）…	313	R	2
236	日本政治思想史（’１７）㊓ ……【社会と産業コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）…	438	R	2

㊓：’99カリキュラム「人間の探究専攻」の科目です。

	情報コース	頁	メディア	単位
	(ソフトウェア)			
237	データ構造とプログラミング（’１３）	673	TV	2
238	コンピュータの動作と管理（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	676	TV	2
239	ソフトウェアのしくみ（’１４）	679	TV	2
240	アルゴリズムとプログラミング(’１６）	682	R	2
241	Javaプログラミングの基礎(’１６）	685	OL	1
	(情報数理)			
242	問題解決の数理（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	687	TV	2
243	データの分析と知識発見(’１６）	690	TV	2
244	記号論理学（’１４）	693	TV	2
245	数値の処理と数値解析（’１４）	696	R	2
	(マルチメディア)			
246	CGと画像合成の基礎(’１６）	699	R	2
247	映像コンテンツの制作技術(’１６）	702	TV	2
248	デジタル情報の処理と認識（’１２）	705	TV	2
249	自然言語処理(’１５）	708	R	2
	(ヒューマン)			
250	教育のためのICT活用法（’１７） （２０１７年度新規開設科目）	711	TV	2
251	ユーザ調査法(’１６）	714	TV	2
252	情報社会のユニバーサルデザイン（’１４）	718	TV	2
253	情報化社会と教育（’１４）	721	R	2
254	感性工学入門(’１６）	724	OL	1
	(情報基盤)			
255	メディアと知的財産（’１６）	726	OL	2
256	コンピュータのしくみ（’１４）	729	TV	2
257	身近なネットワークサービス(’１６）	732	TV	2
258	情報のセキュリティと倫理（’１４）	736	TV	2
259	通信概論（’１４）	739	R	2
260	Webのしくみと応用(’１５）	742	TV	2
261	データベース(’１７） ※２学期開設（２０１７年度新規開設科目）	745	TV	2

	自然と環境コース	頁	メディア	単位
	（生命・生態）			
262	生命分子と細胞の科学（’１３）(自)	785	TV	2
263	生物の進化と多様化の科学（’１７）(自)（２０１７年度新規開設科目）	788	TV	2
264	植物の科学（’１５）(自)	791	TV	2
265	動物の科学（’１５）(自)	794	TV	2
	(物質・エネルギー)			
266	力と運動の物理（’１３）(自)	797	TV	2
267	場と時間空間の物理（’１４）－電気、磁気、重力と相対性理論－(自)	800	TV	2
268	量子と統計の物理（’１５）(自)	803	TV	2
269	分子分光学（’１５）(自)	806	TV	2
270	生活と化学（’１４）(自)	809	R	2
271	化学反応論－分子の変化と機能（’１７）(自)（２０１７年度新規開設科目）	812	TV	2
272	エントロピーからはじめる熱力学(’１６）(自)	815	R	2
273	物理演習(’１６）(自)	818	OL	1
	（宇宙・地球）			
274	宇宙とその進化（’１５）(自)	820	TV	2
275	太陽系の科学（’１４）(自)	823	TV	2
	（数理）			
276	非ユークリッド幾何と時空（’１５）(自)	827	TV	2
277	微分方程式（’１７）(自)（２０１７年度新規開設科目）	830	TV	2
278	統計学（’１３）(自)	833	R	2
279	数学の歴史（’１３）(自)	836	TV	2
280	線型代数学(’１７）(自)（２０１７年度新規開設科目）	839	R	2
	（共用科目）			
281	物質・材料工学と社会（’１７）(自)【社会と産業コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	511	TV	2
282	問題解決の数理（’１７）(自)【情報コースと共用】（２０１７年度新規開設科目）	687	TV	2

(自)：’99カリキュラム「自然の理解専攻」の科目です。

５．総合科目

		頁	メディア	単位
283	社会福祉と法(’１６）	208	R	2
284	色と形を探究する(’１７）（２０１７年度新規開設科目）	356	TV	2
285	権力の館を考える(’１６）	529	TV	2
286	海からみた産業と日本(’１６）	532	R	2
287	音を追究する(’１６）	655	R	2
288	安全・安心と地域マネジメント（’１４）	842	TV	2
289	死生学入門（’１４）	847	R	2
290	証券市場と私たちの経済(’１５）	851	R	2
291	途上国を考える（’１４）	854	TV	2
292	世界の中の日本（’１５）	857	TV	2
293	多様なキャリアを考える(’１５）	860	TV	2
294	環境と社会（’１５）	863	R	2
295	エネルギーと社会（’１５）	866	TV	2
296	文学のエコロジー（’１３）	869	R	2
297	国際ボランティアの世紀（’１４）	872	TV	2
298	技術マネジメントの法システム（’１４）	876	R	2
299	進化する情報社会（’１５）	879	TV	2
300	暮らしに役立つバイオサイエンス(’１５）	882	TV	2

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	基盤科目	科目コード	1234099	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　運動と健康　　（’１３）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：臼井　永男　（放送大学名誉教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：関根　紀子　（放送大学准教授）　】

講義概要

近年、少子高齢化社会を迎え、生活習慣病の予防や体力の保持増進を目的とした、スポーツの普及にはめざましいものがある。一方で、生活の質の向上、あるいは心の豊かさを求めてスポーツに携わる例も増えており、身体的、精神的に果たすスポーツの役割はいっそう高まるものと思われる。本講義では、からだを動かすことの重要性について述べるとともに、スポーツを安全に、楽しく、効果的に実施するために知っておきたい、からだの構造や機能について、運動生理学的ならびに身体運動学的な基礎知識と課題を提示する。

授業の目標

この講義によって、運動の重要性に関する知識を修得するに留まることなく、スポーツを始めるきっかけもつかんでいただけることを目標としている。

履修上の留意点

本学では、「保健体育」という科目名の教材を開講していない。当科目は、その保健体育科目に該当するものであり、これによって保健体育科目を履修したものとみなされる。したがって、「保健体育」の単位を取得する必要がある場合には、この科目を履修することをお奨めする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ヒトのからだ	ヒトは、直立・二足歩行という特有の移動様式を呈する。宇宙の歴史からみると、人類の歴史は極めて短いが、からだのかたちや仕組みには、二足歩行に都合よくできている箇所がいくつか観察される。本章では、このようなヒトのからだの特徴について概説する。 【キーワード】 人類の歴史、直立・二足歩行	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）
2	神経系の構造と働き	神経系は、構造上から中枢神経系と末梢神経系とに区分される。また、その働きから、運動神経系、知覚神経系ならびに自律神経系に区分される。本章では、からだの各器官を連結し、制御する神経系の構造と働きについて概説する。 【キーワード】 ニューロン、シナプス、統合、制御	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）
3	呼吸・循環系の構造と働き	ヒトは、栄養素の分解に必要な酸素を取り入れ、その分解によって生じた二酸化炭素を排出している。本章では、これらのガス交換と、その運搬に関わっている呼吸器系ならびに循環器系の構造と働きについて概説する。 【キーワード】 肺、心臓、血管、ガス交換	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	運動器の構造と働き	骨格筋のほとんどが、関節を介して2つ以上の骨に付着している。中枢からからの運動神経を介して刺激を受けると筋は収縮し、運動が励起される。本章では、運動に携わっている骨、関節、筋肉の構造と働きについて概説する。 【キーワード】 骨、関節、筋線維、筋収縮	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）
5	運動のエネルギー	筋収縮に必要な直接のエネルギーは、アデノシン三リン酸である。この物質を再合成するためにはエネルギーが必要である。本章では、運動に必要なエネルギー供給機構ならびに栄養摂取について概説する。 【キーワード】 エネルギー供給機構、無酸素性作業閾値	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）
6	基礎的な動作の発達	複雑な応用動作を獲得する前に、立つ、歩く、走る、跳ぶなどの基礎的な動作を身につけなければならない。本章では、誕生から成人と同様な歩行を獲得するまでの運動発達の様相について概説する。 【キーワード】 幼児期、運動発達、デンバースケール	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）
7	成長期の体力	体力が、からだの外部に働きかける能力として捉えられ、巧みさ、ねばり強さ、力強さに分類されることがある。これらの体力要素は、その発達時期が異なることが知られている。本章では、内臓、筋線維の発達、ならびに身長の年間発育量の変化と体力の発達の関係について概説する。 【キーワード】 体力、身長の年間発育量	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）
8	巧みさの向上	体力のなかで、技術に関連した構成要素として、敏捷性、バランス、協調、瞬発力、反応時間、スピードなどがあげられる。本章では、いわゆる「うまい」と称される巧みさの向上に必要な要素について概説する。 【キーワード】 スキル、運動制御、神経系	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）
9	ねばり強さの向上	ねばり強さは、部分的な筋持久力と全身持久力として評価される。それは、ねばり強さのトレーニングによって向上する。本章では、ねばり強さの向上に必要な要素とその方法について概説する。 【キーワード】 持久力、呼吸・循環系、タイプⅠの筋線維	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）
10	力強さの向上	筋線維を構成しているたんぱく質が破壊されると、新しいものに作り変えられる。活動している筋肉は、破壊が大きいが修復も大きくなる。トレーニングによって傷ついた筋線維は、修復によってさらに大きくなる。本章では、力強さの向上に必要な要素とその方法について概説する。 【キーワード】 筋力、筋の可塑性、筋肥大、タイプⅡの筋線維	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	加齢による体力の変化	体力は、20歳代をピークにして、その後は加齢にしたがって低下傾向を示す。しかし、その様相は体力要素によって異なる。本章では、体力の加齢現象と、体力低下を軽減するための、中高年者に推奨される運動について概説する。 【キーワード】 体力、加齢	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）
12	リハビリテーション体育	運動は、怪我や病気から復帰するために極めて有効な手法であることが知られている。本章では、怪我や病気の治療を目的に実施される体育・スポーツ、さらに、障害者が人生をより豊かにするために実施しているスポーツについて概説する。 【キーワード】 リハビリテーション、障害者スポーツ	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）
13	トレーニングの基礎原理	からだには多様な機能があり、その適応能力は、性、年齢、健康・体力状態などによって異なる。本章では、安全で有効なトレーニングを行うために留意しなければならない、基本的な考え方について概説する。 【キーワード】 オーバートレーニング、オーバーロードの原理	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）
14	スポーツの文化	スポーツは、人間らしさを表現したり、味わったりすることができる重要な文化のひとつでもある。大きく、競技志向型スポーツと健康志向型スポーツに区分されることがある。本章では、人間とスポーツの関わりについて、またスポーツは人類に何をもたらしたのかについて概説する。 【キーワード】 スポーツ人類学	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）
15	生涯スポーツへの誘い	不活動による弊害、運動不足の影響については、すでに周知されているところである。本章では、生活習慣病の予防と改善、生活の質のさらなる向上が期待されるスポーツを、日常生活に取り入れることの重要性や課題について概説する。 【キーワード】 HQOL、生涯スポーツ、廃用症候群	臼井　永男（放送大学名誉教授）	臼井　永男（放送大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	基盤科目	科目コード	5140013	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 小学校外国語教育教授基礎論 （’１７）＝ （OL）

－新学習指導要領に向けた外国語活動・外国語への対応－

英文名 ＝ 〔 A Fundamental Course on Elementary School Foreign Language Education (’17): In Accordance with the New Course of Study for "Foreign Language Activities" and "Foreign Language" 〕

〔主任講師（現職名）：粕谷 恭子 （東京学芸大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：直山 木綿子
（国立教育政策研究所教育課程調査官、文部科学省教科調査官） 〕

【本学担当専任教員：岩崎 久美子 （放送大学教授） 】

講義概要

小学校教員等、外国語活動・外国語の授業の指導力を付けたい方を対象に、指導法の理論と実践を学ぶ科目である。より高度な英語力を身に付けるために、小学校外国語教育が果たす役割や具体的な授業づくりについて解説する。

授業の到達目標

小学校において外国語教育を指導するために必要な基本的な知識等を身に付ける。

成績評価の方法

web通信指導と単位認定試験により行う。

履修上の留意点

※本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
1	現在の小学校外国語教育についての知識・理解	小学校への外国語教育導入の経緯、現状と課題について学ぶとともに、新学習指導要領に向けての、中学年外国語活動導入、高学年教科化の動向について理解する。 【キーワード】 学習指導要領、グローバル人材育成、中学年外国語活動導入、高学年外国語、国語教育との連携、アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント	直山 木綿子 (国立教育政策研究所教育課程調査官、文部科学省教科調査官)
2	現在の小・中・高等学校における外国語教育についての知識・理解	小・中・高等学校の外国語教育における連携と校種ごとに期待される役割、多様な学校・児童のニーズへの対応の在り方について学ぶ。 【キーワード】 小・中・高連携、高度な英語力、小規模校、へき地校、複式学級、特別支援を要する児童	大城 賢 (琉球大学教授) 大里 弘美 (広島県教育委員会指導主事)
3	子供の第二言語習得についての知識・理解①（子供の学び方・ことばの学ばれ方）	子供の学び方の特徴及び、ことばの学ばれ方について、講義を通して理解を深める。 【キーワード】 言語使用を通して言語習得へ、類推から理解へ、音声に対する敏感さ、ことばへの気付き、意味内容重視、受信から発信へ	粕谷 恭子 (東京学芸大学教授)

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
4	子供の第二言語習得についての知識・理解②（子供の学び方・ことばの学ばれ方の実際）	第3回の講義内容を踏まえて、子供の学び方の特徴及び、ことばの学ばれ方について、実際の小学校における外国語活動及び、外国語の授業映像視聴とその解説を通して理解を深める。 【キーワード】 言語使用を通して言語習得へ、類推から理解へ、音声に対する敏感さ、ことばへの気付き、意味内容重視、受信から発信へ	粕谷　恭子 (東京学芸大学教授) 山田　誠志 (岐阜県教育委員会指導主事)
5	子供の第二言語習得についての知識・理解③（言語習得）	言語習得における四技能の身に付け方について、講義を通して理解するとともに、実際の小学校における外国語活動、外国語の授業及び、中学校における外国語の授業映像視聴とその解説を通して、その在り方について理解を深める。 【キーワード】 言語習得、音声から文字へ、小中連携	大城　賢 (琉球大学教授)
6	授業実践に必要な知識・理解①（英語教授法・英語学習法）	英語教授法や英語での語りかけ方について、講義を通して学ぶとともに、実際の小学校における外国語活動及び、外国語の授業映像視聴とその解説を通して、その在り方について理解を深める。また、教師自ら主体的に英語を学び続けるための手立てを知る。 【キーワード】 英語教授法、意味内容、meaningfulness、量の確保、正確さの保証、クラスルーム・イングリッシュ、ノンバーバル・コミュニケーション、英語学習法、アクティブ・ラーニング	大城　賢 (琉球大学教授)
7	授業実践に必要な知識・理解②（児童とのやり取りの進め方・英語学習法）	児童の発話の引き出し方、児童とのやりとりの進め方及び、小学校における外国語教育の指導において指導者に求められる英語力について、講義を通して学ぶとともに、実際の小学校における外国語活動及び、外国語の授業映像視聴を通して、その在り方について理解を深める。 【キーワード】 英語教授法、場面づくり、児童の誤りへの対応、クラスルーム・イングリッシュ、ノンバーバル・コミュニケーション、ALTとの打ち合わせ、音声・語彙・文法の基礎的な知識	粕谷　恭子 (東京学芸大学教授)
8	授業実践に必要な知識・理解③（読む・書く指導）	教師自身のための発音と文字の関係や、児童への文字言語の与え方、読む活動、書く活動への導き方について、講義を通して理解するとともに、実際の小学校における外国語活動及び、外国語の授業映像視聴を通して理解を深める。 【キーワード】 発音と文字の関係、文字指導、読む・書く活動	大城　賢 (琉球大学教授) 山田　誠志 (岐阜県教育委員会指導主事)
9	授業実践に必要な知識・理解④（題材選定・教材開発）	小学校外国語活動及び、外国語における題材の選定、教材開発の仕方、文部科学省作成教材例について、講義と解説を通して理解を深める。 【キーワード】 児童の発達、他教科等の内容、言語外情報、文部科学省作成教材例	粕谷　恭子 (東京学芸大学教授) 直山　木綿子 (国立教育政策研究所教育課程調査官、文部科学省教科調査官)

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
10	授業実践に必要な知識・理解⑤（教材活用の実際）	第9回の講義内容を踏まえて、様々な教材の活用の仕方について、実際の小学校における外国語活動及び、外国語の授業映像視聴を通して、その在り方について理解を深める。 【キーワード】 身の回りにある物、絵本、実物、音声教材、ICT教材	直山　木綿子 (国立教育政策研究所教育課程調査官、文部科学省教科調査官) 山田　誠志 (岐阜県教育委員会指導主事) 大里　弘美 (広島県教育委員会指導主事)
11	授業実践に必要な知識・理解⑥（年間指導計画・単元計画作成の仕方）	小学校外国語活動及び、外国語の年間指導計画・単元計画の在り方、その作成の仕方について、講義を通して理解するとともに、未完成の単元計画案例を完成させる課題を通して理解を深める。 【キーワード】 年間指導計画、単元構成、Can-Do リスト形式による学習到達目標、学習評価	直山　木綿子 (国立教育政策研究所教育課程調査官、文部科学省教科調査官) 大里　弘美 (広島県教育委員会指導主事)
12	授業実践に必要な知識・理解⑦（外国語活動の授業づくり）	外国語活動の一単位時間の授業づくりについて、講義を通して理解するとともに、実際の指導案作成を通して理解を深める。 【キーワード】 単元計画・一単位時間の授業の構成、指導案作成、評価規準	大城　賢 (琉球大学教授) 大里　弘美 (広島県教育委員会指導主事)
13	授業実践に必要な知識・理解⑧（外国語の授業づくり）	小学校外国語の一単位時間の授業づくりについて、講義を通して理解するとともに、実際の指導案作成を通して理解を深める。 【キーワード】 単元計画・一単位時間の授業の構成、指導案作成、評価基準	粕谷　恭子 (東京学芸大学教授) 山田　誠志 (岐阜県教育委員会指導主事)
14	授業実践に必要な知識・理解⑨（授業づくりの実際）	小学校外国語活動及び、外国語の一単位時間の授業づくりについて、実際の小学校における外国語活動・外国語の授業映像視聴やその指導案をもとにした解説や講評を通して、小学校における外国語教育の指導の在り方について考察する。 【キーワード】 一単位時間の授業構成、指導案作成、到達目標、学習評価	直山　木綿子 (国立教育政策研究所教育課程調査官、文部科学省教科調査官) 山田　誠志 (岐阜県教育委員会指導主事) 大里　弘美 (広島県教育委員会指導主事)
15	授業実践に必要な知識・理解⑩（まとめと振り返り）	これまでの講座について自身の学習を振り返るとともに、校内や地域でどのように外国語教育の充実を図るかについての実践的な講義を通して、学習したことをどう授業に生かし、校内でどう広げるかについて考察する。 【キーワード】 授業改善、振り返り	直山　木綿子 (国立教育政策研究所教育課程調査官、文部科学省教科調査官) 山田　誠志 (岐阜県教育委員会指導主事) 大里　弘美 (広島県教育委員会指導主事)

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	基盤科目	科目コード	1234269	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 市民自治の知識と実践 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 The Theory and Practice of Citizen Autonomy (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：山岡　龍一　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：岡﨑　晴輝　（九州大学大学院教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

現代の市民社会において、自律的、活動的に生きることの意義を伝え、そのために必要となる基礎的な知識や技術を紹介する。
現実社会における実践と大学での学びの関係性を示すことで、社会科学一般を学ぶことへの動機づけを与え、さらには、社会科学の実践的な活用の展望を示す。
「市民自治」をキーワードに、学問的な思考法、社会組織の運動の技法、知識の具体的な収集法や活用法の事例などを教える。

授業の目標

大学における社会科学やその他の学問を学ぶ意義を理解する。
学問の実践的な活用の展望を得ることで、自律的に科目選択をしていく能力を獲得する。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	市民自治とは何か	「市民自治」という概念のイメージをつかむ。松下圭一の市民自治論を概観し、その批判的意義を理解する。そのうえで「市民社会」の概念を類型的に考察し、「市民」概念の理解を深める。日本における「自治」概念の特徴と問題性を検討し、自治的発想への批判を克服できる視点を求める。そのために、「自治」と「統治」をあらためて比較し、市民自治概念を批判的、反省的に理解すべき理由を確認する。 【キーワード】 市民自治、都市型社会、シビル・ミニマム、公と私、市民社会、自治的市民社会、自治と地方自治、自治と統治、正当性	山岡　龍一（放送大学教授）	山岡　龍一（放送大学教授） 岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）
2	市民自治の思考法(1)	市民自治を考察に入れながら、学問と実践の関係性を考える。ウェーバーの学問論と政治論を題材に、学問と実践各々の独自性と、両者の関連性を同時に検討する。市民自治と学問との関係性を、知識と意志の双方の観点から考えたうえで、現代社会において専門知が果たす役割を考察し、市民自治における合意形成の重要性を理解する。 【キーワード】 主知主義、主意主義、専門化、神々の闘争、価値自由、心情倫理、責任倫理、社会的承認、専門知、合意形成	山岡　龍一（放送大学教授）	山岡　龍一（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	市民自治の思考法（2）	市民自治にとっての社会科学的視座の重要性を理解する。常識にのみ素朴に依拠することの限界を理解し、社会科学的問題設定が必要な問題群を考察する。囚人のジレンマを題材に、人間の相互性を意識して社会を考察することの意義を確認し、社会的行為における相互的な期待の重要性を理解する。社会科学的な視座のあり方を考察し、市民自治にとって必要な視座の取り方を探求する。 【キーワード】 意図せざる結果、合成の誤謬、ゲーム理論、囚人のジレンマ、フリーライダー、合理的期待、規範的期待、機能的期待	山岡　龍一（放送大学教授）	山岡　龍一（放送大学教授）
4	社会の問題を解決する	社会の問題を解決しようとする際、現実主義や理想主義に陥りやすい。どうすれば、そうした落とし穴に陥ることなく、社会の問題を解決することができるのであろうか。ここでは、問題解決の技術を学ぶ。 【キーワード】 現実主義、理想主義、問題解決	岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）	岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）
5	市民団体を組織する	市民自治では、ある団体の活動にただ乗りするフリーライダーが発生しやすい。どうすれば、ボランティアや寄付を集めることができるのであろうか。ここでは、市民団体を組織する技術を学ぶ。 【キーワード】 フリーライダー、インセンティブ、活動参加、寄付	岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）	岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）
6	社会を動かす	社会の問題を解決するために、広く社会の支持を得ることが必要であるかもしれない。どうすれば、社会を動かすことができるのであろうか。ここでは、フレーミングをはじめとする社会を動かす技術を学ぶ。 【キーワード】 資源動員、フレーム、フレーミング、インターネット、マスメディア	岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）	岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）
7	合意を形成する	問題解決の過程では、様々な対立が発生するかもしれない。そうした場合、どのように合意を形成していけばよいのであろうか。ここでは、討議や交渉といった合意形成の技術を学ぶ。 【キーワード】 討議、ミニ・パブリックス、市民討議会、交渉	岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）	岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）
8	責任を引き受ける	問題解決に失敗した場合、その責任を他者に転嫁しやすい。どうすれば、そうした政治的に未熟な思考法を回避することができるのであろうか。ここでは、責任を引き受ける思考法を学ぶ。 【キーワード】 状況、決断、結果責任、失敗学	岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）	岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）
9	情報のリテラシー（1）文献や調査結果を探す・読む	市民が社会の問題を解決しようとする過程では、活動の対象となる問題とそれを取り巻く状況などについてより深く知る・調べることが必要になることがある。この回では、既存の文献や資料の基本的な探し方や、社会調査の基本的な種類、調査結果を読む際の基本的な注意点などについて学ぶ。 【キーワード】 文献調査、社会調査の種類、母集団と標本、ワーディング、調査の文脈	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	情報のリテラシー（2）社会調査を実施する	既存の文献や調査結果などでは必要な情報が十分に得られず、自ら社会調査を実施しなければならない場合がある。この回では、社会調査の基本的な目的、社会調査の種類とそれぞれの特徴、調査を実施する際の留意点などについて学ぶ。 【キーワード】 記述と説明、質的調査と量的調査	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）
11	NPO法人のつくり方	社会の課題解決を図るにあたっては政府や企業など多様な主体が存在する。なぜ政府だけでなくNPOも公共性を担うようになってきたのだろうか。ここでは、NPO法人の立ち上げのプロセスと運営のポイントを学ぶ。 【キーワード】 NPO法、認定NPO法人制度、ボランティアコーディネーション、寄付、ファンドレイジング	加留部　貴行（九州大学大学院客員准教授 ）	加留部　貴行（九州大学大学院客員准教授 ）
12	ファシリテーション	個人では困難な問題をチームで解決していくことは多い。多様な力を掛け合わせていく場を支援し促進するファシリテーターの役割とは何だろうか。ここでは、ファシリテーションの技法のポイントを学ぶ。 【キーワード】 ファシリテーション、ファシリテーター、準備、対話、可視化、合意形成、チーム	加留部　貴行（九州大学大学院客員准教授 ）	加留部　貴行（九州大学大学院客員准教授 ）
13	政府情報へのアクセス	市民自治の理想にもかかわらず、政府が市民生活に一方的に介入する場面は少なくなく、現に、そうした権力の発動は、公共の利益を擁護する上で欠かせないものであるようにみえる。ここでは、政府による統治に市民が主体的に参画するという「自治」のかたちを、構想してみたい。そのような自治には、政府情報へのアクセスが不可欠である。情報の管理と開示に関する法制度を概観し、これを利用した市民自治の実例を検証する。 【キーワード】 行政機関情報公開法、情報公開条例、公文書管理法、開示請求、不開示事由、知る権利	原島　良成（熊本大学准教授）	原島　良成（熊本大学准教授）
14	市民訴訟をつうじた公益擁護	前回に続いて、政府活動に対して市民が主体的に参画する自治の姿を追究する。開示請求により得た情報を元に政府の活動をコントロールしようとしても、政治力が無ければ成功しない。マス・メディアやインターネットをつうじた政治運動にも期待がかかるが、もし、得た情報が政府活動の不正に関するものであるなら、法の機関である裁判所が力を貸してくれるかもしれない。市民たる資格においてそのような訴訟を追行することの理論的可能性と問題点を、講義する。 【キーワード】 市民訴訟、住民訴訟、客観訴訟、住民監査請求、財務会計行為	原島　良成（熊本大学准教授）	原島　良成（熊本大学准教授）
15	市民自治の展望と社会科学の責任	本講義のここまでの議論をふまえて、市民自治と社会科学の現状と展望を考える。日本における市民運動の展開を概観し、その現代的課題を〈政治〉の覚醒として理解する。その視点から、日本の社会科学の現代的な課題を検討し、本講義が目指す社会科学像と市民像を描き出す。最後に、市民自治の理想を、あらためて思想的伝統の中に位置づけ、その今後への課題を想像する。 【キーワード】 市民運動、NPO法、〈政治〉の覚醒、市民的社会科学者、社会科学的市民、共和主義的自由、自治という自由	山岡　龍一（放送大学教授） 岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）	山岡　龍一（放送大学教授） 岡﨑　晴輝（九州大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	基盤科目	科目コード	1128221	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　問題解決の進め方　　（’１２）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：柴山　盛生　（放送大学客員准教授）　〕

〔主任講師（現職名）：遠山　紘司　（放送大学客員教授）　〕

【本学担当専任教員：岡田　光正　（放送大学教授）　】

講義概要

問題とは何かを考え、問題の発見、解決の手順、解決に必要な情報をどのように収集・整理し分析するのか、解決に必要な考え方とは何かなど一連の過程を通して解決策を見いだしていく科学的技法を提供する。また、その過程で思考や発想などを目的に沿って他人に伝え、理解してもらうための基本的な技術を習得する。そして、ここでの学習が実際に応用できることをねらいとして、さまざまな分野から問題発見と解決の具体的な事例を集めて紹介する。

授業の目標

大学に入学後に、学習を進める上での基本的な方法を学ぶ。また、社会や産業の仕組みを理解し、仕事や生活に活用できることを目標として、ものの見方、考え方とともに実践的な知識を習得する。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	問題とは何か	問題解決を進めるにあたって最初に「問題とは何か」について定義しておく必要がある。問題には、易しいものから難しいものまでレベルの違いがあるし、起こった時期によっても種類分けすることが出来る。今回はこれらについて述べた後、全15章の構成を概説するとともに、もう一つの教材であるテレビを使った放送授業の見方について触れる。 【キーワード】 問題とは、問題のレベル、問題の種類	遠山　紘司（放送大学客員教授）	遠山　紘司（放送大学客員教授）
2	問題を見つける	前章で問題を定義した。それでは問題をどのようにして見つけるのであろうか。漫然と暮らし、日々の仕事をこなしているだけでは問題は見えてこない。問題が見つかれば全てが解決するのだろうか。また、問題は一つとは限らず、同時に複数生じることがある。どのような対応が必要になるのだろうか。 【キーワード】 見えない問題、現状の把握、「不」のつく字	遠山　紘司（放送大学客員教授）	遠山　紘司（放送大学客員教授）
3	目標を設定する	解決する問題が把握できたら、次は目標の設定である。目標は到達水準を示したものである。問題を解決するために何故、目標を設定する必要があるのか。どのようなことに注意しながら目標を設定すればよいのか。目標は問題の解決の度合い、すなわち達成度を評価する目安にもなる。 【キーワード】 目標の条件、優先順位、制約条件、現状分析	遠山　紘司（放送大学客員教授）	遠山　紘司（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	解決への手順を決める	これまでに、問題とは何かを定義し、問題の見つけ方、それを解決するための目標設定について説明してきた。いかにすばらしい目標を設定したとしても、それを実現しなければ意味がない。この章では解決にいたる全体像を概観したのち、目標に向けて実行に移すための解決策の立て方について述べる。 【キーワード】 解決への全体像、問題の確定、解決案の立案	遠山　紘司（放送大学客員教授）	遠山　紘司（放送大学客員教授）
5	解決への姿勢	この章では、解決の姿勢として問題の解決策を立てる上で必要な考え方を取り上げて学ぶ。問題を解決するという行為は、自分のあるいは属する組織の経営すなわちマネジメントという行為の大事な部分である。そこで、マネジメントにおける姿勢を参考に問題解決の姿勢を考える。そして問題解決において大切なこととして、これまでの復習も含めて、解決への姿勢を具体的にすることを学ぶ。 【キーワード】 マネジメント、ドラッカーの名言・格言、アイディアの可視化、意志の力、外部の力の活用	東　千秋（放送大学名誉教授）	東　千秋（放送大学名誉教授） 遠山　紘司（放送大学客員教授）
6	情報を収集し整理する	問題解決においては、関連する情報を探して集めそれらを整理することが必要である。情報の収集では収集の目的、情報の作成方法、外部資料の収集について、情報の検索においては、図書検索、インターネット検索について、情報の整理では、整理の考え方・方法、集めた情報の検討などについて学習する。 【キーワード】 情報収集、外部資料の収集、情報検索、情報整理	柴山　盛生（放送大学客員准教授）	柴山　盛生（放送大学客員准教授）
7	グラフを活用する	数値情報はグラフにして示すと視覚的にわかり易く、問題の発見と解決に役立つ。この章では基本的なグラフである、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、散点グラフの4つについて述べた後で、その他、質的な違いを分かり易く示すレーダーチャートや内訳を表す帯グラフなどについても説明する。 【キーワード】 グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、散点グラフ	大林　康二（元北里大学教授）	大林　康二（元北里大学教授）
8	数値情報を扱う	アンケートによる市場調査や工場における品質管理等などで集められる数値情報を解析すると、問題の発見と解決に役立つ特徴を導き出すことができる。これらの数値情報はばらつきのあるデータであることが多く、数値統計の方法で解析する。統計的データの代表値、記述統計、推測統計、推定、検定、要因分析などについて説明する。 【キーワード】 記述統計、推測統計、正規分布、要因分析	大林　康二（元北里大学教授）	大林　康二（元北里大学教授） 遠山　紘司（放送大学客員教授）
9	図解化して見る	問題を解決する過程で有効な表現方法の一つに図解がある。図解により問題の全体像や全体の中での位置関係が分かる。また、自分が考えた内容を短時間で他人に理解してもらうこともできる。口頭で説明したり文章化したりするのが難しいものでも図解化するならば一目で理解できるものが多い。その考え方、進め方を学習する。 【キーワード】 図解の基礎、図解のパターン、図解の進め方	柴山　盛生（放送大学客員准教授）	柴山　盛生（放送大学客員准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	分析的に考える	問題解決においては、様々な事柄を分析してある目標に向けた解決手順を考える。そのために必要な考え方である演繹的推論、帰納的推論、確率判断、意思決定による進め方などを学習する。さらに、物事を選択するため、ゼロベースの視点からの議論を行ったりブレークスルーを発見したりする意思決定を進めながら考える方法を考える。 【キーワード】 推論、確率、ゼロベース、ブレイクスルー	柴山　盛生 （放送大学客員准教授）	柴山　盛生 （放送大学客員准教授）
11	発想を広げる	分析的に進める方法とは異なる発想のアプローチを考える。問題の解決策を導く上で、アイディアを出すために物事を発散的に考えたり、通常の関係とは異なる結びつきを考えたりすることを繰り返して発想を広げる方法を学ぶ。ここでは発想に関して、概念、知識、連想などについて説明し、それを基礎とした発想を広げる手法を紹介する。 【キーワード】 概念、知識、連想、推理	柴山　盛生 （放送大学客員准教授）	柴山　盛生 （放送大学客員准教授）
12	コミュニケーションの取り方	効果的なコミュニケーションはどうあればよいのか、ここではコミュニケーションの取り方についてコミュニケーションの仕組みと能力、コミュニケーションにおける問題の発生と対策、さらに情報の送り手の言葉によるプレゼンテーションについて事例を通して学ぶ。 【キーワード】 コミュニケーションの構造と要素、プレゼンテーション、コミュニケーションにおける問題の発生と対策	東　千秋 （放送大学名誉教授）	東　千秋 （放送大学名誉教授） 遠山　紘司 （放送大学客員教授）
13	個人と組織での進め方	問題には個人で処理するものと、組織的に取り組むものがある。最初に個人が問題を発見し解決に至る過程を効果的に行う方法を考える。次に意見、考え方の異なる人の集まるグループや組織における進め方を考える。また、組織は個人の集合体でもある。組織の中での個人のあり方を合わせて学ぶ。 【キーワード】 PDCAサイクル、事務局、「2・6・2の法則」	遠山　紘司 （放送大学客員教授）	遠山　紘司 （放送大学客員教授）
14	解決策を実行する	問題解決に向けて、解決策を実行する。開始にあたって、役割分担、スケジュールの策定など実施計画を検討する。また、実行している途中での計画の進捗状況を調べる方法や、途中での評価、新たに生じた問題への対処などについて考える。ここでは、効果的な問題解決策の進め方を学ぶ。 【キーワード】 計画の実行の吟味、代替手段と優先順位の検討	柴山　盛生 （放送大学客員准教授）	柴山　盛生 （放送大学客員准教授）
15	評価する	問題は解決できたのか、またどの程度目標が達成したのかを判断するための評価方法を学習する。ここでは、評価の対象や種類およびいくつかの数値的でない評価方法や数値的な評価法などの理論と手順について説明するとともに、それらに対応した例を考える。最後にこの科目のまとめをおこなう。 【キーワード】 評価、目標値との比較、まとめ	柴山　盛生 （放送大学客員准教授）	柴山　盛生 （放送大学客員准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	基盤科目	科目コード	1128299	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　国際理解のために　　（’１３）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：高橋　和夫　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

高校までに世界史を勉強しなかった層を対象とする。国際理解のための基本知識を内容としている。二部構成で第一部は世界の宗教を語る。具体的にはユダヤ教、キリスト教、イスラム教、そしてゾロアスター教を紹介する。こうした宗教のつながりを強調する。さらに、それぞれが、どのような世界観を教え、どのような生活規範を求めているかを論じる。その宗教の信徒に敬意と理解をもって接触できるようにするためである。
第二部では、東アジアの国際情勢を紹介する。そして領土問題とは、何なのか、なぜ発生するのか。そうした、領土問題理解の前提となる知識を提供した後に、日本の抱える領土問題について論じる。ここでも、対立する議論の優劣ではなく、どのような主張が展開されているのかを、淡々と述べる。第二部が、全体として世界の中で日本の置かれた地位を理解する背景知識となれば幸いである。

授業の目標

国際理解のための基礎知識の習得が目標である。異なる視点を、それぞれの立場から理解する姿勢を学び取る。

履修上の留意点

批判的な目で日ごろから宗教や国際問題の報道に触れていただきたい。この科目の履修後に、隣接の歴史、国際政治などの分野の学習へと進んでいただきたい。特に外国語の習得に力を入れていただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の位置関係	イスラム教は、キリスト教とユダヤ教の延長線上に位置している。キリスト教はユダヤ教を踏まえて誕生した。つまりユダヤ教、キリスト教、イスラム教は兄弟宗教と見ることができる。 【キーワード】 預言者、一神教、旧約聖書、新約聖書、コーラン	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
2	ユダヤ教	ユダヤ教はキリスト教に先行する一神教である。ユダヤ教は、キリスト教やイスラム教と違い宣教の宗教ではない。つまり、他の宗教の信徒をユダヤ教へ改宗させようとはしない。ユダヤ教には、さまざまな戒律がある。どのくらい厳格に戒律を守るかには、個人差がある。 【キーワード】 キリスト教に先行する宗教、シャバト、安息日、コシェル、ユダヤ人迫害、コーファックス	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
3	イスラム教	イスラム世界は、イスラム教一色ではなく多様な宗教の共存するシステムある。イスラム教はアラブ世界を越え世界に広がっている。イスラム教徒の習慣を紹介する。 【キーワード】 経典（聖典）の民、オスマン帝国、ハラール、ハラーム	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	光と闇の戦い、ゾロアスター教	ゾロアスター教は、二元論、終末論、救済論を説く。出自や富ではなく、善行の積み重ねによって救済を得られるとの教えは、その後の宗教に大きな影響を与えた。 【キーワード】 アフラ・マズダ、アーリマン、二元論、終末論、救済論、部族神、普遍神、善思・善言・善行	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
5	ペルシア帝国とユダヤ教徒	アケメネス朝ペルシア帝国を建国したキュロス大王は、バビロンに囚われていたユダヤ人を解放した。ユダヤ人はゾロアスター教を信奉する王の支配したペルシア帝国の臣民であった。支配者の宗教から大きな影響を受けた。 【キーワード】 キュロス大王、キュロス革命、バビロン捕囚、ユダヤ教徒の解放、バビロンのユダヤ教徒	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
6	「三博士」の贈り物	ゾロアスター教の研究者は、同教がユダヤ教、キリスト教、イスラム教に影響を与えたと考えている。その具体例として、二元論、終末論、救済論、そして天国や地獄の概念が上げられる。さらにゾロアスター教の影響を仏教にも見る研究者は少なくない。 【キーワード】 サオシュヤント、メシア、メサイア、マフディー救世主、火焔仏、シンクレティズム	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
7	ゾロアスター教的世界の広がり	ゾロアスター教徒は、中国に、そして朝鮮半島にも来ていと推測される。日本にゾロアスター教が伝わっていたかに関しては議論がある。ゾロアスター教は生きた宗教である。インドの同教徒はパールシーと呼ばれ、経済界で大きな役割を担っている。 【キーワード】 祆教、新羅の傭兵、パールシー、タタ	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
8	東アジアの国際情勢／日中関係の構造	東アジア情勢を規定する大きな要因は日中関係である。東アジア情勢の難しさは、日本という経済大国が既に存在する地域で、中国という新たな大国が登場してきたという事実である。二つの大国の関係は通常管理が難しいものである。日中関係に関しては、20世紀に両国が戦争を戦ったという負の遺産もあり、さらに難しい。 【キーワード】 近所づきあい、歴史、二つの大国、シルクロード	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
9	領土問題とは何か？	テクノロジーの進歩が領土問題を起こりやすくしており、民族主義が領土問題の解決を困難にしている。 【キーワード】 民族主義、テクノロジー、地球温暖化と北極での領有権争い	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	なぜ領土問題が起こるのか？	領土問題の発生の背景には、国境線と民族分布の不一致、複数の民族による同じ土地の奪い合いなどがある。戦争は、領土問題を解決しない。 【キーワード】 オスマン帝国、イラク、クルド人、旧ユーゴスラビア、パレスチナ問題	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
11	日本の領土問題	海上で他国と国境を接する日本の領土問題は、領海問題の側面を強く持っている。海洋国際法と海底資源の問題に注意を払いつつ、広大な排他的経済水域を持つ海洋国家としての日本という視点を提示する。 【キーワード】 北方領土、竹島、尖閣諸島、沖ノ鳥島、領海、接続水域、排他的経済水域	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
12	北方領土問題	移り変わる日露間の力のバランスの中で展開されてきた北方領土をめぐる交渉と議論を振り返る。 【キーワード】 国後（クナシリ）、択捉（エトロフ）、歯舞（ハボマイ）、色丹（シコタン）、二島返還論	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
13	竹島問題	日本列島と朝鮮半島の不幸な関係という歴史を背景におきながら、対立する双方の立場を論じる。 【キーワード】 日清戦争、日韓併合、竹島、独島	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
14	尖閣列島	日本と中国の双方の主張を歴史的な文脈を振り返りながら紹介する。 【キーワード】 天然ガス、石油、沖縄返還	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
15	沖ノ鳥島	島に関する海洋法を理解する。また沖ノ鳥島の持つ軍事的な意味と経済的な価値を考える。 【キーワード】 国連海洋法条約、島か岩か、大陸棚、コバルト・リッチ・クラスト	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	基盤科目	科目コード	1118030	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 「ひと学」への招待 （’１２）＝ （R）

－人類の文化と自然－

〔主任講師（現職名）：内堀　基光　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

私たち人間とはどのような存在なのだろう。人文科学、社会科学はすべて、そして自然科学もその一部は、それぞれの視点からこの問いに答えようとしている。この講義では、人間という存在がほかの生物と比べて、どんなところにその特徴があるかということに焦点を当てる。われわれにいちばん近い動物である霊長類を視野に入れながら、人間社会の特質、人間文化と呼ばれるものの特異性を示し、その特質・特異性の現れである多様性について語ってゆく。自然にもとづく人間の文化というのが、その基本的な視点である。これを抽象的な思考にとどめることなく、できるだけ具体的・実証的に語る。

授業の目標

「ひと学」とは新しい表現だが、ここでは人文社会系の人類学を中軸にすえながら、生物系の人類学や霊長類学へのまなざしをもつものと理解しておきたい、地球上に住むわれわれ人類という生物の文化とその自然的基礎を学ばぼうとするものである。これにより、高校教育での地歴科、生物といった垣根を越えて、大学では、新たな発想のもとで広い視野での学習が可能になる、ということを学べればよいと考えている。同時に、具体的な事柄のなかから一般的な理論に至る思考の筋道のあり方にも慣れるようにしたい。

履修上の留意点

印刷教材では基本的な思考の材料を提供し、ラジオによる放送教材では、それに基づいて思考を深めたり、広げたりするように編成するので、両者を注意深く比較しながら履修すること。基盤科目としての性格上、高校での科目配置を乗り越えることを目標の一つとする。したがって、新鮮な気持ちをもって履修に向かってほしい。本科目の履修後に「文化人類学（’14）」を履修すると、人類の文化の現在をどう観るか、についての理解が深まるだろう。あるいは、「文化人類学（’14）」をすでに履修した後でも、本科目によって人類文化の進化上の位置づけについて、あらたな知見を得ることが期待できよう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「ひと学」とは何だろうか	「ひと学」とは人間の生活の基にある文化的な特質と、自然的な基礎について、総合的な観点から語ってゆこうとする学問である。これを高校教育から大学教育への架け橋という位置づけで講義する。第1章では、生物、社会、地歴科といった教科のなかに見られる人間についての高校までの知識を確認するとともに、それをより深く考えなおすことの意義からはじめる。 【キーワード】 「ひと」のイメージ、ホモ・サピエンス、霊長類、ヒト化、直立二足歩行	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
2	「ひと」の文化	人間（人類）は文化をもつ動物であると言われる。だが、文化とはなにかと問われると、なかなか簡単には言い表せない。それは、道具を作ることでもあるし、互いにコミュニケーションをとるのに言語を使うということでもある。人間が作り出してきたものから文化を語ることもできるし、世界を観る見方そのものが文化なのだと考えることもできる。この章では、捉えがたいところのある「人間の文化」という考え方について、その基礎となるところをみてゆく。 【キーワード】 文化という言葉、普遍性と個別性、文化相対主義、異文化と多文化、グローバリゼーション	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
3	感情の起源	人間は日常生活のなかでさまざまな感情を抱く。ある意味では感情こそが、人が生きている証しでもある。感情は「こころ」のはたらきであるという表現もなされるが、この場合の「こころ」とは何なのだろうか。理性的な思考に対して、感情は人間の存在や社会的あり方をどのように基礎づけるもとなのだろうか。感情と生存の関係を軸に考えてゆく。 【キーワード】 身体性と表情、感覚と感情、社会的感情、共感、コミュニタス	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	「ひと」の集まり方	人間は社会的存在であるとも言われる。さまざまな社会科学は人間のこの側面をそれぞれの観点から解き明かそうとするものである。法律学、経済学、社会学などを代表的なものとして思い浮かべることができるだろう。これらの学問の多くは、近代現代における人間社会のあり方を探ることをその中心的な課題としている。「ひと学」では、「家族」をはじめとして、社会のもっとも基礎的、原初的なあり方をさぐってゆく。 【キーワード】 家族、再生産、親族、ネットワーク、協働	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
5	性という関係	性は人間の生物的基礎にある関係のあり方である。性は社会を基礎づける要件であり、生殖行為によって人の世代的再生産がなされる。多くの人間社会では夫婦という関係が制度的に認められた性関係のペアを形成する。異性の魅力や性愛関係は、人類の進化の過程のなかで獲得されてきた特質でもある。生物性と社会性を同時に体現する性について考える。 【キーワード】 基盤としての再生産、インセストとその禁止、性愛、性差、男のボンド	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
6	男女の社会的役割	社会の中で男としてあること、女としてあることは、単純に生得の差異にもとづくのではない。出産はともかくとしても、育児のような母性にもとづくと思われがちな役割も、社会的に形成されたものという面もある。人類に特殊的だと思われる父性についても同様である。こうした議論を通じて、一般にジェンダーと呼ばれる社会的な性別の意義づけについて語ってゆく。 【キーワード】 第二の性、フェミニズム、男女の分業、家内と外、母権制論	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
7	病と老いること	個体としての人は時間に限られた存在であり、生物的に老いてゆくことも必然である。その間に人はしばしば病に冒されもする。病と老いはまた文化的な意味を与えられ、病人や老人は社会によって異なる扱いを受ける。風土病や流行病は人類の生物的な生存そのものを考えるための、有効な手がかりになる。 【キーワード】 医療と呪医、シャマニズム、ジェロントクラシー、寿命と延命、文化結合症候群	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
8	死ぬことと死	人は死ぬ。宗教の基本には、死というこの必然（宿命）に向けて、どのように対処していけば良いのかという教義があり、さらにその奥には死とは何かについての観念がある。問題としての死には他者の死と自己の死のあいだに相の違いがあり、またそれを乗り越える仕方には、死後の生や、社会的に執り行われる儀礼などがある。ここから死の文化的現れとは何かを考えてゆく。 【キーワード】 他者の死、私の死、遺体の処理、死者という存在、不死	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
9	食べるものを作る	人はどのようなものを、どのようにして食べるかを語ってゆく。食料を獲得する方法には狩猟・採集活動から、農耕、牧畜などの生産活動がありあがが、さらに料理という過程を経て、はじめて食料は食べ物になる。食べるに当たっては作法があり、社会によってはさまざまなタブーが存在する。食べられるものと食べられないものの区別は自然的な区別と同時に文化的な区別である。 【キーワード】 食べられるものと食べられないもの、食事の作法、生のものと火を通したもの、雑食性、狩猟仮説と被捕食者	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	遊び、考えること	人は遊ぶ存在である。ここでは遊びを広い意味で捉え、美術や音楽を含む芸術活動、服飾や装身具をつける習俗なども遊びと考える。子供の遊びにも見られる社会的な要素が、人間の本質とどう関わるか。チンパンジーの遊びなどにも触れ、人類の社会性の進化における遊びの意義を考える。 【キーワード】 同調と感応、心の理論、芸術の誕生、言語と象徴化、想像力	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
11	道具を作り使う動物	人類の特質のうち道具に焦点を当てて、身体の延長という観点から、世界と人間の関わりについて論じる。石器製作という人類の技術の大きな第一歩の意義を見きわめ、道具の社会性、武器という特殊な道具、製作にあたっての模倣能力の意味などを語ってゆく。チンパンジーの道具使用が、人間性を検討するための重要な比較対象となる。 【キーワード】 ホモ・ファベル、身体の延長、世界の操作、呪術、在来知	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
12	「ひと」類似のもの	人は生物的な存在だが、高度な知能、精密なはたらきを可能にする手、二足歩行など、身体的にきわめて特色のある生物である。道具を作る技術の極限に、サイボーグあるいはロボットと呼ばれる人間類似の人工物が作り出されている。人間の作り出すロボットは、逆に人間とは何かを考えるための絶好の「よすが」になる。 【キーワード】 ヒューマノイド、ヒトとロボットの社会関係、ロボット工学3原則、主体性、臓器移植	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
13	約束事の世界	人間の社会は小さな規模の居住共同体から、国家、さらには国際社会に至るまで、なんらかの約束事の上に成り立っている。こうした社会の中での約束事には、贈与や交換といった物のやり取り、物の所有についての公認の考えなどが含まれている。これらの全体がそれぞれの社会に固有の制度を形づくる。こうしたところから経済や法といったものの生成について考えてゆく。 【キーワード】 社会的知性、規則、制度、価値の社会性、交換と交易	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
14	支配すること	人類史の長い期間を通じて、狩猟や採集によって生活してきた人間社会は平等的なものであったが、農耕革命以降、そこに富の不平等な配分や、支配と被支配という人間関係が発生してくる。都市や国家、王権の形成はこれらの不平等と不可分のものであり、これが過去数千年の人間社会を特色づけることになる。社会における支配と、それへの抵抗という問題を考えよう。 【キーワード】 身分制、王権、祭司王、暴力と社会、国家に抗する社会	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
15	「ひと」の過去と未来	この回（章）では、『「ひと学」への招待』全体を振り返りつつ、生物種としてのヒトの過去を考えると同時に、未来というものの意味を探ってみる。進化上の種の絶滅はどのように現われるか。また現在の動向から見て、「ひと」のあり方、すなわち社会における公正や権利はどのように変化すると考えられるのだろうか。現生人類が単一種であることの意味を考える。 【キーワード】 未来、民族と人種、グローバリゼーション、地球社会、文化的多様性	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	基盤科目	科目コード	1234293	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 自然科学はじめの一歩 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Introduction to Natural Sciences (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：岸根　順一郎　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：大森　聡一　（放送大学准教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

本科目は、高等学校の「理科」および「数学」の教科と、本学の「自然と環境コース」が提供する共通科目とをつなぐ導入的な役割を期待するものである。自然科学に対する専門的知識を持たない人たちに、物質・エネルギー、生命・生態、宇宙・地球などの自然科学の諸課題における科学的な考え方と、数理・情報学の方法を解説したい。このことによって自然科学の諸分野への興味関心を高め、より具体的な学習への動機付けとなることを期待する。まず、現代の自然観の概要を述べたのち、物質・エネルギー、生命・生態、宇宙・地球、数理・情報などの各領域における学問的なアプローチの仕方を紹介し、最後に、それらの諸科学と社会との関わりを展望したい。

授業の目標

1. 自然科学への興味関心を呼び覚まし、自然現象に対する具体的なイメージを持てる力を養う。
2. 自然現象や科学技術に関連する事象を主体的に理解し、能動的に働きかける力を養う。
3. 科学諸分野を俯瞰することで、さらに進んで学習したいと思う分野を見定める力を養う。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	自然科学の世界	人類史のタイムスケールとしては極めて短い200年ほどの間に、私たちは自然法則と産業技術を結びつけて科学技術を発展させてきた。しかし素粒子から物質、生命、宇宙に至る自然現象のしくみがおよそ解明し尽くされたものでない以上、科学技術の基盤にもつねに曖昧さがある。この曖昧さと向き合うにためは、自然科学研究という営み自体を対象化して分析することが求められる。本科目では、この点を意識しながら宇宙・地球科学、生命科学、化学、物理学、数学という基礎科学諸分野の見方・考え方をバトンリレーの形で紹介していく。これによって、自然科学の先端研究につながるより具体的で高度な内容への第一歩を踏み出すことが目的である。初回は，自然科学のなりたちについて解説し、各講師から、分野ごとの入門ガイドを提示し、この講義への導入とする。 【キーワード】 自然科学の対象と方法、科学と技術	岸根　順一郎（放送大学教授） 大森　聡一（放送大学准教授）	岸根　順一郎（放送大学教授） 大森　聡一（放送大学准教授） 二河　成男（放送大学教授） 隈部　正博（放送大学教授） 井上　克也（広島大学教授）
2	宇宙・地球（1）天文学と宇宙観	自然を理解したいと思う人間の欲求に支えられて積み上げられた観察と認識が、やがて科学として体系化されてきた。人間が最初にふれた「自然」である、生命と大地と天空の現象を取り扱う宇宙・地球分野の研究を3回にわたって紹介する。第1回目は、宇宙・天体分野の話題として、「天動説と地動説」と「望遠鏡による観測と膨張宇宙の発見」をとりあげる。自然の現象を説明しようとして苦闘するさまや、観測や理論の積み重ねから、想像をこえる結果が導き出される過程にふれてみよう。 【キーワード】 天文学、天動説、地動説、天体の運行、膨張宇宙	大森　聡一（放送大学准教授）	大森　聡一（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	宇宙・地球（2）地球システム	地球の研究は、現在の地球で起きている現象の研究と、地球の歴史を対象とする研究に大きく分けることができる。宇宙・地球分野の第2回目は、現在の地球を理解するために、「地球システム」という、地球のみかたを紹介し、現在の地球の成り立ちと、気象、地震、火山噴火などの、身近な地球変動現象との関りについて解説する。 【キーワード】 地球システム、地球環境、気象、地震、火山	大森　聡一（放送大学准教授）	大森　聡一（放送大学准教授）
4	宇宙・地球（3）地球史の科学	地球の歴史は、生命の誕生と高等生命への進化がなぜ地球で起きたか？という人類の根源的問題と密接に関っている。宇宙・地球分野の第3回目では、地球と生命の歴史に関する研究の方法と、現在までの成果を概観する。地球史の研究は、火星や金星との比較や、今後明らかになるであろう太陽系外惑星の情報と合わせることによって、生命惑星誕生条件の一般化の基礎にもなる。生命の誕生と進化に関する研究は、宇宙・地球科学と生命科学が密接に関連して進めてゆく必要がある。この両分野にまたがる学際的な研究の将来を最後に展望して、生物分野へ講義を引き継ぐ。 【キーワード】 地球史解読、生命と地球の歴史、地球型惑星	大森　聡一（放送大学准教授）	大森　聡一（放送大学准教授）
5	生物科学(1) 生物と環境の科学	現在の地球環境に生じている問題の1つに、生物の絶滅がある。この問題は現在、そして将来の私たち人間が暮らす環境をどのようにしたいのかという問題とも絡んでくる。ここでは、どうして生物の絶滅が起こるか、そして、絶滅により生物が減ると人間はどのような影響をうけるかを説明する。 【キーワード】 生態、自然、環境、絶滅	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
6	生物科学(2)細胞と遺伝子のはたらき	生物の体は細胞からなる。これを自由に操ることができれば、様々な病気や、身体能力の低下などによる生活の質の低下に対して、より効果的な治療や予防が可能になる。これを実現するための一歩が、万能細胞の開発や利用である。この章では、細胞とその中で働く、タンパク質やDNAの働きについて説明する。 【キーワード】 細胞、タンパク質、DNA、遺伝、遺伝子	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
7	化学（1）原子が織りなす科学の世界	これまでの講義で扱ってきた、惑星やそれを構成する岩石や鉱物、生命を構成する分子やイオンなどの身の回りにある物質は、ほとんどすべて化学結合で原子がつながった分子や化合物からできている。原子や分子やイオンが電子を受け渡すことで化学反応が起こり、結合が作られて様々な物質ができる。これらは様々な個性を持つひとつひとつの原子の性質に由来する。この回では、周期表の元素の様々な個性と原子が織りなす化学の世界を概観する。 【キーワード】 元素の周期表、元素の性質、化学結合、化学反応、分子	井上　克也（広島大学教授）	井上　克也（広島大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	化学(2)物質の性質を探る	いくつかの面白い分子や化合物をあげ、元素の性質と結びつけて紹介する。また最先端の有用な化合物についても紹介する。なぜ原子が存在するのかという根源的な疑問、または、金属の鉄や銅のように、違う原子が集まってできた固体でも電気を流すといった共通の性質を説明するために普遍的な考えが必要になってくる。次回ではこれらの疑問を解決するための物理学にバトンタッチする。 【キーワード】 身の回りの分子、化合物、最先端の分子、固体物性	井上　克也（広島大学教授）	井上　克也（広島大学教授）
9	物理学(1)物理の見方・考え方	物理学は、基本的な自然法則に基づいて自然現象を記述していこうとする営みである。本章では、物理学の見方・考え方を学ぶ。 【キーワード】 モデル化、力と運動、エネルギー	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
10	物理学(2)物理的自然観のひろがり：熱・環境・情報	物理的自然観の柱のひとつは、前章で述べた「力と運動」の関係に基づく力学的、機械的自然観である。これと対をなすもうひとつの柱が「熱的自然観」である。熱的自然観は情報の概念と結びついていく。本章では、これらの考え方について学ぶ。 【キーワード】 熱、対称性、環境、エントロピー、情報	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
11	物理学(3)光と量子：現代物理学への誘い	ニンジンがオレンジ色に色づいて見える理由を探っていくと、分子の内部を動き回る電子の状態にまで行き着く。本章では、20世紀の前半に革命的な進歩を遂げたミクロな世界の論理である量子力学のエッセンスを学ぶ。 【キーワード】 粒子と波、光、電磁波、量子	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
12	数学(1)数学的思考法	前回、自然法則は数式を使って表せることをみた。この数式は、数学の言葉で表され、数学的思考で理解される。従って今回は数学特有の言葉、考え方を学ぶ。現代数学では基本的である集合の概念、そして数学的思考の基本をなす「論理性」について考える。 【キーワード】 命題、論理、集合	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
13	数学(2)数学の言葉と論理	いわゆる「集合と論理」の分野は、高等学校では扱われないか、扱われてたとしても（受験に関係ないとの理由で）極めて簡単に済まされる。しかし大学では、高校で既に学んでいるからとの理由で常識的なものとして授業が進められる。高等学校では数学はなるべく日常語で話されるが、大学では数学の言葉で話される。このギャップの大きさゆえ、大学数学が敬遠されてしまった。このような理由により、前回に引き続き数学の言葉とその論理性を考える。 【キーワード】 必要条件、十分条件、同値、背理法	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	自然科学の小史	本章では、近代科学の形成過程を歴史的に概観することで自然科学と産業技術の結合がいかになされたかを概観する。 【キーワード】 自然哲学、近代科学、産業技術	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
15	自然科学の展望：さらなる一歩へ向けて	実際の科学研究は分野によらず、問いを立て、仮説を設定して検証し、結論を導き出すという一連の作業を通して進行する。さらに文献調査、論文執筆といった作業が伴う。また、研究を一人で進めることは稀であり、チームを組んで進めることがほとんどである。そこでは、対話を通して研究の流れを作り上げることが重要となる。今回は、将来の卒業研究等を念頭に科学研究の実際的な方法を紹介する。また、各講師から、自然科学各分野の今後の学習への展望を助言する。 【キーワード】 科学研究のサイクル、テーマ設定から論文執筆まで、自然科学学習	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授） 大森　聡一（放送大学准教授） 二河　成男（放送大学教授） 隈部　正博（放送大学教授） 井上　克也（広島大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	基盤科目	科目コード	1150014	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本語リテラシー （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Literacy in Japanese (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：滝浦　真人 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

日本語の文章を読むこと・書くことの基本的実践能力を養う。その過程で必要となる知識やスキルに対応して授業を構成する。具体的には、日本語の表記・語彙・構文法等を踏まえた基本的な構え、文章を読み取って理解するスキル、考えを整理し組み立てるスキル、目的に応じた文章を書くスキル、等を取り上げ、TVというメディアで可能なかぎり実践的に講じる。

授業の目標

大学において授業を理解しレポートなどを執筆するために必要となる、日本語の読み書きの基礎的な実践能力を身に着ける。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本語を書こう	「日本語リテラシー」とは何か？　日本語話者があらためて日本語の使い方を学ぶことの目的と意味を考える。 【キーワード】 日本人のための日本語教育	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授）
2	日本語との付き合い方①： 文字と表記	日本語の大きな特徴である文字と表記を取り上げ、文字法や句読法が書くことに与えている影響を考え、実践の中で理解する。 【キーワード】 表記、句読法	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授）
3	日本語との付き合い方②： 和語と漢語と外来語	同じく日本語の大きな特徴である語種を取り上げ、和語・漢語・外来語という語種が書くことに与えている影響を考え、実践の中で理解する。 【キーワード】 和語、漢語、外来語	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	読むスキル①： まとまりを読む	読んだ文章を理解したり言及したりする際に必要な、文章を要約して理解する方法について考え、実践の中で理解する。 【キーワード】 読解、要約	滝浦　真人 （放送大学教授）	滝浦　真人 （放送大学教授）
5	読むスキル②： つながりを読む	文章、とりわけ論説的な文章を読む際に理解の大きな助けとなる論理構造を読み解く方法について考え、実践の中で理解する。 【キーワード】 論理の読解	滝浦　真人 （放送大学教授）	滝浦　真人 （放送大学教授）
6	考えるスキル①： 論理トレーニング	接続語の働きを見ながら、接続語の使い方と論理構造の関係についてトレーニングを通じて考え、実践の中で理解する。 【キーワード】 論理トレーニング	滝浦　真人 （放送大学教授）	滝浦　真人 （放送大学教授）
7	日本語との付き合い方③： 「は」と「が」の語り	日本語で文をつくるときにつねに選択が問題となる「は」と「が」について、働きの違いと使い分けを考え、実践の中で理解する。 【キーワード】 助詞の機能、語る構え	滝浦　真人 （放送大学教授）	滝浦　真人 （放送大学教授）
8	書くスキル①： 説明文を書く	目的によって文章がどのように変わるかを、説明する・報告する場合を例にとりながら具体的に考え、実践の中で理解する。 【キーワード】 説明文、報告文	滝浦　真人 （放送大学教授）	滝浦　真人 （放送大学教授）
9	書くスキル②： 文体と論理	文体によって文章の論理がどのように変わるかを、起承転結型と新聞記事型を例にとりながら具体的に考え、実践の中で理解する。 【キーワード】 起承転結、新聞記事	滝浦　真人 （放送大学教授）	滝浦　真人 （放送大学教授）
10	考えるスキル②： 言えることと言えないこと	書きたい主張を支える推論の方法について、正しい推論と誤った推論を具体的に考え、実践の中で理解する。 【キーワード】 正しい推論、誤った推論	滝浦　真人 （放送大学教授）	滝浦　真人 （放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	考えるスキル③： 考えを導く方法	書きたい主張を支える推論の方法について、三段論法や帰納と演繹といった論理の働きと構造を見ながら考え、実践の中で理解する。 【キーワード】 三段論法、帰納、演繹、類比	滝浦　真人 （放送大学教授）	滝浦　真人 （放送大学教授）
12	レポートを書く①： 論点の整理まで	書き始めるときの頭の整理という観点から、書く分量、書けるテーマ、書き出しといったいくつかの点について考え、実践の中で理解する。 【キーワード】 タイトル、問題意識、観点	滝浦　真人 （放送大学教授）	滝浦　真人 （放送大学教授）
13	レポートを書く②： 調べる・考察する	実践的な文章のあり方という観点から、先行研究や情報を調べて自分の問題意識と関連づけながら考察して結論に導くプロセスについて考え、実践の中で理解する。 【キーワード】 図書館機能、先行研究、考察	滝浦　真人 （放送大学教授）	滝浦　真人 （放送大学教授）
14	実践のスキル： 自己添削の方法	文章の上達には自己修正能力が欠かせないとの観点から、自己添削に何が必要かを考える。 【キーワード】 自己添削	滝浦　真人 （放送大学教授）	滝浦　真人 （放送大学教授）
15	これからも、日本語を書こう	全体のまとめとして、日本語で文章を書くために必要なことや意識するべきことが何なのかを確認する。 【キーワード】 書き続けよう	滝浦　真人 （放送大学教授）	滝浦　真人 （放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	基盤科目	科目コード	1150022	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本語アカデミックライティング （’１７）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Academic Writing in Japanese (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：滝浦 真人 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：草光 俊雄 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

日本語で学術的な文章を書くために何が必要か、それはどのようなプロセスであるかを具体的に説く。アカデミックな文章とは単なる主張ではなく説得のプロセスであることを明確にし、プロセスの1つ1つを追いながら、論文などがどのように構成されてゆくかを具体的に解説する。また、個々の学問領域によって特に重要視される点などにも目を向ける。

授業の目標

レポートや論文、卒業研究などの学術的な文章を書くためのスキルを身につける。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	何のために書くか？	なぜ論文を書くのか、また論文を書くときにどのような点について気をつけたらよいのか、さらに論文を書くときの小道具などについて簡単に紹介する。 【キーワード】 接続表現、論理的に書く、文房具、assertion、argument	草光 俊雄（放送大学教授）	草光 俊雄（放送大学教授） 滝浦 真人（放送大学教授）
2	わかる文章とは？	読み手に共感を求める文章と論理的な理解に訴える文章の違いを押さえ、学術的な文章に必要なものを確認しながら、わかる文章とは何かを考える。 【キーワード】 共感 対 理解、4つの原則	滝浦 真人（放送大学教授）	滝浦 真人（放送大学教授） 草光 俊雄（放送大学教授）
3	客観的な文章	文章には主観的な文章と客観的な文章があり、学術的な文章は客観的な文章であることを理解する。文章の構成要素は事実か意見かに分かれ、事実で書いたものが客観的文章であることを理解する。 【キーワード】 説明文と意見文、事実と意見	滝浦 真人（放送大学教授）	滝浦 真人（放送大学教授） 草光 俊雄（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	タイトルまで	レポートや論文の作成プロセスを4段階で考え、その第1段階、タイトルを考えるところまでをたどる。内容がわかるような具体的なタイトルを意識することで、その後の進め方が楽になることを理解する。 【キーワード】 4つのパート、“何について・何を・どのように”	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 草光　俊雄（放送大学教授）
5	問題意識と観点の整理	ある意味でレポートや論文は書き始める前が勝負だと言える。自分が答えを出したいことが何なのかを問いの形にしたり、考察の際に参照したい観点を整理しておきたい。そのための方法を理解したい。 【キーワード】 問いと答え、“独りブレインストーミング”、概念マップ	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 草光　俊雄（放送大学教授）
6	情報を調べる	なぜ「情報を調べる」ことが必要とされるのだろうか。ライティングのためには、この過程に合った情報探索方法を行う必要がある。ライティングの始まりから、途中を経て、終わりまで到達するための情報探索の方法を見ていきたい。 【キーワード】 情報探索、ブラウジング、リトリーバル、芋づる方式、先行研究	坂井　素思（放送大学教授）	坂井　素思（放送大学教授） 滝浦　真人（放送大学教授）
7	「他者の言葉」で書く	「引用とは何か」、「いかにして引用が成り立つのか」についてみていく。その上で、他者の書いた言葉や論文などから引用を行う際のルールを理解し、効果的な引用方法について考察することにする。 【キーワード】 直接引用、間接引用、プライオリティ、閉合的方法、類同的方法、連続的方法	坂井　素思（放送大学教授）	坂井　素思（放送大学教授） 滝浦　真人（放送大学教授）
8	パラグラフで書く	文章を書く単位として「パラグラフ」を理解し、実践できるようにしたい。パラグラフの内部構造で文がどのようにつながっているか、またパラグラフ同士がどのようにつながって文章を構成するか、具体的に考え、実践例を示す。 【キーワード】 パラグラフ・ライティング、主張、一貫性、結束性	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 草光　俊雄（放送大学教授）
9	文のつくり方	文章を構成する単位として文を捉え、文における“まとまり”と“つながり”を考える。とりわけ、文章全体の中での役割に応じて“1つの文に1つの内容”をどうしたら実践できるか、具体的に考える。 【キーワード】 1つの文に1つの内容、「は」に注意	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 草光　俊雄（放送大学教授）
10	根拠を挙げる	文章によって自分の意見や見解を述べるに際しては、何よりも読者の理解と納得を念頭に置かなければならない。読者が理解し、納得するためには、自分の議論を展開するにあたってそう考える客観的な根拠を明確に示す必要がある。議論に価値観が入り込みがちな社会系そして文化系の学問分野にあっては、その点がとりわけ重要である。客観的な根拠を得るための手段として有効なものの一つが調査である。 【キーワード】 客観性、価値自由、調査、変数世界、量的調査、質的調査	岩永　雅也（放送大学教授）	岩永　雅也（放送大学教授） 滝浦　真人（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	調査結果を利用する	定式化された手順に従って行われ分析された調査の結果は、学術的な文章における重要な素材の一つである。調査結果としてのデータを効果的に利用することで、文章の合理性を増し、説得力をいっそう高めることができる。ここでは、適切な調査結果の分析方法とデータの有効な利用法について学ぶ。 【キーワード】 調査結果、データ、集計、分析、クロス表、相関係数、結果の記述	岩永　雅也（放送大学教授）	岩永　雅也（放送大学教授） 滝浦　真人（放送大学教授）
12	理科系の文章	いわゆる理系と文系では、書くべき文章が違うのだろうか？違わないのだろうか？　理科系の学問領域で文章を書く際に注意すべき点を解説し、それが文章一般の中でどのような特徴であるかを考える。 【キーワード】 文章の心構え、専門用語、図表、数式・化学式、英語の構文	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授） 滝浦　真人（放送大学教授）
13	社会科学の文体	社会科学系の論文を書くときに注意すべき点を取り上げる。社会科学はとくにその科学性、客観性が重んじられる分野である。それらを担保するにはどのようなことに気をつけるべきか、また議論を展開する際に心がけておくべき点などについて述べる。 【キーワード】 客観性、論理、統計資料、文献批判、テクニカルターム、仮説、実証	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 滝浦　真人（放送大学教授）
14	考察と結論	ある程度まで調査が終わった後の考察と結論の書き方について気をつけるべき点を述べる。集まった資料をどうやってひとつのまとまった論旨にまとめ上げていくか、その際仮説や推量をどのようにしていったらよいのか、そして最後にどのように結論の部分を書いていったらよいのか、を学んでいく。 【キーワード】 考察、灰色の脳細胞、仮説、関係性（関連性）、見取り図、結論、再読	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 滝浦　真人（放送大学教授）
15	アカデミックライティングとは何か？	全体を振り返って、ライティングのプロセスをたどりながら、各パートで理解したい点、注意したい点が何だったかを復習する。また、文章の書き方として押さえておきたい点、書く際に実践してほしい点についてもまとめる。 【キーワード】 旅立ちの準備	滝浦　真人（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 滝浦　真人（放送大学教授） 坂井　素思（放送大学教授） 岩永　雅也（放送大学教授） 吉岡　一男（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	基盤科目	科目コード	1170023	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 遠隔学習のためのパソコン活用 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Personal Computers for Distance Learning (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：秋光 淳生 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：三輪 眞木子 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

放送大学の学生が家や職場から学習するうえで役立つパソコンの活用方法を基礎から学ぶ。パソコンの基本操作について学んだのち、放送大学が提供する学内情報通信システムを活用するために必要な技法について学ぶ。その後、学生がパソコンソフトを駆使して文献を検索し、表計算ソフトを用いて図表を作成し、文書作成ソフトでレポートを作成し、最後にプレゼンテーションソフトを用いてプレゼンテーションをできるようになる。主体的な取り組みを行い、自分の学習について振り返りを行うことで、遠隔学習者として必要な素養を身につけることを目指す。

授業の目標

・パソコンやインターネットを利用してオンラインで学ぶための素養を身につける。
・教務情報システムWAKABAを始めとする放送大学の提供するWebサービスを利用できるようになる。
・放送大学図書館の電子情報サービスを活用できるようになる。
・インターネット上の信頼できる情報を探すことができるようになる。
・レポートを執筆する際の参考文献の調べ方と引用の仕方がわかる。
・図表のあるレポートを作成し，プレゼンテーションをできるようになる。

履修上の留意点

「遠隔学習のためのパソコン活用(’13)」の後継科目であり単位を修得した学生は履修できない。面接授業・基盤科目「初歩からのパソコン」と併せて受講することが望ましい。
関連科目：「問題解決の進め方(’12)」「日常生活のデジタルメディア(’14)」「情報ネットワーク(’14)」「情報のセキュリティと倫理(’14)」

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	パソコンの基本操作	パソコンを活用して学習方法を変えるには、パソコンの基本的な知識と技術を学ぶことが大切である。パソコンの要素と基本操作について学ぶ。 【キーワード】 ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティングシステム、ファイル、フォルダー、拡張子	秋光 淳生（放送大学准教授）	三輪 眞木子（放送大学教授） 秋光 淳生（放送大学准教授）
2	インターネットのしくみとWebの活用	学びにおいてインターネットは欠かせないものとなってきている。例えばWebを利用することで、多くの有用な学習素材を見つけることもできる。Webを活用するためには、そのしくみを理解しておくことも必要である。この章では、Webの利用方法について述べた後に、インターネットやWebのしくみについて説明する。 【キーワード】 HTML、Webブラウザ	秋光 淳生（放送大学准教授）	秋光 淳生（放送大学准教授）
3	インターネットを利用した学習	インターネットを利用することで、時と場所を超えたコミュニケーションが可能となり、学びをより豊かにできるようになった。インターネットを利用した学びについて、主に放送大学在学生向けのサービスについて紹介する。そして、こうしたサービスの活用をしていくうえで重要な役割を果たすのがeポートフォリオである。最後にeポートフォリオについて説明する。 【キーワード】 CMS、LMS、シングルサインオン、eポートフォリオ	秋光 淳生（放送大学准教授）	秋光 淳生（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	電子メールのしくみと利用	電子メールが普及することで、離れた相手へ手軽にメッセージとファイルのやりとりを行うことができるようになった。最近では、専用のアプリを用いないWebメールも普及してきている。そこで、Webメールをもとに、電子メールの要素について述べ、そして、メールの利用のうえで気をつけるべき事柄について述べる。最後に、電子メールを利用するためのソフトウェアであるメーラーの設定を行うために必要なしくみについて、簡単に説明する。 【キーワード】 電子メール、メールアドレス、Webメール	秋光　淳生（放送大学准教授）	秋光　淳生（放送大学准教授）
5	セキュリティと情報倫理	学習を進める上で、パソコンをインターネットに接続すると、コンピュータウイルスに感染しないように対処することや、著作権や個人情報の正しい取り扱いなどが求められる。そこで、情報セキュリティの考え方と、実際のパソコンの設定例について述べる。OSやソフトウェアの更新、ウイルス対策ソフトの更新や、さまざまな設定について具体的に述べる。また、著作権や個人情報を適切に取り扱う方法を述べる。 【キーワード】 情報セキュリティ、コンピュータウイルス、著作権、個人情報	辰己　丈夫（放送大学教授）	辰己　丈夫（放送大学教授）
6	ソーシャルネットワークと学び	インターネットが普及することで、多くの人が、他の人とつながり社会を作り、そのつながりが人的なネットワークを作るようになってきた。このようなつながりのなかでも、ソーシャルネットワーク・サービス（SNS）について、その歴史や、特徴などについて述べる。また、ソーシャルネットワーク・サービスを利用して、学習者同士がお互いに考え、学ぶ実例について述べる。 【キーワード】 ソーシャルネットワーク・サービス（SNS）、協同学習	辰己　丈夫（放送大学教授）	辰己　丈夫（放送大学教授）
7	図書館の利用方法	レポートや卒業研究で必要となる先行研究調査に必要な文献探索の基本手順を習得し、図書館サービスの種類と利用方法を学ぶ。また、公共図書館、大学図書館、専門図書館の特徴を理解する。さらに、放送大学附属図書館の電子版図書目録であるOPAC（Online Public Access Catalog）により文献を探す方法を学ぶ。 【キーワード】 先行研究、文献調査、図書館、OPAC	三輪　眞木子（放送大学教授）	三輪　眞木子（放送大学教授）
8	電子情報源の利用方法	先行研究調査のために役立つ電子情報源の使い方を学ぶ。まず、文献検索の基本知識を学んだうえで、放送大学附属図書館が学生と教職員のために出版社などと契約して提供している電子資料の利用法を学ぶ。さらに、Web上で提供されている学術情報の検索に役立つサイトを紹介する。 【キーワード】 検索サイト、ブール演算、電子ジャーナル、電子書籍、データベース	三輪　眞木子（放送大学教授）	三輪　眞木子（放送大学教授）
9	表計算の基本	学びを進めていくと、パソコン上に多くの記録が残る。蓄積されたデータを整理する有効な方法が表やグラフを作成することである。表計算ソフトを用いると、表の作成だけでなく、特定の項目の選別や並び替え、値の計算やグラフの作成といったことができるようになる。まずこの章では、表計算ソフトの基本的な使い方について説明し、次章でグラフの作成の仕方について述べる。 【キーワード】 表計算、セル、関数、参照、オートフィル	秋光　淳生（放送大学准教授）	秋光　淳生（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	図表作成の技法	グラフを作成することで、データの特徴を視覚的に捉えることができる。グラフには様々な種類がある。大切なことは、目的に適した種類を選び、必要な要素を含んだグラフを作成することである。この章では、代表的なグラフの種類について説明し、グラフに必要な要素とその追加の方法について述べる。 【キーワード】 円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ、散布図	秋光　淳生 (放送大学准教授)	秋光　淳生 (放送大学准教授)
11	文書作成の基本	文書作成ソフトウェアを使うことによって、読みやすいレポートを効率よく作成することができる。さらに、調べた情報や考察など学習の成果を保存し、卒業研究につながる蓄積を作ることもできる。この章では、文書作成ソフトウェアを使ったレポートの書き方や、その際に留意すべき著作権に関する作法を学ぶ。 【キーワード】 文書作成ソフトウェア、ワープロ、著作権、引用	仁科　エミ (放送大学教授)	仁科　エミ (放送大学教授)
12	文書作成の技法	文書作成ソフトウェアを活用することによって、文書の体裁を整えたり、図表・画像の組み込み、変更履歴やコメントの記入、目次や索引の作成が容易になる。よりよいレポートを効率的に作成し、遠隔指導を受けるうえで効果的な文書作成ソフトウェアの活用技法を学ぶ。 【キーワード】 文書作成ソフトウェア、書式、図表、画像、変更履歴	仁科　エミ (放送大学教授)	仁科　エミ (放送大学教授)
13	プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションの目的と理論的基盤を紹介し、大学生にとって必要な口頭発表、ポスター発表、自己紹介について、その方法と効果的に実施するコツを学ぶ。また、プレゼンテーション資料作成とプレゼンテーション実施によく使われるプレゼンテーションソフトウェアの1つであるPowerPointの基本操作を学ぶ。 【キーワード】 プレゼンテーション、口頭発表、ポスター発表、コミュニケーション理論、プレゼンテーションソフトウェア、PowerPoint	三輪　眞木子 (放送大学教授)	三輪　眞木子 (放送大学教授)
14	プレゼンテーションの技法	自分の研究を指導教授や学友に理解してもらうために、口頭発表を実施する。本章では、PowerPointを使って研究発表のためのプレゼンテーションをする際の、計画、資料の作成、実行の各段階で必要な作業を学ぶ。 【キーワード】 研究発表、プレゼンテーション資料、スライドショー、プレゼンテーションソフトウェア	三輪　眞木子 (放送大学教授)	三輪　眞木子 (放送大学教授)
15	パソコンを今後の学習にどう生かすか	大学での学びで必要な自律学習と学習を振り返る重要性を学ぶとともに、学習記録を管理する方法を修得する。この授業で学んだことを今後の学習に生かすため、さらなる学習に活用できるオープン学習リソースを紹介するとともに、パソコンに関する知識やスキルを高めるうえで仲間づくりが重要なことを学ぶ。 【キーワード】 生涯学習、自律学習、学習記録、学習スタイル、振り返り	三輪　眞木子 (放送大学教授)	三輪　眞木子 (放送大学教授) 秋光　淳生 (放送大学准教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	基盤科目	科目コード	1170015	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 情報学へのとびら （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Introduction to Informatics (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：加藤　浩　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：大西　仁　（放送大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

本科目では、多様な側面を持つ情報に関して、情報の認識、加工、発信の主体である人間および人間の共同体である社会と情報の関わり、情報社会を支えるコンピュータや情報・通信システムの理論的、技術的背景について解説し、それぞれの場面における情報の効果や処理のされ方に関する基本的な理解を図る。また、講義で取り上げる情報に関わる問題がどのような学問とつながっているかについても触れて、情報の概念（ないしは情報学）の体系の一端を示す。

授業の目標

現代社会においては、誰もが目的に応じて情報を扱う能力を求められている。そのためには、情報機器やソフトウェアを使用する技能の習得と情報や情報処理の概念や原理の理解が必要であり、本科目では後者を目的とする。各回で扱う話題は詳細に述べればそれだけで1科目になるような内容であり、本科目では最も基本的部分とそれらの関係の理解を目標とする。広く深い情報の世界に踏み込んで道に迷うことがないように、見取り図を与えることが本科目の目的である。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	情報化する社会を生きる	情報化がもたらした社会の変化と、そこに生きる私たちと情報との関係、および、情報化が学問に与えた影響と情報学との関係について説明する。また、本科目の目的を述べる。 【キーワード】 ICT、情報リテラシー、ICTリテラシー、21世紀型スキル、情報弱者、デジタルディバイド、情報学	加藤　浩（放送大学教授）	加藤　浩（放送大学教授） 大西　仁（放送大学教授）
2	情報のデジタル表現とマルチメディア	デジタル情報処理のプロセスを説明する。とくにデジタルの最大の特徴である劣化が起きない理由を解説する。 【キーワード】 アナログ、デジタル、符号化、復号、標本化、量子化、二進数、十六進数、誤り検出符号、誤り訂正符号、プロトコル	加藤　浩（放送大学教授）	加藤　浩（放送大学教授）
3	コンピュータの構成要素とその機能	パソコン内部の構成要素を知り、CPUで計算ができるしくみをリレーを用いた論理回路で概略的に説明する。 【キーワード】 ハードウェア、ブール代数、論理回路、スイッチ素子、リレー、加算器	加藤　浩（放送大学教授）	加藤　浩（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	インターネットの歴史としくみ	インターネットの歴史と仕組みを解説する。また、インターネットのパケット交換の仕組み、ルーティング、名前解決などについても概説する。 【キーワード】 パケット交換、IPアドレス、ルータ、DNS、ドメイン名、FQDN	加藤 浩（放送大学教授）	加藤 浩（放送大学教授）
5	インターネットの応用	プロトコルの概念に基づいてインターネットの主要なサービスであるワールド・ワイド・ウェブと電子メールのしくみを解説する。 【キーワード】 プロトコル、OSI参照モデル、TCP/IP、UDP、ポート番号、WWW、URL、クッキー、電子メール、メールアドレス、STMP、POP、IMAP	加藤 浩（放送大学教授）	加藤 浩（放送大学教授）
6	情報リテラシーと情報倫理	ネット環境の情報の活用に関しては、著作権等の対応、情報の自由な流通とプライバシー保護の相反する価値の考慮が必要になる。本講は、情報活用能力の涵養のための情報リテラシーと情報倫理の関係を考える。 【キーワード】 ソーシャルメディア、印刷メディア、電子メディア、リテラシー、オラリティ、倫理綱領、コンプライアンス	児玉 晴男（放送大学教授）	児玉 晴男（放送大学教授）
7	情報社会のリスク	情報の社会経済システムの中で、情報の不適切な発信や情報への不正アクセスなどが問題になる。本講は、ウェブ環境の情報の保護と活用や、それに伴う名誉毀損の防止や信用の保持、人為的な不正行為におけるリスクについて考える。 【キーワード】 サイバースペース、無体物性、信ぴょう性、不確実性、非対称性、秘密性、サイバーカスケード、デジタルフォレンジック、マイナンバー、サイバー刑法	児玉 晴男（放送大学教授）	児玉 晴男（放送大学教授） 大西 仁（放送大学教授）
8	情報セキュリティ技術	情報資産が脅威にさらされる原因と攻撃の仕組み、防御の仕組みについて、技術の観点から解説する。 【キーワード】 機密性、完全性、可用性、脆弱性、マルウェア、セキュリティソフトウェア、ファイアウォール、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式、電子署名、PKI	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
9	情報社会と法律	情報社会における情報・メディア法は、必ずしも確立した体系にはなっていないが、知的財産法を含む。知的財産法は、ほぼ体系化され、著作権法を含む。本講は、情報・メディア法システムと知的財産法システムおよび著作権法システムを概観する。 【キーワード】 IT基本法、知的財産基本法、コンテンツ基本法、知る権利、プライバシー権、知的財産権、著作権と関連権	児玉 晴男（放送大学教授）	児玉 晴男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	プログラミング(1)	コンピュータにおけるプログラムの働き、プログラムを作成するためのプログラミング言語や言語処理系、プログラミングを支援する観点からのOSの働きについて説明する。 【キーワード】 プログラム、プログラミング言語、言語処理系、OS、抽象化	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
11	プログラミング(2)	プログラミング言語Pythonを用いて初歩的なプログラミングについて説明する。続いて、問題解決の観点からプログラミングの方法について考える。 【キーワード】 Python、問題解決、アルゴリズム	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
12	ユーザインタフェース	情報機器等のシステムとユーザの情報交換を担うユーザインタフェースの概念、構成要素の具体例、使いやすさの要因について説明する。 【キーワード】 ユーザインタフェース、GUI、使いやすさ	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
13	データベースの基礎	実世界のデータを記録し再利用するために、データベースが用いられる。まず、データベースの意味と役割を解説する。次に、最も広く使われるリレーショナルモデルを取り上げ、データのモデル化と利用方法の基礎を解説する。 【キーワード】 データベース、データモデル、リレーショナルモデル	森本 容介（放送大学准教授）	森本 容介（放送大学准教授）
14	ソフトウェアの開発	情報システムの開発工程に焦点を当てる。ソフトウェア開発に含まれる作業と、代表的な開発方法を概観する。また、リレーショナルデータベースを設計する方法と、ソフトウェア開発プロジェクトの管理について解説する。 【キーワード】 ソフトウェアの開発工程、ウォーターフォールモデル、データベース設計、プロジェクトマネジメント	森本 容介（放送大学准教授）	森本 容介（放送大学准教授）
15	情報通信技術が変える社会	情報通信技術が現代社会で果たしている役割は、我々が気づいているよりはるかに大きく、生活、科学、産業をはじめ社会全般に変化が起きていることを幾つかの事例を用いて説明する。 【キーワード】 ユビキタスネットワーキング、グリーンICT、スーパーコンピュータ	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	基盤科目	科目コード	1234030	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　初歩からの数学　　（’１２）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：隈部　正博　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

これから数理系の科目を受講するにあたって必要となる数学を解説する。講義の内容は、高等学校までに学ぶ数学であるが、それをできるだけ体系立てて解説していく。数学の分野におけるさまざまな基本概念を理解することに重点をおき、数学的な考え方を学ぶ科目として講義する。特に初学者にとって分かりづらいとされる分野を丁寧に解説したい。

授業の目標

高等学校までに学ぶ数学の内容を、一から学び直す。これにより数学の知識を、整理し再確認する。基礎的な計算技法はある程度必要であるが、それを必要最小限に押さえたい。公式を記憶する事にこだわらず、数学の基本概念をしっかりと理解することが目標である。

履修上の留意点

予備知識は仮定しない。今まで数学を(試験の直前以外)勉強したことがない人、勉強した覚えはあるが忘れてしまった人、そして数学は苦手だがもう一度学習してみたいという人も履修できるように配慮し、文字通り初歩から数学を解説する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	数の概念	人が数学に接する最初で最も身近な概念は、数の概念であろう。自然数や整数について解説し、演算規則を学ぶ。 【キーワード】 自然数、整数、加法、乗法、演算規則	隈部　正博(放送大学教授)	隈部　正博(放送大学教授)
2	式と計算	数は分かるが文字式になると分かりにくく感じる人が多い。数と文字について学び、式について考える。式を展開したり、因数分解することを解説する。 【キーワード】 数、文字、式、展開、因数分解	隈部　正博(放送大学教授)	隈部　正博(放送大学教授)
3	有理数	有理数とはどういうものかを学び、それらの演算規則を解説する。また指数法則を負の数に拡張する事について考える。 【キーワード】 分数、有理数、演算規則、指数法則	隈部　正博(放送大学教授)	隈部　正博(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	実数	実数について解説する。また指数と対数について学ぶ。そしてこれらの持つ諸性質を考える。 【キーワード】 実数、稠密性、背理法、指数法則、対数法則	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
5	方程式と不等式	複素数とはどういうものかを考える。また方程式と不等式についてその意味を学ぶ。また解を求める方法を解説する。 【キーワード】 複素数、方程式、不等式、解	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
6	図形の性質	今後の学習に必要な図形の基本性質を解説する。特、に三角形や円の持つ性質を学ぶ。 【キーワード】 角度、三角形、合同、相似、円周角、三平方の定理	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
7	関係と関数	関数の概念も分かったようで分からないと思われている分野の1つである。まず、関係について説明し、その後、関数とはどういうものか丁寧に解説する。 【キーワード】 関係、写像、関数、グラフ	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
8	関数の性質	関数の基本性質を学ぶ。座標平面を導入し、簡単な関数のグラフを描く事を考える。関数を移動させたとき、どのような式で表されるか考える。 【キーワード】 合成関数、平行移動、対称移動、座標平面、1次関数	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
9	様々な関数	様々な関数とそのグラフについて解説する。2次関数、指数、対数関数等のグラフを描いてその特色を理解する。また関数と方程式とを関連づける。また次章への準備として三角比を考える。 【キーワード】 2次関数、指数、対数関数、関数と方程式、三角比、弧度法	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
10	三角関数	三角関数の概念も、わかりづらいと思われる一つである。これについて、前回から引き続いて丁寧に解説する。サイン、コサイン等の意味を理解し、それらの持つ性質を学ぶ。最後に三角関数とそのグラフを描く。 【キーワード】 サイン、コサイン、正弦定理、余弦定理、加法定理	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	場合の数	場合の数とはどういうものか学ぶ。ある事柄の起こりうる数が何通りあるか、その数え方を理解する。また数学的帰納法についても解説する。 【キーワード】 場合の数、順列、組み合わせ、二項定理、数学的帰納法	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
12	数列	数列とはどういうものかを解説する。代表的な数列として、等差数列、等比数列、階差数列について解説する。また数列の和の求め方を学ぶ。 【キーワード】 数列、等差数列、等比数列、階差数列、数列の和	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
13	極限	極限とはどういうものか、その考え方を学ぶ。数列の極限から始まり、関数値の極限、そして関数の連続性について解説する。 【キーワード】 極限、収束、級数、連続	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
14	微分	微分とはどういうものかを解説する。速度の求め方を通して、微分することの意味を学ぶ。また導関数の求め方を理解する。 【キーワード】 微分、平均変化率、微分係数、接線、導関数	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
15	積分	最初に導関数の諸性質を解説する。次に不定積分とは何か解説する。曲線で囲まれた部分の面積をどう求めるかという問題を通して、定積分の考え方を理解する。最後に微分積分学の基本定理を解説する。 【キーワード】 不定積分、定積分、リーマン和、微分積分学の基本定理	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	基盤科目	科目コード	1234048	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 身近な統計 （’１２）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：熊原　啓作　（放送大学名誉教授）　〕

〔主任講師（現職名）：渡辺　美智子　（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）〕

【担当専任教員：石崎　克也　（放送大学教授）　】

講義概要

私たちの身の回りにはテレビや新聞・雑誌・インターネット等を通して多種多様な統計情報があふれています。本講義では、統計の基本的な考え方、データの統計的活用の理論と方法を解説するとともに、諸種の統計情報が企業や行政の意思決定および社会・経済・自然現象の解明に具体的に活用されている事例を（VTR映像で）紹介します。また、更に具体的な理解を深め運用方法を身につけるため、身近なデータの表計算ソフトを使った簡単な分析方法も説明します。

授業の目標

統計の考え方と記述統計・推測統計の基礎を、理論に加え、具体的にそれらが社会で活用されている事例の実務家のショートレクチャーを含めた現場のVTR映像や表計算ソフトを活用した分析操作を通して学びます。とくに、諸種の統計グラフや統計数字に関して、具体的な意味を知り、そこから正しく情報を読み取ることができるようになることを目標とします。

履修上の留意点

この講義は「身近な統計('07)」の改訂版ですから、同科目を既に履修し単位を取得したものには単位は認められません。
キャンパスネット上に展開する「身近な統計」版では理解が深まるよう教材が用意されていますのご利用下さい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	論より数字、勘より統計 ～私たちの身近で活躍する統計情報～	スーパーの棚割の決定から新薬の認定、政府の行政施策、コンピュータウイルス・不正アクセス等の検出、プロスポーツの戦略分析、企業活動を支える品質管理活動など、社会で活用される統計の役割を紹介し、統計の一般的な定義と機能、Fact ControlやEvidence Based Practiceの考え方、情報化と統計環境の変化、統計分析とコンピュータソフトウェアの関係を解説し、科目の全体構成を説明します。 【キーワード】 統計、データ、統計的意志決定、品質管理、マーケッティング、政府統計、記述統計学、推測統計学	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）
2	データのばらつきを表やグラフで要約する （質的データの場合） ～度数分布表とパレート図～	統計データの特徴と分布の意味、質的データに対する度数分布表とそのグラフ（パレート図）の作り方と読み方を解説します。とくに、ばらつきのあるデータをまとめることと、分布という視点を持てるようになることを目指します。 【キーワード】 度数分布表（質的データ）、ケースと変数、データのばらつきと分布、質的データと量的データ、度数分布表と相対度数・累積度数、パレート図	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）
3	データのばらつきを表やグラフで要約する （量的データの場合） ～度数分布表とヒストグラム～	量的データに対してそのデータのばらつきの様子（分布）を記述する方法とそこからの情報の読み取り方を解説します。具体的には、量的データに対する度数分布表とヒストグラムの作成方法、ヒストグラムの形状の特徴などを説明します。 【キーワード】 度数分布表（量的データ）、階級・階級値・階級	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	データのばらつきを数字でまとめる ～平均値・中央値と箱ひげ図～	分布の特徴を数値で表すことの意味を理解し、代表値としての平均値、中央値、最頻値の特徴を説明します。この回では、それらを目的やデータの状況に応じて、使い分けができるようになることを目指します。また、簡単に分布の様子がわかる箱ひげ図を紹介します。 【キーワード】 基本統計、平均値と中央値、四分位数、箱ひげ図	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）
5	ばらつきの大きさを測る ～シグマ（標準偏差）の活用～	ばらつきの大きさの尺度である。分散と標準偏差を解説し、とくに、標準偏差の活用として、正規分布と1シグマ2シグマ3シグマの法則との関係、標準得点（zスコア）、偏差値を説明します。 【キーワード】 偏差、分散、標準偏差、標本分散（不偏分散）、偏差値、1シグマ2シグマ3シグマの法則	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）
6	格差を測る ～ローレンツ曲線とジニ係数～	分布の形状を測る基本統計量として、歪度と尖度を紹介します。また、ばらつきの大きさを評価する指標として変動係数を解説し、とくに格差の尺度としても使用されるジニ係数やローレンツ曲線などを解説します。 【キーワード】 歪度、尖度、変動係数、ジニ係数、ローレンツ曲線	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）
7	不確実な出来事を確率で考える ～2項分布～	確率の定義と身近な確率の使われ方、確率変数の定義とその期待値の意味を解説します。次に、理論分布としての2項分布を解説し、具体的な確率計算と適用場面を紹介します。 【キーワード】 確率、大数の法則、確率変数、期待値、2項確率、2項分布	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）
8	不確実な出来事を確率で考える ～正規分布～	確率分布モデルとしての正規分布を解説し、正規分布の確率計算の方法と活用の仕方を解説します。 【キーワード】 正規分布、標準正規分布、上側(下側)確率、両側確率、統計数値表、NORMDIST関数	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）
9	統計を作る－部分から全体を知る ～標本調査～	母集団と標本、全数調査と標本調査、標本調査におけるランダムサンプリングの考え方と具体的な方法を解説します。 【キーワード】 母集団と標本（サンプル）、無作為標本（ランダムサンプル）、無作為標本抽出（ランダムサンプリング）、乱数	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	調査結果の誤差を知る ～推定値と標本誤差～	標本調査における誤差の評価の仕組みを解説します。具体的に、標本分布と標準誤差の関係を説明し、比率の調査、平均の調査を区別して標本誤差の求め方を学習します。 【キーワード】 標本分布、標準誤差、標本誤差、母比率、母平均	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）
11	標本から仮説の真偽を判断する ～統計的仮説検定の考え方～	母集団に関する仮説の真偽を判断するための統計的仮説検定のロジックを解説します。とくに、帰無仮説と対立仮説の違い、検定の方向性、検定統計量と棄却域、有意水準などの意味とランダムサンプリングとランダム割付の違いを学習します。 【キーワード】 統計的検定、帰無仮説、対立仮説、2種類の過誤、有意水準、危険率、有意確率	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）
12	データから関係を探る ～クロス集計表の読み方～	2変数の間の関係をデータから記述する方法として、とくに質的変数に対して、クロス表の読み方、列効果と行効果、交互作用効果の意味を解説し、独立性の検定としてカイ2乗検定の方法を説明します。 【キーワード】 連関、クロス集計表、行（列）比率、特化係数、独立性、期待度数	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）
13	関係の傾向を読む ～相関関係と傾向線～	量的データ間の関係を見るためのグラフとして散布図の読み方を説明し、とくに相関関係と相関係数を解説します。また、傾向線としての単回帰直線を学習します。 【キーワード】 散布図、相関関係、相関係数、傾向線、単回帰直線	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）
14	時系列データの分析 ～変化の記述と将来の予測～	時間に依存して取られるデータの記述の方法として、時系列グラフの描き方と読み方、時系列データの構成要素を説明します。また、傾向や変化の大きさをつかむための加工系列として、指数、成長率と寄与度、移動平均を学習し、移動平均を利用した季節調整の考え方を学びます。 【キーワード】 時系列データ、時系列グラフ、トレンド、季節変動、移動平均、季節調整、寄与度	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）
15	知識創造社会を支える統計 ～全体のまとめ	高度に情報化とグローバル化が進む21世紀の知識創造型の社会の中で、既に私たちの身近な生活と深く係わっている統計の意義と活用の実態を講義のまとめを通して、再度、学習します。また、問題練習を通して全体の講義の要点を復習します。	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）	熊原　啓作（放送大学名誉教授） 渡辺　美智子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1420020	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 英語事始め （’１７） ＝ （R）

英文名 ＝ 〔 A Fresh Start in Learning English (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：佐藤　良明　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：大橋　理枝　（放送大学准教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

英語の初学者、もしくは英語を学び直したい学習者を対象に、英語の基本を学ぶ科目である。英語の発想の仕方に馴染めるように、初級文法事項を新たな形で解説していく。

授業の目標

ごく初歩的な英文法の知識を身につけ、個々の単語や文章を明瞭に発音し、簡単な文章ならば読解できるようになること。

履修上の留意点

英語関連科目としては最も基本的な内容を扱うため、「英語の軌跡をたどる旅(’13)」「英語で描いた日本 (’15)」「英語で読む科学 (’15)」「Walking with Writers (’16)」などを履修する前にこの科目を履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Session 1 単語から文へ	単語を組み合わせて文を作っていくに当たっての考え方を学ぶ。また、英語と日本語では語のイメージが異なること、語の品詞についてなども扱う。 【キーワード】 単語、イメージ、語句、文、名詞、動詞、形容詞／副詞、体言／用言	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）
2	Session 2 文と動詞の基本形	一般動詞とBE動詞を使った肯定文・否定文・疑問文を学ぶ。また、代名詞の人称変化と格変化、命令法と直接法、自動詞と他動詞、現在と過去で異なる動詞の形についても扱う。 【キーワード】 DO動詞文、BE動詞文、否定形、疑問形、人称変化、格変化、直説法、命令法、有声音、無声音、短母音、長母音、自動詞、他動詞、現在形、過去形、規則動詞、不規則動詞	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）
3	Session 3 空間と前置詞	英語で空間や位置関係をどのように把握するのかを学ぶと共に、疑問詞の使い方を学ぶ。 【キーワード】 動詞句、前置詞、句動詞、疑問詞（5W1H）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	Session 4 SVOの構造	英語ではSVO構造が全ての基本であることを学ぶ。 【キーワード】 主語、動詞、目的語、自動詞／他動詞、語順	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）
5	Session 5 BE動詞の自由自在	BE動詞文とDO動詞文について学ぶことを通して、全ての英語文がSVX+ α の形で整理できることを理解する。 【キーワード】 BE動詞文、DO動詞文、隠れた主述関係、ネクサス	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）
6	Session 6 現在形と進行形	存在の BE や There is 構文について学ぶと共に、一般の現在形と現在進行形の違いを理解する。また、現在分詞と呼ばれる「動詞ING」の意味について考える。 【キーワード】 事実／進行、進行／未来、補語／目的語、現在分詞	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）
7	Session 7 完了形と受動態	進行形と完了形の違い、過去の事実と現時点での完了の違いを理解し、過去分詞について把握すると共に、能動態と受動態について学ぶ。 【キーワード】 進行／完了、過去分詞、能動態、受動態、have	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）
8	Session 8 時制と節	時制と時形の区別を理解し、未来や推量の言い方について把握すると共に、過去時制の完了について学ぶ。また、疑問詞を節に組み込むことについても扱う。 【キーワード】 時制／時形、受動態、過去時制の進行／完了、that 節、if 節、疑問詞、節	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）
9	Session 9 助動詞と主観表現	条件法について理解し、助動詞について把握すると共に、主観的な表現の数々を学ぶ。 【キーワード】 法、態、助動詞、条件法（仮定法）、主観表現	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	Session 10 基本動詞の世界	基本動詞の使い方を理解し、それらを用いて使役や許可など様々な意味を表現できることを学ぶ。 【キーワード】 have、make、let、help、keep、leave、get、come、go、give、take	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）
11	Session 11 不定詞	「TO不定詞」や「動詞ING」の根底的なイメージを思い描きながら、それらが様々な形で他の要素と結びつくことを学ぶ。 【キーワード】 TO不定詞、動詞ING、enough、too、目的／結果	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）
12	Session 12 比較と否定	比較や最上の表現について把握すると共に、英語的な否定の表現を学ぶ。 【キーワード】 比較級、最上級、同等、不足、差、否定形、部分否定／全否定	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）
13	Session 13 名詞と数量	可算名詞、不可算名詞、集合名詞について理解し、モノに対する英語の発想を学ぶ。 【キーワード】 可算／不可算、集合名詞、生物／非生物、it/one、some/any	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）
14	Session 14 関係詞	関係詞について把握すると共に、様々な関係代名詞や関係副詞の使い方を学ぶ。 【キーワード】 修飾句、関係詞、主格／目的格、what 節、something節	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）
15	Session 15 接続と統合	順接や逆接等のつながりを示す様々な語について把握すると共に、2文を効率的に繋げる方法を学ぶ。 【キーワード】 順接／逆接、仮定／断定、and/or、文の圧縮	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）	佐藤　良明（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） Roger Robins（東京大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1314734	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 英語で描いた日本 （’１５） ＝ （ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 Talkin’ about Japan (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：大橋　理枝　（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：Jon Brokering（元放送大学客員教授）平成26年4月ご逝去〕

【本学担当専任教員：　　】

講義概要

日本の文化や社会について書かれたエッセイや、日本とアメリカの社会を比較したエッセイを読み、日本のことを英語で述べる方法を学ぶと共に、いけばな・茶道・能などのいわゆる「日本的なもの」を実際に体験することを通して、それらをどのような英語で表現できるかを考える。

授業の目標

日本の社会や文化事象を表現した英語を学ぶことを通して、日本について英語で説明できるようになることを第一の目標とする。また、外部者の視点から日本について述べた内容を理解することを通して、日本に対する客観的な視点を得ることを第二の目標とする。さらに、アメリカ人が日本の文化を体験することを通して感じた疑問や納得した点を知ることにより、外国語の学習を通して新しい観方を拓くという本学における外国語教育の目的に最も近い形での学びを実現させることを第三の目標とする。

履修上の留意点

中級レベルの英語科目として構想されているので、「英語事始め(’17)」のレベルまでは履修済みであることが望ましい。「英語の軌跡をたどる旅(’13)」も併せて履修すると、より理解が深まると思われる。この科目の履修後、更に「英語で読む科学(’15)」や「Walking with Writers (’16)」の履修へと繋げて頂きたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Lesson 1	日本がこれまで、かなり選り好みしながら一部の西洋文化を取り入れ、かつそれを変形させて定着させていったことを述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が着付けを体験することで得られた理解や疑問を通して着物について英語で理解を深める。 【キーワード】 Valentine’s Day, Auld Lang Syne, peace sign, improvements on non-Japanese things, 着物	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）
2	Lesson 2	日本のマンガやアニメとはどのようなものか、また外国で受け入れられているものはいかに「日本的」ではないかについて述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が紙漉きと折り紙を体験することで得られた理解や疑問を通して和紙について英語で理解を深める。 【キーワード】 manga, anime, visual entertainment industry, fantasy world, lack of Japanese features, 和紙・折り紙	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）
3	Lesson 3	ハリウッド映画で日本がこれまでどのように描かれてきたかを概観するエッセイを読むと共に、アメリカ人が剣道を体験することで得られた理解や疑問を通して剣道について英語で理解を深める。 【キーワード】 stereotypes, Japanese culture, idealized Japanese women, matial arts, enemy, history, comedy, 剣道	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	Lesson 4	伝統を失いつつあるとされる日本人が伝統的な事物に立ち返る例を挙げたエッセイを読むと共に、アメリカ人が義太夫三味線を体験することで得られた理解や疑問を通して義太夫三味線について英語で理解を深める。 【キーワード】 tradition, naming a child, Bon festival, New Year's Eve and New Year's Day, national holidays, 義太夫三味線	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）
5	Lesson 5	日本人の自然志向が予想外のところで表れている例を挙げたエッセイを読むと共に、アメリカ人が茶道を体験することで得られた理解や疑問を通して茶道について英語で理解する。 【キーワード】 viewing cherry blossoms, "uglification"of Japan, the Japanese love of nature, balconies, seasonal food, 茶道	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）
6	Lesson 6	日本での対人関係は内集団と外集団をはっきり区別するのに対し、アメリカでの対人関係では両者を余りはっきりと区別しないことを説明したエッセイを読むと共に、アメリカ人が座禅を体験することで得られた理解や疑問を通して禅の思想について英語で理解する。 【キーワード】 in-group, out-group, common experience, American social gatherings, 座禅	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）
7	Lesson 7	日本での対人コミュニケーションが同質性の前提に基づいており、これが外国人のみならず日本人同士でも理解するのが難しい原因になっていることを述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が和太鼓を体験することで得られた理解や疑問を通して和太鼓について英語で理解する。 【キーワード】 implicit meaning, complaint worded as compliment, similarity assumption, 和太鼓	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）
8	Lesson 8	日本でのやりとりの多くが互いに共有された型にはまったものであり、外国では同様のやりとりが成り立たないことを述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が蕎麦打ちを体験することで得られた理解や疑問を通して蕎麦について英語で理解する。 【キーワード】 ritualized exchange of words, prescribed dialogue, guest in an American home, declining an offer, 蕎麦打ち	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）
9	Lesson 9	対人管理スタイルの5つの型の説明や、日本とアメリカでそれぞれ主に取られるスタイルと相手に対する誤解について述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が合気道を体験することで得られた理解や疑問を通して合気道について英語で理解する。 【キーワード】 conflict management styles, aggressive, accommodating, compromising, problem-solving, withdrawing, 合気道	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	Lesson 10	日本語の中での男言葉・女言葉や、女性上司による部下に対する言葉遣いの難しさについて述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が日本舞踊を体験することで得られた理解や疑問を通して日本舞踊について英語で理解する。 【キーワード】 men's language, women's language, female bosses, command vs. request, 日本舞踊	大橋 理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋 理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）
11	Lesson 11	日本における学歴競争の長所と短所を述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が囲碁を体験することで得られた理解や疑問を通して囲碁について英語で理解する。 【キーワード】 competition, teamwork, having no time to play, searching for a job instead of studying, global competitiveness, 囲碁	大橋 理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋 理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）
12	Lesson 12	日本社会にみられる画一性の好例やその圧力に対する日本人の対処法などについて述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が書道を体験することで得られた理解や疑問を通して書道について英語で理解する。 【キーワード】 conformity, collectivism, uniforms, radio calisthenics, pressure to conform, public face and private feelings, 書道	大橋 理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋 理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）
13	Lesson 13	日本とアメリカの教育方法を比較したエッセイを読むと共に、アメリカ人がいけばなを体験することで得られた理解や疑問を通していけばなについて英語で理解する。 【キーワード】 classroom layout, show 'n' tell, morals, individual thinking, basic cognitive skills, いけばな	大橋 理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋 理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）
14	Lesson 14	日本とアメリカの勤労観の違いや、それを形成する要因となり得る学校行事の違いについて述べたエッセイを読むと共に、アメリカ人が能を体験することで得られた理解や疑問を通して能について英語で理解する。 【キーワード】 Protestant work ethic, group consciousness, shame, talent show, arts festival, 能	大橋 理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋 理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）
15	Lesson 15	日本の将来について考察したエッセイを読むと共に、これまで体験してきた様々な「日本的なもの」を振り返りながら日本について英語で考える。 【キーワード】 evolving Japanese culture and society, worrying aspects, aging society, unclear future, 日本、まとめ	大橋 理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）	大橋 理枝（放送大学准教授） Jon Brokering（元放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1314726	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 英語の軌跡をたどる旅 （’１３）＝ (R)

－*The Adventure of English*を読む－

〔主任講師（現職名）：井口 篤 （慶應義塾大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：寺澤 盾 （東京大学大学院教授） 〕

【本学担当専任教員：大橋 理枝 （放送大学准教授） 】

講義概要

英語の歴史について書かれた文献をテクストにして、中級程度の英文の読解の練習をする。併せて、英語という言語の歴史的変遷に関する知識も受講者に身につけてもらうことを目的とする。Melvyn Bragg, *The Adventure of English* (London: Sceptre, 2004) からの抜粋を使用する。

授業の目標

中級程度の英文が読めるようになること、および、英語が過去1500年余りの間にどのような歴史的変遷を経てきたかを知ることで、受講者の英語に対する興味と知識を向上させること。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日の沈まぬ言語	今日、世界語・国際語となった英語について述べた英文を読み、さらにそのような状況が歴史的にどのように生じたか考えていく。 【キーワード】 世界語・国際語としての英語、リングワ・フランカ、母語話者数、和製英語、グロービッシュ	寺澤 盾 (東京大学大学院教授) 井口 篤 (慶應義塾大学准教授)	寺澤 盾 (東京大学大学院教授) 井口 篤 (慶應義塾大学准教授)
2	英語の始まり	現在世界に広く普及している英語は、もともとだれがどこで話していたのか。この点について解説した英文を読む。 【キーワード】 アングロ・サクソン、ゲルマン民族の大移動、ケルト人、古英語	寺澤 盾 (東京大学大学院教授) 井口 篤 (慶應義塾大学准教授)	寺澤 盾 (東京大学大学院教授) 井口 篤 (慶應義塾大学准教授)
3	ヴァイキングと英語	8世紀以降ブリテン島に襲来した北欧のヴァイキングが英語にもたらした影響について説明した英文を読む。 【キーワード】 ヴァイキング、古ノルド語、デーンロー、‘they’の由来	寺澤 盾 (東京大学大学院教授) 井口 篤 (慶應義塾大学准教授)	寺澤 盾 (東京大学大学院教授) 井口 篤 (慶應義塾大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ノルマン・コンクウェスト（1066）と英語の運命	ノルマン・コンクウェストが英語に及ぼした影響について解説した英文を読む。 【キーワード】 ウィリアム征服王、ノルマン・コンクウェスト、ノルマン人、フランス語	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
5	ジェフリー・チョーサー と英語の復興	ノルマン・コンクウェスト以降、イギリスではフランス語の優位が続く中、英語で『カンタベリ物語』を執筆した14世紀の詩人ジェフリー・チョーサー について学ぶ。 【キーワード】 中英語、ジェフリー・チョーサー、『カンタベリ物語』	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
6	神の言葉と人の言葉	イギリスの宗教改革者ジョン・ウィクリフについて書かれた英文を読みながら、聖書を英訳することが危険なことであった時代について考える。 【キーワード】 ラテン語聖書、ジョン・ウィクリフ、聖書翻訳、異端	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
7	方言の時代から標準語の時代へ	多様な方言が隆盛を極めていた中英語を経て、英語が徐々に標準化されていく様子を学ぶ。 【キーワード】 方言、正書法、標準化、大法官府，印刷術、ウィリアム・キャクストン	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
8	言葉の洪水	イギリスでは、16世紀以降文芸復興、いわゆるルネサンスが始まるが、この時期の英語がラテン語やギリシャ語といった古典語から多くの語を借用した様子をみる。 【キーワード】 ルネサンス、ラテン語、ギリシャ語、借用語、二重語	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
9	春爛漫：ウィリアム・シェイクスピア	16世紀から17世紀初めにかけて活躍した詩人・劇作家シェイクスピアがどのように近代英語の形成に貢献したのか、英文を読んで学ぶ。 【キーワード】 シェイクスピア、シェイクスピアに由来する英語表現、ゼロ派生	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
10	新天地へ：アメリカ英語の誕生	現在、世界を席巻しているアメリカ英語の誕生やその特徴について説明した英文を読む。 【キーワード】 巡礼父祖、アメリカ英語、イギリス英語，ノア・ウェブスター	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	寺澤　盾（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	正しい英語(1):規範文法の産声	イギリスでは、18世紀以降英語辞書や英文法書が数多く出版され、「正しい英語」を確立しようとする動きが高まってきたが、その様子を英文で読んでいく。 【キーワード】 ジョンソン博士、ロバート・ラウス、規範文法、PC	寺澤　盾 (東京大学大学院教授) 井口　篤 (慶應義塾大学准教授)	寺澤　盾 (東京大学大学院教授) 井口　篤 (慶應義塾大学准教授)
12	正しい英語(2):発音の規範と多様性	近代イギリスにおいて、音声面での「正しい英語」がどのように形成されていったのかについて概説した英文を読む。 【キーワード】 「正しい」発音、訛り、コックニー、『マイ・フェア・レディ』	寺澤　盾 (東京大学大学院教授) 井口　篤 (慶應義塾大学准教授)	寺澤　盾 (東京大学大学院教授) 井口　篤 (慶應義塾大学准教授)
13	植民地主義と英語の普及:カリブ海諸国	カリブ海諸国、とくにジャマイカで話されているクレオール英語について説明した英文を読む。 【キーワード】 植民地主義、ジャマイカ英語、ピジン、クレオール、国際色豊かな英語語彙	寺澤　盾 (東京大学大学院教授) 井口　篤 (慶應義塾大学准教授)	寺澤　盾 (東京大学大学院教授) 井口　篤 (慶應義塾大学准教授)
14	蒸気機関車と英語	産業革命期の一連の経済的・技術的発展がいかに英語に影響を及ぼしたかについて解説した英文を読む。 【キーワード】 産業革命、科学技術の英語、情報革命	寺澤　盾 (東京大学大学院教授) 井口　篤 (慶應義塾大学准教授)	寺澤　盾 (東京大学大学院教授) 井口　篤 (慶應義塾大学准教授)
15	エピローグ:英語の未来	英語の未来について論じた英文を読み、英語が将来どのような道をたどるのか考えてみる。 【キーワード】 英語の未来、シンガポール英語、英語の分裂	寺澤　盾 (東京大学大学院教授) 井口　篤 (慶應義塾大学准教授)	寺澤　盾 (東京大学大学院教授) 井口　篤 (慶應義塾大学准教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1314742	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 英語で読む科学 （’１５）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Reading Science in English (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：井口 篤 （慶應義塾大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：大橋 理枝 （放送大学准教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

英文の読解を練習する講義であり、辞書を引きながら英語の文章を読むことができる学生を対象とする。一般読者に向けて書かれた自然科学分野の様々な著作からの抜粋に基づいて講義を展開する。分担協力講師には母語話者の理系研究者を迎え、英文の内容に関して英語で解説していただく。

授業の目標

ある程度まとまった量の英文を読み進めていくことを通じて、英語の読解力の向上を目指すと共に、科学的な内容を論じる英語に馴れることも目標とする。更に、英文で論じられている内容を理解することにより、特に自然科学の諸分野を専門としない人も基本的な科学語彙を得られるようになることを目指す。

履修上の留意点

この科目は、「Walking with Writers (’16)」と同様、現在放送大学の放送授業として開講されている英語関連科目の中では最も高度な内容を扱っている科目であることを留意した上で受講して頂きたい。「英語事始め(’17)」「英語で描いた日本(’15)」「英語の軌跡をたどる旅(’13)」などを履修した後で履修されることをお勧めする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	A Most Plastic Thing (1)	Nicholas Carr, *What the Internet Is Doing to Our Brains* (2010) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 インターネット、脳	井口 篤（慶應義塾大学准教授） 大橋 理枝（放送大学准教授） ユウ・ジョアン（東京大学特任講師）	井口 篤（慶應義塾大学准教授） 大橋 理枝（放送大学准教授） ユウ・ジョアン（東京大学特任講師）
2	A Most Plastic Thing (2)	Nicholas Carr, *What the Internet Is Doing to Our Brains* (2010) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 インターネット、脳	井口 篤（慶應義塾大学准教授） 大橋 理枝（放送大学准教授） ユウ・ジョアン（東京大学特任講師）	井口 篤（慶應義塾大学准教授） 大橋 理枝（放送大学准教授） ユウ・ジョアン（東京大学特任講師）
3	The Love Potion in Our Brain (1)	Antonio Damasio, *Descartes' Error: Emotion, Reason, and the Human Brain* (1994) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 感情、理性、脳	井口 篤（慶應義塾大学准教授） 大橋 理枝（放送大学准教授） ユウ・ジョアン（東京大学特任講師）	井口 篤（慶應義塾大学准教授） 大橋 理枝（放送大学准教授） ユウ・ジョアン（東京大学特任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	The Love Potion in Our Brain (2)	Antonio Damasio, *Descartes' Error: Emotion, Reason, and the Human Brain* (1994) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 感情、理性、脳	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)
5	Gravitating toward Universal Law (1)	Bill Bryson, *A Short History of Nearly Everything* (2003) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 ニュートン、プリンキピア	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)
6	Gravitating toward Universal Law (2)	Bill Bryson, *A Short History of Nearly Everything* (2003) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 ニュートン、プリンキピア	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)
7	Spicy Blessings (1)	Penny Le Couteur and Jay Burreson, *Napoleon's Buttons* (2003) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 芳香族化合物、ナツメグ・クローブ	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)
8	Spicy Blessings (2)	Penny Le Couteur and Jay Burreson, *Napoleon's Buttons* (2003) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 芳香族化合物、ナツメグ・クローブ	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)
9	Nothing Is Real (1)	John Gribbin, *In Search of Schrödinger's Cat* (1984) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 量子物理学、シュレーディンガーの猫、観測・測定	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	Nothing Is Real (2)	John Gribbin, *In Search of Schrödinger's Cat* (1984) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 量子物理学、シュレーディンガーの猫、観測・測定	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)
11	Visualizing the Cosmos (1)	Stephen Hawking and Leonard Mlodinow, *The Grand Design: New Answers to the Ultimate Questions of Life* (2010) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 理論物理学、ビッグバン、宇宙の膨張	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)
12	Visualizing the Cosmos (2)	Stephen Hawking and Leonard Mlodinow, *The Grand Design: New Answers to the Ultimate Questions of Life* (2010) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 理論物理学、ビッグバン、宇宙の膨張	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)
13	*Sum, Ergo Dico* (I Am, Therefore I Speak) (1)	Stephen Pinker, *Language Instinct: How the World Creates Language* (1994) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 言語、本能、「言語本能」	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)
14	*Sum, Ergo Dico* (I Am, Therefore I Speak) (2)	Stephen Pinker, *Language Instinct: How the World Creates Language* (1994) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 言語、本能、「言語本能」	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)
15	When Science Is Transformed	Thomas Kuhn, *The Structure of Scientific Revolutions* (1962=2012) からの抜粋を読み、そこで使われている英語表現について学ぶ。 【キーワード】 科学革命、パラダイム・シフト	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)	井口 篤 (慶應義塾大学准教授) 大橋 理枝 (放送大学准教授) ユウ・ジョアン (東京大学特任講師)

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1420011	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ Walking with Writers （’１６）＝ （ＴＶ）

－ A Literary Journey around England －

〔主任講師（現職名）：井口 篤 （慶應義塾大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家）〕

【本学担当専任教員：大橋 理枝 （放送大学准教授） 】

講義概要

本講義は、イギリス文学に関連の深い場所を訪ね、これらの場所で活躍した作家たちの作品や彼らの生涯について英語で学ぶ「文学散歩」である。具体的には、ドーヴァー、カンタベリ、ケンブリッジ、キングズ・リン、ハワース、湖水地方、シュルーズベリ、オックスフォードなどを舞台として執筆活動をした作家たちが、どのような歴史的文脈において、そしてどのような風景の中で作品を書いたのかについて理解を深めるために、これらの作家たちと関連の深い風景や建物を映像で紹介する。作品の引用、映像のナレーション、そしてインタビューなどにはもちろん英語が使用されるが、使われた英語表現や文法のうち重要なもの、そして注釈が必要な歴史的・文化的内容などに関しては、スタジオでの講義において講師たちが（主として英語で）説明する。もちろん、発音のポイントなどについても随時解説し、発音練習をする機会を設ける。

授業の目標

この講義は、上級の英語学習者を対象としている。英語学習の中でも、とくにリスニングとリーディングが練習できるように毎回の講義を構成してある。しかしもちろん、単なる語学の教材として、我々に直接関連する現代社会の諸相を素材とするわけではないし、「オーラル・コミュニケーション」の上達そのものを指向するわけでもない。そのような局面がないわけではないが、本教材がむしろ目指すのは、英語学習者にイギリスの歴史や文学の様々な側面に触れてもらうことであり、またそうすることで日常的な語彙・表現のみならず、文学的な知識・内容・表現に対して免疫をつけてもらうことをも目的としている。例えば、湖水地方をテーマとする回においては、ウィリアム・ワーズワスの詩からの短い引用を出発点としながら、ワーズワスの生家を訪れたり、湖水地方の豊かな風景を映像で鑑賞しつつ、その美しさを英語で味わう、といった内容になる。講義の使用言語としては、字幕をのぞいて、極力日本語の使用は少なくし、英語に触れる時間を最大限にする。本講義の受講者は、イングランドでかつて活躍した作家たちの人生や同時代の歴史について英語で学ぶことで、英語という言語の使われ方に関してさらに理解を深めることができるであろう。

履修上の留意点

とくに履修上の制限は設けないが、「英語で読む科学('15)」などは、本科目を受講するにあたって大いに参考になるであろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	The Formidable Britons, Remotest of Men: Shakespeare and Catullus Edge towards Dover	講義全体の導入を行うとともに、イングランドをめぐる旅をドーヴァーから始める。シェイクスピアの『リチャードⅡ世』『リア王』、そしてローマ時代の詩人カトゥッルスの詩などを手掛かりとしながら、ドーヴァーという港町がイングランドについてどのようなイメージを喚起してきたかについて考える。 【キーワード】 Dover, the White Cliffs, William Shakespeare, *Richard II*, *King Lear*, Catullus, *Carmina*, ’Albion’	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口 篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口 篤（慶應義塾大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
2	A Holy Blissful Martyr for to Seek: Geoffrey Chaucer Heads for Canterbury	ジェフリー・チョーサーが14世紀後半に書いた物語詩『カンタベリ物語』やT.S.エリオットの『大聖堂の殺人』などに導かれ、カンタベリ大聖堂で暗殺されたトマス・ベケットや中世における巡礼について考察する。 【キーワード】 Geoffrey Chaucer, *The Canterbury Tales*, 'The General Prologue', 'The Reeve's Tale', T. S. Eliot, *The Waste Land*, *Murder in the Cathedral*, Monty Python, pilgrimage	ステュウット・ヴァーナム−アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム−アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
3	Is There Honey Still for Tea?: Rupert Brooke Reminisces about Cambridge	ケンブリッジ郊外の村グランチェスターを心の故郷とする戦争詩人ルパート・ブルックの詩を読む。同時代にケンブリッジの学生であったジークフリード・サスーンの戦争詩にも触れる。 【キーワード】 Cambridge, Grantchester, Rupert Brooke, 'The Soldier', 'The Old Vicarage, Grantchester', Siegfried Sassoon, 'How to Die', 'The General', afternoon tea	ステュウット・ヴァーナム−アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム−アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
4	Wounded with Pity and Compassion: Margery Kempe Rocks King's Lynn	イギリス東部イースト・アングリアの港町キングズ・リンに立ち寄り、15世紀の神秘主義者マージェリ・ケンプが残した自伝『マージェリ・ケンプの書』を読む。キングズ・リン・ミンスターや波止場で中世のキングズ・リンを想像し、この街でかつて苦悩しながら神を求めた女性の半生に想いを馳せる。 【キーワード】 King's Lynn, Margery Kempe, *The Book of Margery Kempe*, mysticism, pilgrimage	ステュウット・ヴァーナム−アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム−アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
5	The Eternal Rocks Beneath: Emily Brontë Storms Haworth	エミリ・ブロンテの幼少時代からの生家であるハワースの牧師館や、彼女が若いころ教えていた寄宿学校を訪ねたり、『嵐が丘』の着想を得たとされるハワースの荒野を散策したりしながら、『嵐が丘』の世界に入っていく。 【キーワード】 Howarth, Southowram, Yorkshire Moors, Emily Brontë, *Wuthering Heights*, pudding	ステュウット・ヴァーナム−アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム−アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
6	I Am Come back to You: Charlotte Brontë Fictionalizes Her Passion	ブロンテ姉妹の生家のすぐ向かいにあった教会にまつわる逸話などを紹介しつつ、シャーロット・ブロンテが『ジェーン・エア』に込めた情熱に迫る。 【キーワード】 Howarth, Hartshead, Charlotte Brontë, *Jane Eyre*, opium	ステュウット・ヴァーナム−アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム−アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
7	Beautiful Thou Art, Dear Valley: Wiliam and Dorothy Wordsworth Walk around Grasmere	ウィリアム・ワーズワスが一時期住んでいたダヴ・コティッジを訪れたり、湖水地方グラスミアの美しさに触れたりしながら、ウィリアムの詩をいくつか読む。彼の創作活動を支えた妹ドロシーの日記も紹介し、兄妹が湖水地方の自然の中で詩的感性を高めていった様子にも注目する。 【キーワード】 The Lake District, Grasmere, William Wordsworth, 'The Daffodils', 'Home at Grasmere', Dorothy Wordsworth, *The Grasmere Journal*, Lake District toponymy	ステュウット・ヴァーナム−アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム−アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	From Bratha Head to Wyndermere: Samuel Taylor Coleridge Creates in Keswick	場所をケズィックに移し、第7回で扱ったワーズワス兄妹とも親交の深かった詩人サミュエル・テイラー・コゥルリッジの作品のうち、とくに湖水地方と関連の深いものを読む。 【キーワード】 The Lake District, Keswick, Derwentwater, Windermere, Samuel Taylor Coleridge, 'Answer to a Child's Question', 'Metrical Feet', 'Christabel, Part II', meter	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
9	Oh! That Deep Romantic Chasm: Samuel Taylor Coleridge on Nature and the Supernatural	第8回に引き続き、コゥルリッジの作品をいくつか読む。具体的には評論『文学的自叙伝』『クブラ・カーン』『老水夫の歌』などを取り上げる。 【キーワード】 Samuel Taylor Coleridge, *Biographia Literaria*, 'Kubla Khan', 'The Rime of the Ancient Mariner', fellwalking	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
10	My Stories Will Be Immortal: Beatrix Potter, Sheep-Farmer and Environmentalist	ニア・ソーリーやダーウェント・ウォーターなどを訪ね、ビアトリクス・ポターの『ピーター・ラビット』や『リスのナットキン』を生みだした景観の中を散策する。 【キーワード】 Near Sawrey, Derwentwater, Beatrix Potter, *The Tale of Squirrel Nutkin*, *The Fairy Caravan*, *Mother Goose* riddles	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
11	Ashes under Uricon: A. E. Housman Imagines Roman Shropshire	イングランド西部のシュロップシャーにあるローマ遺跡であるロクシターを訪問し、この遺跡について謳った詩人A.E.ハウスマンおよびウィルフレッド・オゥウェンの視線によりそう。 【キーワード】 Shropshire, Uricon (Uriconum, Wroxeter), *A Shropshire Lad*, Wilfred Owen, 'Uriconium: An Ode', Worcester, Edward Elgar	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
12	The Silences of Stars: T. E. Lawrence's Exploits in Oxford and the Desert	鬼才T. E.ロレンスを育んだオックスフォードを訪ね歩く。ロレンスの生家や彼が大学生活を過ごしたジーザス・コレッジ近辺を逍遥し、後の中東政治に多大な影響を及ぼすことになる「アラビアのロレンス」の若き日の姿をオックスフォードの町並みの中に求める。 【キーワード】 Oxford, Jesus College, T. E. Lawrence ('Lawrence of Arabia'), *Seven Pillars of Wisdom*, *Letters*, the Oxbridge college system	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
13	All on a Summer Day: Charles Dodgson Goes Boating in Oxford	オックスフォード大学クライスト・チャーチの数学講師であったチャールズ・ドッジソン（筆名ルイス・キャロル）が、同僚の娘である少女をモデルに『不思議の国のアリス』を書いた背景に触れながら、キャロルの優れた言語感覚や風刺・ユーモアについて概観する。 【キーワード】 Oxford, Christ Church, Charles Dodgson (Lewis Carroll), *Alice's Adventures in Wonderland*, *Through the Looking-Glass and What Alice Found There*, acrostic poems	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	They Sailed Away: Voyages with the Masters of Nonsense	第13回に引き続き、ルイス・キャロルの足跡を辿るが、今回はとくに「ナンセンス詩」に焦点を当てる。キャロルの『スナーク狩り』のほか、エドワード・リアの『ふくろうくんとこねこちゃん』も読む。 【キーワード】 Oxford, Lewis Carroll, Nonsense poetry, 'The Hunting of the Snark', Edward Lear, 'The Owl and the Pussy-Cat', calligrams	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
15	The Eternal Note of Sadness: Revisiting Dover with Matthew Arnold	ドーヴァー海岸に佇み、詩人マシュー・アーノルドが「ドーヴァー海岸」で描き出した、信仰が失われつつある世界についての理解を深める。ローレンス・スターンの『感傷旅行』を旅の伴侶にして、イングランドとフランスの地理的・心理的近接性について瞑想する。 【キーワード】 Dover, Matthew Arnold, 'Dover Beach', Laurence Sterne, *Sentimental Journey*, the decline of religion	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）	ステュウット・ヴァーナム-アットキン（ナレーター・役者・作家） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1324039	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ドイツ語 Ⅰ （’１５）＝ （ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 German Ⅰ (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：清野 智昭 （千葉大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：宮本 徹 （放送大学准教授） 】

講義概要

ドイツ語の発音、つづりの読み方から始め、毎回、動詞の人称変化、名詞の格変化などの基本的な文法事項を勉強していきます。最終的には、助動詞を使って意思や必要性などの表現まで学習します。日本人女子学生がドイツで語学研修をするという設定のストーリーを中心に楽しくドイツ語を身につけていきます。

授業の目標

ドイツ語の基本的な文の構造を理解し、日常生活の簡単な表現ができるようになることが目標です。

履修上の留意点

全くの初学者を対象にしていますので、特にドイツ語の知識は必要ありません。ただし、新しい語学を身につけるには、日々の学習が欠かせません。授業以外に毎日20分でいいので、ドイツ語の学習に時間を割いてください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	挨拶とアルファベート	ドイツ語の簡単な挨拶を覚えた後、アルファベートといくつかのつづりの読み方を勉強します。ドイツ語はつづりと発音の関係が規則的ですから、決まりごとさえ覚えれば、ほぼすべての単語を読むことが出来るようになります。 【キーワード】 挨拶、発音、つづり、アルファベート	清野 智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野 智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
2	つづりの読み方と数字	ドイツ語のつづりの読み方を完全に覚え、日本人にとって難しい発音を集中的に練習します。また、数字を覚え、時刻を言えるようにします。 【キーワード】 つづり、発音、数字	清野 智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野 智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
3	動詞の現在人称変化	ドイツ語の動詞は主語に応じて語尾が変化します。これを人称変化といいます。主語の代名詞とともに語尾を覚えましょう。 【キーワード】 現在人称変化、主語、動詞の語尾	清野 智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野 智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	seinとhaben	英語のbe動詞にあたるseinとhave動詞にあたるhabenはとても重要ですが、特殊な変化をします。この2つを覚えて表現の幅を一気に広げましょう。 【キーワード】 sein、haben、職業・国籍、所有	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
5	名詞の性と不規則動詞	ドイツ語の名詞には男性、中性、女性という3つの性があり、それによって、定冠詞などの形が異なります。主語が2人称単数（du）と3人称単数のときに母音が変化する不規則動詞を勉強します。 【キーワード】 名詞の性、不規則動詞	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
6	名詞の4格と名詞の複数形	名詞は文中の役割に応じて4つの「格」を持ちます。今回は、その中で、主語を表す1格と直接目的語を表す4格を勉強します。また、名詞の複数形の作り方のパターンに触れます。 【キーワード】 名詞の格、名詞の複数形	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
7	話法の助動詞	不定形の動詞に結びついて、可能、意思、必然などの意味を付け加える動詞を「話法の助動詞」と言います。これらはやや不規則な変化をします。ここでは語順と基本的な用法を覚えて、様々なニュアンスを表現してみましょう。 【キーワード】 話法の助動詞、語順	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
8	名詞の3格と人称代名詞	名詞の格のうち、主に間接目的語を表す3格を扱います。また、1格、3格、4格の人称代名詞を勉強します。 【キーワード】 名詞の3格、人称代名詞	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
9	前置詞（1）	名詞の前に置かれて様々な意味関係を表す前置詞を扱います。前置詞の後には決まった格が来ます。これを「前置詞の格支配」と呼びます。この課では、3格支配の前置詞と4格支配の前置詞を中心に勉強します。 【キーワード】 前置詞の格支配、3格支配の前置詞、4格支配の前置詞	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	前置詞(2)	空間の基本的な位置関係を表す9つの前置詞は、表現されるものが静止している場所を表すときに3格と、移動する到着点を表すときに4格と結びつきます。これらの3・4格支配の前置詞を勉強します。さらに、前置詞と定冠詞の融合形についても扱います。 【キーワード】 3・4格支配の前置詞、前置詞と定冠詞の融合形	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
11	副文と命令形	従属接続詞から始まる副文では動詞が文末に置かれます。これまで勉強した主文とは動詞の位置が違うので、これをしっかり勉強しましょう。また、相手に命令したり依頼したりするときに用いる命令形を勉強して、コミュニケーションの幅を一層広げましょう。 【キーワード】 副文、従属接続詞、命令形	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
12	再帰動詞と非人称表現	主語と同じものを指す再帰代名詞について学び、それが使われる再帰動詞を使えるようにします。さらに特定のものを指さないesを主語とした非人称表現を学びます。 【キーワード】 再帰代名詞、再帰動詞、非人称表現	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
13	冠詞類	冠詞と同じように名詞の前に置かれ、性・数・格に応じて変化する冠詞類について学びます。冠詞類には、定冠詞に似た変化をする定冠詞類と、不定冠詞に似た変化をする不定冠詞類があります。不定冠詞類にはmein「私の」など所有冠詞と否定冠詞のkeinがあります。 【キーワード】 定冠詞類、不定冠詞類、所有冠詞、否定冠詞	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
14	分離動詞	動詞と副詞的な成分が一つの意味を作り出す動詞は、主文であたかも二つの部分に分かれているように見えるので「分離動詞」と呼ばれます。文末には動詞と密接に結びつく成分が置かれ、「枠構造」を作るという仕組みを理解して、分離動詞を使いこなしましょう。 【キーワード】 分離動詞、語順、枠構造	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
15	名詞の2格と所有表現	名詞の格のうち最後に残った2格を勉強します。これは主に所有者を表します。これと並んで、色々な所有の表し方を勉強します。 【キーワード】 名詞の2格、所有表現	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1324047	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ドイツ語 Ⅱ （’１５）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 German Ⅱ (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：清野 智昭 （千葉大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：宮本 徹 （放送大学准教授） 】

講義概要

ドイツ語Ⅰに引き続き、過去形・現在完了形から接続法まで、初級文法の主立った項目をすべて扱います。また、文法の学習と並行して、読解力と表現力を養う練習を多くこなすことで、総合的なドイツ語の運用力を高めます。

授業の目標

日常的な表現を使いこなし、学術的な内容でも辞書を使って理解できることを目標にします。今後の学習の基礎となる運用力が身に付くようにします。

履修上の留意点

ドイツ語Ⅰを履修済み、もしくは、それと同等のドイツ語の知識があることを前提にします。定期的な学習の時間を確保するように心がけてください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	語順のしくみ	ドイツ語の文を作るときは、不定句をもとに考えましょう。平叙文では定動詞は2番目の位置に置かれるので、その結果、動詞と一番結びつきの強い成分が文末に置かれます。このしくみを理解して、自然な語順を身につけることを目指します。 【キーワード】 語順、不定句、密接な成分	清野 智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野 智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
2	zu不定句と非分離動詞	動詞句に名詞の機能を持たせるのがzu不定句です。「…すること」に相当する表現を覚えましょう。また、アクセントのない前つづりを持つ非分離動詞についても触れます。 【キーワード】 zu不定句、非分離動詞	清野 智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野 智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
3	過去形	過去のことを表す場合、ドイツ語では過去形と現在完了形のどちらも同様に使われます。過去形は主に書き言葉で、現在完了形は主に話し言葉で使われますが、sein、haben、話法の助動詞の過去形は話し言葉でもよく使われます。これらを中心に勉強します。 【キーワード】 過去形、三基本形、規則動詞、不規則動詞	清野 智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野 智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	現在完了形(1)	現在完了形は、「過去分詞＋habenまたはsein」の完了不定詞をもとに作ります。この課ではまず過去分詞の形を確かめ、habenを使った現在完了形の作り方を勉強します。 【キーワード】 現在完了形、過去分詞、haben支配	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
5	現在完了形(2)	自動詞の中で「移動」や「状態変化」を表すものは、完了形の助動詞としてseinを取ります。これらいわゆる「sein支配」の動詞の現在完了形を勉強します。また、過去完了形にも簡単に触れます。 【キーワード】 現在完了形、過去分詞、sein支配、過去完了形	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
6	受動態	ものごとを動作の受け手を主語にして「...される」と表現する受動態は「過去分詞＋werden」で作ります。この受動態の作り方と使い方を勉強します。また、助動詞としてseinを使う「状態受動」についても簡単に触れます。 【キーワード】 受動態、動作受動、状態受動	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
7	非人称構文	特定のものを指さないesを主語とする構文を非人称構文と言います。天候や時刻だけでなく、さまざまな慣用的な表現を学んでいきます。 【キーワード】 非人称構文、天候、時刻、慣用表現	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
8	形容詞の格変化(1)	形容詞は名詞の前に置かれると格語尾が付きます。この語尾を覚えるのはなかなかやっかいなので、2回にわたってじっくり学習していきます。今回は、1格の形に絞って、強語尾と弱語尾のしくみを解説します。また、形容詞の名詞化についても触れます。 【キーワード】 形容詞、格変化、強語尾、弱語尾、形容詞の名詞化	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
9	形容詞の格変化(2)	形容詞の格変化の2回目です。まず、4格の形を見た後、2格と3格の形を学習します。これですべての形が使いこなせるようになります。 【キーワード】 形容詞、格変化、強語尾、弱語尾、形容詞の名詞化	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	比較級と最上級	2つのものを比べてどちらが「より…」ということを表す比較級と、3つ以上のものの中であるものが「一番…」ということを表す最上級の作り方と使い方を勉強します。色々な比較の仕方を覚えましょう。 【キーワード】 形容詞、比較級、最上級、格変化	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
11	関係代名詞	名詞に修飾文を付けるときには関係代名詞を使います。英語とは違い、ドイツ語の関係代名詞は定冠詞と似た形をしており、性・数・格に応じて変化します。その使い方をしっかり身につけましょう。 【キーワード】 関係代名詞、修飾文	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
12	接続法（1）	ある事柄を単に考えられたこと、言われたこととして表す動詞の形を接続法と言います。接続法には第1式と第2式があります。今回はおもに非現実のことを表す接続法第2式の作り方と使い方を勉強します。 【キーワード】 接続法、第2式、非現実話法	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
13	接続法（2）	接続法第2式を使って過去のことに対する非現実話法を学びます。その後、主に間接話法に使われる接続法第1式に触れます。 【キーワード】 接続法、第2式、非現実話法、過去、第1式、間接話法	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
14	話法詞と心態詞	文全体に対する話し手の判断や評価を表す「話法詞」と、話し手の気持ちを表し、文にある種のニュアンスを付け加える「心態詞」について学びます。これらの語を使うことによって、ドイツ語としてとても自然な表現ができるようになります。 【キーワード】 話法詞、心態詞、ニュアンス	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）
15	総復習	これまで勉強したことの総復習として、簡単なテクストを読み、かつ、自分で文を作る練習をします。これで初級文法はばっちりです。 【キーワード】 総復習、読解、作文	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）	清野　智昭（千葉大学准教授） ディアナ・バイヤー＝田口（東京外国語大学特任講師）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1333542	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ フランス語入門Ⅰ （’１２）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：原　和之　（東京大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：山上　浩嗣　（大阪大学教授）〕

【本学担当専任教員：宮本　徹　（放送大学准教授）】

講義概要

毎回、簡単な会話からなる2～3分のスケッチを題材に、フランス語の基礎を学ぶ。「フランス語入門Ⅰ」と「フランス語入門Ⅱ」を通じて、基礎的な文法事項の全体を習得することになる。スケッチの解説、発音の反復練習、文法事項の説明、練習問題、ディクテ（フランス語書き取り）などを通じて、各回の習得目標を無理なく達成できるように工夫してある。なお、各回の最後で前回の文法項目を簡単に復習する。「Le français en musique 歌のフランス語」「Regard français フランスの眼差し」のコーナーで、フランス語がとるさまざまな姿に触れると共に、フランスおよびフランス語圏の生活や文化についての理解を深めてゆく。

授業の目標

1. フランス語文法および発音の基礎を習得する。2. 簡単なフランス語会話ができるようになる。3. フランス文化およびフランス語圏文化の多様性を知る。

履修上の留意点

表現が自然に発声できるようになるまで、繰り返し放送を視聴することが望ましい。また、放送教材、印刷教材の学習に際して、つねに辞書を手元において参照すること。本科目を履修し終えたら、ぜひとも「フランス語入門Ⅱ」に進んでもらいたい。
使用する辞書については、2000頁前後の中型の机上版学習辞典かそれに対応する電子辞書が望ましい。代表的な辞書としては、『クラウン仏和辞典』（三省堂）、『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『プログレッシブ仏和辞典』（小学館）、『ロワイヤル仏和中辞典』（旺文社）（以上五十音順）などがある。基本的に自分で使いやすいと思われるものを選んでいただければよいが、印刷教材の「学習にあたって」で述べたように、紙の辞書と電子辞書にはそれぞれ長所と短所があるので、それに留意して利用して欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Deux euros（2ユーロ）	文法：アルファベ／フランス語のつづり字と発音 【キーワード】 アルファベ、複母音字、鼻母音、読み分け、綴り字記号	原　和之（東京大学准教授）	原　和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲大学教授）
2	Au café（カフェにて）	文法：名詞の性と数／冠詞（1）；不定冠詞・定冠詞／提示表現 【キーワード】 男性名詞、女性名詞、単数形、複数形、un, une, des, le, la, les、リエゾン、アンシェヌマン、エリジオン	原　和之（東京大学准教授）	原　和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲大学教授）
3	Promenade（散歩）	文法：主語人称代名詞動詞／動詞 êtreの活用／形容詞の用法（1） 【キーワード】 主語人称代名詞、être、属詞、性数一致、直説法現在	原　和之（東京大学准教授）	原　和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	Rendez-vous（デートの約束）	文法：第1群規則動詞（er動詞）／第2群規則動詞（ir動詞）／形容詞の用法（2）：付加形容詞／時と場所の副詞表現／前置詞 【キーワード】 penser, finir, 冠詞のde、男性単数第二形、de, à, vers, dans, en, chez	原　和之（東京大学准教授）	原　和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲大学教授）
5	Première sortie（はじめてのデート）	文法：動詞 avoir の活用／数の数え方（1）：1～69／曜日・月・季節 【キーワード】 avoir, 数の数え方,曜日・月・季節の表現	原　和之（東京大学准教授）	原　和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲大学教授）
6	Au restaurant（レストランにて）	文法：否定文／動詞の否定形／否定文中の部分冠詞・不定冠詞 【キーワード】 ne, pas, 否定のde	原　和之（東京大学准教授）	原　和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲大学教授）
7	Une courte sé paration（しばしのお別れ）	文法：動詞aller, venirの活用／近接未来・近接過去／前置詞と冠詞の縮約／動詞 partir の活用／国名とその形容詞形 【キーワード】 aller, venir, du, des, au, aux, partir	原　和之（東京大学准教授）	原　和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲大学教授）
8	Un peu de toi（あなたの一部）	文法：準助動詞 pouvoir, vouloir, devoir の活用／指示形容詞／動詞 voir, offrir の活用 【キーワード】 準助動詞 pouvoir; vouloir, devoir、ce, cet, cette, ces, voir, offrir	原　和之（東京大学准教授）	原　和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲大学教授）
9	Un dîner chez les voisins（隣人宅での夕食）	文法：疑問文の作り方／疑問副詞 【キーワード】 倒置, quand, où, comment, pourquoi, combien	山上　浩嗣（大阪大学教授）	山上　浩嗣（大阪大学教授） ヴェドレンヌ・ヴェロニック（元大阪大学特任准教授）
10	Au Musée d'Orsay（オルセー美術館にて）	文法：さまざまな動詞（1）／所有形容詞 【キーワード】 faire, lire, écrire, attendre, recevoir	山上　浩嗣（大阪大学教授）	山上　浩嗣（大阪大学教授） ヴェドレンヌ・ヴェロニック（元大阪大学特任准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	Le départ approche（帰国の日が近づく）	文法：さまざまな動詞（2）／疑問形容詞quel／数字（70～10000） 【キーワード】 prendre, tenir, savoir, connaître	山上　浩嗣（大阪大学教授）	山上　浩嗣（大阪大学教授） ヴェドレンヌ・ヴェロニック（元大阪大学特任准教授）
12	Le bambou de Tanabata（七夕の笹）	文法：人称代名詞強勢形／疑問代名詞 【キーワード】 qui, qui est-ce qui, qu'est-ce qui, qui, qui est-ce que, que, qu'est-ce que, quoi	山上　浩嗣（大阪大学教授）	山上　浩嗣（大阪大学教授） ヴェドレンヌ・ヴェロニック（元大阪大学特任准教授）
13	Départ en week-end（週末の旅行）	文法：非人称のil／時刻の表現 【キーワード】 falloir, 形式主語、不定詞	山上　浩嗣（大阪大学教授）	山上　浩嗣（大阪大学教授） ヴェドレンヌ・ヴェロニック（元大阪大学特任准教授）
14	Une charmante manifestante（かわいいデモ隊員）	文法：形容詞・副詞の比較 【キーワード】 plus, moins, aussi, meilleur, mieux	山上　浩嗣（大阪大学教授）	山上　浩嗣（大阪大学教授） ヴェドレンヌ・ヴェロニック（元大阪大学特任准教授）
15	A l'aéroport（空港にて）	文法：動詞の命令形／強調構文 【キーワード】 C'est… qui…, C'est… que…	山上　浩嗣（大阪大学教授）	山上　浩嗣（大阪大学教授） ヴェドレンヌ・ヴェロニック（元大阪大学特任准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1333550	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ フランス語入門Ⅱ （’１２）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：宮下　志朗　（放送大学特任教授）〕

〔主任講師（現職名）：中井　珠子　（白百合女子大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

フランスのさまざまな地方および、カナダ、タヒチなど世界各地のフランス語使用地域を訪ね、現地の人々へのインタビュー（Dialogue）や読み物(Lecture)を通じて、その土地独特の暮らし、職業、文化、伝統などを紹介する。各課のDialogueとLectureに盛り込まれた文法のポイントはていねいな解説だけでなく、音から学ぶ反復練習、理解を助ける基礎練習、応用力を養う表現練習など、数多くのエクササイズを通じてしっかり定着させる。また気分転換のためにオリジナルの「なぞなぞ」や「早口ことば」が多数用意されている。

授業の目標

フランス語入門Ⅱは、フランス語入門Iを受ける形で構想されており、両方を学ぶことによって基本的な文法知識を習得し、同時に、フランス語という言語の背後にある多様性に富んだ文化を知ることを目標としている。また、聴くだけでなく、受講者が積極的に声を出し、考え、反応することにより、実践的なフランス語運用能力を養うことを目指している。
なお、入門Ⅰ、入門Ⅱともに、旧ヴァージョンとくらべて文法項目を軽減し、やさしいものとなっている。

履修上の留意点

本科目履修前に、「フランス語入門Ⅰ（’12）」の履修が望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	サントル地方を歩く	avoirを助動詞とする複合過去の形と使い方を学ぶ。 古い農家の修復 ブールジュの町 【キーワード】 複合過去、その1	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）
2	オーヴェルニュ地方を歩く	êtreを助動詞とする複合過去の形と使い方を学ぶ。 オーヴェルニュの火山地帯 養蜂家 【キーワード】 複合過去、その2	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	海外県　アンティル・ギアナ地域を歩く	半過去の形や意味合い（「半」とはなにか）、使い方を学ぶ。 フランスの奴隷制度廃止 ハイチの歌 【キーワード】 半過去	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）
4	コルシカを歩く	複合過去と半過去の使い分けを学ぶ。 コルシカの農家 コルシカの伝統的な歌「パジェラ」 羊飼い 【キーワード】 複合過去と半過去	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）
5	ブルターニュを歩く	人称代名詞のうち、直接目的語の形と用法を学ぶ。 ケルトハープ ブルターニュの伝統衣装 【キーワード】 人称代名詞(直接目的語)	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）
6	バスク地方を歩く	人称代名詞、間接目的語の形と用法、さらに強勢形について学ぶ。 バスク人とバスク語 バイヨンヌのお祭り 【キーワード】 人称代名詞(間接目的語、強勢形)	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）
7	アキテーヌ地方を歩く	代名動詞の形、意味あいと用法について、その分類を試みながら学ぶ。 ヴィノテラピー(ブドウ療法) 自然遊歩道 【キーワード】 代名動詞	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	フランス北部を歩く	基本的な関係代名詞　qui、queとその用法を学ぶ。 カーニバルの巨大な人形ジェアン ランドセーリング 【キーワード】 関係代名詞　qui, que	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）
9	フランスの海外領土を歩く：タヒチとニューカレドニア	関係代名詞　dont、前置詞+qui、oùとその用法を学ぶ。 タヒチの祭りヘイヴァ ニューカレドニア出身のサッカー選手 【キーワード】 関係代名詞　dont,前置詞+qui、où	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）
10	アルザス地方を歩く	単純未来の形、意味あいと用法を学ぶ。 旅回りの香具師 コウノトリ 【キーワード】 単純未来	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）
11	アルプス山脈を歩く	中性代名詞　y、en、le　の用法について学ぶ。 ストーリーテラー 冬の学級 【キーワード】 中性代名詞　y、en、le	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）
12	ケベック州を歩く	条件法現在の形と意味あい、用法を学ぶ。 ケベックのラジオクイズ番組 カナダのシンボル、サトウカエデ 【キーワード】 条件法現在	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	地中海沿岸を歩く	「接続法」について、そのイメージをつかみ、形と用法を学ぶ。 香水の町グラース ニースのカーニヴァル 【キーワード】 接続法現在	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）
14	アフリカのフランコフォニー	現在分詞とジェロンディフの形と用法を学ぶ。 ベナンからの留学生 フランコフォニー国際機関 【キーワード】 ジェロンディフ	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）
15	ヴォージュ山脈とジュラ山脈を歩く	過去のさらに過去としての大過去について学ぶ。 ヴォージュ山脈の民宿 ジュラ山脈から見たジュネーヴ 【キーワード】 大過去	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 中井　珠子（白百合女子大学教授） ジャニック・マーニュ（共立女子大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1356950	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 中国語Ⅰ （’１４）＝ （ＴＶ）

－北京のふたり－

英文名 ＝ 〔 Chinese Ⅰ (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：木村　英樹　（追手門学院大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：宮本　徹　（放送大学准教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

平易な会話文を題材としながら、現代中国語の基礎を学習する。
講義では発音・基礎的語彙・基本的文法事項をバランスよく学習できるよう心がけるとともに、文法項目が単なる項目の羅列に終わらないよう、折に触れて復習を行い、体系的に把握できるように努めたい。
スキットは日本人学生が現地の友人の案内で北京を旅行するという親しみやすい内容になっており、現代中国を理解する一助ともなる。

授業の目標

現代中国語の発音の習得と、平易な現代中国語文の正確な読解。

履修上の留意点

(1)本講義の印刷教材は他の一般的な中国語教科書と異なり、スキット部分における中国語文の漢字とピンイン(アルファベット式発音表記)の表記を完全に分離している。その意図の一つは、漢字を通して視覚的に中国語を理解するにとどまらず、中国語に対しピンインを媒介として音声的にアプローチすることにある。学習に際しては常に声を出し、放送番組や印刷教材付属CDを活用するなど、常に中国語の音声を意識しながら学習を進めていただきたい。
(2)どの外国語学習においても同じであろうが、学習の際には可能な限り辞書を傍らに置き、疑問点があればすぐに調べるよう習慣づけたい。以下、現在日本で刊行されている主な中日辞典を挙げる。なお、本講義あるいは「中国語Ⅱ」の学習には(小型ではなく)中型字典が適当である。
伊地智善継編『中国語辞典』(白水社)、北京商務印書館・小学館編『中日辞典(第2版)』(小学館)、
相原茂編『中日辞典(第3版)』(講談社)、相原茂等編『東方中国語辞典』(東方書店)、
松岡栄志等編『クラウン中日辞典』(三省堂)、倉石武四郎著『岩波中国語辞典』(岩波書店)
(3)「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を通じての目標は、辞書を引きながら標準的な現代中国語文を正確に読解することに置いている。本科目ではそのための基礎を学ぶことになるが、上記目標を達成するために引き続き「中国語Ⅱ」を学習することを強く勧めたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	北京欢迎你!	1.1 “普通话” 1.2 ピンインと声調記号 1.3 簡体字 1.4 声調(tone) 1.5 第3声の変調 1.6 単母音 1.7 人称代名詞(単数・複数) 1.8 動詞述語文 1.9 疑問文(1)－“吗”を用いる当否疑問文 (附)姓名の尋ね方、名乗り方	木村　英樹 (追手門学院大学教授) 宮本　徹 (放送大学准教授) 盧　建 (名古屋大学特任准教授)	木村　英樹 (追手門学院大学教授) 宮本　徹 (放送大学准教授) 盧　建 (名古屋大学特任准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
2	参观首都博物馆	2.1　二重母音 2.2　軽声の発音 2.3　語気助詞“啊a”－増幅機能を果たす“啊” （附）“啊”の連声 2.4　形容詞述語文 2.5　指示詞(1)－場所を指し示す指示詞“这儿”“那儿”“哪儿” 2.6　“的”を用いる名詞句(1)－「名詞／代名詞＋“的”＋名詞」 2.7　副詞“很” 2.8　語気助詞“吧”(1)－推量・確認を表す“吧” 2.9　否定の副詞“不”（付）“不”の変調	木村　英樹 （追手門学院大学教授） 宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）	木村　英樹 （追手門学院大学教授） 宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）
3	四合院	3.1　三重母音 3.2　子音(1) 3.3　指示詞(2)－人や事物を指す指示詞“这”“那”“哪” 3.4　“是”を用いる動詞述語文 3.5　名詞連接による名詞句(1)－「種類/属性＋人/事物」 3.6　所在動詞“在” 3.7　代名詞からなる名詞句－「代名詞＋親族名称/所属先」 3.8　名詞連接による名詞句(2)－「人/事物＋空間」 3.9　副詞“也” (附)数の表現	木村　英樹 （追手門学院大学教授） 宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）	宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）
4	去前门	4.1　子音(2) 4.2　疑問文(2)－疑問詞疑問文 4.3　語気助詞“吧”(2)－勧誘・提案を表す“吧” 4.4　数量詞からなる名詞句 4.5　“的”を用いる名詞句(2)－「形容詞＋“的”＋名詞」 4.6　能願動詞“想” 4.7　疑問詞“怎么”(1) 4.8　語気助詞“呢”(1)－疑念の提示 4.9　疑問数詞“几” (附)数の表現	木村　英樹 （追手門学院大学教授） 宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）	宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）
5	逛大栅栏	5.1　鼻音を伴う母音 5.2　指示詞からなる名詞句－「指示詞＋数詞＋量詞＋名詞」 5.3　方位詞 5.4　存在動詞“有” 5.5　語気助詞“呢”(2)－現状確認 5.6　能願動詞“可以” 5.7　“的”を用いる名詞句(3)－「動詞＋“的”＋名詞」 （附)「名詞/代名詞/動詞/形容詞＋“的”」 5.8　疑問文(3)－“呢”を用いる省略疑問文 5.9　数詞「2」 (附)曜日・時刻の表現	木村　英樹 （追手門学院大学教授） 宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）	宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）
6	一卡通	6.1　能願動詞“会”(1) 6.2　譲歩的認定を表す“～是～” 6.3　程度強調の“了” 6.4　能願動詞“能” 6.5　疑問詞“多少” 6.6　指示詞(3)－程度・度合いを指す指示詞“这么”“那么” 6.7　動詞の重ね型 6.8　前置詞“在” 6.9　結果補語 (附)金銭の表現	木村　英樹 （追手門学院大学教授） 宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）	木村　英樹 （追手門学院大学教授） 宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	地铁	7.1 様態補語－「動詞＋“得”＋形容詞(句)」 7.2 “的”構文 7.3 前置詞“比” 7.4 比較差を強調する“～多了” 7.5 新事態の出現を表す“了” 7.6 “～的时候” 7.7 疑問文(4)－選択疑問文 7.8 連動文	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）
8	北京有条金融街	8.1 疑問詞“怎么”(2) 8.2 方向動詞 8.3 方向補語 8.4 疑問詞の不定称用法 8.5 完了を表す“了” 8.6 能願動詞“会”(2) 8.7 語気助詞“嘛” 8.8 概数を表す“～多” 8.9 “不是～吗?”	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）	宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）
9	北京有个什刹海	9.1 疑問詞“什么” 9.2 持続を表す“着” 9.3 兼語文 9.4 “有”を用いる連動文 9.5 前置詞“从” 9.6 前置詞“到” 9.7 前置詞“对”	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）	宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）
10	热情的北京人	10.1 使役構文 10.2 可能／不可能を表す動詞句構造 10.3 能願動詞“得” 10.4 結果補語の“在” 10.5 禁止を表す副詞“别” 10.6 疑問文(5)－正反疑問文 10.7 動作量と回数の表現 (附)時間の表現	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）	宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）
11	北京美食	11.1 経過時間の表現 11.2 能願動詞“该” 11.3 副詞“再” 11.4 経験を表す“过” 11.5 否定の副詞“没(有)” 11.6 名詞述語文 11.7 “没有”を用いる比較表現	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）
12	北京烤鸭	12.1 能願動詞“要”(1) 12.2 “一会儿” 12.3 “把”構文 12.4 主題化構文 12.5 指示詞“这样”“那样”“怎(么)样” 12.6 副詞“挺”	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）	宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	北京小吃	13.1 能願動詞“要”(2) 13.2 副詞“就” 13.3 疑問詞連鎖 13.4 前置詞“给” 13.5 存現文 13.6 試行を表す“～看” 13.7 二重目的語構文 13.8 積極性を表す“来”	木村　英樹 （追手門学院大学教授） 宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）	宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）
14	爬长城	14.1 副詞“有点儿” 14.2 “一点儿＋都” 14.3 受け身構文 14.4 前置詞“跟” 14.5 “一”の省略 14.6 前置詞“用” 14.7 結果補語“给” 14.8 近接未来“了”	木村　英樹 （追手門学院大学教授） 宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）	木村　英樹 （追手門学院大学教授） 宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）
15	北京印象	15.1 時間詞 15.2 方向補語“下来”の派生用法 15.3 方向補語“出”の派生用法 15.4 形容詞の重ね型 15.5 助詞“地” 15.6 基本構文の語順	木村　英樹 （追手門学院大学教授） 宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）	木村　英樹 （追手門学院大学教授） 宮本　徹 （放送大学准教授） 盧　建 （名古屋大学特任准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1356968	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 中国語Ⅱ （’１４）＝ （R）

－汪曾祺「我的母親」他－

英文名 ＝ 〔 Chinese Ⅱ (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：木村　英樹　（追手門学院大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：宮本　徹　（放送大学准教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

比較的平易なエッセイ等を題材としながら、「中国語Ⅰ」に引き続いて現代中国語の基礎を学習する。
講義ではなぜそのように読めるのか、また読まねばならないのかということを常に念頭に置きつつ、現代中国語文の精読を試みる。「学習のポイント」は「中国語Ⅰ」で取りあげられなかったものを中心とするが、折に触れて「中国語Ⅰ」の復習を行い、現代中国語文法を体系的に把握できるように努めたい。

授業の目標

現代中国語の発音の定着と、現代中国語文の正確な読解。

履修上の留意点

(1)本講義の印刷教材は他の一般的な中国語教科書と異なり、課文における中国語文の漢字とピンイン(アルファベット式発音表記)の表記を完全に分離している。その意図の一つは、漢字を通して視覚的に中国語を理解するにとどまらず、中国語に対しピンインを媒介として音声的にアプローチすることにある。学習に際しては常に声を出し、放送番組や印刷教材付属CDを活用するなど、常に中国語の音声を意識しながら学習を進めていただきたい。
(2)どの外国語学習においても同じであろうが、学習の際には可能な限り辞書を傍らに置き、疑問点があればすぐに調べるよう習慣づけたい。以下、現在日本で刊行されている主な中日辞典を挙げる。なお、本講義の学習には(小型ではなく)中型字典が適当である。
伊地智善継編『中国語辞典』(白水社)、北京商務印書館・小学館編『中日辞典(第2版)』(小学館)、
相原茂編『中日辞典(第3版)』(講談社)、相原茂等編『東方中国語辞典』(東方書店)、
松岡栄志等編『クラウン中日辞典』(三省堂)、倉石武四郎著『岩波中国語辞典』(岩波書店)
(3)本科目は「中国語Ⅰ」の履修、あるいはそれと同等の中国語能力があることを前提とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	《“小花”変了》(1)	1.1 “一边～, 一边…” 1.2 連用修飾語に用いる助詞“地” 1.3 集合体を表す接尾辞“们” 1.4 結果補語の“到”	木村　英樹(追手門学院大学教授) 宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)	木村　英樹(追手門学院大学教授) 宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)
2	《“小花”変了》(2)	2.1 副詞“才”(1) 2.2 副詞“就”(1) 2.3 副詞“都” 2.4 確認要求の“是不是” 2.5 方向補語“起来”の派生用法 2.6 “别～了”	木村　英樹(追手門学院大学教授) 宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)	木村　英樹(追手門学院大学教授) 宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	《“小花”变了》(3)	3.1　二重主語文 3.2　仮定を表す接続詞“如果” 3.3　文中に用いる“吧” 3.4　所有を表す動詞“有”	木村　英樹(追手門学院大学教授) 宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)	木村　英樹(追手門学院大学教授) 宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)
4	《“小花”变了》(4)	4.1　語気助詞“啊” 4.2　副詞“就”(2) 4.3　否定強調を表す“再” 4.4　指示詞がつなぐ名詞句 4.5　語気助詞の融合 4.6　前置詞“为”	木村　英樹(追手門学院大学教授) 宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)	宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)
5	《“小花”变了》(5)	5.1　“你…, 他…” 5.2　方向補語“上”の派生用法 5.3　能願動詞“敢”	木村　英樹(追手門学院大学教授) 宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)	宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)
6	陆定一《老山界》(1)	6.1　兼語文を構成する“给” 6.2　副詞“才”(2) 6.3　“只见” 6.4　可能／不可能を表す動詞句構造 6.5　動詞接尾辞“过”の用法 6.6　能願動詞“好”	木村　英樹(追手門学院大学教授) 宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)	宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)
7	陆定一《老山界》(2)	7.1　「数詞＋量詞」の重ね型 7.2　副詞“就”(3) 7.3　“有”を用いる連動文 7.4　方向補語“下来”の派生用法	木村　英樹(追手門学院大学教授) 宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)	宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)
8	陆定一《老山界》(3)	8.1　副詞“只” 8.2　“而且” 8.3　“因为” 8.4　方向補語“来”の派生用法 8.5　結果補語“着zháo”	木村　英樹(追手門学院大学教授) 宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)	宮本　徹(放送大学准教授) 盧　建(名古屋大学特任准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	陆定一《老山界》(4)	9.1 比喻・比況を表す“像～似的” 9.2 様態補語 9.3 “除～以外” 9.4 副詞“在”	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）	宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）
10	陆定一《老山界》(5)	10.1 “说是…” 10.2 不定・匿名の“有人～” 10.3 兼語文で用いる“要” 10.4 副詞“再”	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）	宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）
11	汪曾祺《我的母亲》(1)	11.1 部分否定に用いる“不大”	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）	宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）
12	汪曾祺《我的母亲》(2)	12.1 “锁了起来”	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）
13	汪曾祺《我的母亲》(3)	13.1 属性詞	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）
14	汪曾祺《我的母亲》(4)	14.1 「“一”＋臨時量詞」	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）	木村 英樹（追手門学院大学教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧 建（名古屋大学特任准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	汪曽祺《我的母亲》(5)	15.1　“有些”	木村　英樹（追手門学院大学教授） 宮本　徹（放送大学准教授） 盧　建（名古屋大学特任准教授）	木村　英樹（追手門学院大学教授） 宮本　徹（放送大学准教授） 盧　建（名古屋大学特任准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1480014	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 韓国語Ⅰ （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Korean Ⅰ (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：浜之上　幸　（神田外語大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：宮本　徹　（放送大学准教授）】

講義概要

・平易な会話文に基づき、初級文法の前半部分を学習する。
・韓国語の正確な発音と、表現の基本となる基礎的な語彙を習得する。
・韓国の人々と最低限度のコミュニケーションがはかれるよう、日常的な会話文等を学習する。

授業の目標

・初級文法の前半部分（シラバス参照）を習得すること。
・簡単な会話によって韓国の人とコミュニケーションができ、掲示や簡単な説明文を読めるようになること。
・韓国語と朝鮮半島の文化に親しむこと。

履修上の留意点

「韓国語Ⅱ(’16)」「韓国朝鮮の歴史(’15)」等が関連する科目である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ハングルを学ぶ(1)－基本母音字、一部の子音－	韓国語の概観、基本母音字10字、日本語と同じ発音をする子音を学ぶ。 【キーワード】 基本母音字、一部の子音	浜之上　幸（神田外語大学教授）	浜之上　幸（神田外語大学教授）
2	ハングルを学ぶ(2)－平音、激音、濃音－	韓国語において弁別的な子音の種類である平音、激音、濃音を学ぶ。 【キーワード】 平音、激音、濃音	浜之上　幸（神田外語大学教授）	浜之上　幸（神田外語大学教授）
3	ハングルを学ぶ(3)－終声、合成母音字－	閉音節と、[w]、[j]のつく合成母音字を学ぶ。 【キーワード】 終声、合成母音字	浜之上　幸（神田外語大学教授）	浜之上　幸（神田外語大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	音の変化を学ぶ(1) －終声の初声化、濃音化、鼻音化、流音化、激音化－	終声の初声化、濃音化、鼻音化、流音化、激音化などの音の変化や同化現象を学ぶ。 【キーワード】 終声の初声化、濃音化、鼻音化、流音化、激音化	浜之上　幸 （神田外語大学教授）	浜之上　幸 （神田外語大学教授）
5	音の変化を学ぶ(2) －2文字の終声字の発音など－	7終声字以外の終声字や2文字の終声字の発音を学ぶ。 【キーワード】 7終声字以外の終声字、2文字の終声字	浜之上　幸 （神田外語大学教授）	浜之上　幸 （神田外語大学教授）
6	文法の基礎を学ぶ(1) －疑問形、否定形－	名詞述語文と用言述語文の疑問形と否定形を学ぶ。 【キーワード】 疑問形、否定形	浜之上　幸 （神田外語大学教授）	浜之上　幸 （神田外語大学教授）
7	文法の基礎を学ぶ(2) －語基という概念、尊敬の接尾辞－	用言の活用に当たる語基という概念を学び、第Ⅱ語基の例として、尊敬の接尾辞であるⅡ-시-を学ぶ。 【キーワード】 語基、第Ⅱ語基、尊敬の接尾辞	浜之上　幸 （神田外語大学教授）	浜之上　幸 （神田外語大学教授）
8	文法の基礎を学ぶ(3) －子音語幹の第Ⅲ語基と過去形－	第Ⅲ語基の作り方について、まず子音語幹の場合から学ぶ。 【キーワード】 第Ⅲ語基、子音語幹	浜之上　幸 （神田外語大学教授）	浜之上　幸 （神田外語大学教授）
9	文法の基礎を学ぶ(4) －ㄹ語幹の第Ⅲ語基と過去形－	ㄹ(エル)語幹の第Ⅲ語基の作り方と、第Ⅰ語基、第Ⅱ語基の場合のㄹ(エル)の脱落について学ぶ。 【キーワード】 ㄹ（エル）語幹の第Ⅲ語基、ㄹ（エル）の脱落	浜之上　幸 （神田外語大学教授）	浜之上　幸 （神田外語大学教授）
10	文法の基礎を学ぶ(5) －母音語幹の第Ⅲ語基と過去形(1)－	母音語幹の第Ⅲ語基の作り方について、まず、縮約が起こるものなどから過去形を通じて学ぶ。 【キーワード】 母音語幹の第Ⅲ語基、縮約、過去形	浜之上　幸 （神田外語大学教授）	浜之上　幸 （神田外語大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	文法の基礎を学ぶ（6） －母音語幹の第Ⅲ語基と過去形（2）－	母音語幹の第Ⅲ語基の作り方について、母音の右側に ᅵ を含み、縮約が起こらないものを過去形を通じて学ぶ。 【キーワード】 母音語幹の第Ⅲ語基、縮約がおこらないもの、過去形	浜之上　幸（神田外語大学教授）	浜之上　幸（神田外語大学教授）
12	文法の基礎を学ぶ（7） －母音語幹の第Ⅲ語基と過去形（3）－	母音語幹の第Ⅲ語基の作り方について、いわゆるᄋ語幹と呼ばれるものを過去形を通じて学ぶ。 【キーワード】 母音語幹の第Ⅲ語基、ᄋ語幹、過去形	浜之上　幸（神田外語大学教授）	浜之上　幸（神田外語大学教授）
13	数詞を学ぶ －漢字語数詞と固有語数詞－	固有語の数詞と漢字語の数詞の2つの体系を学び、数詞に付く名数詞についても学ぶ。 【キーワード】 固有語数詞、漢字語数詞、名数詞	浜之上　幸（神田外語大学教授）	浜之上　幸（神田外語大学教授）
14	親しい上称形を学ぶ －Ⅲ-ᄋで終わる文章－	話し言葉でよく用いられる親しい上称形のⅢ-ᄋについて学ぶ。 【キーワード】 親しい上称形、Ⅲ-ᄋ	浜之上　幸（神田外語大学教授）	浜之上　幸（神田外語大学教授）
15	まとめと復習	まとめと復習	浜之上　幸（神田外語大学教授）	浜之上　幸（神田外語大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1480022	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 韓国語Ⅱ （’１６）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Korean Ⅱ (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：内山　政春　（法政大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：宮本　徹　（放送大学准教授）】

講義概要

「韓国語Ⅰ」を履修済みであることを前提に、やや難易度の高いスキットを通じて文法と語彙の習得をはかる。ていねい語のほか、親しい間柄で用いる形や文章語に用いられる形を扱う。南北朝鮮のことばの違いに関してもその一端に触れる。

授業の目標

初級で学ぶべき文法の後半、具体的には、変格用言、各種接続形語尾とその組み合わせからなるさまざまな表現、半言と下称形、間接話法（引用形）、話しことばにおける短縮形などを習得する。読めるだけではなく書けるようになること、さらに聞けて話せるようになることが目標である。印刷教材の練習問題を解くこと、スキットの音読を繰り返す（できれば暗記する）ことにつとめていただきたい。

履修上の留意点

「韓国語Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	空港の案内所にて－語基の復習、変格用言1－	「韓国語Ⅰ」で学んだ語基についての復習を行なう。また、変格用言（不規則用言）としてピウプ変格用言、ヒウッ変格用言を学ぶ。その他、「～すればよい」や「～しなければならない」などの形を扱う。 【キーワード】 語基、変格用言、許可、義務	内山　政春（法政大学教授）	内山　政春（法政大学教授）
2	ホテルのチェックイン－「～している」の2つの形、否定の命令形－	「～している」をあらわす2つの形とその用法を学ぶ。また引き続き語基の復習を行なう。その他、否定の命令形と勧誘形、ていねいさをあらわす助詞などを扱う。 【キーワード】 語基、変格用言、アスペクト	内山　政春（法政大学教授）	内山　政春（法政大学教授）
3	ホテルの客室にて－「～したい」、変格用言2－	「～したい」や「～するのか」などの形、ル変格用言、ティグッ変格用言を学ぶ。その他、強調をあらわす「～するのである」などの形を扱う。 【キーワード】 変格用言、希望、疑問	内山　政春（法政大学教授）	内山　政春（法政大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	薬局にて －「～するつもりだ」、変格用言3－	「～するつもりだ」や「～するようだ」などの形、シオッ変格用言を学ぶ。その他、こそあどをあらわす動詞などを扱う。 【キーワード】 変格用言、意思、推量、こそあど	内山　政春（法政大学教授）	内山　政春（法政大学教授）
5	ふたたびホテルのフロントにて －用言の名詞形－	用言を「～すること」のように名詞形にする方法と、これを用いた「～することにする」などの形を学ぶ。その他、方向をあらわす動詞や助詞の短縮形などを扱う。 【キーワード】 名詞形、移動動詞、助詞	内山　政春（法政大学教授）	内山　政春（法政大学教授）
6	安東へ行く車中にて －疑問詞、話しことば－	疑問詞を含む文や「～に行く／～に来る」からなる文の日本語とのずれなどを学ぶ。その他、話しことばで用いる形などを扱う。 【キーワード】 疑問詞、話しことば	内山　政春（法政大学教授）	内山　政春（法政大学教授）
7	安東のバスターミナルにて －「～して」、指定詞の第Ⅲ語基－	「～して」をあらわす複数の形の使い分けを学ぶ。その他、指定詞の第Ⅲ語基、用言の名詞形を用いた表現などを扱う。 【キーワード】 接続形、指定詞、第Ⅲ語基	内山　政春（法政大学教授）	内山　政春（法政大学教授）
8	河回村の入口にて1 －下称形と間接話法1－	日本語の「である体」にあたる下称形とこれを用いた間接話法（引用形）の作り方を学ぶ。その他、反語表現などを扱う。 【キーワード】 下称形、間接話法、引用形	内山　政春（法政大学教授）	内山　政春（法政大学教授）
9	河回村の入口にて2 －下称形と間接話法2－	前課に引き続き間接話法の作り方を学ぶ。その他、用言の受身形と使役形を扱う。 【キーワード】 下称形、間接話法、引用形、ボイス	内山　政春（法政大学教授）	内山　政春（法政大学教授）
10	河回村の両班住宅にて －間接話法と第Ⅲ語基－	親しい上称形など、第Ⅲ語基とともに用いられる間接話法について学ぶ。その他、用言の名詞形を用いた表現などを扱う。 【キーワード】 間接話法、第Ⅲ語基	内山　政春（法政大学教授）	内山　政春（法政大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	安東郊外のお寺にて －動作の反復、合成語の濃音化－	動作の反復をあらわす「～したり～したりする」という形、「～のようにみえる」という形などを学ぶ。その他、合成語におこる濃音化などを扱う。 【キーワード】 反復、合成語、濃音化	内山　政春 （法政大学教授）	内山　政春 （法政大学教授）
12	再会のときまで －「～とおもう」、助詞の尊敬形－	「～して」の話しことば形、「～してくれる」の間接話法、「～と思う／～と考える」など各種の形を学ぶ。その他、否定文に用いる疑問詞、助詞の尊敬形などを扱う。 【キーワード】 間接話法、否定文、疑問詞、助詞、尊敬形	内山　政春 （法政大学教授）	内山　政春 （法政大学教授）
13	文章を読む1 －論説文－	前課までで学んだ下称形を用いた論説文を読む。「～するため」、「～しうる」、「～とは」、「～であろう」などの形を学ぶ。その他、用言の名詞形あるいは派生名詞といいうる形を扱う。 【キーワード】 書きことば、派生名詞	内山　政春 （法政大学教授）	内山　政春 （法政大学教授）
14	文章を読む2 －北朝鮮の文章－	朝鮮学校で用いられる教材のうちから民話を読み、南北のことばの違いの一端に触れる。南北を問わず一部で用いられる中称形という形を扱う。 【キーワード】 書きことば、中称形、北朝鮮、正書法	内山　政春 （法政大学教授）	内山　政春 （法政大学教授）
15	まとめと復習	変格用言を含む用言の語基、「～している」、「～していく／～してくる」、「～して」をあらわす形、ていねいさをあらわす各種の語尾、間接話法のまとめと復習を行なう。 【キーワード】 まとめ、復習	内山　政春 （法政大学教授）	内山　政春 （法政大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1470019	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩のスペイン語 （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Introduction to Spanish (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：木村　琢也　（清泉女子大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：宮本　徹　（放送大学准教授）】

講義概要

スペイン語を学んだことが全くない方を対象に、アルファベットから始めて特に重要な文法と語彙を学びます。初歩的な内容については実際の運用力がつくように、発展的な内容については正しい理解ができるように講義を設計しています。

授業の目標

1) 自分の身の回りのことや、スペイン語圏での旅行会話など、初歩的な会話ができるようになること。2) 簡単な文章を読んで大意がつかめるようになること。3) より高度なスペイン語の学習が必要になったときに無理なくそれが始められるような基礎力をつけること。

履修上の留意点

前回の授業の内容を復習し、しっかり理解してから次回の授業を聴取するよう心がけてください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	おはようございます。(Buenos días.)	スペイン語の綴り字を見てそれを正しく発音するしかたを学びます。それと平行して、あいさつなど生活のすべてのシーンで用いられる表現を覚えます。 【キーワード】 アルファベット、発音、あいさつ	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）
2	ここに喫茶店があります。(Aquí hay una cafetería.)	スペイン語の綴り字を見て正しく発音するしかたについての学習を続けます。スペイン語の名詞には男性名詞と女性名詞の区別があること、複数形の作り方、定冠詞と不定冠詞について学びます。 【キーワード】 名詞の性・数、冠詞、音節、アクセント	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）
3	私たちは日本人です。(Somos japoneses.)	英語のbe動詞に相当するserとestarという2つの動詞のうち、serの現在形とその用法を学びます。また、スペイン語では形容詞が名詞の性と数に合わせて変化するので、その変化のしかたを学びます。 【キーワード】 動詞ser、形容詞、指示詞	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	私は元気です。ありがとう。(Estoy bien, gracias.)	英語のbe動詞に相当する動詞の2つ目、estarについて学び、さらに「～を持っている」という意味の動詞tenerを学びます。Ser, estar, tenerの3つの動詞だけで、かなりいろいろな表現ができるようになります。 【キーワード】 動詞estar、所有詞前置形、動詞tener	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）
5	私たちは同じクラスで勉強しています。(Estudiamos en la misma clase.)	動詞の活用について本格的な学習を始めます。この課ではスペイン語の3種類の規則活用（-ar動詞、-er動詞、-ir動詞）のうち、-ar動詞の活用を学びます。また、日本語の「～を」に相当する直接目的語、およびそれに対応する直接目的格人称代名詞を学びます。 【キーワード】 -ar動詞の直説法現在、直接目的語、直接目的格人称代名詞	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）
6	サンミゲル市場へ行こう。(Vamos al mercado de San Miguel.)	規則動詞のうち-er動詞と-ir動詞の活用、および特に重要なhacer, ver, dar, irという4つの不規則動詞を学びます。活用を覚えるのは大変ですが、スペイン語を使えるようになるためには避けて通れないところです。一見して感じる複雑さに目を奪われず、規則性に注目して合理的に覚えましょう。さらに、日本語の「～に」に相当する間接目的語、および間接目的格人称代名詞を学びます。 【キーワード】 -er動詞、-ir動詞の直説法現在、不規則動詞hacer, ver, dar, ir、間接目的語、間接目的格人称代名詞	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）
7	スペイン料理は好き？(¿Te gusta la comida española?)	「好きです」とか「興味があります」などと言いたいとき、スペイン語では独特の表現をします。この課ではまずこれを学び、さらに語幹母音変化動詞と呼ばれる不規則動詞のグループ、形容詞と副詞の比較級・最上級も学びます。 【キーワード】 語幹母音変化動詞、好き嫌いの表現、比較	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）
8	今日はどんな天気ですか？(¿Qué tiempo hace hoy?)	不規則活用をする動詞をさらに9つ覚えます。不規則活用にも実はかなり規則性があります。記憶の負担を最小限に抑えながら、しっかり覚えましょう。さらに直接と間接の目的格人称代名詞の組み合わせについて学習します。ちょっと独特な規則がありますが、多数のドリルをこなして慣れてしまいましょう。 【キーワード】 不規則動詞、2つの目的格人称代名詞の組み合わせ	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）
9	明日私は6時に起きます。(Mañana me levanto a las seis.)	「再帰動詞」とは、「自分に、自分を」という意味を持つ再帰代名詞を伴った動詞のことですが、スペイン語では「起きる・寝る」「立つ・座る」「手を洗う」など非常に日常的な動作にこの再帰動詞を使います。ぜひここでマスターしましょう。 【キーワード】 再帰動詞、-mente副詞	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	私はセゴビアに日帰り旅行に行きました。（Fui de excursión a Segovia.）	スペイン語の過去時制には点過去と線過去の2種類があります。まずこの課では、過去の出来事を表わすのに使う点過去について学びます。 【キーワード】 スペイン語の過去、点過去の活用	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）
11	私は子どもの頃ピアノを習っていました。（De niño aprendía piano.）	線過去は、過去の習慣、過去の状態、過去において継続していた行為を表わすのに使う時制です。この課では線過去を中心に2つの過去時制の使い分けを学びます。 【キーワード】 線過去の活用、点過去と線過去の使い分け、現在分詞、強調の接尾辞-ísimo	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）
12	君はどちらのほうが好き？（¿Cuál te gusta más?）	疑問詞「何、だれ、どれ、どこ、いつ」など、不定語「何か、だれか」など、否定語「何も（ない）、だれも（いない）」など、いずれも日常会話に欠かせない語彙です。この課でそれらを使ったやり取りができるようにしましょう。 【キーワード】 疑問詞、感嘆文、不定語と否定語	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）
13	君たち、日本酒を飲んだことがある？（¿Habéis bebido sake alguna vez?）	現在完了は「～したことがある」、「もう～してしまった」などの意味で頻繁に使われる時制です。この時制を使うために必要な過去分詞という語形、および現在完了の活用と使い方を学びます。過去分詞は英語と同じく受身の表現にも使えます。 【キーワード】 過去分詞、現在完了、受身文	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）
14	健康な生活を送るために何をしている？（¿Qué hacéis vosotros para llevar una vida sana?）	関係代名詞、関係副詞は英語にもあり、これを苦手とする日本人も多いですが、スペイン語では英語以上に関係詞をよく使います。特によく使う文型を集中的に練習して慣れてしまいましょう。その他、日常的に重要な不定詞の使い方も学びます。 【キーワード】 関係詞、不定詞	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）
15	来週僕は日本に帰ります。（La próxima semana volveré a Japón.）	動詞の未来形を学びます。未来形は未来のことを言うだけでなく、「きっと～だろう」という現在の推量にも使える重要な時制です。さらに命令形についても学びます。「命令形」と言っても「～しろ」という強い命令だけでなく、「～してください」という程度の丁寧な依頼にもよく使われます。スペイン語の命令形はかなり複雑ですが、現在形と人称代名詞がしっかり頭にはいっていれば恐れるほどではありません。 【キーワード】 未来形、命令形	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）	木村　琢也（清泉女子大学教授） パロマ・トレナド（清泉女子大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	基盤科目（外国語）	科目コード	1490010	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩のイタリア語 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Introduction to Italian (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：村松　真理子　（東京大学大学院教授）　〕

〔主任講師（現職名）：ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）〕

【本学担当専任教員：宮下　志朗　（放送大学特任教授）　】

講義概要

初級文法の基本を勉強します。また、ことばを学びながら、イタリアの暮らしと文化の豊かな多様性とその魅力についてごいっしょに考えましょう。音楽や美術、歴史に興味のある方は、ことばの成り立ちを学ぶことで、理解や表現が深まるはずです。さらに、現地の実際の景色や人々の生活を紹介する映像やインタヴューを通して、多様で地方性豊かなイタリア文化の魅力の一端にふれることにしましょう。

授業の目標

現地の風景の映像と専門家へのインタヴューを通して、食を中心的テーマにすえてイタリア文化に親しみ、それを話題にしながらことばの文法的な知識を身につけます。まず正確な発音と、語彙の基礎を身につけ、基本的な表現を学びましょう。目標は、イタリア語でひとと知り合い、自己紹介ができ、日常的な会話を交わしながら、自分の生活や気持ちについて伝えることです。

履修上の留意点

毎回の放送を受講するのに終わらせず、次回までにそのつど、文法事項を練習問題などを利用しつつ復習して、ステップをふみながら勉強をすすめてほしいです。たのしみつつことばを学んで、すこしでも自分で使えるようになってください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	おいしいイタリア1：おいしい料理と風景をさがしに	アルファベーティ、イタリア語の発音と表記、あいさつ(1)、名詞(1)（単数男性、単数女性）、冠詞(1)(不定冠詞)、動詞essere(1)(1・2・3人称単数)、指示代名詞(1)(単数形) 【キーワード】 イタリア語の音、「はじめまして」、自己紹介、イタリアの料理と風景	村松　真理子（東京大学大学院教授）ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授）ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）
2	おいしいイタリア1：哲学、デザイン、チョコレートの町トリノ	あいさつ(2)、基本的な人称代名詞と動詞essere(2)(1・2・3人称複数)、不規則動詞(1)(stare)、名詞(2)(複数形)、冠詞(2)(定冠詞)、形容詞、c’è/ci sono「～がある」、疑問文・否定文のつくりかた 【キーワード】 「ここが広場です」、「チケットがあります」、トリノの町	村松　真理子（東京大学大学院教授）ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授）ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）
3	おいしいイタリア1：町と田園とワイン	規則動詞(1)(are動詞)、不規則動詞(2)(andare)、疑問詞(1)、前置詞(a, da, di, in, suと定冠詞の縮約)、指示代名詞(2)(複数形) 【キーワード】 「私はチョコレートが大好きです」、「ブラに行きましょう」、ピエモンテのワインと文学	村松　真理子（東京大学大学院教授）ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授）ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	おいしいイタリア1：スローな多様性	規則動詞(2)(-ere動詞)、規則動詞(2)(-ire動詞)、指示形容詞 【キーワード】 「学生食堂の方がいいです」、食の科学大学	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）
5	おいしいイタリア1：食べたり、飲んだり、読んだり	不規則動詞(3) (fare, bere)、疑問詞(2)(come, quanto)、ジェルンディオの用法 【キーワード】 「お仕事は何ですか」、食の問題と世界	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）
6	おいしいイタリア2：パンとパスタとリゾットの関係	補助動詞(poter, volere, dovere, saper)、疑問詞(dove, quando)、ci+mettere/volere 【キーワード】 「いろいろなイタリア料理を食べたいです」、北イタリアの食と南イタリアの食	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）
7	おいしいイタリア2：地元料理と全国料理	所有の動詞avere、所有形容詞(1)(mio, tuo, suo) 【キーワード】 「リゾットは私の得意料理です」、ミラノのリゾット	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）
8	おいしいイタリア2：そばはピッツォッケリ？	所有形容詞(nostro, vostro, loro)、直説補語人称代名詞 【キーワード】 「あなたがたのそばににています」、北イタリアの伝統食	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）
9	おいしいイタリア2：ポレンタの正体	補語人称代名詞強勢形、代名小辞(ci, vi, ne)、時間の表現、数詞(1) 【キーワード】 「今何時ですか」、「これは何ですか」、ポレンタとマンゾーニの文学	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	おいしいイタリア2：ミラノのレオナルド	間接補語人称代名詞、動詞piacereの用法、形容詞の比較級と最上級、副詞の比較級と最上級 【キーワード】 「レオナルドは一番有名な画家です」、ダヴィンチの美術と食	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）
11	おいしいイタリア3：チーズの王様と劇場	直説法近過去、再帰動詞、特別な形の比較級と最上級、数詞(2) 【キーワード】 「ミラノを出発しました」、「朝早く起きます」、伝統食チーズ	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）
12	おいしいイタリア3：ハムとミルクと風景の関係	直説法半過去、直説法近過去（avere＋過去分詞）+補語人称代名詞、いろいろな前置詞のつかい方 【キーワード】 「もう中世には豚を育てていました」、食をめぐる風景	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）
13	おいしいイタリア3：タリアテッレをつくる	受け身、使役の動詞fare 【キーワード】 「イタリアではお米もパスタも食べます」、手作りの伝統	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）
14	おいしいイタリア3：ボローニャでソースは生まれたのか	感嘆文、補語人称代名詞の結合形、命令法 【キーワード】 「このサラダはなんておいしいんだろう」、ボローニャの町	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）
15	おいしいイタリア3：世界で一番古い大学と誇りある劇場	直説法未来形、vorreiの用法、非人称構文 【キーワード】 「私は明日ミラノから東京へ出発します」、「すぐイタリアに戻ってきたい」、大学、劇場	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）	村松　真理子（東京大学大学院教授） ルドヴィーコ・チフェッリ（マリオ・ボエッラ高等研究所主任研究員）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1710010	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 生活経済学 （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Family Economic Issues (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：重川　純子　（埼玉大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：奈良　由美子　（放送大学教授）】

講義概要

日々の生活は、お金や時間、ネットワークなどさまざまな生活資源を利用しながら営まれている。本講義では、お金をめぐる生活・家計の実態を、お金以外の生活資源との関係や、経済社会の状況との関係から検討し、生活に関わる制度やしくみのあり方や自らの経済生活を考えることができる力を身につけることをめざしている。

授業の目標

受講者自身が具体的なライフプランを考えられるように、経済社会の中で個人や家族の位置づけ、家計のしくみを理解し、家計に関する統計資料を読み取ることができる、また、現状を踏まえ社会的な課題と個人としての課題を考えられることを目標とする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生活の経済	日々の生活の営みの中で行っている経済活動について考える。個々人の生活における貨幣以外の部分も含む生活の経済的側面の捉え方について検討し、生活のゆたかさについて考える。 【キーワード】 生活、市場と非市場、家計、経済主体、生活指標	重川　純子（埼玉大学教授）	重川　純子（埼玉大学教授）
2	家計に関する基本概念と家計調査	収入と支出、貯蓄と負債、フローとストック等の家計に関する基本概念、家計に関する公的統計の概要について説明する。 【キーワード】 収入と支出、フローとストック、消費者物価指数、家計調査	重川　純子（埼玉大学教授）	重川　純子（埼玉大学教授）
3	家計にみるくらしの変化	家計をとりまく経済社会の状況が変化する中で、第二次世界大戦後の生活がどのように変化してきたのかを、家計調査等の統計資料により説明する。 【キーワード】 実収入、可処分所得、実支出、平均消費性向、家計のストック化	重川　純子（埼玉大学教授）	重川　純子（埼玉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	生活の設計とリスク	生き生きとした人生をおくるための手段の1つである生活設計について、設計対象について説明し、実現したいことだけでなく、希望しないがおこりうる出来事への対応について考える。 【キーワード】 生活設計、ライフイベント、リスクマネジメント、自助・共助・公助	重川 純子（埼玉大学教授）	重川 純子（埼玉大学教授）
5	賃金と所得格差・貧困	所得を得るための経済活動として職業に就いて働くことが多い。就業者の多くを占める雇用者の賃金を取り上げ、就業形態や年齢などの属性による金額の相違、就業に関する賃金・所得保障の制度について概説するとともに、所得の格差・貧困について考える。 【キーワード】 雇用者化、賃金、最低賃金、失業給付、所得格差、貧困	重川 純子（埼玉大学教授）	重川 純子（埼玉大学教授）
6	家計にみる地域差	家計のありようは、家計主体の価値観、ライフステージ、構成員の属性などの他、生活環境の影響をうける。狭いと言われる日本においても、地域により産物、制度等が異なる。地域比較から地域が家計に及ぼす影響を検討する。 【キーワード】 地域、都市規模、公共サービス、自然環境、ソーシャルキャピタル	重川 純子（埼玉大学教授）	重川 純子（埼玉大学教授）
7	消費社会と家計－消費行動	様々な生活の欲求を充足する手段の1つとして、ものやサービスの購入という方法が用いられている。消費支出額により消費行動の変化を概観するとともに、消費行動への影響要因について検討する。 【キーワード】 消費支出、消費構造、エンゲル係数、消費のサービス化	重川 純子（埼玉大学教授）	重川 純子（埼玉大学教授）
8	消費社会と家計問題	消費社会を支える仕組みの1つに消費者信用がある。消費者信用の仕組みと利用実態について概説する。多重債務化の原因等問題状況を踏まえ、対応策について検討する。 【キーワード】 消費社会、消費者信用、クレジットカード、多重債務	重川 純子（埼玉大学教授）	重川 純子（埼玉大学教授）
9	生活と金融	金融とは金銭を融通することであり、現代社会では金融機関を介すことが多い。金融商品と金融商品利用に関わる相談の現状を取り上げ、消費者として考慮すべき点、さらに金融のしくみについて考える。 【キーワード】 金融商品、貯蓄、投資、社会的責任投資、NPOバンク、マイクロファイナンス	重川 純子（埼玉大学教授）	重川 純子（埼玉大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	妻と夫の経済関係	妻と夫は共同して生活を営むことが多く、経済についても一体化して考えられることが多い。家計の管理形態、家計への貢献などから夫妻間の経済関係について検討する。 【キーワード】 家計、家計の個別化、家計組織化、家計管理、配偶者控除	重川　純子（埼玉大学教授）	重川　純子（埼玉大学教授）
11	親と子の経済関係	親と子の間の経済関係を取り上げる。ここでは、親による子の養育・教育期と親の高齢期に焦点をあて、親子間の経済関係について、実態や意識を概観し、課題を検討する。 【キーワード】 扶養、教育費、機会費用、介護、相続	重川　純子（埼玉大学教授）	重川　純子（埼玉大学教授）
12	高齢期の生活と経済保障	長寿化により高齢期が長期化している。高齢期の経済生活は、生活設計上の最重要課題の1つとなっている。高齢期の経済生活の実態を概観し、外国との比較により、高齢者の生活実態・意識と制度の関わりについて検討する。 【キーワード】 高齢化、年金、高齢者世帯、介護費用、負担と給付	重川　純子（埼玉大学教授）	重川　純子（埼玉大学教授）
13	NPOと家計	生活の中でNPO（民間非営利組織）により提供されるサービスやものを利用したり、NPOの活動に関わることも少なくない。家計とNPOの関わりの実態を概観するとともに、今後の課題について考える。 【キーワード】 NPO、NPO法人、サードセクター、ボランティア、寄付、公益	重川　純子（埼玉大学教授）	重川　純子（埼玉大学教授）
14	生活経済と環境	環境問題を人々の生活、経済活動との関わりから検討する。日常生活に関わる環境政策を概観するとともに、持続可能な生活のあり様について考える。 【キーワード】 持続可能、循環型社会、環境政策、グリーンコンシューマー、エシカル消費	重川　純子（埼玉大学教授）	重川　純子（埼玉大学教授）
15	生活経済の教育	近年、金融教育、金融経済教育、消費者教育など、生活と経済の関わりを取り上げる教育の必要性が指摘されている。この背景と具体的内容について考える。 【キーワード】 金融教育、金融経済教育、消費者教育、規制改革、自己責任化、金融リテラシー	重川　純子（埼玉大学教授）	重川　純子（埼玉大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	導入科目	科目コード	1128302	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　生活者のための不動産学入門　　（’１３）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：齊藤　広子　（横浜市立大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：中城　康彦　（明海大学教授）　〕

【本学担当専任教員：川原　靖弘　（放送大学准教授）　】

講義概要

わたしたちの生活は、不動産を基盤に支えられている。しかしながら、そのための学問を一般的には身につけていない。十分な不動産知識をもっていないがゆえに、例えば「住宅売買で失敗する」「賃貸住宅でトラブルになる」ことをはじめとし、「敷地分割して住宅を建てる」など、自分たちが知らないうちに不動産を巡る被害者になるとともに、加害者にもなっている。安心して居住できるすまい・まちの実現には国民一人一人が不動産学を身につけることが必要である。生活者の視点から、生活に身近なテーマを、すまいを中心に取り上げて、不動産学の基礎を享受する。

授業の目標

不動産は、生活でもビジネスにも基本となる。本科目では、生活に必要な不動産学の基礎知識を学ぶ。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生活に身近な不動産学	不動産学とは何か、次回以降にとりあげる身近な事例をとりあげ、法学、経済学、工学といった単体の学問でとけないため、総合学としてのアプローチが必要であることを示す。 【キーワード】 不動産学、不動産	齊藤　広子（横浜市立大学教授）	齊藤　広子（横浜市立大学教授）
2	住まいを借りる	すまいを借りる際の基本的な知識を教授する。 【キーワード】 借地借家法、原状回復、敷金	齊藤　広子（横浜市立大学教授）	齊藤　広子（横浜市立大学教授）
3	住まいを探す	住宅の建築的なしくみ、建設業者と不動産業者の違いなど、住まいを購入する上での基本的な仕組みを教授する。 【キーワード】 耐震性、基礎、在来構法、注文住宅	中城　康彦（明海大学教授）	中城　康彦（明海大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	住まい購入の契約をする	住まいを購入する際の契約についての基本的な知識を教授する。 【キーワード】 売買契約、重要事項説明、瑕疵担保責任	齊藤　広子（横浜市立大学教授） 小川　清一郎（明海大学教授）	齊藤　広子（横浜市立大学教授）
5	住まいを管理する	住まいの管理、とくに、区分所有のマンションの管理方法を教授する。 【キーワード】 マンション、区分所有、管理組合	齊藤　広子（横浜市立大学教授）	齊藤　広子（横浜市立大学教授）
6	住まいの環境を守る	すまいをとりまく環境、生活空間にはどのようなルールがあるのか。それにより環境がどのように変化する可能性があるのか、土地利用のルールそして居住地選択において必要な基本的な知識を教授する。 【キーワード】 土地利用のルール、用途地域、地区計画	阪本　一郎（明海大学名誉教授）	阪本　一郎（明海大学名誉教授）
7	住まいと環境をつくる	良い環境を持った住まいをどのようにつくるのか、そのために不動産会社はどのような働きをするのか、また、不十分な環境をどのように改善するのか、そのために住民や自治体はどのような働きをするかを学んでもらう。 【キーワード】 居住地選択、再開発、土地区画整理組合	阪本　一郎（明海大学名誉教授）	阪本　一郎（明海大学名誉教授）
8	住宅価格が決まる	住宅の価格がどのように構成されるのか、基本的な仕組みを教授する。 【キーワード】 住宅価格、分譲市場、流通市場、資本コスト、留保価格	前川　俊一（明海大学教授）	前川　俊一（明海大学教授）
9	住まいの資金計画をたてる	住宅購入・保有・売却に伴う資金計画の基本的な仕組みを教授する。 【キーワード】 住宅ローン、税金、資金計画	前川　俊一（明海大学教授）	前川　俊一（明海大学教授）
10	不動産を相続する	相続のしくみはどうなっているのか、相続財産はどのように評価するのか、相続税はどのように計算するのか、不動産の相続について教授する。 【キーワード】 法定相続人、相続税、不動産鑑定評価、登記	中城　康彦（明海大学教授）	中城　康彦（明海大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ストックを活用する	住宅の間取りと建物の改修について教授する。 【キーワード】 心々寸法、間取り、専用部分、改修	中城　康彦（明海大学教授） 齊藤　広子（横浜市立大学教授）	中城　康彦（明海大学教授）
12	土地を活用する	土地利用を制約する要素と土地利用方策について教授する。 【キーワード】 所有と利用、私法と公法、借地借家法、用途制限	中城　康彦（明海大学教授）	中城　康彦（明海大学教授）
13	不動産を分割・併合する	土地の分割のメカニズム、土地の併合利用による価値の創造について教授する。 【キーワード】 接道規定、土地価格、建物価格、コモンスペース	中城　康彦（明海大学教授）	中城　康彦（明海大学教授）
14	不動産を経営する	持ち家資産の経営、賃貸用不動産の経営について教授する。 【キーワード】 収支計画、アセットマネジメント、プロパティマネジメント	中城　康彦（明海大学教授）	中城　康彦（明海大学教授）
15	不動産の価値を上げる	住まいの環境である住環境の価値を、地域で上げる方法を教授する。 【キーワード】 住環境マネジメント、空き地や空き家	齊藤　広子（横浜市立大学教授）	齊藤　広子（横浜市立大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1710087	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 生活における地理空間情報の活用 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 The Use of Geospatial Information in Daily Life (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：川原 靖弘 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：関本 義秀 （東京大学准教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

誰もが自由に地理空間情報を利用できる時代になり、生活者にとって有益な地理空間情報サービスシステムが至る所に存在するようになった。生活者の、安心・安全、利便性を目的としたサービスや先端の技術を使った地理空間情報システムの紹介を通して、生活における地理空間情報のニーズ、システム構築に必要な技術、地理空間情報の表現・分析方法について解説し、現代における地理空間情報システムの存在意義について考える。

授業の目標

この講義では、生活における地理空間情報の活用事例を通し、現代生活におけるその必要性、GISを用いた地理空間情報の表現方法やサービスシステム構築のための技術について解説する。

履修上の留意点

関連する科目として「生活環境と情報認知(’15)」がある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生活における地理空間情報の活用	本章では、さまざまな地理空間情報の基本的な表現と処理のタイプについて学ぶとともに、時代のニーズとともに静的なものだけではなく、時間情報を含む動的なものも範囲に入り、より処理が高度化していく様子を学ぶ。 【キーワード】 地理空間情報、GIS、図形、属性、重ね合わせ、時空間情報	川原 靖弘（放送大学准教授） 関本 義秀（東京大学准教授）	川原 靖弘（放送大学准教授） 関本 義秀（東京大学准教授）
2	地図の歴史、GIS	地理空間情報は、地球上の緯度、経度、高度により決定される。本章では、測量の歴史と地図の種類について解説し、日本における測量基準点と現代の測量方法について述べる。また、インターネット時代の電子地図として広く使われているWebメルカトルやGIS（地理空間情報システム）について解説する。 【キーワード】 地図、測地系、座標系、緯度、経度、測量、Webメルカトル、GIS	川原 靖弘（放送大学准教授） 瀬戸 寿一（東京大学特任助教）	川原 靖弘（放送大学准教授） 瀬戸 寿一（東京大学特任助教）
3	地理空間情報のさまざまな表現と処理技術	本章ではさまざまな地理空間情報の基本的な表現と処理のタイプについて学ぶとともに、近年のニーズにより、静的なデータだけではなく、時間情報を含む動的なデータを扱うことが増え、より処理が高度化していく様子を学ぶ。 【キーワード】 図形、属性、重ね合わせ、ジオコーディング、検索、メタデータ、時空間情報、標準化	関本 義秀（東京大学准教授）	関本 義秀（東京大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	地上から、宇宙からの測位	無線を用いた測位方法について、数種の形態とその応用例を解説する。生活空間における測位の代名詞となっているGPS についても、仕組みを解説する。さらに、測位や測量に応用されるリモートセンシング技術について、その種類や原理、応用分野について述べる。 【キーワード】 無線測位、RSS、TDOA、GPS、準天頂衛星、リモートセンシング	川原　靖弘（放送大学准教授）	川原　靖弘（放送大学准教授）
5	モバイル通信技術と位置情報	人びとの毎日の生活に欠くことのできない携帯電話（モバイル）やスマートホンは地理空間情報と結びついてさまざまな位置情報サービスを提供している。ここではその具体的な仕組みを、電波を使った測位技術や、モバイル通信の発展の歴史、その発展を支えてきた基本的な法則をとおして学習する。また位置情報を利用したビッグデータについても学習する。 【キーワード】 セルラーネットワーク、スマートホン、短距離無線、ビッグデータ、電波伝搬、モバイル空間統計、SNS	中村　康久（ユーピーアール株式会社常務取締役）	中村　康久（ユーピーアール株式会社常務取締役）
6	都市施設管理・都市計画における利用	都市を構成するものは道路、地下埋設物、建物、土地を始めとしてさまざまなものがあり、データの整備・管理もさまざまであるが、それらを都市施設管理や都市計画という観点で総合的に地理空間情報を扱い、都市を俯瞰する。 【キーワード】 都市施設情報、建物情報、土地利用情報、都市計画、コンパクトシティ	関本　義秀（東京大学准教授）	関本　義秀（東京大学准教授）
7	災害時における活用	日本は地震、津波、洪水、斜面崩壊、大雪、噴火等さまざまな災害が起こる国であるが、それらに包括的に対応する情報技術の側面から地理空間情報を、阪神淡路大震災から東日本大震災の歴史とともに今後のあるべき姿を俯瞰する。 【キーワード】 阪神淡路大震災、東日本大震災、政府動向、リモートセンシング、携帯通信情報、災害シミュレーション、災害アーカイブ	関本　義秀（東京大学准教授）	関本　義秀（東京大学准教授）
8	安全・安心、ゲーム、産業への活用	モバイル技術を活用した測位技術が、ビジネスや生活・産業分野にどのように活用されているか具体的な事例を紹介する。 【キーワード】 スマートホン、地図アプリ、M2M、IoT、RFID、国際ローミング、準天頂衛星、IT農業、物流の見える化	中村　康久（ユーピーアール株式会社常務取締役）	中村　康久（ユーピーアール株式会社常務取締役）
9	保健、医療における活用	保健・医療は、その分析や意思決定に地理的な情報を活用することで、より効果的な対策や取り組みが期待できる分野の一つである。疾病の空間分布の数理解析から保健・医療施設の検索サービスまで、幅広いユーザ層を対象にその活用可能性は多岐にわたる。本章では特に、疾病の空間分布、保健・医療サービスの空間配置、人を取り巻く環境に焦点をあて、地理空間情報を活用したアプローチについて学ぶ。 【キーワード】 疾病地図、空間サーベイランス、保健・医療サービスの需要予測、保健・医療サービスのアクセシビリティ、人の健康と環境	山田　育穂（中央大学教授）	山田　育穂（中央大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	交通システムや移動体への活用	自動車やバス、鉄道といった交通システムは地理空間情報と深く結びついている。カーナビはデジタル地図コンテンツの代表的な活用事例である。本章では交通システムやITSに利用されている実際の電子地図情報の作成過程から、最新の技術動向まで紹介する。最後にクルマの自動運転、配車アプリ、カーシェアリング、ドローン等の今後普及が見込まれる最先端サービスに必要な位置情報技術について学習する。 【キーワード】 3Dデジタル地図コンテンツ、ITS、カーナビ、カーシェアリング、自動運転車、ドローン、SNS	中村　康久（ユーピーアール株式会社常務取締役）	中村　康久（ユーピーアール株式会社常務取締役）
11	農業、林業、水産業における活用	農業、林業、水産業において、広範囲の地理空間情報を把握するためにリモートセンシング技術が用いられる。リモートセンシングにより、地面や海面の温度や色の計測を行い、土地の利用状況や農産物の生育状況、水産資源の分布を推定することが可能であり、その管理に利用されている。また、農作業や漁業の履歴を、GIS を利用し管理することにより、作業の効率化や作業機器の省エネ化がはかられている。この章では、それらの事例を交えながら、使用されている技術について解説をする。 【キーワード】 農業、林業、漁業、リモートセンシング、魚群探査、トレーサビリティ	川原　靖弘（放送大学准教授）	川原　靖弘（放送大学准教授）
12	行動、生態、文化財調査のための地理空間情報	情報通信機器やセンサの小型化、省電力化により、人が常時携帯する機器や動物に装着したセンサを利用し、行動や生理情報を地理情報とともに記録することが可能になっている。これらの情報は、行動認識や生態調査に利用されている。さらに過去の時代の生活習慣や生態の推定を行うために考古学分野では、遺跡の地理空間情報化が行われている。本章では、これらを実現するための技術や情報の形態について事例を交えながら解説する。 【キーワード】 モバイルセンシング、情報通信端末、バイオロギング、ヒューマンセンシング、遺構図、地下レーダ探査	川原　靖弘（放送大学准教授）	川原　靖弘（放送大学准教授）
13	海外における利用	ここでは海外に目を向け、日本ではあまりみられない利用例を挙げ、グローバルな視点からの地理空間情報の利用を俯瞰する。 【キーワード】 海外、農業、林業、鉱業、交通、スマートシティ、都市施設情報、建物情報、土地利用情報、都市計画、オープンデータ、コンパクトシティ、保健、防災、携帯電話データ	関本　義秀（東京大学准教授）	関本　義秀（東京大学准教授）
14	参加型データ社会の到来と地理空間情報	情報通信技術（ICT）の発展は、膨大な情報を入手しやすくなること以外にも、自らがWebを通じて発信者になり得る仕組みを生み出している。本章では多様な地理空間情報が、参加型による共有手法を通じて私たちの社会生活で活用されることについて考える。 【キーワード】 クラウドソーシング、参加型GIS、ボランタリー地理空間情報、市民科学、オープンデータ	瀬戸　寿一（東京大学特任助教）	瀬戸　寿一（東京大学特任助教）
15	先端技術と人間生活の調和した未来の地理空間情報	本講義の最後として、生活における地理空間情報の未来像、日常の人間生活のなかでどう調和して用いられていくかを概観したい。特に先端的な情報技術の側面がある一方で、一市民の立場からすると、どう生活に役立つのか、また個人情報への不安感などに対して保護していくものなのかを俯瞰したい。 【キーワード】 先端技術、個人情報、地理空間情報の将来像	関本　義秀（東京大学准教授） 川原　靖弘（放送大学准教授）	関本　義秀（東京大学准教授） 川原　靖弘（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	5710014	履修制限	無	単位数	1

科目名（メディア） ＝ 女性のキャリアデザイン入門 （’１６）＝ （OL）

英文名 ＝ 〔 Introductory Course on Women’s Career Design (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：中野 洋恵 （国立女性教育会館主任研究員） 〕

〔主任講師（現職名）：渡辺 美穂 （国立女性教育会館研究員） 〕

【本学担当専任教員：宮本 みち子 （放送大学副学長） 】

講義概要

ライフスタイルが多様化する中で、仕事や将来について不安や迷いがある女性が、自律的にこれからのキャリアを形成するために必要な基礎知識を得る導入講座。現代社会で生きる女性の現状や社会背景について、さまざまな女性の事例を通じて考えるとともに、学習者自身が今後の生き方や働き方についてワークやディスカッションを交えながら、キャリアをデザインする。

授業の到達目標

女性たちの多様な生き方や働き方を学びながら、個人がキャリアを形成していくうえで直面する障害や課題、それを乗り越えるための支援やネットワーク、必要な情報の収集・活用方法についての基礎知識を得るとともに、学習者自身がキャリアをデザインすることを目標とする。

成績評価の方法

通信指導、単位認定試験および再試験は行わない。
成績評価は、小テスト(30%)、ディスカッション(30%)、レポート(40%)の評価により行う。

履修上の留意点

※本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
1	オリエンテーション －変動する女性の生き方・働き方とキャリアデザイン	本講座のねらいと背景について説明する。女性が自らの生き方・働き方を「キャリア」として捉え、考えるための基礎知識を得る。 【キーワード】 キャリア、キャリアデザイン、キャリア・アンカー、転機	中野 洋恵 （国立女性教育会館主任研究員）
2	女性のキャリアとライフコースの多様性	女性のライフコースとそのキャリアの多様性について学ぶ。キャリアの事例分析を通じて、女性のライフコースと社会変化との関わりについて理解する。 【キーワード】 ライフコース、ライフイベント、性別役割分業意識、社会的資源、ネットワーク、地域	島 直子 （国立女性教育会館研究員）
3	変化する女性の働き方 －女性のキャリアと社会活動	地域課題の解決を目的とした社会活動を軸にしたキャリアを形成している女性の生き方を通じて、女性の生き方や働き方について理解する。女性たちが直面する課題とその乗り越え方について、事例から学ぶ。 【キーワード】 職業キャリアと社会活動キャリア、経済的自立、再就職、起業、ネットワーク、社会活動、ロールモデル	渡辺 美穂 （国立女性教育会館研究員）

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　師　名 （所属・職名）
4	変化する女性の働き方 －女性と就労継続	結婚、出産、育児、介護等のライフイベント、家族の転勤等予期せぬ経験を経ながら仕事を継続する女性の働き方、直面する課題とその乗り越え方について事例を通じて学ぶ。 【キーワード】 継続就労、両立支援、企業、ワーク・ライフ・バランス、メンター	渡辺　美穂 （国立女性教育会館研究員）
5	女性が働きやすい環境づくり －ワーク・ライフ・バランス	企業や男性にとって女性の活躍推進やワーク・ライフ・バランス社会に転換することが持つ意味について理解を深めるとともに、女性活躍推進を進める企業の取組・関連施策についての知識を得る。 【キーワード】 ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティ、子育て、男性の家庭参画、介護	中野　洋恵 （国立女性教育会館主任研究員）
6	キャリアデザインに役立つリーガル・リテラシー	女性が自身のキャリアを切り拓いていく上で、自分にどのような権利があるかを自覚することは力になる。役立つ法律や関連諸制度を知り、その知識を使いこなすリーガル・リテラシーを身につける。 【キーワード】 女性差別撤廃条約、男女雇用機会均等法、エンパワーメント、国際社会	渡辺　美穂 （国立女性教育会館研究員）
7	キャリアデザインに役立つ情報とICT活用	女性情報とICT活用の意義、大学や社会教育施設等の機能（学習、相談、ネットワーク）や活用方法について理解するとともに、ICT活用や学習を通じて就職や働き方の転換につなげた事例から学ぶ。 【キーワード】 女性情報、生涯学習、ICT、起業	渡辺　美穂 （国立女性教育会館研究員） ゲスト：森　未知（国立女性教育会館専門職員）
8	私のキャリアをデザインする	7回の講座を振り返りながら、実際に学習者が自身の置かれた現状を評価し、今後に向けた具体的なキャリアプランを短期、中長期的視点から立てる。今後もキャリアデザインに重要な生涯学習や活用できる社会資源について学ぶ。 【キーワード】 キャリアデザイン、プランニング、PDCA、評価	中野　洋恵 （国立女性教育会館主任研究員）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	導入科目	科目コード	1710036	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 健康と社会 （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Health and Society (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：井上　洋士　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：山崎　喜比古　（日本福祉大学特任教授）〕

【本学担当専任教員：】

※この科目は「健康と社会('11)」の一部改訂科目です。
改訂回は4, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14回です。

講義概要

健康についての学問はこれまで「健康状態や病気についての生物医学」が主流であり、疾病や健康状態そのものの知識や理解が中心的である。しかし今後は「健康への力」を身につけていくことが求められるようになるだろう。このような時代の「健康への科学」は、行動科学、社会科学など社会諸科学がリンクしたものでなくてはならない。そして、保健医療の専門家でなく市民・住民の立場であっても、保健医療の主体者、または賢いユーザー、良識のある社会人として考え行動していく力を身につけることが必要となる。本講義では、そうした健康や病気と社会とのかかわりについて基礎的理解を深めるのと同時に、一社会人として健康や病気への積極的に対峙する力を育む内容とする。

授業の目標

私たちの健康や生活をとりまくさまざまな社会状況について取り上げながら、納得のいく医療を受け、社会や環境を健康的によりよく変えていくための視点、考え方、行動、スキルについて、学生らが自分自身の問題として習得することを狙いとする。健康・病気と保健・医療の問題を、市民・住民の問題として社会的にみること、あるいは社会的に対応することの重要性の一端を理解することを授業の目標とする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	健康とは何か	健康の定義は様々である。歴史とともに健康や病気、疾患のとらえ方が変わってきている。しかしながら近年では一定の動向が見受けられる。本講義では「健康」とは何か、「社会」とは何かについて、その概略を紹介し、健康と社会とのかかわりについて考える機会としたい。あわせて、2回目以降の授業において、どのように学んでいったらいいのかについて、その一端を紹介する。 【キーワード】 健康、権利、病気、疾患	井上　洋士 (放送大学教授)	井上　洋士 (放送大学教授)
2	病いの経験と患者の生活の質	人々は病気になると、様々な苦痛を感じるようになる。たとえば、社会とのかかわりが切れてしまうといった出来事も起こりうる。こうした病いとともに生きていく経験は、時として生活の質を低下させることにもつながりかねない。まず、病気になるとはどういうことなのか、そして「病い」と「疾患」の違いを踏まえたうえで、疾患でなく病いに着眼することの意味、そして病とは経験であって、その経験を「語る」ことの効果と重要性について解説する。 【キーワード】 生活の質、病いの経験、病の問題、ナラティブ、説明モデル	戸ヶ里　泰典 (放送大学教授)	戸ヶ里　泰典 (放送大学教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	社会によりもたらされる健康と病気	健康や病気は、個人の努力や日々の積み重ねによってももたらされるが、それと同時に社会構造によってもたらされる側面もある。個人では解決しにくい病気や、健康の獲得について、薬害HIV感染事件を例にあげつつ、具体的に紹介する。患者参加型の医療についても取り上げる。 【キーワード】 社会構造、ヘルスプロモーション、協働、個人、薬害	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授） ゲスト：大平勝美（社会福祉法人はばたき福祉事業団理事長）
4	健康で生き生きと働き続けられる労働・職場の条件	近年、企業などが雇用者に対して「上手な働かせ方」をすることが重要と指摘されている。世界的にはILOが「ディーセントワーク（人間らしく尊厳の保てる労働・職場）」を目標に掲げ、我が国では2014年から過労死等防止対策推進法が施行され法令上も変化が起きている。働く人たちの健康維持・増進にとって理にかなった労働・職場とはどういうところなのか、その実現のためにはどういう方向性と取り組みが重要なのかについて明確にする。 【キーワード】 ディーセントワーク（人間らしく尊厳の保てる労働・職場）、疲労・ストレス、過労死等防止、健康職場	山崎　喜比古（日本福祉大学特任教授）	山崎　喜比古（日本福祉大学特任教授） ゲスト：河合薫（キャスター、気象予報士、健康社会学者）
5	ワーク・ライフ・バランスと健康	21世紀に入り、ワーク・ライフ・バランスの必要性が大きくクローズアップされている。働く人々の暮らしや人生を豊かで充実させる「働き方」はどういうものなのか、ワーク・ライフ・バランスの実現を可能にするために社会に求められる取り組みはどうあるべきなのかについて、調査研究結果などをもとに具体的に考えていく。 【キーワード】 働き方・生き方、ワーク・ライフ・バランス、長時間労働、余暇、家事・育児	山崎　喜比古（日本福祉大学特任教授）	山崎　喜比古（日本福祉大学特任教授）
6	賢い医療消費者になるには	人は誰でも一度は医療と接する機会がある。その国々の社会保障システムの中でヘルスケア・サービスは提供されており、我が国においては公費負担医療や医療扶助などを除けば、基本的には一部自己負担によりサービスが提供される。市場の中でヘルスケア・サービスは提供され、基本的に市民はサービスを購入することになる。賢い医療消費者になることは、よりよく生き抜くために重要なことであることを理解する。 【キーワード】 医療消費者（ヘルスケア・コンシューマー）、セルフケア、コンシューマー・オリエンティッド、ヘルスケアシステム	一戸　真子（埼玉学園大学大学院教授）	一戸　真子（埼玉学園大学大学院教授）
7	患者の権利と医療の質	患者には病状や治療内容など自らの身体に関する情報について真実を伝えられる権利や、自らの身体になされる侵襲行為について危険性など知らされる権利がある。また、医療の質を高めるためにはどのようなことが重要であるかを理解しておくことが必要である。さらに、患者安全や医療事故についても考察する。 【キーワード】 患者の権利、医療情報の開示、医療の質、医療評価、患者安全、医療事故	一戸　真子（埼玉学園大学大学院教授）	一戸　真子（埼玉学園大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	医療倫理をめぐる今日的課題	医療の目的は究極的には、「人間の幸福にどれだけ貢献可能であるか」ということができる。科学技術のめざましい進歩によりさまざまな人間の生命に関するアプローチが可能となってきた。ここで重要なことは、個々人の幸福の追求と人類全体としての発展が調和され、社会的倫理観が形成されていくことである。医療倫理をめぐる具体的な今日的課題ごとに検討する。 【キーワード】 医療倫理、医療者－患者関係、「生」に関する倫理、「死」に関する倫理、自己決定、インフォームド・コンセント、先端医療と倫理	一戸　真子（埼玉学園大学大学院教授）	一戸　真子（埼玉学園大学大学院教授）
9	医療と情報提供	医療に関する情報は、人々が病いと向き合ったり医療と付き合ったりする際に重要な資源となり得る。国内で進められているがんに関する情報提供では、がん診療連携拠点病院内に置かれた相談支援センターで、院内外のがん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する情報提供体制を整えている。このセンターを例として、医療と情報提供のあり方について考える。 【キーワード】 がん、相談支援、ヘルスリテラシー、情報提供の仕組み	高山　智子（国立がん研究センターがん対策情報センター部長）	高山　智子（国立がん研究センターがん対策情報センター部長）
10	医療システムの未来－ともに創る医療	医療システムの未来を考えるとき、これまでチーム医療などでしばしば語られる「患者中心型」のみではなく、また、しばしば医療者を批判的に捉えがちな「医療者－患者関係」という概念だけではなく、患者と医療者とが相互に良好な関係を保ち協働でつくりだす医療システムが求められる。この協働でつくる医療について、がん医療の現場を例に紹介する。 【キーワード】 患者－医療者コミュニケーション、患者－医療者関係、ピア・サポート、帰属集団、パートナーシップ	高山　智子（国立がん研究センターがん対策情報センター部長）	高山　智子（国立がん研究センターがん対策情報センター部長） ゲスト：佐々木佐久子（特定非営利活動法人広島がんサポート理事）
11	スティグマと健康	感染症は、間もなくなくなると言われてからすでに長期間が経過した。その間、新たな感染症が次々と登場し、パンデミックを引き起こし、リスクマネジメントの問題が浮かびあがり、感染症に対する恐れや感染者への偏見の問題がクローズアップされてきている。こうした感染症と人権問題について説明する。また、スティグマや、その内面化によるフェルトスティグマでの日常生活自主規制についても考える。 【キーワード】 感染症、人権、差別、偏見、HIV陽性者、スティグマ、フェルトスティグマ	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授） ゲスト：矢島嵩（日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス）
12	セクシュアリティと健康	セクシュアリティについての問題は今日複雑になりつつある。そして、新たな秩序の模索や、ジェンダーの視点から健康やケアを考える試みも少なからずされている。LGBTをめぐる自治体等の動きも無視できない。ここでは、ジェンダーとは何か、セクシュアリティとは何かなどについて説明するとともに、それらに関連した健康問題のいくつかを紹介する。セクシュアルマイノリティと健康とのかかわりについても扱う。 【キーワード】 性、セクシュアリティ、ジェンダー、LGBT	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授） ゲスト：村木真紀（特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	ストレスに向き合いつつ健康に生きる	生きるということは、ストレスと上手に向かうこととともいえる。人間が生きていくということは、困難＝ストレスに出会いながらうまく乗り越えていくことの連続である。そこで、まずストレスとは何かについて整理し、ストレスにはどのように対処し、どのようにうまく付き合っていくことが望ましいのかについて解説する。 【キーワード】 ストレッサー、ストレスプロセス、ストレス対処、首尾一貫感覚、ストレス関連成長	戸ヶ里　泰典（放送大学教授）	戸ヶ里　泰典（放送大学教授）
14	健康と格差	1990年代から2000年代初頭にかけて、我が国の社会は格差社会と呼ばれるようになった。特に「格差」という用語は、一時期は流行語までになった。さらには本来は平等であるはずの人々の健康自体にも格差が生じているといわれるようになった。そもそも格差とは何か、そしてなぜ社会的な格差が人々の健康の差を生じさせてしまっているのかについて解説する。 【キーワード】 社会経済的地位、社会格差、健康の不平等、ソーシャルキャピタル	戸ヶ里　泰典（放送大学教授）	戸ヶ里　泰典（放送大学教授）
15	健康を社会的に見るとは ～健康と社会の新しい見方・考え方	健康・病気と保健・医療を市民・住民の問題として社会的に見ること・社会的に対応することの重要性は何だといえるだろうか。これまでの14回分の授業をまとめることを通じて、その答を発展的に模索する契機とする。また、同様のテーマでさらに学びを深めたい方々のために、健康社会学などの学問分野についても紹介する。 【キーワード】 社会、個人、地域、患者、医療従事者、健康不安、健康社会学	井上　洋士（放送大学教授） 山崎　喜比古（日本福祉大学特任教授） 高山　智子（国立がん研究センターがん対策情報センター部長） 戸ヶ里　泰典（放送大学教授） 一戸　真子（埼玉学園大学大学院教授）	井上　洋士（放送大学教授） 山崎　喜比古（日本福祉大学特任教授） 高山　智子（国立がん研究センターがん対策情報センター部長） 戸ヶ里　泰典（放送大学教授） 一戸　真子（埼玉学園大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234102	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　市民のための健康情報学入門　（’１３）＝　(R)

〔主任講師（現職名）：戸ヶ里　泰典　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：中山　和弘　（聖路加国際大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

私たちが健康的な生活を進めていくうえで、「情報」は必要不可欠なものとなっている。生活を送る上で私たちは様々な選択に迫られるが、こうした選択（意思決定）を助けてくれるのが情報である。かつて健康に関する情報は一部の専門家の手に握られており、私たち市民の手に渡るのは新聞やテレビや雑誌などを通じてしか手に入れることができなかった。しかし昨今はインターネットの発達によって大量の健康に関する情報を手に入れることができるようになり、よりよい意思決定に結び付つけるべく情報を見極めなければならなくなった。その一方で、私たち市民は保健医療のサービスを受ける際も、主体性を求められ、かつてのように医師をはじめとした専門家の判断に任せるのではなく、賢いサービスユーザー、良識ある一個の社会人として判断し行動することが求められるようになっている。この授業では、受講者が一社会人として健康に関する情報を探し、理解し、活用する力として近年脚光を浴びているヘルスリテラシーを身につけるべく、換言すれば「健康を決める力」をつけるべく、「情報」から「保健医療」さらに「コミュニティ（共同体）」にいたるまで健康にかかわる意思決定に役立つ知識やものの見方・考え方、そしてスキルを習得することをねらいとする。

授業の目標

この授業では、受講者が、自身の健康を決める力を身につけ、健康にかかわる問題が起きて選択にせまられた時に、こうした力を活用しよりよい生活を送れるようになることを最終目標とする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	健康における情報と意思決定	メディアにあふれる健康や医療の情報から、適切な情報を探し、理解し、活用する力が自らの健康を決定していることを学習する。わたしたちのふだんの行動が健康に影響しているからで、その影響の大きさについて知る。また、医療は不確実なものであるために、どのような情報が信頼できるものなのか、情報とリスクについても概説する。 【キーワード】 情報、コミュニケーション、ヘルスリテラシー、意思決定、健康を決める力、ライフスタイルと健康、EBM、確率とリスク	中山　和弘（聖路加国際大学教授）	中山　和弘（聖路加国際大学教授）
2	より良い意思決定とは何か	健康や医療においては情報に基づく意思決定が重要である。本章では、まず情報とは何かについて、データや知識との違いや知識の持つ重要性などから解説する。その情報を用いて、その人に合ったよりよい意思決定をするために、どのような意思決定の方法があるのか、そのとき必要になること、葛藤やジレンマ、支援の必要性について学習する。 【キーワード】 データと情報と知識、選択肢、意思決定、ベネフィットとリスク、期待価値と期待効用、意思決定支援	中山　和弘（聖路加国際大学教授）	中山　和弘（聖路加国際大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	信頼できる情報とは①エビデンスに基づいた情報	治療から健康法にいたるまで、保健医療サービスはエビデンスと呼ばれる科学的根拠に基づいて行われている。エビデンスには、低いランクから高いランクまでレベルが存在している。情報がどのランクなのかを踏まえることでより良い意思決定に近づくことができる。エビデンスはどこを探せば出てくるのか、ランクはどのように見抜けば良いのか、そしてエビデンスを利用する際にどのような注意点があるのか、具体例を交えながら説明していく。 【キーワード】 科学的根拠（エビデンス）、エビデンスレベル、EBM、有意確率	戸ヶ里　泰典（放送大学教授）	戸ヶ里　泰典（放送大学教授）
4	信頼できる情報とは②ナラティブ情報	患者やその家族が経験を語ることをナラティブ（Narrative）と呼ばれている。かつてナラティブは医療を混乱させるものとして、排除される傾向にあった。しかし近年ではナラティブに光が当てられてきている。ナラティブに基づいた医療（Narative Based Medicine）と言われる用語も出現してきている。ここでは、ナラティブとは何かに始まり、ナラティブがなぜ医療者・患者・市民にとって重要であるのか、どのように活用するのか説明する。 【キーワード】 ナラティブ、闘病記、闘病ブログ、ナラティブに基づいた医療	戸ヶ里　泰典（放送大学教授）	戸ヶ里　泰典（放送大学教授） ゲスト：星野史雄（元東京家政大学非常勤講師）
5	インターネット上の保健医療情報の見方探し方	インターネットは私たちの生活の中で欠かせないものとなってきている。インターネットを利用することは、健康につながっていることも示されている。その一方でインターネットには様々な情報があふれ、信頼できない情報を提供するサイトもまた多く存在している。こうしたインターネット上の健康情報の見方や情報の手に入れ方については様々な注意が必要である。いかにして注意し、いかにしてうまく利用するかを説明する。 【キーワード】 インターネット、ソーシャルメディア、ソーシャルサポート、ICT、情報格差、健康格差、アクセシビリティ、ユーザビリティ	中山　和弘（聖路加国際大学教授）	中山　和弘（聖路加国際大学教授）
6	医療の質を評価する視点	質の高い医療とはどのようなものであろうか？。個人の健康や満足度を高めることが医療の目的だとすると，医療の結果としての個人の健康や満足度を測定すればよいのかもしれない。しかし，その過程で適切とはいえない治療が行われていたら，それは質の高い医療と言えるだろうか？　本章では，医療の質を評価する視点について，また，医療技術が開発される段階で，医療技術の有効性をいかに評価するか，その方法論を検討する。 【キーワード】 医療の質、無作為化比較試験、第三者評価、クリティカル・パス	山本　武志（札幌医科大学講師）	山本　武志（札幌医科大学講師） ゲスト：緒方泰子（東京医科歯科大学教授）
7	健康情報のコミュニケーションとヘルスリテラシー	前章まで、主に情報の見方や探し方について述べてきたが、情報は集めるだけでなく、知識として理解し、自分や周囲の人々の健康の維持・改善のために活用できなければ意味がない。健康や医療に関する情報を集め、理解して活用するためのスキルや能力を、ヘルスリテラシーと呼ぶ。この章では、本講義のキーワードの1つでもあるヘルスリテラシーとは何か、ヘルスリテラシーが高いとどのような良いことがあるのか、低いとどんな問題があるのかを解説する。 【キーワード】 ヘルスコミュニケーション、ヘルスリテラシー、Healthy People	石川　ひろの（東京大学大学院准教授）	石川　ひろの（東京大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	患者・医療者関係の変化と協働の医療	医療というサービスや職業としての特殊性から、医療における対人関係、特に患者と医師との関係は、古くから議論されてきた。近年、その関係が大きく変化している。患者中心の医療や協働の医療などのモデルが提唱され、患者－医療者間での情報や意思決定の共有が重視されるようになった。本章では、古典的な患者-医療者関係のモデルと特徴を紹介した上で、こうした変化について情報とコミュニケーションという観点から解説する。 【キーワード】 患者－医師関係、協働の医療、父権主義、インフォームド・コンセント、事前指示	石川　ひろの（東京大学大学院准教授）	石川　ひろの（東京大学大学院准教授）
9	専門家とのコミュニケーション実践法	近年、診療ガイドラインの公開やクリニカルパスの使用など、患者が医療者と協働して治療のプロセスに積極的に参加することのできる機会が増えてきている。本章では、診療ガイドラインおよびクリニカルパスとは何か、患者や市民にとってどのような意義をもつかについて解説する。その上で、このような医療者との情報共有のための新しいツールの利用を含め、医療機関において、医療者とうまくコミュニケーションをとっていくために、私たちはどのようなことができるか考える。 【キーワード】 診療ガイドライン、クリニカルパス、患者医師間コミュニケーション、Shared Decision Making	石川　ひろの（東京大学大学院准教授）	石川　ひろの（東京大学大学院准教授） ゲスト：山口育子（NPO法人ささえあい医療人権センターCOML）
10	医療安全とコミュニケーション	医療は人々の健康を守り，寿命の延長の一助となる役割を果たしてきた。その一方で臨床的医原病といわれるように，医療そのものが害を及ぼす可能性を孕んでいる。リスクを伴う治療法の意思決定には，正確でわかりやすい情報提供が必要だが，医療専門職はコミュニケーションのための十分な教育を受けていない。安全な医療が提供されるために教育や医療の現場で取り組まれている様々な方略について提示し，議論する。 【キーワード】 医療コミュニケーション、医療安全、臨床的医原病、意思決定	山本　武志（札幌医科大学講師）	山本　武志（札幌医科大学講師） ゲスト：橋本廸生（日本医療評価機構執行理事）
11	代替医療・健康食品との付き合い方	現代医療ではなく、民間療法やサプリメントなどの健康食品を使用したり、併用する人が増えている。例えばがん患者の約半数はこうした補完代替医療を行っていると言われている。しかしそのほとんどは有効性と安全性の検証は十分に行われていない。一方で、病だけでなく心身を含め人間を包括的に診る医療が期待されており、代替医療への注目も高まっている。こうした代替医療や健康食品とはどのようにすればうまく付き合っていくことができるのか、わかりやすく説明する。 【キーワード】 代替医療、健康食品、がん、民間療法、統合医療、全人的医療	津野　陽子（東京大学政策ビジョン研究センター特任助教）	津野　陽子（東京大学政策ビジョン研究センター特任助教） ゲスト：本江朝美（横浜創英大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	ヘルスプロモーションと地域づくり	健康とは身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態を言い、単に疾病あるいは病弱でないということではないと言われている。どうすれば病気にならずに済むのかだけでなく、どうすれば健康になれるのかを考えることも重要である。こうした中ヘルスプロモーションと呼ばれる世界的な健康づくりの戦略が提示されている。このヘルスプロモーションと、その骨子である個人の能力の向上と、地域環境づくりの重要性について説明する。 【キーワード】 ヘルスプロモーション、ヘルシーシティ、ヘルシーピープル、エンパワメント、健康生成論	津野　陽子（東京大学政策ビジョン研究センター特任助教）	津野　陽子（東京大学政策ビジョン研究センター特任助教）
13	生活習慣と環境を変える方法	より健康的な生活を送るために、例えば、食べ過ぎ、運動不足、喫煙、飲酒といった病気になりやすい生活習慣を修正していく必要がある。あるいは、より健康的なライフスタイルや考え方にシフトさせていく必要がある。こうした変化は病院に行き薬をもらうことでは生じない。エビデンスに基づいたりナラティブに基づく情報も重要であるし、心がけも重要である。どのようにすればライフスタイル、さらには身の回りの環境も変化させることができるのかを説明する。 【キーワード】 ライフスタイル、健康行動、セルフケア、行動変容、自己効力感、行動の意思決定理論	津野　陽子（東京大学政策ビジョン研究センター特任助教）	津野　陽子（東京大学政策ビジョン研究センター特任助教）
14	人と人とのつながりと健康	人と人とのつながりが広いほど健康で長生きであることが分かっている。また、信頼関係が強かったり、お互いに助け合う（ソーシャルキャピタルが高い）土壌で生活するほどそこの住民は健康になると言われている。さらに、こうした地域＝コミュニティは物理的な地域を超えweb上にもある。特にソーシャルメディアを通じての情報交換や支援関係は健康に関する側面においても新たな展開を迎えており、その可能性と注意点について解説していく。 【キーワード】 ソーシャルサポート、ソーシャルネットワーク、ソーシャルキャピタル、ソーシャルネットワークサービス（SNS）	中山　和弘（聖路加国際大学教授） 戸ヶ里　泰典（放送大学教授）	中山　和弘（聖路加国際大学教授） 戸ヶ里　泰典（放送大学教授）
15	健康を決める力とは	健康につなげていくための知識と見識を身につけるべく、情報を探し、理解し、活用するスキルであり力であるヘルスリテラシーを軸に保健・医療にかかわるミクロからマクロまでの様々なトピックを14回にわたって扱ってきた。最終回では、私たちの健康を決める力とは何かについてこれまでの講義内容を俯瞰したうえで改めて考えていきたい。 【キーワード】 健康、情報、意思決定、ヘルスリテラシー、医療安全、ソーシャルキャピタル	戸ヶ里　泰典（放送大学教授） 中山　和弘（聖路加国際大学教授） 石川　ひろの（東京大学准教授） 山本　武志（札幌医科大学講師） 津野　陽子（東京大学政策ビジョン研究センター特任助教）	戸ヶ里　泰典（放送大学教授） 中山　和弘（聖路加国際大学教授） 石川　ひろの（東京大学准教授） 山本　武志（札幌医科大学講師） 津野　陽子（東京大学政策ビジョン研究センター特任助教）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	導入科目	科目コード	1710044	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 疾病の成立と回復促進 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Pathogenesis of Diseases and Promotion of Recovery (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：岡田 忍 （千葉大学大学院教授） 〕

〔主任講師（現職名）：佐伯 由香 （愛媛大学大学院教授） 〕

【本学担当専任教員：田城 孝雄 （放送大学教授） 】

講義概要

疾病を持つ人々に対して適切な看護を提供するためには、疾病の原因、基本的な病変の概念、様々な疾病がもたらす身体内部の変化と生活への影響、疾病の回復過程とそれを促進する要因について理解していることが必要である。本講義では、看護師が疾病の成立と回復促進について学ぶことの意義、疾病を引き起こす原因とそれによって細胞や組織に生じる変化、基本的な病変の概念、疾病に対して提供される医療についての講義を行ったうえで、生命活動や生活にどのような障害をもたらすのかという視点から、様々な疾病について解説する。

授業の目標

疾病の原因とそれによって生じる変化、基本的な病変の概念について細胞、組織のレベルで理解できること、様々な疾病がもたらす身体内部の変化と生活への影響、疾病の回復過程とそれを促進する要因について理解できることを目標とする。

履修上の留意点

「疾病の回復を促進する薬」と合わせて履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	イントロダクション 疾病の原因と細胞・組織障害、再生と修復	看護師にとって疾病の成立及びその回復過程を理解することの意義について事例を用いて解説する。疾病を引き起こす様々な原因とそれによって細胞、組織に生じる障害や変化、障害への適応や修復過程について学ぶ。 【キーワード】 病因、変性、萎縮、壊死、アポトーシス、再生、肥大、過形成、創傷治癒	岡田 忍 （千葉大学大学院教授）	岡田 忍 （千葉大学大学院教授） ゲスト：小坂直子（千葉大学看護学部非常勤講師）
2	基本的な病変とその機序	病変は、その発生機序によっていくつかの基本的なカテゴリーに分類することができる。様々な疾病を理解する上で基礎となる基本的な病変とその機序について学ぶ。 【キーワード】 循環障害、炎症、腫瘍、代謝異常、先天異常、老年症候群	岡田 忍 （千葉大学大学院教授）	岡田 忍 （千葉大学大学院教授）
3	健康状態を脅かす微生物と生体防御	人と微生物の関わり、人に感染症をおこす細菌、ウイルス等の微生物の種類と特徴、微生物が感染症を引き起こす過程、微生物に対して人に備わった生体防御のしくみについて学ぶ。 【キーワード】 常在菌、微生物、薬剤耐性菌、感染症、自然免疫、獲得免疫	岡田 忍 （千葉大学大学院教授）	岡田 忍 （千葉大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	疾病に対する医療	感染症を防ぐ手段である予防接種、疾病の診断のために行われる様々な検査、疾病に対して行われる手術療法、薬物療法といった治療、疾病によって障害された機能の回復や維持を目的としたリハビリテーションなど、疾病に対して行われる医療の概要について学ぶ。 【キーワード】 予防接種、診断、手術療法、薬物療法、放射線治療、リハビリテーション	田城　孝雄（放送大学教授）	田城　孝雄（放送大学教授）
5	神経機能の障害	身体に入力される情報を収集・統合して、各器官系のはたらきを調節する中枢神経系（脳、脊髄）および末梢神経系（体性神経系、自律神経系）、感覚器系の障害を引き起こす主な疾患とそれによって生じる機能障害について学ぶ。 【キーワード】 脳血管障害、神経変性疾患、認知症、末梢神経障害、感覚機能障害	山内　豊明（名古屋大学大学院教授）	山内　豊明（名古屋大学大学院教授）
6	呼吸機能の障害	生命活動に不可欠な酸素を取り込み、二酸化炭素を排出する機能を担う呼吸器系（気道、肺、胸腔）の主な疾患とそれによって生じる呼吸機能の障害について学ぶ。 【キーワード】 肺炎、閉塞性肺疾患、肺塞栓症、肺がん、呼吸不全、気胸	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）
7	循環機能の障害	生命活動に不可欠な酸素や栄養を全身の組織に送るための仕組みである循環器系（心、血管）の主な疾患とそれによって生じる循環機能の障害について学ぶ。 【キーワード】 心不全、虚血性心疾患、弁膜症、不整脈、先天性心疾患、動脈硬化症、高血圧	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）
8	造血機能の障害	血液を産生する機能を営む造血器（骨髄）の主な疾患、造血機能の障害の結果おこる血球の減少や増加、凝固系の異常などによって引き起こされる疾患について学ぶ。 【キーワード】 貧血、白血病、凝固系、線溶系、出血傾向	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）
9	免疫機能の障害	本来人を感染症から守る仕組みである免疫系の異常によって発生する自己免疫疾患や、アレルギー性疾患、免疫機能の低下を示す疾患について学ぶ。 【キーワード】 SLE、関節リウマチ、シェーグレン症候群、花粉症、じんましん、接触皮膚炎、免疫不全	岡田　忍（千葉大学大学院教授）	岡田　忍（千葉大学大学院教授）
10	消化機能の障害	摂取した食物から必要な栄養素を取り入れる消化機能を担う消化器系（口腔、食道、胃、腸、肝臓、膵臓、胆道系）の主な疾患について学ぶ。 【キーワード】 嚥下障害、逆流性食道炎、う歯、歯周病、胃潰瘍、胃がん、大腸がん、イレウス、腹膜炎、肝炎、肝硬変、肝がん、膵がん、黄疸	田城　孝雄（放送大学教授）	田城　孝雄（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	栄養バランスの障害	生活習慣によって栄養バランスが障害され、栄養素の過剰や不足をきたした結果発生する主な疾患について学ぶ。 【キーワード】 メタボリックシンドローム、肥満、糖尿病、脂質異常症、痛風、低栄養、ビタミン欠乏	山内　豊明（名古屋大学大学院教授）	山内　豊明（名古屋大学大学院教授）
12	排泄機能の障害	尿をつくり、老廃物を排泄する機能を担う泌尿器系（腎、尿路）の主な疾患とそれによっておこる尿排泄機能の障害と排便の障害について学ぶ。 【キーワード】 糸球体腎炎、尿路感染症、腎がん、膀胱がん、尿路通過障害、排尿障害、腎不全、便秘、下痢	長嶋　洋治（東京女子医科大学病院教授）	長嶋　洋治（東京女子医科大学病院教授）
13	内部環境調節機能の障害	人の内部環境の恒常性を維持する機能を担う内分泌系（下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎）の主な疾患、自律神経系の機能障害、体液の調節障害について学ぶ。 【キーワード】 下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、多発性内分泌腫瘍、脱水、電解質異常、酸塩基平衡異常、自律神経失調	山内　豊明（名古屋大学大学院教授）	山内　豊明（名古屋大学大学院教授）
14	運動機能の障害	姿勢を保ち、運動機能を担う骨、関節、筋肉、神経筋接合部の主な疾患、活動や行動の制限によっておこる運動機能の障害について学ぶ。 【キーワード】 骨折、骨粗鬆症、変形性関節症、腰痛症、筋ジストロフィー、重症筋無力症、廃用症候群	長嶋　洋治（東京女子医科大学病院教授）	長嶋　洋治（東京女子医科大学病院教授）
15	生殖機能の障害	子孫を残すための生殖機能に関係する生殖器系（子宮、卵巣、乳腺、精巣、前立腺）の主な疾患、生殖行動の障害である性機能障害について学ぶ。 【キーワード】 子宮がん、卵巣腫瘍、乳腺炎、乳がん、精巣腫瘍、前立腺がん、性機能障害	長嶋　洋治（東京女子医科大学病院教授）	長嶋　洋治（東京女子医科大学病院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	導入科目	科目コード	1710052	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 疾病の回復を促進する薬 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Medicines for Promoting Recovery from Illnesses (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：櫻井　隆　（順天堂大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：服部　信孝　（順天堂大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：田城　孝雄　（放送大学教授）】

講義概要

病気は身体の機能が正常範囲をはずれて亢進または低下した状態と言える。その治療の一つとして使用される薬物は、いろいろなメカニズムで作用をあらわし、身体の機能を正常に近づけるように働く。しかしながら、場合によっては身体に有害な作用をもたらすこともある。この講義では、臨床で用いられている代表的な薬の作用メカニズム、副作用（有害反応）、使用上の注意点を学んでいく。特に各論においては、臨床に携わる医師が薬物治療の経験をもとに講義を行うことを特徴としている。さらに、薬が医療の中でどのような役割を担っているか、薬が有効かつ安全に使われるために、医師・看護師・薬剤師などがどのように協力していくべきかを理解する。この授業は、看護師学校養成所2年課程（通信制）に対応可能な科目としても作成されている。

授業の目標

薬物を用いた疾病の治療、予防や検査を行うために必要となる基礎的な知識を修得する。薬を用いた有効な治療を進め、有害反応を防ぐために必要な基礎知識を身につけるとともに、薬に関する法令や薬の管理についても理解する。

履修上の留意点

「人体の構造と機能」「疾病の成立と回復促進」などの科目とあわせて履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	薬理学総論(1)	薬は病気の予防、診断、治療に用いられる化学物質であり、薬理学は薬と生体との間に起こる相互作用を明らかにする学問である。薬が有益な効果をあらわす一方で、有害な反応も生じる仕組みについて基本的な考え方を理解する。薬の基本的な分類や法律による規制などについても学ぶ。 【キーワード】 薬物受容体、用量－反応曲線、副作用、有害反応、新薬の開発、法規制	櫻井　隆（順天堂大学大学院教授）	櫻井　隆（順天堂大学大学院教授）
2	薬理学総論(2)	投与された薬物は、吸収、血液から組織への分布、代謝、体外への排泄という経過をたどる。また、薬の作用は用量だけでなく、遺伝的背景、年齢、性別、基礎疾患、併用薬物などにより大きく変化する。目的の部位で効果を発揮し、有害反応を避けるために理解しておくべき薬の体内動態の基礎および薬効の個人差に影響を与える因子について学ぶ。 【キーワード】 投与経路、薬物動態、薬物相互作用、個別化医療	櫻井　隆（順天堂大学大学院教授）	櫻井　隆（順天堂大学大学院教授）
3	末梢神経に作用する薬	末梢神経は、交感神経系・副交感神経系からなる自律神経系と感覚神経・運動神経からなる体性神経系に分けられる。内臓の機能、血管、分泌などの調節を介して体内の恒常性の維持に重要な役割を果たしている自律神経系に作用する薬について学ぶ。また、運動神経の機能抑制により骨格筋弛緩をもたらす筋弛緩薬、感覚神経の抑制により知覚の消失をもたらす局所麻酔薬について学ぶ。 【キーワード】 自律神経系、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬	服部　信孝（順天堂大学大学院教授）	服部　信孝（順天堂大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	中枢神経系に作用する薬(1)	中枢神経系は脳と脊髄から構成されており、外界からの情報の受容、記憶や学習を含む情報処理や判断を司る。中枢神経系の機能を抑制することで効果をあらわす全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗てんかん薬および麻薬性鎮痛薬について、作用する仕組み、適応および副作用など臨床上の注意点について学ぶ。 【キーワード】 全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬	服部　信孝（順天堂大学大学院教授）	服部　信孝（順天堂大学大学院教授）
5	中枢神経系に作用する薬(2)	本講義では、前回に引き続き中枢神経系に作用する薬物として、パーキンソン病および認知症の治療に使用される薬物、向精神薬として重要な統合失調症治療薬と抗うつ薬について、作用する仕組み、適応および副作用など臨床上の注意点について学ぶ。 【キーワード】 パーキンソン病治療薬、認知症治療薬、統合失調症治療薬、抗うつ薬、薬物依存	服部　信孝（順天堂大学大学院教授）	服部　信孝（順天堂大学大学院教授）
6	循環器系に作用する薬(1)	心血管系は心臓のポンプ機能により血液を全身に送り、組織に酸素や栄養を供給する重要な役割を担っている。高血圧は血管のダメージを介して動脈硬化を引き起こしうる。冠動脈狭窄による血流低下のため心筋の酸素需要を満たせなくなると狭心症が発生する。高血圧症、脂質異常症は動脈硬化の重要な危険因子であり、その治療は、虚血性心疾患の予防に重要である。虚血性心疾患の治療薬は、冠動脈拡張薬、心負荷の軽減、血栓予防など多彩であり、これらの病態生理を理解する必要がある。この講義では、代表的治療薬について作用する仕組み、適応および副作用など臨床上の注意点について学ぶ。 【キーワード】 高血圧治療薬、狭心症治療薬、抗凝固薬、脂質異常症治療薬	代田　浩之（順天堂大学大学院教授）	代田　浩之（順天堂大学大学院教授）
7	循環器系に作用する薬(2)	本講義では、心臓のポンプ機能が低下して組織・臓器の需要に見合う血液を送り出せなくなった状態である心不全、心筋細胞の電気活動の異常による不整脈の病態生理を理解する。代表的な治療薬について作用する仕組み、適応および副作用など臨床上の注意点について学ぶ。 【キーワード】 心不全治療薬、抗不整脈薬	代田　浩之（順天堂大学大学院教授）	代田　浩之（順天堂大学大学院教授）
8	呼吸器・消化器系に作用する薬	本講義では、呼吸器・消化器系における代表的疾患を取りあげる。その病態生理を理解するとともに、代表的な治療薬について作用する仕組み、適応および副作用など臨床上の注意点について学ぶ。 【キーワード】 喘息治療薬、消化性潰瘍治療薬、潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬、肝疾患治療薬	小川　薫（順天堂大学教授）	小川　薫（順天堂大学教授）
9	代謝・内分泌系に作用する薬	内分泌器官から血中に分泌されるホルモンは外部環境の変化に対応して、体内の恒常性を維持する役割を担っている。代表的疾患として、糖代謝を調節するホルモンであるインスリンの分泌・機能異常による糖尿病、全身の代謝を調節する甲状腺ホルモンの分泌異常、骨代謝異常による骨粗鬆症を取りあげる。病態生理を理解するとともに代表的治療薬について作用する仕組み、適応および副作用など臨床上の注意点について学ぶ。 【キーワード】 糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬、骨粗鬆症治療薬	小川　薫（順天堂大学教授）	小川　薫（順天堂大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	抗感染症薬と消毒薬	病原性を持つ細菌、真菌、ウイルスに対して用いられる薬物が作用する仕組み、適応および副作用など臨床上の注意点について学ぶ。また、感染防止のために用いられる消毒薬の種類と特徴、使用上の注意点を理解する。 【キーワード】 抗菌薬、薬物耐性、院内感染、抗ウイルス薬、消毒薬	内藤　俊夫（順天堂大学大学院教授）	内藤　俊夫（順天堂大学大学院教授）
11	抗アレルギー薬、抗炎症薬、免疫調整薬	人の身体に異物が侵入すると身体を防御する免疫系が働く。免疫応答が過剰に起こった場合などに用いられる免疫応答を調節する薬について学ぶ。また、ステロイド・非ステロイド性抗炎症薬の作用の仕組み、適応および副作用など臨床上の注意点について学ぶ。 【キーワード】 抗アレルギー薬、非ステロイド性抗炎症薬、ステロイド性抗炎症薬、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬	内藤　俊夫（順天堂大学大学院教授）	内藤　俊夫（順天堂大学大学院教授）
12	抗がん薬	がん化学療法薬の種類、適応および副作用など臨床上の注意点について理解する。近年、進歩が著しい分子標的薬について学ぶ。 【キーワード】 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍性抗生物質、分子標的薬	小松　則夫（順天堂大学大学院教授）	小松　則夫（順天堂大学大学院教授）
13	救急領域で用いられる薬	生命の危機にある患者を治療する救急医療の場で用いられる薬物について学ぶ。あわせて、医薬品・農薬などによる中毒に対する処置、解毒薬について学ぶ。 【キーワード】 ショック、血栓症、中毒、輸液	射場　敏明（順天堂大学大学院教授）	射場　敏明（順天堂大学大学院教授）
14	妊娠・授乳中、小児への薬の使用	薬物の効果には大きな個人差があり、同じ患者であっても効果に変化が生じることがある。安全に薬物を使用するためには薬に対して感受性の高い時期、薬の体内動態の変化について理解することが重要である。特に注意が必要な妊娠・授乳中と小児における薬の使用について学ぶ。 【キーワード】 催奇形性、胎児毒性、小児の薬物動態	坂口　佐知（元順天堂大学助教）	坂口　佐知（元順天堂大学助教）
15	チーム医療と薬の安全な使用	病院内、在宅ケアなどの場における医薬品使用のプロセスと医師・看護師・薬剤師などの医療スタッフの関わりについて学び、薬の安全な使用について考える。また、高齢者の服薬の特徴について考える。 【キーワード】 副反応、チーム医療、多剤併用（polypharmacy）、多職種連携、在宅医療	田城　孝雄（放送大学教授）	田城　孝雄（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234080	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　人体の構造と機能　　（’１２）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：大和谷　厚　（大阪大学名誉教授）　〕

〔主任講師（現職名）：佐伯　由香　（愛媛大学大学院教授）　〕

【本学担当専任教員：田城　孝雄　（放送大学教授）　】

講義概要

私たちの体は両親からの遺伝情報を受け継いだ1個の受精卵が分裂を繰り返し増殖した約60兆個の細胞から成り立っている。それぞれの細胞は分化し、集団を形成して組織となり、組織が組み合わさって構成される器官（臓器）が有機的に連関して特定の機能をもった器官系を形成している。これら各器官系の構造と機能を学ぶとともに、人体の内部環境の恒常性を維持する営み、生体を防御するしくみ、生命を次代に繋ぐ生殖、そして個体の老化について学び、看護の対象である人間の身体で繰り広げられている生命活動を理解する。

授業の目標

日常生活を営むうえで、人体がどのような構造を持ち機能しているかについて理解し、疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習するための基礎とする。

履修上の留意点

特に必要な予備知識はありません。「疾病の成立と回復促進」を履修していただくと、人の体での生命活動をより深く学習できます。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人体の基本構造と機能	人体を構成する最小単位である細胞の構造と機能について理解し、細胞が集って組織、器官、器官系を形成してできる人体の基本構造を概説する。また、人体の基礎的機能を植物機能と動物機能に分けて説明する。 【キーワード】 細胞、組織、器官、器官系、遺伝情報、情報伝達、身体の区分、植物機能、動物機能	大和谷　厚（大阪大学名誉教授）	大和谷　厚（大阪大学名誉教授）
2	恒常性の維持	多数の細胞からなる生体は細胞間で情報交換し、生命活動を行うのに最適な内部環境を整え、この恒常性を維持している。このことを体液の組成と量および体温の調節から説明する。また、生命活動には様々な周期での規則的な変動がありこの生体リズムについても解説する。 【キーワード】 生体の組成、体液、物質の移動、浸透圧、酸塩基平衡、体温、生体リズム	彼末　一之（早稲田大学教授）	彼末　一之（早稲田大学教授）
3	栄養と代謝	内部環境を維持し生命活動を営むため、私たちは外界より栄養素を取り入れ、人体にとって必要なものに代謝し、そして不必要なものを分解し外界へ排泄している。個々の栄養素について、この過程を説明する。 【キーワード】 栄養素、ビタミン、酵素、同化と異化、炭水化物、脂肪、蛋白質、核酸	大和谷　厚（大阪大学名誉教授）	大和谷　厚（大阪大学名誉教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	生体の防御機構：免疫	自己と非自己を区別し、認識した非自己を排除するしくみが免疫である。免疫により外部からの病原微生物などから体を守る一方、アレルギー反応や自己免疫疾患など生体に不都合な状況を作り出してしまうこともある。この免疫のしくみについて解説する。 【キーワード】 自然免疫、獲得免疫、抗原、抗体、感染防御、アレルギー、自己免疫	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）
5	神経系の構成と機能	私たちの体の内外からの情報を集め、それを処理し、身体の機能をコントロールする神経系について、その構造と機能、情報伝達のしくみについて説明する。 【キーワード】 情報伝達機構、中枢神経系、脳循環、体性神経、自律神経	彼末　一之（早稲田大学教授）	彼末　一之（早稲田大学教授）
6	内分泌系のしくみと働き	内分泌臓器はそれぞれの特有のホルモンを合成し分泌して、内部環境の調節を神経系とともに担っている。これらのホルモンには、どのような種類があり、どのようなしくみで作用し、生命活動を調節しているかについて解説する。 【キーワード】 ホルモン、視床下部、下垂体、甲状腺、膵島、副腎、性腺	内田　さえ（東京都健康長寿医療センター研究員）	内田　さえ（東京都健康長寿医療センター研究員）
7	血液の組成と機能	体中を流れ、物質や熱の運搬、内部環境の維持、感染防御、止血などの機能を持つ血液について、その成分と機能を解説し、また、血液型の概略と輸血について説明する。 【キーワード】 血液幹細胞、赤血球、白血球、血小板、血漿、血漿たんぱく、血液凝固、血液型、輸血	大和谷　厚（大阪大学名誉教授）	大和谷　厚（大阪大学名誉教授）
8	循環器系(1)：心臓の構造と機能	循環器系の中心である心臓について、その構造、発生と心奇形、心筋収縮のメカニズムとその調節機構、そして、心臓を栄養する冠循環系について解説する。 【キーワード】 心室、心房、弁、固有心筋、刺激伝導、冠循環、心機能	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）
9	循環器系(2)：血管系とリンパ系の構造と機能	心臓から送り出された血液は、血管の中を流れ、全身を灌流したのち心臓に戻ってくる。この血管の種類、構造、機能について説明し、個々の血管系、胎児期の循環、血圧の調節について解説する。また、組織液の循環を司るリンパ系についても解説する。 【キーワード】 動脈、静脈、門脈、毛細管、肺循環、体循環、胎児の血液循環、血圧、リンパ系	彼末　一之（早稲田大学教授）	彼末　一之（早稲田大学教授）
10	呼吸器系の構成と機能	細胞での物質代謝やエネルギー代謝に不可欠な酸素を取り入れ、生じた二酸化炭素を排出する呼吸器系について、その構成と機能、呼吸運動の調節について解説する。また、声帯での発声機構についても説明する。 【キーワード】 上気道、声帯、気管、気管支、肺、縦郭、呼吸機能、ガス交換、内呼吸、外呼吸	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	消化器系の構成と機能	食物を摂取し、消化し、栄養素を吸収するための全長9mに達する消化管と、その消化吸収に関わる付属器官としての肝臓、胆嚢、膵臓について、構造と機能を説明する。また、咀嚼、嚥下、排便についても解説する。 【キーワード】 食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、消化と吸収、肝臓、胆嚢、膵臓、消化酵素、咀嚼、嚥下、排便	内田　さえ（東京都健康長寿医療センター研究員）	内田　さえ（東京都健康長寿医療センター研究員）
12	尿の生成と排尿：泌尿器系の構成と機能	腎臓で生成された尿は、尿管を経て膀胱に溜め、尿道から排尿する。この泌尿器の構造、尿生成のメカニズム、蓄尿と排尿の調節機構について解説する。 【キーワード】 腎臓、糸球体、尿細管、尿生成、腎機能、尿管、膀胱、尿道、蓄尿、排尿	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）	佐伯　由香（愛媛大学大学院教授）
13	運動器系の構成と運動のしくみ	骨格と骨格筋、関節の形態と構造、筋収縮の分子機構、そして姿勢や運動の制御のしくみについて解説する。 【キーワード】 骨、関節、骨格筋、筋収縮、運動、姿勢、錐体路、錐体外路	彼末　一之（早稲田大学教授）	彼末　一之（早稲田大学教授）
14	感覚器系の構造と機能	体の外の光、音、温度、圧力、重力や化学物質、あるいは体の中の運動感覚や臓器感覚（尿意、満腹感、内臓痛など）を認識している感覚器系について、構造とそれぞれの感覚の認識のしくみについて解説する。 【キーワード】 感覚、視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、体性感覚	大和谷　厚（大阪大学名誉教授）	大和谷　厚（大阪大学名誉教授）
15	生殖と老化	新しい個体を生み出す生殖について、その機能を担う生殖器の構造と働き、受精から分娩に至る経過について説明する。さらに、誕生した個体の成長と加齢による変化、そして寿命と死についても解説する。 【キーワード】 女性生殖器、性周期、男性生殖器、勃起と射精、妊娠、分娩、成長、老化	内田　さえ（東京都健康長寿医療センター研究員）	内田　さえ（東京都健康長寿医療センター研究員）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	導入科目	科目コード	1710060	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 睡眠と健康 （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Sleep and Health (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：宮崎　総一郎　（中部大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：林　光緒　（広島大学教授）〕

【本学担当専任教員：関根　紀子　（放送大学准教授）】

※この科目は「睡眠と健康('13)」の一部改訂科目です。
改訂回は2，13，15回です。

講義概要

睡眠と覚醒によるリズムは生命現象の基盤にあり、睡眠は栄養や運動と並んで、健康を支える重要な要素である。したがって、睡眠は健康の維持増進に関わるライフスタイルの改善に必須であるばかりでなく、労働環境の改善、疾病予防や事故防止にとっても重要であると考えられる。新しい学問体系として、2002年に睡眠学は日本学術会議から提唱され、認知されつつある。本科目では、健康に関わる睡眠について、眠りのメカニズム等に関わる科学的アプローチ、睡眠に関連した疾病等の医学的アプローチ、睡眠障害の社会に及ぼす課題等の社会学的アプローチにより構成されている。

授業の目標

睡眠不足や睡眠の不規則性に伴う日中の眠気や作業能力の低下、あるいはストレスなどで眠れなくなる不眠は、誰しも日常的に遭遇する問題である。適切な睡眠を得ることは、身体にとって栄養補給と同じく不可欠である。本科目では、睡眠について科学的根拠にもとづいた知識を提供するとともに、ライフステージにおける睡眠の課題を明らかにすることによって、健康の維持増進に関わる自己管理能力を高めることをねらいとしている。

履修上の留意点

健康の維持増進を支える要素には、栄養、運動、休養（睡眠）がある。健康領域の科目として、基盤科目の「運動と健康（’13）」を学んでいることが望ましい。また、専門科目にある「食と健康（’12）」を履修することも望まれる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	睡眠学への誘い	睡眠研究の歴史を概観し、日本学術会議で提唱された睡眠学を睡眠科学、睡眠医歯薬学、睡眠社会学の観点から概説する。 【キーワード】 24時間社会、睡眠学、睡眠科学、睡眠医歯薬学、睡眠社会学	宮崎　総一郎（中部大学教授）	宮崎　総一郎（中部大学教授）
2	生体リズム	私たちが夜眠り、朝起きるのは、私たちの体内に生体リズムが備わっているからである。約24時間周期の概日リズムをはじめ、種々の生体リズムが睡眠にどのような影響を及ぼしているか解説する。 【キーワード】 概日リズム（サーカディアンリズム）、体温リズム、超日リズム（ウルトラディアンリズム）、同調、脱同調	林　光緒（広島大学教授）	林　光緒（広島大学教授）
3	睡眠の役割	睡眠の役割は、単なる休息といった消極的なものではなく、脳を創り、守り、修復することで、より良い活動ができるようにするための重要な生理機能を果たしている。睡眠の意義、必要性について解説する。 【キーワード】 レム睡眠、ノンレム睡眠、交感神経、副交感神経、成長ホルモン、メラトニン、コルチゾール	宮崎　総一郎（中部大学教授）	宮崎　総一郎（中部大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	睡眠の構造	一夜の睡眠経過を通して、睡眠脳波や睡眠の深さ、ノンレム睡眠とレム睡眠の違いなど、睡眠の構造について解説する。 【キーワード】 睡眠脳波、睡眠ポリグラフ記録、睡眠段階、レム睡眠、ノンレム睡眠、睡眠経過	林　光緒 (広島大学教授)	林　光緒 (広島大学教授)
5	睡眠のメカニズム	睡眠覚醒の調節機構について、睡眠のタイミングと深さという二面的な視点から、体内時計がどのように機能しているのか、睡眠物質としてどのようなものがあるのか、睡眠物質が体内でどのように産生されて機能しているのかについて解説する。 【キーワード】 体内時計、メラトニン、睡眠物質、プロスタグランジン、アデノシン、オレキシン	勢井　宏義 (徳島大学教授)	勢井　宏義 (徳島大学教授)
6	睡眠と発達・性差	睡眠は加齢によって異なり、性差もみられる。乳幼児から高齢者にいたるまでの年齢による睡眠の特徴、男女による睡眠の違いについて解説する。 【キーワード】 加齢、子どもの睡眠、中高年の睡眠、女性の睡眠、月経リズム、更年期	林　光緒 (広島大学教授)	林　光緒 (広島大学教授)
7	睡眠と夢・記憶	なぜ夢をみるのか、夢の形成について解説するとともに、学習による知識や技能が睡眠中にどのように記憶されていくのかについて解説する。 【キーワード】 夢、入眠時心像、金縛り、宣言的記憶、手続き記憶	林　光緒 (広島大学教授)	林　光緒 (広島大学教授)
8	睡眠と環境	睡眠の質や量は環境条件による影響を受けている。生活環境における温度、光、騒音などが睡眠に及ぼす影響について解説する。 【キーワード】 体温、高温環境、低温環境、湿度、光、騒音	林　光緒 (広島大学教授)	林　光緒 (広島大学教授)
9	睡眠と社会	国内外の睡眠に関わる疫学的調査を通して、睡眠の実態について概観し、現代社会における睡眠の課題について概説する。 【キーワード】 疫学調査、睡眠習慣、睡眠休養充足度、心身症状、生活習慣病	林　光緒 (広島大学教授)	林　光緒 (広島大学教授)
10	睡眠と労働	眠気と体温の生理的リズムから、交通事故や産業事故の発生状況との関わりを明らかにするとともに、交代勤務者や夜勤就業者の睡眠問題をふまえ、身体にやさしいシフト勤務について解説する。 【キーワード】 生体リズム、眠気と事故、労働時間、交代勤務、勤務スケジュール	宮崎　総一郎 (中部大学教授)	宮崎　総一郎 (中部大学教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	睡眠障害(1)	不眠などの睡眠障害は、不安、抑うつ等とならんで出現頻度が高く、生活習慣病の要因ともなることが明らかにされている。睡眠障害には多くの病態が含まれ、その原因や好発年齢、症状は多彩であるが、ここでは代表的な睡眠障害の病態と治療法について概説する。 【キーワード】 睡眠障害国際分類、不眠症、むずむず症候群、睡眠覚醒リズム障害、レム睡眠行動障害	伊藤　洋 (東京慈恵会医科大学教授)	伊藤　洋 (東京慈恵会医科大学教授)
12	睡眠障害(2)	睡眠障害のなかで頻度が多い睡眠呼吸障害を概観し、子どものいびき、成人の無呼吸について解説する。 【キーワード】 いびき、睡眠時無呼吸症候群、肥満、生活習慣病、アデノイド、扁桃肥大	宮崎　総一郎 (中部大学教授)	宮崎　総一郎 (中部大学教授)
13	快眠への対処(1)	快適な睡眠を得るためには、日中や就床前の活動に留意する必要がある。運動や入浴、昼寝が睡眠に及ぼす効果とともに、就眠儀式や就床前のリラクゼーション、音楽や香りなどの効果について解説する。 【キーワード】 運動、入浴、昼寝、就眠儀式、リラクゼーション、香り、音楽	林　光緒 (広島大学教授)	林　光緒 (広島大学教授)
14	快眠への対処(2)	嗜好品の睡眠に及ぼす影響について説明するとともに、日常生活における睡眠の評価法および昼間の眠気の評価法について解説する。 【キーワード】 カフェイン、ニコチン、アルコール、睡眠評価、睡眠日誌	宮崎　総一郎 (中部大学教授)	宮崎　総一郎 (中部大学教授)
15	睡眠障害の予防に向けて	「健康づくりのための睡眠指針2014」を取り上げ、睡眠障害の予防についてまとめる。また、睡眠に関わる今日的動向を紹介し、睡眠教育の充実に向けて考える。 【キーワード】 睡眠障害対処12の指針、早寝早起き朝ごはん運動、睡眠の日、睡眠健康週間、睡眠教育	宮崎　総一郎 (中部大学教授)	宮崎　総一郎 (中部大学教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	5710022	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ がんを知る （’１６）＝ （OL）

英文名 ＝ 〔 Understanding Cancer in Japan (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：田城　孝雄　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：渡邊　清高　（帝京大学医学部内科学講座准教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

国民の2人に1人が一生のうちに何らかのがんにかかるという現代において、自分が、家族が、あるいは身近な人が、がんにかかったときに、どうすればよいか。がんという病気、原因、予防や治療の概要について、入り口になるような知識と対応策を得ておくことは、自分だけでなく周りの大切な人を守ることにつながる。がん患者とその家族は、精神的、身体的な不安や痛みに加え、社会とのつながりを失うことに対する不安や仕事と治療の両立が難しいなど社会的苦痛も抱えている。
「がん」の「病気の知識」を得たことでは、「がん」を知ったことにならない。講義ではがんという病気の解説にとどまらず、この疾病がもたらす患者・家族への不安や苦痛、社会学的、公衆衛生学的課題、創薬や医療技術開発、医学研究や医療倫理、医療政策や社会福祉政策としてのアプローチをはじめとする多様な視点から、「がん」について議論したい。医療や介護福祉に関心のある関係者はもちろん、患者・家族の療養支援に関心がある受講生、人文社会学、法学、経済学、経営学、地域政策、リスクコミュニケーション学などに関心のある受講生の学際的なアプローチを期待する。

授業の到達目標

講義では、患者、家族、医療者の体験や事例を導入とし、国民があらかじめ知っておくべきがんの診断と治療、療養生活上の知識について学ぶ。
オンライン講義のメリットを活かし、受講生の関心のある情報や最新の取り組みを参照できるよう関連情報を案内する。興味のある分野や受講生が住まう地域における提案や課題など、多職種や地域の関係者がチームとなり、患者・家族支援の基盤を概観する。がん医療さらには慢性疾患に関して広い視野を培い、対話を通して課題解決と実践に結びつけられるための基本姿勢を身につけることを目標とする。

成績評価の方法

通信指導、単位認定試験および再試験は行わない。
小テスト、ディスカッション、レポート（以上、配点合計60％）および最終テスト（40％）によって、成績評価と単位認定を行う。インターネットによる受講環境があれば、自宅などでも受講とレポート提出、単位の取得が可能である。

履修上の留意点

事例検討を交えつつ、がんを知るために必要な知識、適切な健康行動を行うためのヒント、情報の集め方について概観する。講義内容は、ホスト役とゲストによるプレゼンテーション、テーマに関するディスカッションからなる。
※本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
1	がんを知る 講座の目的と背景	概要：本講座の目的と背景を概説する。がんについて知りたい、考えてみたいという声に応える講座の方向性を説明し、疾患の概要に加えて社会的なインパクトの大きさ、高齢化社会を控えた包括的な対策の必要性について議論する。 【キーワード】 がん、がんの疫学、がん対策基本法、がん対策推進計画、医療計画、がんの社会学、高齢化社会	渡邊　清高 （帝京大学医学部内科学講座准教授） 田城　孝雄 （放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　師　名 （所属・職名）
2	がんの発生メカニズム	がんの発生の仕組み、がん化のメカニズムについて解説する。発生メカニズムの研究から治療開発にいたるまでの研究の最近のトピックスを交え概説する。 【キーワード】 がん化、発がん、遺伝子、突然変異、エピゲノム異常、分子生物学、ゲノム	渡邊　清高（帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：牛島俊和（国立がん研究センター研究所分野長）
3	がんを予防する	日本人のためのがん予防法をめぐって、予防のエビデンスの作り方と、がんを防ぐ生活習慣について解説する。 【キーワード】 がん予防、生活習慣、がん研究、発がんリスク、たばこ対策、がん対策	渡邊　清高（帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：津金昌一郎（国立がん研究センター社会と健康研究センターセンター長）
4	がん検診を正しく知る	がん検診の意義と目的、がん検診を正しく受けることの重要性と、がん対策としての検診の取り組みについて解説する。 【キーワード】 がん検診、対策型検診、精度管理、がん対策	渡邊　清高（帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：斎藤博（国立がん研究センター社会と健康研究センター部長）
5	がんの治療と療養の実際1（乳がん）	乳がんの疫学、治療と療養の実際について、症状、検査と治療の流れ、治療や療養の意思決定プロセス、フォローアップと療養の実際とポイント、最近のトピックを交えて概説する。 【キーワード】 乳がん、がんの診断と治療、手術、抗がん剤治療、放射線治療、ホルモン療法、がんの療養	渡邊　清高（帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：福内敦（三井記念病院乳腺内分泌外科部長）
6	がんの治療と療養の実際2（肺がん）	肺がんの疫学、治療と療養の実際について、症状、検査と治療の流れ、治療や療養の意思決定プロセス、フォローアップと療養の実際とポイント、最近のトピックを交えて概説する。 【キーワード】 肺がん、がんの診断と治療、手術、抗がん剤治療、分子標的治療、放射線治療、がんの療養	渡邊　清高（帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：関　順彦（帝京大学医学部内科学講座病院教授）

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
7	がんの治療と療養の実際3（大腸がん）	大腸がんの疫学、治療と療養の実際について、症状、検査と治療の流れ、治療や療養の意思決定プロセス、フォローアップと療養の実際とポイント、最近のトピックを交えて概説する。 【キーワード】 大腸がん、がんの診断と治療、手術、抗がん剤治療、分子標的治療、放射線治療、がんの療養	渡邊　清高（帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：中島　淳（横浜市立大学肝胆膵消化器病学教授）
8	がんの緩和ケア	がん患者の苦痛とつらさの実際、がんの治療や療養における緩和ケアの必要性、特に早期からの緩和ケアの導入の重要性について、具体的な取り組みとともに概説する。 【キーワード】 緩和ケア、がんの痛み、医療用麻薬、痛みの指標	渡邊　清高（帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：的場　元弘（日本赤十字社医療センター緩和ケア科部長）
9	がんの在宅緩和ケアの現状と将来	がんを患いながら住み慣れた自宅で過ごす患者を支える在宅緩和ケアの現状と、患者家族を支えるケアの現状と今後について概説する。 【キーワード】 在宅緩和ケア、看取り、チーム医療、患者家族ケア	田城　孝雄（放送大学教授） 渡邊　清高（帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：小笠原　文雄（小笠原内科）
10	がんの在宅緩和ケアーがん患者と家族を支える仕組みづくり	地域におけるがん対策として、在宅療養を支える仕組みづくりが必要である。医療現場、地域の多職種の関わりの現状を考える。 【キーワード】 在宅緩和ケア、看取り、チーム医療、地域医療	渡邊　清高（帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：河原　正典（爽秋会岡部医院）
11	がん治療のトピックスー放射線治療	放射線治療の原理、最近の放射線治療の進歩、治療開発の現状と今後の展望について考える。 【キーワード】 放射線治療、高精度放射線治療、密封小線源治療、放射性核種治療（RI治療）、粒子線治療	渡邊　清高（帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：多湖　正夫（帝京大学医学部附属溝口病院放射線科学教授）
12	がん治療と研究のトピックス ーがんの薬物療法	がんの薬物療法の仕組み、抗がん剤治療の作用と副作用を正しく理解する、最近の抗がん剤の開発状況や個別化医療に向けての展望について考える。 【キーワード】 がんの薬物療法、抗がん剤治療、相互理解と対話、個別化医療	渡邊　清高（帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：勝俣　範之（日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　師　名 （所属・職名）
13	がん対策を考える（総論）	がん対策の取り組みの現状と、多くの関係者が一体となった取り組みの必要性について議論する。 【キーワード】 がん対策基本法、がん対策推進基本計画、がん登録、がん情報サービス、がん診療連携拠点病院、がん相談支援センター	渡邊　清高 （帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：若尾文彦（国立がん研究センターがん対策情報センターセンター長）
14	がん対策を考える（地域の視点）	地域におけるがん対策、がん患者を支える地域づくりについて、地域の現状と多職種や幅広い関係者を巻き込んだがん対策の重要性を議論する。 【キーワード】 都道府県がん対策推進計画、人材育成、医療連携、地域連携	渡邊　清高 （帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：増田昌人（琉球大学医学部附属病院がんセンターセンター長・診療教授）
15	まとめ ーがんとともに生きる社会づくり、患者・市民の視点から	がん対策において、患者・家族・市民の視点が重視されている。医療と療養の変化から、がん対策においても患者・住民の視点の重要性と参画の必要性について議論する。 【キーワード】 患者市民参画、サバイバーシップ、がんと社会、がんと就労、地域社会、コミュニケーション、アドボカシー	渡邊　清高 （帝京大学医学部内科学講座准教授） ゲスト：天野慎介（グループ・ネクサス・ジャパン理事長）、桜井　なおみ（キャンサー・ソリューションズ代表取締役社長）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1710028	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会福祉への招待 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 An Invitation to the Study of Social Welfare (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：岩田　正美 （日本女子大学名誉教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：山田　知子 （放送大学教授） 】

講義概要

社会福祉とは何か、それはどうあるべきかを明らかにすることは容易くない。だが、社会福祉は、すでに今日の私たちの生活に深く関連し、そのあり方は、社会の方向性を指し示している。本講義では、そうした「事実」としての社会福祉の姿を、いくつかの側面から具体的に示し、またそれらの「事実」を規定している社会福祉の多様な「価値」について、受講者と共に考えていきたい。それは少子高齢化という人口構成の変動、家族や労働のあり方の変貌、格差の拡大といった現代社会のあり方を考える素材でもあり、社会福祉や保健医療の専門家だけでなく一般市民が共に学ぶ必要がある。なおこの科目は看護師資格科目としても位置づけられている。

授業の目標

・事実としての社会福祉が、なぜ現代社会に存在しているのかを、人々の生活と社会のあり方から理解する
・現代の社会福祉の課題を多様な側面から理解する
・社会福祉の手段と利用資格を規定している考え方について考えることが出来る
・社会福祉を仕掛けている主体、利用者、専門職の多様性を理解する
・市民参加の必要性を理解することが出来る

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会福祉という「仕掛け」	なぜ、誰によって近現代社会の中に、社会福祉という「仕掛け」がなされてきたのだろうか。本章では、この素朴な疑問から出発して、社会福祉という「世界」が、いくつか異なった価値や手法をもつ複雑な「世界」として近現代社会に位置づいていることを示し、この授業の導入としたい。 【キーワード】 近代社会、自由と自助、利他と互助、権利	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）
2	生活の変動と「強い個人」	前章では、個人の自由と生活の自助規範の限界から社会福祉という「仕掛け」が、多様な形で近現代社会に生まれていったことを学んだ。本章では、これを近現代社会の生活責任の単位である個人や家族の生活の変動とリスクという観点から、もう少し深め、自助規範や自由権が想定している「強い個人」について再検討する。 【キーワード】 生活変動、家族周期、生活のリスク、強い個人	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）
3	福祉国家と生活のリスク管理	生活の自助努力を補完し、人々の生活の多様なリスクをあらかじめ予防し、あるいは救済していくような国家レベルの装置が、福祉国家である。この章では、福祉国家が第二次大戦後、なぜ多くの先進諸国で求められたのか、それを構成する主な制度を概観し、またその正当性の解釈について学ぶ。 【キーワード】 福祉国家、予防と救済、シティズンシップ、社会連帯	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	福祉国家の「再編」と社会的排除	本章では、福祉国家の「危機」とも呼ばれる、新たな局面と、福祉国家の管理からこぼれ落ちた新たな社会問題を理解し、これを打開するための福祉国家の「再編成」の戦略を、多様な社会福祉の供給主体の参入、およびワークフェアといわれる社会的包摂の手法との関係で理解する。 【キーワード】 福祉国家の「再編」、社会的排除、社会的包摂、ワークフェア	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）
5	社会福祉の多様な供給主体と新しい公私関係	社会福祉のニーズに誰が（どこが）応えるのか。本章では、国や地方自治体をはじめとする、福祉サービスを担う多様な供給主体や財源の類型を踏まえたうえで、4章で学んだ福祉多元主義の日本における進展について学ぶ。また、近年、拡大する公私パートナーシップやそれに伴い変化する新しい公私関係について理解する。 【キーワード】 4つの部門（セクター）、日本の福祉多元化、新しい公私関係	村田　文世（日本社会事業大学准教授）	村田　文世（日本社会事業大学准教授）
6	地方分権と「地域福祉計画」	80年代以降、「官から民へ」と同時並行して、国と地方自治体の政府間関係も変化してきた。本章では、中央集権から地方分権の流れを踏まえ、それに伴って地方自治体に求められる役割や機能はどう変化したのか、併せて、地方分権下における「地域福祉計画」の意義について学ぶ。 【キーワード】 中央集権、地方分権、地方自治体、地域福祉計画	村田　文世（日本社会事業大学准教授）	村田　文世（日本社会事業大学准教授）
7	社会福祉のニードと利用資格	本章では、社会福祉のニードについてまず学ぶ。続いて、社会福祉の制度や事業を利用する際の「資格」について検討する。公共サービス一般との違い、選別の基準がどのような考え方で作られているかを検討する。 【キーワード】 ニードの定義、ニード判定、利用資格、選別の条件	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）
8	社会福祉の具体的手段と資源	ニードを持っている人びと、あるいは資格者に、社会福祉は何をどのように提供して、対応しているのだろうか。本章では、社会福祉の具体的な手段について理解を深め、また、その選択がどのような価値判断でなされるかを学ぶ。さらに、この具体的手段を資源の観点からも検討する。 【キーワード】 社会福祉の具体的手段、手段選択の意味、社会福祉の資源	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）
9	施設という生活形態と脱施設化	「施設」と地域での「在宅」生活の選択問題は、高齢者や多様な障害者にとって重要なものであるが、本章では主に知的障害者（高齢期も含めた）を中心に「施設で暮らす」という生活形態の実際の姿と脱施設化について説明し、施設の意味と、個々人の生活形態の選択について考えてみたい。 【キーワード】 施設収容、脱施設化、（生活における）安全・安心、「新たな仕組」	田中　恵美子（東京家政大学准教授）	田中　恵美子（東京家政大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	地域で生活するということ －自立生活運動の歴史と展開	本章では、脱施設化＝施設を出たあと地域でどのように暮らしていくのかについて、「自立生活運動」として展開した重度身体障害者による活動を取り上げる。まず自立生活運動の起源、自立概念の変遷および社会資源としての当事者組織について説明し、施設生活から地域生活へ移行した障害者の生活における生活管理の可能性と課題、今後目指される方向性について検討したい。 【キーワード】 自立生活運動、自立概念、当事者組織、資源の管理者	田中　恵美子（東京家政大学准教授）	田中　恵美子（東京家政大学准教授）
11	地域福祉の具体的展開	本章では、改めて地域福祉とは何かを、①「地域を基盤とした福祉サービス供給」、②「地域づくり」、という二つの側面から、歴史的展開を追いながら考えてみたい。また、地域福祉を推進する社会福祉協議会や民生委員の活動を通して、地域福祉が具体的にどのように展開されているのか検討する。 【キーワード】 地域福祉、社会福祉協議会、民生委員、コミュニティソーシャルワーク	黒岩　亮子（日本女子大学准教授）	黒岩　亮子（日本女子大学准教授）
12	地域の問題と支え合いによる解決の課題	本章では、「互助」を重視する地域包括ケアシステムの登場した背景や特徴を学び、様々な「互助」活動の事例を通して、これからの地域のあり方についても考えてみたい。 【キーワード】 支え合い、互助、地域包括ケアシステム	黒岩　亮子（日本女子大学准教授）	黒岩　亮子（日本女子大学准教授）
13	社会福祉の現業組織と市民への「窓口」	本章では、社会福祉の利用を求める際に、市民が利用する「窓口」といわゆる「現業機関」や「現場」と呼ばれるサービス組織の体系について学習する。 【キーワード】 福祉官僚制、ストリートレベルの福祉官僚、現業機関、「窓口」	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）
14	「援助する人々」 ー専門職、ボランティア、そして「当事者」	社会福祉の実施は組織的なものであるが、その中で具体的に援助する人々は、いくつかの種類に分けられる。まず専門職と専門性について理解し、加えてボランティアや、「当事者」が援助する側にもまわる可能性があるなど、援助の担い手の多様性を理解する。 【キーワード】 福祉専門職、ボランティア、「当事者」、福祉の専門資格	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）
15	社会福祉は誰のためにあるのか －自立・参加・連帯－	21世紀は、産業構造、雇用慣行、人口構造、家族のあり方の大きな変化がより明瞭になり、福祉国家の制御不能な諸問題が出現している。あらためて、社会福祉は誰のために、どのようにあるべきなのかが問われている。 【キーワード】 福祉バッシング、社会参加（包摂）の経路、自立と社会連帯	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）	岩田　正美（日本女子大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	導入科目	科目コード	1128337	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 貧困と社会 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Poverty and Society (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：西澤　晃彦　（神戸大学大学院教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：大曽根　寛　（放送大学教授）　】

講義概要

貧困という現象に対して、社会学的にアプローチする。
貧困は、いつも、低い生活水準以上の意味をもって貧者に体験されている。彼ら彼女らは、貧困によって関係とアイデンティティを不確かなものにしている。そのことこそ、貧困体験の中核的要素とさえいえる。また、貧困は、いつも自動的に社会問題として認知されてきた訳ではなかった。貧者が同じ社会の一員として想定され、有形無形、直接間接の交換や贈与が開始されることで、ようやく貧困は「われわれ」の問題になる。貧困は、社会という拡がりがどう想像されるのかー社会が誰を排除し誰を迎え入れるのかーによって、解決されるべき問題とみなされたり放置されたり時には貧者が敵視されたりする。貧困と社会の関係あるいは社会の中の貧者について、できるだけ具体的に論じていきたい。

授業の目標

この授業を、政策論や援助技術論「以前」のところで、貧困を静かに考える機会にしたいと思う。なぜ彼はあのように言うのか、なぜ彼女はあのようにふるまうのか、そうしたことには必ず理由がある。それを理解する手掛かりと構えを身につけることを目標とする。

履修上の留意点

自らの様々な記憶を掘り起こしながら、また、想像力を発揮させつつ、「私たち」の問題として思考してほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	イントロダクション ～社会とは何であるのか～	社会福祉、社会保険、社会保障、あるいは社会主義や社会運動。なぜ、それらは「社会」と冠せられなければならないのか。このことの意味を検討しながら、私たちが社会という拡がりを想像することの根底には社会問題としての貧困があることを示す。15回を通してたびたび登場するいくつかの概念についても概説する。 【キーワード】 貧困、社会、社会問題	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）
2	貧困の個人化 ～貧苦の意味の変容～	貧しさゆえの苦しさは「ずっとあった」といえるものなのだろう。しかし、近代は、貧しさゆえの苦しさー貧苦ーを、「貧しい私」という存在の耐え難さというヴェールを通して、私たちに感覚させるようになった。そのような貧困体験の質的変容をもたらした近代空間の成立過程について述べる。 【キーワード】 近代化、個人化、都市下層	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）
3	貧困の隠蔽 ～「文明化」される社会～	国家的な「文明化」の企ては、多くの貧困層を公教育という回路を通じて内部化しつつ、それになじまない非組織・非定住・非家族の人々を排除しその不可視化をすすめた。この過程は、それ以降の日本の貧困層のあり方を決定づけることになる。明治・大正・昭和初期の、貧困層への排除と包摂について検討する。 【キーワード】 文明化、国民国家、都市下層	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	貧困の忘却 ～「豊かな社会」の陥穽(かんせい)～	総貧困状態としての敗戦直後から、「総中流の神話」へ。その過程を通じ、貧困は積極的に忘却され無意識へと沈められていった。そうした時代にも無論貧困はあった。高度経済成長期における貧困層のあり様についても述べたい。 【キーワード】 集合的無意識、中流社会	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）
5	貧困の犯罪化 ～新自由主義の刻印～	高度経済成長後、忘却は攻撃へと転回する。「生活保護の不正受給」をめぐる議論の変遷と政府の対応の流れをたどりながら、日本における「貧困の犯罪化」（Z・バウマン）過程を検討する。 【キーワード】 貧困の犯罪化、新自由主義	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）
6	貧困の再発見（1） ～格差から貧困へ～	経済のグローバリゼーションとそれにともなう政策変更の帰結として、一国内の中心-周辺格差、都市部における社会的分極化は加速された。それとともに貧困層は量的にも増大した。再発見された貧困を「新しい」現象としてではなく、質的に連続したものとして論じる。世紀をまたいだ格差社会論争の限界を踏まえ、社会的排除という視点の重要性について確認する。 【キーワード】 グローバリゼーション、格差社会、社会的排除	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）
7	貧困の再発見（2） ～誰が排除されているのか～	貧困層は、社会的に排除されてまたカテゴリカルに分断されて各々の現実を生きている。生活保護受給者、単身（高齢）世帯、母子世帯、若年貧困層、野宿者（ホームレス）、外国人労働者、そうしたそれぞれの現実を貫いてある、排除のメカニズムについて論じる。 【キーワード】 社会的排除、マイノリティ	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）
8	子どもの貧困	ようやく子どもの貧困は論じられるようにはなったが、社会的にも政策的にも反応は乏しい。ここでは、親から子への貧困の継承過程－貧困の再生産－を中心としつつ、子どもの貧困への社会的無関心の背景についても議論する。 【キーワード】 子ども、貧困の再生産	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）
9	若者の貧困	二一世紀に入って、「若者の貧困」が大きく論じられるようになった。若年貧困層の現状を把握するとともに、関係とアイデンティティの問題として彼ら彼女らの貧困にアプローチする。 【キーワード】 社会的排除、アイデンティティ、承認、場所の空間	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）
10	貧困の空間社会学（1） ～漂泊する人々、しゃがみこむ人々～	地域社会から切断された空間を流動する人々。その一方で、そのような寄る辺ない暗い海にこぎ出すことができず、しゃがみこむ人々。地理的な移動という観点から、貧困を捉え返す。 【キーワード】 地理的移動	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	貧困の空間社会学（2） ～「地方」はどこへ行くのか～	戦後の「中央」と「地方」の関係を踏まえつつ、また、「地方」における人口と経済の動向を押さえながら、「地方」における貧困について考察する。 【キーワード】 中央と地方、人口減少	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）
12	貧困の空間社会学（3） ～分断される大都市～	グローバル経済の影響のもと、大都市社会が中間層を縮減させつつ二極化することが指摘されてきた。そうした議論と人口動向を踏まえ、今日的なそして今後の大都市における貧困層のあり様について述べる。 【キーワード】 グローバリゼーション、大都市、社会的分極化、郊外	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）
13	貧困という体験（1） ～貧者の社会的世界～	80年代以降になされた貧困層の社会学的研究は、ばらばらにジャンルわけされており、直接に貧困の意味を問うものではなかったが、そこにおける知見は、貧困という体験が人に何をもたらすのかについて多くの示唆を与えてくれている。寄せ場、外国人労働者、野宿者（ホームレス）などの研究を読み、貧困体験が人々の関係世界をどのようなものにするのかを考察する。 【キーワード】 社会的世界、都市下層	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）
14	貧困という体験（2） ～貧者のアイデンティティ～	13回に引き続き、貧困体験が人々の内面世界にもたらす刻印について論じたい。貧者におけるアイデンティティの構築過程とたえざる危機について述べる。 【キーワード】 アイデンティティ、都市下層	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）
15	貧困と社会	これまでの議論を踏まえながら、「社会的なもの」の現状と今後について大胆に考えてみたいと思う。 【キーワード】 社会、社会的なもの	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）	西澤　晃彦（神戸大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518941	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 生活環境と情報認知 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Cognitive Informatics on Human Living Environment (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：川原　靖弘 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：片桐　祥雅 （情報通信研究機構研究マネージャー） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

私たちは、生活の中で様々な情報を扱い、生活に役立てている。生活環境の中で、私たちがどのような情報を認知し、私たちの発する情報は生活の中でどのように役立っているのか、情報収集の手法や情報の流れ、処理の方法を中心に説明する。近年急速に普及したモバイル機器やユビキタス機器の運用について、消費者の視点から論ずる。また、高齢化社会において、生活の大きな部分を占めてくると思われる医療・福祉分野における、最新の情報技術について解説し、日常生活における利用や応用可能性について論ずる。

授業の目標

生活環境において、収集され運用されている情報にどのような種類のものがあるのか理解し、その情報の収集手法、処理方法について、具体例を通して学ぶことを目標とする。高齢化した日本の社会の生活において、医療・福祉分野も含め、消費者が恩恵を受ける情報のあり方、扱い方についても学ぶ。

履修上の留意点

日常生活における情報の扱われ方について日頃から関心をもつことを勧めたい。また、計算式が出てきたら、可能な範囲で、自分でも解いて確認していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生活の中の情報	生活で利用される情報について、その取得から利用までの手段について、身近な情報を用いて概観する。また、情報利用の自動化を目的とした情報システムの構成と情報の流れについても、身近なシステムを例にとり言及する。 【キーワード】 情報、サンプリング、情報の加工、情報通信端末、データベース、情報システム、NFC	川原　靖弘（放送大学准教授） 片桐　祥雅（情報通信研究機構研究マネージャー）	川原　靖弘（放送大学准教授） 片桐　祥雅（情報通信研究機構研究マネージャー）
2	生体の感覚情報処理	生物の感覚受容とその情報伝達について理解し、人間の五感の受容器のしくみについて学習する。また、人間は単純な刺激から複雑な情報を脳が創造していることを理解するとともに、高次脳機能による情報の認知についても学習する。 【キーワード】 五感、感覚受容、受容体、活動電位、ニューロン、感覚情報処理、脳機能	片桐　祥雅（情報通信研究機構研究マネージャー） 川原　靖弘（放送大学准教授）	片桐　祥雅（情報通信研究機構研究マネージャー） 川原　靖弘（放送大学准教授）
3	感性と心理 －感性情報の計測－	人は五感に基づく感性を手がかりとして環境を認知する。本章では、このような感性や認知の機能を、心理学実験や生理学実験を用いて計測する方法を取り扱う。まず人間が環境を認知するために必要な、感覚・知覚の計測方法を理解し、そのうえで感性の計測方法を説明する。また近年急速に進展してきている脳・神経の機能の計測方法を説明する。 【キーワード】 感覚・知覚、感性、心理学実験、脳波、脳機能画像	喜多　伸一（神戸大学教授）	喜多　伸一（神戸大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ヒューマン・インタフェース	家や街、公共施設など、生活環境のさまざまな場面で私たち人間と各種の人工システムとの間に、情報確認や円滑な意志伝達、または合目的に両者を関わらせるための情報技術であるヒューマン・インタフェースについて概説する。また、関連する高い臨場感のある没入型情報可視化技術や、ウェアラブル技術とユビキタス技術、BMIという脳活動情報を計測・認識することで、直接に機械を動かすブレンマシンインタフェースなどの最新な技術開発と応用例を紹介する。 【キーワード】 ヒューマン・インタフェース、ヒューマンエラー、没入型仮想現実技術、ウェアラブル技術、BMI	羅　志偉（神戸大学教授）	羅　志偉（神戸大学教授）
5	生活環境のデザイン－感性情報の提示と選択－	情報通信技術が進むにつれ、伝達される情報内容が人間にとって親密なものとなってきている。この章では、注意・判断・感性・身体性など、情報認知に必要なヒューマンファクターについて説明する。そのうえで、生活環境に密着した情報内容のデザインについて議論する。 【キーワード】 注意、判断、選択、リアリティ、アフォーダンス、デザイン	喜多　伸一（神戸大学教授）	喜多　伸一（神戸大学教授）
6	快適環境デザイン	私たちは日常生活空間から受けるさまざまな刺激に対して快不快を認知し適切な行動をとっている。しかし快不快は個々人の主観に依存する。本章では快不快を客観的に評価する手法とその神経科学的基盤を学ぶとともに、それらが快適環境デザインにいかに活用されるか実例を通して理解を深める。 【キーワード】 快不快、感情評価尺度、覚醒、作業効率、注意、深部脳活動	片桐　祥雅（情報通信研究機構研究マネージャー） 川原　靖弘（放送大学准教授）	片桐　祥雅（情報通信研究機構研究マネージャー） 川原　靖弘（放送大学准教授）
7	測位技術とその応用	無線を利用した測位の種類と仕組みについて解説する。屋外及び屋内における、具体的な利用シーンを想定し、生活空間での応用方法について学ぶ。 【キーワード】 無線測位、GPS、携帯電話網、ICタグ、無線LAN、RSSI、TOA、TDOA、紛失物探索	川原　靖弘（放送大学准教授）	川原　靖弘（放送大学准教授）
8	インターネットの利便性と危険性－生活情報の表現と共有－	インターネットの普及により、さまざまな情報の流通や発信が手軽にできるようになりつつあるが、利便性の向上と同時に、危険性も増している。この章では、インターネットが可能にした新しいコミュニケーション手段や、情報入手手段、オープンデータと呼ばれるデータ流通とその可能性、クラウドソーシングと呼ばれる作業分担手法、およびセキュリティについて述べる。 【キーワード】 インターネット、ソーシャルメディア、オープンデータ、クラウドソーシング	河口　信夫（名古屋大学教授）	河口　信夫（名古屋大学教授）
9	環境情報モニタリングとその利用	大気や音環境などの日常生活環境の管理について、その測定手法や管理方法を学ぶ。また、これらの生活環境の現状や、情報の共有方法について学習する。 【キーワード】 環境モニタリング、環境基準、大気汚染、騒音、浮遊粒子状物質、等価騒音レベル、大気汚染地図	川原　靖弘（放送大学准教授）	川原　靖弘（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	生活安全情報	私たちは自らの生命の安全を図るため、温湿度環境といった物理情報因子からウイルス・細菌あるいは化学物質（毒物）といった物質因子に至る広範囲なスペクトルを呈するさまざまな環境（外部）ストレスに対して検知し、抑制・除去している。しかし、ハザードを発する条件は環境因子単独では決まらず、環境との相互作用の中で個々の生体毎に決定される。本章では、こうした人間安全科学技術に関する実例を紹介するとともに、それらを公衆衛生や大規模災害時の医療活動にいかに適用するかを学ぶ。 【キーワード】 安全、生命維持、災害医療、ストレス、心電、ドクターカー	片桐　祥雅（情報通信研究機構研究マネージャー） 川原　靖弘（放送大学准教授）	片桐　祥雅（情報通信研究機構研究マネージャー） 川原　靖弘（放送大学准教授）
11	医療・健康と福祉情報	近年、医療、健康と福祉の分野では、情報技術の応用が著しく展開してきている。本章では、これらの分野における各種情報技術のシステム構成、基本的な機能と最新な技術開発例を紹介し、超少子高齢化に備えるための今後の技術発展の可能性と課題について考察する。 【キーワード】 電子カルテ、運動計測と解析、健康、福祉用具、地域医療連携、医療と保険・福祉との連携	羅　志偉（神戸大学教授）	羅　志偉（神戸大学教授）
12	情報のデータ化	アナログ情報のサンプリングとディジタル化について、その原理と手法を解説する。また、具体的なディジタルデータとして音情報を紹介し、ディジタルデータに対する理解を深める。 【キーワード】 アナログ信号、ディジタル信号、標本化、サンプリング周波数、量子化、雑音除去	川原　靖弘（放送大学准教授）	川原　靖弘（放送大学准教授）
13	さまざまな情報処理	本章では、人が行う情報処理を計算機が行う「人間情報処理」について概観する。また、その中で重要な役割を果たす機械学習について解説する。さらに、近年、大規模データの収集が容易になりつつあり、いわゆるビッグデータ処理といわれる計算機による情報処理が注目されている。ここでは、ビッグデータの可視化や分析について述べる。 【キーワード】 画像処理、顔認識、音声認識、機械学習、ビッグデータ処理	河口　信夫（名古屋大学教授）	河口　信夫（名古屋大学教授）
14	ネットワークの基礎と社会応用	IPネットワークの基礎的な仕組みを学ぶと共に、インターネットの構成や、その社会応用について学ぶ。また、ネットワークセキュリティの基礎についても学ぶ。 【キーワード】 CDN、クラウド、モバイル、P2P、IPアドレス、ルーティング、モバイルネットワーク	河口　信夫（名古屋大学教授）	河口　信夫（名古屋大学教授）
15	未来の生活と情報 ーバーチャルからリアルワールドへの回帰ー	生活において仮想空間に存在する情報を利用する方法を見てきたが、この章では、バーチャル空間の情報とリアル空間の情報の人間への生理学的影響の例を紹介し、生活における双方の情報の融合のあり方について解説する。 【キーワード】 仮想現実（VR）、現実空間、錯覚、高解像度情報、拡張現実（AR）、複合現実（MR）、ソーシャルシティ	川原　靖弘（放送大学准教授） 片桐　祥雅（情報通信研究機構研究マネージャー）	川原　靖弘（放送大学准教授） 片桐　祥雅（情報通信研究機構研究マネージャー）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518887	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　リスク社会のライフデザイン　　（’１４）＝ （R）

－変わりゆく家族をみすえて－

英文名　＝　〔 Life Design in a Risk Society (’14):Perspective from the Changing Families 〕

〔主任講師（現職名）：宮本　みち子　（放送大学副学長）　〕

〔主任講師（現職名）：岩上　真珠　（聖心女子大学教授）　〕

講義概要

仕事や結婚や親になることが自明ではなくなり、そこで生じる出来事にともなうリスクを経験する人が多くなるのが現代の特徴である。とくに、これまでの社会とくらしを支えてきた家族的秩序やジェンダー関係が大きく変化しつつあるため、そこに生じる課題を解決し、変動のゆくえを展望することは、個人にとっても社会にとっても国にとっても大きなテーマである。そこで、この科目は家族への科学的アプローチ、家族の歴史的動態を理解し、現代家族とくらしの諸相の意味するところを知り、そこに生起する諸課題に取り組むための基礎知識を学ぶことをめざして編成されている。

授業の目標

本学で開講する家族に関連する複数の科目のベースとなる家族社会学の骨格を示す。家族の基礎理論、歴史、親子関係、夫妻関係、ジェンダー、社会変動と家族、地域と家族、国家と家族など、家族を理解するうえで欠かせない主要な領域をできるだけカバーし、関連科目へと橋渡しすることを目指す。

履修上の留意点

開講科目の「臨床家族社会学(’14)」は、家族問題の特にミクロレベルとメゾレベルにおいて、問題解決的、臨床的なテーマを扱っているので、この科目とセットで履修することで、家族に関する理解はいっそう深まるだろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	家族はどう変化しているか	社会経済環境の変動にともなう家族の変化は著しく、これまでのくらしの前提となってきたものの見直しが必要となっている。そこで、家族の諸側面から変わる家族のすがたを見ていく。また、「人生のリスク化」という用語を使って現代の家族やくらしの特徴を概観する。さいごに本書の概略を紹介する。 【キーワード】 家族、世帯、家族変動、少子高齢化、家族構成、婚姻率、出生率、リスク社会、人生のリスク化	宮本　みち子（放送大学副学長）	宮本　みち子（放送大学副学長）
2	近代家族から現代家族へ	近代から戦後までの家族の変化に関連づけて、重要な学説を紹介することを通して、理論的に家族を理解する諸方法を学ぶ。まず、家族をめぐる制度の変化から、家族が法律や慣習と深く関わる関係であることを学ぶ。次に、家族が果たす役割への着目、社会関係の1つとして家族をみる方法、最後に人々の主観を尊重した家族へのアプローチを学ぶ。 【キーワード】 家族の個人化、家族の脱制度化、新しい親密圏	田間　泰子（大阪府立大学教授）	田間　泰子（大阪府立大学教授）
3	多様化する家族のかたち	ひとり親家族、老親と成人未婚子の核家族、高齢者単身世帯の増加などの諸現象を紹介しつつ、「夫婦を中心とする核家族」幻想の揺らぎのなかで、いま日本社会で起きている家族現象を解説する。「標準型」におさまらない家族のかたちを示しつつ、あらためて「家族」への柔軟なアプローチの必要性を喚起する。 【キーワード】 歴史的変化、機能、ネットワーク、主観	岩上　真珠（聖心女子大学教授）	岩上　真珠（聖心女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	家族とジェンダー	家族は、ジェンダー(社会的文化的に形成される男女間の差異)によって大きく影響を受ける。本章では、婚姻前から婚姻中、離婚の過程にみられるジェンダーの日本的特徴と、それらがリスク社会においてどのような脆弱さをもたらすかを理解する。 【キーワード】 ジェンダー、ジェンダー統計、DV	田間　泰子（大阪府立大学教授）	田間　泰子（大阪府立大学教授）
5	企業社会と家族	男性の長期雇用を基礎とする日本的雇用慣行を軸に構築された企業社会は、家族に多大な影響を与えてきた。企業社会の形成過程をふり返りつつ、企業社会が家族生活に付与した諸問題を洗い出すことを中心的課題とする。それを踏まえて、若年層を中心とした変動方向を捉えるヒントを得る。 【キーワード】 日本型雇用慣行、企業社会、会社人間と専業主婦	木本　喜美子（一橋大学大学院教授）	木本　喜美子（一橋大学大学院教授）
6	女性の就業化と家族	戦後日本における女性の就業化動向をたどるなかから、出産・子育てと女性の雇用労働の「両立」問題が浮上してきた局面を把握する。企業社会において女性労働が受けた制約を見据え、この制約を克服するための発想の転換と両立支援策のもつ今日的意義を考える。 【キーワード】 女性の就業化、「女性の二つの役割」、男女の家族的責任、両立支援策	木本　喜美子（一橋大学大学院教授）	木本　喜美子（一橋大学大学院教授）
7	性・生殖と家族	性と生殖はそれ自体がリスクを抱えている。家族はそのリスクを軽減する役割を果たすが、現代の人々の生き方や家族の変容によって高まっているリスクもある。本章では、性と生殖にかかわる家族の現状と課題を、国際的動向もふまえて理解する。 【キーワード】 母子の死亡率、リプロダクティブ・ライツ、性的多様性	田間　泰子（大阪府立大学教授）	田間　泰子（大阪府立大学教授）
8	家族と親子関係	生涯にわたる親子関係の推移を軸に、教育期の「母親」の負担、「巣立ち」の遅い若者の問題、未婚期の長期化、高齢期の長期化と子どもとの関係など、現代的な課題を検討する。また、ステップファミリーなどによる新しい親子関係の出現、里親・里子や養親子などの「血のつながらない」親子関係など、新たに浮上してきたテーマを盛り込みながら、「親子」について考える。 【キーワード】 血のつながらない親子、子どもの最善の利益、高齢期の親子	岩上　真珠（聖心女子大学教授）	岩上　真珠（聖心女子大学教授）
9	家族とケア	親の扶養規範、娘による老親介護の実態と変容、老老介護、ケアのジェンダー化・グローバル化を視野に入れながら、主として高齢期のケアに関わる問題（ケアの担当者、ケアのスタイル、ケアされる側の論理、等）を扱う。また、ケアに関する国際比較研究も取り上げながら、少子高齢化社会の進展にともなって焦点化されると予測される今後の課題を提示する。 【キーワード】 家族ケア、ケアワーク、ケアの社会化、ケアのグローバル化	岩上　真珠（聖心女子大学教授）	岩上　真珠（聖心女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	男性と家族	家族との関係において男性の生涯と生活の仕方をライフコースやライフスタイルの視点から検討する。とりわけ男性のジェンダー形成の視点から考える。少年・青年期の発達課題と男性性構築、若年層の結婚と就職の現実、中高年期の生き方、高齢男性の介護をめぐる現状等に焦点をあてた分析もおりまぜながら検討していく。 【キーワード】 男らしさのジレンマ、男性性ジェンダー形成、男性的ライフスタイル、男性の家族依存	中村　正（立命館大学教授）	中村　正（立命館大学教授）
11	男性問題と現代社会	性別役割分業を前提とした男性性は日常生活に否定的な影を落としている。男性中心主義社会は男性の自由な生活と労働をも拘束している。さらに男性同士の格差もみられる。現代社会を男性と男性性から再把握し、リスク社会におけるライフデザイン再構築における従来型男性役割の変容の意義について考えてみる。 【キーワード】 男性役割の再構築、男性中心社会、ケアからの疎外・ケアへの権利、ホモソシアル関係	中村　正（立命館大学教授）	中村　正（立命館大学教授）
12	子どもの貧困化と家族	貧困化する家族の子育て問題は、21世紀の重大な課題になっている。グローバル経済化、脱工業化、脱近代化の趨勢は、家族の福祉追求機能を弱め、新たな課題を提示している。これらの現象は、家族の多様化・個人化・脱制度化とも関係している。それを、子どもの問題を中心にしてみる。 【キーワード】 貧困と家族、社会的排除と家族、子どもの貧困、家族政策	宮本　みち子（放送大学副学長）	宮本　みち子（放送大学副学長）
13	排除される人々と家族	家族にはしばしば社会の負の側面が刻まれる。たとえば貧困や障害や高齢という理由で、ある家族は社会から排除される。その一方で、家族の内部では、ある家族メンバーが家族から傷つけられたり、負担を集中的に押し付けられ疎外され排除されることもある。格差が拡大する社会では、社会から排除される家族、家族から排除される人々が増加しがちである。それらの実態をみる。 【キーワード】 リスクの多様化・階層化・普遍化、家族のケア機能、ケアラー、生活アセスメント、伴走型支援、セーフティ・ネット	宮本　みち子（放送大学副学長）	宮本　みち子（放送大学副学長）
14	地域コミュニティと家族	夫・妻・子から成る核家族が減少し、高齢者を中心に単身世帯が増加するなど、家族の個人化と多様化が進み、生活リスクに対処する力が弱まっている。多様化する生活課題に対して、行政サービスのみで解決を図るには限界がある。そこで市場や公的セクターとは異なる共助が期待され、地域コミュニティにおける人々の活動が新たな地平を築くことをみる。 【キーワード】 地域コミュニティ、ケア、高齢者介護、孤立死、地縁型組織、テーマ型組織	宮本　みち子（放送大学副学長）	宮本　みち子（放送大学副学長）
15	家族とくらしの生活保障	グローバル経済競争の激化、雇用状況の流動化と不安定化、財政難にともなう福祉国家路線の後退が、人々のくらしに影響を及ぼしている。個人の生活を守るためには、家族を社会に開き、公助と共助によって支えあう関係がこれまで以上に必要とされている。各国が新しい家族像を模索している状況にあることをみる。 【キーワード】 家族機能、生活保障、ワーク・ライフ・バランス、雇用レジーム、福祉レジーム、家族福祉、会社福祉、日本型生活保障	宮本　みち子（放送大学副学長）	宮本　みち子（放送大学副学長）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1519069	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 人口減少社会の構想 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Plannings for the Population-Decreasing Society (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：宮本 みち子 （放送大学副学長） 〕

〔主任講師（現職名）：大江 守之 （慶應義塾大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

ポスト工業化、経済のグローバル化、少子・高齢化などの社会変動は、人々のくらし、地域社会、仕事の世界を秩序づけてきた構造を大きく変えつつある。なかでも人口増加社会から人口減少社会への転換、および成長型社会からゼロ成長またはマイナス成長社会への転換は、これまでとは異なるインパクトを社会の諸相に及ぼしている。その実態を、とくに大都市圏と地方圏・地域コミュニティ・世界という切り口、および家族・親密圏という切り口から明らかにする。そのうえで、これからのくらしと社会の新しい地平を展望する。

授業の目標

1. 少子高齢化、人口減少を理解するための基礎知識を身につける。
2. 現代社会とくらしの動態と、それにともなう課題の所在を知る。
3. 人口減少社会に対して、学生自ら、それぞれの場で主体的にプランニングできる力量を身につける。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人口減少と少子化	現在の人口推計は、日本の将来人口が2050年に9千7百万人、2100年には5千万人を割り込むという人口減少社会の姿を描き出している。20世紀の日本は人口が3倍になるという人口増加社会であったが、2008年をピークに人口減少に転じ、21世紀中続くと見通されるのはなぜなのか、減少速度の緩和や回復の可能性はないのかといった疑問に答えるために、少子化を中心に人口減少をめぐる基本的な事柄について学ぶ。 【キーワード】 人口減少、人口推計、少子化、人口転換、人口モメンタム	大江 守之（慶應義塾大学教授）	大江 守之（慶應義塾大学教授）
2	超高齢・多死社会の到来	長期にわたる人口減少社会を出現させる要因は、1980年代半ばから始まった低出生率状態が持続するというだけでない。規模の大きな1930・40年代の世代、1960・70年代世代が、死亡率が低下するなかで、相次いで高齢期に到達し、膨大な高齢人口をうみだし、そこから死亡を発生させるからである。21世紀の人口減少社会は、超高齢・多死社会であることを学ぶ。 【キーワード】 人口ピラミッド、超高齢社会、長寿化、生命表、平均寿命	大江 守之（慶應義塾大学教授）	大江 守之（慶應義塾大学教授）
3	人口減少社会の家族変動	少子高齢化という人口変動は大きな家族変動を伴って進行する。少子化の最大の要因である未婚化は、自らの家族をつくらない人々を増加させ、単独世帯や高齢期の親と子から成る世帯を増加させている。後者の世帯も親の死亡とともに単独化し、21世紀半ばにかけて親族ネットワークの弱い高齢単独世帯を大量に出現させることになる。そのメカニズムと意味を学ぶ。 【キーワード】 定位家族と生殖家族、世帯の家族類型、未婚率、同居率、世帯主率	大江 守之（慶應義塾大学教授）	大江 守之（慶應義塾大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	人口減少社会の地域人口変動	人口減少、高齢化、家族変動という相互に連動する人口変動は、地域的差異を伴って進行する。その最大の要因は東京圏への若年人口の集中が持続している点にある。この集中プロセスをコーホートの視点から分析し、東京圏と地方圏はどのように変化してきたか、また変化していくのかを理解する。東京圏に大量に移動した最初の世代である1930・40年代生れによって形成された郊外に焦点をあて、家族の変容と地域社会の対応を展望する。 【キーワード】 人口分布、大都市圏、郊外、コーホート・シェア、潜在的他出者	大江　守之（慶應義塾大学教授）	大江　守之（慶應義塾大学教授）
5	人口減少社会の人口移動 －国内－	日本全体で今後、人口の減少が見込まれるなか、国内の人口がこれまで以上に規模の大きい都市に集中する可能性がある。人口減少下の東京一極集中についてどういうことが生じているのか、大都市圏からのUターンやIターンにはどのような特徴が見られるのか、また地方自治体の転入促進策の種類やその変遷と効果について理解する。 【キーワード】 人口移動、東京一極集中、Uターン、Iターン	中川　聡史（埼玉大学教授）	中川　聡史（埼玉大学教授）
6	人口減少社会の人口移動 －海外－	日本国内の人口の減少が見込まれるなか、海外との人口移動がこれまで以上に注目されるようになる。これまで日本がどのように外国人を受け入れてきたのかについての制度的変遷、1990年の入管法改正による日系人の増加とその経験から学んだこと。外国における外国人受け入れの考え方と制度と実態について理解する。 【キーワード】 入国管理制度、外国人労働者、外国人研修生	中川　聡史（埼玉大学教授）	中川　聡史（埼玉大学教授）
7	変わるライフコース	ライフコースとは、個人が生まれてから死ぬまでの人生の軌道である。人々が社会のなかでどのような役割を取得し、どのような出来事をたどって歩んでいるのかに着目した用語である。人の一生は長寿化し、ライフコースの多様化・個人化が進んでいる。教育・労働・私生活・社会政策の交差でライフスタイルの変化をみていく。 【キーワード】 ライフコース、ライフコース・パターン、長寿化、脱家族化、生活設計、ライフデザイン、ライフコースの個人化	宮本　みち子（放送大学副学長）	宮本　みち子（放送大学副学長）
8	変わる家族と世帯	家族の形態面と人々の家族観から近年の家族形態の変化を見る。また、高度経済成長期以後の家族の変化をたどり、結婚・家族形成と、長寿化にともなう家族の変化から変わる家族と世帯の様相を見る。総じて、家族の相対化・個人化・脱制度化の動きをおさえる。 【キーワード】 家族、世帯、単独世帯、ケアワーク、家族の相対化・個人化・脱制度化、近代家族、虚弱高齢者（フレイル）	宮本　みち子（放送大学副学長）	宮本　みち子（放送大学副学長）
9	くらしのセーフティ・ネット	少子高齢化、人口減少社会は、社会関係のあり方や人々の有する絆に何らかの影響を及ぼしている。とくに家族の多様化、なかでも単身化が進むことは自由を拡大する一方で、くらしのセーフティ・ネットの安定性を脅かす面がある。その実態をみていく。 【キーワード】 セーフティ・ネット、社会の液状化、男性問題、貧困化する女性、単身化する社会、社会的孤立	宮本　みち子（放送大学副学長）	宮本　みち子（放送大学副学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	家族とくらしの再構築	家族を中核とする親密圏の変容が人々のくらしに不可欠のケア機能を衰退させている実態をみる。また、20世紀工業時代に編成されたくらしのセーフティ・ネットが不安定化していることをリスクの多様化・階層化・普遍化という特徴で理解する。21世紀のあらたな生活課題を踏まえて、人々のくらしを支える親密圏と地域コミュニティを展望する。 【キーワード】 生活のリスク、ケア機能、オールタナティブな住まい、グループ・リビング、生活保障	宮本　みち子（放送大学副学長）	宮本　みち子（放送大学副学長）
11	人口減少社会と地域コミュニティ	人口減少社会において地域コミュニティはどのように変容していくかについて、幅広い視点から考える。高齢者など「地域密着人口」の増加、大都市・地方都市・農村部などの地域差、若い世代の地域志向等にも注目する。 【キーワード】 地域コミュニティ、地域密着人口、地域志向	広井　良典（京都大学教授）	広井　良典（京都大学教授）
12	人口減少の適応策と緩和策	人口減少傾向がしばらくの間続くと見込まれるなか、その適応策としてのコンパクト化が進められている。他方、人口減少に対する根本的な緩和策として、将来的に人口が定常状態に移行するために何かできるのか。 【キーワード】 適応と緩和、都市計画、コンパクト化	岡部　明子（東京大学教授）	岡部　明子（東京大学教授）
13	規模縮小下のまちづくり	規模縮小過程では「空き」が出る。「空き」をタネにしたさまざまなまちづくりが試みられている。空き建物のリノベーションや空き地を菜園にするなど、「空き」がコミュニティを育てていく。 【キーワード】 空き家、リノベーション、空き地、都市農業、コミュニティ	岡部　明子（東京大学教授）	岡部　明子（東京大学教授）
14	人口減少社会の社会保障	人口減少社会において重要な意味をもつ社会保障について考える。国際比較の中での日本の社会保障の特徴を確認した上で、財政的課題、世代間配分と世代間公平、子育て世帯・未婚者を含む若い世代への支援等を吟味する。 【キーワード】 社会保障、世代間配分、世代間公平	広井　良典（京都大学教授）	広井　良典（京都大学教授）
15	人口減少社会の構想	そもそも人口減少社会は一概にマイナスなのかといった点を含め、人口減少社会のあり方を大きな視野の中で考える。経済成長と「豊かさ」や幸福の意味、脱成長論やエコロジーとの関連等を含め幅広く検討する。 【キーワード】 豊かさ、脱成長論、エコロジー	広井　良典（京都大学教授）	広井　良典（京都大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1519077	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ソーシャルシティ （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Social City (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：川原　靖弘　（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：斎藤　参郎　（福岡大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

人のコミュニケーションによるまちの活性化に重点を置き計画されるまちづくりが注目されている。本講義では、まちの住民、来街者、運営者それぞれの視点からみた、このようなまちづくりの社会的意義について論じる。また、まちづくりにおいて、導入が進められているICT（情報通信技術）について解説し、消費者行動の把握、まち空間のソーシャルグラフの生成、環境情報の利用などについて、事例を交えながら紹介する。

授業の目標

コミュニケーションを重視したまちづくり及びその方法の変遷を概観し、近年、事例が増加しつつあるICTを利用したまちの形態について学び、まちの住民、運営者、来街者が共存するためのまちづくりの意義や仕掛けについて理解する。また、そのようなまちを実現させるための情報通信技術及び情報収集手法のまち空間への実装について、仕組みを理解することをねらいとする。

履修上の留意点

関連する科目として、「生活環境と情報認知(’15)」「生活における地理空間情報の活用(’16)」「環境の可視化(’15)」「都市・建築の環境とエネルギー(’14)」がある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	消費者行動とまちづくり	ICT（情報通信技術）を活用した新しいまちづくりへの挑戦を「ソーシャルシティ」による新たな動きとしてとらえ、最新の事例を取り上げながら、まちやまちづくりを考える枠組みを概観する。とくに、まちと来街者とのかかわり、消費者行動とまちづくりとの関係、まちづくりの仕掛けとICT との関係にふれながら、本書の構成を概観する。 【キーワード】 まち、まちづくり、消費者行動、都市形成システム、ICT、ソーシャルメディア	川原　靖弘（放送大学准教授） 斎藤　参郎（福岡大学教授）	川原　靖弘（放送大学准教授） 斎藤　参郎（福岡大学教授）
2	まちの評価	まち（都市）を評価する視点として、これまで都市計画研究ではどのような考え方の枠組みでまちを評価してきたのかを理解するとともに、筆者らがこれまで行ってきた消費者の回遊行動研究について、なぜ消費者行動に着目するのか、まちの評価に消費者行動がどのように関わるのかを議論する。 【キーワード】 まちの評価、回遊行動、理想都市型評価図式、活動効果型評価図式、都市形成システム型評価図式、消費者行動アプローチ	斎藤　参郎（福岡大学教授）	斎藤　参郎（福岡大学教授）
3	まちづくりの目的	「都市エクイティ」の概念を導入し、まちづくりの目的を明確にする。都市エクイティを高めるには個々の来訪者の来訪価値を高める必要がある。そのためには、多様な消費者のニーズに応じた、モバイルICTによる現場での意思決定支援が重要となることを議論する。さらに、回遊行動研究を例に、まちづくり政策を科学的に評価する方法の理解を深める。 【キーワード】 都市エクイティ、来訪価値、まちの価値、まち歩きの情報展開、来街地ベース調査、Choice-basedサンプリングバイアス	斎藤　参郎（福岡大学教授）	斎藤　参郎（福岡大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	マーケティングと消費者行動	ソーシャルシティに集う生活者を消費者としてとらえ、消費者の購買行動に影響を与えるマーケティングについて考えていく。マーケティング概念の基本や、マーケティングの手法、最近のマーケティング・リサーチの方法などを概観し、ソーシャルシティにおける消費者の行動について探求する。 【キーワード】 マーケティング、ブランド、マーケティング・リサーチ、消費者行動研究、口コミ	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授）
5	消費者の意思決定	製品・サービスの選択が、どのような意思決定のもとに行われているのかについて考える。特に、近年、発展を続けている心理学と経済学の融合分野（行動経済学）の観点から、消費者の意思決定の特徴を見ていく。 【キーワード】 意思決定の合理性、行動経済学、逸脱例（アノマリー）、経験の消費、ナッジ	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授）
6	ソーシャルグラフの活用とSNS	SNSの特徴の一つであるインターネット上の人間の相関関係やそのつながり＝「ソーシャルグラフ」を、まちづくりに応用しようとする動きがある。来街者がまちを有効利用することを目的とした、来街者に個別に適合するまちの情報提供システムについて解説する。 【キーワード】 ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）、インフルエンサー、ソーシャルグラフ、Web 2.0	鈴木　淳一（電通国際情報サービスプロデューサー職）	鈴木　淳一（電通国際情報サービスプロデューサー職）
7	モバイルコミュニケーション	まちにおいて、人々の行動や状況を把握するために有効な手段として、モバイル通信の利用がある。このような目的で利用されるモバイル通信ネットワークの構成要素や通信形態について概説し、モバイルコミュニケーションを用いた日常行動の把握とその利用について、代表的なものを取り上げ、解説する。 【キーワード】 携帯情報通信端末、モバイルセンシング、ライフログ、SNS、レコメンデーション	川原　靖弘（放送大学准教授）	川原　靖弘（放送大学准教授）
8	移動体センシングと行動認識	日常生活における行動を把握するための要素技術に、移動体センシングがある。動いている人やもの（移動体）のセンシングを行うために、どのようなセンサをどのように用いる方法があるのかを理解する。また、これらの手法の日常生活やまち空間における応用について考える。 【キーワード】 移動体センシング、ウェアラブル、ユビキタス、センサ、測位、実空間レコメンデーション	川原　靖弘（放送大学准教授）	川原　靖弘（放送大学准教授）
9	赤外線放射カメラでまちの熱環境をとらえる	まち環境の構成要素である景観と同様、まちにはそのまち特有の熱環境が形成される。景観のように直接目には見えないが、日常生活に大きな影響を及ぼしている。本章では赤外線放射カメラによってこれを可視化し、まちの空間形態とそこに使われている材料のちがいによって、どのような熱環境が形成されるかを議論する。 【キーワード】 まち、生活空間、熱環境、赤外線放射カメラ、熱画像、表面温度、全球熱画像、平均放射温度（MRT）、熱的快適性	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	熱収支シミュレーションでまちの熱環境を予測・評価する	快適なそして環境負荷の小さいまちづくりには、まちの熱環境を把握することが重要である。対象とするまちの3D－CADを入力して、熱収支シミュレーションを行い、その結果を可視化することによって、まちにはどのような熱環境が形成されるか、まちのあり方が議論できる手法を紹介する。 【キーワード】 まち、熱環境、クールスポット、3D－CAD、熱収支シミュレーション、表面温度、平均放射温度（MRT）、まちづくり	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）
11	快適空間とヒューマンファクタ	快適な環境を評価するための環境因子の例を紹介し、ヒューマンファクタを考慮した快適空間の創出方法について紹介する。また、まちにおける快適空間評価について、物理環境因子、ヒューマンファクタ、社会環境因子の利用の観点から論じる。 【キーワード】 温熱環境、音環境、ヒューマンファクタ、個人差、生理指標、快適性、QOL	川原　靖弘（放送大学准教授）	川原　靖弘（放送大学准教授）
12	新しい消費者の登場と来街者UX	若年層を中心に百貨店や複合商業施設、近場の商店街といった実店舗での消費機会が減少、買い物は専らインターネットでという消費者は増加傾向にある。来街者一人ひとりにとって滞在価値の高い空間をつくることでまちのロイヤルティを高め、ファン形成を促そうとするアプローチについて、まち空間におけるUX評価の手法とともに紹介する。 【キーワード】 ショールーミング、人間中心設計（HCD）、デザイン思考、ユーザエクスペリエンス（UX）、ロイヤルティ、ファン形成	鈴木　淳一（電通国際情報サービスプロデューサー職） 川原　靖弘（放送大学准教授）	鈴木　淳一（電通国際情報サービスプロデューサー職）
13	実空間マーケティングの未来	先進のICT技術を用いた、まちの滞在価値向上やリピート来訪率向上に向けた取り組みは、都心部のみならず地方創生の試みの場でも活用されはじめてきている。消費者の行動情報や生理情報のマーケティングへの応用事例や未来のまち空間における来街者行動に合わせたインタフェースのあり方について解説する。 【キーワード】 実空間マーケティング、CRM、快適度、ユーザインタフェース、実空間インタフェース	鈴木　淳一（電通国際情報サービスプロデューサー職） 川原　靖弘（放送大学准教授）	鈴木　淳一（電通国際情報サービスプロデューサー職）
14	各国で進む都市開発	インバウンド市場の拡大を見据えた取り組み事例として、多言語対応、個人認証、決済の簡便化などをテーマに日仏共同で行われた実証実験の内容を解説するとともに、都市のICT化、SNSの普及により個人が街の運営事業者や企業と対等な関係性を築くなか各国で進むICT技術に根ざしたソーシャルシティの開発動向について解説する。 【キーワード】 インバウンド市場、多言語対応、個人認証、決済の簡便化、都市緑化	鈴木　淳一（電通国際情報サービスプロデューサー職）	鈴木　淳一（電通国際情報サービスプロデューサー職）
15	ソーシャルシティとまちづくり	「ソーシャルシティ」によるセンシングやICT を活用した新たなまちづくりへの挑戦として、さまざまな研究事例や技術の仕組みをみてきた。まちの環境の快適性ばかりではなく、まちづくりには、さまざまな主体とどのような社会的関係性や都市形成システムを築くかが問われてくる。ICT を利用しコミュニティ形成をねらったまちづくりの例を取り上げ、ソーシャルシティによる新たな都市形成システムの可能性について論ずる。 【キーワード】 まち、まちづくり、消費者行動、ICT、都市形成システム、ソーシャルシティ、情報インタフェース、行動コンテクスト	斎藤　参郎（福岡大学教授） 川原　靖弘（放送大学准教授）	斎藤　参郎（福岡大学教授） 川原　靖弘（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518828	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　食と健康　　（’１２）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：小城　勝相　（奈良女子大学名誉教授）　〕

〔主任講師（現職名）：清水　誠　（東京大学名誉教授、東京農業大学教授）〕

【本学担当専任教員：吉村　悦郎　（放送大学教授）　】

講義概要

食品の栄養機能、嗜好性に関わる機能、生体調節機能について、基礎から学ぶとともに、アレルギー等との関係で免疫、動脈硬化、ガン、糖尿病等の生活習慣病、さらには社会問題ともなっている食の安全性など、現代における食と健康をとりまく重要な問題について講義する。

授業の目標

調節された膨大な化学反応の集積体としての生命の成り立ちをよく理解した上で、食品の機能、安全性、病気の予防などについて理解を深めることを目標とする。

履修上の留意点

本講義の性質上、基礎的な化学の知識があることが望ましい。また、大学では当然のことであるが、受け身の姿勢ではなく、分からないことはまず第一に図書館等にある参考書や辞書を自分で調べる意欲、積極性が必要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	食品の機能とその理解のために	我々は食品の機能により生命を維持している。食品を栄養素に分解するのが消化であり、吸収して代謝するが、そのすべての過程は化学反応である。生命を正しく理解するためには化学、即ち分子についての知識が必須である。健康を考える上で避けて通れない基本的な分子の成り立ちや化学反応に関する講義を行う。 【キーワード】 食品機能、原子、分子、化学結合、化学反応、、エネルギー	小城　勝相（奈良女子大学名誉教授）	小城　勝相（奈良女子大学名誉教授）
2	糖質	糖質（炭水化物）はヒトが摂取する栄養素の中で最も摂取量の多い栄養素であり、主たるエネルギー供給源としても重要である。糖質は単糖類、少糖類（オリゴ糖）、多糖類に分類される。それぞれの構造と化学特性を解説するとともに、栄養素としての働き以外の機能についても述べる。 【キーワード】 糖質、単糖類、少糖類、オリゴ糖、多糖類、食物繊維	菊﨑　泰枝（奈良女子大学教授）	菊﨑　泰枝（奈良女子大学教授）
3	脂質	脂質はエネルギー効率の最も高い栄養素である。水に不溶で、有機溶媒に溶解する特徴をもつ。脂質には中性脂肪、リン脂質、糖脂質などがある。それらの構造と化学特性を解説するとともに、最近注目されている機能性や安全性に関する話題についても紹介する。 【キーワード】 脂質、中性脂肪、リン脂質、脂肪酸、脂質の酸化	菊﨑　泰枝（奈良女子大学教授）	菊﨑　泰枝（奈良女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	タンパク質	タンパク質は20種類のアミノ酸がペプチド結合してできた鎖状の物質である。摂取されたタンパク質は分解されて最終的にアミノ酸になるので、その栄養価は構成するアミノ酸の種類によって決まるが、分解途中にできるペプチドにも固有の生理活性が報告されている。食品タンパク質にはさまざまな物性機能・加工特性を持つものもある。タンパク質の構造、各種アミノ酸の性質などを基盤に、食品タンパク質の栄養学的、食品学的な特性を決定する要因について解説する。 【キーワード】 アミノ酸、ペプチド、立体構造、タンパク質栄養、機能性ペプチド	清水　誠（東京大学名誉教授、東京農業大学教授）	清水　誠（東京大学名誉教授、東京農業大学教授）
5	ビタミンとミネラル	ビタミンは体内では合成できず、食物から摂取する必要のある栄養素である。化学的性質はそれぞれ異なるが、すべて微量成分で、生命の維持・調節に不可欠な役割を持っている。 ミネラルは1日あたり100mg以上摂取すべきマクロミネラルと必要量がそれ以下のミクロミネラルに分類できる。体内に1kgも存在するカルシウムから、極微量しか存在しないセレンやコバルトまで多彩である。これらの化学と機能を説明する。 【キーワード】 水溶性ビタミン、脂溶性ビタミン、カルシウム、鉄	小城　勝相（奈良女子大学名誉教授）	小城　勝相（奈良女子大学名誉教授）
6	食品の嗜好成分	「おいしさ」は食品、ヒト、環境などの因子によって決定される。それらの相互関係を概説するとともに、食品由来の因子である嗜好成分、すなわち色素、呈味成分、香り成分の構造、化学特性、機能性について解説する。 【キーワード】 おいしさの決定因子、色素、呈味成分、香り成分	菊﨑　泰枝（奈良女子大学教授）	菊﨑　泰枝（奈良女子大学教授）
7	消化・吸収・代謝系	経口摂取された食品成分は、消化管内で各種酵素により消化・分解される。分解産物であるブドウ糖、アミノ酸、ペプチド、脂肪酸などは主に小腸で吸収される。腸管におけるこれらの成分の輸送には多様な能動輸送系、受動輸送系が関わっている。吸収された成分は、腸管上皮や肝臓においてさまざまな代謝を受け、その後、各組織へ運ばれて利用されることになる。摂取された食品成分が体内でどのような変化をするか（動態変化）、その意義も含めて説明する。 【キーワード】 消化酵素、能動輸送、受動輸送、トランスポーター、代謝酵素	清水　誠（東京大学名誉教授、東京農業大学教授）	清水　誠（東京大学名誉教授、東京農業大学教授）
8	食品と免疫	病原菌などの異物を認識し、それを排除する仕組みの一つが免疫系である。特に、腸管には「腸管免疫系」という特殊な免疫系がある。食中毒菌などの侵入に対しては、腸管免疫系がそれらを認識し、IgA抗体などの防御タンパク質を生産して生体を守る。一方、食品成分は人体にとっては異物なので、これを排除するために人体は過剰応答をすることがある。これが食物アレルギーである。腸管免疫系はこのような過剰反応を抑制する仕組みを持っている。このような腸管での免疫応答反応のメカニズムや食品によるその制御について解説する。 【キーワード】 感染防御、食物アレルギー、腸管免疫系、IgA、経口寛容	清水　誠（東京大学名誉教授、東京農業大学教授）	清水　誠（東京大学名誉教授、東京農業大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	生体内酸化	地球上のほとんどの生物は酸素を用いる呼吸によってエネルギーを得ている。エネルギーを使って生命は遺伝子やタンパク質を合成するとともに、高い秩序を維持することができる。体温、血液の浸透圧、カルシウム、ナトリウム、血糖値など色々な物質の濃度を一定に維持する、この「恒常性の維持」が我々の体を理解するうえでのキーワードである。恒常性維持のためには大きな秩序、ネットワーク、即ち、エネルギーが必要である。 さらに環境汚染物質などは酸素を使った酸化反応によって解毒しているし、体内に侵入した病原菌は酸素を使って殺す。一方、酸素は細胞内で活性酸素になって、老化、癌、動脈硬化などの生活習慣病を引き起こすと考えられている。生命維持に必須の酸化と不都合な酸化、両方について化学的に解説する。 【キーワード】 酸素、恒常性、エネルギー、活性酸素、ATP、ミトコンドリア	小城　勝相（奈良女子大学名誉教授）	小城　勝相（奈良女子大学名誉教授）
10	生活習慣病と食生活Ⅰ 肥満とやせ・メタボリックシンドローム	食生活を中心とする生活習慣の乱れによって起こる肥満は、メタボリックシンドロームを始めとする様々な健康障害をもたらし、我々の健康長寿の大きな妨げとなる。一方、わが国の若年女性層では、逆にやせ過ぎも問題になっている。肥満とやせの予防とコントロールのための食生活について学ぶ。 【キーワード】 BMI、内臓脂肪、メタボリックシンドローム、小児肥満、食事療法、運動療法、胎内プログラミング	曽根　博仁（新潟大学大学院教授）	曽根　博仁（新潟大学大学院教授）
11	生活習慣病と食生活Ⅱ 糖尿病	中年以降の国民3人に1人にみられる糖尿病は、食生活と極めて関連が深い生活習慣病である。糖尿病は自覚症状なく発症し多くの合併症により、我々の健康と寿命を大きく損なう。食事療法は、運動・薬物療法と並ぶ最も重要な治療であり、糖尿病の食事療法は、すべての生活習慣病予防・治療の基本となる。 【キーワード】 血糖値、インスリン、HbA1c、食品交換表、倹約遺伝子仮説、管理栄養士、健康食品	曽根　博仁（新潟大学大学院教授）	曽根　博仁（新潟大学大学院教授）
12	生活習慣病と食生活Ⅲ 動脈硬化とその他の生活習慣病	日本人の死因の3分の1を占める、脳卒中や虚血性心疾患動脈硬化性疾患は、脂質異常症、高血圧、糖尿病などにより進行する。その過程には、コレステロールや塩分を始めとする多くの食事要因が関与している。これらを学びつつ、3回分のまとめとして、生活習慣病を克服する食生活についてまとめる。 【キーワード】 リスクファクター、コレステロール、中性脂肪、血圧、痛風、飲酒、食育	曽根　博仁（新潟大学大学院教授）	曽根　博仁（新潟大学大学院教授）
13	食品安全とリスク分析	人間は、従属栄養動物であり、食べないと生きて行けない。過去から現在までの食生活から、科学的なリスクの管理が必要であることが認識されるようになった。我が国の食品安全行政にも取り入れられているリスク分析手法等について解説する。 【キーワード】 危害要因(ハザード)、リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーション、食品安全基本法	一色　賢司（北海道大学名誉教授）	一色　賢司（北海道大学名誉教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	食品衛生とフードチェーンアプローチ	食品衛生は、食生活の安全確保を達成する手段である。食料の一次生産から、加工製造、流通、販売および消費までのすべての過程（フードチェーン）における、連続した衛生管理の重要性を解説する。 【キーワード】 持続的食料調達、分業、食性病害、食中毒、国際食品規格委員会Codex、HACCP、食品衛生法	一色　賢司（北海道大学名誉教授）	一色　賢司（北海道大学名誉教授）
15	食品の技術開発と安全性確保	人間は、食用生物を選抜し、可食部位や味の良い部位を増やしてきた。そのままでは食用にならないものは、調理加工して、安全で美味しいものに変えて食べてきた。新しい食べ方である特定保健用食品等の安全性確保についても解説する。 【キーワード】 食料調達、食文化、技術開発、安全性評価、新規食品 novel food、特定保健用食品、遺伝子組換え食品	一色　賢司（北海道大学名誉教授）	一色　賢司（北海道大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518879	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 食安全性学 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Food Safety (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：小城　勝相　（奈良女子大学名誉教授）　〕

〔主任講師（現職名）：一色　賢司　（北海道大学名誉教授）　〕

【本学担当専任教員：吉村　悦郎　（放送大学教授）　】

講義概要

食の安全性への関心が高まっている。化学物質、例えば農薬、環境汚染物質、食品添加物、化学工業で使われる物質などの化学的病因による健康障害、牛海綿状脳症、古典的な食中毒、抗生物質耐性菌の発生などの生物学的病因、さらには各種健康食品や遺伝子組換え食品など新しい食品が持つ安全性の問題、温暖化や紛争による食糧自給率の問題などがあげられる。これらのリスクを評価し法律として政策を定める手続きや国際的なルールの確立など社会的にもさまざまな問題が山積しており、これらの食に関する安全性に関する問題を系統的に講義する。

授業の目標

化学物質や生物的病因などの作用機構や毒性に関する基礎的な考え方を身につけるとともに、現代社会においてその知見を利用してどのような方策がとられているのかを理解する。

履修上の留意点

食に関する科目や基礎化学、生物学の知識を身につけている必要がある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代における食の安全性　総論	この講義で行う内容についての総論。 【キーワード】 安全性、公害、環境汚染、risk-benefit評価	小城　勝相（奈良女子大学名誉教授）	小城　勝相（奈良女子大学名誉教授）
2	中毒学入門 ー毒性評価法	化学物質による生体障害の評価法について述べる。 【キーワード】 用量ー反応関係、最大無作用量、急性毒性、慢性毒性	小城　勝相（奈良女子大学名誉教授）	小城　勝相（奈良女子大学名誉教授）
3	各種化学物質による健康障害と化学物質の代謝Ⅰ	これまで明らかになっている各種化学物質による健康障害と化学物質、特に有機物質の代謝について講義する。 【キーワード】 薬物代謝酵素、P450、Phase Ⅰ反応、抱合反応、食品と医療品の相互作用	小城　勝相（奈良女子大学名誉教授）	小城　勝相（奈良女子大学名誉教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	化学物質の代謝Ⅱ	化学物質、特に金属イオン等の無機物質が体内に入ったあとどのようになるのか解毒機構を含めて講義する。 【キーワード】 メタロチオネイン、グルタチオン抱合、腸肝循環	香山　不二雄（自治医科大学教授）	香山　不二雄（自治医科大学教授）
5	変異原、発がん物質、放射線	発ガン作用などについて解説する。 【キーワード】 イニシエーション、プロモーション、酸化的DNA損傷、アポトーシス	香山　不二雄（自治医科大学教授）	香山　不二雄（自治医科大学教授）
6	食物アレルギー、免疫学入門	アレルギーについて免疫機構から解説する。 【キーワード】 アレルゲン、免疫寛容、腸管免疫、アナフラキシー	香山　不二雄（自治医科大学教授）	香山　不二雄（自治医科大学教授）
7	食性病害とその要因	食品に存在する有害物質について講義する。 【キーワード】 危害要因、リスク、耐容1日摂取量TDI、規格基準	一色　賢司（北海道大学名誉教授）	一色　賢司（北海道大学名誉教授）
8	意図的にフードチェーンに使用する物質	農薬、添加物等の安全性確保対策について講義する。 【キーワード】 リスク分析、フードチェーンアプローチ、1日摂取許容量ADI、残留基準、使用基準	一色　賢司（北海道大学名誉教授）	一色　賢司（北海道大学名誉教授）
9	遺伝子組換え等の新技術応用食品	食品に関連する技術の安全性確保の経緯や規制について講義する。 【キーワード】 新規食品novel food、遺伝子組換え食品、技術開発、安全性確保	一色　賢司（北海道大学名誉教授）	一色　賢司（北海道大学名誉教授）
10	健康食品などの安全性	健康食品による健康障害や食品と医薬品との相互作用について講義する。 【キーワード】 健康食品、サプリメント、健康強調表示問題、薬事法、相互作用	一色　賢司（北海道大学名誉教授）	一色　賢司（北海道大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	生物学的病因Ⅰ（細菌）	食品に由来する細菌感染症について講義する。 【キーワード】 カンピロバクター、サルモネラ、下痢原性大腸菌、腸炎ビブリオ	西川　禎一（大阪市立大学大学院教授）	西川　禎一（大阪市立大学大学院教授）
12	生物学的病因Ⅱ（細菌・ウイルス）	食品内で毒素を産生する細菌や食品を介して感染するウイルスによる健康障害について講義する。 【キーワード】 黄色ブドウ球菌、セレウス、ボツリヌス、ウェルシュ菌、ノロウイルス、食品内毒素型、生体内毒素型	西川　禎一（大阪市立大学大学院教授）	西川　禎一（大阪市立大学大学院教授）
13	生物学的病因Ⅲ（寄生虫など）	寄生虫等、新興再興感染症による健康障害について講義する。 【キーワード】 原虫、粘液胞子虫、住肉胞子虫、ウシ海綿状脳症、薬剤耐性菌	西川　禎一（大阪市立大学大学院教授）	西川　禎一（大阪市立大学大学院教授）
14	食の安全問題の展開	食の消費・生産ならびに安全問題の展開過程を社会・経済的な観点から講義する。 【キーワード】 食料安全保障、フードシステム、食品偽装、食の信頼、リスクトレードオフ	中嶋　康博（東京大学大学院教授）	中嶋　康博（東京大学大学院教授）
15	食の安全性確保に関する政策	食品安全対策の法制度と運営に関する基本構造と国際的な枠組みを講義する。 【キーワード】 食品安全基本法、食品衛生法、WTO／SPS協定、BSE問題、トレーサビリティ	中嶋　康博（東京大学大学院教授）	中嶋　康博（東京大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518895	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 臨床家族社会学 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Invitation to Clinical Family Sociology (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：清水　新二　（奈良女子大学名誉教授）〕

【本学担当専任教員：宮本　みち子　（放送大学副学長）】

講義概要

いま多岐にわたる様々な家族問題の解決が期待されている。精神疾患や高齢者介護問題などの各種慢性疾患は言うに及ばず、児童虐待やドメスティック・バイオレンスなどの家族暴力、犯罪被害者家族や災害被災者家族あるいは自死遺族、非行・犯罪者の家族、いじめや引きこもりの子どもを抱えた家族等々、日々の生活の中で出会う各種の家族生活問題の解決に関心が寄せられている。問題解決志向性を強調する本科目では特に家族のストレスやメンタルヘルスに焦点をあわせるとともに、その背景としての現代の社会状況にも目配りをしながら、単に実態の把握にとどまらずミクロ・メゾ・マクロそれぞれのレベルにおける問題の解決に向けた支援をも視野に入れ、必要とされる社会的取り組みについて臨床家族社会学の視点から整理検討を加え、現実に即した家族問題の理解を深める。

授業の目標

現代の家族生活のポジティブな面とネガティブな面の双方に目配りしつつ、日常的な家族生活で生じる具体的家族問題について取り上げ、その実態の理解を深めるとともに問題への現実的な対処や支援に関する方法を検討する力を養う。

履修上の留意点

既開講科目の「在宅看護論」「高齢期の生活と福祉」「今日のメンタルヘルス」「リスク社会のライフデザイン」、大学院科目の「家族生活研究」など、関連科目もあわせて学習することをすすめる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	臨床家族社会学をどう理解するか	臨床家族社会学の基本的特徴を問題解決志向性ならびに問題中心的アプローチから捉え、ミクロな事例的臨床とマクロな対策的臨床の二つの面から問題解決へ向けた総合的な社会的取り組み、対応の必要性とありようを概説する。事例的臨床における家族への対処支援においては対処の主体としての家族の位置付けを検討し、対策的臨床に関しては対策の枠組み構築にあたっての手掛かり、ヒントを示唆する。その上で、対策効果をどのように考えたらよいかの理解を深める。 【キーワード】 問題解決志向性、事例的臨床と対策的臨床、対処主体アプローチ、対策効果、ポピュレーション・アプローチとリスクグループ・アプローチ	清水　新二（奈良女子大学名誉教授）	清水　新二（奈良女子大学名誉教授）
2	臨床家族社会学の基本的視点とアプローチ法	家族問題の実態理解から社会的な対応法にわたるまで、問題解決に向けてどのように理解分析するかの基本的視点により、またどのような対象を取り上げ問題とするかによって、その結ぶ像は異なってくる。家族に対する人々や社会からの期待と実際の家族生活の現実との間に横たわる亀裂や、＜ミウチ＞と＜タシャ＞との関連性をどう考えるのかなど、これらの基本問題について整理し学ぶ。 【キーワード】 家族ストレス、生活知と専門知、無知のアプローチ、近代家族、家族の他者性	清水　新二（奈良女子大学名誉教授）	清水　新二（奈良女子大学名誉教授）
3	臨床家族社会学と質的研究法	今日、家族の個人化・多様化などを背景に、一定の家族像からの逸脱に問題の原因をみるのではなく、家族の行為や解釈などその主観的経験に基点をおきながら「家族問題」に接近しようとする質的研究が登場している。ここでは、その中から、主にナラティヴアプローチなどに焦点をあて、その研究の背景や特徴について論ずる。 【キーワード】 家族問題、質的研究法、量的研究法、ナラティヴアプローチ、無知の姿勢、研究倫理	南山　浩二（成城大学教授）	南山　浩二（成城大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	学校臨床と家族	学校現場での問題行動として、不登校・いじめ・校内暴力を取り上げ、その現況を概説し、家庭との関わりを検討する。社会的取り組みのなかでも、児童・生徒の保護者への支援を中心に考察する。教職員に加えて、スクールカウンセラーの役割に注目し、家族支援の実際について理解する。 【キーワード】 不登校、いじめ、校内暴力、スクールカウンセラー、家族（保護者）支援	生島　浩（福島大学教授）	生島　浩（福島大学教授）
5	非行臨床と家族	少年非行の動向、特に家庭内暴力を社会学的観点から読み解く。「非行原因としての家族」から「立ち直りの手立てとしての家族」に視点を転換させる重要性を述べる。非行臨床における家族支援について、臨床家族社会学の知見を活かした、家族システム論、構築主義的アプローチ、講師自身の手法を解説する。 【キーワード】 少年非行、家庭内暴力、立ち直り、家族システム論、構築主義的アプローチ	生島　浩（福島大学教授）	生島　浩（福島大学教授）
6	犯罪臨床と家族	犯罪臨床のシステムを概説し、家族内殺人など犯罪と家族との関連を考察する。家族支援が、再犯抑止をはじめとする犯罪対策に重要であることを解説する。また、加害者家族への取り組み、さらには、犯罪被害者の家族（遺族）への支援、自助組織の社会的活動も取り上げる。 【キーワード】 家族内殺人、加害者支援、再犯抑止、被害者支援、自助組織	生島　浩（福島大学教授）	生島　浩（福島大学教授）
7	精神障がい者と家族	地域資源の脆弱性や家族扶養主義などを背景に、家族に対する精神障がい者の身近な支え手としての社会的期待は未だ大きい。しかし、家族の抱える生活上の困難やストレス、経過の長期化に伴う家族の高齢化、障がい者・家族間に葛藤が生じやすいことなど、家族生活をめぐる課題が指摘されている。そこで、精神障がい者家族の生活実態についての概観をふまえながら、医療や福祉をめぐる政策的課題を検討する。 【キーワード】 隔離収容主義、社会的入院、精神障がい者の地域生活と社会復帰・社会参加、家族	南山　浩二（成城大学教授）	南山　浩二（成城大学教授）
8	統合失調症と家族支援	統合失調症である人の家族に対する家族支援について、専門家の家族へのまなざしを基点にその歴史的変遷を検討する。そして、コミュニティケアが重要視されるようになった現在、リカバリー志向の家族支援が模索され始めているが、こうした近年の取り組みについて概観するとともに、今後の展開可能性や課題について理解を深めていく。 【キーワード】 家族の医療化－脱医療化、スティグマ、リカバリー、アウトリーチ、セルフヘルプグループ	南山　浩二（成城大学教授）	南山　浩二（成城大学教授）
9	高齢者と高齢期家族の生活	少子高齢化が家族集団に与える影響は大きく、様々な問題が生じてくることが考えられるが、これから高齢者と呼ばれるようになる人たちには働き方や社会参加、地域における人々のつながりや生活、高齢期に向けた備え等、人生90年時代を前提としたものへの転換と超高齢社会を先導していく役割が期待されている。ここでは高齢者と家族の生活がどのように変化してきているか統計を基に理解し、わが国の高齢者のウェルビーイングにとって重要なのは何であるのかを社会学的に考察する。 【キーワード】 少子高齢化社会、高齢期家族、老化の社会的側面、高齢社会対策大綱	高梨　薫（神戸学院大学教授）	高梨　薫（神戸学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	要介護高齢者と家族	介護保険サービスの利用は、重度の者は施設サービス利用が半数を超えているが、重度でも著しい数の要介護高齢者が居宅サービスと家族による介護を受けていることが考えられる。介護を自分たちの手で何とかしたいと思っている家族は少なくないといわれ、また要介護高齢者にとっては、介護を家族に期待できるかということでなく、家族と良い関係を保っていられることが大切な場合も考えられる。要介護高齢者と家族の生活について理解を深める。 【キーワード】 要介護認定、自立の支援、介護充実感、社会情動的選択理論	高梨　薫 （神戸学院大学教授）	高梨　薫 （神戸学院大学教授）
11	自死遺族の困惑と苦境	生老病死は家族生活の歴史でもある。本章では家族生活にとって確実に訪れる永別、わけても自死と遺された家族の問題を取り上げ、臨床家族社会学的に自死の実態、自死遺族の直面する問題、自死による永別への対応、支援などについて「事例的臨床」の観点から学ぶ。 【キーワード】 封印された死、さよならのない別れ、自責感、わかちあいの会	清水　新二 （奈良女子大学名誉教授）	清水　新二 （奈良女子大学名誉教授）
12	自死遺族の社会的支援	自殺問題のなかでこれまで看過されてきた自死遺族支援の問題を正面からとりあげる。この章では「対策的臨床」の観点から、先ずマクロ的に近・現代社会が死について向き合わなくなってきた流れを説明する。次いでわが国の自死の実態を概観した上で、自死対策枠組みの中でも特に自死遺族支援に焦点をあて、自死遺族支援の課題について学び、その問題対処に向けた社会的取り組みの歴史と展開、支援の際の視点や留意点などについて理解を深める。 【キーワード】 自殺率、メメント・モリ、自死遺族支援、自殺対策基本法、ポストヴェンション	清水　新二 （奈良女子大学名誉教授）	清水　新二 （奈良女子大学名誉教授）
13	家族生活とドメスティックバイオレンス	本章ではドメスティック・バイオレンスを中心に用語の置き換え効果について述べ、言葉が開く家族臨床課題の発見について考える。次いでその実態および対策枠組み的支援としての法制度の展開を見る。さらに、専門的科学知としての研究知見と経験的生活知としての支援現場から立ち上がる家族暴力の立像を対比させつつDV問題を考える際に注意すべき論点や研究知見・成果を紹介整理して、問題ならびに論議の複層性への理解を広げる。 【キーワード】 ドメスティック・バイオレンス、DV防止法、DV定義の外延的拡大、非対称性仮説、世代間連鎖仮説、学習性無力感	清水　新二 （奈良女子大学名誉教授）	清水　新二 （奈良女子大学名誉教授）
14	児童虐待問題へのもう1つのアプローチ	社会学的視点からの、被虐待児童とその家族への支援の基礎理論の学習を目指す。最初に伝統的ナラティヴモデルの理論を説明し、その理論的問題点について論じる。そして新たな修正ナラティブモデルの理論的枠組みを示す。 【キーワード】 児童虐待、ナラティヴモデル、生成的システムズ理論、修正ナラティヴモデル	加茂　陽 （県立広島大学名誉教授）	加茂　陽 （県立広島大学名誉教授）
15	被虐待児童の家族支援の実際：修正ナラティヴモデルによる支援とその課題	前章で示した修正ナラティヴモデルについて、問題定義法、評定法、そして変容技法に関して詳細に論じ、事例分析によりそれらの使用の実際を示す。その上で、その有効性と問題点を明らかにする。 【キーワード】 被虐待児童の家族支援、修正ナラティヴモデル、評定方法、変容手法	加茂　陽 （県立広島大学名誉教授）	加茂　陽 （県立広島大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	5510015	履修制限	無	単位数	1

科目名（メディア） ＝ 女性のキャリアデザインの展開 （’１７）＝ （OL）

英文名 ＝ 〔 Development Course on Women’s Career Design (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：中野 洋恵 （国立女性教育会館主任研究員） 〕

〔主任講師（現職名）：渡辺 美穂 （国立女性教育会館研究員） 〕

【本学担当専任教員：宮本 みち子 （放送大学副学長） 】

講義概要

女性の働き方が大きく変動している現代社会の中で、さまざまな年代の女性たちが仕事やライフスタイルを含めた広い意味でのキャリアをどのようにとらえているのか、それぞれの転機や直面した課題、それを乗り越えるための工夫について学ぶとともに、履修者同士がオンラインでの意見交換を通じて女性のキャリアとそれをめぐる社会構造について理解する。

授業の到達目標

1. 事例を通じて現代社会における多様な女性のライフコースや直面する課題とその乗り越え方、背景にある社会構造について、女性のキャリア形成事例を通じて学ぶ。
2. 学習者同士の意見交換を通じて、自身のキャリアデザインや女性のキャリアをめぐる環境改善の方策について考える。

成績評価の方法

通信指導、単位認定試験および再試験は行わない。成績評価は、履修者同士のオンラインディスカッションへの積極的な参加(40%)、小テスト(30%)、最終レポート(30%)の評価により行う。

履修上の留意点

男性受講者も女性のキャリアをめぐる環境について一緒に考えていただきます。
※本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
1	女性の多様な生き方	現代社会を生きる女性の置かれた状況は大きく変動している。8回の講座を通じて紹介する女性の多様な生き方と就業継続の課題や重要性について、入門編を振り返りつつ概括する。キャリア事例からそれぞれの転機や問題の背景、乗り越え方について、どのように学んでいくか説明するガイダンス。 【キーワード】 ライフコース、変化する社会、キャリアデザイン	中野 洋恵 (国立女性教育会館主任研究員) 渡辺 美穂 (国立女性教育会館研究員)
2	初期キャリア	キャリア形成における初期キャリアの重要性と、初期キャリア期に直面する課題について説明する。その上で、平成27年度入社の大卒男女正社員を対象に実施した「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」(国立女性教育会館)第1回の結果を用いて、初期キャリア期におけるリアリティ・ショックについて示す。 【キーワード】 初期キャリア、組織社会化、リアリティ・ショック	島 直子 (国立女性教育会館研究員)

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
3	就業継続1	女性の就業継続をめぐる環境が大きく変化している現状とその背景について統計や施策を説明する。女性の就業継続にかかわるキャリア観に影響する要因について、企業や学校で働く女性のキャリア形成事例を見ていく。男女雇用機会均等法から女性活躍推進法に至る企業の取組みについてゲストに話を伺う。 【キーワード】 就業継続、モチベーション、ロールモデル、メンター、管理職	渡辺　美穂 (国立女性教育会館研究員) ゲスト：山極　清子(株式会社wiwiw社長執行役員)
4	就業継続2	女性の就業継続を困難にするワーク・ライフ・バランスをめぐる問題（育児、出産、介護等）について統計や施策を学ぶ。女性たちが直面した困難や乗り越えた事例を見ていく。企業のワーク・ライフ・バランス施策の導入や働く女性の支援を行う株式会社wiwiwの取組みについてゲストに話を伺う。 【キーワード】 育児、出産、ワーク・ライフ・バランス、介護	中野　洋恵 (国立女性教育会館主任研究員) ゲスト：山極　清子(株式会社wiwiw社長執行役員)
5	就労継続の構造的問題	女性の就労の構造的問題として、派遣やパートタイム労働、期間限定社員など、非正規雇用の現状と課題についてゲストに話を伺うとともに、非正規雇用からのキャリア展開について事例を通じて考える。また、地域を拠点にして女性のさまざまな問題の解決を側面から支援する男女共同参画センター横浜の事業担当者から、女性の就労に関する取組みについて聞く。 【キーワード】 非正規雇用、派遣労働、同一労働同一賃金、職務評価、スキル	渡辺　美穂 (国立女性教育会館研究員) ゲスト：大槻　奈巳(聖心女子大学教授)
6	新しい働き方 －女性と起業	従来の働き方とは異なるワークスタイルを導入する女性が増えてきている。社会や地域の課題解決も視野に入れた女性たちの事例を取り上げる。この回では、「女性の起業」の特徴や課題について起業支援を行っているゲストやさまざまな経緯からNPO、株式会社等を立ち上げた女性のキャリア事例から学ぶ。 【キーワード】 女性の起業、ICT、テレワーク、ネットワーク	渡辺　美穂 (国立女性教育会館研究員) ゲスト：吉枝　ゆき子(株式会社ソフィットウエブコンサルティング代表取締役)
7	新しい働き方 －社会や地域の課題解決	第6回に引き続き、社会や地域課題の解決を視野に入れた女性の働き方や生き方を見ていく。IT企業を経て、出産・育児を契機に女性を支援するNPOを立ち上げて地域おこし協力隊として町づくりに取組む30代女性や都市で幅広い年代層を対象にしたコミュニティカフェを起業した女性の事例等を通じて考える。 【キーワード】 地域、コミュニティ、交流、団体・NPO・グループ	渡辺　美穂 (国立女性教育会館研究員) 中野　洋恵 (国立女性教育会館主任研究員)
8	これからの社会とキャリアを考える	これまでの7回の講座を振り返りながら、働き方の転換、女性の活躍、男性にとっての男女共同参画などをテーマに、女性のキャリアデザインについてゲストに話をききながら考える。 【キーワード】 働き方の転換、キャリアデザイン、エンパワーメント、男性にとっての男女共同参画、社会貢献	中野　洋恵 (国立女性教育会館主任研究員) ゲスト：安斎　徹 (群馬県立女子大学教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518984	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 公衆衛生 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Public Health (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：田城　孝雄　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：横山　和仁　（順天堂大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

公衆衛生学は、人々が関わる社会状況、生活環境、保健医療制度ならびに事業、社会保障および社会福祉など、医学・医療が社会とかかわる領域の学問である。病気の人一人一人を対象とするのではなく、人びとの集まりとして社会を見ていく。在宅医療、地域保健、途上国などの現場で問題解決のために実際の活動を行うのも特徴である。

授業の目標

公衆衛生学は、組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。15回の講義を通じて、公衆衛生学について理解することを目標とする。

履修上の留意点

「感染症と生体防御」および「健康長寿のためのスポートロジー」も履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	公衆衛生学の基礎 プライマリヘルスケア	公衆衛生学は、疾病を予防し、寿命を延ばし、身体的健康と様々な分野との組織的な活動を行う科学である。公衆衛生学の基礎として、プライマリヘルスケアについて解説する。プライマリヘルスケアは、社会に受け入れられる手順と技術に基づいたヘルスケアであり、ニーズ指向性、住民の主体的参加、資源の有効活用、協調・統合を原則とする。 【キーワード】 プライマリヘルスケア、住民参加、ニーズ指向性、健康	横山　和仁 (順天堂大学教授)	横山　和仁 (順天堂大学教授)
2	健康と環境	ヒトの健康に影響を与える環境について講義する。環境は、人間を含む生物を取り巻くすべてであり、ヒトの健康に影響を及ぼすと同時に、人間の活動により汚染される。これらの関係を理解するために、環境の変化に対する生体の反応、物理的・化学的・生物的環境要因の概要、公害・地球環境問題と環境管理について学ぶ。 【キーワード】 恒常性、量－影響関係、量－反応関係、環境汚染、地球環境問題	篠原　厚子 (清泉女子大学教授)	篠原　厚子 (清泉女子大学教授)
3	疫学と健康指標	公衆衛生学の基本となる疫学について解説する。また各種の健康指標について解説する。公衆衛生学の基本となる疫学は人間の集団を対象として、疾病の頻度や発生を把握し、その要因を科学的に明らかにする学問である。疫学研究から予防対策を立てるために役立つ情報が得られる。疫学の基礎的な概念と考え方、予防医学の考え方を理解する。また、わが国の衛生関係統計資料の概要と主要な健康指標について解説する。 【キーワード】 疫病頻度、有病率、罹患率、症例対照研究、コホート研究、因果関係、衛生統計	黒澤　美智子 (順天堂大学准教授)	黒澤　美智子 (順天堂大学准教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	健康づくり	地域住民の健康づくりについて解説する。急増する生活習慣病、少子高齢化に伴う社会保障費の増大など様々な課題を背景に、近年、健康づくりに対する関心が急速に高まっている。本章では主として公衆衛生学の観点から、リスク要因と健康増進要因への対処、リスクの高い個人と一般集団への対処など、健康づくりの多様なアプローチを学び、健康づくりの政策や実践へ応用できる解決策を考える。 【キーワード】 疾病生成論、健康生成論、ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチ、ヘルスプロテクション、ヘルスプロモーション	湯浅　資之（順天堂大学先任准教授）	湯浅　資之（順天堂大学先任准教授）
5	日本の社会保障制度と医療制度	社会保障制度について説明し、各法律について解説する。社会保障制度は、個人の努力では対処できない事象に対して、社会全体で生活を保障する制度である。日本国憲法25条を根拠とする。 我国の医療制度について説明する。医療提供体制の解説と、医療保険制度、国民皆保険について講義する。 【キーワード】 社会保障制度、日本国憲法25条、医療提供体制、医療保険制度、国民皆保険	田城　孝雄（放送大学教授）	田城　孝雄（放送大学教授）
6	グローバル化する世界の公衆衛生・国際協力	グローバル化する世界の中での公衆衛生学の活動を紹介する。新興感染症の蔓延やバイオテロへの防御、地球温暖化や経済格差に起因する健康影響など、今日の健康を取り囲む諸問題には、国境を越え、地球規模で協力して取り組むべき対応が求められている。本章では、国際機関や二国間援助、NGOや民間企業による国際協力など、グローバルヘルスにおける最新の動向とその対応策を学ぶ。 【キーワード】 グローバルヘルス、国際保健、国連ミレニアム開発目標、官民連携	湯浅　資之（順天堂大学先任准教授）	湯浅　資之（順天堂大学先任准教授）
7	地域保健・健康づくりと地域	地域住民全体を視野においた組織的な活動である地域保健について解説する。地域保健の対象者は、地域住民の全てであり、そのすべてのライフステージが対象となる。地域保健法は、都道府県と市区町村の役割分担を見直すものである。地域保健法を解説し、保健所と市町村保健センターの役割について講義する。 【キーワード】 地域保健法、保健所、市町村保健センター	田城　孝雄（放送大学教授）	田城　孝雄（放送大学教授）
8	母子保健	子育て支援を含む母子保健活動について解説し、あわせて少子高齢化対策に関しても解説する。わが国の母子保健体制は、妊娠、出産から幼児期に至るまで予防、治療から養育を含む包括的施策から成り、戦後日本の母子保健水準の向上に大きく寄与してきた。本章では、母子保健法に基づく公的事業のほか、愛育会などの住民参加による子育て支援の地域活動についても学び、母子保健対策の概要を展望する。また、近年社会的関心を集めている幼児虐待や不妊治療・生殖補助医療の現状についても学ぶ。 【キーワード】 母子保健法、母子健康手帳、妊婦健診、乳幼児健診、未熟児養育医療、幼児虐待、不妊治療	湯浅　資之（順天堂大学先任准教授）	湯浅　資之（順天堂大学先任准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	成人保健・老人保健	生活習慣病、認知症など、我国の大きな課題に対する保健活動に関して解説する。社会の高齢化により、ライフスタイルの変化、疾病構造の変化により、がん・心臓病・脳卒中などの生活習慣病が死因の上位を占めるようになった。また、寝たきりや認知症高齢者など介護を必要とする人々が増加している。このような健康課題に対応する成人保健、老人保健制度について解説する。 【キーワード】 生活習慣病、ライフスタイルの変化、介護保険、認知症	田城　孝雄（放送大学教授）	田城　孝雄（放送大学教授）
10	精神保健	近年、世界的な規模での急激な情報化、および社会経済の変化に伴う人々の心理社会的ストレスは増大する傾向にある。このような状況の中で、人々の精神的健康の維持・増進を図り、様々なストレス反応や不適応状態に対応する精神保健の重要性は高まっている。家庭、学校、職場、近隣地域での生活の場でどのような精神保健上の問題が生じているのかを明らかにし、それぞれの問題にどのように対応すれば良いのかを検討する。また、精神医学的知識に基づく医療現場における身体疾患患者への危機介入、医療者のメンタルヘルス、災害時のメンタルヘルスケアについて実践的な内容を学習する。 【キーワード】 ストレス、精神的健康、メンタルヘルスケア、生活の場、危機介入	浦川　加代子（順天堂大学教授）	浦川　加代子（順天堂大学教授）
11	難病保健	難病による障害者対策である難病保健について解説し、難病ケアシステムの必要性について解説する。難病という名の疾病は存在しないが、わが国では「難病」を原因不明、治療方針未確定で後遺症を残す恐れが少なくない疾病、経過が慢性にわたり経済的な問題のみならず介護等による家族の負担が重く、精神的にも負担の大きい疾病として、様々な対策がとられている。難病対策の概要と難病の研究について解説する。 【キーワード】 難病対策、難治性疾患克服研究事業、特定疾患治療研究対象疾患	黒澤　美智子（順天堂大学准教授）	黒澤　美智子（順天堂大学准教授）
12	感染症対策	感染症の基本知識と予防対策について説明する。感染症対策の法整備の歴史を述べて、さらに最近の新型インフルエンザなど、新興・再興感染症についてと、2007年に改正された感染症法について解説する。さらに結核、HIV・エイズについて解説する。 【キーワード】 感染症、宿主、病原体、感染、発症、感染症法、結核、HIV	田城　孝雄（放送大学教授）	田城　孝雄（放送大学教授）
13	学校保健	学校における保健教育と保健管理である学校保健について解説する。学童から思春期に至る年齢層は、身体的な著しい成長と精神心理面でも大きく変化する時期でもある。しかも、多様化し変化の激しい社会の影響を受けて、現代を生きる子どもたちは新たな健康課題に直面している。こうした現状を踏まえ、本章では学校保健安全法に基づき実施されているわが国の学校保健施策の概要を学び、同時に現代の子どもたちを取り巻く公衆衛生的課題を取り上げ、現状と課題を理解する。 【キーワード】 学校保健安全法、保健教育、保健管理、思春期保健	湯浅　資之（順天堂大学先任准教授）	湯浅　資之（順天堂大学先任准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	産業保健	労働者の健康障害予防や健康増進を行う産業保健に関して、解説する。昨今の技術革新と時代の変化には目を見張るものがある。それに伴い労働者を取り巻く労働環境も想像以上のスピードで変化している。このような環境の中で働く人々の健康問題において古くから知られている職業病対策に加えて、メンタルヘルス対策をはじめとする新たな問題が浮上し注目を浴びている。働く人々を取り巻く環境について、過去から現在への状況とその対策などについて学んでいく。 【キーワード】 職業病、労働衛生管理、労働安全衛生法	北村　文彦 （順天堂大学准教授）	北村　文彦 （順天堂大学准教授）
15	災害保健・健康危機管理	大きな震災に見舞われた日本において、災害発災時の初動体制、避難所における衛生・健康管理、障害者・要介護者・高齢者などの社会的弱者の避難や、支援などの方策を検討する。住民の健康、生命の安全を脅かす危機を未然に防止し、災害発生時に被害を最小限に抑制するために行うべき活動について解説する。放射線障害を含む、様々な健康危機管理について解説する。 【キーワード】 災害、初動体制、避難所、社会的弱者、健康危機管理、放射線障害	田城　孝雄 （放送大学教授）	田城　孝雄 （放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518976	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 健康長寿のためのスポートロジー （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Sportology for Healthy Aging (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：田城 孝雄 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：内藤 久士 （順天堂大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

スポートロジーは、スポーツと健康の関わりを科学的に解明する新しい学問分野として新たに創設されたものである。科学的根拠に基づく習慣的な運動によって、生活習慣病の予防や治療、要介護につながる高齢者の転倒・骨折予防、認知症やうつ病の予防などを行おうという新しい学問である。医学とスポーツ健康科学と連携して、個人個人の体質に応じた肥満予防のためのスポーツ療法など、スポーツと医学が手を結び合って、一般市民の健康増進のためのさまざまな対策を打ち出していこうという体系だった学問の教育を目指す。

授業の目標

スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠であることを学ぶ。分子生物学・運動生理学など、基礎医学の最新知見から、スポーツや運動が、寿命の延長など、健康長寿に効果があることを学ぶ。

履修上の留意点

「公衆衛生(’15)」を履修することを推奨する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	健康長寿のためのスポートロジー	現代の医療環境と健康増進、予防医学について説明し、スポートロジーという新しい学問体系の必要性について解説する。生活習慣病の予防や治療、要介護回避のための転倒・骨折や寝たきり予防、痴呆症の予防や治療に応用するための学問体系である。 【キーワード】 要介護、生活習慣病、スポーツ医学	田城 孝雄（放送大学教授）	田城 孝雄（放送大学教授）
2	現代社会と運動不足	遺伝的要因と生活習慣（食事、運動、休養）が長期間にわたって不適切だった人の罹りやすい病気が生活習慣病である。最近の運動・医科学の研究により、これら生活習慣病に慢性的な運動不足が大きく関係していることが明らかとなった。ここでは、最新の運動生理学の知見を解説する。 【キーワード】 生活不活発病、NEAT、廃用性委縮、生理的適応	森谷 敏夫（京都大学教授）	森谷 敏夫（京都大学教授）
3	運動が全身に与える影響 －水中運動の効果－	近年、社会の水泳に対する需要は増え、年々幅広いものとなっている。その需要は、「競泳」に留まらず「アクアエクササイズ」、「水中ウォーキング」、「水を利用したヒーリング」など多岐にわたる。水中運動が呼吸循環機能や、エネルギー代謝に与える影響を、生体データに基づいて解説する。 【キーワード】 水中運動、アクアエクササイズ、水中ウォーキング	鈴木 大地（順天堂大学客員教授、スポーツ庁長官） 田城 孝雄（放送大学教授）	鈴木 大地（順天堂大学客員教授、スポーツ庁長官） 田城 孝雄（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	肥満のメカニズムと運動	体重、体脂肪を調節しているのは自律神経である。運動をしないと自律神経の活動が低下する。筋力が落ちて筋肉の量も減る。基礎代謝も低下する。その結果として太るわけである。運動はこの自律神経機能を回復・亢進させ過剰な食欲を減らし、内臓脂肪を低減させる。これらのメカニズムを最新の知見をもとに分かり易く解説する。 【キーワード】 自律神経、褐色脂肪、アイリシン、食欲調節ホルモン	森谷　敏夫（京都大学教授）	森谷　敏夫（京都大学教授）
5	運動とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームのメカニズムとして内臓脂肪の蓄積とそれに伴うインスリン抵抗性の重要性が指摘されているが、近年、肝臓や骨格筋の細胞内に蓄積する脂質（異所性脂肪）がインスリン抵抗性の病態としてより重要であることが明らかとなってきている。メタボリックシンドロームの概念と異所性脂肪との関連、それに対する食事、運動の効果について解説する。 【キーワード】 異所性脂肪、インスリン抵抗性	田村　好史（順天堂大学先任准教授）	田村　好史（順天堂大学先任准教授）
6	運動と糖尿病	近年、2型糖尿病患者数は増加の一途を辿り、今後効果的な予防や治療法の開発が望まれる。肝臓や骨格筋の細胞内に蓄積する脂質（異所性脂肪）がインスリン抵抗性の病態としてより重要であることが明らかとなってきているが、糖尿病の発症、治療におけるそれらの重要性や具体的な対処方法について考えたい。特に日本人においては、非肥満の2型糖尿病が多く、その発症機序と運動の役割について詳しく解説する。 【キーワード】 異所性脂肪、インスリン抵抗性、行動変容	田村　好史（順天堂大学先任准教授）	田村　好史（順天堂大学先任准教授）
7	運動と心血管疾患(1)	心臓血管系の構造、代表的な心血管疾患の分類、原因、その病態について解説する。それらの疾患に関連する危険因子について理解する。それぞれの疾患における運動療法に位置付け、実情と問題点について解説する。動脈硬化を基盤として発症する虚血性心疾患は増加している。虚血性心疾患の予防、虚血性心疾患患者の心血管イベント再発予防は重要である、その二次予防における運動療法の意義、包括的疾病管理プログラムである心臓リハビリテーションについて解説する。 【キーワード】 虚血性心疾患、大動脈疾患、脳卒中、末梢動脈疾患、静脈血栓症、危険因子、動脈硬化、心臓リハビリテーション	島田　和典（順天堂大学准教授）	島田　和典（順天堂大学准教授）
8	運動と心血管疾患(2)	心不全患者は増加している。心不全の原因と病態を理解する。心肺運動負荷試験の特徴とその意義、心不全に対する運動処方、運動療法の効果について解説する。さらに、心不全に対する心臓リハビリテーションの実際、レジスタンストレーニングの有効性について解説する。 【キーワード】 心不全、心筋代謝、心筋リモデリング、レジスタンストレーニング	島田　和典（順天堂大学准教授）	島田　和典（順天堂大学准教授）
9	運動と運動器疾患(1) －運動と骨粗鬆症－	運動を行う際の身体活動を司る骨・軟骨・筋肉などの運動器そのものの機能維持にも「力学的負荷」が重要である。さらに、長寿化に伴い増加する高齢者の骨折そして寝たきりの原因となる骨粗鬆症患者は800万人程度と推定されるが、その予防と治療にも「力学的負荷」は重要な役割を担う。これら運動器疾患、そのなかでも骨粗鬆症と運動もしくは「力学的負荷」との関連について解説する。 【キーワード】 運動器、骨、軟骨、骨粗鬆症、骨折、力学的負荷	石島　旨章（順天堂大学准教授）	石島　旨章（順天堂大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	運動と運動器疾患(2)－運動と変形性膝関節症－	わが国での患者数が約2,500万人程度と推定される変形性膝関節症は、壮年期に発症し、高齢者の日常生活動作を障害し、生活の質を低下させ、要介護の主要原因疾患である。この疾患に対して、適切な運動による関節への「力学的負荷」は確固とした治療方法である一方で、肥満などによる過剰な「力学的負荷」は疾患の増悪因子である。本章では、変形性膝関節症における「力学的負荷」の重要性について解説する。 【キーワード】 運動器、軟骨、変形性膝関節症、運動療法、力学的負荷	石島　旨章（順天堂大学准教授）	石島　旨章（順天堂大学准教授）
11	運動と骨格筋	骨格筋は、運動の力を生み出す人体のエンジンとしての役割を果たしている。また、刺激の変化に対してよく適応する非常に可塑性に富んだ組織であり、筋肉トレーニングなど負荷の増大に対しては肥大し、反対に無重力環境などで不活動な状態によって萎縮する。本章では、まず骨格筋が力を発揮する基本的なしくみを理解し、さらに骨格筋の特性とスポーツ競技との関連性についての理解を深める。その上で、加齢に伴う筋萎縮（サルコペニア）と骨格筋に関わるアスリート遺伝子（αアクチニン3遺伝子）を題材に、骨格筋の役割について分子、遺伝子のレベルからも理解することを目指す。 【キーワード】 筋力トレーニング、筋肥大、筋萎縮、サルコペニア、筋線維組成	内藤　久士（順天堂大学教授）	内藤　久士（順天堂大学教授）
12	認知機能と脳	適応的な行動の発現には脳が必須である。本章では脳の基本構造について概説した後、脳がどのように適応的な行動を支えているのかを解説する。 【キーワード】 脳、認知機能、判断、実行機能、記憶、前頭前野、海馬	宇賀　貴紀（順天堂大学先任准教授）	宇賀　貴紀（順天堂大学先任准教授）
13	加齢による脳の変化、認知症とその予防	認知症が今後ますます大きな社会問題となることは間違いない。そこで、認知症の種類とそれぞれの病態、進行について概説した後、運動を含めた様々な認知症の予防法について解説する。 【キーワード】 脳、加齢、認知症、前頭前野、海馬、食事、運動	宇賀　貴紀（順天堂大学先任准教授）	宇賀　貴紀（順天堂大学先任准教授）
14	運動とがん	がんは今や国民の二人に一人が罹る病気である。がんの原因を明らかにし、それらに対する予防法を見いだし有効な予防対策を講じることは、国全体として戦略的に取り組むべき喫緊の課題である。これらの変異誘発及び蓄積の要因（〝発がん要因〞）として、近年、肥満、糖尿病、運動不足等の生活習慣との関連が強く示唆されている。本章では、がんの発生と運動、及び生活習慣との関係について理解してもらう。 【キーワード】 生活習慣、がん予防、一次予防、運動、発がんメカニズム	中釜　斉（順天堂大学客員教授、国立がんセンター研究所長）	中釜　斉（順天堂大学客員教授、国立がんセンター研究所長）
15	子どもの体力・運動能力の現状とその課題	子どもの体力・運動能力は、近年一部のテスト項目で成績の向上傾向が認められるものの、その多くは親世代が子どもであったおよそ30年前に比べて依然低い水準にある。子どもの体力・運動能力の低下は、将来的に国民全体の体力・運動能力低下につながり、医療や介護に要する費用の高騰を招き、社会全体の活力が失われることにもなりかねない。本章では、これまで蓄積されてきた調査データに基づいて、子どもの体力・運動能力の変遷と現状を正しく把握し、体力・運動能力低下の背景を理解する。また、この問題解決に向けた今後の取り組みのあり方について考える。 【キーワード】 体力・運動能力低下、二極化、運動指針、新体力テスト、運動習慣	内藤　久士（順天堂大学教授）	内藤　久士（順天堂大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518968	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 認知症と生きる （’１５）＝（TV）

英文名 ＝ 〔 Living with Dementia (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：井出　訓　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：　　】

講義概要

近年の高齢者数の増加に伴い、健康な高齢者ばかりではなく、疾病や障害を持ちながら生活を続ける高齢者の数も増加していることが報告されている。特に、認知症高齢者の数は2015年に345万人、2020年には410万人になるとの予測がなされている。認知症とは何か、認知症の予防とは、また認知症を患った場合にどこでどのように暮らすのか等の問題は、医療・福祉の専門職ばかりではなく、一般市民の間においても関心の高まりを見せている。本科目では、認知症に関する基礎的な医学知識から認知症の人や家族に対する具体的な地域での取り組みまで、幅広く網羅しながら認知症に関する基礎的な理解を促すとともに、専門職に就く学生たちの知識整理と共に、治療やケアに関する新たな情報を盛り込むことで、認知症ケアの実践にも資する内容の学習を行う。

授業の目標

認知症とはどのような状態であるのかなど、認知症に関する基本的な理解を得ることができる。
認知症の人とかかわる上で重要となる知識を身に着けることができる。
認知症の人、家族、介護者が地域の中でどのように暮らしているのかを知ることができる。
認知症になっても安心して暮らせる町づくりの実現に向けた取り組みを学ぶことができる。

履修上の留意点

受講に先立つ予備的な専門知識は特に必要としないが、おのおのの関心に応じて広く関連事項を学んでいくことを期待する。また、それぞれが暮らす地域での取り組みなど、身近な問題として視野を広げつつ考察を深めてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	認知症とは何か：現代社会における認知症	我が国は65歳以上高齢者の10人に一人は認知症を有する時代を迎えつつある。認知症の診断技術やケア、認知症の人、家族、介護者のためのサービス、更には認知症になっても安心して暮らしていけるまちづくりなど、社会における認知症の理解は、以前に比べ進んできている。認知症に関する人々の関心も高まっている。そうした認知症治療やケア、サービスなどの歴史的変遷、また定義や今日的課題など、海外の動向も踏まえながら概観する。 【キーワード】 定義、歴史、社会の高齢化、医療の進歩	井出　訓（放送大学教授）	井出　訓（放送大学教授）
2	認知症の医学的な特徴①：認知症をきたす様々な疾患	医学的には認知症は様々な疾患の総称である。アルツハイマー型認知症を代表とする神経変性疾患以外にも脳血管性障害によるもの感染症やホルモンの病気によって引き起こされる認知症もある。また、一見認知症のように見えるうつ病やせん妄といった病態もある。ここではこれらの認知症症状をきたす疾患の説明やその重要性について述べる。 【キーワード】 認知症、疫学、原因疾患、鑑別診断、せん妄、うつ病	角　徳文（香川大学准教授）	角　徳文（香川大学准教授）
3	認知症の医学的な特徴②：アルツハイマー型認知症	我が国のみならず欧米においても認知症の中で、最も多いタイプがアルツハイマー型認知症である。アルツハイマー型認知症は、神経細胞が破壊され脳が萎縮することにより脳機能が低下するものであるが、具体的な原因ははっきりと解明されていないのが現状である。アルツハイマー型認知症に関する疫学、症状と経過などを中心に医学的な特徴を概観する。 【キーワード】 アルツハイマー型認知症、疫学、症状、検査、軽度認知機能障害、予防	角　徳文（香川大学准教授）	角　徳文（香川大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	認知症の医学的な特徴③：認知症の診断とその他の認知症；血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症	本章では、認知症診断の手順とその際に必要となる検査などについて基本的事項を説明する。またアルツハイマー型認知症以外の血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型変性症について概観する。 【キーワード】 診断、画像検査、評価尺度、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型変性症	角　徳文（香川大学准教授）	角　徳文（香川大学准教授）
5	認知症の医学的な特徴④：認知症の治療～薬物療法について～	近年、認知症の増加に伴いその治療薬の開発も進んでいる。ここでは現在用いられているアルツハイマー型認知症に対する治療薬や開発中の治療薬について説明する。また、精神症状などの周辺症状に対する治療を薬物療法を中心に説明する。 【キーワード】 抗認知症薬、向精神薬、非薬物療法	角　徳文（香川大学准教授）	角　徳文（香川大学准教授）
6	認知症の人の行動と心理的特徴の理解①：中核症状と周辺症状	アルツハイマー型認知症や脳血管性認知症に代表される認知症疾患にみられる症状は、中核症状と周辺症状とに分けることができる。それらの考え方や特徴、具体的な症状の現れ方や病態などについて解説する。 【キーワード】 見当識障害、失認、失行、実行機能障害、記憶障害	加藤　伸司（東北福祉大学教授）	加藤　伸司（東北福祉大学教授）
7	認知症の人の行動と心理的特徴の理解②：心理的問題の理解	認知症によって人の心理面にどのような変化が生じ、それがその人の生活においてどのような影響を与えるのかについて解説する。また、周囲の不適切な対応、不適当な環境が認知症の人に及ぼす心理的な影響について述べる。 【キーワード】 不安感、焦燥感、混乱、負担感、不満	加藤　伸司（東北福祉大学教授）	加藤　伸司（東北福祉大学教授）
8	認知症の人の行動と心理的特徴の理解③～様々な行動の特徴	徘徊や妄想、攻撃的な行為など、認知症の人が示す様々な行動はかつて問題行動と呼ばれていたが、近年では認知症の心理・行動症状と呼ぶようになっている。こうした行動がなぜ起こるのか、またどのようなかかわりが必要となるのか、認知症の人の心理・行動症状出現の理解にむけ、具体的な事例などから解説する。 【キーワード】 問題行動、行動障害、BPSD	加藤　伸司（東北福祉大学教授）	加藤　伸司（東北福祉大学教授）
9	認知症の人とのかかわり①：認知症ケアの歴史をたどる	認知症ケアの変遷を説明し、認知症の人が急増する時代の中であるべきケアの基本について説明する。また、当事者の体験をベースにしながら複合的な障害と潜在力の理解、それらを活かした先進的なケアの取り組みなどを実例をもとに紹介する。 【キーワード】 歴史、パーソンセンタードケア、持てる力	六角　僚子（獨協医科大学教授）	六角　僚子（獨協医科大学教授）
10	認知症の人とのかかわり②：認知症の人の生活支援	認知症の人が自立した生活を送るために重要となる支援のあり方を、在宅、施設など暮らしの場の違いから解説する。また、なじみの関係、なじみの環境といった認知症ケアの基盤となる環境調整について説明する。 【キーワード】 在宅、グループホーム、環境、なじみの関係	六角　僚子（獨協医科大学教授）	六角　僚子（獨協医科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	認知症の人とのかかわり③：認知症の人と権利	認知症の人に対する差別や偏見を考えながら、その人の権利を擁護することの意義を解説する。また、在宅や施設に暮らす認知症の人への虐待、身体拘束など、倫理的な課題を学習するとともに、かかわりのあり方、支援のあり方を考察する。 【キーワード】 QOL、自己決定権、成年後見制度、アドボカシー	六角　僚子（獨協医科大学教授）	六角　僚子（獨協医科大学教授）
12	認知症の人とのかかわり④：認知症の人とのコミュニケーション	認知症の人とかかわるときに重要となるコミュニケーションのあり方について解説する。また、認知症の人の持てる力を引き出すかかわり方、支持的なかかわりのあり方について説明する。 【キーワード】 対象理解、非言語的コミュニケーション、支持的かかわり	六角　僚子（獨協医科大学教授）	六角　僚子（獨協医科大学教授）
13	認知症と生きる①：当事者から見る認知症－本人	認知症の当事者の方々が語る言葉から、認知症と生きることへの思いや意味を考える。また、語られる言葉から、支える側に求められていることが何かを考察していく。 【キーワード】 当事者、思い、支援、自律	井出　訓（放送大学教授）	井出　訓（放送大学教授）
14	認知症と生きる②：当事者から見る認知症－家族	認知症の人を支える家族、介護者はどのようなことに悩み、何を考えているのかを、家族や介護者の具体的な言葉から考えていく。また、家族会などのサポートグループでの活動やその意味を考察する。 【キーワード】 家族会、介護負担、不安、家族の思い	井出　訓（放送大学教授）	井出　訓（放送大学教授）
15	認知症と生きる③～地域で支える認知症	地域の中で認知症の人がどの様に支えられ、生活しているのかを、地域における具体的な取り組みから概観する。また、認知症になっても安心して暮らせるまちを築くための様々な取り組みを紹介し、活動状況や課題などを解説する。 【キーワード】 認知症サポーター、町づくり、生活支援	井出　訓（放送大学教授）	井出　訓（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518917	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 感染症と生体防御 （’１４）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Infectious Diseases and Host Defense (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：田城　孝雄　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：北村　聖　（国際医療福祉大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

本講義は、人間の健康について広範に論ずる「健康科学」の中の講義の一つとして実施される。
健康科学は人間生活に密接に関わる学問であることから、感染症関係では昨今の話題であるHIV、結核はもとよりSARS、新型インフルエンザなどの新興・再興感染症と医療現場での感染症問題に特に焦点を当てた。また、生態防御については、免疫システムの多様性と多型性、自然免疫と獲得免疫、自己免疫と免疫が関与する疾患などを中心に免疫学の最近の動向についてわかりやすく疾患との関係も踏まえながら講義を行う。

授業の目標

交通機関の発達、生活様式の変化、そして医療技術の進歩や医療行為に伴い現代社会に脅威を及ぼしている感染症の特徴を正しく理解するとともに、これら感染症などに対処するためにヒトが有している免疫システムの特徴および多様性について理解を得るようにする。

履修上の留意点

「公衆衛生」も履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ヒトと感染症の歴史	感染症は、人間社会の脅威となってきた。講義では人類に脅威を及ぼしてきた感染症の歴史について、代表的な感染症であるペスト、コレラ、インフルエンザ、結核、産褥熱を取り上げて、解説する。 【キーワード】 ペスト、コレラ、インフルエンザ、結核、産褥熱、ジョン・スノウ	田城　孝雄（放送大学教授）	田城　孝雄（放送大学教授）
2	免疫学総論	人体が細菌やウィルスなどの外敵から自分自身を守る機序・メカニズムについて学習する。人体が自分と他人・他者とを区別しているメカニズムについても学ぶ。 【キーワード】 自然抵抗性と獲得抵抗性、抗原、抗体、リンパ球、サイトカイン	北村　聖（国際医療福祉大学教授）	北村　聖（国際医療福祉大学教授）
3	細菌感染と免疫応答	微生物の中で、細菌感染における、宿主の免疫機序と、それから逃れようとする細菌の宿主の免疫機序からの回避方法について述べる。免疫機序は自然免疫と獲得免疫に分けられ、各々について解説する。 【キーワード】 自然免疫と獲得免疫、パターン認識受容体、補体、細菌感染、結核菌	北村　聖（国際医療福祉大学教授）	北村　聖（国際医療福祉大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ウィルス感染と免疫応答	ウィルスの性質とウイルス感染症を学ぶ。ウイルス肝炎とウイルスによる発がんについても学ぶ。ウイルス感染に対する宿主の基本的な免疫応答についても概説する。 【キーワード】 ウイルス、感染経路、持続感染、ウイルス肝炎、子宮頸がん、新興再興感染症	北村　義浩（国際医療福祉大学教授）	北村　義浩（国際医療福祉大学教授）
5	市中感染症①	普段の社会生活を送っている中で罹患した感染症である市中感染症は最も一般的な感染症である。市中感染症に関して、その起因菌と診断について解説する。抗菌薬使用の基本を理解する。 【キーワード】 市中感染症、現象、臓器、微生物、抗菌薬	岩田　健太郎（神戸大学教授）	岩田　健太郎（神戸大学教授）
6	市中感染症②	基本的な風邪、肺炎と気管支炎の違いを理解する。尿路感染症、下痢症、腹痛を伴う感染症、中枢神経感染症、性感染症、不明熱等について、解説する。 【キーワード】 風邪、肺炎、気管支炎、尿路感染、下痢症、髄膜炎、皮膚軟部組織感染症、敗血症、不明熱	岩田　健太郎（神戸大学教授）	岩田　健太郎（神戸大学教授）
7	結核	結核の歴史、結核患者の特徴、結核に関する検査の特徴を理解する。結核の治療について解説する。また、現在の結核の問題点を解説する。 【キーワード】 抗酸菌、肺結核・排外結核、薬剤耐性	内藤　俊夫（順天堂大学教授）	内藤　俊夫（順天堂大学教授）
8	HIV感染症	HIV感染症の現状、HIV感染者の特徴、診断と治療について解説する。またHIV治療法のそれぞれの利点・欠点について解説する。 【キーワード】 HIV感染症、AIDS、抗ウィルス療法	内藤　俊夫（順天堂大学教授）	内藤　俊夫（順天堂大学教授）
9	真菌感染症	真菌には種々の種類がある。発酵食品の製造で役立つものもあるが、住居や食べ物に生えて人々を不快にするカビもある。ヒトの体にも、この真菌が感染し水虫、フケなどの病害を及ぼす。症状が無く、本人が感染に気が付かない不顕性感染もあるし、体の深部にも感染が広がり、時には重篤となる場合もある。真菌感染症を防ぐ日常生活の知識を紹介する。 【キーワード】 真菌症、日和見感染、カンジダ、クリプトコッカス、アスペルギルス	高橋　優三（岐阜大学名誉教授、兵庫医科大学客員教授）	高橋　優三（岐阜大学名誉教授、兵庫医科大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	寄生虫感染症	寄生虫感染症はウイルスや細菌などの感染症と比較して、生物学的、臨床的、また公衆衛生学的にも、興味深い側面を有している。病原体自身が高度に進化した動物であり、寄生適応にあたって、複雑な宿主－寄生虫相互作用を必要としている。感染の成立の条件を軸に、講義では、寄生虫感染がその地域の環境や文化に依存している例を挙げ、安全な海外旅行や食生活のための知識を紹介する。 【キーワード】 回虫、日本住血吸虫、マラリア原虫、赤痢アメーバ、トキソプラズマ	高橋　優三（岐阜大学名誉教授、兵庫医科大学客員教授）	高橋　優三（岐阜大学名誉教授、兵庫医科大学客員教授）
11	衛生動物による健康被害	衛生動物とは、人の健康に害を及ぼす有害な動物の総称である。健康害としては、アレルギー反応（ダニ、蜂、蚊、ムカデなど）、有毒物質（蛇、アオバアリガタハネカクシ）、病原体の媒介（蚊、ツェツェバエ、マダニ、鼠、犬など）などが知られている。特にアナフィラキシーショック、熱性疾患（マラリア、アフリカ睡眠病、紅斑熱、出血熱）、狂犬病などは、命に係わる重大関心事である。 【キーワード】 衛生動物、ダニ、ノミ、媒介、アレルギー	高橋　優三（岐阜大学名誉教授、兵庫医科大学客員教授）	高橋　優三（岐阜大学名誉教授、兵庫医科大学客員教授）
12	医療関連感染症①（医療関連感染）	感染症は、大きく市中感染と医療関連感染に分類される。医療関連感染の代表的な感染症は、中心静脈カテーテル関連感染、尿路カテーテル関連感染、院内肺炎、手術部位感染、クロストリジム・ディフィシル感染の5種類である。これらの感染症は、予防可能である。病院内での包括的な対応策について概要につき解説する。 【キーワード】 医療関連感染、院内感染、感染対策、インフェクションコントロールチーム、医療安全	矢野　晴美（筑波大学教授）	矢野　晴美（筑波大学教授）
13	医療関連感染症②（感染経路別感染対策と職業感染予防）	医療現場の感染対策である標準予防策、感染経路別隔離予防策を解説する。病院職員に対する推奨ワクチンは、麻しん、ムンプス、風疹、B型肝炎、水痘である。ツベルクリン反応なども結核対策上、重要である。医療現場の職業感染予防で、針刺し・切創が挙げられる。血液や体液を介して感染する疾患の予防と暴露後予防について理解する。 【キーワード】 標準予防策、感染経路別隔離予防策、職業感染予防、針刺し・切創	矢野　晴美（筑波大学教授）	矢野　晴美（筑波大学教授）
14	予防接種と感染症	ワクチンは毒性を無くしたか、あるいは弱めた病原体から作られる。感染症から身を守るためには治療よりもワクチンによる予防の方が効果的である。ワクチンと予防接種の考え方について学ぶ。 【キーワード】 予防接種法、生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、社会防衛、個人防衛	北村　義浩（国際医療福祉大学教授）	北村　義浩（国際医療福祉大学教授）
15	21世紀の感染症の課題 －国内と国際保健の観点からの考察－	わが国の感染症は、医学の進歩等により、急速に制圧されていった。しかしまた、これまで知られていなかった新たな感染症も出現している。感染症対策には医療体制の整備など発生時の的確な対応のみならず、法制度等の整備による事前対応型対策の展開、国際協力などの政策が重要となる。21世紀の感染症の課題を日本国内と国際保健の観点から、考察する。 【キーワード】 新興感染症・再興感染症、感染症法、ODA、ミレニアム開発目標	田城　孝雄（放送大学教授） 北村　義浩（国際医療福祉大学教授）	田城　孝雄（放送大学教授） 北村　義浩（国際医療福祉大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518852	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　リハビリテーション　　（’１３）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：金田　嘉清　（藤田保健衛生大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：関根　紀子　（放送大学准教授）　】

講義概要

疾病構造の変化や高齢化社会をもたらした現代において、医療・福祉・健康の広い領域でリハビリテーション医療の必要性が高まっている。本講義では、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士にとどまらず、リハビリテーションチームとして関わる専門職種（看護師や義肢装具士、社会福祉士など）に向けてリハビリテーション医学の知識や技術を分かりやすく解説していく。

授業の目標

リハビリテーション医学の基礎知識を身につけ、リハビリテーション概念、評価およびアプローチと、実施上の留意点を理解する。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	リハビリテーション総論	リハビリテーションの定義、成り立ちの歴史、法律、障害モデルについて解説し、現在の医療・社会制度からみた学校教育の重要性に触れる。 【キーワード】 リハビリテーション、ICIDH、ICF	金田　嘉清（藤田保健衛生大学教授）	金田　嘉清（藤田保健衛生大学教授）
2	リハビリテーションにおけるチームアプローチとチームワーク	リハビリテーションはチームアプローチであり、チームワークが重要である。リハビリテーション専門職を紹介し、どのようにチームワークを創っていくかについて、能力観を踏まえて述べる。 【キーワード】 チーム、チームの成り立ち、チームワーク、チームの育成	澤　俊二（金城大学教授）	澤　俊二（金城大学教授）
3	急性期・回復期・維持期のリハビリテーション	急性発症した疾患のリハビリテーションの過程は、しばしば急性期・回復期・維持期の3期に分けて示される。各期におけるリハビリテーションの特徴および留意点について解説をする。 【キーワード】 急性期、廃用症候群、回復期、ADL、IADL、ゴール設定、維持期、障害受容	鈴木　めぐみ（藤田保健衛生大学准教授）	鈴木　めぐみ（藤田保健衛生大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	社会リハビリテーションと地域リハビリテーション	社会的リハビリテーションと地域リハビリテーションの概念を示し、どのようにしたら障害者（児）とともに生活できる社会を作っていけるのかについて考える。 【キーワード】 社会的リハビリテーション、職業リハビリテーション、地域リハビリテーション	澤　俊二（金城大学教授）	澤　俊二（金城大学教授）
5	脳血管障害のリハビリテーション	脳血管障害の病態と特徴的な機能障害を理解するとともに、機能障害、能力障害に対する評価法、急性期・回復期・維持期に対応したリハビリテーションについて学習する。また、運動学習に基づいた運動療法について学習する。 【キーワード】 運動麻痺、高次脳機能障害、SIAS、FIM、運動療法と運動学習、転倒	大塚　圭（藤田保健衛生大学准教授）	大塚　圭（藤田保健衛生大学准教授）
6	運動器疾患のリハビリテーション	運動器疾患にみられる特徴的な機能障害と代表的な疾患の概要について理解するとともに、各疾患に対するリハビリテーションの進め方について学習する。 【キーワード】 関節可動域制限、廃用性筋萎縮・筋力低下、疼痛、脊髄損傷、肩関節周囲炎、変形性股・膝関節症、大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折、前十字・内側側副靭帯損傷	大塚　圭（藤田保健衛生大学准教授）	大塚　圭（藤田保健衛生大学准教授）
7	神経筋疾患のリハビリテーション	パーキンソン病などの変性疾患、脱随疾患、末梢神経疾患、筋疾患、神経筋接合部疾患などを取り上げ、その病態についてまとめる。各疾患における評価およびリハビリテーションについて呈示する。 【キーワード】 変性疾患、脱随疾患、末梢神経疾患、筋疾患、神経筋疾患	鈴木　由佳理（藤田保健衛生大学講師）	鈴木　由佳理（藤田保健衛生大学講師）
8	内部障害のリハビリテーション	近年急増している「内部障害」の定義を明確にしたうえで、循環器疾患と呼吸器疾患について詳細に触れ、その評価およびリハビリテーションについて解説する。 【キーワード】 心臓機能障害、呼吸器機能障害、腎臓機能障害、膀胱・直腸障害、小腸機能障害	鈴木　由佳理（藤田保健衛生大学講師）	鈴木　由佳理（藤田保健衛生大学講師）
9	摂食・嚥下障害のリハビリテーション	摂食・嚥下のメカニズムを5期モデル、プロセスモデルを基に解説し、評価法および訓練法を間接・直接訓練に分けて紹介する。また、機能代償のための方略について述べる。 【キーワード】 摂食・嚥下、摂食・嚥下障害、スクリーニングテスト、間接訓練、直接訓練	鈴木　めぐみ（藤田保健衛生大学准教授）	鈴木　めぐみ（藤田保健衛生大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	老年期・高齢者のリハビリテーション	加齢が心身に及ぼす影響および老年症候群について概観する。代表的病態である認知症と、寝たきりをもたらす転倒に対する評価およびアプローチについて呈示する。 【キーワード】 老年症候群、転倒予防、認知症、寝たきり	鈴木　めぐみ（藤田保健衛生大学准教授）	鈴木　めぐみ（藤田保健衛生大学准教授）
11	精神障害のリハビリテーション	精神疾患および精神障害の定義、精神障害の医療・保健・福祉の歴史を概観し、精神障害リハビリテーションについて学ぶ。 【キーワード】 精神疾患、精神障害、精神医学、精神医学史、社会学	澤　俊二（金城大学教授）	澤　俊二（金城大学教授）
12	小児のリハビリテーション	人間発達で重要なのは神経系の発達である。発達途上であること，療育者との関わりを考慮した小児のリハビリテーションの考え方について、脳性麻痺児を例に挙げて解説していく。 【キーワード】 発達段階、評価尺度、脳性麻痺	鈴木　由佳理（藤田保健衛生大学講師）	鈴木　由佳理（藤田保健衛生大学講師）
13	義肢・装具・支援機器	支援機器は、リハビリテーションにおいて欠かせない道具である。支援機器には、義肢装具、福祉機器が含まれ、失われた機能の補助、社会参加に役立てられる。本章では義肢・装具・支援機器の構造ならびに種類、また適応となる疾患・障害について理解するととも適切な使い方について学習する。 【キーワード】 義手、義足、上肢装具、下肢装具、体幹装具、車いす、杖・歩行器、座位保持装置、環境制御装置	大塚　圭（藤田保健衛生大学准教授）	大塚　圭（藤田保健衛生大学准教授）
14	リハビリテーション看護	リハビリテーション看護とは、健康な生活という視点から、障害をもった人の可能性を見出し、困難に満ちているかもしれない人生の長い旅を支え続ける活動である。長期間の視野に立ち、生活機能障害をもつ人の日常生活に寄り添い援助を行うという特徴を有する。ここでは、リハビリテーション看護の特徴と機能・役割について紹介する。 【キーワード】 看護、予防・回復、ADL	金城　利雄（名桜大学教授）	金城　利雄（名桜大学教授）
15	我が国におけるリハビリテーションの未来	我が国における少子・高齢化社会、医師不足、療法士教育の現状について概説するとともに今後、リハビリテーション医療が直面する問題とその対策について理解する。また、将来期待されているリハビリテーション分野における新しい治療について触れる。 【キーワード】 少子・高齢化社会、リハビリテーション科専門医、医師不足、療法士教育、臨床実習、OSCE、再生医療、リハビリテーションロボット	金田　嘉清（藤田保健衛生大学教授）	金田　嘉清（藤田保健衛生大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518950	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 今日のメンタルヘルス （’１５）＝（ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 Current Issues in Mental Health (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：石丸 昌彦 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

メンタルヘルス(＝人の心の健康)を支える力は、ライフサイクルの中で養われ、人と人とのネットワークの中で維持されるものである。この科目では、そのような健康な力を育むメカニズムを学ぶとともに、破綻の結果として生じる精神疾患のあらましを知り、生活の場において生じるさまざまな問題の現状と対策を考えていく。メンタルヘルスの危機が叫ばれている今日、喫緊のテーマを扱うものである。

授業の目標

メンタルヘルスの領域における基礎知識を身につけ、さまざまな問題にとりくむための基本的な能力を養うことを目的とする。

履修上の留意点

概説的な科目であるので、特にあらかじめ履修しておくべき科目はないが、関心に応じて精神医学や臨床心理学など関連分野について学習することを勧めたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	メンタルヘルスとは何だろうか	全体の導入として、メンタルヘルスという概念の意味・内容について検討する。疾病構造の変化や最近の統計データを確認し、WHOの健康の定義やそこに現れている包括的な健康観を学びながら、今日におけるメンタルヘルスの意義について考える。 【キーワード】 メンタルヘルス、包括的な健康観、精神疾患、身体的健康、健康なパーソナリティ	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
2	ライフサイクルとメンタルヘルス(1) －周産期	周産期は妊娠・出産といった身体的変化に伴い、心理的にも不安定になりやすい時期である。この時期に生じる心の問題について、母親の症状、母子の関係性にみられる症状について紹介し、母親のメンタルヘルスを高めるための方法について考察する。 【キーワード】 妊娠、出産、愛着・愛着障害、認知療法、ソーシャルサポート	山口 創 (桜美林大学教授)	山口 創 (桜美林大学教授)
3	ライフサイクルとメンタルヘルス(2) －子ども時代	子どもは家庭と学校で多くの時間を過ごしているため、子どものメンタルヘルスに大きな影響を及ぼしている要因として家庭と学校、そしてコミュニティがある。本章では各々の領域における子どもの心の問題に焦点を当て、メンタルヘルスを高めるための方法について考察する。 【キーワード】 幼児期、学童期、コミュニティ、ストレス、対処	山口 創 (桜美林大学教授)	山口 創 (桜美林大学教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ライフサイクルとメンタルヘルス(3) －少年・少女・青年	思春期・青年期は劇的な成長の時期であり、第二次性徴の発現などの身体的変化と、これに支えられた心理的離乳の作業が進行する。それだけにリスクをもはらんでおり、メンタルヘルス上のさまざまな問題がこの時期に顕在化しやすい。 【キーワード】 思春期、青年期、第二次性徴、心理的離乳、アイデンティティ、モラトリアム	森　和代 （桜美林大学教授）	森　和代 （桜美林大学教授）
5	ライフサイクルとメンタルヘルス(4) －おとなの男性と女性	今日の成人期はかつてと異なり、絶えず変化する社会環境に不断の再適応を迫られるストレスフルな時期である。男性と女性の生理的・心理的相違や社会的役割をめぐる葛藤が、それぞれの性に特有の問題をもたらすことも見逃せない。 【キーワード】 ストレス、ジェンダー、暴力、役割期待、性周期	森　和代 （桜美林大学教授）	森　和代 （桜美林大学教授）
6	ライフサイクルとメンタルヘルス(5) －老年期と人生のしめくくり	超高齢社会を迎え、高齢者自身が人生で達成してきた事柄を肯定的に受け止め、それを次世代に受け継ぐことができれば、老年期のメンタルヘルスを保つことに大いに寄与する。また、「歳を取ったらさまざまな問題を抱えるのだから、多少、抑うつ的になっても当然だ」といった社会が抱く高齢者に対する偏見を是正していくことも重要な課題となる。 【キーワード】 老年期、高齢者に対する偏見、英知と絶望、回想法	高橋　祥友 （筑波大学教授）	高橋　祥友 （筑波大学教授）
7	ストレスの理論	ストレス理論の歴史と現状について学ぶ。セリエからラザルスを経て今日に至る歴史的な流れを展望した後、現時点での代表的な考え方を紹介し、メンタルヘルスにおけるストレス理論の重要性を論じる。 【キーワード】 ストレス、ストレッサー、セリエ、ラザルス	種市　康太郎 （桜美林大学准教授）	種市　康太郎 （桜美林大学准教授）
8	職場とストレス	近年、職場における勤労者のストレスがメンタルヘルス維持にとって重要な問題となっている。職場ストレスの現状について学ぶとともに対策を検討する。最後に、復職支援の現状についても触れる。 【キーワード】 職場ストレス、安全配慮義務、労働災害、職場ストレスモデル、職場復帰支援	種市　康太郎 （桜美林大学准教授）	種市　康太郎 （桜美林大学准教授）
9	ストレス・コーピングの実践	前章まで学んだ理論的基礎を踏まえ、自分自身のストレスに適切に対処していくための実践的な方略について学ぶ。自らのストレスの原因を整理すること、ストレス対処には幅広い方法があることを意識していることが大切である。 【キーワード】 ストレス・コーピング、認知的評価	種市　康太郎 （桜美林大学准教授）	種市　康太郎 （桜美林大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	精神疾患（1） －心の病とはどんなものか	精神疾患はメンタルヘルスが破綻した結果として起きるものである。本章では精神疾患全般を広く見渡し、精神医療の現状や精神疾患の診断・治療・原因論などについて学ぶ。精神疾患の発症に対する遺伝や環境の影響についても正しく理解したい。 【キーワード】 精神疾患、DSM、遺伝と環境、薬物療法、精神療法	石丸　昌彦（放送大学教授）	石丸　昌彦（放送大学教授）
11	精神疾患（2） －脳の機能変調と精神疾患	脳の機能変調にもとづく精神疾患として、統合失調症と躁うつ病をとりあげ、その症状・発病機序・疫学・治療・経過などについて学ぶ。両者はかつて二大精神病と呼ばれた代表的な精神疾患であり、基本的なことがらについてよく理解しておきたい。 【キーワード】 統合失調症、躁うつ病、気分障害、脳の機能変調	石丸　昌彦（放送大学教授）	石丸　昌彦（放送大学教授）
12	精神疾患（3） －不安とその周辺	「不安」は主要な精神症状であり多くの精神疾患に伴って認められるが、その表れ方や処理メカニズムは疾患によって異なり多様である。神経症やパーソナリティに注目しながら、その概要を学ぶ。 【キーワード】 不安、恐怖、神経症、パニック障害、境界性パーソナリティ障害	石丸　昌彦（放送大学教授）	石丸　昌彦（放送大学教授）
13	精神疾患（4） －ストレスとストレス反応	強いストレッサーに起因する精神障害として、適応障害、急性ストレス障害、外傷後ストレス障害（PTSD）などが挙げられる。心身症や摂食障害もストレスとの関連が深い。これらの疾患について、ストレスと精神症状との関連を学ぶ。 【キーワード】 ストレス、適応障害、PTSD、心身症、摂食障害	石丸　昌彦（放送大学教授）	石丸　昌彦（放送大学教授）
14	精神疾患（5） －アルコール依存と薬物乱用	アルコール依存症や、覚醒剤その他の物質乱用は、今日の大きな健康問題となっており、その裾野は大きく広がっている。これら有害な物質に対する依存・乱用によって生じる症状や、そこから派生する問題などを広く展望する。 【キーワード】 アルコール関連問題、アルコール依存症、心理的依存、身体的依存、覚醒剤	石丸　昌彦（放送大学教授）	石丸　昌彦（放送大学教授）
15	自殺とその予防	わが国の年間自殺者数は約3万人であり、交通事故死者数の6倍以上となっている(2013年現在)。2006年には自殺対策基本法が成立し、自殺予防は社会全体の課題であると宣言された。自殺予防のために、その現状、予防のための基本概念、対応の原則について解説する。早期の段階で問題に気づき、適切な対応を取ることで、自殺予防の余地は十分に残されている。 【キーワード】 自殺、自殺予防、事前予防、危機対応、事後対応	高橋　祥友（筑波大学教授）	高橋　祥友（筑波大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1519034	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 看護学概説 （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 General Overview of Nursing (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：井出　訓　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：井上　洋士　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

学習者が、看護学の主たる概念や諸理論に関わる先進的知識を幅広く獲得し、実践の科学である看護学に対する理解を深めることを意図している。

授業の目標

1．看護学の基本となる概念について理解する
2．看護学における対象論を理解する
3．看護学領域における倫理上の諸問題を理解する
4．看護実践の基礎理論と展開方法概論を習得する

履修上の留意点

看護概説の範囲は広いので、学習に当たっては関連の参考書や副読本などを参考にしながら学習することが必要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	看護学原論	看護とは何か。看護の対象である人間を、生活過程において健康上の様々な欲求を持つ生命体として、また生物体を基盤に多面からなる統一体としてとらえていく。そして看護について、生命を守り育て健康を支援する、人間社会に不可欠な仕組み・働きとして展開する。重要な理論や概念をおさえながら、原理的理解を深めていく。 【キーワード】 看護、人間、健康、環境、生命、生活、欲求(ニーズ)の充足、ケアリング、看護の方法	山崎　裕美子(わかやま長寿福祉機構理事)	山崎　裕美子(わかやま長寿福祉機構理事)
2	看護の歴史と看護理論	看護ケアの本質や援助の特質は時代とともに変わることはない。しかし、社会の変革や医療の発展とともに看護の果たす役割や機能は変化し、看護の高度化と専門分化が図られてきた。そうした看護の歴史や教育制度の変遷を概観するとともに、高度化と専門分化がはかられる上で示されてきた看護の理論を踏まえつつ、看護の実践・教育・研究の今後の方向を考える。 【キーワード】 看護の歴史的変遷、看護理論家達と様々な看護理論	井出　訓(放送大学教授)	井出　訓(放送大学教授)
3	健康と看護	健康とは何か、また疾病とは何か。そして疾患に罹患せず健康を保つために看護はどのような役割を果たしうるのかについて、健康生成、疾病生成という立場から、また健康と疾病に関するモデルを示しつつ解説する。また、様々な健康のレベルにある対象者に対する看護の役割、機能について考察を深めていく。 【キーワード】 疾病、健康、生活の質、well-being、予防、ヘルス・プロモーション、慢性疾患、医学モデル、生活モデル、急性期、侵襲	井上　洋士(放送大学教授)	井上　洋士(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	看護学対象論（1） ライフサイクルと看護	看護の対象、ライフサイクルの視点から取り上げる。胎児期を経て誕生し、子供から大人へと成長発達し社会を担い、老年期を生き、死を迎え遺族らのこころに生きる人間の、生涯にわたる成長発達を段階的に捉える。また、次世代の育成にも焦点をあてる。ライフサイクルを通じて健康を支援する看護の役割を考える。 【キーワード】 ライフサイクル、ライフステージ、リプロダクション、生涯発達	山崎　裕美子 （わかやま長寿福祉機構理事）	山崎　裕美子 （わかやま長寿福祉機構理事）
5	看護学対象論（2） 心と看護	看護にとって、心とは何か。心に焦点をあててみると、どのような看護行為も看護者自身の心を用い、対象者の心のケアを意図していることがわかり、心の理解は不可欠である。個人として人格を持った人間の心の働きや発達を概観し、心へのアプローチを軸に看護実践を検討する。 【キーワード】 自我、ストレス対処（コーピング）、人間対人間、看護の心、ヒューマン・ケアリング	山崎　裕美子 （わかやま長寿福祉機構理事）	山崎　裕美子 （わかやま長寿福祉機構理事）
6	看護学対象論（3） 行動と看護	保健行動とはなにか、その定義を明確にするとともに、保健行動、健康行動、また病気行動、病感行動といった分類内容の整理を行いつつ、保健行動モデルについて解説を行う。また、保健行動のモデルを踏まえた看護の機能について考察を深める。 【キーワード】 病気行動理論、保健行動理論	熊谷　たまき （大阪市立大学教授）	熊谷　たまき （大阪市立大学教授）
7	看護学対象論（4） 社会・文化と看護	看護は、様々な文化や社会の中で生活するあらゆる年代の個人や家族、集団を対象とするため、人間がつくり出す文化のあり方、また、そのなかで生きる文化的存在としての人間についての理解を深める。さらに、社会の仕組みの明確化と、そのなかに生きる社会的存在としての人間についての理解を深めていくことで、生涯を通して最期までその人らしく生を全うできるように援助する看護の役割を考察する。 【キーワード】 家族、組織、地域、社会規範と看護、文化と看護、システム理論	伊藤　祐紀子 （長野県看護大学教授）	伊藤　祐紀子 （長野県看護大学教授）
8	セルフケア論	健康問題の解決と健康増進に向け、人はさまざまな社会資源を活用し、セルフケア能力を育み、実践している。慢性疾患患者のセルフケアを例に、セルフケアを遂行するために必要な要件と、それを支える看護活動について説明する。 【キーワード】 セルフケア、セルフケア不足理論、慢性疾患、自己効力感、支援的援助、指示的援助、学習的援助、相談的援助	井上　洋士 （放送大学教授）	井上　洋士 （放送大学教授）
9	看護倫理学の基礎	倫理とは何かという基本的な意味、および専門職としての看護実践を導く判断の基盤であり道徳的な意思決定を行う時の行動の指針ともなる、倫理的な原則について説明する。また日々の看護実践における倫理的問題を理解するための講義展開を行う。 【キーワード】 基本的人権と個人の尊厳、医の倫理、専門職と倫理、ケアと倫理、看護者の倫理綱領	熊谷　たまき （大阪市立大学教授）	熊谷　たまき （大阪市立大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	患者の権利と意思決定支援論	その時々に応じて揺れ動く患者の感情を受け止めながら、患者の意思決定を支えることが看護の役割の一つである。そのために看護者が理解しておくべき患者の権利、意思決定支援とは何か、また、そのために如何なる情報の提供と同意、納得を得ることが必要なのかを考察する。 【キーワード】 患者の権利、医療における意思決定支援と看護、インフォームドコンセント・アセント・チョイス	井出 訓（放送大学教授）	井出 訓（放送大学教授）
11	医療・看護における個人情報の保護	看護職であるかぎり、ある特定の個人を識別するにたる個人に関する情報に触れる機会を避けることはできない。看護の守秘義務とはなにか、また医療における個人情報の取り扱いと情報の開示、研究における個人情報の保護、など、看護実践における個人情報の保護について考える。 【キーワード】 個人情報とは、医療における個人情報と利用、診療情報とその開示、研究と個人情報	戸ヶ里 泰典（放送大学教授）	戸ヶ里 泰典（放送大学教授）
12	人間関係援助論	看護は人と人との関わりの中で実現され、看護する人もされる人も関係性の中で変容する。看護する者とされるものとの間に生じる人間関係と力動の理解を深め、患者と共にあることの意味、看護における援助関係の構築や展開に関する看護技術も含め、関わりの看護について考察する。 【キーワード】 人間関係とは何か、関係性構築の方法、共感と傾聴、医療者と患者の協働	伊藤 祐紀子（長野県看護大学教授）	伊藤 祐紀子（長野県看護大学教授）
13	看護過程と看護診断	看護過程は、看護情報に基づく問題解決のための分析的アプローチ法である。その中で、看護する人がどのような判断をし、何を問題として捉え、どのような活動を行っているのかについて解説する。 【キーワード】 看護過程・看護診断の概念、看護過程の構成要素、看護理論と看護過程	伊藤 祐紀子（長野県看護大学教授）	伊藤 祐紀子（長野県看護大学教授）
14	ヘルスケアシステムと看護	保健医療福祉制度は、社会情勢の変化、少子高齢化、医療の高度化等によって、国、地域レベルでの急速な変革をとげている中で、総合的な視点から健康問題を捉え、生活に基盤をおいたケアシステムやサービスを提供する仕組みづくりと方法とを解説する。さらに、そうした状況を背景に看護職に期待される役割や機能を考えるとともに、今後の展望と課題について考察する。 【キーワード】 わが国のヘルスケアシステムの特徴、医療施設・福祉施設・地域・在宅における看護師の果たす役割と位置付け	一戸 真子（埼玉学園大学教授）	一戸 真子（埼玉学園大学教授）
15	看護と研究	看護学が学問である以上、研究活動は必須といえる。ここでは研究とは何かについて歴史的な変遷から掘り下げたうえで、看護学領域における研究のありかたと、研究目的、研究の方法について整理し、看護研究方法論の基礎を解説する。 【キーワード】 研究とは何か、研究上の問い、実験と観察、分析、研究デザイン、論文の書き方	戸ヶ里 泰典（放送大学教授）	戸ヶ里 泰典（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1519042	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 基礎看護学 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Fundamentals of Nursing (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：戸ヶ里　泰典　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：井上　智子　（大阪大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

この10有余年来わが国における看護学領域における学問の深化・展開は日進月歩であり、知識・技術の高度化が進み、高度専門知識・技術をもつ看護職の養成も進みつつある。それは臨床看護師全体の知識・技術の底上げが急務であることも意味しており、国家資格を持って看護専門職としての役割を果たすうえで求められる学術的知識・技術もまた向上が求められている。
基礎看護学は文字通り看護学の学問的基盤であり、導入部であり、看護専門職者として活動する上で誰もが共通して身につけておかねばならない知識を体系化した広範な学問領域となっている。そこで本授業では、こうした広範な領域の中から、看護専門職者として活動する上で必要、かつ、看護ケアの質の向上を計るうえで特に重要視されているevidence-based nursing(EBN:科学的根拠に基づく看護実践)を目指した理論および技術に関する項目を15回に分けて取り上げる。各項目では最新の知見も取り入れつつも、看護師が活躍する保健・医療の現場における看護実践に資する知見も織り交ぜる形で教授し、学習者の理解をはかる。
なお、本授業は「看護学概説(’16)」とは相補的な内容となっており、両授業を受講することにより、看護学における基礎の理解が深まるものと期待できる。

授業の目標

1．Evidence based Nursingについて理解を深める。
2．わが国における看護専門職者として役割を果たすために必要な基本的看護技術に関する知識と理解を深める。
3．わが国における保健・医療・福祉制度の中で看護師が果たす役割について理解を深める。

履修上の留意点

「看護学概説(’16)」と併せて受講されたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	看護学への期待	本講義のイントロダクション。看護学は、人々の健康生活の実現に向けて、さまざまな学問領域の知識体系を基盤として実践される総合科学である。健康で幸福に暮らすという人間の普遍的なニーズに応えるヘルスサイエンス・アートとしての看護学への期待について考えていく。 【キーワード】 ヘルスサイエンス、アート、専門性、対人サービス、医療サービスの特性、事前期待、医療法	井上　智子（大阪大学教授）	井上　智子（大阪大学教授）
2	コミュニケーション	コミュニケーションとは、あるシステムから別のシステムへと、記号によって情報が移動する過程である。この場合のシステムとは情報の発信主体と受信主体のことをさし、人間、動物、機械がシステムとなる。医療の場では人間同士がシステムとなることが多く、相互に発信者と受信者となりながら、言語や非言語の記号に置き換えられた情報がメッセージとして受信者に伝達される。メッセージを解読し解釈することで受信者はその意味を受け取り、そこに何らかの影響が生じる。本章では、発信者と受信者間の相互作用過程を経て、相互理解・相互関係へとつながる、アートとしてのコミュニケーションについて考えていく。 【キーワード】 言語・非言語メッセージ、コンテキスト、自己理解と自己開示、論理的思考、ポライトネス、テクニカルコミュニケーション	井上　智子（大阪大学教授）	井上　智子（大阪大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	記録と情報システム	看護実践において情報は不可欠な存在である。そこで、まず情報とは何かについて整理したのち、データベースとしての診療記録、看護記録について解説する。次に、医療システムにおける情報の使われ方について、医療情報ネットワークの意義と種類について、特に看護師に関連する部分について扱う。最後に放送授業では医療施設における実践状況をゲスト出演者とともに紹介し理解を深める。また療養生活の連続性を支える情報ネットワークの在り方についても言及する。 【キーワード】 情報、記録、看護記録、標準化、電子カルテ、クリニカルパス、診療情報ネットワーク、看護管理システム、パーソナルヘルスレコード	戸ヶ里　泰典（放送大学教授）	戸ヶ里　泰典（放送大学教授） ゲスト：玉本和紀(順天堂大学附属順天堂医院情報管理担当看護師長）
4	看護のプロセス	看護過程は、対象者の健康問題や生活上のニーズを抽出し、健康の回復・維持・増進するための意図的・系統的な問題解決のプロセス方法である。これを通じて、看護が蓄えてきた知識や技術を包括的に再編成し、方向性を明示しながらケアを実践する力が必要となる。論理的思考や批判的思考を活用し、科学的根拠に基づいた看護を実践するためのプロセスについて考えていく。 【キーワード】 思考過程、共有と実践、評価	四谷　淳子（福井大学教授）	四谷　淳子（福井大学教授）
5	安全・安楽	安全・安楽は看護の基本原則として自立とともに重要とされている。すべての看護ケアは、対象の安全・安楽を目指した意図的な活動である。対象の健康状態を踏まえた適切な看護ケアを提供するためのバイタルサインの観察とアセスメント、対象の苦痛への理解、安楽への支援について解説する。 【キーワード】 安全・安楽、バイタルサインの観察法とアセスメント、苦痛の理解、安楽の支援	杉本　吉恵（大阪府立大学教授）	杉本　吉恵（大阪府立大学教授）
6	感染予防の技術	感染症は世界規模で蔓延している状況にあり、深刻な課題である。また、高齢化や医療技術の進歩は、易感染者の増加による日和見感染の増加や院内感染に影響を与えている。感染予防に対する看護師の責務と基本姿勢について述べるとともに、病院だけでなくさまざまな場での感染予防対策の実際について紹介する。 【キーワード】 院内感染、病原微生物、標準予防策、感染予防対策	伊丹　君和（滋賀県立大学教授）	伊丹　君和（滋賀県立大学教授） ゲスト：中村寛子(市立長浜病院感染管理認定看護師）
7	呼吸援助技術	呼吸は生命を維持するために必要不可欠なものである。健常な状態では呼吸していることを意識しないが、呼吸に異常があると息苦しさを感じる。息苦しさが生じると生活行動範囲が狭まる。さらに、呼吸困難が強度になると生命が脅かされる。そのため、息苦しさが生じると強い不安や苦痛を生じることになる。ここでは呼吸状態のアセスメント、呼吸を楽にする姿勢、呼吸法、気道浄化、酸素療法について解説する。 【キーワード】 呼吸アセスメント、気道浄化、吸引、呼吸訓練、酸素療法、在宅酸素療法	杉本　吉恵（大阪府立大学教授）	杉本　吉恵（大阪府立大学教授） ゲスト：竹川幸恵（大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター慢性疾患看護専門看護師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	活動・休息の援助技術	人間は活動と休息のバランスを上手く保つことにより、より健康的な生活を送ることができる。活動と休息のアセスメントと、活動への援助としての体位変換、移乗、移送、休息への援助として睡眠への援助について説明する。活動への援助の実際では看護師の腰痛が問題となっているため腰痛予防を考慮した援助法も併せて解説する。 【キーワード】 活動・休息アセスメント、体位変換、移乗・移送、睡眠、看護師の腰痛予防	杉本　吉恵（大阪府立大学教授）	杉本　吉恵（大阪府立大学教授）
9	清潔援助技術	日常生活における「洗顔」「手洗い」「歯磨き」「入浴」などの清潔行動は、健康習慣として日常的に行われている。身体を清潔に保つことの意義、清潔ニーズのアセスメントについて述べた上で、エビデンスに基づいた清潔援助技術について考えていく。 【キーワード】 皮膚・粘膜の構造と機能、清潔ニーズのアセスメント、生体反応	伊丹　君和（滋賀県立大学教授）	伊丹　君和（滋賀県立大学教授）
10	食事援助技術	食事とは、生命活動の根幹である。私たちは食事に含まれる栄養素を取り込むことで、エネルギーを獲得し、身体の組織を新しく作り、損傷した組織を修復し、生きている。この食事摂取の過程を細分化して整理し、各機能障害に対する援助について解説する。 【キーワード】 栄養、食事摂取、嚥下機能アセスメント、食事援助、栄養療法	辻本　朋美（大阪大学助教）	辻本　朋美（大阪大学助教）
11	排泄援助技術	人々の尊厳に関わる排泄援助は、排泄障害の種類を明確にし、排泄の自立に向けて適切な方法を選択していく必要がある。排泄日誌を用いたアセスメントをもとに、効果的な排泄用具の選択や自然な排泄を促進する方法について考える。 【キーワード】 排尿排便アセスメント、排泄障害、排泄経路変更、排泄援助	山田　正己（気の里看護小規模多機能型居宅介護「つむぎのて」施設長）	山田　正己（気の里看護小規模多機能型居宅介護「つむぎのて」施設長） ゲスト：横山剛志（国立長寿医療研究センター副看護師長）
12	褥瘡予防	褥瘡は、一般に「床ずれ」とよばれ、主に臥床している際に寝具と接触している身体部分の血流が途絶えることで生じる阻血性の皮膚および皮下組織の障害である。発生要因をアセスメントし、褥瘡を予防するとともに、発生時には早期に治癒に導くために創状態をアセスメントし創状態に応じたケアを行う必要がある。褥瘡発生予防および治癒に導くための、アセスメント方法やスキンケアおよび除圧ケア、創局所のケアについて考えていく。 【キーワード】 リスクアセスメントと発生予防、褥瘡分類と経過評価、治療への援助	四谷　淳子（福井大学教授）	四谷　淳子（福井大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	教育的支援	ライフ・スパンの延長、医療の高度化、生活環境や価値観の変化を受けて、健康課題が多様化・複雑化する時代を迎え、教育的支援が求められる機会が増えてきている。教育的支援に関連する理論や考え方について解説する。 【キーワード】 成人教育、レディネス、自己効力感、コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンス	井上　智子（大阪大学教授）	井上　智子（大阪大学教授）
14	継続看護と退院支援	1.近年における継続看護と退院支援の必要性が高まる背景と地域医療連携・地域包括ケアシステムの考え方、2.医療機関における退院支援を担当する部門・担当専門職に関する知識と連携、および、退院支援・退院調整について、3.退院支援・退院調整の実際例、の諸点について取り上げる。放送授業ではゲスト出演者とともに退院支援の具体例を紹介し退院支援の方法の理解を深めていく。 【キーワード】 地域包括ケアシステム、地域医療連携、療養の連続性、退院調整、多職種連携、意思決定支援	戸ヶ里　泰典（放送大学教授）	戸ヶ里　泰典（放送大学教授） ゲスト：田城孝雄（放送大学教授）、坂井　志麻（東京女子医科大学専任講師）
15	多職種による連携と協働	保健・医療・福祉の現場では多種多様な専門スタッフが携わり、役割を分担する一方で目的と情報を共有し連携しながらサービス提供を行っている。まず、医療専門職とは何かについて、歴史的変遷も踏まえて解説し、連携と協働、チーム医療に関する基礎知識を解説する。最後に乳がん医療とその実践を例に多職種連携およびチーム医療について考えていく。 【キーワード】 専門職、チーム医療、多職種相互連携型アプローチ、多職種相互乗り入れ型アプローチ、スキルミクス	戸ヶ里　泰典（放送大学教授）	戸ヶ里　泰典（放送大学教授） ゲスト：金井久子（聖路加国際大学臨床准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1519093	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 在宅看護論 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Home Health Nursing (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：河野　あゆみ　（大阪市立大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：永田　智子　（東京大学大学院准教授）〕

【本学担当専任教員：井出　訓　（放送大学教授）】

講義概要

健康問題をもちながら在宅で生活する人々とその家族を理解し、対象者の生活の質の向上を目指した看護を実践するために必要な基本的な考え方と基礎知識を理解することを目的とする。

授業の目標

在宅看護の目的や役割、対象や看護の特徴、在宅看護に関連する制度やケアシステムなどを体系的に理解し、対象者の特徴に応じた看護の提供方法や技術について、事例や実践の映像をとおして学ぶ。

履修上の留意点

本科目は学部一般にも役立つ内容としていると同時に、看護師国家試験受験を目指して通信制の看護師養成学校にて学ぶ准看護師等が習得するために必要な内容としている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	在宅看護の目的と変遷	在宅看護活動の変遷をふまえた上で、在宅看護の目的や特徴、在宅看護で活用される理念（QOL、自己決定、アドボカシーなど）について、学ぶ。 【キーワード】 在宅看護の目的・理念、在宅看護の変遷	河野　あゆみ（大阪市立大学大学院教授）	河野　あゆみ（大阪市立大学大学院教授）
2	在宅看護の様々な対象と役割	在宅看護を提供する様々な対象の特徴をふまえた上で、わが国の様々な場での在宅看護活動の機能や役割について、学ぶ。 【キーワード】 在宅看護の対象、機能、役割	永田　智子（東京大学大学院准教授）	永田　智子（東京大学大学院准教授）
3	在宅看護と家族支援	在宅看護では家族も援助対象であることを理解し、現代の家族構成や家族機能の特性、在宅介護の現状、家族支援の実際について、学ぶ。 【キーワード】 家族、在宅介護、家族アセスメント、家族支援	牛久保　美津子（群馬大学大学院教授）	牛久保　美津子（群馬大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	在宅ケアの社会資源とケアマネジメント	介護保険法、障害者総合支援法など在宅看護をめぐる法制度およびフォーマル・インフォーマルな社会資源の概要を理解し、ケアマネジメントの意義とプロセスについて、学ぶ。 【キーワード】 在宅ケア、家族アセスメント、介護保険法、障害者総合支援法、在宅ケアの社会資源	永田　智子（東京大学大学院准教授）	永田　智子（東京大学大学院准教授）
5	訪問看護の役割と機能	わが国の訪問看護に関する基本的な制度（介護保険法や医療保険）を理解し、訪問看護を提供する医療機関、訪問看護ステーション等の機能、訪問看護活動などについて、学ぶ。 【キーワード】 訪問看護提供機関、訪問看護ステーション、訪問看護活動	福井　小紀子（日本赤十字看護大学大学院教授）	福井　小紀子（日本赤十字看護大学大学院教授）
6	在宅看護過程の展開	在宅療養者に対して在宅看護を展開する一連の過程、すなわち情報収集、アセスメント、実践、評価の方法について、訪問看護事例を交えながら学ぶ。 【キーワード】 アセスメント、看護課題、看護計画、看護過程	河野　あゆみ（大阪市立大学大学院教授）	河野　あゆみ（大阪市立大学大学院教授）
7	基本的な生活を支える看護技術	歩行、食事、排泄、保清、環境整備など、在宅療養者の基本的な生活を支える看護技術の特徴や実際について、実演をとおして学ぶ。 【キーワード】 基本的日常生活動作、環境整備	高砂　裕子（横浜市南区医師会訪問看護ステーション管理者）	高砂　裕子（横浜市南区医師会訪問看護ステーション管理者）
8	在宅看護における医療管理	褥瘡ケア、ストマケア、経管栄養法、中心静脈栄養法、在宅酸素療法、人工呼吸療法など、在宅看護で頻繁にみられる医療管理方法の特徴や実際について、実演をとおして学ぶ。 【キーワード】 褥瘡ケア、ストマケア、栄養管理、呼吸管理	高砂　裕子（横浜市南区医師会訪問看護ステーション管理者）	高砂　裕子（横浜市南区医師会訪問看護ステーション管理者）
9	要介護高齢者に対する在宅看護	要介護高齢者と家族の現状と特性をふまえ、訪問看護事例を交えながら在宅看護の展開や方法について、学ぶ。 【キーワード】 要介護高齢者、介護予防、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、認知機能障害、BPSD	上野　まり（湘南医療大学教授）	上野　まり（湘南医療大学教授）
10	難病の人に対する在宅看護	難病の人と家族の現状と特性をふまえ、訪問看護事例を交えながら在宅看護の展開や方法について、学ぶ。 【キーワード】 筋萎縮性側索硬化症、在宅療養支援体制、難病法	牛久保　美津子（群馬大学大学院教授）	牛久保　美津子（群馬大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	精神障害のある人に対する在宅看護	精神障害のある人と家族の現状と特性をふまえ、訪問看護事例を交えながら、在宅看護の展開や方法について、学ぶ。 【キーワード】 精神科訪問看護、統合失調症、気分障害、家族支援	上野　まり（湘南医療大学教授）	上野　まり（湘南医療大学教授）
12	在宅看護における終末期ケア	終末期（がんや非がん）にある人と家族の現状と特性をふまえ、訪問看護事例を交えながら、在宅看護の展開や方法について、学ぶ。 【キーワード】 終末期にある療養者、家族、緩和ケア、チーム連携	福井　小紀子（日本赤十字看護大学大学院教授）	福井　小紀子（日本赤十字看護大学大学院教授）
13	訪問看護におけるリスクマネジメント	訪問看護にて、多くみられるインシデントの実態を理解し、訪問看護提供機関におけるリスクマネジメントや管理体制について、学ぶ。 【キーワード】 感染予防、災害、事故、保障、リスクマネジメント	上野　まり（湘南医療大学教授）	上野　まり（湘南医療大学教授）
14	超高齢社会における地域包括ケア	超高齢社会における在宅ケアが必要な人々の課題を理解し、予防的な支援を含む地域包括ケアシステムの意義や実際について、学ぶ。 【キーワード】 虐待、社会的孤立、超高齢社会、地域包括ケア、フレイル、予防	河野　あゆみ（大阪市立大学大学院教授）	河野　あゆみ（大阪市立大学大学院教授）
15	退院支援と医療機関と地域の連携	退院支援の必要性やその展開の実際を理解し、医療機関（外来やプライマリケア）と地域が連携する意義と実際について、学ぶ。 【キーワード】 退院支援、外来との連携、プライマリケア	永田　智子（東京大学大学院准教授）	永田　智子（東京大学大学院准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518909	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 災害看護学・国際看護学 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Disaster Nursing and International Nursing (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：小原　真理子　（日本赤十字看護大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：　　〕

【本学担当専任教員：井上　洋士　（放送大学教授）】

講義概要

災害看護については、過去の大規模災害や東日本大震災における看護活動の経験知を基盤に、災害が地域や人々の健康と生活に多大な影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルや活動現場に応じた被災者の健康や生活のニーズに対する看護の果たす役割について学ぶ。国際看護では、途上国の多くの人々が満足な保健医療サービスを受けられずにいる現実を見つめ、さらに改善するための対策を世界的規模で実施するとともに、人口問題にも取り組まなければならない実状について理解する。このような状況において、講義では世界の保健医療の現状、国際保健医療協力の体制及び方法論等について学ぶ。

授業の目標

1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。
2. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する。
3. 災害サイクルや活動の場に応じた看護の役割を理解する。
4. 発展途上国における健康・生活上の問題について理解する。
5. 国際保健学の概念を基盤に、国際保健医療活動における国際看護の役割について理解する。

履修上の留意点

1. 平成23年3月11日に発生した東日本大震災に関する新聞記事やテレビ等の映像により、今、被災地で起こっている生活上の問題を把握し、対策について看護の視点から考える。
2. テレビ番組から、発展途上国に関する人々の健康や生活について知る機会を作る。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	近年における国内外の災害発生状況と災害看護の歩み	1. 近年の国内外におけるの災害の発生状況 2. 関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災に視る被害状況の特徴 3. 災害発生に伴う救護組織と災害看護の歴史的歩み 4. 災害の定義 5. 災害看護の定義 【キーワード】 災害の定義、災害救護、災害看護の定義	小原　真理子（日本赤十字看護大学教授）	小原　真理子（日本赤十字看護大学教授）
2	災害看護の対象および災害時要援護者	1. 被災者とは、被災者の特性 2. 災害が被災者の健康や生活に与える影響 3. 行政的防災・減災対策と被害対応 4. 災害時要援護者の概念と行政的対策 【キーワード】 被災者、防災・減災対策、被害対応、災害時要援護者	伊藤　尚子（千葉大学大学院特任准教授）	伊藤　尚子（千葉大学大学院特任准教授）
3	災害の種類別疾病構造と災害サイクルから視る災害医療	1. 災害の種類別疾病構造 2. 災害サイクルから視る災害医療 ・災害医療と救急医療との違い ・災害医療活動の7つの要素（CSCA3T） ・災害医療救援チーム（DMAT）、災害拠点病院 3. 災害と情報 【キーワード】 災害医療、災害サイクル、CSCA3T、DMAT、災害拠点病院	勝見　敦（東京医科歯科大学医学部臨床教授、武蔵野赤十字病院救命救急センター第2救急部長）	勝見　敦（東京医科歯科大学医学部臨床教授、武蔵野赤十字病院救命救急センター第2救急部長）

回	テ ー マ	内 容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	災害サイクルに応じた災害看護の役割	1. 災害サイクルに応じた災害看護の役割 2. 災害サイクルに伴う活動現場の特性 3. 映像シミュレーション「災害発生時における被災病院の看護職による入院患者への対応」 【キーワード】 災害看護の役割、災害看護の活動現場、被災病院	小原 真理子（日本赤十字看護大学教授）	小原 真理子（日本赤十字看護大学教授）
5	災害急性期・亜急性期の看護 活動現場別の看護展開	1. 被災病院における初動体制の立ち上げと多数傷病者の受け入れ 2. 救護所の立ち上げと傷病者への対応 3. 避難所の立ち上げと被災者の受け入れ、生活環境の整備 4. 避難所で生活している要援護者の看護 【キーワード】 被災病院の初動体制、救護所、避難所	小原 真理子（日本赤十字看護大学教授）	小原 真理子（日本赤十字看護大学教授）
6	災害急性期・亜急性期の看護 トリアージ・応急処置・搬送法	1. トリアージの定義と意義 2. トリアージを実施する現場の特徴 3. トリアージの方法 4. トリアージタッグの記載方法 5. 主な外傷と応急処置 6. 搬送法、搬送の優先度 【キーワード】 トリアージ、トリアージタッグ	勝見 敦（東京医科歯科大学医学部臨床教授、武蔵野赤十字病院救命救急センター第2救急部長）	勝見 敦（東京医科歯科大学医学部臨床教授、武蔵野赤十字病院救命救急センター第2救急部長）
7	災害中長期の看護	1. 仮設住宅における被災者の健康生活支援 2. 復興期における看護の役割 3. 復興とは 【キーワード】 仮設住宅、復興	小原 真理子（日本赤十字看護大学教授）	小原 真理子（日本赤十字看護大学教授）
8	災害静穏期の看護	1. 病院防災への備え 2. 災害看護教育 3. 地域防災への備え 【キーワード】 病院防災、災害看護教育、地域防災	小原 真理子（日本赤十字看護大学教授）	小原 真理子（日本赤十字看護大学教授）
9	災害と感染コントロール	1. 災害時に発生しやすい感染症とその機序 2. 感染症が発生しやすい災害時の環境的要因 3. 避難所アセスメントと感染症対策 【キーワード】 感染症、避難所アセスメント	伊藤 尚子（千葉大学大学院特任准教授）	伊藤 尚子（千葉大学大学院特任准教授）
10	被災者特性に応じた災害看護	1. 小児に対する災害看護 2. 母性に対する災害看護 3. 高齢者に対する災害看護 4. 身体障がい者に対する災害看護 5. 精神障がい者に対する災害看護 6. 慢性疾患患者に対する災害看護 【キーワード】 被災者特性	伊藤 尚子（千葉大学大学院特任准教授）	伊藤 尚子（千葉大学大学院特任准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	災害とこころのケア	1. 被災者のこころのケア 2. 遺族のこころのケア 3. 被災救援者のこころのケア 4. 救援者のストレスとこころのケア 【キーワード】 災害とこころのケア	伊藤　尚子（千葉大学大学院特任准教授）	伊藤　尚子（千葉大学大学院特任准教授）
12	国際看護学の概念	1. 国際看護学とは 2. 国際看護と取り巻く理念や戦略 3. 異文化看護;文化を超えた看護 4. 健康に関する指標（保健指標） 【キーワード】 国際看護学、看護の倫理要綱、ICN、MDGs、PHC、異文化看護、保健指標	大澤　絵里（国立保健医療科学院主任研究官）	大澤　絵里（国立保健医療科学院主任研究官）
13	世界の健康課題	1. 世界の健康課題 2. 社会的要因と健康 3. グローバリゼーションと健康 【キーワード】 感染症、母子の健康、非感染性疾患、高齢者社会、複合人道危機、グローバリゼーション	大澤　絵里（国立保健医療科学院主任研究官）	大澤　絵里（国立保健医療科学院主任研究官）
14	国際看護の実践とグローバル化社会における看護	1. 海外での国際看護 2. 日本国内での国際看護 3. グローバル化社会における看護の役割 【キーワード】 国際協力、国内における国際看護、これからの看護の役割	大澤　絵里（国立保健医療科学院主任研究官）	大澤　絵里（国立保健医療科学院主任研究官）
15	国際救援活動における看護の役割	1. 国際救援の定義と活動の基本理念 2. 複合人道危機とは 3. 被災者の救援と看護 4. 最近の主な国際救援活動の実際 5. 他専門チームや国際機関との協働 6. 国際救援活動における看護の課題 【キーワード】 国際救援、複合人道危機	小原　真理子（日本赤十字看護大学教授）	小原　真理子（日本赤十字看護大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518992	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 少子社会の子ども家庭福祉 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Family Services in a Society with Declining Birth Rate (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：山縣　文治　（関西大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：大曽根　寛　（放送大学教授）】

講義概要

子どもは、育つ存在であると同時に、育てられる存在でもあります。今日、子どもがおかれている環境をみると、育つという側面からみても、育てられるという側面からみても、非常に厳しいものがあります。
本講義では、子どもの育ちを社会的に支える仕組みや制度について、代表的な分野をあげながら紹介していきます。

授業の目標

社会福祉は、すべての人が生きていく上で必ず利用する制度やサービスです。できるだけ身近なものを紹介しつつ講義を展開していく予定です。受講生の方も、子ども時代に自分自身が身近に経験した状況を思い出し、そこにどのような福祉制度が関係していたのかを実感してください。

履修上の留意点

新聞、テレビ、雑誌など、子どもにかかわるできごとがあれば、そこにどのような制度やサービスが関わっているのかを、考えてみてください。また、あなた自身が親になったときのことも、同様に考えてみてください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会の特徴と子ども家庭福祉問題	本章では、今日の子どもが置かれている状況を、人口構造、社会生活など、多様な側面から解説し、子ども家庭福祉を学習する意義について確認します。 【キーワード】 少子高齢社会、3つの社会化の場、子ども家庭福祉問題	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授）
2	子ども家庭福祉の基本的枠組みと理念	本章では、まず、子ども家庭福祉のとらえ方、基本的枠組みとターゲットを示します。さらには、このようなとらえ方の背景にある、子どもの人権概念、その概念を基礎にした、子ども家庭福祉の理念について学びます。 【キーワード】 子ども家庭福祉の援助観、子ども家庭福祉の理念、児童の権利に関する条約	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:福田　公教（関西大学准教授）
3	子ども家庭福祉の歩み	子ども家庭福祉は社会福祉の一分野です。本章では、まず、社会福祉の原初形態について学習します。それを踏まえ、欧米の子ども家庭福祉のあゆみ、日本の子ども家庭福祉のあゆみを学習します。 【キーワード】 社会福祉の原初形態、救貧法、児童福祉法、社会福祉基礎構造改革、子ども・子育て支援新制度	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:小池　由佳（新潟県立大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	子ども家庭福祉の援助	子ども家庭福祉は社会福祉の一分野であり、援助の基本的視点や進め方の多くは共通しています。ここでは、まず、その共通性について学びます。それを踏まえ、子ども家庭福祉分野の特性や援助目標についての理解を深めます。 【キーワード】 子どもの意思、親権、能動的権利・人権、受動的権利・人権	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:福田　公教（関西大学准教授）
5	子ども家庭福祉の法律と制度体系	子ども家庭福祉施策の基礎をなす法律の体系を理解し、それに基づく制度体系を解説していきます。さらに、施策の実現に重要な役割を果たす子ども家庭福祉の財源についても学習します。 【キーワード】 児童の権利に関する条約、子ども家庭福祉六法、子ども家庭福祉の制度体系	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:林　浩康（日本女子大学教授）
6	子ども家庭福祉の実施体制	子ども家庭福祉施策を有効に展開していくには、それを推進していくための体制整備や、実際に担う事業主体の充実が必要となります。本章では、推進機構としての行政、事業主体としての公的相談支援機関、公的施策の事業主体としての民間機関、さらにそこに従事する専門職などについて学習していきます。 【キーワード】 児童福祉審議会、要保護児童対策地域協議会、児童相談所、児童福祉司、子ども家庭福祉施設、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:林　浩康（日本女子大学教授）
7	就学前の保育・教育と子ども家庭福祉	子どもは育つ存在であると同時に、育てられる存在でもあります。子どもを育てるもっとも大きな存在は、当然のことながら親になりますが、成長するにつれて、社会制度も重要な意味をもちます。本章では、就学前の保育・教育の中心的な資源である保育所および幼稚園を中心に、そのあゆみや現状を理解することを目標とします。 【キーワード】 保育所、幼稚園、認定こども園、子ども・子育て支援法	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:汐見　和恵（新渡戸文化短期大学教授）
8	地域子育て支援と子ども家庭福祉	就学前の保育・教育施策の展開で明らかにしたように、戦後の就学前保育・教育施策は、大きく5段階で展開しています。このうち、第4段階が地域子育て支援への展開期でした。本章では、地域子育て支援への取り組み経過と、内容等について学習します。 【キーワード】 地域子育て支援拠点事業、子ども・子育て支援法、地域子育て支援の意義、地域子育て支援のターゲット	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:汐見　和恵（新渡戸文化短期大学教授）
9	社会的養護と子ども家庭福祉	社会的養護の施策を考えるためには、まずは社会的養護問題とは何かを理解する必要があります。社会的養護の問題は、子どもの生存権にもかかわる大切な問題であり、その施策の構築には、人権視点も重要になります。本章では、子どもの権利条約も含めながら、社会的養護のあり方を検討します。 【キーワード】 子どもの代替的養育に関する国連ガイドライン、里親委託優先の原則家庭養護、施設養護、自立支援	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:林　浩康（日本女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	子ども虐待と子ども家庭福祉	子ども虐待は、社会的養護問題の一つですが、近年、死亡事例など、問題が深刻化しているため、社会的に大きな関心を集めています。そのため、本章でも、独立してこの問題を取り上げています。子ども虐待は、子どもの人権を侵害するものであり、保護者の状況を理解しつつも、あくまでも、子どもの視点でこれに取り組む必要があります。 【キーワード】 児童虐待の防止等に関する法律、被措置児童等虐待、児童福祉法28条、立ち入り調査	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:林　浩康（日本女子大学教授）
11	ひとり親家庭と子ども家庭福祉	ひとり親家庭は、徐々に増加しています。ひとり親として子どもを育てるには、自らの努力も当然必要ですが、社会的な支援も必要です。ひとり親家庭の生活基盤は必ずしも十分ではありません。本章では、ひとり親家庭の現状を知るとともに、どのような支援策が講じられているかについて学習します。 【キーワード】 母子家庭及び寡婦自立促進計画、児童扶養手当、母子自立支援員	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:小池　由佳（新潟県立大学准教授）
12	障がいのある子どもと子ども家庭福祉	障がいのある子どもに対する福祉サービスは、「障がい」を軸に構築していくのか、「子ども」を軸に構築していくのか。本章では、単なる福祉サービスの紹介に留まらず、「障がい」観を基礎に、問題を把握することに努めます。また、近年大きく変化している障がい福祉サービスの枠組みについても理解を深めます。 【キーワード】 ICF、ICF-CY、障害者総合支援法、発達障がい	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:小池　由佳（新潟県立大学准教授）
13	母子保健と子ども家庭福祉	母子保健は、とりわけ、妊娠期から幼児期における母と子の健康を支援するための施策です。母子保健施策は、母子保健法を中心としつつ、児童福祉法や地域保健法などにより実施されています。本章では、母子保健の水準、実施体制、サービスの概要について整理し、今後の課題について検討します。 【キーワード】 母子保健の指標、健やか親子21、母子保健法、こうのとりのゆりかご	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:小池　由佳（新潟県立大学准教授）
14	さまざまな子ども育成施策と子ども家庭福祉	本章では、これまでの各章で紹介してきた子ども家庭福祉施策では紹介できなかった子ども育成施策のうち、私たちが日常生活で出会う可能性が高いものや、近年、大きな課題となっている3つの内容について学習します。 【キーワード】 情緒障がい、非行問題、子ども健全育成	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授） ゲスト:林　浩康（日本女子大学教授）
15	子ども家庭福祉の展開と展望	子ども家庭福祉施策に限らず、社会福祉施策の内容は国民の生活に密着したものであり、常に変化し続ける必要があります。このことは、一方で、生活状況の変化の後追いである点は否めず、常に対応できていない課題があるということを意味しています。本章では、この20年の社会福祉改革、子ども家庭福祉改革を概観し、さらなる課題について検討します。 【キーワード】 社会福祉基礎構造改革、社会保障制度改革、子ども・子育てビジョン、子ども・子育て支援新制度	山縣　文治（関西大学教授）	山縣　文治（関西大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1519018	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 高齢期の生活と福祉 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Social Services in the Later Stages of Life (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：山田　知子　（放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

平均寿命の伸びにより、高齢期が人生の3分の1を占めることとなった。また人口の高齢化はますます進み、高齢者が全人口の3分の1を占めると推計されている。人生の最終ステージである高齢期の安定した生活を考えることは、すべての人にとって、重要な生活課題となっている。経済、家族、住宅、地域社会との関係、また、疾病・障がいによる介護の問題も、真剣に検討し、避けることのできない課題である。この科目では、最初に、日本の人口構造の変化、少子高齢社会の現状、高齢期にある人々の生活実態について、家族、所得、労働等の視点からみる。次に高齢期の生活を支える社会制度について概観する。それらをふまえ、第3に、社会全体が高齢期の生活問題をどうとらえ、解決のためのあるべき社会システムについて考えたい。世代間が連帯して支えあっていく新しい社会システムとしての社会福祉の在り方を探る。

授業の目標

超高齢社会における人生の生き方を、自分自身の問題として考えると共に、人々が支えあって暮らしていく社会を作るにはどうしたらよいのかを、みんなで議論し、行動する姿勢を身につけることができるようにすることが学習の目標である。

履修上の留意点

「健康と社会」「人口減少社会の構想」「公衆衛生」など基本的な科目を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	高齢期の生活と社会福祉	本講義の目的、構成およびライフステージにおける高齢期の意味について述べる。 【キーワード】 老い、世代、当事者	山田　知子（放送大学教授）	山田　知子（放送大学教授）
2	高齢化社会の衝撃	世界の高齢化、日本の高齢化、国連の取り組みについて述べる。 【キーワード】 世界の高齢化、国連のとりくみ、人口減少社会	山田　知子（放送大学教授）	山田　知子（放送大学教授）
3	高齢者と家族	高齢者と家族について介護、看取りという視点から考える。また、孤独死やゴミ屋敷などについて地域の生活問題という視点から考える。 【キーワード】 ビジネスパーソンと介護、看取り、孤独死	山田　知子（放送大学教授）	山田　知子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	高齢者と経済	高齢者の所得は二極化しているといわれる。失業や生活保護について言及する。高齢期の経済的なゆらぎはどのようにして生まれるのか、考える。 【キーワード】 高齢者の貧困、高齢者と仕事	山田　知子（放送大学教授）	山田　知子（放送大学教授）
5	高齢者のための福祉施策の展開	戦前期から戦後、介護保険、今日に至る高齢者福祉施策の流れを概観する。 【キーワード】 養老院、福祉元年、社会福祉基礎構造改革	山田　知子（放送大学教授）	山田　知子（放送大学教授）
6	高齢期の生活を支える所得保障制度	多くの労働者は一定の年齢が来ると労働市場から退場し、稼動収入の減少、喪失に直面する。この事態に対応するために、わが国に用意されている高齢期の所得保障制度を概観する。 【キーワード】 高齢者雇用、老齢年金、生活保護	片桐　由喜（小樽商科大学教授）	片桐　由喜（小樽商科大学教授）
7	高齢期を支える介護保険制度	介護保険法は介護需要に応え、介護負担を社会全体でカバーするために制定された。介護保険の意義や、新しい仕組みがもたらす課題などを考える。 【キーワード】 介護保険、公益性、規制	片桐　由喜（小樽商科大学教授）	片桐　由喜（小樽商科大学教授）
8	高齢期を支える権利擁護制度	心身の能力が衰えた高齢者は虐待等の権利侵害を受けやすい。これを未然に防止したり、あるいは解決する法制度や、権利擁護制度を概観する。 【キーワード】 権利擁護、成年後見制度、苦情解決制度	片桐　由喜（小樽商科大学教授）	片桐　由喜（小樽商科大学教授）
9	介護保険の利用とサービス体系	要支援・要介護認定の仕組みや利用するプロセス、およびケアプランを概説する。介護保険における先進的実践事例をもとに、施設・居宅・地域密着型の主要サービスについて、その意義や特徴等への理解を図る。 【キーワード】 要介護認定、施設サービス、居宅サービス、地域密着型サービス	嶌末　憲子（埼玉県立大学准教授）	嶌末　憲子（埼玉県立大学准教授）
10	地域包括ケアシステムへの展望	目指すべき地域包括ケアにおける高齢者の介護予防や生活支援をもとに、介護保険の課題と介護保険外サービス等の対策を考える。また、認知症ケアやサービスの質を確保する取組をふまえ、介護保険事業計画策定や実施への参画を提案する。 【キーワード】 認知症地域ケア会議、地域包括ケアシステム、介護保険事業計画	嶌末　憲子（埼玉県立大学准教授）	嶌末　憲子（埼玉県立大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	高齢者を支える人材養成の課題	地域包括ケアや介護保険サービスを支える人材の役割をもとに、人材養成の実態と課題について概説する。とりわけ、家族らも含めた連携・協働によるネットワークが求められる状況から、ソーシャルワーカーやケアマネジャーの重要性を確認する。 【キーワード】 介護支援専門員、ケアワーカー、多職種連携	嶌末 憲子（埼玉県立大学准教授）	嶌末 憲子（埼玉県立大学准教授）
12	地域で暮らす	高齢者の自立期から虚弱期、要介護期を通して、地域において主体的生活をおくるためには、どのような要件が必要となるか。住宅と生活支援をともに考える「居住福祉」の視点から高齢期の住まい、住まい方について考える。 【キーワード】 住宅政策、住み替え、住環境整備	山本 美香（東洋大学准教授）	山本 美香（東洋大学准教授）
13	高齢者を支えるまちづくり	「まちづくり」にはソフト面とハード面の両側面がある。ここでは、その双方からの視点で、高齢者が地域の中で暮らしやすい環境を整備するために策定された法律や制度、計画、活動などを概観する。 【キーワード】 ユニバーサルデザイン、住民主体、まちづくり	山本 美香（東洋大学准教授）	山本 美香（東洋大学准教授）
14	ソーシャルアクションと高齢者	高齢者自らが、年齢による差別の反対、権利擁護、社会への主体的参加を求めて、どのような行動を起こしているか。国際的な動向も交えながら、日本の高齢者による、高齢者のためのソーシャルアクションの動向を展望する。 【キーワード】 エイジズム、ソーシャルアクション	山本 美香（東洋大学准教授）	山本 美香（東洋大学准教授）
15	3.11を越えて	講義全体をまとめ、終末期をどうプロデュースするか、これからの社会を展望しつつ考える。 【キーワード】 世代間対立、高齢者と市場、高齢者と性、災害と高齢者	山田 知子（放送大学教授）	山田 知子（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1519107	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 障害を知り共生社会を生きる （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Understanding Persons with Disabilities and Living in an Inclusive Society (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：吉川　雅博 （愛知県立大学教授） 〕

【本学担当専任教員：大曽根　寛 （放送大学教授） 】

講義概要

本講義は、障害者基本法第1条にあるように、「全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しながら共生する社会を実現する」ために、一般にはまだなじみのうすい「障害」および「障害者」について、理解を深めることを目的とする。
障害者といえば、車いすを使っている人を連想する人が多いが、障害の種類は多く、それぞれの障害の特徴は多様である。障害の概念や障害をめぐる思想を理解するだけでなく、権利の尊重、日常生活や社会生活の実態、国の障害者施策や法律など、障害者理解を促進させる内容を多角的に学習する。さらに、理解しにくいと考えられる障害を取り上げ、個別の障害の特徴を詳細に学習する。
この科目は、社会福祉領域の専門科目として位置づけることとするが、障害について思想や理念、障害者の生活支援の実際についても学習する。したがって、一般の市民だけでなく、障害をもつ当事者や家族、社会福祉の仕事に従事する者、さらに看護・医療職、教育・保育職などの専門職も受講対象として想定している。

授業の目標

本講義を通じて、障害者を特別視せず、ひとりの人間としてとらえ、芸術などの余暇活動も含め、障害者の生活についての知識を得ることを目標とする。また共生社会の実現に向けて、障害者権利条約に現れている近時の人権思想の動向や障害者虐待防止法・障害者差別解消推進法の基本的な考え方を学ぶことを目標とする。

履修上の留意点

生活と福祉コース開設科目の、福祉系の科目と合わせて履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	障害の概念と障害をめぐる思想	国際生活機能分類の考え方や医学モデルと社会モデルのちがいから障害の概念を理解する。また、障害福祉に影響を与えた思想を学ぶ。 【キーワード】 国際生活機能分類、社会モデル、基本的人権、自立思想、ノーマライゼーション、エンパワメント、アドボカシー、優生思想	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）
2	わが国の障害者の法的定義	わが国の障害者制度の基本を定める障害者基本法について理解する。障害は身体障害、知的障害、精神障害と大きく3つに分類されており、それぞれの法律において、障害や等級の定義を学ぶ。精神障害については触法障害者に関連する医療保護入院や医療観察法について学ぶ。 【キーワード】 障害者基本法、身体障害者基本法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、医療観察法	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）
3	わが国の障害者施策	わが国の障害者施策とその変遷について学ぶ。政府が障害者基本計画を策定し、都道府県と市町村が障害者計画と障害福祉計画を策定している。平成25年度から平成29年度の障害者基本計画にある10の分野別施策を紹介する。また、障害者に提供する福祉サービスについて規定している障害者総合支援法について学ぶ。 【キーワード】 障害者基本計画、障害者計画、障害福祉計画、障害者総合支援法	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	障害者総合支援法以外の各種サービス	障害者総合支援法以外の各種サービスについて学ぶ。医療費の助成や日常生活用具の給付、タクシー料金の助成、税金・公共料金等の減免、手当・年金等、主に所得保障のサービスが受けられる。 【キーワード】 医療費の助成、日常生活用具の給付、手当・年金	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）
5	障害者権利条約	わが国では2014年2月に障害者権利条約が効力を発生した。障害者の権利条約に至るまでの過程を学ぶ。そして、条約の条文から障害者の権利についての理念や考え方を学ぶ。 【キーワード】 固有の尊厳、個人の自律、無差別、差異の尊重、機会の平等、アクセスビリティ	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）
6	障害者虐待防止法と障害者差別解消法	障害者の権利を護るうえで、効果があると考えられる障害者虐待防止法と障害者差別解消法について学ぶ。虐待の現状を学び、合理的配慮を提供することで社会的障壁が除去できることから、合理的配慮の不提供が差別に相当することを理解する。 【キーワード】 直接差別、間接差別、社会的障壁、合理的配慮の不提供	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）
7	権利を保障するしくみ	福祉サービスが契約制度となり、判断能力が低下したサービス利用者の権利を護る成年後見制度などの仕組みが整えられた。障害者の権利を護る制度やその実情を学習する。 【キーワード】 成年後見制度、日常生活自立支援事業、福祉サービス第三者評価事業、苦情解決システム	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）
8	難病を知る	難病とは、治療が困難で、慢性的な経過をたどり、本人・家族の経済的・身体的・精神負担が大きい疾患である。2014年5月、難病の患者に対する医療等に関する法律案が成立した。2015年より医療費の助成が300以上の疾患に拡大され、難病が障害に含まれることになった。この法律の内容と難病についての理解を深める。 【キーワード】 難病新法、難病情報センター、都道府県難病相談センター	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）
9	発達障害を知る	生まれつきコミュニケーションや社会適応の困難さをもっている発達障害者は、脳機能の障害が問題であり、家庭、地域、学校、職場でさまざまな困難を抱えて生活をしている。発達障害の特徴を知り、発達障害者の生活上の困難さを理解する。 【キーワード】 発達障害者支援法、発達障害者支援センター、ペアレントプログラム	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	精神障害を知る	精神疾患のある外来患者の総数は280万人を超え、精神保健福祉手帳所持者は全国に50万人以上いる。自殺とひきこもりに関係する精神疾患の症状を理解することで、早期発見、早期治療に役立て、自殺とひきこもりを防ぐ知識を学ぶ。 【キーワード】 統合失調症、うつ病、強迫性障害、パニック障害、摂食障害	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）
11	高次脳機能障害を知る	交通事故や病気等により脳に損傷を受け、その後遺症等として記憶、注意、遂行機能、社会的行動といった認知機能が低下した状態を高次脳機能障害という。外見からは障害があると分かりにくく、「見えない障害」などと言われている。若者が多いのも特徴である高次脳機能障害について学習する。 【キーワード】 見えない障害、谷間の障害、高次脳機能障害情報・支援センター	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）
12	高齢難聴を知る	聴覚障害と聞くと、手話を使用するろう者を連想する人が多いが、音の聞き分けが困難であるという難聴者は、日本には約1400万人おり、その7割は耳がとおい高齢難聴といわれている。高齢で耳がとおい状態は身体障害者手帳に該当する場合もあり得る。また、聞こえを補う道具として、多くの人が知っている補聴器はその機能に限界がある。 【キーワード】 感音性難聴、語音明瞭度、補聴器	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）
13	リハビリテーション	本来は人間としての権利の回復を意味するリハビリテーションは、単なる機能回復ではなく、全人間的復権を目指すものである。医学、社会、教育、職業の4つの分野のそれぞれの特徴とリハビリテーション専門職の専門性について学ぶ。生きた自助具にたとえられる「身体障害者補助犬」についても取り上げる。 【キーワード】 PT、OT、ST、職業リハビリテーション、福祉用具、自助具	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）
14	障害者の芸術	最近では、障害のある人が描いた展覧会等も各地で開催されるようになってきている。海外で高い評価を得ている作家もいる。平成25年8月26日付けの「障害者の芸術活動への支援を推進するための懇談会中間まとめ」を参考に障害者の芸術活動の現状と今後の課題について学習する。 【キーワード】 アール・ブリュット、アウトサイダー・アート、ボーダーレスアート	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）
15	共生社会の実現に向けて	共生社会は具体的にはどのような社会で、その実現のためには、何が必要で、どのような行動や実践をすればよいのかを理解する。 【キーワード】 バリアフリー新法、ユニバーサルツーリズム、ユニバーサルデザイン、ソーシャル・ファーム	吉川　雅博（愛知県立大学教授）	吉川　雅博（愛知県立大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518925	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 地域福祉の展開 （’１４）＝ （ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 Development of Community-Based Welfare Policy and Practice (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：平野　隆之　（日本福祉大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：原田　正樹　（日本福祉大学教授）　〕

【本学担当専任教員：大曽根　寛　（放送大学教授）　】

※この科目は「地域福祉の展開('10)」の一部改訂科目です。
改訂回は1，2，10，14，15 回です。

講義概要

「地域福祉の展開」は、これまでの「地域福祉論」の内容と比較して、動態性を重視し、より実践的、より政策的な内容を加味する講義である。講義の体系としては、地域福祉を推進する主体に応じて構成し、市町村、都道府県、専門職、当事者・住民という順に、具体的で先駆的な事例を取り入れながら解説している。また、地域福祉による対応を年代別に整理し、今後の地域福祉の展開方向を示す。

授業の目標

①2000年の社会福祉法（第4条「地域福祉の推進」の導入）以降の地域福祉の動向を中心に学ぶ。
②地域福祉の推進主体別にその取り組みの方法を比較にながら学ぶ。
③今日的な地域福祉の課題に対応している実践のもつ先駆性を解釈するための能力を身につける。震災復興を視野に入れている。

履修上の留意点

「社会福祉への招待」を学んでおくことが望ましい。映像教材で取り上げる事例を十分に理解した上で、テキストの学習に当たることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「地域福祉の展開」入門 【改訂回】	これまでの「地域福祉論」の講義とどこが違うのか、地域福祉の基礎的な定義を学ぶとともに、主体と空間、自発性と地域性といった地域福祉を捉えるための視点についての理解を深める。また、本書の構成の特徴についても解説する。 【キーワード】 地域福祉論、地域福祉の推進、活動主体、地域福祉の容器、地域福祉めがね	平野　隆之（日本福祉大学教授） 原田　正樹（日本福祉大学教授）	平野　隆之（日本福祉大学教授） 原田　正樹（日本福祉大学教授）
2	市町村行政と地域福祉計画 【改訂回】	社会福祉法によって「地域福祉計画」が法定計画として登場し、市町村行政が地域福祉計画にどのように取り組んでいるのか、その現状を紹介する。先駆的な市町村の策定動向を紹介するとともに、地域福祉計画の理解についての枠組みを示す。 【キーワード】 地域福祉計画、計画空間、住民参加、行政参加、実験福祉	平野　隆之（日本福祉大学教授）	平野　隆之（日本福祉大学教授）
3	地域福祉計画という「現場」 元科目('10)の3回に相当	地域福祉が現場どう展開しているのかをつかむ。その際の行政と地域住民の協働に焦点をあて、地域福祉計画策定とそれにもとづく施策と実際の地域福祉活動の様子を知ることで、地域福祉のイメージとその必要性を理解する。 【キーワード】 社会福祉基礎構造改革、地方分権、地域住民参加、協働	原田　正樹（日本福祉大学教授）	原田　正樹（日本福祉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	日本の地域福祉の独自性－韓国との比較 元科目('10)の14回に相当	日本の地域福祉の独自性を韓国での地域福祉の取り組みと比較しながら明確にする。韓国における地域福祉計画と日本の地域福祉計画との比較を行い、それぞれの特徴を明らかにする。それぞれの国における地域福祉研究の課題を整理する。 【キーワード】 地域福祉計画、日本、韓国、社会福祉と地域福祉	平野　隆之 (日本福祉大学教授)	平野　隆之 (日本福祉大学教授)
5	都道府県による「共生型」プログラムの開発 元科目('10)の4回に相当	地域福祉を政策的に推進する主体として、都道府県に注目する。対象別の福祉ではなく、共生型の福祉を目指すプログラムの開発を紹介する。共生型のプログラムの全国的な普及の動向にも触れる。 【キーワード】 地域福祉プログラム、地域福祉支援計画、共生型ケア、都道府県	平野　隆之 (日本福祉大学教授)	平野　隆之 (日本福祉大学教授)
6	中山間地域からみた地域福祉の展開 元科目('10)の5回に相当	中山間地域を取り上げ、そこで必要となっている地域福祉の課題を明確にしつつ、その支援に取り組む都道府県の模索を紹介する。フィールドとしては高知県を取り上げる。 【キーワード】 中山間地域、限界集落、サロン活動、社会福祉協議会	平野　隆之 (日本福祉大学教授)	平野　隆之 (日本福祉大学教授)
7	大都市における地域福祉の推進基盤 元科目('10)の6回に相当	大都市をフィールドにして、地域福祉の推進基盤の政策的支援を学ぶ。大阪府が取り組んだコミュニティソーシャルワーク配置事業を分析するとともに、豊中市での事業展開の実際を学ぶ。 【キーワード】 コミュニティソーシャルワーカー、地域福祉支援計画、小地域福祉組織、ゴミ屋敷	平野　隆之 (日本福祉大学教授)	平野　隆之 (日本福祉大学教授)
8	小地域福祉活動の展開と専門職支援 元科目('10)の7回に相当	地域をどの範囲でとらえるのかを明確にすることで、システムがつくりやすくなる。それには重層的な生活圏域の検討が必要である。住民主体による身近な地域福祉活動の組織化と、公的なサービスと近隣の支えあいによる総合的な支援のあり方が重要になる。こうした地域包括ケアのあり方についても学習する。 【キーワード】 福祉コミュニティ、地域包括ケア、地区社協、地域福祉型福祉サービス	原田　正樹 (日本福祉大学教授)	原田　正樹 (日本福祉大学教授)
9	地域福祉の展開と福祉教育による支援 元科目('10)の9回に相当	地域の福祉課題について知り、それを解決していくための方法を検討したりする過程は、地域住民にとって福祉の学習の機会である。どのような福祉教育プログラムを提供していくかは大切な地域福祉の実践課題である。 【キーワード】 福祉教育、地域福祉の主体形成、サービスラーニング	原田　正樹 (日本福祉大学教授)	原田　正樹 (日本福祉大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	ボランティア・NPO活動の展開 【改訂回】	1995年は日本における「ボランティア元年」と呼ばれている。それは阪神・淡路大震災の救援活動を契機としている。その後、市民活動を支援することを目的に特定非営利活動促進法が制定されNPO法人が増加してきた。2011年の東日本大震災でもボランティアが重要な復興支援をしている。ボランティア・市民活動の変化や支援のあり方について検討する。 【キーワード】 ボランティア、市民活動、特定非営利活動促進法、NPO	原田　正樹 （日本福祉大学教授）	原田　正樹 （日本福祉大学教授）
11	当事者組織活動と地域福祉の推進－80年代 元科目（’10）の10回に相当	1980年代に展開された介護者家族の会の運動・活動の取り組みを素材にしながら、当事者組織を核とした地域福祉の推進方法を紹介する。高齢者福祉行政の展開に先行する自発的な福祉の意義に注目する。 【キーワード】 当事者組織、介護者家族の会、ボランタリー・サービス、ネットワーク	平野　隆之 （日本福祉大学教授）	平野　隆之 （日本福祉大学教授）
12	障害者運動と地域福祉の展開－90年代 元科目(’10)の11回に相当	1990年代に展開された障害者の運動による地域福祉の展開を紹介するとともに、ノーマライゼーションの日本における普及の状況について触れる。障害者を中心に据えた地域福祉計画の策定を展望する。 【キーワード】 障害者運動、ノーマラゼーション、コンフリクト、共生文化	原田　正樹 （日本福祉大学教授）	原田　正樹 （日本福祉大学教授）
13	社会的排除と地域福祉の課題－2000年代 元科目(’10)の12回に相当	2000年代における新たな問題として、社会的排除を取り上げ、社会的包摂としての地域福祉の課題を整理する。具体的な取り組み事例を紹介するとともに、地域福祉プログラムとしての成立のための条件を検討する。 【キーワード】 社会的排除、社会的包摂、自立支援プログラム、NPO法人、釧路市	平野　隆之 （日本福祉大学教授）	平野　隆之 （日本福祉大学教授）
14	大震災と地域福祉の課題－2010年代 【改訂回】	東日本大震災の復興支援と生活支援、コミュニティづくりの現状と課題を触れる。被災の状況に対応し、どのように復興のためのコミュニティづくりに取り組まれているのか、復興に向けての段階に応じた地域福祉の役割・課題について解説する。 【キーワード】 震災復興、生活支援、仮設住宅支援、コミュニティ再生	平野　隆之 （日本福祉大学教授）	平野　隆之 （日本福祉大学教授）
15	これからの地域福祉の展開 【改訂回】	今日の地域福祉の課題を踏まえ、国の地域福祉政策の動向や新たな考え方を整理する。地域性を踏まえた今後の地域福祉の展開方向、とくにまちづくりとの関連性を示すとともに、地域福祉学習・研究のガイダンスを行う。 【キーワード】 地域福祉政策、生活支援戦略、地域再生、まちづくり	平野　隆之 （日本福祉大学教授） 原田　正樹 （日本福祉大学教授）	平野　隆之 （日本福祉大学教授） 原田　正樹 （日本福祉大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1519050	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会保険のしくみと改革課題 （’１６）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Social Insurance and Its Reforms (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：田中 耕太郎 （放送大学客員教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：大曽根 寛 （放送大学教授） 】

講義概要

医療、年金、介護、雇用、労災という5つの領域からなる社会保険制度について、社会保険の母国ドイツとの比較を交えて、その基本的な概念や枠組み、歴史的な展開、特徴を学んだ上で、それぞれの制度について、誰を対象とするか、誰が運営するか、費用負担のルール、給付の範囲・内容・水準等の基本的なしくみを解説する。その学習成果をもとに、少子高齢化や財政問題など、社会保険共通で受けているチャレンジと、もっともその影響を受ける医療、介護、年金の具体的な改革課題について考える。

授業の目標

社会保険というしくみの基本的な構造と歴史的な展開過程、現在の5つの個別領域の具体的なしくみを説明できるようになる。その基礎知識の上に立って、現在の社会保険が直面している主要な改革課題について、その問題状況と改革の選択肢・方向性について、自分の考えを伝えることができるようになる。

履修上の留意点

「障害を知り共生社会を生きる(’17)」「少子社会の子ども家庭福祉(’15)」「高齢期の生活と福祉(’15)」「社会福祉への招待(’16)」「社会福祉と法(’16)」など、社会福祉に関連する科目は、隣接分野であるので同時に履修することが期待される。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会保険というしくみ	社会保険というしくみについて、保険事故(リスク)、被保険者と保険料、保険者、保険給付などの構成要素について学ぶとともに、ドイツおよび日本における歴史的な発展の経緯や社会保障制度体系の中での位置づけや特徴などについて学ぶ。 【キーワード】 社会保険、雇用労働者、社会保障、公的扶助、保険事故(リスク)、保険者、被保険者、保険料、保険給付	田中 耕太郎（放送大学客員教授）	田中 耕太郎（放送大学客員教授）
2	医療保険(1) ー基本的なしくみと被保険者、保険料、保険者ー	医療保険の基本的なしくみについて、償還払い、現物給付などの支払方式について学ぶとともに、日本の国民皆保険の構造、加入する医療保険の種類、保険者、被保険者、保険料などの具体的なしくみの概要を学ぶ。 【キーワード】 現物給付、償還払い(療養費払い)、国民皆保険、健康保険、家族被扶養者、国民健康保険	田中 耕太郎（放送大学客員教授）	田中 耕太郎（放送大学客員教授）
3	医療保険(2) ー医療保険の給付ー	医療保険から給付される医療サービスの範囲、受診時の患者一部負担、高額療養費など給付の範囲・内容について学ぶとともに、その価格表である診療報酬のしくみについても学ぶ。また傷病手当金などの金銭給付についても学ぶとともに、保険診療と保険外診療を組み合わせる混合診療の問題についても考える。 【キーワード】 保険診療、(患者)一部負担金、高額療養費制度、保険外併用療養費、混合診療、傷病手当金、出産育児一時金	田中 耕太郎（放送大学客員教授）	田中 耕太郎（放送大学客員教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	医療保険（3） ー高齢者医療制度、国民医療費、医療提供体制ー	高齢者医療がなぜ特別に必要とされるのか、その必要性と特徴について理解し、老人保健制度から新しい高齢者医療制度への変遷について学ぶ。また、日本の医療費がどのような構成になっているのか、国民医療費の分析を通して考えるとともに、病院や診療所など医療提供体制について学ぶ。 【キーワード】 医療費の3要素、老人保健法、後期高齢者医療制度、国民医療費、医療提供体制、医療計画	田中　耕太郎（放送大学客員教授）	田中　耕太郎（放送大学客員教授）
5	介護保険（1） ー基本的なしくみと被保険者、保険料、保険者ー	介護保険制度が創設された経緯や背景について学ぶとともに、要介護状態、保険者、被保険者、保険料など、介護保険の基本的なしくみを理解した上で、その財政のしくみについても学ぶ。 【キーワード】 介護保険、要介護状態、要介護認定、（介護保険の）第1号被保険者、第2号被保険者、特定疾病、所得段階別定額保険料	田中　耕太郎（放送大学客員教授）	田中　耕太郎（放送大学客員教授）
6	介護保険（2） ー介護保険の給付ー	要介護認定の手続きと具体的な給付内容について、医療保険との比較も含めて、具体的な内容や特徴について学ぶ。また、制度の運用状況についても学ぶ。 【キーワード】 要介護認定、介護認定審査会、居宅介護支援、居宅介護支援員、居宅サービス、地域包括支援センター	田中　耕太郎（放送大学客員教授）	田中　耕太郎（放送大学客員教授）
7	年金（1） ー年金の基本的なしくみー	年金制度とはどういうしくみか、そしてどういう特徴があるのかなど、日本の国民皆年金のしくみと制度の変遷の跡をたどり、現在の複雑な制度の基本構造学ぶ。 【キーワード】 年金（保険）、国民年金、厚生年金、長生き、障害、死亡、基礎年金	田中　耕太郎（放送大学客員教授）	田中　耕太郎（放送大学客員教授）
8	年金（2） ー被保険者、保険料、保険者ー	日本の年金制度の体系をつかんだ上で、国民年金と厚生年金のそれぞれについて、被保険者の種別とそれに応じた保険料負担のルールなどについて学ぶ。 【キーワード】 国民年金の第1号被保険者、第2号被保険者、第3号被保険者、保険料、厚生年金の被保険者、日本年金機構	田中　耕太郎（放送大学客員教授）	田中　耕太郎（放送大学客員教授）
9	年金（3） ー老齢年金、給付水準ー	年金制度の中でもっとも受給者が多く代表的な老齢年金について、国民年金と厚生年金に分けて、それぞれの受給資格、年金額の算定方式を学ぶとともに、賃金や物価の変動に応じて年金額を改定するスライド方式についても学ぶ。 【キーワード】 受給資格期間、保険料免除期間、老齢基礎年金の繰上げ・繰下げ支給、年金分割、物価（賃金）スライド	田中　耕太郎（放送大学客員教授）	田中　耕太郎（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	年金(4) －障害年金と遺族年金－	障害年金と遺族年金について、老齢年金と比較しながらそのリスクの特徴を理解した上で、それぞれの受給資格、年金額の算定方式などについて学ぶ。 【キーワード】 障害基礎年金、20歳前障害、障害厚生年金、遺族基礎年金、遺族厚生年金、遺族の範囲	田中　耕太郎（放送大学客員教授）	田中　耕太郎（放送大学客員教授）
11	労働者災害補償保険	人を雇って事業を行っている事業主（使用者）の業務上災害に対する無過失責任を基礎に置く労災保険が他の社会保険と異なるルールを採用している点を中心に、適用範囲、保険料負担、給付内容と水準などについて学ぶ。併せて、紛争の多い業務上・業務外をめぐる取り扱いや、近年の「過労死・過労自殺」などの課題についても考察する。 【キーワード】 業務上災害、通勤災害、労災認定、過労死・過労自殺、メリット保険料、労災かくし	田中　耕太郎（放送大学客員教授）	田中　耕太郎（放送大学客員教授）
12	雇用保険	雇用保険（失業保険）の基本的なしくみについて、被保険者、保険料、受給要件、給付内容と水準などを学ぶ。さらに雇用保険を利用できない人に対する求職者支援制度についても学ぶ。 【キーワード】 失業、求職者給付、高齢者雇用継続給付、育児休業給付、介護休業給付	田中　耕太郎（放送大学客員教授）	田中　耕太郎（放送大学客員教授）
13	社会保険改革の共通課題	少子高齢化の進展、経済のグローバル化に伴う非正規雇用の拡大や雇用の不安定化、そして厳しさを増す財政状況など、各社会保険制度に共通する経済社会情勢の変化と、それに対応するための改革課題と方向性について、諸外国の動向も踏まえて、考察する。 【キーワード】 少子高齢化、こども・子育て支援、非正規雇用、賃金付随コスト、社会保障給付費、国民負担率	田中　耕太郎（放送大学客員教授）	田中　耕太郎（放送大学客員教授）
14	医療保険と介護保険の改革課題	増大する医療費を誰がどう負担するかという改革の選択肢について学んだ上で、国際比較から見た日本の医療提供体制の特徴とその改革の方向性について考察する。また、財政的に年々厳しさを増す介護保険について、ドイツとの比較も交え、その改革の方向性を考える。 【キーワード】 医療保険改革の選択肢、地域医療構想（ビジョン）、病床機能報告制度、地域包括ケア、インフォーマル・ケア	田中　耕太郎（放送大学客員教授）	田中　耕太郎（放送大学客員教授）
15	年金制度の改革課題	少子高齢化の進展による給付額の増大と費用を支える被保険者数の減少、経済の低迷、非正規雇用の拡大など、社会経済構造の変化によってもたらされている年金制度の課題とその改革の選択肢や方向性について、諸外国の動向も踏まえて具体的に学ぶ。 【キーワード】 保険料水準固定方式、マクロ経済スライド、支給開始年齢の引上げ、消えた年金問題、税方式、賦課方式、積立て方式	田中　耕太郎（放送大学客員教授）	田中　耕太郎（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518933	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ アジアの社会福祉と国際協力 （’１４）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Asian Social Welfare and International Cooperation (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：桂　良太郎　（立命館大学特任教授）　〕

〔主任講師（現職名）：西郷　泰之　（大正大学教授）　〕

【本学担当専任教員：山田　知子　（放送大学教授）　】

講義概要

大きな経済変化を遂げているアジア諸国には、貧困人口の増加、慢性的な失業問題、スラム地域の拡大、保健衛生問題、児童労働やストリートチルドレン、障害者、ジェンダー問題などさまざまな社会福祉問題がある。この科目では、アジアの社会福祉の現状と課題を主要分野（貧困、不平等、子ども、女性、障害、難民など）ごとに取り上げる。対象国としては、中国、ベトナムのような経済発展国の他、タイ、シンガポール、マレーシアなども取り上げる。さらにアジア地域で展開されている国際機関・国際NGO活動と国際協力の状況を示し、課題を明らかにする。

授業の目標

この講義では、アジア諸国の社会福祉の課題を明らかにする。さらに、国境をこえた多くの生活問題への国際機関などの活動を示す。同じアジア地域にあるわが国の立場と使命についても学ぶことができる。急激に変化しているアジアの社会福祉問題はわが国とも大きな関連がある。経済的社会的発展に伴い、生み出される家族・地域の変容に対してどのような政策・制度が適用されているのか。アジアの社会福祉問題の特徴を示し、今後の方向を検討することは日本にとっても、国際社会にとっても重要な課題である。

履修上の留意点

「国際ボランティアの世紀（’14）」「貧困と社会（’15）」と合わせて受講されるとより理解が深まる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	アジアの社会福祉の特徴と課題	アジア諸国の経済的・社会的・政治的背景と社会福祉の課題 【キーワード】 社会変化の様相、地球市民社会の到来、国際協力の未来像	桂　良太郎（立命館大学特任教授）	桂　良太郎（立命館大学特任教授）
2	貧困と格差	経済的貧困に加えて、社会的不平等が生活問題を拡大している。 【キーワード】 経済的貧困、社会的不平等、生活問題	王　文亮（金城学院大学教授）	王　文亮（金城学院大学教授）
3	子ども家庭と社会福祉	アジアの子どもたちの置かれた状況とそれへの対応 【キーワード】 ユニセフ（UNICEF）、子どもの権利条約、ミレニアム開発目標、権利基盤アプローチ	西郷　泰之（大正大学教授）	西郷　泰之（大正大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	女性と社会福祉	男性と女性の大きな格差が生みだす多様な問題への対応 【キーワード】 ジェンダー、性差別、性別役割分業	新保 美香（明治学院大学教授）	新保 美香（明治学院大学教授）
5	障害者と社会福祉	障害者のおかれた社会経済的状況とエンパワメント戦略 【キーワード】 障害者、障害者の権利条約、アジア太平洋障害者の十年、自立生活運動	中西 由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）	中西 由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）
6	難民と社会福祉	アジアにおける難民の状況と難民への支援 【キーワード】 難民条約、難民高等弁務官事務所（UNHCR）、難民認定	桂 良太郎（立命館大学特任教授）	桂 良太郎（立命館大学特任教授）
7	アジア各国の社会福祉① 中国	都市部と農村部の格差の広がる中国の社会福祉問題について 【キーワード】 経済体制、改革開放政策、一人っ子政策、二重構造	王 文亮（金城学院大学教授）	王 文亮（金城学院大学教授）
8	アジア各国の社会福祉② ベトナム	ドイモイ政策以降の変化する家族・生活様式と社会福祉の新たな課題 【キーワード】 社会主義体制からドイモイ政策へ、戦争と貧困、急激な高齢化、格差是正のための取り組み	桂 良太郎（立命館大学特任教授）	桂 良太郎（立命館大学特任教授）
9	アジア各国の社会福祉③ タイ	貧困問題やエイズの問題に対するタイの社会福祉について 【キーワード】 タイ、仏教、ASEAN、社会的弱者	中西 由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）	中西 由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）
10	アジア各国の社会福祉④ シンガポール	限られた予算で拡大する社会福祉問題にどう向き合っているのかについて 【キーワード】 多民族国家、コムケア（ComCare）、CPF	新保 美香（明治学院大学教授）	新保 美香（明治学院大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	アジア各国の社会福祉⑤ マレーシア	先住民問題などを含む独自の課題に対するマレーシア型福祉社会構想について 【キーワード】 ブピプトラ政策、先住民問題、ケアリング・ソサイアティ、CBR	西郷　泰之（大正大学教授）	西郷　泰之（大正大学教授）
12	国際機関の活動① 国際連合	アジアの貧困と感性症問題に対する国際連合の取り組み 【キーワード】 国連、貧困、ミレニアム開発目標、感染症、人間の安全保障	中西　由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）	中西　由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）
13	国際機関の活動② 世界銀行	世界銀行による貧困の緩和と人々の生活向上に向けた支援活動を取り上げる。 【キーワード】 ブレトンウッズ協定、ケインズ経済学、IMF、貧困の撲滅	桂　良太郎（立命館大学特任教授）	桂　良太郎（立命館大学特任教授）
14	国際機関の活動③ 国際協力NGO/JICA	国際協力NGOやJICAなどの活動をとりあげて活動実態と課題を示す。 【キーワード】 グローバリゼーション、緊急援助、開発援助、JICA、自助努力支援、人間の安全保障	西郷　泰之（大正大学教授）	西郷　泰之（大正大学教授）
15	グローバリゼーションの中でのアジアの社会福祉の展望	グローバリゼーションの中で、アジアの今後の社会福祉を展望する。 【キーワード】 グローバリゼーション、人口移動、難民、移民、参加型地域開発、アジアモデル	西郷　泰之（大正大学教授）	西郷　泰之（大正大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1519000	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会福祉の国際比較 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Comparative Study of Welfare Policies (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：埋橋　孝文 （同志社大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：山田　知子 （放送大学教授） 】

講義概要

20世紀に福祉国家を標榜した欧米の諸国、それに続く日本をはじめとする東アジアの一部の国だけでなく、現在世界中の多くの国々において人々の生活問題の予防・緩和・解決のための社会福祉が導入され、多くの改革にも着手されている。
グローバリゼーションと各国固有の経済的社会的背景の中で、それぞれの国と地域の社会保障や社会福祉はどのような対応を迫られているのか。福祉政策・制度・実践の国際比較の理論と方法によって、各国および日本の今後の課題を浮き彫りにする。

授業の目標

現在のグローバリゼーションの進展下での各国のダイナミックな対応を示し、海外の社会保障・社会福祉への理解を深め、また、わが国への示唆を得る。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会福祉の国際比較	先進諸国の社会福祉はどのような構造と特徴をもち、どういう役割を果たしているのであろうか。本章は、その全体像を大掴みに把握することを目的としている。 【キーワード】 「福祉の生産モデル」、年金制度、医療保障制度、貧困率、所得の不平等度	埋橋　孝文（同志社大学教授）	埋橋　孝文（同志社大学教授）
2	医療保障制度の国際比較	高齢化の進展と技術の進歩に伴い、各国とも医療費支出が上昇している。主要先進5か国における医療保障制度の基本構造を明らかにし、改革の動向を探る。 【キーワード】 医療保険、保健サービス、医療費	岡　伸一（明治学院大学教授）	岡　伸一（明治学院大学教授）
3	失業保障制度の国際比較	雇用・失業問題は先進諸国に共通する課題である。主要先進5か国において、失業保険制度を中心に失業保障の基本構造を明らかにし、対応の在り方を比較・検討する。 【キーワード】 失業保険、失業扶助、解雇規制、職業紹介、職業訓練	岡　伸一（明治学院大学教授）	岡　伸一（明治学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	国際機関の社会保障政策	社会保障の国際的な諸問題を解決するために国際機関の強力なリーダーシップが不可欠である。国際的に影響力を持つ国際連合、ILO、EU、欧州評議会の社会保障政策を概観する。 【キーワード】 国際連合、ILO、EU、欧州評議会、国際社会保障法、人権、内外人平等待遇	岡 伸一（明治学院大学教授）	岡 伸一（明治学院大学教授）
5	国際比較から見た日本の公的扶助制度とセーフティネット	日本の公的扶助制度である生活保護制度は国際比較的にみてどのような特徴があるのであろうか。本章ではその仕組みや水準に関する特徴を探っていく。 【キーワード】 貧困率、捕捉率、ワーキングプア、セーフティネット	埋橋 孝文（同志社大学教授）	埋橋 孝文（同志社大学教授）
6	福祉国家の発展と政治	本講義では、福祉国家とは何かを検討し、その推進力として民主主義政治が重要な役割を担ったこと、福祉国家の発展を導く上でとりわけ重要なのは市場の生み出す不平等を是正しようという考えと勢力であったことを明らかにする。 【キーワード】 福祉国家、福祉レジーム、権利の政治、民主的階級闘争、埋め込まれた自由主義	新川 敏光（京都大学大学院教授）	新川 敏光（京都大学大学院教授）
7	福祉国家の諸類型	福祉国家と一口にいっても、現実の福祉国家は多様である。本章では、そのような多様性を脱商品化と脱家族化という基準に基づいて、社会民主主義、保守主義、自由主義、家族主義という四つに分類し、それぞれの類型の特徴を、代表的例を紹介しながら、明らかにする。 【キーワード】 自由主義、保守主義、社会民主主義、家族主義	新川 敏光（京都大学大学院教授）	新川 敏光（京都大学大学院教授）
8	福祉国家再編の政治	福祉国家は一国主義的な経済管理と完全雇用を前提に、民主主義政治を通じて実現した。しかしグローバル化のなかで一国主義的な経済管理は限定され、他方で各国とも高齢化が進行している。このようななかで福祉国家政治はどのように再編されようとしているのかを理解する。 【キーワード】 グローバル化、新自由主義、福祉国家の新しい政治、高齢化	新川 敏光（京都大学大学院教授）	新川 敏光（京都大学大学院教授）
9	日本の高齢者ケア	日本は、これまで高齢者問題にどのように対応し、現在、何が課題となっているのだろうか。日本の高齢者福祉の過去と現在を振り返り、家族ケアの社会化の視点から社会福祉のあり方について考える。 【キーワード】 高齢者福祉、少子高齢社会、介護の社会化、家族ケア、サービスの民営化	大塩 まゆみ（龍谷大学教授）	大塩 まゆみ（龍谷大学教授）
10	スウェーデンの高齢者ケア	福祉先進国スウェーデンの高齢者福祉の歴史的変遷と思想基盤を探り、高齢者ケアの最近の動向・特徴を紹介する。 【キーワード】 福祉国家、国民の家、スウェーデン・モデル、スカンジナビア・デモクラシー	大塩 まゆみ（龍谷大学教授）	大塩 まゆみ（龍谷大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	家族ケアの社会化と男女平等思想	人口の高齢化と要介護高齢者の増加という共通する課題に対して、日本とスウェーデンは、どのような視点で社会制度化してきたのだろうか。両国の社会福祉の発達史についての共通点と相違点を比較検討し、ケアの社会化を進める原動力となった民主主義思想や家族政策に焦点をあてて考察する。 【キーワード】 国際比較、比較社会史、日本、スウェーデン、民主主義、男女平等、政治参加	大塩　まゆみ（龍谷大学教授）	大塩　まゆみ（龍谷大学教授）
12	東アジアの社会福祉	近年経済の発展や少子高齢化などを背景に、社会福祉が急速に発展している東アジアを取り上げ、制度発展の全体的な背景や経緯を紹介したうえで、東アジアの社会福祉を考える際に必要な視点を提示する。 【キーワード】 東アジア、後発性、圧縮的発展、新しい社会的リスク	李　蓮花（静岡大学准教授）	李　蓮花（静岡大学准教授）
13	韓国と台湾の社会福祉	日本以上に深刻な少子化、若年の雇用不安、外国人労働者や移民への対応を迫られている21世紀の「新興福祉国家」－韓国と台湾が直面する課題とその対応を考察する。 【キーワード】 韓国、台湾、少子化、若年雇用、多文化主義	李　蓮花（静岡大学准教授）	李　蓮花（静岡大学准教授）
14	中国の社会福祉	経済の急成長と格差の拡大を背景に、中国でも近年「皆保険・皆年金」を中心とする福祉拡充が行われている。これらの福祉改革の背景、現状および特徴を明らかにする。 【キーワード】 体制移行、ポスト改革、格差、和諧社会、皆保険、皆年金	李　蓮花（静岡大学准教授）	李　蓮花（静岡大学准教授）
15	世界の社会福祉で注目される政策動向	先進諸国に共通した福祉政策の新しい動向として、ワークフェア、メイキング・ワーク・ペイ、ディーセントワークの3つを取り上げる。その上で、こうした国際動向が日本に対して示唆するものをまとめる。 【キーワード】 ワークフェア、メイキング・ワーク・ペイ、ディーセントワーク、社会的排除と社会的包摂	埋橋　孝文（同志社大学教授）	埋橋　孝文（同志社大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	総合科目	科目コード	1910019	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会福祉と法 （’１６）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Social Welfare and Law (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：大曽根　寛　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

本教材は、社会福祉と法の関係を主題とする。社会福祉の領域において市民としての人権がどのように尊重されるかという観点からだけでなく、社会福祉にかかわる事業者、行政機関、立法機関、国際機関の役割と責任という観点からも論ずる。そのために、人権理念と社会福祉の関係を再検討するとともに、現代的な権利と義務の問題に関する基本的な視点をおさえ、かつ実践的な課題にも応えようとする。今後の制度改革と、国家・自治体の政策責任、市民と事業者の関係についても検討する。この教材は、社会福祉の利用者や従事者ばかりでなく、看護職、法律職などの関連職種、一般市民にも役に立つものとなるだろう。

授業の目標

本教材は、社会福祉学と法律学をまたぐものであり、難しく感じられるかもしれない。しかし、この科目は放送大学において、福祉領域の専門科目をほぼ修得した学生や法律・政治学関連の専門科目をほぼ修得した学生が、複眼的な視点から、応用編として、福祉と法の接点に位置づく問題を、具体的な事件や事例を素材としながら学ぶものであり、社会経験豊富な本学学生にとっては、身近にある福祉関係の諸問題を解き明かすために必要な科目となるであろう。

履修上の留意点

社会福祉の権利構造に関する記述が多いので、福祉領域に関する科目をあらかじめ履修しておくことが望ましい。また、生活者として、市民としての権利と国家・自治体の責任に関係することも多いので、法律関係の科目も受講していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会福祉と法の歴史	本教材のイントロダクションである。近代社会の始まりとともに、社会福祉と法をめぐる歩みが始まった。今回は、第二次大戦後における福祉専門職の生き方を通して、社会福祉と法が別々に展開してきたのではなく、相互に関係しあいながら形成されてきたものであることを理解する。 【キーワード】 個人史、法制史、福祉史	大曽根　寛（放送大学教授）	大曽根　寛（放送大学教授）
2	社会福祉への法的なアプローチ	社会福祉の領域と法的な論理の世界は、全然別のものと考えられているかもしれない。しかし、現代社会においては、社会福祉と法は、密接な関係にあり、社会福祉の現実が、法を生み出してきた面があるし、また、法が社会福祉の枠組みをあえて作り出してきたという面もある。このことを、事例を用いながら学んでいこう。 【キーワード】 アルコール健康障害、立法活動、基本法	大曽根　寛（放送大学教授）	大曽根　寛（放送大学教授）
3	サービス提供の安定と行政の役割	社会福祉基礎構造改革以降、社会福祉サービスは利用者主体を旨とし、事業所との対等性を実現するべくスタートした。安心して利用できるサービス提供の環境整備に関する行政の権限について考える。また法規制の対象外となる事業所への対応についても事例を通して学ぶ。 【キーワード】 社会福祉基礎構造改革、社会福祉法人、介護保険制度	原田　欣宏（高崎健康福祉大学専任講師）	原田　欣宏（高崎健康福祉大学専任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	利用者ニーズとサービス提供の限界	福祉サービスへの多様なニーズには、法の範囲を超えた希望・要望が必ず存在する。これらを受け止め、かつ活かすための社会福祉法による苦情解決の果たす役割を学ぶ。また生活のために必要な支援を得ることと限られた社会資源を活用することとの間のバランスについて事例を通して学ぶ。 【キーワード】 責任主体、運営適正化委員会、行政裁量	原田　欣宏（高崎健康福祉大学専任講師）	原田　欣宏（高崎健康福祉大学専任講師）
5	後見と社会福祉法制	成年後見制度の活用の範囲が広がってきたが、新たな問題も発生している。今回は成年後見人の担い手について焦点を当て、様々な要因で問題が起きていることを学ぶ。また成年後見制度と社会福祉法制の連携の重要性についても考える。 【キーワード】 成年後見、選任手続き、市区町村長申立て	原田　欣宏（高崎健康福祉大学専任講師）	原田　欣宏（高崎健康福祉大学専任講師）
6	家族支援と法政策	高齢者の介護は、介護保険によってショートステイやデイサービス等が整備されているにもかかわらず、介護する家族の生活に大きな影響を及ぼしている。認知症高齢者による鉄道事故に対する家族の損害賠償責任が問われたケースを取り上げて、家族の法的責任や成年後見制度、障害者・高齢者の家族支援について考える。 【キーワード】 認知症高齢者、監督義務者、不法行為	廣田　久美子（宮崎産業経営大学准教授）	廣田　久美子（宮崎産業経営大学准教授）
7	事業者による差別的取扱い	就労・移動をはじめとする社会生活のあらゆる場面で、私人による差別や虐待などの権利侵害を受けやすい立場の方が、権利を侵害されることなく、社会の一員として生活していくことができるような、さまざまな支援のあり方や地域社会の役割について考えていく。 【キーワード】 平等、障害者差別解消法、虐待	木村　茂喜（西南女学院大学准教授）	木村　茂喜（西南女学院大学准教授）
8	社会福祉における紛争解決	福祉サービスの利用者と提供者との間の紛争を解決する方法としては、運営適正委員会による苦情解決や、裁判のほか、裁判外紛争解決（ADR）による方法もある。国民生活センターなどで扱われた福祉に関する紛争事例を通じて、福祉サービスにおける裁判外紛争解決制度の可能性について考える。 【キーワード】 裁判外紛争解決(ADR)、あっせん、福祉オンブズマン	木村　茂喜（西南女学院大学准教授）	木村　茂喜（西南女学院大学准教授）
9	社会福祉における行政責任	行政による措置の制度から、利用者と提供者との契約に基づく福祉サービス提供が中心となった社会福祉の領域においても、制度運営や提供者への監督によるサービスの質の維持向上など、行政が責任を負う部分はなお多い。ここでは、基盤整備、情報管理、リスクマネジメントを中心に、福祉分野の行政責任について論ずる。 【キーワード】 措置、個人情報、リスクマネジメント	木村　茂喜（西南女学院大学准教授）	木村　茂喜（西南女学院大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	刑事法と社会福祉	発達障害のある人への支援は、全体として児童の発達障害の早期発見・早期の発達支援に重点を置いているが、同時に支援を受ける機会のないまま成人した人への対応も重要となる。発達障害のある人の刑事事件を通して、発達障害のある人への支援と司法のあり方について論じる。 【キーワード】 発達障害者支援法、刑事裁判、地域生活定着支援	廣田　久美子（宮崎産業経営大学准教授）	廣田　久美子（宮崎産業経営大学准教授）
11	移動の権利と社会福祉	障害者が地域で生活するためには、障害者の移動の権利の保障と移動支援は不可欠なものである。本章では、障害者の航空機単独搭乗が拒否された事例を取り上げ、移動に関する法的関係と人権について検討する。 【キーワード】 自由権、合理的配慮、旅客運送契約	廣田　久美子（宮崎産業経営大学准教授）	廣田　久美子（宮崎産業経営大学准教授）
12	公的扶助と現代の貧困	生活保護法を中心とする公的扶助制度の歴史を俯瞰したうえで、生存権思想の変遷、時代の経過につれ新たに生じてきた貧困問題について論じる。また近年、いわゆる「第2のセーフティ・ネット」政策も進められつつあるので、それらについても検討する。 【キーワード】 生存権、生活保護、最低生活基準	奥貫　妃文（相模女子大学専任講師）	奥貫　妃文（相模女子大学専任講師）
13	社会福祉における自立と就労	近年、「就労による自立」に力点を置く傾向が高まりをみせている。これは諸外国にも共通する方向性となっている。しかし、就労を唯一かつ最大の到達目標とすることによって、新たな問題も発生している。本章では、社会福祉分野において「自立」概念がどのように構築され、そして変遷を遂げてきたのか振り返りながら、「自立」と「就労」の関係性について考えてみたい。 【キーワード】 就労支援、生活困窮者自立支援法、中間的就労	奥貫　妃文（相模女子大学専任講師）	奥貫　妃文（相模女子大学専任講師）
14	多国籍・多民族化と社会福祉	日本に在住する外国人の視点から、現在の社会福祉制度・労働政策を振り返り、いかなる問題があるのか、法政策的な視点と実際の運用の両面から検証する。さらに、外国人技能実習制度の概要ならびに問題点についても言及したい。 【キーワード】 在留資格制度、社会保障協定、外国人技能実習制度	奥貫　妃文（相模女子大学専任講師）	奥貫　妃文（相模女子大学専任講師）
15	法の変化と今後の展望	東日本大震災や政権の度重なる交替によって、社会福祉に対する市民の見方も大きく変化している。いくつかのエピソードなどを素材としながら、社会福祉と法にかかわる今後の展望をしてみよう。社会福祉制度との関係で、市民の権利はどのように守られていくか、これからの課題が論じられる。 【キーワード】 選挙権、公民権、平等権	大曽根　寛（放送大学教授）	大曽根　寛（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118137	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 教育学入門 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Introduction to Education (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：岡崎　友典 （放送大学客員准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：永井　聖二 （東京成徳大学教授） 〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也 （放送大学教授） 】

講義概要

教育学は、教育現象を学問的に探求し理論・体系化したものである。教育は人間の成長・発達が当該社会の多様な領域、とくに社会構造と文化に規定されつつも、人間をより望ましいものとして方向付けるものである。個人的・生物学的な人間の発達の側面に重点をおくか、それとも社会の構造・文化への同化を重視するかによって多様な教育理論が展開されてきた。
本科目では、教育の歴史、教育思想・哲学、心理学、社会学など人文・社会・自然の諸科学が蓄積してきた教育の理論を概説し、教育現象を科学的に捉えるための基本的な知識と技術（方法）について講じる。

授業の目標

教育については、個人の生活体験とくに学校教育や子育ての体験から、多様な教育観（考え方）が存在する。教育を個人的な見解の相違で捉えることは、急激な変動をともなう社会を担う人材を育成するうえで有効ではない。本科目においては、個人の体験を大切にしながらも、教育現象を主観的にではなく客観的・科学的に捉える力をつけることを目標としている。とくに生涯学習が重要視される現代社会においては、学校だけでなく家庭で、また地域社会でさまざまな学習が展開されているだけに、その学習を指導・助言するための理論・手法として「教育学」を学んでもらうことを目標とする。

履修上の留意点

近年、子どもをめぐる問題が多発化するだけでなく、成人の規範意識の低下が社会問題化している。急激に変動する社会においては、子どもの家庭教育・学校教育だけでなく、大人の生涯教育・学習が教育行政上の課題となっている。本科目は「心理と教育コース」の履修生が、専門科目を学習するための導入の位置を占めるとともに、他のコースそして放送大学の番組を聴取する社会人が、教育の基本原理を学習できる形で構成される。したがって、教育の専門職者・教職希望者だけでなく、子育て中の保護者や生涯学習の実践者など幅広い学生が、個人の体験を対象化し、教育現象を科学的に捉えるよう努めて欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育を科学する ～教育とは何か～	教育学は、教育現象を学問的に探求し理論・体系化したものである。教育は人間の成長・発達が当該社会の多様な領域、とくに社会構造と文化に規定されつつも、人間をより望ましいものとして方向付けるものである。教育学はその対象・分野・方法などにより専門分化しているが、ここでは教育を科学的に捉えるための基本的な枠組みについて学習する。 【キーワード】 成長と発達、生活と学習、人間関係、社会化、文化の伝達	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）
2	教育にとって家族の果たす役割	人間の成長・発達にとって、もっとも基礎的な集団である家族・家庭について、その果たす役割について学習する。家庭教育といった用語には、子どもの保護、養育、保育、しつけなどの機能が含まれている。現代の家族はその構造と機能が大きく変容していることを踏まえ、そこに内在する課題について明らかにする。 【キーワード】 家族の形態と機能、核家族、家族関係、家族周期、保育の社会化	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）
3	教育環境としての地域社会	共同生活の場としての地域社会の変容過程について、1960年代以降の人口の流動性と地域分布の偏在の現状を踏まえ、都市と農山村、中央と地方といった枠組みに沿って、「地域教育」の課題を考察する。 【キーワード】 共同体、地域コミュニティ、住民組織、公民館、学校運営委員会、 PTA 、山村留学、 郷土かるた	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	近代社会の成立と学校	前近代の教育は、寺子屋や藩校など社会階層により異なった形態をとってきたが、市民社会の成立にともなって、近代の学校が教育の機会を国民に平等に提供する形で展開してきた点について明らかにする。 【キーワード】 公教育、近代学校、市民社会、寺子屋、学制、教育制度、義務教育、就学率、教育の機会	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）
5	公教育制度の展開とゆらぎ	公教育の基本概念を、近代社会・市民社会の成立と、その歴史的展開に即して明らかにする。また教育行政・組織について、国レベルと地方自治体レベルに分け、学校教育と社会教育の体系について、また教育財政や教育計画について学習する。 【キーワード】 公教育、義務教育、子ども期、教育委員会、脱学校論、不登校、ホームスクーリング	永井　聖二（東京成徳大学教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）
6	学校の組織と文化	組織としての学校は、教職員の集団と子どもの集団によって構成されている。学級集団と教師集団の構造と機能について考察する。学級編成や複数担任制、教員の専門職性や校務分掌、また学校運営委員会やPTAなどの保護者や地域住民組織ほか、組織として学校を捉えることの意義について明らかにする。 【キーワード】 官僚制、学校文化、生徒文化、等級制、共同体としての学級集団	永井　聖二（東京成徳大学教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）
7	教育内容と教育方法	教育内容は、定められた教育目標や目的を達成するために、また学習者の条件に応じて、計画的に編成されたものである。一般に教育課程（カリキュラム）と呼称されるが、カリキュラムには意図的・顕在的と無意図的・潜在的の二つがあり、これによって教育方法についても多様な形態が存在することを提示する。 【キーワード】 教育課程、カリキュラム、かくれたカリキュラム、学習指導要領、系統主義と経験主義、学習の体験化	永井　聖二（東京成徳大学教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）
8	生徒指導と道徳教育	学校で行われる教育は、教科教育にとどまらず、さまざまな側面がある。子どもが自立した個人となり、実社会で生きていくために必要な規範意識を身につけることが、学校の重要な役割である。この点について、生徒指導と道徳教育をとりあげ、そこにどのような内容が含まれ、またどのような現状や今日的課題があるかについて考察する。 【キーワード】 規範意識、生徒指導提要、カウンセリング、体罰、道徳教育の目標・内容、宗教教育、キャリア教育、道徳の教科化	冨江　英俊（関西学院大学准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 冨江　英俊（関西学院大学准教授）
9	転換期における教育	グローバル化する現代社会における教育について、異文化間教育、多文化共生といった視点から考察する。在日外国人の教育や、海外で生活する子どもの教育などについて、インターナショナルスクールや日本人学校・補習授業校など、国際社会における教育課題について考察する。 【キーワード】 近代的子ども観、グローバル化、日本型の学校、多文化共生、消費社会、情報化	永井　聖二（東京成徳大学教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	子どもの育ちと生成としての教育	生物のヒトとして生まれた子どもには、社会の文化や規範を身につけていく社会化を通して、向上的な発達を目指した教育がなされていく。その際発生する強度の抑圧との間でバランスをとりながら、根源的な生きる力を獲得していく。その総体を『育つ』といった視点から考察する。 【キーワード】 社会化、人間化、発達としての教育、生成としての教育、選択意思、アニマシオン、児童文化、子ども文化	加藤　理（文教大学教授）	永井　聖二（東京成徳大学教授） 加藤　理（文教大学教授）
11	教育の構造と機能	人間形成には、すくなくとも素質と環境と教育の要素が含まれている。これら三要素の動的な関連の構造について考察する。野生児や狼少女の事例・記録など手懸りにして、人間が社会的な動物である点を明らかにするとともに、教育には意図的と無意図的、また伝達（継承）と創造といった多様な機能があることを明らかにする。 【キーワード】 野生児、遺伝と環境、意図的教育、無意図的教育、性善的子ども観、間接的コントロール	永井　聖二（東京成徳大学教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）
12	教育の文化的基礎	文化の伝達なしに、社会は持続できない。この文化の伝達の役割を担うのが教育の役割である。文化とは集合的価値であると同時に、集合的思考・感情・行動の標準的様式である。したがって国家・民俗・階層・地域などによって異なる文化が、人々の生活そして教育に果たす役割と機能について学習する。 【キーワード】 文化の伝達、文化の内面化、社会的性格、社会規範、上位文化と下位文化、地域文化、文化の創造と継承、文化変容	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）
13	教育学の系譜（1） －社会現象としての教育－	第二次世界大戦後の日本の教育に影響を与えた進歩主義と、それに対立する伝統主義について、それぞれの理論的特徴を明らかにする。またプラグマティズムの系統に属しながら進歩主義と異なった展開をした改造主義や、人間存在の問題を重視した実存主義の教育理論についても考察する。 【キーワード】 実証性、科学性、社会科学、E,デュルケム、社会的事実、方法的社会化、教育思想、伝統主義、進歩主義、実存主義、教育調査	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）
14	教育学の系譜（2） －現代教育学の流れ－	実存主義の発展型としての教育現象学や、文化人類学的研究としての教育人類学、実証性を重視する教育社会学、そして哲学的分析を基礎とした教育人間学などの教育理論について学習する。 【キーワード】 教育現象学、教育人類学、教育社会学、教育人間学	永井　聖二（東京成徳大学教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）
15	学習社会の成立と生涯学習	急激に変動する現代社会においては、生涯にわたって不断の学習が求められている。伝統的あるいは従来型の学校教育ではなく、個人のライフステージや生活の実態に見合った、生涯教育の態勢の構築が今日課題となっている。そのために公的機関だけでなく民間の学習施設、また福祉・医療・労働などの分野との連携協力の重要性について検討する。 【キーワード】 変動社会、技術革新、リカレント教育、生涯学習、生涯教育	永井　聖二（東京成徳大学教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 永井　聖二（東京成徳大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118145	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 教育の社会学 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 The Sociology of Education (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：近藤　博之　（大阪大学大学院教授）　〕

〔主任講師（現職名）：岩井　八郎　（京都大学大学院教授）　〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也　（放送大学教授）　】

講義概要

教育社会学は、教育事象の社会的側面を扱う学問分野として定着し、20世紀後半の世界的な教育拡大とともに多様な問題領域を取り込みながら学際的な発展を遂げてきた。社会の変化を見据えて、教育の多様な社会的機能を解明し、歴史的・社会的課題に応えようとしてきた点に大きな特色がある。本科目では、マクロな社会変化を背景に教育社会学のアプローチの特色を説明し、その観点から現代の教育事象がどのように解読できるかを、身近なテーマを設定して解説する。そこにおいて、20世紀後半に構築してきた教育社会学の代表的な概念や問題設定がどの程度有効であるかを確かめ、新しい時代の動きのなかで何が求められているかを考察する。

授業の目標

教育と社会の全体像を時間的・空間的な広がりの中で理解し、個々の教育事象について社会学的な視点で考える力を養う。この講義を履修することにより、実際に体験したり見聞したりする教育事象や教育に関する情報に対して、十分に客観的で合理的な評価ができるようになることが到達目標である。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育と社会の問い	教育社会学は、教育事象の社会的な側面に光を当て、社会学を中心とする学際的な方法により、経験的なスタンスで研究を進めている学問分野である。はじめに、教育の社会性について概観し、学校制度が果たしている主要な社会的機能を通して教育社会学の基本的なアプローチについて説明する。 【キーワード】 学校制度、教育社会学、教育の社会的機能、科学的探究	近藤　博之（大阪大学大学院教授）	近藤　博之（大阪大学大学院教授） 岩井　八郎（京都大学大学院教授）
2	学校化社会	20世紀後半に、学校制度は世界的な規模で拡大し、「教育爆発」と形容される急激な発達をみた。ここでは、そうした教育の拡大を説明する教育社会学の代表的な理論を紹介し、学校制度の発達によって教育と社会の関係がどう変わってきたかを「学校化社会」という観点から考えてみる。 【キーワード】 教育拡大、自己増殖、学校化社会、一次的制度としての教育	近藤　博之（大阪大学大学院教授）	近藤　博之（大阪大学大学院教授）
3	ライフコース	ライフコースへの社会学的視点は、人生の主要な段階や局面を秩序づけている意味や規則がどのようなものであるか、またそれがどのように変化してきたのかを明らかにする点にある。この視点から、急速に変化している日本人男女のライフコースにおける教育の意味について理解を深める。 【キーワード】 コーホート、人生段階、ジェンダー、教育の拡大	岩井　八郎（京都大学大学院教授）	岩井　八郎（京都大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	少子社会の家族と子ども	少子化の背景には学校制度の発達がある。近代社会において、子どもは親にとって経済的価値をもつ存在から、感情的価値をもつ存在へと変化した。ここでは、そうした近代の教育家族の成立を跡づけた上で、近年の家族変動が子どもの社会化にどんな影響をもたらしているかを考察する。 【キーワード】 近代家族、教育投資、親子関係、家族の位相	近藤　博之（大阪大学大学院教授）	近藤　博之（大阪大学大学院教授）
5	教育とジェンダー	私たちの日常において、性別は大きな意味をもっている。だからこそ、教育に関わる営みにおいても、「女」と「男」の境界がさまざまな形で機能している。ここでは、性別を社会的に構成されるもの（すなわち「ジェンダー」）としてとらえる視点から、学校教育や家庭での子育てなどの中で、男女の区別がいかなる役割を果たしているのかを考える。 【キーワード】 ジェンダー、社会化、性別役割、セクシズム、セクシュアリティ	木村　涼子（大阪大学大学院教授）	木村　涼子（大阪大学大学院教授）
6	カリキュラムと知識	現在の学校教育で採用されているカリキュラムや、学校において学ぶべきとされている知識は、社会的な手続きを経て決定される。教育内容を正統化するプロセスやメカニズムを考えるとともに、教育内容には顕在的なレベルと潜在的なレベル（隠れたカリキュラム）があることなど、学校知に対する社会学的分析の在り方を学ぶ。 【キーワード】 カリキュラム、学校知、正統化、隠れたカリキュラム	木村　涼子（大阪大学大学院教授）	木村　涼子（大阪大学大学院教授）
7	メリトクラシーと学歴	現代社会では、労働市場における学歴の影響力や教育機会の開放度を通して、教育が社会の階層システムに重要な影響を及ぼしている。その様子は、メリトクラシーの考えを基準に、数多くの調査研究により検討されている。ここでは、階層論の観点から、現在の日本の状況と問題点を明らかにする。 【キーワード】 学歴主義、メリトクラシー、階層と移動、教育機会の平等	近藤　博之（大阪大学大学院教授）	近藤　博之（大阪大学大学院教授）
8	学力と意欲の階層差	近年、さまざまな学力調査が行われ、学力や意欲の階層差が問題となっている。ただし、さまざまな影響が混じり合う調査データから学力差の原因を読み取ることは容易ではない。ここでは、学力調査の結果を解釈する際の問題点と、それをより適切に理解するためのアプローチについて考えてみる。 【キーワード】 学力の階層差、学校効果、PISA調査、文化資本、社会資本	近藤　博之（大阪大学大学院教授）	近藤　博之（大阪大学大学院教授）
9	高校多様化の可能性	高校に90％以上が進学するようになってから40年以上が経過している。普通科と職業科、進学校と非進学校の区分を超えて、多様なカリキュラムや実践がある。高校教育は、ショッピングモール化しているのか、新しい活力の源があるのかを考える。 【キーワード】 ショッピングモール・ハイスクール、制度化された組織	岩井　八郎（京都大学大学院教授）	岩井　八郎（京都大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	入試と選抜	教育は一般的に、社会統合を促すものと理解されるが、その一方、教育の場で生み出された成績の違いによって自らの進むべき進路は制約され、結果的に人々を全く異なる地位に配分する。後者を行う中心的な場が入試であり、この回では特に入試を例にとりあげ、教育の果たす地位配分や選抜原理の変化と、異文化間の違いについて理解を深める。 【キーワード】 一発勝負の試験、調査書重視の選抜、面接試験、選抜基準と階級、葛藤理論	中澤　渉（大阪大学大学院准教授）	中澤　渉（大阪大学大学院准教授）
11	資格社会化と就職	日本の企業は学歴を重視し、新卒者を一括採用後、OJTで人材育成をしてきたとされている。しかし近年そうした雇用慣行が限界を来し、学生も「役立つ知識」や、資格のような「職に直結する知識」を求めるようになっていると言われている。そこでこの回では、こうした変化や今後の方向について、特に学校から職業への移行に焦点をあてて考えることとする。 【キーワード】 日本的経営、間断なき移行、制度的連結、シグナリング、就職活動	中澤　渉（大阪大学大学院准教授）	中澤　渉（大阪大学大学院准教授）
12	インターネット社会と若者	インターネットは現代の若者の日常世界にとけこみ、かれらのコミュニケーションのあり方を変容させつつある。また、インターネットを通じて提供される新しい学習リソースや学習機会は、これまでの教育のあり方を変容させる力を秘めている。本時限では、新技術のもたらす新しさの幻惑や過剰な悪影響の危惧に惑わされず、インターネットの社会的インパクトを捉えることを目指す。 【キーワード】 インターネット、若者、ニューメディア、コミュニケーション、ムーク	大多和　直樹（帝京大学准教授）	大多和　直樹（帝京大学准教授）
13	少年犯罪の増減	少年犯罪は2000年代前半に急増し、現在は減少している。少年犯罪に関する報道も一時期は加熱化していたが、現在では下火となっている。このような動向について、「犯罪の社会的必要性」を論じるデュルケームの社会学的視点から考察を行う。 【キーワード】 ラベリング理論、犯罪の常態性、公式統計	岩井　八郎（京都大学大学院教授）	岩井　八郎（京都大学大学院教授）
14	政策的介入の功罪	教育現場への政策的な介入が進む時代である。次々と課題が提起されて、改革が求められるのだが、政策の効果が具体的に検証される前に、次の問題が現れる。このような現状を理解するための視点を論じる。 【キーワード】 教育政策、新自由主義、教育組織の構造	岩井　八郎（京都大学大学院教授）	岩井　八郎（京都大学大学院教授）
15	教育社会学の課題	教育社会学は1970年代以降に急速に発展した学問領域であり、現在も使われている理論や概念は、20世紀後半の教育現象を対象としている。21世紀においても有効な概念や問題設定、研究方法はどのようなものか。教育への政策的介入が進む現時点で、「明快」で「当たり前ではない」知見を提供するための課題を論じる。 【キーワード】 教育の制度理論、実証研究、政策的介入	岩井　八郎（京都大学大学院教授）	岩井　八郎（京都大学大学院教授） 近藤　博之（大阪大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118056	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　教育史入門　　（’１２）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：森川　輝紀　（福山市立大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：小玉　重夫　（東京大学教授）　〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也　（放送大学教授）　】

講義概要

教育という営為は、広義に捉えれば、人類の歴史とともに古いとも言うことができる。その教育の歴史を、西洋と日本という二つの視点から、それぞれ概観する。教育学や教育史についての深く専門的な知見を学ぶ前提として必要な、教育に関する歴史的考え方の基礎を身に付ける。第1回から第6回までは西洋教育史を中心に、第7回から第14回までは日本教育史を中心に扱う。第15回は今日の世界と日本の教育を扱うとともに、全体のまとめを行う。

授業の目標

日本教育史および西洋教育史の基礎知識を学び、教育を歴史的に理解する際の基本的姿勢を身に付ける。

履修上の留意点

教育学の各専門科目を学習するための入門として、本科目の履修が強く望まれる。さらに、心理学や哲学、社会福祉論、政治学、歴史学といった、広く人間と社会に関わる人文社会諸科学の学習を志す場合にも、本授業の履修が理解の一助となるはずである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	古典古代の教育	この科目の概要を述べ、主任講師の紹介をした後に、近代教育の原型となった古代の教育について概説する。古代ギリシアのソフィストたちとソクラテスとの論争を軸に、ソクラテスの後継者であるプラトンについても説明を行う。また、古代ローマやキリスト教の意義についても考える。 【キーワード】 ポリス、ソフィスト、ソクラテス、助産術、プラトン、アカデメイア、アリストテレス、キケロ、クインティリアヌス、アウグスティヌス	小玉　重夫（東京大学教授）	小玉　重夫（東京大学教授）
2	近代以前の共同体における子育て	中世から初期近代までのヨーロッパ社会でどのような教育、子育てが行われていたのかを、近代以降の教育との対比を念頭におきながら明らかにしていく。あわせて、近代社会を生み出す原動力の一つとなった宗教改革についても説明を行う。 【キーワード】 教会、中世の大学、自由七科、ギルド、徒弟制、ルネサンス、マキャベリ、宗教改革、ルター	小玉　重夫（東京大学教授）	小玉　重夫（東京大学教授）
3	近代市民革命と国民国家の形成	17世紀から18世紀の近代市民革命とそれに続く19世紀の国民国家形成は、それまでとは異なる新しい近代教育を生み出した。その特徴を概観するとともに、それが現代の教育に直接的に大きな影響を与えていることを確認する。 【キーワード】 社団国家、コメニウス、ハリントン、社会契約、ホッブズ、ロック、コンドルセ、ルペルティエ、カント、ドイツ国民に告ぐ	小玉　重夫（東京大学教授）	小玉　重夫（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	子どもの発見と近代家族	近代教育の特徴を、大人とは異なる存在としての「子ども」の誕生と、子どもを教育する場としての近代家族の成立という視点から明らかにし、その意味について考えていく。 【キーワード】 アリエス、エミール、社会の秩序と自然の秩序、抽象的な人間、マルサス主義、生ー権力、ドンズロ	小玉　重夫（東京大学教授）	小玉　重夫（東京大学教授）
5	近代学校と義務教育	近代学校にもとづく義務教育制度の成立について、18世紀から19世紀の産業革命との関連をふまえて説明する。その際特に、なぜ無償の義務教育が発展していったのかという点について考えていきたい。 【キーワード】 産業革命、ジュール・フェリー、ヘルバルト、ホーレス・マン、アガンベン、フーコー、規律訓練、パノプティコン、一斉教授、ギャラリー方式	小玉　重夫（東京大学教授）	小玉　重夫（東京大学教授）
6	子どもの世紀	近代学校が拡大普及していく20世紀は、近代教育や近代学校の様々な問題点が顕在化し、改革が試みられていく時代でもあった。そうした改革を主導した新教育運動と、そこに影響を与えた子ども中心主義やマルクス主義の特徴について述べ、その意味を考える。 【キーワード】 エレン・ケイ、マルクス主義、進歩主義、子ども中心主義、デューイ、統一学校運動、ブラウン判決、補償教育	小玉　重夫（東京大学教授）	小玉　重夫（東京大学教授）
7	近世社会における人間形成	近世社会において、「子ども」はどのようにして育てられ、どのようにして「一人前」の「大人」になりえたのかを、通過儀礼などの社会の慣習やしきたりを主な対象として考察する。そのことを通して、変容しつつも現代にいたるまで日本社会の底流にあった子育て文化の特徴をさぐる。 【キーワード】 子捨て・子殺し、通過儀礼、一人前、奉公、女大学	木村　政伸（新潟大学教授）	木村　政伸（新潟大学教授）
8	近世社会と学びの文化	近世社会に文字文化が普及した背景には、文字学習の機会の拡大がある。それは手習いから漢学を代表とする学問まで、多様な段階と分野を形成しながら実現した。そうした文字学習の拡大の動態とその要因、さらにはそれがもたらした社会的影響について述べる。 【キーワード】 識字、文字文化、手習塾（寺子屋）、漢学、俳諧、私塾	木村　政伸（新潟大学教授）	木村　政伸（新潟大学教授）
9	近代学校の出発	日本の教育近代化には、西洋の教育情報が大きな役割を果たしていた。西洋教育情報の組織的・体系的な摂取が進められる中で、近代学校が成立・普及していく過程を概観し、長い間大陸文化の影響下で培ってきた教育慣行や子どもの生活がどのように変化したのかを理解する。 【キーワード】 学制、立身出世、御雇教師、就学率、就学督促	橋本　美保（東京学芸大学教授）	橋本　美保（東京学芸大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	明治公教育と教育勅語	西洋モデルの近代化をめざす、明治国家にとっての教育上の難問は、徳性に裏づけられた知性の形成にかかわって、いかなる徳性をいかなる方法によって形成・教育するかであった。その一つの解答が教育勅語であった。教育勅語とは何であったのかを考える。 【キーワード】 徳育論争、教学聖旨、教育議、元田 永孚、井上毅	森川 輝紀（福山市立大学教授）	森川 輝紀（福山市立大学教授）
11	教育学の受容と新教育	西洋の近代教育思想家たちによって提示された教育理念や教育学説は、日本に受容され、学校や子どもの学びに大きな影響を与えた。特にヘルバルトによる教育学の成立以降、西洋から輸入されたさまざまな教授理論は、多くの学校現場で研究・試行された。こうした受容のプロセスと、その結果展開された「新教育」という実践の特質を考える。 【キーワード】 ヘルバルト、ヘルバルト主義、新教育運動、八大教育主張、及川平治	橋本 美保（東京学芸大学教授）	橋本 美保（東京学芸大学教授）
12	戦時下の学校・教育	外形的な「立憲体制」との整合性の下に確立する明治公教育体制は、1930年代以降、「教学刷新」の名の下に再編されていく。総力戦に対応した「平準化」「合理化」と「非合理」な国体明徴運動にともなって展開する戦時下の学校・教育について考える。 【キーワード】 国体明徴運動、教学刷新、皇国民錬成、国民学校	森川 輝紀（福山市立大学教授）	森川 輝紀（福山市立大学教授）
13	戦後の教育改革	1945年の敗戦を契機とする戦後教育改革は、教育の理念・制度・内容（カリキュラム）に大きな変化をもたらした。敗戦から1960年までの教育の展開を整理・検討することで戦後教育改革が何を達成し、いかなる課題を残したのかについて考える。 【キーワード】 第一次米国教育使節団、教育勅語、6・3・3制、教育基本法、学習指導要領、社会科	貝塚 茂樹（武蔵野大学教授）	貝塚 茂樹（武蔵野大学教授）
14	経済成長と教育	1960年以降の高度経済成長は、社会的なシステムを抜本的に変革し、国民意識を大きく変容させていった。本章では、高度経済成長が戦後の教育に及ぼした影響と帰結について検討し、併せて1970年代までの教育の展開と検証することで、1980年代以降の教育改革へと連続する教育課題についても考える。 【キーワード】 高度経済成長、集団就職、教育内容の現代化、大学紛争、「期待される人間像」、「四六答申」、「教育荒廃」、「ゆとり」	貝塚 茂樹（武蔵野大学教授）	貝塚 茂樹（武蔵野大学教授）
15	ポストモダンの教育	今日の世界と日本の教育の特徴を、近代（モダン）からポスト近代（ポストモダン）への移行という歴史的展開のなかに位置づけて考える。 【キーワード】 冷戦構造の崩壊、グローバリゼーション、多文化主義、ポストコロニアリズム、公共性、シティズンシップ	小玉 重夫（東京大学教授）	小玉 重夫（東京大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1720015	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 発達科学の先人たち （’１６）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 The Pioneers of Human Development Studies (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：岩永 雅也 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：星 薫 （放送大学客員准教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

ともに発達科学に属する心理学と教育学には、専門的な学習へと進むにあたって必要となる基礎的知識に関して共通する部分が極めて多い。そうしたいわば学習の土台となる考え方や知識のエッセンスは、その多くがそれぞれの学の歴史に一時代を画す"巨人たち"の業績の中に凝集されている。それらは現代でもなお輝きを失わず、われわれに多くの重要な示唆を与えてくれる。そうした"巨人たち"の業績について、2010年度には「教育と心理の巨人たち」を開講した。それを踏まえ、この「先人たち」は、「巨人たち」の続編として、「巨人たち」で取り上げなかったアリストテレスの心理学的側面やダーウィン、ヴント、貝原益軒、デュルケム、シュタイナー、ピアジェなどといった心理学と教育学に関わる"先人たち"を、1回に1名ずつ取り上げ、その代表作を精読した上で、学史上の意義とそれぞれの学問への貢献、さらには今日的意味等を理解していくことをねらいとしている。心理と教育に関心を持つすべての学習者の履修を期待したい。

授業の目標

今日、社会生活のあらゆる局面で著しい本離れ、文字離れが指摘されている。遠隔高等教育もその例外ではない。そこには、多様な情報や知識がネット上で誰でもごく簡便に入手できるという時代状況がある。ネット上の手軽な情報で十分理解できたような気になっていることも決して少なくない。しかし、そうした時代だからこそ、大学教育には本物の知識、本物の学問体系の提供が求められているのである。本授業では、「輪読ゼミ」を疑似体験することで、学生が学術書の精読の技法と意味を体得することをその目的とする。

履修上の留意点

関連する科目名:「心理と教育を学ぶために」

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	発達科学と先人の足跡	発達科学とは何かについて論じた上で、発達科学分野で大きな業績を残した本講義で取り上げる先人たちについて概略紹介する。 【キーワード】 発達科学、発達、成熟、心理学、教育学	岩永 雅也（放送大学教授） 星 薫（放送大学客員准教授）	岩永 雅也（放送大学教授） 星 薫（放送大学客員准教授）
2	アリストテレス:『心とは何か』	アリストテレスの『心とは何か』を読み、心理学のルーツともいえる思想と、現代の心理学との関係性について考える。 【キーワード】 プシュケ、形相と質料、可能態と終局態、理性	森 津太子（放送大学教授）	森 津太子（放送大学教授）
3	貝原益軒:『和俗童子訓』	日本のアリストテレスとも称される貝原益軒の儒教思想に基づく体系的教育書である『和俗童子訓』を読み、江戸前期～中期の時代背景とともに、その意義を考える。 【キーワード】 朱子学、理気二元論、姑息の愛、随年教法、『女大学』	岩永 雅也（放送大学教授）	岩永 雅也（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ダーウィン:『人及び動物の表情について』	進化論の考えを世に知らしめることとなったダーウィンの『人及び動物の表情について』を読み、進化論と、ダーウィンの研究の心理学への貢献について考える。 【キーワード】 進化、表情の一般原理、人間と動物の連続性	森 津太子 (放送大学教授)	森 津太子 (放送大学教授)
5	ヴント:『民族心理学』	現代心理学の父ともされるヴントは、20年の歳月をかけて『民族心理学』を著している。今回はこの本を読むことで、ヴントのあまり知られていない側面について知る機会とする。 【キーワード】 民族心理学、人類発達の精神史	星 薫 (放送大学客員准教授)	星 薫 (放送大学客員准教授)
6	デュルケム:『道徳教育論』	フランスの哲学者、社会学者であり教育思想家でもあったエミール・デュルケムの『道徳教育論』を読み、教育事象の実証主義的な分析とその基本理念について理解する。 【キーワード】 社会学、実証主義、規範、道徳、社会的存在	岩永 雅也 (放送大学教授)	岩永 雅也 (放送大学教授)
7	シュタイナー:『子どもの教育』/『教育術』	シュタイナーの『子どもの教育』および『教育術』を読み、シュタイナー学校の実践とあわせて、自主性尊重の自由主義教育について理解を深める。 【キーワード】 児童中心主義、人智学、模倣と手本、自由ヴァルドルフ学校	岩永 雅也 (放送大学教授)	岩永 雅也 (放送大学教授)
8	モンテッソーリ:『子どもの発見』	モンテッソーリの『子どもの発見』を読み、モンテッソーリ主義の幼児教育実践とあわせて、特別支援教育にも関わる「感覚教育」の内容について理解する。 【キーワード】 知的障害児、モンテッソーリ教育、子どもの家、感覚教育	岩永 雅也 (放送大学教授)	岩永 雅也 (放送大学教授)
9	バートレット:『想起の心理学』	1930年代に活躍したイギリスの心理学者バートレットは、科学的であることに捉われすぎていた当時の心理学の世界にあって、広い視野で人の心を眺めた研究者であった。彼の『想起の心理学』を読んで、彼の心理学に触れる。 【キーワード】 記憶、想起、図式(スキーマ)	星 薫 (放送大学客員准教授)	星 薫 (放送大学客員准教授)
10	ピアジェ:『知能の心理学』/『思考の心理学』	独自の発達心理学を発展させた、スイスの心理学者ピアジェの心理学をピアジェ自身がコンパクトにまとめた二書『知能の心理学』と『思考の心理学』を読んで、ピアジェ心理学に親しむ。 【キーワード】 均衡、保存、操作、発生的認識論	星 薫 (放送大学客員准教授)	星 薫 (放送大学客員准教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ハーロウ:『愛のなりたち』	ハーロウは、「愛」の問題に対して科学的に取り組んだ希有な心理学者である。彼がサルを用いて行った研究の集大成、『愛のなりたち』を読み、「愛」について考える。 【キーワード】 五つの愛情系、接触の慰撫、安全基地、探索行動	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授）
12	アリエス:『〈子供〉の誕生ーアンシァン・レジーム期の子供と家族生活』	アリエスの『〈子供〉の誕生ーアンシァン・レジーム期の子供と家族生活』を読み、常識化した子ども観、教育観を歴史的にもう一度見直してみる機会とする。 【キーワード】 アナール学派、子ども、アンシァン・レジーム期、幼児期	岩永　雅也（放送大学教授）	岩永　雅也（放送大学教授）
13	清水義弘:『試験』	清水義弘の『試験』を読み、戦後日本における教育社会学の形成と確立に貢献した著者の社会観、教育観に触れる。 【キーワード】 学校制度、入学試験、学歴、選抜制度、地域差と学校差	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授）
14	土居健郎:『「甘え」の構造』／『続「甘え」の構造』	「甘え」理論の観点から日本人論の端緒となった『「甘え」の構造』『続「甘え」の構造』を読み、甘え理論、甘えの心理と病理、自分の意識、臨床実践、人間理解の方法について考える。 【キーワード】 「甘え」理論、自分、カルチャーショック、日本人論、同一化、対象関係論、臨床実践、人間理解の方法	齋藤　高雅（帝京大学教授、放送大学名誉教授）	齋藤　高雅（帝京大学教授、放送大学名誉教授）
15	先人たちと現代社会	教育と心理の分野の学史について概観し、この科目で取り上げた教育と心理両分野の“先人たち”の業績を踏まえ、両分野の研究の現状と今後の課題、そして未来について展望する。 【キーワード】 心理学の現状、心理学の未来、教育学の現状、教育学の課題	星　薫（放送大学客員准教授） 岩永　雅也（放送大学教授）	齋藤　高雅（帝京大学教授、放送大学名誉教授） 岡崎　友典（放送大学客員准教授） 星　薫（放送大学客員准教授） 森　津太子（放送大学教授） 岩永　雅也（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	導入科目	科目コード	5720010	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 学校と社会を考える （’１７）＝ （OL）

英文名 ＝ 〔 School and Society (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：田中　統治　（放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

教育学が研究対象としてきた学校はこれまで多様な理論的視点から考察されてきており、その研究成果は教育学の初心者にとって自らの体験を相対化して考える上で格好の題材である。この授業では戦後日本の学校と社会の関係を中心に教育内容と方法の側面から具体的に検討して、専門科目への関心を広げていくことを目指す。オンライン授業の利点を生かせるよう実践家や専門家を招きゲストのコメントを参考にして考察を深め、また受講者世代による学校経験の違いを交流することによって、学校が社会の在り様を反映すると同時に変化の方向を示していることを明らかにする。

授業の到達目標

学校教育学の基礎知識を身に付けることによってひとの学校経験を枠づける社会構造の特質について理解を深める。とくに学校と社会の構造的な連関に注目して、その理論と学説の基礎を学び、専門家のコメントをもとに学校教育をめぐる争点を社会的文脈から理解し、そして戦後日本社会の変動と関連づけて学校教育の変化の事例を具体的に説明し考察することができるようになることを目指す。

成績評価の方法

通信指導、単位認定試験および再試験は行わない。成績評価は、レポート(70%)、小テスト(30%)の評価により行う。

履修上の留意点

この科目を履修した後に「日本の教育改革(’15)」などに進んでいくことが望ましい。
※本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
1	授業の概要と考える視点	私たちの学校経験を相対化して考えるための視点を学び、その視点から戦後社会において学校が果たしてきた役割を検討する。とくに戦後から高度経済成長期までを中心に学校に課された社会からの要請の特徴を産業化・都市化・大衆化等の文脈で考察する。 【キーワード】 社会的機能、東西対立、産業化、都市化、大衆化	田中　統治(放送大学教授) ゲスト:岩永　雅也(放送大学教授)
2	戦後教育史から考える	70年代から現代までの低成長時代において学校が果たす役割はどう変化してきたのか、そして学校と社会はその変化に十分に対応できたのか、学校での人間形成の問題をカリキュラムの側面から考える。 【キーワード】 低成長社会、意図的・計画的社会化、カリキュラム、生涯学習社会	田中　統治(放送大学教授) ゲスト:岩永　雅也(放送大学教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　師　名 （所属・職名）
3	学校教育の目標	教育目標の類型の中で、学校教育がめざす目標の特徴を把握する。学校教育が掲げる教育目標の内容を校種別に調べて検討し、教育法規が規定する学校教育の目的・目標の現代的な意味や問題点を考える。 【キーワード】 教育の目的と目標、憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育計画	田中　統治 (放送大学教授) ゲスト:小川　正人(放送大学教授)
4	学校体系と教育機会	学校制度を学校体系として捉える視点を学び、その開放性が教育を受ける機会にどう影響するかを考える。子どもの貧困や学力の格差が指摘される今日、学校体系と教育機会の保障の問題を考える。 【キーワード】 学校体系、公教育、教育権、義務教育、教育機会	田中　統治 (放送大学教授) ゲスト:小川　正人(放送大学教授)
5	幼稚園教育を考える	学校種別に学校教育のかかえる問題を個別に考えていく。幼稚園は学校教育法上の学校であり保育所は児童福祉法上の児童福祉施設である。幼保一体化の動きの中で保育の内容と方法の問題を考える。 【キーワード】 幼稚園、保育所、幼保一体化、認定子ども園、就学前教育	田中　統治 (放送大学教授) ゲスト:藤井　穂高(筑波大学教授)
6	小学校教育を考える	日本の小学校教育は世界から賞賛されモデルとされてきた。その理由は何か、評価は現在も変わらないのか、そして幼小や小中間の連携・一貫教育が必要とされる理由は何か、カリキュラムの視点から具体的に考える。 【キーワード】 小学校、学級担任制、特別活動、カリキュラム、小中連携・一貫教育	田中　統治 (放送大学教授) ゲスト:古川　善久(茨城県つくば市立豊里学園沼崎小学校校長)
7	中学校教育を考える	日本の中学校3年間は初等と中等の間に挟まれた制度的矛盾をかかえてきた。高校受験と学校不適応や校内暴力等のストレスに揺らいできた中学生活の変化を振り返り、思春期としての中学校教育の特徴を考える。また教師集団の役割についても考える。 【キーワード】 中学校、教科担任制、自主的活動、非行、不登校、思春期教育	田中　統治 (放送大学教授) ゲスト:岡野　和夫(茨城県つくば市立竹園学園長竹園東中学校校長)
8	高等学校教育を考える	「多様化」の改革路線を歩んできた高等学校は70年代半ばに「ほぼ全入」状態に達した。少子化により高校入試の方式も多様化した結果、生徒の学習意欲の低下に直面する高校も少なくない。多様化と共通化の調和を「制度設計」によってどう実現すればよいかを考える。 【キーワード】 高等学校、多様化、新しいタイプの高校、カリキュラム・マネジメント	田中　統治 (放送大学教授) ゲスト:今井　裕一(文部科学省初等中等教育局高校教育改革プロジェクトチームリーダー・教育制度改革室長)
9	高大接続を考える	専門学校等を含む高等教育への進学率が50%を超えて、高大接続システム改革が進められている。学力の3要素と3つの方針、アクティブラーニング、教学マネジメントの導入は大学教育をどう変えうるのかについて考える。あわせて日中比較により入試や大学生活の違いを考える。 【キーワード】 高等教育、高大接続改革、大学改革、3つの方針、教学マネジメント	田中　統治 (放送大学教授) ゲスト:苑　復傑 (放送大学教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　師　名 （所属・職名）
10	生涯学習と学校教育	80年代後半の臨時教育審議会答申から教育改革の柱の一つとされた「生涯学習体系への移行」は学校教育の役割を見直す契機となったが、しかしその移行は十分でないと言われる。学校教育を生涯学習につなぐための課題と実践について考える。 【キーワード】 生涯学習、臨時教育審議会答申、社会教育、学力の3要素、生きる力	田中　統治 (放送大学教授) ゲスト:岩崎　久美子(放送大学教授)
11	日本の学校教育への評価	海外から高い評価を受ける日本の学校教育だが、どこがなぜ注目されるのかという問題を中心に比較教育と国際調査の視点から検討する。OECDや国立教育政策研究所の調査報告等をもとに日本の学校教育の成果を調査しさらに評価するための視点についても考える。 【キーワード】 比較教育、国際教育調査、OECD、PIAAC、PISA、教育政策モデル	田中　統治 (放送大学教授) ゲスト:岩崎　久美子(放送大学教授)
12	「力のある学校」とは	学校教育の効果研究から導出された「力のある学校」の特徴を示しながら学校教育をその内部から改善するために必要な対策と支援を具体的に検討する。またスクールバス・モデルについても考える。 【キーワード】 学力問題、「力のある学校」、学校効果、学校改善、事例研究	田中　統治 (放送大学教授) ゲスト:志水　宏吉(大阪大学教授)
13	教師集団と学校経営	学校の力を左右するのは教師集団のチームワークであると言われる。その組織力はどのように形成され、それは企業の場合と違うのか、また学校長のリーダーシップはそこにどう関係するのかといった組織の問題を具体例をもとに考える。 【キーワード】 教師集団、学校組織、チームワーク、学校長、リーダーシップ	田中　統治 (放送大学教授) ゲスト:木岡　一明(名城大学教授)
14	PTAを考える	戦後のPTAが曲がり角を迎えていると言われるが、ではPTAの何が問題とされているのか、任意加入を求める声などの社会的背景とその克服策について考える。 【キーワード】 保護者、PTA、子ども会、校外活動、地域社会	田中　統治 (放送大学教授) ゲスト:木岡　一明(名城大学教授)
15	まとめ	これまでの授業内容を振り返りながら、論点の整理とまとめを行う。あわせてこれからの学校教育に期待される役割と研究テーマについても検討する。 【キーワード】 学校改革、ハイテク化、ネット社会、共生、アクションリサーチ	田中　統治 (放送大学教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118021	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　心理と教育を学ぶために　　（’１２）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：小川　正人　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：森　津太子　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：山口　義枝　（日本大学准教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

心理と教育コースに入学した学生を対象にして、コース全体のガイダンスと教育学、心理学、臨床心理学の三領域の基礎知識を学ぶ。三領域それぞれの研究的意義、研究方法、研究対象を学ぶとともに、三領域に共通する考え方、重なる部分を知ることで教育と心理について複合的な思考方法や視点を身につける。

授業の目標

心理と教育コースに入学した学生がコース全体の学問体系を見通しながら、教育学、心理学、臨床心理学の三領域の基礎知識を学べるようにする。三領域それぞれの研究的意義、研究方法、研究対象を学ぶとともに、三領域に共通する考え方、重なる部分を知ることで教育と心理について複合的な思考方法や視点を身につける。

履修上の留意点

関連の導入科目として「発達科学の先人たち（’16）」「教育学入門（’15）」「心理学概論（’12）」、専門科目として「心理臨床の基礎（’14）」などを履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心理と教育：三領域の違いと交流を学ぶ	教育学、心理学、臨床心理学は、人間の発達とそれを通して社会の有様を考える点では共通した学問的基盤を有するが、三領域それぞれの研究意義、研究方法、研究対象がどのようなものかを解説し、「心理と教育」を学習する今日的意義を考える。 【キーワード】 教育学、心理学、臨床心理学、研究対象、研究方法	小川　正人（放送大学教授） 森　津太子（放送大学教授） 山口　義枝（日本大学准教授）	小川　正人（放送大学教授） 森　津太子（放送大学教授） 山口　義枝（日本大学准教授）
2	教育：教育学って何？	教育研究（教育学）の基本的な特徴を確認しながら、教育研究が、狭義の教育学としての教授学（pedagogyペダゴジー）から教育事象を経験科学的に研究しようとする教育科学として展開したこと、そして、教育研究の多様な研究分野（教育〇〇学）について理解をする。また、各研究分野における教育研究の多様な接近の仕方、研究方法などを通して、教育事象を理解し分析する複眼的な研究方法の大切さを学ぶ。最後に本コース所属の教員紹介として担当講師の研究を紹介する。 【キーワード】 教育学、教授学（ペダゴジー）、教育科学、教育研究分野、仮説発見（析出）型アプローチ、仮説検証型アプローチ、定量的研究、定性的研究、理論研究	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	教育：発達するということ －教育はなぜ必要か－	教育の目標を確立し、教育の過程を進めていくためには発達の過程を十分に捉えておかなければならない。では発達と教育はどう違うのか。そして人間はどのような過程を経て発達していくのか。また教育はなぜ必要なのかについて考察する。最後に本コース所属の教員紹介として担当講師の研究を紹介する。 【キーワード】 発達、学習、教育、文化、社会的適応、発達課題	住田　正樹 (放送大学名誉教授)	住田　正樹 (放送大学名誉教授)
4	教育：集団のなかで育つ	人間が実際に発達していくのは社会集団のなかの人間関係を通してである。人間は生まれてから構造と機能を異にするさまざまな社会集団に所属し、多様な方向に形成されていく。どのような社会集団に所属し、どのように方向づけられていくのか。最後に本コース所属の教員紹介として岡崎友典客員准教授からお話を伺う。 【キーワード】 発達、社会化、教育、人間関係、社会集団、 通過集団、準拠集団、第一次集団	住田　正樹 (放送大学名誉教授)	住田　正樹 (放送大学名誉教授) ゲスト：岡崎友典（放送大学客員准教授）
5	教育：教育の社会的機能と教育の統制・管理	教育は、個人の成長・発達を促すとともに社会化の機能を有するが、そうした教育の社会化機能は、教育を現実の社会、経済、政治に深く結びつける。戦後日本の社会と教育の関わりを学び、教育と社会の間のダイナミズムとその関係の在り方について考える。 最後に本コース所属の教員紹介として岩永雅也教授からお話を伺う。 【キーワード】 教育、発達的機能、社会的分化・選別機能、後発効果、日本的経営、学校体系、教育統制・管理	小川　正人 (放送大学教授)	小川　正人 (放送大学教授) ゲスト：岩永雅也（放送大学教授）
6	心理：心理学って何？	心理学という学問に対して持たれているイメージと、実際の心理学との違いを足がかりにして、心理学の学問的特徴と心理学が目指すものについて考えていく。また、心理学の基礎資格である「認定心理士」の分類を参考に、心理学の諸領域にはどのようなものを理解する。最後に本コース所属の教員紹介として星薫客員准教授からお話を伺う。 【キーワード】 心理学史、素朴な心理学者、科学としての心理学、心理学の諸分野、認定心理士	森　津太子 (放送大学教授)	森　津太子 (放送大学教授) ゲスト：星薫（放送大学客員准教授）
7	心理：心の不思議を探求する	現代の心理学は実証性を重んじている。その実証性を保証するために、心理学ではどのような研究法が用いられるかを理解する。目に見えない心を科学的に検証するとはどういうことか、特に因果関係の検証に利用される実験研究に重きを置きつつ、各研究法を学んでいく。さらに、心理学で統計学が必要とされる理由についても理解する。最後に本コース所属の教員紹介として三宅芳雄教授からお話を伺う。 【キーワード】 観察法、面接法、質問紙調査法、実験法、記述統計と推測統計	森　津太子 (放送大学教授)	森　津太子 (放送大学教授) ゲスト：三宅芳雄（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	心理：心の鏡に映るもの	私たちの心に映し出される世界は、私たちの知識、経験、欲求などに彩られた主観的世界であり、各々が主観的に解釈した世界によって、私たちの思考、感情、行動は左右される。それはごく低次な知覚から高次の認知過程に至るまで、すべてにあてはまる。数ある心理学の知見の中でも特に重要と思われる、このような心理機能について、具体的な事例をもとに理解する。最後に本コース所属の教員紹介として担当講師の研究を紹介する。 【キーワード】 心の主観性、盲点、スキーマ、確証バイアス	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授）
9	心理：社会の中に生きる人	人の思考、感情、行動は周辺環境によっても大きく影響を受け、時にそれは、個人の意思をも上回る。なかでも他者の存在は、ひとの行動を左右する重要な環境要因であり、「人間は社会的動物である」と言われる所以でもある。他者の存在は、私たちにどのような影響を与えるのか、具体的な研究をもとに学ぶ。また、心理学実験をめぐる倫理的問題についても理解を深める。最後に本コース所属の教員紹介として大場登教授からお話を伺う。 【キーワード】 人間は社会的動物、B=f(P・E)、状況の力、倫理的問題	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授） ゲスト：大場登（放送大学教授）
10	臨床心理：臨床心理学ってなに？	臨床心理学は、人のこころの成長を援助していこうとする、実践が中心にある学問である。この臨床心理学の発展について、個人差測定の流れと力動的心理学の流れの歴史から考える。最後に本コース所属の教員紹介として佐藤仁美准教授からお話を伺う。 【キーワード】 臨床心理学、心理臨床、実践の学	山口　義枝（日本大学准教授）	山口　義枝（日本大学准教授） ゲスト：佐藤仁美（放送大学准教授）
11	臨床心理：臨床心理の対象	臨床心理学の中核には実践がある。そこで、実践の場としてはどのような領域があるのかを紹介する。また、臨床心理学の活動である、アセスメント、援助、研究についての概要を学ぶ。。最後に本コース所属の教員紹介として小林真理子准教授からお話を伺う。 【キーワード】 実践の場、アセスメント、援助、研究	山口　義枝（日本大学准教授）	山口　義枝（日本大学准教授） ゲスト：小林真理子（放送大学准教授）
12	臨床心理：こころの病とは	こころの病は、直接に見ることも触れることもできない。そのような対象に対して、比喩を用いて理解する感覚を、例をあげて説明する。そして、正常と異常の区分基準、発達課題とこころの危機について理解する。最後に本コース所属の教員紹介として齋藤高雅名誉教授からお話を伺う。 【キーワード】 こころの病への想像力、正常・異常の基準、発達課題	山口　義枝（日本大学准教授）	山口　義枝（日本大学准教授） ゲスト：齋藤高雅（帝京大学教授、放送大学名誉教授）
13	臨床心理：カウンセリングで性格が変わるのか	カウンセリングの理論には様々なものがあるが、多くの学派に共通すると思われるカウンセラーの姿勢と、カウンセリングの原理について学ぶ。そして実際のカウンセリングの流れについて理解する。最後に本コース所属の教員紹介として小野けい子教授からお話を伺う。 【キーワード】 カウンセリング、成長の可能性、変化のプラス面とマイナス面	山口　義枝（日本大学准教授）	山口　義枝（日本大学准教授） ゲスト：小野けい子（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	臨床心理：心理検査とは	心理検査は、質問や作業を課し、人はどのような反応をするのかのデータを蓄積し、あるこころの状態に関して、その人はどのような特徴を持っているのか把握しようとするものである。心理検査には様々な種類がある。心理検査にはどのようなものがあり、どのように作られたかについて学ぶ。最後に本コース所属の教員紹介として担当講師の研究を紹介する。 【キーワード】 心理検査、信頼性、妥当性、知能検査、人格検査	小川　俊樹（放送大学教授）	小川　俊樹（放送大学教授）
15	心理と教育：学習の展望	14回までの学習を踏まえ、「心理と教育」に関して今後どのような学習を進めていけばよいかを論じ考えていく。 【キーワード】 教育学、心理学、臨床心理学、研究対象、研究方法	小川　正人（放送大学教授） 森　津太子（放送大学教授） 山口　義枝（日本大学准教授）	小川　正人（放送大学教授） 森　津太子（放送大学教授） 山口　義枝（日本大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118129	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 教育心理学概論 （’１４）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 An Introduction to Educational Psychology (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：三宅　芳雄　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：三宅　なほみ　（元東京大学教授）平成27年5月ご逝去〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

人は、生まれ落ちたときからすぐ、身の回りを探索しながら少しずつ世の中の成り立ちを理解して行く。そう準備されて産まれて来るともいえる。やがて子どもは、自分一人で学んだことを、親や兄弟、回りの他人など他者との関わりの中で徐々に拡げて、今まで遭遇したことがない状況にも対応できるようになって行く。本講義では、こういう人が賢くなる根本的な原理を見直して、そこから人の学びを引出す仕組みとその効果について考えよう。あなたなら、誰に対してどういう学びの場をデザインしたいか、あなたなりの「教育心理学」を作り上げて欲しい。

授業の目標

この講義の目標は、あなたなりの「教育心理学」を育て、あなた自身が学び続ける社会の一員になることである。講義前半では人が賢くなる仕組みを扱う。その中からあなたが納得できるものを選び出し、それらを組み合せて全体を理解しよう。そうした上で、後半で出て来る「人の賢さを育てる試み」に触れ、得られるヒントを組み合せて学びの場を設計し、実際実践して理解の程度を確かめることを目指そう。そういうサイクルを回し続けることで、私たちは，一人ひとり、学びのモデルを作り変え続ける持続的な学び手になれるだろう。

履修上の留意点

心理と教育コースのカリキュラムを構成する中心的な科目の一つである。履修を前提とする関連科目はないが、他の導入科目とともに専門科目を履修するために履修しておくことが望ましい。この講義を履修して理論的研究者のものの考え方や、実践的研究者の目の付けどころそれぞれの強みを良く吟味しておくと、より高度な実践研究に取組むための、良い準備になるだろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	実践の科学としての教育心理学	教育心理学の基本には「人はいかに学ぶか」という問いがある。人が賢くなる仕組みがわかれば、私たちは今日の自分を昨日の自分より賢くすることができるからである。本講義では、人が生まれながら持っている自分自身を賢くする仕組みに立ち戻り、それらをどう理解し、活用するか、その具体的な方法を探る。本章では、本講義のねらいと構成を解説している。 【キーワード】 実践の科学、経験則、社会構成主義	三宅　なほみ（元東京大学教授） 三宅　芳雄（放送大学教授）	三宅　芳雄（放送大学教授） 三宅　なほみ（元東京大学教授）
2	活動の認知過程：学ぶことと分かること	この章では、人の学習の多様で複雑な姿を捉えるための理論的な枠組みを検討していく。人の学習は人の活動を通してそこに作り出される文化に影響をあたえるが、一方で人の学習もまた作り出された文化に影響される関係にある。ここでは、人の学習を文化というシステムの一環として捉えていくことを視野において、その理論的な枠組みを検討していく。 【キーワード】 活動、単位、構造、意図、目標、音声表象、視覚表象、認知的道具	三宅　芳雄（放送大学教授） 三宅　なほみ（元東京大学教授）	三宅　芳雄（放送大学教授） 三宅　なほみ（元東京大学教授）
3	人が自然に学ぶ仕組み	人は活動の中で学ぶということの意味と効果を探る。私たちは普段生活している中でいつも新しい「問題」に遭遇し、その問題を解きながら新しいことを学んでいる。人が日常的に「賢く」振舞ったり、「賢くな」かったりする例をいくつか見ながら、人の認知過程の特徴を整理し、人がどのようにしてうまく学び続けられるのか考えていこう。 【キーワード】 トップダウンの過程、ボトムアップの過程、スキーマ、制約、確証バイアス	三宅　なほみ（元東京大学教授） 三宅　芳雄（放送大学教授）	三宅　なほみ（元東京大学教授） 三宅　芳雄（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	小さい子どもの自然な学び	この章では、乳児、幼児の頃、既に起きている学びを扱う。小さな子どもの世界に戻って、彼らがそもそも身の回りで起きる様々な現象を捉える仕組みを持っていること、そういった仕組みを使って、世の中を一定の方向で捉えること、いわば「世界のモデル」を持って、これから起きることを予測しつつ「学びの土台」を作り上げる様子を探る。 【キーワード】 単純化へのバイアス、本質主義、表象書き換え理論	三宅　芳雄（放送大学教授） 三宅　なほみ（元東京大学教授）	三宅　芳雄（放送大学教授） 三宅　なほみ（元東京大学教授）
5	経験から作る素朴理論	人は、小さい時から身の回りで起こることを観察し、一定の規則性を捉えようとする。こういう、自分の経験に基づいて自分なりに作り上げて予測に使うわかり方を「経験則」，経験則が集まったものを「素朴理論」と呼ぶ。ここでは物理学、生物学、天文学などに関わる素朴理論が科学的概念にどのように変わるのか「概念変化」という研究の枠組みを問題にしていく。 【キーワード】 経験則、素朴理論、フレームワーク、断片的知識、領域固有性	三宅　芳雄（放送大学教授） 三宅　なほみ（元東京大学教授）	三宅　芳雄（放送大学教授） 三宅　なほみ（元東京大学教授）
6	対話で理解が深化する仕組み	人が問いを共有した時その問いへの答えとしてそれぞれが考える案を交換し合うこと、言い換えれば知的な解を求める対話の中で、自らの賢さの質を上げて学んで行く仕組みを建設的相互作用と呼ぶ。社会的構成主義の学習観を背景に、このような学習の仕組みを紹介し、それを活用した「協調的学習過程」を取り上げる。 【キーワード】 建設的相互作用、協調学習過程、機能と機構の階層	三宅　なほみ（元東京大学教授） 三宅　芳雄（放送大学教授）	三宅　なほみ（元東京大学教授） 三宅　芳雄（放送大学教授）
7	遊びから学ぶ	人は、遊びながらでも学ぶ。この章ではそういう場面を作り出し、観察してそこで置きている事を分析した研究例を紹介しよう。そこで、自発的な創意工夫がどのような意味を持つのか、また、社会的な相互作用との関わりも視野に入れながら、学びと動機づけとの関係について考えてみよう。 【キーワード】 好奇心、内発的動機付け、外発的動機付け、社会的な相互作用	三宅　芳雄（放送大学教授） 三宅　なほみ（元東京大学教授）	三宅　芳雄（放送大学教授） 三宅　なほみ（元東京大学教授）
8	日常経験から学ぶ	人はもともと自分にとって意味のある生活や仕事の場の中でうまく学んでいく。これまで「学校的な学び」で考えられてきたよりずっと有能であり、かつ自らの有能さを育て続けることができる存在である。そのような日常生活の中での学習の実態を子供達の「路上計算」など文化人類学的な研究から紹介しよう。 【キーワード】 日常生活の中での学習、路上計算、文化人類学	三宅　なほみ（元東京大学教授） 三宅　芳雄（放送大学教授）	三宅　なほみ（元東京大学教授） 三宅　芳雄（放送大学教授）
9	熟達する、職場で学ぶ	人が現実の生活の場面で必要とする専門的な力は「学校」で学ぶだけでは獲得できないことが普通である。学校はむしろそのような専門的な力を仕事の場で学んでいくための準備の場になっている。専門的な力は時間のかかる熟達の過程である。このような熟達の過程で何が起こっているのか、また職場という現実社会の中で成立する学習について検討していこう。 【キーワード】 熟達化、専門家の研究、定型的熟達化、適応的熟達化	三宅　芳雄（放送大学教授） 三宅　なほみ（元東京大学教授）	三宅　芳雄（放送大学教授） 三宅　なほみ（元東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	問題を見つけて、解きながら学ぶ	この章では、The Jasper Project という一連の教材の一つを紹介し、問題を見つけて、解きながら、何が学べるかを見て行く。学校で学ぶ課題はそのものも、場面をうまく設定すれば、子どもたち自身が見つけてその解き方を工夫し合って、いろいろな答えの出し方をして、その答えの出し方をみんなで楽しむ授業が可能になる。 【キーワード】 The Jasper Project、マイクロワールド、Learning by Design	三宅 なほみ（元東京大学教授） 三宅 芳雄（放送大学教授）	三宅 なほみ（元東京大学教授） 三宅 芳雄（放送大学教授）
11	結果の予測を積み重ねて科学する	子どもの経験則は、新しく起きる現象の結果がどうなるか、予測する力を持っている。そのような子供の力に依拠し、「新しく遭遇する現象」について予測することを繰り返し行うことによってで、教室の中で科学を学ぶ活動を引き起こす実践例を二つ取り上げ検討する。 【キーワード】 仮説実験授業、WISEプロジェクト	三宅 なほみ（元東京大学教授） 三宅 芳雄（放送大学教授）	三宅 なほみ（元東京大学教授） 三宅 芳雄（放送大学教授）
12	知識を統合して新しい答えを作る	この章では、学習指導要領や教科書にある典型的な学校型の学びを対象に、対話で学ぶ原理を持ち込んで、一人ひとりの経験則や、教科書に説明してある一つひとつの断片的な知識を自分たちで集め統合して答えを作る活動に仕立て上げ、一人ひとりの主体的な学びを支援する「知識構成型ジグソー法」を紹介する。 【キーワード】 協調学習、建設的相互作用、知識構成型ジグソー法	三宅 なほみ（元東京大学教授） 三宅 芳雄（放送大学教授）	三宅 なほみ（元東京大学教授） 三宅 芳雄（放送大学教授）
13	テクノロジーの時代の学習と教育	インターネットとコンピューターに代表される現代のテクノロジーは人の生活を大きく変えつつある。そのような社会の変化に伴い、人の活動も変わり、学習の姿も変わってくる。また、意図的な学習支援の場としての学校も変わらざるを得ない。これまで学校がはたしてきた役割と、今の時代に要請される学びのゴールについて、さまざまな角度から比較しながら検討する。 【キーワード】 徒弟制時代、訓練可能性、公教育制度時代、生涯学習時代、Alternative School	三宅 芳雄（放送大学教授） 三宅 なほみ（元東京大学教授）	三宅 芳雄（放送大学教授） 三宅 なほみ（元東京大学教授）
14	学びと評価を近づける	評価というと、どうしても「決められたゴールに到達したかをテストで測ること」と考えてしまう。しかし、今までに取り上げてきた教育実践は、いずれも従来ののテストでは簡単に計れない学力や知力の獲得を目指している。この章ではまず評価とは何かを見直し、21世紀型と呼ばれる学力についての最近の考え方を基礎に、変革的な形成的評価を検討していく。 【キーワード】 評価の三角形、21世紀型スキル、形成的評価	三宅 なほみ（元東京大学教授） 三宅 芳雄（放送大学教授）	三宅 芳雄（放送大学教授） 三宅 なほみ（元東京大学教授）
15	学習の実践的な研究のこれから －21世紀の学びに向けて	この章では学習、教育の主要な研究者の考え方を紹介しつつ、それに添って私たち二人の著者のコメントを加えて行く。そこから、あなた自身の取組みたい教育の実践、学習研究の具体像が生まれてくることを期待している。 【キーワード】	三宅 芳雄（放送大学教授） 三宅 なほみ（元東京大学教授）	三宅 なほみ（元東京大学教授） 三宅 芳雄（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	導入科目	科目コード	1720023	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 発達心理学概論 （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Developmental Psychology (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：向田　久美子　（放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

発達とは、人が生まれてから死ぬまでに経験するさまざまな変化のことをさす。この授業では、乳児期から老年期までの発達段階を追いながら、各発達段階の心理的発達について概説する。現実生活との関連を踏まえた上で、発達の基礎的理論や研究方法、最新の研究成果を紹介する。

授業の目標

受講者が自らの人生を振り返り、将来を展望しながら、人間の発達全般についての理解を深めることをねらいとする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	発達とは	心理学における「発達」の定義、その歴史的変遷について説明する。主な発達段階と発達課題、発達が生じるメカニズム、人間の発達の特殊性、初期経験の影響について概説する。 【キーワード】 生涯発達、発達段階、発達課題、遺伝と環境、生理的早産、初期経験	向田　久美子（放送大学准教授）	向田　久美子（放送大学准教授）
2	発達心理学の諸理論	発達について、これまでいくつかの理論が提唱されている。5人の代表的な研究者（ピアジェ、ヴィゴツキー、エリクソン、ブロンフェンブレンナー、バルテス）による理論を紹介する。 【キーワード】 発生的認識論、発達の最近接領域、ライフサイクル論、生態学的発達理論、生涯発達理論	向田　久美子（放送大学准教授）	向田　久美子（放送大学准教授）
3	発達研究の方法	人間の発達を明らかにしようとするとき、心理学の他分野と共通するアプローチのほか、発達独自のアプローチもある。研究事例をふまえながら、発達研究の方法を紹介する。 【キーワード】 縦断的研究、横断的研究、コーホート、実験、調査、観察、検査、ラポール	上原　泉（お茶の水女子大学准教授）	上原　泉（お茶の水女子大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	乳児期の発達：知覚とコミュニケーション	人間の乳児は、話せない、自力で動けないという点では無力だが、生まれながらにもっている能力を生かして、周囲の環境に反応したり、自ら働きかけたりしている。そうした乳児のもつ知覚的有能さとコミュニケーション力について解説する。 【キーワード】 原始反射、ジェネラルムーブメント、感覚運動期、対象の永続性、喃語、共同注視、三項関係、社会的参照	上原　泉（お茶の水女子大学准教授）	上原　泉（お茶の水女子大学准教授）
5	乳児期の発達：アタッチメントの形成	乳幼児期の発達の基礎となるアタッチメント（愛着）について紹介する。アタッチメントの基本的な考え方、その個人差と測定方法、アタッチメントの形成プロセスを中心に説明する。 【キーワード】 アタッチメント（愛着）、基本的信頼感、内的ワーキングモデル、ストレンジ・シチュエーション法	福島　朋子（岩手県立大学准教授）	福島　朋子（岩手県立大学准教授） ゲスト：北川恵（甲南大学教授）
6	幼児期の発達：言葉と認知	幼児期は、表象や概念、言葉の発達が著しい。語彙や文法だけでなく、コミュニケーションスキルも向上する。時間認識が芽生え、記憶の仕方も変わる。こうした幼児期の言葉と認知の発達について解説する。 【キーワード】 語彙爆発、外言と内言、前操作期、心の理論、自伝的記憶、メタ記憶、実行機能	上原　泉（お茶の水女子大学准教授）	上原　泉（お茶の水女子大学准教授）
7	幼児期の発達：自己と社会性	幼児期は自己認知が可能になり、他者との関係の中で自分を主張したり、抑制したりするスキルを身につけていく。周囲との関わりの中で進む自己と社会性の発達プロセスについて解説する。 【キーワード】 自己認知、自己観、第一反抗期、自尊感情、性同一性、自己制御、社会性	塘　利枝子（同志社女子大学教授）	塘　利枝子（同志社女子大学教授）
8	児童期の発達：認知発達と学校教育	児童期には、書き言葉の習得が始まり、論理的思考力が高まる。学習内容も徐々に難しくなるが、動機づけのあり方が学習に影響を及ぼす。児童期の認知発達と学びについて概説する。 【キーワード】 一次的ことば／二次的ことば、ワーキングメモリ、メタ認知、9歳の壁（10歳の壁）、領域固有性／領域一般性、動機づけ、学校教育	上原　泉（お茶の水女子大学准教授）	上原　泉（お茶の水女子大学准教授）
9	児童期の発達：自己概念と社会性	児童期は学校教育の影響を強く受け、仲間との関係が重要になってくる。その中で発達する自己概念や性役割観、道徳性や向社会的行動について説明する。 【キーワード】 自己概念、性役割観、仲間関係、視点取得、道徳性、向社会的行動	塘　利枝子（同志社女子大学教授）	塘　利枝子（同志社女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	青年期の発達：アイデンティティの形成	青年期には、第二次性徴をはじめ、心身に大きな変化が生じる。人間関係や進路で悩むことも増え、アイデンティティ（自我同一性）を模索するようになる。そのプロセスについて、周囲の人間関係や時代による変化を踏まえながら概説する。 【キーワード】 思春期、第二反抗期、アイデンティティ（自我同一性）、自立、心理的離乳	福島　朋子（岩手県立大学准教授）	福島　朋子（岩手県立大学准教授）
11	成人初期の発達：大人への移行	成人初期は、活動の場が学校から職場に移行し、親元を離れて自活したり、結婚を考え始めたり、新しい家庭を築くなど、役割や責任、ライフスタイルが大きく変化する。この時期の心理的発達について概説する。 【キーワード】 ライフコース、ライフサイクル、キャリア形成、恋愛と結婚、社会的役割	福島　朋子（岩手県立大学准教授）	福島　朋子（岩手県立大学准教授）
12	成人期の発達：中年期危機とジェネラティビティ	成人期は、仕事や家庭、地域での責任が増し、さまざまな形で次世代育成に関与する。その一方で、自身の体力の衰えや職業上の限界、子どもの巣立ちなども経験し、人生の軌道修正が必要になってくる。この時期の課題と心理的発達について概説する。 【キーワード】 中年期危機、親になること、夫婦関係、職業、熟達化、ジェネラティビティ、ケア	向田　久美子（放送大学准教授）	向田　久美子（放送大学准教授）
13	老年期の発達：喪失とサクセスフル・エイジング	老年期は、心身の衰えや、それまで担ってきた役割からの引退、近親者との別れなど、喪失体験が増えてくる。一方で、認知能力の向上や、肯定的感情の増加といった獲得的変化も生じている。老年期の発達とサクセスフル・エイジングについて解説する。 【キーワード】 喪失、老化、知能、英知、SOCモデル、サクセスフル・エイジング、インテグリティ	向田　久美子（放送大学准教授）	向田　久美子（放送大学准教授）
14	発達と環境：メディアの影響	発達に関与する環境要因はさまざまなものがあるが、ここでは電子メディア（テレビやゲーム、インターネットなど）を取り上げ、それらが子どもの発達や行動に与える影響について考察する。 【キーワード】 電子メディア、攻撃性、社会性、認知能力、健康、メディア・リテラシー	向田　久美子（放送大学准教授）	向田　久美子（放送大学准教授） ゲスト：鈴木佳苗（筑波大学准教授）、米田　謙三（羽衣学園高等学校教諭）
15	発達と環境：文化の影響	近年、心理学研究における文化的背景の重要性が認識されるようになってきている。人が発達する過程において文化の影響がどのような形で見られるのか、文化心理学の研究成果をもとに考察する。 【キーワード】 発達と文化、文化的自己観、子育て、教育、文化的産物	向田　久美子（放送大学准教授）	向田　久美子（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118064	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理学概論 （’１２）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：星　薫　（放送大学客員准教授）〕

〔主任講師（現職名）：森　津太子　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

心理学は、非常に間口の広い学問である。だから、概論とはいえ、全ての心理学分野を漏れなく紹介することは難しい。そこで、日本の典型的な家族の一例である、まなみさん一家が毎日の生活の中で遭遇する、具体的な心理学的問題を通して、心理学がそうした問題をどのように捉え、またそれをどのような方法で研究しようとしているのか、それぞれの分野の専門家をお迎えして話を伺い、また典型的な実験例などを紹介していく。取り上げる場面は3種（教育、犯罪、産業）だが、その背景にこれらの研究の基礎となる諸研究がある。それらについても紹介していきたい。

授業の目標

心理学が対象とするのは、人間の営み全てである。自分たちが日常的に考えたり、行ったりしていることを、改めて研究の俎上に上らせようとすると、どうしても先入観に捉えられ易い。それを回避するために、心理学者たちが研究を実施するにあたって、どのような工夫をし、どのような配慮を行っているのかを学習して欲しい。

履修上の留意点

導入科目である「発達科学の先人たち」「心理と教育を学ぶために」を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	まなみさん一家の日常	4人家族のまなみさん一家が遭遇する日常的な出来事の中にある心理学的問題を並べてみる。以下の各章で出会う心理学的話題が、どのように日常的話題と関連しているのかを考える。 【キーワード】 教育、犯罪・司法、産業	星　薫（放送大学客員准教授） 森　津太子（放送大学教授）	星　薫（放送大学客員准教授） 森　津太子（放送大学教授）
2	教育についての心理学	子どもの教育に関して親が最も気になるのは、子どもの学業がうまく進まないのはなぜかという問題と、学級崩壊やいじめなどの学級内のトラブルのことだろう。それらの問題に教育心理学者たちはどのように取り組もうとしているのだろうか。 【キーワード】 学級集団、いじめ、学級崩壊	星　薫（放送大学客員准教授）	星　薫（放送大学客員准教授） ゲスト：河村茂雄（早稲田大学）
3	発達についての心理学	子どもの教育と言っても、未就学年齢の子どもの場合から、既に青年期に達している子どもの場合まで幅広い。今回は子どもの発達に焦点を当て、それぞれの年代にふさわしい教育という視点の重要性を考えたい。 【キーワード】 発達段階論、知的発達、人格発達	星　薫（放送大学客員准教授）	星　薫（放送大学客員准教授） ゲスト：藤崎春代（昭和女子大学）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	認知についての心理学	人が何かを学ぶためには理解すること、理解内容を記憶しておくことなどが不可欠である。人間の理解、記憶、思考といった、教育の基本になる、人の認知の働きについて考える。 【キーワード】 記憶、理解、思考	星　薫 (放送大学客員准教授)	星　薫 (放送大学客員准教授) ゲスト：伊東裕司(慶應義塾大学)
5	学習についての心理学	人が学ぶという時には、どういう環境でどのように学ぶかが重要になってくる。より効率よく学ぶには、どういう工夫があるのだろうか。応用行動分析の視点から考えてみる。 【キーワード】 応用行動分析、強化、罰、消去	星　薫 (放送大学客員准教授)	星　薫 (放送大学客員准教授) ゲスト：山本淳一(慶應義塾大学)
6	犯罪についての心理学	「犯罪」という現象の周辺にも多くの心理学的問題がある。極端な形態とはいえ、罪をおかすのは人間であり、犯罪もまた人間の行為だからである。そのために、「犯罪心理学」という分野は、人間の行動を心理学的に考える意味を明確にしてくれる。 【キーワード】 犯罪心理学、犯罪原因論、捜査心理学	森　津太子 (放送大学教授)	森　津太子 (放送大学教授) ゲスト：越智啓太(法政大学)
7	性格についての心理学	凶悪な犯罪に手を染める人は、「残酷な性格である」といった具合に、私たちは他者の行動を見て、その背景に性格を推測する。しかし、そもそも性格とは何だろうか。そして、性格とはどのようにとらえうるのだろうか。人の性格ついて今日の心理学はどのように考えているのかを概観する。 【キーワード】 パーソナリティ、類型論と特性論、人－状況論争	森　津太子 (放送大学教授)	森　津太子 (放送大学教授) ゲスト：小塩真司(中部大学)
8	臨床心理学	臨床心理学は、一般には、精神的な不調を訴える人に対してカウンセリング行為を行う領域ととらえられているが、臨床心理学の適用範囲は広く、犯罪に走った者の臨床的な理解や、彼らの矯正教育、犯罪被害者の支援などにも、臨床心理学は大きく関わっている。司法場面における心理臨床の活動を手がかりにしながら、臨床心理学とはどのような学問なのかを考える。 【キーワード】 心理臨床、カウンセリング、アセスメント	森　津太子 (放送大学教授)	森　津太子 (放送大学教授) ゲスト：田中奈緒子(昭和女子大学)
9	判断と意思決定の心理学	裁判員制度が導入され、一般市民が罪の重さを判断するようになった。一見、特殊な判断であるが、それは私たちが日々行っている判断の延長線上にあるもので、そこには多くの特徴的な傾向が見られる。また、こうした判断は、他の裁判員や裁判官との合議によって結論が出される。裁判員裁判を手がかりに、判断と意思決定の問題を考える。 【キーワード】 原因帰属、責任性の判断、同調、社会的勢力	森　津太子 (放送大学教授)	森　津太子 (放送大学教授) ゲスト：外山みどり(学習院大学)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	産業心理学	成人の生活の中で、働くことは大きなウェイトを占めている。仕事は成人の生活を経済的に安定させるだけでなく、彼らの成長や幸福感に影響したり、心身の病の原因になったりもする。仕事が人に及ぼす悪影響をできるだけ取り去り、人の満足感を高めながら、同時に生産性も高めるためには、どのようなことを考える必要があるのだろうか。産業心理学の立場から考えてみる。 【キーワード】 労働負担、生産性、職業能力	星　薫（放送大学客員准教授）	星　薫（放送大学客員准教授） ゲスト：神作博（中京大学名誉教授）
11	組織心理学	現在社会においては、仕事の多くは組織を単位として行われる。生産性が高い組織には、円滑な組織内コミュニケーションや管理者による効果的なリーダーシップがあり、それによって組織内の葛藤がうまく解決されたり、スムースな意志決定、創造的な問題解決が達成する。これらの問題について、組織心理学の観点から考える。 【キーワード】 組織コミュニケーション、リーダーシップ、チームワーク	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授） ゲスト：山口裕幸（九州大学）
12	消費者行動と心理学	産業は、企業によって生み出された商品やサービスを、消費者が購入、消費することによって成り立っている。消費者はどのように購入する商品やサービスを選択しているのだろうか。また、消費者に購入されるには、どのようなマーケティングが有効なのだろうか。社会心理学や経済心理学の知見をもとに、消費者行動について考える。 【キーワード】 消費者行動、マーケティング、広告	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授） ゲスト：田中知恵（明治学院大学）
13	心理学的測定	産業場面では、しばしば人の感覚や好みなどを数量的に知ることが必要になる場合がある。さらに、これに留まらず、人の性格特性、知能、感情状態などについても、測定が試みられている。人の内面を「測定する」という心理学的試みについて紹介する。 【キーワード】 精神物理学的測定法、尺度構成	星　薫（放送大学客員准教授）	星　薫（放送大学客員准教授） ゲスト：渡辺利夫（慶應義塾大学）
14	心理学研究法	ここまで我々の日常に密着した問題についての心理学的研究を見てきた。ここで、心理学の研究方法について概観しておきたい。 【キーワード】 実験法、質問紙法、面接法、質的研究	星　薫（放送大学客員准教授）	星　薫（放送大学客員准教授）
15	心理学の過去と短い歴史	人間のさまざまな側面について研究を行っている心理学は、ヨーロッパに誕生したのだが、その歴史は意外なほど短い。心理学誕生前史を含め、この心理学の短い歴史を概観してみよう。 【キーワード】 生理学、精神物理学、ヴント、ジェームズ	星　薫（放送大学客員准教授）	星　薫（放送大学客員准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118153	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 人格心理学 （’１５）＝（ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 Personality Psychology (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：大山　泰宏　（京都大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：小野　けい子　（放送大学教授）】

講義概要

人格 (personality) は、臨床心理学のほか、発達心理学、社会心理学など、心理学の諸分野に深く関わる概念である。この講義では、「人格」という概念が、心理学でどのように措定され、どのように探求されているのか、また、その変容と生成に対してどのように関わっているのかを、総括的に論じる。さらには、人格の生成と変容に関する社会・文化的な背景に関しても探究をおこなう。
このように人格の諸理論に関して探求することを通して、心理学的な人間理解の発想や方法ということに関しても、深い理解を醸成していくことをめざしている。

授業の目標

1. 人格という概念に関する基本的な知識の習得と、この概念を生み出すに至った心理学の発想法を理解する。
2. 人格の成立と発達に関わるさまざまな事柄を、心理学的に理解する。
3. 人格という概念をもとにした、心理学（とりわけ臨床心理学）の理論や技法について理解する。
4. 社会・文化的背景の中での人格概念の成り立ち（構造）に関して自分なりに理解できるようになる。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人格心理学をはじめるにあたって	人格という概念が心理学で用いられるのはなぜか。とりわけ19世紀以降の心理学をとりまく歴史的背景を辿り、人格概念が重要となった経緯を論じる。あわせて、その流れの中で、本講座の目的を概観する。（1. 人格という概念の定義、2. 人格という概念の歴史的背景、3. この科目の目的と概観） 【キーワード】 人格、性格、気質、個人差心理学	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）
2	人格を理解する観点と理論	人格というものに対して、私たちはどのように接近していくのか。人格を把握するための私たちの認識の特徴を省察することをもとに、類型論的発想、特性論的発想の特徴とその限界を明らかにする。（1. 人格理解の方法、2. 類型論、3. 特性論） 【キーワード】 類型論、特性論、力動論、ビッグ・ファイブ	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）
3	人格を映し出す－心理査定	他者の人格を知るため、あるいは自己自身の人格を知るために、心理査定がおこなわれる。質問紙法、投映法のそれぞれの仕組みを知ることで、心理学において人格がどのように考えられているのかをより深く理解する。あわせて、心理査定の意義と範囲について論じる。（1. 観察法、2. 人格検査法、3. 人格は理解できるのか） 【キーワード】 観察法、質問紙法、投映法、アセスメント	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	人格理論の多様性	個人差を前提とした人格理論以外に、どのような人格に対する考え方があるのか。状況を重視する考え方、脳科学からみた人格、社会構成主義などの多様な理論を概観する。（1. 人−状況論争、2. 脳からみた人格、3. ジェンダーと人格） 【キーワード】 人−状況論争、脳の局在論、社会構成主義、ジェンダー	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）
5	人格と集団の心理	人は集団となったとき、一人のときとは異なった行動や態度をとる。社会心理学の知見を参照しつつ、人格と集団との関係を考える。（1. 対人スキーマ、2. 意見や態度の形成、3. 人が理性を失うとき） 【キーワード】 対人認知、認知的不協和、同調行動	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）
6	人格のはじまり	ヒトが誕生して成長していくとき、どのような要因が人格形成に影響を与えているのであろうか。遺伝と環境をめぐるこれまでの研究、また、最近の乳幼児と養育者の交流の研究等を通して考察する。（1. 遺伝と環境、2. 情動と調律、3. 愛着の理論） 【キーワード】 双生児研究、情動調律、愛着のワーキングモデル	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）
7	人格の育ち	やがて人は「わたし」という意識をもち、それを核として人格が形成されていく。その際、エディプス期での大きな人格変化、また、前思春期における「わたし」の目覚めなどを通して、私が「わたし」になっていくプロセスを考察する。（1. エディプスコンプレックス、2. 自我体験と前思春期・思春期、3. ライフサイクル） 【キーワード】 エディプス期、自我体験、ライフサイクル	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）
8	人格が閉じるとき	人生の後半において、人は自分の人生をどのように閉じていくのかということが大きな課題となってくる。中年期の危機、そして老年期のテーマ等に関して述べるとともに、死に直面する人々の心のあり方について述べる。（1. 中年期の課題、2. 老年期、3. 死の準備） 【キーワード】 ライフサイクル、中年期の危機、老年期	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）
9	人格とかたり	人は自分自身の物語をかたることで、自分の歴史を、あるいは自分自身を構成していく。そうした語られる内容ばかりでなく、私が「わたし」として語り出でることに、人格を構成する根本がある。発話に関する理論等を参考にしつつ、かたりの意義について述べる。（1. 語られる人格、2. 発話行為としての人格、3. かたりとあいだ） 【キーワード】 ナラティヴ、かたり、発話、心理療法	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	人格が病み傷つくということ	人格のまとまりというものを崩し開いていく、さまざまな出来事。私たちの誰もが必ず多かれ少なかれ抱えたり直面したりする心の課題を、私たちはどう理解し、どのように取り組んでいくべきなのか、臨床心理学の観点から論じていく。（1. 心の課題と防衛機制、2. 精神疾患、3. トラウマ） 【キーワード】 防衛機制、神経症、精神病、PTSD	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）
11	人格の探求と文化	人格を、そして自分自身を探求するために、臨床心理学ではどのような考え方が用いられるのか。自己認識の学としての、その手法や発想に関して、先人たちの仕事に言及しつつ論じていく。（1. 精神分析のはじまり、2. 分析的心理学、3. 臨床心理学の発展） 【キーワード】 催眠、精神分析、夢、フロイト、ユング	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）
12	人格の変容と心理療法	私の人格の今のあり方に行き詰まったとき、カウンセリングや心理療法がおこなわれることがある。こうした営みにおいては、人格はどのように捉えられ、またどのように変容や人格の十全な発現が促されていくのか。その理論ばかりでなく事例を引きつつ論じる。（1. カウンセリング、2. 心理療法の過程、3. 非言語療法） 【キーワード】 心理療法、来談者中心療法、プレイセラピー、表現療法	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）
13	物語にみる人格の変容	人格の成長と変容は、誰もが体験することである。これまで先人たちが語り伝えたり創作したりした物語の中にも、そのテーマは多くみられる。いくつかの物語を臨床心理学的に読み解くことで、臨床心理学や心理療法における人格理解と変容に関して深めたい。（1. 童話とファンタジー、2. 教養小説、3. 神秘主義と錬金術） 【キーワード】 物語、ファンタジー、人格陶冶、錬金術	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）
14	人格と存在	テロや戦争、ジェノサイド。人間自身によって人格が否定される不幸は、現代でもあとをたたない。その中で、人は人格の尊厳を保ち、祈りと希望を失わないでいることができるだろうか。実存主義的な人格理論を概観し、このことを論じたい。（1. 人格の否定と祈り、2. 実存主義的人格、3. 未来へ向かう人格） 【キーワード】 ナチズム、ジェノサイド、実存、希望、人間の尊厳	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）
15	人格心理学の展望	電子メディアに囲まれた現代社会において、人格のあり方は変わっていくのであろうか。それに対して心理学も、新たな視点と理論を持つべきなのだろうか。こうした問題に言及しつつ、本講義のこれまでの過程を、省察する。（1. 現代社会と人格、2. 人格に関する私たちの課題、3. 展望） 【キーワード】 電子メディア、解離、抑圧	大山　泰宏（京都大学准教授）	大山　泰宏（京都大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	5520010	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 生涯学習を考える （’１７）＝ （OL）

英文名 ＝ 〔 Considering Lifelong Learning (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：岩永　雅也　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：岩崎　久美子（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

生涯学習は、知っているつもりでも本当はよく理解されていないという、現代における「知っているつもり」概念の一つである。その生涯学習について、その基本的な意味がどんなのものであり、どのようにして、またどんな背景の元に形成されたのか、その基本的な理念は時代とともにどう変化してきたのか、さらに、現在、具体的場面でそれがどう実施されているのか、そこにどのような問題点があるのか、今後生涯学習はどのように展開していくのか、といったさまざまな観点から、多角的に考えていこうというのが本講義の趣旨である。オンライン科目であるため、非同期ながら双方向性は最大限に生かしたいと思う。

授業の到達目標

人の生涯にわたる活動と生涯学習との関わり、および社会システムとしての生涯教育・生涯学習のあり方について理解し、それによって自らの知的生活をより高度なものとすることを可能にする。

成績評価の方法

通信指導、単位認定試験および再試験は行わない。成績評価は、各回(15回)の最後に実施する確認テストの評点総計(60%)、計4回出題される課題に対するレポートの評価(40%)の合算により行う。

履修上の留意点

本科目は、社会教育主事資格および学芸員資格に関連する学部科目としての認定を申請する科目である。本科目履修後に、大学院科目ではあるが、「新時代の社会教育('15)」の履修を勧めたい。
※本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
1	学びと人間	学ぶ生物としての人について、その本性と基本的な特性を原理的に考察する。 【キーワード】 ホモサピエンス、社会化、意図的社会化、カント	岩永　雅也（放送大学教授）
2	フロントエンドの学校教育	近代社会におけるフロントエンド型の学校教育システムの成立と意義、そしてその限界について理解する。 【キーワード】 近代社会、学校教育、人材養成、OJT、フロントエンド、リカレント、労働市場	岩永　雅也（放送大学教授）

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
3	生涯学習理念の誕生と変遷	生涯学習理念の誕生とその変遷、展開について、国際機関の提案・報告書・宣言などを通して、理論的に考える。 【キーワード】 生涯教育、リカレント教育、フォール・レポート、『学習：秘められた宝』	岩崎　久美子（放送大学教授） 岩永　雅也（放送大学教授）
4	成人と高齢者の学習	成人あるいは高齢者が学ぶ意味について考察した上で、日本における現状についても理解する。 【キーワード】 成人教育、高齢者学習、アンドラゴジー、ジェロントロジー	岩永　雅也（放送大学教授）
5	日本型社会教育の特性	日本の社会教育の起源と歴史、現状およびその存在意義について体系的に理解する。 【キーワード】 通俗教育、社会教育、社会教育法、社会教育終焉論、公民館	岩崎　久美子（放送大学教授）
6	生涯学習振興法体制	新自由主義的教育政策体制のもとで展開した臨教審答申から生涯学習振興法への道程を踏まえ、振興法体制の意味と現状を理解する。 【キーワード】 生涯学習振興法、首長部局、教育委員会、二重構造、民間	岩永　雅也（放送大学教授）
7	地域社会教育施設の活動	図書館、博物館、青少年教育施設等の社会教育施設が、地域でどのような活動を行っているか、その現状と課題について考察する。 【キーワード】 図書館、博物館、美術館、青少年教育施設、学芸員、司書	岩崎　久美子（放送大学教授）
8	生涯学習とまちづくり	生涯学習を核としたまちづくりや地域活性化について、その動向を踏まえながら考えていく。 【キーワード】 まちづくり、少子高齢化、生涯学習宣言都市、行政、地域活性化	岩永　雅也（放送大学教授）
9	学校との連携	学校教育と社会教育の関わりを、地域との連携・協働の観点から考える。 【キーワード】 地域社会、学社連携・融合、学校という場、まちづくり	岩崎　久美子（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　　師　　名 （所属・職名）
10	大学と社会人教育	大学公開講座や社会人入学等、高等教育と社会人の学習との関わりについて考察する。 【キーワード】 大学公開講座、社会人入学、単位互換、放送大学、学位	岩永　雅也 （放送大学教授）
11	生涯スポーツの展開	生涯スポーツの現状を踏まえ、生涯にわたって行われるスポーツ活動の意味を考える。 【キーワード】 余暇、生涯スポーツ、スポーツ・フォー・オール、アクティブスポーツ人口	岩永　雅也 （放送大学教授）
12	生涯学習の評価と学習支援	成人学習者の特性を把握し、生涯学習を支援する上で求められる評価と支援の手法について学ぶ。 【キーワード】 学習者の特性、アンドラゴジー、学習スタイル、学習相談、学習評価	岩崎　久美子 （放送大学教授）
13	海外の生涯学習（1）	海外の、特に西欧諸国の生涯学習の状況について、その現状と課題を学ぶ。 【キーワード】 イギリス、フランス、ドイツ	岩崎　久美子 （放送大学教授）
14	海外の生涯学習（2）	海外の、特に北米およびアジア諸国の生涯学習の状況について、その現状と課題を学ぶ。 【キーワード】 アメリカ、中国、韓国	岩崎　久美子 （放送大学教授）
15	ネットワークとメディア利用	日本における生涯学習の新たな動きを把握し、その今後について展望する。 【キーワード】 学びあうコミュニティ、ネットワーク、オンライン、ICT	岩永　雅也 （放送大学教授） 岩崎　久美子 （放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528831	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 地域社会の教育的再編 （’１２）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：岡崎　友典（放送大学客員准教授）〕

〔主任講師（現職名）：夏秋　英房（國學院大學教授）〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也（放送大学教授）】

講義概要

本科目は、人間の成長・発達といった、社会的な作用(教育)を中心的にになう家庭と学校が、人間の共同生活の場としての「地域社会」とどのように関連しているかを「地域教育」および「コミュニティ教育」といった視点から明らかにすることにある。学校、家庭、地域の「連携・融合」の必要性が叫ばれているが、これは子どもだけではなくおとなを含め、人間形成に果たす地域社会の教育力が極端に弱体化した、というよりも、地域社会そのものが成立しなくなるなかで、日常生活の場としての地域社会がこれまで保有する「教育機能」を再生させることの必要性についてについて明らかにする。

授業の目標

家庭での子育てや学校教育をめぐり、様々な問題が提示されているが、「家庭崩壊」や「学校崩壊」などセンセーショナルな表現で指摘される教育問題は、家庭や学校単独で起きる現象ではない。本科目のねらいは、人間の成長・発達といった社会的な作用（教育）を中心的に担う家庭・学校と人間の共同生活の場面としての「地域社会」との関係を、生涯学習・教育の視点から明らかにすることにある。とくに家庭と学校が地域住民の諸組織や機関との連携協力により、地域社会を教育の視点から再生・創造させるための条件について、全国各地の具体的な事例をとおして、現代日本の教育課題として提示することを目的とする。

履修上の留意点

履修者が、身近な地域社会（出身地や現住地）での生活体験、とくに教育・学習体験を「対象化」してとらえることにより、そこに内在する社会的な課題・問題を認識し、その解決の方策を探求するための、「基本的知識」と「実践力」をつけることを目指す。そのためには、以下の関連科目をも、並行して学習することを勧める。
「発達科学の先人たち(’16)」「現代社会の児童生徒指導(’17)」「道徳教育の方法(’15)」

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育環境としての地域社会（導入） ～教育環境の類型～	第二次世界大戦後のわが国の地域開発政の展開過程に即して、地域社会と教育の関係について、地域社会の教育環境を類型化することによって、そこに内在する学習上の課題について提起する。家庭、学校と地域社会の構造的特質について提示する。 【キーワード】 地域社会、都市化、地域開発、教育環境の構造、環境要因	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 夏秋　英房（國學院大學教授）
2	地域教育の創造と展開（1） ～近代学校の成立と通学区～	教育の中心的な役割を担う学校が、家庭と地域社会と一体となって、次世代を育成するうえで、地域社会の有する人間形成機能を「地域教育」といった新たな教育概念で捉え、近代学校の成立以降の学校と地域社会の基本的な関係について具体的な事例に沿って明らかにする。 【キーワード】 近代学校、公教育、番組小学校、住民の自治組織、町組	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 夏秋　英房（國學院大學教授）
3	地域教育の創造と展開（2） ～学校統合と通学区の再編～	人口の地域分布変動、とくに都市中心市街地の人口の急激な減少に伴い、義務教育学校（小中学校）統廃合が各地で行われている。子どもたちの通学区域の変更による地域コミュニティの変容過程について具体的な事例をもとに考察する。 【キーワード】 学校教育、学習社会、地域教育、コミュニティ・スクール	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 夏秋　英房（國學院大學教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	地域社会と学校 ～「開かれた学校」の動向と展望～	学校教育制度は近代化のための社会的装置として地域社会と密接に関わりつつ、地域社会の差異を超えて平準化した教育を実現してきた。しかし、国際化や情報化に対応し個性化を進めるために、「開かれた学校」が臨時教育審議会で求められた。学校と地域社会が施設や資源を共有することから、学校の運営に地域住民が参画することへと移行してきた過程と現状を考える。 【キーワード】 社会化空間、学校開放、学校支援地域本部、学校運営協議会制度	夏秋　英房 （國學院大學教授）	岡崎　友典 （放送大学客員准教授） 夏秋　英房 （國學院大學教授）
5	少子社会における家族と子どもの地域生活	産業構造の転換により、家族のあり方と生活様式（ライフスタイル）が大きく変容し、子育てに係わる不安や教育の格差が広がり、多様な子育て支援が必要である。また、地域との関わりの低下や仲間集団の変化によって子どもの生活体験の不足が指摘され、その影響の大きさが懸念されている。現状と対策について考察する。 【キーワード】 家族、子ども・子育て支援、PTA、仲間集団、放課後子ども教室	夏秋　英房 （國學院大學教授）	岡崎　友典 （放送大学客員准教授） 夏秋　英房 （國學院大學教授）
6	地域福祉と教育（1） ～家族の教育機能の変容～	地域の福祉と教育の関係について、家族の教育機能の視点から考察する。とくに大都市地域における保育所や児童養護施設、自立支援設、高齢者介護施設などの具体的な実践事例に即して分析し、教育と福祉と境界領域におけるを課題を探る。 【キーワード】 子育て支援、児童福祉、保育所、児童養護施設	岡崎　友典 （放送大学客員准教授）	岡崎　友典 （放送大学客員准教授） 夏秋　英房 （國學院大學教授）
7	地域福祉と教育（2） ～誰もが住みやすい地域づくり～	現代社会は「共生」を原則としている。高齢者福祉、障害者福祉など日常生活に支援を必要とする人々が、地域社会のなかで「共生」するためには、どのような施策と教育が必要か。誰もがより豊かな生活を送れる地域創りの条件について具体的な事例をとおして明らかにする。 【キーワード】 共生、高齢者福祉、障害者福祉、グループホーム	夏秋　英房 （國學院大學教授）	岡崎　友典 （放送大学客員准教授） 夏秋　英房 （國學院大學教授）
8	地域社会の活性化と教育事業 ～都市と農山村の交流～	地域社会がその自然的・社会的条件を生かして、自治体としてその活性化を目指して、全国各地でさまざまな実践を行っている。とくに「生涯学習とまちづくり」、「都市と農山村の交流事業」などが、地域社会の教育機能を生かして行われている。地域社会の活性化に際して、地域の各種行事が果たす役割について考察。 【キーワード】 まちづくり、山村留学、地域間交流	岡崎　友典 （放送大学客員准教授）	岡崎　友典 （放送大学客員准教授） 夏秋　英房 （國學院大學教授）
9	地域文化の継承と創造（1） ～「伝統と文化」の継承～	教育基本法第2条は「伝統と文化を尊重」すると定め、平成20年の学習指導要領も「伝統を大切」にすると定めている。（1）では、地域生活のなかから生み出されてきた地域文化のなかでも、祭礼行事や郷土芸能などの継承と教育の関係について、具体的な事例に即して考察する。 【キーワード】 郷土教育、地域社会の歴史・伝統・文化	夏秋　英房 （國學院大學教授）	岡崎　友典 （放送大学客員准教授） 夏秋　英房 （國學院大學教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	地域文化の継承と創造(2) ～新たな文化の創造～	(2)では、急激に変動する地域社会のなかで、新たに創造される地域文化の果たす役割を、文化の基本的な概念をふまえ、文学や地域の産業（地場産業や観光）などの具体的な事例に即して考察。 【キーワード】 生活文化、社会規範、郷土カルタ、文化変容、地場産業	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 夏秋　英房（國學院大學教授）
11	アートとポーツによるまちづくり ～市民主体の芸術とスポーツ活動をとおして～	本質的には遊びの要素を持つアートとスポーツが、地域住民の自主的な活動として行政や経済活動と連携しながら展開されることにより、新たな地域社会の創造に寄与する過程を考察する。地域文化を創造する営みとしてアートを取り上げ、つぎに地域スポーツの普及啓発活動について考えてゆく。 【キーワード】 地域文化、アート、生涯スポーツ、マネジメント	夏秋　英房（國學院大學教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 夏秋　英房（國學院大學教授）
12	地域文化による地域おこし ～地域資源の発見とグリーンツーリズム～	都市化が急速に進んだ現代社会にあって農山村における自然・社会体験が、子どもだけでなく大人の教育・学習にとって重要な役割を果たしている。そのようなニーズは地域資源の発見・利用による都市－農村間の交流人口の増加の増加と雇用の創出・集落再生につながるとともに、場所それ自体を視覚的消費の対象としてゆく。 【キーワード】 交流人口、自然・社会体験、地域資源、グリーンツーリズム	夏秋　英房（國學院大學教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 夏秋　英房（國學院大學教授）
13	人材の養成と移動 ～職能形成の過程～	社会人としての能力とくに職業人としての能力（職能）形成が、学校教育を土台としてどのような過程を経て行われるかについて、義務教育終了後の個人のライフコースに沿って具体的な形態・内容について明らかにするとともに　人口の地域間移動にともなう異文化体験につて考察。 【キーワード】 人口の地域分布変動、新規学卒者、移動と定住、U・J・Iターン	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 夏秋　英房（國學院大學教授）
14	多文化共生と地域教育 ～国際化する地域社会～	グローバリゼーションが急激に進展するなかで、地域住民にはローカリティの再発見が求められている。学校における「国際理解教育」、また自治体や民間の手によるさまざまな「交際交流事業」の実践を検討することによって、教育上の課題を明らかにする。　地域住民の国際化、異文化間交流・文化変容の過程と多文化共生について考察する。 【キーワード】 国際化、国際交流、異文化間教育、多文化共生	夏秋　英房（國學院大學教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 夏秋　英房（國學院大學教授）
15	学習社会の教育課題（まとめ） ～地域社会に果たす教育の役割～	地域社会の教育が、学校と家庭そして地域住民との共同作業・営みによって続けられることの必要性を、各回で学習した内容をもとに、「地域教育の創造」と「学習社会」における「地域社会の教育的再編」といった視点から「教育の課題」として提示する。社会における地域教育の役割と可能性について提示。 【キーワード】 学習社会、生涯教育、教育の再生、教育改革	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 夏秋　英房（國學院大學教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528866	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 家庭教育論 （’１２）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：住田　正樹　（放送大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：小川　正人　（放送大学教授）】

講義概要

家族は子どもが生まれると同時に所属する集団であり、子どもの発達にとっても最も基礎的、かつ重要な集団である。子どもが家族集団のなかで習得した価値・規範や思考・行動様式は、その後の子どもの発達を大きく規定し、方向づけていく。家族は子どものベースを形成し、一定の方向に向けていくのである。
この講義では、家庭教育を家族集団のなかでの子どもの発達に関わる事象として広義に捉え、子どもの発達過程およびその発達過程に関わる諸問題、また親の問題、家族の問題をも取り上げて実証的に考察していく。

授業の目標

子どもは、とくに幼少時の子どもは、家族集団が唯一の世界であるから家族集団のなかでのあらゆる事象からさまざまな社会化作用を受けつつ発達していく。だが、家族集団のなかでの子どもの発達過程は、家族集団の背後にある全体社会のあり方によって強く規定されている。
この講義では、家族集団のなかでの子どもの発達過程および諸問題を全体社会のあり方と関わらせて理解し、考察していくための社会的視点を得ることを目的とする。

履修上の留意点

発達心理学や家族心理学といった隣接科目をも履修しつつ、あるいは履修した上で、この講義を聞けば理解しやすいだろうし、また新聞、テレビ等で報道される家族や子どもに関する今日的な諸問題あるいは投書欄等の人々の、家族や子どもについての意見に関心を払いつつ講義を聞けば、より一層理解が深まるだろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
第Ⅰ部　現代家族と家庭教育				
1	子どもの発達と家庭教育	子どもの発達にとって家族は最も基礎的、かつ重要な集団である。だが子どもは家族を選べない。家族は子どもにとって運命的な集団である。家族集団の特徴および子どもの発達過程における家族集団の役割について考える。 【キーワード】 発達、社会化、家族集団、第一次集団、家庭教育	住田　正樹（放送大学名誉教授）	住田　正樹（放送大学名誉教授）
第Ⅱ部　家族における子どもの発達				
2	家族と子どもの発達（Ⅰ） －母親の役割－	子どもが誕生して最初に接するのは母親である。母親は子どもの発達過程においてどのような役割をもっているのか。その母親の役割は子どもの発達とともにどのように変わっていくのか。 【キーワード】 口唇危機、口唇依存期、母子一体性、肛門位相、排泄の訓練、愛の相互作用	住田　正樹（放送大学名誉教授）	住田　正樹（放送大学名誉教授）
3	家族と子どもの発達（Ⅱ） －父親の役割－	父親が父親の役割をもって子どもの前に登場するのはおよそ3歳前後からである。子どもの発達過程における父親の役割とは何か。また子どもの発達に伴い父親の役割はどのように変化していくのか。 【キーワード】 エディプス位相、性役割、手段的役割、表出的役割、同性モデル、父親の権威	住田　正樹（放送大学名誉教授）	住田　正樹（放送大学名誉教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	家族と子どもの発達（Ⅲ） －性役割の学習－	子どもは、家族内での初期的社会化を通して、その社会・文化において適切とされる性役割を学習する。これを「性の社会化」という。家族集団における性の社会化のメカニズムについて概観し、親の性役割意識のゆれと子どもの性の社会化との関係について考える。 【キーワード】 性役割、ジェンダー、性の社会化	田中　理絵（山口大学准教授）	田中　理絵（山口大学准教授）
第Ⅲ部　家庭教育の諸相				
5	育児観と子ども観の変容	育児意識や育児のあり方は時代とともに変化する。親の育児・教育観、子どもの意味と価値はどう変わったか。現代の育児問題や子育ての困難を相対化し、歴史的視点から江戸期から現代までの育児観、子ども観の変容を社会変動とのかかわりで考える。 【キーワード】 社会化エージェント、子どもの価値、子育ての社会史、家庭の誕生、近代家族	天童　睦子（宮城学院女子大学教授）	天童　睦子（宮城学院女子大学教授）
6	親になる過程 －親役割の取得－	子どもを持つこと、育てることが家族にとって、また女性の人生の一大イベントとして位置づけられる現代社会において、ライフコースの多様化とともに、親になることの意味、親アイデンティティのあり方も変化している。本章では、親役割の取得と「親になること」による親自身の社会化を検討する。 【キーワード】 女性のライフコース、未婚化・晩婚化、親アイデンティティ、親役割、親の社会化	天童　睦子（宮城学院女子大学教授）	天童　睦子（宮城学院女子大学教授）
7	母親の育児不安 －夫婦関係を中心に－	誰しも育児に不安をもつ。だが育児肯定感を上回るほどの育児不安は問題である。育児不安にもさまざまなタイプがあるが、今日の母親が育児不安に陥る社会的背景は何かを考える。 【キーワード】 育児不安、夫婦関係、父親の育児態度、精神的サポート	住田　正樹（放送大学名誉教授）	住田　正樹（放送大学名誉教授）
8	父親の育児参加	父親の育児参加の重要性が言われて久しいが、日本の男性の育児休業取得率は依然として低い。父親の育児参加をめぐる言説と現実を整理し、父親たちの家族意識、子育て意識に注目しながら家族にやさしい社会のあり方を考える。 【キーワード】 父親の再発見、育児休業制度、パパ・クォータ制、ケアラーとしての男性、ワーク・ライフ・バランス	天童　睦子（宮城学院女子大学教授）	天童　睦子（宮城学院女子大学教授）
9	育児環境の変化と育児支援	子どもを産み育てやすい環境整備の充実は、家族にとって重要な課題である。本章では都市環境における子育ての困難に注目し、育児環境の変化を家族の育児資源の不充足の背景要因とともに考える。また、育児政策、家族政策の変遷をたどりながら、とくに少子化時代の子育て支援の課題を検討する。 【キーワード】 都市型コミュニティ、公園デビュー、育児資源、少子化、子育て支援	天童　睦子（宮城学院女子大学教授）	天童　睦子（宮城学院女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	しつけの混乱 －親の不安と戸惑い－	しつけは、社会化の一形態であり、家庭教育を考えるうえで欠かせない課題である。家庭のしつけ力の低下を危惧する向きがあるが、はたして現実はどうか。しつけをめぐる不安、混乱の背景をさぐり、社会統制としてのしつけの変容と、現代のしつけの課題を理解する。 【キーワード】 家庭のしつけ、社会化と社会統制、見えない教育方法、育児不安、祖父母力	天童　睦子 (宮城学院女子大学教授)	天童　睦子 (宮城学院女子大学教授)
11	父親の不在	現代の産業社会は「父親なき社会」といわれている。その理由は何なのか。そして父親の不在は父親の物理的不在と精神的不在とに分けられるが、いったいに父親不在は子どもの発達にどのような影響を及ぼすかについて考える。 【キーワード】 父親不在、権威の喪失、夫婦関係、子どもの問題行動	住田　正樹 (放送大学名誉教授)	住田　正樹 (放送大学名誉教授)
12	ひとり親家族と子どもの生活	ひとり親家族とは、母親／父親と未成年の子どもからなる家族形態をさすが、その多くは母子家庭であり、離婚率の上昇を背景にその割合も増加傾向にある。ひとり親家族の背景・現状を踏まえながら、子どもの生活面における諸問題について考える。 【キーワード】 ひとり親家族、離婚、経済的困窮	田中　理絵 (山口大学准教授)	田中　理絵 (山口大学准教授)
13	児童虐待のメカニズム	1990年代以降、児童虐待に対する社会的関心が高まり、現在、国家的対策を要する社会問題として認識されている。児童虐待の発生のメカニズムと社会的対策について考える。 【キーワード】 社会問題、児童虐待、リスクアセスメント	田中　理絵 (山口大学准教授)	田中　理絵 (山口大学准教授)
14	親子関係と子どもの問題行動	子どもの問題行動の原因・責任は親、あるいは不適切な親子関係にあると考えられる傾向にある。一般少年と非行少年の調査結果を比較考察しつつ、親子関係と子どもの問題行動との関連について検討する。 【キーワード】 非行、重要な他者、親役割	田中　理絵 (山口大学准教授)	田中　理絵 (山口大学准教授)
第Ⅳ部　家庭教育の課題				
15	社会の変化と家庭教育	社会の変化とともに家族も大きく変化してきた。家族はどのように変化してきたのか。そして家族の変化に伴って親子関係はどのように変容し、また家庭教育にどのような問題が生じるようになったのか。今後の家庭教育の課題について考える。 【キーワード】 私生活化、少子化、個人主義、家族機能、子ども観、価値の多様化、家族の孤立	住田　正樹 (放送大学名誉教授) 天童　睦子 (宮城学院女子大学教授) 田中　理絵 (山口大学准教授)	住田　正樹 (放送大学名誉教授) 天童　睦子 (宮城学院女子大学教授) 田中　理絵 (山口大学准教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529161	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代社会の児童生徒指導 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Students Guidance in Modern Society (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：古賀　正義　（中央大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：山田　哲也　（一橋大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也　（放送大学教授）】

講義概要

児童生徒指導あるいは生活指導は、学校教育において、教科指導と並ぶ重要な教育活動である。今日、こうした指導は問題行動への対応という治療的予防的側面のみならず、全ての児童生徒を対象に、集団活動を通した社会的リテラシーや市民性の形成というより開発的側面への理解を必要としている。
講義では、児童生徒指導の意義・目的、児童生徒理解の方法、児童生徒集団の理解、教師の組織的指導方法など指導実践の最新の課題を解説するとともに、問題行動に対する具体的な指導法、また集団活動を通した社会性形成の方法、さらに家庭や地域社会、NPO等の教育関連諸機関と連携した実践といった今日的な諸課題についても取り上げる。全体を通して、受講する教師の皆さんをはじめ教育関係者の方々を意識しつつ、現代社会の中での児童生徒指導の意義を論じる。

授業の目標

児童生徒指導は、いうまでもなく児童生徒を客観的に理解することから始まる。そのために、現代社会を生きる児童生徒の特質を理解する方法や資料・情報を収集する方法を具体的な課題を通して学ぶとともに、彼らの意識や行動、態度の背後に、それらを規定している今日の社会的文化的諸条件が存在していることも理解して、現実的な児童生徒指導を進めていくための学究的視点を得ることを目的とする。さらに、教職の必修選択科目として、教育現場の実態を踏まえた指導方法の実践的理解も深めていきたい。

履修上の留意点

貧困格差社会を生み出す近年の急激な社会変化に呼応して学校を取り巻く社会・情報環境の変化も大きくなり、それに連れて、児童生徒の意識や行動、生活様式も変化して、新たな学校教育問題も発生している。こうした状況下では、現場に立つ教育関係者も新しい児童生徒理解の方法や指導方法、学校での組織的対応に迫られているといえる。受講生には、現職の教員や保育士、また教員志望の人たちなどが多いと思われ、さらには保護者、青少年育成や児童福祉などに携わっている人々も受講すると思われるので、現代社会の中の児童生徒指導に関わる諸問題をわかりやすく解説していきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
第Ⅰ部　児童生徒の成長発達と学校教育の役割				
1	児童生徒指導と現代の学校教育	急速な情報・社会環境の変化の中で、子ども・若者の問題行動を改善・予防するばかりでなく、学校における児童生徒指導を通して、社会参加・参画可能な資質を形成していくことが求められている。指導の現代的な意義と学校教育の役割の変化を概観する。 【キーワード】 日本型循環モデルの瓦解、市民性教育、生徒指導提要、開発的指導	古賀　正義（中央大学教授）	古賀　正義（中央大学教授） 山田　哲也（一橋大学大学院教授）
2	児童期・青年期の社会的心理的特徴と自己形成	子ども・若者にとって児童期から青年期に至る時期は、社会の担い手として自己を形成してゆくことが周囲から期待され、発達に伴う心身の変化も著しい時期である。ここでは社会的・心理的な側面から児童生徒が成長する時期を区分し、その特徴について考える。 【キーワード】 ライフサイクル、発達、自己形成	山田　哲也（一橋大学大学院教授）	山田　哲也（一橋大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	児童生徒集団の構造と機能	スマホなど情報ツールの拡大に伴って、子ども・若者のコミュニケーション能力の不足や仲間関係づくりの困難さがたびたび指摘されている。スクールカーストやキャラ化の進む教室内での生徒集団の構成のされ方を今日的に理解する。 【キーワード】 準拠集団化の変容、キャラ化、「優しい関係」、集団の力学	古賀　正義（中央大学教授）	古賀　正義（中央大学教授）
第Ⅱ部　児童生徒理解と指導の意義				
4	児童生徒理解の方法と教育相談	児童生徒の抱える問題の原因を「心の歪み」に求める声が拡大するとともに、臨床的な相談活動・カウンセリングマインドばかりでなく、ソーシャルスキルを育成する実践的学習を取り入れる必要性が指摘されるようになった。ここでは、児童生徒指導における教育相談の役割と、その中心にある「児童生徒理解」の方法について考える。 【キーワード】 児童生徒理解、教育相談、心理主義、観察法	田中　理絵（山口大学准教授）	田中　理絵（山口大学准教授）
5	教師・生徒関係の今日的特質	子ども・若者の価値観が私生活化・個人化するに伴って、校内暴力の認知の増加など教室の秩序を維持する規律統制的な方法が容易には受け入れられなくなっている。学力に伴う生徒文化の違いや学級の荒れの出現などを概観しつつ、教師・生徒関係の変容をめぐる今日的課題を検討する。 【キーワード】 学校のコンサマトリー化、反学校文化、学級崩壊、ジレンマ・マネージャーとしての教師	古賀　正義（中央大学教授）	古賀　正義（中央大学教授）
6	学校という社会空間と生徒の社会化	子どもは、学校という社会空間において、個人と環境がダイナミックに作用しあうプロセスを経験することを通して、「自由を行使しうる主体」へと社会化されてきた側面がある。ここでは、学校という社会空間が含み持っていた社会化機能を明らかにし、これを生かしていくことを提案する。 【キーワード】 教師のリーダーシップ、制度的な指導関係、特別活動、学級・生徒会活動、「自由を行使しうる主体」の形成	金子　真理子（東京学芸大学准教授）	金子　真理子（東京学芸大学准教授）
第Ⅲ部　児童生徒の今日的問題と指導のあり方				
7	不登校問題と子どもの居場所	不登校には様々なタイプがあり、心理的な葛藤を抱える事例のみを強調すると実態を捉え損ねるおそれがある。ここでは不登校が生じる背景を整理し、不登校経験者の生きづらさとかれらへの望ましいサポートのあり方について考える。 【キーワード】 不登校、フリースクール、社会的排除・包摂	山田　哲也（一橋大学大学院教授）	山田　哲也（一橋大学大学院教授）
8	児童虐待問題と教師の対応	近年、児童虐待が社会問題として広く認識されるにつれ、各種法制度の整備に基づき、学校にも早期発見の努力義務や関係機関への通告義務が課せられている。学校は児童および家庭の変化に気付きやすい場であることから、今後、ますますその役割期待が寄せられる。児童虐待の現代的特徴について理解したうえで学校に期待される役割と教師の対応についてみていく。 【キーワード】 児童虐待、早期発見・早期対応、教師の役割と限界	田中　理絵（山口大学准教授）	田中　理絵（山口大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	いじめ問題と学校の責任	いじめが生じる背景を整理し、問題の予防と発見・改善に教師が果たす役割について学ぶ。また、いじめをめぐる近年の法制度の整備を題材に、いじめ問題に対する社会的な責任の所在がどのように議論されたかを検討する。 【キーワード】 いじめと子ども集団、教師の責任、いじめ防止対策推進法	山田　哲也（一橋大学大学院教授）	山田　哲也（一橋大学大学院教授）
10	非行問題の現在と「健全育成」の課題	今日非行発生数は減少傾向にあるが、万引きなど初発型非行をはじめとした問題行動の課題は依然解消されていない。非行サインの理解や防止啓発の実践は学校教育にとってどのようにあるべきか。ラベリングや徳目主義などをこえた非行問題への正確な理解と矯正の実践の意義を考える。 【キーワード】 凶悪化言説、初発型非行、ボンドセオリー、矯正教育の技法	古賀　正義（中央大学教授）	古賀　正義（中央大学教授）
11	社会的リテラシーや市民性をはぐくむ児童生徒指導の実践	グローバル化が進む日本社会では、子ども・若者の市民性を育成し、新たな社会の形成者として社会参加参画の能力をはぐくむことが求められている。総合的な学習の時間などを使った体験学習やボランティア（社会参加）活動、異年齢集団活動など、すべての児童生徒を対象とした社会体験活動の方法、その有効性と課題を論じる。 【キーワード】 シチズンシップ教育、経験学習、サービスラーニング、ケイパビリティの要請	古賀　正義（中央大学教授）	古賀　正義（中央大学教授）
第Ⅳ部　児童生徒の指導と組織・機関の連携				
12	児童生徒理解と教師集団・教育行政による体制づくり	児童生徒に適切な指導を行うためには、学校現場と教育行政、様々な専門機関が連携し、多様な課題に応答できる組織体制づくりが不可欠である。ここでは児童生徒理解の視点から、学校内外の諸機関の望ましい連携のあり方について考える。 【キーワード】 複雑化する子ども問題、学校と諸機関の連携、領域横断的な対応、チームとしての学校	山田　哲也（一橋大学大学院教授）	山田　哲也（一橋大学大学院教授）
13	学校・家庭の連携と児童生徒理解	学校と家庭が連携して児童生徒の教育を行うことが求められているが、教師と保護者の関係性は、必ずしも相互信頼に基づくものにはなっているとはいえない。ここでは、教師と保護者が、児童生徒理解を互いに深め、教育のあり方をともに考えうるパートナーとしての関係性を築くための視点について考える。 【キーワード】 学校と家庭の連携、開かれた学校、モンスターペアレント、不信、親の学校参加、PTA	金子　真理子（東京学芸大学准教授）	金子　真理子（東京学芸大学准教授）
14	NPO・地域社会とのネットワーキングと児童生徒への教育的支援	相対的貧困や排除が強まる現代社会では、児童生徒の成長や発達にかかわるNPO・行政機関など多くの組織や地域社会がネットワークを組んで問題の改善にあたる必要がある。地域包括型の支援を基盤とした教育指導の可能性と現状から見た課題を考える。 【キーワード】 ネットワーク組織としての学校、NPO、地域包括型支援	古賀　正義（中央大学教授）	古賀　正義（中央大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	現代社会の変容と児童生徒理解	子ども・若者の生活世界の今日的変化は、ネット社会や格差社会の進展と不可分なものであり、そのことを踏まえて、児童生徒の正確な理解と指導実践の構築を図ることが必要である。「小さな社会としての学校」の再考を教育的に問いかける。 【キーワード】 格差社会、グローバル化と情報化の進展、学校が果たす役割の再考	山田　哲也（一橋大学大学院教授）	山田　哲也（一橋大学大学院教授） 古賀　正義（中央大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529005	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 乳幼児の保育・教育 （’１５）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Early Childhood Care and Education (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：岡崎　友典 （放送大学客員准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：梅澤　実 （埼玉学園大学教授） 〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也 （放送大学教授） 】

講義概要

本科目では、まず乳幼児を育てることの意味を問い直し、乳幼児が生活する主な場所としての家庭と、保育所や幼稚園の存在意義を確認し、「保育」、「教育」の基本概念を整理する。さらに乳幼児の発達的特徴およびその歴史的展開と現状について把握し、家庭、保育所、幼稚園、地域社会の具体的場面での援助のあり方について考察する。特に方法原理として「環境を通しての保育・教育」、「遊びを通しての保育・教育」、「言葉の発達」、「表現活動」、また「児童文学」、「多文化共生」といった側面から、専門職者だけでなく乳幼児にかかわる大人たちが習得すべき知識・技術について学ぶ。

授業の目標

講義を通して、保育・教育の専門職者（保育士、教諭）が保育所や幼稚園で担当している乳幼児の指導をより豊かなものにするための基本原理と指導方法を学ぶとともに、乳幼児にかかわる父母・保護者、地域住民が、子育てを通して次世代を担う人材の養成をするために、専門職者と連携・協力する態勢を作ることの必要性について学ぶ。さらに、今日的な政策課題としての「子育て支援・ファミリー・サポート」のあり方や、学校教育と就学前教育の関連について、「幼・小の接続」といった視点から考察する。

履修上の留意点

本科目は教育学にかかわる専門科目なので、導入科目の「教育学入門」「教育の社会学」「発達科学の先人たち」を履修していることが望ましい。また、直接子育てや保育・教育に携わっていない方も、この機会に身近にいる乳幼児の「生活や育ち」に眼を向けるとともに、保育所や幼稚園の存在と、その意義について関心をもって学習していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	乳幼児を育てるということ	人の営みと動物のそれとの違いは何か？ そのような問いを根底に教育の意味を考え、保育所・幼稚園の基本的役割とそれらに関わる用語の整理をしながら、乳幼児を育てるとはどういう行為か考察する。 【キーワード】 種の保存、個体の保存、社会化、コメニウス、カント、ルソー、教育基本法、保育所保育指針、幼稚園教育要領	梅澤　実（埼玉学園大学教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 梅澤　実（埼玉学園大学教授）
2	乳幼児の発達課題	乳幼児期の発達観の3つの典型的説(生得説、経験説、輻輳説)から相互作用説について、また、ハヴィガーストとエリクソンの発達課題論について考察し、乳幼児期に対する教育と保育における、「発達」について理解する。 【キーワード】 生理的早産、依存性、可塑性、発達課題、ハヴィガースト、エリクソン	梅澤　実（埼玉学園大学教授）	梅澤　実（埼玉学園大学教授）
3	家庭での生活とそこでの育ち －家族周期の変化と子育て－	子どもは、家庭で生まれ、そこで育つ。家庭は子どもにとって運命的存在であるが、その家庭も社会条件や変化と無関係ではいられない。ここでは家庭の教育機能を社会学的視点から捉え、統計や各種調査を援用して、「家族・家庭」の役割について明らかにする。 【キーワード】 家族形態、生活周期、ライフサイクル、マザリング、母子相互作用	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	保育所・幼稚園の生活	保育所と幼稚園の歴史的変遷をたどり、現在の保育所、幼稚園がこれまでの遺産の何を引き継ぎ、乳幼児にどのような生活の場を用意しようとしているかについて学ぶ。それぞれの基本的な考え方や保育の内容を理解した上で、幼保一元化など、これからのあり方について考察する。 【キーワード】 フレーベル、オーベルラン、託児所、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保一元化	井上　清美（川口短期大学准教授）	井上　清美（川口短期大学准教授）
5	地域社会での生活とそこでの育ち －地域社会の変容と子育て－	乳幼児にとっての地域社会の果たす役割、「地域の教育力」といった視点から考察する。急激に変動する社会のなかで、地域社会は多様な課題を内包している。子どもの育つ身近な環境である地域社会の保護者と地域住民の人間関係、とくに地域住民組織の果たす役割について明らかにする。 【キーワード】 人口の流動性、都市化、地域コミュニティ、地域の教育力	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授）
6	遊びと環境を通しての保育・教育	子どもにとって遊びが重要な意味をもつのは、子どもは遊ぶ体験により、さまざまなことを学んで成長していくからであろう。ここでは遊びとは何かをこれまでの諸理論に学び、次に遊びと教育の関係、さらに、保育における環境の重要性を考察する。 【キーワード】 遊びの定義、フレーベル、ピアジェ、恩物、教具、遊びの援助	押元　信幸（東京家政大学准教授）	押元　信幸（東京家政大学准教授）
7	表現活動と心の育ち	子どもの表現活動は将来の創造的活動の根幹をなすものである。ここではまず表現と創造性の関係について学び、さらに実践例を取り上げながら、子どもの表現活動にどのような意味や心の育ちがあるかを考える。 【キーワード】 シュタイナー教育、レッジョ・エミリア・アプローチ、創造のプロセス、コミュニケーション、模倣	押元　信幸（東京家政大学准教授）	押元　信幸（東京家政大学准教授）
8	言葉の発達と教育	乳幼児が次第に言葉を話すことができるようになるということは驚異的なことである。乳幼児はどのように言葉を獲得するのかを概観し、保育者が乳幼児の言葉にどのようにかかわればよいかを考察する。 【キーワード】 エミール、ピアジェ、ヴィゴッキー、外言、内言、喃語、マザーリーズ、読み聞かせ	梅澤　実（埼玉学園大学教授）	梅澤　実（埼玉学園大学教授）
9	児童文学を通しての保育・教育	児童文学とはどのようなものかを、定義における問題も含めて概観し、多様なジャンルの中でも乳幼児と関連の深い絵本とおとぎ話に焦点を絞って、それらの特色を捉えるとともに意義を考察する。こうした理論面に加え、体験者の事例も検討することで、児童文学が保育・教育に貢献する道を探る。 【キーワード】 絵本、おとぎ話、推薦図書、読み聞かせ、物語スキーマ	芦田川　祐子（文教大学准教授）	芦田川　祐子（文教大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	児童文学から見える子どもの姿	子どもの概念に関する理論を参照し、時代や地域によって多様な観点があることを確認する。それを踏まえて、児童文学に表れる子どもの描写を具体的に読み解くことで、子どもの多様性への理解を深める一助とし、児童文学における子どもと大人の関係を扱った理論から、保育・教育のあり方を考える。 【キーワード】 子ども観の変遷、他者性、多様性、成長、児童文学の不可能性	芦田川　祐子（文教大学准教授）	芦田川　祐子（文教大学准教授）
11	国際化社会における保育・教育 －多文化化と保育・教育－	子育てや保育の場における、多国籍化や多文化化が進行するなかで、多様な文化や価値観が共存する多文化社会への質的転換が今日的課題になっている。外国籍の乳幼児・保護者の心理的特質と園環境の構造について、異文化間教育といった視点から考察する。 【キーワード】 国際化、多国籍化、異文化間教育、アコモデーション、多文化共生、日本語教育	岡崎　友典（放送大学客員准教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授）
12	子育て支援とファミリー・サポート	現代の日本において、なぜ子育て支援が必要とされているのかを理解し、その背景について学ぶ。1990年代以降、政府によって展開されてきた子育て支援や地域での実情を知ることにより、子どもにとって望ましい支援のあり方について考察する。 【キーワード】 家族の多様化、エンゼルプラン、新エンゼルプラン、子ども・子育て応援プラン、子ども・子育て新システム、ファミリーサポート事業	井上　清美（川口短期大学准教授）	井上　清美（川口短期大学准教授）
13	保幼小の接続を考える －保幼小連携カリキュラム－	子どもにとって劇的な環境変化が起こる保育所・幼稚園から小学校への接続について、保幼小連携のカリキュラム開発の歴史を概観し、そのあり方について考察する。 【キーワード】 小一プロブレム、教育課程、保育課程、カリキュラム、誘導保育案、接続期	梅澤　実（埼玉学園大学教授）	梅澤　実（埼玉学園大学教授）
14	保育・教育の専門職者の育ち	保育者は、子どもとともに成長するとも言われる。保育者は、目の前の子どもたちが見せるさまざまな姿に対応しながら、新たな手立てを紡ぎだすことが求められている。倉橋惣三と斎藤喜博の教育論に耳を傾け、初任保育者の成長過程から専門職者としての保育者について考察する。 【キーワード】 専門職者、倉橋惣三、斎藤喜博、意思決定、反省的実践家、振り返り（リフレクション）	梅澤　実（埼玉学園大学教授）	梅澤　実（埼玉学園大学教授）
15	乳幼児の保育・教育の現状と課題	子どもたちを取り巻く自然・社会環境の変化は著しい。その変化は、これからも複合的に子どもたちに影響を与えるであろう。ここでは、「幼保一元化」「遊びと学び」「情報化」「家庭・地域との連携」の4点から、これからの幼児教育の課題を考察する。 【キーワード】 幼保一元化、早期教育、教育格差、ヘッド・スタート計画、メディア、家庭・地域との連携	梅澤　実（埼玉学園大学教授）	岡崎　友典（放送大学客員准教授） 梅澤　実（埼玉学園大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529064	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 学校と法 （’１６）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Law and Education (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：坂田　仰　（日本女子大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：小川　正人　（放送大学教授）】

※この科目は「学校と法（’12）」の一部改訂科目です。
改訂回は8，9，10，11，13，14回です。
なお、12回については「学校と法（’12）」の11回です。

講義概要

日本社会の価値観の多様化を受けて、学校教育の在り方、教員の言動等に対する法的視点からの異議の申立てが増加する傾向にある。「教育実践は全人格的な営みであり、法を媒介とした権利・義務的関係には馴染まない」という考え方は、少なくない保護者や地域住民にとっては既に過去のものとなり、教育紛争を司法の場において解決しようとする傾向も勢いを増している。だがその一方で、教育現場を中心に、「学校運営に法は不要である」とする旧態依然とした考え方が依然として存在していることも事実である。本講義では、法的視点から学校教育の「現在」を分析することに主眼を置く。学校事故等、現実の裁判例を取り上げ、学校（教員）、保護者、地域住民という教育主体間の関係について、「法」というプリズムを通して分析を進めていく。

授業の目標

全15回の講義を通じて、学校現場で生じる可能性の高い事件、事故等について、法的視点から理解するために必要な基本的知識を習得することを目標とする。教育紛争やスクール・コンプライアンス（法令遵守）に関心をもつ教育関係者（現職の教職員、行政職員）、保護者、市民等を主たる受講対象者に想定し、具体的な事例の分析を通して、メディアが報道する学校教育に関わる事件や事故等を理解し、整理する際に必要となる基本的な事項を学べるものとしたい。

履修上の留意点

学校教育の現状という意味において、「日本の教育改革」（2015年開講科目　ラジオ）とは関連する部分が少なくない。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校教育の法化現象と教育訴訟の構造転換	学校教育の法化現象の現状を把握し、その影響を受けて教育訴訟の構造転換が生じていることを論じる。 【キーワード】 信頼関係論、学校教育の法化現象、教育訴訟の構造転換、権利・義務的学校運営	坂田　仰（日本女子大学教授）	坂田　仰（日本女子大学教授）
2	学校教育と子ども・保護者の権利	子どもの権利ブーム、モンスターペアレントといった現代的状況について、憲法学からみた学校教育の存在意義という視点から考える。 【キーワード】 親の教育権、国民統合、教育の私事化、教育の公共性	坂田　仰（日本女子大学教授）	坂田　仰（日本女子大学教授）
3	教育権論争と学習指導要領の法的拘束力	戦後の教育法学において中心的テーマを形成してきた教育権論争について、最高裁判所の動向に留意しつつ論じる。 【キーワード】 教育権論争、国家の教育権、国民の教育権、教師の教育の自由、旭川学力テスト訴訟	坂田　仰（日本女子大学教授）	坂田　仰（日本女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	学校教育における平等と法	男女共同参画社会、特別支援教育等、学校教育に関係する平等問題について、日本国憲法等、法的視点から検討する。 【キーワード】 平等、教育の機会均等、マイノリティの教育権、男女別学、障害児教育	坂田 仰（日本女子大学教授）	坂田 仰（日本女子大学教授）
5	学校教育における信教の自由・政教分離と法	日本国憲法の政教分離条項が適用される公立学校を中心に、学校教育における宗教を巡る問題を考える。 【キーワード】 信教の自由、政教分離、教育基本法、剣道拒否訴訟、日曜参観欠席訴訟	坂田 仰（日本女子大学教授）	坂田 仰（日本女子大学教授）
6	学校事故と法Ⅰ	法化現象の進展が特に顕著な分野である学校事故について、基本的な法制度と学校側が責任を負うべき範囲について検討する。 【キーワード】 学校事故、国家賠償法1条、国家賠償法2条、公権力の行使、設置管理の瑕疵	岩橋 健定（岩橋総合法律事務所弁護士）	岩橋 健定（岩橋総合法律事務所弁護士）
7	学校事故と法Ⅱ	学校事故について、教育現場での場面や事故の類型ごとに、裁判例を踏まえて、学校側が責任を負うべき範囲について検討する。 【キーワード】 学校事故、事故類型、注意義務、予見可能性、回避可能性	岩橋 健定（岩橋総合法律事務所弁護士）	岩橋 健定（岩橋総合法律事務所弁護士）
8	学校における体罰と法	明治期以来一貫して法令によって禁止されながらも、依然として深刻な状況にある体罰について、法的視点から検討する。 【キーワード】 体罰禁止法制、有形力の行使、許される体罰、体罰判例、アメリカ合衆国	坂田 仰（日本女子大学教授）	坂田 仰（日本女子大学教授）
9	児童・生徒の懲戒と法	新しい荒れといわれる少年非行第4の波、児童・生徒の問題行動の増加とともに再びクローズアップされつつある性行不良による出席停止、懲戒処分の在り方について考える。 【キーワード】 児童・生徒の問題行動、新しい荒れ、児童・生徒に対する懲戒処分、法的な懲戒、事実上の懲戒、出席停止措置	黒川 雅子（淑徳大学准教授）	黒川 雅子（淑徳大学准教授）
10	いじめ問題と法	いじめ防止対策推進法が制定されるなど、学校におけるいじめ問題に対する社会的関心が高まる中、いじめの防止等に果たす学校、教職員、教育委員会等の役割を考える。 【キーワード】 いじめ防止対策推進法、いじめ防止基本方針、いじめ判例、生徒指導、ネットいじめ	坂田 仰（日本女子大学教授）	坂田 仰（日本女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	学校と児童虐待防止法	児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）の改正を受けて重要性が増している学校、教職員の役割について考える。 【キーワード】 児童虐待の防止等に関する法律、早期発見、通告、予防教育と啓発活動、親権者の懲戒権	黒川　雅子（淑徳大学准教授）	黒川　雅子（淑徳大学准教授）
12	学校教育と情報法制	近年注目されつつある学校において収集・生産・保有されている情報の管理と開示のあり方について、法的視点から検討する。 【キーワード】 学校情報、個人情報、情報公開、個人情報保護制度、情報公開制度	岩橋　健定（岩橋総合法律事務所弁護士）	岩橋　健定（岩橋総合法律事務所弁護士）
13	教員の非違行為と法Ⅰ	近年、社会的批判が高まっている教員の非違行為、懲戒処分等について、裁判例を織り交ぜながら、法に基づく学校運営、法令遵守という視点から論じる。 【キーワード】 非違行為、懲戒処分、地方公務員法、懲戒処分の処分基準	山田　知代（帝京科学大学専任講師）	山田　知代（帝京科学大学専任講師）
14	教員の非違行為と法Ⅱ	第13回に引き続き、社会的批判が高まっている教員の非違行為について、裁判例を織り交ぜながら、法に基づく学校運営、法令遵守という視点から論じる。 【キーワード】 信用失墜行為の禁止、守秘義務、職務命令、飲酒運転、国旗・国歌	山田　知代（帝京科学大学専任講師） 坂田　仰（日本女子大学教授）	山田　知代（帝京科学大学専任講師）
15	学校・法・社会	「公共性」という言葉に着目し、学校と社会の関係、学校という存在そのものについて再検討する。 【キーワード】 学校の公共性、公立学校、私立学校、特区学校、教育の公共性、教育の私事性	坂田　仰（日本女子大学教授）	坂田　仰（日本女子大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528998	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本の教育改革 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Educational Reforms in Contemporary Japan (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：小川　正人　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：岩永　雅也　（放送大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

2000年前後からの構造改革、経済のグローバル化、2009年の民主党政権誕生と2012年の自民党の政権復帰等、2000年以降の大きな社会経済・政治の大変動の下で、近年、教育政策が大きく変化し、多様な教育改革が試みられている。これまでの教育改革は、教育内容を中心とした部分的見直しを特徴としたのに対して、今次の教育改革は、教育の構造改革と称され、学力観の転換や教育課程の見直しと共に、教育活動とその成果を誰がどのように適切に管理していくのかという教育の統治（ガバナンス）のあり方を見直すために、学校教育制度、教育行政手法等も同時に大きく改革しようとする特徴をもっている。その試みは、社会経済・政治からの「外圧」だけではなく、1950年代に確立し継続してきた教育制度が60年を経て「内在」的にも様々な問題を抱える中で問われてきた課題への模索でもある。
本科目では、国レベルの教育政策の変化と主要な領域の教育改革を概説しその取り組みの課題を考えていく。

授業の目標

今日の教育政策や教育改革に関する基本的知識等を身につけ、新聞・テレビ等の教育関係の報道内容を理解できるようにしたうえで、教育政策や教育問題をめぐる主要な論点・争点に対して自分で判断し自分の意見をまとめることができるような学習に資することをめざす。

履修上の留意点

本科目に関係する科目として「教育の社会学(’15)」「生涯学習を考える (’17)」「学校と法(’16)」「現代日本の教師－仕事と役割－(’15)」等が開講されているので、自分の関心に沿って受講することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	戦後日本の教育改革の展開 －沿革と課題－	戦後日本の画期となる教育改革の展開を学ぶ。戦後初期の教育改革、1970年代から1980年代の量的拡大から質的転換を図ろうとし生涯学習社会の提唱と「自由化」改革の端緒をつくった臨教審改革、2000年代以降に本格化する教育の構造改革の試み等、それら諸改革の背景とその歴史的位相を考える。 【キーワード】 戦後教育改革、米国教育使節団報告書、憲法・教育基本法体制、後発効果、社会的選別機能、臨教審、21世紀型学力、教育の構造改革	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授） 岩永　雅也（放送大学教授）
2	国の教育行政機関と教育改革の政治過程	国の教育政策決定過程と行政運営の実際をそれに携わる政府（内閣、文部科学省等）や政党等の活動を通して学ぶ。同時に、戦後長期間に亘った自民党政権下（一党優位体制）における教育政策決定のしくみと過程の特徴を概観した後、2001年以降の中央省庁再編等によって、政権交代（2009年、2012年）を跨いで進展した政治主導による教育改革の政治過程の変容を追いながら国の教育政策決定のあり方について考える。 【キーワード】 文部科学省、政権与党、文教族、教育下位政府（教育業界）、中央省庁再編、内閣府、政治主導	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）
3	国と地方の教育行財政改革	戦後初期の教育改革によって創設され近年まで維持されてきた国と地方を通じた教育行財政制度の仕組みと特徴を学ぶ。その上で、その教育行財政制度が2000年前後以降の政治、社会経済等の変化の下、どのような改革論議の中に置かれどう改革されてきたのかを確認し、今日の教育行財政制度の基本的課題を考える。 【キーワード】 義務教育費国庫負担制度、県費負担教職員制度、義務教育の構造改革、出口管理型教育行政、教育振興基本計画、総額裁量制、人事権委譲、条例による事務処理特例	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	自治体教育行政と教育委員会制度改革	教育行政の民主化・分権化の象徴ともいえる教育委員会制度の歴史と近年の改廃論議の経緯、直近の制度改革について学ぶ。教育委員会制度は、地域社会が主体となって地域の学校・教育を管理経営するしくみとして戦後教育改革によって誕生した。しかし、その後の政治・社会の変化の下で様々な論議と制度改革を経て今日に至っている。近年の改廃論議と直近の制度改革を踏まえて今後の自治体教育行政のあり方について考える。 【キーワード】 行政委員会、教育委員会法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地教行法）、地方分権改革、教育再生実行会議	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）
5	幼児教育改革と幼保一体化	幼稚園・保育所の幼児教育・保育は、都市圏での保育所待機児童の増大と全国的な少子化という大きな流れを背景に、幼稚園と保育所を一体とすることと公的投資を増やすことなどの課題を20年来抱えてきた。2012年8月に「子ども・子育て支援法」が成立し、幼保の一体化が幼保連携型認定こども園を中心に進み始め、公的投資も増えていく見込みである。その質的向上が求められる。 【キーワード】 幼稚園、保育所、認定こども園、子ども・子育て支援、幼保一体化、幼児教育、保育	無藤　隆（白梅学園大学教授）	無藤　隆（白梅学園大学教授）
6	幼小・小中・中高の連携・接続・一貫教育	校種間の連携・接続はまず中高の間の中等教育学校の設立が制度化された。ついで、小中の間の連携・接続からさらに一貫教育の可能性が目指されている。幼児教育（幼稚園と保育所）と小学校の間の連携はカリキュラムの接続の推進へと向かっている。学校校種毎の改革が進む中で校種間のつながりを改善することはトータルとしての学力と人間的成長を学校教育が保証するための手立てとして大きな意義を担うようになってきた。 【キーワード】 中等教育学校、小中接続、小中一貫、幼小接続、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校、校種間連携	無藤　隆（白梅学園大学教授）	無藤　隆（白梅学園大学教授）
7	学校を巡る改革の動向と教育課程	国際的な学力調査により国の学力水準を測定することが世界的に定着した。それは教育が国力の基礎だという認識が定着したからである。特に、OECD諸国において、基礎学力に関わる調査に加えて、知的道具の活用を中心とする学力の見方が打ち出され、PISA調査として具体化された。そこでの学力の見方は日本の学習指導要領の改訂にも生かされている。また文科省は「全国学力・学習状況調査」を毎年行い、基礎学力とPISA型の学力の把握に努めるようになった。さらに今後、21世紀型学力の構想を巡って、その発展が検討されている。 【キーワード】 学力、基礎学力、学力調査、PISA、全国学力・学習状況調査、21世紀型学力	無藤　隆（白梅学園大学教授）	無藤　隆（白梅学園大学教授）
8	「開かれた」学校づくりの動向と課題	公立義務教育学校は、地域の文化と子育ての中核的な存在で常に地域との係りの中でそのあり方が問われてきた。特に、1980年代以降、家庭や地域社会等が大きく変容する下で、公立学校を巡って様々な改革論議がなされ、保護者・子どもの地位・発言権の確保の課題や保護者・地域の学校参加・連携協力等による「開かれた」学校づくりなどが試みられてきている。それら近年の動向を学びながら、今後の保護者・地域との係りと「開かれた」学校づくりの課題を考える。 【キーワード】 学校部分社会論、子ども人権オンブンズパーソン、学校内第三者機関、いじめ防止対策推進法、学校参加、学校評議員（制度）、学校運営協議会（コミュニテイ・スクール）	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）
9	教員を巡る制度改革	近年の教員を巡る制度改革の中で最も重要な改革は、義務教育費国庫負担制度の改革であった。教員の給与・財源を概観し、国庫負担制度の改革の背景を検討するとともに、メリハリのある給与への移行という観点から始まった能力による評価と教員管理のシステム、学校組織の変革の流れをたどる。同時に、地方分権、公務員改革という制度変革が、教員にはどのように表れてくるのかについて考える。 【キーワード】 義務教育費国庫負担制度、メリハリのある給与、教員評価、教育委員会制度、公務員制度改革	油布　佐和子（早稲田大学教授）	油布　佐和子（早稲田大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	教員養成の改革	教員の資質向上策は、常に教育改革の中心的課題である。我が国の、大学における開放制・免許主義の原則に基づく教員養成の現代的課題と、2006年中教審答申およびその制度改革（教職実践演習設置、教職大学院開設、教員免許更新制度導入）について概観する。また、高い資質を有する教師の養成の内容について、海外の動向も紹介しながら、改革の状況を検討し、どのような教員が期待されているのかを考える。 【キーワード】 中央教育審議会、教育実践演習、教職大学院、免許更新制度、専門職規準、アクレディテーション	油布　佐和子（早稲田大学教授）	油布　佐和子（早稲田大学教授）
11	後期中等教育の多様化	後期中等教育、つまり高校教育のシステムは、戦後の単線化を基軸とする学校制度の中で、普通科の増設、コンプリヘンシブ化など、総合化政策の基調にあった。しかし、臨教審改革以降は政策に大きな変化が生じ、高校教育に多様化の方向性が強まってきた。ここでは、1980年代以降の後期中等教育政策の転換と、それによる高校教育の変化を俯瞰する。 【キーワード】 後期中等教育、高等学校、普通科、職業科、総合制高校、専門高校、単位制	岩永　雅也（放送大学教授）	岩永　雅也（放送大学教授）
12	高等教育改革の背景	戦後長い間、日本の教育は「初等中等は一流だが高等は三流」という国際的評価を受けてきた。そうした日本の大学教育への批判は、大学内部からも学園紛争のような形で、すでに1970年代初頭には噴出していたのである。1980年代に始まる教育改革の一つの重要な領域として高等教育が上がってきたのも、そうした背景からすれば当然のことだったのである。ここでは、日本の高等教育改革の背景を、歴史的な視点も交えながら見ていく。 【キーワード】 大学、新制大学、私学、マスプロ教育、定員超過、進学率、短期大学、科学技術人材養成	岩永　雅也（放送大学教授）	岩永　雅也（放送大学教授）
13	高等教育における制度改革	日本における高等教育レベルでの本格的な改革は、ようやく1990年代に入って始まったといってよいだろう。大学審議会の設置、設置基準の大綱化、遠山プラン等々、日本の高等教育システムの根幹に関わる制度上の施策が矢継ぎ早に現実のものとなっていった。ここでは、そうした高等教育改革の経緯と展開、そして諸施策の結果とその影響について詳細に検討していく。 【キーワード】 大学設置基準、大綱化、アクレディテーション、大学評価、学位授与機構、遠山プラン、国立大学法人化、現代GP	岩永　雅也（放送大学教授）	岩永　雅也（放送大学教授）
14	教育改革と生涯学習	1980年代後半の臨教審答申と、それを受けて成立した90年の「生涯学習振興法」により、生涯学習体系への移行という国の教育改革政策はきわめて明確なものとなった。それに伴って、地域の現場では教育委員会による社会教育行政と、首長部局による生涯学習行政との並立という状況が出来した。そこで何が変わり、どのような状況が生じたのか、学習者にとってそれにはどのような意味があったのかを明らかにした上で、現在の生涯学習行政について検討する。 【キーワード】 「46答申」、臨教審、新自由主義、教育改革、セーフティネット論、「生涯学習振興法」、首長部局	岩永　雅也（放送大学教授）	岩永　雅也（放送大学教授）
15	日本型教育改革のゆくえ	日本における近代以降「第三の教育改革」といわれる1970年以降の教育改革について、その意味と意義、他の諸国における教育改革との共通点と相違点などを踏まえた上で、今後の日本の教育システムの問題点と課題、そしてその改革の方向性と可能性について、多角的に議論する。 【キーワード】 中央教育審議会、教育改革国民会議、教育基本法改正、私事化	岩永　雅也（放送大学教授）	岩永　雅也（放送大学教授） 小川　正人（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529170	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　子ども・青年の文化と教育　　（’１７）＝　（R）

英文名　　＝　〔 Education and Culture of Children and Youth (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：岩田　弘三　（武蔵野大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：谷田川　ルミ　（芝浦工業大学准教授）　〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也　（放送大学教授）　】

講義概要

子どもや青年(若者)は、大人とは異なる独自の「子ども文化」・「青年文化」を作り上げている。そして、そういった文化のみならず、家庭や学校や友人など、さまざまな社会的エージェント(組織・集団)に影響を受け、社会化され一人前の大人に成長していく。それでは、そのような影響を受けながら、現代の子どもや青年(若者)は、どのように成長して一人前の大人になっていくのか。そして、そこにはいかなる問題、とくに現代的問題が存在するのか。さらに、そのような問題に対し、どのような支援が行なわれているのか。以上のような関心を軸に、この科目では、教育学・社会学・心理学・社会福祉学という学際的な視点から、子ども・青年の成長と教育について、社会的側面を中心にしながら総合的に考察する。

授業の目標

現代の子ども・青年の成長を取り巻く状況はいかなるものであり、そこにはどのような問題が横たわっているのかといった点について、個別の専門学問領域の枠を超えて、社会的に広い視野に立ち、人間の成長と教育に関する客観的・総合的に考察する力を身につける。

履修上の留意点

・他の教育関連の科目、とりわけ教育学入門、教育社会学、発達心理学などの関連の科目も、あわせて履修することが望ましい。
・印刷教材を熟読したうえで、放送教材に取り組むこと。双方の教材をあわせて学習することで、この科目の学習目標が達成される。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	子ども・青年の文化と教育をとりまく社会の現状	子どもや青年をとりまく環境は、近年大きく変動してきた。本章では、戦後の子ども・青年文化の変遷を追うとともに、社会的・物質的な環境の変化に伴う、現代の子どもや青年の特性を概説し、問題の諸相を明らかにする。 【キーワード】 子ども・青年文化、情報化社会、教育問題	谷田川　ルミ（芝浦工業大学准教授）	谷田川　ルミ（芝浦工業大学准教授）
2	現代社会における子ども・青年の友人関係	子どもや青年は、学校や大学という同年代が集まる空間で一日の大半を過ごしており、そこで独特の人間関係を形成しながら過ごしている。近年においては、子どもたちの人間関係も情報化社会の影響を受けて変容してきている。本章では、現代の中高生の友人関係と大学生の友人関係に着目し、現代の子ども・青年たちがどのような友人関係を形成しているのかを各種調査結果から概観し、その特徴と問題点を考察する。 【キーワード】 友人関係、情報化社会、スクールカースト、友だち地獄、コミュニケーション能力	谷田川　ルミ（芝浦工業大学准教授）	谷田川　ルミ（芝浦工業大学准教授）
3	子ども・青年の社会性の発達	現代の子どもたちは社会性を「自然に身につける」ことが難しくなったと言われる。最初に、児童期・思春期の仲間関係の発達について解説した後、子どもたちをとりまく環境の変化と仲間関係をめぐる問題について心理学の視点から解説する。 【キーワード】 社会性、ギャング・グループ、チャム・グループ、ピア・グループ、小1プロブレム	岡田　佳子（芝浦工業大学准教授）	岡田　佳子（芝浦工業大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	子ども・青年の社会性を育てる教育	子どもたちをとりまく環境の変化にともない、児童期・思春期に必要な仲間関係を十分に経験することのできない現代の子どもたちは、社会性を自然に身につけることが難しくなってきている。社会性を育てる教育の必要性、社会性としてどのような力を育てたらよいのか、どのようにして社会性を育てるのかについて解説する。 【キーワード】 ソーシャルスキル教育、体験学習	岡田　佳子（芝浦工業大学准教授）	岡田　佳子（芝浦工業大学准教授）
5	「特別の教科　道徳」と中学校教育	小中学校で週に1時間実施されている「道徳の時間」は、従来は教科ではなかったが、「特別の教科」という新たな枠組みで実施されることが決まった。この改革の経緯をふまえ、道徳教育の現状と課題を検討したうえで、これからの道徳教育はいかにあるべきかについて、考察する。 【キーワード】 「特別の教科　道徳」、内容項目、四つの視点、いのちの教育、キャリア教育	冨江　英俊（関西学院大学准教授）	冨江　英俊（関西学院大学准教授）
6	部活動と体罰問題	中学・高校の運動部活動においては、指導の一環として、学校教育法で禁止されているはずの体罰が横行していることも少なくない。文部科学省による体罰の定義をおさえ、アンケート調査から体罰の実態を明らかにし、なぜ体罰は起こるのかを考察し、今後の展望について述べる。 【キーワード】 体罰の定義、勝利至上主義、努力志向	冨江　英俊（関西学院大学准教授）	冨江　英俊（関西学院大学准教授）
7	学校と地域社会	学校と地域社会の関係を、コミュニティという概念をとおして、理論的な面を中心に探っていく。戦後日本においてのその関係の推移を概観し、近年増えてきているコミュニティ・スクールについて、その先駆的な事例を考察し、これからの地域社会と学校の連携のあり方について検討する。 【キーワード】 地域社会、コミュニティ、「コミュニティ・スクール」、公立小中学校の学校選択制	冨江　英俊（関西学院大学准教授）	冨江　英俊（関西学院大学准教授）
8	子ども・青年とジェンダー	以前の時代に比べ、現代社会においては、男女平等の意識が高まり、女性の社会進出や家庭内での家事育児の分担も進んでいると言われている。本章では、現代の子ども・青年のジェンダー意識の様相を各種調査の結果から概観し、現代的な特性を明らかにする。 【キーワード】 ジェンダー、性別役割分業意識、キャリア教育	谷田川　ルミ（芝浦工業大学准教授）	谷田川　ルミ（芝浦工業大学准教授）
9	家庭～学校～大学への勉学文化の連続性	我々が身につけている文化的な嗜好や傾向は一朝一夕に獲得したものではなく、子どもの頃の家庭環境のあり方や学校生活の送り方に大きな影響を受けたものである。本章では、大学生を例にとり、彼らが身につけている文化が、子ども時代から高校生活を経て大学生に至るまで、どのように連続しているかといったメカニズムを明らかにする。 【キーワード】 文化資本、大学生文化、文化の連続性	谷田川　ルミ（芝浦工業大学准教授）	谷田川　ルミ（芝浦工業大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	近年キャンパス文化事情 ーまじめ化する大学生と学生の「生徒化」・大学の「学校化」	とくにバブル経済崩壊を転機として日本では、大学生のあいだには勉強志向が強まり、「まじめ・勉強」キャンパス文化が、主流をしめるようになったといわれる。そのような傾向が進展した原因を、就職状況、および「大学の学校化」、大学生の「生徒化」などといった要因をもとに検討する。なお、放送教材では、就職問題の専門家をゲストとして招き、とくに就職問題について、印刷教材で触れることのできなかった内容を、大幅に補足する形で解説・検討する。 【キーワード】 キャンパス文化、まじめ・勉強文化、大学生の生徒化、大学の「学校化」、就職	岩田　弘三（武蔵野大学教授）	岩田　弘三（武蔵野大学教授）
11	アメリカの大学におけるキャンパス文化の歴史①：カレッジの時代	キャンパス・ライフの歴史は、遊びたがる学生と教えたがる教師の葛藤の歴史であったとされる。現在のアメリカの大学生は、よく勉強するといわれる。しかし、そうなったのは、それほど昔の話ではない。アメリカの大学でも「遊びたがる学生」たちが、さまざまな課外活動文化に熱中していた時代があった。そこで、本章では、アメリカの大学がカレッジであった時代に焦点を当て、当時のキャンパス文化の状況を紹介・検討し、それとの比較をとおして、現在の日本におけるキャンパス文化の状況を考える参考とする。 【キーワード】 アメリカの大学、カレッジとユニバーシティ、遊び文化、勉強文化	岩田　弘三（武蔵野大学教授）	岩田　弘三（武蔵野大学教授）
12	アメリカの大学におけるキャンパス文化の歴史②：ユニバーシティの登場以降の時代	前章にひきつづき、本章では、アメリカにユニバーシティと呼ばれる大学が登場して以降の、キャンパス文化の進展について検討する。そして、遊び文化が全盛期を迎えたときの状況と、そこにいたる歴史を追う。さらに、その後アメリカの大学で、なぜ勉強文化が遊び文化に取って代わるようになったのかについても検討する。 【キーワード】 アメリカの大学、遊び文化、勉強文化	岩田　弘三（武蔵野大学教授）	岩田　弘三（武蔵野大学教授）
13	青年の社会貢献活動	青年が社会貢献活動に取り組む意義を確認した後、その具体的な形態であるボランティア活動やNPO(Non-Profit Organization)の定義を踏まえた上で、青年の社会貢献活動の歴史や意識を明らかにする。次に青年の社会貢献を支援する2つのNPO団体の取り組みを踏まえながら、青年が社会貢献をする意味や課題について検討する。 【キーワード】 社会貢献活動、ボランティア、NPO、居場所、青年の成長	熊田　博喜（武蔵野大学教授）	熊田　博喜（武蔵野大学教授）
14	青年に対する社会的排除と支援	現在、青年を取り巻く諸環境の変化が青年の生活や雇用に大きな影響を及ぼしている。このような情勢を受け、国の若者支援施策と共に青年の生活や雇用の支援を目的としたNPOが多く台頭し、その支援に大きな役割を果たしている。青年が現在抱える課題である「社会的排除」の現状とその支援を行うNPOの実際について検討を行う。 【キーワード】 社会的排除、社会的包摂、居場所、就労支援	熊田　博喜（武蔵野大学教授）	熊田　博喜（武蔵野大学教授）
15	子ども・青年の文化・教育をめぐる問題と支援	子ども・青年の発達・成長には、どのような人やものが、いかなる形で影響を与えているのか。また、そこには現在、どのような問題が生じているのか。以上に関して、「社会化」という概念を中心に総合的に考察する。そして、そのなかに、これまでの講義を位置づけ、整理する形でまとめを行う。 【キーワード】 社会化のエージェント、家庭の教育力・しつけ、コンサマトリー化する学校、生徒のパートタイマー化・学校離れ、まじめ・勉強キャンパス文化	岩田　弘三（武蔵野大学教授）	岩田　弘三（武蔵野大学教授） 谷田川　ルミ（芝浦工業大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529072	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ カリキュラムと学習過程 （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 School Curriculum and Learning Processes (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：浅沼　茂　（東京学芸大学特任教授）〕

〔主任講師（現職名）：奈須　正裕　（上智大学教授）〕

【本学担当専任教員：田中　統治　（放送大学教授）】

講義概要

優れた学習とはなにか。それは、一時間の授業を細かく輪切りにして部分の単なる積み重ねで成り立つものなのであろうか。優れた学習の成立には、優れたカリキュラムが必要不可欠である。多くの授業研究は、カリキュラムの役割をないがしろにしていないだろうか。カリキュラムは、部分的知識の集合ではなく、個々人の学習過程の根幹をなす哲学であり、有機的な組織体の生きた学習経験である。カリキュラムは、学校が出来上がる以前からあった。優れた学習は、生きた人間の感情とその感情を取り巻く知識や技能の道具立てによってその質の良し悪しが決まる。しかし、それは決して部分の足し算ではない。カリキュラムは何よりも個々人の経験の中において実現する。カリキュラムは、何よりも、子どもの主観性の中にどのような変化が生じているのかを探ることによって明らかになる。優れた教師の優れた実践の理想は、一人ひとりの学びの中において実現する。それを検証したい。

授業の目標

優れた学習とカリキュラムとの関係は何か、その具体的なイメージを習得する。
教師の生き方とカリキュラムは、子どもの学習過程にとって大きな意味をもつということを理解する。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	カリキュラムと学習	カリキュラムの始まり、学習とは何か、旧石器時代のカリキュラムはどうか、現代のカリキュラムはどうか、カリキュラムの基本原理とは何かを考える。カリキュラムという用語の起源とその意義について考える。 【キーワード】 カリキュラム、学習、石器時代のカリキュラム、クレーレ	浅沼　茂（東京学芸大学特任教授）	浅沼　茂（東京学芸大学特任教授）
2	日本のカリキュラムと授業の歴史的展開	近世身分制社会の学校とカリキュラム、明治期のカリキュラムと直観教授、大正期の授業研究と「カリキュラム」。ヘルバルト主義と段階教授、公教育カリキュラム、民間の教育運動などの日本的特徴について考える。 【キーワード】 明治期の授業、ヘルバルト主義、直観教授、大正自由教育	北村　和夫（聖心女子大学教授）	北村　和夫（聖心女子大学教授）
3	戦後のカリキュラム改革と学習過程	戦後の教育改革は、直後の数年間は、デューイの思想と経験主義カリキュラムがもてはやされた。しかし、その後、教育内容の現代化、ゆとりの時間、個性化など、大きなうねりを持って教育理念とカリキュラム政策が揺れてきた。その意義は何かを考える。 【キーワード】 デューイ、経験主義、教育内容の現代化、系統学習、ゆとり	浅沼　茂（東京学芸大学特任教授）	浅沼　茂（東京学芸大学特任教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	カリキュラムと教育目標論と評価論、学力論	測定やテストに代わって、評価という概念がカリキュラムと授業の結果の善し悪しを判定する概念として期待されるようになった。それは、評価概念は、個人差ではなく、システム全体の働きを点検するものとして使われるようになった。 【キーワード】 測定、テスト、個人差、評価、問題解決能力、高次の教育目標	浅沼　茂（東京学芸大学特任教授）	浅沼　茂（東京学芸大学特任教授）
5	子どもの学習メカニズムと授業	認知心理学が明らかにしてきた子どもの学習メカニズムと知識の構造に関する知見に基づき、従来の授業の問題点を指摘すると共に、合理的で効果的な授業・学習過程のあり方について考える。 【キーワード】 学習過程、既有知識、インフォーマルな知識、授業	奈須　正裕（上智大学教授）	奈須　正裕（上智大学教授）
6	授業の設計と実施	授業とはどのような営みであり現象であるのか。具体的な実践事例に則して、授業の構造、単元の構成、さらに授業の実施における教師の子どもの見とりと意思決定について考える。 【キーワード】 授業設計、授業実践、単元、見とり、実践を想定した教育内容知識	奈須　正裕（上智大学教授）	奈須　正裕（上智大学教授）
7	世界で進む「学び」の転換	世界の様々な局面で認められる「コンピテンシー・ベースの学力」への転換を国際的な視点に立って明らかにする。カギになってくるのは、教員の意識をどのように変えるかであり、また大学入試のように社会に深く根を張った仕組みにどのように切り込むかである。その二点から、他国の事例を取り上げ、参考にする。 【キーワード】 コンピテンシー・ベースの学力、ナザルバエフ知的学校、ケンブリッジ国際試験	久野　弘幸（名古屋大学大学院准教授）	久野　弘幸（名古屋大学大学院准教授）
8	授業研究と教師の成長	レッスン・スタディを巡る世界と日本の動向、子どもの見取り。世界的に話題となっている、日本のレッスン・スタディが、どのように優れた授業を作りだし、どのような成果を上げてきているのかを実践例をもって明らかにする。国際的な視点から、日本の授業研究の優秀性の特徴を明らかにする。 【キーワード】 授業研究、レッスン・スタディ、世界授業研究学会（WALS）	久野　弘幸（名古屋大学大学院准教授）	久野　弘幸（名古屋大学大学院准教授）
9	学校ぐるみの授業改革とカリキュラム	学校をシステムと見ることで可能となる授業・学習の改革。1980年代の日本の学校改革をリードしてきたティーム・ティーチング、オープン・エデュケーション、無学年制、個別化・個性化などの教員と学校全体の組織的な改変の重要性と成果について考える。 【キーワード】 オープン・スクール、ティーム・ティーチング、無学年制、個別化・個性化教育	成田　幸夫（岐阜聖徳学園大学教授）	成田　幸夫（岐阜聖徳学園大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	オープン・スクールの挑戦とカリキュラム	オープン・スクールなどの学校環境の改革は、生徒自身が自ら考え、自ら学ぶという学びのスペースを保証し、成果を上げてきた。その実績を教師と生徒がどのように作り出してきたのかを明らかにする。 【キーワード】 オープン・タイム、はげみ学習、週プロ、総合学習	成田　幸夫（岐阜聖徳学園大学教授）	成田　幸夫（岐阜聖徳学園大学教授）
11	現代のカリキュラム改革と問題解決能力	問題解決能力の発達は、どのようなカリキュラムによって可能になるのか、今後の日本の学習指導要領の改訂をにらみ、どのような実践が可能であるのか、それに先行する多様な実践を明らかにする。 【キーワード】 問題解決能力、批判的思考、道徳教育	浅沼　茂（東京学芸大学特任教授）	浅沼　茂（東京学芸大学特任教授）
12	作文教育と授業	子どもたち一人ひとりが個々人の個別ストーリーを描き、進めて行く授業実践は、子どもたち自身が生活世界を生き生きと描くという表現世界の創出によって可能になる。 【キーワード】 作文教育、生活綴り方、個別ストーリー、ナラティブ	浅沼　茂（東京学芸大学特任教授）	浅沼　茂（東京学芸大学特任教授） ゲスト：増田　修治（白梅学園大学教授）
13	授業力向上を支える校内研と学校経営	教師の授業力向上に果たす校内研の役割とそのメカニズム、さらに校内研を活性化し、実効性を高める学校経営上のポイントについて、現実の学校における事例研究に即して考える。 【キーワード】 教師の授業力向上、校内研、学校経営、校長のリーダーシップ、同僚性	奈須　正裕（上智大学教授）	奈須　正裕（上智大学教授） ゲスト：齊藤　一弥（横浜市立羽沢小学校長）
14	ICTとカリキュラム	ICTを学校教育に導入する意義と課題。ITの利用に関してそのアイデアがどの程度工夫され、学習効果を上げているのかを探究する。 【キーワード】 IT教育、ICT、コンピュータ教育、学習効果	奈須　正裕（上智大学教授）	奈須　正裕（上智大学教授） ゲスト：佐久間　茂和（上智大学非常勤講師）
15	カリキュラムと授業の今後	コンテンツからコンピテンシーへという教育の重心の移動、それに伴うオーセンティックな学習や明示的な指導など、今後における学習過程や授業のあり方の変化について概観することを通して、未来のカリキュラムと授業について展望する。 【キーワード】 知識基盤社会、コンピテンシー・ベイスの教育、オーセンティックな学習、明示的な指導	奈須　正裕（上智大学教授）	奈須　正裕（上智大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529013	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 道徳教育の方法 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Methods of Moral Education (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：堺　正之　（福岡教育大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也　（放送大学教授）】

講義概要

本科目では、そもそも道徳とは何か、それを学校で教育することにはどのような意味があるのか、日本における道徳とその教育はどのような歴史を持っているのか、現在、道徳はどのように教育され、また、これからどのように教育されるべきなのか、といった観点から、道徳教育の基本的な考え方や概念を学ぶ。
本科目は、教育職員免許法「教職に関する科目」としても受講が期待される。

授業の目標

道徳教育を支える基礎理論を学び、学校における道徳教育の目標と内容、児童生徒の道徳性を育成するための指導計画、道徳の時間の指導方法について理解を深める。具体的な到達目標は以下の通りである。
(1)道徳教育の基礎となる概念、理論、歴史についての知識を有している。
(2)小中学校の教育課程における道徳の位置づけと道徳教育の目標・内容を理解している。
(3)道徳教育の計画の意義、道徳の時間の指導過程や指導方法に関する基本的事項を理解している。
(4)以上の目標を達成する中で、自分自身の道徳観・道徳教育観を深めている。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	道徳と道徳教育	道徳には社会に根づいた「制度」としての側面があり、人間は道徳規範に従うことによって絶えざる自己決定を免除される。しかし、他方で道徳は個人の「自由」において自律的に行使されることに本質的な意義がある。本講義では、「道徳」の本質を類義語との比較などを通して明らかにするとともに、現代社会において求められる道徳教育のあり方を考察することにより授業全体の導入とする。 【キーワード】 自由、制度、規範、法、徳育、自律	堺　正之（福岡教育大学教授）	堺　正之（福岡教育大学教授）
2	日本における道徳教育の歩み	戦後日本では、道徳教育は学校における教育活動全体を通じて行うという原則が確立され、1958年の道徳の時間の実施以降も堅持されている。ここには戦前・戦中の教育への反省と、時代の要請を背景とする学校教育の方向性が反映している。この講義では、以上のような問題意識から、主に戦後の教育改革と道徳教育の歩みについて考察する。 【キーワード】 修身、教育勅語、第一次米国教育使節団報告書、全面主義、道徳の時間	堺　正之（福岡教育大学教授）	堺　正之（福岡教育大学教授）
3	シティズンシップ教育の要請	これからの社会を形成する主体として自立し、権利と義務の行使により、社会に積極的に関わろうとする態度等を身に付けさせる教育（シティズンシップ教育）の必要性が認識されてきている。本講義では、このような要請に応えうる取り組みとしての法教育など社会参画への意欲を高める教育と道徳教育の関係について考察する。 【キーワード】 シティズンシップ、公共の精神、参画、法教育	堺　正之（福岡教育大学教授）	堺　正之（福岡教育大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	子どもの発達と道徳教育（1） －社会化論－	「道徳」には、社会によって承認される行為の規準という側面がある。共同体に生きる個人にとって、道徳は外的・客観的に存在するものであり、これを内面化することこそが教育の本質であるとする立場もある。この講義では、「個」が強調される現代において子どもたちに社会との絆を意識化させることに重きを置く指導の在り方について考察する。 【キーワード】 社会化、規範、愛着、社会的絆（ソーシャル・ボンド）	堺　正之 （福岡教育大学教授）	堺　正之 （福岡教育大学教授）
5	子どもの発達と道徳教育（2） －道徳性発達論－	人格の基盤をなす道徳性の形成については、それを説明するいくつかの立場がある。この講義では、ピアジェらに代表される認知発達論に基づく研究をとりあげ、他律から自律へと向かう道徳性の各段階の特質を解説し、これに対応する子どもへの指導の在り方について考察する。 【キーワード】 道徳性、認知発達理論、他律、自律、正義	堺　正之 （福岡教育大学教授）	堺　正之 （福岡教育大学教授）
6	学校における道徳教育（1） －教育課程上の位置づけとその目標－	小学校及び中学校の教育課程には「道徳」という領域が設定されており、学習指導要領は道徳教育の目標を「道徳性を養うこと」であるとしている。この講義では、学校における教育活動全体を通じて児童生徒の道徳性を養う上で、どのような側面に着目することが効果的かについて考察する。 【キーワード】 教育課程、領域、陶冶、訓育、学習指導要領、全面主義、道徳の時間	堺　正之 （福岡教育大学教授）	堺　正之 （福岡教育大学教授）
7	学校における道徳教育（2） －道徳の内容－	道徳の内容は、児童生徒が自ら道徳性を発展させるための窓口であると言われる。この講義では、その広がり（4つの視点）とつながり（学校、学年の接続や系統性）という点から解説する。また、いくつかの内容項目を取り上げて深く掘り下げ、道徳的指導の在り方について考察する。 【キーワード】 道徳的価値、4つの視点、重点化、関連性と発展性	堺　正之 （福岡教育大学教授）	堺　正之 （福岡教育大学教授）
8	学校における道徳教育（3） －道徳の指導計画－	道徳教育はあらゆる教育活動を通じて児童生徒の道徳性の育成を図るものであり、各教科等における道徳教育と、それらを補充、深化、統合する道徳の時間の指導とが関連をもって機能することではじめて効果が期待できる。この講義では、道徳教育の全体計画をはじめ、道徳教育の諸計画が有効に機能するための方策について考察する。 【キーワード】 道徳教育の全体計画、道徳の時間の年間指導計画、計画的発展的指導、道徳教育推進教師	堺　正之 （福岡教育大学教授）	堺　正之 （福岡教育大学教授）
9	道徳授業の実践（1） －道徳の時間の意義－	学習指導要領では、道徳の時間の教育課程上の位置づけを「要（かなめ）」と表現するとともに、その目標を「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め道徳的実践力を育成する」（中学校）ことであるとしている。この講義では、授業という形をとりながらねらいをもって道徳教育を行う場としての道徳の時間の意義について解説する。 【キーワード】 道徳の時間、補充・深化・統合、道徳的価値の自覚、自己の（人間としての）生き方、道徳的実践力	堺　正之 （福岡教育大学教授）	堺　正之 （福岡教育大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	道徳授業の実践(2) －道徳の時間の指導過程・指導方法－	道徳の時間の形態は、教科のそれと共通するところも多い。しかし、生徒の道徳的価値及びそれに基づく人間としての生き方についての自覚を深め道徳的実践力を育成するという目標に応じた固有性がある。この講義では、道徳の時間のねらいに迫るため、どのような指導過程を構成するのかについて考察するとともに、一般的に用いられるさまざまな指導方法について解説する。 【キーワード】 指導過程の基本型、導入、展開、終末、資料の活用類型、発問	堺　正之 （福岡教育大学教授）	堺　正之 （福岡教育大学教授）
11	道徳授業の実践(3) －新たな指導法の開発－	前回において検討した「基本型」の課題を乗り越えるために、道徳授業の新しい在り方を模索して、指導過程や指導方法を多様に展開する試みが行われている。この講義では、今日提唱されているさまざまな道徳授業論を紹介、比較検討するとともに、これらを補完的に応用しようとする取り組みについて考察する。 【キーワード】 総合単元的道徳学習、価値明確化、モラルジレンマ授業、モラルスキルトレーニング、いじめ	堺　正之 （福岡教育大学教授）	堺　正之 （福岡教育大学教授）
12	道徳教育における評価	道徳教育も教育活動の一環である以上、その改善のためには適切な評価を必要としている。この講義では道徳教育の「要」である道徳の時間（道徳授業）の評価を中心として、評価の観点や方法について説明を加えるとともに、子ども理解にもとづく道徳性の評価という課題についても考察する。 【キーワード】 授業研究、授業評価、観察の視点	堺　正之 （福岡教育大学教授）	堺　正之 （福岡教育大学教授）
13	道徳教育における家庭・学校・地域社会の連携	社会の大きな変化の中で家庭や地域の教育力が低下したことが子どもの生活習慣の未確立につながり、さらには問題行動の背景にあると指摘されている。この講義では、学校が道徳教育を進めるにあたって、家庭や地域社会との共通理解を深め、協力体制を整えるとともに具体的な連携を図る方策について、具体的な取り組みの事例を交えて考察する。 【キーワード】 生活習慣、家庭教育、体験、授業公開、地域教材	堺　正之 （福岡教育大学教授）	堺　正之 （福岡教育大学教授）
14	外国における道徳教育	日本の道徳教育の特徴を理解するためには、外国の道徳教育との比較という視点が有効である。この講義では、学校教育における宗教の位置づけやシティズンシップ教育の動向等を視点として、諸外国における道徳教育を類型的に紹介する。 【キーワード】 宗教教育、シティズンシップ教育	堺　正之 （福岡教育大学教授）	堺　正之 （福岡教育大学教授）
15	道徳教育の課題 －人権と道徳、道徳教育の妥当性－	教育するという意図がいかに善いものであったとしても、「教育的配慮」には子どもの人権を制約する側面があることは否定できない。「教育的配慮」は常に子どもの「人格的自律への配慮」とのバランスを必要とする。この講義では、このような道徳教育の妥当性にかかわる問題について体罰等を例にとりながら考察するとともに、道徳教育の課題を提示して授業全体のまとめとする。 【キーワード】 人権、体罰、教育的配慮、普遍化可能性、共感	堺　正之 （福岡教育大学教授）	堺　正之 （福岡教育大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528920	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 肢体不自由児の教育 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Education for the Physically Challenged (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：川間　健之介 （筑波大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：西川　公司 （放送大学客員教授） 〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也 （放送大学教授） 】

講義概要

近年、肢体不自由特別支援学校等においては、在学者の障害の重度・重複化、多様化の傾向が顕著になってきており、幼児児童生徒一人一人の実態に即した指導上の創意工夫がより一層求められている。本科目では、肢体不自由児の教育に必要な基礎的・基本的事項について、全15回にわたって講義を行う。肢体不自由児の教育の実際を概観しながら、肢体不自由児の生理・病理と心理、教育課程、指導法等についての学習を進めていく。

授業の目標

肢体不自由児の教育に必要な基礎的・基本的な事項について、全15回の講義を通じて学習する。障害の状態等の多様な肢体不自由児に対する教育の基礎的・基本的な知識を身に付けることを目標とする。

履修上の留意点

「特別支援教育総論('15)」及び「特別支援教育基礎論('15)」を学んでおくことが望ましい。特別支援教育全般についての基礎を習得するのに役立つ。また、大学院科目「障害児・障害者心理学特論('13)」についても、肢体不自由児の心理を理解する上で参考になる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	肢体不自由児の教育 －歴史と現状－	「肢体不自由」の用語の概念、我が国における肢体不自由教育の発足と発展の道筋を紹介する。また、近年の特別支援教育制度下における肢体不自由教育の現状と課題について解説する。 【キーワード】 肢体不自由、肢体不自由教育の歴史、養護学校教育の義務制、障害の重度・重複化	西川　公司 (放送大学客員教授)	西川　公司 (放送大学客員教授)
2	肢体不自由児が学ぶ場 －特別支援学校を中心に－	肢体不自由児が学んでいる教育の場について解説する。また、肢体不自由特別支援学校を中心に、児童生徒の登校から下校までの様子を、実際の映像に基づいて紹介する。 【キーワード】 通常の学級、通級による指導、肢体不自由特別支援学級、肢体不自由特別支援学校	川間　健之介 (筑波大学教授)	川間　健之介 (筑波大学教授)
3	肢体不自由児の生理・病理1 －運動発達の仕組み－	筋・骨の基礎的・基本的事項に関して、筋についてはドシェンヌ型進行性筋ジストロフィーを、骨については骨形成不全症と軟骨無形成症を取り上げて解説する。また、筋・骨の萎縮を防ぎ、運動機能を向上させる自宅での自主トレーニングについて紹介する。 【キーワード】 筋、進行性筋ジストロフィー、骨、骨形成不全症、ホームエクササイズ	君塚　葵 (心身障害児総合医療療育センター前所長)	君塚　葵 (心身障害児総合医療療育センター前所長)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	肢体不自由児の生理・病理2 －脳性まひ、二分脊椎を中心に－	脳性まひと二分脊椎の治療・リハビリテーションを中心に解説する。また、脳性まひ児の望ましい姿勢づくりを取り上げて紹介する。 【キーワード】 脳性まひ、二分脊椎、座位姿勢	君塚　葵 (心身障害児総合医療療育センター前所長)	君塚　葵 (心身障害児総合医療療育センター前所長)
5	肢体不自由児の心理1 －発達を中心に－	乳幼児期の発達を中心に、社会性やコミュニケーション、認知などについての発達を取り上げて解説する。また、それぞれにおける発達の過程と、肢体不自由があることによって生じる課題を紹介する。 【キーワード】 発達、社会的かかわりの基礎、コミュニケーション、認知・思考	徳永　豊 (福岡大学教授)	徳永　豊 (福岡大学教授)
6	肢体不自由児の心理2 －障害特性を中心に－	肢体不自由児の障害特性を中心に取り上げて解説し、肢体不自由児に見られる心理・行動上の困難について考える。 【キーワード】 視知覚、知能、パーソナリティー、障害受容	川間　健之介 (筑波大学教授)	川間　健之介 (筑波大学教授)
7	肢体不自由教育の教育課程	教育課程に関する法令と特別支援学校の学習指導要領等を紹介しながら、幼児児童生徒の実態に即した肢体不自由特別支援学校及び肢体不自由特別支援学級における教育課程編成の在り方について解説する。 【キーワード】 教育課程、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、小・中学校における教育課程編成	西川　公司 (放送大学客員教授)	西川　公司 (放送大学客員教授)
8	肢体不自由教育の実際1 －自立活動の指導－	肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導の意義と内容の取扱いの基本について解説する。また、重複障害児に対する自立活動を主とした指導について考える。 【キーワード】 自立活動の指導の意義、自立活動の内容と取扱い、個別の指導計画、自立活動を主とした指導	西川　公司 (放送大学客員教授)	西川　公司 (放送大学客員教授)
9	肢体不自由教育の実際2 －身体の動きの指導－	肢体不自由特別支援学校における身体の動きの指導内容を解説するとともに、授業に適した姿勢(ポジショニング)を紹介する。 【キーワード】 自立活動、身体の動き、ポジショニング	川間　健之介 (筑波大学教授)	川間　健之介 (筑波大学教授)
10	肢体不自由教育の実際3 －コミュニケーションの指導－	言葉や身振り、補助的手段を活用した肢体不自由児に対するコミュニケーションの工夫の重要性について解説する。また、他者からの働き掛けを受け止めて理解し、自分の意思を表出・表現する力を高めるための指導の要点を紹介する。 【キーワード】 言語的コミュニケーション、前言語的コミュニケーション、原初的コミュニケーション、補助的手段の活用、足場作り	徳永　豊 (福岡大学教授)	徳永　豊 (福岡大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	肢体不自由教育の実際4 －各教科の指導－	肢体不自由児が抱えている各教科の学習における困難には、様々なものがあることから、国語、算数・数学等、教科ごとに見られる学習上の困難と、その困難への対応について解説する。 【キーワード】 肢体不自由、言語障害、視覚障害、視知覚認知障害、各教科の指導における支援	川間　健之介 (筑波大学教授)	川間　健之介 (筑波大学教授)
12	肢体不自由教育の実際5 －重複障害児の理解－	重複障害児の概念について解説するとともに、重度の肢体不自由に併せて重度の知的障害がある重度・重複障害児の特性を紹介する。 【キーワード】 重複障害、重度・重複障害児、重度・重複障害児の特性	長沼　俊夫 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)	長沼　俊夫 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)
13	肢体不自由教育の実際6 －重度・重複障害児の指導－	重度・重複障害児の指導内容について、健康の保持・増進を中心に、摂食指導、排泄指導、認知・コミュニケーション力を育む指導について解説する。また、指導計画の作成と評価の要点を紹介する。 【キーワード】 健康の保持、摂食指導、排泄指導、認知・コミュニケーション、指導計画	長沼　俊夫 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)	長沼　俊夫 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)
14	肢体不自由教育の実際7 －キャリア教育と進路指導－	生きる力の伸長を目指すキャリア教育の視点から、肢体不自由児の進路指導について解説する。また、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うための重要なツールである、個別の教育支援計画を紹介する。 【キーワード】 キャリア教育、進路指導、生きる力、個別の教育支援計画、連携	長沼　俊夫 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)	長沼　俊夫 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)
15	新たな取組と今後の課題	障害者基本法の改正と障害者の権利条約の批准に向けた教育分野の取組について解説する。また、肢体不自由特別支援学校等における肢体不自由教育のセンター校としての活動等、新たな取組を紹介した上で、肢体不自由教育の充実に向けた今後の課題について考える。 【キーワード】 障害者の権利に関する条約、障害者基本法、特別支援教育推進体制、特別支援教育のセンター校	西川　公司 (放送大学客員教授)	川間　健之介 (筑波大学教授) 西川　公司 (放送大学客員教授) 長沼　俊夫 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529021	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 特別支援教育基礎論 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Foundations of Special Needs Education (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：安藤　隆男　（筑波大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也　（放送大学教授）】

講義概要

本科目では、特別支援教育の理念と本質を理解するために、(1)わが国の特殊教育の理念、制度及び展開、(2)特別支援教育の理念、制度、(3)特別支援教育の各形態等(特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、地域支援)における教育の現状と課題、(4)インクルーシブ教育システム構築と特別支援教育、についてそれぞれ講述する。

授業の目標

個の教育的ニーズに応じた教育が展開できるようにするため、特別支援教育に係る理念・本質について社会的、制度的、経営的な事項に関わる基礎的な内容について理解する。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	特別支援教育とは	特別支援教育制度の成立過程を概観し、特別支援教育の理念及び制度について概説する。 【キーワード】 特別支援教育、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、特別支援学校教員免許状、インクルーシブ教育システム	安藤　隆男（筑波大学教授）	安藤　隆男（筑波大学教授）
2	戦前の特殊教育の成立と展開	第二次世界大戦前の我が国特殊教育の成立と展開について講述する。 【キーワード】 国民皆学と学制、盲・聾教育の成立、就学猶予・免除規定、特別学級、施設での指導、盲学校及聾唖学校令	岡　典子（筑波大学教授）	岡　典子（筑波大学教授）
3	戦後の特殊教育の展開と特別支援教育への転換	第二次世界大戦後の特殊教育の展開と特別支援教育への制度的転換について講述する。 【キーワード】 就学猶予・免除、養護学校教育の義務制実施、通常学校における特殊教育、特別支援教育の成立	米田　宏樹（筑波大学准教授）	米田　宏樹（筑波大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	特別支援学校における教育の現状と課題	特別支援学校の成立までの系譜を整理し、特別支援学校の現状と課題を概説する。 【キーワード】 公立養護学校整備特別措置法、特別支援学校の幼児児童生徒の実態、教育課程の基準と編成、特別支援学校の教育の課題	安藤　隆男（筑波大学教授）	安藤　隆男（筑波大学教授）
5	地域における特別支援学校の役割と展開	地域における特別支援学校の役割の付与とその展開について概説する。 【キーワード】 特別支援学校のセンター的機能、特別支援教育コーディネーター	安藤　隆男（筑波大学教授）	安藤　隆男（筑波大学教授）
6	特別支援学級における教育の現状と課題	特別支援学級の成立までの系譜を整理し、特別支援学級の現状と課題を概説する。 【キーワード】 特別支援学級の児童生徒の実態、教育課程の基準と編成、特別支援学級の教育の課題	安藤　隆男（筑波大学教授）	安藤　隆男（筑波大学教授）
7	通級による指導における教育の現状と課題	通級による指導の成立までの系譜を整理し、通級による指導の現状と教育の課題について概説する。 【キーワード】 通級による指導、通級による指導の対象、特別の教育課程、自立活動、通級による指導の課題	安藤　隆男（筑波大学教授）	安藤　隆男（筑波大学教授）
8	視覚障害教育	視覚障害教育の歴史、現状と課題について概説する。 【キーワード】 視覚障害の定義、見え方の特徴、教育の歴史、教育課程、今日の課題	岡　典子（筑波大学教授） 宮内　久絵（筑波大学助教）	岡　典子（筑波大学教授）
9	聴覚障害教育	聴覚障害がどのような障害であるのかを理解した上で、聴覚障害教育の歩みを概観し、聴覚障害教育が抱える今日的な課題について整理する。 【キーワード】 伝音難聴・感音難聴、多様なコミュニケーション手段、人工内耳、準ずる教育、今日的課題	左藤　敦子（筑波大学准教授）	左藤　敦子（筑波大学准教授）
10	知的障害教育	知的障害のある人の教育の展開を概観し、知的障害教育の教育課程や指導形態・方法の特徴を理解するとともに、知的障害のある人の教育の現状を踏まえて、今後の課題について考える。 【キーワード】 知的障害教育の歴史、知的障害特別支援学校における各教科、自立活動、生活に即した教育、個別の指導計画	米田　宏樹（筑波大学准教授）	米田　宏樹（筑波大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	肢体不自由教育	肢体不自由教育のこれまでの成立と発展過程を整理し、肢体不自由教育の現状と課題について概説する。 【キーワード】 脳性まひ、児童生徒の障害の重度・重複化、自立活動、教員の専門性	安藤　隆男（筑波大学教授） 丹野　傑史（筑波大学助教）	安藤　隆男（筑波大学教授）
12	病弱教育	歴史的変遷から病弱教育の果たしてきた意義を整理するとともに、病弱教育の現状と課題について概説する。 【キーワード】 病弱、身体虚弱、病弱教育、循環器疾患、呼吸器疾患、腎臓疾患、筋ジストロフィー、悪性新生物、心身症、重度・重複障害	安藤　隆男（筑波大学教授） 任　龍在（群馬大学准教授）	安藤　隆男（筑波大学教授）
13	通常の学級における発達障害者の教育	通常の学級に在籍していることが多い、知的発達の遅れがない発達障害者の理解と指導・支援について次のキーワードから概説する。 【キーワード】 LD、ADHD、ASD、学習上の困難、障害の理解、指導・支援の方法	岡崎　慎治（筑波大学准教授）	岡崎　慎治（筑波大学准教授）
14	世界におけるインクルーシブ教育の動向と課題	インクルーシブ教育の理念・思想について整理し、インクルーシブ教育の世界的な動向と課題について講述する。 【キーワード】 インクルーシブ教育、国連・障害者の権利に関する条約、サラマンカ声明、万人のための教育、特別な教育的ニーズ、インテグレーション、REI、ICF	岡　典子（筑波大学教授） 宮内　久絵（筑波大学助教）	岡　典子（筑波大学教授）
15	わが国におけるインクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育	わが国におけるインクルーシブ教育システム構築の背景について述べ、特別支援教育との関連について講述する。 【キーワード】 インクルーシブ教育システム、特別支援教育制度、中教審報告、国連・障害者の権利に関する条約	岡　典子（筑波大学教授）	岡　典子（筑波大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529030	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 特別支援教育総論 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Special Needs Education: Understanding and Guaidance of Disabilities (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：柘植　雅義　（筑波大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：木舩　憲幸　（大谷大学教授）　〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也　（放送大学教授）　】

講義概要

特別支援教育では、特別支援学校や、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校等において、様々な障害のある幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導と支援が求められている。本科目では、特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の理解と指導内容・方法等の基本的事項について解説する。

授業の目標

様々な障害について理解し、一人一人のニーズに応じた教育が展開できるようにする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	障害のある子どもの理解と指導	ここでは、特別支援教育の理念・制度等、及び本講義で取りあげる様々な障害のある子どもについて、その理解と指導について概説する。 【キーワード】 特別支援教育の制度・教育課程、子どもの理解と指導	木舩　憲幸（大谷大学教授）	木舩　憲幸（大谷大学教授）
2	知的障害教育	知的障害教育について、特に、障害の理解、指導内容・方法について述べる。なお、自閉症を伴う場合はここでは取りあげない。 【キーワード】 知的障害、教育的対応の基本、各教科の考え方と内容、各教科等を合わせた指導、教科別の指導	竹林地　毅（広島大学大学院准教授）	竹林地　毅（広島大学大学院准教授）
3	肢体不自由教育	肢体不自由教育について、特に、障害の理解、指導内容・方法について述べる。なお、知的障害を伴う場合はここでは取りあげない。 【キーワード】 肢体不自由、教育課程、姿勢と運動の発達、個別の指導計画、合理的配慮	木舩　憲幸（大谷大学教授）	木舩　憲幸（大谷大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	病弱教育	病弱教育について、特に、病気の理解、指導内容・方法について述べる。なお、知的障害を伴う場合はここでは取りあげない。 【キーワード】 病弱・身体虚弱、院内学級、学籍移動、教育課程、セルフケア	武田　鉄郎（和歌山大学教授）	武田　鉄郎（和歌山大学教授）
5	視覚障害教育	視覚障害教育について、特に、障害の理解、指導内容・方法について述べる。なお、知的障害を伴う場合はここでは取りあげない。 【キーワード】 視覚障害児の発達、視知覚、触知覚、教材教具、視覚障害指導法	佐島　毅（筑波大学大学院准教授）	佐島　毅（筑波大学大学院准教授）
6	聴覚障害教育	聴覚障害教育について、特に、障害の理解、指導内容・方法について述べる。なお、知的障害を伴う場合はここでは取りあげない。 【キーワード】 聾と難聴、聴覚学習、言語指導、コミュニケーション、障害認識	牧野　泰美（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）	牧野　泰美（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）
7	重複障害教育Ⅰ	重複障害教育における障害の理解、教育課程などについて述べる。さらに、知的障害と肢体不自由を併せ有する重複障害の指導の在り方について述べる。 【キーワード】 重複障害、重度・重複障害、重症心身障害、教育課程、重度の知的障害と重度の肢体不自由	木舩　憲幸（大谷大学教授）	木舩　憲幸（大谷大学教授）
8	重複障害教育Ⅱ	重複障害教育について、特に、知的障害や肢体不自由と、視覚障害又は聴覚障害を併せ有する場合について、障害の理解、指導内容・方法について述べる。 【キーワード】 重複障害、視覚重複障害、聴覚重複障害、重度・重複障害	土谷　良巳（元上越教育大学教授）	土谷　良巳（元上越教育大学教授）
9	重複障害教育Ⅲ	重複障害教育について、特に、視覚障害や聴覚障害など感覚障害を複数併せ有する場合（さらに知的障害や肢体不自由が重なる場合も含む。）について、障害の理解、指導内容・方法について述べる。 【キーワード】 重複障害、盲ろう、視覚聴覚二重障害、重度・重複障害	土谷　良巳（元上越教育大学教授）	土谷　良巳（元上越教育大学教授）
10	言語障害教育	言語障害教育について、特に、障害の理解、指導内容・方法について述べる。なお、知的障害を伴う場合はここでは取りあげない。 【キーワード】 構音障害、吃音、言語発達の遅れ、言語障害特別支援学級と通級による指導（言語障害）、実態把握と指導	牧野　泰美（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）	牧野　泰美（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	情緒障害教育	情緒障害教育について、特に、障害の理解、指導内容・方法について述べる。なお、ここでは、自閉症については、取りあげない。 【キーワード】 情緒障害、選択性かん黙、不登校、心理	井澤　信三（兵庫教育大学大学院教授）	井澤　信三（兵庫教育大学大学院教授）
12	自閉症教育	自閉症教育について、特に、障害の理解、指導内容・方法について述べる。なお、ここでは、特に、知的障害を伴う場合について取りあげる。 【キーワード】 自閉症、知的障害、発達障害、構造化	井澤　信三（兵庫教育大学大学院教授）	井澤　信三（兵庫教育大学大学院教授）
13	発達障害教育Ⅰ	知的障害のない発達障害のうち、特に学習障害など学習上の問題のある場合について、障害の理解、指導内容・方法について述べる。 【キーワード】 学習障害（LD）、学習上の問題、障害の理解、指導内容・方法	柘植　雅義（筑波大学教授）	柘植　雅義（筑波大学教授）
14	発達障害教育Ⅱ	知的障害のない発達障害のうち、特に注意欠陥多動性障害や自閉症・アスペルガー障害など行動上の問題のある場合について、障害の理解、指導内容・方法について述べる。 【キーワード】 注意欠陥多動性障害(ADHD)、高機能自閉症、アスペルガー症候群、行動上の問題、障害の理解、指導内容・方法	柘植　雅義（筑波大学教授）	柘植　雅義（筑波大学教授）
15	発達障害教育Ⅲ	知的障害のない発達障害のうち、特に知的能力の高い場合の教育（2E教育）について、障害の理解、指導内容・方法について述べる。 【キーワード】 発達障害、高い知能、ギフティッド、2E教育、状態の理解、指導内容・方法	柘植　雅義（筑波大学教授）	柘植　雅義（筑波大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529048	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 知的障害教育総論 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Education and Psychology of Children with Intellectual Disabilities (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：太田　俊己　（関東学院大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：藤原　義博　（創価大学教授）〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也　（放送大学教授）】

講義概要

近年、入学する児童生徒が急増している知的障害特別支援学校等における教育について、教育課程・指導法に関する内容に加え、知的障害等の心理的側面の内容についても学修できる総論としての科目である。特別支援学校教諭免許取得をめざす方々や、知的障害教育を学び始めた方々を主な対象に、知的障害とその周辺領域にいる幼児児童生徒の教育とその実際について、今日的で、かつ基本的な内容を学ぶことができる。

授業の目標

知的障害のある幼児児童生徒を教育する知的障害特別支援学校等における教育であります「知的障害教育」の教育課程（カリキュラム）、指導法（授業の形態）の特徴や意義などの概要を理解することを目標の第1とします。また、知的障害の心理等についても学び、教育や教育的支援との関係を理解することを目標の第2とします。この科目では、知的障害教育の今日的課題をいくつか取り上げますので、周辺の領域も含めて、今日的課題の内容や教育の動向について理解することを目標の第3にします。

履修上の留意点

特別支援学校教諭免許状の取得にも関係する科目であるため、学ぶべき事柄が盛り込まれ、必要な専門用語も用いられます。初歩の方にも学びやすくする工夫はしますが、ご自身でも関連図書や情報を調べたりして、積極的に自習等で補ったり、深めたりされることをお勧めします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	知的障害の教育と特別支援教育	特別支援教育の現況について述べる。そこでの知的障害の児童生徒に対する教育の現状や特色、そこで求められることについて述べる。今日的な課題を含め構成された本科目の概要を説明する。 【キーワード】 特別支援教育、知的障害教育、今日的課題、教育的ニーズ	太田　俊己（関東学院大学教授）	太田　俊己（関東学院大学教授）
2	知的障害のある幼児児童生徒の理解と支援	知的障害の心理学的な側面に触れ、その障害のある幼児児童生徒をどのように理解すべきか、障害理解と子ども理解の基本を述べる。さらに、教育実践を行う上での適切な理解とその上に立った支援の観点についても触れる。 【キーワード】 知的障害の心理、障害理解、子ども理解、知的障害への支援	佐藤　愼二（植草学園短期大学教授）	佐藤　愼二（植草学園短期大学教授）
3	自閉症等のある幼児児童生徒の理解と支援	知的障害に関連の深い自閉症等の心理学的な側面に触れ、その障害のある幼児児童生徒をどのように理解し、支援に結びつけるか、障害理解の基本、ならびに教育における支援の観点について解説する。 【キーワード】 自閉症等の障害論、自閉症等の教育的ニーズ、自閉症教育	藤原　義博（創価大学教授）	藤原　義博（創価大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	知的障害教育の教育課程上の特徴と指導法	わが国の知的障害教育がもつ特有の教育課程上の特徴、および生活単元学習や教科別の指導など、関連する指導法の特徴について、学習指導要領やその解説、また実践現場の現状などから解説する。 【キーワード】 知的障害の教育課程、知的障害教育の指導法、領域・教科を合わせた指導、分けない指導、知的障害教育の各教科	太田　俊己（関東学院大学教授）	太田　俊己（関東学院大学教授）
5	知的障害教育の指導法 ～その①　生活単元学習	知的障害教育特有の指導法の中から、領域・教科を合わせた指導の代表的な実践形態である生活単元学習を取り上げ、その特徴および教育課程上の位置づけ、さらに実践を行う上でのポイント等について、学習指導要領解説などから解説する。 【キーワード】 生活単元学習、領域・教科を合わせた指導、知的障害の指導法	高倉　誠一（明治学院大学准教授）	高倉　誠一（明治学院大学准教授）
6	知的障害教育の指導法 ～その②　作業学習	知的障害教育特有の指導法の中から、領域・教科を合わせた指導のうち作業学習を取り上げる。その特徴および教育課程上の位置づけ、さらに実践を行う上でのポイント等について、学習指導要領解説などから解説する。 【キーワード】 作業学習、領域・教科を合わせた指導、知的障害の指導法	高倉　誠一（明治学院大学准教授）	高倉　誠一（明治学院大学准教授）
7	知的障害教育の指導法 ～その③　日常生活の指導・遊びの指導	知的障害教育特有の指導法の中から、領域・教科を合わせた指導のうち日常生活の指導および遊びの指導を取り上げる。それらの特徴および教育課程上の位置づけ、さらに実践を行う上でのポイント等について、学習指導要領解説などから解説する。 【キーワード】 日常生活の指導、遊びの指導、領域・教科を合わせた指導、知的障害の指導法	高倉　誠一（明治学院大学准教授）	高倉　誠一（明治学院大学准教授）
8	知的障害教育の指導法 ～その④　教科別の指導	知的障害教育の指導法の中から教科別の指導を取り上げる。他の障害や通常の教育とは異なるこの指導法の特徴、および教育課程上の位置づけ、さらに実践を行う上でのポイント等について、学習指導要領解説などから解説する。 【キーワード】 知的障害の各教科、教科別の指導、学習指導要領解説、知的障害の指導法	佐藤　愼二（植草学園短期大学教授）	佐藤　愼二（植草学園短期大学教授）
9	知的障害教育の指導法 ～その⑤　自立活動の指導	知的障害教育に対する指導法の領域別の指導の中から、自立活動の指導を取り上げる。知的障害の各教科の性格と自立活動との関係、歴史的な経緯、教育課程上の位置づけ、さらに実践を行う上でのポイント等について解説する。 【キーワード】 知的障害の自立活動、自立活動の指導、自立活動の時間における指導、知的障害の指導法	太田　俊己（関東学院大学教授）	太田　俊己（関東学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	特別支援学級の学級経営と教育課程・指導法	急増する知的障害特別支援学級への期待、また現状と課題について触れる。望ましい学級経営のあり方や工夫の仕方、指導計画の立て方、教育課程の編成、具体的な授業や指導法上の留意事項等について、解説する。 【キーワード】 知的障害特別支援学級、学級づくり、特別支援学級の教育課程、指導計画と授業づくり	佐藤　慎二（植草学園短期大学教授）	佐藤　慎二（植草学園短期大学教授）
11	日本と海外の知的障害教育	特別支援教育に関する現状や今後の動向について触れ、日本と海外の知的障害への教育・教育実践に共通する特徴や実践の経緯、動向、さらには今後の課題等について解説する。 【キーワード】 海外の知的障害教育、インクルーシブ教育、カリキュラムと教育方法	米田　宏樹（筑波大学准教授）	米田　宏樹（筑波大学准教授）
12	今日的な課題への対応 ～その①　個別の指導計画と個別の教育支援計画	新たな動向を受け、知的障害教育には今日的な課題が存在する。ここではその中から、個別の指導計画と個別の教育支援計画を取り上げる。知的障害教育におけるそれらのあり方、動向と今後の活用、実践上のポイント等について解説する。 【キーワード】 個別の指導計画、個別の教育支援計画、家庭との連携、関係機関との連携	米田　宏樹（筑波大学准教授）	米田　宏樹（筑波大学准教授）
13	今日的な課題への対応 ～その②　知的障害教育とキャリア教育	新たな動向を受け、知的障害教育には今日的な課題が存在する。ここではこの中から、キャリア教育の動きをあげ、知的障害教育との関係、今後の実践で留意すべきこと、必要な実践上の観点等も含めて解説する。 【キーワード】 キャリア教育、知的障害教育とキャリア、高等部教育、キャリア発達と一貫した指導、進路指導（進路支援）	米田　宏樹（筑波大学准教授）	米田　宏樹（筑波大学准教授）
14	今日的な課題への対応 ～その③　行動上の問題の理解と支援	新たな動向を受け、知的障害教育には今日的な課題が存在する。ここではこの中から、知的障害や発達障害に伴いがちな行動上の問題を取り上げ、問題事態の理解、行動の機能と環境側のもつ問題性等について考え、実践への示唆についても解説する。 【キーワード】 行動問題の機能分析、積極的行動支援（PBS）、行動問題から読み解き・読み取る教育的支援	藤原　義博（創価大学教授）	藤原　義博（創価大学教授）
15	今日的な課題への対応 ～その④　個のニーズに応じた授業づくり	知的障害教育の今日的な課題から、ここでは個のニーズをふまえた授業づくりの工夫を取り上げる。授業づくりの実践例をもとに、環境的支援、個のニーズに応じた支援、人的支援の在り方等から授業改善のポイントとその成果等について解説する。今後の授業づくりのあり方についても触れる。 【キーワード】 授業づくり、物理的環境支援、個のニーズに応じた支援、人的支援、授業展開	藤原　義博（創価大学教授）	藤原　義博（創価大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529129	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代日本の教師－仕事と役割－ （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 School Teachers in Present-day Japan:
Consideration of Their Roles and Daily Lives (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：油布　佐和子 （早稲田大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：岩永　雅也 （放送大学教授） 】

講義概要

本科目は、教育職員免許法施行規則第六条第二欄「教職の意義等に関する科目」に該当し、教員免許を取得するために必要な科目であるが、これに係らず、広くわが国の教師の仕事と役割の実態を学びたいと思う人のために設定される。
一般に＜教師＞について学ぶときは、義務教育段階の教員を念頭に置くことが多いが、本科目では、幼稚園教諭、高校教師も含み、それぞれの学校種で、教師がどのような状況の下でどのような課題に取り組んでいるかを理解することに努める。とりわけ、社会の変化、教育改革により、学校や教師を取り巻く環境は大きく変化しており、これを踏まえて、現代社会での教育の役割（教師の役割）を考察し、教師という職業への理解と、動機づけに寄与することを目的とする。

授業の目標

それぞれの学校種における教師の仕事と役割を理解する。
変容する社会と教育改革の中で、教師に課せられた期待と課題について、整理し検討して、今後どのような教師が求められるかについて、その要件を考える。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教師への道	どのような人が教師を志すのか、教員養成と免許制度、採用の実態などを検討する。 【キーワード】 大学における養成、開放制、免許主義、課程認定制度、教職大学院、免許更新制	油布　佐和子（早稲田大学教授）	油布　佐和子（早稲田大学教授）
2	幼児教育・保育と教師の仕事	幼児教育・保育の基本と、教師の仕事・役割について論じる。 【キーワード】 幼保の一体化、幼児教育と保育の基本、教師の仕事と役割	岩立　京子（東京学芸大学教授）	岩立　京子（東京学芸大学教授）
3	小学校教師の仕事 －日米比較から－	日本の小学校教師の仕事の特徴や実態を、アメリカの教師の日常と比較しながら論じる。 【キーワード】 小学校教師の日米比較、生活教育、ケア労働、教職の女性化	佐久間　亜紀（慶應義塾大学教授）	佐久間　亜紀（慶應義塾大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	中学校教師の仕事	教科指導だけにとどまらない仕事の実態や、思春期の生徒を理解し指導する課題について論じる。 【キーワード】 教科担任制、学級指導、カウンセリングマインド、部活指導、多忙化、同僚性	油布　佐和子（早稲田大学教授）	油布　佐和子（早稲田大学教授）
5	高校の多様化と教師	高校の多様化について説明し、それぞれの学校の特徴に応じた指導の課題について論じる。 【キーワード】 高校多様化、総合学科、単位制高校、進路指導、産業社会と人間	油布　佐和子（早稲田大学教授）	油布　佐和子（早稲田大学教授）
6	教師の服務・義務	教育公務員としての教師の問題事例をとりあげ、法的観点からその服務・義務について説明する。 【キーワード】 服務義務違反、懲戒・分限処分、判例	元兼　正浩（九州大学教授）	元兼　正浩（九州大学教授）
7	教育課題と教師 －幼児の教育・保育－	転換期の幼児教育・保育の諸問題に対して、どのような取り組みがなされているかについて論じる。 【キーワード】 幼保一体化、学びや発達の連続性を踏まえた教育、幼保小接続、子育て支援、特別な配慮を要する幼児の教育	岩立　京子（東京学芸大学教授）	岩立　京子（東京学芸大学教授）
8	教育課題と教師 －いじめ、不登校、非行－	いじめや不登校などの生徒指導上の問題について、どのような取り組みがなされているかについて論じる。 【キーワード】 社会の変容と学校文化、消費社会、情報化社会、ネットいじめ、青少年の閉塞感	油布　佐和子（早稲田大学教授）	油布　佐和子（早稲田大学教授）
9	教育課題と教師 －貧困、福祉と教育－	低学力や不登校などが、家庭の教育力と不可分であることを検討し、福祉と教育の連携について論じる。 【キーワード】 要保護児童、貧困の連鎖、中途退学、社会的排除	油布　佐和子（早稲田大学教授）	油布　佐和子（早稲田大学教授）
10	保護者と教師	クレームの増加などに見られる保護者と教師の関係について検討する。保護者や地域からの信頼を構築するための危機管理の方法などについて論じる。 【キーワード】 信頼マネジメント、クライシスコミュニケーション	元兼　正浩（九州大学教授）	元兼　正浩（九州大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	教師の専門的力量とは	教師の専門的力量とはなにか、またその力量がどのように議論されてきたかを検討する。 【キーワード】 教職の専門職性、実践的指導力、省察的思考	佐久間　亜紀（慶應義塾大学教授）	佐久間　亜紀（慶應義塾大学教授）
12	教育改革と教師 －評価の時代の教師－	アカウンタビリティが求められる時代の評価の実態と、その課題について論じる。 【キーワード】 学校評価、コンプライアンス、鍋蓋型組織から帰納的組織へ、主幹制、PDCA、教員評価	油布　佐和子（早稲田大学教授）	油布　佐和子（早稲田大学教授）
13	教育改革と教師 －教師の労働環境に焦点を当てて－	ストレスや病気休業に追い込まれる教師が増加しているが、教師の職場環境・学校組織や労働条件の変化はこれに対処できるかを考える。また、教師の身分保障等についても言及する。 【キーワード】 義務教育費国庫負担制度、公務員制度改革、教職員組合、教育公務員と労働権	油布　佐和子（早稲田大学教授）	油布　佐和子（早稲田大学教授）
14	教師の職場集団 －同僚性の形成－	諸課題に対応するための、また、専門的成長を遂げるための基盤となる職場集団の問題、また、同僚性（チーム）の形成の課題などについて論じる。 【キーワード】 職場集団の機能、職員室の機能、校内研修、レッスンスタディ、チームとしての職場集団	油布　佐和子（早稲田大学教授）	油布　佐和子（早稲田大学教授）
15	学び続ける教師	中教審にも示された「学び続ける教師」とはなにか、研修の意義や実態に触れ、また、教師の成長や熟達について考える。 【キーワード】 専門職規準、教員スタンダード、暗黙知、プロフェッショナルディベロプメント	油布　佐和子（早稲田大学教授）	油布　佐和子（早稲田大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529137	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 幼児教育の指導法 （’１５）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Methods of Early Childhood Education (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：師岡　章　（白梅学園大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：小川　正人（放送大学教授）】

講義概要

保育内容の指導法、及び幼児期の発達特性を踏まえた教育の方法に関し、情報機器の活用を含めて講述する。具体的には、第一に、「幼稚園教育要領」及び幼児期の発達特性を踏まえた幼児期の教育のあり方と、その方法の基本について検討する(第1回～第5回)。第二に、幼児期の教育を担う保育現場の現状と課題を整理する(第6回～第7回)。第三に、主たる保育内容の指導法を考察する(第8回～第10回)。第四に、幼児期の教育において活用すべき情報機器と、その取り扱い方法を検討する(第11回～第12回)。第五に、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るための方法を考察する(第13回～第14回)。最後に、まとめとして保育方法の改善に資する教師の協力体制のあり方を考える(第15回)。

授業の目標

「幼稚園教育要領」に示された幼児期の教育のねらいを達成するために指導する事項となる保育内容の指導法を理解することを目標とする。同時に、幼児期の発達特性を踏まえた教育の方法や技術について、情報機器及び視聴覚教材の活用法も含めて理解することを目標とする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	幼児期の教育の基本(1) ―『幼稚園教育要領』が示す保育の基本	幼児期の教育の基本について、『教育基本法』及び『学校教育法』などの法令、並びに『幼稚園教育要領』に基づいて理解する。特に、『幼稚園教育要領』第1章総則を通して、幼稚園教育において、基本として重視すべき事項について理解を深める。 【キーワード】 教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領、幼児期の教育の目標、幼稚園教育の基本、環境を通して行う教育、幼児期にふさわしい生活の展開、遊びを通しての総合的な指導、一人一人の発達の特性に応じた指導	師岡　章（白梅学園大学教授）	師岡　章（白梅学園大学教授）
2	幼児期の教育の基本(2) ―『幼稚園教育要領』と保育内容	幼児期の教育の目的や目標、また幼稚園教育の基本を踏まえて設定すべき保育内容に関する理解を深める。特に、『幼稚園教育要領』に示されている5領域の趣旨や、特質について検討する。 【キーワード】 保育内容、6領域、5領域、心身の健康に関する領域「健康」、人とのかかわりに関する領域「人間関係」、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」、感性と表現に関する領域「表現」、子どもの発達を見る視点	師岡　章（白梅学園大学教授）	師岡　章（白梅学園大学教授）
3	幼児期の教育の基本(3) ―幼児期の発達特性の理解	幼児期の教育を展開していく上で、踏まえておくべき幼児期の特徴と発達特性の理解を深める。さらに一人一人の発達の特性を踏まえた指導のあり方について理解する。 【キーワード】 幼児期の発達特性、幼稚園の生活、自己抑制、他者の心の理解、発達の個人差、一人一人の発達の特性、発達の課題	佐久間　路子（白梅学園大学教授）	佐久間　路子（白梅学園大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	保育方法の基本(1) －環境を通して行う教育	保育の基本である「環境を通して行う教育」に関する理解を深める。特に、「環境を通して行う教育」を展開する際、把握しておくべき環境の種類や、保育環境を計画的に構成する上での留意点について検討する。 【キーワード】 環境を通して行う教育、人的環境、物的環境、自然環境、社会環境、間接的教育法、直接的教育法、計画的な環境構成	師岡　章 （白梅学園大学教授）	師岡　章 （白梅学園大学教授）
5	保育方法の基本(2) －遊びを通しての総合的な指導	幼児の自発的な活動として重要である遊びの意義と指導・援助の原則についての理解を深める。特に、遊びと学習の関係、教師の多様な役割について検討する。 【キーワード】 遊び、学習、指導・援助、教師の役割	師岡　章 （白梅学園大学教授）	師岡　章 （白梅学園大学教授）
6	保育実践の現状と課題(1) －海外の保育方法の受容と展開	幼稚園における保育実践の現状を把握した上で、その成果と課題を検討する。特に、イタリアのレッジョ・エミリア・アプローチ等、海外の保育方法の受容状況を把握し、その成果と課題を検討する。 【キーワード】 モンテッソーリ保育、レッジョ・エミリア・アプローチ、シュタイナー教育	師岡　章 （白梅学園大学教授）	師岡　章 （白梅学園大学教授）
7	保育実践の現状と課題(2) －保育形態の種類と活用法	幼稚園における保育実践の現状を把握した上で、その成果と課題を検討する。特に、一斉保育と自由保育等、多様な保育形態の展開状況を把握し、成果と課題を検討する。 【キーワード】 保育のスタイル、保育形態、一斉保育、自由保育、設定保育、個別保育、グループ保育、混合保育、縦割り保育、異年齢保育、年齢別保育、交流保育、解体保育、コーナー保育、オープン保育	師岡　章 （白梅学園大学教授）	師岡　章 （白梅学園大学教授）
8	保育内容の指導法(1) －規範意識の芽生えの育成	幼児期の教育において課題となる規範意識の芽生えを養う方法についての理解を深める。幼児が他者と関わる中で、きまりの必要性に気付き、自分の気持ちを調整していく力をつけていく過程に寄り添い、支える、教師のかかわりについて検討する。 【キーワード】 規範、規範意識、人間関係、きまりの必要性、自分の気持ちを調整する力、自己制御	佐久間　路子 （白梅学園大学教授）	佐久間　路子 （白梅学園大学教授）
9	保育内容の指導法(2) －協同的な遊びの展開と援助	幼児期の教育において課題となる協同的な遊びの展開と援助のあり方についての理解を深める。特に、協同して遊ぶ体験を促すために必要な教師の役割や、近年注目されているプロジェクト型実践の可能性を検討する。 【キーワード】 協同の精神の芽生え、協同的な遊び、協同的な学び、学級集団、プロジェクト型実践、プロジェクト・メソッド、レッジョ・エミリア・アプローチ、総合的な活動	師岡　章 （白梅学園大学教授）	師岡　章 （白梅学園大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	保育内容の指導法（3） －行事の指導	幼児期の教育において課題となる行事の指導についての理解を深める。特に、教育的価値に基づく行事の精選と、幼稚園生活の自然な流れにそった展開の仕方について検討する。 【キーワード】 行事保育、祭り、セレモニー、イベント、フェスティバル、子どもの成長の手がかりとなる行事、総合的な活動、創造的活動	師岡　章（白梅学園大学教授）	師岡　章（白梅学園大学教授）
11	情報機器の活用と課題（1） －情報機器の種類と功罪	ICTを含めた情報機器の現状や幼児期の教育への活用を概観しながら、情報機器や情報機器と関連の深いメディアと幼児の関わりにおける課題や、適切に情報機器と関わっていくために必要となるメディアリテラシー、ICTリテラシーについて理解を深める。 【キーワード】 情報機器、ICT、メディア、メディアリテラシー、ICTリテラシー、クリティカル・シンキング	田中　浩二（東京成徳短期大学准教授）	田中　浩二（東京成徳短期大学准教授）
12	情報機器の活用と課題（2） －視聴覚教材の活用法	多様な機能をもつ情報機器において、幼児期の教育への活用を考えたとき、視聴覚教材としての活用が挙げられる。本章では、幼児の環境の一部としての視聴覚教材のあり方について解説し、実際の活用例や活用技法について検討する。 【キーワード】 情報機器、視聴覚教材、直接的な体験、間接的な体験、画像処理ソフト、動画処理ソフト、プレゼンテーションソフト	田中　浩二（東京成徳短期大学准教授）	田中　浩二（東京成徳短期大学准教授）
13	小学校教育との連携（1） －交流活動の推進	円滑な接続が期待されている幼児期の教育と小学校教育の連携についての理解を深める。特に、子ども同士、教師相互の交流活動の意義や展開方法について検討する。 【キーワード】 保幼小連携、交流活動、幼稚園幼児指導要録	師岡　章（白梅学園大学教授）	師岡　章（白梅学園大学教授）
14	小学校教育との連携（2） －学びの連続性の確保	円滑な接続が期待されている幼児期の教育と小学校教育の連携についての理解を深める。特に幼児期の教育と小学校教育の指導方法の相違を踏まえた学びの連続性の確保、教育課程の編成の工夫等について検討する。 【キーワード】 子どもの発達と学びの連続性、体験学習、創造的な思考の基礎、主体的な態度の基本、三つの自立、学力の三要素、幼小接続、接続期教育、一貫カリキュラム、スタートカリキュラム	師岡　章（白梅学園大学教授）	師岡　章（白梅学園大学教授）
15	教師の協力体制と保育方法の改善 －ティーム保育の推進と教師の役割	複数の教師が協力・連携し、共同で保育していく方法に関する理解を深める。特に、ティーム保育の進め方と、相互の教師間で担うべき役割について検討する。また、共同で保育する機会を通して、保育方法を改善していく道筋を検討する。 【キーワード】 教師間連携、ティーム保育、保育のふり返り、省察、共同研修、共同研究	師岡　章（白梅学園大学教授）	師岡　章（白梅学園大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529145	履修制限	無	単位数	1

科目名（メディア） ＝ 教育課程の意義及び編成の方法 （’１５）＝ （OL）

英文名 ＝ 〔 Theory and Methods of Curriculum Design (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：福元 真由美 （東京学芸大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：小川 俊樹 （放送大学教授） 】

講義概要

幼稚園教育における教育課程の意義及び編成の方法に関して、基本的な事項を取り上げて解説する。創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるために、園や地域の実態等に即して教育課程を編成し、実施していくことは重要である。そこで、幼稚園を基盤とした教育課程開発を中心に、具体的な事例を紹介しながら解説するとともに、保育の質の向上に向けた教育課程の評価と改善についても取り上げる。なお本科目は、子ども・子育て支援新制度における保育教諭となるために、保育士資格を有し、幼稚園教諭免許状の取得を希望する者を受講対象としている。

授業の目標

保育の現場で教育課程の意義を理解し、その編成のために必要な基礎的な事項を学習することを目標とする。具体的には、①教育課程の意義を理解し、その基礎的な理論に関する知識を習得する、②幼稚園における教育課程の編成に関する基本的な知識を習得する、③保育実践に即して指導計画の作成の方法を理解する、④教育課程の評価と改善に関する基本的な知識を習得する、である。

履修上の留意点

※本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
1	教育課程の基礎理論	幼稚園教育要領をふまえて、幼児教育における教育課程の意義と原理を示すとともに、教育課程の歴史的な変遷を通して現代の教育課程の特徴を明らかにする。また、日本及び海外のカリキュラム研究をもとに、教育課程開発の実践的課題について考える。 【キーワード】 学校教育としての幼稚園教育、学校教育法、幼稚園教育要領、幼稚園教育の基本、幼稚園教育の目標、教育課程の意味、フレーベル主義の教育から環境を通した教育へ、OECDと欧米の教育課程改革	福元 真由美（東京学芸大学准教授）
2	教育課程と指導計画	教育課程は入園から修了までを見通した教育の全体計画であり、指導計画は一人ひとりの幼児が必要な経験を得るための具体的な計画である。この回では、幼稚園教育における教育課程と指導計画の位置づけと関係、および編成の方法に関する基礎的な事項について説明する。 【キーワード】 教育課程、長期の指導計画、短期の指導計画、ねらいと内容、幼児期の発達の特性、保育内容の5領域、教育週数と教育時間	福元 真由美（東京学芸大学准教授）
3	環境の構成	幼稚園教育は、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものである。この回では、幼稚園教育における環境の概念、発達や活動に応じた環境の考え方をふまえて、指導計画における環境構成の基本について解説する。 【キーワード】 幼稚園の環境、発達に応じた環境、物的環境の構成、人的環境としての教師、環境の再構成	田代 幸代（共立女子大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　師　名 (所属・職名)
4	長期の指導計画	長期的に発達を見通した年、学期、月などにわたる長期の指導計画を取り上げ、その作成の実際を通して、幼児の発達や生活を十分に考慮して、季節などの周囲の環境の変化や行事などを計画に位置付ける際の留意点を示す。 【キーワード】 長期の指導計画、長期的な見通し、具体的な指導内容や方法、環境構成の視点、季節、地域や園の自然と行事、指導の重点	福元　真由美 (東京学芸大学准教授)
5	短期の指導計画	具体的な幼児の生活に即した週、日などの短期の指導計画を取り上げ、その作成の実際を通して、日々の幼児の姿に直結してねらいや内容、環境の構成、援助について具体的に計画する際の留意点を示す。 【キーワード】 週案・日案、実態を捉える、ねらい・内容の設定、主体的な遊びと学級活動	田代　幸代 (共立女子大学准教授)
6	保育記録の意義と実際	教育課程および保育実践の評価の基礎となる保育記録の意義、方法、内容について基本的な事項を解説する。また、実際の保育記録をふまえて、幼児の理解や指導の評価、指導計画の改善について具体的に示す。 【キーワード】 いろいろな保育記録、幼児の理解・遊びの理解、教師の指導の改善	田代　幸代 (共立女子大学准教授)
7	教育課程の評価と改善	計画の作成→実践→反省・評価→改善の過程について示し、教育課程・指導計画の評価と改善の方法について基礎的な事項を解説する。学校評価における教育課程の自己点検・評価のあり方についても示す。 【キーワード】 教育課程・指導計画の改善、反省と評価、学校評価、保育の質の向上	神長　美津子 (國學院大學教授)
8	教育課程の現代的課題	教育課程の現代的課題として、幼小接続期および特別支援教育、学校安全教育における工夫と開発を取り上げ、その背景と意義、実際の教育現場における取り組みについて解説する。 【キーワード】 幼小接続、発達と学びの連続性、学びの芽生え、接続のカリキュラム、スタートカリキュラム、特別支援教育、個別の教育支援計画、学校安全計画	神長　美津子 (國學院大學教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529153	履修制限	無	単位数	1

科目名（メディア） ＝ 幼児理解の理論及び方法 （’１５）＝ （OL）

英文名 ＝ 〔 Theories and Methods of Understanding Children (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：中澤 潤 （千葉大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：砂上 史子 （千葉大学准教授） 〕

【本学担当専任教員：小川 正人 （放送大学教授） 】

講義概要

本科目は、「幼稚園教諭の普通免許状に係る所有資格の期限付き特例」により幼稚園教諭免許を取得しようとする保育士を対象とする。まず幼児理解の基盤となる発達心理学、臨床心理学等の理論を解説する。加えて、幼稚園教諭の専門性としての幼児理解のあり方を幼児教育の特質と関連づけて解説し、検討する。次に、幼児理解の具体的な技法である観察、面接を解説する。さらに、幼児理解に関連する幼児教育の実践として、映像によるカンファレンス、幼稚園幼児指導要録について解説する。さらに、特別支援教育、幼小接続における幼児理解のあり方についても検討する。

授業の目標

幼稚園教諭免許に必要な幼児理解について、以下の①～③を本科目の到達目標とする。
①基盤となる理論および幼児教育の特質との関連を理解する。
②幼児理解の具体的な技法である、観察、面接の実際を理解し、身につける。
③幼児理解に関連する具体的実践と、特別支援教育、幼小接続との関連を理解する。

履修上の留意点

※本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
1	幼児理解の理論	幼児教育に求められる幼児理解の概観を論じ、本講義の流れを解説する。 認知発達理論から、知的発達の側面からの幼児理解の基本的視点を与えるものとして、認知発達理論（構成主義と社会的構成主義）、情報処理理論を解説する。 社会・人格・臨床発達理論（カウンセリングの視点）から、社会・人格的側面からの幼児理解の基本的視点を与えるものとして、愛着理論、自我心理学、社会的学習の理論を解説する。また治療的理論としてカウンセリング理論を解説する。 【キーワード】 認知発達理論、情報処理理論、愛着理論、自我心理学、カウンセリング理論	中澤 潤（千葉大学教授）
2	幼児教育における幼児理解	幼稚園教諭の専門性としての幼児理解のあり方を、幼児教育の特質と関連づけて解説する。 幼児理解の特質を、倉橋惣三、津守真らの理論から論じる。理解と実践、省察の関連を検討する。 幼児理解に影響を及ぼす保育者の見方や、関係論的視点について解説する。 【キーワード】 幼児理解、倉橋惣三、津守真、関係論的視点	砂上 史子（千葉大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　師　名 (所属・職名)
3	幼児理解の方法	幼児理解のための最も基本的な技法としての観察、面接、ならびに、記録やその読みとりについて解説する。 遊び場面における幼児理解と援助との関連について述べる。 幼児理解の具体的方法としての記録の書き方を、具体的に述べ検討する。 【キーワード】 観察、遊び、記録	砂上　史子 (千葉大学准教授)
4	幼児理解と映像によるカンファレンス	映像をもとにしたカンファレンスを通して、多様な視点からまた微細な視点から幼児の興味欲求や気持ちをとらえる幼児理解について実践的に論じる。さらに、撮影・再生方法と解釈の変化や映像を用いる限界や危険性についても論じる。 【キーワード】 映像、カンファレンス	岸井　慶子 (青山学院女子短期大学教授)
5	幼児理解と保育計画	幼児理解に基づく「遊び」を中心とした保育計画の立案、改善等について実践的に論じる。 幼児が主体となる経験としての「遊び」を中心とした指導を通して総合的に教育のねらいが達成できるようにするための計画について事例を通して論じる。 【キーワード】 保育計画、長期計画、短期計画	久留島　太郎 (山武市立日向小学校教諭)
6	幼児理解と評価	幼児理解から評価を行うことの基本的な考え方を解説する。 幼稚園幼児指導要録の法的根拠及び役割を解説する。 一年間の指導の過程で捉えた幼児の記録を、どのように指導要録「指導に関する記録」に記入するのかを解説する。 【参考資料】 幼稚園教育指導資料集第3集「幼児理解と評価」文部科学省 【キーワード】 保育記録、幼稚園幼児指導要録	當銀　玲子 (淑徳大学非常勤講師)
7	特別支援教育と幼児理解	特別な支援を要する子どもが保育現場に増している現況をふまえ、幼児理解と個別支援のあり方、保育方法と家庭支援、子ども同士の育ち合いへの支援について、実践例とともに論じる。 【キーワード】 特別支援教育、個別の計画、インクルーシブ保育	太田　俊己 (関東学院大学教授)
8	幼児理解の今日的課題	幼児教育を取り巻く今日的課題をふまえ、今後の幼児理解のあり方について論じる。 特に、幼稚園教育と小学校教育の接続の実際と、そこでの子ども理解について論じる。 【キーワード】 幼児教育と小学校の接続	中澤　潤 (千葉大学教授) 砂上　史子 (千葉大学准教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528874	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　認知神経科学　　（’１２）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：道又　爾　（上智大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：岡田　隆　（上智大学教授）〕

【本学担当専任教員：三宅　芳雄　（放送大学教授）】

講義概要

かつては人間の脳機能測定法に大きな制約があったため、認知心理学において脳はどうしてもブラックボックス視されがちだった。しかし、認知課題を遂行中の人間の脳活動を非侵襲的に測定する技法が開発されて以来、認知心理学においても精神機能を脳のはたらきと結びつけて研究しようとする機運が高まり、認知神経科学という学問分野に結実した。この講義では、記憶や言語など、人間の持つ高度な認知機能の基礎にある脳メカニズムを追究した諸研究を紹介する。

授業の目標

認知機能をになう脳メカニズムについて理解する。具体的には、(1) 脳の活動時に細胞レベル・分子レベルで起こっていることを具体的に理解し、(2) さまざまな認知機能の生物学的基礎に関するこれまでの知見を学び、(3) それらの知見をうるために用いられた研究法、および今後重要になってくると思われる最新の研究法について理解する。

履修上の留意点

心理学の概論的講義を履修済みであることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	認知神経科学とは何か	認知神経科学の目標は、認知機能を担う脳メカニズムを解明することである。この学問分野についてのイメージを捉えるため、認知神経科学が誕生するに至った歴史をたどると共に、この分野の研究に用いられる実験法の概略について学ぶ。 【キーワード】 認知心理学、脳機能画像技術、大脳機能の斉一説と局在説、神経心理学、刺激法、破壊法、記録法、分子生物学的方法	道又　爾（上智大学教授） 岡田　隆（上智大学教授）	道又　爾（上智大学教授） 岡田　隆（上智大学教授）
2	認知機能の解剖学的基盤	脳は私たちの認知機能を担う器官である。脳を構成する各要素について知り、情報処理を行う上でとりわけ重要といえる神経細胞の活動がどのような分子によって担われているのかについて理解する。 【キーワード】 神経細胞、グリア細胞、中枢神経系、末梢神経系、大脳皮質、膜電位、脱分極、過分極、イオンチャネル	岡田　隆（上智大学教授）	岡田　隆（上智大学教授）
3	神経細胞のはたらき	神経細胞の興奮とは、具体的は何がどうなることなのだろうか。ある神経細胞が信号を受け取ってから、別の神経細胞に信号を送り出すまでの過程を順にたどることにより、脳活動の実体について理解する。 【キーワード】 シナプス、受容体、シナプス後電位、加重、活動電位、全か無かの法則、軸索、髄鞘、神経伝達物質	岡田　隆（上智大学教授）	岡田　隆（上智大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	知覚の心理学	われわれが日常的に行っている、知覚情報処理（見ることや聞くこと）の背後には、複雑な問題解決プロセスが存在する。知覚を支える脳の働きは、ふだん全く意識することのないものである。心理学における行動実験の例を通じて、この問題を具体的に考える。 【キーワード】 知覚の体制化、錯視、知覚の恒常性、ボトム・アップ処理、トップ・ダウン処理、物体認識、顔認識	道又　爾（上智大学教授）	道又　爾（上智大学教授）
5	知覚と脳	知覚機能を実現している無意識的で複雑な脳の働きについて、近年fMRIなどの新技術や脳損傷の症例によってさまざまなことが明らかになってきた。知覚機能の基盤となる脳内メカニズムについて、視覚を中心にして学ぶ。 【キーワード】 網膜像、受容野、一次視覚野、背側経路、腹側経路、失認症	道又　爾（上智大学教授）	道又　爾（上智大学教授）
6	記憶の心理学	記憶研究は、心理学の研究史の中でももっとも古いテーマであり、現在でも認知心理学と認知神経科学の中心テーマであり続けている。心理学における行動実験を紹介することを通じて、記憶という問題の不思議さについて考える。 【キーワード】 短期記憶と長期記憶、意味記憶とエピソード記憶、記憶障害、誘導尋問、偽記憶	道又　爾（上智大学教授）	道又　爾（上智大学教授）
7	記憶の生理学	何かが記憶されたとき、脳にはどのような変化が生じるのだろうか。シナプス部の形態的変化や伝達効率の変化など、記憶痕跡の候補として挙げられている可塑的変化の機序について学ぶ。 【キーワード】 シナプス可塑性、長期増強、海馬、グルタミン酸受容体、リン酸化、ニューロン新生	岡田　隆（上智大学教授）	岡田　隆（上智大学教授）
8	学習の神経機構	私たちは経験によって自身の行動を変化させることを通じて、環境への適応を実現している。本講では、非連合学習や連合学習をになう脳メカニズムについて学ぶとともに、依存との関連について考える。 【キーワード】 非連合学習、連合学習、条件づけ、脳内報酬系、側坐核、薬物依存	岡田　隆（上智大学教授）	岡田　隆（上智大学教授）
9	脳とホルモンからみた情動	喜怒哀楽は人生を彩るものであるが、自分の置かれた状況や今とるべき行動を生体に教えてくれる役割も果たす。情動の生物学的基盤を、神経系・内分泌系の両面から学ぶ。 【キーワード】 大脳辺縁系、扁桃体、自律神経系、視床下部、下垂体、ストレス	岡田　隆（上智大学教授）	岡田　隆（上智大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	注意と意識	われわれは漫然と世界を知覚しているのではなく、常に能動的な情報の取捨選択を行っている。この「注意」の働きは、われわれの意識生活の基盤である。この問題について、日常的体験を行動実験やfMRI実験の知見と結びつけることで具体的に学ぶ。 【キーワード】 カクテル・パーティ効果、注意の分配、前注意的過程、有限資源、処理の自動化、注意と脳	道又　爾（上智大学教授）	道又　爾（上智大学教授）
11	言語と大脳左右半球機能	言語は人間を人間たらしめているきわめて重要な機能である。言語には謎が多く、未解決の問題がたくさんある。しかし近年、fMRIなどを通じて新たな知見が続々と得られている。この魅力的な問題について、研究史を参照しつつ考える。 【キーワード】 産出性と規則性、言語学的直感、言語と思考、左右半球と言語、分離脳、意味ネットワーク、聞くこと、話すこと、読むこと	道又　爾（上智大学教授）	道又　爾（上智大学教授）
12	社会的認知	従来は社会心理学のテーマであった、共感性、助け合い、倫理的行動、などの研究が、近年急速に脳研究と結びついてきている。この新しい潮流を、具体的な実験例を上げつつ考察する。 【キーワード】 心の理論、自閉症、共感、社会的規範、ソマティック・マーカー仮説	道又　爾（上智大学教授）	道又　爾（上智大学教授）
13	概日リズムと睡眠	地球上に生きる生物として、1日24時間のサイクルに基づいた生理的・行動的リズムを有している。概日リズムを司る脳内メカニズムについて学ぶとともに、概日リズムを示すものの代表例として、精神機能と深く関わりのある睡眠について理解する。 【キーワード】 概日リズム、視交叉上核、レム睡眠、ノンレム睡眠、脳波、上行性網様体賦活系	岡田　隆（上智大学教授）	岡田　隆（上智大学教授）
14	脳の発達と進化	複雑な脳神経系は長い年月をかけた進化の結果できあがってきたものであり、また一個体のレベルにおいても劇的な発達を遂げる。脳の発達について、系統発生・個体発生の両側面から検討する。 【キーワード】 胚、胎児、外胚葉、神経管、脳室帯、成長円錐、髄鞘化、神経成長因子	岡田　隆（上智大学教授）	岡田　隆（上智大学教授）
15	まとめと展望	認知行動を支える脳メカニズムをさらに明らかにするために、認知神経科学は今後どのような道を進めばよいのだろうか。本講座のこれまでの内容を振り返ると共に、今後の展望について論じる。 【キーワード】 CT、MRI、EEG、MEG、PET、fMRI、NIRS	道又　爾（上智大学教授） 岡田　隆（上智大学教授）	道又　爾（上智大学教授） 岡田　隆（上智大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528939	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 錯覚の科学 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 The Science of Illusion (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：菊池　聡　（信州大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：森　津太子　（放送大学教授）】

講義概要

私たちの脳が認識する世界と、客観的な世界にズレが生じる現象が、「錯覚」である。心理学の諸研究は、視覚や聴覚といった知覚を中心として、記憶や思考などさまざまな心的過程で生じる錯覚の特徴やメカニズムを明らかにしてきた。これらの研究成果を、心理学だけではなく美術史などの多様な分野から紹介し、錯覚が私たちの日常生活や社会、文化、芸術に与える影響を学際的に検討する。これらを通して、人が世界を認識する独特の仕組みについて理解を深めていく。

授業の目標

錯覚とは客観的には「誤った」認知であるが、それは必ずしも人の認知の欠陥や能力不足のために起こるものではない。より効率的で適応的な認知を実現するために、人はあえて世界を歪めてとらえることがある。こうした「人間らしい」認知の性格を知り、人が世界を認識するということはどういうことなのかを理解することが第一の目標である。さらに、そうした認知の歪みが、あるときは芸術や文化を生み出し、同時に詐欺や欺瞞につながっていることもぜひ理解したい。最終的には、錯覚に関する多面的な理解を通して、心理学的なクリティカル・シンキングの基本を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

幅広く錯覚という現象を概観するので、本科目には特に予備知識は必要としない。さらに深く学ぶためには知覚や認知に関する心理学系の専門的な科目へ進んでいただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	錯覚への招待	私たちが認識している世界は、客観的な世界と正確に対応しているわけではない。いわば脳の中で無意識のうちに再構成された世界とも考えられる。その再構成の過程で、さまざまな「人間らしい」錯覚が生じる。これから学ぶ錯覚の世界について、基礎的な知識を概観する。 【キーワード】 心理的錯覚、物理的錯覚、認知、感覚、知覚	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授）
2	視覚の錯覚　見ることは考えること	人の眼はカメラとほぼ同じ仕組みを持っている。しかし、人はカメラのように、世界を忠実に認識するのではない。ヘルムホルツが、知覚とは「推論」することだと指摘したように、知覚体験は高度な認知情報処理の産物なのである。奥行き知覚や恒常現象は、この知覚の解釈的性格をよく表している。 【キーワード】 カメラアナロジー、知覚的推論、奥行き知覚、線遠近法、恒常現象	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授）
3	錯視の世界を体験する	視覚で生じるさバラエティ豊かな錯視現象の数々を実際に体験しながら、人の視知覚が情報を再構成する仕組みを理解する。 【キーワード】 エイムズの部屋、縦断勾配錯視、マッハの本、幾何学錯視、リバースパースペクティブ	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	視覚の錯覚　知覚心理学と絵画芸術の接点	錯覚は人の基本的な世界の認識を反映した現象である。たとえば恒常現象は、対象の同一性を保持し、世界を安定して知覚する働きをする。こうした錯覚が持つ人間らしい性質は、線遠近法が学習される以前の子どもの絵や古代の絵画などを通して理解することができる。 【キーワード】 知的写実主義、エジプト絵画、やまと絵遠近法、印象派、現代絵画	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授） 金井　直（信州大学准教授）
5	視覚芸術と錯覚	ゼウクシスの逸話からオプ・アートまで、西洋絵画史はまさに錯覚の歴史であるが、そもそも板や画布という物体を「絵画」とみなすこと自体、錯覚の最たるものかもしれない。本講義ではとくに遠近法の展開に着目しつつ、美術における錯覚とその機能について考察する。 【キーワード】 写実、ルネサンス、パースペクティヴ、トロンプルイユ	金井　直（信州大学准教授）	金井　直（信州大学准教授）
6	記憶の錯覚　人の記憶は確実なのか	想起された記憶とは過去の情報が再生されたと言うよりも、さまざまな記憶手がかりをもとに再構成されるものととらえられる。そのため、実際には存在しなかった事項が、あたかも真実の記憶のように思い出される虚偽記憶という錯覚が生じる。 【キーワード】 虚偽記憶、ソースモニタリング、目撃者証言	齋藤　智（京都大学大学院准教授）	齋藤　智（京都大学大学院准教授）
7	思考の錯覚と認知バイアス	客観的に正しく考えているつもりでも、人は誤った思い込みに陥ることがある。そこには、私たちの情報処理に生じる認知バイアスが働いている。人の持つバイアスが、どのような思考の錯覚をもたらすのかを身近な例から考える。 【キーワード】 錯誤相関、確証バイアス、迷信的思考	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授）
8	ヒューリスティックと行動経済学	私たちの日常的な思考は、論理的な厳密さよりも、効率性と一貫性を優先した簡便な方法で行われる。こうした方法はヒューリスティックと呼ばれ、身の回りで広く見ることができる。そこで起こる、特有の思考の錯覚を考察する。 【キーワード】 ヒューリスティック、代表性、利用可能性、アンカリングと調整、プロスペクト理論	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授）
9	自己の一貫性と正当化が引き起こす錯覚	心理学の古典的な理論として知られる認知的不協和理論は、一貫性への動機づけが無意識のうちに認知や行動を変容させる仕組みを体系的に説明している。その理論が応用できる範囲は、身近な思い込みからマインドコントロール技術に至るまで非常に広い。 【キーワード】 認知的不協和、入会儀礼効果、マインドコントロール、フット・イン・ザ・ドア・テクニック	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	身近な情報の錯覚	私たちは、身の回りの出来事からさまざまな情報を読み取って解釈し、判断や意思決定の材料としている。その際に、情報が持つ統計的な性質を見落とすと、そこに誤った因果関係を発見してしまうことがある。 【キーワード】 平均への回帰の錯誤、前後論法、同時発生の原因、サンプリングバイアス	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授）
11	錯覚の光と影　エンタテイメントと悪質商法	「注意」の性質を利用した錯覚は、マジックをはじめとしたエンタテイメントに利用されるのと同時に、時には詐欺や悪質商法の手法として使われる。これらの手法に共通する注意と思考の錯覚を解き明かしていく。 【キーワード】 チェンジブラインドネス、注意、復帰抑制、共同注意、ミスディレクション、フォース	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授）
12	原因と結果をめぐる錯覚　社会的認知	ものごとの原因はなんであるかを考える原因帰属の推論は、人の思考の中でも重要な過程である。この帰属推論で生じるいくつかのバイアスが対人認知の歪みを引き起こすことを理解し、よりよい帰属推論を行うためのポイントを考える。 【キーワード】 原因帰属、分散分析モデル、基本的帰属錯誤、行為者観察者効果、内集団バイアス、情動二要因理論	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授）
13	科学的思考と錯覚	科学としての要件を備えていないのに、科学的であるかのように装っている主張は、疑似科学と呼ばれる。そこには、科学的概念やデータ解釈の錯覚が生じている。血液型性格学など、現代の日本になじみの深い疑似科学をとりあげ、疑似科学の錯覚を明らかにする。 【キーワード】 血液型性格判断、バーナム効果、疑似科学、境界設定問題、反証可能性、アドホック仮説、立証責任の転嫁	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授）
14	自己の錯覚	健康な精神の持ち主は、現実を自分に有利に歪めて認識する傾向を持っており、これはポジティブイリュージョンと呼ばれる。こうした自己奉仕的な認知の歪みについて、その特徴と心理的適応に果たす意味を解説する。 【キーワード】 抑うつの現実主義、ポジティブ・イリュージョン、平均以上効果、制御幻想、非現実的な楽観主義	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授） ゲスト：星　薫（放送大学客員准教授）
15	錯覚とメタ認知　錯覚とよいつきあいを築く	自分自身の認知を適切にモニターし、さらにそれを制御しようとする過程は、メタ認知と呼ばれる。このメタ認知は、論理的で偏りのない良質の思考であるクリティカル・シンキングを実現するために、重要な概念となる。本科目で学んだ錯覚についてのメタ認知を、今後の生活や社会にどう活かすべきかを総括的にふりかえる。 【キーワード】 認知的経済性の原理、メタ認知、クリティカルシンキング	菊池　聡（信州大学教授）	菊池　聡（信州大学教授） 齋藤　智（京都大学大学院准教授） 金井　直（信州大学准教授） ゲスト：星　薫（放送大学客員准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528904	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　認知心理学　　（’１３）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：高野　陽太郎　（放送大学客員教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：三宅　芳雄　（放送大学教授）　】

講義概要

認知心理学は、人間の心の働きを情報処理プロセスとして理解しようとする心理学です。人間は、目や耳などの感覚器官から環境についての情報を入力し、それを選別したり、貯蔵したり、加工したりして、環境に適応するための行動という形で出力します。この授業では、そうした情報処理のプロセスについて、認知心理学ではどのようなことが明らかになってきたのかを調べます。話の中心は、人間の情報処理の特色になっている高次認知（記憶・言語・思考など）です。また、目で見ることも手で触ることもできない心の働きをどのように研究するのかという研究方法の問題、あるいは、認知心理学の研究がどのように役立つのかという実用の問題についても考えてみることにします。

授業の目標

この授業の最大の目標は、人間の認知を実現している仕組み、および、その特性について、知識を広げ、理解を深めることです。何故そのような仕組みになっているのかという認知の適応的な機能についても考えてみたいと思います。また、欲を言えば、研究方法が適切かどうかという観点から学問的な知見を吟味する習慣も身につけることができればと思っています。

履修上の留意点

この科目では、放送教材と印刷教材の内容は、完全に同じではありません。「話の大筋は同じで、取り上げる研究例や実例が少し違う」という場合が多いのですが、内容がかなり異なる回も幾つかあります。1つ1つの事項について、できるだけ丁寧に説明をしようとすると、どうしてもスペースが足りなくなってしまうので、この科目では、両方を合わせて、認知心理学の全体像が掴めるようにしたいと考えています。予習は必要ではありません。しかし、放送教材を視聴した後、印刷教材を読んで復習をすることは、理解を広げたり深めたりすることに役立つでしょう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	認知心理学のプロフィール	第1回は、認知心理学の紹介です。認知心理学というのはどのような心理学なのか、大局的な視点から俯瞰します。研究の対象、認知研究の歴史、認知を理解するための概念的な枠組みなどについてお話をします。 【キーワード】 情報処理パラダイム、適応論パラダイム、概念装置	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）
2	認知心理学の研究方法	五官では直接捉えることのできない精神活動をどのようにして科学的に研究するのかは、心理学にとって、常に直面し続けなければならない重要で困難な問題です。五官では捉えられない精神活動の最たるものである心的イメージの研究を例にとって、この問題に認知心理学がどう対処してきたのかを調べます。 【キーワード】 研究法、反応時間、イメージ	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）
3	知覚	この回から、認知プロセスを入力から出力まで順に追っていくことになります。まず最初は、情報を入力するプロセスである知覚です。主に視知覚を対象にした研究を取り上げ、環境についての有用な情報を得るために、知覚プロセスがどのような情報処理をしているのかを検討します。 【キーワード】 立体視、恒常性、補完、運動からの構造復元	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	注意	感覚器官からは絶えることなく大量の情報が流れ込んできます。とても全ての情報を処理することはできません。環境について重要な事柄を知らせてくれる情報を選り分ける必要があります。それが注意です。情報をどのように選別するのか、人間はどれぐらいの処理能力を持っているのかといった問題を検討します。 【キーワード】 選択的注意、分割注意、注意の容量、視覚的注意	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）
5	記憶1：さまざまな記憶	人間の記憶は1つではありません。さまざまな種類の記憶があります。この回では、記憶の全容を概観するために、どのような種類の記憶があるのかを紹介します。 【キーワード】 長期記憶、作動記憶、手続き記憶、宣言記憶	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）
6	記憶2：記憶の適応的な特性	この回では、記憶がどのように適応に役立っているのかを考えます。記憶については、非常に多くの現象が知られていますが、その多くは、環境への適応という観点から見ると、その意味を理解することができます。 【キーワード】 符号化特定性原理、処理水準、目撃証言	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）
7	記憶3：知識の構造	宣言的記憶の中で、知識がどのように構造化されており、どのように想起され、どのように忘却されるのかを考えてみます。 【キーワード】 意味ネットワーク、スキーマ、カテゴリ、活性化、意味	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）
8	思考1：演繹的推論	環境を正確に認知するためには、複雑な情報処理が必要になる場合もあります。そのような情報処理が推論です。高度の推論能力は、人間の認知の際立った特色であり、非常に柔軟性の高い適応行動を可能にしています。その一方で、組織的な偏りが生じる場合もあることが知られています。 【キーワード】 三段論法、信念バイアス、選択問題	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）
9	思考2：帰納的推論	帰納的推論は、環境の中の規則性を見出すことによって、環境によりよく適応することを目的とした情報処理です。この回では、帰納的推論に関する代表的な研究を紹介します。 【キーワード】 確証バイアス、基準率無視、ヒューリスティクス	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	思考3：意思決定と問題解決	この回では、推論以外で特に研究が進んでいる高度な情報処理として、意思決定と問題解決を取り上げます。複数の選択肢がある場合に、どれを選ぶかという情報処理が意思決定、記憶から答を探し出すことのできない問題について、答を得るための情報処理が問題解決です。 【キーワード】 フレーミング効果、プロスペクト理論、機能的固着	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）
11	言語1：心理言語学	言語については、言語学という分野がありますが、認知心理学には、言語を研究対象とする心理言語学という分野があります。この回では、心理言語学が言語のどのような面を研究しているのかを紹介します。 【キーワード】 言語習得、臨界期仮説、言語相対性仮説	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）
12	言語2：理解と産出	人間が言語をどのように理解し、どのように産み出すのかという問題についての心理学的な研究を紹介します。音声の知覚、文字の認知、単語の認知、文の理解、文の産出などのトピックを取り上げます。 【キーワード】 カテゴリカル知覚、音素修復、単語優位効果	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）
13	学習	認知心理学では、知識や技能を身につけていくプロセスも研究されてきました。高度の技能を身につけた熟練者と初心者を比較した研究も行われてきました。この回ではそうした研究を紹介します。また、学習を行なう神経回路のモデルについても簡単に紹介します。 【キーワード】 熟達化、熟練者、並列分散処理	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）
14	社会的認知	人間にとって、他の人間、および、人間がつくる社会集団は、環境の中の非常に重要な部分です。人間の認知は、人間集団の中で適応的な行動をとるために発達してきたという側面もあります。この回では、認知心理学と社会心理学の境界領域で研究されてきた、人間についての認知を取り上げ、過去の研究成果を概観します。 【キーワード】 二過程モデル、帰属、対応バイアス、ステレオタイプ	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）
15	実生活との接点	最後の回では、認知の研究が実生活とどのような関係を持っているのかを考えてみます。実生活と関係のあるさまざまな研究を概観した上で、外国語使用に伴う思考力の低下という現象を少し詳しく論じ、この研究が現実の国際交流の中で持つ意味を考えてみます。 【キーワード】 外国語副作用	高野　陽太郎（放送大学客員教授）	高野　陽太郎（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529080	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 乳幼児心理学 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Infant Psychology (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：山口 真美 （中央大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：金沢 創 （日本女子大学教授） 〕

【本学担当専任教員：森 津太子 （放送大学教授） 】

講義概要

視覚と聴覚という基礎的なメカニズムの発達から、社会性の萌芽や言語の発現へと続く、乳幼児の心理の発達段階について、最新の知識を踏まえながら、学んでいく。実際の実験場面を検討しながら、子ども達の持つ意外な潜在能力について理解を深めつつ、発達にはなにが必要なのかを理解し、最後にはこれらの心理学の知識を生かした、現場での実践について学習する。

授業の目標

乳幼児における心理メカニズムの発達を学び、あわせて乳幼児を対象とした心理学の方法を学ぶこと。視覚・聴覚という基礎的なメカニズムからどのように社会性と言語の萌芽へと続いて行くのか、その発現過程を詳細に検討した、さまざまな実験を学びながら、乳幼児の心理メカニズムについて学習して行く。このような新しい知識を得た上で、さまざまな個性を持つ乳幼児の理解をめざす。

履修上の留意点

実験でわかった結果(乳幼児の心理の発達過程)だけを単純に覚えるのではなく、どのようにしてそれぞれの発達メカニズムが解明されたのかを、実験心理学の方法の理解を通じて、そのプロセスをしっかりと頭に入れてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	新しい乳幼児心理学の概要	乳幼児の認知能力を計測する実験の方法について解説する。乳幼児は大人のように、言葉を駆使して自らの意思を表現することができない。こうした乳幼児を対象に、言語を使用せずに実験する方法が考えられてきた。 【キーワード】 選好注視法、馴化・脱馴化法	山口 真美（中央大学教授） 金沢 創（日本女子大学教授）	山口 真美（中央大学教授） 金沢 創（日本女子大学教授）
2	視力の発達	視覚にかかわる脳の発達に伴い、発達していく基礎的な視覚能力について解説していく。縞視力に代表される視力などはその典型であるが、視力以外にも、コントラスト感度の発達やチラツキに対する感度の発達など、脳の発達と直接リンクした視覚発達は物体の認知や社会性の認知の制約となる重要な能力である。 【キーワード】 視力、コントラスト感度、時間周波数	金沢 創（日本女子大学教授）	金沢 創（日本女子大学教授）
3	色がわかること	色を見る能力とそのメカニズム、そしてその発達について解説する。色を見ることは、単純に網膜レベルで成立するものではなく、照明と物体表面を分離し、面が持つ物理的な質感を推定するいわゆる色恒常性や明るさの恒常性の能力とかかわる。ここでは、主に色恒常性や、色カテゴリを弁別する能力について解説する。 【キーワード】 色の恒常性、錐体細胞、色カテゴリ	山口 真美（中央大学教授）	山口 真美（中央大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	顔をみること	顔の認知は、プリミティブなものであれば新生児にも可能といわれる。一方、目鼻の顔部分の詳細な配置に基づく人物同定は、人見知りの始まる7ヶ月ごろにようやく可能となる。近年発展してきた乳児の脳科学研究の成果も含め、社会性の基礎となる顔認知について解説する。 【キーワード】 顔認知、顔模式図形、顔の動き	市川　寛子（東京理科大学講師）	市川　寛子（東京理科大学講師）
5	言語の獲得（1）音声知覚の発達	こどもは生活環境にあることばを母語として自然に身につけていく。その最初のステップとなる母語に適した音声知覚様式の獲得過程を、実証的研究を交えて紹介する。あわせて、養育環境にいる大人の語りかけが担う役割を解説する。 【キーワード】 初期の音声知覚能力、知覚の最適化、乳児への語りかけ	麦谷　綾子（NTTコミュニケーション科学基礎研究所主任研究員）	麦谷　綾子（NTTコミュニケーション科学基礎研究所主任研究員）
6	言語の獲得（2）音から言葉へ	こどもの語彙獲得の前提となる単語切り出し能力、語に意味を付与する能力の芽生えを解説し、日本語の自然発話データから初期の語彙獲得過程を紹介する。あわせて、乳幼児期の急激な語彙獲得の背景にあるメカニズムを解説する。 【キーワード】 単語の切り出し、語彙獲得のメカニズム	麦谷　綾子（NTTコミュニケーション科学基礎研究所主任研究員）	麦谷　綾子（NTTコミュニケーション科学基礎研究所主任研究員）
7	動きがわかること	動きを見ることから発達は始まり、形を見る能力を促進する効果がある。にもかかわらず、発達障害では動きを見ることに障害が見られることが多い。運動視の能力をささえる頭頂葉へと至る背側系と、形態視をささえる側頭葉へと至る腹側系の関係を解説する。 【キーワード】 腹側経路、背側経路、運動視	金沢　創（日本女子大学教授）	金沢　創（日本女子大学教授）
8	空間にかかわることの発達	運動発達に伴う、空間を見る能力の発達について解説する。網膜の2次元に限定された情報から、3次元に広がる世界を認知することは、自由に物をつかんで世界の中で動き回るために、不可欠な能力である。この発達過程を、脳の発達ともあわせて解説する。 【キーワード】 頭頂葉、奥行き知覚、空間認知	山口　真美（中央大学教授）	山口　真美（中央大学教授）
9	知識の発達	近年の種々の研究から、乳児が、自分と他者の違いや自分に関する自己の領域、物体の基本的な性質や運動などの物理の領域、他者との関係や他者の心や意図などの社会の領域について素朴な知識の集合を持っていることが示されている。乳児期におけるこれらの知識発達について、実証的な研究を交えながら解説する。 【キーワード】 知識領域、自己、物理領域の知識、社会領域の知識	板倉　昭二（京都大学大学院教授）	板倉　昭二（京都大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	社会性の発達（1）乳児期からの発達	乳児は他者の目や視線を敏感に検出し、情報を読み取る能力をもっている。他者が何を見ているか、いま何に注意を向けるべきかを理解する能力は、その後のコミュニケーション能力の発達の基盤となる。実験的研究を紹介しながら、その発達過程を解説する。 【キーワード】 視線、視線追従、共同注意、心の理論	市川　寛子（東京理科大学講師）	市川　寛子（東京理科大学講師）
11	社会性の発達（2）乳児期から幼児期へ	対人関係における社会的相互作用は、他者の認知、思考の制御、場面の推論能力、ふりなどの想像力など、多くの機能が複合することにより可能となる、総合的な発達にかかわる。自己像認知や抑制機能など、具体的な能力を検討した研究を紹介しながら、その発達を解説していく。 【キーワード】 自己像認知、表情認知、抑制機能	市川　寛子（東京理科大学講師）	市川　寛子（東京理科大学講師）
12	音楽認知の発達	こどもたちは、幼いころから音楽のメロディーやリズムに親しむ。また、どの文化にも子守歌や遊び歌といった、乳幼児に聞かせるための歌が存在する。こどもと音楽との親和性に焦点をあて、乳児期の音楽認知能力や、音楽の発達へのかかわりを解説する。 【キーワード】 音楽、対乳児歌唱、未熟児の音楽療法	麦谷　綾子（NTTコミュニケーション科学基礎研究所主任研究員）	麦谷　綾子（NTTコミュニケーション科学基礎研究所主任研究員）
13	食の発達	食は生きるための基本である。胎児から乳幼児にかけて、食はどのように発達するのか、そのメカニズムを探る。乳児は危険な食物を避けるために、基本として新しい食物への新規性恐怖をもつ。どのように食を与えて発達を促すべきかについて解説する。 【キーワード】 新規性恐怖	山口　真美（中央大学教授）	山口　真美（中央大学教授）
14	障害と発達	発達障害の様々なタイプを概観し、自閉症スペクトラム障害（ASD）や注意欠陥・多動性障害（ADHD）などの概念を整理する。その上で、自閉症という病気が見いだされた歴史的経緯を解説する。発達障害児の社会適応のためには、早期発見と早期介入が重要となるが、M-CHATをはじめとする早期発見のための様々なテストを解説し、中でも共同注意の重要性について考えていく。また、認知行動療法に基づく介入の有効性についても概観する。 【キーワード】 発達障害、自閉症、M-CHAT、共同注意	金沢　創（日本女子大学教授）	金沢　創（日本女子大学教授）
15	まとめ：乳幼児心理学の現在と未来	従来の発達心理学の枠組みを超えて、脳科学、認知科学、工学などを総合した新しい乳幼児心理学を解説する。医療や教育に対し、実験室で得られた結果を展開する発達健診などを参考に、乳幼児心理学の展望を解説し、新しい視点からさまざまな個性をもつ乳幼児の理解のしかたについて提示する。 【キーワード】 脳科学、認知科学、教育学	山口　真美（中央大学教授） 金沢　創（日本女子大学教授）	山口　真美（中央大学教授） 金沢　創（日本女子大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529234	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 交通心理学 （’１７）＝ （ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 Traffic Psychology (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：蓮花　一己　（帝塚山大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：向井　希宏　（中京大学教授）〕

【本学担当専任教員：森　津太子　（放送大学教授）】

講義概要

車社会での事故防止が交通心理学の主たる目標である。事故リスクの高低には交通参加者の行動と意識が影響しており、交通安全には人的要因(ヒューマンファクター)の解明が求められる。本講義では、交通心理学の歴史と研究成果を踏まえつつ、事故に関わる行動としてハザード知覚やリスクテイキング行動の概説を行う。また、交通参加者の行動を分析するためのアイカメラなどの研究を紹介する。子どもや初心ドライバー、高齢ドライバーなど対象別の行動特性と彼らに対する教育研究を紹介する。ITS技術など交通問題解決のための工学的アプローチと交通心理学との連携についても触れる。

授業の目標

1.受講生が交通心理学の基礎的な概念と主要な研究について理解できるようになる。
2.観察法やフィールド実験法など交通心理学の分野で発達してきた心理研究法について理解する。
3.事故防止など社会問題を解決するために交通心理学が果たしている役割とその手法について学生が理解する。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	交通心理学総論(1)	①交通心理学の課題と歴史を振り返り、その意義について説明する。②人間のモビリティ(移動)の手段としての車社会が人間生活に与えた功罪を解説する。とくに、交通参加者の特徴別に事故という負の側面を概観する。③交通事故の発生メカニズムを解説し、その現状を紹介する。人的要因(ヒューマンファクター)の重要性と交通心理学の役割を述べる。 【キーワード】 モビリティ、交通事故、人的要因	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）
2	交通心理学総論(2)	①交通事故に関わる人的要因の個人差を取り上げて、交通参加者の運転適性の考え方とその活用について内外の事例や運転診断手法について紹介する。②運転行動研究として、フィールド観察法や同乗観察法など、過去の研究手法を紹介しつつ、アイカメラなどの比較的新しい手法を解説する。③運転行動理解のためのモデルの意義について述べた後で、代表的なモデルを紹介する。 【キーワード】 事故傾性、運転適性、運転行動モデル、リスクホメオスタシス	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）
3	事故発生のメカニズムと人的要因(1)	①交通事故発生現況を類型、年齢、状態別に、事故原因を人的要因と環境要因別に解説する。②事故事例を紹介しつつ、事故の人的要因と環境要因を解説する。③人的要因の中から、ヒューマンエラーを取り上げて、人間の注意と意思決定過程との関連で説明する。 【キーワード】 事故類型、人的要因、事故事例、ヒューマンエラー	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	事故発生のメカニズムと人的要因(2) －交通コンフリクトとインシデント研究	①事故分析の手法を事故統計分析と事故詳細分析から説明する。②事故に至るメカニズムを理解する手法として、交通コンフリクトやインシデント事象の研究意義とその歴史、代表的な指標であるTTCやPET指標を用いた研究を概説した上で、実際の交通状況でのリスク分析と安全対策の紹介を行う。 【キーワード】 事故統計分析、事故詳細分析、交通コンフリクト、インシデント	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）
5	注意と確認行動	①自動車運転に重要な注意と確認行動の基礎的な説明を行う。人間の注意資源の限界が安全運転を阻害する理由を述べる。②交通参加者の注意の研究例として、言語報告法やアイカメラ法による研究を紹介するとともに、その問題点に触れる。③ドライバーの確認行動の研究について、観察研究やジャイロセンサでの調査研究の実例を交えて紹介する。 【キーワード】 注意、確認行動、言語報告法、アイカメラ	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）
6	ハザード知覚	①危険な対象を意味するハザード(hazard)について説明し、リスク(risk)との違いを理解させる。②運転におけるリスクテイキング行動のメカニズムを述べた上で、ハザードとリスク、さらには自己評価がどのように関わっているかを解説する。 【キーワード】 ハザード知覚、リスク知覚、リスクテイキング、自己評価	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）
7	リスクテイキング	①リスクテイキング行動に影響する様々な要因のうちで、リスク暴露度やリスク効用の働きを概説する。②とくに、スリルを求める欲求であるセンセーションシーキング(感覚追求)はリスクテイキングに強く関わっており、その代表として暴走族の問題を取り上げる。③対策により安全性が高まればより危ない行動を取ろうとするリスク補償と呼ばれる行動傾向について紹介する。 【キーワード】 リスク暴露、リスク効用、センセーションシーキング、暴走族、リスク補償	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）
8	個人差の諸問題	①個人差について、個人内差と個人間差に分けて、リスクテイキングの側面から説明する。②個人差が事故に影響する過程を運転行動研究に基づいて解説する。③事故防止のために交通安全分野で実施されている諸対策を個人差との関わりで説明する。 【キーワード】 個人特性、個人差、個人間差、個人内差	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）
9	交通参加者のリスク －歩行者と自転車運転者	①車中心社会でのリスクと歩行者・自転車事故の特徴について解説する。②身近な交通手段として幼児から高齢者まで広く利用されている自転車について、交通事故発生の現況を紹介する。③中学校での自転車走行に関する効果的な教育プログラム実施例と、高齢者に対する行動観察結果も紹介する。④交通安全教育と同時に、環境整備や社会システム整備の必要性についても述べる。 【キーワード】 車社会とリスク、歩行者、自転車、交通安全教育	向井　希宏（中京大学教授）	向井　希宏（中京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	交通参加者のリスクー初心運転者	①初心運転者の特徴について、若者であることと運転経験の不足の両方の要因を解説する。②運転に必要な技術について説明し、技術向上のための教育訓練について述べる。③教育的対策について、ドイツの危険学やヨーロッパの運転免許教育を紹介する。 【キーワード】 初心運転者、危険学、運転技能	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）
11	交通参加者のリスクー高齢ドライバー	①高齢者にとって「自立した移動」の大切さを述べる。②一方で、事故の多さとその原因について示す。③高齢ドライバーの運転行動の問題点はどこにあり、それを改善する手法について、過去の知見に基づいて解説する。 【キーワード】 高齢ドライバー、加齢、運転行動、ハザード知覚	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）
12	社会的行動としての運転	①攻撃性の研究例を紹介し、運転者教育による態度変容の可能性について解説する。②交通場面でも、コミュニケーションの役割は重要であり、交通参加者による非言語的コミュニケーションの有効性と問題点について、法的規制との関連で考える。③効果的な教育プログラムを通してのよりよい交通社会を作り、安全文化構築に向けての方策を探る。 【キーワード】 カーコミュニケーション、攻撃性、法的規制、社会的行動	向井　希宏（中京大学教授）	向井　希宏（中京大学教授）
13	交通安全教育	①子どもや高齢者への交通安全教育の意義と役割について解説する。②彼らの問題行動やエラーの具体例を紹介し、対策としての日本や欧米での子どもの歩行者や自転車利用者への交通安全教育の実際を述べる。 【キーワード】 交通安全教育、子ども、歩行者、自転車	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）
14	運転者教育	①免許保有者への再教育として、免許更新時教育や処分者講習を説明する。②職業ドライバーへのハザード知覚訓練や運転技能の自動評価方法を述べる。③高齢ドライバーへの教育研究を説明する。 【キーワード】 再教育、職業ドライバー、高齢ドライバー	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）
15	交通システムと心理学	①道路交通システムの中で人的要因の役割が大きい。人と道路、人と自動車の関わりについて、高度道路交通システム（ITS）や先進安全自動車（ASV）を例にして解説する。②地域の交通安全対策について心理学の果たす役割を述べる。 【キーワード】 ITS、ASV、人的要因、見える化	蓮花　一己（帝塚山大学教授）	蓮花　一己（帝塚山大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529196	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理統計法 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Statistics for Psychology (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：豊田　秀樹　（早稲田大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：三宅　芳雄　（放送大学教授）】

講義概要

心理学はデータに基づいて心のメカニズムを研究する学問です。この目的のためのデータ分析法について講義します。従来の心理統計法の初年度の講義は、有意性検定の利用を前提としていました。しかし本講義には有意性検定が登場しません。ベイズ流のアプローチで学習系列が展開されます。もちろんt分布・F分布・カイ2乗分布は登場しません。その点で本講義はとてもユニークですから、はじめてデータ分析に入門する方ばかりでなく、長くデータ分析をしてきた方の統計学再入門のための授業としても利用していただけます。

授業の目標

心理学の研究で利用される代表的な統計手法として「データの記述」「正規分布」「独立した2群の差」「相関係数」「対応ある2群の差」「実験計画法」「比率・連関」「回帰分析」などを学習します。座学だけでは実技は身につきませんので、章末の実習の課題を行うことによって、これらの手法に実際に接してください。

履修上の留意点

本講義での数学的説明には、微分・積分・シグマ記号・行列・ベクトル演算など高度な数学を使いません。本講義は受講者が統計解析環境R、rstan、stanで実習することを想定しています。配布されるデータとスクリプトを入手して、学習に役立ててください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	データ分布の要約	実験・調査・観察などによって収集したデータの特徴を記述するための方法について学習する。分布の代表値としては平均値・中央値・最頻値を、散布度としては分散・標準偏差を解説する。 【キーワード】 知覚時間、測定、度数分布、ヒストグラム、要約統計量、代表値、平均値、中央値、最頻値、外れ値、分散、標準偏差、α％点、四分位、範囲、密度関数、分布関数、正規分布、標準化、母数、予測区間、一様分布、データ生成分布	豊田　秀樹（早稲田大学教授）	豊田　秀樹（早稲田大学教授）
2	事後分布とベイズの定理	理論分布の一般的性質をしらべた後、同時分布・条件付き分布を学び、それを利用してベイズの定理を導入する。尤度・事前分布・正規化定数・事後分布の意味を確認し、3囚人問題という具体的な問題を考える。 【キーワード】 同時分布、条件付き分布、ベイズの定理、尤度、事前分布、正規化定数、事後分布、最尤推定、周辺分布、公的分析、私的分析、無情報的事前分布、3囚人問題	豊田　秀樹（早稲田大学教授）	豊田　秀樹（早稲田大学教授）
3	1群の正規分布の分析	本章では主として2つのことを学習する。1つはマルコフ連鎖モンテカルロ法による事後分布の評価方法と解釈方法である。その際、乱数の収束判定指標について学ぶ。もう1つは正規分布における平均・標準偏差の推測の方法である。その課題を通じ、EAP、MED、MAPによる点推定、確信区間による区間推定、予測分布による予測区間を学ぶ。 【キーワード】 MCMC、ハミルトニアンモンテカルロ法、ウォームアップ期間、トレースプロット、収束判定指標、有効標本数、事後期待値、事後中央値、事後確率最大値、事後標準偏差、確信区間、事後予測分布、条件付き予測分布	豊田　秀樹（早稲田大学教授）	豊田　秀樹（早稲田大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	生成量と研究仮説が正しい確率	間隔尺度と比率尺度の違いを学んだ後に、生成量を利用して、分散・変動係数・効果量・分位点などの点推定・区間推定を行う。基準点・基準確率の設定がデータ分析にとって有用であること、研究仮説が正しい確率を計算することによってデータに対する理解が深まることを学ぶ。 【キーワード】 生成量、間隔尺度、比率尺度、変動係数、基準点、基準確率、研究上の問い、実質科学的知見、研究仮説、分散、分位点、%点、メタ確率、基準点との比、研究仮説が正しい確率、論文レポートでの報告文例	豊田　秀樹（早稲田大学教授）	豊田　秀樹（早稲田大学教授）
5	2群の差の分析1	調査研究や実験研究で多く用いられる独立した2群の差の推測方法を、2回にわたって解説する。独立とは、この場合、互いに影響し合わずに測定がなされることである。統計モデルの観点からは、標準偏差が共通しているモデルと、標準偏差が異なるモデルの2種類に大別される。 【キーワード】 独立した2群、実験群、対照群、処理、暴露、介入、属性、ボックスプロット、平行箱ひげ図、四分位範囲、外れ値、標準偏差が共通、標準偏差が異なる、平均の差	豊田　秀樹（早稲田大学教授）	豊田　秀樹（早稲田大学教授）
6	差を解釈するための指標	前回の続きで、独立した2群の差の推測方法を論じる。その過程で効果量、非重複度、優越率、閾上率など、差を解釈するための幾つかの概念が登場する。さまざまな研究上の問いと、これらの指標との関係を理解し、群間差に関するきめの細かい情報をデータから引き出すことを目的とする。 【キーワード】 効果量、標準化された平均値差、非重複度、優越率、閾上率	豊田　秀樹（早稲田大学教授）	豊田　秀樹（早稲田大学教授）
7	相関と2変量正規分布	2つの変数の重要な要約的観点である相関関係を学習する。その過程で、平均偏差データ、標準化データ、共分散、相関係数などの統計量が登場する。さらに2変量正規分布を使った統計的推論の基本を理解し、次の章で学習する対応ある2群の差の推論に備える。 【キーワード】 知覚された長さ、対応ある2群、2変量データ、散布図、共分散、正の相関関係、無相関、平均偏差データ、標準化データ、相関係数の範囲、2変量正規分布、標準2変量正規分布	豊田　秀樹（早稲田大学教授）	豊田　秀樹（早稲田大学教授）
8	2群の差の分析2	心理学では、被験者や、ブロックや、その他の対象に関して、しばしば対応ある測定がなされる。今回は対応ある2群の差の推測方法について学習する。差得点の標準偏差、差得点の効果量、差得点の優越率、差得点の閾上率などの考え方に着目し、理解を深めていく。さまざまな研究上の問いと、これらの指標との関係を理解し、対応ある2群の差に関するきめの細かい情報をデータから引き出すことを目的とする。 【キーワード】 差得点の標準偏差、差得点の効果量、差得点の優越率、差得点の閾上率	豊田　秀樹（早稲田大学教授）	豊田　秀樹（早稲田大学教授）
9	1要因実験の分析	心理学では、実験を用いて研究を行うことが多く、さまざまなデータ収集法がデザインされている。それらの技法について2回にわたって解説する。1回目は、1つの要因を扱うデザインを論じる。 【キーワード】 実験計画法、要因、因子、独立した1要因計画、水準、水準数、誤差標準偏差、アンバランスデータ、水準の効果、説明率、連言命題	豊田　秀樹（早稲田大学教授）	豊田　秀樹（早稲田大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	2要因実験の分析	前回の続きで、2つの要因を扱う実験デザインとその分析法について学習する。2要因の実験デザインでは、要因の間の交互作用・単純効果・多重比較・連言命題が正しい確率が重要な役割を果たすので、その意味・解釈・評価について解説を行う。 【キーワード】 独立した2要因計画、全平均、主効果、セル、交互作用、モデルの制約	豊田　秀樹 （早稲田大学教授）	豊田　秀樹 （早稲田大学教授）
11	2項分布による分析	2項分布を利用したデータ解析法を学習する。賛成・反対のような計数データの比率の分析法を学んだ後、複数の2項分布の差の推測に関する技法を身につける。また比率の差・比率の比・オッズ比についても、その概念と使用方法を理解する。 【キーワード】 カウントデータ(計数データ)、計量データ、連続分布、離散分布、階乗、ベルヌイ試行、ベルヌイ分布、2項分布、比率、オッズ、比率の差、比率の比、オッズ比、クロス表	豊田　秀樹 （早稲田大学教授）	豊田　秀樹 （早稲田大学教授）
12	多項分布による分析	多項分布を利用したデータ解析法を学習する。血液型のような3つ以上の値をとる計数データの推測を学んだ後、対応あるクロス表の独立と連関の概念を身につける。またピアソン残差、クラメールの連関係数の使用方法を理解する。 【キーワード】 多項分布、カテゴリ間の比較、対応があるクロス表、同時度数、周辺度数、同時確率、周辺確率、独立と連関、ピアソン残差、クラメルの連関係数	豊田　秀樹 （早稲田大学教授）	豊田　秀樹 （早稲田大学教授）
13	単回帰分析	いっぽうの変数から他方の変数を予測・説明するための回帰分析法を2回に渡って学習する。1回目は予測するための変数が1つの場合である単回帰分析を紹介する。回帰係数の意味、予測値と予測分布の相違、決定係数や残差の解釈などを学ぶ。 【キーワード】 単回帰分析、単回帰モデル、回帰直線、予測値、回帰係数、切片、予測変数、独立変数、基準変数、従属変数、誤差変数、残差、残差プロット、決定係数	豊田　秀樹 （早稲田大学教授）	豊田　秀樹 （早稲田大学教授）
14	重回帰分析	前章の続きで回帰分析の後半を学習する。今回は予測に利用する変数が2つ以上ある重回帰分析に焦点をあてる。多変量データの要約的表現を紹介し、続いて重回帰モデルの意味、重相関係数の解釈、標準偏回帰係数と相関係数の相違、変数選択などを学ぶ。 【キーワード】 多変量データ、多変量散布図、相関行列、共分散行列、重回帰分析、重回帰モデル、重回帰式、重相関係数、偏回帰係数、標準偏回帰係数、過学習、変数選択、3次元散布図、回帰平面	豊田　秀樹 （早稲田大学教授）	豊田　秀樹 （早稲田大学教授）
15	発展的学習によせて	本書を読了した後、読者が自身で勉強を続けるには、どうしたらよいのだろう。本章では2つの内容を学習する。第1に、これまでの学習内容の位置付けをする。第2に、更なる学習のための展望を行う。 【キーワード】 構成概念、潜在変数、因子分析法、因子負荷、パス図、パス解析、外生変数、内生変数、共分散構造分析、コンジョイント分析、決定木、ロジスティック回帰分析、機械学習、ニューラルネットワーク	豊田　秀樹 （早稲田大学教授）	豊田　秀樹 （早稲田大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529188	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 比較認知科学 （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Comparative Cognitive Science (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：藤田　和生　（京都大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：森　津太子　（放送大学教授）】

講義概要

ヒト以外の動物の学習、ならびに認知、知性、感情の働きについて、最新の知見を織り交ぜて講義する。まず学習の一般的原理を解説した後、そうした一般原理では理解することの難しい学習の諸現象を生物学的視点から意味づける。次いで、多様な動物の種々の認知機能と感情機能を、比較的単純な情報処理過程から他者のこころの理解に至るまで、紹介する。トピックとして、高度な知性を示すチンパンジー、カラス、イヌ、イルカのこころを順次取り上げた後、意識や内省といった、動物たち自身の心的状態の認識に関する最新の研究を紹介し、ヒトのこころの特徴を動物たちのこころに照らして考える。

授業の目標

ヒトは動物界において特別な存在だと考えられてきた。道具を使う、道具を作る、言葉を話す、文化を持つ、これらはいずれもある時代のヒトの「定義」だった。しかし、ヒト以外の動物の研究が進むにつれて、これらはいずれも動物にも存在することが実証され、ヒトの定義はそのたびに作り替えられてきたのである。いまや最後の砦とも思われる意識や内省なども、動物にその萌芽が見られ、さらには不公平感や思いやりといった複雑な感情の機能が見られることも明らかにされている。こうした諸事実を前にして、我々はヒトという存在を動物界の中にいかに位置づけるのかを考え直さなければならない。本講義では、最新の研究成果に基づいて、ヒトとは何かを考え、地球化時代の新たなヒト観を提示する。

履修上の留意点

特に前提とする知識は想定していないが、実験心理学の基礎的知識があれば、理解がより進むであろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学習1 ー行動の分類と反射行動の変容原理	まず本科目の概要とねらいを簡単に述べる。次に学習の定義を述べた後、行動の分類と、反射行動に関する最も基礎的な学習の原理を、刺激の単独提示で生じる非連合学習（馴化と鋭敏化）と、連合学習（古典的条件づけ）に分けて解説する。 【キーワード】 反射行動、馴化、鋭敏化、非連合学習、連合学習、古典的条件づけ、条件反射	藤田　和生（京都大学教授）	藤田　和生（京都大学教授）
2	学習2 ーオペラント条件づけと強化スケジュール	認知や知性により関連の深い随意的行動の変容原理であるオペラント条件づけと、オペラント条件づけされた反応の生起パターンを特徴的に制御する強化スケジュールの効果を解説する。 【キーワード】 随意的行動、オペラント条件づけ、強化、罰、強化スケジュール	藤田　和生（京都大学教授）	藤田　和生（京都大学教授）
3	学習3 ー学習の生物学	前2講で述べる一般的原理だけでは説明の難しい学習の諸現象を紹介し、学習の生物学的意義について解説する。 【キーワード】 学習の生物学的制約、選択的連合、プログラム学習、適応、進化	藤田　和生（京都大学教授）	藤田　和生（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	認知1 －動物たちの色の知覚	2講にわたり、動物たちの基礎的な環境認識について概説する。第4講では色の知覚を取り上げる。まず色はなぜ見えるのかを簡単に解説した後、多様な系統群の動物種の色覚を比較し、色覚の進化史を述べるとともに、ヒトの色覚の特徴を明らかにする。 【キーワード】 色彩視、色光、視物質、桿体、錐体、3色型色覚	藤田　和生（京都大学教授）	藤田　和生（京都大学教授）
5	認知2 －動物たちの形の知覚	基礎的環境認識の中から形の知覚を取り上げる。多様な動物が形をどのように見分けているかを解説し、錯視や形情報の処理に見られる種差を述べ、ヒトの形知覚の特徴を明らかにする。 【キーワード】 形態視、図形知覚、錯視、知覚的補間、全体・部分優位性	藤田　和生（京都大学教授）	藤田　和生（京都大学教授）
6	認知3 －動物たちの記憶	ヒトの記憶系の動作とそのモデルを簡単に解説した後、諸動物の記憶に関する多様な実証的研究を紹介し、その特徴について述べる。また種特異的に発達した記憶についても解説する。 【キーワード】 記憶、長期記憶、短期記憶、作業記憶、干渉、符号化、貯食	藤田　和生（京都大学教授）	藤田　和生（京都大学教授）
7	認知4 －動物たちのコミュニケーション	ヒトの最も重要なコミュニケーション手段である言語の特徴を簡単に述べた後、諸動物の多様なコミュニケーションのありさまや動物に対する言語訓練の成果を紹介し、ヒトの言語との類似点や相違点を明らかにする。 【キーワード】 言語、コミュニケーション、生得的解発機構、象徴性、手話、言語習得実験	藤田　和生（京都大学教授）	藤田　和生（京都大学教授）
8	認知5 －動物たちの思考	思考の意義と比較認知研究における思考のとらえ方を簡単に述べた後、種々の動物たちの概念の形成や思考過程に関する実証的な研究を紹介し、ヒトの思考との連続性や相違点を明らかにする。 【キーワード】 思考、概念、推論、演繹、帰納	藤田　和生（京都大学教授）	藤田　和生（京都大学教授）
9	認知6 －動物たちの社会的知性	近年、ヒト以外の動物も、他者を欺いたり出し抜いたり、あるいは他者と協力したりすることが示されている。また簡単な他者の心的状態の読み取りも可能であることが示されている。本講では、諸動物のそうした社会的知性と呼ばれる心の働きを概説する。 【キーワード】 社会的知性、心の理論、欺き、協力、読心、共感、思いやり	藤田　和生（京都大学教授）	藤田　和生（京都大学教授）
10	認知7 －動物たちの感情	ヒトは喜怒哀楽といった基本的な感情の他に、愛、思いやり、憎しみ、嫉妬、友情などの複雑な感情の働きを示す。近年こうした高次な感情が、ヒト以外の動物でも見られることがわかってきた。本講では最新の知見に基づいて、動物の感情機能を論じる。 【キーワード】 感情、高次感情、思いやり、不公平感、向社会性	藤田　和生（京都大学教授）	藤田　和生（京都大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	トピック1 ーチンパンジーのこころ	ヒトに最も近縁な動物であるチンパンジーの知性について、言語研究や道具使用の学習、社会的知性など最新の研究トピックをまじえて紹介し、ヒトとの比較のうえで考察する。 【キーワード】 チンパンジー、言語、道具使用、社会的知性	平田　聡（京都大学教授）	平田　聡（京都大学教授）
12	トピック2 ーカラスのこころ	私たちヒトとは遠く離れた系統でありながら、多くの点で哺乳類との類似点がみられるカラスの知性について解説する。競争や協力などの社会的側面と道具使用に関わる物理的側面について最新の研究を紹介する。 【キーワード】 カラス、協力、利他性、道具使用、収斂進化	伊澤　栄一（慶應義塾大学准教授）	伊澤　栄一（慶應義塾大学准教授）
13	トピック3 ーイヌのこころ	最古の家畜であり、ヒトの最良の友とも言われるイヌのこころの働きに関する最新の研究を紹介し、イヌのこころの深い理解に基づくより良いヒトとイヌの関係を考える。 【キーワード】 イヌ、物理的知性、社会的知性、家畜化、オオカミ	藤田　和生（京都大学教授）	藤田　和生（京都大学教授）
14	トピック4 ーイルカのこころ	私たちと同じ哺乳類でありながら、全く異なる環境に適応してきたイルカたちの知性を探ることは、こころの進化における収斂と多様性を考える上で極めて重要だ。イルカの認知研究の現状を紹介し、未来を展望したい。 【キーワード】 イルカ類、感覚・知覚、認知、社会的認知	友永　雅己（京都大学教授）	友永　雅己（京都大学教授）
15	認知8 ー動物たちの意識と内省	こころの内部で生じている事象に対する動物たちの認知について、最新の資料に基づき解説する。メタ認知とエピソード記憶に関する研究を紹介する。最終講として、ヒトのこころは動物界の中でいかに位置づけられるかを論じる。 【キーワード】 意識、内省、メタ認知、エピソード記憶、心的時間旅行	藤田　和生（京都大学教授）	藤田　和生（京都大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528947	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理学研究法 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Research Methods in Psychology (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：大野木　裕明　（仁愛大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：渡辺　直登　（愛知淑徳大学教授）〕

【本学担当専任教員：森　津太子　（放送大学教授）】

講義概要

心理学の面白さは、もちろん、その成果を知ることにある。けれども、それだけではなく、別の面白さがある。それは、自らが心理学研究を実施したり、あるいは実施しなくても研究の考え方や手順を追体験したり、結果を考察することなどである。この醍醐味に触れるために、(1)心と行動を実証的に研究する論理はどうなっているのか、(2)研究法はどのように変遷してきたか、(3)方法や技法はどう工夫されてきたかを解説する。身近な例から基礎的抽象的な例まで、それぞれの研究事例には、研究法としてのそれぞれの意味がある。

授業の目標

実験法、質問紙法、面接法、観察法、心理検査法といった基本的な研究法の実証的論理をしっかりと把握すること。さらに自然科学を始めとする隣接諸科学と比べて、心と行動を明らかにする心理学の実証性について、どのような工夫と限界があるのかを研究例に沿って理解すること。数多くの心理学的なアプローチや技法が次々と生まれているが、いっけん違うように見えてもそこには共通の論理があることを知ること。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心理学研究の諸方法	○○心理学という時、○○には、発達とか認知とかの研究領域（専門分野）をあらわす場合と、実験とか質的とかの研究法やアプローチをあらわす場合がある。また、例えば、発達心理学の研究そのものに質問紙法や実験法などの研究法が使われる。このような表現法のわかりにくさは、心理学研究の歴史をたどることで明らかになる。先行科学や隣接科学との関わりに触れながら心理学研究法の発展と課題を解説していく。 【キーワード】 行動と心的過程の科学、実践の科学、観察法、実験法、質問紙法、面接法	大野木　裕明（仁愛大学教授）	大野木　裕明（仁愛大学教授）
2	研究の発信と目的を考える －研究入門－	心理学研究の開始から一区切りまでの流れを概観する。そして、なぜ心理学に研究法が必要なのか、研究法を無視すると何が起こるのかについても言及しつつ、何のために研究を発表するのか、先行研究と新研究との関係に典型的なパターンがあるのか否かを、知的共同体という視点から考えてみる。 【キーワード】 文献研究、研究発表の目的、学術的共同体、学術雑誌	大野木　裕明（仁愛大学教授）	大野木　裕明（仁愛大学教授）
3	因果関係を探る －実験法－	心理学における実験の論理について学ぶ。心理学実験は最初は自然科学系の方法論を基礎として始まったが、人間の心を対象とした時、しだいに心理学に独自の使い方・工夫が重ねられるようになってきた。その工夫の数々を学び、方法論の特徴と限界を解説する。 【キーワード】 実験計画、独立変数、従属変数、因果関係、統計学的検定	大野木　裕明（仁愛大学教授）	大野木　裕明（仁愛大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	モデルを使ってしくみを探る －モデル論的アプローチ－	説明すべき現象を前にして、さまざまな手法でデータを獲得し、そのデータを論理的に説明できる概念モデルをたてて、データと整合する最適モデルを構築していくという方法について解説する。思考研究におけるACT－Rの研究を例として、こうしたモデルに基づく研究方法について検討していく。 【キーワード】 モデル、最適性、シミュレーション、ACT－R	田中　俊也（関西大学教授）	田中　俊也（関西大学教授）
5	集団の態度や意見を探る －質問紙法入門－	ものの考えや態度や価値観などは人さまざまである。しかしながら、これを世代別や性別にみてみると、その集団に共通の態度や意見が浮かび上がってくることがある。これらの社会調査を行う時の質問票や、その心理面を探る質問紙法を紹介する。質問紙法は簡単そうにみえるが、そこには多くの留意点があることを解説する。 【キーワード】 質問紙、社会調査、実態調査、質問紙調査の流れ	大野木　裕明（仁愛大学教授）	大野木　裕明（仁愛大学教授）
6	「きく」ことによって態度や意見を探る －面接法－	面接法 は心理学研究の中で最もよく使われている研究法のひとつである。面接法はその目的の観点から、臨床的面接法、調査的面接法、評価的面接法に分類できる。本授業では、さまざまな調査的面接法について学ぶ。 【キーワード】 面接者、インフォーマント、構造化面接、半構造化面接	渡辺　直登（愛知淑徳大学教授）	渡辺　直登（愛知淑徳大学教授）
7	「みる」ことから心を探る －観察法－	我々は、日常生活の中で、他人の行動を観察してその人を理解しようと努めます。これと同様に心理学者も人間行動を観察することを通して、その心理を理解しようとする。心理学における観察法は、主観や歪みをできるだけ統制して、客観的で科学的なデータを得る試みである。この章は、こうした科学的観察法の基本について学ぶ。 【キーワード】 時間見本法、事象見本法、参加観察法	林　洋一郎（慶應義塾大学大学院准教授）	林　洋一郎（慶應義塾大学大学院准教授）
8	現場から心を探る －フィールドワークと質的データの分析－	「事件は現場で起きている！」という言葉が示すように、心理学も実験室を出て、社会生活の現場に密着してデータを採取する質的研究がさかんに行われている。この章では、こうした心理学における質的研究の基本について学ぶ。 【キーワード】 フィールドワーク、質的データ、参加観察法、マルチメソッド	林　洋一郎（慶應義塾大学大学院准教授）	林　洋一郎（慶應義塾大学大学院准教授）
9	実践を通して研究する －アクションリサーチとプログラム評価－	応用分野の心理学を探求する上で、科学者と実践者の特徴を合わせ持つことが重要である。本授業では、この両者を統合して行われる研究法の代表例として、アクションリサーチとプログラム評価を取り上げ解説する。 【キーワード】 社会システム、プロセス評価、アウトカム評価、ロジックモデル	渡辺　直登（愛知淑徳大学教授）	渡辺　直登（愛知淑徳大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	心理学的な「ものさし」をつくる －尺度構成－	心理学が扱う概念は多くが「構成概念」であり、その概念を適切に評定するための「ものさし（尺度）」は、ある種社会的・文化的「まなざし」を背景にして構成されるものである。こうした尺度構成についての基本的な考え方、手法について概説する。本講義のさまざまなか回で紹介される調査や検査で用いられる「ものさし」がどのように創られ利用されるのかについてみていく。 【キーワード】 構成概念、尺度構成、信頼性、妥当性	田中　俊也（関西大学教授）	田中　俊也（関西大学教授）
11	ものさしを使って能力やパーソナリティを測る －心理検査法－	心理検査は、能力・パーソナリティ・適性などの個人差を測ることで、意思決定や判断を行う道具として発展してきた。本授業では、心理検査の成り立ちを学ぶとともに、心理検査を研究の中でどのように用いるかについて解説する。 【キーワード】 知能検査、パーソナリティ検査、標準化、テスト理論、説明責任	渡辺　直登（愛知淑徳大学教授）	渡辺　直登（愛知淑徳大学教授）
12	個別性の中から普遍性を見つける －事例研究法－	事例研究は一つないしは少数の事例を、深く記述・分析することによって、理論的な考察を行い、普遍的な法則性を発見する研究主法である。事例研究法は、条件の統制が難しい応用心理学の分野でよく用いられている。本授業では、事例研究の進め方とその適用領域について解説する。 【キーワード】 論理実証主義、解釈主義、社会生態学、フィールドワーク	渡辺　直登（愛知淑徳大学教授）	渡辺　直登（愛知淑徳大学教授）
13	感情の動きを読み取る －主観・行動・生理心理学的研究法－	喜怒哀楽などの感情の動きを測定する主観評定、生理心理学的指標、行動分析の手法について解説する。心拍、脳画像的解析、表情や視線の分析など、感情状態の測定に利用されている代表的手法について解説するとともに、その研究応用例を紹介する。 【キーワード】 感情、不安・緊張、主観評定、パフォーマンス、生理指標	樋口　貴広（首都大学東京大学院教授）	樋口　貴広（首都大学東京大学院教授）
14	心理学の研究手法を他領域に活かす	心理学研究の中で利用され発展してきた手法が、健康科学やリハビリテーション領域などの隣接他領域に寄与していることについて解説する。健康にかかわる研究事例に基づき、心理学の研究手法がもたらす社会的貢献の具体例を紹介する。 【キーワード】 運動イメージ、メンタルプラクティス、ミラーセラピー、視覚と運動、歩行の転倒予防	樋口　貴広（首都大学東京大学院教授）	樋口　貴広（首都大学東京大学院教授）
15	心理学の研究と教育を考える	メタ分析、研究倫理の重要性など、最近になって重要視されている諸問題と話題に触れながら、心理学関係の学部や学科が掲げる教育目標とその課題を探る。また、相変わらず誤解されている心理学の一側面についても話題提供を行う。 【キーワード】 心理学教育、研究パラダイム、研究と実践の統合、倫理綱領	大野木　裕明（仁愛大学教授） 渡辺　直登（愛知淑徳大学教授） 田中　俊也（関西大学教授）	大野木　裕明（仁愛大学教授） 渡辺　直登（愛知淑徳大学教授） 田中　俊也（関西大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528955	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会心理学 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Social Psychology (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：森　津太子　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

人間は「社会的動物である」と言われるように、有史以来、人間は他者との関係性の中で生活をしてきたし、また他者の存在は常に人間の関心事だった。本科目では、著名な社会心理学の書籍とその中に記されている研究を、古典から最新のものまで幅広く紹介しながら、社会的動物である人間の行動や認知、他者と共に生活することの意味やその影響について考えていく。

授業の目標

社会心理学の主要な知見を、知識として習得するとともに、それを日常生活に応用し、日々の問題解決に社会心理学を利用できるスキルを身につける。

履修上の留意点

「心理と教育を学ぶために(’12)」「心理学概論(’12)」「発達科学の先人たち(’16)」を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会心理学とは何か	社会心理学という学問の定義、特徴、成り立ちなど、社会心理学という学問の概略をつかみ、今後、学習を進めていく上での基盤となる知識を身につける。 【キーワード】 心理学的社会心理学、社会的動物(ザ・ソーシャル・アニマル)、現実世界との結びつき、実証性、多様性	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授） 田中　知恵（明治学院大学准教授） 高比良　美詠子（中部大学教授） 大江　朋子（帝京大学准教授）
2	服従の心理	スタンレー・ミルグラムによる社会心理学の古典的名著『服従の心理』を紹介し、私たちが権威を持つ者に対してどのような振る舞いをする傾向があるかを考えていくとともに、人間行動に及ぼす状況の力の強さについて学ぶ。また、“服従実験”を通じて、社会心理学的研究の特徴やそれがはらむ問題についても理解する。 【キーワード】 服従実験、権威への服従、状況の力、監獄実験、基本的な帰属のエラー、倫理的問題	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授） 大江　朋子（帝京大学准教授）
3	冷淡な傍観者	ビブ・ラタネとジョン・ダーリーによる『冷淡な傍観者』を紹介し、緊急事態に居合わせた人がその事態に介入して援助するまでの心理過程、あるいは、援助しない心理過程について学ぶ。人が容易に気づくことのできない状況要因の力と、それを実証的に検討する社会心理学の重要性を学ぶ。 【キーワード】 援助行動、傍観者効果、責任の分散、集合的無知、利他的動機、利己的動機、共感性	大江　朋子（帝京大学准教授）	大江　朋子（帝京大学准教授） 森　津太子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	予言がはずれるとき	レオン・フェスティンガーらによる『予言がはずれるとき』の概要を知ることで、ある宗教集団の予言がはずれたとき、信者たちに一見すると不可思議な現象が起きた背景を、「認知的不協和理論」を手がかりに考察する。加えてこのような現象は決して特別なものではなく、私たちの生活の中には、類似の現象が多数見られることを、さまざまな実験例を通じて知ることを目指す。 【キーワード】 認知的不協和理論、不協和、認知の重要性、不十分な正当化、入会儀礼	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授） 大江　朋子（帝京大学准教授）
5	影響力の武器	ロバート・チャルディーニ著の『影響力の武器』を紹介し、態度と説得の問題を考える。特に人間行動を導く基本的な心理の原理、すなわち返報性、一貫性、社会的証明、好意、権威、希少性のメカニズムに関する具体的研究事例を学ぶ。またこうした原理が働きやすい状況に関して考察する。 【キーワード】 社会的影響力、説得、承諾、二重過程モデル、自動的処理、統制的処理	田中　知恵（明治学院大学准教授）	田中　知恵（明治学院大学准教授） 森　津太子（放送大学教授）
6	偏見の心理	ゴードン・オルポート著の『偏見の心理』を手がかりとして、社会心理学において大きな位置を占める偏見の問題について考える。個人のなかで生じる認知や感情、他者との相互作用、法や教育や慣習は、いずれも偏見を生成、維持、発達させる力をもち、同時に、偏見を抑え、調和を導く力をもつ。この問題を通して、個人と社会との連動的な作用とそのあり方を考える。 【キーワード】 偏見、差別、ステレオタイプ、カテゴリ化、認知バイアス、接触仮説、集団間関係	大江　朋子（帝京大学准教授）	大江　朋子（帝京大学准教授） 森　津太子（放送大学教授）
7	スヌープ	サム・ゴズリング著の『スヌープ！　－あの人の心ののぞき方－』を取り上げ、持ち物から意味を読み取ってパーソナリティを知る方法（スヌーポロジー）の紹介を通じてパーソナリティの問題を考える。さらにパーソナリティ研究の知見と、他者認知におけるバイアスのひとつとして検討されてきた仮説検証の概念との関連など、提示された問題に関して考察する。 【キーワード】 パーソナリティ、ビッグ・ファイブ、人－状況論争、自己呈示、確証バイアス	田中　知恵（明治学院大学准教授）	田中　知恵（明治学院大学准教授） 森　津太子（放送大学教授）
8	後悔を好機に変える	ニール・ローズ著の『後悔を好機に変える　－イフ・オンリーの心理学』を紹介し、過去の事実と反する状況を思考すること、すなわち反実思考から生じる後悔感情とその感情が導く行動について考える。さらに後悔というネガティブ感情の適応的意味や反実思考の活かし方に関して考察する。 【キーワード】 反実思考、後悔感情、後知恵バイアス、認知的再解釈、意思決定	田中　知恵（明治学院大学准教授）	田中　知恵（明治学院大学准教授） 森　津太子（放送大学教授）
9	自分を知り、自分を変える	ティモシー・ウィルソンによる『自分を知り、自分を変える』を紹介し、社会心理学における自己研究の現状と、適応的無意識と呼ばれる心の働きについて学ぶ。あわせて自己理解、自己啓発という観点から、意識や無意識の問題について考える。 【キーワード】 自己、適応的無意識、進化心理学、心理的免疫システム、二重過程モデル	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授） 田中　知恵（明治学院大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	それでも人は楽天的な方がいい	シェリー・テイラー著の『それでも人は楽天的な方がいい』の概要を知ることで、私たちの日常的な思考方法と心身の健康との関係について考える。また、社会心理学の基礎的な知見を利用することで、心身の健康問題に新しい角度からアプローチしているポジティブ心理学や健康心理学の動向についても学ぶ。 【キーワード】 ポジティブ・イリュージョン、自己イメージ、コントロール能力、楽観性、心身の健康、クオリティー・オブ・ライフ	高比良　美詠子（中部大学教授）	高比良　美詠子（中部大学教授） 森　津太子（放送大学教授）
11	オープニングアップ	ジェームズ・ペネベーカー著の『オープニングアップ：秘密の告白と心身の健康』を読むことで、個人的な情報を打ち明ける自己開示が、心身の健康や社会適応に及ぼす影響について学ぶ。また、自己開示と、さまざまな研究領域との関係を知ることで、領域横断的なアプローチの重要性について理解する。 【キーワード】 自己開示、抑制、ストレス対処、コミュニケーション、心身の健康、社会適応	高比良　美詠子（中部大学教授）	高比良　美詠子（中部大学教授） 森　津太子（放送大学教授）
12	木を見る西洋人、森を見る東洋人	リチャード・ニスベット著の『木を見る西洋人、森を見る東洋人』を紹介し、西洋人と東洋人の思考様式や自己観の違いについて、さらには、「人間の心のしくみは文化を通じて普遍的である」とする、これまでの社会心理学の前提について、批判的に考察する。また、心と文化の相互作用に着目する文化心理学的アプローチについて学んでいく。 【キーワード】 心のしくみの普遍性、分析的思考、包括的思考、相互独立的自己観、相互協調的自己観、文化心理学	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授） 高比良　美詠子（中部大学教授）
13	信頼の構造	山岸俊男による『信頼の構造』を紹介し、人間が社会的生活を営む上で欠くことができない「信頼」が、アメリカと日本ではどのように異なるかを考察するとともに、そのような違いを生み出す社会構造について理解を深める。 【キーワード】 信頼、安心、社会的不確実性、信頼の解き放ち理論、社会的知性、進化心理学	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授） 高比良　美詠子（中部大学教授）
14	インターネットにおける行動と心理	アダム・ジョインソン著の『インターネットにおける行動と心理』について学ぶことで、インターネット・コミュニケーションの特徴を明らかにし、インターネットの利用が人の社会行動や心理に及ぼす影響を理解する。また、学際的な視点から、人とコミュニケーション・メディアの関係を考えるときの注意点について考察する。 【キーワード】 インターネット、メディア、コミュニケーション、つながり、対人行動、自己、情報収集、クオリティー・オブ・ライフ	高比良　美詠子（中部大学教授）	高比良　美詠子（中部大学教授） 森　津太子（放送大学教授）
15	これからの社会心理学	社会心理学の特徴を改めて振り返るとともに、その将来的展望について、近年興隆しつつある3つの研究アプローチを通じて考える。また、社会心理学は、どのような「知」を私たちに提供しているかについて議論していく。 【キーワード】 メタ理論、社会的認知アプローチ、進化論的アプローチ、脳神経科学的アプローチ、実践知、人間観	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529099	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 危機の心理学 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Psychology of Crisis (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：森 津太子 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：星 薫 （放送大学客員准教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

我々の周囲には、さまざまな危機があふれている。しかし、そうした危機に我々は驚くほど無頓着であったり、時には、必要以上に恐怖を抱いていたりする。本講義では、こうした危機に対する我々の認識のバイアスを前提として、危機を呼び込んでしまう心理的機能や、危機に直面したときの心理的反応など、具体的な危機にまつわる問題を、心理学的な側面から検討していく。さらには、こうした検討をもとに、危機に対して、効果的に対処したり、回避したり、克服したりする方法や、将来、巻き込まれるかもしれない危機に対して、どのような教育が有効かについても考えていく。

授業の目標

本人がそれを望まなくても、誰もが危機に巻き込まれる可能性がある。危機にはさまざまな種類のものがあり、個別の危機には特有の問題が存在しているが、その危機に対面する人間という視点から捉えれば、あらゆる危機に共通する認知、感情、行動といったものも見えてくる。それらを理解し、自分自身が危機に陥った時にどうすべきか、また日頃から危機に対してどのような準備をすることができるかを理解することが、本授業の目的である。

履修上の留意点

「心理学概論(’12)」「錯覚の科学(’14)」「認知心理学(’13)」「社会心理学(’14)」を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	危機と人間	心理学は被害者の「心のケア」に役立つことはあっても、危機場面ではあまり出番はなさそうに、一見思われる。しかし、災害で被害を受け、犠牲を強いられるのは人間であるというだけでなく、危険を誘発している元凶が人間であるという場合も少なくない。本科目は心理学の立場から危険やリスクについて考えることを目的としているが、第1回では、人間が危険とどういう関係にあるかを、人間の特性のいくつかを事例としながら、考えてみたい。 【キーワード】 危機、正常性バイアス、一貫性原理、チェンジブライドネス	星 薫（放送大学客員准教授）	星 薫（放送大学客員准教授） 森 津太子（放送大学教授）
2	エラーと危機	人が引き起こすエラーは、時に危機的な状況を作り出し、致命的な結果をもたらす。第2回では、それを回避するために、ヒューマンエラーが発生する機序を、人間の認知特性の観点から議論し、防止策を考える。さらに、エラーの原因を個人に帰するだけでは不十分で、人をとりまく様々な環境のなかで考えていく必要があることについて論じていく。 【キーワード】 ヒューマンエラー、スリップ、ラプス、ミステイク	森 津太子（放送大学教授）	森 津太子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	事故に遭う危機	事故の発生には様々な原因が関与しているが、その一部として人間の側の特性が関係しているものがある。いわゆるヒューマンエラーが原因で発生する事故は、機械や環境の整備をいくら推し進めても、なかなか根絶できない。今から50年以上前に著された労災事故におけるヒューマンエラーの要素についての文献を基に、事故とヒューマンエラーについて考えてみよう。 【キーワード】 事故、労働災害、ヒューマンエラー、職場の安全サイト	星 薫（放送大学客員准教授）	星 薫（放送大学客員准教授）
4	犯罪に遭遇する危機	日本は犯罪の少ない安全な国家と言われるが、それでも殺人、強盗、振り込め詐欺など、我々が深刻な犯罪に巻き込まれる危機がないわけではない。このような犯罪を我々はどのように認識し、どのように感じているだろうか。第4回では、犯罪に対する不安や認知が、必ずしも現実を反映していない可能性について考察する。そのうえで、犯罪に巻き込まれないために何ができるかについて検討していく。 【キーワード】 犯罪不安、犯罪リスク認知、培養理論、割れ窓理論、社会関係資本	森 津太子（放送大学教授）	森 津太子（放送大学教授）
5	孤独という危機	人間は社会的な動物であり、それゆえに孤独を嫌い、孤独が心身の健康を脅かす。すなわち、人間にとって孤独は大きな危機だと考えられる。第5回では、孤独は我々の心身にどのような影響をもたらし、それは何故なのか。また我々は、そのような孤独の危機に、どのようにして立ち向かいうるのかを考えていく。 【キーワード】 孤独感、社会的孤立、親和欲求、社会的サポート、攻撃性	森 津太子（放送大学教授）	森 津太子（放送大学教授）
6	貧困という危機	貧困は、誰にとっても望ましくない状態であり、貧困の撲滅は今日の世界的課題の一つである。さらに貧困は、経済的な問題であるだけでなく、個人の心身の健康とも分かちがたく結びついている問題であり、経済学や社会福祉などと共に、心理学にも大いに関係してくる問題なのである。第6回では、今日の貧困の現状について概括した上で、貧困が人、特に乳幼児に及ぼすと考えられる影響について概観し、経済的支援以外に取り得る支援対策について考えてみたい。 【キーワード】 貧困、自己調整能力、養育	星 薫（放送大学客員准教授）	星 薫（放送大学客員准教授）
7	うわさと風評被害	うわさは最古のメディアと言われ、まだ文字すらも発達していなかった時代でも、人びとは口伝えのうわさで情報を伝え、共有し合った。その意味で、うわさは有効な情報伝達の手段である一方、災害時などに拡がるうわさは、状況をいたずらに混乱させ、人びとを危機に陥らせる。第7回では、うわさが拡がるメカニズムやその影響について概観し、うわさに惑わされないようにするには、どうしたらよいかを考えていく。 【キーワード】 流言、デマ、うわさの基本公式、SNS、風評被害	森 津太子（放送大学教授）	森 津太子（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	自然災害に遭遇するという危機	我が国は風光明媚である上に、至るところに温泉が湧き出るという恵まれた自然環境を持つが、その代償として、数多くの活火山があり、それらはたびたび爆発を繰り返している。さらに地震は数知れず、場合によればそのために津波に襲われ、毎年夏から秋にかけては必ずと言ってよいほど台風に襲われ、その結果洪水や土砂崩れに見舞われたという悲劇のニュースは、毎年のように我々の耳に届く。こうした自然災害に対して我々は実に無力である。人間は、大きな自然の力の前では、被害を逃れようとして避難するといった程度のことしかできないのが、現実である。第8回では、災害心理学の知見から、災害と人について考えてみよう。 【キーワード】 被害者心理、パニック、PTSD、ボランティア	星　薫（放送大学客員准教授）	星　薫（放送大学客員准教授）
9	環境破壊という危機	文化の発展は多かれ少なかれ環境の破壊を伴い、直接、間接に我々の生活基盤を危うくしている。人々の環境への意識は高まっているものの、それが具体的な行動につながっていないのが現状である。個人の危機は自分で責任をとることが可能だが、社会の危機は社会全体に不利益が生じるという点でもより問題が大きい。そこで第9回では、環境の破壊を防ぎ、文化の発展を維持していくために何ができるかについて考えていく。 【キーワード】 環境配慮行動、社会的ジレンマ、現在志向バイアス、解釈レベル理論、社会的証明	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授）
10	戦争という危機	総務省が2009年に発表した推計によると、日本の総人口のうち、第2次大戦後に生まれた人の割合は、総人口の75.5%にまで達したという。つまり、今や日本に住む日本人の大半が、戦争を経験することなく、人生を過ごしてきていることになる。だがひとたび、目を世界に転じてみると、21世紀の今日でも、戦争は現実であり、人間が国家間、地域間で暴力的な紛争を起こすことは不可避で争いは、人間が生まれつき持った特性であるかのように思えてくる。第10回では、心理学の立場から戦争の抑止について考えてみる。 【キーワード】 集団間紛争、脅威、平和促進、共感、視点取得	星　薫（放送大学客員准教授）	星　薫（放送大学客員准教授）
11	危機についての認知と感情	犯罪、貧困、災害など、我々の心身の健康を脅かす危機が身の周りに数多く存在していることは、ここまで見てきたとおりである。しかし、それらの危機をどう受け止め、どう認識するかによって、その影響は変化し、客観的な危機と主観的な危機は必ずしも一致しないことも明らかにされている。そこで第11回では、危機についての認知と感情が、どのような特徴を持ち、それが我々の危機への対応にどのような影響を与えるかを考える。 【キーワード】 リスク認知の2因子モデル、ヒューリスティック、フレーミング効果、二重過程モデル、リスク・コミュニケーション	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授）
12	危機からの回避とリスクテイキング	人間には、自分にとって何らかの損失をもたらす危機を回避しようとする傾向がある。しかし、その一方で、人はときに自ら進んで危険を冒す行動をとることがある。第12回では、このようなリスクテイキング行動を取り上げ、無用な危機に陥らない方法を考えていく。 【キーワード】 損失回避傾向、プロスペクト理論、リスクテイキング、刺激欲求、リスクホメオスタシス理論	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	危機後の成長	危機の経験は、人にさまざまな悲劇をもたらす場合が少なくない。自分自身が身体的に傷つくこともあれば、自分の家族や友人などの、大切な人を失うこともあるかもしれない。さらに、その人の生活を根底から変えてしまう場合もあるかもしれない。そうした時、人はその理不尽さに怒り、失われたものを嘆く。だが、人は喪失体験から二度と立ち上がれないのかと言えば、そんなことはない。新たな生活を見出し、新たな人生に向かって歩み出す時、その人には「成長」がもたらされることを、第13回では考えてみたい。 【キーワード】 障害受容、喪失体験、幸福感、自我発達、自己像	星　薫（放送大学客員准教授）	星　薫（放送大学客員准教授）
14	危機についての教育	学校における防災教育と言えば、1年に1，2度行われる避難訓練などが定番だった。そしてそれ以外の日には、学校で子どもたちが災害から命を守ることについて考えたり、被災者のボランティアについて学ぶなどという機会はほとんどなかった。しかし、阪神・淡路大震災を契機に、日本の防災教育は、様相を変えてきた。そしてその教育は、東日本大震災の津波被害で、ごく限られた地域であったとはいえ、子どもたちの命を救うことに繋がった。日本は、災害多発国であり、防災の教育は不可欠だと言える。また、青少年に対して行われる防災教育は、災害の際に自分の命を守るという意味を持つだけでなく、さらにそれを越えたさまざまな意味をも持ち得るものである。 【キーワード】 災害、防災教育、被災者支援、楽観性バイアス	星　薫（放送大学客員准教授）	星　薫（放送大学客員准教授）
15	危機の心理学	我々の周りには、さまざまな危機があふれている。しかし、ここまで見てきたように、そうした危機に我々は驚くほど無頓着であったり、時には必要以上に恐怖を抱いていたりする。なぜ我々は危機に対して、このような認識の誤りを持ち、またそのことは、どのような問題を引き起こす可能性があるのだろうか。このような問題を手がかりとし、第15回では、危機を心理学的にとらえることの意義を考えていく。 【キーワード】 心配総量有限仮説、議題設定効果、危機と好機、後悔感情、安心社会と信頼社会	森　津太子（放送大学教授）	森　津太子（放送大学教授） 星　薫（放送大学客員准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528890	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 学力と学習支援の心理学 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Psychology of Academic Competence and its Improvement (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：市川 伸一 （東京大学大学院教授） 〕

【本学担当専任教員：小川 正人 （放送大学教授） 】

講義概要

教員志望の学生、あるいは、学習・教育に関心のある一般学生を対象とする。近年の学力低下論争と、学習指導要領の改訂を背景とし、学力と学習支援について、基本的な理論と実践を解説する。学習に関する基本的な考え方として、行動主義、認知主義、状況主義があるが、現在の教科指導に対しては、情報処理アプローチに立った認知主義を中心に考えることが有効であることを述べる。認知理論の基礎、動機づけ、学習方略、記憶・学習のメカニズム、文章の理解と生成、素朴概念の克服、数学的問題解決、協同学習などのテーマを、教科教育の実践ビデオをまじえて紹介していく。また、評価システム、学級運営、地域との交流など、学習者をとりまく環境づくりについても視野に入れる。

授業の目標

学習・教育に関わる認知心理学の基礎概念を理解し、それを通して、教育現象の説明やコミュニケーション、教育方法の評価・立案などができるようにすること。具体的には、授業を設計し、事後の検討会などを通じて改善を図ること、学習者の理解状態をとらえ、学習改善を図れること。

履修上の留意点

認知心理学、認知科学に関する講義は、心理学の領域では不可欠であり、現在の教育心理学の理論的基盤ともなっている。本科目がこれまでの認知心理学関係の科目と大きく異なる点は、実際に学校での授業改善や、教科学習にとりくんでいる児童・生徒に対する面談・個別指導などに研究者自身が関わるという実践的な研究を紹介していくところにある。これは、この10年ほどの大きな動きであり、認知心理学の一般的な理論や実験事実を紹介して、その教育への応用は学校に委ねるという姿勢とは大きく異なっている。また、教育工学とも大きく関連するが、新しいメディアの開発や利用というよりは、日常的な授業や学習行動を検討し、認知的視点にたった授業設計や指導技術の現実的な改善を図っている点が異なる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学力をとらえる視点	学力の概念と学力をめぐる議論を概観する。心理学は、学力の構造や機能について理論的裏づけとなったり、実験や調査による知見を提供したりしてきた。最近は、教科の基礎基本とともに、生活への活用をめざした学力の形成が重視され、学習指導要領の改訂へとつながっていった。 【キーワード】 認知モデル、新しい学力観、ゆとり教育、学力低下論争、生きる力	市川 伸一（東京大学大学院教授）	市川 伸一（東京大学大学院教授）
2	学力の診断と評価	評価の目的が、学習の改善にあることを踏まえて、学校におけるさまざまな学力評価の方法を整理する。また、現在の指導要録での評価の動向について押さえておく。さらに、新しい評価として、COMPASS、PISA、パフォーマンス評価などについて触れる。 【キーワード】 PDCAサイクル、指導と評価の一体化、指導要録、学力の3要素、ポートフォリオ、ルーブリック	市川 伸一（東京大学大学院教授）	市川 伸一（東京大学大学院教授）
3	学習意欲の理論	日本の子どもたちの学習意欲について、いくつかのデータで確認してから、心理学における学習動機の理論を概観する。外発と内発の動機づけを対比させつつ、どのように統合的に考えていくかを示す。また、学習指導においては、具体的にどのような方法があるか、個人差にどう配慮するかが必要である。 【キーワード】 外発と内発の動機づけ、学習動機の分類、随伴性の認知、学習性無力感、結果期待、効力期待、原因帰属	市川 伸一（東京大学大学院教授）	市川 伸一（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	学習の自己調整	日本の学校教育では、「自ら進んで学ぶ力」の重要性が強調されるようになっている。心理学では、主体的に学習を進めることを、「学習の自己調整」と呼ぶ。自己調整学習の代表的理論を紹介し、学習の自己調整を促すためには、どのような指導や支援が必要かについて解説する。 【キーワード】 自己調整学習、メタ認知、モニタリング、学習方略、動機づけ、自己評価	瀬尾　美紀子（日本女子大学准教授）	瀬尾　美紀子（日本女子大学准教授）
5	個別学習相談による診断と支援	個別学習相談によって学習者の自立を支援する試みとして、「認知カウンセリング」と呼ばれる実践的研究活動がある。この活動では、学習方略、メタ認知、学習観といった様々な心理学の知見が生かされている。「なぜ学習につまずいてしまうのか」をこれらの知見を踏まえて考え、学習者の自立を支援する具体的な方法にもふれながら論じる。 【キーワード】 学習相談、認知カウンセリング、学習観、学習方略、学習法指導	植阪　友理（東京大学助教）	植阪　友理（東京大学助教）
6	習得の授業のデザイン	知識・技能の習得には、反復による習熟だけでなく、意味理解や思考過程を重視する必要がある。習得の授業のスタンダードな設計原理とした提案された「教えて考えさせる授業」では、心理学的な理論背景をもとに、「教師からの説明」「理解確認」「理解深化」「自己評価」という枠組みで授業を構成する。 【キーワード】 習得－活用－探究、受容学習、発見学習、先行オーガナイザー、視覚化、言語化、教えて考えさせる授業	市川　伸一（東京大学大学院教授）	市川　伸一（東京大学大学院教授）
7	言語活用力を育てる	学力調査などの結果から、日本の学習者の「言語活用力」に課題があることが指摘されている。読み書きの心理学的プロセスに関する知見をもとに、課題となる言語活用力とは何か検討し、育成のための実践的試みや研究知見を紹介する。 【キーワード】 言語活動、論理的な読み書き、読解プロセス、作文プロセス、方略	犬塚　美輪（大正大学准教授）	犬塚　美輪（大正大学准教授）
8	数学力を育てる	算数・数学は、苦手意識を持ちやすい教科の1つである。数学力を育てるためには、学習者がどのように思考しているか、その認知過程を理解することが重要である。数学的問題解決に関する研究成果を中心に紹介し、数学力を育てるためには、どのような指導や支援が必要か解説する。 【キーワード】 数学的問題解決、スキーマ、アルゴリズム、問題解決方略、算数的活動、学習法講座	瀬尾　美紀子（日本女子大学准教授）	瀬尾　美紀子（日本女子大学准教授）
9	科学的思考力を育てる	科学的思考力とは、自然の事物・現象について観察・実験など通して推論する能力を指す。科学的思考力の育成には、科学の知識と、知識を獲得する方法の両方の指導が不可欠である。指導の背後にある理論と具体的指導法について概説する。 【キーワード】 科学的思考、科学的知識、PISA調査、観察・実験、理科教育	小林　寛子（東京未来大学講師）	小林　寛子（東京未来大学講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	社会認識力を育てる	社会科での学力のあり方を、事実的知識、社会的認識、社会的実践というモデルに沿って考える。暗記科目と見なされがちな実態に対して、知識の関連づけ、すなわち、理解を重視した学習が求められることを認知心理学的な背景から見ていく。カリキュラムや授業が展開されていく様子を実例から学ぶ。 【キーワード】 社会科教育、社会科学習のモデル、社会認識力、地理的分野、歴史的分野、公民的分野、教育評価	市川　伸一（東京大学大学院教授）	市川　伸一（東京大学大学院教授）
11	英語力を育てる	日本の英語教育は、かつては、文法、語彙獲得、英文読解に重点が置かれすぎることが批判され、コミュニケーション重視の方向に転換された。しかし、結果的には、聞く、話す、読む、書くという4技能全般にわたって成果が見られていない。英語教育の基本的な方法と、それらが心理学的にどのように裏付けられるかを概観し、それらの長所と問題点を探る。 【キーワード】 TOEFL得点、文法訳読法、オーディオリンガル法、コミュニカティブ・アプローチ、小学校英語	市川　伸一（東京大学大学院教授）	市川　伸一（東京大学大学院教授）
12	授業力と授業改善	教師の授業力向上のために、授業前、授業中、授業後にどのような活動が重要かを整理する。教材研究はいうまでもないが、学習者の理解度や困難度をイメージすること、リアルタイムで診断しようとすることが重要である。また、小グループによる討論を入れたワークショップ型授業検討会を紹介する。 【キーワード】 教材研究、学習者理解、困難度査定、理解度診断、ワークショップ型協議会、三面騒議法	市川　伸一（東京大学大学院教授）	市川　伸一（東京大学大学院教授）
13	探究の学習	近年、学習者の興味・関心に基づいてテーマを設定し、それを追究するような探究学習が重視されるようになってきた。教科の中での探究活動、「総合的な学習の時間」での探究等について、事例を参考にしながら、目標とする学力、指導・支援のポイントなどについて考えていく。 【キーワード】 批判的思考力、創造的思考力、総合的な学習の時間、習得－活用－探究、RLA	市川　伸一（東京大学大学院教授）	市川　伸一（東京大学大学院教授）
14	地域に広がる学習環境	近年、学力向上と並行して、生きる力、人間力といったキーワードが教育界でも使われるようになった。これらの力を伸ばすには、学校のカリキュラムだけでは無理がある。地域教育においては、多くの社会人と接することによって、子どもの夢や目標を育むことができるのが大きな長所である。その活性化の方策も考えていきたい。 【キーワード】 生きる力、人間力、家庭教育、学校教育、民間教育、地域教育、授業外学習ポイント制度	市川　伸一（東京大学大学院教授）	市川　伸一（東京大学大学院教授）
15	学力と学習支援のこれから	心理学から見た学力や学習支援のとらえ方について、今回のシリーズ全体を振り返る。認知心理学は学習者の情報処理プロセスを考慮することで、意味理解、思考過程を考える視点を提供してきた。また、能動的な表現活動や他者との関わりを授業に導入することは、教師にとって学習者の状態を把握しやすくするだけでなく、学習者自身にとっても自らの理解を確認し、促進することにつながる。 【キーワード】 学習方略、学習観、言語活用力、問題解決プロセス、教訓帰納、科学的思考、教育実践	講師全員	講師全員

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528980	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理臨床の基礎 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Elementary Course on Clinical Psychology (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：小野　けい子 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

臨床心理学の概論を講義する臨床心理学のコア科目である。善意や情熱のみに基づく援助とは異なる、人の心の理解に基づく心理臨床について、その歴史、基礎となる理論を学ぶとともに、臨床心理アセスメント、臨床心理面接、地域援助等の基礎を学ぶ。臨床心理学を学ぶすべての人に身に着けて欲しいまさに心理臨床の基礎を概説する。

授業の目標

臨床心理学の基礎的知識を身につけ、臨床心理学への理解を深める。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心理臨床と臨床心理学	心理臨床と臨床心理学、心理臨床の専門性、心理臨床と臨床心理学の歴史、心理臨床の専門家資格と教育プログラムについても概説する。 【キーワード】 心理臨床、臨床心理学、臨床心理士、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授）
2	心理臨床の基礎理論1－1:ライフサイクル論1	人生の各時期にはその時期の特徴と課題が存在し、各時期に特徴的な臨床心理学的問題が生じる。このことから、第2章と3章では心理臨床の基礎理論としてのライフサイクル論を取り上げる。本章では、ライフサイクルの意義について概説するとともに、代表的なライフサイクル理論を紹介し、人生前半の心理臨床についても学ぶ。 【キーワード】 ライフサイクル、発達課題、フロイト、エリクソン	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授）
3	心理臨床の基礎理論1－2:ライフサイクル論2	前章に引き続き、心理臨床の基礎理論としてのライフサイクル論について学ぶが、本章では、人生の後半の意義とライフサイクル論を取り上げて概説し、成人期・高齢期各期の心理臨床について学ぶ。 【キーワード】 ユング、レビンソン、 中年の危機、ターミナル・ケア、サクセスフル・エイジング	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	心理臨床の基礎理論2：新しい精神の科学と精神医学	心理臨床の基礎理論としての精神医学について学ぶ。 【キーワード】 精神現象、精神症状、脳、神経回路網、心因、内因・器質因、心の進化	豊嶋　良一（埼玉医科大学教授）	豊嶋　良一（埼玉医科大学教授）
5	心理臨床の基礎理論3：学習理論・認知理論	認知行動療法の基礎理論としての学習理論・認知理論について学ぶ。 【キーワード】 古典的条件付け、オペラント条件付け、観察学習、感情ネットワーク理論	越川　房子（早稲田大学教授）	越川　房子（早稲田大学教授）
6	心理臨床の基礎理論4：深層心理学理論	フロイトの精神分析理論とユングの分析心理学理論について学ぶ。 【キーワード】 無意識、防衛機制、コンプレックス、内向・外向	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授）
7	臨床心理アセスメント1	心理アセスメントの道具である心理検査について、、その特徴を知るとともに、心理検査の中でも、知能検査と質問紙法人格検査について学び、理解を深める。 【キーワード】 心理検査、信頼性、妥当性、知能検査、質問紙法	小川　俊樹（放送大学教授）	小川　俊樹（放送大学教授） ゲスト：広田千織（土浦協同病院臨床心理士）、富重　正治（茨城県土浦児童相談所）
8	臨床心理アセスメント2	構成概念妥当性による質問紙法、投影法、作業検査法、神経心理学的検査について学び、各検査法、形式の特徴を理解する。 【キーワード】 構成概念的妥当性、投映法、防衛機制、評定者刊信頼性、作業検査法、神経心理学的検査、前頭葉脳機能	小川　俊樹（放送大学教授）	小川　俊樹（放送大学教授） ゲスト：坂本由紀子（済生会鴻巣病院臨床心理士）
9	心理療法1：力動的心理療法	フロイトの精神分析理論を基礎にもつ力動的心理療法について学ぶ。 【キーワード】 精神分析、抵抗、明確化、直面化、行動化、解釈、転移、逆転移	小川　俊樹（放送大学教授）	小川　俊樹（放送大学教授）
10	心理療法2：ユング派心理療法	ユングの創始した分析心理学的心理療法は、日本ではユング派心理療法と呼ばれるが、その基本である、目的論的視点、イメージの重視について、また、基本技法である夢分析、箱庭療法などについて学ぶ。 【キーワード】 個性化、イメージ、夢分析、元型、箱庭療法	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	心理療法3：パーソン・センタード・アプローチ	ロジャーズに始まるクライエント中心療法、エンカウンター・グループ、パーソン・センタード・アプローチについて、発展過程に沿いながら、これらの心理療法の理論と方法、実践について概説する。 【キーワード】 自己理論、 クライエント中心療法、エンカウンター・グループ、パーソン・センタード・アプローチ	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授） ゲスト：田畑　治（名古屋大学名誉教授）
12	心理療法4：認知行動療法	認知行動療法の基本理論と主要技法について学ぶ。 【キーワード】 ABC理論、認知的再体制化、自己教示法、セルフコントロール法	越川　房子（早稲田大学教授）	越川　房子（早稲田大学教授）
13	心理療法5：遊戯療法	主に子ども中心療法をベースにした遊戯療法の考え方やセラピストの役割について学ぶ。また、遊戯療法の過程における各時期の特徴や留意点について紹介する。 【キーワード】 遊び、子ども中心、8つの基本原理、制限、親面接	小林　真理子（放送大学准教授）	小林　真理子（放送大学准教授）
14	コミュニティ援助1 －基本姿勢と援助の方法－	コミュニティ心理学を基盤とするコミュニティ援助の理念やコミュニティで活動する心理臨床家の基本姿勢について学ぶ。また、コミュニティ心理学に基づく代表的な介入法について紹介する。 【キーワード】 コミュニティ援助、予防、危機介入、コンサルテーション、ソーシャルサポート・ネットワーキング	小林　真理子（放送大学准教授）	小林　真理子（放送大学准教授）
15	コミュニティ援助2 －子育て支援－	現在の子育てをめぐる状況を概観し、予防という観点から、コミュニティにおける子育て支援活動について概説する。 【キーワード】 少子化、育児不安、コミュニティアプローチ、予防、親教育プログラム	小林　真理子（放送大学准教授）	小林　真理子（放送大学准教授） ゲスト：佐藤　秀子（栃木県スクールカウンセラー）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529056	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理カウンセリング序説 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Introduction to Psychological Counseling (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：大場 登 （放送大学教授） 〕

講義概要

臨床心理学における「カウンセリング」について、もっとも基本的なことを検討する。現在の日本においては、まだまだカウンセリングという言葉は、「受容的に話を聞くこと」程度の意味で使われることも稀ではない。本講では、臨床心理学的な問題や症状を抱えた方々（すなわち、クライアント）がセラピスト（＝カウンセラー）の許を訪ね、自らの問題や課題と取りくんでゆく専門的な「心理療法（サイコセラピー）」という意味での「心理カウンセリング」について系統的に学習する。

授業の目標

臨床心理学における「カウンセリング」、すなわち、「心理療法」というものは、長期間の専門的な研修を必要とするものであり、本学においても、大学院臨床心理学プログラムでようやくその初期研修が行なわれることになる。それでも、学部の段階でも、一般心理学だけではなく、臨床心理学の基礎は身につけることが要請される。本講の印刷教材・放送授業両者と丹念に取り組んでいただければ、「臨床心理学におけるカウンセリング」のもっとも基本的なことは理解していただけるのではないだろうか？

履修上の留意点

本科目を受講希望される皆さんには、あらかじめ「心理臨床の基礎（’14）」を履修しておかれることが強く望まれる。また本講「心理カウンセリング序説（’15）」を学ばれた受講生には、臨床心理学に関するさまざまな科目、そして、できれば「精神分析とユング心理学（’17）」へも進んでいただきたい。理解が一層深まるはずである。なお、本講のアドヴァンスト・コースは大学院臨床心理学プログラム開講の「臨床心理面接特論」となることも申し上げておきたい。いつか挑戦していただくことを期待したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	セラピストと「聴く」こと―「受けとめる」こと	カウンセリングの最重要な営みは、クライアントが「語ること」にセラピスト（カウンセラー）が耳を傾けることである。つまり、「聴く」こと。「聴く」ということは、クライアントによって語られる苦痛や訴えをセラピストの心身でもって「受けとめる」ことと言えよう。 【キーワード】 セラピスト、聴くこと、受けとめること	大場 登（放送大学教授）	大場 登（放送大学教授）
2	クライアントと「語る」こと―「表現する」こと	セラピストの「耳を傾ける」姿勢に支えられて、クラアントは自身が抱えている困難やいわゆる症状、そして、自らについて「語る」こととなる。「語る」こと、「表現する」ことは、そのこと自体に深い意味と働きがある。 【キーワード】 クライアント、語ること、表現すること	大場 登（放送大学教授）	大場 登（放送大学教授）
3	カウンセリングの「器」	カウンセリングのとても重要な特徴のひとつは、第1章・第2章で述べられた営みが、独特の「器」の中で行なわれるということである。この「器」によって守られているからこそ、カウンセリングは成立する。 【キーワード】 「器」、守り、治療構造	香川 克（京都文教大学教授）	大場 登（放送大学教授） 香川 克（京都文教大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	出会いと見立て	面接室でのはじめての出会い。あるいは、電話予約時点から既にして始まる出会い。クライアントもセラピストも、カウンセリングが可能であるか、カウンセリングが適切な営みであるか、この人とやってゆけるか、慎重に「見立て」が行なわれる。 【キーワード】 出会い、見立て、契約	森　さち子（慶應義塾大学准教授）	森　さち子（慶應義塾大学准教授）
5	クライアントとセラピストの「かかわり」	カウンセリングにおいては、クライアントの心の世界が次第次第に表現・展開されてゆくことになるが、この展開のプロセスは、あくまで「クライアントとセラピストの関係性」の中で生じることとなる。クライアントの意識と無意識、セラピストの意識と無意識、両者の深く、複雑なかかわりの中でカウンセリングは進行する。 【キーワード】 クライアントとセラピスト、関係性、転移&逆転移	森　さち子（慶應義塾大学准教授）	森　さち子（慶應義塾大学准教授）
6	セラピストの「読み」	カウンセリングにおいて、「耳を傾ける」ことは最重要なことではあるが、しかし、クライアントが抱えておられる問題やいわゆる症状が少し難しいものになるにしたがって、セラピスト側での「読み」がどうしても必要となってくる。しっかりと「耳を傾ける」ことができるためにこそ、「読み」が大切と言えよう。臨床心理学に関する、広範で、深い知識が必要となってくる所以（ゆえん）である。 【キーワード】 読み、仮説、カウンセリングと理論	大場　登（放送大学教授）	森　さち子（慶應義塾大学准教授）
7	「読み」と「問いかけ」「語りかけ」	前章で検討した「読み」に基づいて、セラピストは、必要に応じて、クライアントに「問いかけ」「語りかけ」をしてゆくこととなる。「問いかけ」に対するクライアントのレスポンスによっては、セラピストは自らの「読み」の微修正をしてゆく。クライアント側は、セラピストの「問いかけ」「語りかけ」によって、新たに、自らの問題・課題と取り組んでゆくことになるだろう。 【キーワード】 問いかけ、読みの修正、問題との取り組み	大場　登（放送大学教授）	森　さち子（慶應義塾大学准教授）
8	カウンセリングのプロセス	初回面接以降、カウンセリング終結まで、クライアントとセラピストの間で「変容のプロセス」が展開することになる。このプロセスは、「器」の中で進行するので、ちょうどレトルトの中で進行する化学的変容のプロセスに喩えることもできる。火加減やコルク栓の微調整には職人の「技」も必要である。只、「変容のプロセス」は自律的でもある。 【キーワード】 変容のプロセス、プロセスの自律性、プロセスとセラピスト	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授）
9	心の構造 －意識と無意識	カウンセリングには、様々の視点や立場、オリエンテーションがある。本講では、ロジャーズのクライアント・センタード・セラピーを尊重しながらも、人間の心には、意識されている領域の他に、深い無意識の領域が存在するとしたフロイトやユングの視点から学んでみることにしたい。 【キーワード】 意識、無意識、フロイト ＆ ユング、コンプレックス	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	家族	カウンセリングの中で、家族をめぐるテーマと出会うことは非常に多い。本講では、家族の抱えるむずかしさの中で、思春期の自立・結婚して新しい家族を作ること・子育てという3つのテーマを取り上げる。世代間の境界があいまいになっている中で、困難な状況が生まれていることについて論じてみたい。 【キーワード】 思春期の自立、結婚、子育て	香川　克（京都文教大学教授）	香川　克（京都文教大学教授）
11	学校と子どもたち	子どもたちの生活の場として、家庭と並んで大きな意味を持つのが「学校」である。「カウンセリングの立場から見た学校」と言うと、いじめや不登校など、ネガティブな学校の姿が思い浮かべられることが多い。そのような「学校の中での困難な状況」に触れつつも、「学校の中で子どもたちが育っていく」という、学校の持つポジティブな力についても述べていく。 【キーワード】 学校、成長、教師－生徒関係	香川　克（京都文教大学教授）	香川　克（京都文教大学教授）
12	スクールカウンセリング	我が国で、公立の学校にスクールカウンセラーが入る制度がスタートしたのは、1995年のことである。学校という、生活の場の中でのカウンセリングは、外来相談機関でのカウンセリングと大きく異なる構造を持っている。そのため、外来相談機関とは異なる関係が展開することになり、様々な新しい知見が得られている。そうした諸点を紹介したい。 【キーワード】 不登校、子どもの対人関係、現代社会	香川　克（京都文教大学教授）	香川　克（京都文教大学教授）
13	性	フロイトが人間の心における「性」の重要性を指摘して以来、既に1世紀になるが、現代においても、「性」が人間にとって扱いの困難なコンプレックスのひとつであること、そして、人間にとって最重要なテーマのひとつであることにまったく変わりはない。それぞれの個人にとって、「性」、そして、自らのセクシュアリティとどのように向き合うことになるのか、カウンセリングにおける永遠のテーマのひとつと言えよう。 【キーワード】 性、エロス、セクシュアリティ	森　さち子（慶應義塾大学准教授）	大場　登（放送大学教授）
14	死	「性」や「力・権力」が、人間にとって、そして、「カウンセリング」にとって、最重要なテーマであるのとまったく同様に、「死」というものもまた、人間にとって、カウンセリングにとって、最重要テーマのひとつと言えよう。フロイトもユングも「死」と集中的に取り組んできたし、そして、カウンセリングの実際においても、「死」は常に私たち人間が「向き合う」ことを要請する。 【キーワード】 死、喪、彼岸	森　さち子（慶應義塾大学准教授）	大場　登（放送大学教授）
15	別れ	カウンセリングは、やがて終結を迎え、かつて出会ったクライアントとセラピストは、「別れ」を経験することになる。そして、「別れ」「分離」もまた、人間にとって、実に困難にして、永遠のテーマと表現できるであろう。個人的な「別れ」。親やパートナー、師との「別れ」。時代や役割、思想・信条、ある生き方との別れ。意識と無意識の「分離」…。 【キーワード】 別れ、分離、終結	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授） 森　さち子（慶應義塾大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529226	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 精神分析とユング心理学 （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Psychoanalysis and Analytical Psychology (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：大場 登 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：森 さち子 （慶應義塾大学准教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

フロイト(Freud,S.)に始まる精神分析とユング(Jung,C.G.)に始まるユング心理学は、一方で、今日、臨床心理学の領域を越えて、広く人文科学の基本的教養となっていると表現できよう。他方、精神分析とユング心理学は、臨床心理学、とりわけ、心理療法の世界において、ひとつの根幹となる学派を形成している。精神分析とユング心理学は、クライアントとの実際の心理療法から出発したし、今日においても心理療法として実践され続けている。本講では、精神分析とユング心理学が持つ「人間に関する知」の側面と、「心理療法学」の側面の両者を視野に入れながら、その基本を理解することを試みたい。

授業の目標

精神分析とユング心理学は人間の心における無意識を重視することから、深層心理学とも表現される。精神分析とユング心理学は奥が深い学問であるが、15章2単位の本講では、その基本的理解を目指すこととしたい。

履修上の留意点

心理と教育コース開講の「心理臨床の基礎(’14)」「心理カウンセリング序説(’15)」を既に履修していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	精神分析とユング心理学:フロイトとユング	精神分析の創始者フロイトは、精神分析が従来の心の探究法に比較して、「科学的」なアプローチであることを強調した。ユングは、むしろ、精神分析やユング心理学が関わっているところは、遠い古代ギリシャの癒しの儀礼や東洋における仏教的修行とも深いかかわりを持つものであると捉えた。視点は異なるけれども、フロイトとユングが生涯をかけて取り組んだ「人間のこころ」への臨床的接近法は、今日、「臨床の知」と表現される新しい学問の創造であったと理解される。 【キーワード】 精神分析、ユング心理学、Freud,S.、Jung,C.G.	大場 登（放送大学教授） 森 さち子（慶應義塾大学准教授）	大場 登（放送大学教授） 森 さち子（慶應義塾大学准教授）
2	精神分析のなりたち	100年余り前にフロイト,S.によって創始された精神分析は、どのような時代背景の中で、どのように生み出されたか、さらに現代にどのように引き継がれているかについて概観する。自由連想をその方法とし、心の無意識を探究する「精神分析とは何か」を解説する。 【キーワード】 フロイト、無意識の発見、自由連想、エディプス・コンプレックス、夢	森 さち子（慶應義塾大学准教授）	森 さち子（慶應義塾大学准教授）
3	精神分析における心の発達論	精神分析は、フロイトの精神－性的発達論を出発点に、現代に至るまで数々の心をめぐる発達論、ないし発達観を展開している。臨床家たちが提唱した発達論を紹介しながら、それらの理論と精神分析的心理療法の実践とのつながりを見出し考察する。 【キーワード】 精神－性的発達、発達ライン、漸成説、ポジション、分離－個体化、自己感	森 さち子（慶應義塾大学准教授）	森 さち子（慶應義塾大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	精神分析の本質 －現実と幻想－	精神分析の本質的なテーマとして、「現実と幻想」を取り上げる。人は現実と、幻想ないし願望を様々に調整し折り合いをつけながら適応をはかっているが、その相克が心の破綻をまねくこともある。ここでは精神分析がその対象とする「心の現実」を考察する。 【キーワード】 心の現実（心的リアリティ）、原幻想、現実原則、快感原則、自己愛、性的外傷説	森　さち子 （慶應義塾大学准教授）	森　さち子 （慶應義塾大学准教授）
5	精神分析の本質 －対象喪失－	精神分析の本質的なテーマ「対象喪失」を取り上げ、大事な対象を失う心の痛みとそこからの回復過程を概説する。対象喪失による深刻な外傷体験は、病理を引き起こすこともあるが、一方ではその回復過程が創造性の発露ともなりうる。その可能性も考察する。 【キーワード】 外的な対象喪失、内的な対象喪失、喪の仕事、“いないいない・ばー”	森　さち子 （慶應義塾大学准教授）	森　さち子 （慶應義塾大学准教授）
6	症状をめぐる精神分析的“力動”の理解	様々な症状、訴えの背景にある、心の葛藤、抑圧をめぐる精神力動について、精神分析的観点に基づいて解説する。力動的解釈を行う上で必要となる、「自我」「エス」「超自我」「防衛機制」など、基本的な専門用語も説明する。 【キーワード】 意識、無意識、自我、エス、超自我、防衛機制、抑圧、葛藤、分裂	森　さち子 （慶應義塾大学准教授）	森　さち子 （慶應義塾大学准教授）
7	精神分析的治療論	精神分析的な心理療法を行う上で、クライアント／セラピスト関係の理解をめぐる重要な概念を解説する。とりわけ、精神分析的かかわりあいの営み、その空間がどのように創り出されていくかについて、さらにその治療機序について説明する。 【キーワード】 治療構造、基本原則、転移、逆転移、洞察、情緒的な絆	森　さち子 （慶應義塾大学准教授）	森　さち子 （慶應義塾大学准教授）
8	精神分析的心理療法の実際	第7回までに概観してきた精神分析理論を踏まえ、実際の心理療法はどのように展開していくかについて解説する。現代精神分析の観点も取り入れ、クライアントとセラピストの関係性に焦点を置く、間主観的アプローチを具体的に説明する。 【キーワード】 フロイト的治療態度、フェレンツイ的治療態度、解釈、言葉化、相互交流、間主観性	森　さち子 （慶應義塾大学准教授）	森　さち子 （慶應義塾大学准教授）
9	ユング心理学：コンプレックスと元型	本章から、後半の「ユング心理学」に入ることとなる。意識と無意識の関係は？　ユングが使い始めた「コンプレックス」とはどのような意味であるのだろうか？　そして、「元型」とは？　コンプレックスと元型の関係は？ 【キーワード】 意識と無意識、自我（私）、コンプレックス、元型	大場　登 （放送大学教授）	大場　登 （放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	ペルソナ(顔・面)とゼーレ(ソウル・こころ・たましい)	ペルソナとは「個における外界への心理的構え・姿勢」、そして、ゼーレとは「個における内界への心理的構え・姿勢」と表現できる。ペルソナやゼーレは、具体的に、そして、また、昔話や夢においてはどのようなイメージとして現れるのだろうか？　実は、ユング心理学におけるペルソナとゼーレは、かつて精神分析学派の土居健郎が注目した日本語の「オモテ」と「ウラ」と深い関連があることにも言及してみたい。 【キーワード】 ペルソナ、顔・面、ゼーレ、こころ、たましい、ソウル、オモテとウラ	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授）
11	カインとアベル	人類に共通のひとつの典型的な心の「葛藤・心理的『渦』」として、本章ではカイン・アベル元型を取りあげてみることにしよう。「聖書」から現代に至るまで、愛情をめぐっての兄弟姉妹葛藤は殺意・殺害を伴う強烈なイメージに満ちている。 【キーワード】 コンプレックス、元型、カイン・アベル元型、影、悪	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授）
12	「母」なるもの：「魔女」「山姥」	西洋における「魔女」、日本における「山姥」は、人々を呑み込み、「死」に至らしめるほどの恐ろしい「顔・面」と、そして、人々を産み、養い、育て、慈しむ「顔・面」というふたつの「顔・面」を持つ存在である。「魔女」「山姥」が持つふたつの「顔」は、実は、臨床心理学的に非常に深い意味を持ったイメージである。 【キーワード】 「母」なるもの、母元型、魔女、山姥、「母なるもの」の「殺害」	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授）
13	異類婚姻譚：男性と女性	異類婚姻譚と呼ばれる昔話にはさまざまの形の「男」と「女」のかかわりが見いだされる。グリム童話によく見られる「結合・結婚」イメージは、世界の異類婚姻譚の中では、ひとつの話型にすぎない。日本の昔話では、「夕鶴」を思い起こすまでもなく、「分離」が圧倒的である。その他にも、実は、さまざまな可能性が見いだされる。「異類婚姻譚」でいう「男」と「女」のかかわりとは、臨床心理学的にはどのように理解することができるのであろうか？ 【キーワード】 異類婚姻譚、異類と人間、女と男、結合、分離	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授）
14	ユング派心理療法：心理療法と「イメージ」「言葉」	いろいろな心理的課題を抱えられたクライアントとお会いして、語られるところにセラピストが「耳を傾けて」いると、不思議なことにクライアントの心が動き出し、この「動き」が言葉やイメージで表現されてゆくことになる。心理療法とは、「器」の中で動き出すこの自律的なプロセスに、セラピストが独特の形で同行し続けることとも表現できるであろう。 【キーワード】 ユング派心理療法、イメージ、言葉、自律的な変容のプロセスとセラピストの能動性	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授）
15	ユング派心理療法：「夢」と向き合う	古代ギリシャ・アスクレピオス神殿で見られたインキュベーション（「聖所」に籠り、癒しの夢を待つ儀礼）という営みは、2千年の眠りを経て、フロイトの診察室にて新たな命を与えられたと言われている。この点で、ユング派心理療法は、もっともフロイト的心理療法と言うこともできるであろう。ユング派心理療法においては、実に深い関心が「夢」に注がれることになるからである。 【キーワード】 心理療法、インキュベーション、夢、セラピストによる「問いかけ」と「読み」、夢と神話・昔話	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528963	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 認知行動療法 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Cognitive Behavioral Therapies (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：下山　晴彦　（東京大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：神村　栄一　（新潟大学教授）〕

【本学担当専任教員：小野　けい子　（放送大学教授）】

講義概要

認知行動療法とは、クライエントの不適応状態に関連する行動的、情緒的、認知的な問題を標的とし、学習理論をはじめとする行動科学の諸理論や行動変容の諸技法を用いて、不適応な反応を軽減するとともに、適応的な反応を学習させていく治療法である。近年、エビデンス・ベイストの考え方に基づき、うつ病や恐怖症などに適応され、広く推奨されるようになったもので、その基本的な考え方と実際を学ぶものである。

授業の目標

認知行動療法の基本的な考え方と実際を学ぶものである。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	認知行動療法とは何か －特徴と、その成り立ち	認知行動療法が成立した歴史的過程と、その原理を解説 【キーワード】	下山　晴彦（東京大学大学院教授）	下山　晴彦（東京大学大学院教授）
2	認知行動療法を支える原理とその活かし方	認知行動療法の、さまざまな技法を体系化して解説 【キーワード】	神村　栄一（新潟大学教授）	神村　栄一（新潟大学教授） ゲスト:奥田　健次
3	認知行動療法のプロセス(1) －関係性構築と面接技術の基礎	共感的対応による協働関係と動機づけの方法を解説 【キーワード】	林　潤一郎（成蹊大学准教授）	林　潤一郎（成蹊大学准教授） ゲスト:原井　宏明

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	認知行動療法のプロセス(2) ーケース・フォーミュレーション	問題の成り立ちを明らかにする方法を解説 【キーワード】	下山　晴彦 （東京大学大学院教授）	下山　晴彦 （東京大学大学院教授）
5	認知行動療法の基本技法(1) ーセルフモニターと行動活性化	自己モニタリングと行動活性化法を中心に解説 【キーワード】	神村　栄一 （新潟大学教授）	神村　栄一 （新潟大学教授） ゲスト:松永美希
6	認知行動療法の基本技法(2) ーリラクセーション	リラクセーションの方法として呼吸法と漸進的筋弛緩法を解説 【キーワード】	下山　晴彦 （東京大学大学院教授）	下山　晴彦 （東京大学大学院教授） ゲスト:五十嵐透子
7	認知行動療法の技法群(1) ー応用行動分析①	機能的アセスメントを中心に解説 【キーワード】	武藤　崇 （同志社大学教授）	武藤　崇 （同志社大学教授）
8	認知行動療法の技法群(1) ー応用行動分析②	応用行動分析の実践を、SSTなどを例として解説 【キーワード】	武藤　崇 （同志社大学教授）	武藤　崇 （同志社大学教授） ゲスト:三田村仰、菊田　和代
9	認知行動療法の技法群(2) ーエクスポージャーの基礎とその段階的な進め方	段階的曝露法を中心に解説 【キーワード】	神村　栄一 （新潟大学教授）	神村　栄一 （新潟大学教授） ゲスト:岡嶋美代
10	認知行動療法の技法群(2) ー集中的・持続的エクスポージャー	持続的曝露法を中心に解説 【キーワード】	神村　栄一 （新潟大学教授）	神村　栄一 （新潟大学教授） ゲスト:岡嶋美代

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	認知行動療法の技法群（3） －認知療法①	認知的概念化を中心に解説 【キーワード】	石丸　径一郎（東京大学大学院専任講師）	石丸　径一郎（東京大学大学院専任講師） ゲスト：小林奈穂美
12	認知行動療法の技法群（3） －認知療法②	認知再構成法を中心に解説 【キーワード】	石丸　径一郎（東京大学大学院専任講師）	石丸　径一郎（東京大学大学院専任講師） ゲスト：小林奈穂美
13	第3世代の認知行動療法 －ACTを中心に	アクセプタンスとコミットメントを中心に解説 【キーワード】	武藤　崇（同志社大学教授）	武藤　崇（同志社大学教授）
14	認知行動療法の介入手続き －面接の構造を学ぶ	認知行動療法面接の構造とすすめ方を模擬事例を用いて解説 【キーワード】	林　潤一郎（成蹊大学准教授）	林　潤一郎（成蹊大学准教授）
15	現代社会と認知行動療法 －認知行動療法が必要となっている理由	現代社会において認知行動療法が重要となる理由を解説 【キーワード】	下山　晴彦（東京大学大学院教授）	下山　晴彦（東京大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529102	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理臨床とイメージ （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Clinical Psychology and Images (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：小野　けい子　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：佐藤　仁美　（放送大学准教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

心理臨床の現場においては、クライアント自身の心的現実が重要である。夢、描画、造形作品といったイメージ表現は、客観的現実よりも、その人の心的現実を、その人自身を雄弁に語っている。クライアントの語りも、その方の心的現実として傾聴することが重要である。
心理療法というと、ことばによるものを想像されることが多いが、心理療法の方法としてことばのみならず、夢、描画、造形、即興劇、詩歌といったイメージも用いられる。本科目では、こうしたイメージを用いた心理療法について紹介し、心理臨床の中でのイメージの役割について論じる。

授業の目標

心理臨床の中でのイメージの重要性を理解し、イメージを用いた心理療法への理解を深める。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心的現実とイメージ	人のこころのあり方によって、同じ物理的世界も、様々な見え方をすることを、反転図形や絵画表現から見た後、心理臨床の現場におけるクライエントの訴える心的現実について、またイメージ表現と自己治癒力等について述べ、心理臨床とイメージの深いつながりについて論じる。 【キーワード】 反転図形、イメージ、心的現実、無意識	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授）
2	イメージを用いた心理療法と心理療法の器	イメージを用いた心理療法について学ぶとともに、イメージを用いた心理療法を可能とする心理療法の器について学ぶ。心理療法の器としてのセラピストの役割、時間・空間・料金といった枠の役割について学ぶ。 【キーワード】 自由にして保護された空間、治療構造、心理療法の器	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授） ゲスト：山中康裕（京都大学名誉教授）
3	バウムテスト	バウムテストの方法、目的、治療的意義などについて学ぶ。 【キーワード】 バウムテスト、見立て、スケッチ・スキル、ディスクリプション・スキル	岸本　寛史（高槻赤十字病院緩和ケア診療科長）	岸本　寛史（高槻赤十字病院緩和ケア診療科長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	風景構成法	風景構成法の方法、目的、治療的意義などについて学ぶ。 【キーワード】 風景構成法、一点透視図法、描画プロセス	岸本　寛史（高槻赤十字病院緩和ケア診療科長）	岸本　寛史（高槻赤十字病院緩和ケア診療科長）
5	箱庭療法	箱庭表現とメッセージ、箱庭療法における治療関係、箱庭療法の治癒力について述べる。 【キーワード】 箱庭療法、母子一体性、自由にして保護された空間	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授） ゲスト：山中　康裕（京都大学名誉教授）
6	MSSM法	MSSM法の方法、治癒力、歴史、適応等について学ぶ。 【キーワード】 スクリブル、スクイッグル・ゲーム、枠づけ法、物語	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授） ゲスト：山中　康裕（京都大学名誉教授）
7	コラージュ	箱庭療法からヒントを得て発展し、その簡便化から生まれた日本のコラージュ療法。コラージュという技法の持つ意味と、セラピーへの応用について考える。 【キーワード】 コラージュ、レディ・メイド、キュビズム、パピエ・コレ	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授）
8	心理劇 ～ロール・プレイング～	保護された空間の中で即興劇を演じてみることで見えてくるもの、集団療法としての心理劇について概観する。 【キーワード】 モレノ、即興劇、保護された空間、舞台、監督、補助自我、演者、観客	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授） ゲスト：渡辺　憲明（教諭）
9	詩歌療法	イメージ表現のうち、言葉によるものを、詩歌・俳句・連句などからアプローチし、ことばとイメージの関係性、癒し、コミュニケーションについて考える。 【キーワード】 言葉、詩歌、俳句、連句、コミュニケーション、コミュニオン	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授） ゲスト：飯森　眞喜雄（東京医科大学名誉教授）
10	夢分析	夢は、無意識からのメッセージと、見ることができる。フロイトおよびユングの理論・実践を紹介しながら、心理臨床の現場における夢の治療的意義を検討する。 【キーワード】 夢の意義、インキュベーション、フロイト、ユング	川嵜　克哲（学習院大学教授）	川嵜　克哲（学習院大学教授） 小野　けい子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	アクティヴ・イマジネーション	イメージを用いる心理療法では無意識の意義が強調されるが、じつはそれも自我のはたす役割があってこそのことである。ここでは、イメージを介した自我（意識）と無意識とのインタラクションが個性化の鍵であることを論じる。 【キーワード】 アクティヴ・イマジネーション、補償、折衝、アクティヴな自我	老松　克博（大阪大学教授）	老松　克博（大阪大学教授）
12	昔話・お伽噺と心理臨床	昔話・お伽噺は長く人々によって語り継がれてきたものである。その意味で昔話・お伽噺は、人々に共通する心的現実と関係するものと思われる。物語ることと基礎づけること、昔話・お伽噺と心理臨床について論じる。 【キーワード】 昔話、心的現実、元型、個性化の過程	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授）
13	ユングの個性化過程とイメージ	ユングの個性化過程を一種の心理臨床過程とみてユングの描いた絵画を通して考察する。 【キーワード】 夢、描画、造形、セルフ、曼荼羅、普遍的意識	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授）
14	イメージからみる人生1：エドヴァルド・ムンク	ノルウェーの画家エドヴァルド・ムンクを取り上げて、生い立ち、その背景・家族を合わせて見ながら、絵画表現を通して、自己に取り組む過程をひも解いていく。 【キーワード】 不安、愛、死、病、魂の叫び、自己探求	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授）
15	イメージからみる人生2：上村松園	女性として初の文化勲章受賞者となった画家上村松園の自己実現過程について論じる。上村松園の人生は決して平坦なものではなかったが、過酷な試練を越えて、画家としても人としても大成していったこの画家の自己実現過程について描かれた絵から論じたい。 【キーワード】 自己実現、個性化過程、表現療法	小野　けい子（放送大学教授）	小野　けい子（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529110	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理臨床と身体の病 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Clinical Psychology and Physical Illnesses (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：小林　真理子　（放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

めまぐるしい医療技術の進歩の中で、患者中心の医療が提唱されるようになり、患者はその恩恵を受けると同時に、治療の選択や意思決定が求められ、病とどう向き合っていくかという課題にも直面している。そのような医療現場において、心理士の果たす役割は増えている。本科目では、医療における心理臨床について、がん、HIV/エイズ、周産期、生殖医療、遺伝医療、糖尿病、脳血管障害、更年期障害といったさまざまな領域における患者・家族への支援の実際について学ぶ。

授業の目標

医療における心理臨床の領域は、健康維持や予防医療など総合的な支援へと広がり、同時に心理士へのニーズも多様になっている。身体医療における心理臨床について、さまざまな考え方や支援の実際についての理解を深める。医療におけるこれからの心理臨床について、また「身体の病を抱えて生きる」ことを支えるために、心理士に求められることについて考える。

履修上の留意点

「心理臨床の基礎(’14)」を履修しておくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	医療システムにおける心理臨床	医療システムにおけるチーム医療の理解、チーム医療における心理士の役割について学ぶ。また、身体疾患に罹患した患者の心理やリエゾン活動における心理的評価の重要性について学んでいく。 【キーワード】 チーム医療、コンサルテーション・リエゾン、患者の心理、心理教育、家族のケア	幸田　るみ子（静岡大学教授）	幸田　るみ子（静岡大学教授） 小林　真理子（放送大学准教授）
2	がんと心理臨床1 ーがん医療の歴史とサイコオンコロジー	わが国では、毎年新たにがんと診断される人は70万人を超え、国民の二人に一人ががんに罹患する可能性があると言われている。国によるがん対策の推進、がんと心の問題を扱うサイコオンコロジーの発展など、がん医療の歴史を中心に学ぶ。 【キーワード】 がん、がん対策基本法、サイコオンコロジー	小池　眞規子（目白大学教授）	小池　眞規子（目白大学教授）
3	がんと心理臨床2 ー患者の心理と緩和ケア	患者はがんの臨床経過の中でさまざまな体験をする。がんの診断、その後の治療、再発・転移など、それぞれの経過における患者の心理について学ぶ。また、がん医療の進歩とともに発展してきた緩和ケアについて学ぶ。 【キーワード】 がんの臨床経過、包括的アセスメント、緩和ケア	小池　眞規子（目白大学教授）	小池　眞規子（目白大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	がんと心理臨床3 －患者・家族への心理的支援	患者・家族への心理的支援の実際について概説する。患者・家族への心理的支援は個別による方法のほか、グループによるアプローチが有効な場合がある。また、患者が亡くなった後の家族の悲嘆とその支援についても述べる。 【キーワード】 個別カウンセリング、グループ療法、悲嘆のプロセス	小池　眞規子（目白大学教授）	小池　眞規子（目白大学教授）
5	がんと心理臨床4 －がん患者の子どもへの支援	子育て期のがん患者とその子どもへの支援について取り上げる。親のがんが子どもに与える影響や子どもへの告知について概説する。また、子どもへの支援の実際について、サポートグループの実践など最近の取り組みを紹介する。 【キーワード】 子育て期のがん患者、がん患者の子ども、がんを伝える、サポートグループ	小林　真理子（放送大学准教授）	小林　真理子（放送大学准教授）
6	HIV/エイズと心理臨床1 －現状と課題	HIV/エイズの疫学、医療の動向を押さえつつ、患者とパートナー、家族の長期療養における心理的状態とその援助としての心理臨床の現状と課題について概説する。 【キーワード】 感染症、長期療養、患者の心理、告知、セクシュアリティ	矢永　由里子（慶應義塾大学医学部特任講師）	矢永　由里子（慶應義塾大学医学部特任講師）
7	HIV/エイズと心理臨床2 －予防・検査を受けることとは	HIVに関する検査について、現状と課題を押さえながら、「検査を受ける」こととはどういうことか、その時の支援にはどのようなアプローチが重要かについて検討を加える。検査時の予防のあり方についても検討する。 【キーワード】 インフォームドコンセント、検査前・後カウンセリング、リスク軽減	矢永　由里子（慶應義塾大学医学部特任講師）	矢永　由里子（慶應義塾大学医学部特任講師）
8	周産期医療と心理臨床1 －周産期心理臨床の意味と意義	妊娠出産を経て、親子が出会っていく時である周産期に、なぜ心理臨床が必要とされるのかを考える。さらに、赤ちゃんがNICU（新生児集中治療室）に入院した場合など、周産期医療の場における心理臨床について学ぶ。 【キーワード】 周産期医療、NICU(新生児集中治療室)、周産期心理士、チーム・アプローチ	橋本　洋子（山王教育研究所臨床心理士）	橋本　洋子（山王教育研究所臨床心理士） ゲスト：岡田由美子（加古川西市民病院臨床心理士）
9	周産期医療と心理臨床2 －周産期心理臨床の実際	赤ちゃんがNICUに入院しなければならない時、赤ちゃんに疾病や障害が認められる時、赤ちゃんが亡くなってしまう時など、さまざまな状況における周産期心理臨床の実際について学ぶ。 【キーワード】 低出生体重児、関係性の発達、障害のある赤ちゃん、グリーフケア	橋本　洋子（山王教育研究所臨床心理士）	橋本　洋子（山王教育研究所臨床心理士） ゲスト：川野由子（大阪府立母子保健総合医療センター臨床心理士）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	生殖医療、出生前診断と心理臨床	生殖医療と出生前診断をめぐる医療技術の進歩はめざましいが、一方で、法の整備は進まず、倫理的ディスカッションは十分とは言えない。この領域で心理臨床に携わる時、何を大切にして、どのように関わっていくことが必要なのか、考える。 【キーワード】 不妊、体外受精、出生前診断、NIPT（非侵襲的出生前遺伝学的診断）	橋本　洋子（山王教育研究所臨床心理士）	橋本　洋子（山王教育研究所臨床心理士） ゲスト：河合蘭（フリージャーナリスト）
11	遺伝医療と心理臨床	病気の遺伝子レベルでの解明が進み、遺伝医療は急速に進歩している。一方で、遺伝情報は個人を超え家系で共有されるため、患者や家族に困難な課題をもたらすことがある。遺伝カウンセリングの実際について学び、心理臨床の課題と姿勢について考える。 【キーワード】 遺伝性疾患、遺伝学的検査、遺伝カウンセリング、心理臨床	小林　真理子（放送大学准教授）	小林　真理子（放送大学准教授） ゲスト：浦野真理（東京女子医科大学附属病院臨床心理士）
12	糖尿病と心理臨床	糖尿病は、慢性の高血糖状態を主な症状とする代謝症候群と定義され、完治する病気ではないとされる。糖尿病の治療やそれに伴う患者の心理について理解し、患者の行動変容を目指し、病を抱えて生きていくことを支える心理的アプローチについて学ぶ。 【キーワード】 糖尿病、セルフケアの支援、エンパワーメント・アプローチ、グループ療法	小林　真理子（放送大学准教授）	小林　真理子（放送大学准教授）
13	脳血管障害と心理臨床	脳血管障害後は、うつ状態や不安症状を呈し、リハビリテーションに支障を生じる場合が少なくない。また、脳血管障害が認知機能に影響を及ぼし、社会復帰への妨げとなる。脳血管障害患者の認知機能を神経心理学的な視点から適切に把握すること、および本人の心理的支援や、家族支援の重要性について学ぶ。 【キーワード】 脳卒中後うつ病、遂行機能障害、神経心理学、心理教育、認知行動療法	幸田　るみ子（静岡大学教授）	幸田　るみ子（静岡大学教授）
14	更年期障害と心理臨床	女性のライフサイクルの中で、更年期は様々なストレスを経験し、身体的にも急激なホルモンの変化や身体機能の低下が始まり負担の多い時期である。更年期女性の心理的ケアの意義とリラクゼーション法の1つである自律訓練法について学ぶ。 【キーワード】 ライフサイクル、更年期障害、ホルモン補充療法、自律訓練法	幸田　るみ子（静岡大学教授）	幸田　るみ子（静岡大学教授）
15	医療における心理臨床の広がり	医療領域の心理士の活動の現状を理解し、「病いを抱えて生きる」ことを支える心理臨床の姿勢について学ぶ。また、医療における新しい動向も紹介する。放送授業では、5人の担当講師で、『医療における心理士の今後の課題と展望』というテーマで話し合う。 【キーワード】 心理臨床の意義、病い、物語、サバイバーシップ	小林　真理子（放送大学准教授）	小林　真理子（放送大学准教授） 担当講師全員

事務局記載欄	開講年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1529218	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 乳幼児・児童の心理臨床 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Clinical Psychology for Infants and Children (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：小林　真理子　（放送大学准教授）　〕

〔主任講師（現職名）：塩﨑　尚美　（日本女子大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

子どもを取り巻く厳しい現状の中で、子どもを対象として援助活動をしている臨床心理士は多く、その領域は拡大している。
本科目では、前半に総論として、子どもの心の発達および子どもの心理療法の理論と方法について概説する。後半に各論として、保健・保育、教育、医療、福祉のさまざまな領域における子どもと家族への心理的支援の実際を紹介する。また、児童虐待、発達障害、離婚・ひとり親家庭の子ども、震災後の心理支援等のトピックスについても取り上げ、臨床心理士の果たす役割について論じる。

授業の目標

乳幼児期・児童期の子どもと家族に対する心理臨床について、さまざまな支援の考え方や支援の実際についての理解を深める。

履修上の留意点

「心理臨床の基礎(’14)」を履修しておくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	子どもを取り巻く現状と心理臨床	子どもを取り巻く状況は、虐待や貧困、いじめや不登校、災害によるトラウマなどさまざまな問題が山積し厳しいものとなっている。そのような社会に生きる子どもを対象とした心理臨床の領域を紹介するとともに、子どもの援助者として大切な視点や姿勢について考える。 【キーワード】 不登校、いじめ、生物-心理-社会モデル、心理臨床の視点	小林　真理子（放送大学准教授）	小林　真理子（放送大学准教授） 塩﨑　尚美（日本女子大学教授）
2	乳幼児期・児童期の心の発達	乳幼児期から児童期の子どもを対象とした臨床実践においては、心の発達についての理解が必要不可欠である。ここでは心理臨床を実践する上で理解しておくべき、心の発達の諸理論を概説する。 【キーワード】 アタッチメント(愛着)理論、分離-個体化理論、自己感の発達、心理・社会的発達、発達課題	塩﨑　尚美（日本女子大学教授）	塩﨑　尚美（日本女子大学教授）
3	子どもの心理療法1 遊戯療法	遊戯療法の意義と目的、および、遊戯療法の中で行われるアセスメント、遊戯療法の重要な構成要素である、場所、時間的枠組み、心理的枠組み、用いられる遊具、セラピストの対応について解説する。 【キーワード】 遊戯療法の意義と目的、アセスメント、遊戯療法の構成要素、セラピストの対応	吉田　弘道（専修大学教授）	吉田　弘道（専修大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	子どもの心理療法2 親面接	親面接の目的、親面接の進行過程、子どものアセスメントを行うための情報の収集項目および話の聴き方、親面接を行う場合のセラピストの基本的態度、親のアセスメントのポイントについて解説する。 【キーワード】 親面接の目的、情報の収集、セラピストの基本的態度、親のアセスメントのポイント	吉田　弘道（専修大学教授）	吉田　弘道（専修大学教授）
5	子どもの心理療法3 認知行動療法	子どものための認知行動療法について、その理論と実践における工夫、ケースフォーミュレーションについて学ぶ。また、子どもの認知行動療法の実際として、不安と怒りへの個別のアプローチとグループプログラムを紹介する。 【キーワード】 認知行動療法、思考（認知）・感情・行動、ケースフォーミュレーション、心理教育、予防プログラム	小林　真理子（放送大学准教授）	小林　真理子（放送大学准教授） ゲスト：松丸未来（東京認知行動療法センター）
6	子どもの心理療法4 グループアプローチ	グループアプローチは、個人への支援とともに重要な臨床実践である。しかし、グループならではの心性が生じることがあり、グループダイナミクスを意識したかかわりが求められる。さまざまなグループアプローチがあることを知り、システム的見地など、グループ理解を深める。 【キーワード】 グループの治療的要因、グループの発達、グループダイナミクス、グループとしての家族と家族療法	村松　健司（首都大学東京教授）	村松　健司（首都大学東京教授） ゲスト：塩谷隼平（東洋学園大学教授）
7	トピックス1 児童虐待	児童虐待への対応では、子どものトラウマと心身の発達を見据えた支援が必要になる。子どもとの関係づくりを行いながら、同時に長期的に子どもをサポートする視点を身に付けたい。虐待を受けた子どもの心理的サポートとともに、彼らが自己を成長させうる環境要因について解説する。 【キーワード】 児童虐待の予防、アタッチメント、ソーシャルサポート、トラウマ、教育支援と特別支援級	村松　健司（首都大学東京教授）	村松　健司（首都大学東京教授） ゲスト：井上真（横浜いずみ学園園長）
8	トピックス2 発達障害	発達障害という概念はこれまで変遷を重ねてきているが、ここでは、2013年に改訂されたDSM-5における新たな診断基準に基づき、発達障害の基本的障害を概観する。また、発達障害を抱える子どもの生きにくさや困難、二次的に生じる問題を理解し支援する重要性を学び、支援の現場におけるアプローチを紹介する。 【キーワード】 発達障害、DSM-5、自閉症スペクトラム(ASD)、注意欠如／多動性障害(AD／HD)、限局性学習障害(SLD)	塩﨑　尚美（日本女子大学教授）	塩﨑　尚美（日本女子大学教授）
9	トピックス3 ひとり親・再婚家庭の子ども	近年離婚数の増加に伴い、ひとり親家庭や再婚家庭も増加している。そうした家庭で育つ子どもの抱える心理社会的問題についての検討は十分になされているとはいいがたい。ここでは、離婚とその後の家族形態への変化が子どもの発達に与える影響を理解するとともに、その支援についていくつかの実践活動を紹介し、今後求められる支援を考えていく。 【キーワード】 ひとり親家庭、再婚家庭、面会交流、離婚・再婚の子どもへの影響	塩﨑　尚美（日本女子大学教授）	塩﨑　尚美（日本女子大学教授） ゲスト：福丸由佳（白梅学園大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	トピックス4 災害後の子どもの心理支援	災害で大切な人やもの（住み慣れた環境、安全感）を失った子どもへの支援について考える。特に東日本大震災後に行われてきた様々な心理的支援について、実際に関わってこられた支援者の方々からの活動報告も含めて紹介する。 【キーワード】 サイコロジカル・ファーストエイド（PFA）、こころのサポート授業、集団遊戯療法、グリーフサポート	小林　真理子（放送大学准教授）	小林　真理子（放送大学准教授） ゲスト：冨永良喜（兵庫教育大学教授）
11	臨床現場から1 子育て支援・保育カウンセリング	子どもの心理的問題は、乳幼児期からの微細な問題の蓄積によって生じるものも多い。そうした問題を予防することも、心理臨床の役割の一つになってきている。そのためには、早期にその兆候を発見し対応することが必要である。ここでは、早期発見のために重要な役割を果たしている、乳幼児健診や地域の子育て支援・保育カウンセリングについて概観し、それぞれの現場の臨床心理士の役割について学ぶ。 【キーワード】 乳幼児健診、子育て支援、保育カウンセリング、早期発見、予防的介入	塩﨑　尚美（日本女子大学教授）	塩﨑　尚美（日本女子大学教授）
12	臨床現場から2 教育センター・教育相談室	不登校やいじめへの対応、発達障害の可能性のある子どもへの特別支援など、教育センターや教育相談室など教育領域における心理臨床について学ぶ。臨床現場の紹介を通して、乳幼児期・児童期における子どもと保護者への支援、多職種との協働、他部署機関との連携について考える。 【キーワード】 不登校、いじめ、教育相談、就学相談、特別支援教育、ネットワーク支援	小林　真理子（放送大学准教授）	小林　真理子（放送大学准教授） ゲスト：波田野茂幸（国際医療福祉大学大学院准教授）
13	臨床現場から3 児童福祉施設・児童相談所	施設における心理職は新たに加わった専門職であり、児童福祉臨床において社会的養護の仕組みを知ることは必須事項である。施設における心理職の働き方については、現在いくつかの立場がある。実際にどういった立ち位置を取るかは、施設の状況もあり簡単ではないが、「共同養育」の視点をもとに、他職種（多職種）協働における専門職としての心理職の貢献について理解を深める。 【キーワード】 社会的養護、児童養護施設、施設における心理支援、連携・協働	村松　健司（首都大学東京教授）	村松　健司（首都大学東京教授）
14	臨床現場から4 小児科・児童精神科	身体の病気や発達上の問題、心身症、精神疾患など、小児科や児童精神科における子どもと家族への心理臨床の実際について学ぶ。臨床現場として、大学附属の子ども医療センターを紹介しながら、多職種によるチーム医療の中での心理士の姿勢や果たす役割について理解を深める。 【キーワード】 小児科、児童精神科（心の診療科）、チーム医療	小林　真理子（放送大学准教授）	小林　真理子（放送大学准教授）
15	子どもの心理臨床のこれから	今日の日本社会は、所得格差や家族の価値観の多様化など、早いテンポで激しい変化が起きている。そうした変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしているのかを考え、それに伴い多様化する子どもの心理臨床の新たな役割と方向性を探っていく。 【キーワード】 心理臨床の社会的役割、予防的介入、チーム支援、他職種との連携と協同、コミュニティ支援	塩﨑　尚美（日本女子大学教授）	小林　真理子（放送大学准教授） 塩﨑　尚美（日本女子大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528912	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　思春期・青年期の心理臨床　　（’１３）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：　佐藤　仁美　（放送大学准教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　西村　喜文　（西九州大学大学院教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

思春期・青年期について、発達的側面・医学（病理）的側面などから捉え、その対応について概説する。大きく分けて、家庭・学校・社会のなかでの若者の姿を多角度からアプローチしていく。

授業の目標

思春期・青年期について、発達的側面、医学（病理）的側面などから理解につとめる。家庭・学校・社会において、思春期・青年期年代の特徴を内面と外面から理解すること。

履修上の留意点

関連科目として、「心理臨床の基礎」「心理カウンセリング序説」「乳幼児・児童の心理臨床」「中高年の心理臨床」をあわせて履修することをすすめる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	思春期・青年期を生きる －思春期・青年期の課題－	思春期・青年期を心と体の両側面から捉え、大人と子どもの境目にあるこの時期であるからこそ、生きている楽しみと、生きにくさに迫っていく。 【キーワード】 思春期、青年期、アイデンティティ、自己との出会い	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授）
2	思春期を生きる子どもたち	児童期後期より、親との距離をおき始め、親に向けられていた愛着がしだいに自分自身に向けられてくる。このように自意識（自分への関心）が高まる中、子どもたちは、それぞれの空間をどのように生きているのか学校（社会）、家庭での臨床像とその対応について考える。 【キーワード】 思春期の課題、思春期の不適応、思春期の理解と支援	西村　喜文（西九州大学大学院教授）	西村　喜文（西九州大学大学院教授）
3	青年期をいかに過ごすか －大人になるということ－	現代の高校生・大学生がおかれている社会的環境を視野に入れながら親からの分離、対人関係の問題等、子どもから大人への移行期における自我形成について考えていく。 【キーワード】 青年期の発達課題、アイデンティティ、大人になることの難しさ	西村　喜文（西九州大学大学院教授）	西村　喜文（西九州大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	軽度発達障害	学校現場において、軽度発達障害に対する支援が多方面からなされるようになってきた。しかし、中学、高校における軽度発達障害の理解や対応については十分とはいえない。ここでは、中学、高校における軽度発達障害の現状とその対応について考えていく。 【キーワード】 軽度発達障害、特別支援教育、思春期・青年期支援	西村　喜文（西九州大学大学院教授）	西村　喜文（西九州大学大学院教授）
5	学校コミュニティと心理臨床	学校現場において、事件、事故、被害など学校コミュニティの危機が問題となり、緊急支援の必要性が問われている。ここでは、学校コミュニティと心理臨床について考えていく。 【キーワード】 学校コミュニティ、学校臨床とスクールカウンセラー、危機介入	西村　喜文（西九州大学大学院教授）	西村　喜文（西九州大学大学院教授）
6	若者の異文化体験 －揺らぎのマイナスとプラス－	自分らしさを自文化の中で育てること自身が難しい思春期・青年期に、異文化を体験することはそのアイデンティティの形成に複雑な課題を持ち込みマイナスに働くが、同時にそれをプラスに転じる力としても働く。その二つのせめぎあいの視点から考える。 【キーワード】 異文化適応、文化的アイデンティティ、異文化ストレス、帰国生、留学生	手塚　千鶴子（慶応義塾大学国際センター非常勤講師）	手塚　千鶴子（慶応義塾大学国際センター非常勤講師）
7	思春期・青年期の問題行動と課題　(1) －非行臨床を中心に－	移行期におけるつまずき、自分でもてあましてしまうもの・あふれ出る爆発的なエネルギーと、その発散方法、そして、収束に向かう時とは？　非行臨床における少年たちの特徴と、彼・彼女たちとの付き合い方などを探求する。 【キーワード】 非行、つまづき	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授） ゲスト：田高誠（東京最高裁判所）
8	思春期・青年期の問題行動と課題(2) －思春期心性と行動－	なぜ、内側に向かってしまうのか？自分でもてあましてしまうもの・繊細な心のひだにアプローチする。主に不登校、ひきこもりの問題をとおして、この時期特有の内側に向かう心を探求する。 【キーワード】 不登校、引きこもり、思春期内閉、イニシエーション	北原　知典（専修大学心理教育相談室臨床心理士）	北原　知典（専修大学心理教育相談室臨床心理士）
9	ボディ・イメージと病理(1)	この時期特有の自己意識・ボディ・イメージから病理にかかわる全般について、ジェンダーや性の問題も含め、概説する。 【キーワード】 ボディ・イメージ、身体言語、性	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授）
10	ボディ・イメージと病理(2)	思春期・青年期の心と身体の問題の中でも身体で表現するものとして，摂食障害・自傷行為を中心に取り上げ，それらと関係している境界性パーソナリティ障害についても触れてみる。 【キーワード】 摂食障害、自傷行為、パーソナリティ障害、境界例	大前　玲子（大阪大学大学院講師）	大前　玲子（大阪大学大学院講師） ゲスト：川瀬公美子（メンタルサポートオフィスひといき臨床心理士）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	思春期・青年期の心理療法（1） －総論と芸術療法・認知療法を中心に－	ちょっとした工夫が必要とされる思春期・青年期の心理療法を取り上げる。一つは，イメージを使った芸術療法としての箱庭療法・コラージュ療法ともう一つは，現実志向で歪んだものの見方・考え方を修正することを目指す認知行動療法という大きく志向の違う心理療法を紹介する。 【キーワード】 傾聴、イメージ表現療法、箱庭療法、コラージュ療法、認知療法	大前　玲子（大阪大学大学院講師）	大前　玲子（大阪大学大学院講師） ゲスト：川瀬公美子（メンタルサポートオフィスひといき臨床心理士）
12	思春期・青年期の心理療法（2） －遊戯療法的要素について－	思春期・青年期の心の理解と付き合い方について、遊戯療法的な視点から考察し、「遊び」という表現方法の可能性について探求する。 【キーワード】 遊戯療法、遊び、イメージ、治療的枠	北原　知典（専修大学心理教育相談室臨床心理士）	北原　知典（専修大学心理教育相談室臨床心理士）
13	思春期・青年期とのつき合い方（1） －メディアとコミュニケーションについて－	思春期・青年期のコミュニケーションの形や自己意識を考える上でインターネット等のメディアの存在は切り離して考えることができなくなっている。移行対象など心理学的な概念をキーワードに、メディアが持つ難しさ、そして可能性について考えていく。 【キーワード】 携帯電話、パソコン、インターネット、移行対象、他者性	北原　知典（専修大学心理教育相談室臨床心理士）	北原　知典（専修大学心理教育相談室臨床心理士）
14	思春期・青年期とのつき合い方（2） －性別と組合せの問題を中心に－	樹木が上へ伸びると同時に、下への根が張られるように、思春期・青年期の成長を上下の軸から眺めてみる。 【キーワード】 ジェンダー・アイデンティティ、獲得する、受け容れる	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授） 大前　玲子（大阪大学大学院講師） ゲスト：岩岡真弘（大阪府立和泉支援学校）、川瀬公美子（メンタルサポートオフィスひといき臨床心理士）
15	思春期・青年期を生きぬく	思春期・青年期をどう生き抜くか。思春期・青年期を生きる姿、親や先生をはじめとする大人の役割、そして協働をめざしての試みを語り、まとめとする。 【キーワード】 居場所、安心感、信頼感	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授） 西村　喜文（西九州大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528971	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 中高年の心理臨床 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Clinical Psychology of the Middle-aged and Older Adults (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：齋藤　高雅　（帝京大学教授、放送大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：高橋　正雄　（筑波大学教授）　〕

【本学担当専任教員：大場　登　（放送大学教授）　】

講義概要

少子高齢化の現在、中高年の心理臨床においては、様々な問題が社会問題として取り上げられている。「うつ病」の問題や、1998年より10年以上、自殺者が3万人も続いた「自殺」の問題、認知症やその介護の問題、さらに「死」の問題などについて論ずる。

授業の目標

ライフサイクルにおける中高年の臨床心理学的課題と知識を身につけ、中高年者の理解を目指す。

履修上の留意点

臨床心理学領域では、ライフサイクルの視点から「乳幼児・児童の心理臨床」「思春期・青年期の心理臨床」が開設されている。今回、その延長科目として「中高年の心理臨床」の位置づけであるので、ライフサイクルの観点から上記科目も学習していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	中年期の心理と課題	中年期における主な発達理論としてユング, C.G. 、エリクソン, E.H.、レヴィンソン, D. J.の理論を述べ、次に生物心理社会的な視点から中年期におけるそれぞれの変化と課題について検討し、臨床心理学的特徴について述べる。 【キーワード】 中年期、働き盛り, 更年期、中年期の心理と課題	齋藤　高雅（帝京大学教授、放送大学名誉教授）	齋藤　高雅（帝京大学教授、放送大学名誉教授）
2	若者から中年への移行期 ーいつまでも大人になれない若者たちー	若者から中年への移行期における心理と諸課題について検討する。 【キーワード】 若者から中年への移行期、大人になること	倉本　英彦（帝京平成大学大学院教授）	倉本　英彦（帝京平成大学大学院教授）
3	人生の移行期における諸課題 ー「人生半ばの過渡期」を中心にー	人生半ばの過渡期(40～45歳)における発達課題について検討する。 【キーワード】 人生半ばの過渡期、発達課題	倉本　英彦（帝京平成大学大学院教授）	倉本　英彦（帝京平成大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	働き盛りの中年の心身の健康	中年期のストレス病と危機(クライシス)、うつ病、自殺などを中心に概説する。 【キーワード】 中年期の危機(クライシス)、更年期障がい、うつ病、アルコール依存、自殺	倉本　英彦（帝京平成大学大学院教授）	倉本　英彦（帝京平成大学大学院教授）
5	病みながら生きるという生き方	病いを抱えて生きる人々の生き方や人生において病むことの意味などを検討する。 【キーワード】 病むことの意味	高橋　正雄（筑波大学教授）	高橋　正雄（筑波大学教授）
6	高齢期の心理と課題	高齢期に関する理論について述べ、次に高齢期の心理的特徴について生物学的要因，心理社会的要因など，さらに高齢期の精神保健、高齢者の心理臨床、パリアティブケア（緩和ケア）について述べる。最後にサクセスフル・エイジング、超高齢期について触れる。 【キーワード】 高齢者の心理臨床、パリアティブケア（緩和ケア）、サクセスフル・エイジング、超高齢期、老年的超越	齋藤　高雅（帝京大学教授、放送大学名誉教授）	齋藤　高雅（帝京大学教授、放送大学名誉教授）
7	高齢期のこころの病	高齢期のこころの病について概説する。 【キーワード】 高齢期のこころの病（認知症、神経症性疾患、うつ病、統合失調症、他）	高橋　正雄（筑波大学教授）	高橋　正雄（筑波大学教授）
8	認知的加齢の理解 －正常加齢による認知機能の変化－	加齢による認知機能の変化(認知的加齢)について概説する。 【キーワード】 認知的加齢、知能、記憶、意思決定	松田　修（東京学芸大学准教授）	松田　修（東京学芸大学准教授）
9	高齢者の心理アセスメント －高齢者のこころを知るには－	高齢者のこころを知るために行われる心理アセスメントの方法について概説する。 【キーワード】 心理アセスメント、心理検査、行動観察、認知症スクリーニング、権利擁護と能力評価など	松田　修（東京学芸大学准教授）	松田　修（東京学芸大学准教授）
10	高齢者に対する心理療法（1）	高齢者に対する心理療法について述べる。 【キーワード】 認知症に対する心理療法	黒川　由紀子（上智大学教授）	黒川　由紀子（上智大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	高齢者に対する心理療法(2)回想法	回想法とライフレビューの理論と実際について概説する。 【キーワード】 回想法、ライフレビュー、グループ回想法	黒川　由紀子（上智大学教授）	黒川　由紀子（上智大学教授）
12	高齢者に対する心理療法(3) －認知症高齢者と家族の支援－	認知症高齢者と家族の心理と支援について概説する。 【キーワード】 心理教育、認知リハビリテーション	松田　修（東京学芸大学准教授）	松田　修（東京学芸大学准教授）
13	文学にみる老いと病	文学作品を中心に、高齢者や病者、障害者の生き方、並びに周囲の対応を検討する。 【キーワード】 高齢者、病者、障害者の生き方と対応	高橋　正雄（筑波大学教授）	高橋　正雄（筑波大学教授）
14	死とこころのケア	死の準備、ターミナルケア、グリーフ・カウンセリング、死生観などについて論ずる。 【キーワード】 死の準備、ターミナルケア、グリーフ・カウンセリング、死生観	黒川　由紀子（上智大学教授）	黒川　由紀子（上智大学教授）
15	老いを生きる －まとめにあたって	印刷教材では、老いをどのように生きるか、老いの心性と特徴、すなわち喪失体験、孤独と不安、社会的機能・役割の変化、さらに高齢者と心理的適応について概観した。放送授業では講師全員で座談する。 【キーワード】 老いの心性、高齢者像、高齢者観、高齢者と心理的適応	齋藤　高雅（帝京大学教授、放送大学名誉教授）	齋藤　高雅（帝京大学教授、放送大学名誉教授） 高橋　正雄（筑波大学教授） 倉本　英彦（帝京平成大学大学院教授） 黒川　由紀子（上智大学教授） 松田　修（東京学芸大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	総合科目	科目コード	1920014	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 色と形を探究する （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Exploring Colors and Forms (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：佐藤　仁美　（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：二河　成男　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

ヒトは、視覚的生き物とも言われている。また、色や形を通して、様々な表現をし、色と形によってさまざまな影響を受けている。ヒトの言葉には、感情や状態を表す色や形を用いた言葉も少なくない。たとえば、「腹黒い」「赤っ恥」「黄色い声」「四角四面の考え方」「角が立つ」「丸く収める」など、その代表的に使われているものである。
本科目では、「色」と「形」というものに、文化的・物理的・生物的・精神的・芸術的・心理学・心理臨床的視点など多角度からアプローチし、色と形の持つ意味を解き明かしていき、最終的に、我々が住み心地・生き心地をよくする色と形の活用に結び付けていきたい。

授業の目標

多領域にも携わるテーマのため、広い領域・分野層の学生に受講を勧めたい。
1. 色彩と形と言う多様な分野を包括する概念を通し、物事を多方面から立体的に捉えられるような柔軟な視点でものを見、考える姿勢を身につける。
2. 本科目をきっかけに、広く学ぶ姿勢を身につけ、すべての学問は関係ないようで関係していることを知る。
3. 本科目を学ぶことで、居心地や生きやすさの工夫などを試みるなど、日常生活の場にも発展させていく。

履修上の留意点

以下が関連する科目である。
「音を追究する(’16)」「哲学への誘い(’14)」「日本語とコミュニケーション(’15)」「初歩からの生物学(’14)」「初歩からの物理(’16)」「初歩からの化学(’12)」「ソーシャルシティ(’17)」「産業とデザイン(’12)」「生命分子と細胞の科学(’13)」「生活と化学(’14)」「初歩からの宇宙の科学(’17)」「宇宙とその進化(’15)」「太陽系の科学(’14)」「仏教と儒教(’13)－日本人の心を形成してきたもの－」「文化人類学(’14)」「CGと画像合成の基礎(’16)」「錯覚の科学(’14)」「認知神経科学(’12)」「認知心理学(’13)」「社会心理学(’14)」「心理臨床の基礎(’14)」「心理臨床とイメージ(’16)」

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	色と形とは（総論）	色と形とはどのようなものなのか、そして、色と形のアプローチについてのイントロダクションとして総論的に眺めてみる。 【キーワード】 色、形、色彩論、構成、構造、光、繰り返し模様	二河　成男（放送大学教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授）	二河　成男（放送大学教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授）
2	自然界の色と形1 ～生物の色と形のつくり～	生物の体は、様々な色や模様を呈している。また、その形も多種多様であり、さらに生物を形作っている分子や細胞にも、形が見られる。生物の体やその内部の構造が色を呈するしくみ、そして模様や形がどのように形成されるかを紹介する。 【キーワード】 色素、構造色、模様、チューリング、形、らせん、細胞、群れ	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	自然界の色と形2 ～生物の色と形の成り立ち～	生物の体の色や形は、その生物の生存や繁殖に重要な役割を担っている場合がある。それらの役割で特に興味深いものについて解説し、生命現象と色や形の関係について考える。 【キーワード】 隠蔽色、警告色、婚姻色、擬態、くちばし、化学反応	二河　成男 （放送大学教授）	二河　成男 （放送大学教授）
4	自然界の色と形3 ～地球上で観察する色と形 ～	空の青さや夕日の赤さあるいは虹やオーロラなど地球上で見られる色やその変化の原因について科学的に解明する。また、地平線上での太陽や月の形についても考察する。 【キーワード】 青空、夕焼け、夕日、グリーンフラッシュ、虹、オーロラ	吉岡　一男 （放送大学教授）	吉岡　一男 （放送大学教授）
5	自然界の色と形4 ～宇宙で見られる色と形～	色や形について観察される地球外の現象を説明する。すなわち、月食や黄道光あるいは火星の空さらには恒星や分子雲などの色、それから原始太陽系円盤や天の川銀河の形について科学的に論じる。 【キーワード】 月食、黄道光、火星の色、星の色、分子雲、原始太陽系円盤、天の川銀河	吉岡　一男 （放送大学教授）	吉岡　一男 （放送大学教授）
6	日本の文様	様々な日本の文様を通して、文様の種類について知ると共に、その表現の方法について学ぶ。 【キーワード】 植物文様、動物文様、自然文様、器物文様、割付文様、吉祥文様、有職文様、役者文様、刺繍、紅型、絣、記号	大橋　理枝 （放送大学准教授）	大橋　理枝 （放送大学准教授） 佐藤　仁美 （放送大学准教授）
7	文様の伝搬	ユーラシア大陸の東西で文様がどのように伝搬したかを、花喰鳥／松喰鶴、唐草、石榴などの具体例と共に検討する。 【キーワード】 正倉院、エジプト・メソポタミア、ギリシャ・ローマ、花喰鳥／松喰鶴、唐草、石榴、異文化屈折現象、幾何学文様	大橋　理枝 （放送大学准教授）	大橋　理枝 （放送大学准教授） 佐藤　仁美 （放送大学准教授）
8	文化と歴史の中の色と形をめぐって1 ～グアテマラ・マヤという世界～	文化（≒日常生活）とその歴史の中で、様々な色や形がどのように息づいてあらわれているのか、グアテマラを取り上げて考えてみる。 【キーワード】 先住民、マヤ、トウモロコシ、染織、ポポル・ヴフ、マヤ暦	佐藤　仁美 （放送大学准教授）	佐藤　仁美 （放送大学准教授） ゲスト：小林グレイ愛子(ファイバーアーティスト)、他
9	文化と歴史の中の色と形をめぐって2 ～染の世界～	色を作り出すということについて、化学変化と自然の成り行きを通し、染を中心に考える。染文化においては、日本とグアテマラに共通する貝紫・コチニール・藍などを取り上げる。 【キーワード】 染織、藍、貝紫、コチニール、絣	佐藤　仁美 （放送大学准教授）	佐藤　仁美 （放送大学准教授） ゲスト：小林グレイ愛子(ファイバーアーティスト)、寺田　貴子(活水女子大学教授)、他

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	文化と歴史の中の色と形をめぐって3 ～織の世界～	文化人類学的視点をも含めて色と織の世界を紹介する。日本の織とも比較しつつ、グアテマラの織に込められた女性たちの思いやイメージ、メッセージについて、さまざまな視点からアプローチする。 【キーワード】 織、経糸、緯糸、ウィピール、コルテ、後帯機、模様	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授） ゲスト：小林グレイ愛子(ファイバーアティスト)、現地織手・染師
11	色と形を用いた心理臨床の世界	視覚的要因による心への影響とはどのようなものなのだろうか。錯視の世界から始まり、心理臨床の現場での色と形の捉え方や活用などを紹介する。 【キーワード】 図と地、錯視、投映法、色彩シンボル	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
12	社会の中の「色と形」	子ども椅子という生活用具が世界共通に存在し、子ども椅子特有の「色と形」を示す。子ども椅子の「色と形」には、どのような特徴があり、これらの特徴はどのようにして決まってくるのだろうか。放送教材の中では、長野県松本市の「子ども椅子展」を取材し考察している。 【キーワード】 子ども椅子、コネクション、座る機能、社交的機能、環境関係性	坂井　素思（放送大学教授）	坂井　素思（放送大学教授）
13	社会の中の「色」	「椅子の色」を対象に据えて、社会で構成されたり鑑賞されたりする「色」の特性を見ていくことにする。どのようなことが椅子の色を決めていて、その色はどのような意味を持っているのだろうか。放送教材の中では、松本市にある松本民芸生活館などを取材して考えている。 【キーワード】 木製椅子、素材の色、曲木、成形合板、閉合、類同、連続	坂井　素思（放送大学教授）	坂井　素思（放送大学教授）
14	社会の中の「形」	椅子の「形」を対象に据えて、人間活動の中に見られる「形」の形成を見ていくことにする。椅子の「形」では、脚、座面、背、アームなどの要素が基本構造を形成し、さらに変形を発展させている。放送教材の中では、松本市の椅子制作工房などを訪ね、「人と事物との関係」から形の生成について考えている。 【キーワード】 機能主義、表現主義、ディドロ効果、バラスト効果、デパーチャー効果、ローリング効果	坂井　素思（放送大学教授）	坂井　素思（放送大学教授）
15	色と形とともに	日々の暮らしを通し、これまでの14回を、総括的に・総合的に・多角的に、さまざまな視点から振り返り、色と形の未来について考える。 【キーワード】 色、形、文化、社会、自然科学、人間学、心理学	二河　成男（放送大学教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授）	講師全員

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	導入科目	科目コード	1128310	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　経済学入門　　（’１３）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：西村　理　（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：　　〕

【本学担当専任教員：坂井　素思　（放送大学教授）】

講義概要

経済の基本は「分業」と「交換」です。分業は生産性を高めてくれます。しかし、生活の糧を得るために、いろいろな財・サービスと交換する必要があります。この交換する場が「市場」です。そこで、まず市場の機能や役割について説明します。ところが、市場が常に有効な働きをするとは限りません。これを市場の失敗と呼びますが、このような状況に陥ったとき、どのような解決策があるのか、また、政府の役割はなにかについて説明します。そして、新たに浮かび上がってきた環境問題や企業の社会的責任、さらには、「ゆたかな社会」を実現するために求められる要素について言及していきます。

授業の目標

経済学は数学のようにただ1つの正解しかない科目とは違います。たとえば、消費税率を何％にするかを決める場合、大きな政府を望むのか、あるいは、小さな政府を望むのかで税率が変わってきます。ただ、このような議論をするときに、経済学の「見方・考え方」について理解してもらうことを目標にします。

履修上の留意点

印刷教材と放送教材は相互に補完しています。そのため、放送教材を利用する際には、印刷教材で予習・復習して放送教材の内容を理解するようにしてください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	はじめに ～経済学とは？	“経済”の語源から話を始めて、アダム・スミス、ケインズ、そして現代の経済学までの系譜をたどりながら、どのようなテーマが主に論じられていたかを概観します。そして、「経済学入門」の全体像を簡単に解説します。 【キーワード】 経世済民、夜警国家、混合経済、ケインジアン、マネタリスト	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）
2	市場取引の働きについて	市場で売買取引する理由は、取引が買い手にも売り手にも満足をもたらすからです。この満足感を最大にするのは、競争取引での需要量と供給量が等しくなる市場均衡です。これについて、相対取引と対比させながら明らかにします。 【キーワード】 留保価格、余剰、市場均衡、競争取引、相対取引	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）
3	市場均衡への道	市場が売り切れや売れ残りの状態にあると、その不均衡を調整しようとする力が働きます。競売買や入札による価格調整と在庫や生産量による非価格調整です。この調整の違いが余剰にどのような影響を与えるかを説明します。 【キーワード】 模索過程、価格調整、オークション、入札、数量調整	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	非競争市場の功罪	取引者の人数が少なくなると、市場は非競争的になります。極端なケースが独占市場です。独占価格の設定が総余剰を減少させる社会的損失をもたらすことを明らかにします。これを回避する方法として、望ましい公共料金の価格設定を説明します。 【キーワード】 独占価格、社会的損失、差別価格、自然独占、公共料金	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）
5	不揃いの情報	売り手と買い手が同じ情報を共有していない状態で取引すると、逆選択が生じます。何らかの対応策を採らないと、市場取引が行なわれなくなります。これを回避する方法として、シグナリングやスクリーニングの役割について説明します。 【キーワード】 レモン市場、逆選択、モラル・ハザード、シグナリング、スクリーニング	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）
6	財・サービスもいろいろ	国防・外交などの国益に関わるモノは公共財で、民間レベルで供給されることはありません。また、民間の経済活動に伴って外部性を発生させるケースもあります。この場合には、過剰生産や過少生産になってしまいます。これらの現象について説明します。 【キーワード】 公共財、非排除性、非競合性、外部性、社会資本	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）
7	経済力の表わし方	一国の経済力を表わすGDPについて述べた後、GDPの支出面を構成する民間消費や民間投資に影響を与える諸要因について説明します。そして、財政政策や金融政策の効果について投資の利子非対称性などと絡めながら説明します。 【キーワード】 GDP、インフレ・デフレ、経済成長、投資の利子非対称性、投資の二面性	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）
8	金融のしくみ	企業の資金調達の方法について述べた後、金融仲介機関の役割といろいろなリスクについて説明します。さらに、国際金融市場での為替レートがどのように決定されるかについて考えていきます。 【キーワード】 リスク、直接金融、間接金融、企業のバランス・シート、為替相場	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）
9	財政のしくみ	政府の活動は税金を収入源として行政サービスを提供しますが、まず税金の内訳とその使い途について説明します。さらに、政府の赤字を公債発行でカバーする場合の経済的な意味についても言及します。 【キーワード】 公共政策、直接税、間接税、赤字公債、プライマリー・バランス	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	貿易大国から投資大国へ	日本の貿易構造は、かつて加工貿易を特徴としていました。しかし、日本経済が拡大すると同時に、世界がグローバル経済の方向に進展するに伴って、海外への直接投資による投資収益の割合が増えてきました。このような流れについて解説します。 【キーワード】 比較生産費、自由貿易、保護貿易、海外直接投資、国際収支	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）
11	日本型企業の特徴と行方	生産活動の場は企業です。そして、法人格が与えられた会社の花形が株式会社です。この会社のしくみを説明しながら、会社主義の日本型株式会社の特徴について説明した後、それが維持されにくくなってきた事情について考えていきます。 【キーワード】 労使協調、系列、企業集団、メイン・バンク、株式持ち合い	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）
12	雇用市場の変貌	かつて日本経済の強さの源泉といわれた日本型雇用は、高度成長と非競争的市場のマクロ環境を条件としていました。ところが、経済のグローバル化が進むと共に、日本の労働市場も流動化せざるを得なくなった理由を説明します。 【キーワード】 終身雇用、年功序列、人的資本投資、非正規社員、労働観	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）
13	企業の社会的責任	企業に企業市民としての経済活動が求められています。単なる利潤追求の組織ではなく、ステークホルダーとして企業に関連する人たちへの配慮です。そのためには、企業の統治能力が重要になってきます。そこで、企業のあるべき姿を考えていきます。 【キーワード】 企業の社会的責任、ステークホルダー、コーポレート・ガバナンス、企業コンプライアンス	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）
14	環境マネジメント	グローバル化に伴いヒト・モノ・カネが自由に移動します。それによって、地球規模での新たな問題が生じてきました。たとえば、地球温暖化や地域紛争による自然遺産や文化遺産の荒廃です。これらの問題への対処について述べます。 【キーワード】 社会的共通資本、ピグー税、排出権取引、ボーモル病、企業メセナ	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）
15	おわりに ～ゆたかな社会を求めて	ゆたかな社会は成熟した経済、倫理・道徳の普及、自然・文化環境の充実が欠かせません。過去に、先哲たちが目指したゆたかな社会創りに照らし合わせて、ゆたかさの条件と経済学の役割を考えていくことにします。 【キーワード】 定常状態、絶対的欲求、相対的欲求、ユートピア、3E	西村　理（放送大学客員教授）	西村　理（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	導入科目	科目コード	1128345	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会調査の基礎 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 The Basic Methods of Social Research (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：北川　由紀彦　（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：山北　輝裕　（日本大学准教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

社会調査に関する基本的事項（社会調査の目的、歴史、方法論、各種調査方法とその長所短所、調査倫理など）を学習する。
卒業研究や修士課程での修士論文作成のために、あるいは職務や市民活動などの中で社会調査を行おうとする学生に対し、問題関心や目的に沿った的確な方法で適切に調査を実施し、分析し、結果をまとめるための基本的な考え方を習得してもらうことを特に念頭に置いている。

授業の目標

社会調査に関する基本的事項（社会調査の目的、歴史、方法論、各種調査方法とその長所短所、調査倫理など）を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

社会調査の基本的な考え方や、各種の調査方法の長所・短所、留意点（どのような場合にどのような方法で調査を行うのが適切で、どのような限界があるのか）などについて、できるだけ幅広く解説します。量的調査の技法についてより深く学びたい場合は、「身近な統計（’12）」や「社会統計学入門（’12）」なども活用してください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会調査とは何か	社会調査は、「調べる」という営みのうちの一つであるが、「調べる」こと一般とはいくつかの点において区別される特別な営みである。この回では、社会調査という営みの固有の特徴を理解したうえで、社会調査の大まかな種類や、社会調査について学ぶことの意味について学習する。 【キーワード】 社会調査の定義、第一次資料／第二次資料、調査リテラシー	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）
2	社会調査の歴史	社会調査の歴史は、社会の多様で複雑な現実をとらえようとしてなされてきた試行錯誤と発展の歴史でもある。この回では、そうした試行錯誤の中から、いくつかの調査や試行を採り上げ、社会調査の発展のうえで果たした意味について学習する。 【キーワード】 社会問題、参与観察、エスノグラフィー、多変量解析	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）
3	研究と社会調査	社会調査は研究の一部をなすが、全てではない。この回では、研究という一連の営みの中で社会調査が占める位置、仮説の種類や、仮説を検証するということの意味などについて学習する。 【キーワード】 記述と説明、探索型調査と仮説検証型調査、理論仮説と作業仮説、独立変数と従属変数	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	社会調査の対象と方法	ひとくちに社会調査といっても、その方法は一つではないし、それによって集められるデータの性質も異なる。どのような方法を用いるのかは、調査の目的に応じて選択される。この回では、調査の方法について大きく量的調査、質的調査に区分した上で、それぞれの長所・短所などについて学習する。 【キーワード】 質的調査、量的調査	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）
5	既存の資料・データの収集と活用	自ら調査を企画・実施しようとする調査を有意義なものとするためには、既存の資料やデータを収集・読解することが非常に重要となる。この回では、既存資料の探索・収集の方法やその意味、社会調査のデータ・アーカイブの活用可能性などについて学習する。 【キーワード】 先行研究、既存資料、データ・アーカイブ	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）
6	質的調査(1) 質的調査の種類と考え方	質的調査の種類（フィールドワーク、参与観察、聞き取り調査等）を解説し、完成物としてのエスノグラフィーを紹介する。質的調査の基本的な考え方について解説する。 【キーワード】 質的調査、フィールドワーク、エスノグラフィー	山北　輝裕（日本大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授） 山北　輝裕（日本大学准教授） ゲスト：飯嶋秀治(九州大学大学院准教授)
7	質的調査（2） インタビュー調査	インタビュー調査の一連のプロセス（アポイントメント、インタビュー、テープおこし）、具体的な方法を解説する。またインタビュー実施中の注意点について解説する。 【キーワード】 インタビュー、ラポール、「調査する側／される側」	山北　輝裕（日本大学准教授）	山北　輝裕（日本大学准教授）
8	質的調査(3) フィールドワークの方法と倫理	フィールドワークによって得られたデータ（「語り」など）をフィールドノートに記す方法や、データの整理・分析の手がかりについて解説する。またフィールドワーク全体における調査倫理について考察する。 【キーワード】 フィールドノート、データ整理・分析、調査倫理	山北　輝裕（日本大学准教授）	山北　輝裕（日本大学准教授）
9	量的調査（1） 調査の手順	量的調査においては、実際の調査（実査）の前の段階で準備しておく事柄が相対的に多く、また、調査員を使って行うことにともなう注意事項も多い。この回では、量的調査について調査全体の手順と、それぞれの段階で考慮すべき事項等について学習する。 【キーワード】 調査員、インストラクション、調査員の手引き、現地本部	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	量的調査(2) 母集団と標本	社会調査において、全数調査を実施することが困難な場合には母集団からその「縮図」となるような標本を抽出して、その標本に対して調査が実施される。この回では、母集団から標本を抽出する際の各種の方法と留意点、母集団と標本との関係などについて学習する。 【キーワード】 母集団、標本抽出、有意抽出法、無作為抽出法、標本抽出台帳	北川 由紀彦(放送大学准教授)	北川 由紀彦(放送大学准教授)
11	量的調査(3) 調査票の作成	量的調査では調査票を用いて調査を行うが、限られた紙幅の中で必要な質問項目を網羅し、かつ、回答を的確に引き出すためには、さまざまな注意が必要になる。この回では、調査票の構成、質問項目の設定、質問文を作成する際の留意点について学習する。 【キーワード】 調査票、選択肢形式、自由回答形式、量的変数、質的変数、ダブルバーレル質問、ステレオタイプ、バイアス質問、キャリーオーバー効果	北川 由紀彦(放送大学准教授)	北川 由紀彦(放送大学准教授)
12	量的調査(4) 調査票の点検とデータ作成	量的調査を行なって回収された調査票は、そのままでは分析できない。回答内容を点検し、一定の規則に沿ってコードに置き換え、矛盾がなく分析に耐えるような行列データを作成する作業が必要になる。この回では、調査票を回収してから実際の分析にとりかかるまでの間に必要となる一連の作業の実際と注意点について学習する。 【キーワード】 エディティング、コーディング、クリーニング	北川 由紀彦(放送大学准教授)	北川 由紀彦(放送大学准教授)
13	量的調査(5) 変数間の関係を把握する	調査データの具体的な分析は、データの特徴を把握したうえで、具体的な変数間の関係についての検討という順番で進められる。この回では、変数の種類について確認した上で、データの基本的な特徴を把握する方法、特定の変数間の関係を把握するための方法、2変数間の関係についてより詳しく検討するための方法について学習する。 【キーワード】 離散変数、連続変数、統計量、擬似相関、エラボレーション、媒介関係	北川 由紀彦(放送大学准教授)	北川 由紀彦(放送大学准教授)
14	量的調査(6) 母集団を推測する	社会調査では、標本調査の結果得られたデータから母集団の特徴を推測することがよく行なわれる。この回では、記述統計と推測統計の違いを確認したうえで、統計的推定と統計的検定という2つの推測の方法について、基本的な考え方を学習する。 【キーワード】 記述統計、推測統計、統計的検定、帰無仮説、対立仮説、有意水準	北川 由紀彦(放送大学准教授)	北川 由紀彦(放送大学准教授)
15	社会調査と現代社会	社会調査は、現代社会に欠かせない営みであるが、一方では、そのあり方自体も問われている。この回では、社会調査の報告書の作成の仕方、社会調査における回収率の低下と調査拒否という問題とその背景、社会調査を行なう際に求められる調査倫理について学習する。 【キーワード】 調査報告書、調査拒否、調査倫理	北川 由紀彦(放送大学准教授)	北川 由紀彦(放送大学准教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	導入科目	科目コード	1128256	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　社会統計学入門　　（’１２）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：林　拓也　（奈良女子大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：森岡 清志　（放送大学教授）】

講義概要

現代社会において、それぞれの社会の実態や人々の行動・意識を明らかにすることを目的とした社会調査が数多く行われ、それに基づく分析結果がさまざまなメディアを通して提示されている。本講義では、社会調査に基づく分析結果を読みとるために必要となる統計学の基礎的な知識とともに、自分で分析を行おうと考えている履修者に対する分析の実践的側面も考慮した基本的・応用的な分析手法を扱う。具体的には、データの基礎集計、標本に基づく推測統計、2変数間の関連分析、そして重回帰分析を中心として多変量解析の一部について解説していく。講義の中では、実際のデータや分析例を紹介しつつ、必要に応じて統計量の計算手順も紹介していく。

授業の目標

履修者が、社会調査に基づく分析結果を読み取るために必要な基礎知識を習得すること、およびいくつかの分析技法を学習することを通して、自らがデータ分析を行うときに、どのような方法や手順ですすめていくかの指針を得ることを目標とする。

履修上の留意点

本講義は、社会調査により得られたデータの分析を扱うので、「社会調査の基礎（’15）」を学んでおくことが望ましい。また、講義の中では、実際のデータに基づいて計算を行うことも多いので、あらかじめ電卓（平方根√の計算ができるもの）を用意しておくこと。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会調査のデータと統計分析の考え方	社会調査に基づいて得られたデータを、統計分析にかけることによってどのようなことが明らかになるかについて、大まかなイメージをつかむ。また、本講義の構成と学習の指針について概説し、以降の各章の位置づけを確認する。 【キーワード】 社会調査、社会統計学、統計データ	林　拓也（奈良女子大学准教授）	林　拓也（奈良女子大学准教授）
2	データの基礎集計(1)	社会調査によって得られたデータは、それぞれを変数として分析に用いる。そこで、今回はまず、変数にはどのような性質があるのか学習する。それを踏まえ、それぞれの変数の分布状態を記述する方法を解説する。 【キーワード】 変数、度数分布表、グラフ、ヒストグラム	石田　光規（早稲田大学教授）	石田　光規（早稲田大学教授）
3	データの基礎集計(2)	度数分布を統計量を用いて記述する方法を学ぶ。まず、変数の分布の中心を表す代表値（最頻値、中央値、平均値）について学習し、次に、分布の散らばり具合を表す多様性指数、分散、標準偏差について学習する。最後に、分布における固有の観測値の位置を表すz得点について理解する。 【キーワード】 代表値、最頻値、中央値、平均値、多様性指数、分散、標準偏差、z得点	石田　光規（早稲田大学教授）	石田　光規（早稲田大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	標本に基づく推測統計(1):統計的推定	標本調査から得られるデータに基づいて、標本の抽出元である母集団の値の推定についての考え方を学ぶ。標本統計量の標本分布を紹介した後、その分布形が近似する理論的な確率分布（正規分布など）と、標本分布の標準誤差について解説する。 【キーワード】 母集団と標本、推定、標本分布、確率分布、標準誤差	林 拓也（奈良女子大学准教授）	林 拓也（奈良女子大学准教授）
5	標本に基づく推測統計(2):統計的検定	標本調査データに基づく仮説検定の考え方について学ぶ。帰無仮説と対立仮説、有意水準、両側検定と片側検定などについて解説しつつ、検定の手順を確認していく。 【キーワード】 検定、帰無仮説と対立仮説、有意水準、両側検定と片側検定	林 拓也（奈良女子大学准教授）	林 拓也（奈良女子大学准教授）
6	グループ間の平均の差の検定	標本調査データにおける2グループの間の平均値の差を検討する方法について学ぶ。まず、標準誤差が既知の場合および未知の場合の差の検定について学び、それから応用的手法について簡単に解説する。 【キーワード】 平均値の差の検定、t検定、比率の差の検定	石田 光規（早稲田大学教授）	石田 光規（早稲田大学教授）
7	離散変数間の関連(1):クロス集計表と独立性の検定	離散変数同士の関連を検討する際に用いられるクロス集計表の原理を理解するとともに、二つの離散変数の間の関連性の統計的検定や、その関連の強さを示す係数について学習する。 【キーワード】 クロス集計表、独立性の検定、クラマーのV係数	田辺 俊介（早稲田大学准教授）	田辺 俊介（早稲田大学准教授）
8	離散変数間の関連(2):変数の統制と多重クロス表	第3変数の値ごとにクロス集計表を作る多重クロス集計表の原理を知ることを通じて、変数を「統制」するという考え方を学ぶ。また第3変数を用いたクロス集計表のエラボレーションによって、疑似関係や媒介関係などを発見する方法を学習する。 【キーワード】 統制、エラボレーション、疑似相関、交互作用効果	田辺 俊介（早稲田大学准教授）	田辺 俊介（早稲田大学准教授）
9	連続変数間の関連(1):ピアソンの積率相関係数	二つの連続変数の間の関連の検討方法を学ぶ。関連性の形を確認するための散布図と、直線的関連の強さを示すピアソンの積率相関係数について、その原理と検定方法について学ぶ。 【キーワード】 散布図、線形関係、共分散、積率相関係数	田辺 俊介（早稲田大学准教授）	田辺 俊介（早稲田大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	連続変数間の関連(2):回帰分析の基礎	2つの連続変数を扱いつつ、一方の変数からもう一方の変数を予測する手法である回帰分析について、その考え方と基礎を学ぶ。またデータの事例を用いて、予測のための回帰直線、それを推定する原理（最小二乗法）、回帰係数の検定について解説する。 【キーワード】 回帰直線、回帰式、回帰係数と定数、最小二乗法	田辺　俊介（早稲田大学准教授）	田辺　俊介（早稲田大学准教授）
11	回帰分析の応用(1):ダミー変数、重回帰分析	社会調査データに多く含まれる離散変数を、回帰分析において扱う際に利用されるダミー変数について学ぶ。加えて、複数の独立変数を同時に扱う重回帰分析について解説する。 【キーワード】 ダミー変数、重回帰分析	林　拓也（奈良女子大学准教授）	林　拓也（奈良女子大学准教授）
12	回帰分析の応用(2):決定係数、分散分析とF検定	回帰分析における予測の精度を表す決定係数の考え方と、その検定方法としてのF検定について学ぶ。また、分散分析の応用の仕方について解説する。 【キーワード】 決定係数、F検定、分散分析、一般線形モデル	林　拓也（奈良女子大学准教授）	林　拓也（奈良女子大学准教授）
13	回帰分析の応用(3):回帰分析の留意点	独立変数の効果やモデルの有効性を比較するための、応用的な係数について学ぶ。また、回帰推定に際して、残差の分布や独立変数間の関連に注意を払う必要性について解説する。 【キーワード】 標準化回帰係数、自由度調整済み決定係数、残差分析、多重共線性	林　拓也（奈良女子大学准教授）	林　拓也（奈良女子大学准教授）
14	離散的な従属変数の回帰モデル:ロジスティック回帰分析	従属変数が離散変数である場合に用いるロジスティック回帰分析について学ぶ。線形的な回帰分析モデルとの違い、確率のロジット変換と係数の解釈、そして最尤法による推定と検定について解説する。 【キーワード】 ロジスティック回帰分析、オッズ、ロジット、最尤推定法	林　拓也（奈良女子大学准教授）	林　拓也（奈良女子大学准教授）
15	講義のまとめと発展学習	これまでの学習内容をまとめつつ、社会調査データに基づき、どのような手順で分析をすすめていくかについて検討を加える。また、さらなる発展的な学習にあたって、いくつかの多変量解析の手法を紹介する。 【キーワード】 計量社会学、多変量解析	林　拓也（奈良女子大学准教授）	林　拓也（奈良女子大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1730010	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会学入門 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 An Introduction to Sociology (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：森岡　清志　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

社会学の基本的考え方と基礎概念を分かりやすく説明し、それを踏まえて、家族、ジェンダー、社会階層、都市、ネットワーク、ライフコース、少子高齢化、情報化などのテーマを幅広く取り上げる。それぞれのテーマにアプローチする中で、社会学が獲得してきた成果を説明し、現代社会に対する理解を深めていく。

授業の目標

まずは、社会学の基本的考え方と基礎概念を正確に理解することである。次いで、基礎概念から派生した、より専門的な概念や用語を習得しながら、大きく変動する現代社会の動向と諸現象に対する関心を深め、それらを深く広く考察できるようになることである。

履修上の留意点

印刷教材を読み、放送教材を見た上で、参考文献などにあたってみることが求められる。関連科目として、「都市社会の社会学(’12)」「移動と定住の社会学(’16)」をあげておく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会学の考え方	社会学は社会科学の一分野であるが、他の分野と異なる独自のアプローチや説明の仕方を用意してきた。それを最も良く示しているのが社会学の基礎概念である。第1回は、講義のイントロダクションとして、この基礎概念を分かりやすく説明する。 【キーワード】 社会化、社会規範、社会的地位、社会的役割、役割期待、重要な他者	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
2	家族の構成と機能	家族は重要な社会集団の一つとしてどのような特色を持つのか、また家族構成によってどのように分類されるのか、家族の機能はどのように変化してきたのか、これらの諸点について説明し、家族の多様化に関する理解を深めてゆく。 【キーワード】 世帯、夫婦家族、直系家族、「家」、家族周期、核家族化	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
3	日本の家族の変容と親族関係	産業化の進展とともに日本の伝統的家族形態、すなわち「家」が大きく衰退し、核家族化が進行した。この過程の中で、日本の親族関係も、同族と親戚の2つの関係を含むものから、個人を中心として拡がる親戚のつながりに単一化してきた。そのことの意味を考察する。 【キーワード】 同族、親類・親戚、核家族孤立仮説、修正拡大家族、父方夫方傾斜、妻方傾斜	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ライフコースの発想	1980年代後半に入ると、家族周期論が前提とした標準的コースを歩む家族の割合が、日本でも低下してきた。これに伴い、周期段階やライフステージを設定することの有効性も大幅に低下し、かわってライフコース論が台頭してきた。ライフコース論に独自の視点や方法、成果などについて説明する。 【キーワード】 ライフコース、キャリア、役割移行、ライフサイクル、ライフステージ、出生コーホート	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
5	ジェンダーとは何か	ジェンダーは、狭義には社会的文化的性差を意味するが、その形成にかかわる社会通念・意識、さらに広い意味での知識をも含めた意味において用いられている。性別役割規範とともに、男らしさ規範、女らしさ規範を考察することを通して、日常的現象としてのジェンダーに焦点を当てる。 【キーワード】 ジェンダー、ジェンダー・アイデンティティ、性別役割規範、男らしさ規範、女らしさ規範	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
6	逸脱とみなすこと・みなされること	逸脱は、社会的規範や期待に何らかの形で背いているとみなされる行為である。一定の社会の大多数の成員が背いているとみなす時に逸脱という行為が出現するのであるから、逸脱であるかないかは、社会によって異なると考えられる。かつては逸脱とみなされた行為が、現在ではそうはみなされないこともある。このような逸脱の多様な側面について説明する。 【キーワード】 逸脱、社会規範、同調、制裁、予言の自己成就、ラベリング	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
7	社会階層と格差	現代社会の階層は、教育達成度（学歴）、職業（職種）、所得の組み合わせからなる相対的区分として設定される。職業を中心に、この三者がどのように関連しているのか、また近年の所得格差の拡大に伴う社会的不平等の問題にどのようにアプローチするのか、これらについて考察を深める。 【キーワード】 職業威信、社会移動、世代間移動、職業的地位の達成過程、所得格差	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
8	都市と都市的生活様式	社会学では、都市と村落という2つのタイプの居住地を理念的に設定し、それぞれの居住地の特質を前提に都市社会、村落社会が成立すると考えている。では、都市は、村落と対比して、どのような特質を持つ居住地であるのか、またそこでは、どのような共同生活が営まれているのか、これらについて説明してゆく。 【キーワード】 結節機関、共同問題の共同処理、都市的生活様式、都市化、処理システム	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
9	都市空間の構造	都市空間構造に関する社会学の関心は、都市という居住地のどのような場にどのような人びとが居住しているのか、すなわち居住分化のメカニズムを明らかにすることに置かれてきた。ゾーン理論、セクター理論、社会地区分析などを紹介しながら、研究の成果を説明する。 【キーワード】 居住分化、ゾーン（同心円地帯）理論、セクター（扇状地帯）理論、文化生態学、社会地区分析	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	都市社会のパーソナル・ネットワーク	都市化の進展に伴う「第一次的関係の衰退、第二次的関係の優位」という仮説は、長い間、議論の対象となってきたが、近年では、「都市化とパーソナル・ネットワーク」という新しい研究課題として再構築され、さまざまな成果をあげている。都市居住が親しい他者とのつながりにどのように影響するのか、この点を議論する。 【キーワード】 第一次的関係、ワース流アーバニズム論、社会構造派アーバニズム論、下位文化理論、コミュニティ解放論、都市度	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
11	少子高齢化の現状と諸課題	現代日本社会では、少子高齢化が進行している。少子化、高齢化は、発生原因は異なるものの、密接に関連しながら進行する。日本は、少子化が急速に進行していることにより、すでに超高齢社会、人口減少社会に突入している。ここでは、少子高齢化が進行する背景とその影響、将来予測および問題点について説明する。 【キーワード】 少子化、高齢化、少子高齢社会、未婚化・晩婚化、結婚規範、家族規範、「家」規範、合計特殊出生率、高齢者の子どもとの同居率、非正規雇用者	安河内　恵子（九州工業大学大学院教授）	安河内　恵子（九州工業大学大学院教授）
12	世界人口の高齢化と日本	アジア諸国・地域で起こっている急速な経済発展が世界の注目を集めている。この現象を、人口構成上の変化という視点で捉え説明しようとする考え方が、提唱されている。その考え方、および、将来生じると予想される問題点について説明する。 【キーワード】 人口ボーナス、人口オーナス、人口構成、経済成長、年齢3区分人口、従属人口、少子高齢化、政府債務残高、東京一極集中、人口の再生産、消滅可能性都市	安河内　恵子（九州工業大学大学院教授）	安河内　恵子（九州工業大学大学院教授）
13	情報化とグローバル化	情報化の進展は、コミュニケーション方法の変化など、社会生活のあり方や、働き方を大きく変えた。また、グローバル化の進展ともあいまって、世界の国々のつながり方をも大きく変化させてきた。本章では、情報化・グローバル化の進展によって、どのような変化が生じているかを考える。 【キーワード】 情報化、グローバル化、情報社会、世界の工場、新興国の台頭、中国の経済発展、アウトソーシング、オフショアリング（オフショア）	安河内　恵子（九州工業大学大学院教授）	安河内　恵子（九州工業大学大学院教授）
14	統計的調査の特質	社会学は実証科学の一つであり、社会調査による仮説の検証を通して理論と実証を結びつけている。社会調査は、統計的調査（量的調査）と記述的調査（質的調査）に大きく分けられる。ここでは、統計的調査の代表として標本調査を採り上げ、この調査によってどのようなことが分かるのか、この点を中心に説明する。 【キーワード】 標本調査、サンプリング、仮説、統計的検定	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
15	事例調査の特質	記述的調査（質的調査）はさまざまな調査法を含むが、その代表が事例調査である。事例調査は、母集団が明確でない対象である時、問題点や全体の関連を捉えることを第一の目標とするような時に、威力を発揮する調査法である。事例調査の方法と特質について説明する。 【キーワード】 第一次資料、聴き取り調査、参与観察、ドキュメント法、生活史法	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	導入科目	科目コード	1128264	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 市民社会と法 （’１２）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：道幸　哲也　（北海道大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：加藤　智章　（北海道大学教授）〕

【本学担当専任教員：來生　新　（放送大学副学長）】

講義概要

市民社会において発生する日常的な法律問題を、法哲学、刑事法、民事法、労働法、社会保障法の観点から検討します。具体的には5人の講師が1人3章ずつ担当しています。3章のうち、1章はある領域の全体的状況の説明を、あと2章は、一般の人が興味をもつテーマにつき法的な考え方がわかる個別的な論点を検討しています。

授業の目標

本講義は、初学者むけの法学入門です。その主要な目的は、①法学の基礎知識を教える、ことと②具体的なケースや問題を通じて法的なものの考え方を伝える、ことにあります。
市民生活において発生する身近な紛争をどうやって解決するか、紛争の背景にある利害状況はどうなっているか、また解決の基準はなにかを考えます。

履修上の留意点

テキストをあらかじめ読み、関連する条文を調べておいてください。理解が深まります。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	法的な世界の成り立ち	特に18世紀以降近代法が成立して以来21世紀の現在に至るまで続いて来た法の発展と変容の歴史を辿りながら、今日の私たちを取り巻いている法的な世界の成り立ちと基本的な性格をまとめ、これから学んでゆく法的な世界の基本的な有り様について考えます。 【キーワード】 法の網の目、法の支配、法と法律	長谷川　晃（北海道大学教授）	長谷川　晃（北海道大学教授）
2	法と権利保障	そのように成立してきた近現代の法的な世界の基軸となっているのが市民の権利保障であることに焦点を当て、特に憲法を中心とした権利保障の一般的な意義や様々な生活領域における個別具体的な法律を通じた権利保障のあり方について概観し、権利保障をめぐる法的な世界と私たちの生活との関係を考えます。 【キーワード】 権利=法、権利保障、法文化	長谷川　晃（北海道大学教授）	長谷川　晃（北海道大学教授）
3	諸法の相互関係と法の解釈	政治・経済・社会関係の全般に亘る私たちの生活の複雑化に対応して様々に専門分化している現代法の全体を一瞥しながら、それを特に市民の視点からどのように総合的に展望し、各自の身近な生活の中に生かしてゆくべきかを考えます。 【キーワード】 法体系、法理念、法解釈	長谷川　晃（北海道大学教授）	長谷川　晃（北海道大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	「刑法」のある風景 －刑法の役割－	成熟した近代社会では、社会で起きる様々な「紛争」について、解決のためのルールが前もって定められている。ルールの違反者には、法的制裁（サンクション）が課せられる。そのうち最も強力なのが刑罰であり、その要件と効果（刑罰）を定める法律が「刑法」であるが、犯罪成立要件は明確に定められていなければならない（罪刑法定主義）。これら刑法に固有の基本的な原則を、判例の事例などをとおして学習する。 【キーワード】 犯罪、刑罰、サンクション、法益、罪刑法定主義、類推解釈の禁止、遡及処罰の禁止、刑事手続	白取　祐司（神奈川大学教授）	白取　祐司（神奈川大学教授）
5	正当防衛と緊急避難	刑法の犯罪構成要件にあたる行為をした場合でも、それが緊急やむを得ないと認められるときは、刑法上「違法性」がないとされ、無罪になる。違法論は、何が犯罪かという本質にかかわる議論である。また、緊急避難は、緊急やむを得ない場合の行為について、違法性を否定する理論である。いずれも、違法性が否定される代表的な事由であり、この2つを具体的事例をとおして学習する。 【キーワード】 違法性阻却事由、正当防衛、防衛の意思、偶然防衛、挑発防衛、原因において違法な行為、緊急避難、カルネアデスの板	白取　祐司（神奈川大学教授）	白取　祐司（神奈川大学教授）
6	「情報」を盗むことの刑法的意味	刑罰を科すのは、たんにルールに違反したからというより、刑法（法律）が守ろうとしている利益（法益）を侵害したからである。この法益は、時代によって変遷する。明治時代につくられた現行刑法では、「情報窃盗」を有罪にできない。法益保護を理由に解釈あるいは立法でこれを処罰すべきか。慎重な検討が必要になる。 【キーワード】 情報、秘密、営業秘密、電磁的記録、窃盗、使用窃盗、企業秘密漏示罪、不正アクセス罪	白取　祐司（神奈川大学教授）	白取　祐司（神奈川大学教授）
7	私たちの生活と民法	民法は、私たちの法律関係を規律するもっともは基本的な法律です。この民法の体系と概要、民法典の沿革、民法の基本原則、私権行使の原則を説明します。 【キーワード】 公法と私法、一般法、特別法、任意規定、強行規定、所有権絶対の原則、私的自治の原則、契約自由の原則、過失責任の原則、一般条項、信義則、権利濫用	松久　三四彦（北海学園大学法科大学院教授）	松久　三四彦（北海学園大学法科大学院教授）
8	売買をめぐる法律関係	私たちの日常生活においてもっとも頻繁におこなわれもっとも重要な役割をはたしている売買契約について、その基本的な仕組みと、生じやすい典型的な問題を説明します。 【キーワード】 手付、動産、不動産、即時取得、登記、対抗要件、対抗問題、数量指示売買、隠れた物の瑕疵、瑕疵担保責任	松久　三四彦（北海学園大学法科大学院教授）	松久　三四彦（北海学園大学法科大学院教授）
9	損害賠償義務 －不法行為法の基本的な仕組み－	一般の不法行為の要件・効果を説明し、どのような場合に損害賠償義務が発生し、その賠償額はどのように算定されるかを理解していただきます。 【キーワード】 故意、過失、権利侵害、違法性、因果関係、過失相殺	松久　三四彦（北海学園大学法科大学院教授）	松久　三四彦（北海学園大学法科大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	労働条件はどのように決まっているか	非正規労働者やワーキングプア層の増大がどのような労働法上の問題を提起しているかとともに労働条件の決定の仕組みとして、労働契約、就業規則、労働協約との相互関係を検討する。特に、就業規則の法的効力について詳しく検討する。 【キーワード】 生存権、団結権、労働契約、労働協約、就業規則、労働基準法、労働契約法	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）
11	新しい職場の人権 －労働者人格権とプライヴァシー権－	最近急増する、セクハラ・パワハラをめぐる裁判を素材にそれを制約する法理としての労働者人格権の内容を解説する。同時に、このようなハラスメントをしない、させない工夫や法的な解決の限界等についても考える。 【キーワード】 労働者人格権、プライヴァシー、セクハラ、パワハラ、職場いじめ、自己決定権、身体情報	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）
12	雇用終了をめぐる法律問題	雇用終了のパターンとして、使用者の意思による解雇、労使双方の合意による合意解約、労働者の意思による辞職があり、それらの違いについ解説する。さらに、雇用期間満了に伴う更新拒否のケースについてもふれる。 【キーワード】 解雇、合意解約、辞職、退職強要、労働契約法、整理解雇、有期雇用、試用期間	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）
13	社会保障のグランドデッサン	社会保障制度の全体像を理解するために、社会保障制度審議会勧告に基づく枠組、その後の歴史的な経緯の紹介に併せて、少子高齢化の進行、国民医療費の動向、消えた年金記録問題、貧困率などを取り上げる。 【キーワード】 社会保険から社会保障へ、50年勧告、皆年金皆保険、世帯単位・個人単位、95年勧告	加藤　智章（北海道大学教授）	加藤　智章（北海道大学教授）
14	医療保障のあり方 －保険診療をめぐる当事者関係を中心に－	被保険者証を提出する意義を出発点として、保険診療をめぐる当事者関係を中心とした医療保険制度の検討する。これにくわえて、公費負担医療や生活保護法における医療扶助を概観し、医療需要の側面から、医療保障のあり方を検討する。 【キーワード】 療養の給付に要する費用、第三者支払方式、償還払い方式、代理受領方式、公費負担医療	加藤　智章（北海道大学教授）	加藤　智章（北海道大学教授）
15	業務上外の認定と障害者福祉	業務災害か否かは、給付の内容が大きく異なるうえに、労働法にも関連するひろがりのある問題である。特に、近年その重要性を増していると思われるメンタル不調について考察する。次に、障害者福祉という視点から、何らかの事故や疾病等により、障害を負うに至った場合、特に社会福祉の領域ではいかなる施策が実施されているかを検討する。 【キーワード】 業務災害、非災害性疾病、ストレス-脆弱性理論、自立支援給付、雇用義務制度、障害者雇用納付金	加藤　智章（北海道大学教授）	加藤　智章（北海道大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	導入科目	科目コード	1128329	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　事例から学ぶ日本国憲法　　（’１３）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：岡田　信弘　（北海学園大学大学院教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　　〕

【本学担当専任教員：來生　新　（放送大学副学長）　】

講義概要

我が国の最高法規である日本国憲法の基本構造、全体像および具体像について、理論的な観点だけでなく、具体的な事例や設問にそくして検討する。たとえば、日本国憲法が第8章で定める「地方自治」については、「地方分権の一環として、広域行政に対応すべく『道州制』が主張されることがあるが、都道府県を統併合して道州にすることに憲法上問題はないか」といった設問を立てて、この設問に対する解答を導き出すために必要な知識や議論を検討する形で講義を進める。ともすれば遠い存在と受けとめられがちな日本国憲法を身近なところで理解することを試みたい。

授業の目標

日本国憲法の基本構造、全体像および具体像に関する基礎的な理解が望まれるとともに、本授業の学習を通して「法的なものの考え方」とその表現の仕方の習得も目標となる。

履修上の留意点

「市民生活と裁判」「民法」「行政法」「市民社会と法」「国際法」「現代日本の政治」も履修するとよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「憲法」とは何か	日本国憲法もその系譜に連なる近代立憲主義の基本原理として、どのようなものがあり、それが日本国憲法のなかにどのように組み込まれているのかについて検討する。 【キーワード】 立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源、権力分立	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）
2	象徴天皇制と平和主義	日本国憲法が定めている天皇制と平和主義の法的内容について検討する。具体的には、天皇の地位および権限、平和的生存権、戦争放棄などについて考察するが、その際、歴史的観点と国際的観点を視野に入れることによってより深い理解を試みる。 【キーワード】 国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権、戦争放棄	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）
3	選挙制度と政党	国民・市民と国の政治をつなぐ選挙制度や政党制度にはどのようなタイプが存在し、日本国憲法の下でそれらがどのように具体化されているのかについて検討する。具体的には、選挙制度の分類、現行の選挙制度、政党の憲法上の地位などについて考察する。 【キーワード】 多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家、党籍変更議員の失職制度	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	国会	「国権の最高機関」であると同時に「唯一の立法機関」でもある国会について、その地位・組織・権限を検討するとともに、議員の地位や立法過程などについても考察する。 【キーワード】 国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制、ねじれ国会	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）
5	内閣	政府形態に関する類型論を踏まえて、日本国憲法が採用している議院内閣制のありようについて検討する。具体的には、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて考察し、議院内閣制の運用や実態に関する理解も試みる。 【キーワード】 議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣、衆議院の解散	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）
6	裁判所	日本の裁判所システム、すなわち裁判所の組織と権限、裁判員制度などについて検討するとともに、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実態について考察する。 【キーワード】 警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所、裁判員裁判	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）
7	地方自治	地方自治の本旨を基礎にした、日本国憲法における地方自治のあり方について検討する。具体的には、地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて考察する。 【キーワード】 地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例、住民投票条例	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）
8	人権の観念	日本国憲法における人権保障のありようを理解する前提として、そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて検討する。具体的には、人権の歴史、人権の体系、人権の享有主体などについて考察する。 【キーワード】 1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権、未成年者の人権	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）
9	人権の適用範囲と分類	憲法で保障されている人権は、どのような法的関係に適用されるのか、またその制限が認められるのは、いかなる根拠によっていかなる場合なのかについて検討する。 【キーワード】 私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動、人権の分類	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）
10	幸福追求権と法の下の平等	幸福追求権と平等権の法的含意や具体的な保障内容について検討する。最も裁判例の多い分野でもあり、具体的な事例にそくして保障の実態についても考察する。 【キーワード】 幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権、合理的区別	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	精神的自由権(1) －内心の自由	精神的自由権の中の、いわゆる内心の自由に関わる諸自由について検討する。具体的には、思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などについて考察する。 【キーワード】 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由、大学の自治	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）
12	精神的自由権(2) －表現の自由	心の中での精神活動の成果を外部に表現することに関わる精神的自由権、具体的には表現の自由、集会・結社の自由などについて検討する。 【キーワード】 集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止、名誉毀損	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）
13	経済的自由権	福祉国家的理念を採用している日本国憲法の下で、経済活動に関わる様々な自由がどのように保障され、逆に制限されているのかについて検討する。具体的には、職業選択の自由と財産権の保障について考察する。 【キーワード】 職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障、正当な補償	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）
14	社会権	福祉国家理念を基礎にした20世紀的人権としての社会権が、日本国憲法においてどのように保障されているのかについて検討する。具体的には、生存権と教育を受ける権利について考察する。 【キーワード】 生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件、環境権	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）
15	参政権と国務請求権	国民・市民が、国家機能の一翼を担うことになる参政権と国家機能の発動を請求する国務請求権について検討する。具体的には、選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利などについて考察する。 【キーワード】 選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理、国務請求権	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）	岡田　信弘（北海学園大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1730029	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 政治学へのいざない （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 An Invitation to the Studies of Politics (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：御厨　貴　（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：山岡　龍一　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

3人の専門の異なる政治学者が、政治の世界について、これまでとは異なった角度からアプローチし、1回読み切りの講義を行なう。それぞれの専門領域の裏側に担保されている筈の政治学の要素を構成し直し、新たに展開する。

授業の目標

入門講義の体裁をとりながら、広くかつ深く政治学を味わうことができる。政治学という学問が本来もっている楽しさを充分に理解してもらえるよう工夫したい。

履修上の留意点

思わぬことがらが政治学になりうるという事に発見の喜びを感じて欲しい。政治学とはと固く考えているとおいてけぼりになってしまう。政治学と一緒に遊ぶ精神の柔軟性が必要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	東は東、西は西	近代をどうとらえるか。「西洋暦」と「元号」のせめぎあいに始まる。そしてキップリングの「東は東、西は西」に及ぶ。果たしてキップリングは帝国主義者だったのか。キップリングの読み直しが重要だ。	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）
2	明治　世紀末の東京	十九世紀末の東京人3人をとりあげる。まずは幸田露伴の『一国の首都』をどう読むか。星亨の市政掌握と田口卯吉の反対論の意味を問う。東京の世紀末の原風景は、どうして汚職とテロになってしまったのか。	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）
3	昭和　束の間の充実の東京	関東大震災は東京の何を破壊したのか。この破壊を「天罰」とみるか「社会革命」へとみるか。震災後、東京は私鉄と共に西方拡大する。そして「大東京」が実現し、束の間の「山の手文化」が開花する。	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	セルフメイド・マンが行く	デモクラシーならぬセルフメイドクラシーを表象した笹川良一、そして石原廣一郎。彼らの「獄中日記」を読み解きながら、「巣鴨プリズン」における人間の究極の姿を描き出す。そして問う、セルフメイド・マンとは何か。	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）
5	「赤頭巾」と「狼」のラビリンス	戦後の一時期に徒花の如く咲いた、都会的センスに満ちた庄司薫の世界を、『赤頭巾ちゃん気をつけて』と『狼なんかこわくない』が相俟ってくり広げるラビリンスの構想から読み解き、今に至る意味を考える。	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）
6	都市空間と政治	1960年代の日本は、急速に進む経済成長と都市化によって、社会が大きく変容する時代だった。現在の情報化社会にまでつらなってゆく、そうした変化と政治意識とのかかわりを考察するとともに、「政治」の古典的な概念の基盤となった、市民による自治都市のイメージとの対比を試みる。	苅部　直（東京大学教授）	苅部　直（東京大学教授）
7	オオヤケから「公共」へ	政治の空間を考えることは、「公共」の領域とは何かという問題と密接に関連する。ここでは、日本的な「オオヤケ」のイメージと西洋思想のpublicの概念との違いをまず検討する。そして、儒学の「公」概念を基盤に「公共」の政治のあり方を考えた横井小楠の思想を概観し、それが議会制度の受容につながったことの意味を考える。	苅部　直（東京大学教授）	苅部　直（東京大学教授）
8	福澤諭吉と「文明の政治」	「政治」に関連するさまざまな問題は、NPOや企業などの小集団の内でも起こりうる。そうした「小政治」と国家の「大政治」との関わりについて、伝統的な日本文化と西洋の政治思想のあいだには大きなちがいがあった。その断層をのりこえようとした福澤諭吉の、「文明の政治」と「自由」への問いを検証する。	苅部　直（東京大学教授）	苅部　直（東京大学教授）
9	「日本」の政治学	「自由」の気風を欠き、「権力の偏重」によって色づけられた、伝統的な日本の政治文化は、二十世紀に至り新たな形で問題化されることになった。その動きを主導した丸山眞男の思想的な営みを再検討し、「日本」の政治学と「二十世紀」の政治学との関わりを考える。	苅部　直（東京大学教授）	苅部　直（東京大学教授）
10	政治的リアリズムとは何か	政治が現実との交渉の営みである以上、そこには利害の計算や相手を説得するための演技がつきまとう。政治における「偽善」の問題をめぐって、福田恆存と丸山眞男とが1960年代に闘わせた論争をふりかえりながら、政治的判断に必要なリアリズムとは何か、市民は政治といかにつきあってゆくべきかについて検討する。	苅部　直（東京大学教授）	苅部　直（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	西洋政治思想と政治Ⅰ －善き生の追求	西洋における「政治的なるもの」をめぐる哲学的考察を、古代ギリシアからイタリアルネサンスまで概観する。主としてとりあげる思想家は、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、マキアヴェッリである。ソクラテスの中心的な問いを「善く生きるとは何か」としながら、この問いの継承と変容として、西洋政治思想の伝統をまとめ、いくつかの基本的な考え方を明確化する。	山岡　龍一（放送大学教授）	山岡　龍一（放送大学教授）
12	西洋政治思想と政治Ⅱ －近代国家の思想	西洋における「政治的なるもの」をめぐる哲学的考察を、イタリアルネサンスから近代ドイツまで概観する。主としてとりあげる思想家は、マキアヴェッリ、ホッブズ、ロック、ルソー、ヘーゲルである。前章での問いを引き継ぎつつ、政治的空間としての近代国家をめぐる思想を、その性質と正当性について、特に個人の自由と国家の関係に留意しながら検討する。	山岡　龍一（放送大学教授）	山岡　龍一（放送大学教授）
13	制度と政治	古代の国制論と、混合政体論を概観する。混合政体論の近代への影響を考察することで、政治と制度をめぐる思想、特に権力分立の制度の思想がどのようにして形成されたかを確認する。主としてとりあげる思想家は、プラトン、アリストテレス、ポリュビオス、マキアヴェッリ、ハリントン、モンテスキュー、バジョットである。大統領制と議院内閣制の簡単な比較的理解をするとともに、西洋において自由の政治と制度の関係性がいかに重要であったかを検討する。	山岡　龍一（放送大学教授）	山岡　龍一（放送大学教授）
14	党派と政治	党派をめぐる政治思想の多様な現れを検討する。基本的に党派による政治は、病理的なものと理解されていたことを確認しながら、党派による政治を肯定的にとらえる考え方がどのようにして形成されてきたかを検討する。主としてとりあげる思想家は、プラトン、アリストテレス、ホッブズ、ルソー、キケロ、マキアヴェッリ、ハリントン、ヒューム、ボリングブルック、バーク、マディソンである。自由な政治の探求が、党派の理解にどのような多様性を生んでいるのかを理解することで、政党や圧力団体といった現代政治における党派の理解を深める。	山岡　龍一（放送大学教授）	山岡　龍一（放送大学教授）
15	民主主義と正義	政治的規範としての民主主義を再検討する。民主制の基本的考え方を確認したうえで、代表民主制に結実した近代民主主義に対する正当化と批判の両方の理解を目指す。特に、多数の暴政として知られる問題に対するさまざまな対応について、自由や正義をめぐる議論を中心に検討する。主としてとりあげられる思想家は、ベンサム、トクヴィル、J,S,ミル、ロールズである。最終的には、民主主義と立憲主義のあいだにある根本的な緊張関係の把握を通じた、現代政治への反省的考察の知的準備を整える。	山岡　龍一（放送大学教授）	山岡　龍一（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234250	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ グローバル化と私たちの社会 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Globalisation and Our Society (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：原田 順子 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：北川 由紀彦 （放送大学准教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバリゼーションという現象は、日本だけでなく世界全体に大きな影響を及ぼし始めている。日本一国だけグローバリゼーションに規制を課すことは不可能な状況であるので、グローバリゼーションに対してどのように対処すべきか考えなければならない時が来ている。グローバリゼーションは経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。そこで、手始めに、社会と産業コースに所属する教員全員でこの問題を議論する科目を開設する。

授業の目標

グローバリゼーション(グローバル化)という現象が、広い視野に立って考えなければならない現象であるということを理解する。また、そのために、基礎的な学習の段階から、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、隣接する分野にも関心を持ち、学習の幅を広げる。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	グローバル化とは何か ～学融合の試み～	全体を通じて学習する対象について受講生が全体的なイメージを共有できるように試みる。まず、「グローバル化」と私たちの「社会」「産業」をどう捉えるのか、また、それらに焦点を当てる意義について説明する。さらに、グローバル化と経済世界の動きに関する光と影を考える。 【キーワード】 グローバル化、国民国家、多国籍企業、ワシントン・コンセンサス、新自由主義	坂井 素思（放送大学教授） 原田 順子（放送大学教授）	髙木 保興（東京大学名誉教授） 高橋 和夫（放送大学教授） 原田 順子（放送大学教授） 齋藤 正章（放送大学准教授） 北川 由紀彦（放送大学准教授）
2	都市社会の構造的分化	グローバル化とともに、日本の都市社会は、どのような構造的分化を示すのだろうか。構造的分化を、垂直方向の分化、つまり格差の拡大を導く分化と、水平方向の分化、つまり異質性の増大をもたらす分化の2つの分化に区分する時、この2つの分化はどのように絡まり合いながら進展してゆくのだろうか。これらの点について、分かりやすく解説する。 【キーワード】 格差の拡大、異質性の増大、垂直的分化、水平的分化、垂直軸への転回	森岡 清志（放送大学教授）	森岡 清志（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	グローバル化と都市の変容	グローバル化が都市に与える影響について、都市間競争と開発をめぐる問題に注目しながら論じる。後半では、ローカルな都市においてグローバルな諸主体の活動が展開されていることの具体的な事例として、2005年の愛知万博の計画・実施過程に関する研究を紹介する。 【キーワード】 世界都市、都市間競争、開発イデオロギー	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）
4	グローバル化する企業活動	経済活動のグローバル化という世界的な潮流のなか、日本企業のグローバル化も進展してきた。海外直接投資、サプライチェーンの構築等、世界経済の相互依存は深化している。こうした背景と併せて、多国籍企業、その組織類型、日系多国籍企業の人材面の課題等を紹介・解説する。 【キーワード】 海外直接投資、サプライチェーン、トランスナショナル経営、グローバル人材	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）
5	会計基準のグローバル化	企業経営が国際化すると、進出した国のルールに従わなくてはならない。会計基準もそのルールの1つである。しかし、会計基準が他のルールと異なるのは企業業績や財政状態を測定するという点にある。比較可能性や透明性を担保するために1組の高品質な会計基準、すなわち、国際会計基準が必要となる。本講義では、その設定プロセスと各国における適用状況について解説する。 【キーワード】 国際会計基準、国際財務報告基準（IFRS）、国際会計基準審議会（IASB）、米国財務会計基準審議会（FASB）、企業会計基準委員会、コンバージェンス、エンドースメント	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
6	グローバリゼーションが農業に及ぼす影響	農業保護の問題は、TPPの賛否を巡り世論が二分されるほど関心を集めている。グローバル化した今日、生物多様性に富み生活の場を提供する水田農業をどう再生するのか。また、果樹・蔬菜等競争力を持つ分野をどう成長させるか。農業再生を巡る議論を整理し、私たちの求める農業像を探る。 【キーワード】 貿易自由化、農産物の国際競争力、TPP、国益と富国	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
7	グローバリゼーションが環境に及ぼす影響	かって環境問題は地域の問題であった。しかし、現代は地球温暖化に伴う気候変動、生物多様性の減少など、環境問題そのものがグローバル化した。また、経済のグローバル化は、他の地域の環境問題が別の地域に大きな影響を及ぼすようになった。エコロジカルフットプリント、バーチャルウォータなど、様々な指標からグローバリゼーションが環境に及ぼす影響を考える。 【キーワード】 気候変動、生物多様性、エコロジカルフットプリント、バーチャルウォータ、バラスト水	岡田　光正（放送大学教授）	岡田　光正（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	環境共生建築の実現に向けて ーグローバル化の光と影ー	建築は、もともと地域の気候・風土に根ざしたものであり、同時に地域文化の形成を担ってきた。今日の地球環境時代において、地域性と歴史性は重要なキーワードであろう。しかし、建築材料の生産、輸送をはじめとして、国際建築様式、設計・計画手法、ライフスタイル等グローバル化の波が押し寄せている。環境負荷の小さい快適で健康的な環境共生建築を実現する上でのグローバル化の光と影を考える。 【キーワード】 地球環境、環境共生建築、バナキュラー建築、国際建築様式、気候・風土、グローカル、IT技術、地産地消、ライフスタイル	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）
9	グローバリゼーションが経済法に及ぼす影響	経済の国際化が国内の競争環境にどのような変化を生じさせ、どのような法制度の変化や企業行動の変化を生じさせたのかを、日本の戦後の経済変化との関係で歴史的に検討する。1960年代の貿易自由化、資本自由化と高度成長期の競争環境、オイルショックを経て安定成長から低成長期、20世紀後半の競争環境の変化、高齢化社会に突入した21世紀の競争環境の変化と経済の国際化の関係を見る。 【キーワード】 貿易自由化、資本自由化、産業政策、GATT、WTO、貿易摩擦、規制緩和、ビッグバン、高齢化社会	來生　新（放送大学副学長）	來生　新（放送大学副学長）
10	グローバリゼーションと労働問題 ～外国人労働者をめぐる法律問題～	経済のグローバリゼーションにともなう大量の労働移動により多様な法的な紛争が発生している。わが国では、外国人労働者の受け入れにより、出入国管理政策が変化するとともに、研修・雇用・社会保障をめぐり裁判が提起され、一定の法理が形成されている。それらを素材にどうしたら円滑かつ友好的に外国人労働者を受け入れることができるかを考える。 【キーワード】 労働移動、出入国管理政策、外国人労働者	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）
11	グローバル経済化と日本の衰退	グローバル経済が進展する中で、日本経済の停滞が同時に存在している。この中で、製造業衰退論、人口減少衰退論をはじめとする日本衰退論が台頭してきている。日本における「衰退」は存在するのか、「衰退現象」とは何なのか、これらが「グローバル経済化」とどのような関係にあるのか、これらの点について、この講義では考察していく。 【キーワード】 グローバル経済、産業構造の変化、高齢化、経済衰退	坂井　素思（放送大学教授）	坂井　素思（放送大学教授）
12	メディアと国際政治	国境を越えて流れる情報は、国境線の内部を守備範囲とする主権国家の力を溶解させつつある。まず衛星テレビの普及が、国家の情報管理を難しくした。そしてインターネットが引き起こした新しい情報の流れが、その過程を加速した。そうした情報環境の変化が、国際政治に大きな影響を与えつつある。2011年に始まった中東における民主化運動などを例に取りながら、メディアと国際政治の関連を考える。 【キーワード】 主権国家、ニューメディア、衛星テレビ、アラブの春	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	「国土開発」とグローバリゼーション	近代日本の「開発」は、強迫神経症的に「対外膨張」を伴うものとなった。「内なるフロンティア」ではなく「外なるフロンティア」にひたすら目がむけられたのである。そして「国内開発」も「植民地」経営も、いずれもジャパンスタンダードがグローバルスタンダードに優先した。戦後の「総合開発計画」にも、戦前の色彩は濃厚に残っていた。今こそ「開発」の発想の転換をめざして、新たな人材育成が望まれる。 【キーワード】 帝国主義、植民地経営、国土計画、都市計画、原敬、後藤新平、内なるフロンティア、外なるフロンティア、全国総合開発計画、人材育成	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）
14	グローバルな正義論	グローバル化が私たちに与える影響に、社会科学がいかなる貢献をすべきかを考える。近代国家システムの中で確立されてきた正義の概念について把握し、それがグローバル化によってどのような挑戦を受けているかを理解する。そのような挑戦に内在する問題性を検討し、グローバル化の文脈の中で、そうした問題性にいかにして対処すべきなのかを考える。 【キーワード】 主権国家、正戦論、社会正義、人道的介入、グローバルな分配的正義、コスモポリタンな倫理、正義の義務と人道の義務、感情教育	山岡　龍一（放送大学教授）	山岡　龍一（放送大学教授）
15	グローバリゼーションの光と影	1章から14章で、グローバリゼーションが私たちの社会にさまざまな影響を及ぼすことが指摘された。この章では、社会全体を見渡してグローバリゼーションの影響を整理するとともに、今後の展望についても議論のたたき台を提供してみたい。 【キーワード】 グローバリゼーション	髙木　保興（東京大学名誉教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 高橋　和夫（放送大学教授） 原田　順子（放送大学教授） 齋藤　正章（放送大学准教授） 北川　由紀彦（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	導入科目	科目コード	1128280	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　経営学入門　　（’１２）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：小倉　行雄　（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：齊藤　毅憲　（横浜市立大学名誉教授）〕

【本学担当専任教員：原田　順子　（放送大学教授）】

講義概要

基本的な経営課題について標準的な内容で説く。同時に、そこで提示する枠組みにより、受講者が今日の企業活動に対して自らの判断で評価を下せるようにする。このため、枠組みの背景となる考え方は丁寧に解説し、枠組みの応用となる実践的な問題も随時取り上げていく。

授業の目標

①初学者が興味をもって楽しく経営学を学べるような工夫に努める。②経営学の基本的な概念をわかりやすく具体的に説く。③経営学の全体像をつかむことで企業活動の理解度を増す。これにより、現代社会と企業に関する自分なりの把握の一助にする。

履修上の留意点

本講は、「ケースで学ぶ現代経営学（’12）」他経営関係の科目を履修する上で、基礎となる科目である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経営学を大きくつかむ	経営学を大きく4つの側面からとらえることで、今日的な企業活動に関する一貫性ある説明を試みる。 【キーワード】 経営学の4側面、問題解決学、成果創出学、人と組織の行動学、構想と構造変革学、見えない問題への対応、目的性の追求、仕組み化の必要	小倉　行雄（放送大学客員教授）	小倉　行雄（放送大学客員教授）
2	経営学の方法と考え方の理解を深める	経営学史を振り返ることと、経済学との比較により、経営学の方法や考え方の特徴を浮かび上がらせる。 【キーワード】 問題解決学の潮流、成果創出学の潮流、管理過程論、組織論の潮流、経営戦略論の系譜、経営学の考え方の特徴	小倉　行雄（放送大学客員教授）	小倉　行雄（放送大学客員教授）
3	企業の理解	企業の機能を知るとともに、企業の分類や今日的にみた企業の意味について解説する。 【キーワード】 ビジネス化、生産的なシステム、創造的なシステム、オープンシステム観、目的志向性、投入と産出のシステム	齊藤　毅憲（横浜市立大学名誉教授）	齊藤　毅憲（横浜市立大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	企業の内部構造	個別企業の内部構造を明らかにする。所有（出資）、経営、労働、組織などをキーワードにして、小規模企業と大企業の内部構造のちがいを認識したい。 【キーワード】 所有、経営、労働の三位一体、統制の範囲、所有と経営の分離、経営内部の分化、システム（物的組織）、階層分化と職能分化、技術	齊藤　毅憲（横浜市立大学名誉教授）	齊藤　毅憲（横浜市立大学名誉教授）
5	経営者の役割とコーポレート・ガバナンス	経営者の役割と専門経営者の増大。会社の内外に納得できるコーポレート・ガバナンスづくりとはどのようなものか。 【キーワード】 経営者機能、専門経営者のコーポレート・ガバナンスの公平さのための方策	齊藤　毅憲（横浜市立大学名誉教授）	齊藤　毅憲（横浜市立大学名誉教授）
6	環境変化と企業の対応	今日の経営における環境変化の持つ意味と、環境変化に対応する経営について理解する。 【キーワード】 環境変化とその分類、環境への対応、緊急事態のもとでの人間と組織	齊藤　毅憲（横浜市立大学名誉教授）	齊藤　毅憲（横浜市立大学名誉教授）
7	企業経営と経営理念	現代経営においてなぜ経営理念が重視されるのか。 【キーワード】 経営理念の効果と意味、経営理念の曖昧性と一貫性に関する矛盾、企業文化の形成、経営理念と経営戦略	齊藤　毅憲（横浜市立大学名誉教授）	齊藤　毅憲（横浜市立大学名誉教授）
8	経営戦略とは何か	経営戦略とはどのようなものか。戦略の基本的構成要素、戦略の策定方法について検討し、経営戦略のこれからのあり方についても考察を加える。 【キーワード】 外部環境への能動的適応、将来像やビジョン、戦略の3層構造、成長マトリックス、競争戦略の基本類型	小倉　行雄（放送大学客員教授）	小倉　行雄（放送大学客員教授）
9	事業システムの理解	事業システムとは何か。事業システムはどう位置づけられてきたか。事業システムを構成する要素は何か。事業システムは全体としてどう調整されるか。事業システムの優劣評価や再構築の問題を検討する。 【キーワード】 事業システム、バリューチェーン・モデル、ビジネス・モデル、アウトソーシング、BPR、SCM、ポーターの3つの基本戦略	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）
10	マーケティングの理解	マーケティングの基本を理解する。現代社会においては、なぜマーケティングの重要性が増すのか。マーケティングの手法にはどのようなものがあるか。 【キーワード】 マーケティング・コンセプト、4P、4C、事業ドメイン、顧客志向と顧客ニーズ、顧客起点の発想法	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	企業組織をどうつくるか	企業組織の基本構造や組織設計の基本原則とは、どのようなものか。企業の発展と大規模化に伴い、組織形態にどのような変化が出てきたか。主な組織形態をとりあげて解説する。 【キーワード】 単一事業組織、職能別組織、事業部制組織、SBU、マトリックス組織、ライン＆スタッフ	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）
12	組織のなかで人を動かす	組織において人材は重要な要素である。組織と人材の関わりについて学習する。人材に関する議論のなかから、日本企業における内部人材の重視、キャリア開発に焦点をあてて解説する。 【キーワード】 人的資源管理、内部昇進、リーダー人材、種まき型の人事、キャリア開発、自律的キャリア	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）
13	財務・会計の役割を理解する	経営における財務・会計の基本的役割について理解する。企業の成績表と呼ばれる財務諸表には何があるか。どのような内容になっているのかについて学習する。また、財務諸表を分析する手法を紹介する。 【キーワード】 経営機能と財務・会計の役割、財務諸表分析、各種財務指標の意味、財務情報の読みとり	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
14	企業評価	財務情報を企業評価に生かす。企業財務からみた企業の目的を理解し、企業価値評価の手法を学ぶ。また、企業価値を高めるための活動について検討する。 【キーワード】 企業価値、株主価値、キャッシュフロー、貨幣の時間価値、正味現在価値、市場付加価値、経済付加価値	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
15	企業の変化と新しい経営学	持続可能性という観点から新しい経営学のあるべき方向性を探る。自治体経営や非営利組織の経営の問題についても検討する。 【キーワード】 持続可能性、有限の時代、成長パラダイム、持続性パラダイム、3R、三方よし、自治体経営、非営利組織の経営	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1730037	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代会計 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Modern Accounting as the Liberal Arts (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：齋藤　真哉 （横浜国立大学大学院教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：齋藤　正章 （放送大学准教授） 】

講義概要

なんらかの経済活動を行う主体（個人や組織等）が行う経済活動を把握するために不可欠な知識と言える会計学について、広く一般に習得することが望まれる「教養としての会計学」を考察する。会計は、経済活動を一定のルールに従って記録し、集計し、整理して会計情報を提供する過程である。営利目的の企業や政府、非営利法人等といったさまざまな経済主体について、投資家や債権者、住民、寄付者等といったさまざまな会計情報利用者、特に外部の情報利用者の立場を踏まえながら、会計学を体系的に検討する。

授業の目標

「教養としての会計学」を習得することを目標とする。具体的には経済活動を記録し、集計、整理して会計情報が作成される仕組みを理解し、その会計情報が社会のなかでいかに利用されるのか、すなわち社会的インフラとしての会計について考える知的滋養を養うことが目標である。

履修上の留意点

教科書を読み、映像教材を見たうえで、各自が積極的に実際の会計情報に触れ、参考文献等を渉猟することが期待される。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	身近な「会計」	本講義のイントロダクション。経済活動を行っている様々な経済主体について、その活動を記録する会計が存在していることを紹介する。そのことで、会計の意味を検討する。そしてそれぞれの会計により作成される情報が、社会でどのように役割を果たしているのかについて、概説する。 【キーワード】 複式簿記、写像、会計情報、家計、企業会計、政府会計、非営利会計	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）
2	会計の基礎的前提	会計を行う上で、前提となる事項について解説する。記録対象となる活動の範囲を確定することや、活動の期間を区切ることが求められるとともに、記録対象の属性をどのように捉えているのか、また誰の立場で会計を行うのかについて検討する。 【キーワード】 会計単位、会計期間、貨幣資本概念、測定単位、会計主体、資本主理論、企業主体理論	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）
3	企業会計の目的と諸領域	企業会計の目的と機能を検討し、会計情報の利用者が外部であるか内部であるかで、財務会計と管理会計と呼ばれる領域があることを説明する。また他の領域となる会計監査や財務分析等についても概説する。そして利害関係者が会計情報をどのように利用するのかについても検討する。 【キーワード】 利害関係者、情報の非対称性、財務会計、管理会計、会計監査、財務分析、意思決定支援機能、利害調整支援機能、財務業績、財政状態	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	複式簿記と財務諸表の構成要素	複式簿記の仕組みを解説する。そして複式簿記との結びつきを通して、会計上の重要で基礎となる専門用語や諸概念を説明する。会計学には大変多くの専門用語や専門の諸概念が存在するので、それらを複式簿記との関連において、有機的に理解することを目指す。 【キーワード】 複式簿記、勘定、決算、資産、負債、純資産（資本）、収益、費用、貸借対照表、損益計算書	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）
5	企業会計に関わる法規制	企業会計を規制する代表的な法律として、金融商品取引法と会社法、法人税法を取り上げて、それぞれの法律の枠内で行われる会計の意味等について検討する。そしてそれぞれの法律の枠内で行われる会計で作成される会計情報の内容についても触れることとする。 【キーワード】 金融商品取引法、ディスクロージャー、財務諸表、会社法、会計責任、計算書類、法人税法、確定決算主義、納税申告書	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）
6	企業会計の基準と国際的対応	会計情報を作成するための基準である、「企業会計原則」や企業会計諸基準、さらに諸基準の基盤となる概念フレームワークについて解説する。そのなかで、企業会計原則の一般原則や、企業会計諸基準の開発主体や国際的対応について検討する。 【キーワード】 企業会計原則、企業会計基準、企業会計基準委員会、国際財務報告基準（IFRS）、概念フレームワーク	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）
7	損益計算と資産・負債の関係	企業の業績（損益）を把握する観点として、2つのアプローチを説明し、それぞれの観点からの会計上の課題を提示する。そして複式簿記の仕組みの理解を踏まえて、損益計算と資産・負債の有機的結びつきを説明し、その上で、2つのアプローチが現行の企業会計でどのように関連しているのかを外観する。 【キーワード】 キャッシュフロー制約、資産・負債アプローチ、収益・費用アプローチ、収益認識、発生、実現、対応、取得原価主義会計	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）
8	収益・費用と資産・負債の計算基準	収益と費用の計算基準（認識と測定）について検討する。通常の信用販売や割賦販売、受注した長期の請負工事等といった様々な販売形態における収益と費用を取り上げる。また資産と負債の計算基準（貸借対照表能力と評価）について検討する。資産・負債の性格による評価の相違について確認する。そして収益・費用と資産・負債の関連性を検討する。 【キーワード】 認識、測定、発生主義会計、発生、実現、対応、販売基準、回収基準、工事進行基準、費用配分、時間基準、貸借対照表能力、評価、取得原価主義会計	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）
9	金融商品に関わる取引	金銭債権・債務や有価証券、デリバティブ取引を取り上げて、その会計処理を説明する。金銭債権については貸倒れの見積もり、有価証券については時価の変動への対応等、期末評価が問題となる。またデリバティブ取引は未履行契約であるにもかかわらず、それに係る正味の資産または負債が記録対象となる。 【キーワード】 金銭債権、貸倒れの見積もり、有価証券、デリバティブ取引	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	棚卸資産に関わる取引	販売目的で保有される商品や製品、製品製造のために使用される原材料等の棚卸資産を取り上げて、その会計処理を検討する。特にその費用化のプロセスを確認するとともに、棚卸資産の期末評価について説明する。 【キーワード】 棚卸資産、売上原価、払出単価、先入先出法、低価基準	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）
11	固定資産に関わる取引	長期にわたって企業に保有ないしは利用される資産に関わる会計処理を検討する。特に、固定資産の取得原価や減価償却、期末の評価等を取り上げる。具体的な固定資産として、設備や建物、土地のような有形固定資産や、特許権や商標権、のれん等の無形固定資産を取り上げることにする。 【キーワード】 有形固定資産、無形固定資産、減価償却	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）
12	引当金・純資産に関わる取引	負債に含まれる引当金に関する会計処理を取り上げる。様々な引当金がありうるが、特に退職給付引当金（退職給付に係る負債）について詳しく説明する。また、純資産に含まれる株主資本や評価・換算差額等、新株予約権に係る会計処理についても取り上げることとする。 【キーワード】 負債性引当金、条件付債務、退職給付引当金、株主資本、資本金、資本準備金、利益準備金、評価・換算差額等、新株予約権	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）
13	政府会計制度	財政法等の法律の枠内で行われる国や地方公共団体の会計を検討する。具体的には予算・決算の制度を取り上げ、併せてそれらに係る監査制度についても取り上げることにする。ここでは企業会計とは異なる点に焦点を当てることにする。 【キーワード】 予算・決算制度、会計年度独立の原則、建設国債、赤字国債、一般会計、特別会計、会計検査院、監査委員	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）
14	政府会計の新たな動向	行政サービスを行うための資金負担について、世代間の公平性が担保されていない現状を踏まえて、新たな政府会計のあり方や新たな財務表の作成が、国でも地方公共団体でも試みられている。そうした動向を紹介し、新たな会計情報の意味や利用、問題点等について検討する。 【キーワード】 公的アカウンタビリティ、国の財務書類、企業会計的手法	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）
15	非営利法人の会計	日本では、さまざまな非営利法人が、異なる法律を根拠として設立されている。ここでは特に企業会計との相違に注目して、非営利会計の特徴ないしは特有の会計課題を明らかにしたい。そして、様々な非営利法人に係る会計基準のなかから、代表的な基準である「公益法人会計基準」を取り上げて概観することにしたい。そしてこの基準が直接に関わっている公益認定についても言及することにする。 【キーワード】 ミッション、一般社団・財団法人、社会福祉法人、学校法人、特定非営利活動法人、準則主義、許可、認証、公益、共益、公益認定基準、収支相償、税制優遇	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）	齋藤　真哉（横浜国立大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234277	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 新しい時代の技術者倫理 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Ethics for the Engineers of the 21st Century (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：札野　順　（東京工業大学教授）〕

【本学担当専任教員：岡田　光正　（放送大学教授）】

講義概要

科学技術は、新しい「価値」を生み、社会と環境に大きな影響を与えます。特に、2011年3月に発生した東日本大震災を契機に、我々は科学技術が持つ正負両面の力を再認識することになりました。技術を実践する「行為者」である技術者は社会に対して特別の責任を負っています。本科目では、技術者がその職務を遂行する上で、必要な新しい「倫理」について考察します。技術者が直面する可能性のある種々の倫理的問題を、具体的な事例を通して紹介します。また、それらの問題を分析し、倫理的に推論する方法について学びます。特に、技術者が重視すべき「価値」（安全など）を検討します。これらの学習を踏まえ、21世紀の技術者に求められる倫理的な資質・能力について考察します。

授業の目標

1. 科学技術の発展に伴い、人間の「行為」の領域が拡大したので、技術を実践する「行為者」である技術者には、新しい「倫理」が必要であることを認識する。 2. 科学技術が、社会や環境に与える影響の範囲と大きさを説明できる。 3. 技術者の専門職としての倫理と責任について、その歴史的・社会的背景も含めて理解する。 4. 企業などの組織の社会的責任とそこでの技術者の役割について理解する。 5. 技術を実践する上で、技術者が直面する可能性のある倫理的問題を認識できる。 6. 倫理的問題を解決し、優れた判断を行う手法について理解すると共に、それらの手法を種々の事例に適用できる。 7. 新しい時代の技術者に求められる態度と共有すべき価値を理解し、共感できる。

履修上の留意点

科学技術と社会との関係について、広い視野で考えるようにしてください。メディアで報道される事例だけではなく、歴史上の出来事も含めて、科学技術と人間社会の関係について、関心を持ってください。本科目で扱う事例については、当事者になったつもりで、真剣に解決策を考えてください。また、技術者倫理の第一原則である「公衆の安全・健康・福利を最優先する」ことの意味、特に、「福利＝幸せ」とは何かについて考えるようにしてください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	新しい時代の技術者倫理とは何か	1.「新しい時代」とは－東日本大震災後の科学技術と社会 2. 科目概要と本科目の学習・教育目標 3. 技術者倫理の定義の説明 4. 科学技術と価値－技術者倫理の特殊性－ 5. 予防倫理と志向倫理 6.「幸せ」を目指す技術者倫理 【キーワード】 東日本大震災、技術者、倫理、技術者倫理、技術者倫理教育の学習・教育目標、行動の設計、ポジティブ心理学、well-being	札野　順（東京工業大学教授）	札野　順（東京工業大学教授）
2	技術者が意思決定を迫られる状況とは(1)	1. 技術者倫理におけるケース（事例）の重要性 2. スペースシャトル・チャレンジャー事故の概要 3. 技術者にとっての安全－ボジョレーの葛藤－ 4. 倫理的問題－対立する価値－ 【キーワード】 事例、ケース・スタディ、ケース・メソッド、チャレンジャー号事故	札野　順（東京工業大学教授）	札野　順（東京工業大学教授）
3	技術者が意思決定を迫られる状況とは(2)	1. ステークホルダーと価値 2. 本事例を、技術者倫理の4つのレベル（メタ・マクロ・メゾ・ミクロ）と技術者倫理の必要性 3. チャレンジャー事故を4つのレベルで考える 【キーワード】 ステークホルダー、価値、技術者倫理の4つのレベル	札野　順（東京工業大学教授） 栃内　文彦（金沢工業大学准教授）	札野　順（東京工業大学教授） 栃内　文彦（金沢工業大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	科学技術と社会・環境	1. 科学技術が人間社会に与える影響に関する考察 2.「未来はわれわれを必要としているか」 3. 21世紀にエンジニアが解決すべき重要課題と志向倫理 【キーワード】 技術倫理の諸相、コズミック・カレンダー、エネルギー・人口問題、ビル・ジョイの警鐘、Grand Challenges for Engineering	札野　順（東京工業大学教授）	札野　順（東京工業大学教授）
5	新しい時代の技術者とは何か －その資質と能力－	1. 新しい技術者像と技術者教育 2. 技術者倫理教育 【キーワード】 グローバル化、技術者としての資質と能力、国際的同等性相互承認、ABET、JABEE、IEA	札野　順（東京工業大学教授） 夏目　賢一（金沢工業大学准教授）	札野　順（東京工業大学教授） 夏目　賢一（金沢工業大学准教授）
6	技術者としての行動設計（1）	1. 技術者が直面しうる倫理問題 2. 倫理的思考の特徴 3. 代表的な倫理学理論 【キーワード】 倫理問題、ジレンマ問題、線引き問題、普遍性、自律、行為者、行為、結果、功利主義、義務倫理学、徳倫理学、幸福	札野　順（東京工業大学教授） 金光　秀和（金沢工業大学准教授）	金光　秀和（金沢工業大学准教授） ゲスト：西村秀雄（金沢工業大学教授）
7	技術者としての行動設計（2） －技術者が重視すべき価値－	1. プロフェッションと倫理綱領 2. 倫理綱領の機能 3. 倫理綱領の歴史 4. 倫理問題と設計問題のアナロジー 5. 価値を共有するための倫理プログラム 【キーワード】 プロフェッション、倫理綱領の歴史と機能、倫理綱領と価値、倫理問題、設計問題	札野　順（東京工業大学教授） 金光　秀和（金沢工業大学准教授）	金光　秀和（金沢工業大学准教授） ゲスト：西村秀雄（金沢工業大学教授）
8	技術者としての行動設計（3） －倫理的意思決定の方法－	1. セブン・ステップ・ガイド 2. 倫理的問題解決のための手法（エシックス・テストとセブン・ステップ・ガイドなど） 3. 事例を使った検討 【キーワード】 セブン・ステップ・ガイド、エシックス・テスト、黄金律テスト、普遍化可能性テスト、徳テスト、技術者と法律、阻害要因と促進要因	札野　順（東京工業大学教授） 金光　秀和（金沢工業大学准教授）	札野　順（東京工業大学教授） 金光　秀和（金沢工業大学准教授）
9	技術者の責任 －優れた意思決定がもたらすもの－	1. 技術者が特別の責任を持つ理由 2. 優れた意思決定がもたらすもの 【キーワード】 責任、社会契約、社会的実験、相互依存、ポジティブ心理学、good work	札野　順（東京工業大学教授）	札野　順（東京工業大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	組織の中でいかに行動すべきか(1)	1. ケース・メソッドによる学習 2. 組織の中の技術者 3. 公益通報が倫理的に許される条件 4. 公益通報をめぐる諸問題 【キーワード】 プロフェッショナル・エンジニア、企業の社会的責任、内部告発、公益通報、公益通報者保護法	札野　順（東京工業大学教授） 夏目　賢一（金沢工業大学准教授）	札野　順（東京工業大学教授） 栃内　文彦（金沢工業大学准教授）
11	技術者とISO26000「Guidance on Social Responsibility（社会的責任に関する手引き）」について	1. ISO26000とは 2. ISO26000の構成 3. 社会的責任の基本を理解する 4. 社会的責任の中核問題を理解する 5. 社会的責任を組織に取り込む 【キーワード】 CSR、国際規格、ISO26000、社会的責任、持続可能な発展、ステークホルダーエンゲージメント、組織の貢献	札野　順（東京工業大学教授） 岡部　幸徳（金沢工業大学准教授）	札野　順（東京工業大学教授） 岡部　幸徳（金沢工業大学准教授）
12	組織の中でいかに行動すべきか(2) －企業の社会的責任と倫理－	1. 事例1：パナソニックグループにおけるグローバル・コンプライアンスの推進 2. 事例2：アデランス社「事業と一体化した戦略的CSR活動」 【キーワード】 コンプライアンス、企業の社会的責任（CSR）、パナソニックグループ、アデランス社	札野　順（東京工業大学教授） 岡部　幸徳（金沢工業大学准教授）	札野　順（東京工業大学教授） 岡部　幸徳（金沢工業大学准教授）
13	東日本大震災後の社会における技術者の新しい役割	1. 東日本大震災の教訓 2. 技術に関連するリスクの不確実性とその客観的評価の限界 3. 社会的合意形成を求めて－技術者の責任と役割の拡大－ 【キーワード】 リスク、リスク評価、リスクの認識、リスクの受容、トランス・サイエンス	札野　順（東京工業大学教授） 夏目　賢一（金沢工業大学准教授）	札野　順（東京工業大学教授）
14	責任ある研究活動とは何か	1. 研究倫理の事件簿 2. 責任ある研究活動とは何か 3. 責任ある研究活動を促進するためには 【キーワード】 研究倫理、責任ある研究活動、不正、捏造、改ざん、盗用、疑わしい研究活動、科学者の行動規範、研究倫理プログラム	札野　順（東京工業大学教授） 栃内　文彦（金沢工業大学准教授）	札野　順（東京工業大学教授） 栃内　文彦（金沢工業大学准教授）
15	社会のなかの、社会のための技術者 －「幸せ」をもたらす技術者倫理－	1.「新しい時代」－再考－ 2. 社会の「福利」を最優先する技術者 3.「幸せ」なPhilosopher-Engineerを目指して 【キーワード】 技術者倫理、信頼、リスク・マネジメント、ポジティブ心理学、プラトン、philosopher-engineer、アリストテレス、eudaimonia	札野　順（東京工業大学教授）	札野　順（東京工業大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	導入科目	科目コード	1730053	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 技術経営の考え方 （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Management of Technology and Innovation (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：宮崎　久美子　（東京工業大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：岡田　光正　（放送大学教授） 】

講義概要

技術経営とは技術を重要な資産として捉え、企業や機関が研究、開発、事業化、そして普及に関わるプロセスを効率よくマネジメントし、イノベーションを創出するための知識を習得する学問領域の事である。

授業の目標

技術や専門知識を活用して活躍している社会人やイノベーション創出に興味がある個人を対象として、効果的なイノベーション創出に関わるマネジメントについてグローバルな視点から知的滋養を養うのが目標である。

履修上の留意点

教科書を読み、ラジオ教材を聞いた上で、参考文献など各自参照することが求められる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	技術経営とは	開講に際し、授業の目的や科目の構成を解説するとともに、技術経営分野の歴史的発展過程、近年、技術経営が重要になってきた背景、技術経営に関する様々な視点を紹介する。 【キーワード】 技術経営、歴史的発展過程、戦略、科目の構成	宮崎　久美子（東京工業大学教授）	宮崎　久美子（東京工業大学教授）
2	科学、技術とイノベーション	技術経営を学ぶのには、科学と技術の違いや共通点、相互関係について理解することが必要である。また、発明とイノベーションの違いを認識し、イノベーションの種類やイノベーションモデルについて取り上げる。イノベーションの成功、失敗要因について解説した上で、英国で行われた実証研究SAPPHOについて学ぶ。 【キーワード】 科学、技術、イノベーションモデル、進化経済学、知識、成功と失敗、SAPPHO	宮崎　久美子（東京工業大学教授）	宮崎　久美子（東京工業大学教授）
3	技術開発と技術競争力蓄積、技術普及	技術開発の主なプロセスは自社内の開発、社外で開発された技術のアウトソーシングなど色々あるが、本章では特に技術コンピタンス、および自社内で蓄積するコアテクノロジーの技術力蓄積について考える。また製品のライフサイクルについても解説し、技術が普及していく過程やそれに影響を与える要因について解説する。 【キーワード】 コアテクノロジー、技術力蓄積、製品ライフサイクル、技術普及	宮崎　久美子（東京工業大学教授）	宮崎　久美子（東京工業大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	企業戦略と技術戦略	企業経営戦略について解説するとともに技術戦略の位置づけ、技術戦略に関する視点を解説する。技術戦略を作成するプロセスやその際、使用する指標などについて学習する。競合環境、自社の優位性、機会や脅威について総合的に分析することを可能とするポーターモデルについて学ぶ。最後にフリーマンによる技術戦略の4つのタイプについて紹介する。 【キーワード】 企業経営戦略、技術戦略、戦略フレームワーク、ポーターモデル、フリーマン、戦略策定	宮崎　久美子（東京工業大学教授） 仙石　慎太郎（東京工業大学准教授）	宮崎　久美子（東京工業大学教授） 仙石　慎太郎（東京工業大学准教授）
5	アントレプレナーシップ	アントレプレナーシップ（企業家精神）とは、新しい事業の創造意欲に燃え、高いリスクに果敢に挑む姿勢をいう。この章ではアントレプレナーシップの行動態様、起業の一般的な流れに沿って解説するとともに、アントレプレナーの事例を紹介する。 【キーワード】 企業家精神、アントレプレナーシップ、ベンチャー企業、産学連携	仙石　慎太郎（東京工業大学准教授）	仙石　慎太郎（東京工業大学准教授）
6	複雑性と意思決定	新製品開発など、技術経営には「意思決定」が必要な様々な分野、レベルの問題状況に満ちあふれている。複雑性に満ちた問題状況に対処する、意思決定の基礎的な考え方について解説する。 【キーワード】 新製品開発、複雑性、意思決定	木嶋　恭一（東京工業大学名誉教授）	木嶋　恭一（東京工業大学名誉教授）
7	組織マネジメント	組織マネジメントにおいて、創造性・自律性を維持しながら組織を維持運営することは重要な課題である。そのために、個人のモチベーション、グループの構成、組織構造・組織間の関係の構築などの観点をどのように理解し、この課題に取り組むかについて解説する。 【キーワード】 モチベーション、組織構造、創造性、組織間関係	辻本　将晴（東京工業大学准教授）	辻本　将晴（東京工業大学准教授）
8	研究開発のマネジメント、技術普及	研究所は企業の中で、新しい知識を創造する知的活動が行われる組織であり、効率性を高めるための特別な工夫が必要である。研究から商品化に移る段階で死の谷を越えることも重要な課題である。また企業の研究開発のグローバル化が活発化しており、研究開発のグローバル化について学習する。筆者等が行った日本企業の中国における研究開発の事例について紹介する。 【キーワード】 研究開発マネジメント、組織、効率性、死の谷、グローバル化、中国	宮崎　久美子（東京工業大学教授）	宮崎　久美子（東京工業大学教授）
9	知財のマネジメント①	技術経営の一領域である知的財産マネジメントの基礎となる知的財産権制度について概説する。本章での基本は知的財産を保護する法律分野となるが、知的財産のマネジメントに当たっては、知的財産制度の最低限の理解が必要となる。知的財産権の種類、保護対象ごとの制度概要、出願状況の把握、更に特許制度に焦点を当て、制度目的及び特許権取得の手続きの概要を解説する。 【キーワード】 知的財産の種類、知的財産権制度の概要、出願権利化の国内外の動向、特許制度、特許権取得の手続き	田中　義敏（東京工業大学教授）	田中　義敏（東京工業大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	執筆担当講師名（所属・職名）
10	知財のマネジメント②	企業が事業活動を優位に進め、業績につなげていく一連の活動に特許ポートフォリオがいかなる位置づけとなるかを理解するとともに、特許情報の活用、オープン・クローズ戦略の展開などを通じて知的財産のマネジメントを企業経営に役立てていくことのセンスを磨いてほしい。特に、部門間連携の必要性、知財戦略の策定に焦点を当てて解説する。 【キーワード】 事業活動と特許、特許情報の活用、特許ポートフォリオ、オープン・クローズ戦略、知財部と他部門の連携、知財戦略策定	田中　義敏（東京工業大学教授）	田中　義敏（東京工業大学教授）
11	分野別(セクター)の技術経営①	本章では分野別（セクター）のイノベーションシステムについて理論的、実証的、両側面から解説する。はじめにパビットによる5つの主な技術軌道について紹介した上でMalerbaによるセクターイノベーションシステムの概念について解説する。またテクノエコノミックネットワーク（TEN)モデルについて紹介し、筆者等がTENをベースに検証したロボット産業の事例を取り上げ、技術経営の課題について解説する。 【キーワード】 分野別、セクター、イノベーションシステム、ロボット、テクノエコノミックネットワーク、イノベーション軌跡	宮崎　久美子（東京工業大学教授）	宮崎　久美子（東京工業大学教授）
12	分野別（セクター）の技術経営②	本章では分野別（セクター）のイノベーションシステムについて理論的、実証的、両側面から解説する。はじめに、医療・ヘルスケア産業の概要について紹介した上で、今日の課題と最適化の方策について議論する。また、要素となる技術が製品・サービスにどのように活かされているかを、医療・ヘルスケア関連ビジネスの代表的な事例をもとに解説する。 【キーワード】 分野別、セクター、技術経営、課題、バイオテクノロジー	仙石　愼太郎（東京工業大学准教授）	仙石　愼太郎（東京工業大学准教授）
13	ナショナルイノベーションシステム	ナショナルイノベーションシステム（NIS)とは技術経営が国の競争優位性に影響を与えるイノベーションシステムの事であり、産、官、学の様々な主体の連携によってイノベーションが起きるシステムのことを指し、国の競争優位性に影響を与えるものである。本章ではNISに影響を与える要因について解説をし、主要国のNISを紹介し、特に米国のNISについて詳しく取り上げる。また筆者等が行った産学連携の調査について解説する。 【キーワード】 ナショナルイノベーションシステム、NIS、競争優位性、米国、東京工業大学、産学連携	宮崎　久美子（東京工業大学教授）	宮崎　久美子（東京工業大学教授）
14	エコシステム論	経営戦略論、経営組織論の分野で研究が活発化しており、同時に政策、コンサルティング、企業経営の実務でも活用が進んでいるエコシステム論を取り上げる。特に技術経営の観点から関連性の強い内容を紹介、解説する。 【キーワード】 エコシステム、プラットフォーム、複雑系	辻本　将晴（東京工業大学准教授）	辻本　将晴（東京工業大学准教授）
15	今後の技術経営の課題	パラダイムシフトなどにより、我が国の中心的役割を果たした大量生産型イノベーションシステムの限界が指摘されている。本章では今後の技術経営の課題について議論する。新たな技術融合、市場創造、戦略的な標準化戦略、新たなビジネスモデルの構築などによる競争力構築が必要になる。特に標準化に焦点を当て、筆者等が行った2つの事例について解説する。 【キーワード】 パラダイムシフト、技術経営の課題、標準化戦略、イノベーションシステム、ビジネスモデル	宮崎　久美子（東京工業大学教授）	宮崎　久美子（東京工業大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	導入科目	科目コード	1730045	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　環境問題のとらえ方と解決方法　（’１７）＝　(R)

英文名　＝　〔 How to Identify and Solve Environmental Problems (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：岡田　光正　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：藤江　幸一　（横浜国立大学大学院教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

地域から地球に至るまでの環境問題の諸側面を様々な視点からとらえるとともに、その解決方法に関して基礎的かつ広範な視点を学習する。このため、人の健康、人の利用、さらには生態系保全といった環境問題の諸側面、都市、地域、国際、地球といった地域の広がりを対象とした環境問題のとらえ方について学ぶ。また、原因の同定から解決のための技術の概要について解説する。さらに、大気汚染、水質汚濁、都市環境といった身近な環境問題から、安全・安心、循環型社会、自然共生社会、低炭素社会という現代の環境問題のとらえ方についても解説する。

授業の目標

環境問題の諸側面を様々な視点からとらえるとともに、その解決方法に関して基礎的かつ広範な視点を理解するとともに、身近な環境問題から地球環境に至るまでの新しい環境に関する考え方を理解する。

履修上の留意点

本講義を履修した後に、「環境と社会」「エネルギーと社会」、さらに大学院では「環境工学」等を必要に応じて履修してほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	環境問題のとらえ方と解決方法のフレームワーク	環境問題の諸側面をさまざまな視点からとらえるとともに、その解決方法に関する考え方の全体的な枠組みを学習する。河川の水質汚濁という身近な環境問題を一例として取り上げ、環境問題を問題認識から始めてその解決方法を考えていく方法、およびDPSIRフレームワークという要因－負荷－状態－影響－対策と関連づける方法論について考えてみる。また、順応的管理の考え方を学ぶ。 【キーワード】 環境問題、河川水質汚濁、有機汚濁、有害物質、問題解決型フレームワーク、DPSIRフレームワーク、順応的管理	岡田　光正（放送大学教授）	岡田　光正（放送大学教授）
2	環境問題のとらえ方	環境におけるどのような現象が環境問題としてとらえられるか？　ここでは、環境基本法における環境問題のとらえ方をもとに、人の健康の保護、生活環境の保全、自然環境の保全のそれぞれの視点から、大気、水、土壌などの対象媒体における環境問題をどのようにとらえるか、逆にいえばどのような環境が望ましい姿であるか、問題認識の基本的な考え方について解説する。 【キーワード】 環境基本法、人の健康の保護、生活環境の保全、自然環境の保全、大気環境、水環境、土壌環境	岡田　光正（放送大学教授）	岡田　光正（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	環境問題の発生原因とその解決方法	環境問題が人間のどのような行為から発生するか？ 汚染物質の環境への排出そのものが問題を生むのではなく、排出後の移動や変化、複数の要因などの問題発生に至るさまざまな側面を考える。また、排出のみならず、環境の利用や改変に伴う環境問題の発生原因も考える。さらにはその解決方法として排出削減、発生抑制などの緩和策とともに、適応策についても学ぶ。 【キーワード】 排出削減、環境中の移動と変化、環境容量、環境改変、環境アセスメント、緩和策、適応策	岡田 光正（放送大学教授）	岡田 光正（放送大学教授）
4	環境の望ましい状態	問題とは現状と目標のギャップである。したがって、環境問題を正確に認識するには具体的な目標、すなわち環境の望ましい状態を定義することが不可欠である。ここでは、このような環境の望ましい状態をどのように定義するか、水質環境基準を例としてその考え方を理解するとともに、より大きな視点である未来社会のあり方のような目標、並びにそれを実現する道筋について学ぶ。 【キーワード】 水質環境基準、温暖化ガス排出削減目標、未来社会	岡田 光正（放送大学教授）	岡田 光正（放送大学教授）
5	環境の指標、モニタリングと評価の方法	環境基準の分析項目となっているさまざまな汚濁指標はどのような考え方で定義されているか？ またどのように定量的に評価するか？ アルキル水銀、ダイオキシン、PM2.5、BOD、COD、SS、さらにはバイオアッセイなどを対象にその考え方を学ぶとともに、それらのモニタリング手法、そしてモニタリング結果に基づいて環境基準などの達成状況を評価する方法を学ぶ。 【キーワード】 アルキル水銀、ダイオキシン、PM2.5、BOD、COD、SS、バイオアッセイ、モニタリング	岡田 光正（放送大学教授）	岡田 光正（放送大学教授）
6	大気環境保全技術	化石燃料の燃焼や廃棄物の焼却によって硫黄酸化物(SOX)、窒素酸化物(NOX)、粒子状物質(PM)などの大気汚染物質が大量に発生し、黒煙によるスモッグの発生や酸性雨による金属類の腐食やコンクリート、大理石等の劣化、さらには呼吸器系の疾患など人の健康に対する影響を引き起こしてきた。これらによる環境影響を把握した上で、燃焼排ガスから排出される主要な大気汚染物質を効果的に除去するために広く利用されている技術について、その原理とプロセスおよび有効な利用方法、さらには問題点について紹介し、大気汚染の原因と対策についての理解を促進する。 【キーワード】 燃焼排ガス、大気汚染物質、固定発生源、環境影響、排ガス浄化技術	藤江 幸一（横浜国立大学大学院教授）	藤江 幸一（横浜国立大学大学院教授）
7	水・地下水・土壌環境保全技術	水や土壌の環境基準の達成のために、排水の浄化や地下水・土壌汚染への対策の基本的な考え方を学ぶ。排水処理の対象場合と、地下水・土壌汚染対策の場合と、対象となる汚染物質や汚濁物質について理解するとともに、各対策技術の原理やどのように対策技術を選定するかの考え方についても理解する。 【キーワード】 排水処理技術、下水処理、地下水・土壌汚染対策技術、リスク、未然防止	小林 剛（横浜国立大学大学院准教授）	小林 剛（横浜国立大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	廃棄物処理・資源保全技術	鉄道や道路、そこを走行する電車や自動車、多くの家庭電化製品や食料など、毎日の暮らしが多様な機能によって支えられていることがわかる。社会インフラの建設や工業製品の製造、そしてそれらの利用に多様な資源・エネルギーが消費され、一方で大量の廃棄物、排水、排ガスが排出されている。本章では、産業活動や日常生活による廃棄物の種類や発生量を把握するとともに、どのように処理・処分されているのか、どのような技術が利用されどのような効果が得られるか、どのような問題があるのか等について理解した上で、持続可能社会を目指した今後の取り組みについて考える。 【キーワード】 廃棄物の種類と発生、廃棄物処理状況、廃棄物処理技術、焼却処理技術、埋め立て処分技術	藤江　幸一（横浜国立大学大学院教授）	藤江　幸一（横浜国立大学大学院教授）
9	大気に関する環境問題とその解決方法	固定発生源に匹敵する窒素酸化物(NOX)が自動車排ガスから排出されており、同時に排出される粒子状物質(PM)とともに大気環境の深刻な汚染や健康影響をもたらしてきた。NOXは揮発性有機化合物（VOC）の存在下で紫外線の作用によって、目や呼吸器への障害をもたら光化学オキシダントを生成する。本章ではまず、自動車排ガスによる環境やヒトの健康に対する影響と自動車排ガス規制の歴史的経緯を紹介する。ガソリン自動車とディーゼル自動車について、燃費性能の向上を図りながら、多様な運転条件下で排ガス中のNOXとPMを効率的に低減する技術の原理とプロセスについての理解を促進する。PM2.5の越境汚染についても紹介する。 【キーワード】 自動車排ガス、光化学スモッグ、排ガス浄化技術、PM2.5、越境汚染	藤江　幸一（横浜国立大学大学院教授）	藤江　幸一（横浜国立大学大学院教授）
10	水・地下水・土壌に関する環境問題とその解決方法	日本における河川、湖沼、ダム湖などの表流水、また地下水や土壌に関する環境問題、すなわち環境基準とその達成状況を解説する。また、その保全に対して日本が行ってきた主要な対策、すなわち、表流水や地下水を対象とした様々な排水規制、並びに土壌汚染対策の現状と課題について解説する。 【キーワード】 水質環境基準、排水基準、濃度規制、総量削減、地下水水質基準、土壌環境基準、土壌汚染対策法	岡田　光正（放送大学教授）	岡田　光正（放送大学教授）
11	廃棄物に関する環境問題とその解決方法	平成12年6月に循環型社会形成推進基本法が制定され、廃棄物のリサイクルを推進する政策が進められている。持続可能な未来社会を実現するには、できるだけ少ない資源・エネルギーの消費と環境負荷で、人間活動に必要な機能を過不足なく提供できる社会システムを構築しなければならない。このためには、まず人間活動による資源・エネルギーの消費量と廃棄物の発生量の状況を把握する。次に、資源を有効活用するためのリサイクル技術とその特徴を明らかにした上で、廃棄物の再資源化による循環利用システムを計画する。加えて、物質・エネルギーのフローとコストなどを指標として、対象とする地域における物質循環システムの評価を行う。本章では、これらを事例に基づいて解説する。 【キーワード】 循環型社会、物質フロー解析、資源生産性、リサイクル技術、循環システムと効果	藤江　幸一（横浜国立大学大学院教授）	藤江　幸一（横浜国立大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	都市のヒートアイランド現象とその対策	都市環境問題の一つとして、ヒートアイランド現象を取り上げ、形成要因とその特徴について理解する。ヒートアイランド現象の形成要因は私たちの生活空間であるまちの中にある。夏にはまちの中に熱があふれていることを赤外線放射カメラによる熱画像で可視化する。以上をふまえ、ヒートアイランド現象に対する種々の対策技術を整理するとともに、これからのまちづくり、すなわち、今日の地球環境時代における環境負荷の小さい快適なまちづくりを考える。 【キーワード】 ヒートアイランド現象、土地被覆の改変、人工排熱、熱画像、クールスポット、環境負荷、快適なまちづくり	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）
13	化学物質に関する環境問題とその解決方法	化学物質が生活や産業の中でどのように利用されているか、化学物質が環境問題とどのように関係しているかを整理する。また、人や環境への化学物質の悪影響をリスクとして理解し、リスクをマネジメントするための考え方を整理して、安全・安心社会の基礎となる解決方法を学ぶ。 【キーワード】 化学物質管理、環境リスク、有害性、安全・安心社会	亀屋　隆志（横浜国立大学大学院准教授）	亀屋　隆志（横浜国立大学大学院准教授）
14	生態系における環境問題とその解決方法	自然共生社会を目指すために、自然環境保全の必要性を理解するとともに、生態系、生物多様性の考え方と、生態系サービスや里地・里山の考え方について学ぶ。また、現在、生態系と生物多様性がどのような危機に瀕しているか、代表的な4つの危機について考えてみる。さらにこのような危機の解決方法について学ぶとともに、既に失われた自然、生態系を取り戻すための自然再生の考え方を理解する。 【キーワード】 自然保護、生物多様性、生態系サービス、生物多様性の危機、里地・里山・里海、自然再生	岡田　光正（放送大学教授）	岡田　光正（放送大学教授）
15	地球環境問題とその解決方法	低炭素社会を目指し、地球環境問題を解決するための基礎的な知識である地球温暖化と気候変動の現状とその原因である温室効果ガス排出とその影響評価について学ぶ。また、問題解決に向けた将来予測とその基礎となる排出シナリオ、さらにそれに基づく将来予測結果について学ぶ。これらは、世界全体とともに日本への影響についても考える。そして、予測される問題に対応するための2つの対策、すなわち緩和策と適応策の必要性について考えてみる。 【キーワード】 低炭素社会、地球温暖化、気候変動、IPCC、温室効果ガス、排出シナリオ、緩和策、適応策	岡田　光正（放送大学教授）	岡田　光正（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639145	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　都市社会の社会学　　（’１２）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：森岡　清志　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

都市社会に関する社会学の基礎的概念を分かりやすく説明し、その上で、戦後日本の大都市における都市化とそれに伴う地域社会の変動を、都市化、郊外化、再都市化の過程に即して説明する。また、東京圏における都市空間の変容過程、地域社会内部の構造変動、人びとのつながりの変化、格差の拡大、社会的孤立の深化、エスニシティといった諸側面について具体的に論じる。現代都市社会の諸問題を幅広く捉える視点を養うとともに、問題の相互連関についての理解を深めることができるような講義をおこなう。

授業の目標

この科目では、都市社会の中で主体的に生きるための手がかりを受講生が得るために、都市社会の歴史的変動過程を捉え、それに基づいて現代的都市問題にアプローチすることのできる知識を提供し、問題を検討する能力が育成されることを目標とする。

履修上の留意点

「社会学入門(’16)」も合わせて学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	都市・都市化・都市的生活様式	科目全体の導入回として、都市という居住地の特質、都市化の諸過程、都市的生活様式に関する理論など、都市社会学の基本的概念について説明する。また、都市化に伴う社会変動という視点が、この科目の中で一貫して重要であることも説明する。 【キーワード】 都市、都市化、都市的生活様式、人口量、人口密度、処理システム	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
2	都市化の歴史的展開	都市化の歴史的な展開について、その概略を整理して、提示する。主に、欧米における近代以降の都市化の諸段階とそれぞれの時期の特徴を、資本主義の諸段階やグローバル化の状況などとの関連で、一連の歴史過程としてモデル的に整理する。 【キーワード】 都市化、郊外化、資本主義、フォーディズム、グローバル化	玉野　和志（首都大学東京教授）	玉野　和志（首都大学東京教授）
3	日本都市の歴史的展開	日本における都市化の歴史的な展開について、欧米を中心に整理したモデルとの比較で、どのような具体的な時期の違いや特殊性が見られるかについて、全般的な解説を行う。 【キーワード】 都市化、郊外化、再都市化、高度経済成長、バブル経済	玉野　和志（首都大学東京教授）	玉野　和志（首都大学東京教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	日本都市の地域形成	日本における都市化の歴史的な展開を前提として、それぞれの時期に都市の地域集団や社会構造が具体的にどのような変遷を経て、どのような地域社会を形成してきたかについて、解説する。 【キーワード】 町内会・自治会、住民運動、市民活動、コミュニティ	玉野　和志（首都大学東京教授）	玉野　和志（首都大学東京教授）
5	社会調査としての地図づくり	オフィスビルや工場・倉庫、商店街、住宅地など、空間構造として具現化した都市の社会構造を捉えるための手法として、社会地図が用いられてきた。日常の生活世界を「地図」という表現手段で表すために、どのような工夫がなされてきたかを学び、社会地図を用いて都市社会全体を俯瞰する視点を得る。 【キーワード】 空間構造、社会構造、主題図、社会地区分析、社会地図	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）
6	大都市の社会・空間構造の変化：郊外化	東京大都市圏には、戦後一貫して大量の人々が流入している。就学・就業のチャンスを求めて集まった大量の人々は、ひとまず、そのチャンスが集中している都心近くに居住する。しかしながら、結婚し、子供が生まれるようになると、より広い住空間を求めて、郊外へと移住することが多い。郊外化という社会現象を、都市の発展の時間と家族の時間という2つの時間軸によって考察する。 【キーワード】 東京大都市圏、チャンス、都心、郊外化、2つの時間軸	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）
7	大都市の社会・空間構造の変化：再都市化	東京都の社会動態を見ると、1960年代後半から1990年代前半までは、ほぼ一貫して、転出数が転入数を上回っていた。しかしながら、それ以降転出数が転入数を下回るようになった。これが、再都市化という社会現象である。再都市化という社会現象を、グローバル化、IT化などの、日本社会全体が経験した大きな社会変化とともに考察する。 【キーワード】 社会動態、再都市化、グローバル化、IT化	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）
8	近代の都市化と工業地域の形成 ー「月島」の出現	東京都中央区月島を事例に、近代東京において工業地域や労働者集住地区が形成された過程を概説する。近代都市の空間構造の形成と、社会構造が密接に関連していることを理解してもらうことをめざす。 【キーワード】 都市化、東京湾埋立、工業地域、佃島、月島、工場労働者、自営業者、月島調査	武田　尚子（早稲田大学教授）	武田　尚子（早稲田大学教授）
9	住商工地域の生活世界と文化的資源 ー「もんじゃ」の進化	都心部の住商工混在地区としてローカル・アイデンティティを維持してきた月島の、ローカルな食文化のシンボルの1つ「もんじゃ」に焦点をあて、高度成長期後に、アイデンティティの変化に直面せざるを得なくなった状況を概説する。 【キーワード】 住商工混在地区、ローカル・アイデンティティ、もんじゃ、集合的記憶、ローカル文化、脱工業化	武田　尚子（早稲田大学教授）	武田　尚子（早稲田大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	都市再開発とローカル・アイデンティティの変容 ー「もんじゃの街」	東京ウォーターフロントの再開発にともなって、湾岸エリアの都市交通網の再整備、もんじゃ店経営者に特化した同業者組合の結成、メディア・広報戦略の的確な利用が、月島で新たなローカル・アイデンティを生み出していった過程を概説する。 【キーワード】 都市再開発、ウォーターフロント、都市基盤整備、サービス業就業者集住地域、同業者組合、メディアと地域社会	武田　尚子（早稲田大学教授）	武田　尚子（早稲田大学教授）
11	都市化とパーソナル・ネットワーク	初期シカゴ学派が提起した「都市化に伴う第一次的関係の衰退」という仮説をめぐり、どのような議論が展開されてきたのか、また第一次的関係に替えて、パーソナル・ネットワークという言葉がどのように使われてきたのか、これらの諸点について分かりやすく説明する。 【キーワード】 第一次的関係、第二次的関係、社会的ネットワーク、パーソナル・ネットワーク、友人ネットワーク、都市度	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
12	都市社会の階層化	近代都市の形成過程は、人びとが様々な社会的地位に組み込まれ、移動していく過程でもあった。それは国内はもとよりグローバルな社会の動きとも連動して生じてきた。こうした過程によって都市には階層・階級構造が形成される。それを都市社会学はどのように描きだしたのか。主に日本での事例を交えて概説する。 【キーワード】 社会階層、社会移動、都市の構造分析、都市の権力構造、新都市社会学、世界都市	稲月　正（北九州市立大学教授）	稲月　正（北九州市立大学教授）
13	都市社会の貧困と社会的排除	急速な産業化・都市化は、様々な都市問題を生み出した。その一つが貧困と社会的排除の問題である。それらは90年代後半の野宿者の顕在化を契機として大きくクローズアップされている。社会的排除と都市政策の展開について、北九州市での「ホームレス」の調査と支援活動を事例として考える。 【キーワード】 貧困、社会的排除、都市下層、ハウスレス、ホームレス、新しい公共	稲月　正（北九州市立大学教授）	稲月　正（北九州市立大学教授） ゲスト：奥田知志（NPO法人北九州ホームレス支援機構理事長）
14	都市社会のエスニック関係	都市は、多様なエスニシティを持つ人が出会う場所である。その一方でエスニシティの違いは、階層的地位とも絡み合いながら、都市内部での紛争や対立も生み出してきた。そうした中で多文化共生はいかにして可能か。事例をもとに考える。 【キーワード】 エスニシティ、初期シカゴ学派都市社会学、トランスナショナル・コミュニティ、バイパス結合、顔の見えない定住化、多文化共生、統合	稲月　正（北九州市立大学教授）	稲月　正（北九州市立大学教授）
15	コミュニティ形成と新しい都市的生活様式	コミュニティ形成とは、地域社会ごとに共同の生活問題を処理するシステムを改革し、最適な処理システムを構築してゆく営みであること、そのことが専門処理への高度依存から脱却し新しい都市的生活様式を形成する営みでもあることを説明する。 【キーワード】 共通・共同の生活問題、専門処理、問題処理システムの改革、住民力	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639420	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 移動と定住の社会学 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Sociology of Migration and Settlement (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：北川 由紀彦 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：丹野 清人 （首都大学東京教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

近代社会の特徴の一つは、人の「移動」である。本科目では、現代社会を、人の移動と定住という観点から社会学的に解読していく。具体的には、海外からの移住労働者、国内における都市移住・出稼ぎ者、「ホームレス」などの住居喪失者といった人々に注目し、そうした人びとが生み出される構造的な背景や彼ら・彼女らをとりまく諸問題について、社会学の研究成果等を参照しながら、論じていく。

授業の目標

国際移動・国内移動に関する理論や実証的な研究動向の理解を通じて、現代社会についてのより深い洞察力を獲得することを目標とする。

履修上の留意点

社会学の入門科目を履修するなどして社会学の基本的な概念を学んでいることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	近代社会と移動	科目全体のイントロダクションとして、「移動」という概念が近代社会の中においてどのような意味を持つのか、また、社会学において「移動」がどのように論じられてきたのかを概観したうえで、各回の概要を紹介する。 【キーワード】 近代社会、社会的地位、社会移動と空間的移動	北川 由紀彦（放送大学准教授）	北川 由紀彦（放送大学准教授）
2	外国人から見る「移動」の意味	移動といっても、国民である日本人とそうではない外国人とでは全く意味が異なってくる。日本人と外国人の間に存在する移動をめぐる意味の違いを説明する。 【キーワード】 外国人労働者の受入れ、日系人、研修生（技能実習生）、国際労働力移動	丹野 清人（首都大学東京教授）	丹野 清人（首都大学東京教授）
3	労働市場の論理と外国人	資格外就労者を取り巻く環境は、日本で就労することがみとめられている日系人労働者とは大きく異なる。ネットワークとしてみたときの資格外就労者の労働市場を、筆者がこれまで調査してきたパキスタン、バングラデシュそしてイランからの労働者の例から考えてみたい。 【キーワード】 エスニックネット、職長ネット、エスニック・ブローカー、間接信用	丹野 清人（首都大学東京教授）	丹野 清人（首都大学東京教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	日系人とは誰か	1990年の「出入国管理及び難民認定法」（入管法）改正を含めた日本の法体系のなかで、(1)なぜ日系人のみに就労制限が置かれなかったのか、(2)日系人にのみ特別な地位を与える根拠に相当する考え方はどこから生まれたのか、ということについて考える。 【キーワード】 日本人、出生地主義、血統主義、元祖日本人、日系人	丹野　清人（首都大学東京教授）	丹野　清人（首都大学東京教授）
5	日系人と労働市場（1） －日系人が分配されるメカニズム－	日系ブラジル人を送り出す業務請負業および業者の実態、業務請負業のキャリアパスから見えてくる日系ブラジル人の労働市場の特徴、業務請負業の規模の違いによる様々な雇用形態、雇用規模による請負業務の違いなどについて考察する。 【キーワード】 業務請負業、切り離し装置、市場の階層化	丹野　清人（首都大学東京教授）	丹野　清人（首都大学東京教授）
6	日系人と労働市場（2） －労働市場と共進化する滞在様式－	日系人や外国人労働者の雇用が広がってくると、その属性や市場は変化してくる。当初は男性の単身デカセギだったものが家族と一緒に住むようになり、あるいは日本人と結婚したりという状況も生まれてくる。それによって労働市場は複雑化していく。また、滞在が長期化すると日系人の目的や意識も変化し、生活や雇用の上でメリットもデメリットも生まれてくる。それらを労働市場の変遷とともに理論的に明らかにしていく。 【キーワード】 労働市場の複雑化、共進化、賃金ゲーム、滞在ゲーム、権利ゲーム、戦略的相互補完性	丹野　清人（首都大学東京教授）	丹野　清人（首都大学東京教授）
7	顔の見えない定住化	外国人住民が近隣に住んでいることに無自覚になっている日本住民は決して少なくない一方で、日本に外国人労働者問題があることについての共通認識は存在している。なぜ、社会問題としての外国人の存在を知りつつも、身近な問題としては捉えられないのか。この回ではこのことについて考える。 【キーワード】 顔の見えない定住化、強制されたフリーライダー	丹野　清人（首都大学東京教授）	丹野　清人（首都大学東京教授）
8	「行政からの顔の見える化」と「顔の見えない定住化」の並存	外国籍住民の定住化の現在を考えることで、リーマンショックとその後の世界同時不況がいかに外国人の行動に影響を与えたのかを、制度の社会学の観点から捉える。そして、制度の社会学の観点からみることで、外国人の移動と定住を考える際には、一国内・一地域内に閉じない視点が必要になることを示す。 【キーワード】 制度の社会学、編入様式、上からの顔の見える化	丹野　清人（首都大学東京教授）	丹野　清人（首都大学東京教授）
9	都市移住と過疎	日本社会は急激な人口移動を経験してきたが、そうした移動の内実としては、村落から都市への移住の比重が大きい。この回では、国内における村落部から都市部への人口移動について概観するとともに、その結果として生じてきた過疎という現象について論じる。 【キーワード】 都市移住、過疎、「限界集落」論、家族の世代間地域住み分け	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	都市移住と同郷団体	都市での生活は人々の親密な絆を衰退させる、としばしば考えられてきたが、必ずしもそうではない。この回では、村落から都市への移住者達が「同郷」であることを契機として結成してきた同郷団体が果たしてきた機能とその意味について論じる。 【キーワード】 親密な絆、同郷団体、手段的機能/表出的機能	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）
11	「出稼ぎ」という移動	日本社会においては、村落部や「地方」からその外部への「出稼ぎ」という移動の形態が存在してきた。ただし、「出稼ぎ」という移動はいくつかのヴァリエーションを含みつつ、大きく変容してきた。この回では、「出稼ぎ」という移動形態の多様性と趨勢、変容の背景などについて論じる。 【キーワード】 賃労働型出稼ぎと伝統型出稼ぎ、女性の出稼ぎ	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）
12	流動的日雇労働者の世界	都市で暮らし働きつつも定住することなく流動的な生活を余儀なくされてきた日雇労働者に注目し、その生活と労働の過程、労働市場の中での位置について論じる。 【キーワード】 寄せ場、日雇労働者、建設業、流動性、匿名性	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）
13	「ホームレス問題」の背景	1990年代以降に日本社会において社会問題として広く取り沙汰されるようになった野宿者、いわゆる「ホームレス」の人々をとりあげ、その基本的な社会的属性、析出過程と構造的背景について論じる。 【キーワード】 野宿者と「ホームレス」、職住一体型住居、路上生活、生き抜き戦略	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）
14	「ホームレス対策」が問いかけるもの	日本社会で展開されてきたホームレス対策の基本的性質と、その中でも大きな位置を占める「自立支援策」の実施状況について検討を行ったうえで、住居を喪失した人々を社会的に（再度）包摂していくためには何が課題であるのかについて考えていく。 【キーワード】 「ホームレス対策」、自立支援策、社会的包摂	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授）
15	流動性の高まりの中で	各回で論じてきた内容のいくつかをピックアップして振り返りながら、それらの関係について考える。 【キーワード】 「年越し派遣村」、帰国支援事業	北川　由紀彦（放送大学准教授）	北川　由紀彦（放送大学准教授） 丹野　清人（首都大学東京教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639285	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会と銀行 （’１４）＝ （ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 The Role of Banks in Modern Society (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）〕

【本学担当専任教員：坂井　素思（放送大学教授）】

講義概要

1980年代後半のバブル経済から1990年代にかけて、日本の金融機関は混乱から大変革の時代を経験した。変化は不良債権処理、金融再編、情報化という技術進歩、それに金融規制の局面において著しかった。2008年からの、アメリカのサブプライムローン問題、最近のユーロ危機が加わった。そうした変化の中で、この科目では、消費者にとっての銀行、企業にとっての銀行、決済ネットワークのノードとしての銀行、資産運用市場における銀行、グローバル競争下の銀行、ヨーロッパの銀行によるギリシャ国債などの保有、財政危機と銀行行動など、銀行の役割と社会の中での機能について考える。

授業の目標

この科目では、伝統的な金融論の枠組みを越えて、幅広い視点から銀行の業務と社会的役割について再考し、ダイナミックに変化する現代社会における銀行の存在意義と公共性について考察することを目標とする。受講者は、金融論の文献に登場する銀行ではなく、生身の人間の集団としていまに生きる銀行の姿を理解し、その将来を展望する作業に参加して欲しい。

履修上の留意点

放送大学の科目としては「経済学入門」と「現代経済学」を履修していることが望ましいが、預金や住宅ローンを通じて銀行と取引のある人、企業経営において日常的に銀行と接している、政策的視点から銀行業に関心のある人、資産運用について考えている人など、銀行に何らかの関心のある人はすべてこの科目の受講資格がある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本の資金循環 ーお金の流れ	多くの人は経済といえばお金を連想するが、お金とはいったい何だろうか。わたしたちが銀行に預け入れたお金はどこへ行くのだろうか。金融機関はビジネスであると同時に、どのような公共的役割を担っているのだろうか。金融機関は何を仲介しているのだろうか。金融の流れと実体経済とはどのように関連しているのだろうか。銀行が国債を購入したり、企業に資金を貸し出す動きと、経済への影響を考察する。 【キーワード】 お金とは何か、金融仲介機能、実体経済と金融	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）
2	金融システムにおける銀行の役割	多くの金融機関や金融市場とそれを支える法律や制度が集まって金融システムは構成されている。その中で銀行が果たしている役割は何だろうか。銀行が扱うサービスはなぜ金融商品と呼ばれているのか。金融システムを特徴づける言葉としての直接金融と間接金融とはどのような意味なのだろうか。金融市場と銀行の関係についても言及したい。 【キーワード】 金融システム、銀行が扱う金融商品、直接金融、間接金融	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）
3	消費者と銀行	消費者にとって銀行はお金を預ける場所であり、お金を借りる場所でもある。銀行の消費者向けのサービスにはどのようなものがあるのか。銀行が扱う預金商品と投資信託商品はどう異なるのだろうか。住宅ローンや個人向けローンを借りるときの注意点はどのようなことだろうか。ATMでの送金はどのように行われているのだろうか。 【キーワード】 預金商品、投資信託商品、住宅ローン、個人向けローン、利用上の注意	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	信託ビジネスとは	信託ビジネスとは何だろうか。高齢社会において消費者の資産運用ニーズはどう高まっているのだろうか。それに信託商品はどう応えられるのだろうか。なぜ預金と信託は区別された別の商品となっているのだろうか。信託サービスに必要な専門性とは何だろうか。信託勘定の収益状況を分析し、今後の課題を探ってみよう。 【キーワード】 専門的な業務、増加する資産運用需要、収益状況、今後の課題	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）
5	企業と銀行	銀行とまったく取引のない企業は存在しない。企業に対して銀行はどのようなサービスを提供してくれるのだろうか。銀行の企業向け貸出にはどのような種類と特徴があるのだろうか。地方自治体など公共法人と銀行はどのような取引をしているのだろうか。外国にある商業銀行と投資銀行の区別は日本ではどうなっているのだろうか。企業の投資活動と銀行による貸出の関係についても解説する。 【キーワード】 企業向け貸出、資金決済サービス、公共法人等との取引	前多　康男（慶應義塾大学教授）	前多　康男（慶應義塾大学教授）
6	資金決済ネットワーク	たとえ個別の銀行は倒産することがあっても、資金決済ネットワークは崩壊してはならないと言われる。小切手、手形、銀行間の資金決済、日本銀行との関係など、資金決済ネットワークはどのような仕組みで、誰によって担われているのだろうか。電子マネーの利用はどの程度進んだのだろうか。また、今後銀行以外の企業による送金業務への新たな参入は起こるのだろうか。 【キーワード】 為替取引、日銀ネット、システミックリスク、預金保険、電子マネー	翁　百合（日本総合研究所主席研究員・理事）	翁　百合（日本総合研究所主席研究員・理事）
7	短期金融市場	短期金融と長期金融とは何に基づく区別だろうか。短期金融市場にはどのような種類があり、どのような構造を成しているのだろうか。ドルなどの外国為替市場には誰が参加し、その意義はどう評価できるのだろうか。短期金融市場における銀行の役割とは何だろうか。日本銀行の金融政策は短期金融市場にどのような影響を及ぼすのだろうか。 【キーワード】 短期金融市場の種類と構造、外国為替市場の意義、市場における銀行の役割	福田　慎一（東京大学教授）	福田　慎一（東京大学教授）
8	日本銀行と金融政策	日本銀行は発券銀行であり、銀行の銀行であり、政府の銀行だと言われる。日本銀行の仕事は何だろうか。日本銀行は自由にお金を発行できるのだろうか。日本銀行の貸借対照表を見てみよう。日本銀行はどのような政策手段を用いて、何を目標として金融政策を行うのだろうか。 【キーワード】 日本銀行の仕事、日本銀行の貸借対照表、金融政策の目的、金融政策の手段	福田　慎一（東京大学教授）	福田　慎一（東京大学教授）
9	バブル・不良債権・預金保険機構	1980年代後半からの日本経済のバブル現象とそれに続くバブル崩壊はどのように進行したのだろうか。金融機関が抱えた大量の不良債権はどう処理され、金融機関の破綻処理はどう進められたのだろうか。公的資本増強はどのような効果を持っていたのだろうか。預金保険機構に求められる新たな役割とは何だろうか。バーゼル自己資本比率規制の強化とは、どのような内容かを解説したい。 【キーワード】 バブルの生成と崩壊、金融機関の破綻処理、不良債権問題、公的資本増強、預金保険機構の役割	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	デリバティブー新しい金融手法の発達	不動産貸付、企業向け貸出、債券、株式などを食材になぞらえれば、金融派生商品（デリバティブ）は華麗な料理に例えられるかもしれない。リスク分散や資産の流動化など、どのような目的でデリバティブは作られ、金融工学理論はどのような役割を果たしたのか。デリバティブの構造に立ち入り、新しい金融手法の発達が銀行にもたらす役割の変化に注目する。 【キーワード】 資産流動化市場、貸出債券市場、デリバティブの構造、市場における銀行の位置	前多　康男（慶應義塾大学教授）	前多　康男（慶應義塾大学教授）
11	金融再編とメガバンク	2000年以降の日本では、大型金融再編が相次ぎ、4大メガバンクが誕生した。銀行に規模の利益はあるのだろうか。金融持株会社の意義はどこにあるのだろうか。メガバンクはどのような国際的な活動を行っているのだろうか。メガバンク化は国際的にも進展しているのだろうか。メガバンクの収益率を見てみよう。 【キーワード】 金融再編、メガバンクグループ、国際的な活動、収益状況	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）
12	インターネット銀行	90年代以降金融機関に起こった大きな変化の1つは情報化だった。銀行と消費者や企業の間にはどのようなネットワークが拡大し、情報化によって店舗やアクセス市場はどう変化してきたのだろうか。インターネット銀行の新しさはどこにあるのだろうか。対面取引が減っていくことで、信用基盤や金融機関の安全性に心配はないのだろうか。セキュレティ（安全性）の確保のためには、インターネット金融取引では、どのような注意が必要であるかを解説する。 【キーワード】 情報化と銀行、インターネット銀行、ネットワークの拡大、信用と安全性、決済手段	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）
13	地域金融の役割と中小企業金融	日本の企業の99％以上は中小企業だと言われる。中小企業貸出は大企業貸出や定型化された債券市場とどのように異なるのだろうか。地域銀行にはどのような種類があり、どのような特徴を持っているのだろうか。リレーションシップバンキングはなぜ見直されているのだろうか。この分野における公的金融機関の役割は何だろうか。 【キーワード】 地域銀行の種類、リレーションシップバンキング、公的金融機関の役割、中小企業金融	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）
14	金融監督と金融制度改革	日本の金融市場にとって1990年代は混乱から大変革に至った激動の時代だった。規制緩和はどう進められ、その効果はどう評価されるのだろうか。バブル崩壊後、日本の金融制度改革はどう進められたのだろうか。経営健全性規則、金融商品取引法などは何を目指し、どのような市場の姿を期待しているのだろうか。 【キーワード】 不良債権問題、自己資本比率規制、早期是正措置、金融検査、業務範囲規制の緩和、金融商品取引法	翁　百合（日本総合研究所主席研究員・理事）	翁　百合（日本総合研究所主席研究員・理事）
15	グローバル競争時代の銀行	グローバルな決済の動きについて概観する。その中でも、海外との外国為替取引について説明する。日本から海外への資金の流れ、海外直接投資、ポートフォリオ投資（債権・株式）、銀行貸出の動きを見る。また、アジア地域とアメリカ・ヨーロッパとの間の資金の流れについて説明し、アジアの高い貯蓄を如何にアジア域内で循環させるか、さらに、日本の金融業が、アジアを含む海外で活発に活動できるための方策について説明する。 【キーワード】 グローバル化、日本から世界への資金の流れ、直接投資、ポートフォリオ投資、金融規制、アジア戦略	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）	吉野　直行（慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639218	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代経済学　　（’１３）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：依田　高典　（京都大学大学院教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：坂井　素思　（放送大学教授）　】

講義概要

現代の経済学の内容と歴史をアルフレッド・ノーベル記念経済学スウェーデン国立銀行賞（いわゆるノーベル経済学賞）の歴史を振り返る形で概観していく。ノーベル経済学賞は、1968年にスウェーデン国立銀行が設立300周年祝賀の一環として、ノーベル財団に働きかけ、設立された賞である。スウェーデン王立科学アカデミーにより選考され、ノーベル財団によって認定される。ノーベル経済学を振り返れば、現代の経済学の色々な顔が見えてくるはずである。

授業の目標

経済学の理論の細部には立ち入らず、ノーベル経済学賞受賞者の生い立ちと研究業績の現代社会的意義について、分かりやすく解説していきたい。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ノーベル経済学賞の誕生 ーフリッシュとサミュエルソンー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1969年ラグナル・フリッシュ「経済過程の分析に対する動学的モデルの発展と応用を称えて」 1970年 ポール・サミュエルソン「静学的および動学的経済理論の発展に対する業績と、経済学における分析水準の向上に対する積極的貢献を称えて」 【キーワード】 ノーベル経済学賞、理論経済学、数理経済学	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）
2	現代ミクロ経済学の構築 ーヒックス、アローー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1972年 ジョン・ヒックス、ケネス・アロー「一般的経済均衡理論および厚生理論に対する先駆的貢献を称えて」 【キーワード】 一般均衡理論、厚生経済学、社会選択理論	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）
3	社会経済学の射程 ーミュルダール、ハイエクー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1974年 グンナー・ミュルダール、フリードリヒ・ハイエク「貨幣理論および経済変動理論に関する先駆的業績と、経済現象・社会現象・組織現象の相互依存関係に関する鋭い分析を称えて」 【キーワード】 社会経済学、開発経済学、制度経済学	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	アメリカ・ケインジアンの活躍 ークライン、トービンー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1980年 ローレンス・クライン「景気変動・経済政策を分析する上での経済的なモデル・手法の開発に対して」 1981年 ジェームズ・トービン「金融市場とその支出決定・雇用・生産物・価格との関連性の分析を称えて」 【キーワード】 景気循環論、経済政策、ケインズ経済学	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）
5	反ケインズ革命ののろし ーフリードマン、ルーカスー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1976年 ミルトン・フリードマン「消費分析・金融史・金融理論の分野における業績と、安定化政策の複雑性の実証を称えて」 1995年 ロバート・ルーカス「合理的期待仮説の理論を発展、応用し、1970年代以降の財政・金融政策などマクロ経済理論に大きな影響を与えた事を称えて」 【キーワード】 マネタリズム、合理的期待形成学派、サプライサイド経済学	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）
6	シカゴ学派の繁栄 ースティグラー、ベッカーー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1982年 ジョージ・スティグラー「産業構造や市場の役割・規制の原因と影響についての独創的な研究を称えて」 1992年 ゲーリー・ベッカー「非市場に於ける行動を含めた広範にわたる人間の行動と相互作用へのミクロ経済学分析の応用を称えて」 【キーワード】 産業組織論、人的資本理論、シカゴ学派	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）
7	動学的マクロ経済学の発展 ーソロー、プレスコットー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1987年 ロバート・ソロー「経済成長理論への貢献を称えて」 2004年 エドワード・プレスコット「動学的マクロ経済学への貢献：経済政策における動学的不整合性の指摘と、リアルビジネスサイクル理論の開拓を称えて」 【キーワード】 経済成長論、景気循環論、リアルビジネスサイクル理論	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）
8	金融経済学の革新 ーマーコヴィッツ、ショールズー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1990年ハリー・マーコウィッツ「資産形成の安全性を高めるための一般理論形成を称えて」 1997年マイロン・ショールズ「「金融派生商品（デリバティブ）価格決定の新手法」に対して。オプション評価モデルであるブラック-ショールズ方程式の開発と理論的証明」 【キーワード】 ポートフォリオ理論、金融工学	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）
9	国際経済学の精緻化 ーオリーン、マンデルー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1977年ベルティル・オリーン「国際貿易に関する理論および資本移動に関する理論を開拓した業績を称えて」 1999年 ロバート・マンデル「さまざまな通貨体制における金融・財政政策（「マンデル・フレミング・モデル」）と、「最適通貨圏」についての分析を称えて」 【キーワード】 国際経済学、貿易論	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	市場と組織の経済学 ーコース、ウィリアムソンー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1991年 ロナルド・コース「制度上の構造と経済機能に於ける取引コストと財産権の発見と明確化を称えて」 2009年オリヴァー・ウィリアムソン「経済的なガヴァナンスに関する分析を称えて」 【キーワード】 取引費用経済学、制度経済学、組織経済学	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）
11	ゲームと情報の経済学 ーナッシュ、アカロフー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1994年ジョン・ナッシュ「非協力ゲームの均衡の分析に関する理論の開拓を称えて」 2001年ジョージ・アカロフ「情報の非対称性を伴った市場分析を称えて」 【キーワード】 ゲーム理論、ナッシュ均衡、情報経済学	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）
12	行動経済学の流行 ーサイモン、カーネマンー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1978年 ハーバート・サイモン「経済組織内部での意思決定プロセスにおける先駆的な研究を称えて」 2002年ダニエル・カーネマン「行動経済学と実験経済学という新研究分野の開拓への貢献を称えて」 【キーワード】 限定合理性、行動経済学、プロスペクト理論	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）
13	歴史と倫理の経済学 ーノース、センー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 1993年ダグラス・ノース「経済理論と計量的手法によって経済史の研究を一新したことを称えて」 1998年 アマルティア・セン「所得分配の不平等にかかわる理論や、貧困と飢餓に関する研究についての貢献を称えて」 【キーワード】 経済史、経済倫理学	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）
14	ノーベル賞経済学者の活躍 ースティグリッツ、クルーグマンー	今回取り上げる経済学者とそのノーベル経済学賞受賞理由 2001年ジョセフ・E・スティグリッツ「情報の非対称性を伴った市場分析を称えて」 2008年 ポール・クルーグマン「貿易のパターンと経済活動の立地に関する分析の功績を称えて」 【キーワード】 情報非対称性、空間経済学、新貿易論	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）
15	ノーベル経済学賞の忘れもの ーハロッド、森嶋通夫ー	長年、ノーベル賞候補に挙げられながら、授賞がかなわなかった、授賞に値する経済学者 ロイ・ハロッド「経済動学・経済成長論の創始を称えて」 森嶋通夫「広範な分野における数理経済学上の貢献を称えて」 【キーワード】 経済動学、経済成長論、数理経済学	依田　高典（京都大学大学院教授）	依田　高典（京都大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639137	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 労働経済 （’１２）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：松繁　寿和　（大阪大学教授）〕

【本学担当専任教員：坂井　素思　（放送大学教授）】

※この科目は「労働経済（’０８）」の一部改訂科目です。
改訂回は1, 5, 8, 9, 10, 11, 15回です。

講義概要

この授業では、まず労働経済学の基礎理論を学ぶ。労働市場の動きを労働供給と労働需要に分け、それぞれがどのように決まるかを説明する。その後、現実に起きている問題、例えば、若年労働、仕事と家庭との両立、少子高齢化などを紹介するが、できるだけ具体的な例を取り上げて問題を認識し易くする。その上で、それらの問題が理論的にどのように分析できるかを議論するとともに、制度や政策が労働市場に与えている影響も検討する。

授業の目標

第一に、労働経済の基礎理論を理解し、労働問題に接近するための経済学的考え方を身につける。第二に、現実の問題に関する理解を深める。第三に、政府やエコノミストが唱える政策がどのような理論・実証的背景を持っているのかを理解する能力を身につける。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	労働力 [改訂]	労働力に関する用語や労働市場の状況を捉えるための指標を紹介する。また、指標は、生活のどのような側面を反映しているかを学ぶ。 【キーワード】 労働力、失業、非労働力化	松繁　寿和 (大阪大学教授)	松繁　寿和 (大阪大学教授)
2	賃金と労働供給	労働市場の分析は、労働供給の動きと労働需要の動きによって決定されることを理解する準備として、労働供給がどのように決定されるかを説明する。なかでも重要な要因である賃金と労働供給の関係を考える。 【キーワード】 労働供給曲線、余暇、名目賃金、実質賃金	松繁　寿和 (大阪大学教授)	松繁　寿和 (大阪大学教授)
3	賃金以外の要因と労働供給	勤労所得以外の所得の存在が、労働供給に与える影響を考える。例えば、宝くじに当たったような場合、労働者の働き方がどのように変化をするかを理論的に考える。 【キーワード】 非勤労所得、所得税	松繁　寿和 (大阪大学教授)	松繁　寿和 (大阪大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	労働需要	企業が利潤をもとめて行動することにより、労働への需要がどのように導きだされるかを理論的に説明する。労働供給の議論と対比しながら、賃金と労働需要の関係を考える。 【キーワード】 生産関数、利潤最大化、労働需要曲線	松繁　寿和（大阪大学教授）	松繁　寿和（大阪大学教授）
5	労働時間 [改訂]	労働時間の決定に影響をおよぼす要因を、経済的要因と制度的要因の両方から探る。また、それぞれの要因によってどのようなことが労働市場で起きているのかを分析する。 【キーワード】 長時間労働、超過勤務手当、裁量労働	松繁　寿和（大阪大学教授）	松繁　寿和（大阪大学教授）
6	機械と労働	生産要素としての労働と資本、すなわち労働と機械設備との関係を取り上げる。最初に基礎的な理論を紹介し、その後、機械化がそれぞれの需要にどのような影響を与えるかを議論する。例えば、IT化がどのような労働者の需要を増加させているかなどを議論する。 【キーワード】 労働生産性、生産要素間の代替、資本と技能の補完	松繁　寿和（大阪大学教授）	松繁　寿和（大阪大学教授）
7	海外との競争	企業が世界規模での競争を余儀なくされていることに注目し、日本企業の海外移転がどのような影響を日本の労働市場に与えているかを検討する。また、たとえ企業が海外に移転しなくても、生産物の競争によって、間接的に海外の労働価格が国内の労働価格に影響をおよぼすことを説明する。 【キーワード】 グローバル化、海外移転、産業空洞化	松繁　寿和（大阪大学教授）	松繁　寿和（大阪大学教授）
8	若者と労働 [改訂]	若者の就労意識の変化や不安定な就労の恒常化などの問題を、労働経済学の視点から供給面での変化と需要面での変化に分けて整理し、どのような要因によってそれらが生じているかを検討する。 【キーワード】 ニート、フリーター、就職活動	松繁　寿和（大阪大学教授）	松繁　寿和（大阪大学教授）
9	女性と労働Ⅰ [改訂]	男女間に存在する経済格差に注目し、それがどのように生じるかを考える。また、最近増加している非正規雇用の問題を、特に女性就労の点から取り上げる。 【キーワード】 男女間格差、統計的差別、非正規化	松繁　寿和（大阪大学教授）	松繁　寿和（大阪大学教授）
10	女性と労働Ⅱ [改訂]	まず、結婚出産で仕事を辞め家庭に入るという現象を紹介する。また、少子化がどのように進んできたのかを観察し、女性の労働力化との関係を探る。さらに、近年注目されている均等施策や両立支援策を紹介し、どのような効果が期待されているのかを議論する。 【キーワード】 M字カーブ、少子化、両立支援策	松繁　寿和（大阪大学教授）	松繁　寿和（大阪大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	高齢者と労働 [改訂]	年功に経済合理的意味を与えた労働経済学の理論も紹介する。一方、そのような人事・処遇制度において生じる高齢者雇用の問題を取り上げる。 【キーワード】 年功、定年、年金	松繁　寿和 (大阪大学教授)	松繁　寿和 (大阪大学教授)
12	人事制度と労働意欲	まず、人事・処遇制度の中身を説明し、年功的賃金や昇進がどのように生じるかを説明する。また、労働意欲を向上させるための、報酬・処遇制度における工夫も紹介する。 【キーワード】 労働意欲、報酬、成果	松繁　寿和 (大阪大学教授)	松繁　寿和 (大阪大学教授)
13	中小企業、開・廃業	まず、日本における賃金の規模間格差を観察する。さらに、開業率や廃業率の推移をみることで、経済の新陳代謝の問題を考える。 【キーワード】 中小企業、開業、廃業	松繁　寿和 (大阪大学教授)	松繁　寿和 (大阪大学教授)
14	コーポレートガバナンスと労働組合	企業経営におけるさまざまなステークホルダーの存在をみることで、企業は一体誰のものであるかを考える。また、従業員の利益を守ってきた組合を取り上げ、その行動様式を理論的に説明するとともに、歴史的変遷と現在抱えている問題を議論する。 【キーワード】 コーポレートガバナンス、ステークホルダー、組合	松繁　寿和 (大阪大学教授)	松繁　寿和 (大阪大学教授)
15	格差とセーフティーネット [改訂]	これまでに見てきた各テーマを格差の視点から捉え直すことで、格差が発生しているメカニズムを明らかにする。また、セーフティーネットに関する政策と、その影響を検討する。 【キーワード】 ジニ係数、格差拡大、機会の不平等、セーフティーネット	松繁　寿和 (大阪大学教授)	松繁　寿和 (大阪大学教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639129	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　日本経済史　　（’１２）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：宮本　又郎　（大阪大学名誉教授）　〕

【本学担当専任教員：坂井　素思　（放送大学教授）　】

※この科目は「日本経済史(’08)」の一部改訂科目です。
改訂回は1，3，13，14，15回です。

講義概要

江戸時代から今日にいたる日本経済の展開過程を全15回にわたって講義します。まず基本的な経済諸量の動きから、長期の経済発展の過程を概観します。ついで各時代の重要な経済史的トピックスについて解説しますが、そのさい、マクロ経済の動きや産業組織、経済諸制度や経済政策の動向とともに、企業や企業組織、企業家の活動、家計と消費、技術と労働などの側面に言及します。講義はできるだけ具体的な資料や事例を紹介しながら進めます。

授業の目標

全15回の講義を通じて、江戸初期以降今日までの約400年において、日本の経済がどのような足跡を辿ってきたのか、どのような節目があったのか、そして、今日我々はどのような到達点に立っているのかについて、理解できるようになることを目標とします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本の経済発展の長期的概観 －世界との比較－ ※改訂回	まず最初に、世界経済の歩みのなかでの日本経済の位置を明らかにすることを目的として、西暦1年～2001年における世界各国の人口、実質GDP(国内総生産)、1人当たりGDPの動きを観察します。次いで、有史以来の日本の人口動向とその地域分布を明らかにし、最後に19世紀末以降現代にいたる日本の近代経済成長の過程を概観します。 【キーワード】 世界経済2000年史、人口、実質GDP、1人当たりGDP、人口変動の4つの波、日本の近代経済成長、人口重心の移動	宮本　又郎（大阪大学名誉教授）	宮本　又郎（大阪大学名誉教授）
2	江戸時代の経済と社会	歴史学上「近世」と呼ばれる江戸時代が、古代・中世と比べてどのような歴史的特質をもっていたかを解説します。次に、人口、耕地面積、石高、物価などの動きから、江戸時代の経済発展の過程を観察し、江戸時代は大きく3つの局面に分けられることを明らかにします。また、この経済発展の過程で、農村や都市でどのような変化が生じたのかを検討することにしましょう。 【キーワード】 近世、人口爆発、大開墾、貨幣経済、物価、経済成長、三都	宮本　又郎（大阪大学名誉教授）	宮本　又郎（大阪大学名誉教授）
3	幕末開港・明治維新から近代経済成長へ ※改訂回	ペリー来航を契機に日本は開国し、開放経済体制へ移行しました。開港が日本経済にどのような影響を与えることになったのかを検討し、ついで明治維新期の諸変革について解説します。その後第一次世界大戦までの経済成長の要因、貿易の役割などについて論じます。 【キーワード】 日米修好通商条約、開港、貿易と諸産業への影響、廃藩置県、秩禄処分、地租改正、藩債整理、金融制度改革、殖産興業政策、近代経済成長、貿易の役割、日清・日露戦争	宮本　又郎（大阪大学名誉教授）	宮本　又郎（大阪大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	近代化の進展と伝統的要素	江戸時代以来の伝統的要素が近現代の日本経済にいかに継承され、変容していったのかを考察します。それは衣食住などの個人消費や、企業経営のあり方などに大きな影響をもたらし、日本の経済発展に個性を加えました。 【キーワード】 工業化、在来産業、近代産業、農村工業、織物業、醸造業、工芸品的工業	阿部　武司（国士舘大学教授、大阪大学名誉教授）	阿部　武司（国士舘大学教授、大阪大学名誉教授）
5	産業革命	1880年代後半に始まる「企業勃興」以降、日本経済は資本主義的な企業が主導する経済発展を始めます。躍動的な資本主義経済を支えたのは資本市場、金融市場、労働市場といった市場制度と、効率的な生産組織でした。それらの形成と相互関係を検討します。 【キーワード】 製糸業、紡績業、鉄道業、制度の効率性、組織の効率性、誘因の制御	中林　真幸（東京大学社会科学研究所教授）	中林　真幸（東京大学社会科学研究所教授）
6	戦間期における長期不況とその克服	第一次大戦期から戦間期の日本の経済発展をマクロ的側面から解明します。大戦中・後のバブル、その崩壊と長期不況、そこからの回復という景気動向、それと深く関わる政府の経済政策、長期不況下で顕在化した二重構造などが主なトピックです。 【キーワード】 第一次大戦、長期不況、関東大震災、金融恐慌、昭和恐慌、金解禁、井上準之助、高橋是清、二重構造	阿部　武司（国士舘大学教授、大阪大学名誉教授）	阿部　武司（国士舘大学教授、大阪大学名誉教授）
7	戦間期の産業と企業	第一次大戦期から戦間期のミクロ経済の動向を考察します。まずこの時代の重化学工業化の状況を解説し、次いで大企業体制とはどのようなものだったのか、財閥はどのような行動をとったのかを検討し、最後に電鉄・デパート・新消費財などの都市型ビジネスの台頭について論じます。 【キーワード】 重化学工業化、大企業体制、財閥の多角化、新興コンツエルン、都市型ビジネス、小林一三	宮本　又郎（大阪大学名誉教授）	宮本　又郎（大阪大学名誉教授）
8	経済発展の担い手ー企業組織と企業家ー	まず会社制度、とくに株式会社制度が江戸時代から明治時代において、どのようにして生まれ、展開したかを明らかにします。次いで、明治期の株式会社の特質、企業統治のあり方を検討し、最後に、財閥と株式制度との関係について論じます。 【キーワード】 共同企業、株式会社、合資会社、合名会社、三井大元方、総有、所有と経営の分離、有限責任制、商法、専門経営者	宮本　又郎（大阪大学名誉教授）	宮本　又郎（大阪大学名誉教授）
9	戦前日本の技術発展	明治期から昭和戦前期にいたる技術と労働のあり方について、技術導入と自主開発の関係、技術教育の展開、技術者の技能形成、間接的管理から直接的管理への移行、労働運動の展開と協調的労使関係の形成などを中心に検討します。 【キーワード】 高等工業学校、帝国大学、研究開発、国立研究所、試験研究機関、間接的管理、直接的管理	沢井　実（南山大学教授）	沢井　実（南山大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	戦時統制経済と戦後改革	日中戦争期から高度成長前夜までの経済統制の時代＝「動員」と「復員」および市場経済への復帰の時代を対象にして、日本経済と日本企業はいかに変貌したのか、その際にアメリカ主導で遂行された戦後改革がどのような影響を与えたのかを考察します。 【キーワード】 戦時経済統制、戦時増産政策、戦後経済改革、ドッジ・ライン、朝鮮戦争ブーム、産業合理化政策、企業合理化政策	沢井　実（南山大学教授）	沢井　実（南山大学教授）
11	高度経済成長	1950年代なかごろから70年代初頭にかけて、日本は世界に類例をみない高度経済成長を達成しました。本章では、まず高度成長の過程とその間におきた景気循環を年代記的に振り返ります。ついで、高度経済成長の要因を需要サイドと供給サイドの両面から検討します。最後に、高度成長の帰結について考察することにしましょう。 【キーワード】 神武景気、岩戸景気、いざなぎ景気、投資主導型成長、大衆消費社会、三種の神器、技術革新、エネルギー革命、成長のひずみ	宮本　又郎（大阪大学名誉教授）	宮本　又郎（大阪大学名誉教授）
12	技術革新と労働の変化	国公立試験研究機関、大学、民間企業によって構成されるナショナル・イノベーション・システムの変化、科学技術政策の展開と通産省・文部省・科学技術庁の役割、技術導入から自主開発への動き、戦後労働運動の変遷、技術革新と労働過程の変化などについて論じます。 【キーワード】 科学技術政策、工業技術院、科学技術庁、技術導入、共同研究、職務給、職能給、労働運動	沢井　実（南山大学教授）	沢井　実（南山大学教授）
13	世界経済の統合と日本経済 ※改訂回	1970年代以降、国際市場の統合が進むなか、製造業大企業は持続的な技術進歩によって輸出を拡大し、安定成長を牽引しました。1980年代までの成長を支えた企業統治と労働組織の構造と、1990-2000年代におけるその変化を分析するとともに、2010年代における展望を示します。 【キーワード】 日本的経営、長期雇用、内部労働市場、間接金融体制、産業政策、メインバンク	中林　真幸（東京大学社会科学研究所教授）	中林　真幸（東京大学社会科学研究所教授）
14	日本企業の成熟と金融制度改革 ※改訂回	1960年代、日本がまだ発展途上国であったときには、政府が計画的に資金を割り当てる産業政策は一定の役割を果たしました。しかし、1970年代以降、製造業大企業が著しく発展すると、金融制度もそれに合わせて自由化することが求められました。1980-1990年代における金融制度改革と、それが2000年代以降の日本経済に及ぼしている影響を分析します。 【キーワード】 バブル経済、橋本龍太郎内閣、金融ビッグバン、構造改革	中林　真幸（東京大学社会科学研究所教授）	中林　真幸（東京大学社会科学研究所教授）
15	日本経済のゆくえ ※改訂回	はじめに、21世紀に入ってからの日本経済の短期的な変動を振り返ります。次いで、エネルギー、地球環境、高齢社会など現在の日本経済が抱える課題について整理します。そして最後に、50年後の日本経済に思いを馳せ、ケインズが「わが孫たちの経済的可能性」を語ったように、未来へ向けての日本経済史を想像してみましょう。 【キーワード】 世界同時不況、エネルギー、地球環境、高齢社会、50年後の日本経済、人口動態、超国籍経済	林　敏彦（大阪大学名誉教授）	林　敏彦（大阪大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639366	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 財政と現代の経済社会 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Public Finance and Modern Economic Society (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：諸富　徹　（京都大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：坂井　素思　（放送大学教授）】

講義概要

本講義は、教科書に沿って、どの学部出身であろうと初学者にも分かる形で体系的に経済学の観点から財政学の講義を行うことで、基礎知識を獲得してもらうことを目的とする。その内容は下記の通りで、財政学の主要トピックスをほぼ網羅するものとなっている。他方で、「グローバル化」をキーワードとして、日本財政が直面する最先端の課題と、それを解決していくための最新の知見を紹介する。

授業の目標

本講義では、財政と経済、そして社会との相互関係が理解しやすいよう講義する。また、われわれにとって財政システムとは何なのか、一見、遠く思える財政システムが、実は我々の生活と密接にかかわっており、その分析・理解能力を身に着けることがすなわち、現代社会を理解することに他ならないことを理解できるようにしたい。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	財政学と現代日本の財政	1. 日本財政の現状 2. 日本の財政危機と財政システムの持続可能性 3. 財政学は何を考えるべきか 【キーワード】 財政、財政学、歳出、歳入、予算、国庫、国債(公債)残高、財政破綻、財政の持続可能性	諸富　徹（京都大学大学院教授）	諸富　徹（京都大学大学院教授）
2	国家の役割とは何か	1. 国家・市場・市民社会 2. 国家の経済的機能とは何か？ 3. 国家の経済目的と社会的価値の選択 【キーワード】 国家、市場、市民社会、社会的価値、マスグレイブ、財政3機能、資源配分機能、所得再分配機能、経済安定化機能、社会的厚生関数	諸富　徹（京都大学大学院教授）	諸富　徹（京都大学大学院教授）
3	経費の発展と社会変動	1. 公共財の理論 2. 経費の歴史的・制度分析 【キーワード】 公共財、ただ乗り(フリーライド)、非排除性、非競合性、サミュエルソン条件、リンダール・メカニズム、経費膨張の法則(ワグナー法則)、転位効果、クラークの臨界仮説	諸富　徹（京都大学大学院教授）	諸富　徹（京都大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	公共投資・財政改革・産業構造転換	1. 公共投資とは 2. 公共投資と社会資本 3.「国土政策」の光と影 4.「公共投資依存」からの脱却と財政改革～長野県の財政改革 【キーワード】 公共投資、社会資本、生産関連社会資本、生活関連社会資本、国土政策、全国総合開発計画、拠点開発方式、公共投資依存経済、財政改革、産業構造転換	諸富　徹（京都大学大学院教授）	諸富　徹（京都大学大学院教授）
5	社会保障と費用負担制度	1. 社会保障の財政規模 2. 福祉国家モデルと費用負担制度 3. 日本の社会保障制度と費用負担原理 【キーワード】 社会支出、租税、社会保険料、公費負担、社会福祉国家モデルの3類型、普遍主義モデル、社会保険モデル、市場重視モデル、基礎年金、老人保健制度、後期高齢者医療制度	諸富　徹（京都大学大学院教授）	諸富　徹（京都大学大学院教授）
6	社会保障各論 －年金・医療・介護・生活保護－	1. 年金 2. 医療 3. 介護 4. 生活保護 【キーワード】 国民皆年金、公的年金、積立方式、賦課方式、基礎年金、国民皆保険、国民健康保険、後期高齢者医療制度、介護保険、生活保護、公的扶助、最低生活水準	諸富　徹（京都大学大学院教授）	諸富　徹（京都大学大学院教授）
7	現代税制の基礎理論と所得税	1. 私たちはなぜ租税を納めるのか 2. 租税構造の歴史的変動 3. 包括的所得税の理論と実際 4. 税制による所得再分配と累進課税 5. 所得税が労働供給に与える影響 6. 所得税の将来像 【キーワード】 自主的納税倫理、応益原則、応能原則、租税構造、包括的所得税、租税体系、キャピタル・ゲイン、所得再分配、限界効用逓減の法則、累進税制、二元的所得税	諸富　徹（京都大学大学院教授）	諸富　徹（京都大学大学院教授）
8	消費課税と資産課税	1. 消費課税の体系 2. 付加価値税 3. 資産課税 【キーワード】 消費税、付加価値税、インボイス方式、帳簿方式、益税、簡易課税制度、資産移転税、相続税、贈与税、遺贈力承継税、地価税、政策課税	諸富　徹（京都大学大学院教授）	諸富　徹（京都大学大学院教授）
9	グローバル化と法人税の運命	1. 法人とは何か 2. 法人税の課税根拠 3.「政策課税」としての法人税 4. 経済のグローバル化と法人税 5. グローバル化と日本の法人税改革への示唆～ドイツを教訓として 【キーワード】 法人実在説、法人擬制説、政策課税、租税競争、底辺への競争、法人税改革	諸富　徹（京都大学大学院教授）	諸富　徹（京都大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	国境を越え始めた税制	1. グローバル化、租税回避、タックスヘイブン 2. グローバルタックスとは何か 3. グローバルタックスとしての「EU金融取引税」の挑戦 4. グローバル・ガバナンスと財政民主主義 【キーワード】 租税回避、タックス・ヘイブン、グローバルタックス、国際連帯税、トービン税、国際通貨取引税、EU金融取引税、財政民主主義	諸富　徹 (京都大学大学院教授)	諸富　徹 (京都大学大学院教授)
11	持続可能な発展と財政システム	1.「持続可能な発展」と財政 2. 環境税の理論と実際 3. 日本の「地球温暖化対策税」 4.「投資政策」としての環境政策 【キーワード】 持続可能な発展、外部不経済、ピグー税、環境税、炭素・エネルギー税、社会的共通資本、環境税制改革、二重の配当、地球温暖化対策税、インフラの造り替え	諸富　徹 (京都大学大学院教授)	諸富　徹 (京都大学大学院教授)
12	地方分権化と政府間財政関係	1. 政府間財政関係の理論 2. 政府間税源配分論と日本の地方税制 3. 政府間補助金の理論と実際－国庫支出金と地方交付税－ 4. 三位一体改革から更なる分権改革へ 【キーワード】 政府間財政関係、財政連邦主義、分権化定理、政府間機能配分論、政府間税源配分論、一般補助金、特定補助金、三位一体改革、税源交換論	諸富　徹 (京都大学大学院教授)	諸富　徹 (京都大学大学院教授)
13	公債と日本財政の持続可能性	1. 公債に関する基礎知識 2. 公債のマクロ経済効果 3. 公債は誰が負担するのか 4. 日本財政の持続可能性と財政再建 5. 金融政策と財政政策の融合 【キーワード】 公債不発行の原則、公債市中消化の原則、建設公債、赤字公債、公債のマクロ経済効果、公債の負担、リカードの等価定理、バローの中立命題、日本財政の持続可能性、基礎的財政収支(プライマリー・バランス)、財政収支、量的・質的緩和政策	諸富　徹 (京都大学大学院教授)	諸富　徹 (京都大学大学院教授)
14	財政民主主義と予算	1. 財政民主主義と予算編成 2. 予算をどうとらえるか 3. 予算循環と予算原則 4. 財政再建と予算改革 5. 統治機構改革と財政民主主義 【キーワード】 財政民主主義、予算原則、予算過程、予算循環、社会的価値の選択、ミクロ予算編成、マクロ予算編成、予算原則、予算改革、財政再建、統治機構改革	諸富　徹 (京都大学大学院教授)	諸富　徹 (京都大学大学院教授)
15	財政システムの未来	1.「公共投資国家」から「持続可能な社会的投資国家」へ 2. 国家は何に投資すべきか 3.「社会的投資国家」とは何か 4.「知識経済」への移行と財政政策の転換 5. 21世紀国家の財政システム 【キーワード】 公共投資国家、社会的投資国家、社会資本、自然資本、社会関係資本、人的資本、知識基盤経済、EU結束政策、学習経済、(地域の集合的)学習能力	諸富　徹 (京都大学大学院教授)	諸富　徹 (京都大学大学院教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639153	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　市民生活と裁判　　（’１２）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：來生　新　（放送大学副学長）　〕

〔主任講師（現職名）：川島　清嘉　（川島法律事務所弁護士）　〕

講義概要

本講義は、（法曹を志すのではない）一般市民を対象として、一般市民が広く遭遇する可能性のある代表的な紛争を取り上げて、紛争の発生からその解決に至るまでのプロセスを具体的に説明し、裁判の機能、裁判の基本構造、手続の特徴等についてわかりやすく解説する。

授業の目標

一般市民が広く遭遇する可能性のある代表的な紛争について、その予防や解決のために必要とされる基本的な法律知識を修得させて、受講者が実際に何らかの紛争に遭遇した場合に、その紛争を法的枠組みによる解決の土俵に乗せることができる能力を身につけさせることを目標とする。また、授業を通じて、紛争とは何か、法律とは何か、法律による紛争解決とは何か、裁判とは何か、実体的正義と手続的正義の区別、法的なものの考え方、日本社会の法的な特徴などについて、受講生の理解を深めることができれば望ましい。

履修上の留意点

予備知識や他の科目の事前履修は不要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	市民生活と裁判へのいざない	「市民生活と裁判」という授業が、何をねらいにして、どのような内容の授業を、誰が、どのように進めるかを説明します。また、それに合わせて、この授業の各章に共通の関心である「紛争とその解決」について、皆さんの理解を深めるための一般的な解説を施す。 【キーワード】 裁判員、訴訟法、市民生活、裁判、紛争解決、手続的正義、実体的正義、法曹三者、ADR(Alternative Dipute Resolution)	來生　新（放送大学副学長）	來生　新（放送大学副学長） 川島　清嘉（川島法律事務所弁護士） 徳江　義典（徳江法律事務所弁護士） 川島　志保（川島法律事務所弁護士） 岡本　吉平（鴨川ひまわり基金法律事務所弁護士）
2	司法への市民の参加	一般市民が参加する制度として、新しくスタートした裁判員制度について、裁判の基本的仕組を理解したうえで、裁判員制度の仕組や裁判員が関与する内容などについて考察する。 【キーワード】 裁判員制度、裁判員が参加する対象の事件、裁判員選任手続、裁判員の権限、裁判員の保護	徳江　義典（徳江法律事務所弁護士）	徳江　義典（徳江法律事務所弁護士）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	刑事事件に関する問題	刑事事件の被疑者及び被告人の立場から、刑事事件の手続の流れについて説明するとともに、弁護人の活動を説明する。 【キーワード】 司法警察員、検察官、弁護人、被害者、勾留、接見、保釈、冒頭陳述、論告、弁論	徳江　義典（徳江法律事務所弁護士）	徳江　義典（徳江法律事務所弁護士）
4	家族間の紛争とその解決（その1）　離婚にかかわる問題	夫婦関係の解消に伴い、夫婦間、親子間における身分及び財産について、様々な法律問題が生じること、夫婦間の紛争が、どのように解決されているのか、法律の仕組みや家庭裁判所の役割について説明する。 【キーワード】 婚姻費用、算定表、家庭裁判所、調停委員、家庭裁判所調査官、調停前置主義、DV、子の奪い合い、離婚、親権、養育費、財産分与、慰謝料、調停、家事審判官、人事訴訟	川島　志保（川島法律事務所弁護士）	川島　志保（川島法律事務所弁護士）
5	家族間の紛争とその解決（その2）　DVと離婚訴訟	深刻なドメスティックバイオレンス（DV）の実態を統計資料を基に明らかにし、DV等が原因で夫婦が離婚にいたるケースの多くが離婚訴訟を経ることから、離婚訴訟について、その手続きや、訴訟の内容等について明らかにする。 【キーワード】 DV、モラル・ハラスメント、DV防止法、保護命令、離婚理由、破綻主義、有責配偶者、証拠、財産分与、特有財産、年金分割	川島　志保（川島法律事務所弁護士）	川島　志保（川島法律事務所弁護士）
6	家族間の紛争とその解決（3）　相続にかかわる問題	人が亡くなった場合、その人の財産がどのように引き継がれていくのかについて考える。 【キーワード】 遺産分割、相続人、法定相続、非嫡出子の相続分、特別受益、寄与分、遺産分割協議、遺産分割調停、遺言、自筆証書遺言、公正証書遺言、検認	川島　志保（川島法律事務所弁護士）	川島　志保（川島法律事務所弁護士）
7	家族の紛争とその解決（4）　高齢者を巡る紛争	高齢化に伴い判断能力が不十分になったお年寄りが、不必要なものを大量に買わされたり、家中のリフォームをしたり、投機性の高い株に投資したりする等の被害を受けることが後を絶たない。判断能力が不十分な人について、民法には、成年後見の規定がある。どのような制度なのか概観し、実際の事例についても検討する。 【キーワード】 判断能力、成年後見制度、補助、保佐、後見、鑑定、高齢者虐待　財産管理、身上配慮義務、任意後見契約、任意後見監督人、代理権、同意権	川島　志保（川島法律事務所弁護士）	川島　志保（川島法律事務所弁護士）
8	住まいに関する紛争とその解決	新築住宅の雨漏りに関する事例を素材として、契約書で合意した事項と新築住宅の品質に関する法律の定め（強行法規）との関係について検討した上で、法律上認められた権利を実現するための方法やプロセスについて理解する。 【キーワード】 売買、契約書、任意法規、強行法規、隠れた瑕疵（かし）、瑕疵担保（かしたんぽ）責任、損害賠償、期間制限、一級建築士、宅地建物取引業者、証拠、訴訟、調停、支払督促、建築紛争審査会	川島　清嘉（川島法律事務所弁護士）	川島　清嘉（川島法律事務所弁護士）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	日常生活で生じる事故による紛争とその解決 －交通事故を例として	交通事故で重大な後遺障害が生じた被害者の事例を素材として、誰に対し、どのような内容の損害賠償請求ができるかを検討する。また、交通事故が原因で生じる損害について、これを補償するための保険の種類やその機能について理解する。 【キーワード】 自動車、交通事故、症状固定、後遺障害、後遺障害等級、高次脳機能障害、飲酒、少年、損害賠償、自動車損害賠償保障法（自賠法）、運行供用者、過失、過失割合、責任無能力、人身事故、強制保険、自動車保険（任意保険）、賠償責任保険、対人賠償保険　人身傷害保険、支払限度額（保険金額）、訴訟、民事調停、交通事故紛争処理センター、通勤災害	川島　清嘉 （川島法律事務所弁護士）	川島　清嘉 （川島法律事務所弁護士）
10	消費者倒産	クレジット・サラ金問題、住宅ローンの滞納による抵当権の実行などの市民を当事者とする金融取引から生じる問題について、紛争処理の方法について検討する。任意整理と法的整理の違い、法的整理の諸制度（自己破産、民事再生）、過払金の返還請求、ブラックリストの問題等についても説明の対象とする。 【キーワード】 強制執行、担保不動産の競売、所有権留保特約、預金債権、差押、倒産、任意整理、私的整理、清算型手続、再建型手続、破産　民事再生、任意整理、債権者平等の原則、清算価値補償原則、過払金、ブラックリスト	岡本　吉平 （鴨川ひまわり基金法律事務所弁護士）	岡本　吉平 （鴨川ひまわり基金法律事務所弁護士）
11	雇用をめぐる紛争とその解決	従業員が会社を解雇された事例を取り上げ、従業員と会社とが、それぞれの弁護士に相談をする場面を設定して、弁護士が依頼者に対して助言を行う場合のプロセスを紹介するとともに、各当事者が置かれた立場によって、物事の理解や判断に違いが生じることを理解する。新しく始まった裁判所の労働審判において、紛争がどのように解決されかの過程についても説明する。 【キーワード】 正社員、雇用契約、就業規則、懲戒処分、停職処分、人事異動、懲戒解雇、労働契約法、権利の濫用、労働審判、顧問弁護士、解決金、調停案	川島　清嘉 （川島法律事務所弁護士）	川島　清嘉 （川島法律事務所弁護士）
12	会社の支配を巡る紛争とその解決	老舗のイタリアンレストランの経営方針を巡る紛争を素材として、取締役会や株主総会などの仕組みと役割りについて学習し、会社の経営方針は、最終的には多数決による株主の意思により決定されることを理解する。 【キーワード】 株式会社、株式、定款、取締役、監査役、取締役会、新株、株主総会、経営方針、出資者、フランチャイズ、弁護士倫理、利益相反　株主構成、発行済株式、議決権、取締役の解任、株主総会の招集、少数株主、過半数、3分の2、経営権、株主名簿、委任状争奪戦	川島　清嘉 （川島法律事務所弁護士）	川島　清嘉 （川島法律事務所弁護士）
13	市民と行政の紛争とその解決	市民と行政（国または地方公共団体）との間で利益対立や紛争が生じ、その解決手段として、行政に対する不服の申立てや裁判が用いられることがあることを説明する。 【キーワード】 行政救済法、行政争訟、行政事件訴訟法、行政不服審査法、適法・違法、妥当（当）・不当、行政訴訟、主観訴訟、法律上の利益、客観訴訟、民衆訴訟、国家補償、国家賠償、損失補償、国家補償の谷間、苦情処理、オンブズマン	來生　新 （放送大学副学長）	來生　新 （放送大学副学長）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	弁護士へのアクセス、法律扶助、過疎地における弁護士の実情	弁護士へのアクセス、法律扶助、過疎地における弁護士の活動などについて紹介し、市民が紛争解決のための手段として弁護士や司法の利用をしやすくするための取り組みが行われていることを紹介し、弁護士の利用方法について説明する。さらに、過疎地のひまわり事務所等で奮闘する弁護士の活躍ぶりを紹介する。 【キーワード】 司法アクセス、市民と司法との距離、司法制度改革、法律相談センター、ひまわり基金法律事務所、弁護士偏在解消のための経済的支援、都市型公設事務所、法テラス（日本司法支援センター）、民事法律扶助、関係各機関との連携	岡本　吉平 （鴨川ひまわり基金法律事務所弁護士）	岡本　吉平 （鴨川ひまわり基金法律事務所弁護士）
15	市民生活と裁判の過去、現在、未来	過去14回のテーマを振り返り、この授業の目的について再度確認する。また、司法改革による弁護士数の急増や市民の司法への参加によって弁護士や裁判所の置かれた環境に変化が生じていることを説明した上で、弁護士の上手な利用法についても解説する。 【キーワード】 ひまわり基金法律事務所、法テラス（日本司法支援センター）、弁護士の広告、プロフェッション、弁護士人口、競争原理、法科大学院、弁護士報酬、司法制度改革審議会、国民の社会生活上の医師、利息制限法、事件の依頼、守秘義務、客観的な視点	川島　清嘉 （川島法律事務所弁護士）	來生　新 （放送大学副学長） 川島　清嘉 （川島法律事務所弁護士） 徳江　義典 （徳江法律事務所弁護士） 川島　志保 （川島法律事務所弁護士） 岡本　吉平 （鴨川ひまわり基金法律事務所弁護士）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639471	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 刑事法 （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Criminal Law (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：白取　祐司 （神奈川大学大学院教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：來生　新 （放送大学副学長） 】

講義概要

犯罪と刑罰に関する基本法である刑法、刑事訴訟法について、その基本的枠組みの概観、法の運用とその背景にある考え方を講述する。いちおう、刑法と刑事訴訟法は別個に扱うが、両者の関係についても適宜触れるとともに、法の運用を支える刑事政策の動向についても言及する。

授業の目標

犯罪と刑罰に関する法と政策のトータルな把握を目指す。同時に、犯罪への法規制及び刑事司法の在り方について、多角的な視座から考察できる考え方を身につける。

履修上の留意点

法律の予備知識はとくに要求されないが、事前に教科書を読むなどの予習が求められる。また、刑法、刑事訴訟法等の条文が出てくるので、手元に最新の六法を用意し条文を確認することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	刑罰の目的とは？	本講義の最初に、刑事法の中核を占める刑罰を取りあげ、なぜ人を罰するのか、罰することが許されるのかについて検討を加える。刑罰は、サンクション（制裁）の一種だが、その他のサンクションとの違いについても明らかにする。 【キーワード】 制裁、応報刑論、一般予防、特別予防、保護処分	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）
2	犯罪と罪刑法定主義	刑法の目的は何か、そして刑法がある行為を「犯罪」として規定するのは何のためかを考える。さらに、犯罪と刑罰は法律によって明確に定められなければならないとされているが、それはなぜなのか、どのように定めるべきかを検討する。 【キーワード】 法益保護機能、罪刑法定主義、類推解釈の禁止、明確性の原則	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）
3	事実的因果関係と法律的因果関係	犯罪行為と結果の間の因果関係について考察する。犯罪の結果を行為者に帰責できるのはどのような場合か、どの範囲で帰責できるのかについて、具体的な事例を通じて検討する。また、因果関係の立証の負担を軽減する立法例を紹介する。 【キーワード】 条件関係、相当因果関係説、第三者の行為の介在、結果回避可能性、法律上の推定	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	正当防衛の限界	正当防衛は、一般にもよく知られた違法性阻却事由だが、その成立の限界について、最近の議論を踏まえ個々の要件ごとに検討を加える。また、近時の論点として、いわゆる量的過剰と過剰防衛の成否についても検討する。 【キーワード】 違法阻却事由、急迫性、過剰防衛	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）
5	故意と錯誤	犯罪が成立するために必要とされる故意について、その内容に何を盛り込むかで争いがあるほか、故意と現実の結果が食い違う場合の擬律（錯誤論）という難しい問題もある。故意とは何か、がここでのテーマである。 【キーワード】 未必の故意、方法の錯誤、客体の錯誤、故意の立証方法	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）
6	共犯 －犯罪の共同実現	2人以上で犯罪を実行した場合を共犯という。判例は、共謀しただけの者についても共謀共同正犯を認めるが、刑法の共犯規定を拡げるものではないかと批判も強い。共犯成立の限界について、理論的に考察してみよう。 【キーワード】 共謀共同正犯、不作為による幇助、共犯者の自白	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）
7	詐欺罪の今日的諸問題	詐欺罪は時代を反映して変化する。無線飲食やキセル乗車の時代を経て、今日ではクレジットカード不正使用、コンピュータ詐欺、振り込め詐欺などが注目される。それらの理論的課題を考究し詐欺罪成立の限界を探る。 【キーワード】 財産犯、欺罔行為、個別財産説、財産的処分行為	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）
8	放火と公共の危険	公共危険犯として放火罪は重い刑が科される。今日、現代の不燃性建物に放火罪はどう適用されるか、公共の危険の発生が予見できなかった場合にも重罰を科していいかなど課題も多い。これらについて妥当な法解釈を考察する。 【キーワード】 公共危険犯、焼損、独立燃焼説、公共の危険	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）
9	犯罪捜査の開始	この回から犯罪が捜査、公判を経て認定されるまでの手続を学ぶ。今回は、警察の職務質問などをきっかけとして犯罪の嫌疑が生じ、捜査が始まる。現行犯逮捕の場合を含め、捜査開始時における諸問題を取りあげて概説する。 【キーワード】 捜査の端緒、職務質問、所持品検査、現行犯逮捕	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）
10	犯罪被害者の地位	被害者の法的地位の向上は、近年の刑事司法の重要課題である。刑事裁判における被害者の保護と参加が立法で認められたが、これで十分か。ほかに被害者のための方策はないのか、刑事政策的側面からも考究する。 【キーワード】 告訴、親告罪、被害者参加人、修復的司法	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	強制捜査の許される条件	捜査機関は、法律に定めがあり、裁判官が発する令状があれば捜索・差押えを行うことができる。また、逮捕時には例外的に無令状で捜索・差押えができる。これらの強制処分の要件と生じる問題点について検討を加える。 【キーワード】 強制処分法定主義、令状主義、逮捕に伴う捜索・差押え	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）
12	被疑者と防御権	捜査段階の被疑者は、たんに捜査の対象ではなく、自ら防御の主体でなければならない。そのために法は被疑者に黙秘権、弁護人依頼権などを認めているが、それらは十分に機能しているか、理論と実務の課題について、検証する。 【キーワード】 黙秘権、弁護人依頼権、接見交通権	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）
13	起訴・不起訴の決定	刑事裁判は、検察官が起訴しなければ始まらない。起訴するか否かはその裁量に任されているが、適正に訴追権が行使されるためにどのような制度的手当てがなされているかについて、被害者の観点も顧慮しながら検討する。 【キーワード】 国家訴追主義、起訴便宜主義、準起訴手続、私訴制度	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）
14	違法に収集された証拠	証拠としてそれなりの証明力があるのに法廷に出せない場合が2つある。第1に、前科など関連性がないとされる場合、第2に、捜査官が違法に収集した物証などであり、それぞれの理由と要件につき検討する。 【キーワード】 関連性、証拠能力、違法収集証拠排除法則、毒樹の果実理論	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）
15	伝聞法則と例外	刑事裁判では、証人が法廷で供述し反対尋問を受けなければならない。捜査の過程でつくられた供述調書は、原則として証拠にできない（伝聞法則）。それはなぜか、またどのような場合に例外が認められるのかを明らかにする。 【キーワード】 供述証拠、反対尋問権、伝聞法則、伝聞例外	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）	白取　祐司（神奈川大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639706	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 民法 （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Civil Law (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：円谷　峻　（横浜国立大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：武川　幸嗣　（慶應義塾大学教授）〕

【本学担当専任教員：來生　新　（放送大学副学長）】

※この科目は「民法('13)」の一部改訂科目です。
改訂回は1,7,8,10,11,14回です。

講義概要

民法は、我々の日常生活に生じるさまざまな法的問題を規律する法律であり、財産法と家族法に大きく分けられる。本授業は、我々の生活においてとくに問題となる諸問題を取り上げて判りやすく論じることにする。なお、本授業では、財産法だけではなく、家族法についても論じることにする。とくに、結婚・離婚、相続は、契約や不法行為などの財産法上の問題と同様に我々のもとで生じ得る問題であり、民法という授業のもとで欠かすことができない問題だからである。本授業では、第1回～第13回で財産法について論じ、第14回、第15回で家族法について論じる。

授業の目標

本授業を通じて、民法のあらまし、概要を理解することが本授業の第一次的な目標である。また、民法の範囲はとても広いので、本講義で民法全体を詳しく説明することはできない。しかし、本授業によりここでは論じられなかった問題についても自ら考え、解決の道筋をつけられる法知識と法的素養を育成することを目標とする。これが第二の目標である。

履修上の留意点

現行民法典は、平成16年の現代語化による改正の結果、相当に読みやすくなっている。民法を理解するためには、条文を正しく把握することが必要である。そこで、前もって関連する民法典の条文を十分に読んでおいていただきたい。また、教科書（印刷教材）の注で文献を指摘するにあたっては、なるべく入手しやすいものを挙げるように配慮した。また、教科書で指摘した最高裁判決についても、受講者自らが入手して判決文を読んでみることが有益である。これらの判決については、最高裁判所ホームページから「裁判例情報」を通じてインターネットを活用することで入手可能である（無料）。これらの情報を積極的に取得して、民法の十分な理解と把握に努めてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	市民生活と民法	「市民生活と民法」というテーマのもとに、民法に関する全体像（民法とは何か、民法典の構成、基本原理など）を説明する。具体的には、1. 民法とは何か、2. 民法の歴史、3. 民法の法源、4. 民法典の構成と基本原理、5. 民法典を補充する特別法などについて論じる。 【キーワード】 民法の法源、民法の基本原理、債権法の改正	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授） ゲスト:鹿野菜穂子（慶應義塾大学大学院教授）
2	権利の主体（民法の担い手）	民法の担い手を論じる。制限行為能力者制度、任意後見制度は、新たな制度であるが、その創設目的、現状と課題についてゲストと対談方式で講義する。ここでの授業内容は、家族法の親族（親子）部分の説明をも兼ねている。また、法人、権利能力なき社団についても言及する。 【キーワード】 親権、成年被後見人、被保佐人、被補助人、任意後見制度	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授） ゲスト:本山敦（立命館大学教授）
3	法律行為	法律行為というテーマのもとで、主として契約（典型契約・非典型契約、有償契約・無償契約、双務契約・片務契約、諾成契約・要物契約など）、契約が公序良俗に違反する場合、錯誤などにより契約が無効である場合または取り消される場合について論じる。 【キーワード】 公序良俗違反、心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺、強迫	武川　幸嗣（慶應義塾大学教授）	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	代理による法律行為	「代理による法律行為」のテーマのもとで、法定代理、任意代理および無権代理を中心にして代理制度とその内容を論じる。まず、代理の要件と効果を論じる。無権代理については、表見代理と狭義の無権代理に分けて論じる。後者では、表見代理と無権代理の関係、無権代理人と相続の問題を取り上げる。 【キーワード】 顕名主義、授権、表見代理、無権代理、無権代理と相続	武川　幸嗣（慶應義塾大学教授）	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）
5	取引の対象（民法上の権利）	「物」について説明し、そのうえで財産権を論じる。まず物権の効力とその種類を説明し、物権法定主義、例外的としての慣習法上の物権についても説明する。さらに、債権と物権との相違を明瞭にし、他の財産権として身分権、人格権にも言及する。 【キーワード】 土地の定着物、用益物権、担保物権、物権の絶対性、債権の相対性	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）
6	物を占有、所有する権利	占有権、所有権を論じる。占有権では、占有訴権・即時取得を論じる。所有権では、とくに所有権の効力、相隣関係、区分所有権について論じる。また、わが国の物権変動を説明し、これに関連する背信的悪意者論、94条類推適用論についても説明する。 【キーワード】 占有訴権、相隣関係、区分所有権、物権変動、背信的悪意者	武川　幸嗣（慶應義塾大学教授）	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）
7	売買と法	市民生活において最も重要な売買契約を取り上げ、まず、契約の拘束力と契約からの脱退を認める手付け制度のほか、専門家にクーリング・オフ制度を説明してもらう。次に、売買契約当事者の権利義務を説明し、さらに、双務契約上の牽連関係という観点から危険負担、同時履行の抗弁権について論じる。 【キーワード】 手付け、クーリング・オフ、危険負担、同時履行の抗弁権	武川　幸嗣（慶應義塾大学教授）	武川　幸嗣（慶應義塾大学教授） ゲスト：大槻祐子（国民生活センター）
8	契約違反と救済	契約違反に対する法的救済に関し債務不履行責任と担保責任を論じる。債務不履行では、債務不履行の類型、債務不履行に対する救済を、担保責任については、契約解除・代金減額型と契約解除・損害賠償型の担保責任を論じる。また、債務不履行による契約解除について説明する。 【キーワード】 代物給付、修補請求、追完請求、損害賠償、解除	武川　幸嗣（慶應義塾大学教授）	武川　幸嗣（慶應義塾大学教授）
9	不動産利用と法	市民生活にとって重要な借地、借家の法律関係を説明する。ここでは、民法上の規定（賃貸借、地上権）だけではなく、借地借家法の規律を理解することが必要である。同法については、放送において、ゲストとともに制定の社会的背景や問題点について討論する。 【キーワード】 売買は賃貸借を破るの原則、地震売買、賃貸借、借地借家法	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授） ゲスト：三林宏（明治大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	担保	担保制度は物的担保と人的担保に大別される。物的担保に位置づけられる各種の担保制度を解説する。さらに、人的担保としての保証、連帯保証、共同保証、物上保証の内容を説明する。ゲストを招き、わが国の担保制度の特色、最近の担保事情について検討する。 【キーワード】 法定担保物権、約定担保物権、人的担保、非典型担保	武川　幸嗣（慶應義塾大学教授）	武川　幸嗣（慶應義塾大学教授） ゲスト：三林　宏（明治大学大学院教授）
11	時効による権利取得・権利行使の制限	時効制度は、社会の一般的常識と法の常識が食い違うともいえる制度である。そのために、時効制度の存在理由や時効援用の意味をよく理解しなければならない（時効と実体的権利、時効援用権者の範囲等）。時効には取得時効と消滅時効があるが、その具体的内容を説明する。さらに、消滅時効と類似の除斥期間との相違について論じる。 【キーワード】 時効制度の存在理由、時効援用権者、時効の中断、除斥期間	武川　幸嗣（慶應義塾大学教授）	武川　幸嗣（慶應義塾大学教授）
12	不法行為	709条に基づく損害賠償請求訴訟を想定して、一般的不法行為法を説明する。被害者側の主張立証すべき事項、損害賠償請求の方式、損害賠償の算定、損害賠償の支払方式について説明する。また、損害賠償請求権の相続、損益相殺・過失相殺、差止請求についても説明する。 【キーワード】 違法性、一時金払い方式、定期金払い方式、慰謝料、差止請求	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）
13	特殊不法行為と特別法における不法行為責任	特殊不法行為責任を説明する（責任無能力者の監督義務者の責任、使用者責任、土地の工作物責任、動物の占有者等の責任、共同不法行為の責任）。また特別法における不法行為責任として、自動車損害賠償保障法、製造物責任法等の責任を論じる。 【キーワード】 監督義務者の責任、使用者責任、土地工作物責任、共同不法行為責任	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）
14	家族と法	「家族と法」というテーマのもとに、婚姻、離婚について論じる。この領域では、夫婦別姓問題、離婚（裁判上の離婚、調停離婚、協議離婚）に関する現状と課題、財産分与の実態、離婚後に父母のどちらが親権者・監護者になるか、面接交渉等について実態の把握が重要である。そこで、これらの点についてゲストとの対談という方式で講義する。 【キーワード】 夫婦別姓、面会交流、調停離婚、裁判上の離婚、財産分与	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授） ゲスト：本山　敦（立命館大学教授）
15	相続と法	「相続と法」というテーマのもとに、相続に関する諸問題（たとえば、事実婚の場合の相続問題、特別受益、寄与分など）、遺言（自筆証書遺言、公正証書遺言など）、遺留分に関して論じる。また、最近の非嫡子の相続分に関する大法廷判決とその意義などについてゲストによる補足説明をしてもらう。 【キーワード】 法定相続、限定相続、非嫡出子と相続、遺言、遺留分	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授）	円谷　峻（横浜国立大学名誉教授） ゲスト：本山　敦（立命館大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639161	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　行政法　　（’１２）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：磯部　力　（東京都立大学名誉教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：來生　新　（放送大学副学長）　】

講義概要

行政法は、六法科目と異なり中心となる法典が無いこともあって、その全体像をイメージしにくいといわれることがありますが、この講義では、警察、公害環境、福祉、公共事業など多種多様な現代行政作用の法制度を個別に説明するのではなく、それら諸制度に横断的に共通する一般的な行政法のしくみとして、行政立法、行政処分、行政強制、行政指導などの行政作用類型を体系的に概観するとともに、それら行政活動の適正手続的な統制、ならびに行政活動を対象とする行政事件訴訟や国家賠償訴訟など、裁判的統制のしくみを解説します。

授業の目標

この授業では、現代の行政の多様な各領域について各論的な知識を得ることよりも、それらの領域を横断して「あらゆる行政に共通の基本的なしくみ」をひととおり理解できるようになることが主眼となります。それによって、市民の日常の生活条件がいかに行政に依存しているかが正確に認識されるとともに、行政を的確に法によって規律することの重要性が理解されることになるでしょう。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	行政法の世界	行政法とは、どんな法分野なのか、イメージがつかみにくいと言われがちな行政法ですが、まずは我々の身近なところに行政法的な法現象が、いかに沢山含まれているかということに気づくことから始めて、現代社会における行政法の重要性と、さらにその基本的な特性について考えてみます。 【キーワード】 公共性、公益性、公共サービス、公権力、公法	磯部　力（東京都立大学名誉教授）	磯部　力（東京都立大学名誉教授）
2	行政を規律する基本的な法原理	「行政は法律によって行われなければならない」という行政法の基本原理の意義とその具体的な機能の仕方について、法原理的な視点から考察を加えます。また法治主義、法律による行政の原理、法律の留保に関する考え方のほか、行政を規律する法の一般原則についても学びます。 【キーワード】 法治主義、法律による行政の原理、法の一般原則	磯部　力（東京都立大学名誉教授）	磯部　力（東京都立大学名誉教授）
3	行政活動の主体 －行政組織法概説	行政法は「行政の組織と活動」を規律する法にほかなりませんが、まずは、行政活動を行う主体である国や地方公共団体の「行政組織」について、基礎的なしくみを説明します。また特に地方公共団体については「地方自治・地方分権」の意義についての理解が必須です。 【キーワード】 行政主体、行政機関、行政庁、国家行政組織法、地方自治法、分権改革	磯部　力（東京都立大学名誉教授）	磯部　力（東京都立大学名誉教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	行政活動の諸形態；行政立法	現代行政は、命令・強制という権力的手法を用いる場合もあれば、指導や契約などのソフトな手法を用いる場合もあります。多種多様な行政の類型と手法を、概観した上で、まず行政が法律の委任を受けて政省令などを制定する行政立法について、その必要性や限界などについて学びます。 【キーワード】 権力的行為と非権力的行為、法行為と事実行為、委任立法、法規命令、行政規則、意見公募手続	磯部　力（東京都立大学名誉教授）	磯部　力（東京都立大学名誉教授）
5	行政処分	行政処分とは、運転免許や営業許可、課税処分や年金の支給決定など、法律の執行として、市民の権利や義務に直接関わる個別具体的な法的効果を発生させる行政の決定のことを指します。行政作用法の中心になる概念であり、その法的な特質、効力、類型、違法な行政処分の取り扱いなどについて正確に理解することが課題となります。 【キーワード】 行政処分、行政処分の効力、行政処分の瑕疵、無効と取消、取消と撤回	磯部　力（東京都立大学名誉教授）	磯部　力（東京都立大学名誉教授）
6	行政契約；行政指導	行政契約、行政指導などの非権力的な手法は、相手方の同意を獲得しながら行政目的を実現していこうとするソフトな手法であるということができます。前半で「行政契約」の概念や特徴について検討し、後半では「行政指導」について、定義や類型、行政指導の効用と問題点、さらにはその限界について学びます。 【キーワード】 行政上の契約、公害防止協定、行政指導、助言・勧告、任意性の原則	磯部　力（東京都立大学名誉教授）	磯部　力（東京都立大学名誉教授）
7	行政上の実効性確保	租税の滞納、公共物の不法占拠、違反建築など、法律や行政処分によって課せられた義務が自発的に履行されない場合には、行政代執行のような強制手段が用いられることもあれば、もっとソフトな手法が用いられる場合もあります。これら各種の行政上の義務履行確保を通じて、行政の実効性を確保する手段について勉強します。 【キーワード】 行政上の強制執行、行政代執行、強制徴収、行政サービスの提供拒否	磯部　力（東京都立大学名誉教授）	磯部　力（東京都立大学名誉教授）
8	行政罰、即時強制・行政調査、行政計画	ここまでの講義では取り扱うことのできなかったその他の行政手段として、行政上の義務違反行為に対する制裁としての「行政罰」、行政が直接に実力を行使して行政目的を達成する手法である「即時強制ならびに行政調査」、さらに都市計画など多様な「行政計画」の問題について、その主要な論点を学びます。 【キーワード】 行政刑罰、秩序罰、即時強制、行政調査、行政計画	磯部　力（東京都立大学名誉教授）	磯部　力（東京都立大学名誉教授）
9	行政手続法	行政を手続的な側面から規律することは現代法治主義の中心的な課題にほかなりません。適正な事前手続の基本理念について考察するとともに、行政の裁量的な判断過程を公正でかつ透明なものにするために行政手続法に規定されている裁量基準の公表、理由付記、聴聞手続などについて学びます。 【キーワード】 行政手続法、適正手続、住民参加、裁量基準、理由提示、聴聞	磯部　力（東京都立大学名誉教授）	磯部　力（東京都立大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	情報公開・個人情報保護	行政情報の適正な管理に関する法制度として、行政が保有する情報の原則的な開示を通じて、行政の透明性を確保し行政の監視をする情報公開制度、ならびに国民が行政の保有する自己情報の開示や訂正を請求する手続を整備するしくみである個人情報保護制度について学びます。 【キーワード】 情報公開、説明責任、個人情報、不開示情報、プライバシー、訂正請求権	磯部　力 （東京都立大学名誉教授）	磯部　力 （東京都立大学名誉教授）
11	行政不服審査と行政事件訴訟	行政活動に不服を持つ市民が、訴訟よりも簡易迅速に、救済を求め行政の適法性を確保することを可能にする制度である行政不服審査制度と、行政事件訴訟の基本理念、現行法にいたるまでの制度的変遷のほか、同法に定める基本的な訴訟類型など、行政事件訴訟法制の基本的なしくみについて学びます。 【キーワード】 行政不服審査、審査請求、異議申立て、行政事件訴訟、抗告訴訟、主観訴訟、客観訴訟	磯部　力 （東京都立大学名誉教授）	磯部　力 （東京都立大学名誉教授）
12	取消訴訟	各種の行政訴訟の中で最も中心的な位置を占める抗告訴訟である取消訴訟について、その意義、訴訟の対象、原告適格などの訴訟要件、審理、判決の効力、執行停止など、主要な論点に関して、それぞれ典型的な訴訟事例を扱いながら、具体的に検討します。 【キーワード】 抗告訴訟、取消訴訟、執行停止制度、仮の救済、判決の効力	磯部　力 （東京都立大学名誉教授）	磯部　力 （東京都立大学名誉教授）
13	取消訴訟以外の行政事件訴訟	まず取消訴訟以外の抗告訴訟である無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟の4類型について、その特質や役割について検討し、さらに抗告訴訟以外の訴訟類型とである公法上の当事者訴訟、民衆訴訟、機関訴訟について、その特徴を解説します。 【キーワード】 無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、当事者訴訟、民衆訴訟、機関訴訟	磯部　力 （東京都立大学名誉教授）	磯部　力 （東京都立大学名誉教授）
14	国家補償法（その1）	何らかの行政活動が原因となって国民の側に損害が生じた場合、その行政活動が違法な場合には国家の不法行為として国家賠償責任が問われることになります。まず国家賠償法の基本的な構造を理解した上で、特に公権力行使にともなう責任に関する基本的な論点を検討します。 【キーワード】 国家補償法、国家賠償法、公権力の行使、公務員の責任、職務行為、違法性	磯部　力 （東京都立大学名誉教授）	磯部　力 （東京都立大学名誉教授）
15	国家補償法（その2）	道路や河川など公共的な施設が安全性を欠いていたために生じる事故の国家賠償責任につき、判例法を中心に略説します。また公共事業用地を強制収用する場合などに公益と私益を調整するしくみとしての損失補償法について学び、最後に国家賠償とも損失補償ともいいきれない国家補償の第三の類型について、検討します。 【キーワード】 営造物責任、設置管理の瑕疵、土地収用、公用制限、損失補償、結果責任	磯部　力 （東京都立大学名誉教授）	磯部　力 （東京都立大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639579	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 家族と高齢社会の法 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Family Law and Law of Aging Society (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：川島　志保　（川島法律事務所弁護士）　〕

〔主任講師（現職名）：関　ふ佐子　（横浜国立大学大学院教授）　〕

【本学担当専任教員：來生　新　（放送大学副学長）　】

講義概要

この講義では、人生90年時代の高齢社会において家族がライフステージを通じて向き合う具体的な事例を素材に、法的なものの考え方を伝えていく。法的なものの考え方は、家族が何らかのトラブルに直面した際の紛争解決にあたって役立つとともに、家族が安心して生活できる社会の基盤となる法制度のあり方を考えるうえでも必要となる。講義の前半は、主に人生の前半で家族が直面しうる婚姻、親子、離婚、虐待をめぐる法的諸問題を素材に、紛争解決のあり方を勉強する。講義の後半は、家族から自律した高齢期を支える仕事や所得保障、老いじたくとなる成年後見や相続・財産管理、さらには家族機能が低下した高齢社会における介護・住まい方・医療をめぐる法的諸問題を素材とする。そして、これら法的諸問題の紛争解決について勉強するとともに、家族による支えあい機能を補完・代替・補強する社会保障制度のあり方について学んでいく。

授業の目標

この講義は、初学者にも法律学が身近に感じられるよう工夫しながら、家族に関する基本的な法律の知識、高齢社会における制度と法律の知識及び法律の背後にある法の精神（Legal Mind）を学ぶことを目標としている。家族に関する基本的な法律の知識、家族に関わる紛争解決のために必要な法律の知識を身につけること、法の精神に考えを及ぼすことは、受講生が何らかの紛争に巻き込まれた場合に役立つことになろう。また、人間らしく生きることが憲法の保障する権利であることを知り、それを具体化したのが社会保障制度であること、人生の最後まで自律した存在として自らの生き方を追究することが社会保障制度の目的のひとつであることを理解することにより、誰もが迎える高齢期に安心した生活を営むことが可能となろう。

履修上の留意点

予備知識や他の科目の事前履修は不要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	変容する家族が直面する課題	家族が直面する各種の法的課題および家族機能の低下した高齢（長寿）社会を支える社会保障制度をめぐる法的課題を、ライフステージに沿って検討するという本講義の全体像を示すとともに、講義のねらいと担当者を説明する。 【キーワード】 平均寿命、少子化、高齢社会、小さくなる家族、社会保障、グローバリゼーション、年金、地域包括ケアシステム、介護、老いじたく	川島　志保（川島法律事務所弁護士）	川島　志保（川島法律事務所弁護士） 榊原　富士子（さかきばら法律事務所弁護士）
2	婚姻 －家族をつくる	家族は、夫婦という横軸と、親子という縦軸の関係から成り立っていることが多い。婚姻により、夫婦間にどのような法的関係が形成されるのか、婚姻届のない内縁関係と婚姻とは何が共通し、何が違うのか、さらには、こどもが生まれた場合の親子や夫婦の関係について、法律の仕組みを知るとともに、その背後にある考え方を学ぶ。 【キーワード】 婚姻、内縁関係、嫡出子、非嫡出子、認知、同居、協力・扶助の義務、生殖補助医療	川島　志保（川島法律事務所弁護士）	川島　志保（川島法律事務所弁護士）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	グローバリゼーションと家族	国際化の進展により、国際結婚により形成される家族が増えている。国際結婚によって生まれる子の国籍、離婚の際どの国の法律が適用されるのか、子に関する取り決めや同意なく連れ出された子に関するルール等、国際化に伴い生じた新たな問題について検討する。 【キーワード】 国際結婚、国籍、在留資格、ハーグ条約、法適用通則	川島　志保（川島法律事務所弁護士）	榊原　富士子（さかきばら法律事務所弁護士）
4	離婚	人生の大きな転換点である離婚について基礎的な知識を習得し、乗り越えるために検討すべき項目を知る。最近の離婚の傾向、離婚の原因、離婚方法、財産分与、慰謝料、年金分割、別居中の婚姻費用、高齢者の離婚の特徴・配慮すべき点などを学ぶ。 【キーワード】 離婚、離婚原因、離婚調停、円満調停、調停前置主義、アルツハイマーと離婚、財産分与、慰謝料、年金分割、親権、養育費、面会交流	榊原　富士子（さかきばら法律事務所弁護士）	榊原　富士子（さかきばら法律事務所弁護士）
5	離婚と子ども	最も離婚の影響を受けやすいのは未成年子である。子どもに視点をおいた離婚、子の福祉を第一に考える離婚が求められている。子が離婚を乗り越えるには何が必要かを考える。 【キーワード】 子どもの貧困、養育費、面会交流、親権、監護者、子の意思、子どもの代理人、面会交流支援	榊原　富士子（さかきばら法律事務所弁護士）	榊原　富士子（さかきばら法律事務所弁護士）
6	家族の虐待	家族内の虐待は外からは見えないことが多く、しつけや夫婦げんかとして見過ごされてきたが、その実態は極めて深刻である。児童虐待、配偶者間の暴力（DV）、高齢者虐待の背景にある家族の関係やそれを規制する法律について学ぶ。 【キーワード】 児童虐待、親権停止、親権喪失、DV、高齢者虐待、貧困と経済的虐待、家族内の権力関係	川島　志保（川島法律事務所弁護士）	川島　志保（川島法律事務所弁護士） 布施　憲子（布施法律事務所弁護士）
7	高齢社会を支える法理念	家族が小さくなっていくなかで、社会との関係において高齢者が直面する諸問題について、法がどのように対処しているか、また背後にある法理念（自己決定、権利擁護、社会保障）について、学ぶ。 【キーワード】 自由権、社会権、個人の尊重、幸福追求権、尊厳死、権利擁護、社会保障	川島　志保（川島法律事務所弁護士） 布施　憲子（布施法律事務所弁護士）	川島　志保（川島法律事務所弁護士） 布施　憲子（布施法律事務所弁護士）
8	老いじたくを支える法制度 －①成年後見制度	少子高齢社会を迎え、親世代は子世代に頼らずに、自分で自分の老後に備える必要がある（老いじたくの必要性）。成年後見制度を中心に老いじたくに役立つ仕組みを学ぶ。 【キーワード】 成年後見制度（法定後見・任意後見）、成年後見人、保佐人、補助人、代理権、取消権、同意権、後見登記簿	布施　憲子（布施法律事務所弁護士）	布施　憲子（布施法律事務所弁護士）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	老いじたくを支える法制度 －②相続と遺言	相続法の基本的な考え方、遺言による本人の意思の優先、遺言がない場合の法定相続と遺産分割の手続きについて学ぶ。高齢になってからの財産の適格な管理・確保の問題と相続人の立場からの相続の承認と放棄についても学ぶ。 【キーワード】 法定相続人、法定相続分、特別受益、寄与分、遺産分割協議、相続の承認と放棄、遺言、遺留分、特別縁故者	布施　憲子（布施法律事務所弁護士）	布施　憲子（布施法律事務所弁護士）
10	公的年金と社会的扶養	家族による私的扶養に代わって、高齢者の生活費の中核を支える社会保障制度、すなわち社会的扶養として発展してきた公的年金制度について勉強する。第一に、年金制度を理解する前提として、社会保障制度の全体像を整理する。第二に、公的年金制度を素材に、社会保障制度の主要な機能である所得再分配機能のうち、世代間分配について勉強する。 【キーワード】 社会保障、公的年金制度、所得保障、世代間公正、家族の扶養、社会的扶養、社会保険、所得再分配機能	関　ふ佐子（横浜国立大学大学院教授）	関　ふ佐子（横浜国立大学大学院教授）
11	仕事と社会参加	人生90年時代において、高齢者も活躍する社会を描いた法政策を理解する。自立（律）した高齢期を支える仕事をめぐる課題について勉強する。家族の姿が変容しつつあるなか、支え合いの機能を地域のコミュニティが担えないかが模索されている。ボランティアなどによる社会参加を支える政策や課題、第2・第3の人生に向けた若年期からの準備について勉強する。 【キーワード】 現役シニア、仕事、高年齢者雇用確保措置、年金と雇用、コミュニティ、自助・互助・共助・公助、ボランティア、社会参加	関　ふ佐子（横浜国立大学大学院教授）	関　ふ佐子（横浜国立大学大学院教授）
12	高齢者の住まいとケア	家族規模の縮小や家族関係の希薄化、地域コミュニティの崩壊など、人と人との直接的な関わりが乏しくなる中で、高齢者の介護問題はどこで介護を受けるのかという住まいの問題を顕在化させる。高齢者の居住をめぐる法制度の展開と考え方を学ぶとともに、高齢者の住まいの確保と住まい方の支援をめぐる問題について考える。 【キーワード】 住宅セーフティネット、高齢者施設、高齢者住宅、日本版CCRC	原田　啓一郎（駒澤大学教授）	原田　啓一郎（駒澤大学教授）
13	縮小する家族と介護	一人暮らしの高齢者や高齢夫婦のみの世帯が増加するなかで、要介護高齢者の生活は介護・福祉サービスなどの社会的支援なしには成り立たない。認知症高齢者の介護をめぐる家族の責任、介護の社会化と介護保険、家族介護の支援を素材に、高齢社会における家族と介護に関わる問題について考える。 【キーワード】 介護保険、介護の社会化、扶養義務、地域包括ケア、介護サービス契約、家族介護	原田　啓一郎（駒澤大学教授）	原田　啓一郎（駒澤大学教授）
14	高齢期の医療と法	高齢者は若年者と比べて医療を必要とすることが多くなる。少子高齢社会における高齢期の医療費の支え方、医療の高度化と高齢者のQOL、人生最終段階における医療（終末期医療）での高齢者の自己決定と家族との関係を素材としながら、高齢期の医療保障の現状と法的課題について考える。 【キーワード】 医療保険、国民皆保険、後期高齢者医療制度、診療契約、医療同意、人生最終段階における医療、リビング・ウィル	原田　啓一郎（駒澤大学教授）	原田　啓一郎（駒澤大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	変容する家族と今後の課題	これまでの講義で学んだことを再確認するとともに変容する家族の将来と今後の課題を、授業を担当した講師が、それぞれまとめ、高齢社会の将来像を考察する。 【キーワード】 家族、世帯、年金制度、3号被保険者、離婚、養育費、面会交流、ワンストップサービス、無縁社会、成年後見制度、市町村長申立、権利侵害、成年後見人等の不祥事、地域包括ケアシステム、住まい、意思決定、介護者支援、社会保障、持続可能性、世代間公正、高齢者像、人生90年時代	川島　志保（川島法律事務所弁護士） 榊原　富士子（さかきばら法律事務所弁護士） 関　ふ佐子（横浜国立大学大学院教授） 原田　啓一郎（駒澤大学教授） 布施　憲子（布施法律事務所弁護士）	川島　志保（川島法律事務所弁護士） 榊原　富士子（さかきばら法律事務所弁護士） 関　ふ佐子（横浜国立大学大学院教授） 原田　啓一郎（駒澤大学教授） 布施　憲子（布施法律事務所弁護士）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639501	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本政治思想史 （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 A History of Japanese Political Thought (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：原　武史　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

主に幕末から戦後にかけての近現代の日本の政治思想史を講義します。西洋とも、中国や朝鮮など東洋とも異なる日本の政治思想とは何かに注意を払いつつ、従来のように有名思想家のテキストを読むだけでは見えてこない日本の政治思想の特徴について探ってゆきたいと思います。こうした学習を通して、現在の日本政治の背景にある歴史的、思想的前提を正しく理解することが、本講座の目的になります。受講者としては、天皇制という日本独自のシステムに関心があり、計量的な政治学だけでは飽き足らないと思っている学生を対象に考えています。

授業の目標

1）日本の政治思想史の特徴を総論で把握する。
2）各論で近世から現代にかけての政治思想の流れを理解する。
3）個々の思想家だけにとらわれない政治思想をつかむことで、日本政治に対する理解を深める。

履修上の留意点

1）高校卒業程度の日本史の知識を有していることを前提とする。
2）この科目を履修する前に「権力の館を考える」を履修し、この科目を履修した後に「日本政治外交史」などに進んでいくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	総論1・日本政治思想史とは何か	日本政治思想史という学問が西洋政治思想史をモデルとして丸山真男により事実上始められたことに触れるとともに、西洋とも中国や朝鮮のような他の東洋とも異なる日本の政治思想の特徴につき概観します。 【キーワード】 丸山真男、自然、作為、孟子、革命、天皇制、福沢諭吉、権力の偏重	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）
2	総論2・空間と政治	日本政治思想史では言説化した政治思想が空間をつくりだすのではなく、逆に空間が言説化されない政治思想をつくりだすという特徴があります。近代天皇制や徳川政治体制を例に、その特徴について考察します。 【キーワード】 国体、言説化、視覚化、君民一体、論語、礼楽刑政、空間政治学	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）
3	総論3・時間と政治	日本では西洋や中国とは異なり、現実の時間を超越して永遠不変の規範や原理を求める志向性が弱いので、現実の時間こそが支配の主体になりやすいことを、記紀神話から近代天皇制までの歴史のなかに探ります。 【キーワード】 古層、なる、おのずから、勢、社会進化論、時間支配、玉音放送	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	各論1・徳川政治体制のとらえ方 －朝鮮と比較して	徳川政治体制は、西洋や中国ではなく、隣国の朝鮮王朝と比較することで、その特徴が一層はっきりします。朱子学が体制イデオロギーとなった朝鮮とは異なる徳川政治体制の思想について考察します。 【キーワード】 朱子学、民本思想、直訴、正祖、参勤交代、フェティシズム、朝鮮通信使、垂簾聴政、大奥	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）
5	各論2・国学と復古神道	江戸後期に台頭した国学の大成者、本居宣長と、宣長の思想を受け継いで復古神道を確立させた平田篤胤の思想を取り上げ、国学や復古神道が天皇の支配を正当化するとともにその支配を相対化する論理に迫ります。 【キーワード】 国学、本居宣長、アマテラス、平田篤胤、日本書紀、顕幽論、オオクニヌシ、千家尊福、祭神論争	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）
6	各論3・明治維新と天皇	後期水戸学で強調された「国体」と祭祀の関係や、明治維新とともにつくられた宮中祭祀、靖国神社、明治天皇の巡幸について触れ、「可視化された帝国」の基礎がつくられる過程を考察します。 【キーワード】 会沢正志斎、国体、キリスト教、賢所、神器、靖国神社、六大巡幸、元田永孚、直訴	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）
7	各論4・街道から鉄道へ －交通から見た政治思想	江戸時代に確立された街道網と、明治以降に確立される鉄道網は、政治思想から見るとどう違うのか。交通手段が輿や駕籠から馬車を経て鉄道に変わることで、支配が具体的にどう変わったのかを考えてみたいと思います。 【キーワード】 街道、日本橋、輿、駕籠、馬車、鉄道、御召列車、ダイヤグラム、奉迎、東京駅	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）
8	各論5・近世、近代日本の公共圏と公共空間	江戸から明治にかけて、日本では公共圏がつくられました。それは政治思想史のなかでどう位置づけられるのでしょうか。また明治以降に新たにつくられた公共空間の政治思想史的意義についても考えます。 【キーワード】 公共圏、読書会、討論、横井小楠、議会、輿論、世論、自由民権運動、演説、車内	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）
9	各論6・東京と大阪	大正期、東京と大阪では全く異なるデモクラシー思想が開花しました。大阪では私鉄と新聞が発達し、両者があいまって民間主体、民衆主体の文化が確立されます。その具体的様相を探ってゆきます。 【キーワード】 吉野作造、中央公論、福澤諭吉、小林一三、阪急、大阪朝日新聞、大阪毎日新聞、官と民、五島慶太	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）
10	各論7・シャーマンとしての女性	明治維新により、天皇ばかりか皇后も新たにつくられ、神に祈るようになります。皇后がシャーマン化するとともに、民間でもシャーマン化した女性が出てきます。それが近代日本でどういう意味をもったかを考えます。 【キーワード】 貞明皇后、光明皇后、神功皇后、高群逸枝、神ながらの道、出口なお、折口信夫、ナカツスメラミコト	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	各論8・超国家主義と「国体」	大正天皇の病気をきっかけに「国体」が視覚化されるのに呼応して超国家主義が台頭する過程や、日中戦争の勃発とともに「時間支配」が導入され、「想像の共同体」が確立される過程につき考察します。 【キーワード】 国体、視覚化、ナショナリズム、超国家主義、時間支配、想像の共同体、「満洲国」、大東亜共栄圏	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）
12	各論9・異端の諸思想	明治から昭和初期にかけて「異端」とされた思想の例として、キリスト教やマルクス主義、北一輝の「純正社会主義」、大本教団を率いた出口王仁三郎の神道思想などについて解説します。 【キーワード】 L正統、O正統、異端、不敬罪、治安維持法、北一輝、大本、出口王仁三郎、霊界物語、大東亜共栄圏	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）
13	各論10・戦後のアメリカ化	戦後、アメリカは日本国憲法に代表される上からの民主化を進める一方、独立回復後も安保体制のもとで米軍が駐留し続けました。両義性をはらむ「アメリカ化」に対する反応を通して、民主主義の定着過程を概観します。 【キーワード】 マッカーサー、庶民大学三島教室、新茶道、朝鮮戦争、国立文教地区、原水禁運動、60年安保闘争	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）
14	各論11・戦後のソ連化	戦後日本はアメリカとは異なり、日本社会党や日本共産党が有力野党となり、社会主義が影響力をもつようになります。住宅や鉄道などのインフラがソ連化をもたらしたという点から、戦後の革新勢力について分析します。 【キーワード】 日本社会党、日本共産党、六全協、新左翼、日本住宅公団、中央線、西武線、堤康次郎、滝山団地	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）
15	各論12・象徴天皇制と戦後政治	ミッチーブームとともに始まる大衆天皇制の政治的意味について考察するとともに、それに対抗した三島由紀夫の政治思想を分析します。また平成の天皇制についても考えます。 【キーワード】 ミッチーブーム、大衆天皇制、松下圭一、三島由紀夫、文化防衛論、新宿騒乱事件、自衛隊、平成の天皇制	原　武史（放送大学教授）	原　武史（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639307	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 国際法 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 International Law (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：柳原　正治　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

主権国家間を規律する法としての国際法は、近代ヨーロッパに生まれた。その規律内容は、とくに第2次世界大戦以降急激に変化している。また、国家が国際法の主体の中心であることには変化はないとしても、非国家主体（国際組織、個人など）が果たす役割は飛躍的に増大してきている。さらには、近代国際法概念そのものの歴史的制約性もいろいろな形で指摘されてきている。本講は、こうした国際法の歴史的変遷を踏まえたうえで、現段階における国際法についての基礎的な知識を提供するものである。

授業の目標

国際法の各分野における重要な基礎概念について、その歴史的背景を踏まえつつ、現段階でのあり方について理解することを目指す。さらには、現行の制度が今後も現在のようなかたちで存続できるのか、そうでないとすればどのようなかたちがありうるのかについても、構想できるようになってもらいたい。

履修上の留意点

法律学、とくに民法に関する科目を事前に、あるいは同時に履修していることが望ましい。ただし、本講履修の条件ではない。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	近代国際法の成立	現在の国際社会に妥当する国際法は、19世紀中葉にヨーロッパにおいて完成した近代国際法（伝統的国際法）が発展し、19世紀後半以降世界に広がっていったものである。時代や地域を異にすれば、これとは異なる形での、広い意味での「国際法」が存在していた（礼、ダルマ、スィヤルなど）。 【キーワード】 礼、ダルマ、スィヤル、万国公法、近代国際法	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）
2	現代国際法の諸特徴	国際法は、今なお分権社会である国際社会の特質によって規定されている。法規範としての国際法規範は、国内法規範とは異なる特色を持っている。こうした特色のある国際法をどのように学ぶのがよいかについても解説する。 【キーワード】 国際社会、社会規範、法規範、国際法規範	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）
3	国際法の形成と適用と解釈	国際法は、その形成・適用・解釈のいずれについても、国内法とはかなり異なる独自の原理をもっている。また、国際法の形成・適用・解釈の3つが厳格に区別されるのかがときとして曖昧な場合もある。これらの原理を正確に理解することが国際法の理解にとってなによりも重要である。 【キーワード】 国際法の法源、条約、慣習国際法、特別国際法、一般国際法	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	国際法と国内法の関係	国際法と国内法の関係については19世紀後半から一元論と二元論の理論的な対立がみられた。これは、国際法が国内法と同じ意味での法といえるかという問いを含むものでもあった。現在では、国際法秩序と国内法秩序を分けて、実際的な場面での関係が問題とされる。 【キーワード】 一元論、二元論、編入と変型、直接適用可能性、間接適用	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）
5	国際法の主体 －国家と非国家主体－	国家の資格要件はどのようなものであり、どのようにして他国から国際法上の国家として受け入れられるか（国家承認）について解説する。国際組織や個人などの非国家主体も一定の範囲で国際法の主体とみなされるようになってきている。 【キーワード】 国際法上の国家、国家承認、国家承継、非国家主体	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）
6	国家の基本的権利義務と国家管轄権	国際法上の国家であればすべて、国家主権、国家平等、不干渉義務といった、基本的権利義務をもつ。これに対して、国家が人・事物に対して行使する権限をその作用の側面からとらえたのが国家管轄権の概念である。 【キーワード】 国家主権、国家平等、不干渉義務、属人主義、属地主義、国家免除	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）
7	国家の国際責任	国家の国際責任は従来国際違法行為責任とされ、民事責任との類似でとらえられる側面もあったが、国内法におけるような民事責任と刑事責任の厳格な区別は存在しなかった。現在では、国家の「国際犯罪」が存在するかがとくに問題となっている。 【キーワード】 国際違法行為責任、違法性阻却事由、外交的保護、国家責任の履行と追及	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）
8	国家領域	国家が排他的に支配する地域、いいかえれば領域主権が及ぶ地域が国家領域である。そして、一定の地域がどこの国家の領域に帰属するかという問題は、従来領域権原という法的枠組みのなかで論じられてきた。領域をめぐる紛争（日本の領域問題を含む）の解決についても解説する。 【キーワード】 領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任原則、領域権原、領域紛争の解決	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）
9	海洋およびその他の地域・空間	国家領域である陸地以外の地域・空間、すなわち、海洋、空域、宇宙空間、南極、国際河川・国際運河、委任統治・信託統治などについては、それぞれに固有の制度が存在する。とくに海洋に関する規律はここ30年の間に激変した。 【キーワード】 公海、領海、排他的経済水域、大陸棚、深海底、海洋の境界画定、国際化地域、空域、宇宙空間	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	国際法における個人	時代により異なるものの、国際法はいろいろな形で個人についての規律をおこなってきている。個人（自国民や外国人）との関係での国家の権利義務、国境を越える個人の活動や移動についての基準、個人の権利そのもの、個人の犯罪などである。人権は次の章で扱う。 【キーワード】 国籍、外国人の法的地位、犯罪人引渡、難民の保護、個人の国際犯罪	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）
11	人権の国際的保障	人権の保障は元来それぞれの国家によって行われてきたが、20世紀の半ば以降、人権の国際的保障についてのいくつもの枠組みが生み出された。人権条約には特有の履行確保制度もみられる。また、自由権や社会権とは異なる、新しい人権概念も主張されている。 【キーワード】 人権概念、第三世代の人権、人権条約、人権保障の国際的システム	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）
12	国際経済活動と国際環境保護に関する国際法	国際経済や国際環境の分野では、ここ半世紀の間に、じつに多くの新しいルールが生まれてきている。既存の国際法の枠組みとはいろいろな点で異なるために、「国際経済法」や「国際環境法」という新しい分野として主張されることもある。 【キーワード】 WTO、国有化、国際通貨制度、IMF、予防原則、共通だが差異のある責任	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）
13	国際紛争の解決	国際紛争の解決についての法的規律は時代により大きく変化し、現在では個々の国家が戦争という形で紛争を解決することは認められていない（紛争の平和的解決義務）。ここでは国際紛争の伝統的な解決方法を概観する。とくに国際司法裁判所の現状と課題を解説する。 【キーワード】 自力救済、交渉、周旋、審査、仲介、調停、仲裁裁判、司法裁判、国際司法裁判所	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）
14	武力行使の規制と国際安全保障	伝統的国際法の下で認められていた戦争は、20世紀を通じて「違法化」が進められ、現在では武力不行使原則が確立している。そして、国家が個別に安全を保障するという体制ではなく、集団安全保障体制が設立された。しかし、現状はかならずしもこうした理念通りには動いていない側面があることも解説する。 【キーワード】 戦争の違法化、武力不行使原則、集団安全保障、国連平和維持活動、多国籍軍	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）
15	武力紛争法	武力紛争において、どのような武器を用いて良いか、捕虜をどのように扱うべきかなどについての法的規制（武力紛争法）が存在している。どのようなルールが現在存在するか、さらにはこのような状況下で中立はありうるのかについて解説する。 【キーワード】 戦時国際法と武力紛争法、戦闘の手段と方法の規制、武力紛争犠牲者の保護、中立概念	柳原　正治（放送大学教授）	柳原　正治（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639315	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 著作権法概論 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Basics of Copyright Law (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：作花　文雄　（弘前大学副学長）　〕

〔主任講師（現職名）：吉田　大輔　（早稲田大学教授）　〕

【本学担当専任教員：來生　新　（放送大学副学長）　】

講義概要

情報社会あるいは知識基盤社会と呼ばれる今日において、知的財産の創造を促進し、その有効かつ適切な活用を図る上で、知的財産権に関する法制度が重要な役割を果たす。知的財産権制度の中にあって、小説や音楽、レコード、映画、アニメ、プログラムなどの著作物等を保護する著作権法は、特定の職業に携わる方々のみならず、全ての人々にかかわる法律であり、この講義では、著作権制度の基本的な事項及び実際的な課題について総合的に学習を進めていく。

授業の目標

全15回の講義を通じ、具体的な事例を踏まえつつ、著作物を利用するに当たり著作権法がどのようにかかわっているかということを的確に理解し、日常生活の中で法に基づく適切な判断ができるようにするとともに、職業生活において著作物の創造及び利用を行う上で必要となる法的素養を培う。

履修上の留意点

民法の不法行為について事前に又は並行して学習することにより、著作権侵害についての理解が深められる。また、印刷教材の巻末に掲げている参考図書を活用して幅広く学習をすることが期待される。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	著作権制度の仕組み	著作権法の目的や知的財産権制度全体における位置づけを解説するとともに、著作権制度において保護の対象となるものや権利の主体となる者、権利の内容、権利の制限など、第2回目以降の講義の導入として、制度全体の仕組みについて概説する。 【キーワード】 知的財産権、排他的権利、情報社会における著作権法の役割、著作権制度の仕組み	作花　文雄（弘前大学副学長）	作花　文雄（弘前大学副学長）
2	著作物	知的成果物には文芸作品や学術作品、娯楽作品、あるいは産業技術関係のものなど様々なものがあるが、著作権法の保護対象となる「著作物」とは何か、保護の対象でないものは何かについて解説する。また、翻訳物や編曲などの二次的著作物、新聞や百科事典などの編集著作物、そしてデータベースの著作物について解説する。 【キーワード】 著作物の定義、創作性、表現物、著作物の種類、二次的著作物、編集著作物、データベース	作花　文雄（弘前大学副学長）	作花　文雄（弘前大学副学長）
3	著作者	著作権法により権利の主体となる「著作者」とはいかなる者であるのかについて解説する。また、複数の者が共同して一つの作品を創作する場合があるが、共同著作者となる場合の要件や職務上作成される著作物について法人著作が成立する場合の要件について解説する。 【キーワード】 創作者、共同著作、法人著作、映画の著作者	作花　文雄（弘前大学副学長）	作花　文雄（弘前大学副学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	著作者人格権	著作物は著作者の思想・感情の表現であり、著作権制度では著作物の利用にあたって著作者の人格的利益を保護するために著作者人格権を定めている。著作者人格権の内容、限界、その他の特色について解説する。 【キーワード】 公表権、氏名表示権、同一性保持権、名誉声望を害する利用、著作者死後の人格的利益の保護	吉田　大輔(早稲田大学教授)	吉田　大輔(早稲田大学教授)
5	著作権(その1)	著作物の利用に関して著作者の経済的利益を確保するために設けられている財産権としての著作権のうち、複製権並びに複製物等の流通に関わる頒布権、譲渡権及び貸与権について、判例等にも触れながら、その具体的内容を解説する。 【キーワード】 権利の束、複製権、頒布権、譲渡権、貸与権	吉田　大輔(早稲田大学教授)	吉田　大輔(早稲田大学教授)
6	著作権(その2)	財産権としての著作権のうち、著作物の上演、演奏、上映等に関する諸権利、放送、有線放送、インターネット送信等に関する権利、著作物の翻訳・翻案等に関する権利、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利の具体的内容を解説する。 【キーワード】 上演権・演奏権、上映権、口述権、展示権、公衆送信権送信可能化、翻案権	吉田　大輔(早稲田大学教授)	吉田　大輔(早稲田大学教授)
7	著作隣接権	著作者と並んで、著作権法では実演家、レコード製作者、放送事業者及び有線放送事業者を著作隣接権制度によって保護を与えており、著作隣接権の重みは増しつつある。著作者の権利と比較しつつ、実演家等の権利の具体的内容を解説する。 【キーワード】 実演家、レコード製作者、放送事業者、有線放送事業者	吉田　大輔(早稲田大学教授)	吉田　大輔(早稲田大学教授)
8	権利の制限(その1)	著作権制度においては、著作物を権利者の許諾を得ることなく利用できる様々な場合が規定されており、それぞれの場合における適法な利用の要件や留意点について、2回にわけて解説する。この回では、私的使用のための複製、図書館での複製、引用、教育機関での複製などについて解説する。 【キーワード】 私的使用、図書館、引用、教科用図書、拡大教材、学校教育番組、教育機関、試験問題、点字、聴覚障害者	作花　文雄(弘前大学副学長)	作花　文雄(弘前大学副学長)
9	権利の制限(その2)	前回に続き、著作物の自由利用ができる場合として、非営利目的の上演等、裁判手続き等のための複製、公開の美術の著作物の利用、プログラムの所有者による複製、情報の処理・送信の過程における蓄積などについて解説する。 【キーワード】 非営利の上演等、報道、裁判手続等、情報公開、美術作品の展示、一時的複製、情報の処理・送信、検索エンジン	作花　文雄(弘前大学副学長)	作花　文雄(弘前大学副学長)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	著作権の保護期間と登録制度	著作権及び著作隣接権は法定の保護期間内に限って存続する。著作権・著作隣接権の保護期間とその算定方法、外国著作物に係る特例等について解説する。また、著作権法上の登録制度の趣旨、効果及び登録手続について解説する。 【キーワード】 保護期間、外国著作物、相互主義、戦時加算、実名の登録、第一公表・発行年月日の登録、移転等の登録	吉田　大輔（早稲田大学教授）	吉田　大輔（早稲田大学教授）
11	著作物の利用	著作物等の利用に際しては、利用許諾契約等により正当な利用権原を取得することが原則である。著作物等の利用に関する各種の方法を解説するとともに、著作権等の管理を業とする者を対象とする著作権等管理事業法の仕組みを解説する。 【キーワード】 利用許諾契約、著作権の譲渡、出版権、裁定、著作権等管理事業	吉田　大輔（早稲田大学教授）	吉田　大輔（早稲田大学教授）
12	権利侵害に対する救済・制裁	著作権等が侵害された場合は、民事上の救済を受けることができるとともに、侵害者に対して刑事上の制裁も科せられる。著作権制度においては、民法に加えて、損害賠償や差止請求についての特別な規定が設けられており、その内容を解説するとともに、著作権制度上の刑事罰の内容について解説する。 【キーワード】 差止請求、損害賠償請求、不当利得返還請求、名誉回復請求、刑事制裁	作花　文雄（弘前大学副学長）	作花　文雄（弘前大学副学長）
13	著作権に関する条約	著作物等の国境を越えた利用に対応するため、国際的な保護規範を定めた条約の整備改善が続けられてきており、その流れは国内法制の整備にも大きな影響を与えている。著作権及び著作隣接権に関する主要な条約の経緯、内容等を解説する。 【キーワード】 ベルヌ条約、内国民待遇、TRIPS協定、WCT、ローマ条約、WPPT	吉田　大輔（早稲田大学教授）	吉田　大輔（早稲田大学教授）
14	著作権制度の歴史	著作権制度の発展の歴史を全体的に捉えるとともに、近年において、貸レコード問題への対応やプログラム・データベースの保護、インターネット送信への対応、コピー・プロテクション回避への規制、還流レコードへの規制など、我が国の著作権制度は間断なく改正がなされてきているところから、これらの改正動向について解説する。 【キーワード】 著作権制度の確立、我が国の著作権法制の整備、時代の進展に対応した著作権法の整備	作花　文雄（弘前大学副学長）	作花　文雄（弘前大学副学長）
15	現代社会における課題	現代社会においてはインターネットなど情報伝達技術の飛躍的な発展を背景として、また、中古ソフト販売や漫画喫茶など著作物の多様な利用形態が登場してきたことにより、著作権制度は様々な課題に直面している。これらの課題についての概況や論点について解説する。 【キーワード】 カラオケ、貸レコード、中古ソフト、還流レコード、私的録音録画、インターネット、P2P、フェアユース	作花　文雄（弘前大学副学長）	作花　文雄（弘前大学副学長）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639498	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 雇用社会と法 （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Basics of Labor Law (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：道幸　哲也　（北海道大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：來生　新　（放送大学副学長）】

講義概要

雇用社会の変貌に伴い多様な労働法上の紛争が発生している。この講義では、雇用社会の変貌の態様や原因を解明するとともに、入社から雇用終了にいたるまでの紛争のパターンを具体的な裁判例を素材に検討する。対象となる具体的な論点は、労働契約の締結と労働契約上の権利・義務、セクハラ、パワハラさらにプライヴァシー法理等の労働者人格権の展開、賃金・労働時間等の労働条件規制、労災補償や安全配慮義務、退職や解雇等の雇用終了の法理、等である。具体的裁判においてどのような利益が対立し、どう調整しているかを検討する。

授業の目標

雇用社会の変貌の実態を知るとともに関係する法的紛争に関する知識を得る。具体的紛争についての裁判例や考え方を知ることは、職場において自分や仲間の権利・利益を守るために不可欠である。同時に、管理的地位にたった場合には、無用な紛争を回避し、円滑な労務管理のために有用である。これらの法的な知識の獲得を通じて「働くこと」の意義やかかえる問題を考察することができる。

履修上の留意点

関連領域として、労務管理や民法・民訴法があるのでその点についての知識は有用です。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	労働条件はどう決まっているか	職場は身近な場所だが、そこでなにが起こって、どのような紛争が発生しているかは必ずしもはっきり見えにくい。本章では、労働法を知るスタートラインとして、職場や労使関係の現状がどうなっているかを検討する。同時に労働条件決定システムの全体像を明らかにしていく。 【キーワード】 労務提供契約、労働者概念、非正規労働者、労働契約、就業規則、労働協約	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）
2	権利実現の仕組みと仕方	時間外労働について割増賃金の請求権があっても、また違法なパワハラを理由とする損害賠償の請求権があったとしても、それを実際に請求することは容易ではない。とりわけ、労働法上の権利については職場で波風を立て、使用者との関係を悪化させるのでなおさらそうである。ここでは、職場での権利に焦点を当てて、それをどう具体的に実現するかを労働相談の仕方も含め考える。 【キーワード】 権利実現、権利意識、コミュニケーション、労働相談、法意識、労働審判、労働委員会	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）
3	労働契約の締結	労働関係は、労働契約の締結によってスタートする。この労働契約については、使用者と労働者との合意に由来する権利・義務のあり方が問題になる。本章では、この労働契約上の権利義務とともにその契約締結過程の法的構成を取り上げる。同時に特定の契約が労働契約か否かの論点をも検討する。 【キーワード】 労働契約、請負契約、委任契約、キャリア権、労働者概念、採用、試用期間、内定取り消し	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	業務命令権	業務命令については、その法的根拠、具体的範囲、命令違反の場合の制裁のあり方等が争われている。本章では、業務命令権の基本的特徴を検討した後に多くの裁判が提起されている配転・出向命令、さらに、業務命令か否かが正面から争われている降格命令についても検討する。 【キーワード】 業務命令、配転、出向、降格、研修命令	道幸 哲也（北海道大学名誉教授）	道幸 哲也（北海道大学名誉教授）
5	賃金の確保	賃金は基本的な労働条件でありそれによって自分や家族の生活を維持改善する目的を持つ。そこで、労働法は、労基法により賃金額の確実な支払いを目的としたルールを定め、また最低賃金法により最低賃金額以上の支払いを強制している。賃金を巡る権利義務について検討する。 【キーワード】 賃金、最低賃金法、退職金、一時金、賃金支払い確保法、人事考課、年俸制	道幸 哲也（北海道大学名誉教授）	道幸 哲也（北海道大学名誉教授）
6	労働時間の規制	労働時間規制の理由、労働時間規制のアウトラインや労働時間概念を考察する。長時間労働に伴う過労死・過労自殺を避けるためにも時間規制のあり方は重要な課題といえる。 【キーワード】 労働時間、実働時間、休憩、過労死、過労自殺、管理監督者、36協定、時間外労働、裁量労働	道幸 哲也（北海道大学名誉教授）	道幸 哲也（北海道大学名誉教授）
7	職場の人間関係と法	予備的考察として労務管理のパターンに応じた法的問題をとりあげる。労使の利害がどのような形で調整されているかを知るためである。それをふまえて、労働法は職場の人間関係をいままでどう規制してきたかを検討し、2つの具体的論点、協調性欠如を理由とする処分事案と職場いじめのケースについて考察する。 【キーワード】 人間関係、セクハラ、パワハラ、職場いじめ、プライヴァシー、協調性、労務管理、業務命令権	道幸 哲也（北海道大学名誉教授）	道幸 哲也（北海道大学名誉教授）
8	私的領域の確保	職場においても私的領域ともいうべきものを想定しうる。ここでは、それを自己決定、プライヴァシー、さらに年休の各権利の観点から検討していきたい。それ以外にも、企業外における私生活の確保としてのワークライフバランスの要請、労働の自由との関連では兼業禁止や競業避止義務との関連も問題になる。 【キーワード】 自己決定、プライヴァシー、年休、ワークライフバランス、制服・制帽、ネームプレート、長期休暇	道幸 哲也（北海道大学名誉教授）	道幸 哲也（北海道大学名誉教授）
9	女子労働問題	女子労働問題を概観したのちに、性差別とセクハラの禁止法理を検討する。なお、女子労働者の働き方の改善のためには男子労働者の働き方や生活のあり方も問われていることは強調しておきたい。 【キーワード】 性差別、セクハラ、ワークライフバランス、母性保護、育児介護休業法、雇用機会均等法	道幸 哲也（北海道大学名誉教授）	道幸 哲也（北海道大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	パワハラの法律問題	パワハラ事案の現状と労務管理上の課題を検討するとともに、関連する裁判例を紹介する。それをふまえて教育・研修時における事案をやや詳しく取り上げ、最後にハラスメント法理の問題点を指摘したい。 【キーワード】 パワハラ、個別労働紛争解決制度、教育・研修、労働者人格権、人間関係紛争	道幸　哲也 (北海道大学名誉教授)	道幸　哲也 (北海道大学名誉教授)
11	労働災害、安全配慮義務の法理	健康な働き方をするための健康診断や産業医による相談等が重視されている一方、労働者のプライヴァシー保護の必要性も指摘されており、重要な論点となっている。労働者の生活は、業務に由来しないけがや病気（私傷病）によっても苦しくなり、場合によれば解雇という事態にもなる。そこで、本章では、労災補償のシステムと私傷病をめぐる法律問題について検討する。 【キーワード】 労働災害、安全配慮義務、私傷病、労働者災害補償保険法、業務上・外、通勤災害、メンタル不調、復職、病気休職	道幸　哲也 (北海道大学名誉教授)	道幸　哲也 (北海道大学名誉教授)
12	雇用終了・解雇の法理	雇用終了のパターンを確認するとともに使用者からなされる解雇の法理を多様な側面から検討する。次章では、解雇以外の退職と有期（期間）雇用をめぐる問題を取り上げる。 【キーワード】 解雇、退職、辞職、合意解約、解雇過程、普通解雇、整理解雇	道幸　哲也 (北海道大学名誉教授)	道幸　哲也 (北海道大学名誉教授)
13	退職・有期雇用の法理	退職と有期雇用の問題をとりあげる。なお、それ以外に労働者を直接には雇用せず、請負や労働者派遣を通じて労働力を利用することもなされている。直接の雇用関係がないので、その終了のために「解雇」をする必要がないわけである。 【キーワード】 解雇、退職、辞職、合意解約、有期雇用、解雇予告制度、退職強要、改正労働契約法、不更新特約	道幸　哲也 (北海道大学名誉教授)	道幸　哲也 (北海道大学名誉教授)
14	労働組合法の世界	労使関係というフィールドで労働組合法の全体像とその直面する課題を考える。労働組合は、労働条件の決定だけではなく、職場の人権保障についても重要な役割が期待されているからである。 【キーワード】 労働組合、組合内部問題、コミュニティ・ユニオン、組合活動の権利、団結権、不当労働行為制度、労働委員会、団交権	道幸　哲也 (北海道大学名誉教授)	道幸　哲也 (北海道大学名誉教授)
15	権利実現のためのワークルール教育	一般市民や学生に対し使い勝手のよい実践的な労働法の考え方や法理を教えるという立場から、「ワークルール教育」のニーズは高まっており、論議も活発になっている。そこで本章では、権利実現のためのワークルール教育の現状と課題を追求した。市民レベルでワークルールをどう学び実践していくかが問われているからである。 【キーワード】 ワークルール、権利実現、権利教育、コミュニケーション能力、キャリア教育、社会教育	道幸　哲也 (北海道大学名誉教授)	道幸　哲也 (北海道大学名誉教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639374	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代日本の政治 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Contemporary Japanese Politics (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：飯尾 潤 （政策研究大学院大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：山岡 龍一 （放送大学教授） 】

講義概要

われわれが生きる日本で展開しつつある政治のあり方を、その基本構造にまで目を向けつつ解説するのが講義の目的である。現在、日本の政治は大きな変化を遂げつつあるが、その背景にある経済・社会あるいは国際環境の変化にも注意を払いつつ、歴史や国際比較の観点も一部に盛り込んで、豊富な事例を用いて具体的に解き明かしていきたい。

授業の目標

現代日本政治に即して、政治学の基本的な概念と方法を学ぶことによって、政治学と現代日本に関わる基本的な知識を身につけるとともに、現代日本において有権者として生活するための高度なリテラシーを身につけることを目指している。また現代日本の政治において、特に焦点となる事項を掘り下げて考察することにより、社会科学一般についての能力を高めることも期待している。

履修上の留意点

政治学は、積み上げ式の履修課程をとらなくても理解できるので、単独で履修して差し支えないが、関連する他の政治学関連の科目とともに履修すれば、さらに理解が深まるものと思われる。また、日頃から新聞や雑誌などで政治に関するニュースに親しむことも有益である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代日本政治を見る視点:現代・日本・政治	講義のはじめに、現代の範囲、日本とは何を意味するのか、政治とは何かといった問いかけから、この講義の対象範囲について説明し、同時に日本政治の基本的な見方を紹介していく。 【キーワード】 現代日本、政治、政治学	飯尾 潤（政策研究大学院大学教授）	飯尾 潤（政策研究大学院大学教授）
2	日本の民主政:議院内閣制の展開	日本政治の制度的な背景について、大きな見取り図を描くことを目的とする。政治制度としての議院内閣制や、立憲主義による民主政治の保障、政治と政策との関係などについて論じ、以降の講義で具体的に検討する項目の位置づけを明確にする。 【キーワード】 民主主義と民主政、憲法、議院内閣制	飯尾 潤（政策研究大学院大学教授）	飯尾 潤（政策研究大学院大学教授）
3	総理大臣と内閣:日本における執政府	日本政治の中核をしめる執政部、すなわち内閣総理大臣と内閣の実態と機能について、大統領制や他の議院内閣制との比較も交えながら説明し、同時に政府・与党関係、大統領的首相論、執政中枢論などについても取り上げる。 【キーワード】 議院内閣制、大統領制、執政府、与党	飯尾 潤（政策研究大学院大学教授）	飯尾 潤（政策研究大学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	政治と行政:中央省庁と官僚制	執政部を支える行政機関と、それを担う官僚の日本的なあり方について、具体的な事例も取り上げつつ、歴史的変化も含め、政治において官僚制が果たす役割について論じていく。 【キーワード】 行政組織、官僚制、行政改革	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)
5	国会と与野党関係	日本の議会であり国権の最高機関とされる国会のあり方について、二院制や委員会制などの制度の意味を解き明かしつつ、そこで展開される審議過程や、与野党関係の実際について検討し、立法過程における国会の役割を解明する。 【キーワード】 議会、二院制、立法過程、与野党	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)
6	政党システムと選挙制度	政党システム(一党優位性、二大政党制、穏健多党制など)が、選挙制度とどのように関係しているのかを理論的に検討したのち、政権交代や連合政治などの話題に触れて、現代日本の政治変動について論じる。 【キーワード】 政党システム、一党優位政党制、2大政党制、政権交代、選挙制度	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)
7	政党組織と選挙運動	政党とは何かを明らかにする政党組織論を手がかりに、日本の政党の特質を明らかにするとともに、日本の選挙における有権者の組織化や得票手法について検討し、有権者と政府をつなぐ政党の役割について再考する。 【キーワード】 政党組織、幹部政党と組織政党、個人後援会、投票行動、選挙運動	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)
8	社会集団の政治的役割:利益団体と市民運動	社会における政策的要求を政治に伝える仕組みとして業界団体などの利益団体が、政党や官僚制と関係を持つことが発展してきた。その展開を市民運動などの動向も視野に入れつつ整理し、国家と社会の関係を考える。 【キーワード】 利益集団、多元主義、コーポラティズム、市民運動	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)
9	政治報道とメディアの変貌	一般の有権者は、これまで大手報道機関などによる報道を通じて、政治の実態に触れていたが、そのあり方は歴史的にも変化している。政治報道をめぐる議論を振り返り、メディアの多様化が持つ意味についても考える。 【キーワード】 マス・メディア、新聞、テレビ、政治報道、インターネット	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)
10	政治からの独立:司法と独立行政機関	民主政治においては、全ての政府機関が民主的にコントロールされているわけではない。司法府、法執行機関、中央銀行など政権から一定の独立性を持った機関が、民主政治においてどのような機能を担うのかを考える。 【キーワード】 政治的中立、専門性、司法の独立、裁判所、中央銀行	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)	飯尾 潤(政策研究大学院大学教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	地方政治：首長と議会	中央政府に関するものばかりが政治なのではなく、地方自治体においても政治活動は展開されている。研究が盛んになってきた自治体における首長(知事や市長など)と地方議会との関係を軸に、地方政治の力学を考える。 【キーワード】 二元代表制、首長、地方議会	飯尾　潤(政策研究大学院大学教授)	飯尾　潤(政策研究大学院大学教授)
12	中央・地方関係の展開	中央政府と、地方自治体との関係が中央・地方関係であるが、この関係は行政サービスの提供過程であるとともに、政治的駆け引きの空間でもある。中央・地方関係を通して、日本の国家構造と政治の変化について考える。 【キーワード】 中央・地方関係、集権と分権、融合と分離、地方分権改革、市町村合併、大都市制度、道州制	飯尾　潤(政策研究大学院大学教授)	飯尾　潤(政策研究大学院大学教授)
13	外交・安全保障と政治指導	外交は、政治の最も重要な機能の一つであるが、通常の政治とは区別された側面を持っている。第二次大戦後から現在に至るまでの国際環境の変化を受けつつ、政治がどのように外交を扱ってきたのかを検討する。 【キーワード】 外交、安全保障、民主的統制、政治指導、外交路線、二層ゲーム	飯尾　潤(政策研究大学院大学教授)	飯尾　潤(政策研究大学院大学教授)
14	経済と政治：福祉国家・新自由主義・グローバリゼーション	福祉国家の成長とともに、政治と経済は切り離せなくなり、福祉国家体制に対抗する新自由主義やグローバリゼーションにおいても、経済は大きな政治問題となってきた。その経済と政治の力学を考えていく。 【キーワード】 福祉国家、日本型経営、新自由主義、少子高齢化、財政赤字、グローバリゼーション	飯尾　潤(政策研究大学院大学教授)	飯尾　潤(政策研究大学院大学教授)
15	市民と政治：政治的統合と政治参加	政治を支える基盤は、一人一人の有権者であると同時に、社会のあり方でもある。最終回では、有権者として何ができるのかという観点から、政治参加や政治的自由、他者との共存などの問題について考える。 【キーワード】 政治参加、党派性、政治的統合、自由、市民の徳	飯尾　潤(政策研究大学院大学教授)	飯尾　潤(政策研究大学院大学教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639188	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本政治外交史 （’１３）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：御厨　貴　（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：牧原　出　（東京大学教授）〕

【本学担当専任教員：山岡　龍一　（放送大学教授）】

講義概要

明治以降の日本「列島」を中心とした地域で生起した政治、外交についての諸問題を歴史的に考察する。特に、太平洋戦争前は、戦争と民主主義の関係に焦点を置き、太平洋戦争後は世界経済の中の日本政治の変容に関心を振り向ける。領土、地域、都市、資源といった政治を形作る社会条件にも目配りしつつ、この時期の政治を立体的に把握していく。

授業の目標

現在の日本と世界の政治は混沌たる状況にある。だが、過去の政治の歴史は、混沌を生き抜き、これを克服する人々の営みであった。日本の政治史を見渡すことで、21世紀の政治を考える知的滋養を養うことが本講義の目標。

履修上の留意点

教科書を読み、映像教材を見た上で、参考文献などを各自渉猟することが求められる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本政治と政治史学	本講義のイントロダクション。明治維新から現代までの日本の政治外交を、様々な視点からとらえなおし、戦前と戦後を比較しながら俯瞰する。日本の政治とは何かを考察し、政治史学の可能性を追求する。 【キーワード】 戦争、経済、リーダーシップ、権力	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）
2	戊辰戦争と西南戦争	明治維新から西南戦争までの明治国家の基礎固めは、どのような特質をもつのか。初期の明治政府の施策、大久保政権、議会開設をめぐる論争を見渡し、明治10年代までの政治指導の質的転換を考えていく。 【キーワード】 廃藩置県、西郷隆盛、大久保利通、伊藤博文	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）
3	日清戦争と立憲政友会の成立	初期議会から日清戦争を経て、立憲政友会の成立に至る過程について、大日本帝国憲法下の藩閥と政党の対立と提携を見渡しながら、戦争と政治の関係を考える。 【キーワード】 大日本帝国憲法、初期議会、日清戦争、立憲政友会	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	日露戦争と大正政変	日露戦争により、朝鮮半島への影響力を確保した日本は、藩閥政治家の桂太郎と政友会との安定した政権授受の時代を迎える。これが、大正政変によって崩れる過程を追跡する。 【キーワード】 桂園時代、西園寺公望、原敬、立憲同志会	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）
5	第一次世界大戦と政党政治	第一次世界大戦の終結後、国際連盟の設立、ワシントン体制による多国間の協調体制が形成された。普通選挙運動を柱とする護憲運動は、本格的な政党政治の時代を生み出した。戦前の政権交代の政党史を振り返る。 【キーワード】 憲政擁護運動、憲政の常道、加藤高明、浜口雄幸	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）
6	一五年戦争の時代	満州事変の勃発から太平洋戦争までの戦争の時代に焦点を当てて、軍部、官僚制、宮中の変容に留意しつつ、「昭和の動乱」の時代を検討する。 【キーワード】 満州事変、統制経済、二．二六事件、近衛文麿	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）
7	占領と復興	太平洋戦争の敗戦は、海外の領土を失っただけではなく、国土と経済に壊滅的な打撃をもたらした。アメリカによる占領下で進む民主化と経済復興に焦点を当てて、日本国憲法の成立、朝鮮戦争を経て経済成長へと至る過程で、吉田茂首相の政治指導について検討する。 【キーワード】 公職追放、日本国憲法、ドッジ・ライン、吉田茂	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）
8	日米安全保障条約の改定	占領終結後の政治的混乱は1955年の左右社会党統一と保守合同による自由民主党の結党によって、一時的な「二大政党制」となった。自民党結党を主導した岸信介は、日米安全保障条約の改定によりアメリカとの対等に近い関係を目指した。その政治指導の意義を考える。 【キーワード】 岸信介、日米新時代、アイゼンハワー	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）
9	高度経済成長の政治	1960年の池田勇人内閣成立と国民所得倍増計画の策定により、高度経済成長が政府の政策として進められた。河川開発、道路事業、港湾建設などの地域開発が列島を覆う。国土の変貌と政治の変容とを追跡していく。 【キーワード】 経済計画、地域開発、池田勇人	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）
10	佐藤栄作内閣と沖縄返還	池田内閣を継いだ佐藤栄作内閣は7年を超える戦後最長の政権となった。沖縄返還を実現し、高度経済成長の負の成果である公害防止のために環境政策に着手する佐藤内閣を、これと緊張関係に立った大学紛争、革新自治体、司法権との関係で検討する。 【キーワード】 佐藤榮作、沖縄、美濃部亮吉、ニクソン・ショック	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	列島改造と保革伯仲の時代	日本列島改造計画を掲げて首相に就任した田中角栄内閣は金脈政変により、保革伯仲の時代を招来した。この時代の自民党政治の特質を検討する。 【キーワード】 派閥、日本列島改造計画、ロッキード事件、椎名裁定	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）
12	地方の時代と東京一極集中	派閥抗争が続いた1970年代後半の自民党政治は、1980年代の中曽根康弘内閣によって、ひとまず安定化する。他方、1970年代には国からは大平正芳首相の「田園都市構想」、地方では独自の政策形成が進む。この国と地方の重層的な政治指導を検討する。 【キーワード】 大平正芳、中曽根康弘、田園都市構想、民営化	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）
13	政治改革と細川護熙内閣	竹下登内閣は盤石の基盤があるかに見えたがリクルート事件に端を発する政治不信を生み出し、それは1993年の細川護熙非自民連立内閣の成立に至る。この冷戦後の政権交代を追跡する。 【キーワード】 湾岸戦争、小沢一郎、武村正義、連立政権	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）
14	小泉純一郎内閣と自民党政権の崩壊	橋本龍太郎・小渕恵三内閣を通じて、自民党政権は復権したかに見えた。また、小泉純一郎内閣は、自民党を壊す身振りを示しながら、2005年の総選挙で大勝した。しかし安倍晋三内閣以降自民党政権は急速に失速し、2009年の総選挙で敗北する。橋本行革、沖縄問題、経済構造改革の失敗といった諸課題に対応しえなくなった自民党政権の変質を検討する。 【キーワード】 省庁再編、構造改革、官邸主導、参議院	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）
15	「政権交代」の後	1996年に誕生した民主党は、次第に自民党に対抗する党としての影響力を高め、2009年の総選挙で大勝し、政権を組織した。衆議院における小選挙区選挙の積み重ね、デフレ経済、IT化による新しい政治的コミュニケーションの登場の中で、伝統的な自民党政治とは異なる政治が登場する。21世紀の政治はどこへ向かうのか、展望する。 【キーワード】 政権交代、マニフェスト、政治主導、東日本大震災	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）	御厨　貴（放送大学客員教授） 牧原　出（東京大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639455	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代の行政と公共政策 （’１６）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Modern Public Administration and Public Policy (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：西尾　隆　（国際基督教大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：山岡　龍一（放送大学教授） 】

講義概要

日常生活の中に織り込まれてその存在に気づきにくい行政活動と公共政策の実態を可視化し、その役割と構造、課題と改善策を多角的に考える。前半では、政府と市場、市民社会と政治行政、国と地方、公務員と政治家、内閣と官僚制、制度とマネジメントといった対比の中で、現代日本の行政システムを立体的に把握する。後半では、公共政策のサイクルとその諸段階を具体的な文脈で説明し、あわせて政策型思考の意義について考える。責任ある市民、賢いユーザーとして公共課題にどうかかわるべきかを問いつつ、教養としての行政学・政策学を展望したい。

授業の目標

行政学・政策学の諸概念を基礎から学びつつ、それを用いて現実の行政や政策を同情的に理解し、かつ批判的に吟味する力を養う。歴史的に形成されてきた官僚制の構造が政策転換を困難にしている現実を理解した上で、市民がその知識を問題解決の道具として使いこなす実践力を身につける。

履修上の留意点

日常の用語を使って講義を進めるので、既習の科目や特段の専門知識は必要としない。ただし、現実の政治や経済について自分なりの問題関心をもって受講してほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	行政学・政策学への道案内	行政学・政策学を学ぶ際の視座と方法について道案内する。この分野に共通する「公共性」とは何か、それは個人とどう関係するのか。行政と政策について学ぶ意義はどこにあり、どのようなアプローチがあるのか、出発点で必要な知識と視座を提供する。 【キーワード】 公共性、概念と実践、政治的有効性感覚、プロフェッショナリズム、書斎型と現場型、比較の方法、文化理論	西尾　隆（国際基督教大学教授）	西尾　隆（国際基督教大学教授）
2	行政の発達とガバナンス	今日「行政」と呼ばれる営みは、人間社会にとってなぜ必要とされ、歴史的にどのような発達を遂げてきたのか。その本質を基本に立ち返って考え、公共管理の機能的分化と近年の再編の中で、「行政」「ガバナンス」「政府」など基本概念を立体的に把握する。 【キーワード】 公共管理、行政国家、POSDCORB、政府・市場・市民社会、新公共管理（NPM）、ガバナンス、自我としての政府	西尾　隆（国際基督教大学教授）	西尾　隆（国際基督教大学教授）
3	政府と市場	経済学の視点から、政府と市場の役割分担について考える。市場経済における政府の主要な役割は、民間ではできない公共財の供給だが、その具体的な範囲はどこまでか。民間企業等に対する公的規制はどこまで妥当かについて、具体的な事例や、公共サービスの担い手として、国や地方自治体の他に民間事業者も含める「新しい公共」の概念についても論じる。 【キーワード】 公共財、外部経済・不経済、規制改革、国家戦略特区、民営化、PFI、市場化テスト	八代　尚宏（昭和女子大学特命教授）	八代　尚宏（昭和女子大学特命教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	市民社会と政治行政	公共サービスの受け手であり、また提供者ともなる市民および市民社会と政治行政の関係について学ぶ。歴史的条件、欧米と日本の違いに留意しつつ、市民・NPOは現代のガバナンスに対しどのような形で参加し、また政府とどう協働すべきか、市民の視点から考える。 【キーワード】 公共サービス、市民社会、市民、NPO、生活者、政治行政二分論・融合論、参加、協働、社会関係資本	西尾　隆（国際基督教大学教授）	西尾　隆（国際基督教大学教授）
5	中央政府と地方政府	中央政府と地方政府の関係を立憲主義と民主主義の文脈から考察する。地方自治の理念、補完性の原理について理解を深め、地方分権改革と内発的な自治体改革の関係を考える。 【キーワード】 地方自治、立憲主義、マルチレベルのガバナンス、団体自治と住民自治、集権と分権、補完性の原理、分権改革、市町村合併、自治体改革	西尾　隆（国際基督教大学教授）	西尾　隆（国際基督教大学教授）
6	議院内閣制と官僚制	日本の議院内閣制を、大統領制との比較から明らかにし、政治体制と政治リーダーの関係、政治と行政の関係を理解する。内閣を支える内閣の補佐機構と官僚制の仕組みを理解し、近年の行政改革についても考える。 【キーワード】 分担管理、省庁再編、内閣主導、内閣官房、政治的リーダーシップ、総合調整、セクショナリズム、ウェーバーの官僚制	出雲　明子（東海大学准教授）	出雲　明子（東海大学准教授）
7	公務員制度とその改革	公務員制度は、改革の歴史でもある。政治との関係、民間との関係を探りながら、「全体の奉仕者」であり「労働者」でもある公務員の特徴と改革の論点を整理して、国民のための公務員を考える。国と地方、事務と現業など職務が多様な公務員の性質も理解する。 【キーワード】 閉鎖型・開放型任用制、メリットシステム、官吏制の民主化、モティベーション、幹部公務員の一元管理、身分保障	出雲　明子（東海大学准教授）	出雲　明子（東海大学准教授）
8	モノ・人・社会のマネジメント	行政活動の効率性を左右する物的条件、人的資源、行政組織などのマネジメント、および環境変化と危機への対応について学ぶ。管理学は行政学の柱の一つであるが、日本では研究蓄積が十分でなく、実務上の暗黙知の言語化という課題についても考えたい。 【キーワード】 管理学、マネジメント、科学的管理法、人間関係論、パノプティコン、人的資源管理、変化への対応、危機管理、リスク管理	西尾　隆（国際基督教大学教授）	西尾　隆（国際基督教大学教授）
9	公共政策と政策型思考	公共政策の概念・構造・類型、および政策と制度の関係について基礎から学ぶ。政策学が提示する新しい視点を、政策型思考と制度型思考の相互補完性から理解し、個別の政策事例をとおして政策と制度の関係を検証する。 【キーワード】 問題解決と公益の実現、メガポリシーとメタポリシー、政策型思考と制度型思考、「目的－手段」関係の設計、政策共同体、政策転換	西尾　隆（国際基督教大学教授）	西尾　隆（国際基督教大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	政策過程とそのサイクル	公共政策の策定過程の最も一般的な説明である政策サイクルを紹介し、そのサイクルの各ステージがどのような過程であるかを説明し、各政策過程への理解を深める。また、政策過程全体を説明する理論として唱道連携フレームワークをとりあげる。 【キーワード】 政策サイクル、アジェンダ設定・政策形成・政策決定・政策実施・政策評価、唱道連携フレームワーク	大森　佐和（国際基督教大学上級准教授）	大森　佐和（国際基督教大学上級准教授）
11	国の意思決定と執行過程	国レベルのさまざまな意思決定過程を題材に、日本的な決め方の特徴と課題を考える。政策の流れと手続の関係、稟議制と予算編成にみられる積み上げ方式とその功罪、政策執行過程の諸課題を複数の事例をとおして検証する。 【キーワード】 政策過程と政治行政手続、稟議制、コンセンサス重視、与党の事前審査、予算編成、裁量、政策システム、第一線職員	西尾　隆（国際基督教大学教授）	西尾　隆（国際基督教大学教授）
12	財政と社会保障	公共事業や社会保障等への歳出と、その費用を賄う税・社会保険料の役割を解説する。先進国の内で突出した日本の公的債務累積の要因とその改善策、その主要な要因となっている年金や医療制度の改革の方向、および社会保障における官民の役割分担の考え方に焦点をあてる。 【キーワード】 プライマリーバランス、社会保障目的税、世代間格差、負の所得税、モラル・ハザード	八代　尚宏（昭和女子大学特命教授）	八代　尚宏（昭和女子大学特命教授）
13	自治体政策と市民	自治体政策の特徴と政策再編の必要性、計画と市民参加のあり方を学ぶ。とくに都市型社会における計画の意義、自治体の政策的自立、市町村総合計画の構造と策定過程、資源減少化の中での情報公開と市民参加の関係について考える。 【キーワード】 抑制と媒介、総合性・現場性・実験可能性、都市型社会、文明と計画、市町村計画、市民参加、予測と調整、情報公開	西尾　隆（国際基督教大学教授）	西尾　隆（国際基督教大学教授）
14	地球公共財と国際公共政策	地球公共財とは何か、国際公共政策とは何か、また国内の公共政策との違いは何かについて理解する。また、非国家アクターが国際公共政策過程で果たす役割を考えるための事例として企業の社会的責任について学ぶ。 【キーワード】 地球公共財、国際公共政策過程、国際機関、プリンシパル・エージェント関係、非国家アクター、CSR	大森　佐和（国際基督教大学上級准教授）	大森　佐和（国際基督教大学上級准教授）
15	行政統制と政策責任	市民の立場から行政の舵取りをし、政策責任を問うことは行政学・政策学の実践的な課題である。最終章では、行政への期待のタイプを基礎に行政統制・責任の類型を整理し、説明責任と公務員倫理の議論を通して、応答的で責任ある行政を実現するための方策を考える。 【キーワード】 無責任の倫理、行政責任論争、政治的責任と機能的責任、アカウンタビリティ、市民性、対市民規律、公務員倫理	西尾　隆（国際基督教大学教授）	西尾　隆（国際基督教大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639250	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代の国際政治　　（’１３）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：高橋　和夫　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

国際政治の風景を太いタッチで描く。本書の二つのキーワードは、アメリカとイスラムである。アメリカという視点からイスラム世界を、イスラムという視点からアメリカを語る。両者の視点の交わった点に浮かび上がってくる風景は、アメリカの一極覇権の衰退である。
その衰退の大きな要因はイラクとアフガニスタンの戦争の負担である。イラクとアフガニスタンの経験を踏まえて、戦争の新しい形を紹介する。全体を通じて21世紀の国際政治の新しい風景を描きだす。

授業の目標

一番目の目標は国際政治への興味を引き起こす。
二番目にニュースを批判的に受け取る姿勢を養う。つまり、誰が、どういう目的で、いかにしてニュースを「制作」したかを考える習慣を養うきっかけを提供する。そのためにニュース映像を多用し、その背景を解説する。
三番目に論理的な思考の習慣を養うきっかけを提供する。そのために適切な分量の印刷教材を提供し、読むと言う行為を通じての思考を求める。

履修上の留意点

「国際理解のために（’13）」「ロシアの政治と外交（’15）」「パレスチナ問題（’16）」「世界の中の日本（’15）」などの関連する分野の科目の履修が望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	テレビと国際政治／もうだまされないために	テレビの国際政治に対する影響と為政者による映像操作の例を提示する。またユーチューブなどの新たなメディアの意味を考える。 【キーワード】 主観と客観、部分と全体、ニクソンの罠（わな）、ユーチューブ	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
2	アメリカの世界戦略（1）スーパー・パワーへの道	アメリカの「普通」の国から超大国への成長の過程を振り返る。 【キーワード】 小国としてのアメリカ、リンカーン、南北戦争、奴隷制度、総力戦	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
3	アメリカの世界戦略（2）唯一のスーパー・パワーへ	第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦という三回のアメリカのヨーロッパへの介入を解説し、唯一の超大国への軌跡をたどる。 【キーワード】 ウィルソン大統領、フランクン・ルーズベルト大統領、スプートニック・ショック、核の傘	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	次のスーパー・パワーは？	スーパー・パワーの条件を検討しつつ、アメリカの次の「アメリカ」を考える。 【キーワード】 軍事力、経済力、人口、政治制度、インダストリー、イノベーション	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
5	アメリカの中東政策	アメリカの中東政策の目標は何か？　アメリカは、なぜイスラエルを支持するのか？　こうした疑問を考える。 【キーワード】 シッポが犬を振る、三つの目標、親イスラエル・ロビー、AIPAC、キリスト教原理主義勢力、Jストリート	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
6	アフガニスタン（1）大国のはざまで	アフガニスタンの歴史を紹介する。その焦点は、19世紀からのイギリスとロシアの対立であり、1979年から1989年までのソ連の軍事介入である。 【キーワード】 グレート・ゲーム、ワハン渓谷、デュランド・ライン、冷戦	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
7	アフガニスタン（2）戦争から戦争へ	ターリバンの支配の確立後のアフガニスタン現代史を語る。アメリカの対ターリバン戦争、いわゆるアフガン戦争が話題の中心となる。 【キーワード】 ターリバン、ビンラーディン、アメリカ同時多発テロ、オバマ	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
8	パキスタンの苦悩	パキスタンという国家の直面する構造的な問題点を分析する。 【キーワード】 紀尾井町とパキスタン、三つのA、二つのパキスタン、ターレバン化、中国	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
9	イラク（1）同盟者フセイン	イラク国家の成立からイラク戦争までの時期を振り返る。また1980年代のアメリカとイラクの友好関係に光を当てる。 【キーワード】 椅子取りゲーム、バース党、ラムズフェルドの過去	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
10	イラク（2）「戦後」の風景	イラク戦争後に悪化した治安は、アメリカ軍の撤退までに劇的に改善した。その理由を語る。そしてアメリカ軍撤退以降のイラクの政治の現状を語る。焦点は二つである。第一にイラク中央政界の混乱、第二に北部のクルド地域の安定と繁栄である。 【キーワード】 湾岸戦争、イラク戦争、ペトレイアス、KDPとPUK、キルクーク	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	アラブの春	2011年に起こったアラブ諸国での民主化運動を振り返り、その動向を分析し、将来を展望する。 【キーワード】 人口爆発、孤独でなくなった群集、ピラミッド崩し、撃つか撃たないか、腐敗の構造	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
12	イランとアメリカ／「世界の中心」と超大国	イランの核開発をめぐる国際的緊張を近現代史の流れに位置づける。焦点はアメリカ・イラン・イスラエルの錯綜する関係である。 【キーワード】 核の平和利用、核兵器開発疑惑、ウラン濃縮、アメリカ・イラン関係の過去、制裁か戦争か、ネタニヤフ	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
13	アメリカのイスラム／文明の衝突を越えて	アメリカとイスラムの対決という図式が、しばしば描かれる。しかし、アメリカ国内にイスラム教徒が増えている。現実はスローガンより複雑である。このアメリカのイスラム教徒について論じる。 【キーワード】 11分47秒後の驚き、白人のイスラム、ブラック・ムスリム、マルコムXの旅、移民のイスラム、「寿司」イスラム、ムスリムのアメリカ兵	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
14	ロボットの戦争	イラクやアフガニスタンでのロボット兵器の利用の実態を紹介し、戦争の将来におけるロボットの役割を考える。 【キーワード】 空を飛ばないパイロット、大ロボット軍団、人工知能、ロボットの「自立」	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
15	国際政治の新しい風景	国際機関、多国籍企業、「国内」官庁、NGO、個人などが国際関係の新しいアクターとして活躍している。この多様なアクターの織り成す万華鏡のような国際政治の風景を描写する。 【キーワード】 焼酎と人道、主権、グリーン・ピース、ODANGOとDANGO、eデモ	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639439	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 東アジアの政治社会と国際関係 （’１６）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Politics, Society and International Relations of East Asia (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：家近 亮子 （敬愛大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：川島 真 （東京大学教授） 〕

【本学担当専任教員：高橋 和夫 （放送大学教授） 】

講義概要

東アジア諸国と地域(ここでは中国、台湾、香港、マカオ、韓国、北朝鮮をとりあげる。日本に関しては、その関係性の中で論じる)は、19世紀半ばから国内的および国際的に大きな政治変動を経験しつつ現在に至っている。この東アジアの政治世界とその政治が作りかえてきた社会の変容を理解するためには、歴史過程をふまえた国際関係論的視角が必要となる。本講義では、各国、各地域がどのような政治変動を経て、また如何なる国際環境の中で現在の政治社会を作り上げてきたかを解明し、今後の展望をおこなう。

授業の目標

①現代東アジアの諸地域の政治と社会の相互関係を、グローバルな視点から位置づける視角の重要性を認識する。
②東アジア諸地域の政治と社会の相互関係から各政治体制の特徴を再定義し、それぞれの歴史的意義をとらえなおす。
③各国および地域が国際環境の変化をどのようにとらえて内在化してきたかを歴史の文脈から分析し、それぞれの国際関係認識の特徴を再構築する。
④21世紀の東アジア関係の理解に資することとする。

履修上の留意点

政治学、国際関係論、および日本を含む他の地域研究に関する講義を履修することを期待する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「東アジアの政治社会と国際関係」のガイダンス	初回となる本講義においては、「東アジアの政治社会と国際関係」のガイダンスをおこない、授業全体の概要、到達目標、テキスト、成績評価などについて説明する。また、導入として東アジアの地域的特徴、及び東アジア近代史を概観し、東アジアが共通に抱えた諸問題、または個別に直面した諸問題を分析し、今日との連続性は何かを考察していく。 到達目標は、東アジアの地域性、相互関係史を理解することにある。 【キーワード】 地域としての東アジア、華夷秩序、「鎖国」、西洋の衝撃、明治維新、脱亜論、アジア主義、日中戦争、蔣介石、毛沢東	家近 亮子（敬愛大学教授）	家近 亮子（敬愛大学教授）
2	現代東アジアのはじまり	アジア・太平洋戦争が終結に向かう中、連合国の一員たる中国がいかなる戦後構想をもっていたのか、そして日本はいかに敗戦し、敗戦後にはどのような占領政策がとられたか、ということを中心に考察する。また、中国での国共内線、朝鮮半島の分断統治により、新たな東アジアがどのように形成されたのかを展望する。 【キーワード】 カイロ宣言、沖縄戦、ポツダム宣言、GHQ、朝鮮半島分断統治、国共内線、228事件・四三事件	川島 真（東京大学教授）	川島 真（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	中国（1）：建国から社会主義建設へ	中国の内戦期から中華人民共和国建国、社会主義建設への過程を概観する。ここでは共産党が毛沢東の新民主主義論と連合政府論によって労働者、農民、知識人を糾合して中国国民党勢力を排除し、新国家を建設し、社会主義建設をおこなう過程を理解する。また、社会主義建設の急進化の失敗から経済調整を迎えざるを得なかった政治・経済・社会状況を分析する。 到達目標は、中華人民共和国が成立後どのような過程を経て、社会主義建設をおこなったかを理解することにある。 【キーワード】 毛沢東、新民主主義論、連合政府論、共同綱領、朝鮮戦争、向ソ一辺倒、中華人民共和国憲法、大躍進、反右派闘争	家近　亮子（敬愛大学教授）	家近　亮子（敬愛大学教授）
4	中国（2）：経済調整から文化大革命	劉少奇・鄧小平主導の経済調整政策によって、「改革・開放」政策の萌芽を見せた中国において、毛沢東の巻き返しにより、人民公社による全国的農民の組織化、あらゆる社会の公共財の公有化が急速に進んでいった過程を概観する。ここでは、文化大革命を三つの時期に分けて、その政治・経済・社会・国際関係を理解し、文化大革命の歴史的位相を考察する。 到達目標は、中国の二つの路線対立の実態とそれぞれがどの様な方法で国家目標を達成しようとしたかを理解することにある。 【キーワード】 劉少奇、鄧小平、経済調整政策、人民公社、紅衛兵運動、中ソ対立、周恩来外交の展開、四人組、第一次天安門事件	家近　亮子（敬愛大学教授）	家近　亮子（敬愛大学教授）
5	中国（3）：改革開放前期	1976年9月の毛沢東の死、華国鋒による四人組の逮捕、鄧小平の復活による文化大革命の終息の過程を概観し、1978年12月に開始された改革開放政策がもたらした政治的、経済的、社会的変容を分析する。本講義では、1992年10月の共産党14全大会までを改革開放前期と規定し、その特徴を理解する。また、改革開放、および1989年の天安門事件がもたらした国際関係の変化を考察する。 到達目標は、改革・開放政策をそれまでの時代と比較し、理解することにある。 【キーワード】 華国鋒、改革開放政策、鄧小平の先富論、経済特区、一人っ子政策、1982年憲法、第二次天安門事件、南巡講和	家近　亮子（敬愛大学教授）	家近　亮子（敬愛大学教授）
6	中国（4）：改革開放後期	「中国の総設計士」といわれた鄧小平が目指した国家建設と改革開放の新たな展開を概観する。ここでは改革開放の深化がもたらした政治的、経済的、社会的、国際的特徴、及びひずみに焦点をあて、現在中国が抱える格差問題の諸要因を分析する。また、中国の大国化が国際関係、とくに東アジアの国際関係に与える影響について考察する。 到達目標は、改革開放の深化とそれがもたらした社会格差の要因と実態を理解し、習近平国家主席がおこなおうとしている「中華の復興」を中心とする「中国の夢」実現の展望を考察することにある。 【キーワード】 社会主義市場経済、江沢民の「三つの代表重要思想」、愛国主義教育、格差の拡大、小康社会、中国大国化論、習近平の「中国の夢」	家近　亮子（敬愛大学教授）	家近　亮子（敬愛大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	台湾(1):民主化以前	中華民国は1949年に遷台した後、いかにして台湾における統治体制を固めたのか、またそれは台湾社会にどのような影響を与えたのか、ということを日米中関係、中国大陸の関係を視野に入れながら講義する。また、台湾を五十年統治した日本との関係や、台湾(2)の背景としての台湾民主化運動、独立運動についても触れていく。 【キーワード】 戒厳令、蔣介石、蔣経国、外省人・本省人、一党独裁体制、土地改革、台湾海峡防衛、金門島	川島 真（東京大学教授）	川島 真（東京大学教授）
8	台湾(2):民主化以後	台湾の民主化、台湾化の過程を講義する。1970年代初頭に始まった、蔣介石から蔣経国への権力委譲にともない、中華民国の内外政には次第に変化が見られ始めた。1980年代後半には戒厳令が解除され、民主進歩党が誕生するなど一党独裁体制が崩れ始めた。以後、1996年の総統選挙など、台湾では経済発展にともなう民主化が進行し、それにともなって台湾社会ではいわゆる「台湾化」が進行していった。 【キーワード】 蔣経国、李登輝、経済発展、総統選挙、政権交代、九二共識、台湾海峡危機	川島 真（東京大学教授）	川島 真（東京大学教授）
9	香港・マカオ	英領植民地香港は1997年に、ポルトガル領マカオは1999年に中国に返還され、社会主義中国の中で資本主義体制を維持する「一国二制度」方式で統治される特別行政区となった。そこでは中国大陸とは異なる政治体制が採用され、社会は大陸と異なる特徴を保っている。香港の漸進的な民主化と、急成長する中国大陸との関係を中心に、「一国二制度」の運用状況を検討する。 【キーワード】 植民地、一国二制度、民主化、ナショナリズム、アイデンティティ	倉田 徹（立教大学准教授）	倉田 徹（立教大学准教授）
10	朝鮮半島(1) －解放、分断、ふたつの道	第二次世界大戦後、朝鮮半島は日本の植民地統治から解放されたが、即時独立はかなわず米ソにより分割占領された。その後冷戦が朝鮮半島にも影を落とし、1948年に大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国という二つの国家が誕生した。さらに朝鮮戦争によって朝鮮半島の分断が固定化した。その後、両政権は、東西の陣営を異にしてそれぞれの道を歩みながら、体制の優劣をめぐる競争が続いた。それは双方の命運をかける激しい闘争であった。 【キーワード】 分断国家、朝鮮戦争、軍事クーデター、朴正熙、金日成、日韓国交正常化、南北共同声明、光州事件、ラングーン事件	平岩 俊司（関西学院大学教授）	平岩 俊司（関西学院大学教授）
11	朝鮮半島(2) －冷戦終結と北朝鮮の核問題	韓国では学生革命、軍事クーデターなど政治的に不安定な状況が続いたが、重工業化に成功し経済発展を達成した。一方、北朝鮮は中ソ論争で動揺する社会主義陣営内で独自の社会主義建設を目指し、韓国に対しては硬軟織り交ぜた働きかけを行い、体制の優劣を巡る競争で優位に立とうとした。こうした競争は1988年に開催されたソウルオリンピックと、その後の冷戦終結で決着がついた。しかし、北朝鮮は自らの劣勢を受け入れられず核危機を演出して米国との交渉に突破口を探った。朝鮮半島問題は一気に国際問題化し、流動化したのである。 【キーワード】 民主化、南北基本合意書、国連同時加盟、核危機、金正日、金大中、南北首脳会談、日朝平壌宣言、金正恩	平岩 俊司（関西学院大学教授）	平岩 俊司（関西学院大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	戦後東アジアの地域秩序(1)	戦後の東アジアであった地域統合、地域秩序形成について講義する。反共同盟としてのASPACなどをはじめ、東西両陣営別の地域統合についてまず考察する。次いで、日本の大平首相、福田首相がアジア太平洋の地域統合秩序について問題提起をおこなっていき、またASEANが形成されて次第に反共以外の役割を果たすようになる等、新たな動きが生じていくことを概観する。 【キーワード】 反共同盟、チンコム、香港、ASPAC、ASEAN、大平構想、福田ドクトリン	川島　真（東京大学教授）	川島　真（東京大学教授）
13	戦後東アジアの地域秩序(2)	冷戦崩壊後の東アジアにおける新たな地域秩序形成の動きを、ASEANの主導性、日本のイニシアティブ、中国の周辺外交、アジア通貨危機といった観点から考察する。ここでは、安全保障の分断線を内包したまま、経済的な秩序形成を中心に進行した東アジア的な地域協力の特徴を見いだし、その可能性、限界について指摘していく。 【キーワード】 ASEAN、APEC、周辺外交、アジア通貨危機、アジア的価値、東アジア共同体構想	川島　真（東京大学教授）	川島　真（東京大学教授）
14	日米中関係と東アジア －安全保障・領土問題を中心に－	地域協力が進む中で、東アジアにはさまざまな領土問題、安全保障上の問題が発生している。ここでは、それぞれの問題の背景、展開過程について講義する。これは、NATOの展開とともに進行した欧州統合と、安全保障上の分岐を残したまま地域協力が進行した東アジアの比較検討でもある。 【キーワード】 日米安保、ハブ＆スポーク、安全保障協力、軍事交流、海をめぐる問題、領土問題、尖閣諸島	川島　真（東京大学教授）	川島　真（東京大学教授）
15	日本と東アジア：歴史認識問題を中心に	東アジアの地域協力の阻害要因であり、「世界の不安定要因」といわれるまでに悪化した、日中間および日韓間を中心とした東アジアの歴史認識問題について考察する。歴史認識問題は、各国内の歴史に対する解釈とその解釈権をめぐる闘争が深く影響している。ここでは先ず、最も問題視されている日本の戦後歴史認識問題を述べ、それが政治化し、国際化した背景を分析する。 到達目標は、歴史認識問題とは何かを歴史的文脈から理解することにある。 【キーワード】 歴史認識、「記憶の共同体」、教科書問題、靖国神社参拝問題、慰安婦問題、村山談話、河野談話、戦争責任二分論、安倍談話	家近　亮子（敬愛大学教授）	家近　亮子（敬愛大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639447	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ パレスチナ問題 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 The Question of Palestine (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：高橋　和夫 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

パレスチナ問題の起源から説き起こし現状を解説し、この問題の展開を跡付ける。そして、その将来を展望する。パレスチナ地域の情勢の記述を縦糸に、周辺諸国や地域外の大国の動きを横糸にして、陰影の深いパレスチナ問題のタペストリーを編み上げる。

授業の目標

この問題の基本的な構図を把握しマスコミ報道などに批判的に接する態度を養う。

履修上の留意点

「現代の国際政治(’13)」や「国際理解のために(’13)」などの関連科目にも目配りしつつ勉強していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	パレスチナ問題以前のパレスチナ	パレスチナ問題はイスラムとユダヤの二千年の対立として語られる例が多いが、それは事実に反している。なぜならばイスラムには1400年ほどの歴史しかないからだ。そのイスラムが二千年も争っているはずがない。またパレスチナ人にはキリスト教徒も多い。こうした基礎的な事実を踏まえながら、パレスチナ問題が起こる以前のパレスチナの歴史を概観する。 【キーワード】 バビロン捕囚、十字軍、オスマン帝国、キリスト教、イスラム教、アラブ人、パレスチナ人	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
2	ポグロムとシオニズム	ヨーロッパにおける民族主義の高揚がポグロムの背景にあった。そして、それがシオニズムを生みだすことになった。シオニズムの背景にあった帝国主義的な発想や社会主義の思潮にも言及しつつ、パレスチナをめぐる国際情勢を紹介する。 【キーワード】 民族主義、ポグロム、ヘルツル、ユダヤ人国家、シオニズム、フセイン・マクマホン書簡、バルフォア宣言、委任統治	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
3	夢と悪夢	イスラエルの成立時に発生したパレスチナ難民の問題をめぐる議論を振り返る。また大国の関与について語る。 【キーワード】 イスラエルの成立、ナクバ、豊穣なる記憶、元兵士たちの証言、11分後の承認、トルーマン大統領	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	スエズのかなたへ	スエズ運河をめぐる国際政治を振り返る。1956年戦争とアラブ民族主義の高まり、そして1967年戦争のアラブ統一運動の挫折が、そのテーマとなる。 【キーワード】 スエズ運河、ムスリム同胞団、スエズ動乱、ハンガリー動乱、アイゼンハワーの決断、6日戦争	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
5	アラブ世界の反撃	1967年の戦争での敗北が、パレスチナ解放闘争の指導者アラファトの台頭を準備した。そしてエジプトとシリアは1973年10月イスラエルを奇襲して、中東情勢に新しい局面を開いた。 【キーワード】 カラメの戦い、ファタハ、サダト、ミサイルの森、石油危機、キャンプ・デービッド合意	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
6	変わるイスラエル	イスラエルは、中東系の人々の流入により、ヨーロッパ的な国家から中東的な雰囲気の国家へと変貌しつつある。また経済的に豊かになったイスラエルは、世界各地からの「ユダヤ教徒」の流入に直面している。変化するイスラエルの姿を描く。 【キーワード】 アシュケナジム、セファルディム、イスラエル市民権を持つアラブ人、三階建ての家、ユダヤ人の定義問題	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
7	レバノン戦争	平和条約によってエジプトからの圧力から解放されたイスラエルは、その軍事力をレバノンに拠点を置いていたPLOへの攻撃に向けた。イスラエル史上初の「選択による戦争」であった。 【キーワード】 生きた宗教の博物館、レバノン内戦、選択による戦争、チュニスへ、サブラとシャティーラ	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
8	ペレストロイカと冷戦の終結	1985年3月にゴルバチョフがソ連の最高権力者になると冷戦が終わり始めた。それは国際政治における地殻変動を意味していた。対米関係の改善を目指したゴルバチョフはユダヤ人のソ連からの出国を認めた。洪水のように移民がソ連からイスラエルに押し寄せ中東情勢に大きな影響を与えた。 【キーワード】 ゴルバチョフ、ペレストロイカ、新思考、ユダヤ人出国問題	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
9	インティファーダ	1987年パレスチナのヨルダン川西岸とガザ地区で民衆のインティファーダ（一斉蜂起）が開始された。武器を使わずに石を投げたりタイヤを燃やしたりの抗議行動がイスラエルの占領政策を揺さぶった。 【キーワード】 石の戦い、「腕を折れ」、折れないパレスチナ人、ハマスの登場	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	オスロ合意	冷戦の終結と湾岸戦争でのイラクの敗北が、PLOを決定的に不利な状況に追い込んだ。その状況下でノルウェーがイスラエルとPLOの間のオスロ合意で大きな役割を果たしたのは、中立的であったからではない。それは親イスラエル的であったからだ。30年以上の時の流れの後に、この合意の意味を考える。 【キーワード】 湾岸危機、湾岸戦争、アラファト金脈の構図、ノルウェーという国、ガザ・エリコ先行自治、アラファトの足元と手の内、ノルウェーの森	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
11	ラビン/その栄光と暗殺	オスロ合意以降の情勢を動かした中心人物はラビンであった。その栄光に満ちた経歴を振り返る。また、その暗殺が中東和平プロセスに与えた意味を考える。 【キーワード】 ネクタイを締められなかった男、1967年戦争の勝利、イスラエルの「ドゴール」、中東和平プロセス、暗殺	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
12	ネタニヤフとバラク	ラビンの死亡以降の情勢をネタニヤフとバラクというイスラエルの二人のライバル政治家に焦点をあてながら跡付ける。そして2期8年を務めたアメリカのビル・クリントン大統領の中東和平を仲介への努力を歴史的な文脈に位置付ける。 【キーワード】 エンテベの軌跡、恐怖と希望、「ピアノを弾くゴルゴ13」、クリントンの中東和平	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
13	揺らぐシリアのアサド体制	イスラエルと一貫して対立してきたシリアでは、1970年代より二代にわたるアサド家の支配が続いている。両国間の懸案はイスラエル占領下にあるシリア領土のゴラン高原である。しかし、アサド体制が揺らいでいる現在、交渉は期待できない。アサド家の支配を揺るがしているのは、シリア内戦である。内戦の混乱はイラク情勢と連動して「イスラム国」という異物を生み出した。混迷するシリア情勢の地域政治への意味を考える。 【キーワード】 ダマスカスのスフィンクス、眼科医、ゴラン高原、アラブの春とシリア内戦、アラウィー派、「イスラム国」、シリアという地名	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
14	アメリカの中東政策	アメリカの中東政策を特徴づけているのは、イスラエルへの強い支持である。なぜアメリカはイスラエルを支持するのだろうか。その背景を考えたい。 【キーワード】 AIPAC、キリスト教原理主義、Jストリート、変わるアメリカのユダヤ社会	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
15	残された課題	クリントンの和平努力の挫折後の情勢を概観する。その特徴はアラファトの逝去とハマースの台頭である。そして最後に和平実現のために越えなければならない残された課題を語る。 【キーワード】 キャンプ・デービッド、ハマース、国境、入植地、エルサレム、帰還権	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639382	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ロシアの政治と外交 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Russian Politics and Diplomacy (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：横手　慎二　（慶應義塾大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：高橋　和夫　（放送大学教授）】

講義概要

ロシアの政治は、70年余り続いた社会主義体制を改め、1991年から欧米諸国の政治体制を模倣する形で行われてきた。しかし、過去20年余りの試行錯誤の過程は、改めて欧米諸国の政治体制（一般に「民主主義体制」と呼ばれるもの）が、他の多くの社会的経済的条件と結びついて機能するものであることを示唆している。そこで本講義では、社会主義体制が遺した諸般の事情、1990年代初頭の政治的経済的改革が生み出した諸条件、そして政治的アクター（大統領、政党など）が取った行動の3点に注目して、ロシアの政治と外交の現状を検討し、民主主義体制を支える諸条件について考察する。

授業の目標

日本におけるロシアのイメージは、ソ連時代の影響でその独自性ばかりが強調されてきた。そこで本講義では、新しいロシアの政治が了解可能となるよう、政治的アクター（大統領、政党、マスメディアなど）を中心に議論を進める。他国の政治的アクターとの比較を通じて、ロシアの政治の現状をより明瞭に捉えることが、この講義の目標である。

履修上の留意点

新聞やテレビが伝えるロシアの政治や外交についての情報は、大事件が中心で、意外なほど制度や仕組みの基本的事実を欠落させている。本講義では、報道された事件や出来事の背景を考察することによって、政治や外交の底流にある持続的要因を明らかにしたい。できる限り歴史的事実やデータを集め、それに基づいて考える姿勢で授業に臨んでほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	基本的社会経済状況	1980年代半ば以降にロシアに生じた社会変動を概観する。ここでは変動が始まる以前の政治と社会の特徴を述べ、そこから何がどのように変化したのか考察する。 【キーワード】 社会主義体制、政権と国民の関係、パターナリズム	横手　慎二（慶應義塾大学教授）	横手　慎二（慶應義塾大学教授）
2	1993年の憲法体制	ロシアではソ連末期から、新しい憲法の作成が進んだが、1993年末になって、ようやく新憲法を採択した。ここではその特徴を述べ、憲法体制に即してロシア政治の基本的構造を明らかにする。 【キーワード】 ロシア国民、半大統領制、「超大統領制」	横手　慎二（慶應義塾大学教授）	横手　慎二（慶應義塾大学教授）
3	大統領・大統領府と政府	現在の大統領とソ連時代の共産党書記長との相違点、また大統領と首相の関係を中心に、エリツィンとプーチンの活動内容を説明する。 【キーワード】 大統領府、新興財閥（オリガルヒ）、シロヴィキ	大串　敦（慶應義塾大学准教授）	大串　敦（慶應義塾大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	議会・選挙	国家会議を中心に議会の構成の変化、大統領・政府などとの関係を概観する。ここで注目するのは、予算案の採択過程を中心とした立法過程である。 【キーワード】 選挙制度、国家会議、連邦会議、立法過程	大串　敦（慶應義塾大学准教授）	大串　敦（慶應義塾大学准教授）
5	市民と政治の間－政党	政党と多党制システムの出現を出発点に、プーチン大統領の登場とともに一党優位システムが誕生してくる過程を取り挙げる。ここでは政権与党、統一ロシアとかつてのソ連共産党との相違点を考える。 【キーワード】 選挙、行政的資源、大統領権力を支える政党	横手　慎二（慶應義塾大学教授）	横手　慎二（慶應義塾大学教授）
6	マスメディアと政治	社会主義体制の瓦解以降、マスメディアを取り巻く環境に生じた変化を考察し、その中でのテレビと新聞の活動、さらにはインターネットやラジオなどの現状を説明する。 【キーワード】 大衆社会、政治報道、マスメディアの財政的基盤	横手　慎二（慶應義塾大学教授）	横手　慎二（慶應義塾大学教授）
7	ロシアの中央と地方の関係	連邦制の変化を、中央集権化と制度改革の二面に注目して概観する。特にプーチン期の改革については、できるかぎり連邦構成主体の首長の対応を取り挙げ、そのダイナミズムを示す。 【キーワード】 連邦制、中央集権化、連邦構成主体の首長	横手　慎二（慶應義塾大学教授） 中馬　瑞貴（ロシアNIS貿易会研究員）	横手　慎二（慶應義塾大学教授） 中馬　瑞貴（ロシアNIS貿易会研究員）
8	ロシアの中央と民族地域	連邦構成主体の中の民族地域（非ロシア人地域）と連邦中央の関係を取り挙げる。特に注目するのは、チェチェン、ダゲスタン、タタルスタン、サハの各共和国の変化である。 【キーワード】 主権、民族問題、チェチェン紛争、経済的資源	横手　慎二（慶應義塾大学教授） 中馬　瑞貴（ロシアNIS貿易会研究員）	横手　慎二（慶應義塾大学教授） 中馬　瑞貴（ロシアNIS貿易会研究員）
9	政治と官僚	ソ連時代の党官僚・国家官僚からロシアの官僚への変化と、1990年代以降に進められた行政改革、さらには官僚の汚職の問題に対するメドヴェージェフ政権の対応を扱う。 【キーワード】 ノーメンクラトゥーラ制度、政治任命、行政改革	横手　慎二（慶應義塾大学教授）	横手　慎二（慶應義塾大学教授）
10	市民の政治活動	ソ連時代の市民の低調な政治活動、1980年代末から90年代初頭までの市民運動の広がり、さらには1990年代半ばからの比較的地味な社会活動の実態を問題にする。基本的な構図は、政治権力と活動的な市民との関係である。 【キーワード】 社会団体、カラー革命、市民社会	横手　慎二（慶應義塾大学教授）	横手　慎二（慶應義塾大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ロシアの対外政策（1）対米・対欧州関係	ロシアの欧米諸国に対する政策の変化を歴史的に概観し、同時に1991年以降のロシアの対外政策を支えたスタッフの変化を問題にする。ここでは大西洋主義からユーラシア主義への緩やかな変化を取り挙げる。 【キーワード】 対外的影響力、対外政策エリート、ユーラシア主義、G8	横手　慎二（慶應義塾大学教授）	横手　慎二（慶應義塾大学教授）
12	ロシアの対外政策（2）アジア諸国との関係	帝政期以降のロシアのアジア諸国に対する対外政策を概観する。特に注目するのは、ロシアの中東地域に対する政策とその南アジア・東アジアに対する政策が1990年代以降、どのように変化したのかという問題である。 【キーワード】 対欧米諸国、国境問題、貿易関係	横手　慎二（慶應義塾大学教授）	横手　慎二（慶應義塾大学教授）
13	ロシアと旧ソ連地域	ソ連から独立した諸国に対するロシアの対外政策は、ソ連時代から続く関係の処理の問題に直面して、一般的な対外政策とは異なる展開を遂げた。ここではロシアの再結集の動きと、それに対抗する諸国、さらには旧ソ連地域に影響を及ぼしつつある諸外国の三つ巴の関係を問題にする。 【キーワード】 帝国的関係、「近い外国」、勢力圏	横手　慎二（慶應義塾大学教授）	横手　慎二（慶應義塾大学教授）
14	ロシアの対外経済関係	ソ連時代から現在のロシアに至るまでの対外経済関係の変化を扱う。主たる問題はエネルギー資源の価格の変動が及ぼした影響だが、それ以外にも、ロシアの貿易相手国の変化など、政治や対外政策に関わる問題を検討する。 【キーワード】 エネルギー資源、対外的競争力、政治的課題	横手　慎二（慶應義塾大学教授）	横手　慎二（慶應義塾大学教授）
15	変動後の社会と政治文化	ロシアの成立以降、頻繁に行われるようになった世論調査を基に、ロシア国民の政治意識と政治文化を検討する。政治制度への評価、1990年代初頭の改革に対する認識の変化、市民の経済生活への国家の関与に対する評価、そしてロシアの国際的地位に対する意識など、前章までに取り挙げたトピックスに関わる問題を扱う。 【キーワード】 世論調査、政治的態度、政治指導者	横手　慎二（慶應義塾大学教授）	横手　慎二（慶應義塾大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639544	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ マーケティング論 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Marketing（’17） 〕

〔主任講師（現職名）：芳賀　康浩　（青山学院大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：平木　いくみ　（東京国際大学准教授）〕

【本学担当専任教員：齋藤　正章　（放送大学准教授）】

講義概要

企業が存続・成長していくために必要な売上や利益を、製品やサービスの提供を通じて実現する活動がマーケティングである。市場の成熟化、ニーズの多様化や個性化、技術の成熟化、競争のグローバル化が進むなか、企業経営におけるマーケティングの重要性はますます高まってきている。このような状況の中で企業は、製品の品質や性能、デザイン、価格から、販売する店舗や広告宣伝などの至るところに、消費者が自社製品を選ぶための工夫と努力を重ねている。本講義ではこうした企業のマーケティングの全体像について、具体的な事例を交えながら講義する。また、サービス・マーケティング、リレーションシップ・マーケティング、ソーシャル・マーケティングといった近年注目を集めている特殊領域についても解説する。

授業の目標

本講義では、マーケティング論をはじめて学ぶ学生を対象に、マーケティングの全体像を理解するとともに、その基礎的な用語や考え方を習得することを達成目標とする。

履修上の留意点

「経営学入門(’12)」を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	マーケティングとは何か	マーケティングは単なる企業の一職能ではなく、企業経営に欠かせない基本的な考え方である。本章では、マーケティングとはどのような考え方なのか、それはどのように経営活動に具現化されるかについて解説する。また、マーケティングが適用される範囲についても言及する。 【キーワード】 セリングとマーケティング、マーケティング・コンセプト、マーケティング・マネジメント	芳賀　康浩（青山学院大学教授）	芳賀　康浩（青山学院大学教授）
2	顧客価値と顧客満足	顧客価値を創造し、顧客満足を生み出すことこそ、企業の持続的成長を実現する出発点である。本章では、顧客価値と顧客満足の概念について理解を深めていく。 【キーワード】 顧客価値、顧客満足、顧客ロイヤルティ、顧客生涯価値、顧客シェア、カスタマー・エクイティ	平木　いくみ（東京国際大学准教授）	平木　いくみ（東京国際大学准教授）
3	マーケティング戦略の構図	マーケティング目標を達成するための基本計画がマーケティング戦略である。本章では、このマーケティング戦略を策定するためにはどのような意思決定をどのような手順で行う必要があるかについて解説する。 【キーワード】 マーケティング戦略、マーケティング・ミックス、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング	芳賀　康浩（青山学院大学教授）	芳賀　康浩（青山学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	マーケティング環境の分析	マーケティング戦略の策定にあたり、企業はどのような状況（環境）におかれているかを検討しなければならない。本章では、マーケティングに影響を及ぼすマーケティング環境の構成要素とその分析ツールについて解説する。 【キーワード】 マーケティング環境、環境適応、SWOT分析、バリュー・チェーン分析、ファイブ・フォース分析	芳賀　康浩（青山学院大学教授）	芳賀　康浩（青山学院大学教授）
5	消費者行動の分析1：消費者情報処理	消費者がさまざまなマーケティング情報を処理する過程を情報処理プロセスという。本章では、消費者の情報処理プロセスにおいて重要な概念を解説する。また社会や集団が消費者の情報処理に与える影響についても説明する。 【キーワード】 知覚、記憶、態度、動機づけ、消費者関与、準拠集団	平木　いくみ（東京国際大学准教授）	平木　いくみ（東京国際大学准教授）
6	消費者行動の分析2：購買行動	企業にとって消費者を自社製品の購買決定へと導くことこそ究極的なマーケティング目標である。本章では、消費者がどのように購買決定を下すのかを理解するために、購買決定プロセスに焦点をあてる。また購買行動に影響を与えるさまざまな状況要因についても解説する。 【キーワード】 購買決定プロセス、問題認識、情報探索、代替案評価、非計画購買、オンライン購買行動	平木　いくみ（東京国際大学准教授）	平木　いくみ（東京国際大学准教授）
7	マーケティング・リサーチ	マーケティング意思決定に必要な情報を提供するプロセスがマーケティング・リサーチである。本章では、マーケティング・リサーチの基礎概念をおさえたうえで、様々なマーケティング課題に対するリサーチ方法について解説する。 【キーワード】 カスタマー・インサイト、データ、定性調査、定量調査、アンケート調査、実験、観察調査、行動観察、インタビュー調査	平木　いくみ（東京国際大学准教授）	平木　いくみ（東京国際大学准教授）
8	製品戦略	マーケティングにおける製品のとらえ方、最適な製品の組み合わせ、製品開発といった製品に関する意思決定について解説する。また、マーケティング戦略の課題を分析する際の基礎概念である製品ライフ・サイクルも紹介する。 【キーワード】 最寄品、買回品、専門品、製品アイディア、製品コンセプト、製品ミックス、製品ライフ・サイクル、新製品開発	芳賀　康浩（青山学院大学教授）	芳賀　康浩（青山学院大学教授）
9	ブランド戦略	ブランドは、自社製品が他社製品よりも選ばれる理由をつくり出す。本章では、マーケティングにおけるブランドの役割を理解したうえで、企業が競争優位を獲得するために展開するさまざまなブランド戦略について解説する。 【キーワード】 ブランド・エクイティ、ブランド要素、二次的ブランド連想、ブランド拡張	平木　いくみ（東京国際大学准教授）	平木　いくみ（東京国際大学准教授）
10	価格戦略	製品の価格はその製品の売上・利益を直接左右する重要な要因である。本章では、マーケティングにおける価格の役割を説明した上で、最適な価格を設定するために必要な考慮事項について解説する。また、消費者の価格に対する心理、およびそれを捉えた価格設定についても言及する。 【キーワード】 価格競争、最適価格、貢献利益、需要の価格弾力性、価格感受性、需要の交差弾力性	芳賀　康浩（青山学院大学教授）	芳賀　康浩（青山学院大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	流通戦略	自社製品をターゲット顧客に届ける経路であるマーケティング・チャネルの設計と管理の方法について解説する。このマーケティング・チャネルは、経済的であるとともに、自社のマーケティング戦略を消費者との接点で実現できるものでなければならない。 【キーワード】 流通経路、マーケティング・チャネル、垂直的マーケティング・システム、延期－投機の原理	芳賀　康浩（青山学院大学教授）	芳賀　康浩（青山学院大学教授）
12	マーケティング・コミュニケーション	自社製品の価値を顧客に伝達するマーケティング・コミュニケーションの意義や役割について解説する。企業から消費者へ実施される伝統的なコミュニケーションだけでなく、近年、影響力を増している消費者間コミュニケーションについても取り上げていく。 【キーワード】 プロモーション、ダイレクト・マーケティング、OOH、口コミ、コミュニケーション・ミックス、IMC	平木　いくみ（東京国際大学准教授）	平木　いくみ（東京国際大学准教授）
13	サービス・マーケティング	サービスという商品は、物的な製品とは異なる特性を有する。本章では、サービスの特性とそこから生じるマーケティング上の課題、サービス・マーケティングの展開方法について検討する。また、サービス・マーケティング研究に影響を及ぼした顧客満足研究についても解説する。 【キーワード】 サービス、無形性、協働性、サービス品質、サービス・プロフィット・チェーン、サービス・トライアングル、サービス・エンカウンター	芳賀　康浩（青山学院大学教授）	芳賀　康浩（青山学院大学教授）
14	リレーションシップ・マーケティング	企業が長期安定的に顧客価値と顧客満足を提供し、顧客との間に良好な関係を構築していこうとする取り組みをリレーションシップ・マーケティングと呼ぶ。本章では、リレーションシップ・マーケティングにおける重要概念を説明したうえで、具体的な取り組みについて解説する。 【キーワード】 顧客リレーションシップ、コミットメント、ブランド・コミュニティ、サービス・リカバリー、顧客データベース	平木　いくみ（東京国際大学准教授）	平木　いくみ（東京国際大学准教授）
15	ソーシャル・マーケティング	顧客の利益だけでなく、社会の利益も考慮するマーケティングをソーシャル・マーケティングと呼ぶ。本章では、近年のソーシャル・マーケティングへの注目の背景、その内容の変化、および具体的な取り組みについて解説する。 【キーワード】 ソーシャル・マーケティング、ソサイエタル・マーケティング、企業の社会的責任（CSR）、コーズ・リレーテッド・マーケティング	芳賀　康浩（青山学院大学教授）	芳賀　康浩（青山学院大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639269	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　国際経営　　（’１３）＝　　(R)

〔主任講師（現職名）：原田　順子　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：洞口　治夫　（法政大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

この講義では、国際経営を理解するための基本知識（主要な経営学説、知識・技術・イノヴェーション、会計財務、人的資源、行政と国際化など）について学習する。経済のグローバル化は、中国、インド、ロシア、ブラジル等の新興工業国の台頭を迎え、ますます地理的範囲を増大しつつある。そうした経済のダイナミズムは、日本の大企業から中小企業にまで大きな影響を及ぼしている。「この状況に対応するために、日本企業はグローバル戦略と管理方法をいかに策定、実践すべきか」を念頭におきながら受講されることを希望する。

授業の目標

国際経営を理解するには、多岐にわたる学習が必要であり、全15章（回）で国際経営のすべてを網羅することは困難である。したがって、この科目の目標は履修者にグローバルな企業経営活動を知る上で、最も重要と思われる問題について理論的知識と具体的な行動指針を提供することにある。この講義は社会人である受講生が国際経営を理解する参考にしてもらえるように考えられた。

履修上の留意点

印刷教材と放送教材は補足的な関係となっている。履修生にはラジオ放送の補足的解説、説明、ゲスト講師の体験や考えを聞くことを勧める。また印刷教材の各章末に参考文献を示したので、それらを読み、さらに学習を深めることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	国際化の進展と日本	はじめに、科目の全体像を示す意味で、わが国の視点から経済のグローバル化が進展してきていることを学習する。本章では、日本経済の特徴を把握し、現代の日本企業が置かれた状況を理解する。 【キーワード】 輸出・輸入、現地生産・現地販売、対外直接投資	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）
2	多国籍企業の参入形態	国際ビジネスの方法を分類し、理解する。企業が海外で事業活動を行うときに、どのような方法を採用するかを説明する。輸出、ライセンシング契約・直接投資という基本的な3類型を説明したのち、国際合弁事業、OEM、プラント輸出という中間的形態、戦略的提携という複数企業間の戦略を説明する。 【キーワード】 参入、退出、輸出、輸入、貿易、対外（海外）直接投資、キャピタル・ゲイン、インカム・ゲイン、ライセンシング、OEM、プラント輸出、国際合弁事業、戦略的提携、M&A	洞口　治夫（法政大学教授）	洞口　治夫（法政大学教授）
3	多国籍企業の経営学説	多国籍企業はなぜ海外で活動できるのか。また、多国籍企業はなぜ多様な参入形態のうちから、直接投資やライセンシング契約を選択するのか。ハイマー＝キンドルバーガーの産業組織論アプローチ、コース＝ウィリアムソンの取引費用説によってこれらの疑問に答える。その際、限定された合理性や機会主義の影響についても説明し、内部化理論の内容を検討する。 【キーワード】 ハイマー・キンドルバーガーの命題、証券投資、直接投資、経営資源、取引費用、内部化理論、折衷理論、限定された合理性、機会主義	洞口　治夫（法政大学教授）	洞口　治夫（法政大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	多国籍企業の参入戦略 －M&Aとは何か－	合併・買収などによって他企業の経営権を取得する、いわゆる、M&A（mergers and acquisitions）がわが国の企業でも一般化している。M&Aには、新技術やノウハウなどの経営資源を自社開発する代わりに既にそれを保有している企業を買収することによって時間と労力を節約できるところにその積極的な意義が認められる。M&Aの意義と企業の対応についての内容を理解する。 【キーワード】 M&A、吸収合併、敵対的企業買収、ポイズン・ピル、信託型ライツ・プラン、ホワイト・ナイト	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
5	多国籍企業と知識・技術・イノヴェーション	多国籍企業が経営資源を蓄え、高度化するための方法としての知識管理について、その考え方を説明する。記号、情報と知識との関係、ポランニーの『個人的知識』、暗黙知と形式知、創発といった概念を説明し、多国籍企業の活動との関連を説明する。また、暗黙知依存の危険性や集合知といった知識管理の近年の発展についても概説し、多国籍企業とイノベーションとの関係を学ぶ。 【キーワード】 記号、情報、知識、暗黙知、創発、形式知、知識創造理論、暗黙知依存の危険性、集合知	洞口　治夫（法政大学教授）	洞口　治夫（法政大学教授）
6	移転価格	経済活動がグローバル化していくことにより、日本企業とその国外関連者との移転価格に関する問題については、ますます、大型化、複雑化していくことになると予測される。そこで、本章では移転価格の問題を検討・整理する。 【キーワード】 移転価格税制、独立企業間価格、独立価格比準法、再販売価格基準法、原価基準法、事前確認制度（APA）	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
7	国際経営と外国為替レート	多国籍企業の参入形態が異なるのに応じて、為替レートの変化は異なった影響を与える。円高・円安など為替レートの変動がどのような理由によって起こるのかについての学説を紹介する。購買力平価、金利平価などの説明のほかに、ランダムウォークの説明では、ブラウン運動とウィーナー過程についても触れ、オーバーシューティングとニュースの役割について説明する。 【キーワード】 購買力平価、ビッグマック指数、金利平価、ランダムウォーク、オーバーシューティング、ニュースの影響	洞口　治夫（法政大学教授）	洞口　治夫（法政大学教授）
8	国際経営とリスク －リアルオプションと投資の意思決定－	為替の直物、先物、オプションについて理解する。為替の先物を利用した投機が生まれるメカニズムについて説明したのち、オプションが先物の保険としての役割を果たすことを理解する。さらに、オプションの応用として発達してきたリアル・オプションの考え方による投資意思決定についても説明する。合弁事業、ライセンシング、フィージビリティ・スタディといった活動がリアル・オプションとしての役割を果たし、国際経営リスクへの対処方法となっていることを説明する。 【キーワード】 直物と先物、投機、ヘッジファンド、オプション、ブラック＝ショールズ・モデル、リアルオプション、延期、フィージビリティ・スタディ	洞口　治夫（法政大学教授）	洞口　治夫（法政大学教授）
9	資金調達の国際化	企業活動がグローバル化していくと、それに応じて資金調達もグローバル化してくる。つまり、金融市場のグローバル化である。各国の金融市場は真の国際化を余儀なく迫られる。金融市場の国際化の現状と将来について解説する。 【キーワード】 国際金融取引、国際金融市場、フリー・フェア・グローバル、金融商品会計基準、デリバティブ取引、先物取引、先渡取引、オプション取引、スワップ取引、ヘッジ取引	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	会計の国際化	国際的金融市場へむけての整備は、企業活動の透明性・比較可能性を高めるための世界共通の会計基準の開発を必要とする。「単一の高品質な一組の会計基準」すなわち国際会計基準が必要とされる背景とその内容について解説する。 【キーワード】 国際財務報告基準(IFRS)、国際会計基準審議会(IASB)、米国財務会計基準審議会(FASB)、企業会計基準委員会(ASBJ)、コンバージェンス、東京合意	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
11	産業空洞化と産業集積	日本において産業空洞化が進展しているといわれて久しい。生産機能のみならず、研究機能、本社機能までをも海外に移転する日本企業が出現している。国の競争優位の源泉である知識フローや地域イノベーションと関連の深い「産業クラスター論」「ローカル・ミリュー論」を含めて学習する。 【キーワード】 産業空洞化、ポーター、産業クラスター、ローカル・ミリュー、ものづくり	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）
12	人材の国際化と地域特性	経済活動の国際化が進むとともに、人材の国際化も進展している。しかし人は文化、地域特性などに影響をうける。本章では多文化と経営について解説する。 【キーワード】 ソフトウェア・オブ・ザ・マインド、異文化シナジー効果、企業文化	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）
13	日本的人的資源管理と国際化	人材の国際化が効果的に行われるか否かは、企業業績に密接に関連する重要なことがらである。人的資源管理の枠組みにおいて、日本企業の人的資源管理について国際化の観点から学ぶ。 【キーワード】 日本的職務観、長期雇用、内部育成、評価システム	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）
14	国際人材の育成	国際人材の育成にはどのような課題があるのだろうか。産業人材育成の考え方は国によって異なるのだろうか。人材面から国際化のパターンを学習し、多国籍企業の人的資源管理の諸課題について解説する。 【キーワード】 社会的文脈、MBA、職業資格、多国籍企業、グローバル企業	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）
15	行政と国際経営	国際的な制度の整備や、貿易・投資の促進・支援など、民間企業の国際経営を促進するための行政（国、地方自治体）の役割について包括的に論じる。 【キーワード】 対外経済（通商）政策、WTO、FTA／EPA、TPP、公企業、政府系ファンド、民営化	原田　昌彦（三菱UFJリサーチ・アンド・コンサルティング主任研究員）	原田　昌彦（三菱UFJリサーチ・アンド・コンサルティング主任研究員）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639323	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 管理会計 （’１４）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Management Accounting (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：齋藤　正章　（放送大学准教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：

講義概要

管理会計の目的は、企業で行われる様々な経営意思決定と業績管理に有効な会計情報を提供することにある。本講義では管理会計の役割を意思決定を支援する役割と業績を測定・評価して企業価値を高める行動を動機づけるコントロールの役割に分けて、それぞれの理論を解説する。

授業の目標

管理会情報の意義や役立ちについて理解し、意思決定と業績評価という2つの役割に資する管理会計情報の生成と利用について習得する。

履修上の留意点

理解を深めるために、電卓等を脇に置き、実際に手を動かして体で覚えるように努めてほしい。各章の例題、巻末の練習問題を自分で解くなど積極的な姿勢が望まれる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	管理会計総論 －管理会計情報の役立ち－	管理会計の意義と目的 企業の目的とエイジェンシー問題 経営管理プロセスと管理会計の実践主体 意思決定プロセスと管理会計の体系 会計情報基準 財務会計との相違点 【キーワード】 管理会計情報、エイジェンシー問題、意思決定プロセス、経営管理プロセス	齋藤　正章 (放送大学准教授)	齋藤　正章 (放送大学准教授)
2	原価の諸概念と原価計算の基礎	原価の諸概念 全部原価計算 個別原価計算 総合原価計算 直接原価計算 【キーワード】 形態別分類、製品との関連による分類、製造間接費、配賦	齋藤　正章 (放送大学准教授)	齋藤　正章 (放送大学准教授)
3	原価の測定と原価情報の活用(1) －標準原価計算－	標準原価計算の意義 標準原価計算の目的 標準原価計算の手続き 標準原価の分類 原価差異の算定と分析 【キーワード】 標準原価、原価標準、許容標準原価、原価差異	齋藤　正章 (放送大学准教授)	齋藤　正章 (放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	原価の測定と原価情報の活用(2) －活動基準原価計算と品質原価計算－	活動基準原価計算の意義 活動基準原価計算の目的 活動基準原価計算の手続き 活動基準管理 【キーワード】 活動基準原価、コストプール、コストドライバー、ABCとABM	齋藤　正章 (放送大学准教授)	齋藤　正章 (放送大学准教授)
5	原価の測定と原価情報の活用(3) －意思決定のための原価分析－	機会原価・埋没原価 CVP分析 在庫管理 品質原価計算 【キーワード】 機会原価、埋没原価、CVP分析、損益分岐点比率、在庫管理、品質原価計算	齋藤　正章 (放送大学准教授)	齋藤　正章 (放送大学准教授)
6	予算管理システム	予算の意義と体系 予算編成のプロセス 予算システムと組織設計 予算と実績の差異分析 予算の反機能とエイジェンシー・コスト 【キーワード】 予算、予算システム、組織設計、差異分析、予算の反機能、エイジェンシー・コスト	齋藤　正章 (放送大学准教授)	齋藤　正章 (放送大学准教授)
7	資本予算(1) －投資決定ルール－	資本予算の意義と目的 貨幣の時間価値 将来価値と現在価値 現在価値法と内部利益率法 投資案の順位づけ その他の投資決定ルール 【キーワード】 貨幣の時間価値、将来価値、現在価値、NPV法、内部利益率法	齋藤　正章 (放送大学准教授)	齋藤　正章 (放送大学准教授)
8	資本予算(2) －資本コスト－	資本コストの意義 源泉別資本コスト 加重平均資本コスト 部門別資本コスト 【キーワード】 資本コスト、源泉別資本コスト、加重平均資本コスト、部門別資本コスト	齋藤　正章 (放送大学准教授)	齋藤　正章 (放送大学准教授)
9	業績指標の選択	企業の目的と業績評価指標 企業価値と株主価値 株主価値を映し出す業績指標 【キーワード】 会計的利益率法、回収期間法、株主価値、EVA、MVA	齋藤　正章 (放送大学准教授)	齋藤　正章 (放送大学准教授)
10	株主価値を高める事業戦略	企業価値に適合する業績指標 EVAを増加させる4つの類型 リストラの経済分析 【キーワード】 NOPAT、企業価値、業績指標、EVA、リストラ戦略	齋藤　正章 (放送大学准教授)	齋藤　正章 (放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	部門別業績管理	責任会計と責任センター コスト・センターの業績管理 収益センターの業績管理 プロフィット・センターの業績管理 インベストメント・センターの業績管理 管理可能性原則と情報有用性原則 【キーワード】 責任会計、責任センター、コスト・センター、収益センター、プロフィット・センター、インベストメント・センター、管理可能性原則	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
12	振替価格	事業部間取引と振替価格 振替価格の実務的ルール 市場価格 限界費用 【キーワード】 内部振替価格制度、事業部間取引、振替価格、市場価格	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
13	非財務情報の活用	非財務情報の重要性 バランスト・スコアカード 業績指標と報酬システム 【キーワード】 先行指標、事後的指標、BSC、学習と成長の視点	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
14	意思決定会計の理論	意思決定モデル 予測情報の価値 決定権限の配分とコントロール・システム デシジョン・マネジメントとデシジョン・コントロール 【キーワード】 デシジョン・マネジメント、デシジョン・コントロール、期待効用	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
15	業績管理会計の理論	分析の枠組み プリンシパル・エイジェント・モデル リスク・シェアリング 動機づけ 業績情報の価値 【キーワード】 プリンシパル・エイジェント・モデル、リスク・シェアリング、動機づけ、業績情報の価値	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639463	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初級簿記 （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Book-Keeping (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：齋藤　正章 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

簿記はおよそ500年前から存在し、「ビジネスの言語」ともいわれ、今日の企業社会においても欠かせないものとなっている。本講義では、商品売買を中心とする商業簿記に関する知識・技術の網羅的な習得を目標としている。

授業の目標

企業の営業活動がどのように進められるかを理解する。そして、この営業活動を記録するために、仕訳→転記→検証→決算という簿記の手順を正しく進められるようにする。

履修上の留意点

簿記の記帳ルールは単純明快であり、その習得はさほど難しいものではないと思われる。しかし、専門用語や簿記ならではの考え方があるので、それに慣れるのも重要である。また、簿記は技術であるので、ただ単に教科書を読んでいるだけでは不十分である。実際に手を動かして、電卓をたたいて、体で覚えて初めて使いこなせるようになるので、各章の例題、巻末の練習問題を自分で解くなど積極的な姿勢が望まれる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	簿記の意義と目的	「簿記とは何か」、簿記の目的や意義とその役割や種類について解説する。また、簿記の特徴やその沿革についても併せて説明する。 【キーワード】 帳簿記入、複式簿記、資本の循環過程、期間計算、勘定計算、スンマ、帳合之法	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
2	貸借対照表と損益計算書	貸借対照表と損益計算書について解説し、その構成要素である資産・負債・純資産、収益・費用について説明する。さらに、財産法と損益法という2つの利益計算法を明らかにする。 【キーワード】 貸借対照表、損益計算書、資産・負債・純資産、収益・費用、財産法、損益法	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
3	勘定記入と仕訳・転記	簿記における取引の定義を示し、勘定および勘定記入のルールについて述べる。さらに具体的な取引の記録方法である仕訳と転記について解説する。 【キーワード】 勘定、借方、貸方、会計取引、取引要素の分解、仕訳、転記、仕訳帳、元帳	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	試算表の作成と帳簿決算	仕訳帳、元帳への記入が正しかったかどうかを確認するための合計残高試算表について解説し、続いて決算手続きまでの一連の流れについて説明する。 【キーワード】 合計残高試算表、合計試算表、残高試算表、損益勘定、振替仕訳	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
5	現金・預金に関する記帳処理	今回より具体的な勘定科目の記帳処理方法に関する解説を行う。まず、貸借対照表の資産項目である現金・預金の定義およびその記帳処理について説明する。 【キーワード】 現金、通貨代用証券、小切手、郵便為替証書、当座預金、当座借越、現金過不足	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
6	商品売買に関する記帳処理(1) －分記法	貸借対照表の資産項目である商品の記帳処理方法である分記法について、その短所と長所について説明する。また、商品有高帳についても説明する。 【キーワード】 分記法、商品勘定、商品売買益勘定、値引、返品、商品有高帳	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
7	商品売買に関する記帳処理(2) －三分法	貸借対照表の資産項目である商品の記帳処理方法である三分法について、その短所と長所について説明する。 【キーワード】 三分法、仕入勘定、売上勘定、繰越商品勘定	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
8	売掛金・買掛金に関する記帳処理	商品売買において重要な勘定科目である売掛金と買掛金について解説する。また、統括勘定、貸倒れの処理についても説明する。 【キーワード】 売掛金、買掛金、統括勘定、貸倒損失、貸倒引当金、償却債権取立益	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
9	その他の債権・債務に関する記帳処理	営業外取引に関する債権・債務について、その内容と記帳処理について解説する。 【キーワード】 営業外取引、未収金、未払金、貸付金、借入金、仮払金、仮受金、立替金、預り金	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
10	手形に関する記帳処理	まず、手形について説明し、貸借対照表の資産の部に記載される受取手形と負債の部に記載される支払手形の記帳処理について解説する。その他、営業外手形や金融手形、手形の決済や不渡時の処理等についても言及する。 【キーワード】 受取手形、支払手形、営業外手形、金融手形、手形の決済、手形の不渡	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	有価証券および固定資産に関する記帳処理	貸借対照表の資産項目である有価証券について、その分類、取得価額と評価方法、評価基準等について解説し、有価証券売買の記帳処理について説明する。また、固定資産の取得、減価償却、売却についても併せて解説する。 【キーワード】 有価証券、固定資産の取得、減価償却、固定資産の売却	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
12	純資産および収益・費用に関する記帳処理	貸借対照表を構成する純資産に関する諸取引の記帳処理について解説する。また、損益計算書を構成する収益・費用の認識・測定についても説明する。 【キーワード】 資産・負債・純資産、収益・費用、貸借対照表、損益計算書	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
13	決算の簿記	第4回の決算手続きについて復習し、それから精算表の作成方法について述べ、一連の決算予備手続に関する説明をする。また、決算本手続（決算仕訳と帳簿締切）について解説する。 【キーワード】 精算表、決算予備手続、決算本手続、決算仕訳、帳簿締切	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
14	財務諸表の作成	これまでの決算手続きを受けて、財務諸表の作成について解説する。また、財務諸表作成を取りまく会計諸法規についても説明する。 【キーワード】 財務諸表、企業会計原則、会社法、企業会計基準	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
15	帳簿組織	帳簿システムの意義について触れ、補助記入帳、補助元帳、伝票会計について解説する。 【キーワード】 補助記入帳、補助元帳、伝票会計	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639552	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ファイナンス入門 （’１７）＝ (TV)

英文名 ＝ 〔 Introduction to Finance (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：齋藤　正章 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：阿部　圭司 （高崎経済大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

好むと好まざるに関わらず、ファイナンスは私たちの暮らしと密接な関係を持っている。ファイナンスは、私たちが経済活動を行う限り直接的・間接的に私たちの生活に影響を及ぼしているのである。しかし、ファイナンスをお金儲けの道具と誤解したり、逆に「お金の話はちょっと・・・」と敬遠したりする人が多いのも事実である。本科目は、ファイナンスに関する正しい知識を習得し、社会におけるファイナンスの役割をより身近に感じ、理解してもらうことを目的としている。そのために、①ファイナンスと市場（第2～8回）、②ファイナンスと企業（第9～13回）、③ファイナンスの広がり（第14回～15回）という3つのテーマで講義を構成し、内容の充実と理解の促進を図っている。

授業の目標

ファイナンスは、ノーベル経済学賞を数多く受賞している分野でもある。その理論の一例を挙げれば、ポートフォリオ理論、CAPM、MM理論、ブラックショールズモデル、行動ファイナンス等をあげることができる。その理論のエッセンスは、各回で紹介される。こうした理論を身につけ、避けることが出来ない経済社会での活動に関する理解を深めることが目標である。

履修上の留意点

講義の内容と様々なメディアで取り上げられる経済記事等の接点に関心をもちましょう。また、より深い理解のために、計算式が出てきたら自分で解いて確認してみましょう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ファイナンス概論	ファイナンスとは何か。ファイナンスは私たちの暮らしと密接な関係を持っている。本講義ではファイナンスと経済・社会との関係を概観し、ファイナンスを学ぶ意義について確認する。 【キーワード】 企業活動、投資家（家計）、市場（マーケット）、間接金融、直接金融、金融機関	齋藤　正章（放送大学准教授） 阿部　圭司（高崎経済大学教授）	齋藤　正章（放送大学准教授） 阿部　圭司（高崎経済大学教授）
2	時間の価値と割引現在価値	今日の1万円と1年後の1万円は同じ価値を持たない。それは時間の価値が反映されるべきだからである。時間の価値を表象したものが金利である。金利を用いてわれわれは現在の価値を将来の価値へと変換可能となる。逆に金利を使って将来の価値を現在の価値へと変換することもできる。本講義ではファイナンスにおける重要な概念である時間の価値と割引現在価値の関係について学ぶ。 【キーワード】 時間の価値、金利、割引計算、割引現在価値	阿部　圭司（高崎経済大学教授）	阿部　圭司（高崎経済大学教授）
3	株式と債券の価値	資本市場で取引される主要な資産の代表が株式、債券である。本講義では株式と債券の特徴について学ぶ。さらに第2回で学習した時間の価値と割引現在価値の関係を用いて株式や債券の価値について学ぶ。 【キーワード】 株式、債券、株式と債券の価値	阿部　圭司（高崎経済大学教授）	阿部　圭司（高崎経済大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	リスクとリターン	将来、どのような出来事が起こるかは不確実である。その結果、経済的な不利益が生じることもあり、これをリスクという。本講義では一般的なリスクを定義すると同時に、ファイナンスで扱うリスクの特徴について説明する。また、リスクとその報酬たるリターンの関係と計測方法について学び、無差別曲線によるリスク資産の選択を考察する。 【キーワード】 リスク、リターン、期待値(平均値)、分散・標準偏差、無差別曲線	阿部　圭司（高崎経済大学教授）	阿部　圭司（高崎経済大学教授）
5	ポートフォリオのリターンとリスク	複数の資産からなる資産全体をポートフォリオと呼ぶ。ポートフォリオへ分散投資することによりポートフォリオ全体のリスクを減少させることができることが知られている。本講義ではこのポートフォリオのリターンとリスクの持つ性質について学び、最適なポートフォリオ選択とは何かを考える。 【キーワード】 ポートフォリオ、分散投資、投資機会集合、有効フロンティア、共分散、相関係数、ポートフォリオのリスクとリターン	阿部　圭司（高崎経済大学教授）	阿部　圭司（高崎経済大学教授）
6	CAPM －資本資産評価モデル－	市場が正しく機能しているとき、資産のリターンはそのリスクに応じて決定される。資本資産評価モデル(Capital Asset Pricing Model：CAPM)は市場の均衡状態において資産のリスクとリターンの関係を明らかにしたモデルである。本講義ではリスク指標であるベータをはじめとしたCAPMの含意について学ぶ。 【キーワード】 分離定理、資本資産評価モデル	阿部　圭司（高崎経済大学教授）	阿部　圭司（高崎経済大学教授）
7	デリバティブ －派生証券－（1）	デリバティブとは派生証券とも呼ばれ、その価格が株式や債券など、別の資産の価格に依存して変動する性質を持つ資産のことを総称したものである。デリバティブには仕組みや計算が難しい、リスクが大きく投機性があるなどのイメージがあるが、その本質は意外に簡単で便利な道具でもある。本講義では先物取引、オプション取引など基本的なデリバティブの種類と性質について学ぶ。 【キーワード】 先物取引、スワップ取引、オプション取引	阿部　圭司（高崎経済大学教授）	阿部　圭司（高崎経済大学教授）
8	デリバティブ －派生証券－（2）	デリバティブは本来、投機ではなくリスクヘッジの道具である。本講義では先物やオプションを用いたヘッジの仕組みや投資手法、さらにデリバティブの評価方法について学ぶ。 【キーワード】 先物取引、オプション取引、ヘッジ	阿部　圭司（高崎経済大学教授）	阿部　圭司（高崎経済大学教授）
9	資金調達	企業は事業活動を行うために資金を調達しなくてはならない。この資金調達源が企業内部にあるか外部にあるかで、内部金融と外部金融に分けられ、さらに外部金融は直接金融と間接金融に分類される。また、内部金融等その他の金融手段についても解説する。 【キーワード】 資本市場、外部金融、直接金融、株式発行、銀行、借入金、企業間信用、内部金融	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	財務諸表と財務業績の測定	資金の調達と運用の結果である財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）について学ぶ。さらに、財務諸表の分析手法についても学習する。 【キーワード】 貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、収益性の分析、安全性の分析、効率性の分析	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
11	資本コスト	資本コストとは、企業側から見れば、資金（資本）を調達するためのコストであると解釈される。また、出資者側から見れば、差し出す資金に対する見返りであるとも考えられる。第2回で紹介した割引計算の割引率にも資本コストが利用される。資本コストの概念はファイナンス理論において最重要であると同時にわかりづらい側面もある。本講義では、この資本コストについて明らかにする。 【キーワード】 資本コスト、株式資本コスト、負債資本コスト、加重平均資本コスト（WACC）、MM理論	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
12	資金運用	企業では調達した資金を効率よく運用（経営）することが求められる。そのための投資意思決定の理論について学ぶ。 【キーワード】 代替案の評価、機会原価、内部利益率法、現在価値法	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
13	企業価値評価	企業価値とは、将来の企業の経営活動の成果を映し出すものに他ならない。これまでの議論をもとに企業価値評価の技法について学習する。 【キーワード】 キャッシュフロー、フリーキャッシュフロー・モデル、企業付加価値（EVA）	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
14	情報非対称	市場における参加者が持つ情報に差がある、つまり当事者間に情報格差があるとき、情報の非対称性が存在するという。情報の非対称性によって、情報優位者は情報不利者の犠牲のもと、自身にとって有利な取引結果を引き出すことができる。本講義では、その問題点を指摘し、解決策を考察する。 【キーワード】 情報非対称、代理関係、モラル・ハザード、アドバース・セレクション	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
15	ファイナンスと今日的課題	市場とは本来、市場参加者の自由に委ねられるべきものである。しかし、需要と供給に基づいた単純なルールでは、不都合を生じるようになるのも事実である。現代の市場がどのような変容を繰り返し、それに対応する形でどのように規制も変化してきたのかについて学ぶ。また、企業価値推計における資本コスト算出、資本コストと企業価値最大化を例にとって、ファイナンス理論と現実との関係を示し、ファイナンス理論との付き合い方、ファイナンス理論の考え方を現実にどのように活用すべきかについて述べる。 【キーワード】 証券市場、市場に対する規制、M&A、行動ファイナンス、資本コスト、企業価値、ファイナンス理論との付き合い方	齋藤　正章（放送大学准教授） 阿部　圭司（高崎経済大学教授）	齋藤　正章（放送大学准教授） 阿部　圭司（高崎経済大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1548433	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　ケースで学ぶ現代経営学　　（’１２）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：小倉　行雄　（放送大学客員教授）　〕

〔主任講師（現職名）：佐藤　善信　（関西学院大学大学院教授）　〕

【本学担当専任教員：齋藤　正章　（放送大学准教授）　】

講義概要

今日の企業経営について受講者が実際的に把握できるようにする。このため、経営戦略やマーケティングの枠組み、あるいは財務計数情報はいかに用いるかなど、今日の企業が抱える実践的課題に即して講義する。また、特定企業に焦点をあてた本格的なケースから課題を解くためのミニ・ケースなど、多様なケースも織り交ぜて講義する。

授業の目標

今日の企業が抱える実践的課題に即して学ぶ。これにより、受講者が現実の経営課題はどのような構造をなしているかつかみやすくする。また、各自が経営課題に立ち向かう際、そうしたことを自らの力で解く経験の一助にしたい。

履修上の留意点

「経営学入門(’12)」により、企業経営に関する基礎的な見方を身につけた上での受講が望まれる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	実践課題から経営を理解する	経営のような実践的世界で物事をつかむには、理論的なアプローチだけでなく、現実から出発する実践経営的なアプローチも有効である。そこではケース手法が有力なツールになる。これを踏まえ、理論と現実を関連づけて理解する。また、今日の企業が行きあたる経営課題を実践経営の学びの中に位置づける。 【キーワード】 実践経営的なアプローチ、ケースメソッド、ケース的手法、戦略展開の手順化、戦略の見える化、見通しと構想を持つ、構造変化、創造的な解決	小倉　行雄（放送大学客員教授）	小倉　行雄（放送大学客員教授）
2	ビジネスフレームワークの理解	各種のビジネスフレームワークを理解し、今日の企業課題を実践的に解くための一助にする。 【キーワード】 PEST分析、3C、5F分析、SWOT分析、成長マトリックス、4P、4C、ライフサイクル、ライフサイクル戦略	小倉　行雄（放送大学客員教授）	小倉　行雄（放送大学客員教授）
3	製品開発と市場優位の獲得	市場において優位性を獲得するための有力な方策である製品開発について検討する。 【キーワード】 製品開発の手順、開発の手がかり、開発方式の類型化	小倉　行雄（放送大学客員教授）	小倉　行雄（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	市場と顧客の変化に対応するマーケティング	市場や顧客はどのように変化しているか。それにより、業界の勢力図はどう変化するか。そこで、どのようなマーケティング手法が有効となるか。 【キーワード】 関係性マーケティング（CRM）、データベースマーケティング、インターネットマーケティング、デジタルマーケティング	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）
5	戦略的コストダウンの方法	今日のコストダウンは、どのように理解すべきか。コストダウンの主要な方法を検討する。また、主要企業におけるコストダウンの実際事例も検討する。 【キーワード】 源流からのコストダウン、コストのつくり込み、許容原価、生産方式の転換、部品点数削減、部品の共通化、集中購買、海外調達、拠点の再編	小倉　行雄（放送大学客員教授）	小倉　行雄（放送大学客員教授）
6	グローバル化への対応	海外進出はどのようなプロセスを経て進むか。海外進出する企業のタイプ分け、海外で成功するための要件などを検討する。 【キーワード】 ターゲット市場の特定、BOP、ハイコンテクスト文化、ローコンテクスト文化、5つの文化判断基準、国際企業組織の分類	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）
7	ヒューマン・パワーの育成	人を伸ばす組織は、競争優位性の基となる。こうした組織をつくるには職業能力の形成が重要である。人的資本に関する理論的フレームワーク、マクロ的フレームワークを学習する。さらに、現代企業の人材育成の方策と課題を解説する。 【キーワード】 Beckerの人的資本理論、一般的技能、企業特殊的技能、OJT、Off-JT、自己啓発、組織のフラット化	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）
8	情報化対応とIT経営	経済社会の環境変化要因の何がIT経営を浮上させるのか。ITを活用する利点、メリットはどこにあるか。ITを活用して業務効率を飛躍的に向上させるためのポイントは何か。 【キーワード】 IT、ICT、CIO、IT経営力指標、IT経営ロードマップ、見える化、共有化、柔軟化	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
9	戦略的アライアンス経営	企業は競争しつつも、他方で提携、協調、協力の関係をつくりながら活動している。そこで、企業がとっているアライアンスという提携などの戦略に注目していきたい。戦略的アライアンスの考え方とその手法を具体的に説明する。 【キーワード】 戦略的アライアンスの意味、M&Aとの関連性、ライセンシング、クロス・ライセンス、ジョイント・ベンチャー、アウトソーシング、サプライチェーン・マネジメント	齊藤　毅憲（横浜市立大学名誉教授）	齊藤　毅憲（横浜市立大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	低迷からの復活要因を探る	旭山動物園をケースに取り上げ、同園がなぜ低迷期から脱することができたのか、そして2004年以降、なぜ入園者数を激増させるようになったのかを考察する。 【キーワード】 顧客価値、サービス・マーケティングの3角形、人的資源開発、経験学習、PDCAサイクル、アプリシエイティブ・インクアイアリー(AI)、リーダーシップ	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）
11	いい会社とは何か	中堅優良企業の伊那食品工業を取り上げ、同社の長期持続的発展経営の中核となるものが何か明らかにする。 【キーワード】 成功のコア・セオリー、研究開発体制、市場開拓、企業成長マトリックス、日本型経営の長所と短所、上場を目指さない経営	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）
12	市場参入戦略を考える	目指す市場において圧倒的なシェアの上位企業が存在する場合、新規に市場参入するにはどのようなことが留意点となるか。これについて事業的な共通性は欠くが、ロングライフパンのパイオニア企業であるコモとFAセンサー市場で高収益を誇るキーエンスをケースとして取り上げる。 【キーワード】 マーケティング発想、事業コンセプト、市場の切り取り方、ニッチ市場のとらえ方、強みの源泉、「新製品」かソリューションか	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）
13	珍味会社の経営（その1）：ビジネスモデルの形成と進化のプロセス	珍味会社である伍魚福を総合ケースとして取り上げる。本章は、その1であり、伍魚福のビジネスモデルの進化プロセスを振り返る。ビジネスモデルの進化におけるコア・コンピタンスの重要性と経路依存性の問題点を考察する。 【キーワード】 ファブレス企業、ビジネスモデル、「活用(exploitation)」と「探索(exploration)」、アントレプレナーシップ、起業家（企業家）精神、組織学習、経路依存性（path dependence）、組織慣性、組織変革、コア・コンピタンスとコンピテンシー	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）
14	珍味会社の経営（その2）：経営理念と人材成長との関係	本章では、伍魚福の経営理念、ミッション、経営ビジョンとビジネスモデルと人材育成との関連性を取り上げる。特に、経営ビジョンの構築とそれを全社的に共有することの重要性について考察する。 【キーワード】 経営理念、経営ミッション、経営ビジョン、組織文化の3層構造、組織文化と儀礼の関係、従業員の帰属意識、個人学習と組織学習の連動	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）	佐藤　善信（関西学院大学大学院教授）
15	公開情報から企業実態をつかむ	公開情報を基本にして企業実態をつかむ。公開情報からいい会社をつかむ方法を検討する。また、『会社四季報』を例にとり、その情報について経営的観点からの読みとりを行う。 【キーワード】 公開情報、いい会社、経営トップのあり方、事業のあり方、設立、事業構成、海外売上高比率、上場スピード、株主構成、外国人持株比率、従業員の平均年令・年収、業績欄、財務比率欄	小倉　行雄（放送大学客員教授）	小倉　行雄（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639536	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代の内部監査 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Modern Internal Auditing (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：齋藤　正章 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：蟹江　章 （北海道大学大学院教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

営利・非営利を問わず、組織運営の成否を決めるのは内部監査の成否であると言っても過言ではない。本講義では、組織の外にいてはなかなか実感する機会がない内部監査について、その目的や原則を理解し、実際の手続きを検討することによって、内部監査の重要性を理解することを目的とする。また、すでに内部監査に携わっている人には、内部監査についての再整理と新たなる知見を与えるものと期待される。

授業の目標

内部監査は組織におけるインフラ的な存在である。組織運営が順調な時には、改めてそれを意識したり、感謝したりすることはないが、一旦、不祥事等問題が生じたときには、その存在がクローズアップされるのである。しかし、問題が生じてからでは遅いのである。日頃から内部監査に対する意識を高め、それに磨きをかけることが大切である。本講義の目標は、内部監査の意義と役割を踏まえ、様々な組織における内部監査のあり方について理解を深めることにある。

履修上の留意点

本講義は経営や法律、会計、技術といった多面的な要素を含んでいるため、関連科目についても広く学ぶことが重要である。よって、「経営学入門」「ケースで学ぶ現代経営学」「市民社会と法」「現代会計」「NPOマネジメント」といった科目の履修が望まれる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	内部監査の重要性の高まり	営利・非営利を問わず、その組織成員が不祥事を起こしたという事案が後を絶たない。また組織ぐるみのケースもある。その一方で、効率性を高め、羨望の的となる組織も存在する。この違いは組織における内部監査の良しあしにあるといっても過言ではない。ますます高まる内部監査の重要性について解説する。 【キーワード】 内部監査、経営環境の変化、経営者の役割、コーポレートガバナンス	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授） 蟹江　章（北海道大学大学院教授）
2	内部監査の歴史と変遷	監査という業務の基本的な構造および機能を把握し、これに基づいて内部監査の構造と機能を理解する。次に、内部監査人協会および日本内部監査協会が内部監査の普及・発展に果たした役割を振り返りながら、内部監査の展開について理解する。 【キーワード】 ASOBAC、内部監査人協会、日本内部監査協会、内部監査基準	蟹江　章（北海道大学大学院教授）	蟹江　章（北海道大学大学院教授）
3	内部監査と法定監査	わが国で法令によって実施が義務づけられている法定監査の意義や目的を把握するとともに、内部監査が法定監査に対してどのような関わりを持つのかを理解する。 【キーワード】 任意監査、財務諸表監査、会計監査人監査、内部統制監査、会社法監査	蟹江　章（北海道大学大学院教授）	蟹江　章（北海道大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	内部統制と内部監査	わが国の「内部統制基準」に基づいて、内部統制の目的、構成要素、限界などを把握する。その上で、内部統制におけるモニタリング機能の1つである内部監査が、内部統制を有効に機能させるためにどのような役割を果たすのかを理解する。 【キーワード】 COSO報告書、内部統制報告制度、独立的評価、内部統制の限界、3本のディフェンスライン	蟹江　章（北海道大学大学院教授）	蟹江　章（北海道大学大学院教授）
5	内部監査とリスク・マネジメント(1)	組織は様々なリスクに晒されている。組織運営上の様々なリスクについて明らかにし、危機管理の思考とビジネス・リスク・マネジメントについて検討する。 【キーワード】 リスクの定義、リスクの種類、危機管理、リスクマップ、ERM	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
6	内部監査とリスク・マネジメント(2)	組織が直面する不正リスク要因を「不正のトライアングル」モデルで概観した後に、不正会計リスク、コンプライアンスリスク、ITリスクなどに対応するために、内部監査がどのような視点から関与すべきかを理解する。 【キーワード】 不正のトライアングル、不正会計、コンプライアンス、コーポレートガバナンス、ITリスク	蟹江　章（北海道大学大学院教授）	蟹江　章（北海道大学大学院教授）
7	内部監査基準と内部監査の要件	監査基準の一般的な機能を把握した上で、わが国の『内部監査基準』のフレームワークに沿って、内部監査の本質、品質管理、ならびに内部監査部門および内部監査人に求められる要件について理解する。 【キーワード】 アシュアランス業務、内部監査の品質管理、独立性、正当な注意	蟹江　章（北海道大学大学院教授）	蟹江　章（北海道大学大学院教授）
8	内部監査のプロセス(1)	内部監査を実施するための体制整備、監査計画の策定、現地での本調査に先立って実施される予備調査といった監査のプロセスについて理解する。また、リスク・アプローチと呼ばれる監査手法ならびにリスクの評価についても学ぶ。 【キーワード】 内部監査規程、リスク・アプローチ、リスクの評価、監査計画、予備調査	蟹江　章（北海道大学大学院教授）	蟹江　章（北海道大学大学院教授）
9	内部監査のプロセス(2)	内部監査のプロセスの中心である本調査（往査）から、監査結果を形成しこれらを報告する過程、ならびに不備の改善状況を検証するフォローアップについて理解する。内部監査の手続がどのように実施されるかを把握する。 【キーワード】 本調査（往査）、監査手続、監査項目、監査報告、フォローアップ	蟹江　章（北海道大学大学院教授）	蟹江　章（北海道大学大学院教授）
10	内部監査のケーススタディ(1) ～ローカル企業編～	監査対象となる多数の店舗を持つ小売企業の事例を取り上げて、限られた監査資源を効率的に活用して、有効な内部監査を実施するための取り組みについて考察する。 【キーワード】 グループ内部監査体制、監査業務の標準化、監査の効率化、リスク・アプローチ、監査の有効性	蟹江　章（北海道大学大学院教授）	蟹江　章（北海道大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	内部監査のケーススタディ(2) ～グローバル企業編～	グローバル展開する企業の事例を取り上げて、海外子会社などにおける内部監査の方法、留意点、特徴ならびに内部監査部員の国際的能力の養成の仕方などについて考察する。 【キーワード】 特命監査、海外子会社監査、事前準備、確認作業、現地講評会	蟹江　章（北海道大学大学院教授）	蟹江　章（北海道大学大学院教授）
12	中小企業における内部監査	中小企業の内部監査と、大企業の内部監査は基本的な思考は共有しつつも、規模等の違いによって手続面で大きく異なってくる。そこで、中小企業の内部監査はどうあるべきかについて中小企業の内部監査について検討する。 【キーワード】 中小企業、コーポレートガバナンス、会計参与、アカウンタビリティ、利害調整	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
13	非営利組織における内部監査(1)	営利組織同様、非営利組織についても内部監査は重要である。営利組織と非営利組織の内部監査の異同を明らかにしながら、非営利組織のうち国や地方公共団体といった組織における内部監査を紹介する。 【キーワード】 国、地方公共団体、会計検査院	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
14	非営利組織における内部監査(2) －非営利法人における内部監査－	前回の議論を受けて、NPO法人、学校法人、独立行政法人といった民間の非営利組織の内部監査について検討する。 【キーワード】 NPO法人、学校法人、独立行政法人	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
15	内部監査の将来像	組織を取り巻く環境が大きく変化する中で、内部監査には今後どのような役割が期待されるのか、そしてその役割を果たすために、内部監査人または内部監査部門に何が求められるのかについて考察する。 【キーワード】 二重管理機能、会計監査、継続的モニタリング、リスク・アプローチ、コーポレートガバナンス	蟹江　章（北海道大学大学院教授）	齋藤　正章（放送大学准教授） 蟹江　章（北海道大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639528	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ NPOマネジメント （’１７）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 NPO Management (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：河合　明宣　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：大橋　正明　（聖心女子大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

1998年NPO法施行後、2006年公益法人制度、2011年改訂NPO法、2012年新たな認定NPO制度が導入された。制度改革に組織と財務の改革で対応し、安定して活動を継続するNPOがみられる。非営利組織の法人格は多様化し、他方で法人化せず様々な形でのボランティア組織も増加している。改訂NPO法や新しい税制などを説明し、「NPOマネジメント('11)」で扱った事例の変化への対応、活動の継続性を説明する。また、海外で活動するNGO(CSO)の新しい動向や課題、身近な地域で展開する大学の地域貢献活動などにも注目し、非営利、非政府、公益を目指す社会貢献活動への幅広い関心に答えられるように改訂する。

授業の目標

地域や社会に関わり営利目的でない活動を始めようとする際の基本的知識を提供する。NPO法人を中心にわが国の非営利活動団体の概略を述べ、活動経験を積んだ事例を紹介する。国際協力NGOの事例も含め、わが国の非営利活動の歴史的概略を学ぶ。また、営利企業との比較において、NPOの組織と財務の特色を理解する。NPO法が規定する非営利活動が、企業や行政が解決し難い社会問題解決に果たす役割を理解し、社会的企業論との関連を考える。

履修上の留意点

「NPOマネジメント('07)」及び「NPOマネジメント('11)」の単位修得者は履修不可。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	NPO（非営利組織とは）	NPO法人を含め公益目的で非営利活動を行っている団体（組織）全体のなかでのNPO法人の役割を説明する。1998年NPO法施行後約20年間にわたり経験を蓄積し事業を継続するNPO法人を事例にして、各々の活動、組織運営や財務の改善を整理する。そしてNPOを取り巻く制度と私たちの生活の変化を考える。 【キーワード】 NPOの社会学、ボランティア、福祉NPO	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
2	NPO法とNPO法人	会社法と比較して、非営利活動を規定したNPO法の特色を説明する。また企業と比較したNPO事業体の制度、組織面の特色を述べる。 【キーワード】 特定非営利活動法人、社員、役員、認定NPO法人	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
3	NPO(非営利組織)のアカウンタビリティ	公益法人改革、改訂NPO法とにより、非営利活動法人の税制が変化した。この改訂の概略を説明し、非営利活動団体にどのようなインセンティブを与えたか考察する。 【キーワード】 アカウンタビリティ、情報公開、市民への説明、経理的基礎、会計基準	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	事業型NPOと社会的企業	NPOや他の公益・非営利活動組織にとって、資金確保は容易ではない。事業による収益を用いて社会的問題の解決を目的とする組織が社会的企業として注目されている。また、地域おこしの組織が住民出資会社形態で事業展開するケースも見られる。こうした動向を任意団体も含め法人格に注目して紹介する。 【キーワード】 事業型NPO、社会的企業、ソーシャルビジネス、市民ファンド	大橋　正明（聖心女子大学教授）	大橋　正明（聖心女子大学教授）
5	協同組合と中間支援組織	生活協同組合は、非営利で非公益（共益）活動を行う。この非営利活動の内容と地域における役割を考える。また、中間支援組織はNPO法の活動領域の「団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動」を行う。身近なNPOセンターや全国的ネットワークのNPOサポートセンターや国際協力NGOセンターの役割を概観する。 【キーワード】 生活協同組合、共益、中間支援組織、都道府県窓口	河合　明宣（放送大学教授） 大橋　正明（聖心女子大学教授）	河合　明宣（放送大学教授） 大橋　正明（聖心女子大学教授）
6	行政連携型：NPO環境ネットワーク埼玉	社会福祉協議会など制度内存在である民間非営利組織の歴史は長い。この歴史を概観する。地球温暖化防止活動推進センターなどは、中央政府が法的枠組みを整備してNPO法人設立を奨励した事例である。「環境ネットワーク埼玉」は、こうした背景で誕生した。組織と財務を中心に活動を概説し、理事会メンバーの非営利活動歴から地域貢献の在り方を考える。 【キーワード】 地球環境サミット、地域社会と生物多様性保全、NPO・企業・大学・自治体連携	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
7	保健・医療・福祉の増進：NPOさやけき	1998年NPO法施行と2000年社会福祉事業法改正は、新しい福祉NPO誕生を支える制度的枠組みとなった。政府の社会福祉事業は、民間企業、地方自治体、社会福祉協議会、NPOなど多様な組織に担われている。NPOの具体的事例を通して、福祉NPOの役割と課題を考える。 【キーワード】 2000年社会福祉事業法改正、介護保険制度、地域社会における福祉NPO	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
8	地域づくり：東葛飾市民後見人の会	「まちづくり」の内容が変化している。人口減や高齢化、核家族化などで、まちに元気がなく、地縁的コミュニティも衰退している。認知症高齢者の増加などにより後見人制度が注目され、「市民が市民を支える社会」づくりを目指して市民後見人の会が誕生している。具体的事例を通して暮らしやすいまちづくりの課題を探る。 【キーワード】 まちづくり、青年後見、市民後見人、プラットフォーム	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
9	公益法人改革と公益社団法人：日本山岳会	社団法人として自然環境保護などの活動を始め、公益法人改革後は、新入会員の増加、公益事業の拡充に力を入れている。社団法人としての公益活動の特色を組織と財務の点で把握する。 【キーワード】 公益社団法人、日本山岳会、公益目的事業、自然保護	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	公益財団法人：日本自然保護協会	1949年尾瀬の自然を守る団体として誕生し、財団法人化し日本各地での自然保護活動を継続する。公益法人化後には、自然保護を中心にした地域づくりやアドボカシー活動を展開する。財団法人としての公益活動の特色を組織と財務の点で見る。また、地域づくり事業として利根川源流国有林野での赤谷プロジェクトを紹介する。 【キーワード】 公益財団法人、自然保護、尾瀬保護運動、オーバーユース、赤谷プロジェクト	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
11	環境の保全と社会技術：NPO地域水道支援センター	高度経済成長期の国家の水道事業は、専門技術に支えられた「急速ろ過」や浸透膜の全国普及であった。今日、住民主体で維持管理が可能な適正技術である「緩速ろ過」が地域住民と地方行政双方から求められている。設計・維持管理のノウハウを持ち、受託事業により財務を安定させている事例を通して、社会技術の意義を考える。 【キーワード】 緩速ろ過、水系の思想、社会技術、市民環境科学	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
12	ボランティア・グループ、市民(住民)活動団体	第6章から第11章までは、法人組織形態の非営利な社会貢献活動を見てきた。改訂NPO法や公益法人改革で法人化手続きは簡便になり、身近な存在になっている。一方、法人化せず活動を続ける団体も存在する。トキ保護団体を取り上げ、他の団体と連携しながら当初の目標に近づいている活動の展開を紹介する。任意団体の活動の特色を考える。 【キーワード】 ボランティア、新穂トキ愛護会、佐渡トキの田んぼを守る会、トキの生活史	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
13	国際協力NGO：シャプラニール	1960年代に国際協力NGOの活動が始まった。初期のNGOの事例から、組織・財務改革を通して対象地域、事業範囲を広げ、活動を継続するシャプラニールの事例である。海外での活動の特色、活動資金の多様化、組織運営の経験などを学ぶ。 【キーワード】 開発、貧困、エンパワーメント、フェアトレード、パートナーシップ	大橋　正明（聖心女子大学教授）	大橋　正明（聖心女子大学教授）
14	非営利組織による国際協力の意義	国際協力の分野でも政府や企業の他に非営利活動組織の活動が広がり、不可欠な存在になっている。その理由を国際協力NGOの歴史を概観する中で探る。グローバル化が進行する中で、国際協力NGOの期待される活動分野を探る。 【キーワード】 アドボカシー（政策提言）、SDGs(持続可能な開発目標)、ODA（政府開発援助）、NGO、CSO	大橋　正明（聖心女子大学教授）	大橋　正明（聖心女子大学教授）
15	非営利組織の課題と展望	組織と財務を中心として複数のNPOと国際協力NGOを事例として見てきた。長期に活動を続けている団体の組織や財務における共通点をまとめる。また各事例が直面する課題にも共通点がある。NPOの活動が、国家の行政、企業、自治体と私たちとの関係をどのように変えているのか。またそのことの意味についても考える。 【キーワード】 市民社会、市民社会組織(CSO)、地域社会、コミュニティ、非営利組織の課題	河合　明宣（放送大学教授） 大橋　正明（聖心女子大学教授）	河合　明宣（放送大学教授） 大橋　正明（聖心女子大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639340	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 大学マネジメント論 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 University Management (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：山本 眞一 （桜美林大学大学院教授） 〕

〔主任講師（現職名）：田中 義郎 （桜美林大学大学院教授） 〕

【本学担当専任教員：坂井 素思 （放送大学教授） 】

講義概要

近年、経済・社会・文化の変化の中で、大学問題に対する社会的関心が高まりつつある。また、大学関係者においては、迫り来る大学経営危機にいかに対処すべきか、知識基盤社会の中の大学はいかにあるべきか、大学運営において役員、教員、職員はどのように関わるべきか、など大学マネジメントに関する多くの課題を抱えている。このような状況を踏まえ、この講義では、大学というシステムの特質を捉えるとともに、大学マネジメントの知識や考え方を、大学事務職員を始め幅広い関係者に身に着けさせることを目的とする。

授業の目標

受講者が、大学問題に関心のあるすべての人々に加え、現職の大学職員あるいは役員や管理職にある教員であることが多いとの前提の下、従来の大学論を超えて、できる限り実践的かつ実際的な教育内容を提供するよう努める。このことにより、受講者に広く大学マネジメントに関する知識を提供するとともに、彼らが現実に直面している経営・管理・運営上の諸課題を適切に解決するための、幅広い実践力を身に着けさせるようにする。

履修上の留意点

この科目は、大学マネジメントに関する知識と実践力を身に着けさせることを目標としているが、そのためには高等教育に関する知識や社会の動きを分析する能力を幅広く身に着けることが重要である。この科目の履修と前後して、高等教育に関する科目および受講者が適宜選択する関連科目を履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	大学と私たち	進学率の上昇に伴い、大学はわれわれ国民にとって身近な教育機関となってきた。受験勉強、学生生活、就職活動などを通じて、大学というものを考える機会が増える一方、わが国では、18歳人口の減少や国際化、知識基盤社会の到来などの社会変化の中で、大学を巡る諸環境は大きく変化してきている。これらが大学に及ぼす影響をさまざまな角度から考える。 【キーワード】 18歳人口減少、国際化、外国大学との競争、知識基盤社会、大学教育の大衆化、科学技術、競争的環境の進展、国立大学の法人化	山本 眞一（桜美林大学大学院教授）	山本 眞一（桜美林大学大学院教授）
2	大学とは何か	この章では、まず、日本の大学の性格を、日本の古代から近世までつづいた伝統と、近代化以降に手本をされた欧米のユニバーシティの本質の把握を通じて、理解する。次に、日本の法制度における大学の概念について吟味し、国際的な視野のもとで、それが抱えている課題を認識する。 【キーワード】 大学、ユニバーシティ、大学寮、律令制、國士監、ギルド、学位、自治、学校教育法、教育基本法、大学院、短期大学、高等教育、中等後教育、第三段階教育	舘 昭（桜美林大学大学院教授）	舘 昭（桜美林大学大学院教授）
3	大学と政府	ここでは、日本の大学の設置形態と設置認可の在り様を概観した上で、私立大学の現状について、法制度的、統計数値的に考察し、私立本来の自主性から生まれる個性的な展開のパイオニアという側面と、国公立に対する補助的位置づけからくる変化に対するバッファーという側面という2面性を明らかにし、今後の課題を検討することによって、大学と政府との関係への理解を深める。 【キーワード】 国立大学、公立大学、私立大学、設置認可、私立学校法、私立学校振興助成法、構造改革特別区域法、宗教教育	舘 昭（桜美林大学大学院教授）	舘 昭（桜美林大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	大学経営を支える人材	近年、大学経営を支える事務職員の役割に関心が高まっている。これまでのアンケート調査等から見た彼らの現状を紹介するとともに、関心が高い「教職協働」のあり方やこれに関連して役員・教員の役割にも触れつつ、大学を経営する人材の養成のあり方を考える。 【キーワード】 事務職員、大学の意思決定、教授会、大学経営、職員の役割、職員の能力開発、学長のリーダーシップ、国立大学の法人化	山本　眞一（桜美林大学大学院教授）	山本　眞一（桜美林大学大学院教授）
5	外国の大学マネジメント	大学のマネジメントをより効果的にするには、外国の大学事例にヒントを求めることも意味がある。ここではアメリカ大学のマネジメント事例を取り上げ、組織化、意思決定、管理運営の方策など大学経営の諸側面について論じる。また、必要に応じてヨーロッパの現状にも触れる。 【キーワード】 CEO学長、エグゼクティブズ、理事会、職務記述書、大学経営、大学組織、多様性、競争的環境、アドミニストレーター、ファンドレイジング、大学の大道具	田中　義郎（桜美林大学大学院教授）	田中　義郎（桜美林大学大学院教授）
6	大学広報・学生募集戦略	競争的環境が進む中で、大学経営にとって重要なことは、大学の認知度を高め、優秀で意欲ある学生を多数集めることである。ここでは、1980年代にアメリカの大学で広まったマーケティングとエンロールメント・マネジメントの手法の導入とその後、そして今日的課題について、我が国の大学事情に照らして論じる。 【キーワード】 学生募集、大学広報、戦略的思考、個性的大学、競争的環境、多様性、優秀性、大学教育のユニバーサル化、マーケティング、エンロールメント・マネジメント、大学のブランディング	田中　義郎（桜美林大学大学院教授）	田中　義郎（桜美林大学大学院教授）
7	国公立大学の人事・労務・財務	大学の教職員に関する人事・労務管理や、施設・財産・資金に関する財務管理は、大学マネジメントの基盤として押さえておかなければならない事項である。国公立大学の人事・労務・財務については、法人化を契機に、各大学の主体的判断や効率的実施が求められるように大きく変容した。これらに関する制度の枠組みや実際の運用を解説する。 【キーワード】 国公立大学の法人化、弾力的な人事システム、人件費の削減、教職員の業績評価、運営費交付金、外部資金の獲得、戦略的な予算配分、財務指標	工藤　敏夫（元木更津工業高等専門学校長）	工藤　敏夫（元木更津工業高等専門学校長）
8	私立大学の人事・労務・財務	私立大学について、その経営にとって欠かせない人事・労務・財務の知識とその運用の実際を、専門的・実務的立場から眺め、実務者として必要な知識やノウハウについて、戦略的観点から教授する。 【キーワード】 ポジション制度、業務管理、法適合組合、職員人事、労使協調、目的別予算編成、財務比率、人件費比率、学生生徒納付金比率、経営診断	井原　徹（学校法人実践女子学園理事長）	井原　徹（学校法人実践女子学園理事長）
9	大学の教務・学生サービス	近年の大学教育を巡る環境変化の中で、大学教育の質的向上や学生支援の充実がますます重要性を増している。ここでは、大学経営の根幹である教務および学生サービス・プロフェッションについて、その現状と今後のあり方を論じる。 【キーワード】 教育活動支援、アカウンタビリティー、成績管理、履修管理、カリキュラム管理、研究活動支援、学修指導、学生生活支援、職務記述書、大学の小道具、教育者マインド、大学教育のユニバーサル化、プロフェッショナル化	田中　義郎（桜美林大学大学院教授）	田中　義郎（桜美林大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	大学の研究管理	科学技術の振興が重要な国家戦略となる中、大学における研究活動の役割に注目が集まるようになってきた。産業界との連携、知財関係なども含めて、効率的な研究管理のあり方について実態を踏まえて考える。 【キーワード】 研究資金、大学院、研究室運営、インキュベータ、知財法制、研究マネジメント、産業界との連携、イノベーション	山本　眞一 （桜美林大学大学院教授）	山本　眞一 （桜美林大学大学院教授）
11	評価と大学マネジメント	本章では、多様な評価の中にあって、国、公、私立の別なく、すべての機関が対象になり、かつ、各機関が法的に存続していく上で必須のものとして制度化された認証評価について、原点にもどって、その意義と実施上の課題について検討し、合わせて、その評価が機能するベースともなる大学マネジメントの課題について考察する。 【キーワード】 認証評価、認証評価機関、設置認可、質保証、適格認定、大学マネジメント	舘　昭 （桜美林大学大学院教授）	舘　昭 （桜美林大学大学院教授）
12	大学の危機管理	大学マネジメントにとって危機管理のノウハウは必要不可欠である。各種の不祥事、教育・研究上の事件・事故、また長期的には財務上の問題など、大学経営を脅かす各種の要因を如何に軽減し、解決するかについて論じる。 【キーワード】 理事長・学長のリーダーシップ、迅速な意思決定、管理運営組織、広報、危機管理のノウハウ、問題認識	山本　眞一 （桜美林大学大学院教授）	山本　眞一 （桜美林大学大学院教授）
13	大学の社会貢献	大学には、教育、研究と並んで社会貢献という大きな機能がある。しかしその実態は複雑であり、これを総括的に捉えることは、大学経営に欠かせない。ここでは、いわゆる地域貢献や産業界との共同を含め、さまざまな側面から大学の社会的貢献について論じる。 【キーワード】 大学と社会、産業界との共同、地域社会、社会人学生、生涯学習	山本　眞一 （桜美林大学大学院教授）	山本　眞一 （桜美林大学大学院教授）
14	近年の大学改革	政府財政の緊縮、経済のグローバル化、18歳人口の減少など大学をめぐる環境の変化の中で、政府はさまざまな改革政策を打ち出し、また大学はこれを大学発展戦略に結び付けつつ、積極的に対応することが求められている。1990年代以降に生じた主な大学改革政策を概観し、その意味するところを解き明かす。 【キーワード】 18歳人口の減少、法人化、大学教育のユニバーサル化、全入時代、教育接続、教育プログラム、GPグッドプラクティス、リーダーシップ、競争的環境、個性が輝く大学、教育改革	山本　眞一 （桜美林大学大学院教授）	山本　眞一 （桜美林大学大学院教授）
15	21世紀知識社会と大学のマネジメント	これからの知識社会において大学は、知識の生産（研究）・伝達（教育）・活用（社会貢献）において大きな役割が期待されている。経営環境の変化の中で先行き不透明な側面があるが、これらの側面を克服しつつ役割を果たすべき大学の将来とそのマネジメントについて論じる。 【キーワード】 知識社会、生涯学習、雇用環境、科学技術、グローバル社会	山本　眞一 （桜美林大学大学院教授）	山本　眞一 （桜美林大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639331	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ アグリビジネスと日本農業 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Agribusiness and Agriculture in Japan (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：河合 明宣 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：堀内 久太郎 （放送大学客員教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

食料は、多くの産業によって供給されている。今日、社会的分業が高度に進み、食料供給に関わる産業の種類、分野が著しく拡大した。農業生産の過程も細分化され、分業・協業や専門化が進んだ。産業全体でも、多数の産業間の相互関連性を重視するアグリビジネス(農業関連産業)が形成されるようになってきた。一方、農林水産業は、自然生態系の中で動物や植物と共存し、その生態系の維持・存続に努力することが求められる。農業や農村は、精神的、教育的、福祉的、文化的な価値を人々に与えるかけがえのない機能を有する。これらの根幹的な役割を積極的に維持し、高揚することも重要である。

授業の目標

農業のグローバル化が進む中で、変化の目覚しい日本の農業経営及び関連産業である食品製造業、外食産業の現状を理解する。グローバル化した競争的環境下で産業としての農業発展の観点及び地球環境問題や人口増加と信頼できる食料の供給確保という観点から、日本農業の現状と課題を把握する。合わせて、人口爆発と言われる人口増加の中で世界で最も高齢化した日本における農業担い手の考察から、稲作を中心とするアジアの農業を理解する糸口も探りたい。

履修上の留意点

「グローバル化と日本のものづくり(’15)」等のグローバル化が進む今日の日本の産業を考察する科目の履修と「環境と社会(’15)」等の人間と自然という観点から地球環境問題の把握の参考になる科目の履修が望まれる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	豊かな食生活を持続させるために	「アグリビジネス」を科目名に含む4回目の改訂。日本農業における「農業経営」(学)を基本にする流れの中で、今回の「アグリビジネス」の意味内容、(「日本」農業)の説明。全体構成を紹介する。 【キーワード】 アグリビジネス、日本農業、農業経営、産業および国土の均衡発展	河合 明宣(放送大学教授) 堀内 久太郎(放送大学客員教授)	河合 明宣(放送大学教授) 堀内 久太郎(放送大学客員教授)
2	日本農業の家族経営(農家)	家族経営の歴史的意義、その経営的特色、農業経営の多様化や新しい農業経営の出現を踏まえ今後の課題を述べる。 【キーワード】 家族経営(農家)、太閤検地、経営と家族の結合体、農家の再生産過程、家族協定農業	堀内 久太郎(放送大学客員教授)	堀内 久太郎(放送大学客員教授)
3	職業として魅力ある法人経営	2章と関連させて、家族経営から法人経営への流れとその意義、魅力ある2、3の事例の説明。 【キーワード】 マネジメント、経営理念、経営者の条件、経営者の役割、日本農業賞・天皇賞	堀内 久太郎(放送大学客員教授)	堀内 久太郎(放送大学客員教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	農業経営の多角化と経営戦略	農業経営の多角化・6次産業化の理論とその事例を説明する。価値連鎖と価値システムや農業経営の戦略を述べる。 【キーワード】 価値連鎖、バリュー・チェーン、価値システム、競争優位の戦略、6次産業化	堀内　久太郎（放送大学客員教授）	堀内　久太郎（放送大学客員教授）
5	農業経営の異業種間連携	農業経営の異業種との連携に関して、食料産業クラスター論や農商工連携論を説明する。食料産業クラスターの具体的事例を紹介する。 【キーワード】 多角化（統合）、連携（連結・提携）、農商工連携、産学官連携、食料産業クラスター	堀内　久太郎（放送大学客員教授）	堀内　久太郎（放送大学客員教授）
6	農業と資材産業	種苗、肥料、農薬、農業機械、施設などの土地と労働以外で農業生産に関わる資材産業がある。資材産業の概要を種苗を中心に述べる。 【キーワード】 栽培植物と伝統的育種、「緑の革命」、遺伝子組み換え、バイオメジャー、モンサントレデー	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
7	食品製造業の展開と農業	加工食品、調理済み食品、飲料品などの食品は今日の食生活を支える重要なアイテムである。これらを製造する食品製造業とはどのような産業だろうか。本章では業種の構成と関連、部門ごとの成長率などを学び、さらに現代の食品製造業が抱える課題についても考える。 【キーワード】 産業の二重構造、原材料調達	新山　陽子（京都大学大学院教授） 清原　昭子（福山市立大学准教授）	清原　昭子（福山市立大学准教授）
8	外食産業と食生活	外食産業は今日の食生活に欠かせない産業である。また、「中食」もわれわれの食生活に欠かせないアイテムになりつつある。本章では、外食産業の構造と成長、「中食」産業の成長を部門別に学ぶ。さらに、外食、中食それぞれの社会的役割について学び、今後の食生活への貢献について考える。 【キーワード】 外食産業、中食、食材調達、外食の役割	清原　昭子（福山市立大学准教授）	清原　昭子（福山市立大学准教授）
9	食品の安全、信頼とフードシステム	アグリビジネスの発展により、農業から、食品製造業、小売業、外食産業にいたる高度なフードシステムを築いたが、食品中の病原微生物や化学物質などによる健康への悪影響の防止が社会的課題になっている。ここでは、食品安全確保のために欠かせない食品由来リスク、リスクアナリシスの考え方について学び、食品事業者や政府、消費者の役割について考える。 【キーワード】 リスクアナリシス、HACCP、トレーサビリティ	新山　陽子（京都大学大学院教授）	新山　陽子（京都大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	生産と消費を結ぶ流通	生産と消費を結ぶ流通の役割を明らかにした上で、農産物流通システムを4類型（原基型、小売業者主導型、卸売業者介在型、大口需要型）に区分し、それらの内容を具体的に説明する。 【キーワード】 へだたり、商的流通、物的流通、農産物流通、流通システム	藤島　廣二（東京聖栄大学客員教授）	藤島　廣二（東京聖栄大学客員教授）
11	農産物流通の変化と農業への影響	農産物流通のこれまでの変化（流通の広域化・グローバル化、業務用需要者向け供給比率の上昇、等）を明らかにし、それが国内農業に及ぼした主な影響（食料自給率の低迷、農産物価格の低位収斂化）を説明する。 【キーワード】 農産物輸入、スーパー・マーケット、加工食品、高齢化、価格の低位収斂化	藤島　廣二（東京聖栄大学客員教授）	藤島　廣二（東京聖栄大学客員教授）
12	日本の食料自給	食料自給をどう考えるか。国内における生産が食品製造業及び外食産業の展開を受けどう対応しているか。国際市場（グローバル化）の動向にもふれる。 【キーワード】 食料自給率の指標、食料自給率の計算方法、自由貿易交渉、GATT・WTO、TPP	堀内　久太郎（放送大学客員教授）	堀内　久太郎（放送大学客員教授）
13	農業の多面的機能ー生物多様性を中心にー	二次的自然（里地、里山、里海など）における生物多様性とは何か、またその保全の現状を説明する。「水源林の保全」、世界農業遺産（GIAH）、自然農法・有機農業等による生物多様性保全が産業と国土の均衡的発展とどう関連するか考察する。 【キーワード】 二次的自然、生態系の多様性、EUの農業環境政策	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
14	都市と農村の交流	農業多角化（6次産業化）の中で生産―製造―流通・外食を捉えた。それを前提に、ここでは消費者や地域生活者の立場からの農村空間の意味を捉える。様々な形態の都市農村交流を事例を挙げて説明する。 【キーワード】 都市問題、農業・農村問題、限界集落、都市と農村の交流、グリーン・ツーリズム	堀内　久太郎（放送大学客員教授）	堀内　久太郎（放送大学客員教授）
15	国際化の中での日本農業の将来像	産業としての農業、信頼のおける食料の確保、生物多様性と共存する農村環境が、グローバルな国際状況下においてどうあるべきかについて考える。 【キーワード】 世界の人口・食料問題、地球環境問題、「食」と「農」をめぐる国家理念、宇宙船・地球号の視点、小欲知足	河合　明宣（放送大学教授） 堀内　久太郎（放送大学客員教授）	河合　明宣（放送大学教授） 堀内　久太郎（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639390	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ グローバル化と日本のものづくり （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Globalization and Japanese Manufacturing (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：藤本 隆宏 （東京大学大学院教授） 〕

〔主任講師（現職名）：新宅 純二郎 （東京大学大学院教授） 〕

【本学担当専任教員：河合 明宣 （放送大学教授） 】

講義概要

国際的な市場競争の激化のなかで、日本の「ものづくり」が岐路に立っている、といわれている。しかし構想、研究・開発からはじまり、「もの」が実際につくりこまれてゆくプロセスは意外と知られていない。
この授業では、中小企業から大企業までの、技術や経営の実際を概観しながら「ものづくり」の全体像をスケッチしつつ、日本(企業)の強さと弱さや、国際的な競争と協調の内実を明らかにする。
その作業はアメリカとの貿易摩擦から現地への工場進出の歴史の点検であったり、東アジアを中心とする途上国との国際分業の進展の分析であったりする。
またそのことは「ものづくり」を媒介として、世界の諸国とともに歩む日本の「優位性」や「課題」を浮き彫りにすることでもある。

授業の目標

大切なことは事実を知ることである。製造業に関する毀誉褒貶を排し、日本経済を支える「ものづくり」の過去と現在を、グローバル化を軸につぶさに点検しながら、私たちの社会の「今」を等身大で理解する。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	グローバル化と日本のものづくり	グローバル化、という言葉が近年になってからことさら強調されるようになったのは、旧ソ連を中心とした社会主義が崩壊し、ヒト、モノ、カネ、そして情報が一挙に国境を超えるようになったからである。特に「もの」や「サービス」の流通が、お互いの国の経済や暮らしに大きな影響を与えるようになってきた。とりわけ「ものづくりの国」といわれる日本は、海外への直接投資を拡大している。この章では主に「ものづくり」の意味と、技術の歴史を点検する。 【キーワード】 グローバル化、比較優位、ものづくり現場	藤本 隆宏（東京大学大学院教授）	藤本 隆宏（東京大学大学院教授）
2	「ものづくり」とは何か	①機械・電気・材料・化学といった「工学」はそれぞれの固有技術を支えるが、それぞれの技術を動員して束ね、人工物(もの・製品)をつくり、消費者(お客)に届けるプロセスの総体が「ものづくり」である。 ②国際的な日本の立ち位置をふまえ、ものづくり経営論の意義を考える。 【キーワード】 ものづくり、設計情報、媒体、組織能力、競争力	藤本 隆宏（東京大学大学院教授）	藤本 隆宏（東京大学大学院教授）
3	統合型ものづくり組織能力 ートヨタ・システムの例ー	トヨタ生産方式を例にとり、情報の転写やプロセスフロー、組織能力の構築やシステム全体の進化などの諸観点から日本のものづくりの1つの特徴を示す。 【キーワード】 多能工、ジャストインタイム、自働化、改善、正味作業時間	藤本 隆宏（東京大学大学院教授）	藤本 隆宏（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	設計構想としてのアーキテクチャ	①製品の設計思想、アーキテクチャ論はものづくり経営論の骨格をなす理論である。インテグラル(擦りあわせ)型とモジュラー(組み合わせ)型はどう違うか、アーキテクチャ論の視点からの説明。 ②クルマ、家電、パソコンなど、製品によって「つくり方」は異なる。日本が得意なものと下手なもの。製造業の中の強い業種と弱い業種などの説明。 【キーワード】 インテグラル、モジュラー、つくりこみ、アーキテクチャの位置取り、アーキテクチャの地政学	藤本 隆宏(東京大学大学院教授)	藤本 隆宏(東京大学大学院教授)
5	日本製造業の競争力の変遷	戦後、日本の製造業は輸出で発展してきたが、輸出産業は繊維から鉄鋼、電機、半導体へと変遷してきた。急激な輸出増は日米貿易摩擦や急速な円高を招いた。日本企業はその環境変化に合理化等で対応するとともに、既存産業に新規の技術を取り込む脱成熟を実施することで競争力を強化していったプロセスを概説する。 【キーワード】 貿易摩擦、脱成熟、比較優位、プロダクト・ライフサイクル仮説	新宅 純二郎(東京大学大学院教授)	新宅 純二郎(東京大学大学院教授)
6	日本製造業の苦境と海外生産の展開	1980年代半ばに絶頂期を迎えた日本の製造業に対して、海外でも日本的経営が着目されるようになった。しかし、1980年代後半以降の円高と90年代のバブル崩壊で日本企業は大きな苦境に立たされた。その中で、国際競争力を失っていく産業も出てくると同時に、この時期に急速に進んだのが海外生産の拡大とその影響について説明する。 【キーワード】 顕示比較優位、日本的経営、海外生産、生産性	新宅 純二郎(東京大学大学院教授)	新宅 純二郎(東京大学大学院教授)
7	「ものづくり」の基盤と中小企業の技術	たくさんの「素材」や「技術」がかかわってものはつくられている。トヨタやホンダといった完成品のメーカーの周辺には、一次協力、二次協力と、さまざまな専門技術をもった中小のメーカーが存在する。この章では「相談」しながらものをつくる日本の特徴を明らかにしつつ、中小企業の役割の意味や、ソフトとハードの関係、そしてものづくりにまつわる多くの誤解をただす。 【キーワード】 協力メーカー、関係的技能と承認図、中小企業基本法の旧法と新法の違い、競争力	藤本 隆宏(東京大学大学院教授)	藤本 隆宏(東京大学大学院教授) ゲスト:中沢 孝夫(福井県立大学特任教授)
8	中小企業の海外進出とその特徴	中小企業の海外展開は大企業よりも少しおそい。まず完成品のメーカーが進出し、次に協力メーカーがいく。「もの」は消費地に近いところで作った方がよいので、途上国の経済発展とともに、海外への直接投資(工場をつくったりする)もまた増大する。本章では中小企業の移転の理由やそのことによる国内への影響の積極的な意味を通して明らかにする。それは必ずしも空洞化ではない。 【キーワード】 海外投資件数の推移、現地仕様、工場が減る意味	新宅 純二郎(東京大学大学院教授)	新宅 純二郎(東京大学大学院教授) ゲスト:中沢 孝夫(福井県立大学特任教授)
9	オープンシステムとしての工場:オペレーションの安定と進化	工場は外部からのインプットによってオペレーションを実施する「オープンシステム」である。インプットはバラツキがあり、それは工場立地が多極化するとともに、多様であり、また拡大する。オープンシステムである以上、工場は問題が発生するのが常である。そうした中で、日系企業が海外展開の中でオペレーションの安定と高度化を同時実現する上での論点を論じていきたい。 【キーワード】 オープンシステム、改善、現場進化	善本 哲夫(立命館大学教授)	善本 哲夫(立命館大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	グローバル生産体制における海外シニア工場	量産経験の未熟な新設工場と、日本工場ではオペレーションの実態が大きく違い、両者での技術移転がうまくいかない場合がある。海外の主力量産拠点の現場育成に努めてきた日系企業は、その現場を新設工場に対する技術移転する主体として活用する。アジア域内の海外工場が、単なる低賃金利用や量産機能のみならず、グローバル生産体制構築に欠かせない存在になってきている姿を議論したい。 【キーワード】 海外シニア工場、技術移転、知識移転	善本　哲夫（立命館大学教授）	善本　哲夫（立命館大学教授）
11	既存工場の能力再評価とグローバル生産体制	オペレーション経験が豊富な海外工場であっても、グローバル生産体制の再編や見直しの中で閉鎖される場合がある。単純には人件費の高騰が理由となる。しかしながら、海外の優良現場を能力によって評価し、そのポテンシャルを有効活用する日系企業が存在する。「すでに役割を終えたかにみえる海外工場」から新たな生産サービスを引き出すことで、グローバル生産体制を支える存在へと変換したケースを検討する。 【キーワード】 狭間製品、ポテンシャルの束、成長型投資	善本　哲夫（立命館大学教授）	善本　哲夫（立命館大学教授）
12	東アジアの国際分業の動向と日本企業のものづくり	①直接投資を受け入れた東アジア諸国は急速に経済成長。20年間のアジアを中心とする国際分業の構図を整理。②アジアとの国際分業を前提にものづくりのあり方を見直す必要性。その際、アーキテクチャ論をふまえ日本に何を残し、何を外へ出すべきか、ものづくりの比較優位論をベースに国際分業論を展開する。 【キーワード】 国際分業、産業財貿易、アジア、アーキテクチャ、生産ネットワーク	新宅　純二郎（東京大学大学院教授）	新宅　純二郎（東京大学大学院教授）
13	新興国市場戦略とものづくり	①製造業ベースで、中国、東南アジア、インドなどが大きく経済発展し、1人当たりGDPも伸びた。地域間格差は存在するが、貧困層比率が減少し、都市部は成長力ある市場へ。②サービス業進出、生産拠点だけでなく市場でもある新興国市場での製販一体化したものづくりの定着を論じる。③各国多国籍企業との競争になるが、日本の優位性はどこかを探る。 【キーワード】 新興国市場、イノベータのジレンマ、製品戦略、ボリュームゾーン	新宅　純二郎（東京大学大学院教授）	新宅　純二郎（東京大学大学院教授）
14	新時代の技術経営とものづくり	①現代の競争は複雑化してきており、知的財産をどう扱うか、世界的な標準化戦略をどう構築していくのかということが、ものづくりの存続においても、クリティカルな要素となってきている。②日本企業のこれまでのものづくり経営は、そうした観点からどう評価されるのか、また今後環境や新技術が到来するなかでどのような課題を抱えているかを述べる。 【キーワード】 イノベーション、コンセンサス標準、モジュラー化	新宅　純二郎（東京大学大学院教授）	新宅　純二郎（東京大学大学院教授）
15	日本のものづくりの今後の展望と課題	①グローバル化と日本の産業、②擦りあわせ優位論の可能性と注意点、③産業の垣根を越える「開かれたものづくり」、④実践的な含意―「良い現場」を日本に残そう 【キーワード】 グローバル戦略、良い現場、設計の比較優位説、ものづくりインストラクター	藤本　隆宏（東京大学大学院教授）	藤本　隆宏（東京大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639510	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ アジア産業論 （’１７）＝ (R)

－経済の高度化と統合－

英文名 ＝ 〔 Industrial Policies in Asia (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：河合　明宣　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：朽木　昭文　（日本大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

アジアに関して、高齢化する中で、中所得のわなから脱するために産業構造の高度化などを迫られている。国民経済計算における産業統計を利用し、企業活動を左右する産業政策を分析する。一方で、日本も中期的な成長戦略を模索している。こうした状況下で、産業連関分析により、アジアの自動車、電気電子、そして農・食品産業のクラスターの現状を紹介する。また、アジア地域統合に向けて流通、文化などの重要性が指摘される。特に、アジア諸国における企業活動の従事者やアジア諸国との貿易・投資に関心を持つ現場で働く職業人、またアジアで今後に飛躍を期待される人材の履修が期待される。

授業の目標

産業を捉える際に、経済学における基礎的な国民経済計算や産業連関表を理解する。これを基に、グローバル化が急速に進む中で、自ら従事する企業や生活するアジア地域のあり方を考える。また、わが国の産業がアジア諸国の産業と深く結ばれ、今後は更に連結されることを理解し、アジア人材育成の必要性を確認する。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	東アジア経済圏の成長	アジアの成長は雁行形態と呼ばれた。戦後の日本が、韓国、アセアン、中国の成長につながり、アジア経済圏が形成された。この状況を理解するために必要な経済学の概念を説明する。また、アジアの成長に有効に機能した産業政策、産業クラスター政策の役割を説明する。これからの授業を展望する。 【キーワード】 雁行形態、国民経済計算、産業連関表、産業政策、産業クラスター政策	朽木　昭文（日本大学教授） 河合　明宣（放送大学教授）	講師全員
2	マクロ経済と産業連関表から見たアジア経済	国民経済計算の基本的な概念であるGDPや三面等価などの説明をする。それを応用することによりアジア各国の国民経済計算による貿易、金融などを含むマクロ経済の現状と課題を明らかに、比較分析を行い、アジアの将来を予測する。 【キーワード】 国民純生産、分配国民所得、「粗」概念、「純」概念、三面等価、要素費用、市場価格、「国民」概念、「国内」概念	朽木　昭文（日本大学教授）	朽木　昭文（日本大学教授）
3	空間経済学と産業クラスター	産業連関表を縦と横から見て説明し、均衡価格モデルを理解する。その応用として産業連関の後方効果と前方連関効果の算出方法と意味を説明する。これら効果をアジア諸国に適用し、一国がどの産業クラスターの形成により有効であるかを示す。 【キーワード】 均衡価格モデル、前方連関効果、後方連関効果	朽木　昭文（日本大学教授）	朽木　昭文（日本大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	「アジア成長トライアングル」の形成	アジアが「アジア成長トライアングル」で1つになるプロセスを説明する。アジアでは、製造業のクラスターが形成され、これらのクラスターが経済回廊などを通じて連結される。また、中国に加えてもう1つの工場建設が進行し、産業ネットワークが形成される。 【キーワード】 アジア成長トライアングル、クラスター、経済回廊、アジア共同体	朽木　昭文（日本大学教授）	朽木　昭文（日本大学教授）
5	アジアの成長戦略	産業政策を規定する市場経済と計画経済の考え方を理解するために前者の価格機構を説明する。産業政策については、幼稚産業保護論を図により厳密に理解する。輸入代替、輸出指向、産業クラスターの考え方からアジア各国の産業政策を比較する。 【キーワード】 市場経済、計画経済、価格機構、産業政策、幼稚産業保護理論、輸入代替工業化政策、輸出指向工業化政策、産業クラスター政策、雁行形態論	朽木　昭文（日本大学教授）	朽木　昭文（日本大学教授）
6	中国の産業政策	1978年の改革・開放後の中国の成長をたどる。当初は郷鎮企業がリードし、経済特区が手本となり、南巡講話の後に外国直接投資が成長を飛躍させ、世界第2位のGDP大国になる。成長の見直しによる科学的発展観と次の成長のカギとなる上海自由貿易試験区がある。 【キーワード】 科学的発展観、郷鎮企業、経済特区、支柱産業、南巡講話、転換点、上海自由貿易試験区、生産責任制	朽木　昭文（日本大学教授）	朽木　昭文（日本大学教授）
7	インドの産業政策と産業構造転換	1956年産業政策決議によって民間部門と国家部門の混合経済開発体制下で、1991年自由化政策まで自立的な輸入代替工業化を進めた。1981年スズキ合弁会社設立は自動車産業の基礎となり1990年代のITサービス産業は経済成長を押し上げた。予想では中国を抜く人口大国化する。第一次及び第三次産業も含む産業構造の転換を概説する。 【キーワード】 混合経済体制、マルチ・スズキ自動車、IT革命、貧困層	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
8	チャイナプラスワンのベトナム産業政策	ベトナムの改革をドイモイ（刷新）政策から説明する。成長政策を是正する社会政策などを解説した後に、ベトナム北部で形成された電気・電子クラスターをキヤノン効果として明らかにする。更に、今後の成長戦略として解説する。 【キーワード】 ドイモイ政策、社会政策、社会主義志向市場経済、電気・電子産業クラスター、農・食・観光クラスター、キヤノン効果	朽木　昭文（日本大学教授）	朽木　昭文（日本大学教授）
9	アジア経済の現状と課題	JICAは、2025年にアジア諸国で「中所得国のわな」から脱出できないと予測している。アジア諸国の課題として、高齢化、所得格差、人口ボーナスの減少、食糧自給率の減少、エネルギー消費の拡大などを説明する。課題を克服する政策を探る。 【キーワード】 高齢化、都市化、中所得国のわな、所得格差、人口ボーナス、食糧自給、エネルギー消費	朽木　昭文（日本大学教授）	朽木　昭文（日本大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	アジアの農・食品産業 －日本の食品産業の動向と食料消費の変化－	日本は1970年代以降、食生活が高度化・多様化し、海外、特にアジア地域との食料における関係は農産物・食品の輸入が中心であった。近年、変化する日本の食品産業における市場規模動向、畜産物需給とその海外主要輸出国との関係、国内の1人当たり栄養摂取量等の動向を解説する。 【キーワード】 日本の食品産業、食品産業の海外展開、食料消費（栄養摂取量等）、国内畜産物需給	古橋　元（経済協力開発機構（OECD）農業政策アナリスト）	古橋　元（経済協力開発機構（OECD）農業政策アナリスト）
11	アジアの食料消費市場 －アジアの所得階層と食料消費の変化－	日本では人口減少により国内市場が縮小する中で、アジアでは所得増加に伴い食料の消費市場の規模が大きく拡大した。アジアの主要国、特に東南アジアを中心に、各国の食料消費市場の変化および中間層の拡大を示す所得階層の変化を理解するとともに、東南アジア等の食料における消費支出の動向、アジアの現場における日系企業の動向について理解を深める。 【キーワード】 アジアの所得階層、アジアの食料部門、家電製品の普及、食料消費支出額	古橋　元（経済協力開発機構（OECD）農業政策アナリスト）	古橋　元（経済協力開発機構（OECD）農業政策アナリスト）
12	アジアの地域統合	世界の貿易自由化の動向を説明する。アジアで展開される地域統合の動きを説明し、その日本との関係を明らかにする。世界貿易機関のドーハ・ラウンドが機能せず、2国間自由貿易協定（FTA）が中心になった。その後にメガFTAの成立の可能性が出てきた。 【キーワード】 自由貿易協定、世界貿易機関、アセアン経済共同体、RCEP、TPP、FTAAP、メガFTA	朽木　昭文（日本大学教授）	朽木　昭文（日本大学教授）
13	アジアにおける日本の農産物輸出入	日本の食料品輸入が穀類、豆類等から食料品全般へと変化したのは、1980年代半ば以降である。その切っ掛けとなったのは円高であるが、土台となったのは輸送手段の高度化と日本企業の海外進出である。また、最近の輸出の増加も和食ブームに加えて、輸送手段の進歩によるところが少なくない。本章では輸送・物流面の変化と日本企業の海外進出の視点から、日本とアジアとの結びつきを説く。 【キーワード】 海外進出、加工食品、グローバル化、コンテナ輸送、生鮮品、物流、貿易の自由化、リーファーコンテナ	藤島　廣二（東京聖栄大学客員教授）	藤島　廣二（東京聖栄大学客員教授）
14	アジアの産業化と社会転換：日本の開発経験の教訓	産業化を社会全体の変化として捉え、人々が農村に居住し農業に従事する社会から、産業化・都市化・農業の商業化の進展により、都市社会に移行する過程とその特徴を解説する。アジアはこの変化を短期間に成し遂げようとしている。日本では、農家の生活改善や企業のカイゼンの運動を通じて、社会変化に適応してきたことを紹介し、アジア諸社会が直面している課題を指摘する。 【キーワード】 社会変化、農業社会から都市社会、農家の生活改善、企業のカイゼン、改善＝カイゼンのOS文化	水野　正己（日本大学教授）	水野　正己（日本大学教授）
15	発展する21世紀の成長センター・アジア	国際協力により地域統合を進め、アジア各国が開発を促進する。日本がアジアと共生し、地域統合を進めるための産業構造の高度化のための民間部門の活性化による国際協力の在り方は何かを議論する。そのためのアジアの、そして日本の人材育成の必要性を訴える。 【キーワード】 世界の成長センター、日本成長戦略、産業クラスター、21世紀、共生	朽木　昭文（日本大学教授）	講師全員

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1548441	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　社会技術概論　　（’１２）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：小林　信一　（放送大学客員教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：岡田　光正　（放送大学教授）　】

※この科目は「社会技術概論(’07)」の一部改訂科目です。
改訂回は1，3，6，7，15回です。

講義概要

科学技術は、真理の探究や新技術の開発など、社会とはあまり関係のない活動のように思われがちである。だが、今日の高度に発展した科学技術は社会に多大な影響を及ぼしている。今後は、科学技術と人間生活が調和しつつ、ともに発展していく必要がある。本講義では、真理探究ための科学技術や産業のための科学技術とは異なる「社会の中の科学技術、社会のための科学技術」という観点から、科学技術と社会の相互関係について考える。

授業の目標

いくつかの事例や歴史の理解を通じて「社会のための科学技術」の考え方を学ぶとともに、科学技術コミュニケーション、科学技術リテラシー、科学技術と市民参加、科学技術と倫理などの横軸となる視点を理解する。また、これらの基盤となる理論側面についても理解を促す。これらのテーマを通じて、社会技術の基本的事項について理解することを目標とする。

履修上の留意点

必要となる予備知識はとくにない。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会の中の技術、社会のための技術 ※改訂回	科学技術は人々に利便性をもたらすと同時に、生活や環境に悪影響を及ぼす可能性もある。また、社会的問題の解決に科学技術の貢献が求められる場合も少なくない。ここに「社会の中の科学技術、社会のための科学技術」が登場する。 【キーワード】 社会技術、科学技術、社会の中の技術、社会のための技術、公共	小林　信一（放送大学客員教授）	小林　信一（放送大学客員教授）
2	BSEの経験	科学技術と社会の相互関係の事例として、1990年代にイギリスで発生したBSE問題を取り上げる。BSE問題において科学者・行政はどのような役割を演じたのであろうか。また、その後、日本で発生したBSEについての対応にも触れることにする。 【キーワード】 不確実性、リスク、対話、政策決定、予防原則	小林　傳司（大阪大学教授）	小林　傳司（大阪大学教授）
3	安全な社会をデザインする ※改訂回	人々が安全に生活する上で、食品、医薬品、化学物質の安全、交通安全、災害対策、感染症対策など多様な安全対策のためのシステムが必要である。これらのシステムを構築するために科学技術はどのような形で貢献しているのだろうか。 【キーワード】 安全、リスク評価、規制、レギュラトリ・サイエンス、リサーチ・サイエンス	小林　信一（放送大学客員教授）	小林　信一（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	先端科学技術と社会	先端的な科学技術は、ときとして人々の価値観とのあいだで葛藤を引き起こす。ナノテク、バイオ、脳科学、ユビキタス技術などの分野で危惧されていることは何か。それらの問題に対して科学技術自身、社会はいかに対処すべきか。遺伝子組換え食品、ナノテクノロジーを例に考える。 【キーワード】 NIMBY問題、テクノロジー・アセスメント、ELSI、技術と社会の共進化	小林　信一（放送大学客員教授）	小林　信一（放送大学客員教授）
5	社会のための科学技術 ―その歴史	冷戦の終焉により、社会における科学技術の位置づけは大きく変わった。1999年の世界科学会議では科学技術者自身が「社会の中の／社会のための科学」を提唱するにいたった。社会技術の考え方を歴史的に捉える。 【キーワード】 冷戦型科学技術、環境問題、リスク社会、世界科学会議	小林　信一（放送大学客員教授）	小林　信一（放送大学客員教授）
6	科学技術と社会のコミュニケーション・デザイン ※改訂回	科学技術は高度な研究活動であるが、同時に多くの人々の生活に大きな影響を与える。専門家は社会とどのようなコミュニケーションを図っていくべきであろうか。日本で始まったいくつかの取り組みを具体的に紹介する。 【キーワード】 公衆の科学理解、市民参加、コーステップ、サイエンス・カフェ、社会リテラシー、科学技術コミュニケーション	小林　傳司（大阪大学教授）	小林　傳司（大阪大学教授）
7	これからの科学技術リテラシー ※改訂回	科学技術が生活に浸透した社会で一般市民にはどのような科学技術リテラシーが求められるだろうか。それは従来のリテラシー観とどこが異なるのか。これからの科学技術リテラシーを考えることは、どのような市民社会を標榜するかということと強い関係があることも含めて考える。 【キーワード】 リテラシー、スローガン、意思決定、市民参加	小川　正賢（東京理科大学教授）	小川　正賢（東京理科大学教授）
8	科学技術への市民参加	科学技術が社会で利用される際に、市民はどのような関わり方をすべきであろうか。日本で行われたコンセンサス会議や市民と専門家の間のさまざまな対話の試みを紹介し、その現状と課題を考える。 【キーワード】 市民参加、トランスサイエンス、テクノロジーアセスメント、コンセンサス会議	小林　傳司（大阪大学教授）	小林　傳司（大阪大学教授）
9	科学技術と民主主義	科学および技術と民主主義がそもそもどのような関係にあるのかを理論的に考えてみる。さまざまな利害関係者によって構築される「公共空間」の考え方を示し、第8回の授業で扱った「市民参加」の意味をもう一度とらえ直す。 【キーワード】 民主主義、社会的意思決定、グレーゾーン、公共空間、市民参加	藤垣　裕子（東京大学大学院教授）	藤垣　裕子（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	知識・権力・政治	科学者にとっても解明途中であり、科学者にも長期影響が予測できないようなグレーゾーンで、何らかの公共的意思決定を行う必要がでてきている。知識が権力として作用することの意味、知識政治学について概説する。 【キーワード】 知識政治学、フレーミング、妥当性協会、状況依存性、変数結節、ローカル・ノレッジ、科学に対するイメージ	藤垣　裕子（東京大学大学院教授）	藤垣　裕子（東京大学大学院教授）
11	社会に役立つ知識とは	グレーゾーンにおける社会の意思決定において役立つ知識とは、どのようなものなのか。モード論、社会的に頑強な知識、サービス科学、規制科学、といったいくつかの概念を紹介しながら考え、これら知識のもつ責任についても考察する。 【キーワード】 社会的に頑強な知識、モード論、意思決定において信頼できる知識、PAモデル、PUSモデル	藤垣　裕子（東京大学大学院教授）	藤垣　裕子（東京大学大学院教授）
12	科学技術と公共政策	社会技術と政策との関係について検討する。社会技術の実現のためには、従来の科学技術振興政策とは別に、「政策のための科学技術」の振興や「社会の中の／社会のための科学技術」そのものの振興が必要になってくる。 【キーワード】 科学のための政策、政策のための科学、ミッション指向研究、科学技術公共政策	小林　信一（放送大学客員教授）	小林　信一（放送大学客員教授）
13	海外の社会技術	「社会の中の／社会のための科学技術」を指向したさまざまな活動が世界中で展開されている。それらを紹介しながら、「社会の中の／社会のための科学技術」の意味を再評価する。 【キーワード】 参加型TA、市民陪審、市民フォーサイト、シナリオ・ワークショップ、サイエンス・カフェ、サイエンス・ショップ	藤垣　裕子（東京大学大学院教授）	藤垣　裕子（東京大学大学院教授）
14	科学技術と倫理の新次元	科学技術の発展と人々の価値観や倫理観とのあいだの葛藤は科学技術の発展に抑制的に働くこともあれば、新しい倫理観の構築が必要になる場合もある。科学技術と社会の調整過程に出現する新しいタイプの倫理問題とその実現のための方策について考える。 【キーワード】 脳科学、消費者の権利、倫理観の共有、道徳的想像力、専門家倫理、コンプライアンス	小林　信一（放送大学客員教授）	小林　信一（放送大学客員教授）
15	社会技術のこれから ※改訂回	これまでに紹介されなかった論点について概観するほか、「科学技術は誰のものか」「誰が専門家か」といった、社会技術が既存の科学技術活動、社会経済活動に投げかける問題について総合的に論ずる。あわせて残された課題を指摘する。 【キーワード】 学際性、イノベーション、媒介の専門家、専門家の責任、市民の責任	小林　信一（放送大学客員教授）	小林　信一（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639560	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 物質・材料工学と社会 （’１７）＝ （ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 Materials Science and Engineering in Our Society (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：谷岡　明彦　（東京工業大学名誉教授）　〕

〔主任講師（現職名）：里　達雄　（東京工業大学名誉教授）　〕

【本学担当専任教員：岡田　光正　（放送大学教授）　】

講義概要

人間活動の基盤である科学・技術を支えているのが材料である。それは社会においてどのように使われているのか、社会のシステムを構成する製品の中に使われている材料について知る。そして、その材料の素材である金属材料、半導体材料、陶器やセメント、ガラスなどの無機材料、プラスチックなど炭素を中心とする有機材料などがどのような機能を持つために利用されているのか、その仕組みを学び、さらにその機能を発揮すべく創出される本質を学ぶ。

授業の目標

この科目は放送大学に学ぶ学生の専門科目として深い教養を養うことを目的とするだけでなく、一般の大学の工学部や高等工業専門学校の学生に将来の展望を描く上で役立ててもらうことも目的とする。現代の産業社会、個人生活に有用な、施設、設備、製品などがどのような材料により構成されているか、その機能は何か、それを支える原子・分子との関連は何かを概観することを目的とする。

履修上の留意点

理数系科目の素養が無くても社会経験があれば理解できるように、身近なところから説き起こし、楽しく学習できるように配慮する。一般的な章では、対象とする製品、設備などに必要な代表的機能を主題として選び、製品に対する機能の役割、機能を支える原子・分子の性質との関連を述べ、それがどのように製造されたかを述べ、最後に、これらの議論を理解するために「基礎ワンポイント」コーナーを通して学ぶ。社会と産業コースの中では唯一化学産業・素材産業に関する工学を扱った科目である。化学と物理の基礎については自然と環境コースで学習してほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会と物質・材料工学	日本の産業の実勢を述べ、その中で鉱工業の役割の大きさを認識し、そこで行われている生産はほとんど材料に関係していることを知る。本講義では、現象から本質へ、トップダウンすることにより、材料に対する認識を容易にすることを論ずる。原子・分子や結晶を理解するために、元素周期表の重要性を解説する。 【キーワード】 材料産業、技術の伝承、材料の機能、結晶と原子・分子、周期表	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授） 里　達雄（東京工業大学名誉教授）	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授） 里　達雄（東京工業大学名誉教授） ゲスト:秋鹿研一（東京工業大学名誉教授）
2	橋梁・構造物	社会基盤であるインフラの要として、橋梁、構造物を取り上げ、どのような材料が使われ、また、機能が活かされているのかを学ぶ。橋梁の例として明石海峡大橋を、構造物の例として東京スカイツリーに着目し、形状や構造を理解する。また、構成材料として、鉄鋼材料や高強度鋼の強度特性の特徴やコンクリートについて学ぶ。基礎事項として結合様式などを学ぶ。 【キーワード】 引張強さ、降伏強さ、耐候性、鉄鋼、高張力鋼、コンクリート、金属結合、共有結合、結晶構造	里　達雄（東京工業大学名誉教授）	里　達雄（東京工業大学名誉教授） ゲスト:二羽淳一郎（東京工業大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	鉄道とその車両	大量輸送手段として鉄道を取り上げ、近年の高速新幹線を例に構成材料や材料機能を紹介する。特に、鉄鋼材料や鋳鉄の強度や耐摩耗性について学ぶ。また、高速走行や走行制御を可能とする車両の軽量化に寄与するアルミニウム合金の高強度化について学ぶ。一方、超高速のリニアモーターカーに活用されている磁性材料や超伝導材料について磁化挙動と材料の観点から学ぶ。 【キーワード】 軽量性、強度、耐摩耗性、疲労特性、成形性、高炭素鋼、特殊鋼、アルミニウム合金、磁化特性	里　達雄（東京工業大学名誉教授）	里　達雄（東京工業大学名誉教授）
4	自動車Ⅰ 車体構造と材料	自動車について、はじめに車体構造と主な構成材料ならびにそれらの変遷を学ぶ。車体には安全性、燃費効率、排ガス低減、デザイン性の観点から軽量性、高強度化、高成形性などが求められることを学び、材料がどのように開発されてきたかを学ぶ。基礎事項として金属の結晶粒径や集合組織について理解を深める。 【キーワード】 軽量性、高強度化、成形性、剛性、ハイテン、アルミニウム合金、集合組織、相変態、析出強化	里　達雄（東京工業大学名誉教授）	里　達雄（東京工業大学名誉教授） ゲスト：神戸洋史（日産自動車）、吉永直樹（新日鐵住金）
5	自動車Ⅱ エンジン・二次電池・燃料電池	自動車のエンジン、二次電池、燃料電池を取り上げ、それらの仕組み、構造、構成材料について学ぶ。エンジンについては、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン、EVの構造、仕組みと使用材料について学ぶ。さらに、二次電池や燃料電池の主要部の材料と使用理由や今後の開発の要点などを学ぶ。基礎事項として、電池反応、セパレータ材などについて理解を深める。 【キーワード】 燃料製造、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン、カルノーサイクル、排ガス除去、電池反応、燃料電池	里　達雄（東京工業大学名誉教授）	里　達雄（東京工業大学名誉教授） ゲスト：秋鹿研一（東京工業大学名誉教授）
6	車とインフラにおける有機材料	近年、地球温暖化対策、災害からの防御、地球規模での渇水化対策が求められ、軽量で機能性に富んだ有機材料の重要性が増している。ここでは高分子の合成や物性について学んだあと、具体的例としてタイヤや免振装置のゴム、家屋建築の木材、断熱材や衝撃吸収用高分子、海水を真水にする逆浸透膜について知識を深める。 【キーワード】 重合反応、水素結合、ゴム弾性、エネルギー弾性、振動吸収、可塑性、浸透圧	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授）	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授） ゲスト：高田十志和（東京工業大学教授）、秋鹿　研一（東京工業大学名誉教授）
7	航空機・宇宙ロケット	航空宇宙分野で使用される材料とそれらの特徴を学ぶ。ここでは、航空機の機体やジェットエンジン、また、宇宙ロケットの構造とそれらを構成する材料について学ぶ。航空機や宇宙ロケットには燃料や運搬効率の点からより軽量で高強度材が求められる。このような観点から変遷があり、近年、高強度アルミニウム合金や炭素繊維が使用されている状況を学ぶ。 【キーワード】 耐熱性、高強度、軽量性、破壊靭性、疲労強度、耐衝撃性	里　達雄（東京工業大学名誉教授）	里　達雄（東京工業大学名誉教授） ゲスト：正木彰樹（IHIジェットサービス）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	ファッションと航空機	天然繊維である木綿、絹、羊毛の構造や機能を探求する。化学繊維である、ポリエステル、ナイロン、ポリアクリロニトリルの製造法を学ぶ。繊維が紡績や織・編により布になることを学習する。ポリアクリロニトリルからカーボンファイバーを製造し、織・編技術を用いて航空機に利用される過程を学ぶ。これらの材料に関連する分子の構造、元素の性質を検討する。 【キーワード】 繊維の構造、高分子合成法、紡糸法、炭素化、紡績、織と編、複合材料	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授）	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授） ゲスト：鞠谷　雄士（東京工業大学教授）
9	発電・エネルギーキャリア	火力発電、原子力発電、太陽光発電、風力発電などの仕組み、発電機、蒸気タービン、ガスタービンの概要を学び、さらに、原子力発電の仕組みや廃棄物処理などについても学ぶ。再生可能エネルギー変換の技術を概観し、そこで使われる材料、機能を学ぶ。電力のエネルギー貯蔵、水素のエネルギー利用、化学物質への変換、輸送の技術、などを学び、低炭素社会を展望する。 【キーワード】 燃焼と動力、核分裂反応、エネルギー変換効率、風力発電、ソーラーパネル、単結晶、エネルギー貯蔵、水素社会、低炭素社会	里　達雄（東京工業大学名誉教授）	里　達雄（東京工業大学名誉教授） ゲスト：小長井　誠（東京工業大学名誉教授）、秋鹿　研一（東京工業大学名誉教授）
10	家電製品	LED及び太陽電池の仕組みを学び半導体のp-n接合での光電変換を利用したものであることを学習する。光触媒の原理から陶磁器やガラスの汚れ防止に利用されていることを学習する。エアコンと冷蔵庫を作動させるヒートポンプの熱力学などを学び、ポンプを動かすモーターの原理と磁性材料などを学習する。 【キーワード】 p-n接合、光電変換、光触媒、ヒートポンプ、代替フロン、家庭用交流モーター、磁石用合金、スピンと磁性	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授）	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授） ゲスト：中島　章（東京工業大学教授）、秋鹿　研一（東京工業大学名誉教授）
11	情報機器Ⅰ 電子材料	テレビ、パソコン、スマートフォンなどの情報機器に使用される、電子材料を学ぶ。基盤単結晶生成、半導体素子蒸着、電子回路焼付け、などがどのようなプロセスで行われているかを紹介する。基本的なシリコントランジスター素子の機能、原理を学ぶ。 【キーワード】 半導体物性、p-n接合、微小化、レジスト、レーザー	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授）	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授） ゲスト：森　健彦（東京工業大学教授）、秋鹿　研一（東京工業大学名誉教授）
12	情報機器Ⅱ ディスプレイ	ディスプレイ材料の原理を学ぶ。液晶は電気信号に応じて分子配向を変えるから、その熱、電圧、光特性を学ぶ。また偏光フィルムの構造や光の偏光原理も学ぶ。複写機の仕組みと、省エネルギーへの取り組みを知る。印刷技術がディスプレイのカラーフィルターにも貢献していることや有機EL、導電性高分子の構造や機能なども解説する。 【キーワード】 偏光、分子配向、物質の相、液晶、高分子膜、フォトニックス材料、色素、インクジェット、LCA	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授）	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授） ゲスト：バッハ・マーティン（東京工業大学教授）、秋鹿　研一（東京工業大学名誉教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	医療・介護	人工透析、カテーテル、人工心臓などに高分子材料が使用されている。介護に不可欠な紙おむつでも高分子材料独特の機能性を利用している。ここでは、材料の役割とその機能を高分子の分子構造から解き明かし、材料をどのように構成すればこのような機能が生かされ役立つか学習する。 【キーワード】 分離機能、抗血栓性、ぬれ特性、高分子ゲル、高吸水性、高分子電解質	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授）	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授） ゲスト：大塚　英幸（東京工業大学教授）
14	材料評価とコンピュータ設計	分析装置の進歩は著しく、機能表面の構造や原子の分布を評価して材料設計に反映している。これらの分析の手法や原理を学ぶ。また、材料は一般に複数の化合物を使用し、最適な構造や機能を果たしている。最適な設計をするために、化合物分子の構造や動的挙動を計算したり、シミュレートすることが行われている。その方法についても学ぶ。 【キーワード】 XRD、TEM、SEM、IR、分子軌道法、分子動力学	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授） 里　達雄（東京工業大学名誉教授）	里　達雄（東京工業大学名誉教授） 谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授） ゲスト：秋鹿　研一（東京工業大学名誉教授）
15	明日の材料開発	資源問題、リサイクルを見据えた新しい材料設計の研究事例を探求する。材料設計における環境規制、安全規制の重要性を認識する。省エネ、省資源に関して現在の材料の問題点を指摘し、望まれる未来の材料を論ずる。JISだけではなく国際的標準規格であるISOについても学ぶ。 【キーワード】 都市鉱山、リサイクル、汎用元素の利用、膨潤接着剤、REACH規制、省エネ法、材料の社会的受容、JIS規格、ISO、3Dプリンティング、IoT、ビッグデータ	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授） 里　達雄（東京工業大学名誉教授）	谷岡　明彦（東京工業大学名誉教授） 里　達雄（東京工業大学名誉教授） ゲスト：秋鹿　研一（東京工業大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639404	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 地域と都市の防災 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Comprehensive Disaster Management of Regions and Cities (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：目黒　公郎　（東京大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：村尾　修　（東北大学教授）〕

【本学担当専任教員：梅干野　晃　（放送大学教授）】

講義概要

都市災害とは、日々進化しつづける都市を映した鏡のようなものである。本講義は、地域および都市を災害から守るための考え方について、実例を踏まえつつ、全15回にわたって講義する。本講義は、包括的に地域と都市の防災体系を修得するための「総論：地域と都市の防災体系」（第1回から第4回）、災害発生のメカニズムとその対策について学ぶ「地域・都市災害の事例：災害発生のメカニズムとその対応」（第5回から第8回）、被害を抑止することの意義と耐震化について学ぶ「被害抑止：被害を最小化する取り組み」（第9回から第11回）、そして事前準備や復興の意義などについて学び、今後の防災について考える「各論：災害対応に必要な各要素」（第12回から第15回）の4部から構成される。

授業の目標

地域、都市、防災に焦点をあてた全15回の講義を通じて、都市の防災対策を進めるうえで最低限必要な用語を理解し、各種の都市災害のメカニズムと対策の基本を学ぶ。また、この講義を通じて過去に発生した災害とそこから得られた教訓がその後の都市防災対策にどのように反映されてきたのかを把握するとともに、被害抑止策を施すことの重要性と地域・都市と災害との関係について理解することを目標とする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	講義概要とわが国の災害	わが国は、その地球科学的な立地特性から、地震や火山、台風など、多種多様な災害が多発する災害大国であり、歴史的に甚大な被害を受けてきた。そうした過去の災害経験に学び、技術開発と社会制度の充実を図ることで、災害に強い環境を実現させ、世界の経済大国になった。その一方で、2011年に発生した東日本大震災は、地域や都市における防災上の課題を改めて浮き彫りにした。本章では「地域と都市の防災」を考えることの意義と目的、そして講義概要と全体構成について紹介する。また、適切な防災対策を講じるうえで欠くことのできない「災害イマジネーション」の意味とその重要性について説明する。 【キーワード】 災害のデパート、自然災害の障害と恵み、防災技術、地域と都市、災害イマジネーション、目黒メソッド、目黒巻	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授） 和田　章（東京工業大学名誉教授）
2	地域社会と都市防災	人々の生活基盤としての地域社会や地域コミュニティ、そしてこれらを組み合わせて形成される都市は、人々が安心して生活できる環境整備のためにつくられてきた。この都市の歴史をふりかえり、安らぎの場としての都市の意味を考える。さらに、現在我々の生活環境を脅かす都市災害の特徴についてもふれ、地域のリスクを定義づけるハザードと脆弱性の関係、および都市防災の概要について習得する。 【キーワード】 地域、都市、安らぎの場、都市防衛、自然災害、事故災害（産業災害）、都市災害、都市の災害リスク、ハザード、脆弱性、災害は進化する、都市防災、災害の連鎖、レジリエンス	村尾　修（東北大学教授） 目黒　公郎（東京大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	災害法制度の変遷と防災体制	都市の進展や時代の変遷によって、災害の様相がどのように変化してきたのだろうか。また災害を体験し、社会はどのようにして防災の法制度を整えてきたのだろうか。日本の首都として位置づけられてきた江戸・東京の近代化の歴史を振り返り、時代ごとの災害の特徴から、災害が発生することにより進展してきた法制度の変遷について学ぶ。また現在のわが国の防災組織の構造を理解し、中央政府から市町村にいたるわが国の防災体制の基本と東日本大震災後の課題について学ぶ。 【キーワード】 江戸、明暦の大火、享保の改革、東京、関東大震災、東京大空襲、伊勢湾台風、防災法制度、災害対策基本法、中央防災会議、防災計画、災害から学ぶ、災害の進化	村尾　修（東北大学教授） 目黒　公郎（東京大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授）
4	防災対策の基本と災害対応の循環体系	わが国の自然災害の歴史を通して、災害の記録を蓄積し、教訓として生かすことの重要性を学ぶ。また災害のメカニズム、総合的な災害マネジメント、「災害対応の循環体系（Disaster Life Cycle）」について学び、防災対策の基本を習得する。 【キーワード】 災害対応の循環体系、緊急対応、復旧、復興、被害抑止、事前準備、災害予知、早期警報、自助・共助・公助	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授）
5	気象災害とその対応	古来から、人間の生活に影響を及ぼしてきた風水害を中心とした気象災害の事例を通して、その発生メカニズムと被害の様相、そして各種の気象災害への対応策について学ぶ。 【キーワード】 気象災害、風水害、洪水災害、高潮災害、土砂災害、風害、台風、外水・内水氾濫、斜面崩壊・地すべり・土石流	目黒　公郎（東京大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授）
6	地震災害とその対応	地震災害はわが国の代表的な自然災害である。ここでは、地震の発生メカニズム、マグニチュードと震度の関係、地震動の特徴と被害の関係、地震と震災などの基本を理解する。またわが国における過去の地震、被害の形態と特徴、連鎖的反応のメカニズムについて、地域ごとの特性にふれつつ学ぶ。 【キーワード】 プレートテクトニクス、震源、震央、断層、マグニチュード、震度、地震動、わが国の地震学的な環境、災害連鎖、人的被害	目黒　公郎（東京大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授）
7	津波災害とその対応	四方を海に囲われ、かつ地震の多発する日本は、幾度もの津波被害を受けてきた。本章では津波のメカニズムと被害の特徴について、過去の事例を通じて学ぶ。そして2011年3月11日の「東北地方太平洋沖地震」による津波災害と各地で進められている復興への取り組みを振り返り、その教訓と今後の課題を理解する。 【キーワード】 明治・昭和三陸大津波、北海道南西沖地震、東日本大震災、防潮堤、防波堤、水門、高台移転、津波避難	村尾　修（東北大学教授） 目黒　公郎（東京大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授）
8	延焼火災とその対応	日本はその気候風土により、紙と木の建築文化を築いてきた。また木造建築が密集する市街地も多く、都市大火は日本の都市災害のひとつの特徴でもあった。ここでは、わが国における都市大火の歴史、江戸時代の火災の文化、火災が発生するメカニズム、そして延焼火災に対する対策について学ぶ。 【キーワード】 延焼火災、都市大火、災害文化、白鬚東防災拠点、延焼遮断帯、防災都市構造	村尾　修（東北大学教授） 目黒　公郎（東京大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	土木・建築構造物の安全性	私たちの生活は、社会基盤施設などの土木構造物と建物などの建築構造物から構成される地域の住環境（Built Environment）によって支えられている。これらの構造物は、少なくとも当初想定されている利用期間中は、建設目的を発揮できるように、様々な材料と工法を用いて建設されている。本章ではこれらの構造物の安全性について学ぶ。 【キーワード】 被害抑止、耐震基準、共振現象、固有周期（固有周波数）、強度、変形能、エネルギー吸収能、被害想定・地域危険度評価、地震・災害保険	目黒　公郎（東京大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授） 和田　章（東京工業大学名誉教授）
10	建築物の免震構造	現在の建築の耐震構造は4つに分類される。①壁式構造のように構造物の強さを高くして地震に耐える強度抵抗型構造、②柱と梁で作られる骨組を用い、強さは十分でないが、大きな変形を生じても倒壊しないように骨組の粘りに期待した靭性期待型構造、③柱と梁で作られる骨組の設計を従来よりしなやかに作ると同時に、骨組の各所に地震時の揺れのエネルギーを吸収する部材を組込んだ制振構造、および④建築物の最下階の床とその下の基礎との間に水平方向に柔らかく動く装置を組込み、さらに地震時の揺れによるエネルギーを吸収するためのダンパーを組込んだ免震構造である。ここでは④の免震構造をとりあげる。 【キーワード】 建築基準法、耐震設計、強さと粘り、免震構造、積層ゴム、ダンパー	和田　章（東京工業大学名誉教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授） 和田　章（東京工業大学名誉教授）
11	建築物の制振構造	前回の免震構造に続き、柱と梁で作られる骨組は鉛直荷重を支持することに専念させ、地震時には壊れないようにし、骨組の中に地震時のエネルギーを吸収させるダンパーを組込んだ制振構造に関する、基本的な考えと実例の仕組について講義する。 【キーワード】 新しい耐震技術、財産保全、機能維持、制振構造、免震構造、寺田寅彦、東京スカイツリー	和田　章（東京工業大学名誉教授） 村尾　修（東北大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授） 和田　章（東京工業大学名誉教授）
12	被害軽減のための事前準備	災害対応の循環体系（Disaster Life Cycle）の中の「被害軽減のための事前準備（preparedness）を理解する。また、各地における避難計画、防災訓練など被害を軽減するための事前準備の事例を通じて、自助・共助・公助の必要性を学ぶ。 【キーワード】 防災教育、防災訓練、避難計画、防災マニュアル、研修、自主防災組織、自助・共助・公助	村尾　修（東北大学教授） 目黒　公郎（東京大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授）
13	都市における災害と復興	数十年、あるいは数百年という都市形成の長い歴史の中で、災害・復興という変局点は重要な意味を持つ。復興を契機として社会や都市のシステムが大きく変わることもある。ここでは災害対応の循環体系（Disaster Life Cycle）の中の復旧・復興について学び、国内外の復興事例を通じて、その意義を理解する。また阪神・淡路大震災や東日本大震災における課題についても学ぶ。 【キーワード】 仮設住宅、住宅再建、復興住宅、震災復興、帝都復興計画、事前復興計画、復興事例、より良い復興（Build Back Better）、レジリエンス	村尾　修（東北大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	情報とコミュニケーション	災害時には適切な情報伝達の仕組みが重要である。また来たるべき災害に備え、各組織レベルでのコミュニケーションが欠かせない。ここでは、災害に対応するための各段階における情報とコミュニケーションの意義、近年の情報技術、東日本大震災からの教訓を学ぶ。 【キーワード】 災害情報、リスク・コミュニケーション、被害想定、地域危険度評価、ハザードマップ、GIS、リモートセンシング、復興アーカイブズ、防災教育、緊急地震速報	村尾　修（東北大学教授） 目黒　公郎（東京大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授）
15	災害文化とこれからの都市防災	都市災害は都市の成長、社会の成長とともに進化する。21世紀を迎えた今、我々をとりまく防災に関する状況を学ぶとともに、現在の東京の姿を見つめ直し、これから考慮しておかなければいけない新たな災害とその対応について考える。また全15回にわたって行われた講義を総括する。 【キーワード】 東京、木造密集地帯、帝都復興計画、耐震技術、テロ、ゆっくり起こる災害、地球温暖化、異常気象、海面上昇による影響、自然災害の障害と恵み、災害文化	村尾　修（東北大学教授） 目黒　公郎（東京大学教授）	目黒　公郎（東京大学教授） 村尾　修（東北大学教授） 和田　章（東京工業大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1548450	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 産業とデザイン （’１２）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：仙田　満　（東京工業大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：若山　滋　（名古屋工業大学名誉教授）〕

【本学担当専任教員：梅干野　晃　（放送大学教授）】

講義概要

産業における技術とデザインは車の両輪のようなものである。製品も、地域も、環境もデザインによってその経済的な波及効果は異なる。
町づくりや企業経営に参画し、関心を持つ人々に、町づくりと産業におけるデザインの重要性について認識してもらう事を目的とした講義とする。
第1編（第1回）　産業とデザインの歴史
第2編（第2回～第6回）　デザインの展開
第3編（第7回～第8回）　デザインの戦略
第4編（第9回～第11回）　デザインの社会性
第5編（第12回～第15回）　デザイン価値の創造

授業の目標

産業におけるデザインの重要性を認識する。

履修上の留意点

「都市・建築の環境とエネルギー(’14)」「環境の可視化(’15)」を学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	歴史から学ぶ産業デザイン	初回であるため、本講義の主題を各回の要点を紹介しながら解説する。本論としては、安土桃山時代からの我が国の造形の伝統がどのように現代まで継承されているかに触れつつ、明治期、戦前昭和、1950年代、1970年前後といったエポックを辿る。欧州、次いで米国との影響関係も視野に入れて、脱工業化後の産業デザインの課題について考える。 【キーワード】 デザイン日本の源流、資生堂、サントリー、バウハウス、ロシア構成主義、ウィリアム・モリス、ソニー、ホンダ、第三のイタリア	森山　明子（武蔵野美術大学教授）	森山　明子（武蔵野美術大学教授） 仙田　満（東京工業大学名誉教授） 若山　滋（名古屋工業大学名誉教授）
2	インダストリアルデザイン	近代デザインは、近代工業（インダストリー）と歩みをともにしてきた。工業製品の幅は広いので、ここでは特に輸送機器と電気製品に話題を絞り、その代表として自動車と電子情報製品を採り上げ、技術的イノベーションとデザインの変化との関係を具体的に例示して論説する。製品機能とデザイン、生産システムとデザイン、情報社会のデザインなどに焦点を当てる。 【キーワード】 プリウス、フォード・システム、フォルクスワーゲン・ビートル、アイパッド、ウォークマン、パーソナル・コンピューター	若山　滋（名古屋工業大学名誉教授）	若山　滋（名古屋工業大学名誉教授） ゲスト：喜多俊之（プロダクトデザイナー）
3	コミュニケーションデザイン	昭和初期の商業美術確立以降のグラフィックと広告の流れ、我が国のグラフィックデザイン山脈と欧米を含む広告の名品を概説する。次いで、1980年代以降の新たな広告の動向に言及し、コミュニケーションデザインの役割を社会環境形成、コミュニティーとその風景の維持・発展に求める。 【キーワード】 近代広告代理業構想、松下電器産業、西武百貨店、CI、ベネトン、ザ・ボディショップ、デンマークのCI、ストックホルムの地下鉄、九州大学小児医療センター、一次産業×デザイン＝風景	森山　明子（武蔵野美術大学教授）	森山　明子（武蔵野美術大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	空間デザインの内と外	ここでは産業の基幹となる、人間生活空間のデザインについて、内部空間（インテリア・デザイン）、外部空間（ランドスケープ・デザイン）の立場から説明する。都市、建築、造園、環境、照明などの分野を包括し、空間デザインが人間生活と産業に及ぼす影響を、生理的、精神的、文化的側面から追求する。 【キーワード】 東京再開発、都市集約、庭園と公園、瞑想の環境、住空間の西洋化と近代化、椅子のデザイン	若山　滋（名古屋工業大学名誉教授）	若山　滋（名古屋工業大学名誉教授）
5	ファッションデザイン	人間に最も密接に関わる繊維・アパレル産業は糸から小売りに至る幅広い裾野を有する。絹と木綿は昭和初期に世界を制し、ファッションデザインは1080年代に世界から脚光を浴びた。ソリューションとエモーションをキーワードに、ニット編機、リボン、化粧筆といったファッション関連企業にも言及する。 【キーワード】 SENSEWARE展、テキスタイル、インテリア、ユニクロ、東京ガールズコレクション、島精機、木馬、白鴎堂	森山　明子（武蔵野美術大学教授）	森山　明子（武蔵野美術大学教授） ゲスト：尾原蓉子（東京ファッションインスティテュート名誉会長）
6	エンターテイメントデザインとレジャー産業	博覧会、サーカス、お祭り、テーマパーク、遊園地など多様なエンターテイメントのデザインの展開と産業としてのエンターテイメントビジネス、レジャービジネスの関係性について論ずる。それにおける満足度とリピート性のデザイン構造について考える。 【キーワード】 キッザニア、エプコットセンター、テーマパーク、博覧会、非日常性、迷路性、体験の多様性	仙田　満（東京工業大学名誉教授）	仙田　満（東京工業大学名誉教授）
7	デザインとブランド戦略	ブランドは企業の生みだす価値を顧客や市場・社会に伝達・提供・共有するための記号である。商品・サービス、事業、企業、公的組織など広くブランドは重要だが、それは顧客との共有資産でもある。そのためにデザインが果たす役割は大きい。本講ではこうした資産としてのブランドの形成をデザインという視点から考える。 【キーワード】 記号、場、共有資産、アップル、ソニー、パナソニック、グローバリゼーション、ローカルブランド	紺野　登（多摩大学大学院教授）	紺野　登（多摩大学大学院教授）
8	デザインの経済的効果	デザインは大きな経済的効果をもたらしているが測定は困難とされる。ではその効果を理解し、活用するにはどのような視点が求められるだろうか。本講では、歴史的な経緯を振り返りながらデザインが人間や社会にどのような作用を生みだし、それが経済的効果に結びついてきたかを考察する。 【キーワード】 サービス経済化、デザインと経営の関係史、デザインの作用、経済的効果、マーケティング、市場創造、イノベーション	紺野　登（多摩大学大学院教授）	紺野　登（多摩大学大学院教授）
9	エコデザインとエコライフ	地球環境時代のエコロジーデザインについて考える。大量生産、大量消費、経済成長の限界が指摘され、産業とデザインの在り方が根本的に問い直されている。地球環境、人間環境を基準にした、物づくりと生産システムと生活スタイルの在り方を追求する。低酸素社会、リサイクルなどの問題を、産業デザインの立場から考える。 【キーワード】 地球環境、低炭素社会、リサイクル、地産地消、自然素材、ゼロ・エミッション、ロハス、バイオ・テクノロジー、シンプルな生活	仙田　満（東京工業大学名誉教授）	仙田　満（東京工業大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	ユニバーサルデザインとデザイン開発	ユニバーサルデザインはバリアフリーデザインから始まったが、それがより広いデザイン戦略、マーケット戦略として世界的な広がりを見せている。高齢化社会はユニバーサルデザインのより広い展開を期待できる。ユニバーサルデザインの背景とその理論について実例を挙げながら論ずる。 【キーワード】 アクセシビリティ、ユーザビリティ、ハートビル法、バリアフリー	仙田　満（東京工業大学名誉教授）	仙田　満（東京工業大学名誉教授）
11	デザインのグローバリズムとリージョナリズム	文明の進展につれて、インターナショナルからグローバルへと、産業もデザインも変化している。また逆に地域と場所に即したアイデンティティとデザインが求められている。ここでは北陸の金沢と、北欧のフィンランド、スエーデンを採り上げ、その風土と歴史の中に醸成されたデザインを論じながら、デザインのリージョナリズムに力点を置いて論説する。 【キーワード】 情報、金融、場所、風土、伝統、工芸、文学、木材、アアルト、イケア、アスプルンド	若山　滋（名古屋工業大学名誉教授）	若山　滋（名古屋工業大学名誉教授） ゲスト：マリメッコ社デザイン部長、アアルト大学広報部長
12	デザイン価値を守る方法	デザインは、商品価値やブランド価値を高めるために重要な役割を担っているが、模倣されやすい特性を持つ。デザイン価値を経営資源として活かすためには、知的財産権によるデザインの法的保護が必要である。本講では、事例を参照しながら、デザイン価値を守る方法について解説する。 【キーワード】 デザイン模倣、知的財産権、意匠権、著作権、不正競争防止法、権利侵害、権利行使、デザイン係争事件	渡邉　知子（弁理士、渡邉知子国際特許事務所代表）	渡邉　知子（弁理士、渡邉知子国際特許事務所代表） ゲスト：本田技研工業(株)知的財産部、藤沼　祐介（パブリックデザイン代表）
13	デザインの競争力を高める知的財産権	デザインを活用して、商品価値やブランド価値を高めるためには、それぞれのビジネススタイルに適した形でデザイン価値を保護し、かつデザインの競争力を高める知財戦略が必要である。本講では、異なるビジネス分野の事例を参照しながら、デザインの競争力を高める知的財産権の活用方法について考察する。 【キーワード】 デザイン開発、知財戦略、国際商標登録、部分意匠権、商標権、キャラクターデザイン・ビジネス、キャラクターライセンス契約	渡邉　知子（弁理士、渡邉知子国際特許事務所代表）	渡邉　知子（弁理士、渡邉知子国際特許事務所代表） ゲスト：（株）LIXIL商品開発部、柴田　文江（インダストリアルデザイナー）
14	デザイナーと組織	デザイン戦略実践のために不可欠な組織的能力はいかに獲得、実践されるのか。それはどのような能力、組織によって具現化できるのか。本講では、デザインマネジメントの観点からデザイナーとその組織について、デザインの資産としての活用とそのための知の方法論の面にハイライトをあてて考察する。 【キーワード】 IDEO、デザインマネジメント、知識資産としてのデザイン、インハウスデザイン組織、イノベーション、デザインという知の方法論、プロデューサー	紺野　登（多摩大学大学院教授）	紺野　登（多摩大学大学院教授） ゲスト：大澤　隆男（元日立デザイン本部長）
15	日本のデザイン価値の創造	資源のない日本においてデザイン、技術、素材は、世界競争の時代における機動力の両輪である。日本のデザインの強みはその精緻さと遊びという2つの要素にあることを明らかにしつつ、将来における日本のデザインの課題と展望について論ずる。 【キーワード】 デザイナーの規模、デザインの評価、創造力を喚起する社会システム、アワード、コンペ、デザインミュージアム、デザインフェア、MUJI、あそびとデザイン	仙田　満（東京工業大学名誉教授）	仙田　満（東京工業大学名誉教授） 若山　滋（名古屋工業大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639412	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 環境の可視化 （’１５）＝ （TV）

－地球環境から生活環境までー

英文名 ＝ 〔Visualization of Environments (’15): from Global Environments to Living Environments〕

〔主任講師（現職名）：梅干野　晃　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：中村　恭志　（東京工業大学准教授）　〕

講義概要

今日の地球環境時代、環境についての正しい理解がますます重要となる。本講義では、お互いが入れ子構造にある地球環境から日常の生活環境までを環境の対象として、主に次の4テーマを扱う。
①表面温度を可視化して熱環境を読む、②水の流れを可視化して水環境を読む、③地盤探査により地盤環境を読む、そして、④今日注目されている環境のリモートセンシング技術に焦点を当てる。
可視化画像がどのように作成されるか。観測－解析、またはシミュレーション、その結果の可視化について、各プロセスの過程を丁寧に解説しながら、可視化画像の物理的意味を理解した上で、可視化画像を読む。
印刷教材にも多くのカラーの可視化画像を掲載し、放送教材では動画も取り入れている。楽しみながら、環境の可視化画像を味わっていただきたい。環境の理解が深まることを期待する。

授業の目標

環境問題は直接目に見えないことが多いため、その本質を理解することは難しい。これを画像として可視化することにより、その理解を助け、かつ感性に訴えられると考える。可視化技術や可視化画像の読み方など本講義で得た知識をもとに、今日取り上げられるいろいろな環境分野の可視化画像の理解に役立ててほしい。
環境問題の発生原因や歴史的経緯も踏まえながら、可視化画像により環境の実態を正しく理解した上で、安全で環境負荷の少ない快適な環境づくりに取り組んでいただきたい。

履修上の留意点

本講義は、可視化により環境を理解することを目的としているが、その背景にある物理現象や、観測、解析、シミュレーション、可視化技術を理解することも重要である。本講義では、その基礎知識があることを前提とした上で、より詳しく知りたい人のための節も印刷教材には設けた。
【関連する科目名】「都市・建築の環境とエネルギー(’14)」

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	環境と可視化 －環境の可視化とは－	環境の可視化とは何かを考える。本講義で対象とする地球環境から生活環境はお互いが入れ子状態になっていることを、ヒートアイランド現象を例に解説するとともに、可視化画像、特にデジタル画像の特徴を述べながら、科学的アプローチによる環境の可視化技術について基本的事項を理解する。最後に、本講義の構成と特徴を示す。 【キーワード】 地球環境、生活環境、環境の可視化、熱環境、水環境、地盤環境、リモートセンシング	梅干野　晃（放送大学教授） 中村　恭志（東京工業大学准教授）	梅干野　晃（放送大学教授） 中村　恭志（東京工業大学准教授）
2	可視化の手法	環境で生じる現象は実に様々であり、可視化の際には着目する環境現象ごとにその特徴が明確に読み取ることができる可視化の表現方法を選択しなければならない。環境現象の時間的な変化と、空間的な分布、そして環境の動きの様子や、現象の持つ特徴を明確に可視化するための基本的な表現方法を紹介するとともに、それぞれの利点について示す。 【キーワード】 可視化の目的、表現方法、スペクトル、時間変化、空間分布	梅干野　晃（放送大学教授） 中村　恭志（東京工業大学准教授）	梅干野　晃（放送大学教授） 中村　恭志（東京工業大学准教授）
3	リモートセンシングによる可視化	環境のリモートセンシング技術について、観測、解析、可視化の一連の流れを概説する。環境をとらえるセンサの電磁波の感度波長に着目し、可視光に加え、赤外、マイクロ波でとらえられる環境とは何かを考えながら、環境分野の利用技術とその可視化技術について理解する。最後に、合成開口レーダーによる環境の可視化について事例を紹介する。 【キーワード】 リモートセンシング、電磁波、波長、可視光、赤外、マイクロ波、分光特性、合成開口レーダー、災害情報	梅干野　晃（放送大学教授） 野中　崇志（日本大学専任講師）	梅干野　晃（放送大学教授） 野中　崇志（日本大学専任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	表面温度の可視化①―表面温度と熱環境―	太陽放射をはじめとした伝熱現象によっていろいろな面の表面温度が決まる。熱環境を規定する伝熱現象と、その中での表面温度の位置づけを理解する。次に、この表面温度を把握する有効な方法である赤外線放射カメラについて、その計測の原理を説明し、空間的、時間的な表面温度の可視化によって熱環境の一面がとらえられることを示す。また、熱画像を読むときの注意点についても触れる。 【キーワード】 伝熱現象、表面温度、放射温度、熱収支メカニズム、赤外線放射カメラ、熱画像	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）
5	表面温度の可視化②―生活空間の熱環境―	生活空間の熱環境を規定する建築の熱的性能を概観した上で、赤外線放射カメラによる熱画像によって把握できる生活空間の熱環境について整理する。さらに、生活空間の熱環境と快適性の関係を理解した上で、全球熱画像を用いて算出できる、平均放射温度（MRT）を紹介する。最後に、表面温度を可視化した熱画像を見ながら、建築の日射遮蔽、断熱・気密性能や、住宅のダイレクトヒートゲインシステムの効果などを議論する。 【キーワード】 生活空間、建築熱性能、日射遮蔽、断熱・気密性、赤外線放射カメラ、熱的快適性、平均放射温度	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）
6	表面温度の可視化③―都市・地域の熱環境―	都市と地域の熱環境を、航空機リモートセンシング画像や、GIS情報、シミュレーション技術を用いて可視化する手法を紹介し、可視化情報の読み取り方について理解する。特に今日話題になっているヒートアイランド現象を取り上げ、その主要な形成要因である土地被覆と、表面温度に表れるヒートアイランド現象の実態との関係を可視化画像で読み取る。 【キーワード】 航空機MSS、マルチスペクトラル、マルチテンポラル、GIS、ヒートアイランド現象、数値シミュレーション	梅干野　晃（放送大学教授） 浅輪　貴史（東京工業大学准教授）	梅干野　晃（放送大学教授） 浅輪　貴史（東京工業大学准教授）
7	表面温度の可視化④―熱環境の設計と可視化―	都市に快適な熱環境をつくり出す”環境設計”を取り上げ、コンピュータを用いた数値シミュレーションにより都市の熱環境を可視化し、環境の設計に活用する方法について学ぶ。特に3DCADを用いた熱環境の設計と可視化の考え方、数値シミュレーションによる表面温度の予測と様々な可視化方法、および街づくりにおける環境設計への応用について理解する。 【キーワード】 環境設計、数値シミュレーション、3DCAD、都市、ツール	梅干野　晃（放送大学教授） 浅輪　貴史（東京工業大学准教授）	梅干野　晃（放送大学教授） 浅輪　貴史（東京工業大学准教授）
8	水の流れの可視化①―流れと水環境―	河川や湖沼などは人々の生活の重要な基盤となっている。この回と続く第9回及び第10回では、水環境を構成する要素のうち“水の流れ“に着目し、その可視化がどのように為され、水環境の健康状態を把握する上で活かされているのかを学ぶ。この回では、水環境における”水の流れ“の役割について概説した後、水の流れの代表的な可視化手法を紹介する。 【キーワード】 水環境と流れ、流れの光学的可視化、流速計測	中村　恭志（東京工業大学准教授）	中村　恭志（東京工業大学准教授）
9	水の流れの可視化②―現地観測データによる可視化―	水環境でなにが生じているのかを知る第一歩は、実際の現場に赴き測定を行う「現地観測」である。現地観測では広大な水域を対象にするため、観測されるデータは限定的となる。それらを可視化し、水環境の状態を読み解くためには、複数のデータを組み合わせて手がかりを増やすことや、物理的な原理に関する知識から現象を解釈することが必要となる。現地観測の特徴について述べた後、上記の工夫がどのように行われるのかを紹介する。 【キーワード】 現地観測、モニタリング観測、集中観測	中村　恭志（東京工業大学准教授）	中村　恭志（東京工業大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	水の流れの可視化③ ーシミュレーションによる可視化ー	広大な広がりを持つ水環境の可視化では、コンピュータシミュレーションによる水の流れの解析が役に立つ。コンピュータシミュレーションの原理、シミュレーションによる環境の模擬、シミュレーションによる可視化が水環境把握で果たす役割について解説し、さらに、シミュレーションによる可視化活用の例を紹介する。 【キーワード】 シミュレーションの原理、モデル化、シミュレーションの役割	中村　恭志 （東京工業大学准教授）	中村　恭志 （東京工業大学准教授）
11	地盤の可視化① ー地盤の物理探査ー	地表から地球内部の物性を可視化する技術は物理探査といわれており、地表での様々な地球物理学的な計測データから地下の物性分布の空間的分布を知ることができる。地盤の可視化技術の基本を理解した上で、その適用例として、地盤の可視化で用いる物理現象を紹介する。 【キーワード】 物理探査、 地球物理学、 弾性波、 走時、 比抵抗、 重力	山中　浩明 （東京工業大学教授）	山中　浩明 （東京工業大学教授）
12	地盤の可視化② ー地盤の可視化と逆問題ー	地盤の可視化において重要な技術のひとつに、観測データから地盤の内部を表すモデルのパラメータを推定する逆問題がある。地盤の可視化における地盤のモデル化と観測データの逆問題の考え方について解説する。さらに、具体的な逆問題の解き方を示しながら、逆解析によって得られた可視化画像を読む。 【キーワード】 データ処理、微分方程式、逆解析、逆問題、最小2乗法、地盤のモデル化	山中　浩明 （東京工業大学教授）	山中　浩明 （東京工業大学教授）
13	地盤の可視化③ ー可視化情報の利用ー	物理探査では、深さ数mから数十kmと様々なスケールでの地盤情報が得られる。地盤の可視化技術によって、時代ごとに社会のニーズに応じた地盤の情報が提供されてきた。ここでは、地盤の可視化情報の具体的な利用事例として、地球科学の調査研究への応用、天然資源を探す、災害を防ぐ、社会基盤の維持に役立つ可視化情報、環境を守る可視化情報、について解説する。 【キーワード】 地球科学、資源探査、地震災害、非破壊検査、環境モニタリング	山中　浩明 （東京工業大学教授）	山中　浩明 （東京工業大学教授）
14	地球環境の可視化	今日の地球環境時代、地球環境問題への科学的アプローチに大きく貢献している衛星リモートセンシング技術と、グローバルな地球環境の可視化画像より得られる情報について説明する。さらに、地球観測衛星（特に国産衛星）とその様々な利用事例を取り上げ、リモートセンシングデータの解析及び可視化画像の作成の過程を解説しながら、地球環境の可視化画像を読む。 【キーワード】 プラットフォーム、空間分解能、地球環境、付加価値製品、土地被覆、地形、二酸化炭素分布	梅干野　晃 （放送大学教授） 野中　崇志 （日本大学専任講師）	梅干野　晃 （放送大学教授） 野中　崇志 （日本大学専任講師）
15	可視化画像の利用と今後の展開	本講義で学んできた「環境の可視化」についてふり返るとともに、可視化画像を読む際の手助けとなる事項をおさらいする。身近な可視化情報として気象と災害に関する可視化画像を取り上げ、これらを読んでみることで学んできた事項を確認する。最後に、バーチャルリアリティをはじめ、今後の環境の可視化の進展について展望する。 【キーワード】 可視化画像の読み方、気象情報、災害情報、バーチャルリアリティ、これからの可視化	梅干野　晃 （放送大学教授） 中村　恭志 （東京工業大学准教授）	梅干野　晃 （放送大学教授） 中村　恭志 （東京工業大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639358	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 都市・建築の環境とエネルギー （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Cities,Buildings,Environment and Energy (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：梅干野 晃 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

これからの地球環境時代、環境負荷の小さい安全で快適かつ健康的な環境共生社会を実現しなければならない。それには、これまでの機能性、利便性優先の都市生活に対するパラダイムシフトと、バナキュラー建築を原点とした環境と共生した都市・建築のあり方が求められてくる。本講義では、このような視点に立って、環境共生社会の実現のために、街づくりに焦点を当てて、環境、特に熱環境とエネルギーについて考える。
第1章～第7章：はじめに都市・建築と気候・風土との関係を概観する。そのうえで、都市環境問題、特にヒートアイランド現象と日常の生活空間における熱環境の実態を明らかにし、今なぜ熱環境が問題なのかを考える。さらに、都市及び建築を支えるエネルギー施設について理解しながら、都市から建築におけるエネルギーの流れを把握する。
第8、9章：都市生活のライフスタイルのパラダイムシフトは必須である。ここの2章では、都市・建築環境の主体である人間と環境のかかわりについて理解を深める。そしてさらに、これからの都市・建築環境とのかかわり方について考える。
第10章～第15章：環境共生社会を実現するために、建築外部空間に着目し、街づくりの基本的な考え方と設計規範を述べたうえで、日射・日照調整、通風計画、都市・建築緑化、クールスポットの形成などの具体的な手法やスマートコミュニティなどについて必要な知識を取得する。
放送教材では、日本の気候風土と大きく異なる砂漠地域の沿岸都市アブダビとオアシスのアルアイン（アラブ首長国連邦）を比較対象として紹介しながら講義を進める。

授業の目標

街づくりにあたっては、今まで慣れ親しんでいるその土地の気候・風土や、その土地の持つポテンシャル見抜かねばならない。そのために人間と環境とのかかわりと、環境、すなわち、気候・風土、自然エネルギーについての深い理解を得ることを目標とする。環境負荷の少ない快適な街づくりを実現するための具体的な技術を理解しながら、地球環境時代の街及びライフスタイルはどうあるべきかを自分の問題としてとらえ、街づくりに活かしてほしい。

履修上の留意点

具体的な建築外部空間の写真や3D-CADに加えて、熱環境を可視化した赤外線放射カメラによる熱画像やシミュレーション結果の3D画像などを示しながら講義を進める。目に見えない熱環境やエネルギーを少しでも感性を奮い立たせて理解していただきたいと思う。この授業を通して、都市・建築、そして街の環境には、目に見えない熱、空気、音などが日常の生活を大きく規定し、街づくりと深く関わっていることに気づいてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	都市・建築を環境とエネルギーから考える	はじめに本講義のねらいと全体の構成を説明する。 本講義の問題提起として、都市に着目し、日本の都市環境の実態を明らかにしたうえで、今なぜ、熱汚染なのかを考える。さらに、今日の地球環境時代における環境共生社会を実現するうえで、街づくりのために建築外部空間に焦点を当てる意義について述べる。 【キーワード】 環境共生社会、都市環境問題、街づくり、建築外部空間、バナキュラー建築、国際建築様式	梅干野 晃（放送大学教授）	梅干野 晃（放送大学教授）
2	気候と都市・建築	都市・建築はもともと地域の気候・風土に根ざしたものである。環境共生社会の実現には、この原点に帰る必要があろう。地域の気候・風土を理解し、そのポテンシャルを最大限に生かした街づくりが求められる。 はじめに、日本の位置を確認するとともに、世界の都市と比較しながら日本の気候特性を把握し、さらに環境設計の視点から、地域性も踏まえて気候特性を読み解く。 【キーワード】 緯度、日照時間、気温・湿度、降水量、積雪量、クリモグラフ	梅干野 晃（放送大学教授）	梅干野 晃（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	都市気候とヒートアイランド	都市に形成される特有な気候、都市気候について、その形成要因と特徴を概観する。 次に、ヒートアイランド現象に着目し、衛星と航空機リモートセンシングによる画像を示しながら、大都市と小都市におけるヒートアイランド現象の実態をとらえる。ヒートアイランド現象の主要因が土地被覆の改変であることを示すとともに、今なぜ、ヒートアイランド現象なのかを考える。 【キーワード】 都市気候、ヒートアイランド、リモートセンシング、熱画像、土地被覆の改変、人工排熱	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）
4	生活空間の熱環境	はじめに、人体の熱平衡と熱的な快適性との関係について考え、熱放射の評価指標として平均放射温度について理解する。その上で、生活空間における熱環境の実態を熱画像によって可視化するとともに、建築外部空間に放出される人工排熱について把握する。さらに、冷房がヒートアイランド現象の形成要因になるのかどうかを議論する。 【キーワード】 生活空間、熱的快適性、平均放射温度、人工排熱、熱中症	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）
5	生活を支える都市エネルギー施設	都市で生活を営むには様々なエネルギーが必要であり、安定的に供給して需要に供し、不要物を確実に排出するには都市固有の都市施設が社会のルールに基づいて建設整備される必要がある。 5章から7章にかけては様々な角度から都市施設について解説する。特に、5章では、人間生活の基本であると同時にエネルギー供給とも関係の深い水と廃棄物の都市内施設について紹介し、都市の熱エネルギー利用の側面からこれらの施設との関係を日本と欧州の比較をしながら解説する。 【キーワード】 都市施設、地域冷暖房、欧州の熱供給施設、複合エネルギー利用	金島　正治（日本大学特任教授）	金島　正治（日本大学特任教授）
6	建築を取巻くエネルギー施設	建築で利用されるエネルギーは都市に設置された各種のエネルギー施設を通じて個別の建築に導入される。建築サイドでは、安全で安定してエネルギーを受けるとともに、建築内で発生する不要物を適切な方法で都市の施設に戻す必要がある。そのため、建築内には様々な建築設備が設置され、居住者が安全で健康な生活を営めるような仕組みが構築されねばならない。各エネルギーがどのように取り入れられて利用されているか、効率的に利用するためにどのような工夫がなされているか、エネルギー利用を削減する工夫にどのようなものがあるかを解説する。 【キーワード】 建築設備、エネルギー変換、運営管理、自然エネルギー利用	金島　正治（日本大学特任教授）	金島　正治（日本大学特任教授）
7	都市・建築におけるエネルギー利用	都市のエネルギー消費の変遷を通して、生活の質の変化とエネルギー消費量の変化を確認する。さらにエネルギーを利用する場所や利用レベルの調整により様々な施設感の相互融通利用などの可能性について確認する。 【キーワード】 エネルギー消費動向、省エネルギー、エネルギー利用の流れ、エネルギーの安全・安定供給	金島　正治（日本大学特任教授）	金島　正治（日本大学特任教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	人間と環境	環境の定義を明確にした上で、環境の基本的な性質を述べ、もっとも身近な環境―建築環境―と人の身体との関係を概観して、人間と環境とがどのような関係にあるかを考える。 【キーワード】 入れ子構造、建築環境、体内環境、脳環境情報、学習	宿谷　昌則（東京都市大学教授）	宿谷　昌則（東京都市大学教授）
9	これからの人間と環境との係わり方 －エクセルギーで読む環境づくり	本章では、エクセルギーと呼ばれる熱力学概念を紹介し、人の体温調節機構がエクセルギーの観点から見て、どのように理解することができるかを概説する。 【キーワード】 エクセルギー、資源性、環境、消費、放射温度	宿谷　昌則（東京都市大学教授）	宿谷　昌則（東京都市大学教授）
10	熱環境・エネルギーの基本 －太陽放射	建築外部空間の熱環境を規定するもっとも主要なものが太陽放射である。はじめに太陽放射について基礎知識を得たうえで、建築外部空間における微気候形成の基本となる太陽放射の熱収支について理解する。さらに日常生活と太陽放射との関わりを日射と日照として認識したい。最後に街づくりと深く関わる太陽位置を知る方法を習得する。 【キーワード】 太陽放射、熱収支、日照と日射、建築外部空間、日影図	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）
11	街づくりのための環境設計	環境共生社会における街づくりのための環境設計について、その基本的な考え方を確認したうえで、具体的な設計手法として最も基本的な日射・日照調整と街の通風計画をとりあげ、それぞれの設計規範、具体的な方法とその効果などについて解説する。 【キーワード】 地域の気候特性、環境設計、日射調整、照り返し、通風計画	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）
12	都市・建築緑化と街づくり	気候・風土と都市・建築緑化との関係を考えながら、都市・建築緑化の意義を明確にする。さらに、具体的な手法を整理し、それぞれの環境調整効果をまとめる。最後に、屋上緑化をとりあげ、屋上緑化の具体的方法と、断熱効果．焼け込み防止効果との関係を定量的に議論する。 【キーワード】 都市緑化、建築緑化、グリーンアーキテクチュア、街づくり、環境調整効果、屋上緑化	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）
13	街にクールスポットをつくる	日本の夏の生活環境を理解した上で、街に涼しい生活空間（クールスポット）をつくり出すための設計の規範を示す。クールスポットをつくり出すための具体的な方法として、蒸発冷却、冷熱源としての大地の利用、蓄冷、大気放射冷却に着目し、それらの効果についての知識を得る。さらに蒸発冷却による具体的な事例を取り上げ、その効果を議論する。 【キーワード】 クールスポット、蒸発冷却、大気放射冷却、蒸発冷却壁体	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	これからのエネルギー利用を考える	施設の全運営期間について評価するライフサイクルによる考え方を紹介し、エネルギー使用量の評価にとどまらず、地球温暖化に大きな影響を及ぼすCO2ガスに代表される温暖化ガス排出量による評価についても解説する。さらに社会的な評価の動向についても学ぶ。 【キーワード】 ライフサイクル（LCC.LCCO2）、温室効果ガス（GHG）、スマートコミュニティー、企業の社会的責任（CSR）	金島　正治（日本大学特任教授）	金島　正治（日本大学特任教授）
15	これからの街づくりに向けて	これからの街づくりに向けて、今日の都市を改めて問い直し、そのキーワードのひとつにヒートアイランド現象があることを提起する。さらに、これからの街づくりの具体的アプローチとして、都市・建築緑化による街づくりの提案事例ををとりあげて、街の熱環境の予測・評価について議論する。なお、放送教材では、実験都市マスダール（アブダビ）などの新しい街づくりの事例も紹介する。 【キーワード】 環境共生都市・建築、脱ヒートアイランド、都市・建築緑化、街づくり	梅干野　晃（放送大学教授）	梅干野　晃（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	総合科目	科目コード	1930010	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 権力の館を考える （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Explorting the Architectures of Power (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：御厨　貴　（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：山岡　龍一（放送大学教授）】

講義概要

建築(空間)と政治についての考察を深める。共通の題材として「権力の館」をとりあげる。主として、日本の大小の権力機構や権力者の館(建物)を重点的にとりあげ、それと政治との相関関係を考える。日本以外でも東アジアやイラン・イスラムの同様の館に目配りをする。

授業の目標

建築(空間)と政治との相互規定性や、建築家と政治家との緊張関係、建物の動線のあり方などを立体的、三次元的把握を可能とする授業構成をめざす。この番組を勉強すれば、建築(空間)と政治権力の館についての一通りの理解を得られるようにする。

履修上の留意点

印刷教材と放送教材とを駆使して、権力の館の実態に迫ることがベースにあるが、受講者は自分の住んでいる所、あるいは勤めている所、自分の生まれ育った所などをふり返り、自らが権力の館を発見しそれを考察するといった積極性が望まれる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	権力の館とは何か	建築と政治、権力の館についてのイントロダクション。そのダイナミクスにふれながら、宮中と政治(西園寺公望、近衛文麿の邸宅)を具体的にとりあげる。 【キーワード】 建築(空間と政治)、権力の館	御厨　貴(放送大学客員教授)	御厨　貴(放送大学客員教授)
2	三権の館	立法、司法、行政という3つの国権の館をとりあげる。首相官邸、国会議事堂、最高裁判所である。 【キーワード】 官邸、公邸、議事堂、最高裁	御厨　貴(放送大学客員教授)	御厨　貴(放送大学客員教授)
3	天皇を守る館	宮内庁、旧枢密院、警視庁をとりあげる。明治以来、天皇と皇室のあり方を、それぞれの立場で守った館の一群である。 【キーワード】 天皇、宮城、皇居	御厨　貴(放送大学客員教授)	御厨　貴(放送大学客員教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	政党の館	自民党、民主党、公明党、共産党、旧社会党をとりあげる。 【キーワード】 政党、派閥	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）
5	地方の館	都庁、道庁、沖縄県庁をとりあげる。 【キーワード】 庁舎、知事公邸、シティホール	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）
6	首相の館①	吉田茂、鳩山一郎、岸信介の館をとりあげる。 【キーワード】 大磯御殿、音羽御殿、御殿場邸	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）
7	首相の館②	池田勇人、佐藤栄作、田中角栄、三木武夫の館をとりあげる。 【キーワード】 信濃町、淡島、目白、南平台	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）
8	首相の館③	福田赳夫、大平正芳、中曽根康弘、竹下登の館をとりあげる。 【キーワード】 駒沢、瀬田、日の出町、淡島	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）
9	軽井沢の館	戦前の館群と戦後の館群とに分けて、それぞれの時代の館の効用について考える。 【キーワード】 旧軽井沢、新軽井沢、中軽井沢、追分	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）
10	関西の館① 大阪城天守閣と旧第四師団司令部庁舎	大阪の権力の館について多面的に考察する。 【キーワード】 城郭、陸軍、天守閣、第四師団	井上　章一（国際日本文化研究センター教授）	井上　章一（国際日本文化研究センター教授） 御厨　貴（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	関西の館② 紫宸殿・清涼殿	京都御所・内裏・寝殿造を通じて、京都の権力構造と館について多面的に考察する。 【キーワード】 内裏、紫宸殿、清涼殿、寝殿造	井上　章一（国際日本文化研究センター教授）	井上　章一（国際日本文化研究センター教授） 御厨　貴（放送大学客員教授）
12	アジアにおいて権力の館はどのように受容されたか	東アジア（台湾、朝鮮など）の権力の館について立体的に考察する。 【キーワード】 台湾総督府、朝鮮総督府、解体、保存	五十嵐　太郎（東北大学教授）	五十嵐　太郎（東北大学教授） 御厨　貴（放送大学客員教授）
13	ペルセポリス/権力の劇場	紀元前そして紀元後にわたる壮大な歴史的パノラマを背景とするペルセポリスを権力の劇場として多角的に考察する。 【キーワード】 イラン、イラク、イスラム、ペルセポリス	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授） 御厨　貴（放送大学客員教授）
14	イスファハーン	イラン中部の重要都市たるイスファハーンを具体的にとりあげて、政治と宗教の関係を歴史的に追究する。 【キーワード】 政治と宗教、世界遺産、原子力施設	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授） 御厨　貴（放送大学客員教授）
15	「権力の館」を語る ー「適切な状況規定」と「新しい公共の館」ー	権力の館の総体について、建築家を始め様々な人々の意見や見識を参考にしながらテーマを展望する。 【キーワード】 権力の館、建築（空間）と政治	御厨　貴（放送大学客員教授）	御厨　貴（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	総合科目	科目コード	1930028	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 海からみた産業と日本 （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Maritime Industry and Japan (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：池田 龍彦 （放送大学神奈川学習センター所長） 〕

〔主任講師（現職名）：原田 順子 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

島国であるわが国において海運は輸送生命線であり、国内外の安定した海上物流は経済の安定と繁栄の基盤である。近年では、日本企業のグローバル展開に伴い、グローバルなサプライチェーンマネジメントが発達してきた。そのなかで大量の荷物の結節点である港湾は重要で、経済規模にみあった戦略的整備の必要性は極めて高い。以上の事柄に包括的な影響を与えるのが国内外の海事管理である。海事管理の枠組み、海事人材、海事クラスター、海に親しむ活動等もとりあげる。

授業の目標

現代社会においては、物流とそのネットワークが戦略経営の要となっている面があろう。なかでも海運は、わが国においては特に重要性が高い。日本企業がグローバル展開する現代では、高度な物流が果たしている役割は想像以上に大きい。産業・経営の基盤として海運、国際物流、港湾、海事管理等について学習することで、島国である日本経済の維持・発展を考える基礎的知識を得ることを目標にする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	わが日の本は島国よ	日本は島国であり、日本経済の維持と発展に船と港は欠かせない。鉱物性燃料、食料品、原料品はそのほとんどを輸入に依存している。わが国は資源に乏しいことから、産業部門は燃料・原料の輸入が必須であると同時に、燃料と食料は家計部門の消費に不可欠である。さらに、様々な経済環境の変化の結果、企業の海外進出が進んできたことを学習する。 【キーワード】 経常収支、貿易収支、エネルギー自給率、食料自給率、対外直接投資	原田 順子（放送大学教授）	原田 順子（放送大学教授）
2	経済と運輸 ～島国日本の今～	島国であるわが国の経済は海運への依存度が極めて高く、海運は日本の輸送生命線である。また、日本企業のグローバル展開（特にアジアにおける水平分業の進展）に目を向けると、海運を含めた国際複合輸送が必要な経済構造に日本企業が組み込まれていることが理解できる。最後に、国による輸送インフラの整備の動きとその重要性を学習する。 【キーワード】 海上輸送、グローバル経済、アジア物流圏、中間財、分業	原田 順子（放送大学教授）	原田 順子（放送大学教授）
3	海運について(1) ～その現状～	日本の外航海運の概要とその必要性について理解する。 【キーワード】 商船、軍艦、海賊、便宜置籍船、IMO	合田 浩之（日本郵船株式会社）	合田 浩之（日本郵船株式会社）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	海運について(2) ～その歴史～	日本の海運の歴史的展開を学習する。 【キーワード】 近代化、海国日本、通商擁護、通商破壊、計画造船、専用船、コンテナ化	合田　浩之 (日本郵船株式会社)	合田　浩之 (日本郵船株式会社)
5	海運について(3) ～その未来～	海運会社の事業（現代の状況と将来課題）について理解する。 【キーワード】 企業立地、メタンハイドレート、海底金属鉱物資源、洋上電源開発、北極海航路	合田　浩之 (日本郵船株式会社)	合田　浩之 (日本郵船株式会社)
6	港湾活動と社会発展	港の機能は、商港、工業港、エネルギー港、観光港、漁港、避難港等多岐にわたっているが、それぞれ背後圏の発展に大きく貢献している。首都圏やタイ国のレムチャバン港を事例に、港湾活動がどのように背後圏の社会経済発展に寄与しているか分析を行う。また、港と市民生活がどのように密接に関係しているかを学ぶ。 【キーワード】 国際戦略港湾、港の機能、港湾活動、経済発展、レムチャバン港、市民生活	池田　龍彦 (放送大学神奈川学習センター所長)	池田　龍彦 (放送大学神奈川学習センター所長)
7	港湾開発の歴史と現状	海外との交易は港を通して行われる。1859年の開港以来、横浜港をはじめとする外国貿易港湾は外海からの波から遮蔽された自然条件の比較的よい地域に建設されたが、その後、小樽港等の外海に直接面した地域にも港湾の整備が可能になった。そして、日本の高度経済成長を支えた臨海工業地帯が港湾開発を核として整備され、現在は国際コンテナ戦略港湾政策を推進している。 【キーワード】 横浜港、野蒜港、小樽港、廣井勇博士、臨海工業地帯、新産業都市、工業整備特別地域、国際コンテナ戦略港湾、マリコン	池田　龍彦 (放送大学神奈川学習センター所長)	池田　龍彦 (放送大学神奈川学習センター所長)
8	港湾を舞台に活躍する企業や機関	港湾は船舶を介して海の向こうの港湾と結んでモノや人を運搬し交流させるゲートウェイの機能を有している。安全かつ効率的にその機能を発揮するために、数多くの種類の企業や機関が分担し協調して業務を遂行している。港湾の活動を概観しながら、これらの企業や機関の働きについて勉強する。 【キーワード】 船舶通信業、港湾管理者、パイロット、港湾運送業、倉庫業、コンテナターミナル	池田　龍彦 (放送大学神奈川学習センター所長)	池田　龍彦 (放送大学神奈川学習センター所長)
9	国際物流(1) ～コンテナ船の発達と国際物流～	コンテナリゼーションが国際物流の発展に寄与した経緯と国際物流の現状について理解する。 【キーワード】 物流、ロジスティクス、サプライチェーン、コンテナリゼーション	石原　伸志 (東海大学特任教授)	石原　伸志 (東海大学特任教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	国際物流（2） ～産業の空洞化と日本港湾の衰退～	いまだ続く産業の空洞化の現状と日本の港湾が衰退した理由を理解する。 【キーワード】 産業の空洞化、円高、日本港湾の地位の低下、地方港	石原　伸志（東海大学特任教授）	石原　伸志（東海大学特任教授）
11	国際物流（3） ～セキュリティと国際物流～	同時多発テロが起点となって、セキュリティが強化されていく過程と同時多発テロが国際物流（特に海上輸送）に与えた影響について理解する。 【キーワード】 米国同時多発テロ、セキュリティ、AEO、船積み24時間前ルール、キャッチオール規制	石原　伸志（東海大学特任教授）	石原　伸志（東海大学特任教授）
12	日本の海事管理と課題	日本の海事管理の概要を理解する。海洋基本法および海洋基本計画について解説し、現代の課題を明らかにする。さらに、海洋基本計画のなかに掲げられた「船員の確保と育成」の現状と課題について理解を深める。 【キーワード】 海洋基本法、海洋基本計画、外航船員、内航船員	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）
13	国際海事管理（1） ～国際社会が抱える課題と対応～	海をとりまく国際社会が抱える課題を整理し、それがどのようにわが国に関係しているのかを考える。本章では、そうした課題を克服するために、国連機関と国際海事条約の役割に注目し、国際海事管理の枠組みを理解しよう。 【キーワード】 持続可能性、国際海事機関（IMO）、国際労働機関（ILO）、国際海事条約	北田　桃子（世界海事大学Assistant Professor（助教授相当））	北田　桃子（世界海事大学Assistant Professor（助教授相当））
14	国際海事管理（2） ～海事社会構造とマネジメント～	産業・教育・行政（産・学・官）の3点から海事社会構造を分析し、主に船員教育の観点から海事社会の歴史的変遷について考察する。海外の国際海事管理の事例として、海事クラスター、情報管理システムによるマネジメントの特性を理解し、国際海事管理のあり方の今後を探る。 【キーワード】 海事社会、マネジメント 、海事クラスター、情報管理システム、ICT	北田　桃子（世界海事大学Assistant Professor（助教授相当））	北田　桃子（世界海事大学Assistant Professor（助教授相当））
15	海洋文化を育む ～海への理解と教育～	海運を支える人材確保は急務であり、若年層をターゲットに広く、海への理解と教育を進める必要がある。国内外の具体的な海洋教育の取組を紹介し、日本の豊かな海洋文化を保全することの重要性を理解する。 【キーワード】 海洋教育、海洋文化、人材育成	北田　桃子（世界海事大学Assistant Professor（助教授相当））	北田　桃子（世界海事大学Assistant Professor（助教授相当））

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234242	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 哲学への誘い （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 An Invitation to Philosophy (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：佐藤　康邦　（放送大学客員教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：魚住　孝至　（放送大学教授）　】

講義概要

哲学が敬遠される理由の一つとして、その用語や思考法がいわゆる哲学専門のものであって、一般の人々の理解を拒んでいるかのように見えるということがあげられると思う。しかし、哲学的な考え方に対する関心は多くの人々の心の中にあるはずである。そこで、導入科目に属するこの授業では、普通哲学の問題とされている題材だけではなく、普通は哲学という学問には属さないと思われている題材も取り上げ、そこに哲学的な見方を導入するという方針を取ることにした。それは、個人の人生の問題から社会の問題や芸術の問題に至るまでの多岐にわたる。それによって、これまで哲学に触れることがなかった人々にも哲学に触れるきっかけを与えられればと思う。

授業の目標

大きく分けて三つのテーマが扱われる。最初は、哲学の源流でもある古代ギリシアの文化を、歴史、演劇、恋愛の三つの側面から取り上げ、それとギリシア哲学との関連を考える。二番目には、近代国家に生きる私たちの現実の問題を、哲学という観点から捉える。題材として、ヘーゲルの『法の哲学』が取り上げられるが、あわせて東西の国家論、経済理論も取り上げられる。最後には、文芸の問題として文学と絵画とが取り上げられ、それぞれが哲学観点からどのように捉えられるかが検討される。哲学主張が比較的わかりやすい文学だけではなく、その関係が一見わかりにくい絵画、彫刻の持つ哲学的意味について考える。

履修上の留意点

この科目は、同名の「哲学への誘い(’08)」の授業内容を基本的には受け継ぎながらも、変更も加え、新しい側面も加えたものである。導入科目である以上、わかり易さを第一に心がけてはいるが、すでに哲学に馴染んでいる学生にも興味のあるテーマが選ばれている。しかし、すでに行われた、「哲学への誘い(’08)」とは、多くの箇所で重なる内容であることに注意して欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	第Ⅰ部　古代ギリシアの知恵 ヘロドトスの『ヒストリア』	ペルシア戦争の記述を行った、歴史の父ヘロドトスの『ヒストリア』の検討をする。そのためには、古代ギリシア最盛期の成立にいたるまでの歴史をホメロスの昔に遡って検討する。また、古代ギリシア人のヒブリスについての考え方を理解する。 【キーワード】 ホメロス、トロイア戦争、ヒストリア、ペルシア戦争、ヒュブリスの諫め	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）
2	第Ⅰ部　古代ギリシアの知恵 トゥキュディデスとペロポネソス戦争（上）	アテネとスパルタとの間におこったペロポネソス戦争の記述を行ったトゥキュディデスの『戦史』を検討する。その歴史記述は、ヘロドトスとは異なって悲劇的なものであるが、最盛期ギリシアの最高の知性の産物であるとも言える。 【キーワード】 ペロポネソス戦争、ロゴス、エルゴン、因果性、価値判断からの自由	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	第Ⅰ部　古代ギリシアの知恵 トゥキュディデスとペロポネソス戦争（下）	『戦史』の内容の深さを示す、ペリクレスの追悼演説や、メロス事件、シシリー遠征の記述を通して、デモクラシーを初めギリシャ文化の特質について考える。 【キーワード】 ペリクレス、デモクラシー、正義、メロス事件、シシリー遠征	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）
4	第Ⅰ部　古代ギリシアの知恵 ギリシア悲劇	古代ギリシアの生み出した文化遺産のなかでも最も魅力的なものの一つであるギリシア悲劇は、アリストテレス、ヘーゲル、ニーチェ等の哲学者によって様々に論じられてきた。アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスの代表作を検討するとともに、哲学との関係を探る。 【キーワード】 トラゴイディア、ディオニュソス、アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデス	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）
5	第Ⅰ部　古代ギリシアの知恵 恋愛小説としてのプラトン	プラトンの対話篇にはエロスについての議論がしばしば登場する。『パイドロス』、『饗宴』などは、恋愛小説として読めるほどである。イデア論とエロス論との関係について検討する。 【キーワード】 エロス、球状人間、ソクラテス、恋の狂気、プラトニックラブ	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）
6	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学 ヘーゲル『法の哲学』の位置と抽象法（『法の哲学』第一部）	近代国家論として高い評価を受けているヘーゲルの『法の哲学』を検討する。始めは、法についての原理論である。まず、その始めのところにある契約説にもとづく国家論を検討し、それとヘーゲルの法論や国家論との関係を見る。 【キーワード】 モダン、社会契約説、国民国家、自然法、実定法	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）
7	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学 道徳（『法の哲学』第二部）と家族（『法の哲学』第三部人倫①）	ヘーゲルの『法の哲学』の特徴は、法の枠を超えた心の問題や人間関係の問題も扱っているところにある。ここでは、その例として道徳と家族について扱う。 【キーワード】 主観性、動機、意図、良心、家族、愛、婚姻	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）
8	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学 市民社会（『法の哲学』第三部人倫②）	『法の哲学』のなかでも高い評価を受けている市民社会論を、スミス、マルクス、ウェーバーとの比較のもとで扱う。経済学と国家論との関係が主題となる。 【キーワード】 資本主義、欲求の体系、司法、行政、職業団体	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）
9	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学 国家（『法の哲学』第三部人倫③）	国家を、君主、議会、官僚制の側面から検討するとともに、戦争と外交の関係について考える。 【キーワード】 国家、有機体、君主、統治、議会、戦争、世界史	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学 日本の近代国家	明治期における、福沢、明治憲法、教育勅語の思想を検討した上で、和辻哲郎の国家論について考える。 【キーワード】 福沢諭吉、教育勅語、社会主義、キリスト教、和辻倫理学	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）
11	第Ⅲ部　文芸と哲学 ドストエフスキーの文学と哲学	哲学関心を持つ人々の間でもドストエフスキーの存在は大きなものである。彼の『地下生活者の手記』『カラマーゾフの兄弟』から哲学的主題を引き出してみる。 【キーワード】 ロシア文学、ドストエフスキー、極限状態、シベリア、自由な信仰	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）
12	第Ⅲ部　文芸と哲学 日本近代文学と哲学	ドイツ哲学からも大きな影響を受けた森鴎外や、フランス文学のみならず哲学からも影響を受けた小林秀雄を通じて、哲学を専門としなかった人々の哲学的発言について考える。 【キーワード】 傍観者、空車、史伝、実践、理論	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）
13	第Ⅲ部　文芸と哲学 絵画と哲学（1）様式の基礎	20世紀の彫刻家、画家であるジャコメッティの言葉を手がかりに絵画の様式に関する考察を通して、視覚をめぐる哲学的主題を展開する。 【キーワード】 ミメーシス、イデア、様式、プラトン、ジャコメッティ	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）
14	第Ⅲ部　文芸と哲学 絵画と哲学（2）遠近法の諸問題①	絵画の奥行表現としての遠近法をめぐって、絵画と哲学の問題を考える。 【キーワード】 古代遠近法、ルネッサンス、視覚のピラミッド、3／4斜角デッサン、幾何学的遠近法	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）
15	第Ⅲ部　文芸と哲学 絵画と哲学（3）遠近法の諸問題②	遠近法と哲学の関係を、遠近法の解体期の近代絵画に即して検討する。ことに現象学派の哲学の視覚の理論を検討する。 【キーワード】 相対性理論、アフォーダンス、セザンヌ、現象学、始源的奥行き	佐藤　康邦（放送大学客員教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118072	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　近代哲学の人間像　　（’１２）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：佐藤　康邦　（放送大学客員教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：魚住　孝至　（放送大学教授）　】

講義概要

ルネッサンス以降の近代哲学について学ぶ。まず、ルネッサンス人文主義の哲学において近代的人間がどのように捉えられたかを見る。次にデカルトを中心に、近代科学と、近代的人間観の関係を見、さらにイギリス経験論、ドイツ観念論の哲学を検討する。そのように近代哲学の古典を検討することが本授業の主題であるが、そのことを踏まえた上で、今日にいたるまでの、実証主義的科学の興隆の時代における哲学の自己主張のありかたについて考える。

授業の目標

デカルト、ロック、カント、ヘーゲル、ベルクソンといった哲学者の名前は、良く知られた名前であろう。しかし、その思想内容となれば、何も知らないという方が多いのではないかと思う。しかし、近代社会、近代文化、近代科学という、日ごろ私たちが自明のものとして享受し対応しているものは、それを支える哲学あって成り立っているものなのである。自明の常識として受け取っているものの背後に広がる、広大な知性の世界について学ぶというのが、本授業の目標である。

履修上の留意点

本講義は、同講師の「現代を生きる哲学('07)」(閉講科目)を踏まえ、そのうち、近代の分を拡大したものという性格を持つが、人文主義や、ベルクソンについては、新たに付け加えられているものもある。その点に留意して、履修していただきたい。本科目の履修後あるいは前に「経験論から言語哲学へ('16)」、さらに「ドイツ哲学の系譜('14)」を履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	近代の目覚め ールネッサンスの人間像ー	ルネッサンスというとレオナルドやミケランジェロの造形芸術で有名であるが、哲学の方面でも新しい運動が起こった。それを代表するのが人文主義である。本章では人文主義者の、フィチーノ、ピコ、ポンポナッチ等について考えてみる。またそれと並んで、『君主論』で名高いマキアヴェッリについても検討する。 【キーワード】 人文主義、プラトン、アリストテレス、君主論	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)
2	近代科学の成立と哲学(1) ー科学革命とベーコンー	古代ギリシアから近世初頭までの科学思想を回顧する。特に、アリストテレスのエンテレケイアという概念にこめられた意味を考えた上で、それが、近世初頭においていかに批判されたかを検討し、いわゆる科学革命の時代の自然観を明らかにする。 【キーワード】 エンテレケイア、目的因、ガリレオ、科学革命	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	近代科学の成立と哲学(2) ーデカルトの哲学ー	「われ想う、われあり」という言葉をめぐって、デカルトの哲学および、近代哲学全体の性格を展望する。そこで、デカルト流の機械論的自然観を支える人間観がいかなるものであるのかを明らかにする。さらに、彼の後継者としてスピノザを取り上げ、それが、デカルトの哲学をどのように展開したかを考える。 【キーワード】 懐疑、延長実体、思惟実体、決定論	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)
4	近代科学の成立と哲学(3) ーデカルト哲学への批判ー	デカルトと同じく17世紀に属しながら、彼に対して何らかの形で批判的であった哲学者達を取り上げる。ホッブズはデカルトの思惟実体の哲学を批判したが、機械論の立場は堅持した。パスカルは信仰の点でも、人間観の点でも、デカルトを鋭く批判しつつ独自の近代哲学の立場を示した。さらにライプニッツのモナド論に近代の有機体論の源泉を見ることもできる。 【キーワード】 唯物論、繊細な精神、気晴らし、モナド	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)
5	経験論の哲学	イギリスの哲学の伝統である経験論の立場を代表する二人の哲学者、ロックとヒュームを取り上げる。ロックには、主観・客観の二元論に基づく典型的な認識論の原型を認め、ヒュームには、それを打ち壊してしまうまでに徹底した懐疑論の持つ斬新な意義を認めて、それぞれ検討を加える。 【キーワード】 白紙、感覚、単純印象、因果性	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)
6	アダム・スミスにおける倫理学と経済学	ヒュームと同じく感情を理性に優先させたスミスが、いかに「公平な観察者」の概念に基づく規範的な倫理学の体系を作りあげていったかを検討する。さらに、そこで、登場する、見えざる手の概念を手がかりにして、彼における倫理学と経済学のつながりについて考察を加える。 【キーワード】 共感、公平な観察者、見えざる手、経済学	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)
7	カントの哲学(1) ー『純粋理性批判』ー	近代哲学を代表するカントの『純粋理性批判』を通じて、彼の認識論の基本を検討するとともに、また、形而上学、神学についての考え方を検討する。そこに、観念論と経験論との新たな統合の道を展望するとともに、一切を支える位置に置かれた超越論的主観性の意味を学ぶ。 【キーワード】 直観、悟性、理性、物自体	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)
8	カントの哲学(2) ー『実践理性批判』ー	『実践理性批判』を通じて、カントの倫理学について学ぶ。そこで、自由と道徳とがどう結合しているのかを見、近代的自由の意義を知る。また、カントにおける哲学と宗教との関係を検討する。 【キーワード】 定言命令、仮言命令、自由、最高善	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	カントの哲学(3) ー『判断力批判』ー	『判断力批判』を通じて、カントの美についての思想と有機的生命についての思想を学ぶ。前者における構想力についての思想の斬新さ、後者の生命観の斬新さは、今日振り返ってみる価値のあるものである。 【キーワード】 構想力、反省的判断力、美、有機体	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)
10	ヘーゲルの哲学(1) ードイツ観念論とヘーゲルー	『判断力批判』の後継者として、まずゲーテの自然観を彼の詩を通じて学ぶ。次に、シェリングの『超越論的観念論の体系』を通じて、彼の自然哲学や神話論ついて検討を加えた後、ヘーゲル初期の哲学的発展の歩みを辿る。 【キーワード】 合目的性、生命、美のイデー、神話	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)
11	ヘーゲルの哲学(2) ー『精神現象学』の諸相ー	ヘーゲルの哲学体系の生成の場所である『精神現象学』のなかから、いくつかの部分を選んで、彼の哲学の基本的特徴を理解する。そこでは、主観・客観同一の発想、循環、理論と実践の相互媒介の問題などが検討の対象となる。 【キーワード】 意識、自己意識、労働、循環	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)
12	マルクスの哲学	近現代世界に多くの影響を与えてきたマルクス主義であるが、それを哲学という角度から見直してみる。まずヘーゲルの影響の色濃い疎外という概念の検討を行い、次に唯物弁証法の立場に立つ歴史観について検討を加える。 【キーワード】 疎外された労働、搾取、共産主義、唯物史観	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)
13	実証主義的科学と哲学	かつて哲学が占めていた知的世界の多くの分野が、今日では実証主義的科学によって奪われているかのように見える。このような時代に、哲学はどのように自己主張ができるのか。それを、実証主義という言葉の確立者であるコント以来の学問状況を踏まえて検討する。 【キーワード】 実証主義、進化論、思惟経済主義、実存	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)
14	マックス・ウェーバーと社会学	資本主義を解明するのに、ウェーバーはマルクスとは異なった方法を用いた。それを、彼の宗教社会学に見るとともに、彼の社会学のもう一つの柱である「支配の社会学」の検討も行う。その延長線上で、パーソンズとルーマンの社会学の検討も行うことによって、社会学への哲学的アプローチの道を探る。 【キーワード】 プロテスタンティズム、理解社会学、システム論、オートポイエーシス	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)
15	生命概念のもとでの哲学の主張	フッサールとベルクソンという20世紀前半を代表する哲学者が自らの拠点とした生命概念の検討を通じて、哲学の新たな可能性を検討してみる。最後には、この二人との関係で、日本近代の哲学者である西田幾多郎に言及する。 【キーワード】 超越論的現象学、生の跳躍、創造的進化、純粋経験	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)	佐藤　康邦 (放送大学客員教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1740016	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 西洋哲学の起源 （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 The Origins of Western Philosophy (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：荻野　弘之　（上智大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：桑原　直己　（筑波大学教授）〕

【本学担当専任教員：魚住　孝至　（放送大学教授）】

講義概要

前6世紀から4世紀にかけての古代ギリシア・ローマ時代の哲学、およびキリスト教の自己理解とギリシア哲学の摂取・変容によって展開をとげた西洋中世哲学(15世紀まで)の基本線を、歴史を辿りながら概観する。各時代の鍵となる重要な思想家の特徴を理解し、いくつかの基本概念を学ぶ。また哲学の背景となる古代の自然宗教や一神教の伝統(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)との関係も視野に入れる。

授業の目標

哲学を学ぶ上で、西洋哲学の源流となった古代ギリシア思想(特にプラトン、アリストテレス)を理解することは必須の素養である。そこで展開される様々な問題設定、諸概念、発想などは今なお哲学的思考の豊かな源泉である。またキリスト教をはじめとする宗教思想との密接な関係を有する中世哲学も、西洋文化全体の理解のためにも欠かせない重要な意味を持っている。授業では、事項や年代を羅列的に暗記するのではなく、人類にとって普遍的な意味を持つ問題を掘り下げて考えるヒントになるつもりで、共に考えてもらいたい。

履修上の留意点

時間に余裕があれば、発展的学習として、参考文献で示されている重要な思想家の実際の著作(邦訳)にふれてみるとよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	古代ギリシア哲学の誕生 ーソクラテス以前	前6世紀初頭から5世紀にかけて、神話的思考を脱却しつつ登場した様々な思想家の系譜とその特質を概観する(ミレトス派、ヘラクレイトス、エレア派、原子論者など)。 【キーワード】 「哲学は驚きに始まる」、イオニア自然学、ミレトス派、万物の原理、「万有は神々に充ちている」、ピタゴラス派、輪廻転生、宇宙の音楽、「万物は流転する」、ロゴス、エレア派、永劫回帰、原子論	荻野　弘之 (上智大学教授)	荻野　弘之 (上智大学教授)
2	ソフィストとソクラテス ー自然から人間へ	前5世紀後半のアテネを舞台に活躍した「ソフィスト」と呼ばれる一群の啓蒙思想家たちの運動と、ソクラテスの哲学について考える。 【キーワード】 ソフィスト、詭弁、弁論術、相対主義、啓蒙思潮、ソクラテス、無知の自覚、善く生きる、魂の配慮	荻野　弘之 (上智大学教授)	荻野　弘之 (上智大学教授)
3	プラトンの生涯と哲学(1) ー対話劇とアポリアの意味	「対話篇」と呼ばれる独自の戯曲形式で語られるプラトン哲学の特徴の要諦、ソクラテスとの関係、また徳と知識をめぐる倫理学的問題の幾つかを検討する。 【キーワード】 対話篇、主知主義、徳、「何であるか」の問い、アポリア(行き詰まり)、論駁	荻野　弘之 (上智大学教授)	荻野　弘之 (上智大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	プラトンの哲学（2） －イデア論と魂の不滅	プラトン哲学の核心として語られることの多い「イデア論」とは何か。中期～後期作品を中心に、魂不滅の教説、魂の三部分の議論と合わせて、その哲学的含意に迫る。 【キーワード】 魂の不滅、想起説、イデア原因論、3つの比喩（太陽、線分、洞窟）、美の階梯、第三人間論	荻野　弘之（上智大学教授）	荻野　弘之（上智大学教授）
5	アリストテレスの哲学（1） －その生涯と著作、論理と自然理解	「万学の祖」と呼ばれるアリストテレスの哲学体系、著作の性格、哲学の方法論などを概観した後に、論理学と自然理解を中心に、その思想の重要な側面にふれる。 【キーワード】 範疇（カテゴリー）、推論の構造、目的論、観照と実践	荻野　弘之（上智大学教授）	荻野　弘之（上智大学教授）
6	アリストテレスの哲学（2） －徳と幸福	アリストテレスの実践哲学を概観する。行為と選択の究極目的としての幸福、人柄の徳と知性に関わる徳の相補関係など、倫理学の基本問題をめぐって克明に記述する経験主義的方法と、成熟した人間理解を堪能する。 【キーワード】 最高善、幸福、観照、人柄の徳、知性に関わる徳、選択・願望・熟慮、中庸、賢慮	荻野　弘之（上智大学教授）	荻野　弘之（上智大学教授）
7	ヘレニズム時代の哲学 －生の技法	前3～1世紀にかけて、小ソクラテス派を皮切りに、エピクロス学派、ストア学派、懐疑主義などによる哲学の新しい展開を跡づける。またこの時代に出現した文献学や自然科学の状況についても一瞥する。 【キーワード】 ヘレニズム、エピクロス派、ストア派、懐疑主義、文献学	荻野　弘之（上智大学教授）	荻野　弘之（上智大学教授）
8	帝政ローマ時代の哲学 －救済と超越	紀元後、帝政ローマ時代に入って起こってきたギリシア哲学の変容と展開を概観する。特に実践的性格の強いローマ・ストア主義、折衷主義的色彩の中期プラトン主義、新ピタゴラス主義、形而上学的体系と自己への回帰を目指す新プラトン主義など、超越や救済を志向する新しい思想の動向を注視する。 【キーワード】 ローマ・ストア主義、中期プラトン主義、新ピタゴラス主義、新プラトン主義、超越と救済、発出と回帰、降霊術	荻野　弘之（上智大学教授）	荻野　弘之（上智大学教授）
9	「旧約聖書」 －キリスト教の前史としてのユダヤ教	「旧約聖書」およびユダヤ教について、キリスト教の前史として、イエスを理解する土台である限りにおいて概観する。その際、キリスト教徒がイエスの前表として理解した「イザヤ書」における「主の僕の歌」と、イエスが十字架上で唱えていた「詩編22編」に特に注目する。 【キーワード】 ユダヤ教、モーセ、十戒、バビロン捕囚、メシア、第2神殿、律法、預言者、イザヤ書、苦難の僕、代理贖罪、詩編	桑原　直己（筑波大学教授）	桑原　直己（筑波大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	イエスとキリスト教の成立	キリスト教そのものの意味について明らかにする。キリスト教とは、「イエスがキリスト（メシア）である」とする信仰をその本質とする。それゆえ、まずイエスとその背景について歴史的な概観を与えた上で、そのイエスが「キリストである」ということの意味を明らかにする。さらにその上で、初期キリスト教の展開について概観する。 【キーワード】 キリスト、イエス、サドカイ派、パリサイ派、熱心派（ゼーロータイ）、12使徒、復活体験、使徒的伝承、殉教、ミラノ勅令	桑原　直己（筑波大学教授）	桑原　直己（筑波大学教授）
11	教父の世界	ギリシア・ローマ以来の古代哲学がキリスト教と出会うことにより、新たな段階を迎えた西洋の知的世界を代表する教父の世界を概観する。ヘレニズム的教養とキリスト教との統合、教義の確立、修道制の成立といった場面での教父たちの活動を、東方ギリシア教父、西方ラテン教父とに区分して整理する。 【キーワード】 自由学芸、教父、アレクサンドレイア学派、アンティオケイア学派、キリスト論、隠修士、共住修道院、ロゴス・キリスト論、グノーシス主義	桑原　直己（筑波大学教授）	桑原　直己（筑波大学教授）
12	中世初期の哲学	中世初期から都市が発達する11・12世紀までの西欧知的世界の展開を概観する。農業経済を基本とする中世初期にはベネディクト型修道院が西欧の知的世界を支えていたが、都市の発達という11・12世紀の時代の変化を背景に初期スコラ学が成立し、それぞれの知的伝統を代表するカンタベリーのアンセルムス、ペトルス・アベラルドゥス、クレルヴォーのベルナルドゥスの活躍に注目する。 【キーワード】 封建社会、ベネディクト型修道院、聖なる読書、カロリング・ルネサンス、「修道院神学」対「初期スコラ学」、普遍論争	桑原　直己（筑波大学教授）	桑原　直己（筑波大学教授）
13	盛期スコラ学とイスラム哲学	盛期スコラ学について、その展開した場である大学、その担い手を輩出した托鉢修道会、その背景をなしていたイスラム哲学およびアリストテレス哲学の西欧世界への流入といった事項を概観する。その上で、ボナヴェントゥラを中心とするフランシスコ会士たち、ドミニコ会側からはアルベルトゥス・マグヌスの哲学的立場を概観する。 【キーワード】 大学、講義、討論、フランシスコ会、ドミニコ会、イスラム哲学、アリストテレス・ショック、ラテン・アヴェロエス主義、知性単一説、オックスフォード学派	桑原　直己（筑波大学教授）	桑原　直己（筑波大学教授）
14	トマス・アクィナス	トマス・アクィナスの生涯と哲学とを概観する。特にトマスによるキリスト教的なアリストテレスの受容と変容との様態を、形而上学、知性論、倫理学の各場面において明らかにする。 【キーワード】 ドミニコ会、パリ大学、現実態・可能態、本質と存在、自存する存在そのもの、存在の類比、能動知性、知性的魂、性向としての徳	桑原　直己（筑波大学教授）	桑原　直己（筑波大学教授）
15	中世後期の諸思潮	中世後期の諸思潮を、ドゥンス・スコトゥスからウィリアム・オッカムにかけての後期スコラ学の展開、マイスター・エックハルトからベギン「新しい敬虔」の運動、そしてニコラウス・クザーヌスへといたる神秘思想の展開という二つの流れのもとに概観する。 【キーワード】 存在の一義性、このもの性 haecceitas、主意主義、オッカムの剃刀、唯名論、神の絶対的能力、「新しい敬虔」	桑原　直己（筑波大学教授）	桑原　直己（筑波大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234226	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 歴史と人間 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 People in History (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：吉田　光男　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：杉森　哲也　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

本科目は、歴史をつくる人間を通じて歴史について考える導入科目である。歴史を考えるうえで最も親しみやすいのが人間の活動であることから、具体的な人物像を通じて、人間の諸活動が歴史にどう関わっていたのかを考えることとする。そこで、日本史および世界史においてさまざま人物を取り上げ、その活動を追うとともに、それを調べ探るための史料や方法、その人物の生きた社会や時代像について講義する。

授業の目標

歴史については中学・高校と学習してきており、特に高校では世界史が必修となっているという現状を踏まえるならば、大学の導入科目として何がふさわしいのかが問題となる。そこで本科目では、歴史的なものの見方を養うことに重点をおくが、その際に歴史が人間の諸活動の所産であることから、具体的な人物を通して人間が歴史にどう関わっていたのかを探ってゆくものとする。こうした学習をとおして、専門科目を学ぶ前提としての基礎的な知識や方法を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

本科目は、歴史学分野の基礎的科目である。日本史・アジア史・西洋史という地域の枠組み、古代から近代までという時代の枠組みに捉われず、幅広い視点から歴史について考えることを目的としている。歴史学分野の専門科目を履修する際には、本科目を併せて履修していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	歴史と人間 －本科目のねらい－	本科目は、5名の講師がそれぞれ2～3回ずつを担当し、各回では基本的に一人（組）の人物を取り上げている。各講師が専門とする地域や時代はさまざまであるため、取り上げられている人物もまたさまざまである。そこで第1回では、5名の講師がそれぞれどのような視点でこれらの人物を取り上げ、歴史と人間について論じようとしているのか、またそこにはどのようなねらいがあるのかなどについて述べる。 【キーワード】 日本の政治と文化、伝統、近代、儒教、記憶、記録、歴史のなかの民衆、歴史記述、森鷗外、歴史小説、『渋江抽斎』	五味　文彦（放送大学名誉教授） 吉田　光男（放送大学教授） 杉森　哲也（放送大学教授） 宮下　志朗（放送大学特任教授） 草光　俊雄（放送大学教授）	五味　文彦（放送大学名誉教授） 吉田　光男（放送大学教授） 杉森　哲也（放送大学教授） 宮下　志朗（放送大学特任教授） 草光　俊雄（放送大学教授）
2	天武天皇と持統天皇 －日本という国家の成立－	日本という国家のあり方がどう築かれたのかを、天武天皇と持統天皇を通じて考える。中国から律令制を導入し、国家体制を整え、外交関係を樹立する道筋について、所謂「大化の改新」事件から壬申の乱を経て辿る政治の動きから捉える。これにより天武天皇と持統天皇の政治がいかなるものであり、その後の政治や社会にどのような影響を与えたのかを探る。 【キーワード】 律令国家、日本の国号、天智天皇、天武天皇、持統天皇、壬申の乱	五味　文彦（放送大学名誉教授）	五味　文彦（放送大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	西行と定家 －日本の文化－	日本の文化の形成と発展について、これに大きな役割を果たした二人の歌人の活動を通じて探る。和歌は西行を通じて自然と社会との関係を色濃く表現するようになり、定家を通じて、芸術の域に高められるようになった。この二人の活動は単に和歌のみでなく、日本人の生き方に大きく影響を与えるようになったが、その理由や影響とを探る。 【キーワード】 西行、藤原定家、和歌文化、『新古今和歌集』、日本人の生き方	五味　文彦 （放送大学名誉教授）	五味　文彦 （放送大学名誉教授）
4	北条泰時 －武士と政権－	武家独自の法を制定し、武家政権の定着に寄与した北条泰時の動きから、朝廷と幕府のあり方や武家社会の意義について考えるとともに、日本における法意識がいかに生まれたのか、泰時の制定した御成敗式目が後世にいかに影響を与えるようになったのかを探る。 【キーワード】 武家法、武家政権、源頼朝、北条泰時、法意識、徳政、『御成敗式目』	五味　文彦 （放送大学名誉教授）	五味　文彦 （放送大学名誉教授）
5	李退溪 －朝鮮儒学の大成者－	儒学者李退溪（李滉）（1501-70）は、元代の中国から伝えられた朱子の教えを発展させて朝鮮儒学を大成し、その門下からは多くの思想家・学者・政治家が輩出して、江戸期日本の儒学にも影響を与えたと言われる。彼の思想と行動を通じて、近世朝鮮社会の歴史的特質について考察する。 【キーワード】 儒学、朱子学、士大夫、理と気	吉田　光男 （放送大学教授）	吉田　光男 （放送大学教授）
6	ルイス・フロイス －16世紀の日本を記録したポルトガル人－	ルイス・フロイス（1532-97）は、ポルトガル人のイエズス会司祭である。1563（永禄6）年に来日して以来、30数年間にわたり日本に滞在し、イエズス会の報告書や書簡、そして日本における布教史である『日本史』を執筆した。フロイスの人生とその著作を通して、16世紀後期における日本とヨーロッパの交流の歴史、さらに『日本史』の執筆とその日本語訳注本出版の意義などについて考える。 【キーワード】 イエズス会、フランシスコ・ザビエル、横瀬浦、長崎、『日本史』、松田毅一、川崎桃太	杉森　哲也 （放送大学教授）	杉森　哲也 （放送大学教授）
7	豊臣秀吉 －神になった天下人－	豊臣秀吉（1537-98）は、日本史上最も著名な人物の一人である。しかし、秀吉は死後に豊国大明神という神となり、その後の歴史の中で翻弄され続けたことは、あまり知られていない。この回では、周知の天下人として活躍した秀吉ではなく、死後の秀吉に焦点を絞り、天下人が神として祀られること、さらに後世において与えられた評価や扱いとその転換などについて考える。 【キーワード】 豊国大明神、豊国社、東照大権現、『太閤記』、豊国神社、豊太閤三百年祭	杉森　哲也 （放送大学教授）	杉森　哲也 （放送大学教授）
8	モンテーニュとマリー・ド・グルネー －『エセー』の作者と「義理の娘」－	裁判官をやめて田舎領主として隠遁し、「自己」を描くという試みをヨーロッパで最初におこなったのがモンテーニュである。その『エセー』という作品に惚れ込んだグルネー嬢は、やがて『エセー』死後版の編者となっていく。モンテーニュの生き方と作品について、一女性読者の貢献をもからませながら、考えてみる。 【キーワード】 乱世と隠遁、自己を語る、「エッセイ」と「エセー」、フェミニズム	宮下　志朗 （放送大学特任教授）	宮下　志朗 （放送大学特任教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	マルタン・ゲール、メノッキオ、そしてピナゴへ －民衆の生きざまを掘り起こす－	「人物史」のアキレス腱は、記録の残っていない人間を取り扱えないことにある。そして民衆は、生きた痕跡をほとんど残すことなく、忘れ去られていく。だが、そうでない例外的なケースも存在する。ここでは、16世紀南仏の農民マルタン・ゲール、北イタリアの粉屋のメノッキオ、そして19世紀フランスの田舎の木靴職人ピナゴといった人物を採り上げる。超一流の歴史家が、いかにして無名の人物を歴史に組み入れたかを紹介して、歴史学の方法論について考える。 【キーワード】 歴史と記録、民衆文化、ナタリー・デーヴィス、カルロ・ギンズブルグ、アラン・コルバン	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）
10	メアリ・ウルストンクラフト －女性解放運動の先駆者－	メアリ・ウルストンクラフトは女性解放の歴史のなかでもひときわ輝く先駆者の一人と考えられている。何故彼女の思想が今日に至るまで多大な影響を与えてきたのか、そしてそれはどのような歴史的な背景のなかで生まれたのか、女性の権利を主張するということによってどのような問題を提起しえたのか、など人類史において女性と男性との関係を根底的に再考することを促したウルストンクラフトの生涯と作品を概観する。 【キーワード】 啓蒙思想、理性、美徳、感情、女性解放、フェミニズム、教育、バーク、ルソー、プライス、ゴドウィン、消費社会	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授）
11	ラスキンとモリス －中世主義と近代－	19世紀は歴史の時代であった。人びとは自分たちの生きている時代をそれ以前の時代と対比しながら、何が良くて何が悪くなったのか、自問し始めた。そうした時代に大きな影響もたらした人びとのなかにラスキン、モリスといった大きな足跡を残した人物がいた。この回では彼らの思想を中心に、歴史を考えるひとつの見方の誕生を考えてみることにする。 【キーワード】 歴史主義、中世主義、ラスキン、ピュージン、モリス、産業主義、芸術と社会	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授）
12	津田梅子 －明治初年の女子留学生－	津田梅子（1864-1929）は、明治4（1871）年に開拓使がアメリカに派遣した日本最初の女子留学生の一人である。帰国後は女子教育に尽力し、明治33（1900）年には自らの教育理念を実現すべく女子英学塾（津田塾大学の前身）を創立した。津田梅子の人生、そしてともに留学した山川（大山）捨松、永井（瓜生）繁子の人生を通して、日本の近代化と、この時代を生きた女性と社会との関係について考える。 【キーワード】 女子留学生、女子教育、女子英学塾、山川（大山）捨松、永井（瓜生）繁子、津田塾大学	杉森　哲也（放送大学教授）	杉森　哲也（放送大学教授）
13	孫文 －東アジアの変革者－	20世紀初頭、中国国民党を創始し、辛亥革命で新中国建設を指導した孫文は、中国の国父と呼ばれる。彼が中国の近代化を目指して提唱した三民主義は、日本をはじめアジアの人々の心をとらえ、協力してヨーロッパ勢力と対抗して「近代化」を実現しようとした。その動きの歴史的意義とアジアとの連帯について「民族」の概念をカギに検討する。 【キーワード】 三民主義、革命、アジア、連帯、民族	吉田　光男（放送大学教授）	吉田　光男（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	歴史学としての人物史	第2回～第13回では、5名の講師がそれぞれ2～3回ずつを担当し、各回では基本的に一人（組）の人物を取り上げてきた。これに続く第14回では、個別の人物を取り上げることからは離れて、人物史そのものについて考えることとする。5名の講師それぞれが、人物史とは何か、その意義、さらに方法や課題などについて述べる。 【キーワード】 人物史、時期区分、史料、『エセー』、伝記	五味　文彦（放送大学名誉教授） 吉田　光男（放送大学教授） 杉森　哲也（放送大学教授） 宮下　志朗（放送大学特任教授） 草光　俊雄（放送大学教授）	五味　文彦（放送大学名誉教授） 吉田　光男（放送大学教授） 杉森　哲也（放送大学教授） 宮下　志朗（放送大学特任教授） 草光　俊雄（放送大学教授）
15	歴史のなかの人間 －全体のまとめ－	第15回では、5名の講師それぞれが、本科目のまとめを行う。歴史と人間を考えることの意義や面白さ、その一方で方法上の問題点や限界が存在すること、歴史学研究者はそれを自覚しており克服する方法を模索していることなどが指摘されよう。これらのまとめを押さえた上で、改めて個別の人物を取り上げた第2回～第13回を振り返り、歴史と人間について考える。 【キーワード】 名もなき人、歌謡、戸籍、民衆、歴史家	五味　文彦（放送大学名誉教授） 吉田　光男（放送大学教授） 杉森　哲也（放送大学教授） 宮下　志朗（放送大学特任教授） 草光　俊雄（放送大学教授）	五味　文彦（放送大学名誉教授） 吉田　光男（放送大学教授） 杉森　哲也（放送大学教授） 宮下　志朗（放送大学特任教授） 草光　俊雄（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118161	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本の近現代 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Modern Japanese History (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：季武　嘉也　(創価大学教授) 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：杉森　哲也　(放送大学教授) 】

講義概要

明治維新から現代に至るまで、日本の近・現代史の基本的な流れを、国家と地域社会の関係から概観する。私たちが生活する現代の日本について正しく理解するためには、現状分析とともに歴史的な考察が必要不可欠である。特に、明治維新以降の近代史と、それに続く現代史は重要であろう。この講義では、中央集権化が指摘されることの多い日本において、国家と地域社会が果たしていかなる関係にあったのか、特に地域社会の実態とそこからの視点を重視して考えてみたい。

授業の目標

現代日本の置かれている状況を正しく理解するために必要な、日本の近代史および現代史に関する基礎知識を得ることを基本的な目的とする。さらに、これから日本の近代史および現代史を本格的に学習しようとする学生にとっても、専門知識を得ることができることを目的とする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	近現代日本社会の姿	次回以降の授業の前提として、江戸時代的農村社会が、人口増加、産業発展、都市化など近代化の進行によって、やがて高度経済成長を経て少子高齢化社会にいたる過程を、統計資料を中心に概観する。特に、家や町村の変遷に留意する。 【キーワード】 町村、家族、小農、在来産業、産業化、都市化、定住化、大衆社会	季武　嘉也(創価大学教授)	季武　嘉也(創価大学教授)
2	明治維新と地域社会	明治維新は地域の人々にとってどのような意味で変革だったのだろうか。間違った革命と考えた人々もいたに違いない。突然上から降ってきた〈近代〉に、民衆は戸惑いつつ反撥と受容をくり返していった。明治10年頃までを対象に、地域社会が変化をどのように受け容れていったかを考える。 【キーワード】 戊辰戦争、廃藩置県、新政反対一揆、士族反乱	有馬　学(福岡市博物館館長)	有馬　学(福岡市博物館館長)
3	資本主義の導入と地域経済	日本における近代産業や近代的経済制度の導入の過程を、中央政府と地方政府による殖産興業政策に注目しながら明らかにする。その際、日本の急速な経済発展を支えた経済制度の一つである会社制度の導入と普及にとくに留意することにしたい。 【キーワード】 殖産興業政策、会社制度、国立銀行、西南戦後インフレ、松方デフレ	中村　尚史(東京大学教授)	中村　尚史(東京大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	議会・政党・選挙	自由民権運動から日清戦争までは、農村内部でさまざまな対立が渦巻き、さらに市制町村制施行にともなって新たな問題も出現した。これらは、民党対吏党という政治対立を軸に展開された。こうした混乱の中から、議会制が町村の末端でどのように定着していったかを考える。 【キーワード】 自由民権運動、政党、衆議院選挙、民党、吏党、市制町村制	有馬　学（福岡市博物館館長）	有馬　学（福岡市博物館館長）
5	地方からの産業革命	日本における産業革命は、三大財閥に代表される中央資本だけでなく、広範に存在した地方の経済主体によっても支えられていた。日清戦後から日露戦後にかけて全国的な規模で展開した地方工業化の動きを、その中心的な担い手である地方財閥に注目しながら描く。 【キーワード】 産業革命、紡績業、鉱山業、地方財閥、安川敬一郎	中村　尚史（東京大学教授）	中村　尚史（東京大学教授）
6	政党の発展と地方の系列化	1900年頃から地方の政治・経済は、地方名望家を軸に急速に中央に系列化していった。こうした中、政党勢力は発展し1918年には原敬政党内閣が実現する。この二つの過程を地方からの視点で眺めていく。 【キーワード】 地方名望家、農会、前田正名、立憲政友会、原敬	季武　嘉也（創価大学教授）	季武　嘉也（創価大学教授）
7	都市騒擾の時代	1900年頃からは、都市で産業化が進展し、有力ブルジョアジーが出現するいっぽう、生活に関わる都市問題が発生し、日比谷焼打ち事件など都市騒擾事件に発展する。ここでは都市部の変貌を概観する。 【キーワード】 都市化、都市騒擾、日比谷焼打ち事件、第一次護憲運動、米騒動	季武　嘉也（創価大学教授）	季武　嘉也（創価大学教授）
8	モダン都市の誕生	第一次大戦後から1930年代にかけては、東京・大阪などの大都市を中心に都市化が急速に進み、大衆文化が花開いた時代である。同時にこの時代は、知識人や官僚の間に、「国家」にかわって「社会」が、新たな価値をもって浮上した時代であった。それは知識人の思考方法のみならず、行政の新たな手法も創り出していく。 【キーワード】 社会の発見、震災復興、大東京、大衆文化、マルクス主義	有馬　学（福岡市博物館館長）	有馬　学（福岡市博物館館長）
9	第一次世界大戦後の不況と農村	米騒動以後、いわゆる地方名望家秩序が急速に崩壊し、農村では小作争議が頻発するようになった。さらに、慢性的な不況が農村を襲った。こうした中で農民組合・産業組合・全国町村長会が、どのような模索をしたのかを概観する。 【キーワード】 小作争議、日本農民組合、産業組合、経済更生運動、部落会、権藤成卿、全国町村長会	季武　嘉也（創価大学教授）	季武　嘉也（創価大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	恐慌の時代	恐慌の時代である両大戦間期に生じた様々な経済的格差の問題を、二重構造という視点から概観する。経済の重化学工業化のなかで、都市経済が急成長し、地方経済との格差が生じはじめた。また大企業と中小企業との間での不均等発展も目立ちはじめる。 【キーワード】 恐慌、重化学工業化、都市化、金融危機、地方経済、二重構造	中村　尚史 (東京大学教授)	中村　尚史 (東京大学教授)
11	外地から見た昭和の戦争	「帝国・日本」の版図は内地と外地という法域で区切られた重層的な空間であった。そして内地のみならず外地も否応なく「戦争」に巻き込まれていった。本章では台湾・朝鮮をはじめとする各地域の様相を、具体的な法令や様々な制度の運用面を通じて通時的に理解する。 【キーワード】 内地・外地、総督府、戸籍法、帝国大学、戦時動員、復員・引揚げ	永島　広紀 (佐賀大学准教授)	永島　広紀 (佐賀大学准教授)
12	政党の復活と地方自治制度	第二次世界大戦が終了すると、日本国憲法が制定されデモクラシー思想が普及した。こうした中で、混乱した戦後社会は、しだいに五五年体制といわれる安定した体制に向かっていく。ここでは、それが地域社会でいかに進行したのかを探る。 【キーワード】 自由党、社会党、五五年体制、三割自治、農地改革、農業協同組合、町内会、個人後援会	季武　嘉也 (創価大学教授)	季武　嘉也 (創価大学教授)
13	戦後の生活と文化	敗戦と戦後改革による変動と混乱を乗り越えて、一九五五(昭和30)年前後には国民生活もそれなりの落ち着きを取り戻す。小津安二郎の映画に描かれたような、小春日和ともいうべき時代、そして高度成長による激変へと続く市民社会の歴史を描く。 【キーワード】 戦後改革、焼け跡・闇市、復興、高度成長、テレビの時代	有馬　学 (福岡市博物館館長)	有馬　学 (福岡市博物館館長)
14	高度経済成長と地域経済	高度経済成長の過程で、日本経済の構造転換が一気にすすみ、政府の総合開発計画の後押しをうけた太平洋ベルト地帯と、それ以外の地方との格差が拡大する。地方分散傾向が強かった石炭産業や繊維工業の斜陽化、農業の衰退がその動きに拍車をかけ、農村の過疎化をもたらした。 【キーワード】 高度経済成長、総合開発計画、工業地帯、農村過疎化、産業構造改善	中村　尚史 (東京大学教授)	中村　尚史 (東京大学教授)
15	革新自治体から新自由主義へ	1965年頃から、本格的に革新自治体が増加する。革新自治体は福祉などさまざまな面で社会に影響を与えたが、やがて新自由主義が台頭した。この過程を、大衆社会の進展と絡めながら概観する。 【キーワード】 五五年体制、高度経済成長、無党派層、環境、福祉、大衆社会	季武　嘉也 (創価大学教授)	季武　嘉也 (創価大学教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118170	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ヨーロッパの歴史Ⅰ （’１５）＝ （TV）

ーヨーロッパ史の視点と方法ー

英文名 ＝ 〔 History of Europe Ⅰ (’15): Perspectives and Methods 〕

〔主任講師（現職名）：草光 俊雄 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：甚野 尚志 （早稲田大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

ヨーロッパ史の古代から近代までのそれぞれの時代をめぐり、これまで歴史家の間で議論されてきた論争などを中心に整理しながら、歴史認識の変遷とその方法を概観し、歴史像がいかにして形成されてきたかを考える。

授業の目標

歴史を考える枠組みについての知識を歴史学の発展とともに歴史学がおかれていた時代のなかで歴史についての見方がどのように変わったきたのか理解し、現代の課題は何かを学ぶ。

履修上の留意点

「歴史と人間」「南北アメリカの歴史」「ヨーロッパの歴史Ⅱ」等が関連科目である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	イントロダクション	ヨーロッパとは何か、またヨーロッパ史における時代区分とは？ これまでなじみ深かったヨーロッパ史の前提を再考し、新しいヨーロッパ像を模索する。 【キーワード】 パラダイム、アナール派、オリエンタリズム、ヨーロッパ中心史観、時代区分	草光 俊雄（放送大学教授） 甚野 尚志（早稲田大学教授）	草光 俊雄（放送大学教授） 甚野 尚志（早稲田大学教授）
2	新しい古代地中海世界像とローマ帝国像を求めて	20世紀最後の20年間、古代地中海世界とローマ帝国の地中海世界支配に関するそれまでの定説（M. I. フィンレーのプリミティヴ経済論、M. ゲルツァーのクリエンテーラ論など）に対する強い異論が示され、新しい古代地中海世界像、ローマ帝国像が模索され始めた。従来、古代地中海世界とローマ帝国の基本的な性格はどのように考えられていたのか、そして新しい古代地中海世界像・ローマ帝国像ではどのような歴史像が示されるのかを考えたい。 【キーワード】 古代地中海世界、ローマ帝国、プリミティヴ経済論、クリエンテーラ論	島田 誠（学習院大学教授）	島田 誠（学習院大学教授）
3	西欧中世世界の成立～古代から中世への転換～	西欧中世の世界は、フランク王国が勢力を拡大し、教皇権と協力しながら西の帝国を復興させることで成立した。教皇によるフランク王カールの皇帝戴冠はその決定的な瞬間である。ここでは西欧世界において、ビザンツ帝国の影響を脱した独自のキリスト教帝国が形成された過程を考える。 【キーワード】 キリスト教、教皇権、フランク王国、カール大帝、ビザンツ帝国	甚野 尚志（早稲田大学教授）	甚野 尚志（早稲田大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	キリスト教の浸透と辺境地域	カロリング時代に司教座や修道院の教会組織は整備されたが、キリスト教が民衆のなかに浸透するのは容易ではなかった。ここでは、ローマ・カトリック教会がゲルマンの異教世界をキリスト教化し、さらにはレコンキスタなどの運動を通じて、ローマ・カトリック世界を辺境地域に拡大していった過程を考える。 【キーワード】 キリスト教化、教皇権、教会改革、レコンキスタ、十字軍、聖戦	甚野　尚志（早稲田大学教授）	甚野　尚志（早稲田大学教授）
5	写本から印刷術へ〜書物の文化の発展〜	初期中世には、カロリング時代の教会改革とともに聖書やラテン語古典の写本の文化が開花し、13世紀の大学成立の時期になると、書物には頁や索引が付され、より合理的な知識の検索ツールとなる。そのような書物の発展が活版印刷の発明を導き、書物の大量生産の時代を到来させた。その過程を考える。 【キーワード】 写本、カロリング・ルネサンス、12世紀ルネサンス、大学、活版印刷	甚野　尚志（早稲田大学教授）	甚野　尚志（早稲田大学教授）
6	中世の民衆と文字文化	中世の民衆の間で、いかに俗語の文字文化を発展していったかを中世後期まで辿る。とくに、都市の実務文書と俗語文字文化との関係や、「往生術」、「死の舞踏」といった宗教的な木版印刷が俗語文字文化の発展にどのようにかかわったかを考察する。 【キーワード】 ラテン語、俗語、実務文書、異端運動、ベギン、木版印刷	甚野　尚志（早稲田大学教授）	甚野　尚志（早稲田大学教授）
7	「神の国家」から「人の国家」へ（Ⅰ）	カトリック教会に支配されていた中世人の国家観と、その教会によって「世界支配の付託」を受けたとされる中世神聖ローマ帝国の実態の間にある「溝」を読み解きながら、中世人が「神の国家」観を現実の変化にすり合わせるための「工夫」を行う足跡とその結末をたどる。 【キーワード】 カトリック、帝権移転論、神の付託、パドヴァのマルシリウス、フィレンツェ共和主義、帝国改造	皆川　卓（山梨大学准教授）	皆川　卓（山梨大学准教授）
8	「神の国家」から「人の国家」へ（Ⅱ）	マキャヴェリからプーフェンドルフを経てヴォルテールに至る神聖ローマ帝国論を水先案内人として、権威を介さず自ら「神」を求めようとする近世人が、いつしか「神の国家」を経験的に探究する＝科学するようになり、その中で近代の国家像、主権観が生成する過程を明らかにする。 【キーワード】 マキャヴェリ、宗派化、主権、ホッブズ、社会契約説、プーフェンドルフ、ヴォルテール	皆川　卓（山梨大学准教授）	皆川　卓（山梨大学准教授）
9	儀礼と表象、感性からみる歴史〜歴史人類学の挑戦〜	人類学の視座、解釈枠組みを吸収することで生まれてきた「歴史人類学」について、その成立に至る背景と成果をたどり、この半世紀の間に、歴史学の視点が大きく変化してきたこと、人間の過去を理解する新しい可能性が切り拓かれてきたことを考える。 【キーワード】 異端審問、妖術師、ベナンダンティ、シャリヴァリ、モラル・エコノミ、儀礼、象徴、暴力、表象、感性、身体技法	長谷川　まゆ帆（東京大学教授）	長谷川　まゆ帆（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	オーラルとエクリの間（あわい） ～近世期の「個人の語り」について～	印刷や書物の歴史はいまや人類学の視座や隣接諸科学の方法を積極的に吸収しながら、人間のエクリすなわち「書かれたもの」との関わり、読み、書き、話す、ロゴスをもつ人間の歴史そのものを再検討しつつある。ここではこうした新しい歴史学の一端を垣間見ながら、近世期の「個人の語り」とその変容について考える。 【キーワード】 印刷術、オーラル、エクリ、メノッキオ、読書、書物、公共空間、セヴィニエ夫人、書簡小説、コミュニケーション回路	長谷川　まゆ帆（東京大学教授）	長谷川　まゆ帆（東京大学教授）
11	作法と教養	長い十八世紀はひとびとの暮らしぶりが大きく変化していった時代である。商業社会・消費社会は現世的な価値観を変革し、生きることの意味、生活のスタイルの変化をもたらした。作法、教養といった近代社会固有の価値観が生まれた背景を探る。 【キーワード】 消費社会、顕示的消費、奢侈論争、徳、作法、教養、マンデヴィル、公共圏、シヴィック・ヒューマニズム、模倣理論	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授）
12	近代イギリスにおける「古代」と「中世」	十九世紀は歴史の時代であった。過去への関心が変貌していく現代との対比で語られ、古代、中世、ルネサンスなどの文化を復興させようとする試みが活発に行われた。当時のひとびとが何故過去を求めようとしたのか、同時代の社会の諸問題を考えながら検討する。 【キーワード】 歴史主義、中世主義、新古典派、ロマン派、グランド・ツアー、伝統の創造	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授）
13	産業革命をどう捉えるか	産業革命、工業化は物質的な豊かさとともに社会の構造的な転換をももたらした。しかし産業革命とは何だったのか。時代によって解釈が変化してきた産業革命論を概観し、ある歴史的な現象が研究者の直面している時代によってどのようにその解釈が変わってきたのかを考えてみる。 【キーワード】 産業革命、工業化、悲観論、楽観論、連続説、断絶説、経済（景気）循環、技術革新、経済成長、離陸	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授）
14	近代人の時間の観念：仕事と余暇	現代のわれわれは電車が時刻通り到着することが当たり前だと思っている。しかしこうした時間についての考え方は近代の産物である。近代にとって時間とはどのようなものになっていったのか、なぜわれわれは時間を守ることが大切と思うようになったのか、仕事と余暇とは我々にとってどのような意味を持つのかなどについて考えてみる。 【キーワード】 時は金なり、パースタイム、労働規律、出来高賃金、時間賃金、余暇、仕事志向、労働時間短縮、長期的持続	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授）
15	ヨーロッパ史への招待	主任講師たちが研究を始めてからの歴史学の潮流を辿りつつ、自らの研究と大きな歴史学の流れについて論じながら、今後の歴史研究の展望について考えるよすがを示唆する。 【キーワード】 ポスト・モダニズム、社会史、アナール派、ミクロストリア、ヨーロッパの「ヨーロッパ化」、東西の相互交流、中世と近世の連続、ヨーロッパ中心主義、グローバル・ヒストリー、庶民の歴史、オーラル・ヒストリー	草光　俊雄（放送大学教授） 甚野　尚志（早稲田大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 甚野　尚志（早稲田大学教授） 長谷川　まゆ帆（東京大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118080	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　日本文学概論　　（’１２）＝　(R)

〔主任講師（現職名）：　島内　裕子　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

1300年以上にわたる長い射程を持つ日本文学を一望のもとに把握し、日本文学生成のダイナミズムを実感するための明確な視点を提供する。文学者と作品を絞り込んで、何が日本文学を力強く推進し、変容させる原動力となったかを見極める。これにより、日本文化における文学の広汎な影響力と、文学の果たした役割の大きさが再認識できる。それが、21世紀の日本文化を考える契機となる。従って、この「日本文学概論」では、刻々と新たに生まれ出る文学作品が、誰によってどのように集約され、再生されて、現代まで読み継がれてきたのかという具体的な視点に立って、「日本文学とは何か」という文学概論を展開する。

授業の目標

第一に、日本文学の生成と展開を、トータルに把握し、日本文学の全体像を明確に理解する。第二に、各時代における日本文学の新展開のダイナミズムが、いつ、どのようにして生まれ、どのように伝播、波及して現代に至ったかを、具体的な文学者や作品に即して、深く理解する。第三に、日本文学が、日本文化全体の中において果たしてきた役割を理解する。本学における科目群履修認証制度の「日本の文化と社会」の重要構成科目とする。

履修上の留意点

日本文学や日本語関連の他の科目を、合わせて受講すれば、相互補完的に幅広く学習できるので、それらの履修をぜひとも勧めたい。具体的には、「和歌文学の世界（’14）」や「日本文学の名作を読む（’17）」などである。また、外国文学、哲学、思想、美学、歴史なども、日本文学と直接的あるいは間接的に関わるので、これらの科目を広く学ぶことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本文学をどう捉えるか	日本文学を概観し、文学潮流に大きな足跡を残した文学者たちに注目することの意味や、日本文学にみる生成と展開の法則性などを考える。 【キーワード】 日本文学、文学史、文学概論、法則性	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
2	紀貫之 －文化基盤としての和歌と散文	『古今和歌集』や『土佐日記』などを通して、和歌と散文の双方を日本文学の基盤に据えた、紀貫之の役割を認識する。 【キーワード】 紀貫之、『古今和歌集』、仮名序、『大堰川行幸和歌』、『土佐日記』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
3	藤原公任 －傑出したアンソロジスト	和歌、漢詩、有職故実を視野に収めた、藤原公任の文化的役割と影響力を考える。 【キーワード】 藤原公任、『和漢朗詠集』、アンソロジー、『新撰髄脳』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	清少納言と紫式部 －ライバル誕生	日本文学を代表する『枕草子』と『源氏物語』という二つの傑作が、同時代に出現したことの文化的意義を把握する。 【キーワード】 清少納言、『枕草子』、紫式部、『源氏物語』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
5	藤原定家 －本歌取り文化圏の成立	藤原定家が、「本歌取り」という技法によって多様な文学世界を集約することに成功し、『小倉百人一首』によって膨大な和歌の世界を集約できたことを認識する。 【キーワード】 藤原定家、本歌取り、『詠歌之大概』、『新古今和歌集』、『小倉百人一首』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
6	兼好と頓阿 －散文と和歌の再構築	「誰でも書ける散文」のスタイルを提起した兼好と、「誰でも詠める和歌」のスタイルを提起した頓阿が果たした、文化的意義を対比しつつ、把握する。 【キーワード】 兼好、『徒然草』、頓阿、『草庵集』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
7	転換期の文学（1） －その継承と変容	中世後期から近世初期にかけて、激動する時代の変化の中で、文学概念が継承と変容の両面性を保持してきたことを概観する。 【キーワード】 今川了俊、正徹、三条西実隆、細川幽斎、松永貞徳、北村季吟	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
8	松尾芭蕉 －生き方としての文学	芭蕉の樹立した文学世界が、後世に広く浸透したのはなぜか。芭蕉が集約した文学観に着目して、再考する。 【キーワード】 松尾芭蕉、俳諧、俳文、『笈の小文』、『おくのほそ道』、『芭蕉七部集』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
9	上田秋成と大田南畝 －言葉の活用	言葉を自在に操ることができることは、文学世界に何をもたらしたのか。上田秋成と大田南畝の二人を通して考える。 【キーワード】 上田秋成、『藤簍冊子』、『春雨物語』、大田南畝、『四方のあか』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
10	香川景樹と橘守部 －和歌から短歌へ	香川景樹の歌学と、橘守部の歌論書『心の種』を中心に、近代への過渡期の韻文文芸を考察する。 【キーワード】 香川景樹、桂園派、橘守部、『心の種』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	転換期の文学(2) －西欧文学との葛藤	森鷗外・夏目漱石・上田敏を中心に、西欧文学との出会いが、どのような新たな文学を生み出したかを考える。 【キーワード】 森鷗外、夏目漱石、上田敏、翻訳文学	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
12	幸田露伴 －江戸と東京	幸田露伴の膨大な作品群を、日本文学史の中で位置づけ直すために有効な視点を考察する。 【キーワード】 幸田露伴、『普通文章論』、『文章講義』、『評釈芭蕉七部集』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
13	高浜虚子 －近代俳句の確立	近代文学の中で、「俳句」というジャンルの地位を確定するのに重要な役割を果たした高浜虚子について、考察する。 【キーワード】 高浜虚子、花鳥諷詠、有季定型、『ホトトギス』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
14	永井荷風と谷崎潤一郎 －文体の創造	永井荷風と谷崎潤一郎の二人を、「古典と近代」、文体への意識などの視点から捉え直し、位置づけ直す。 【キーワード】 永井荷風、『珊瑚集』、『麻布襍記』、谷崎潤一郎、『細雪』、『夢の浮橋』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
15	日本文学の本質	外国文学の咀嚼と選択、同時代の文学者たちとの交流、時代を超えた文学精神の継承などを通して、日本文学の本質を考える。 【キーワード】 外国文学、移入と浸透、相互補完性、日本文学	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118188	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 『古事記』と『万葉集』 （’１５）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 “Kojiki” and “Manyo-shu” (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：多田 一臣 （二松学舎大学特別招聘教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：島内 裕子 （放送大学教授） 】

講義概要

『古事記』と『万葉集』は、日本の古代文学を代表する二大古典であるが、それだけでなく、実は相互に深い関係で結ばれている。この科目では、最初に『古事記』がどのような歴史意識によって支えられているかを明らかにし、同時にそれぞれの巻ごとの固有性を、その説話内容の具体的な分析を通じて探っていく。さらに『万葉集』においても、その成立の背景を明らかにすることで、宮廷歌謡集としてのありかたを浮かび上がらせる。同時に、この二つの作が、自国の文化伝統への深い自覚と省察とにもとづいて生み出されていることを、具体的な事例を通じて解き明かしていく。

授業の目標

この科目の目標として、以下のことを想定している。
1、『古事記』と『万葉集』を生み出した歴史意識のありようを知ること。
2、表現の基底にある古代の人々の世界像を知ること。
3、自国の文化的伝統、とりわけ和語へのつよい自覚と省察とがいかにして生み出されたのかを確かめること。
4、それらを通じて、古代の表現史の展開の様相を把握し、古代文学の全体像への理解を深めること。

履修上の留意点

履修に際しての特別な知識は不要だが、高校の日本史の教科書などで、奈良時代あたりまでの歴史の概略を知っておくとよいかもしれない。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	『古事記』の成立と歴史意識	『古事記』の成立事情を振り返りながら、その規定にある歴史意識について考える。『古事記』がフルコトブミとして成立した理由を探っていく。また、『万葉集』の原型部分が、天皇代を基準とする編年式配列となっている意味を、『古事記』の歴史意識と重ねて論じていく。 【キーワード】 フルコト、誦習、太安万侶、歴史意識	多田 一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田 一臣（二松学舎大学特別招聘教授）
2	神々の世界①	『古事記』上巻の世界を取り上げる。『古事記』の高天原を中心とする世界が、いかにして生成されたかについて考える。イザナキ・イザナミによる国生み、三貴子の誕生、アマテラスとスサノヲの対立、スサノヲの追放などの記事をながめていく。 【キーワード】 国生み、高天原、アマテラス、スサノヲ	多田 一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田 一臣（二松学舎大学特別招聘教授）
3	神々の世界②	引き続き『古事記』上巻の世界を取り上げる。ここでは、『古事記』独自の記述が多く見られる出雲世界の神話について考える。スサノヲの大蛇退治、オホクニヌシの活動の記事をながめていく。国譲りについても論じてみたい。 【キーワード】 スサノヲ、オホクニヌシ、国譲り	多田 一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田 一臣（二松学舎大学特別招聘教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	大和王権の成立	『古事記』上巻から中巻の世界を取り上げる。ニニギノミコトの天孫降臨から、神武天皇の東征、そして大和の中原における即位までの過程をたどる。海幸・山幸の話などにも説き及びたいと思っている。 【キーワード】 天孫降臨、ニニギノミコト、神武天皇、東征	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）
5	反乱伝承の諸相	『古事記』の特徴は、皇位継承争いが数多く記されていることである。そのいくつかを取り上げ、それらが王権の樹立・維持と不可分な意味をもつことを論じてみたい。上巻のタギシミミの反乱、中巻のサホビコ・サホビメの物語などをながめる。 【キーワード】 皇位継承争い、反乱伝承	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）
6	ヤマトタケルの物語	『古事記』中巻の「景行記」は、ほとんどがヤマトタケルの物語で占められている。王権の中心から疎外され、流離を余儀なくされた悲劇の皇子ヤマトタケルの像がいかにして作られたのかを考える。 【キーワード】 景行天皇、ヤマトタケル、流離	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）
7	磐姫皇后像の形象	『古事記』下巻冒頭の「仁徳記」は、仁徳天皇を古代の聖帝として造型している。一方で、仁徳は皇后イハノヒメの激しい嫉妬に悩まされる天皇でもあった。ここでは、イハノヒメの物語について考えることで、聖帝仁徳のありかたに迫ってみたい。 【キーワード】 聖帝、仁徳天皇、イハノヒメ、嫉妬	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）
8	英雄時代の終焉	仁徳天皇とともに、『古事記』下巻を代表するもう一人の天皇は雄略天皇である。その雄略は、『万葉集』冒頭歌の作者ともされている。ここでは、『古事記』の英雄時代の最後を飾る雄略天皇像の造型について考えてみたい。 【キーワード】 雄略天皇、英雄時代	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）
9	初期万葉の時代 ー額田王	初期万葉とは、壬申の乱前後あたりまでの歌を指す。ここでは、その代表歌人である額田王が、和歌史の上に果たした役割について考えていく。あわせて、『万葉集』の成立と構成についても概観する。 【キーワード】 初期万葉、歌謡と和歌、額田王	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	分水嶺としての柿本人麻呂①	『万葉集』の和歌史の頂点をきづいたのが柿本人麻呂である。人麻呂は長歌の形式を完成させただけでなく、新たな詩語の創造を通じて、和歌の表現世界を大きく拡大した。ここでは、殯宮挽歌など人麻呂の儀式歌を中心に、その達成の意味を考える。 【キーワード】 柿本人麻呂、長歌、殯宮挽歌、儀式歌	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）
11	分水嶺としての柿本人麻呂②	前回の続きになる。ここでは、「泣血哀慟歌」など、人麻呂の私的な世界を歌った作を中心に取り上げる。あわせて、「柿本人麻呂歌集」についても触れる。さらに高市黒人、山部赤人についても取り上げてみたい。 【キーワード】 柿本人麻呂、柿本人麻呂歌集、高市黒人、山部赤人	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）
12	和歌の変革者たち	『万葉集』の長歌は、柿本人麻呂によって完成される。それゆえ、その後の長歌は勢いを失い、人麻呂の作の亜流に留まることを余儀なくされた。そうした中、長歌に新たな変革を加えた二人の歌人が現れた。山上憶良と高橋虫麻呂である。ここではこの二人の長歌が何をもたらしたのかを、表現史の視点からながめていく。 【キーワード】 長歌、山上憶良、高橋虫麻呂	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）
13	東歌と防人歌	『万葉集』を宮廷歌集として見る時、東国の衆庶の声を伝える東歌と防人歌の存在は、そこから大きく逸脱しているように見える。なぜ『万葉集』に東歌や防人歌が含まれるのか。ここでは、東国の位相を考えることで、そのことの意味について考えていく。 【キーワード】 東歌、防人歌、東国	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）
14	和歌の表現の本質ー巻十六から	巻16は、それまでの和歌とは全く異なる表現性をもつ歌が集められている。そのいわば反（非）万葉ともいうべき歌の表現世界をながめていく。ここから反対に、古代の和歌表現の本質が何であったのかを考えてみたい。 【キーワード】 巻16、和歌表現の本質	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）
15	万葉歌の終焉ー大伴家持	『万葉集』の世界の終焉ともいうべき大伴家持の作をながめ、次代の和歌との関係を考える。その作歌活動をたどりながら、その達成した世界がどのようなものであったのかについて考えてみたい。 【キーワード】 大伴家持	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）	多田　一臣（二松学舎大学特別招聘教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1740024	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 世界文学への招待 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 An Introduction to World Literature (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：宮下　志朗　（放送大学特任教授）〕

〔主任講師（現職名）：小野　正嗣　（立教大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

私たちがいま生きているこの世界の現実に対して、文学作品はどのように応答しているのだろうか？　人、モノ、カネが国境を越えて移動するグローバル化の時代にあっては、文学作品を従来のような英・米・独・仏・露・西といった国別（いわゆる国民文学）の枠組みで論じることがますます困難になっている。本講義では、「越境・移動」、「翻訳」、「多言語・多文化」、「戦争」、「植民地主義」、「政治と文学」といった観点から、世界のさまざまな地域の文学を読解し、「世界文学」と呼び得るような文学作品および文学的実践の総体の諸特性を明らかにする。

授業の目標

対象とする作品のていねいな読解・分析を通して、その魅力を伝えることが目指される。そのために、作品が産出された時代の歴史的・社会的文脈、作家についての伝記的知識、作品の受容と評価に関しても随時紹介していく。このような奥行きを備えた作品理解の試みは当然、世界文学のもつ諸様相を立体的に浮かび上がらせるであろうし、豊かな多様さに満ちた世界文学の広がりに向かって、学習者が主体的に漕ぎ出していく際の格好のナビゲーションともなるはずである。

履修上の留意点

世界文学の多様性に触れるという講義の性質上、どうしても個々の作品が書かれた外国語（英語、フランス語、アラビア語、チェコ語、韓国語など）が時として引用されるが、そうした言語についての知識はまったく必要ない。基本的には、日本語を介しての解説・評釈であるから、安心して履修していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	世界文学の時代へ ー本科目のねらい	イントロダクションである。本科目では、専門とする地域や時代も異なる7名の講師が、独自の切り口により「世界文学」にアプローチする。第1回では、各回の内容を簡単に紹介するとともに、小野の論考などを出発点として、二人の主任講師が、「世界文学」とは何か、その定義や今日的な意義について語り合う。 【キーワード】 国民文学、翻訳、グローバル化	小野　正嗣（立教大学教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 小野　正嗣（立教大学教授）
2	内なる外あるいは外なる内 ーアメリカ文学の新しい潮流	アメリカという国家が拡張を続けてきたこともあり、アメリカ文学において「外」は常に重要なモチーフであった。その潮流を逆手に取るようにして、20世紀後半から現在にかけて、アメリカの「外」からやって来た、英語を母語としない作家たちの存在感が増してきている。そうした作家たちのなかから、テア・オブレヒトやダニエル・アラルコンらの作品について紹介する。 【キーワード】 英語圏文学、移民、ヒスパニック、東欧、バイリンガル、マジックリアリズム	藤井　光（同志社大学准教授）	藤井　光（同志社大学准教授）

人間と文化コース（導入科目）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	つねに戦時中 ーアメリカ文学と戦争	アメリカは第二次世界大戦終結のあとも、世界各地で――朝鮮半島、ベトナム、イラク、アフガニスタン――絶え間なく戦争を続けてきた。そして戦争の現実を、直接間接に、そしてときにリアリスティックに、ときに幻想的に描く文学作品の傑作が数多く書かれてきた。ティム・オブライエン、デニス・ジョンソン、そしてケヴィン・パワーズらの戦争文学を通して「別のアメリカ」の様相を探る。 【キーワード】 朝鮮戦争、ベトナム戦争、9・11、イラク戦争、アフガン戦争、他者との遭遇	藤井　光 （同志社大学准教授）	藤井　光 （同志社大学准教授）
4	フランス文学とクレオール性の文学 ー「異郷」で発見する「故郷」	クレオール化とは、ヨーロッパの新大陸の植民地化とそれに続く奴隷制の導入によって、カリブ海で起こった文化や人種の混淆現象である。フランスの海外県マルティニクやグアドループといったクレオール社会から生まれたフランス語文学の諸作品を紹介しながら、現在のグローバル化した世界の先駆けとも言える、その多言語・多文化的な特質について解説する。 【キーワード】 フランス語圏、植民地主義、奴隷制、クレオール語とフランス語	小野　正嗣 （立教大学教授）	小野　正嗣 （立教大学教授）
5	「アフリカ」というステレオタイプを越えて ーアフリカのフランス語文学	現在、アフリカ出身の作家たちが魅力的な文学作品を精力的に発表している。こうした作家たちが直面する偏見について瞥見したのち、アフリカにおけるフランス旧植民地出身の作家たちに注目する。カマラ・ライ、ソニー・ラブ＝タンシ、アマドゥ・クルマらの作品を鑑賞しつつ、アフリカのフランス語表現文学の特徴と魅力に迫る。 【キーワード】 シングルストーリー、ステレオタイプ、自伝的小説、政治と文学	小野　正嗣 （立教大学教授）	小野　正嗣 （立教大学教授）
6	現代アラブ文学への招待 ーでも、招待状は何語で書かれるのか？	現代アラブ文学とはどのような文学か。その地理的広がりを反映して、アラブ世界にはさまざまなエスニシティが存在し、文学言語も多様である。現代アラブ小説はアラビア語で書かれるとは限らないし、書き手もアラブ人であるとは限らない。一筋縄ではいかない現代アラブ文学の特質について、書き手と言語の関係に注目して概観する。 【キーワード】 アラビア語、イスラーム、多元性、植民地主義	岡　真理 （京都大学教授）	岡　真理 （京都大学教授）
7	現代パレスチナ文学 ー魂の破壊に抗する文学	現代アラブ文学のうち、パレスチナ文学をとりあげる。ガッサン・カナファーニーやイブラーヒーム・ナスラッラーらの作品を通して、パレスチナ文学とはパレスチナ人のいかなる生の経験から紡ぎだされる文学なのか、いかなる困難を抱え、現在、人間に対していかなる思想を開示する地平に達しているのかを論じる。 【キーワード】 ナクバ、難民、占領、ホロコースト、記憶	岡　真理 （京都大学教授）	岡　真理 （京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	文学のコスモポリタニズム ー媒介者としての二軒の書店	世界の文学は、その時代によって、創造的な活動の中心となる場所を有する。ここでは両大戦間のパリを舞台にした、国際色豊か（コスモポリタン）な文学の様相について考える。その際、女性が営む、パリの二軒の書店・貸本屋の役割にも焦点を当ててみたい。 【キーワード】 「本の友の家」、「シェイクスピア書店」、ジョイス、ヘミングウェイ、ベンヤミン	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）
9	都市と文学 ー複数のまなざし、複数の声	チェコ系、ドイツ系、ユダヤ系の住民など、多様な人々が交錯する中欧の都市プラハ。複数の言語や文化が織りなす都市空間の深層を、カフカ、ハシェク、フラバル、アイヴァスのテクストを通して、読み解いていく。 【キーワード】 都市、プラハ、複数文化、地名、公共空間	阿部　賢一（東京大学准教授）	阿部　賢一（東京大学准教授）
10	移動と文学 ー「世界」の「地図」を描く	文学は「移動」をつねに題材にしてきたが、20世紀以降、人口の移動が激化するとともに、文学もこの題材を多様に扱ってきた。冷戦体制下の亡命、そして現代の移動の様相を中東欧の作家（ミラン・クンデラ、オルガ・トカルチュク）の作品を題材に検討する。 【キーワード】 移動、亡命、移住、紀行文、表象、小説、中東欧	阿部　賢一（東京大学准教授）	阿部　賢一（東京大学准教授）
11	植民地化、解放、南北分断 ー韓国・朝鮮文学の近代	20世紀前半の朝鮮半島の作家たちは、近代化とともに植民地化を経るなかで、みずからの作品で、ハングル文体の確立から「国民」の創出、内面の発見、啓蒙の逆説に至るまで、「近代」を完遂しようと努力した。その経緯を、当時の作品について触れながら概観する。 【キーワード】 植民地、朝鮮、モダニティ、「親日」、南北分断	渡辺　直紀（武蔵大学教授）	渡辺　直紀（武蔵大学教授）
12	グローバル化／ポスト民主化と韓国文学 ーリアリズムの行方	21世紀の韓国文学の作家たちは、民主化運動の成果や遺産を各様に継承しながら、みずからの文学行為を境界の外部に開いていった。その経緯を黄晳暎や李清俊の小説、高銀や金芝河の詩、朴婉緒や申京淑、孔枝泳など女性作家の作品、李滄東の映画作品などについて触れながら見ていく。 【キーワード】 グローバル化、韓国、民主化運動、ポスト冷戦	渡辺　直紀（武蔵大学教授）	渡辺　直紀（武蔵大学教授）
13	お茶の間にいながら、世界文学 ー『源氏物語』と日本文学の世界性	日本国内にいながら日本文学を読むということも、実は世界文学と関わる行為である。そもそも「国文学」と世界文学の関係をどのように捉えるべきか。『源氏物語』を例に、日本国内の日本文学受容に見られる世界性を探る。 【キーワード】 源氏物語、村上春樹、ジャンル、文学の発明	マイケル・エメリック（UCLA准教授）	マイケル・エメリック（UCLA准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	グローバル化する現代日本文学 －日本語では読めない日本文学	いまや村上春樹作品は世界的に広く読まれており、同時代の日本作家の作品も多くの言語に翻訳されている。日本文学の翻訳者である担当講師が、自らの英語圏での経験を踏まえ、日本文学の作家が世界的に読まれるために何が必要なのか、どのようなハードルがあるのかを検討する。また、日本文学が翻訳で読まれることで、どのような変化、どのような新しい読みが可能になるのか、具体例を通して探求する。 【キーワード】 翻訳、現代日本文学、読みの多様化	マイケル・エメリック（UCLA准教授）	マイケル・エメリック（UCLA准教授）
15	世界文学はどこに向かうのか？ －全体のまとめ	第15回の「印刷教材」では、講師全員が世界文学をめぐるエッセイを寄稿する。それを素材にして、主任講師2名が、本科目のまとめを行なう。文学作品は、異なる言語・文化をもつ社会に生きる他者の思考や感情を想像する力を涵養するという点が強調されるとともに、本科目では取り上げられなかった論点や作品にも言及し、将来に開かれた講義として、いったん終わりを迎える。 【キーワード】 想像力、他者、翻訳、オリジナル、「小説」の起源	宮下　志朗（放送大学特任教授） 小野　正嗣（立教大学教授） 藤井　光（同志社大学准教授） 岡　真理（京都大学教授） 阿部　賢一（東京大学准教授） 渡辺　直紀（武蔵大学教授） マイケル・エメリック（UCLA准教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授） 小野　正嗣（立教大学教授） 岡　真理（京都大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234307	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本語とコミュニケーション （’１５）＝ （ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 Japanese Language and Communication (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：滝浦　真人　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：大橋　理枝　（放送大学准教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

普段あまり意識せずに行っている日本語を使ったコミュニケーションに対して、コミュニケーション学及び言語学の角度からアプローチし、私たちが使っている日本語やそれを使って行うコミュニケーションを客観的に見る視点を提供する。

授業の目標

コミュニケーション学の観点と言語学の観点とを組み合わせることにより、日本語や言語一般に対する学習者の興味を喚起すると共に、日常的に行っている日本語を使ったコミュニケーションに対して自覚的になることを目標とする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	コミュニケーション学へのいざない	コミュニケーション学を学ぶ上で基本となる内容を概観する。 【キーワード】 記号化、記号解釈、言語／非言語・音声／非音声、コミュニケーションの本質的特徴、コミュニケーションの定義の多様性	大橋　理枝（放送大学准教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） 滝浦　真人（放送大学教授）
2	日本語のコミュニケーション	日本語という言語におけるコミュニケーションを考えるのに必要な要因について概観する。 【キーワード】 日本語学、日本語教育学、国語学、日本語	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
3	言語メッセージと非言語メッセージ	言語メッセージと非言語メッセージについて、主に非言語コミュニケーションの観点から概観する。 【キーワード】 メッセージの種類、非言語コミュニケーションの役割、身体動作、身体接触、対人距離	大橋　理枝（放送大学准教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） 滝浦　真人（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	あいさつのコミュニケーション	言語を使って交わされるあいさつや、言語を使わずに交わされるあいさつについて考察することを通して、あいさつの本質に迫る。 【キーワード】 言語的あいさつ、身体動作・身体接触	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
5	対人関係の言葉	自分と相手との関係を定めるための言語表現について、対人距離の観点から検討するとともに、ポライトネスの理論を導入して対人配慮のあり方を考察する。 【キーワード】 敬語、ポライトネス、丁寧表現	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
6	依頼・勧誘と応諾・断り －言語行為とポライトネス①－	ポライトネスの観点から言語行為を捉える。例として、他人に何かを依頼する場合や他人を何かに勧誘する場合、更には他人からの依頼や勧誘に対して応じたり断ったりする場合の、言語的・非言語的な表現について考察する。 【キーワード】 依頼／勧誘／応諾／断りの言語表現、対人説得、時間の使い方	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
7	感謝・謝罪・褒め －言語行為とポライトネス②－	感謝や謝罪を表現するために、また、褒めたり褒められたりするときに、どのような言語的・非言語的表現がなされるかについて考察するとともに、その文化差について考察する。 【キーワード】 感謝・謝罪の言語表現、言語を使わない感謝・謝罪の表現	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
8	対人関係のマネジメント	対人関係を構築・継続させていく際に関わる諸側面について考察する。 【キーワード】 対人魅力、人間関係発展のコミュニケーション、自己開示、ウチ／ソト・オモテ／ウラ	大橋　理枝（放送大学准教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） 滝浦　真人（放送大学教授）
9	敬語のコミュニケーション	日本語でとても目立つ「敬語」に焦点を当て、敬語とは何をするための道具で、敬語によって何が表現・伝達されるのかということを考察する。 【キーワード】 親疎関係の表現、これからの日本語	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
10	スピーチのコミュニケーション	スピーチという形のコミュニケーションに含まれる諸要素を具体例と共に概観する。 【キーワード】 スピーチ、テクスト、レトリック戦略、高／低コンテクスト・コミュニケーション	大橋　理枝（放送大学准教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） 滝浦　真人（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	比喩とコミュニケーション	レトリック表現はコミュニケーションにおける飾りでなく、人間の認知過程の深いところから関わっていることを、比喩を中心に具体的に考察する。 【キーワード】 ことばあそび、比喩、論理構成	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
12	日本語のレトリック表現とオノマトペ	日本語で発達したレトリック表現と日本語で盛んに用いられる擬音語・擬態語を取り上げ、日本語的なレトリックのあり方を考察する。 【キーワード】 擬音語、擬態語	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
13	公共圏のコミュニケーション ー禁止を手がかりにー	公共圏で見られる様々なコミュニケーション事象を考察する。特に、相手のフェイスを強く侵害する「禁止」に焦点を当て、公共圏特有の問題を考察する。 【キーワード】 指示板、案内板、多言語表示、コミュニケーション調節理論、記号	滝浦　真人（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
14	異文化間のコミュニケーション	異文化間コミュニケーションの観点からコミュニケーションを考える。 【キーワード】 見える文化と見えない文化、等価性、言語決定論、言語相対論	大橋　理枝（放送大学准教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） 滝浦　真人（放送大学教授）
15	日本語とコミュニケーション ー日本語のいま・これからー	言語の変化ということを考えながら、日本語のコミュニケーションのいまを捉え、これからの日本語のコミュニケーションがどういう方向に進んでゆくかを考えてまとめとする。 【キーワード】 日本語、コミュニケーション、日本語コミュニケーション、終わりの始まり	滝浦　真人（放送大学教授）	滝浦　真人（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1740032	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ラテン語の世界 （’１６）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 The World of Latinity (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：井口 篤 （慶應義塾大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：宮下 志朗 （放送大学特任教授） 】

講義概要

この授業はラテン語「を」勉強する、つまり狭義の言語学習というより、ラテン語「について」幅広く知識と理解を深めることを目的とします。その勉強を「文字」「発音」「文法」「言語史・文化史」の4つの科目に分けて、毎回の授業でこの4つの科目に従って進んで行きます。ラテン語の文字は勿論皆さんが親しみがある「ローマ字」ですが、その成立から現代のラテン語の記述まで応用された字体にも言葉の綴りにも様々な変化があります。ラテン語の発音も、一応この授業では言語学の研究によって復元された「古典の発音」を基礎にして教えますが、歴史的に（例えば教会音楽を歌う時に）使われた様々な発音の問題も広く扱いたいと思います。

授業の目標

この授業は主に3種類の学生向けに考えられています。(1) ラテン語をしっかりと勉強したい学生には、狭義の語学学習に入る前に全体を概観し、ラテン語を独学するための予備知識を提供します。(2) 一度ラテン語を初級レベルで勉強した学生に、その基礎を復習し、その語学を勉強した意義をより深く理解させ、中級レベルで勉強し続ける時のさまざまな方向と可能性を紹介します。(3) ラテン語学習に深くはまる予定がなくても広く語学に興味があって、ラテン語について比較言語学の視点で触れたい学生にその基礎知識を与えます。
ラテン語は「古語」だと言われますが、それはただ「大昔に人々が使っていた言語」だという意味ではありません。世界の重要な古語（ラテン語以外には例えば古典ギリシア語、サンスクリット、漢文があります）にはそれ以上の意味があります。これらの「古典語」は歴史的に見れば母語として使う人よりそれを公用語として外国語として学び、その言語で書かれた文学を「古典」として読み、その勉強を他の勉強の基礎として身に付けた人が多かったのです。ラテン語に限って言えばそれが（ギリシア語とともに）ローマ帝国の公用語であり、後にローマを中心とする西ヨーロッパのキリスト教会の標準語となり、さらに後には近代の教育と学問の最初の公用語となりました。そのような歴史によりラテン語はそこから直接発展してきたイタリア語、フランス語、スペイン語のみならず他のヨーロッパの言語の発展にも多大な影響を与えました。今でも西洋の多くの小中高校ではラテン語が教えられ、その知識が西洋の多くの学問分野で必須の予備知識とされています。
ラテン語はかなり早い時代から標準化し、まだラテン語を母国語とする人が大勢存在した紀元後数世紀間も、日常会話で使われる俗語より紀元前1世紀の言語、つまりキケロ・カエサル・ヴェルギリウスなどの文学で使われていた言語が「正しいラテン語」とされていました。従って例えば中世のラテン語に興味を持ってラテン語を勉強し始めたとしても、古典ラテン語から勉強しなければなりません。しかしこの授業では言語そのものの学習が第一目的ではないので、古典以前のラテン語と古典から今日までのラテン語の応用と文化の変遷とそれぞれの時代の特徴にも出来るだけ幅広く触れたいと思います。その詳細は各回の内容の説明を参照下さい。

履修上の留意点

とくに履修上の制限は設けないが、「フランス語入門Ⅰ(’12)」「フランス語入門Ⅱ(’12)」「初歩のスペイン語 (’17)」などは、本科目を受講するにあたって大いに参考になるであろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Gradus 1:ラテン語事始め	講義全体の導入を行う。歴史的な言語としてのラテン語に触れ、講義の目的及び構造について説明したのち、標準ラテン語の成立やラテン語の古典文学などについて概観する。 【キーワード】 標準ラテン語、キケロー主義、ギリシャ語・ギリシャ文化、古代ローマの「両言語」、古典文学	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口 篤（慶應義塾大学准教授）
2	Gradus 2:ローマ字・母音・動詞の基礎	ラテン語の文字（アルファベット）についてまず学び、続いてラテン語がもつ母音を練習する。続いて、ラテン語の動詞変化の基礎を学習する。 【キーワード】 ラテン語の文字、短母音、長母音、二重母音、不定法、直説法、命令法、形式受動相動詞	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口 篤（慶應義塾大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	Gradus 3：文字 I (J)・表音文字の発展・子音	母音と子音として使われる I (j) の特徴、ラテン語における綴りと発音の関係、子音の発音について学ぶ。 【キーワード】 i (j)、母音と子音、表音文字	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
4	Gradus 4：名詞・形容詞・代名詞の性・格・数とその応用の基礎（Ⅰ）	性 (genus)と格について学んだのち、名詞の格変化の種類を学習する。 【キーワード】 文法的な性、格変化	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
5	Gradus 5：名詞・形容詞・代名詞の性・格・数とその応用の基礎（Ⅱ）	形容詞と代名詞の変化について学ぶ。 【キーワード】 形容詞、指示代名詞、疑問代名詞、関係代名詞、人称代名詞、再帰代名詞	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
6	Gradus 6：文字 V (U)・音節・前置詞・受動文	母音と子音として使われる u (v) 、音節の区切り方、前置詞、受動文について学ぶ。 【キーワード】 音節、前置詞、受動文	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
7	Gradus 7：文字 C/K/Q・長短母音と二重母音の歴史変化・分詞と動形容詞	C/K/Qに関する問題、長短母音や二重母音の発音の変化、現在・過去・未来分詞、動形容詞について学ぶ。 【キーワード】 現在能動分詞、過去受動分詞、未来分詞、動形容詞	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
8	Gradus 8：比較級と最上級・ラテン語の綴りの特徴と変化	形容詞の比較級と最上級、古典時代に見られる文字綴りの特徴と変化について学ぶ。 【キーワード】 比較級、最上級	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
9	Gradus 9：音節の長短とラテン語の単語のアクセント	音節の長短 (旧式と新式)、ラテン語の単語のアクセントについて学ぶ。 【キーワード】 短音節、長音節、強勢アクセント、ピッチ・アクセント	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	Gradus 10：動詞の時制（直説法）	形式論から見たラテン語の時制、ラテン語の時制の応用(直説法)について学ぶ。 【キーワード】 未完了過去、未来、規則・不規則動詞、完了、過去完了、未来完了、半形式受動相動詞、直説法、歴史的現在、命令法現在、命令法未来	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
11	Gradus 11：母音の変化、合併と消去・副詞と数詞	母音の変化・長母音の短母音化・母音の合併とその消去、副詞と数詞について学ぶ。 【キーワード】 母音の変化、長母音の短母音化、母音の合併とその消去、副詞、其数詞、序数詞、反復数詞、配分数詞	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
12	Gradus 12：古典の韻文の朗読法	詩行・韻脚・中間休止、様々な韻律形式について学ぶ。 【キーワード】 詩行、韻脚、中間休止、ヘクサメテル、ディスティコン（エレギーオン）、セーナーリウス、パラエキウスの11音節行、サッポー詩体	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
13	Gradus 13：動名詞・動形容詞との関係・目的分詞・「対格（主格）不定法」	動名詞、動名詞と動形容詞のはざま、目的分詞、対格不定法、主格不定法について学ぶ。 【キーワード】 動名詞、動形容詞、目的分詞、対格不定法、主格不定法	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
14	Gradus 14：動詞変化の概観・接続法の形式と主文における応用	動詞変化を外観したのち、接続法の形式、主文における接続法の応用について学ぶ。 【キーワード】 態（genus）、法（modus）、時制（tempus）、人称（persona）、数（numerus）、接続法現在、接続法未完了過去、接続法完了、接続法過去完了	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）
15	Gradus 15：ラテン語の文	分詞句、絶対奪格、関係文、接続法を使う副文の時制、間接話法について学ぶ。 【キーワード】 分詞句、絶対奪格、関係文、接続法、副文、間接話法、間接命令文、間接禁止文	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授）	ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学大学院教授） 井口　篤（慶應義塾大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１１年度	科目区分	導入科目	科目コード	1117815	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 博物館概論 （’１１）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：吉田　憲司　（国立民族学博物館教授）　〕

【本学担当専任教員：稲村　哲也　（放送大学教授）　】

講義概要

博物館は、単なる過去の遺物の貯蔵庫ではなく、過去と現在の知識と記憶を次代につなげ、未来を作り上げる装置でもある。社会と文化を構築する装置としての博物館の成り立ちとその問題点を検証したうえで、広く国内外に目をむけて現代における博物館の多様な活動のありかたを実践に即した形で把握し、さらにその将来に向けた可能性を展望する。

授業の目標

博物館は、学術研究の成果を広く社会と共有し、新たな社会を築きあげていくうえで、その最前線に位置する装置である。この授業は、博物館活動の大要を把握するとともに、博物館の諸活動に従事するのに不可欠な基礎的知識を、理論、倫理、実践の各分野にわたって総合的に習得することを目標とする。博物館における営みの細部が、博物館の使命と可能性に直接結びついていることを具体例に即して示し、将来博物館の実務に従事する者には誇りをもってその作業に携わることのできる基礎が体得できることを、また知的関心から博物館を学ぼうとする者にはその現代文明における意義が簡明に理解できることをめざす。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	博物館・入門	日本の博物館関係法令について詳論し、それらの法令に基づく「博物館」の定義や、制度、分類、学芸員資格等を確認するとともに、その現在のありかたについて、国際的な視野から位置づけをおこなう。 【キーワード】 博物館法、ICOM(国際博物館会議)、学芸員（キュレイター）、倫理規定	吉田　憲司（国立民族学博物館教授）	吉田　憲司（国立民族学博物館教授）
2	博物館の歴史	諸外国ならびに日本の博物館の歴史と現状について論じる。具体的には、17世紀ヨーロッパの驚異の部屋から、公共博物館・美術館の成立、さらには近・現代の博物館・美術館の展開まで、世界と日本におけるミュージアムの歴史と現状を概観し、博物館・美術館におけるわたしたちの「経験」の成り立ちを考える。 【キーワード】 驚異の部屋、博物学、大英博物館、ルーヴル美術館、民族学博物館、近代美術館	吉田　憲司（国立民族学博物館教授）	吉田　憲司（国立民族学博物館教授）
3	博物館における収集	収集は、博物館にとってもっとも基礎的な作業である。と同時に、その行為は世界の切り取りに他ならない。したがってそこには、限界がともなうと同時に、倫理的な問題もまた常につきまとう。欧米と日本におけるコレクターとそのコレクションを点検するとともに、倫理的な視点から、コレクションの収集・返還の問題を検証し、さらには無形の文化遺産の収集方法としての映像記録の在り方を検討する。 【キーワード】 コレクション、権力、先住民族、収集のガイドライン、映像記録、資料の返還	吉田　憲司（国立民族学博物館教授）	吉田　憲司（国立民族学博物館教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	博物館における展示Ⅰ －文化の表象の現在	現在、世界各地の博物館・美術館のあいだでは、従来の展示に潜む既成の価値観に縛られた表象の図式を掘り起こす作業が積極的に進められている。そして、その成果をふまえて新たな表象の様式を模索する試みも展開されつつある。それら、近年の取り組みを概観し、博物館・美術館展示の新たな可能性をさぐる。 【キーワード】 異文化、自文化、表象、モダニズム、共同作業	吉田　憲司 （国立民族学博物館教授）	吉田　憲司 （国立民族学博物館教授）
5	博物館における展示Ⅱ －展示の技法	博物館や美術館は、単にものやそれにかかわる情報の保存・伝達の装置というだけでなく、新たな意味・情報を創出する装置でもある。そして、その意味の創出の最前線にあるのが、展示という行為にほかならない。ここでは、展示という営みのもつ、このような性格に配慮しながら、具体的な展示の技法について検討する。 【キーワード】 視線、動線、ハンズ・オン、ジオラマ、ホワイト・キューブコ、ユニバーサル・デザイン	吉田　憲司 （国立民族学博物館教授）	吉田　憲司 （国立民族学博物館教授）
6	博物館資料の整理と情報化	博物館は、モノとそれを取り巻く情報の集積庫である。博物館における情報をいかに蓄積し、整理し、発信に備えるか。データベースの実際を把握し、その今後の展開の指針を提示にする。 【キーワード】 データベース、アーカイヴズ、情報リテラシー、知的財産と倫理	久保　正敏 （国立民族学博物館名誉教授）	久保　正敏 （国立民族学博物館名誉教授） 吉田　憲司 （国立民族学博物館教授）
7	博物館資料の保存と活用Ⅰ －保存環境とIPM	貴重な資料・作品を次代に伝えることは、博物館の中核的使命である。そこには、保存と活用という、一見相反するかに見える作業の両立が求められる。保存科学の視点から、活用を前提にした資料の保存の実際を紹介する。 【キーワード】 保存環境、IPM（総合的有害生物管理）、修復	園田　直子 （国立民族学博物館教授）	園田　直子 （国立民族学博物館教授） 吉田　憲司 （国立民族学博物館教授）
8	博物館資料の保存と活用Ⅱ －取り扱い、収蔵と梱包	活用を前提にした保存のあり方を、取り扱いの基本とともに、収納、梱包の面から検討する。博物館・美術館における収蔵施設の現状を把握するとともに、日常的な資料管理から文化財輸送の現場まで点検し、そこに通底する技術と理念を明らかにする。 【キーワード】 資料の取り扱い、収蔵、点検、梱包、輸送	園田　直子 （国立民族学博物館教授）	園田　直子 （国立民族学博物館教授） 吉田　憲司 （国立民族学博物館教授）
9	博物館における教育Ⅰ －学校教育との連携	博物館は、教育施設としての機能も備えている。博物館と学校教育の連携の現状と課題を、国内外の事例に基づきながら検討する。 【キーワード】 社会連係、学校教育、アウトリーチ、子供博物館	布谷　知夫 （三重県総合博物館特別顧問） 吉田　憲司 （国立民族学博物館教授）	布谷　知夫 （三重県総合博物館特別顧問） 吉田　憲司 （国立民族学博物館教授）
10	博物館における教育Ⅱ －生涯教育の展開	博物館は、学校教育ばかりでなく、生涯学習の機関としての重要性をますます高めている。子供博物館に始まり、年齢・興味の異なる多様な利用者の参加をもとに作り上げる博物館のありかたを考える。 【キーワード】 体験型博物館、参加型調査、ボランティア活動、ユニバーサルデザイン	布谷　知夫 （三重県総合博物館特別顧問）	布谷　知夫 （三重県総合博物館特別顧問） 吉田　憲司 （国立民族学博物館教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	地域コミュニティと博物館	地域コミュニティに根差した活動を展開することにより、博物館は、その地域の人びとの誇りやアイデンティティーの核となり、地域の活力の源泉となっていく。先駆的な活動例の紹介を通じて、博物館の可能性を再考する。 【キーワード】 地域コミュニティ、アイデンティティ、ローカル・ミュージアム、エコ・ミュージアム	布谷　知夫（三重県総合博物館特別顧問） 吉田　憲司（国立民族学博物館教授）	布谷　知夫（三重県総合博物館特別顧問） 吉田　憲司（国立民族学博物館教授）
12	文化遺産と博物館	博物館は、有形の文化遺産の貯蔵庫であるばかりでなく、無形の文化遺産の集積と継承の装置でもある。UNESCOによる世界文化遺産指定の光と影が明らかになってきた今日、文化遺産の創造的継承の装置としての博物館の使命と課題を考える。 【キーワード】 世界遺産、有形文化遺産、無形文化遺産、UNESCO、伝統	吉田　憲司（国立民族学博物館教授）	吉田　憲司（国立民族学博物館教授）
13	記憶と博物館	歴史的な記憶をいかに次の世代に語り伝えるか、個人の記憶と集団の歴史認識とをいかに調停するのか。博物館は、こうした歴史記憶の伝承の装置としても重要な役割を担っている。国内外の事例の検討を通じて、歴史、記憶と博物館の新たな関係を考える。 【キーワード】 歴史、記憶、想起、伝承	吉田　憲司（国立民族学博物館教授）	吉田　憲司（国立民族学博物館教授）
14	デジタル技術とミュージアム	デジタル技術の発展は、博物館における観覧車の経験のあり方に、新たな次元を付け加えつつある。「モノ」の集積に第一義的な価値を置く博物館が、デジタル技術をいかに取り込み、展開しうるのか。先導的な事例の検証をもとに、デジタル・ミュージアムの未来像を展望する。 【キーワード】 デジタル・ミュージアム、バーチャル・ミュージアム	久保　正敏（国立民族学博物館名誉教授）	久保　正敏（国立民族学博物館名誉教授） 吉田　憲司（国立民族学博物館教授）
15	フォーラムとしてのミュージアム －新たな時代の博物館にむけて	新たな時代の博物館像は、収集や展示の担い手である博物館関係者と、それら収集・展示の対象になっている文化の担い手、そしてその博物館の利用者という三者の出会いと相互啓発の場、すなわちフォーラムとしてのミュージアムに求められよう。博物館の現在を総括するとともに、フォーラムとしてのミュージアムに向けた具体的指針を提示する。 【キーワード】 フォーラム、出会い、対話、国際協力	吉田　憲司（国立民族学博物館教授）	吉田　憲司（国立民族学博物館教授） 久保　正敏（国立民族学博物館名誉教授） 園田　直子（国立民族学博物館教授） 布谷　知夫（三重県総合博物館特別顧問）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	導入科目	科目コード	1118099	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　グローバル化時代の人文地理学　（’１２）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：小林　茂　（大阪大学名誉教授、大阪観光大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：宮澤　仁　（お茶の水女子大学大学院准教授）〕

【本学担当専任教員：内堀　基光　（放送大学教授）　】

講義概要

グローバル化がすすむ今日、多様な人間社会はますます複雑に変動し、これをどう認識するかが大きな課題となっている。大学レベルの人文地理学初学者のための入門として、グローバル化にともなう変動とそれに対するアプローチの視角を、今日の世界や日本の多彩な問題を例に、わかりやすく解説する。導入部分につづいて、まず環境や景観に関連するテーマをとりあげ、さらに都市と空間へのアプローチへと進む。その際、環境問題や情報化、福祉、ジェンダーといった現代的課題にも言及する。また多くの回で、近年急速に発展してきたGIS（地理情報システム)の考え方や応用例を紹介し、その現代社会における可能性を示す。

授業の目標

現代の人文地理学の理解に必要な知識を身につけるとともに、変化の急速な社会の理解に有用な地理学的枠組みや手法について概観をえる。またこれらの理解の上に、現代的問題へのアプローチの方法に接することもめざす。あわせて、高等学校までの地理のイメージのリニューアルをはかりたい。

履修上の留意点

「「ひと学」への招待(’12)」「環境と社会(’15)」も受講することが望ましい。「社会調査の基礎(’15)」も合わせて履修するとよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	グローバル化と人文地理学 －人文地理学とはどんな学問かー	グローバル化時代の今日、世界で大きな変動が起こっている。人文地理学の立場から、この変動にどうアプローチするか解説する。とくに「時間と空間の圧縮」といわれる人・物・資本・情報の移動の増大と高速化が、どのように私たちの生活を変化させるか検討する。 【キーワード】 グローバル化、時間と空間の圧縮、空間的制約、インフルエンザ、拡散	小林　茂（大阪大学名誉教授、大阪観光大学教授）	小林　茂（大阪大学名誉教授、大阪観光大学教授）
2	地理情報の整備と社会	人文地理学研究の基礎である地図は、古くから人間のコミュニケーション手段として意義をもち、今日のデジタル地図にいたるまで、精度を向上させながら整備されてきた。三角測量を主体とする近代地図以降のその発展と社会との関係を考える。 【キーワード】 地図、空中写真、衛星画像、測量技術、地図作製機関	小林　茂（大阪大学名誉教授、大阪観光大学教授）	小林　茂（大阪大学名誉教授、大阪観光大学教授）
3	GIS革命と地理情報科学	1980年代後半に始まったGIS（地理情報システム）革命は、紙地図からデジタル地図へという変化にとどまらず、地理情報科学を展開させた。この進展を紹介し、GISとは何か、そして、それを支える空間的思考とは何かを解説する。また、新しいGISの展開としてインターネットGISなどについても言及する。 【キーワード】 GIS(地理情報システム)、地理情報科学、空間的思考、インターネットGIS	矢野　桂司（立命館大学教授）	矢野　桂司（立命館大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	フィールドワークとGIS －環境研究へのアプローチ－	アフリカの焼畑を事例として、野外調査にGISを活用する方法を紹介し、地形図・空中写真・衛星画像などを用いた集落立地や植生の変遷の把握、時空間データへの定量的アプローチの有効性を示す。 【キーワード】 アフリカ、焼畑、森林、集落立地、土地被覆、環境動態	佐藤　廉也（大阪大学大学院教授）	佐藤　廉也（大阪大学大学院教授）
5	日本の森林とグローバル化	グローバル化と環境との関係は一般に直結するものではないと考えられているが、日本の森林の変化と海外からのさまざまな資源の輸入との関係を検討すると、両者が密接に関連していることがわかる。ここ100年間の両者の関係を追いながら、グローバル化とともに起こる環境変化について考える。 【キーワード】 里山、肥料、エネルギー、木材、土地利用変化	小林　茂（大阪大学名誉教授、大阪観光大学教授）	小林　茂（大阪大学名誉教授、大阪観光大学教授）
6	グローバル化と環境問題 －黄土高原の退耕還林－	生態系回復をめざす中国の巨大なプロジェクトである退耕還林政策を例に、村落から国家、国際関係にいたるマルチスケールな観点から環境問題への取り組みの現状と問題点を理解する。 【キーワード】 中国、森林政策、造林、農村の変容、木材貿易	佐藤　廉也（大阪大学大学院教授）	佐藤　廉也（大阪大学大学院教授）
7	グローバル化と世界の森林	世界の森林の現状を把握するには、まだ不確定なことが多いことにくわえて、林産物の国際的移動が、世界各地の森林の動向に大きく関与していることを理解し、さらに森林に関する価値観の変化が進行していることを紹介する。 【キーワード】 森林資源評価、森林転換、木材貿易、植林、外来種	小林　茂（大阪大学名誉教授、大阪観光大学教授）	小林　茂（大阪大学名誉教授、大阪観光大学教授）
8	グローバル化と人口移動	人文地理学では、個人の居住地選択のようなミクロな視点と、国内や国家間の人口移動といったマクロな視点から分析が行われてきた。日本全体や東京での外国人居住と、代表的な世界都市ロンドンでのマイノリティ・コミュニティや日本人居住をグローバルな視点から考える。 【キーワード】 国内人口移動、マイノリティ・コミュニティ、外国人居住、集住地区	矢野　桂司（立命館大学教授）	矢野　桂司（立命館大学教授）
9	都市システムと世界都市論	都市システムとは何かを考えながら、国際的な世界都市の特徴と、都市間の結合関係から世界都市システムをとらえる。世界都市論を紹介しながら、世界都市から、グローバルな経済システムの上に成りたったグローバル都市への形成・変容について述べる。 【キーワード】 世界都市、グローバル都市、都市システム、グローバル化	矢野　桂司（立命館大学教授）	矢野　桂司（立命館大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	都市の発展と都心空間の変容	都市は20世紀に入り飛躍的に発展した。しかし、発展のなかにも社会経済の変動や災害などのイベントの影響を受けて、都市には成長と衰退のダイナミクスがみられる。先進諸国の大都市を取り上げ、都心空間の変容に注目しながら都市発展の過程を説明する。 【キーワード】 都市の発展段階、都心空間、インナーシティ問題、都心再開発、災害リスク	宮澤 仁（お茶の水女子大学大学院准教授）	宮澤 仁（お茶の水女子大学大学院准教授）
11	情報化と現代空間	現代の高度に発達した情報通信手段は、私たちの生活のみならず経済活動や社会の仕組みに大きな影響を与えている。情報化がグローバル化の過程を通じて現代社会の空間編成に及ぼす影響について、産業の立地や都市空間の監視をテーマに取り上げて論じる。 【キーワード】 情報化、空間的分業、情報サービス業、電子監視システム、監視空間	宮澤 仁（お茶の水女子大学大学院准教授）	宮澤 仁（お茶の水女子大学大学院准教授）
12	生活空間と福祉	人文地理学では福祉を考えるにあたり生活空間に注目する。グローバル化の圧力を受けて変化する現代社会の福祉を生活者視点で考えるためには人文地理学の視点や手法の援用が有効なことを具体例に基づいて説明する。 【キーワード】 福祉、生活空間、福祉国家、福祉サービス、バリアフリー	宮澤 仁（お茶の水女子大学大学院准教授）	宮澤 仁（お茶の水女子大学大学院准教授）
13	ジェンダーと都市空間	社会的・文化的な性としてのジェンダーは、人文地理学が対象とする諸現象の理解においても重要である。都市空間におけるジェンダーのテーマとして女性の日常生活、仕事と子育ての両立、ライフスタイルの選択と居住地決定の関係について考える。 【キーワード】 ジェンダー、時間地理学、仕事と子育ての両立、居住地選択、都市空間	宮澤 仁（お茶の水女子大学大学院准教授）	宮澤 仁（お茶の水女子大学大学院准教授）
14	都市郊外にみる現代社会の課題	経済成長とともに成長した郊外は、現在さまざまな問題を抱えている。郊外の発展を経済・社会の文脈と関連づけて説明するとともに、その変容過程からみえてくる現代社会の課題を論じる。これにより、人文地理学が高い社会性をもった学問分野であることを示す。 【キーワード】 郊外、都市空間、市民活動、ガバナンス、社会−空間弁証法	宮澤 仁（お茶の水女子大学大学院准教授）	宮澤 仁（お茶の水女子大学大学院准教授）
15	人文地理学の発展とGIS	GISは、（電子）地図情報に関心を持つさまざまな学問分野の研究成果が融合してできあがっている。地理学からの貢献は、地理学固有の考え方や分析方法を顧みることによってあきらかになるであろう。それはGISを地理学史の中に位置づけるこころみでもある。 【キーワード】 地理学史、立地分析、地図の重ね合わせ（オーバーレイ）、コンピュータマッピング、地図変換、計量革命	杉浦 芳夫（首都大学東京名誉教授）	杉浦 芳夫（首都大学東京名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554905	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代フランス哲学に学ぶ （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Studies in Modern French Philosophy (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：戸島 貴代志 （東北大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：本郷 均 （東京電機大学教授） 〕

【本学担当専任教員：魚住 孝至 （放送大学教授） 】

講義概要

フランスの現代哲学は、多様な展開を見せる。この講座では、その諸相を押さえるために、ベルクソン、サルトル、メルロ＝ポンティ、フーコー、リクールの5人に絞って取り上げ、お話しする。この哲学者たちは、さまざまな立場を代表する人物であり、この人たちが、現実といかに格闘し、いかに思索をつむいでいったか、これを学ぶことによって、受講者自らが哲学するときにも、道しるべとなる人たちである。彼らの哲学を学ぶことを通じて、みずから哲学することへと誘うことができれば、と考えている。

授業の目標

代表的な哲学者の思想を理解し、その思想が、どのような時代状況の中で、どのような課題と相対することによって現れてきたのかを理解することが、第一の目標である。それが、西洋哲学のより大きな文脈の中で、どのような問題を提起することになっているのか、このことを理解することが、第二の目標である。そして、このような理解の上に立って、受講者それぞれの現在にあって、それぞれの哲学からどのような可能性を見いだすことができるかを考えること、これが最終的な目標である。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代フランス哲学概観	ベルクソンの哲学を境に、フランス哲学は〈近世〉のそれから〈現代〉のそれへと大きく流れを変える。この意味でベルクソン哲学を源流と見た場合の、現代フランス哲学の全体像を、「実存思想」「構造主義」「解釈学」「現象学」のそれぞれの視点から概観する。 【キーワード】 直接性、生、実存、ニヒリズム、現象学、事象そのものへ、構造	戸島 貴代志（東北大学教授）	戸島 貴代志（東北大学教授）
2	源流としてのベルクソン	1回目に続いて、ベルクソン哲学における基本概念を、『意識の直接与件についての試論』や『物質と記憶』におけるベルクソン固有の立場に立って説明しつつ、現代フランス哲学にきわめて大きな影響を与えたハイデガーの哲学との比較を試みる。ベルクソンもハイデガーもともに「時間」の問題がその主張の核に控えていることを解説する。 【キーワード】 持続、時間の空間化、弾み、創造、生命、情緒	戸島 貴代志（東北大学教授）	戸島 貴代志（東北大学教授）
3	ベルクソン哲学の進展	『試論』や『物質と記憶』以降のベルクソン哲学の発展として、生命進化の問題と社会における宗教や道徳の問題を取り上げる。『創造的進化』において提唱された「生命の飛躍」が、『道徳と宗教の二源泉』では「愛の飛躍」という精神的な現象へと移される。これによってベルクソン哲学が経た変化を批判的に理解する。 【キーワード】 能産的自然と所産的自然、開いたものと閉じたもの、進化そのものと進化したもの、直観と知性、物質的障害	戸島 貴代志（東北大学教授）	戸島 貴代志（東北大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ベルクソン哲学の可能性	ベルクソン哲学に残された最大の問題として「神秘」を取り上げる。現代の技術文明における人間と世界の関係を、マルセルの思想や再びハイデガーの後期思想との比較を交えつつ、ベルクソン哲学における今後の課題として説明する。 【キーワード】 計算、分析、直観、存在と所有、問題と神秘、技術	戸島　貴代志（東北大学教授）	戸島　貴代志（東北大学教授）
5	戦後のフランス哲学理解のために	第二次世界大戦終結後、フランスは新たな哲学・思想展開の舞台となっていく。しかし、その展開は、戦前のドイツにおける現象学とハイデガーの哲学を独自に受容することで可能となった。戦後フランス哲学を理解するために必要な考え方を学ぶ。 【キーワード】 第二次世界大戦前のフランス哲学、現象学、ハイデガー	本郷　均（東京電機大学教授）	本郷　均（東京電機大学教授）
6	サルトルの哲学	サルトルは「実存主義」の立役者の一人である。彼の小説『嘔吐』と哲学書『存在と無』、特に一般に「実存主義」理解を広めることになった『実存主義とは何か』における「実存は本質に先立つ」とは何を意味しているのかについて、考える。 【キーワード】 実存主義、実存と本質、マルクス主義、サルトル	本郷　均（東京電機大学教授）	本郷　均（東京電機大学教授）
7	メルロ＝ポンティの哲学1	メルロ＝ポンティは、フッサールの「現象学」の立場に立ち、ゲシュタルト心理学の成果を取り込みつつ、自身の哲学を展開する。『知覚の現象学』はその成果である。そこで、「身体」を、これまでには扱われてこなかったような仕方で取り上げる。これがその後の「身体論」のルーツの一つとなる。この「身体」が持つ意味の拡がりを考察する。 【キーワード】 現象学、知覚、身体、世界	本郷　均（東京電機大学教授）	本郷　均（東京電機大学教授）
8	メルロ＝ポンティの哲学2	メルロ＝ポンティは『知覚の現象学』刊行後、政治的なテーマと言語に関する考察を進めていく。そして、1961年、53歳で急逝する直前まで、新たな存在論を構築しようとしていた。死後まとめられた『見えるものと見えないもの』には、それまでの彼の哲学を根本的に考え直すという課題と、多くのメモから、彼は何を、どのように考えようとしていたのかを学ぶ。 【キーワード】 政治哲学、ソシュール、言語、存在論	本郷　均（東京電機大学教授）	本郷　均（東京電機大学教授）
9	1960年代からの思想状況	1950年代後半から1960年代にかけてのフランスでは、それまで支配的な地位にあった主体性の哲学が問いに付されるとともに、新たな思考の地平が開かれることになる。フランス思想の大きな転機をしるしづけるこの時代の思潮を、「構造主義者」と呼ばれた人々の言説を手がかりに解読する。 【キーワード】 主体性、構造主義、ソシュール、レヴィ＝ストロース、ラカン、バルト、アルチュセール	慎改　康之（明治学院大学教授）	慎改　康之（明治学院大学教授）
10	ミシェル・フーコーの哲学1	フーコーの哲学的歴史研究の全体を、主体性と真理との関係をめぐる問いによって導かれた探究として読み解くことを試みる。まず、「知」の歴史的変容を扱った1960年代の「考古学的」分析を、1950年代のフーコー自身が帰属していた思考の地平からの離脱のプロセスとして明らかにしていく。 【キーワード】 人間学、知、言説、考古学	慎改　康之（明治学院大学教授）	慎改　康之（明治学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ミシェル・フーコーの哲学2	1970年代から1980年代にかけて、フーコーの研究の軸は、「知」から「権力」へ、さらには「自己との関係」へと移動する。刑罰制度やセクシュアリティをめぐる歴史的分析が行われるなかで、主体性と真理との関係をめぐる問いがそうした分析全体をどのように貫いているのかということを、彼の著作および講義録を読み解きながら明らかにしていく。 【キーワード】 系譜学、権力、規律、自己	慎改　康之（明治学院大学教授）	慎改　康之（明治学院大学教授）
12	1980年代からの思想状況	1980年代の現代フランス思想は、流行思想としての構造主義の退潮と、政治や社会、経済の次元での世界規模の変動を受けて、「ポスト構造主義」と他称される先鋭的な諸思想と、「倫理や宗教への回帰」とが交錯する複雑な様相を呈してくる。その状況を、「自己と他者」という対概念を軸にして、さまざまな動向から読み解いていく。その上で、この時期からリクールの哲学がフランスで再評価され始めた経緯を探る。 【キーワード】 ポスト構造主義、倫理、宗教、自己、他者、リオタール、レヴィナス、デリダ、リクール	杉村　靖彦（京都大学准教授）	杉村　靖彦（京都大学准教授）
13	ポール・リクールの哲学1	前回に描いたような状況の下、フランスの知的舞台への帰還を果たした1980年代のリクールの思想を、大著『時間と物語』を中心にたどっていく。そして、物語論から自己論へと向かうその展開の内に、構造主義以降の思想と社会の錯綜状況を反映し、それに応答していこうとする思索の姿を読みとっていく。 【キーワード】 時間と物語の循環、時間性のアポリア、歴史とフィクションの交差、物語的自己同一性、行為し受苦する自己、自己の解釈学	杉村　靖彦（京都大学准教授）	杉村　靖彦（京都大学准教授）
14	ポール・リクールの哲学2	1990年代以降のリクールを導く「自己の解釈学」の立場を確認した上で、2000年の大著『記憶・歴史・忘却』をたどる。この書は20世紀の思想と歴史の生き証人としてのリクールの総括の書であると同時に、21世紀の世界にとって危急の問題となる数々の主題に触れている。記憶、死者、歴史、赦し等、注目すべき論点を取り上げて、この書から何を学べるかを考えていきたい。 【キーワード】 自己の解釈学、記憶の作業、生者と死者、歴史的条件、特異なものの範型性	杉村　靖彦（京都大学准教授）	杉村　靖彦（京都大学准教授）
15	現代フランス哲学に学ぶ	【①哲学・現象学の限界とその向こう側】1990年代に現れた「フランス現象学の神学的転回」批判は、哲学の問題とは何かを問う側面もあった。アンリやマリオンの哲学を介してこの点に触れることで、フランス哲学のもう一つの側面を押さえておくことにしよう。 【②ベルクソン哲学と東洋思想】本科目の出発点であったベルクソン哲学と我が国の禅思想との比較を試みる。ベルクソンのいう「直観」と、禅思想を背景とした西田幾多郎の「純粋経験」の、それぞれにおける〈主客未分〉について考える。 【キーワード】 ①哲学（愛知）、ロゴス、キリスト教、知と信、現れないものの現象学 ②自由、中立性、必然、事実性、純粋経験、禅、言葉	戸島　貴代志（東北大学教授） 本郷　均（東京電機大学教授）	戸島　貴代志（東北大学教授） 本郷　均（東京電機大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554859	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 経験論から言語哲学へ （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 From Empiricism to Linguistic Philosophy (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：勢力　尚雅　（日本大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：古田　徹也　（新潟大学准教授）〕

【本学担当専任教員：魚住　孝至　（放送大学教授）】

講義概要

「英語圏（英米系）の哲学」としてまとめられる領域は、しばしば経験論と言語哲学とに大別される。では、両者はそれぞれどのような思考のことを指し、そして、どのような点で互いに接続するのだろうか。
まず前半は勢力が担当し、経験論とは何かという問題を、イギリス経験論の主要な論者の思考（おもに言語・認識・社会をめぐる観察と考察）を辿りながら、検討していく。後半は古田が担当し、言語哲学とは何かという問題を、経験論との関係を主軸に置いて検討していく。なお、最終回ではまとめとして、経験と言語のつながりをめぐって、両講師が討論を行う。

授業の目標

前半の目標は、「経験論」の思考を追体験することである。とかく「イギリス経験論 vs 大陸合理論」といったおおざっぱな図式のもとに思想家の名を連ねることで処理されがちな「経験論」であるが、具体的にはどのような思考なのだろうか。個々の論者が取り組んだテーマと考察をめぐって、言語および人間と社会についてのさまざまな観察と考察を辿っていく。
後半の目標は、経験論との関係のもとで「言語哲学」を理解することである。前半と同様に、思想家の名やその代表的なテーゼを確認するだけでなく、個々の思想家の思考を実際に追体験しながら、言語をめぐる哲学的思考の営みというものの意義と重要性を跡付けていく。

履修上の留意点

教科書を読み、放送を聴講したうえで、各自よく考え、紹介される参考文献などと対話することが求められる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	イギリス経験論のアクチュアリティー ーデカルトとホッブズの衝撃	「経験論」とは何か。21世紀に生きるわれわれとどんな関係があるのか。なぜイギリス経験論に着目するところから始めるのかを理解する。 【キーワード】 要素還元主義、トランス・サイエンスの領域、観念論、経験論、形而上学、共通基準、信約、懐疑主義、モラル・サイエンス、寛容	勢力　尚雅（日本大学教授）	勢力　尚雅（日本大学教授）
2	ロックと道徳感覚学派ー経験をどう反省してどんな秩序が生まれるのか	経験を認識するために欠くべからざるものとデカルトが考える「観念」は、経験の中でつくられる。そう考えたジョン・ロックの思考の特徴と帰結、そして、ロックの所説に対する批判的応答として、シャフツベリ、ハチスンの議論を考察する。 【キーワード】 単純観念、複合観念、精神（知性）、反省、抽象、一般観念と一般名辞、人格、労働、所有、社会契約、自然な情愛、形成的自然、道徳的感覚（モラル・センス）	勢力　尚雅（日本大学教授）	勢力　尚雅（日本大学教授）
3	ヒュームによる蓋然的推理批判 ー何かを「信じる」とき、何が生じているのか	経験を反省し秩序をつくる主体とは何か。われわれがもつさまざまな信念と、それを形成する蓋然的推理を批判したヒュームの議論とねらいについて考える。 【キーワード】 「生得的」、「存在するとは知覚されること」、定義の吟味、蓋然的推理批判	勢力　尚雅（日本大学教授）	勢力　尚雅（日本大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ヒュームの懐疑論と寛容論 －想像力と言語はどのような関係にあるか	ヒュームの経験論は懐疑論に陥ったと批判されることがある。しかし、その懐疑は「人間の科学」という企てと背中合わせのプロセスである。「人間的自然」を生成の相で描こうとしたヒュームの懐疑と科学についての議論を考察する。 【キーワード】 懐疑、ジレンマ、想像力と言語、コンヴェンション、批評、寛容な対話	勢力　尚雅（日本大学教授）	勢力　尚雅（日本大学教授）
5	スミスにおける道徳哲学の展開 －交換性向と適切さの感覚は何を生むのか	われわれは想像力と経験に導かれて、どのような感覚を磨きながら、どのような生活様式に縛られるようになるか。ヒュームの始めた道徳哲学を引き継ぎ、多様な観察に基づいて推測を重ねたアダム・スミスのいくつかの議論を考察する。 【キーワード】 改良、適切さ、商業社会、分業、ルソー、相互の共感、インパーシャル・スペクテイター、生活改善、疎外論、ストア派	勢力　尚雅（日本大学教授）	勢力　尚雅（日本大学教授）
6	ベンサムの言語論とミルの道徳科学 －古典的功利主義を支える経験論は何か	古典的な功利主義を代表する二人の人物、ジェレミー・ベンサムとジョン・スチュワート・ミルの議論をたどり、彼らが直面した状況と問題を視野に入れながら、イギリス経験論から功利主義がどのように生まれてきたかについて理解する。 【キーワード】 フィクション、功利の原理、功利計算、間接的立法、道徳科学、具体的演繹法、中間公理、逆演繹法（歴史的方法）、思弁的能力の状態、自由論、ロマン主義	勢力　尚雅（日本大学教授）	勢力　尚雅（日本大学教授）
7	パースの実験主義とジェイムズのプラグマティズム	これまでの章で見てきたイギリス経験論（とくにその言語論と学問的方法論）は、アメリカで「プラグマティズム」と呼ばれる経験論へと受け継がれる。その提唱者であるパースとジェイムズの議論を比較検討しながら、彼らの経験論を考察する。 【キーワード】 アブダクション、実験主義（科学の方法）、記号、純然たる遊び、習慣化する傾向、偶然、希望、合理的感情、プラグマティズム、仲介者、純粋経験、根本的経験論	勢力　尚雅（日本大学教授）	勢力　尚雅（日本大学教授）
8	現代的な経験論の源流	フランツ・ブレンターノとエルンスト・マッハの哲学を概観することにより、現代的な経験論の源流を見出し、近代と現代の英米哲学の結節点がどこにあるのかを探る。とりわけ、マッハの極端な経験論が後代に広範な影響を与えていることを確認する。 【キーワード】 ブレンターノ、マッハ、志向性、形而上学の駆除、反ニュートン力学、感性的諸要素の関数的連関、中性的一元論、世紀末ウィーン	古田　徹也（新潟大学准教授）	古田　徹也（新潟大学准教授）
9	言語哲学の源流	論理学的研究を基にした言語哲学（分析哲学）の源流となるゴットロープ・フレーゲの議論を跡づけ、経験論との立場の違いを確認する。 【キーワード】 フレーゲ、ラッセル、分析哲学、言語論的転回、名辞論理、命題論理、述語論理、概念記法、論理主義、ラッセルのパラドックス、反心理主義	古田　徹也（新潟大学准教授）	古田　徹也（新潟大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	前期ウィトゲンシュタイン	前期ウィトゲンシュタインの主著『論理哲学論考』の議論の枠組みを跡づけることで、この著作が引き起こした「言語論的転回」の内実を確認する。 【キーワード】 ウィトゲンシュタイン、『論理哲学論考』、思考の限界、言語の限界、写像理論、トートロジー、矛盾、ナンセンス・無意味・有意味、日常言語、相対性・絶対性、「語りえぬものについては、沈黙せねばならない」	古田　徹也（新潟大学准教授）	古田　徹也（新潟大学准教授）
11	言語と世界のつながり	論理学的研究を基にした形式的な言語理論と、現実の経験的世界とのつながりについて、バートランド・ラッセルとウィトゲンシュタインがどのような思考を展開したのかを探る。 【キーワード】 ラッセル、ウィトゲンシュタイン、言語の創造性、認識論、センスデータ論、中性的一元論、要素命題の相互独立性、ザラザラした大地	古田　徹也（新潟大学准教授）	古田　徹也（新潟大学准教授）
12	論理実証主義	現代の言語哲学と経験論が融合した立場である「論理実証主義（論理的経験論）」の成り立ちと内実を跡づける。 【キーワード】 エイヤー、カルナップ、哲学の科学化、エルンスト・マッハ協会、ウィーン学団、分析性と総合性、規約主義、要素還元主義、錯覚論法、検証主義、反形而上学	古田　徹也（新潟大学准教授）	古田　徹也（新潟大学准教授）
13	言語観の転換へ	経験論と言語哲学のかかわりをめぐる20世紀半ば～後半の代表的な議論を確認することで、感覚的経験を組織化する枠組みとしての言語観から転換する端緒を探究する。 【キーワード】 クワイン、デイヴィドソン、オースティン、全体論、概念枠相対（絶対）主義、認識論的ニヒリズム、ノイラートの船、所与の神話、枠組みと内容の二元論、錯覚論法批判	古田　徹也（新潟大学准教授）	古田　徹也（新潟大学准教授）
14	言語ゲーム論と言語行為論	言語を「行為」という観点から捉え直す、後期ウィトゲンシュタインの言語ゲーム論とJ・L・オースティンの言語行為論のアウトラインを辿る。 【キーワード】 後期ウィトゲンシュタイン、オースティン、言語ゲーム、家族的類似性、規則のパラドックス、反心理主義、言語行為論、事実確認的と行為遂行的、偽と不適切、発話行為・発話内行為・発話媒介行為、慣習性と即興性	古田　徹也（新潟大学准教授）	古田　徹也（新潟大学准教授）
15	経験と言語 ーロマン主義と世紀末芸術との邂逅を題材に	経験論から言語哲学へと論じてきた各論を、ロマン主義や世紀末ウィーンの芸術・哲学と関連づけて捉え直すことで、経験論と言語哲学の関係性と、今日におけるアクチュアリティーを考え、経験と言語のつながりについて討論する。 【キーワード】 ロマン主義、世紀末芸術、世紀末ウィーン、永遠のコミュニケーション、わざ言語、経験から学ぶ、空気を読む、言葉を探す責任、日常性	勢力　尚雅（日本大学教授） 古田　徹也（新潟大学准教授）	勢力　尚雅（日本大学教授） 古田　徹也（新潟大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554735	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ドイツ哲学の系譜 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 A Genealogy of German Philosophy (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：佐藤 康邦 （放送大学客員教授） 〕

〔主任講師（現職名）：湯浅 弘 （放送大学客員教授） 〕

【本学担当専任教員：魚住 孝至 （放送大学教授） 】

講義概要

近代哲学の中心の位置を占めるドイツ哲学を、それぞれの分野の専門家とともに学ぶ授業である。一方では、その内容がどのようなものであったのかを学ぶとともに、他方では、その現代的意義、さらに日本人にとっての意義を探求する。まず始めは、ドイツ哲学の源流を探り、次に、カントの『純粋理性批判』、『実践理性批判』、『判断力批判』、続いてフィヒテ、シェリング、ヘーゲルのドイツ観念論の哲学の古典、さらにショーペンハウアー、ニーチェの生哲学を学ぶ。続いて、フッサール、ハイデッガーを通じて、20世紀のドイツ哲学を学ぶ。これらの哲学者の思想は、今日なお一般にも人気のあるものであるだけではなく、哲学という学問のことを考える時、内容を理解することが必須のものである。

授業の目標

近代哲学の歴史を飾るドイツ哲学の理解を通じて、哲学という学問がどのような問題を扱うのかの理解に達することが第一の目標である。カントに即すれば、『純粋理性批判』で認識問題、『実践理性批判』で道徳問題、『判断力批判』で美と有機体の問題が、それぞれ、哲学という場面でどのような扱いをされるかが理解される。続いて、この哲学的問いが、今日の学問、今日の社会、今日の文化の理解にどのように適用されるかを考えることが、第二の目標である。そこで、現代科学というものを、人間の知恵という立場から振り返り、現代人の生き甲斐というものを、知性に即して考えるということが探求される。

履修上の留意点

現在開講している、哲学の専門科目のうち西洋哲学に関するものとしては、「経験論から言語哲学へ(’16)」「現代フランス哲学に学ぶ(’17)」があり、また導入科目として「近代哲学の人間像(’12)」「西洋哲学の起源(’16)」がある。本科目は、それらと直接重ならないものであるので、履修上の問題は少ない。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ドイツ哲学の誕生 ーカントに先立つドイツ哲学ー	「ドイツ哲学」と言っても、カントの先行者や同時代人にとってのドイツは今日のそれと同じではないし、ドイツ語で思索した人ばかりでもない。英仏の哲学の影響も無視できない。カントの登場を「ドイツ哲学」のこうしたオープンな性格の豊かな実りとして捉えたい。 【キーワード】 ルター、ライプニッツ、ヴォルフ、ヘルダー、ハーマン	山根 雄一郎(大東文化大学教授)	山根 雄一郎(大東文化大学教授)
2	カント『純粋理性批判』の考察	カントは、近代科学の進歩を強く意識しながら、人間の認識能力は何を・どこまで学問的に厳密に認識できるのかを吟味する批判的な方法によって、哲学の中枢を担ってきた形而上学の再構築を試みた。『純粋理性批判』を中心に理論哲学の諸問題を概観する。 【キーワード】 形而上学、認識能力、コペルニクス的転回、ア・プリオリな綜合判断	山根 雄一郎(大東文化大学教授)	山根 雄一郎(大東文化大学教授)
3	カント『実践理性批判』の考察	カントは、感性的な欲望を理性的に統御することが「できる」点に人間の自由を認める自律的人間観を打ち出した。それは、互いの人格を目的として尊重する理想的共同態を説く点で、社会哲学への射程も有している。平和論を含む実践哲学の諸問題を概観する。 【キーワード】 定言命法、意志の自律、目的の国、永遠平和	山根 雄一郎(大東文化大学教授)	山根 雄一郎(大東文化大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	カント『判断力批判』の考察	カントは、理性・悟性と並ぶ上級認識能力である判断力を扱うにあたり、「自然の合目的性」の概念を問題にする。これを「美しいもの」と有機体とに適用して、自然の全体を、美と目的の観点から一個の体系として判定しようとする『判断力批判』の諸問題を概観する。 【キーワード】 趣味判断、目的なき合目的性、有機体、神学	山根　雄一郎（大東文化大学教授）	山根　雄一郎（大東文化大学教授）
5	倫理的観念論から芸術的観念論へ	カントの超越論哲学の徹底化を図りながらも、図りきれないフィヒテの倫理的観念論、および、この主観性の限界の打破を目ざしつつも、躓くシェリングの芸術的観念論の哲学的特質を検討する。 【キーワード】 観念論、物自体、自我、非我、絶対的無差別	山田　忠彰（日本女子大学教授）	山田　忠彰（日本女子大学教授）
6	「クモの巣」としての『エンチュクロペディー』？	ドイツ観念論の集大成といわれるヘーゲルの哲学体系『エンチュクロペディー（哲学的諸学の百科事典）』の内実および方法論を瞥見しながら、先行者たちとの差異ないしこの体系の独自性と問題性を検討する。 【キーワード】 理念、弁証法、反照運動、相互承認、自由	山田　忠彰（日本女子大学教授）	山田　忠彰（日本女子大学教授）
7	最後の哲学体系のその後	ヘーゲル哲学への対応の仕方を、イタリアの思想家たち、抽象芸術の先駆的芸術家ならびに芸術終焉論を唱える現代の芸術哲学者に探りながら、この哲学の影響力、射程の広さについて考える。 【キーワード】 弁証法、思惟の行為、ブギウギ、芸術終焉論、ポップ・アート	山田　忠彰（日本女子大学教授）	山田　忠彰（日本女子大学教授）
8	ショーペンハウアーの人間論	最近のショーペンハウアー研究には、従来のショーペンハウアー像の修正の必要性を指摘する新しい動向がある。本講義では、その点も紹介しながらショーペンハウアー哲学についてその人間論を中心に考究する。 【キーワード】 意志、表象、苦しみ、芸術、イデア、観照、同情、諦念	湯浅　弘（放送学客員教授）	湯浅　弘（放送学客員教授）
9	ニーチェの伝統批判	ニーチェの思想的営みは、ヨーロッパのキリスト教的伝統に対する批判と自らの生肯定の哲学の構築に分けられる。前者を取り上げる本講義では、批判的視点の形成過程を紹介した上で『道徳の系譜』を中心に彼のキリスト教批判について考究する。 【キーワード】 神の死、ニヒリズム、系譜学、ルサンチマン、良心のやましさ、禁欲主義的理想	湯浅　弘（放送学客員教授）	湯浅　弘（放送学客員教授）
10	ニーチェの生肯定の哲学	ニーチェの生肯定の哲学は永遠回帰思想をはじめとする後期ニーチェ哲学に結実しているが、本講義では、初期ニーチェの『悲劇の誕生』の世界観とも絡めてニーチェの生肯定の哲学について考究する。 【キーワード】 ディオニュソス、芸術家形而上学、永遠回帰思想、運命愛、ツァラトゥストラ	湯浅　弘（放送学客員教授）	湯浅　弘（放送学客員教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ニーチェと20世紀の思想	20世紀から現在に至るまで、ニーチェの影響には甚だ大きなものがある。それは哲学者や文学者に対してばかりではないが、本講義では、20世紀の思想に与えたニーチェのインパクトを検証する。 【キーワード】 ジンメル、ウエーバー、レーヴィット、ヤスパース、ハイデガー、フランクフルト学派、ドゥルーズ、フーコー	湯浅　弘（放送学客員教授）	湯浅　弘（放送学客員教授）
12	フッサール現象学ー事象そのものへー	フッサールは一方では、学問の基礎付けを目指して、自然的態度をエポケーし、純粋意識に遡源する。しかし他方では、学問の危機という立場から科学的世界の基盤として生活世界の重要性を説く。今回は、この二面性を他者問題と関連づけながら考察する。 【キーワード】 エポケー、現象学的還元、自然的態度、生活世界、他我	寿　卓三（愛媛大学教授）	寿　卓三（愛媛大学教授）
13	ハイデガーの存在論ー現象学者ハイデガーー	ハイデガーは、現存在を世界内存在、関心（Sorge）として考察し、その存在体制である時間性を析出する。また、不安、退屈を手がかりに現存在の有り様を本来性と非本来性とに二分する。今回は、ハイデガーの現存在把握の基本特徴を考察する。 【キーワード】 世界内存在、関心、不安、本来性	寿　卓三（愛媛大学教授）	寿　卓三（愛媛大学教授）
14	ハイデガーの思索と現代	環境問題の深刻化、科学技術への信頼の揺らぎ、ことばへの不信、不安の時代といったことが、今日しばしば話題となっている。これらはまさにハイデガー哲学の基本テーマに他ならない。今回は、一見無味乾燥な存在の思索としてのハイデガー哲学の今日性について考察する。 【キーワード】 集ー立、在庫品、四者連関、ことば	寿　卓三（愛媛大学教授）	寿　卓三（愛媛大学教授）
15	ドイツ哲学と日本	明治以来、哲学を学ぶ日本人にとってドイツ哲学は、第一に学ぶ対象であった。そのことをめぐっての座談会をもとに、ドイツ哲学と日本との関係について考える。 【キーワード】 カント、ハイデガー、超越論、人格、生	佐藤　康邦（放送大学客員教授） 湯浅　弘（放送大学客員教授） 山田　忠彰（日本女子大学教授） 寿　卓三（愛媛大学教授） 山根　雄一郎（大東文化大学教授）	佐藤　康邦（放送大学客員教授） 湯浅　弘（放送大学客員教授） 山田　忠彰（日本女子大学教授） 寿　卓三（愛媛大学教授） 山根　雄一郎（大東文化大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554654	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 仏教と儒教 （’１３）＝ (R)

―日本人の心を形成してきたもの―

〔主任講師（現職名）：竹村　牧男　（東洋大学学長）　〕

〔主任講師（現職名）：高島　元洋　（放送大学客員教授）　〕

【本学担当専任教員：魚住　孝至　（放送大学教授）　】

講義概要

日本の思想、哲学、むしろ日本人のものの見方・考え方の背景に、仏教と儒教が大きな役割を果たしていることは誰もが知っていることである。この二つの思想は、ともに外来思想である。それを日本人は古来、深く学んできたのであるが、日本仏教・儒教として表現されたものはもとの姿とかなり異なるものとなったことも事実である。この授業では、まず仏教と儒教の源流がどのようなものであるのかを明らかにし、ついでそれらが日本においてどのような変遷をたどったのか、それぞれの時代の思想を辿りつつ検討する。さらに、これらの外来思想に対抗する、日本古来の思想と見なされる国学や神道思想に関しても検討を加える。

授業の目標

仏教と儒教という、東洋思想を代表する二大思想について、基本的な理解を有するに至るとともに、それらが、どのような道筋をたどって日本の思想になっていったのかについて深く理解し、他の者に伝えることが出来るようになる。そのことをふまえ、現代の日本人の道徳・論理観や死生観について新たな観点を拓く。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	序論　仏教の成立と広がり	日本仏教の思想を学ぶに当たり、仏教および日本仏教の概要について解説する。まず、インドにおいて仏教が釈尊によって開かれたあと、特に大乗仏教がどのような特徴を持って成立し、かつ広がっていったのかについて解説し、ついで中国の仏教を一覧し、さらに日本仏教の形成過程とその特質について概観する。なお、日本仏教の文化への影響について、簡単にふれておく。 【キーワード】 釈尊、部派仏教、大乗仏教、中国仏教、日本仏教	竹村　牧男（東洋大学学長）	竹村　牧男（東洋大学学長）
2	仏教の日本への伝来	仏教の公伝は、552年と言われる。その後、聖徳太子は深く仏教を研鑽したとされ、太子独特の思想も唱えられた。奈良時代に入ると、三論宗・成実宗・法相宗・倶舎宗・華厳宗・律宗の六宗が成立し、大乗仏教の深い哲学が研究された。特に、法相宗の唯識思想や華厳宗の華厳思想の内容は現代的でさえあり、それらの思想について解説する。 【キーワード】 聖徳太子、南都六宗、中観、唯識、華厳、戒律	竹村　牧男（東洋大学学長）	竹村　牧男（東洋大学学長）
3	平安時代の仏教	平安時代には、比叡山に拠った最澄と高野山に拠った空海という二人の巨人が出て、順に天台宗、真言宗の思想を唱えた。天台宗は『法華経』に基づき、真言宗は密教という独特の立場を展開する。二人の思想は大変、奥深く、またのちの日本仏教の母体となるものであった。この平安仏教の双璧のコスモロジーについて、分け入ってみたい。 【キーワード】 最澄、空海、一乗、即身成仏、比叡山、高野山、密教	竹村　牧男（東洋大学学長）	竹村　牧男（東洋大学学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	鎌倉時代の仏教(1) 源信・法然	平安末期になると、時代の不安定な状況や末法思想の浸透等にともない、阿弥陀仏の浄土への往生を願う信仰が普及していく。そうした中で、易行としての念仏によりどんな人でも救われるという新しい仏教を唱えたのが法然であり、その下地を作ったのが源信である。仏教が日本に移植され、定着してきて、さらに民衆の仏教となったありようを源信・法然に探る。 【キーワード】 源信、法然、念仏、往生、極楽浄土、易行	竹村　牧男 （東洋大学学長）	竹村　牧男 （東洋大学学長）
5	鎌倉時代の仏教(2) 親鸞・一遍	法然によって創始された浄土教は、さらにその易行の救いを徹底させていく。親鸞によっては信のみによる救いが唱えられ、一遍によってはただ名号による救いが唱えられた。親鸞と一遍とは、さまざまな点で対照的であるが、いわば絶対他力による救いという点では一致している。そこに見られる日本的霊性を考えてみたい。 【キーワード】 親鸞、一遍、信、他力、名号、遊行	竹村　牧男 （東洋大学学長）	竹村　牧男 （東洋大学学長）
6	鎌倉時代の仏教(3) 栄西・道元・日蓮	鎌倉時代には、中国の影響を受けて禅宗がさかんになってくる。栄西の臨済宗と道元の曹洞宗が成立し、武家などを中心に広まり、また墨絵や茶道等さまざまな文化を生み出していった。一方、日蓮は最澄の教えを独自に磨き上げ、『法華経』の題目を唱える唱題による仏教を国家・社会に訴えた。これらに見られる日本独特の仏教思想を紹介する。 【キーワード】 栄西、道元、日蓮、坐禅、悟り、公案、題目、本門	竹村　牧男 （東洋大学学長）	竹村　牧男 （東洋大学学長）
7	近世・近代仏教	近世の仏教の特徴は、世俗倫理を補完するものとして仏教が機能したことにある。ここでは、鈴木正三、盤珪などの仏教者の思想について言及しつつその特徴を具体的に説明する。近代仏教としては、清沢満之、田中智学などを手がかりとして、西洋思想と仏教との出会いや仏教とナショナリズムについて説明する。 【キーワード】 現世肯定的無常観、生々観、鈴木正三、『万民徳用』、盤珪永琢、不生、清沢満之、精神主義、田中智学、国柱会	頼住　光子 （東京大学大学院教授）	頼住　光子 （東京大学大学院教授）
8	仏教と日本文化	仏教が、日本文化に与えた影響は広く深い。ここでは仏教文学と「道」の思想という、観念と身体の関わる二つのテーマを中心に仏教思想が文化現象をどのように形作っているのかを具体的に検討する。仏教文学としては和歌・物語文学・随筆等を扱う。「道」の思想としては武道・茶道を扱う。 【キーワード】 茶の湯、千利休、わび茶、武士道、いろは歌、弓道、ヘリゲル、葬祭と仏教	頼住　光子 （東京大学大学院教授）	頼住　光子 （東京大学大学院教授）
9	中国文化と儒教	儒教は古代中国において成立する。春秋戦国時代、諸子百家といわれる思想家群が出現する。これらの諸学派は、陰陽家・儒家・墨家・法家・名家・道家の六家などとも分類される。このひとつが儒教である。儒教が思想としてまとまるのは孔子・孟子においてである。儒教が成立する意味、仁・義という思想について考える。また儒教が体系として完成するのは、12世紀の朱子による。今日のいわゆる儒教文化圏が形成される所以である。ここでは朱子学・陽明学の構造を理解する。 【キーワード】 孔子、孟子、仁、朱子学、陽明学	高島　元洋 （放送大学客員教授）	高島　元洋 （放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	日本文化と儒教	日本文化はつねに中国文化の影響を受けていた。儒教の受容も一般的には仏教以前であるといわれている。しかし思想自体は日本独自の受容をする。一例として、中世の五山文学における仏教と儒教の関係、近世における武士道と儒教について考える。朱子学は五山において受容された。山鹿素行の思想は、武士道に対して士道とよばれ赤穂義士などに影響をあたえた。 【キーワード】 五山文学、武士道、山鹿素行、赤穂義士	高島　元洋（放送大学客員教授）	高島　元洋（放送大学客員教授）
11	日本における儒教の受容（朱子学・陽明学）	日本社会において本格的に儒教が必要になったのは近世においてである。儒教の受容は藤原惺窩にはじまり、日本朱子学は林羅山・山崎闇斎において形成される。また日本陽明学は中江藤樹・熊沢蕃山と継承される。これらの思想がどのようなものであったかを考える。 【キーワード】 日本朱子学、日本陽明学	高島　元洋（放送大学客員教授）	高島　元洋（放送大学客員教授）
12	日本儒教の完成（古学）	朱子学・陽明学の受容が一段落すると、日本独自の儒教が形成される。伊藤仁斎の古学である。古学の思想を考えながら、なぜ日本独自の思想が生まれたかを、検討する。 【キーワード】 人倫、拡充、生生観、伊藤仁斎	高島　元洋（放送大学客員教授）	高島　元洋（放送大学客員教授）
13	日本儒教の完成（古学）	日本独自の儒教は、伊藤仁斎だけではない。荻生徂徠の古学が、これもまたまったく構造の異なる思想であった。仁斎にせよ徂徠にせよ、むろん朱子もそうであるが、同じ『論語』を解釈しながら、まったく違う読み方をする。なぜそうなるのかを考えたい。 【キーワード】 聖人、道、活物、荻生徂徠	高島　元洋（放送大学客員教授）	高島　元洋（放送大学客員教授）
14	日本社会における儒教の影響	日本社会においては江戸時代以降儒教の影響が強くはたらいた。まず社会的機能がどのようなものであったかを考えてみたい。教育的啓蒙的な意味もあるし、また近代的な合理主義を形成する側面もある。さらにこのような儒教の考え方を「漢意」として批判する本居宣長のような思想家もいた。 【キーワード】 儒家神道、心学、懐徳堂、漢意	高島　元洋（放送大学客員教授）	高島　元洋（放送大学客員教授）
15	日本の思想：神道・仏教・儒教と近代化	日本の思想で重要なところは習合思想という形態を考えることである。古代では「神仏習合」、中世では「本地垂迹説」とか「禅儒一致・儒仏不二」、近世になると「儒家神道」が成立する。習合思想の中心となる神道について、どのような問題があるかを考え、基本となる神観念から理解する。近世思想になると、仏教も神道も世俗化し、習合思想は崩壊する。そして本格的な近代化がはじまる。 【キーワード】 習合思想、本地垂迹、神道、世俗化と近代化	高島　元洋（放送大学客員教授）	高島　元洋（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554867	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 西洋芸術の歴史と理論 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 History and Theory of Western Art (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：青山　昌文　（放送大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

芸術は、単に好き嫌いで話が済むような趣味の世界のものではありません。芸術は、世界の様々な素晴らしいものが沢山詰まったものであり、世界の奥深いものが凝集しているものなのです。この講義は、芸術のこのような本質を、古代ギリシアから現代までの多くの傑作を現地に訪ねて現場で語りながら、分かりやすく語ります。文学や演劇についても言及しますが、テレビの長所を生かして、講義の主軸は建築を含む美術とし、芸術のもっている深い意味を明らかにしてゆきます。

授業の目標

芸術が、好き嫌いのレベルを超え、感覚的な趣味のレベルを超えた、奥深いものであるということが分かるようになることが、この講義の第一の目標です。そのために、プラトンやアリストテレスの美学・芸術理論のあらましを述べ、古代から現代までの各時代の芸術が、いかに同時代の哲学・思想と根本的に結びついていたか、ということを明らかにしてゆきます。講義でお見せする芸術作品は、ほとんど全てが人類の至宝というべき素晴らしい傑作であり、その傑作を傑作たらしめているものの根源が分かるようになることが、この講義の最終目的です。

履修上の留意点

大学院講義の「美学・芸術学研究(’13)」が、美本質論・芸術本質論・美術論・音楽演劇論・文学論・映画論・建築論などの体系的美学・芸術学の講義であるのに対して、この「西洋芸術の歴史と理論(’16)」は、原始美術から21世紀の現代芸術までを総覧する歴史的視点に立った講義です。尚、この講義は、以前の「芸術の理論と歴史(’02)」「芸術の理論と歴史(’06)」「芸術史と芸術理論(’10)」においてお見せした貴重な海外ロケ映像の大部分を再利用しているためもあって、これらの以前の3つの講義と内容が重複しています。そのために、これらの以前の3つの講義の何れかを単位取得された方は、再履修不可となっていますので、ご注意ください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	芸術とは何か －芸術の見方・味わい方－	芸術の見方・味わい方について述べたあと、原始美術からミュケナイ美術までを振り返り、その後に、ギリシア美術のパルテノン神殿を採り上げて、このヨーロッパ古典古代の大芸術作品が、民主主義の政治家ペリクレスの政治的理想を芸術において表現するものでもあったということを明らかにします。 【キーワード】 趣味、主観、普遍性、ギリシア美術、パルテノン神殿	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
2	プラトン美学 －文学の深い可能性－	哲学史に名高い詩人追放論を採り上げて、プラトンがなぜあれほどまでに芸術を攻撃したのかを明らかにし、その後で、プラトンの詩的霊感論に着目して、ギリシアにおける文学の社会的位置と、プラトン美学の真の意義を明らかにします。 【キーワード】 プラトン、詩人追放論、ホメロス、霊感、イデア、ミーメーシス	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
3	アリストテレス芸術哲学 －演劇の哲学的普遍性－	芸術の全てを一貫する原理論としての、アリストテレスの芸術ミーメーシス哲学を考察し、その深い意義を明らかにします。その後、アリストテレスの高名な悲劇の定義を採り上げて、カタルシスなどの演劇美学概念の意味を明らかにしてゆきます。 【キーワード】 アリストテレス、ミーメーシス、世界、内在、カタルシス	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ロマネスク美術 －超越のプラトン主義－	ロマネスク美術の根底に、プラトン哲学的な超越性が存在していることを、シトー派のベルナールの哲学において明らかにし、そのことをシトー派ロマネスク美術の傑作であるル・トロネやセナンクの修道院建築の現場に立って具体的に解説します。また、モワサックの教会についても考察します。 【キーワード】 ロマネスク美術、シトー派、ベルナール、ル・トロネ、モワサック	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
5	ロマネスク美術 －輪廻転生のプラトン主義－	ロマネスク美術には、異教的・土着的・民衆的な性格も見受けられます。シトー派とは全く異なるショーヴィニーの代表的ロマネスク教会の現場に立って、そのことを具体的に解説し、あわせてその土着的な輪廻転生観がプラトン哲学にも通底していることを明らかにします。 【キーワード】 ロマネスク美術、柱頭彫刻、輪廻転生、ショーヴィニー	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
6	ゴシック美術 －内在のアリストテレス主義－	ゴシック美術の根底に、アリストテレス哲学的な内在性が存在していることを、シュジェールの宣言文書において明らかにし、そのことをゴシック美術の傑作であるアミアンやサンドニの教会の現場にたって具体的に解説します。 【キーワード】 ゴシック美術、シュジェール、ステンド・グラス、アミアン、サンドニ	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
7	イタリア・ルネサンス美術 －ルネサンスの新プラトン主義－	フィチーノの『プラトン『饗宴』注解』を読んで、ルネサンスの新プラトン主義美学を考察し、ボッティチェリの《春》と《ヴィーナスの誕生》がその新プラトン主義美学に見事に即していることを明らかにします。また、ミケランジェロの詩並びに美術作品における新プラトン主義についても考察します。 【キーワード】 フィチーノ、新プラトン主義、ボッティチェリ、ミケランジェロ	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
8	イタリア・ルネサンス美術 －ルネサンスの政治思想－	メディチ家の活動を中心にイタリア・ルネサンスについて年代順に見て行きます。そののち特にミケランジェロとメディチ家の重層的な関係について考察して、ミケランジェロの《ダヴィデ》像自体と、《ダヴィデ》像がおかれていた場がもっていた強烈な政治的意味を明らかにします。 【キーワード】 《ダヴィデ》、ミケランジェロ、メディチ家、シニョリーア広場	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
9	北方ルネサンス美術 －宗教改革と芸術－	ルターの図像論とカールシュタットの原理主義的図像否定論を考察し、ルターの親友クラーナハの描いたルター肖像画の政治的意味や、クラーナハ的女性裸体像の特質を明らかにしたあと、デューラーの美学と彼の作品について、その深い意義を考えてみます。 【キーワード】 ルター、カールシュタット、クラーナハ、デューラー、自然模倣	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	バロック美術 －対抗宗教改革の芸術戦略－	宗教改革に対抗してカトリック教会が定めた『聖人の取り次ぎと崇敬、遺物、聖画像についての教令』を読んで、対抗宗教改革の理念を確認し、その理念の代表的実践者であるベルニーニの《聖女テレサの法悦》などの作品のもっている情動的でベル・コンポスト的な性格を明らかにします。 【キーワード】 カトリック、聖画像、ベルニーニ、情動、ベル・コンポスト	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
11	ロココ美術 －ディドロ美学と市民の芸術－	史上初の本格的な美術批評家であるディドロの美学が、近代の主観主義を超える美学であって、今日的な意義をもっている美学であることを明らかにした後、彼の批評したシャルダンやフラゴナール、更にはヴァトーやブーシェ達の美術作品のもっている意味を、作品を前にして具体的に考えてみます。 【キーワード】 ディドロ、関係の美学、存在充実、シャルダン、ブーシェ	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
12	19世紀美術 －革命の時代の芸術－	古典的伝統的絵画の常識を徹底的に転倒させたクールベの《石を割る人々》や《オルナンの埋葬》などの作品がもっている芸術的革命性や、彼の《画家のアトリエ》の政治的理念について具体的に考えてみます。また、マネの作品の芸術上の革命性についても具体的に考察します。 【キーワード】 クールベ、主題のヒエラルキー、マネ、平面性	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
13	20世紀美術 －戦争の世紀の芸術－	20世紀最大のアーティストであるピカソの最も有名な作品《ゲルニカ》について、その豊かな意味を考えてみます。また、シャガールの作品が持っている、20世紀的な深い意味についても作品を前にして具体的に考えてみます。 【キーワード】 ピカソ、《ゲルニカ》、シャガール、再制作、宗教	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
14	現代の芸術 －死の影の下の芸術－	第二次世界大戦後のアートシーンを代表するウォーホルの芸術が、単なる表層の戯れに止まるものではなくして、現代社会における死の遍在を鋭く見据えた深い意味をもっていることを明らかにし、あわせてキーファーやアバカノヴィッチのアートの深い現代性についても考えてみます。 【キーワード】 ウォーホル、個性、オリジナリティー、死、キーファー	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
15	今日の芸術 －危機の時代の芸術－	今日の社会の危機的な諸問題を見据えた芸術である現代芸術を採り上げ、クリストの芸術のもっている深い社会的歴史的意味を考察します。また、村上隆などの、21世紀の日本の現代芸術についても考えてみます。 【キーワード】 危機、社会、クリスト、村上隆、《五百羅漢図》	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554646	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 西洋音楽史 （’１３）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：岡田　暁生　（京都大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：青山　昌文　（放送大学教授）】

講義概要

本授業ではヨーロッパ芸術音楽の中世から現代に至る歴史を辿る。私たちが「クラシック」と呼んでいる音楽は、およそ18～19世紀のヨーロッパ芸術音楽であるが、この授業ではクラシック音楽の歴史を、その前史および後史も含めて論じると考えてもよい。

授業の目標

西洋音楽がもつアクチュアリティーおよび本質を、様々な音楽に実際に触れつつ理解する。音楽を単に感覚的な印象や好き嫌いで論じるのではなく、その仕組みを客観的に理解したうえで、その背景となる精神構造や社会などをそこに読み取ることが、本授業の目的である。

履修上の留意点

CD等によって出来るだけ多くの実際の音楽に触れること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	西洋音楽の歴史を学ぶ意味	西洋音楽とはいわゆるクラシックとほぼ同義だと考えてよいが、それを二一世紀の日本において学ぶことにどのようなアクチュアリティーがあるのかについて、考える。 【キーワード】 西洋音楽、クラシック音楽	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）
2	古楽・クラシック・現代音楽 －西洋音楽史の三つのエポックについて	西洋音楽の大きな本質の一つが楽譜である。音の長さと高さを正確かつ科学的に記す楽譜システムを例に、西洋音楽を特徴づける合理主義について論じる。 【キーワード】 楽譜、合理主義、西洋	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）
3	多声的音楽の始まり －西洋音楽の夜明け	西洋音楽は中世のグレゴリオ聖歌とともに始まり、そこからポリフォニー音楽（多声的音楽）が生まれることによって爆発的な発展を遂げた。論じるのはおよそ8世紀から11世紀。 【キーワード】 グレゴリオ聖歌、ポリフォニー	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	中世音楽の黄金時代と黄昏	中世音楽の黄金時代は、いわゆるノートルダム楽派であり、これは12世紀から13世紀にかけての十字軍の時代に重なる。それに続くのが、ある種マニエリスムの時代とも言うべき、14世紀のアルス・ノヴァと呼ばれる様式である。 【キーワード】 ノートルダム楽派、アルス・ノヴァ	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）
5	ルネサンス前期と無伴奏合唱	音楽のルネサンスは15世紀に始まる。その中心は、今のフランス北部からベルギーに至るフランドル地方。オケゲムやジョスカンといったこの時代の作曲家の中心ジャンルは、無伴奏宗教合唱曲であった。 【キーワード】 ルネサンス、ミサ、フランドル楽派	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）
6	ルネサンス後期と劇化する音楽	新大陸が発見され、多くの科学発明が成される16世紀のルネサンス後半は、西洋音楽が爆発的な発展を遂げる時代であった。ジャンル的にも世俗音楽や器楽曲などが飛躍的に増加し、音楽の中心もイタリアに移る。 【キーワード】 器楽曲、世俗音楽	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）
7	バロック音楽と絶対王政の時代	17世紀に始まるバロック時代は、政治的にはいわゆる絶対王政の成立とほぼ軌を一にしている。それは通奏低音とコンチェルトの原理、そしてオペラの誕生によって特徴づけられるエポックであった。 【キーワード】 バロック、通奏低音、オペラ、コンチェルト	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）
8	「音楽の父」としてのバッハ	バロック音楽の最も偉大な作曲家であるバッハは、必ずしもバロックを典型的な形で代表する作曲家ではなかった。バロックは音楽が宮廷における瀟洒な娯楽としてどんどん世俗化していった時代であるが、むしろバッハはそのような時代潮流に背を向けるように、中世的な「神に捧げる音楽」の理念を追求した人だったといえる。 【キーワード】 バッハ	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）
9	ウィーン古典派と近代市民音楽の始まり	市民階級が台頭し始める18世紀後半、彼らによって支えられる、バロックとは別のタイプの音楽が生まれる。それがウィーン古典派と呼ばれる時代であり、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンがその代表である。ソナタ形式、交響曲、弦楽四重奏、リートなどは、この時代になって初めて生まれてきた。 【キーワード】 ウィーン古典派、ソナタ形式	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）
10	ベートーヴェンの偉大さ	ベートーヴェンは18世紀後半のウィーン古典派の時代と19世紀のロマン派の時代をつなぐ偉大な存在である。作曲家の独創性と主観の表出としての音楽は、彼によって創造されたといっても過言ではない。また市民の集う新しい共同体としての「コンサート」という制度が生まれたのも彼の時代であり、ベートーヴェンはそのシンボルとしての交響曲のジャンルを確立した。 【キーワード】 ベートーヴェン、交響曲	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ロマン派音楽の制度と美学	19世紀のロマン派音楽は、私たちが「クラシック音楽」としてなじんでいるジャンルの中心をなす。音楽学校やコンサート・マネージメントや音楽批評といった、今なお私たちの音楽生活を規定している諸制度は、すべてこの時代に創出された。また感情表出（とりわけ苦悩のそれ）や独創性を重視するクラシックの美学もまた、19世紀に確立されたものである。 【キーワード】 ロマン派、演奏会制度	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）
12	ロマン派と芸術宗教	ニーチェいうところの「神が死んだ」19世紀において、音楽はいわば擬似宗教的な機能を果たし始める。コンサートやオペラが、一種のミサ体験のような性格を帯びてくるのである。こうした19世紀ロマン派の芸術宗教を最も端的な形で実現したのが、ワーグナーである。彼はバイロイトに自分の作品だけを上演する劇場を建てたが、これは聴衆に一種の巡礼を要求する、新しい宗教の創成であったといえる。 【キーワード】 ワーグナー、芸術宗教	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）
13	前衛への越境	第一次世界大戦の直前、一九〇〇年代はロマン派爛熟の時代であると同時に、クラシック音楽の伝統の崩壊の予兆が見え始めた時代でもあった。そこからシェーンベルクやストラヴィンスキーといった作曲家は、もはや市民社会の娯楽であることを拒絶するような、実験的な音楽を作り出した。いわゆる前衛音楽は、この時代に始まる。 【キーワード】 前衛音楽、第一次世界大戦	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）
14	第一次世界大戦の後	第一次世界大戦が終わった一九二〇年代、クラシック音楽はモダニズムとアヴァンギャルドへと、決定的に越境する。シェーンベルクらは調性を用いる音楽を拒絶し、またストラヴィンスキーは歴史上のスタイルのパロディのみで作品をつくる、いわゆる新古典主義を開始する。それはまた、コンサートのレパートリーが過去の名作のみに次第に固定されていく「クラシックのクラシック化」のプロセスでもあった。 【キーワード】 無調、新古典主義	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）
15	クラシックと現代音楽とポピュラーと	20世紀音楽史は、第一次大戦の直前に始まった前衛音楽、第一次大戦後からラジオやレコードといったメディアによって世界中に伝播するようになったアメリカ・ポピュラー音楽、そして同じくラジオやレコードによって世界に広まる「大演奏家」による「クラシック音楽」へと、従来のクラシックが三分した時代と見ることが出来る。そのなかにあって、第二次大戦後のモダン・ジャズは、ポピュラー音楽の中から生まれてきた、極めて高度の作曲技法を駆使する一種の芸術音楽として注目される。 【キーワード】 ポピュラー音楽、ジャズ、現代音楽	岡田　暁生（京都大学教授）	岡田　暁生（京都大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554891	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 舞台芸術の魅力 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Charm of Performing Arts (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：青山　昌文　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：　　】

講義概要

舞台芸術には、オペラ・バレエ・ダンス・ミュージカル・演劇などがありますが、この講義では、近年日本において大いに成熟してきたオペラ・バレエに一つの力点を置いて、その魅力の根源を探り、更にオペラ・バレエと深い関わりをもつダンス・ミュージカルについても考察します。また、演劇についても、日本や諸外国の古典演劇や現代演劇について、その魅力の根源を探ります。講義では、現代日本において代表的な演出家だった方への詳しいインタヴューもお見せして、芸術創造の奥義の一端を具体的に明らかにして行きます。

授業の目標

舞台芸術は、演出家・指揮者・歌手・ダンサー・俳優・衣装係・照明係等の多数の芸術実践者が集団で作り上げる芸術であり、極めて社会的な芸術です。また、その時その場に観客が居合わせることも根本的な条件であって、芸術実践者と観客の双方で作り上げて行くという面をもっています。このような、総合的かつ一期一会的な舞台芸術の醍醐味を、単に楽しむだけのレベルではなく、深くその魅力の根源に迫って行くことが、この講義のめざしていることです。

履修上の留意点

演劇芸術と音楽芸術は、言うまでもなく、極めて重要な芸術です。この「舞台芸術の魅力(’17)」は、演劇芸術と音楽芸術の双方に亘る講義ですので、これらの芸術に関心をお持ちの方は、是非履修してください。また、「西洋芸術の歴史と理論(’16)」は、芸術そのものについての様々な解明を行っていますから、この科目も、是非お採りになってみて下さい。なお、この「舞台芸術の魅力(’17)」は、以前の「舞台芸術への招待(’11)」の改訂版ですので、講義内容・テーマは、相当程度重複しており、「舞台芸術への招待(’11)」の単位を既に取得された方は、この「舞台芸術の魅力(’17)」は履修出来ませんので、ご注意下さい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	舞台芸術の魅力 －その原理的・歴史的根源－	生身の人間が歌い、演じ、踊り、それを同じ場で見聞きする観客がいる舞台芸術の独特の魅力を明らかにします。演出家・役者と観客の双方が作り上げる現場性の芸術哲学的意味の解明が考察のめざすところです。歴史的考察も行います。演出家へのインタヴューもお見せします。 【キーワード】 舞台、場、現場性、上演芸術、＜つながり＞、一体性	青山　昌文 （放送大学教授）	青山　昌文 （放送大学教授）
2	オペラの古典 －社会との深い関わり－	フィレンツェのカメラータグループが生み出したオペラという芸術が、いかにその時々の社会と深く結びついていたか、ということをフランスの歴史的オペラハウスの現場に立って、具体的に明らかにします。複数のオペラハウスでロケを行います。 【キーワード】 ガルニエ、ヴェルサイユ、バロック、ロココ、馬蹄形劇場	青山　昌文 （放送大学教授）	青山　昌文 （放送大学教授）
3	オペラの現在 －ヴァーグナーの現代性－	ヴァーグナーの《ニーベルングの指環》を例にとって、古典的なオペラ作品を、現代において上演することの、現代的意味を、演出の観点を主にして、芸術論的かつ社会論的に考察します。ヴァーグナーの音楽美学の現代的意義についても考察します。《ニーベルングの指環》の音楽もお聴かせします。 【キーワード】 ヴァーグナー、トーキョーリング、バイロイト、現代、演出、社会	青山　昌文 （放送大学教授）	青山　昌文 （放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	バレエの古典	バレエとはいったいどのような芸術なのかを、具体的な作品に沿って考察します。また、バレエはヨーロッパで生まれ育った芸術ですが、そのバレエがどのような社会から生まれたのか、他の芸術（たとえばオペラ）との関係はどうだったのか、などについて歴史的に考察します。 【キーワード】 舞踊、舞台芸術、ヨーロッパ社会、ロマンティック・バレエ、クラシック・バレエ	鈴木　晶（法政大学教授）	鈴木　晶（法政大学教授）
5	バレエの現在	19世紀に生まれたいわゆる近代バレエは20世紀に大きく変貌を遂げましたが、具体的にどのように進化・変貌したのかを振り返り、21世紀初頭における現状について世界的な視野で考察します。 【キーワード】 20世紀芸術、現代芸術、現代バレエ	鈴木　晶（法政大学教授）	鈴木　晶（法政大学教授）
6	ダンスの現在	「ダンス」という言葉が名指す範囲は現在とても広くなっています。20世紀に身体芸術の可能性を探る試みが各国で行われたからです。それはまるで大航海時代の冒険家たちが未知の領土を求めて七つの海へ散って行ったようでした。この授業では、その中から現在のダンスに大きな影響を及ぼしたアメリカ・ヨーロッパ・日本の舞踊家を紹介します。 【キーワード】 現代芸術、前衛芸術、身体芸術、コンテンポラリーダンス、舞踏	尼ヶ崎　彬（学習院女子大学教授）	尼ヶ崎　彬（学習院女子大学教授）
7	ミュージカル ーその社会性と人間性ー	アンドリュー・ロイド＝ウェッバーの諸作品等を例にとって、ミュージカルが、如何に時代と社会の本質を、現代的かつ大衆文化的に表現するものであるか、ということを明らかにします。特に《オペラ座の怪人》について、詳しく論じます。《オペラ座の怪人》の音楽等もお聴かせします。 【キーワード】 アンドリュー・ロイド＝ウェッバー、《オペラ座の怪人》、社会	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
8	世界の現代演劇 ー演劇における「20世紀」の意味ー	20世紀における世界の現代演劇の展開が、何を問題とし、どのように展開していったのかを、具体的な作品の映像資料なども参照しながら考察します。ヨーロッパの19世紀半ば以降における「演劇」それ自体への根源的な問いかけが、どのように表現の質を変え、「現代」にふさわしいドラマトゥルギー（作劇法）の変革やテクノロジーの刷新をもたらしたのかを歴史的な視点から検証していきます。 【キーワード】 20世紀、演出、戯曲、前衛、1960年代	森山　直人（京都造形芸術大学教授）	森山　直人（京都造形芸術大学教授）
9	日本の現代演劇 ー「近代化」の彼方へー	日本における演劇と社会の「近代化」のプロセス（新劇等の誕生）をふまえつつ、1960年代の前衛演劇を経た日本の「現代演劇」が、どのような地平を獲得したのかを、具体的な作品の映像資料なども参照しながら分析します。テント劇場、市街劇など、既存の劇場空間を離れた上演のもつ社会的意味にも言及します。 【キーワード】 日本、近代化、戯曲、劇場、演出、前衛	森山　直人（京都造形芸術大学教授）	森山　直人（京都造形芸術大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	日本の伝統芸能 －歌舞伎－	歌舞伎は踊りではじまりました。出雲のお国が京都の四条河原で「かぶき躍り」を踊ったその年に、京都の伏見城では徳川家康が将軍宣下を受け、江戸に幕府が開かれました。享保年間には、江戸の大芝居が確立、それは「定芝居（常芝居）」と位置付けられることになりました。舞台と見物席がひとつとなる、歌舞伎の特色はそこから生まれたものでした。 【キーワード】 女形、立役と敵役、下座音楽、所作事、『忠臣蔵』、『助六』、『娘道成寺』	古井戸　秀夫（東京大学教授）	古井戸　秀夫（東京大学教授）
11	日本の伝統芸能 －能－	能は世阿弥により大成されました。庇護したのは足利三代将軍義満でした。花の御所と称えられた室町殿で生まれた芸能でした。世阿弥の幼名は鬼夜叉、鬼に扮する一族の子でした。世阿弥は、怖ろしい鬼の中に人の心を発見、さらに人の心の中に棲む鬼に光を当てたのです。恋慕の鬼と修羅の鬼、時空を超えて立ち現われた幽霊が人と出逢う、夢幻的な劇空間の誕生でした。 【キーワード】 能面、直面物、鬘物、修羅物、狂女物、『清経』、『井筒』、『隅田川』	古井戸　秀夫（東京大学教授）	古井戸　秀夫（東京大学教授）
12	日本の伝統芸能 －人形浄るり文楽－	「浄瑠璃」は牛若丸に恋をした、幼い姫の名でした。その物語が人形と結びついて人形浄るりが誕生しました。近松門左衛門はその人形に人間の魂を吹き込もうとしました。それに応えて竹本義太夫は人の肉声で語り始めたのです。苦しみや悲しみを訴える人形には人形遣いがそっと寄り添う、出遣いの演出が誕生しました。 【キーワード】 三人遣いの人形、義太夫節の浄るりと三味線、『曽根崎心中』、『国性爺合戦』、『菅原伝授手習鑑』、『妹背山婦女庭訓』	古井戸　秀夫（東京大学教授）	古井戸　秀夫（東京大学教授）
13	世界の古典演劇 －シェイクスピアはなぜ「古典」なのか－	ヨーロッパの演劇史において「古典」とされているテクストが、なぜ今日でも世界的に「古典」としての意義を保ちつづけているのかをめぐって、主としてシェイクスピアの諸作品を中心に考察します。テクストの紹介だけでなく、エリザベス朝演劇を成立させていた社会構造や劇場構造も射程に入れながら、それらが19世紀、20世紀においても多様な解釈のもとに上演されつづけていることを、さまざまな資料や映像等を参照しながら検討していきます。 【キーワード】 シェイクスピア、エリザベス朝演劇、ロマン主義、古典、劇場と社会	森山　直人（京都造形芸術大学教授）	森山　直人（京都造形芸術大学教授）
14	世界の古典演劇 －フランス古典主義とディドロ演劇美学－	フランス古典主義演劇美学を見てみた後、ラシーヌの作品を採り上げて、フランス古典主義演劇の魅力の根源を考察します。また、そのあとを受けて、市民劇の理念を掲げたディドロの演劇美学に着目して、ディドロの演技論が、現代にも通じる有益なものであることを明らかにします。 【キーワード】 古典主義、ラシーヌ、《フェードル》、ディドロ、演技、逆説	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
15	世界の古典演劇 －ギリシア悲劇とアリストテレス演劇美学－	アリストテレスの演劇美学の諸概念を考察します。また、具体例として、ソフォクレスの作品《オイディプス王》を採り上げて、ギリシア悲劇の魅力の根源についても考察し、更に、ギリシア悲劇の哲学的普遍性についても考察して行きます。複数のギリシア野外劇場でのロケも行います。 【キーワード】 悲劇、ソフォクレス、アリストテレス、カタルシス、普遍性	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554913	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本の古代中世 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Ancient and Medieval Japan (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：佐藤　信　（東京大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：近藤　成一　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

日本の古代と中世の歴史を、基本となる史料や史跡のあり方や国際的な交流との関わりから探る。時代としては、日本列島のはじまりから16世紀までの、国家が形成・整備され、やがてその仕組みが衰退し、地域社会が表面化するなか、再び統一政権が登場するまでを扱う。とくに列島の古代中世史像は、発掘調査の成果や様々な新史料の発見によって変貌しつつあり、活発に越境した国際関係や各地域の歴史の実像が掘り起こされて、多元的に見直されている。こうした最新の動向をふまえて、東アジアの国際関係のもと、史料や史跡に焦点をあてながら、日本列島のあたらしい古代中世史をたどる。

授業の目標

日本の古代から中世にかけての歴史の流れを理解し、史料や史跡を調べるなかで歴史的事実や歴史の文脈をどうとらえていくのかを理解する。日本列島や各地域の歴史・文化の起源や流れとその特徴を探るとともに、境界を越えた交流のなかで日本史が展開したことを検証する。

履修上の留意点

自分の手で史料を調べ、自分の足で史跡を歩いて、歴史への理解を深めていくことを求めている。放送と印刷教材の両方を、よく学んでほしい。また、日本史の関連科目もあわせて学習することを希望する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	古代・中世史への招待	日本の古代中世史の研究は、国際関係の中で列島の歴史をとらえ、地域の歴史に焦点をあてる方向で、考古学的な発掘調査成果の新発見なども受けて、最近大きく変貌してきている。その研究動向をおさえ、歴史像を具体的にしてくれる文字史料や遺跡・遺物などの多様な歴史資料のあり方を示すとともに、考古学・建築史・美術史・国文学など学際的な視野の必要性を語りたい。また、唐物や城館跡などに焦点をあて、国際関係や地域の歴史文化と地域間交流の諸様相をめぐって、多元的な日本列島の古代・中世史像を整理したい。 【キーワード】 時代区分、古代史、中世史、史料、歴史資料、発掘調査、史跡、遺跡、遺物、唐物、城館跡	佐藤　信（東京大学大学院教授）	佐藤　信（東京大学大学院教授）
2	日本列島の原始から古代へ	岩宿・三内丸山・吉野ヶ里遺跡など、旧石器・縄文・弥生時代の発掘成果から列島の社会像を見直し、中国史書が伝える歴史像と突き合わせる。また、古墳時代の稲荷山古墳鉄剣や「宋書倭国伝」が語る列島像を、磐井の戦いにみる国際関係とともに再検討し、倭国の大王と地方豪族との関係を複眼的に見直す。 【キーワード】 旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、倭国、岩宿、三内丸山、吉野ヶ里遺跡、稲荷山古墳鉄剣銘、「宋書倭国伝」、磐井の戦い、大王と地方豪族	佐藤　信（東京大学大学院教授）	佐藤　信（東京大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	律令国家への道	隋・唐が成立する国際関係の中で、7世紀前半の倭王権の支配構造や仏教受容の文化動向を明らかにする。また、7世紀後半の国際関係の下、「大化改新」、白村江の敗戦、壬申の乱を経て、天武・持統天皇により藤原京・律令が作られ、天皇制や律令国家が形成される過程をたどる。 【キーワード】 倭王権、飛鳥時代、「大化改新」、白村江の敗戦、壬申の乱、藤原京、律令、天皇制、律令国家	佐藤　信（東京大学大学院教授）	佐藤　信（東京大学大学院教授）
4	律令国家と天平文化	平城宮の発掘成果や木簡から平城京の実像を明らかにし、奈良時代の政治史を皇位継承や藤原氏の動向からたどる。地方官衙遺跡の姿から中央と地方の関係に焦点をあてる。また遣唐使の実像、正倉院宝物や東大寺大仏の造立にみられる天平文化の広がりを考える。 【キーワード】 平城宮、木簡、奈良時代、藤原氏、地方官衙、遣唐使、正倉院宝物、大仏	佐藤　信（東京大学大学院教授）	佐藤　信（東京大学大学院教授）
5	平安王朝の形成	桓武天皇による平安新王朝の成立と長岡京・平安京建設の意義、および平安京の構造について理解する。また対蝦夷戦争の展開や、それが蝦夷の社会に与えた影響を考える。さらに最澄・空海による平安新仏教の成立と、これを含めた平安初期の仏教全体についての理解を深める。 【キーワード】 桓武天皇、長岡京、平安京、三十八年戦争、坂上田村麻呂、最澄、空海	佐々木　恵介（聖心女子大学教授）	佐々木　恵介（聖心女子大学教授）
6	平安政治の展開と大地変動・兵乱	平安貴族社会の構造と、摂政・関白成立の意義を理解する。また9・10世紀の地方社会の変質のなかでの、地方支配の変化や武士の登場について具体的に理解する。さらに、多発した自然災害のようすと、人々の対応についても考える。 【キーワード】 太上天皇、賜姓源氏、蔵人所・検非違使、富豪之輩、平将門、貞観地震、御霊会	佐々木　恵介（聖心女子大学教授）	佐々木　恵介（聖心女子大学教授）
7	摂関政治と国風文化	摂関政治の構造とそれを支えた地方支配のあり方をふまえ、摂関期の政治のあり方や貴族社会の実像を理解する。また、当時の国際関係のなかで、「国風文化」の意義を捉える。 【キーワード】 摂政、関白、儀式、寝殿造、唐物、国風文化、浄土信仰	佐々木　恵介（聖心女子大学教授）	佐々木　恵介（聖心女子大学教授）
8	古代から中世へ	中世は古代と何が異なり、また古代から何を継承したのか。時代区分は便宜的なものであるが、古代と中世を分かつ指標として何が考えられるか。研究方法の問題としては、古代史研究と中世史研究では史料の扱い方にも多少の差があるので、中世史料のありかた、特に古文書という史料の特性について考える。 【キーワード】 時代区分、律令制の変容、文字史料と非文字史料、文書・記録・典籍、文書様式の変化	近藤　成一（放送大学教授）	近藤　成一（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	院政と文化	11世紀から12世紀にかけて皇位を退いた上皇による政治が行われるようになった。また上皇や女院のもとに富が集中し、その御願寺を中心とする文化が花開いた。この時期の政治と文化の動向とその基盤について考える。また地方の動向や武者の世の到来する状況にも目を向ける。 【キーワード】 院政、治天の君、女院、御願寺、平泉	近藤 成一(放送大学教授)	近藤 成一(放送大学教授)
10	鎌倉と京	12世紀末に鎌倉幕府が成立した。しかし京都の朝廷が滅亡したわけではない。鎌倉時代150年の政治の推移を幕府と朝廷の拮抗する関係を軸に見ていく。またこの時代にモンゴルの襲来を経験したことの歴史的意義についても考える。 【キーワード】 鎌倉幕府、承久の乱、執権政治、蒙古襲来、両統迭立	近藤 成一(放送大学教授)	近藤 成一(放送大学教授)
11	荘園と社会	12世紀に荘園の設立が広範に進み、荘園を基盤とする政治・経済・社会の構造が形成される。鎌倉幕府は荘園を基盤として地頭制を設けたが、13世紀後半から社会の変化が顕著となり、悪党などの問題が発生する。社会の変化とそれへの対応についても考える。 【キーワード】 立荘、本所、地頭、惣領制、下地中分、悪党	近藤 成一(放送大学教授)	近藤 成一(放送大学教授)
12	室町時代の政治史	鎌倉幕府が滅亡してから戦国時代が始まるまでの政治動向を、建武政権や室町幕府の構造的特徴や諸勢力の動向に目配りしながら、跡付ける。 【キーワード】 建武の新政、二頭政治、京都の幕府、奉公衆、応仁の乱、明応の政変	本郷 和人(東京大学教授)	本郷 和人(東京大学教授)
13	室町時代の社会	室町時代における地方社会の様相を、高野山領紀伊国名手荘や九条家領和泉国日根野荘などの具体的事例について見て、農民の階層性と規模、年貢のあり方、刑罰の様子などについて考える。 【キーワード】 地主と作人、惣村、一揆、徳政令、二重成	本郷 和人(東京大学教授)	本郷 和人(東京大学教授)
14	戦国時代の政治と文化	応仁の乱後に戦国大名が自立し、在地領主を家臣化し村落を支配する様相と、天下統一に向かう動きを考える。また室町・戦国期の文化の特徴を、唐物数寄の世界と会所という空間に注目して考える。 【キーワード】 戦国大名の自立、戦国大名と家臣、戦国大名と村落、天下布武、唐物数寄、会所、天文文化	本郷 和人(東京大学教授)	本郷 和人(東京大学教授)
15	古代中世日本の達成	古代・中世に区分される時代は後世に何を遺したのか。古代中世史の講義を終えるにあたり、対象とした時代の全体を概観する手がかりとして、〈千年の都〉京都の歩みに焦点をしぼり、古代・中世の痕跡が今日にどのようなかたちで遺されているのかを考える。 【キーワード】 都城、平安京、京都、町、古都	近藤 成一(放送大学教授)	近藤 成一(放送大学教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554670	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　日本近世史　　（’１３）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：杉森　哲也　（放送大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

日本の歴史は古代・中世・近世・近代という4つの時代に区分して捉えるのが一般的であり、本科目はこのうち近世(16世紀後期～19世紀中期)という時代について講義を行う。近世は、日本が近代化する直前の時代であり、現代に生きる私たちが良きにつけ悪しきにつけ伝統的であると感じることの多くが形作られた時代である。本科目では、政治史主体の通史という形式はとらず、都市や村落などの地域社会に視点をすえ、史料の丁寧な読解を通して近世という時代の特質を探るという形式で講義を行う。

授業の目標

日本の歴史のなかで近世がどのような時代であるのかについて、正確に理解することを基本的な目標とする。あわせて現在の近世史研究の成果や課題についても、理解することができるようにする。

履修上の留意点

本科目とあわせて、「日本の古代中世('17)」「日本の近現代('15)」などの日本史関連科目、さらに「韓国朝鮮の歴史('15)」「歴史からみる中国('13)」などのアジア史関連科目を履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	都市社会の構造	まず最初に、本講義の視点と課題について述べる。次に第1回のテーマとして、都市社会の構造について講義する。具体的には京都を取り上げ、特に町人地を中心にその構造的特質を明らかにするとともに、基礎単位である町および町々によって形成されている組町や町組の運営について検討する。 【キーワード】 都市社会、都市的要素、町、町組、重層構造	杉森　哲也(放送大学教授)	杉森　哲也(放送大学教授)
2	近世都市の社会問題	近世の都市で発生した社会問題について講義する。多くの人口を擁した近世の都市では、様々な社会問題が発生していた。今回はこのうち捨子という問題を取り上げ、それがどのように発生し、どのように取り扱われたのか、そしてその社会的背景などの問題について考える。具体的な事例として、幕末の京都で起きた捨子の一件を取り上げ、詳しく検討する。 【キーワード】 社会問題、捨子、捨子養子制度、生類憐れみ政策	杉森　哲也(放送大学教授)	杉森　哲也(放送大学教授)
3	近世の都市災害	近世の都市災害について講義する。具体的な事例として、近世の京都で起きた次の三つの都市災害、すなわち火災として天明8(1788)年の京都大火、震災として文政13(1830)年の京都地震、戦災として元治元(1864)年の禁門の変を取り上げる。これらの災害について、史料に即してその状況を見るとともに、都市住民が災害にどのように対処したのか、また災害が都市社会にどのような影響を与えたのかなどについて考える。 【キーワード】 都市災害、天明大火、文政京都地震、禁門の変	杉森　哲也(放送大学教授)	杉森　哲也(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	武家屋敷と都市社会	城下町は、前近代の日本における代表的な都市類型の一つであった。従来、城下町の歴史は、町人の成長に注目して語られてきたが、幕末に至るまで、城下町において武家は重要な存在であった。ここでは、最大規模の巨大都市へと発展した江戸について、都市の治安維持や消防、出入商人、邸内社の公開をとりあげ、武家と都市社会の諸関係をみていく。 【キーワード】 城下町、江戸、武家地、武家屋敷、辻番、火消、出入商人、邸内社、地域社会	岩淵　令治（学習院女子大学教授）	岩淵　令治（学習院女子大学教授）
5	江戸勤番武士と都市社会	江戸には、参勤交代に随行して、各地から藩士が集まった（江戸勤番武士）。彼らは、江戸ッ子から田舎者と馬鹿にされた。また、現代の研究者からは、余暇をもてあまし、節約をしながら江戸中をくまなく探訪したと評価されている。ここでは、彼らの日記や江戸案内書から、こうした非日常的な存在というイメージを批判し、彼らによって成り立っている江戸、あるいは彼らが江戸をどのように見ていたのかを考えていく。 【キーワード】 江戸勤番武士、浅黄裏、勤務、外出制限、生活圏、遠出、買物、江戸像の相対化	岩淵　令治（学習院女子大学教授）	岩淵　令治（学習院女子大学教授）
6	近世考古学の進展と都市江戸研究	武家地の研究は、1980年代後半以降に本格化した江戸遺跡の発掘調査に端を発している。ここでは、近世考古学のあゆみとその成果、そして現状についてみていく。 【キーワード】 近世考古学、巨大都市の造成、水害、清潔都市・リサイクル都市幻想、裏店の人々の死、文化財保護法改正	岩淵　令治（学習院女子大学教授）	岩淵　令治（学習院女子大学教授）
7	大名家臣団と城下町	萩藩領（現・山口県）における支配の拠点だった城下町・萩のあり方を考える。なかでも萩藩家臣団の動向と関連づけ、武家屋敷地の動向をとりあげる。軍事的な緊張関係のなかで建設されたあと、幕府国目付の派遣をきっかけにして、武家地の拡充がなされてゆく経緯を観察したい。 【キーワード】 城下町、武家屋敷、大名家臣団、武士の役	森下　徹（山口大学教授）	森下　徹（山口大学教授）
8	山口町と地域経済	萩藩領の在町だった山口町を取り上げる。近世中期には大坂へ向けた木綿の移出拠点として繁栄したものの、やがて産地間競争に敗北。かわって市の開催や地元向け産物などを取り扱うようになった。近世後期になると瀬戸内の地域経済に密着することで存立を図っていった様子をのべる。 【キーワード】 在郷町、木綿流通、市、瀬戸内地域	森下　徹（山口大学教授）	森下　徹（山口大学教授）
9	瀬戸内地域の労働社会	萩藩領の瀬戸内沿岸部には、近世後期においても新田開発が盛んに行われていた。その建設には広域を移動する石工が関わっている。地元の業者など重層的な請負構造を介して雇用されていたことを明らかにする。それを通して瀬戸内各地を移動する職人・労働力のあり方を考えたい。 【キーワード】 新田開発、石工、請負、出稼ぎ	森下　徹（山口大学教授）	森下　徹（山口大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	房総の相給村落と用水	近世房総地域（現・千葉県）の平野部の村のあり方を、九十九里平野内部の村である、台方村（現・千葉県東金市）を具体例として、明らかにする。複数の領主・知行主が支配する相給という支配のあり方や村々の用水利用のあり方を通して、農村の基本的な存在形態を理解してもらうことが目的である。 【キーワード】 房総地域、相給、旗本、用水、年貢皆済目録	後藤　雅知（立教大学教授）	後藤　雅知（立教大学教授）
11	房総の海付村落	海に囲まれた房総半島の特徴をよく示す事例である海に面した村々＝海付村落のありようを、その内部構造に注目しながら検討する。房総の沿岸村々を概観した上で、具体例として、金谷村（現・千葉県富津市）を取り上げて、漁業社会の実態にせまることにする。 【キーワード】 房総地域、海付村落、漁業、岡方・浜方関係、小買商人、一割船、日本橋四組魚問屋	後藤　雅知（立教大学教授）	後藤　雅知（立教大学教授）
12	林産物の生産と輸送	丘陵地ながら山深い房総半島内部の社会構造を明らかにするとともに、そうした社会における林産物生産が江戸でのエネルギー需要と強く結びついたことを論じる。具体例として、筒森郷奥山御林での林産物生産と、林産物を輸送する養老川水運とを取り上げて、検討していく。 【キーワード】 房総地域、山間村落、炭、真木、御林、養老川水運、勝浦藩、岩槻藩	後藤　雅知（立教大学教授）	後藤　雅知（立教大学教授）
13	寺院・僧侶の組織	近世の地域社会において、宗教者がどのように存在し、ひとびととどのような関係を取り結んでいたのか。これから三回の講義で、仏教教団・僧侶について、関東の事例から、具体的に考えていく。今回は、寺院・僧侶の編成のありかた、地域的な教団組織の実態、多様な寺院の、住職の選定・決定方法、などについて、具体的にみていく。 【キーワード】 本末関係、触頭、檀林（談林）、色衣、寺領、末寺、門徒、地域的な教団組織	朴澤　直秀（日本大学教授）	朴澤　直秀（日本大学教授）
14	在地寺院の実態と運営	地域社会における寺院の多様なありさまについて、関東の具体的な事例をとりあげ、検討していく。まずは寺院が果たす諸機能について注目し、その寺院が村や檀家組織の関与をうけながらどのように運営されていくのか、住職のいない寺院はどのように維持管理されていくのか、といった点についてみていく。さらに、僧侶の京都留学や、村の寺院とは対照的な、寺院領主の様相も紹介する。 【キーワード】 寺院の機能、寺院組織、僧侶集団、寺院の管理・運営、無住契約、僧侶の修学、寺院領主	朴澤　直秀（日本大学教授）	朴澤　直秀（日本大学教授）
15	寺檀制度をめぐって	近世の仏教を特徴付けた、一つの大きな要素である「寺檀制度」について、関東の、地域での実態や、幕府による対応などに即して考えてみる。一般的な葬祭・宗判に関する寺檀関係だけでなく、祈禱をめぐる寺檀関係にも着目する。また、「半檀家」という慣行への、村・寺院・幕藩領主それぞれの対応にも着目し、「寺檀制度」の特質について考えていく。 【キーワード】 寺檀制度、葬祭寺檀関係、宗判寺檀関係、祈禱寺檀関係、檀家組織、半檀家、一家一寺制、偽法令	朴澤　直秀（日本大学教授）	朴澤　直秀（日本大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554794	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 韓国朝鮮の歴史 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 History of Korea (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：吉田　光男　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

古代から近現代に至る韓国朝鮮の歴史について、政治と社会に焦点を当て、最新の研究成果をもとにして、通史的な観点から論じていく。韓国朝鮮という地域がどのような経緯で形成され、現在に至っているのか、今日の国民や民族などの存在を無批判に所与のものとすることなく、社会の内実や同時代における人々の意識にまで入り込んで考察を加える。

授業の目標

韓国朝鮮社会の歴史的な動きを、具体的な史実をもとにして、古代から現在までの時間的経過の中で理解する。日本や中国との共通性と相違性を把握し、東アジアの中で韓国朝鮮がもっていた社会的・歴史的特質を考える基礎を造成する。

履修上の留意点

特別な予備知識は必要としない。「歴史からみる中国（’13）」も併せて履修するのが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	韓国朝鮮の歴史を考えるために	韓国朝鮮の歴史が展開してきた舞台となる地域の諸条件について考察する。韓国朝鮮という概念が人類の歴史始まって以来、存在しているものではなく、時代とともに形成されてきたことを理解し、本講義全体の学び方について論じていく。 【キーワード】 言語、国境、民俗、文化、地理、自然、環境	吉田　光男（放送大学教授）	吉田　光男（放送大学教授）
2	アジアの変動と韓国朝鮮の古代	古朝鮮の建国や漢の郡県設置、高句麗の成長など、朝鮮半島における古代の政治状況と、その中における住民の様相について論ずる。あわせて、神話と史実の関係についても考察する。 【キーワード】 古朝鮮、檀君神話、箕子朝鮮、衛氏朝鮮、漢四郡、高句麗、公孫氏、魏、三韓	井上　直樹（京都府立大学准教授）	井上　直樹（京都府立大学准教授）
3	古代三国の社会と政治	古代国家である高句麗、百済、新羅の社会と政治について、それぞれの独自性と、相互の関係を中心に論ずる。また、それら諸国の文化についても考察する。 【キーワード】 高句麗、新羅、百済、加耶、王都、山城、古墳、仏教	井上　直樹（京都府立大学准教授）	井上　直樹（京都府立大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	新羅の三国一統と渤海	高句麗・百済・新羅の抗争は隋・唐・倭をも巻き込んで熾烈化し、やがて新羅が朝鮮半島を支配する。だが、その支配は朝鮮半島北部には及ばず、朝鮮半島北部から中国東北地方には渤海が君臨する。この時期の新羅と渤海の史的展開過程ならびにその文化について考察する。 【キーワード】 高句麗、百済、新羅、隋、唐、渤海、後三国	井上　直樹（京都府立大学准教授）	井上　直樹（京都府立大学准教授）
5	高麗時代前期の社会と政治	後三国といわれる戦乱の時代を勝ち抜いて、高句麗の覇権を掌握した。高麗時代前期の社会的・政治的特色を中央（首都）と地方の関係の中からうかがっていく。 【キーワード】 邑、宋、契丹、仏教、武臣、豪族、儒教、官僚、反乱	吉田　光男（放送大学教授）	吉田　光男（放送大学教授）
6	高麗時代後期の社会と政治	高麗時代後期になると、社会の変化と東アジアの変動を受けて、武臣といわれる新しい権力者たちが台頭する。この時代はモンゴル勢力がアジアを席巻し、高麗もその支配下に入った。国際情勢と国内政治の関係について着目しながら、高麗の歴史的位置について考察する。 【キーワード】 モンゴル、仏教、武臣、江華島、大蔵経、三別抄、元寇	吉田　光男（放送大学教授）	吉田　光男（放送大学教授）
7	朝鮮時代前期の社会と政治―文の支配と武の支配―	中国における元から明への王朝交代は朝鮮半島の政治に大きな影を落とした。元と親和的な勢力は衰退し、明との関係に外交の基軸をおく勢力が成長してきた。この中で朝鮮王朝は「武」の力によって権力を掌握したが、王朝成立の早い時期から「文」の力を重視し、明との関係を基礎として安定した支配を成立させようとした。学問の重視は、世宗によるハングルの創制などにつながり、法体系が整備されて王朝支配が確固としたものとなっていくことをみていく。 【キーワード】 李成桂、儒教、科挙、両班、官僚、冊封、士大夫、士族	吉田　光男（放送大学教授）	吉田　光男（放送大学教授）
8	東アジアの変動と韓国朝鮮	16世紀末の日本軍（豊臣秀吉軍）と17世紀前半の後金（清）軍の侵入によって朝鮮の社会と政治は大きな痛手を負った。その被害の実態とそこからの回復とあわせて、江戸幕府・清朝との外交関係の安定を見ていく。 【キーワード】 豊臣秀吉、宣祖、光海君、通信使、壬辰倭乱、丙子胡乱、明、清、燕行使、交易、外交	吉田　光男（放送大学教授）	吉田　光男（放送大学教授）
9	朝鮮時代後期の社会と政治―中央と地方―	18世紀から19世紀にかけて、韓国朝鮮の政界が両班・士大夫間の権力争いによって揺り動かされたことをうかがいつつ、地方社会における氏族に焦点をあてて社会の変化を検討する。 【キーワード】 士族、氏族、身分、党派、儒教、両班、士大夫、血縁、族譜	吉田　光男（放送大学教授）	吉田　光男（放送大学教授）
10	開化への道	19世紀中ごろから朝鮮が受けたウェスタン・インパクトと日本の外交体制の変化にどのように対応したかをみる。「鎖国」の強化から開国への歴史的経緯を理解するとともに、とくに日本・中国との関係がどのように展開し、朝鮮社会にどのように影響を及ぼしたのかについて理解する。 【キーワード】 天主教、大院君、日朝修好条規、開化、壬午軍乱、甲申政変、閔氏政権	三ツ井　崇（東京大学准教授）	三ツ井　崇（東京大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	近代改革と国際関係	甲午農民戦争以後、日清戦争、日露戦争を経て、韓国併合に至るまで朝鮮と清・ロシア・日本との関係は大きく推移した。その過程で、朝鮮政府、大韓帝国政府はどのようにして近代国家を形成しようとし、その背景にあるナショナリズムはどのように変容していったのかについて理解する。 【キーワード】 東学、甲午農民戦争、日清戦争、甲午改革、下関条約、三国干渉、閔妃殺害、大韓帝国、日英同盟、日韓協約、日露戦争、統監府、伊藤博文、ハーグ密使事件、韓国併合	三ツ井 崇（東京大学准教授）	三ツ井 崇（東京大学准教授）
12	植民地支配下の朝鮮①―「武断政治」から「文化政治」へ―	1910年、韓国は「合邦」という名目で日本の植民地となり、朝鮮半島の地は、「朝鮮」と呼ばれる日本の一地域となった。日本の政策によって韓国朝鮮社会にもたらされた変容を、政治・経済・文化とともに検討する。 【キーワード】 朝鮮総督府、武断政治、土地調査事業、同化政策、国語、民族自決主義、三・一独立運動、文化政治、内地延長主義、社会主義、移住	三ツ井 崇（東京大学准教授）	三ツ井 崇（東京大学准教授）
13	植民地支配下の朝鮮②―日本の中国大陸進出と朝鮮半島―	1930年代以降、日本は中国大陸への進出を本格化させ、ついに戦争へと至る。その過程で植民地朝鮮は日本にとってどのように位置づけられ、朝鮮社会はどのように変容していったのかについて検証する。 【キーワード】 産米増殖計画、満洲移住、関東大震災、昭和恐慌、満洲事変、農村振興運動、金日成、抗日運動、日中戦争、皇民化政策、戦時労働動員、徴兵制、参政権	三ツ井 崇（東京大学准教授）	三ツ井 崇（東京大学准教授）
14	朝鮮半島における南北分断体制の成立	1945年8月、第2次大戦が日本の無条件降伏に終わるとともに、韓国朝鮮は植民地から解放された。しかし、南部には米軍、北部にはソ連軍が進駐し、東西冷戦を背景にした厳しい対立が始まった。1948年、南に大韓民国、北に朝鮮民主主義人民共和国が成立して、いわゆる分裂時代に突入し、朝鮮戦争によって南北の分断は決定的になった。南北で大きく異なる南北社会を比較しながら見ていく。 【キーワード】 ソ連、アメリカ、軍政、冷戦、李承晩、金日成、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、朝鮮労働党、朝鮮戦争、千里馬運動、日韓会談、日韓基本条約、ベトナム戦争、中ソ対立、主体思想	三ツ井 崇（東京大学准教授）	三ツ井 崇（東京大学准教授）
15	国際秩序の変動と朝鮮半島	1970年代における南北の独裁体制の強化以降、世紀転換期に至るまでの南北朝鮮の政治・経済・社会について理解する。また、南北を取り巻く国際関係の推移にも注意しつつ、日本との間で抱える課題の歴史的文脈についても考察する。 【キーワード】 維新体制、全斗煥、ソウルの春、光州事件、盧泰愚、民主化、金正日、冷戦崩壊、核開発、金泳三、金融危機、金大中、南北首脳会談、六カ国協議、盧武鉉、李明博、朴槿恵、金正恩、竹島、慰安婦問題、日本人拉致問題、日朝国交正常化	三ツ井 崇（東京大学准教授）	三ツ井 崇（東京大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554662	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　歴史からみる中国　　（’１３）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：吉澤　誠一郎　（東京大学大学院准教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：吉田　光男　（放送大学教授）　】

講義概要

古代から現代に至る中国史について、今日の日本人が知っておくべき事柄を時代順に紹介していく。その際には、中国社会の地域的・民族的な多様性が歴史にどのような影響を与えたかという視点を重視して、今日のナショナリズムに基づく歴史観から離れた柔軟な見方をもてるようしたい。

授業の目標

古代から現代に至る中国の歴史について全体像を把握することをめざしたい。中国の歴史的展開が、日本とはスケールの異なるというべき多様な要素にもとづいていることを、具体的に理解できるようにする。

履修上の留意点

特別な予備知識は必要はない。隣接する地域の歴史について、「韓国朝鮮の歴史（’15）」も履修するとよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	中国史について考える	今日では自明とみなされがちな中国史という考え方が、近代ナショナリズム史観のものであることを指摘したうえで、それでも中国史について考える意味は何かについて論じる。中国史を形作ってきた地域的・民族的な多様性についても、留意したい。 【キーワード】 中国史、ナショナリズム、漢民族、多様性と統一性	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）
2	東部ユーラシアの環境と多様性	東部ユーラシアの多様な自然環境は、各地にさまざまな先史文化を育んだ。気候や社会・経済の変動に影響されながら、諸地域文化が交流や抗争を繰り返し、その中から新たな制度や思想が生まれてきたことを理解する。 【キーワード】 共工伝説、禹貢、甲骨文字、鄧爰、諸子百家、都江堰	阿部　幸信（中央大学教授）	阿部　幸信（中央大学教授）
3	漢王朝の「海内一統」	東部ユーラシアにはじめて長期に亙る政治的安定をもたらしたのは、漢王朝である。東方諸侯との角逐や北方の匈奴との対峙を経て、漢の「海内一統」が実現され、地域性を越えた新しい「中国」が形成された過程について考える。 【キーワード】 皇帝信璽、諸侯王、匈奴、漢武帝、塩鉄官、三皇説	阿部　幸信（中央大学教授）	阿部　幸信（中央大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	南北朝のもたらしたもの	漢王朝の崩壊に続く魏晋南北朝時代の動乱は、ユーラシア全体の民族移動と関係していた。大規模な人口移動を背景としながら、北朝・南朝において文化の融合が進行したことを把握する。 【キーワード】 公孫氏政権、長沙呉簡、法顕、淝水の戦い、北魏太武帝	阿部　幸信（中央大学教授）	阿部　幸信（中央大学教授）
5	唐王朝とその世界性	遊牧民族と漢人の協働によって支えられた唐王朝は、東西を結ぶソグド人のネットワークに組み込まれ、都の長安では国際色豊かな文化が開花した。その具体的様相と、安史の乱によって生じた変化を理解する。 【キーワード】 拓跋国家、唐長安城、トゥルファン文書、阿倍仲麻呂、黄巣の乱	阿部　幸信（中央大学教授）	阿部　幸信（中央大学教授）
6	東アジアの大変容と宋王朝	唐の弱体化の中で勢力をのばした五代十国とキタイは、中国にその後3世紀続く分裂をもたらした。五代を継いだ宋は、遼・西夏・金と対峙するため、軍事・財政の仕組みを発達させる一方、官僚制度を整え、文化を飛躍的に発展させた。 【キーワード】 キタイ、徽宗、士大夫、科挙、朱子学、宋銭	櫻井　智美（明治大学准教授）	櫻井　智美（明治大学准教授）
7	モンゴル時代の中国	モンゴル帝国はユーラシアに広大な支配域を広げ、中国にも多大な影響を及ぼした。大都を中心とする帝国の交通圏に組み込まれた中国の様相を、繁栄する商業と元朝の財政、そして後代の中国に与えた影響を中心に解説する。 【キーワード】 大都、クビライ、ケシク、ジャムチ、マルコ=ポーロ、「商業指南」	櫻井　智美（明治大学准教授）	櫻井　智美（明治大学准教授）
8	明朝と東アジア	明朝初期は、元の制度を受け継ぎながらも、農村社会を安定化させるための里甲制、対外貿易の統制など新施策をとった。しかし、16世紀の国際的経済変動は、明朝にも大きな刺激を与え、その体制を動揺させていく過程を把握する。 【キーワード】 里甲制、北虜南倭、銀、農村手工業、足利義満	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）
9	清朝の覇権	清朝は、女真の人々に由来する国家である。17世紀に明朝が反乱によって滅亡したあと、清朝は明朝の版図をおさえるとともに、次第にモンゴル・新疆なども支配下にいれていった。清朝の対外姿勢や文化の特徴についても理解を深めたい。 【キーワード】 女真、八旗、ジューンガル、新疆、乾隆帝	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）
10	近代世界のなかの清朝	19世紀はじめ清朝は統治の再建のため積極的施策を試みた。19世紀半ばには清朝は連鎖的におこる反乱に苦しめられたが、結局は地方の紳士たちの支持と海外貿易にもとづく財源によって体制を立て直した。 【キーワード】 アヘン戦争、太平天国、曽国藩、ムスリム反乱、海関	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	中国ナショナリズムの形成	康有為らの変法運動は1898年にピークに達したが、挫折した。彼らと孫文は複雑な対抗関係をもちながら、欧米・日本の近代国家観を受け止め、中国ナショナリズムの考えを作っていった。清朝は立憲制導入によってこれに対抗した。 【キーワード】 康有為、梁啓超、孫文、科挙の廃止、日本留学、辛亥革命	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）
12	模索する中華民国	中華民国は、豊かな可能性をもつ模索の時代を提供した。前半は軍人が各地に政権を築く不安定な政権のもとで、知識人たちは思索の試みを続けた。南京に国民政府が成立してから、意欲的な政権運営のもとで国家統合・国権回復が試みられた。 【キーワード】 五四運動、蔣介石、関税自主権の回復、貨幣の統一	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）
13	国民政府と日中戦争	南京国民政府の施策は、日本の侵略によって阻止された。国民政府は重慶に移転して抗戦を進めるとともに、英米と協力しつつ戦時体制を構築した。戦後になると国民党と共産党の内戦が始まり、最終的には共産党を中心とする新国家が成立した。 【キーワード】 日中戦争、重慶、延安、中華民国憲法、台湾	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）
14	中国社会主義の展開	1949年に成立した中華人民共和国は、朝鮮戦争でアメリカとの敵対を余儀なくされ、社会主義建設の急進化の道を選んだ。しかし、共産党内にも、安定した統制経済をめざす方針と大衆運動を重視する方針との対立があり、社会主義建設は紆余曲折を経た。 【キーワード】 毛沢東、劉少奇、朝鮮戦争、大躍進、文化大革命	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）
15	現代中国をみる	1972年代から中国は社会主義圏以外とも交渉を深めていった。1990年代以降には、大胆な市場経済原理の導入によって急激な経済発展を果たしてきたが、国家の統合・安定のもとでいかに人々の多様な願いを実現させるか、大きな課題に直面している。 【キーワード】 国際連合、鄧小平、社会主義市場経済、北京オリンピック	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）	吉澤　誠一郎（東京大学大学院准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554808	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ヨーロッパの歴史Ⅱ （’１５）＝ （TV）

－植物からみるヨーロッパの歴史－

英文名 ＝ 〔 History of Europe Ⅱ (’15): Europe Seen through Plants 〕

〔主任講師（現職名）：草光　俊雄　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：菅　靖子　（津田塾大学准教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

イングリッシュ・ガーデンの人気が高い。イギリスで庭園作りが盛んになったのは16・17世紀から。18世紀に英国式庭園が誕生し、19世紀には庶民の間にガーデニング趣味が広がった。この庭園趣味はヨーロッパが世界に進出し、珍しい植物を持ち帰ってきたことに端を発する。やがてそれは自然を科学的に理解しようとする新しい学問の発達と結びつき、植物学による世界、自然認識へと発展する。大英帝国の版図の広がりとともに、植物は単なるガーデニング趣味を超え、帝国経済を念頭においた国家にとっての重要な政策課題になっていく。本講義では植物への関心が人々の生活に結びついて大きく変化してきた近代の姿を概観する。

授業の目標

あるひとつのテーマを深く掘り下げて考えることは、じつは幅広い分野の問題との関連で考えることでもある。個別研究はつねに広い視野に立った総合的な視点を必要とする。植物についてのひとびとの関心のあり方をとおして、それぞれの時代の社会、文化、経済、政治などを考察する必要があることを具体的に論じていくことによって、自分たちの身近な問題を広いコンテクストで考える見方を習得できるようにする。

履修上の留意点

「歴史と人間」「ヨーロッパの歴史I」「南北アメリカの歴史」等が関連科目である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	イントロダクション	全体の講義を踏まえてそのポイントを紹介する。また日本人と植物学との関係を中国から渡来した「本草学」との関連で概観し、西洋の近代的な植物学との出会いによってそれがどう変質したのかについて見ていく。 【キーワード】 本草(学)、薬種学、『本草綱目』、ケンペル、ツンベリー、シーボルト、貝原益軒、平賀源内、岩崎灌園、園芸	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）
2	人間と植物世界：庭と森	人間と植物との関係を歴史を追って概観する。特に人間がいかに庭を造り、そこに様々な意味と役割を付加していったかを考える。また人間にとっての森とは何であったかを歴史的に見る。 【キーワード】 エデンの園、逍遥学派の庭園、薬草園、森林	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）
3	園芸の始まりと植物学の成立：植物ネットワークの展開	大航海時代のヨーロッパの世界進出にともない、自然科学と同様植物学・博物学は新しい世界との出会いを驚異と好奇心で迎え、自然秩序の解釈にその知的努力を傾注した。ルネサンス期から始まる植物学が、19世紀に専門職化する植物学者の登場にいたるまでにどのように展開したかを概観する。 【キーワード】 ネットワーク、植物園の誕生、クルシウス、フッカー	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	植物画：オランダと植物世界	オランダはチューリップマニアなどヨーロッパでは植物についての関心が大きく展開した国である。オランダで完成した植物画とオランダ経済社会との関係に注目して見ていく。 【キーワード】 植物画、トロンプ・ルイユ、静物画、チューリップ・マニア	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）
5	庭師たちの世界	植物学者とともに植物のことを実際に身近な知識として我がものにしていたのが庭作りの実践を体現した庭師である。彼らはどのようにして庭園作りに貢献したのか、どのような庭師がいたのか、著名な庭師たちについて概観する。 【キーワード】 庭師、ガーデナー、育苗家、ギルド、トラデスカント父子、ミラー、『庭師の事典』、パクストン	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）
6	植物の分類：レイ、トゥルヌフォール、リンネ	植物学が科学として成立するためには植物の分類法の確立がその基礎となった。近代の植物学者たちが植物世界をどのように理解しようとしたのか、「分類法」をキーワードに先駆者たちの試みを概観する。 【キーワード】 自然哲学、植物学、分類（法）、レイ、トゥルヌフォール、リンネ	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）
7	啓蒙主義と植物：サー・ジョゼフ・バンクスと王立キュー・ガーデンズ	長い18世紀、植物学は経済発展とヨーロッパの更なる世界システム構築のなかで独自の存在感を示し始める。この展開に重要な役割を果たしたハンス・スローンやジョゼフ・バンクスなどの業績を概観し、啓蒙主義と商業社会との関係についても考える。 【キーワード】 スローン、ミラー、コリンソン、ビュート伯爵、ジョージ三世、バンクス、キュー・ガーデンズ	草光　俊雄（放送大学教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）
8	南アフリカのイギリス人プラント・ハンターたち	植物収集に重要な役割を果たしたのがいわゆるプラント・ハンターである。18〜19世紀のアフリカでの植物採集・調査を中心に彼らの仕事について検討する。イギリスにおける南アフリカ植物の流行、南アフリカにおける植物収集ネットワークについても紹介する。 【キーワード】 プラント・ハンター、植物園、植物学者、マッソン、ボーウィ、プラント	北川　勝彦（関西大学名誉教授）	北川　勝彦（関西大学名誉教授） 草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）
9	庭園と風景画	近世に始まった庭園ブームは、政治色の濃いものであった。作庭にかかわった庭園デザイナー・庭師の意図を探るとともに、当時風景画が人びとの関心を惹きつけるようになったのは何故か、代表的な風景画家の作品をヒントにその背景を探る。 【キーワード】 風景式（イギリス式）庭園、ウィリアム・ケント、ランスロット・ブラウン、ピクチャレスク、風景画	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）
10	植物を見せる	人が植物への関心からどのような集団を形成し、植物を見せる空間を生み出していったのかを概観し、植物がいかに階級を超えて「誇示的消費」の対象となっていったかについて学ぶ。 【キーワード】 誇示的消費、植物と階級、オランジェリー、フローリスト・ソサイエティ、植物園、王立園芸協会、チェルシー・フラワー・ショー	菅　靖子（津田塾大学准教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	都市空間の緑を求めて	近代化、都市化とともに人々が都市空間における緑地をいかに確保しようとしてきたかを辿り、近代社会において植物に課せられるようになった多様な役割とその意味について学ぶ。 【キーワード】 「窓辺の庭」、トマス・フェアチャイルド、ラウドン、ガーデネスク、合理的娯楽、市民公園、コテージ・ガーデン、ガートルード・ジェキル	菅　靖子（津田塾大学准教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）
12	室内装飾としての緑	室内に置かれた植物とそれを取り巻く室内装飾のあり方に着目しつつ、植物の文化的意味の変遷を学ぶ。植物学あるいは園芸のなかだけではなく、室内装飾やデザインという方向からも植物が語られるようになっていた。室内における植物の消費が早かったイギリスを中心に考える。 【キーワード】 ウォード箱、ウェッジウッド、シダ植物ブーム、家具、室内装飾、女性と植物	菅　靖子（津田塾大学准教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）
13	植物とデザイン	植物を着想源とした製品のデザインは、歴史の中で人間が自然とどのように向き合ってきたかを物語る。本章では、19世紀を中心に、植物がデザインにいかに取り入れられてきたのかを考察する。 【キーワード】 ウィリアム・モリス、クリストファー・ドレッサー、万国博覧会、ファッション革命、風景壁紙、アール・ヌーヴォー、自然主義	菅　靖子（津田塾大学准教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）
14	緑を踏みしめて：カントリーの意味	イギリスには、緑地へのアクセス権やカントリーを「歩く権利」というものが存在する。本章では、田園都市やナショナル・トラストを生んだイギリスを中心に、19世紀後半から強まったカントリー志向の歴史的展開や初期の環境団体の設立経緯をたどり、カントリー（田園地域）の社会的・文化的意義を考える。 【キーワード】 コモンズ、田園、オープン・スペース、ナショナル・トラスト、ランブリング、レジャー、田園都市	菅　靖子（津田塾大学准教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）
15	緑のヘリテージ	これまでの章のまとめとして、威信やプロパガンダ、ナショナリズムといった近代的な文化価値を付与された緑の空間の創造と消費について考える。風景は風景画として取り出され、グラフィックで量産されるときに新たな価値付けをされ、イコンとなっていった。21世紀に入ると都市部で「ミレニアム・グリーン」という新たな緑地も創造された。こうした緑の空間の「ヘリテージ」としての意味を学ぶ。 【キーワード】 第二次世界大戦、風景画、グラフィックポスター、「レコーディング・ブリテン」プロジェクト、ミレニアム・グリーン	菅　靖子（津田塾大学准教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 菅　靖子（津田塾大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554743	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 南北アメリカの歴史 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 History of the Americas (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：網野 徹哉 （東京大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：橋川 健竜 （東京大学准教授） 〕

【本学担当専任教員：草光 俊雄 （放送大学教授） 】

講義概要

南北アメリカの歴史を先史時代から現代まで概観する。先住民社会の征服、植民地化の過程で南北両地域ともに先住民とヨーロッパ・アフリカの出身者が接触し、空間的・社会的な線引きや混淆を繰り返しつつ、旧世界とは異なる独特な世界が形成されていった。独立後、苦難に満ちた国家形成の歴史を示したラテンアメリカ諸国に対して、北米は奴隷制問題を、南北戦争という多大な犠牲を払って解決し、再出発する。そして20世紀にはアメリカ合衆国が超大国化する一方、ラテンアメリカ諸国はさまざまな危機を克服すべく模索した。今世紀に入り、米国・ラテンアメリカ諸国間で共通の問題が浮上しつつあることも検討したい。

授業の目標

これまで別々に語られてきたアメリカ合衆国とラテンアメリカの歴史を、地域史としての個々の研究蓄積に配慮しつつ、南北アメリカ全体の相互関係を視野に入れて論じる。独立以前の社会の重要性、とりわけ歴史形成における先住民の担った役割に注意しつつ、18世紀については、大西洋・ヨーロッパ世界を含む大きな世界史的枠組みの中でアメリカを理解する可能性を示したい。また20世紀に擡頭したアメリカ合衆国が世界に及ぼした政治・経済・文化的影響力と、それに対するラテンアメリカ側の、反発を含めた応答の諸相についても取り上げたい。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	はじめに:アメリカ世界とは	本科目のねらいについて、主任講師が共同討議という形で論じる。南北アメリカの地理的多様性を確認するとともに、先住民、ヨーロッパ系入植者（移民）、黒人奴隷、アジア系移民が接触した、という新大陸全体に共通する点と、地域ごとに異なった社会が形成された点に注目する。 【キーワード】 世界史、自然と風土、遭遇と発見、多様な民族、奴隷制	網野 徹哉（東京大学教授） 橋川 健竜（東京大学准教授）	網野 徹哉（東京大学教授） 橋川 健竜（東京大学准教授）
2	アメリカ世界の古代文明	コロンブスが到来する以前の南北アメリカ世界について、アジア大陸からの人間集団の到来を経て、農耕や牧畜がはじまり、各地にさまざまな文化が栄え、アステカやマヤ、インカなどの高度に発達した古代文明が生成するまでの過程を講ずる。 【キーワード】 南北アメリカ、DNA、アジア、農耕・牧畜、アステカ、マヤ、インカ	網野 徹哉（東京大学教授）	網野 徹哉（東京大学教授）
3	アメリカ《発見》と征服	コロンブスがアメリカに到来する1492年までのイベリア半島における歴史的背景、スペイン人による、カリブ海、メキシコ、ペルーなどにおける征服行動の実態、そしてアステカ社会、インカ帝国などの先住民社会が崩壊する局面、その要因を論ずる。 【キーワード】 コロンブス、1492年、イベリア半島、征服、人口減少、ピサロ、コルテス、ブラジルの発見	網野 徹哉（東京大学教授）	網野 徹哉（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ラテンアメリカ植民地社会とは何であったか	征服後に成立したスペイン人／インディオ／黒人の共生空間としての中南米植民地について、統治システムの確立、居住空間の再編成、先住民の労働力を基にした経済的開発の実態、大西洋・太平洋における通商・物流のあり方などを論じる。 【キーワード】 エンコミエンダ、都市、スペイン人、インディオ、黒人、統治システム、経済的搾取、鉱業、海の道	網野　徹哉（東京大学教授）	網野　徹哉（東京大学教授）
5	異文化の相克：ラテンアメリカ植民地における複数文化の融合・共存・葛藤の諸相	先住民に対するキリスト教会の精神的支配が確立し、経済的搾取が常態となった植民地時代において、伝統的な価値観に基づきつつ、外来文化の圧力に対して抵抗・交渉する先住民のあり方を、混血、黒人の問題を含め、多様な側面から照射する。またブラジル植民地社会の発展についても論じる。 【キーワード】 先住民の反乱、人種の混淆、カトリック教会、修道会、マリア信仰、偶像崇拝、異端審問、ブラジル	網野　徹哉（東京大学教授）	網野　徹哉（東京大学教授）
6	北米先住民と植民地社会：比較の視座から	高度に発達した先住民社会とスペイン人入植者が接触した南米と対比させて、より流動的な性格をもつ先住民社会とフランス、さらにはプロテスタントであるイギリス系入植者が接触した北米の植民地社会を18世紀中葉まで論じる。 【キーワード】 タバコ、ピューリタン、土地、毛皮交易、七年戦争（フレンチ・アンド・インディアン戦争）	橋川　健竜（東京大学准教授）	橋川　健竜（東京大学准教授）
7	スペイン領アメリカ植民地社会から見た18世紀：繁栄の光と影	スペイン王室は1700年以降、中央集権化のためにブルボン朝諸改革と呼ばれる一連の改革を実施する。それはアメリカ植民地の民衆に増税を、クリオーリョ中・上層には自律性の喪失をもたらした。表面上の繁栄の下、諸階層の不満は高まり、1808年のナポレオンによるスペイン進行を契機に、イダルゴやボリーバルによる独立運動へとつながる。 【キーワード】 中央集権化、ブルボン朝諸改革、クリオーリョ、スペイン侵攻、イダルゴ、ボリーバル	安村　直己（青山学院大学教授）	安村　直己（青山学院大学教授）
8	アメリカ合衆国の形成と変容：独立から南北戦争・再建まで	七年戦争以降のブリテン帝国の統合を拒否して成立した分権的連邦制国家アメリカ合衆国が、西部への領土及び入植の拡大をへて南北戦争を迎え、国家としての集権性を強めるまでを、奴隷制の問題を中心に論じる。 【キーワード】 アメリカ独立革命、奴隷制、綿花、連邦制、白人青年男子、奴隷制廃止運動、南北戦争	橋川　健竜（東京大学准教授）	橋川　健竜（東京大学准教授）
9	ラテンアメリカ諸国の独立と19世紀の発展	19世紀の独立革命を経て、ラテンアメリカ諸地域はひとつひとつが独立国家となり、それぞれ国家形成に苦闘しつつも、やがて19世紀末の相対的安定期を迎える。その間の動向を政治・経済・社会面から論じる。 【キーワード】 独立（ラテンアメリカ諸国の）、カウディリョ、米墨戦争、輸出経済、ポピュリズム（ラテンアメリカの）	高橋　均（東京大学教授）	高橋　均（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	アメリカ合衆国国民像の変容：1880年代～1920年代	1880年代から1920年代のアメリカ合衆国において、先住民、アフリカ系アメリカ人、南北ヨーロッパ系に加えアジア系も含む移民の存在を受けて、さまざまな線引きをへて「アメリカ市民」の定義が変容する過程を論じる。 【キーワード】 大陸横断鉄道、保留地制度、同化教育、人種隔離制度、移民排斥、海外植民地、市民権	中野　由美子（成蹊大学教授）	中野　由美子（成蹊大学教授）
11	豊かさの軌跡：工業国化から冷戦までのアメリカ合衆国	19世紀後半に本格化する工業化ののち、1929年以来の大恐慌を第2次世界大戦への参戦を通じて克服し、世界でも群を抜く豊かな社会となったアメリカ合衆国が、その自己像を携えて冷戦に臨むが、1960年代後半にヴェトナム戦争で行きづまるまでを論じる。 【キーワード】 自動車、大恐慌、総力戦、冷戦、大衆消費社会、リベラリズム、軍産複合体、大きな政府、ベトナム戦争	橋川　健竜（東京大学准教授）	橋川　健竜（東京大学准教授）
12	1960年代以降のアメリカ合衆国：多文化社会の挑戦	1950年代に本格化する公民権運動を契機として、少数派集団の尊厳を承認する気風がアメリカ合衆国社会に浸透する過程、またそれへの反発を、先住民・アジア系移民なども含めて20世紀末まで論じる。 【キーワード】 公民権運動、ブラックパワー、レッドパワー、条約上の権利、移民法改正、アファーマティヴ・アクション（積極的差別是正措置）	中野　由美子（成蹊大学教授）	中野　由美子（成蹊大学教授）
13	保守の時代：1970年代以降のアメリカ合衆国	オイルショックや日本などの追い上げの中、IT技術などで世界をリードしつつも経済的地位が下がりつつあるアメリカ合衆国が、国内で政治的に保守性を強め、それが社会経済面にも浸透する過程を、9.11後の対テロ戦争まで論じる。 【キーワード】 デタント、保守化、レーガン、小さな政府、冷戦終結、9.11テロ	橋川　健竜（東京大学准教授）	橋川　健竜（東京大学准教授）
14	米州関係と今日のラテンアメリカ	20世紀を迎え、いまや超大国となったアメリカ合衆国の強大な影響をそれぞれに受け止めつつ、ラテンアメリカ諸国は試行錯誤を経つつも政治社会を成熟させていく。その経緯を跡づけ、かつ21世紀中葉への展望を示す。 【キーワード】 米州関係、モンロー主義、キューバ革命、債務危機、民主化（ラテンアメリカの）	高橋　均（東京大学教授）	高橋　均（東京大学教授）
15	動きゆくアメリカ	講義の最後にあたり、主任講師が共同討議というかたちで、人間の移動や人種・エスニシティという観点から、これからの南北アメリカを考えていくためのいくつかの鍵を示していきたい。日本とラテンアメリカとのあいだの人間集団の移動の様態、アメリカ合衆国の政治・経済を大きく左右しつつあるヒスパニック系移民の実態とその存在意義、そして先住民集団が現代社会において置かれている状況などを論じつつ、動きゆくアメリカ世界をとらえてみたい。 【キーワード】 移民、多文化主義、ヒスパニック、グローバル化、インディヘニスモ、先住民運動	網野　徹哉（東京大学教授） 橋川　健竜（東京大学准教授）	網野　徹哉（東京大学教授） 橋川　健竜（東京大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554751	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 和歌文学の世界 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 The World of Waka Poetry (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：島内　裕子　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：渡部　泰明　（東京大学大学院教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

日本文学の根幹とも言える和歌について、総合的に学び、理解を深めることを目指す。それと共に、和歌文学を学ぶことによって、長い伝統を持つ日本文学を貫いて存在する本質を洞察する。古代から現代まで、1300年以上にわたる長い和歌の歴史の中で、和歌の表現や和歌に託された人々の心はどのように変遷し、どのように深まってきたのか。著名な歌人、名歌や秀歌、勅撰和歌集、歌物語、歌論など、さまざまな角度から、わかりやすく、かつ具体的に講義する。現代社会を生きるうえで、ぜひとも身につけておきたい日本文学の教養基盤を、和歌を通して提示する。

授業の目標

第一に、歌人や歌集、歌物語や歌論など、広く和歌に関わる文学の全体像を、「和歌文学の世界」としてトータルに把握する。第二に、和歌の表現技法や歌ことば、和歌の鑑賞の仕方を具体的に学び、和歌文学に対する理解を深める。第三に、和歌文学の背景にある歴史や風土、思想・美術などと関連づけることで、和歌を通して日本文化の根底に触れる。

履修上の留意点

日本文学や日本語関連の他の科目をあわせて受講すれば、相互補完的に幅広く学習できるので、それらの履修をぜひとも勧めたい。特に、「日本文学概論('12)」や「日本文学の名作を読む('17)」などである。「日本文学概論」は、和歌と散文の双方を視野に収めて、日本文学の全体像を提示している。「日本文学の名作を読む」は、散文の領域を詳しく取り上げている。この「和歌文学の世界」は、和歌の領域を詳しく取り上げるので、前記二科目と合わせれば、トータルに日本文学を学ぶことができる。また、外国文学、哲学、思想、美学、歴史なども、日本文学と直接的あるいは間接的に関わるので、これらの科目を広く学ぶことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	歌枕の世界	歌枕は、歌に詠まれる地名のことである。和歌の世界の広がりは、歌枕の発達と密接に結びついている。代表的な歌枕「吉野」を通して、歌枕の展開について考察する。 【キーワード】 歌枕、地名、吉野、『万葉集』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』、南朝和歌	渡部　泰明（東京大学大学院教授）	渡部　泰明（東京大学大学院教授）
2	霞と時雨の風景	和歌に詠まれる自然の風景は、どのような心情と結びついているのか。春の霞と初冬の時雨を取り上げて、それぞれの素材が担っている意味や機能について、和歌史の展開に即して考察する。 【キーワード】 霞、春、時雨、冬、風狂	渡部　泰明（東京大学大学院教授）	渡部　泰明（東京大学大学院教授）
3	和泉式部の抒情	平安時代を代表する女流歌人和泉式部の家集、『和泉式部集』の和歌を読解する。特に、独特な方法の見られる彼女の贈答歌を中心に考察する。 【キーワード】 和泉式部、『和泉式部集』、恋歌、贈答歌、哀傷歌	渡部　泰明（東京大学大学院教授）	渡部　泰明（東京大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	『伊勢物語』の和歌	『伊勢物語』には、在原業平の詠んだ和歌が、多数織り込まれている。それらの絶唱が詠まれた場所に着目すると、日本全国の山・川・野・海などの歌枕が浮かび上がってくる。その中から、いくつかを取り上げ、それらの空間に込められた業平の思いを理解する。あわせて、『伊勢物語』の歌が後の時代にどのように本歌取りされて、普遍性を獲得していったかというプロセスをたどる。 【キーワード】 『伊勢物語』、春日野、宇津の山、小塩山、隅田川、本歌取り	島内　景二（電気通信大学教授）	島内　景二（電気通信大学教授）
5	『源氏物語』の和歌	日本文学の最高峰と目される『源氏物語』には、795首もの和歌が含まれている。それらの和歌の魅力を、近代・現代の歌人の作品や、江戸時代の日常生活などから探る。あわせて、これらの和歌を詠んだ紫式部の思想性に富んだ個性が、どのような『源氏物語』の達成につながったのかを明らかにする。 【キーワード】 『源氏物語』、源氏取り、日常生活への浸透、紫式部、思想性、生きる意味	島内　景二（電気通信大学教授）	島内　景二（電気通信大学教授）
6	西行の恋歌	西行は、かなりの恋の歌を詠んでいる。遁世者である西行が、なぜ多くの恋歌を残しているのか、その意義について、『山家集』の作品を読みながら考える。 【キーワード】 西行、恋歌、遁世者、『山家集』	渡部　泰明（東京大学大学院教授）	渡部　泰明（東京大学大学院教授）
7	藤原定家の方法	藤原定家は、本歌取りをはじめとした、古典作品の表現を取り入れる方法によって、『新古今和歌集』の中心的存在となった。その方法とはどのようなものか、考察する。 【キーワード】 藤原定家、『新古今和歌集』、本歌取り、漢詩文、『源氏物語』	渡部　泰明（東京大学大学院教授）	渡部　泰明（東京大学大学院教授）
8	叙景歌の系譜	心情を直接に表さず、風景表現だけから成り立っている和歌を、叙景歌という。叙景歌を詠んだ歌人の系譜をたどりながら、その意義について考察する。 【キーワード】 叙景歌、山部赤人、源経信、宗尊親王、京極派	渡部　泰明（東京大学大学院教授）	渡部　泰明（東京大学大学院教授）
9	九相図の和歌	中世には、九相図という絵画・漢詩・和歌が一体となった作品が生まれた。その作品の和歌に注目しながら、さまざまな形で利用される中世の和歌の生命力について考える。 【キーワード】 九相図、中世和歌、無常観、人称性	渡部　泰明（東京大学大学院教授）	渡部　泰明（東京大学大学院教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	和歌・連歌・俳諧	勅撰和歌集が途絶えて以後、韻文の世界にはどのような変化が生じたか。和歌から連歌へと展開し、さまざまな韻文のジャンルが並存する文学状況を概観しながら、中世から近世へと及ぶ和歌文学の水脈と命脈を見届ける。 【キーワード】 勅撰和歌集、連歌、俳諧、『集外三十六歌仙』、古今伝授、芭蕉	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
11	武家文化と和歌	近世において、大名たちが担った和歌文学の諸相を、文学作品だけでなく、大名庭園などの造形芸術の分野にも注目しながら考察する。あわせて、近世の文化人のネットワークの形成に、大名たちが果たした役割も考える。 【キーワード】 武家文化、柳沢吉保、大名庭園、小石川後楽園、松平定信、酒井抱一	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
12	橘守部と歌論	平戸藩の江戸藩邸の大名庭園である蓬莱園に関する『蓬莱園記』を著した、近世後期の国学者で歌人の橘守部に注目し、近世から近代への変革期に、和歌がどのように人々に浸透していったかを考察する。 【キーワード】 橘守部、松浦静山、松浦熙、『蓬莱園記』、『心の種』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
13	樋口一葉の和歌	近世から近代への転換期において、和歌はどのように機能して、新しい文学者を生み出したのか。近代文学を切り開いた樋口一葉の日記から小説におよぶ文学世界を、和歌という観点から考えてみたい。 【キーワード】 樋口一葉、萩の舎、一葉の日記、一葉の小説、『一葉歌集』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
14	近代短歌の世界	旧派和歌から近代短歌への大きな変化を生み出したのは、何か。さまざまの結社が誕生した近代短歌の中から、その主流となった『アララギ』に注目して、その文学精神の本質を考える。正岡子規・伊藤左千夫・島木赤彦・斎藤茂吉などの作品を読み解き、『アララギ』の文学運動が近代詩歌をどのように変革したのか、明らかにする。 【キーワード】 猿渡容盛、近代短歌、『アララギ』、正岡子規・伊藤左千夫・島木赤彦・斎藤茂吉	島内　景二（電気通信大学教授）	島内　景二（電気通信大学教授）
15	現代短歌の世界	歌壇のみならず、詩壇・文壇などにも衝撃を与え、戦後日本社会に強烈なアンチテーゼを突きつけたのが、「前衛短歌」である。その代表者である塚本邦雄に焦点を当て、現代短歌の可能性について考察する。あわせて、原子爆弾投下という世界の不条理と、短歌の創作によって対峙した竹山広の「長崎短歌」をも考える。 【キーワード】 現代短歌、前衛短歌、塚本邦雄、長崎短歌、竹山広	島内　景二（電気通信大学教授）	島内　景二（電気通信大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554930	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本文学の名作を読む （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Reading Classic Japanese Literature (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：島内　裕子　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：　　】

講義概要

古典から近代まで、日本文学における名作を取り上げて、文学作品への理解を深めることを目指している。取り上げる作品は、物語・随筆・評論など、広く散文作品全般にわたるので、時代による表現の変化や、文学概念の変遷にも、具体的に触れることができる。毎回、原文を豊富に紹介しながら、著名な作品をじっくり解説し、作品の背景や、影響力にも言及することによって、散文で書かれた名作の文学史的な広がりも十分に理解できるように構成した。

授業の目標

第1に、日本文学における名作を取り上げることによって、古典から近代までの主要な散文作品のエッセンスを提示する。 第2に、文学作品の原文講読に力点を置いて、文学作品そのものを読む楽しみを体験する。第3に、作品それぞれの背景や、時代性も勘案することによって、時代と社会の中で文学が担ってきたものを認識し、これからの文学の可能性を展望する。

履修上の留意点

日本文学や日本語関連の他の科目を合わせて受講すれば、相互補完的に、幅広く学習できるので、それらの科目もぜひ履修することを勧めたい。「日本文学概論('12)」「『古事記』と『万葉集』('15)」「和歌文学の世界('14)」「上田秋成の文学('16)」「日本語概説('15)」、大学院科目「国文学研究法('15)」などは、まさに、本科目と相互補完性を持つ。また、外国文学、哲学、思想、美学、歴史なども、日本文学と直接・間接に関わるので、これらの科目についても、広く学ぶことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	名作をどう読むか	日本文学における名作とは、どのような作品を指すのか。作品が誕生してから名作として認定されるまでの道のりを、『枕草子』を具体例にとって概観すると共に、本書で取り上げる作品群の概要を俯瞰し、それらが、各時代を代表する新しいジャンルの創造と深く関わることを指摘する。 【キーワード】 名作、ジャンル、韻文と散文、『枕草子』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
2	『伊勢物語』を読む	『伊勢物語』は、『源氏物語』以前に書かれた「前期物語」の中で、和歌の詠まれた状況を語る「歌物語」の傑作である。全百二十五段の中から惟喬親王章段に着目し、第八十二段と第八十三段を読み、その魅力を堪能する。あわせて、美しい友情の描かれた第十六段や、母と子の情愛を語る第八十四段にも触れる。 【キーワード】 『伊勢物語』、人間関係、惟喬親王、在原業平、紀有常、第八十二段、第八十三段、第八十四段	島内　景二（電気通信大学教授）	島内　景二（電気通信大学教授）
3	『源氏物語』正編を読む	平安時代の物語文学のみならず、日本文学の最高峰に位置する『源氏物語』の正編において、人間関係がどのように描かれているのかを考える。具体的には、光源氏と永く連れ添った紫の上が、死を迎える御法巻に焦点を当て、彼女が生前に作り上げた人間関係の意味を問い直す。 【キーワード】 『源氏物語』、正編、光源氏、紫の上、人間関係、御法巻	島内　景二（電気通信大学教授）	島内　景二（電気通信大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	『源氏物語』続編を読む	『源氏物語』の続編は、「匂宮三帖」と「宇治十帖」から成り、光源氏の没後の世界を描いている。光源氏の一代記であった『源氏物語』正編に対して、続編では薫という人物が中心となる。薫の人生を通して、『源氏物語』続編がどのような人間関係や世界観を描出しているのかを、親子関係に注目しながら考える。 【キーワード】 『源氏物語』、続編、匂宮三帖、宇治十帖、親子関係、薫、柏木、八の宮	島内　景二（電気通信大学教授）	島内　景二（電気通信大学教授）
5	『平家物語』を読む	中世に成立した軍記物語の代表作である『平家物語』を取り上げる。高倉院と小督の悲恋に着目しながら読むことで、『源氏物語』の影響力の大きさを確認する。そのうえで、『平家物語』と『源氏物語』との違いも探る。さらに、近代文学から吉川英治の『新・平家物語』を取り上げ、古典である『平家物語』との比較を試みる。 【キーワード】 軍記物語、『平家物語』、小督、『源氏物語』、吉川英治、『新・平家物語』	島内　景二（電気通信大学教授）	島内　景二（電気通信大学教授）
6	『方丈記』を読む	鎌倉時代の初期に成立した『方丈記』に焦点を当てて、住まいの文学・人生観の文学としての個性を明らかにする。また、『方丈記』と同時代に成立した歴史思想書である『愚管抄』にも触れ、それぞれの原文を通して、中世前期に成立した新しい散文スタイルについて考察する。 【キーワード】 鴨長明、『方丈記』、慈円、『愚管抄』、論理性	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
7	『徒然草』を読む	『徒然草』が、それ以前とそれ以後の文学の分岐点となったことを、表現と内容の両面から考察する。また、集約力に富む名文を鏤めている『徒然草』が、近世文学や近代文学へ与えた影響力の大きさにも言及し、現代にまで至る古典文学の基盤作品として位置づける。 【キーワード】 『徒然草』、『徒然草』以前、『徒然草』以後、分水嶺	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
8	『金々先生栄花夢』を読む	恋川春町の黄表紙『金々先生栄花夢』を読み解き、初期草双紙とは異なる、大人向けの戯作としての特色を理解する。また、その後日談という設定で書かれた山東京伝の黄表紙『金々先生造化夢』を読み、寛政の改革が黄表紙に及ぼした影響について考える。 【キーワード】 『金々先生栄花夢』、黄表紙、謡曲、洒落本、戯作、寛政の改革	佐藤　至子（日本大学教授）	佐藤　至子（日本大学教授）
9	『桜姫全伝曙草紙』を読む	読本というジャンルの特色と、代表的な読本作者である曲亭馬琴の著作に触れた上で、馬琴と同時代の作者である山東京伝の読本『桜姫全伝曙草紙』を取り上げる。物語の構造、表現、主題について考察し、作品の特色と魅力を再評価する。 【キーワード】 『桜姫全伝曙草紙』、読本、清玄桜姫もの、因果応報、無常観	佐藤　至子（日本大学教授）	佐藤　至子（日本大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	『白縫譚』を読む	絵入り伝奇小説である合巻の特色と作風の変遷をふまえた上で、幕末の長編合巻の代表作である『白縫譚』を取り上げる。物語の構想、先行作品との関係、登場人物の造型を分析し、人気を集めた理由について考察する。 【キーワード】 『白縫譚』、合巻、妖術使い、「黒田騒動物」、「天草騒動物」	佐藤　至子（日本大学教授）	佐藤　至子（日本大学教授）
11	『怪談牡丹燈籠』を読む	三遊亭円朝の怪談噺『怪談牡丹燈籠』の口演速記を取り上げる。小説における言文一致を試みていた近代の作家たちへの影響に触れつつ、落語の語りの特色、創作方法、「人情を穿つ」描写について考察する。 【キーワード】 『怪談牡丹燈籠』、『伽婢子』、落語、口演速記、言文一致	佐藤　至子（日本大学教授）	佐藤　至子（日本大学教授）
12	夏目漱石の小説を読む	近代小説の草創と展開の中で、夏目漱石が果たした大きな役割に触れると共に、数々の漱石の傑作を概観する。具体的な講読作品としては、前期三部作の中から『三四郎』と『それから』を取り上げる。 【キーワード】 小説、夏目漱石、前期三部作、『三四郎』、『それから』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
13	森鷗外の史伝を読む	森鷗外の残した膨大な文業の中から、「史伝」というジャンルを取り上げて、その特徴を探る。特に、その叙述の方法に着目しながら、原文を味読しつつ、鷗外晩年の文学観と人生観を読み取る。 【キーワード】 史伝、森鷗外、『渋江抽斎』、『伊沢蘭軒』、『北条霞亭』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
14	芥川龍之介の短編を読む	近代文学における短編というジャンルに注目し、芥川龍之介の作品を取り上げながら、短編小説の多様性に触れる。また、夏目漱石や森鷗外の文学世界との関連にも注目しながら、近代文学の展開の中で、芥川龍之介を位置づけたい。 【キーワード】 芥川龍之介、短編、『大川の水』、『枯野抄』、『本所両国』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）
15	中島敦の短編を読む	中島敦の文学形成を辿りながら、昭和の戦前・戦中期の短編小説が新たに切り開いた文学的な達成を見極める。作品講読を通して、その表現と文体の魅力を明らかにする。 【キーワード】 中島敦、『耽美派の研究』、『山月記』、『悟浄出世』、『弟子』、『李陵』	島内　裕子（放送大学教授）	島内　裕子（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554816	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 上田秋成の文学 （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 The Literature of UEDA Akinari (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：長島　弘明　（東京大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：島内　裕子　（放送大学教授）】

講義概要

江戸時代を代表する文学者の一人である上田秋成の作品を取り上げ、具体的に作品を分析しながらその文学の意義について考察する。秋成は、江戸時代中期の十八世紀頃に多く現れた、多芸多能をその特色とするいわゆる「文人」の典型であり、活動は俳諧・小説・和歌・狂歌・国学・煎茶等々の多領域にわたっている。秋成の文学を検討することは、江戸時代の文学の全ジャンルを検討することと同じだと言っても過言ではない。この授業でも秋成の文人としての全体像を見てゆくが、その一方で、文学史上で高く評価されている『雨月物語』『春雨物語』の読本二作の表現や構想の独創性については、詳しく検討することとする。

授業の目標

1. 職業的な作家とは異なる「文人」の文学とはどういうものか。
2. 江戸時代の文学にはどのようなジャンルがあり、またそれぞれの特色は何か。
3. 秋成の小説の独自性とは何か。

以上の諸点について、理解を深めることを目標とする。

履修上の留意点

秋成の主要作品である『雨月物語』『春雨物語』を読んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	上田秋成略伝	上田秋成の生涯と、様々な分野に及ぶその文学活動・芸術活動を概観し、近世中期に多く現れ、秋成がその典型である「文人」という文学者・芸術家の類型につき考察する。また交友等についても触れる。 【キーワード】 文人、国風、国学、漢学	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）
2	文学への目覚め －俳諧－	秋成の文学的出発点に位置し、また生涯にわたって好んだ俳諧について検討する。秋成が大阪という都市で育ったことが、その俳諧にどのような影響をおよぼしているか、考えたい。蕪村らとの交友についても触れ、また俳諧の切れ字を論じた『也哉鈔』(やかなしょう)についても触れる。 【キーワード】 俳諧、中興期俳諧、蕪村、『也哉鈔』	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）
3	作家としての出発 －『諸道聴耳世間狙』－	秋成三十三歳の時に出版された小説の第一作である『諸道聴耳世間狙』(しょどうききみみせけんざる)の特色について考える。同作は西鶴の小説の系譜を引く浮世草子の気質物(かたぎもの)に分類されるが、その特色がモデル使用と、伝承の利用にあることを説明する。 【キーワード】 『諸道聴耳世間狙』、浮世草子、気質物、モデル、伝承	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	気質物からの逸脱 ー『世間妾形気』ー	秋成の小説の第二作目『世間妾形気』(せけんてかけかたぎ)について考察する。題名や素材は典型的な気質物でありながら、笑いのない話や、現実世界から逸脱してしまう話など、通常の気質物とはかなり異なっている点を指摘し、『雨月物語』につながっていく作品として本作を捉えることとする。 【キーワード】 『世間妾形気』、詐欺譚、気質者、異類性・妖怪性	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）
5	『雨月物語』の世界（一）	秋成がそれまでに書いた二作は、滑稽風俗小説ともいうべき浮世草子の気質物であったが、『雨月物語』はそれとは全く異なる、歴史・思想小説ともいうべき読本に分類される。読本という小説形式の意義、『雨月物語』の全体を貫く執着というテーマ等について解説する。 【キーワード】 『雨月物語』、読本、白話小説、怪談、執着	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）
6	『雨月物語』の世界（二） ー「菊花の約」の信義ー	『雨月物語』の第二話目にあたる「菊花の約」は、軍学者と儒学者が約束を交わし、信義に殉じる話であるが、この話に主として主題論の観点から分析を加え、秋成の人間観・倫理観について考えたい。 【キーワード】 「菊花の約」、信義、兄弟義合論、異界	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）
7	『雨月物語』の世界（三） ー「浅茅が宿」の二重性ー	『雨月物語』の第三話目にあたる「浅茅が宿」は、夫が京から戻ることを待つ間に下総で病死した妻が、亡霊となって夫と再会する話である。この女性主人公の宮木の愛憎に引き裂かれた心情を、文章表現の技法の分析を通じて考察する。 【キーワード】 「浅茅が宿」、直き心・をさなき心、両価的感情、引歌、二重化	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）
8	国学者として	賀茂真淵につながる国学者であった秋成の、『伊勢物語』『源氏物語』『大和物語』等の王朝古典の研究、あるいは真淵や師の加藤宇万伎の著作の校訂刊行、晩年の『万葉集』研究等々について概観する。 【キーワード】 賀茂真淵、加藤宇万伎、「寓言」、「発憤著書説」、著書廃棄	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）
9	本居宣長との論争	秋成は五十歳代に、秋成より少し年長で、当時の最大の国学者であった本居宣長と、古代日本語の音韻や、記紀の日神（天照大神）神話をめぐって論争をしている。宣長がまとめた『呵刈葭』(かがいか)に拠りつつ、秋成と宣長の思想的立場の違いを考察する。 【キーワード】 『呵刈葭』、本居宣長、礪波今道、日神論争、相対的ナショナリスト、文献ニヒリズム	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	世相風刺の小説 －『癇癖談』と『書初機嫌海』－	ともに秋成の五十歳代に書かれた『癇癖談』（くせものがたり）と『書初機嫌海』（かきぞめきげんかい）を取り上げ、滑稽本とも談義本とも呼べない、世相に対するあらわな批判が目立つ秋成独自の風刺小説の世界をのぞき、その小説としての特色を考察する。 【キーワード】 『書初機嫌海』、『癇癖談』、世相風刺、癇癖、三都	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）
11	和風の文人 －和歌・和文・狂歌・煎茶－	秋成は、小説や俳諧、国学以外にも、様々な文学的・芸術的な業績を残している。和歌・和文では家集『藤簍冊子』（つづらぶみ）、狂歌では『海道狂歌合』（かいどうきょうかあわせ）、煎茶では『清風瑣言』等の重要な著作があるが、それらについて概観したい。 【キーワード】 和歌・和文、煎茶、『藤簍冊子』、『海道狂歌合』、『清風瑣言』	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）
12	『春雨物語』の世界（一）	『春雨物語』は秋成が最晩年に書いた小説集であるが、断片を含め数種類の原稿が残っている。『春雨物語』の不思議な推敲のされ方、所収の話の多様さ、全体を統一するテーマである「命禄」について考察する。 【キーワード】 『春雨物語』、文化五年本、富岡本、『春雨草紙』、「命禄」、推敲	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）
13	『春雨物語』の世界（二） －「死首の咲顔」と源太騒動－	『春雨物語』の「死首の咲顔」は、兄が妹の首を切り落とすという当時実際に起こった猟奇的事件（いわゆる「源太騒動」）を素材とした話であるが、モデルとなった事件や、同じ事件に基づく秋成自身の『ますらを物語』、建部綾足の『西山物語』と比較考察して、「死首の咲顔」の特色を探りたい。 【キーワード】 「死首の咲顔」、源太騒動、『西山物語』、『ますらを物語』	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）
14	『春雨物語』の世界（三） －「樊噲」と仏心の妖魔－	『春雨物語』の最長編である、大蔵という自然児的な青年の悪人への転落と、一転した悟入を雄渾な筆致で描いた「樊噲」を取り上げ、秋成の小説が最終的にどのような境地にたどりついたか、考察する。 【キーワード】 「樊噲」、ピカレスク小説、自然児、「直き」性、仏心、妖魔	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）
15	「命禄」と「狂蕩」 －『胆大小心録』－	秋成晩年の自由な精神の境地を、『列子』に出る「狂蕩」の語を手掛かりに、辛辣な知友の批評から、学問的考証、歴史論、創作断片等々、あらゆる種類の文章を収録する『胆大小心録』に即して解説する。 【キーワード】 「命禄」、「狂蕩」、『よもつ文』、『胆大小心録』	長島　弘明（東京大学教授）	長島　弘明（東京大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554760	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ヨーロッパ文学の読み方－古典篇 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Reading European Literature: From Antiquity to the Renaissance (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：宮下 志朗 （放送大学特任教授） 〕

〔主任講師（現職名）：井口 篤 （慶應義塾大学准教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

ヨーロッパの古典作品を対象として、その作品の本質に迫る一節を（いくつか）取り上げて、具体的に解説・評釈をほどこす試み。今回は「古典編」と題して、ギリシア・ローマからルネサンスまでのテクストを選んでいる。なお、広義の「文学」作品を対象としており、哲学・歴史学などとの架橋もめざしている。

授業の目標

単なる概説ではなく、テクストの一節の濃密な読みから出発して、その作品の全体像に、あるいはその作品を生んだ時代の様相に迫ることで、学習者に対して、この作品を読んでみたいという強烈な動機付けを与え、古典と主体的に接してもらうこと。

履修上の留意点

英語の作品に関しては、原文の引用がなされることもあろうが、それ以外の言語による作品については、基本的には、もっぱら日本語訳を介しての解説・評釈となる。関連科目としては、「文学のエコロジー('13)」「世界文学への招待('16)」などがある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ギリシア・ローマ(1) ホメロス『イリアス』	「怒りを歌え、ムーサよ」という呼びかけで始まる『イリアス』は戦いの文学ととらえられることが多いが、名誉・祖国・友情等のための戦いと殺戮の果てには大いなる赦し合いが輝いている。至高の叙事詩をとおしてギリシア人の人間理解を考える。 【キーワード】 長編物語の方法、リング・コンポジション、遅延の技法	中務 哲郎（京都大学名誉教授）	中務 哲郎（京都大学名誉教授）
2	ギリシア・ローマ(2) ヘロドトス『歴史』	小国ギリシアはなぜ大帝国ペルシアに勝てたのか。ヘロドトスはペルシア戦争の記述を軸に、全世界の地理・歴史・風俗・伝承を語りつつ、自然界人間界を覆う神の叡智を明らかにしていく。トゥキュディデスの個別史の対極にあるヘロドトスの魅力を味わう。 【キーワード】 物語的な歴史、神の嫉妬、運命の車輪	中務 哲郎（京都大学名誉教授）	中務 哲郎（京都大学名誉教授）
3	ギリシア・ローマ(3) ソポクレス『アンティゴネ』	「逆賊を葬ってはならぬ」という国の掟を犯して兄を埋葬したため、アンティゴネは生きながら穴蔵に閉じ込められる。この劇に「自然法と国の掟の対立」を見たヘーゲルはじめ、様々な解釈を誘う問題劇を鑑賞する。 【キーワード】 国家の法と自然の法、オイディプス伝説、破滅する人間	中務 哲郎（京都大学名誉教授）	中務 哲郎（京都大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ギリシア・ローマ(4) ギリシアの小説	叙事詩・抒情詩・演劇・散文（哲学・歴史・弁論）と次々に新ジャンルを開拓してきたギリシア文学は、最後に古代小説を生み出した。その起源を考察した後、現存する五作品の中、牧歌小説『ダフニスとクロエ』と最高傑作『エチオピア物語』を中心に味わう。 【キーワード】 若者の恋愛の発見、牧歌小説の祖、in medias res	中務　哲郎 （京都大学名誉教授）	中務　哲郎 （京都大学名誉教授）
5	ギリシア・ローマ(5) ウェルギリウス『アエネイス』	『アエネイス』は、『イリアス』や『オデュッセイア』を徹底的に研究し、模倣した叙事詩ですが、そのすぐれた独自性は歴史と神話を融合した点にあります。本作品のなかで、ローマの歴史がどのように扱われているかについて注目します。 【キーワード】 ローマ、叙事詩、歴史と神話の融合、予言	日向　太郎 （東京大学准教授）	日向　太郎 （東京大学准教授）
6	ギリシア・ローマ(6) オウィディウス『変身物語』	『変身物語』は神話の宝庫であり、ヨーロッパの諸芸術の形成に深くかかわってきました。今も多くの読者を惹き付けてやまない理由は、変身という主題の面白さもさることながら、巧みな物語叙述にあります。作品中、変身場面がどのように扱われているかについて注目します。 【キーワード】 叙事詩、神話、叙述の技法	日向　太郎 （東京大学准教授）	日向　太郎 （東京大学准教授）
7	中世・ルネサンス(1) 『トリスタンとイズー』	ケルトの伝説に起源を有するという、マルク王の妻イズーと、マルク王の甥トリスタンの、媚薬ゆえの愛は、ヨーロッパ中に伝承されていった。「騙し」に着目して、ベルールの『トリスタン』を読むが、各国版の差異にも注目しつつ、この物語の本質に迫ってみたい。 【キーワード】 トリスタン伝説、ケルト、アーサー王伝説、曖昧な宣誓	宮下　志朗 （放送大学特任教授）	宮下　志朗 （放送大学特任教授）
8	中世・ルネサンス(2) ダンテ『神曲』	どうしてダンテは『神曲』を書いたのか。そして、どうして読み継がれたのか。この作品の魅力の広がりや、恋愛論と知性論としての読み方の可能性を、21世紀の読者の視点から考えてみたい。具体的には、地獄編冒頭、フランチェスカ、ウリッセの物語とベアトリーチェ像をとりあげたい。 【キーワード】 恋愛、知性、幸福、中世の宇宙観、彼岸	村松　真理子 （東京大学教授）	村松　真理子 （東京大学教授）
9	中世・ルネサンス(3) ボッカッチョ『デカメロン』	ダンテから下ることわずか一世代で書かれた『デカメロン』だが、共同体の危機の時代にこそ、女性読者のための娯楽文学という設定が生まれ、豊かな文体と多様な人間的価値観が可能もしくは必要となったことの意味を、今日の状況から読み直してみたい。具体的には特に、第一日序と、女性主人公の物語をいくつか紹介したい。 【キーワード】 危機、笑い、物語の力	村松　真理子 （東京大学教授）	村松　真理子 （東京大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	中世・ルネサンス(4) ジェフリー・チョーサー『カンタベリ物語』	14世紀後半のイングランドにおいて多様なジャンルの詩作品を生み出したジェフリー・チョーサーの作品群には、同時代の社会状況やヨーロッパ文学・思想の先達たちの刻印が消しがたく押されている。この講義ではチョーサーの代表作『カンタベリ物語』を大きな歴史的コンテクストの中で創造的な翻訳をする作家として位置づけつつ読む。 【キーワード】 ジェフリー・チョーサー、『カンタベリ物語』、古典古代、翻訳	井口　篤（慶應義塾大学准教授）	井口　篤（慶應義塾大学准教授）
11	中世・ルネサンス(5) 『マージェリー・ケンプの書』	15世紀のイングランドに生きた敬虔な女性マージェリ・ケンプの自伝『マージェリ・ケンプの書』を読むことで、中世後期ヨーロッパの神秘主義について知識を深めるとともに、敬虔な一般信徒の女性が自らの信仰を実践する際にどのような困難がつきまとったのかについて考察する。 【キーワード】 号泣、神秘主義、ロラード、トマス・アランデル	井口　篤（慶應義塾大学准教授）	井口　篤（慶應義塾大学准教授）
12	中世・ルネサンス(6) フランソワ・ヴィヨン	パリ大学出のインテリでありながら、さまざまな事件・犯罪にかかわり、たびたび入獄するも、その都度釈放を勝ち取った男。しかも、その間、『形見分け』『遺言』『隠語詩篇』など、わすれがたい作品を残してくれた男。ヴィヨンの謎と魅力にせまる。 【キーワード】 詩人・犯罪者、二重言語、恩赦嘆願、バラッド	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）
13	中世・ルネサンス(7) 『ティル・オイレンシュピーゲル』	各地に出没しては、ことばの表層をとらえていたずらをしでかし、放逐されて、どこかに去っていくティル・オイレンシュピーゲル。このトリックスターの物語の成立の謎を探ると同時に、フラマン語・フランス語・英語という、もう一つの系統についても紹介する。 【キーワード】 トリックスター、ことばの表層ゲーム、スカトロジー	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）
14	中世・ルネサンス(8) ラブレー『ガルガンチュアとパンタグリュエル』	巨人王と家来たちを主人公とした、言語遊戯や目録などの一見すると雑ぱくな要素に満ちた、この物語のおもしろさを伝えるとともに、その背後にいかなる思想やアクチュアリティが込められているのかについて、『第一の書　ガルガンチュア』を読みながら考えたい。 【キーワード】 ユマニスト作家、巨人親子の物語、香具師の口上	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）
15	古典を読む喜び	担当講師はいずれも、よの古典作品を対象にして研究・翻訳を実践している。各人の経験に基づいて、古典を読むことの喜びや、苦しさについてざっくばらんに語りあう。なお、「印刷教材」には、古典を読むことについての、各人のエッセイを掲載する。 【キーワード】 古くて新しい「古典」、原点と翻訳	担当講師全員	担当講師全員

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554824	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本語概説 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Outline of the Japanese Language (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：月本　雅幸　（東京大学大学院教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：島内　裕子　（放送大学教授）　】

講義概要

日本語に関するさまざまな意見は世に行われているが、案外に日本語に関する正確な知識は社会一般に共有されていない。このような現状に基づき、本科目では現代日本語を中心としながらも、それと対照する形で古典語にも言及することを通じ、幅広い日本語の重要事項を概説することとする。分野としては文法、音韻、文字・表記、語彙、文体など主要分野を網羅することとし、併せて近年急速に関心を集めている方言とそれをめぐる言語事象にも留意するものとする。全体として、高等学校までの学習内容を基盤としながらも、日本語の最新の見方に接近することができるように企図するものである。

授業の目標

第一には現代日本語に関する基本的な知識を習得することであり、第二には現代日本語の元となった古典語との対照により、現代日本語の成立過程について、ある程度の知識を得ることである。そして最終的には、上述のことを通じて日常の言語生活をより豊富なものにしたり、日本語のあるべき姿や将来像を考える際に、説得力を持つことができるようにする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本語の特質	日本語は特殊な言語であると言われることがあるが、近年の研究の結果では必ずしもそうではないとする見方もある。日本語の特質に関する諸問題について述べる。 【キーワード】 日本語の特質、言語類型論、日本語系統論	月本　雅幸（東京大学大学院教授）	月本　雅幸（東京大学大学院教授）
2	現代日本語の音韻	国際音声字母（IPA）を使用する際の留意点を解説しつつ、現代日本語の音声（母音・子音・アクセント）について述べる。また、音声と音韻（音素）、音節とモーラ等、言語音を扱うための基本的な枠組みについても述べる。 【キーワード】 国際音声字母、音声、音素、音節、モーラ、アクセント	肥爪　周二（東京大学大学院准教授）	肥爪　周二（東京大学大学院准教授）
3	日本語の音韻の変遷	語彙や文法と同様に、発音も歴史的に変化するものである。日本語の発音（母音・子音・アクセント）は、現代の日本人が想像するよりもはるかに大きな変化を遂げてきたことが解明されている。古代から現在に至るまでの、日本語の音韻の変遷について述べる。 【キーワード】 音韻変化、上代特殊仮名遣い、音便、アクセント	肥爪　周二（東京大学大学院准教授）	肥爪　周二（東京大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	日本語の音韻と外来語	語彙や文法などに比して、音韻は他言語の干渉を受けにくい要素であるとされる。しかし古代における中国語語彙、近現代における西欧語語彙の大量移入は、日本語の音韻にも影響を与えずにはいられなかった。それらの外来音の受け入れ方の特徴を中心に述べる。 【キーワード】 外来語、あきま、漢語、字音語、漢字音	肥爪　周二（東京大学大学院准教授）	肥爪　周二（東京大学大学院准教授）
5	日本語の文とその構造	日本語の文にはどのような種類があるか。また、日本語の文はどのように成り立っているか。主語、目的語、述語、主題などと呼ばれている要素のあり方について詳しく述べる。加えて、ヴォイスと呼ばれる文法カテゴリー（受身、使役、可能など）について説明する。 【キーワード】 語順、省略、文の種類、主語、格、目的語、主題、自動詞、他動詞、動態叙述、静態叙述、従属節、主節、南の四段階説、ヴォイス	金水　敏（大阪大学大学院教授）	金水　敏（大阪大学大学院教授）
6	日本語文法の諸相：時間表現	日本語の過去、現在、未来の表現はどのようになされるか、また「～ている」のような表現（アスペクト）について述べる。単独の文だけでなく、文章表現や複文における時間関係についても考察する。 【キーワード】 テンス、アスペクト、過去、非過去、完成相、結果、進行、パーフェクト、タクシス	金水　敏（大阪大学大学院教授）	金水　敏（大阪大学大学院教授）
7	日本語文法の諸相：モダリティ	日本語の文の成分で話し手・書き手の主観性や、聞き手・読み手に対する態度を反映するものをモダリティと呼ぶ。伝統的に「推量」と呼ばれるものもこれに含まれる。モダリティのさまざまなあり方について考察する。 【キーワード】 疑似モダリティ、真性モダリティ、推量、必然性、妥当性、可能性、時制節、言語行為、終助詞	金水　敏（大阪大学大学院教授）	金水　敏（大阪大学大学院教授）
8	日本語文法の変遷	日本語の古典語と現代語では種々の点で文法現象が異なる。この両者の違いを流れとしてとらえ、古典語から現代語に至る日本語文法の変遷について、学校文法をふまえつつ述べる。 【キーワード】 文法、現代日本語、古典日本語、活用、係り結び	山本　真吾（白百合女子大学教授）	山本　真吾（白百合女子大学教授）
9	日本語の語彙	語と語彙の定義を踏まえて、和語・漢語・外来語といった語種、そして、意味記述の方法、語源といった話題を順次取り上げ、日本語の語彙の主要な問題について述べる。 【キーワード】 語、語彙、和語、漢語、外来語、意味、語源	山本　真吾（白百合女子大学教授）	山本　真吾（白百合女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	日本語の文字と表記	日本語の文字とそれを使って行われる表記の実態について、古典語と現代語の両方にわたって詳しく述べる。 【キーワード】 漢字、平仮名、片仮名、表記	月本　雅幸（東京大学大学院教授）	月本　雅幸（東京大学大学院教授）
11	日本語の文体	日本語の文体の種類について述べ、古典語から現代語へとどのように変遷したかについて詳しく述べる。 【キーワード】 文体、和文体、漢文訓読体、和漢混淆文、言文一致	山本　真吾（白百合女子大学教授）	山本　真吾（白百合女子大学教授）
12	日本語研究の歴史	日本語の研究は意外に古い時代から行われて来た面がある。各時代の日本人が日本語をどのようにとらえて来たか、その実態に迫る。 【キーワード】 日本語研究史、国語学史	月本　雅幸（東京大学大学院教授）	月本　雅幸（東京大学大学院教授）
13	方言の形成	方言の形成過程について概説した上で、方言とは何かを捉える。 【キーワード】 共通語、標準語、方言周圏論	篠崎　晃一（東京女子大学教授）	篠崎　晃一（東京女子大学教授）
14	方言の多様性	方言の実態を捉えるとともに、方言の変化過程を分析する方法について述べる。 【キーワード】 方言史、方言地理学、比較方言学	篠崎　晃一（東京女子大学教授）	篠崎　晃一（東京女子大学教授）
15	現代の方言	21世紀の日本語の方言には種々の新たな現象が発生している。変容する方言の動態を把握し、そこに関わる意識や背景について述べる。 【キーワード】 新しい方言、方言意識、言語行動	篠崎　晃一（東京女子大学教授）	篠崎　晃一（東京女子大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554778	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 文化人類学 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Cultural Anthropology (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：内堀　基光　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：奥野　克巳　（立教大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

専門科目としての文化人類学の基本的知識を全15回にわたって講義する。1回(章) ごとにテーマに沿って概略的な学史から現代の課題まで含める。とりわけ人類が直面する現代的課題に対して、文化人類学的に考察することがどのような意味をもつのかを解き明かすことに重点を置く。

授業の目標

全15回の講義をとおして、文化人類学の諸概念と用語が理解できるようにする。それをとおして文化人類学に特有の調査法を学ぶ。それとともに、世界の諸地域に暮らす人々の生活の多様性を知り、地球大的な諸問題と地域的な諸問題の関わりを人類的視野で見る素養を養うことを目標とする。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	文化人類学のめざすもの	文化人類学という学問に特有の現実を見る眼はどういうものか、文化人類学が今日の世界のなかで実践的に果たしうる役割にはどのようなものがあるかという問題から出発し、この学問の対象としてきた人類の文化と社会の研究法を見てゆく。 【キーワード】 文化、社会、フィールドワーク、民族誌、公共性	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
2	人類の社会性と文化	人間は社会的動物であるという言い回しがある。だが動物行動学の研究によって、人間以外の動物にも、人間と同じように社会性が認められることが、明らかにされてきている。人間の社会性は、他の動物のそれとどのように異なるのだろうか。さらには、文化は、はたして、人間だけのものだろうか。人間以外の動物にも文化はあるのだろうか。本章では、人類の社会性と文化について学習する。 【キーワード】 家族、集団、文化、言語、霊長類	奥野　克巳（立教大学教授）	奥野　克巳（立教大学教授）
3	多様な「人間」のあり方	子が複数の父親をもつとされる社会がある一方で、父子の間にはつながりがないとされる社会がある。ホモセクシュアルといっても、それが、人生の一時期に儀礼的に行われる社会もあれば、性自認の変更に伴い、あるいは、社会への適応の必要から、それをやめてしまうことができる社会もある。地球上の「人間」のあり方はじつに多様である。本章では、多様な「人間」のあり方の諸事例を紹介した上で、そのことをどう理解すればいいのかについて考える。 【キーワード】 ジェンダー、セクシュアリティ、老い、文化相対主義、存在論	奥野　克巳（立教大学教授）	奥野　克巳（立教大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	文化的他者とは誰か	文化人類学の中心的な考え方である文化相対主義の意義、その歴史的背景と効果、普遍主義的価値観との関係などを概観する。現代の人類学における「他者を見る眼」はどのようにして可能か、「他者」はどのようにして構築されるかを考え、多文化共存・共生の可能性などのトピックを考察していく。 【キーワード】 文化相対主義、普遍主義、人権、ポストコロニアル、民主主義	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
5	民族というものと現代性	人類の下位集団である「民族」という概念は社会的に構築される概念である。その点では「人種」も同様である。そうした構築概念で把握される人間の下位集団のあり方は、時代とともに変化し、また状況次第で多様な様態をとる。生成・消滅・融合、分離する民族、および人種の位相の変遷を、現代という時代背景のもとにとらえる。 【キーワード】 民族、人種、民族集団、ネーション、エスニシティ	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）
6	超越者と他界	人間の認知能力は、現実領域だけでなく、超現実領域にまで広がっている。それが、人間の環世界の特徴である。人間は、どのように、そのような認知能力を手に入れたのだろうか。そこから出発し、アニミズムとは何か、神とは何かを検討しながら、人間が、目の前の現実と目に見えないその裏側の現実、あるいは、世界のあちら側とこちら側をうまく操作し、また統合することによって、世界を組み立ててきたことを学習する。 【キーワード】 環世界、宗教、アニミズム、神々、超越性	奥野　克巳（立教大学教授）	奥野　克巳（立教大学教授）
7	文化と身体	デカルト以来の心身二元論のもとで、身体は外界から入る情報を処理し、意味を与える精神の容器としての役割しか与えられてこなかったが、近年それを乗りこえる新たな身体論が提出されつつある。この回（章）では、ことば、表象、身ぶりを形成し、私たちの自己や社会の変容を用意する身体について考察する。身体が反復的に他者と関わっていくなかで、文化的な資源となっていく過程をとらえる。 【キーワード】 身体、言葉、表象、記憶、身ぶり	岩谷　彩子（京都大学准教授）	岩谷　彩子（京都大学准教授）
8	遊びと芸術	ホモ・ルーデンス（「遊ぶヒト」）としての人間は、遊びのなかで文化を生み出してきた。遊びがもつ特徴のひとつである模倣は、技芸や学習の根本でもある。日本の能や浮世物真似、インドのカールベリヤに見られる模倣を中心に、「他者になる」真似事が、芸術として人々に与える喜びと、さらなる創造的な次元を生み出す過程について考察する。 【キーワード】 遊び、模倣、眩暈、能、舞踊	岩谷　彩子（京都大学准教授）	岩谷　彩子（京都大学准教授）
9	文化と情報メディア	人と人との挨拶や、家族や隣人、仕事仲間とコミュニケーションなど、日常場面の何気ないことがらは、文化の問題に深く関わっている。また現代では、声や身ぶりといった身体的能力にくわえ、地球規模で整備されたインターネット網など、さまざまな装置や制度によってコミュニケーションが成りたっている。こうしたコミュニケーション一般に着目し、情報メディアという観点から詳しく考える。 【キーワード】 コミュニケーション、対面的、文字、デジタルメディア、高度メディア社会	飯田　卓（国立民族学博物館准教授）	飯田　卓（国立民族学博物館准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	「もの」の人間世界	人類はその歴史のなかで技術を獲得し、さまざまな「もの」を生み出してきた。生み出されたものは人々の生活を支えるとともに、その生活を大きく変えることがある。人間は「もの」にはたらきかける主体であると同時に、はたらきかけられる客体でもある。「もの」は人間の身体と環境のあいだを往来しつつ、その境界を定めたり、社会関係をつくりあげていく。ここではそうした動態に焦点を当て、「もの」から見た世界へのアプローチを示す。 【キーワード】 「もの」、物質文化、環境、身体、エージェンシー	岩谷　彩子（京都大学准教授）	岩谷　彩子（京都大学准教授）
11	環境と開発	人類は、自然環境に働きかけて主要な食料を収穫し、環境に依存しつつ生きてきた。自然環境との関わりを意識的に制御しながら村落部の潜在力を高めるという開発の試みもある。環境も開発も、人びとが生きる生活世界に深く関わった問題といえる。またグローバル化した現代では、他者からの力も借りながら生活世界を良くしていく動きがある。こうした同時代的な多様な要求について、ローカルな視点を軸に見てゆく。 【キーワード】 生活世界、生態系、援助、同時代性、グローバル化	飯田　卓（国立民族学博物館准教授） 石井　洋子（聖心女子大学准教授）	飯田　卓（国立民族学博物館准教授） 石井　洋子（聖心女子大学准教授）
12	人と人のやりとり	「豊かな社会」とは何だろうか。商品経済が優先されるあまり、過剰開発による環境破壊が起き、地域の伝統や文化的活動が軽視され、高齢者や障害者が暮らしにくくなる社会を、果たして豊かな社会と言えるのだろうか。ここでは、私たちの経済とはまったく別のやり方でものを手に入れる社会の事例を紹介し、人類社会の多様な経済のあり方と、それに対するグローバル化による影響を見る。 【キーワード】 経済人類学、贈与交換、互酬性、貨幣、ネオリベラリズム	石井　洋子（聖心女子大学准教授）	石井　洋子（聖心女子大学准教授）
13	争いと平和	社会には様々なルールがあり、それを犯すと「もめごと」が起きる。世界は争いに満ちており、内戦や民族紛争、戦争も絶えない。そうした出来事を捉えるために、文化人類学はどのように貢献できるか。断絶した人びとが、和解という社会的治癒力を発揮して、社会再生に向けて努力する営みについても具体的に見ていく。 【キーワード】 法と秩序、民族紛争、戦争、もめごと、和解	石井　洋子（聖心女子大学准教授）	石井　洋子（聖心女子大学准教授）
14	災害と回復	災害は、個人的な生命の危険だけを意味するわけではない。災害には、個人の社会的生活の中断から始まり、社会全体の機能不全にいたる社会的問題という側面もある。本章では、日常的ルーチンの阻害、公共サービスの機能の破壊、コミュニティ機能の破壊、ローカルな経験知の損失などの側面を検討し、こうした負の効果を避けるしくみ、あるいは被害を受けても復興するようなしくみについて考える。 【キーワード】 公共サービス機能、コミュニティ機能、ローカルな経験知、伝統とモダニティ、レジリエンス	飯田　卓（国立民族学博物館准教授）	飯田　卓（国立民族学博物館准教授）
15	人類文化の未来について	最終回（章）では、本講義全体に関わるまとめとして、人類の文化と社会、その持続可能性の射程など、現代の状況を人類史的な長期的視野のもとに収め、人類のありようを鳥瞰的に考察する。21世紀という時代の文化と人類社会の将来を見据えるために、20世紀という時代の特性を回顧する。 【キーワード】 暴力、科学技術、持続可能性、人類の将来、進化	内堀　基光（放送大学教授）	内堀　基光（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	5550017	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　フィールドワークと民族誌　　（’１７）＝　（OL）

英文名　　＝　〔 Fieldwork and Ethnography (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：稲村　哲也　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：池谷　和信　（国立民族学博物館教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

文化人類学の研究の基礎となる、特定の社会での「フィールドワーク」と、その成果を包括的な視点でまとめた「民族誌」を、講師自身の経験を基に具体的に論じる。この講義では、人間社会の最も基本的な営みとしての伝統的生業（狩猟採集漁労、牧畜、農耕）を軸とするが、とくに、ふたりの主任講師が専門とする狩猟採集と牧畜を中心に据える。狩猟民、牧畜民などと呼ばれる人々は、熱帯林、乾燥地、寒冷地、高地など、農耕に不向きな環境のなかで、自然と対峙し、適応し、また自然を巧妙に利用して伝統的生業を維持してきた。一方で、それらの社会は、現在、急激な変化にさらされている。すでに大きく変化し、もはや狩猟社会や牧畜社会とは言えない社会もある。また、近代化した社会においても、狩猟採集や牧畜の要素が残されている場合もある。この講義では、そうした社会もとりあげる。民族誌の記述においては、生活や文化の多様な構成要素の間の相互関連性が重要であるから、生業とともに、環境との関わり、日常の暮らし、社会の仕組み、外部世界との関係、また、回によっては祭りや儀礼などの非日常の暮らし、歴史や通時的変化などについても、できるだけ包括的に論じる。この講義で扱う社会は、その多くが「周縁的社会」と言えるものだが、それらの社会も現代では世界の動きと大きくかかわっており、「周縁からの視線」によって、世界の動きがより鮮明に見えてくる。なお、講義にあたっては、講師自身が撮影した現地の写真や映像などを多用しながら、フィールドでの経験も紹介していく。

授業の到達目標

人間社会を理解するための教養として、また、文化人類学を学ぶためのベースとして、フィールドワークと民族誌を通じて、一つの社会を多面的・包括的に見る視点を養う。また、個別社会が、その自然環境のなかで、また世界のなかで、どのように成り立っているのかを学ぶ。さらに、それらの社会が、グローバル化が進む現代において、どのように変化してきたのかを理解する。講義全体を通じて、多様な社会を比較し、周縁からの視点を持つことで、地球規模の人類社会のなりたちとその変化をより深く理解することも目指す。

成績評価の方法

通信指導、単位認定試験および再試験は行わない。成績評価は、小テスト(70%)、レポート(30%)の評価により行う。

履修上の留意点

※本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
1	はじめに ーフィールドワークと民族誌の方法	この講義では、ふたりの主任講師の専門とする伝統的な生業である狩猟採集と牧畜を軸として、多様な社会を取り上げていくが、初回ではまず、生業の視点から地球全体を概観し、人類史におけるヒトの移動や拡散についても視野に入れる。その上で、フィールドワークとは何か、どのような方法で行われているのか、また、フィールドワークに基づいて書かれる民族誌とはどのようなものかを論じる。 【キーワード】 フィールドワーク、生業、狩猟採集漁労、牧畜、農耕、民族誌	池谷　和信 (国立民族学博物館教授) 稲村　哲也 (放送大学教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　　師　　名 （所属・職名）
2	日本の山村における資源利用 －現代に伝えられる伝統的生業	第2回と第3回ではまず日本を取り上げ、それによって、生業の視点から世界のなかに日本を位置づけたい。現在の日本の山村では、過疎化などの要因で人口減少が生じているが、意外にも廃村になった所は多くない。山村では、狩猟や家畜飼養、ミツバチの養蜂、焼畑、採集などの伝統的な生業が維持されてきた。ここでは、日本の山村の日常生活をとりあげることから、日本社会の特質を考察する。また、世界の狩猟や牧畜、農耕と日本山村の生業の状況を比較する。 【キーワード】 狩猟、ミツバチ、焼畑、里山、採集	池谷　和信 (国立民族学博物館教授) 稲村　哲也 (放送大学教授)
3	日本における獣害問題 －動物と人との新しいかかわり方	最近の日本の農山村や都市において、獣害が深刻な問題とみなされている。ここでは、クマ、イノシシ、サルなどを対象にして獣害問題へのアプローチの仕方、その実際を把握することから問題の要因について考える。また、ブータンなどアジアの他の地域との比較も行なう。 【キーワード】 獣害、クマ、イノシシ、サル、ブータン	池谷　和信 (国立民族学博物館教授) 稲村　哲也 (放送大学教授)
4	ヒマラヤの森の狩猟採集民	この回では、ネパール・ヒマラヤの森を中心に、サルの狩猟とともに、森の木を加工して農耕民の穀物と交換する、ユニークな狩猟採集民であるラウテをとりあげ、彼らがどのような伝統的生活を営んできたか、またネパールの内戦、王政廃止、民主化など劇的な社会変動のなかでどのように変化しているかについて論じる。 【キーワード】 ネパール・ヒマラヤ、サルの狩猟、木地師、内戦、王政廃止、民主化	稲村　哲也 (放送大学教授) 池谷　和信 (国立民族学博物館教授)
5	寒冷地における狩猟の現状	この回では、極寒の地で生活してきたチュクチやイヌイットやフエゴ島民をとりあげ、彼らが寒冷地にどのように適応し、セイウチやクジラなどを対象にした海獣狩猟や漁労を中心とする伝統的な生業と暮らしをどのように営んできたのか、また、現代社会のなかで、どのように変化しているのかについて論じる。 【キーワード】 寒冷地、海獣狩猟、漁労、チュクチ、イヌイット、フエゴ島民	池谷　和信 (国立民族学博物館教授) 稲村　哲也 (放送大学教授)
6	アフリカ乾燥地域の狩猟民	この回では、世界の狩猟採集民の現在を展望したあとに、アフリカ南部のカラハリ砂漠に居住するサン（ブッシュマン）と呼ばれる狩猟採集民について、フィールドワークのデータを中心に、また、いくつかの先行研究を踏まえて、彼らの伝統的な生活、文化、社会、そして現代における変化について論じる。 【キーワード】 カラハリ砂漠、サン、狩猟採集、バンド、移動、定住化	池谷　和信 (国立民族学博物館教授) 稲村　哲也 (放送大学教授)
7	アマゾン熱帯雨林で農耕と狩猟等を営む人々	この回では、ブラジルやエクアドルのアマゾン熱帯雨林で独自の生活を営んできた諸民族をとりあげ、キャッサバ（マニオク）やバナナなどの小規模農耕と狩猟採集漁労などの伝統的な生業と暮らしについて、またその現代における変化について論じる。 【キーワード】 アマゾン、キャッサバ（マニオク）、小規模農耕、狩猟採集、漁労	池谷　和信 (国立民族学博物館教授) 稲村　哲也 (放送大学教授) ゲスト：山口　吉彦(アマゾン民族館・アマゾン自然館元館長)

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
8	アンデス高地における集団追い込み猟チャク	ペルーを中心とする中央アンデス高地でインカ時代にチャクという一種の集団追い込み猟が行われていた。ラクダ科の野生動物（ビクーニャとグアナコ）は捕獲された後、毛を刈られて、生きたまま解放された。この「殺さない狩猟」は、ペルーで1993年に復活した。この回では、現代によみがえったチャクの背景と実際、その学術的な意味、復活が現代のペルーの先住民社会に与える影響などについて論じる。 【キーワード】 ペルー、アンデス、インカ、集団追い込み猟、チャク、ビクーニャ、グアナコ	稲村　哲也 (放送大学教授) 池谷　和信 (国立民族学博物館教授)
9	アンデス高地で牧畜を営む人々	この回では、ペルーの中央アンデスの高原でラクダ科の家畜（リャマ、アルパカ）を飼う、ケチュア（インカの末裔）の牧民についてとりあげる。彼らは、熱帯高地特有の生態系に適応した、定牧（定住的牧畜）を営んでいる。彼らはまた、峡谷に住む農民と密接な関係を持ち、土着の信仰にカトリックが習合した信仰をもっている。 【キーワード】 ペルー、アンデス、高原、リャマ、アルパカ、定牧、牧民、農民、カトリック	稲村　哲也 (放送大学教授)
10	ヒマラヤ高地とチベット高原で牧畜と農耕を営む人々	ヒマラヤ高地とチベット高原では、ヤク、あるいはヤクとウシのハイブリッド（異種間交雑種）の移牧や遊牧を行う牧民が居住している。また、彼らの多くは、オオムギ、ソバなどを栽培する農耕も営んでいる。この回では、地域によって異なる生業や移動の形態について比較検討し、移牧と遊牧の概念を整理し、その多様性について論じる。 【キーワード】 ネパール、ヒマラヤ、ヤク、移牧、遊牧、オオムギ、ソバ、チベット仏教	稲村　哲也 (放送大学教授)
11	ヒマラヤ高地（ブータン）で牧畜と農耕を営む人々	ブータンのヒマラヤ高地では、ヤク、ゾモ（ハイブリッド）の移牧とともに、熱帯性のウシの仲間であるミタンとウシのハイブリッドであるジャツァムの移牧が行われている。地域によって、専業の牧民と、農牧複合を行う人々（農牧民）がいる。この回では、ブータンにおけるいくつかの地域を比較し、その生業、伝統的な生活、またチベット（中国）とインドの国境紛争の影響などを論じる。 【キーワード】 ブータン、ヒマラヤ、ヤク、ゾモ、ミタン、ジャツァム、中印国境紛争、遺伝学	稲村　哲也 (放送大学教授)
12	モンゴル草原の遊牧民	この回では、モンゴルの草原で5種類の家畜（ヒツジ、ヤギ、ウマ、ウシ、ラクダ）を飼って遊牧を行うモンゴル人（ハルハ）とモンゴル西部地域のカザフ人をとりあげ、草原・乾燥地域の遊牧を中心とするかれらの生活や信仰などを紹介する。モンゴルでは、1990年以後、社会主義から市場経済・民主化へと急激な変化をしてきたが、その変化の過程についても論じる。 【キーワード】 モンゴル、ハルハ、カザフ、社会主義、市場経済、民主化	稲村　哲也 (放送大学教授)
13	タイガの森（モンゴル最北部）でトナカイを飼う人々	この回では、モンゴル最北部の森林タイガ地域でトナカイを飼う、モンゴル語でツァータン（トナカイを飼う人）と呼ばれる人々をとりあげる。かれらは、もともとは西のトゥバ共和国を中心に、森でトナカイを飼い、狩猟も行っていた。独露戦争（第二次世界大戦）下でモンゴルに逃れてきた。モンゴルでも、社会主義時代の家畜集団化、市場経済化の大きな変化にさらされてきた。 【キーワード】 モンゴル、山岳タイガ、ツァータン、トゥバ、トナカイ、社会主義、市場経済化	稲村　哲也 (放送大学教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　　師　　名 （所属・職名）
14	シベリアで遊牧を営む人々	ロシアの広大な寒冷地域であるシベリアには、トナカイ遊牧などを行い、狩猟や漁労を組み合わせた、多様な諸民族が伝統的な生活を営んできた。彼らの生活は、ソビエト連邦における社会主義化政策などにより、集団化や国営化が進行して大きな変化をこうむってきた。後半では、タイガとツンドラ（シベリア）のトナカイ遊牧を比較する。 【キーワード】 ロシア、シベリア、ソビエト連邦、国営農場、集団農場、トナカイ、ウマ	池谷　和信 （国立民族学博物館教授） 稲村　哲也 （放送大学教授）
15	まとめ －民族誌の比較と現代的課題	ここまでに取り上げてきた、狩猟採集漁労を営む社会、牧畜を営む社会について、環境利用、集団構成、移動、農耕社会など外部世界との関係、近年の変化などについて比較する。それをベースとして、人と自然の関係、個別社会と世界との関係、グローバル化など現代的課題等について議論し、フィールドワーク、民族誌、そして文化人類学研究についてのまとめとする。 【キーワード】 環境利用、集団構成、移動、外部世界との関係、変化、比較	稲村　哲也 （放送大学教授） 池谷　和信 （国立民族学博物館教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554883	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 博物館教育論 （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Museum Education (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：大髙　幸　（慶應義塾大学非常勤講師）　〕

〔主任講師（現職名）：端山　聡子　（横浜美術館主任学芸員・主任エデュケーター）〕

【本学担当専任教員：稲村　哲也　（放送大学教授）　】

講義概要

20世紀における博物館は主に資料(モノ)のためにあったが、21世紀の博物館は利用者(ヒト)のためにあると言われている。今日、博物館は資料の収集、保管、調査研究、展示を含む教育、広報を含む運営など、博物館機能のすべてにおいて、教育的役割を重視する必要に迫られている。本講座では、博物館利用の教育的意義と今日の課題を学び、教育的役割を中心に据えた利用者のための博物館のあり方について考察する。

授業の目標

利用者が主体となる博物館のあり方の可能性およびその一層の充実化を図る上での課題を考察するための能力、さらに博物館を有効に活用する能力を育成することを目的とする。

履修上の留意点

「博物館概論(’11)」を始めとする一連の博物館諸論や、教育学、社会学に関する学際的領域を学ぶとともに、自己の研究領域における博物館の役割を常に意識しながら本講座を学ぶことが望ましい。特に、受講者は様々な博物館を利用し、講義内容を考察することが必要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	博物館教育の理念	我が国の博物館法に規定される博物館には、美術館や動植物園、水族館を含む多種多様な公共教育施設が含まれる。本章では、博物館を通して行われる教育(博物館教育)の理念と特徴、今日における意義について考察した上で、本講座の構成とアプローチ法について概観する。 【キーワード】 博物館法、経験、教育、活動と学習、構成主義教育、鑑賞	大髙　幸 (慶應義塾大学非常勤講師)	大髙　幸 (慶應義塾大学非常勤講師)
2	博物館教育の歴史と今日における意義	博物館教育の歴史は、社会の要請に応じた博物館概念の変遷の歴史と呼応する。本章では、近代的な博物館概念の国際的な推移と日本の博物館教育に支配的な概念的枠組みの転換を概観した上で、いくつかの事例を検証し、歴史を学ぶことの難しさとその意義について考察する。 【キーワード】 博物館学、国際博物館会議(ICOM)、棚橋源太郎、社会教育、生涯学習	大髙　幸 (慶應義塾大学非常勤講師)	大髙　幸 (慶應義塾大学非常勤講師)
3	博物館展示の教育的意義	博物館教育において、まず最初に検討すべき普遍的な方法は、展示である。本章では、展示の本質から導き出されるその教育的意義について、利用者の側と博物館の側の双方に触れながら考察する。 【キーワード】 コミュニケーションの媒体、エノラ・ゲイ展示、構成主義教育の展示	大髙　幸 (慶應義塾大学非常勤講師)	大髙　幸 (慶應義塾大学非常勤講師)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	展示と来館者をつなぐ補助教材	展示は資料（生物を含むモノ）を核として、そこに言語や映像という二次資料を介在させた複合的なメディアとして構成される。本章では、メッセージの伝達媒体である二次資料を、モノの鑑賞を軸とする学習を補助する教材としてとりあげ、具体的な事例も紹介しながら考察する。 【キーワード】 補助教材、学習の文脈モデル、教材の評価基準	寺島　洋子（国立西洋美術館主任研究員）	寺島　洋子（国立西洋美術館主任研究員）
5	ワークショップ：その理念と人文科学系博物館における実践	本章では、博物館におけるプログラムの中で、ワークショップについて、その目的、手法などについて概観する。理解しやすいように、美術館を除く人文科学系博物館の事例を参照して考察を進める。 【キーワード】 ギャラリー・トーク、会話、論理的推論、批判、共感、探究型学習	大髙　幸（慶應義塾大学非常勤講師）	大髙　幸（慶應義塾大学非常勤講師）
6	美術館におけるプログラム	本章では、人文科学系博物館のうち、美術館で実施されているプログラムについて、ギャラリー・トーク、ワークショップなどの具体例を紹介しながら考察する。 【キーワード】 鑑賞教育、ギャラリー・トーク、ワークショップ	寺島　洋子（国立西洋美術館主任研究員）	寺島　洋子（国立西洋美術館主任研究員）
7	自然科学系博物館におけるプログラム	本章では自然科学系博物館の教育プログラムを取り上げる。フィールドに出て活動する自然観察会がその代表的なものである。プログラム参加者がさらに学習し、ネットワークを広げる友の会や同好会についても紹介する。 【キーワード】 教育プログラム、自然観察会、友の会、同好会	端山　聡子（横浜美術館主任学芸員・主任エデュケーター）	端山　聡子（横浜美術館主任学芸員・主任エデュケーター）
8	資源の蓄積と公開	博物館の資源には資料（モノ）や作品がまずあげられる。加えて収集保存、調査研究、展示教育などの博物館活動を通じて集積した情報や成果、データベースもある。博物館の資源を蓄積し、教育的に活用すること、さらに資料の整理や調査活動のプロセスが教育プログラムである事例などを紹介する。 【キーワード】 博物館教育の資源、図書室、閲覧室、情報やデータの蓄積と公開	端山　聡子（横浜美術館主任学芸員・主任エデュケーター）	端山　聡子（横浜美術館主任学芸員・主任エデュケーター）
9	学校と博物館	博物館にとって学校は、重要な利用者であり、学校にとって博物館は、学校とは異なる学習体験が可能な教育の場である。本章では、学習指導要領を踏まえて、学校と博物館の多様な連携について、具体的な事例を紹介しながら、その意義と互恵的な関係について考察する。 【キーワード】 連携、生涯学習、学習指導要領、体験学習、教員研修	寺島　洋子（国立西洋美術館主任研究員）	寺島　洋子（国立西洋美術館主任研究員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	家族と博物館	家族という社会集団における教育（家族内教育）は、人の生涯に渡って日常的に展開される。家族内教育と、博物館における教育が効果的に連携するとき、そのことは、家族以外の様々な博物館利用者にとっても効果的な教育のモデルとなる。本章では、家族と博物館の効果的な連携を可能にする博物館教育のあり方について検討する。 【キーワード】 家族内教育、教育的スタイル、メディエーター、学習の転移、対話	大髙　幸（慶應義塾大学非常勤講師）	大髙　幸（慶應義塾大学非常勤講師）
11	地域と博物館	現代において博物館と地域ないしは地域資源との関わりは大きなテーマである。博物館があることで地域の歴史や文化が掘り起こされ、地域の人々が活躍する場や学習の場が生み出されている。本章では特に地域博物館をひとつの軸として述べる。 【キーワード】 地域博物館、遠足博物館、放課後博物館、街と博物館	端山　聡子（横浜美術館主任学芸員・主任エデュケーター）	端山　聡子（横浜美術館主任学芸員・主任エデュケーター）
12	アクセス可能な博物館教育：その理念と実践	公共教育機関としての博物館は、社会の多様な構成員の中で特定の集団を排除することのないよう、不断の努力をする必要がある。特に、障害のある人々のニーズに対応する博物館教育は、知覚や学習法などの知見を必要とし、このことは、あらゆる人向けの教育にも通ずる。本章では、アクセス可能な博物館教育への先進的な事例とその社会的な文脈、理論的な根拠について考察する。 【キーワード】 民主主義、インクルーシブ教育、障害、差別、触覚による知覚	大髙　幸（慶應義塾大学非常勤講師）	大髙　幸（慶應義塾大学非常勤講師）
13	博物館におけるボランティア	本章では利用者と博物館との関わりから、博物館ボランティアを取り上げる。近年多くの博物館でボランティアが活動しているが、その活動内容を具体的な事例を交えて紹介し、さらにその課題についても考察する。 【キーワード】 博物館ボランティアの特徴、学習、ボランティア	端山　聡子（横浜美術館主任学芸員・主任エデュケーター）	端山　聡子（横浜美術館主任学芸員・主任エデュケーター）
14	教育活動の評価	博物館は、利用者にとってより意味のある活動を実践するために、絶えず自らを省みる必要がある。本章では教育活動の改善を目的に行われる評価をとりあげ、具体的な事例をもとに、その意義と課題について考察する。 【キーワード】 来館者研究、展示評価、プログラム評価、学習評価	寺島　洋子（国立西洋美術館主任研究員）	寺島　洋子（国立西洋美術館主任研究員）
15	利用者主体の博物館教育：展望と課題	本章では、博物館教育の理念と事例についてこれまで学んできたことを総括し、日本の博物館の特徴および現状の問題点を概観した上で、日本における今後の博物館教育の展望とその実現のための博物館の運営体制の要諦について考察する。最後に、受講者の今後の博物館利用への提言で本講座を締めくくる。 【キーワード】 教育普及から教育へ、生涯統合教育、博物館運営、教育のための施設	大髙　幸（慶應義塾大学非常勤講師）	大髙　幸（慶應義塾大学非常勤講師） 端山　聡子（横浜美術館主任学芸員・主任エデュケーター） 寺島　洋子（国立西洋美術館主任研究員）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554590	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 博物館資料論 （’１２）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：佐々木　利和　（北海道大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：湯山　賢一　（奈良国立博物館長）〕

【本学担当専任教員：稲村　哲也　（放送大学教授）】

※「博物館資料論(’08)」の一部改訂科目です。
改訂回は第2，8，11，12回です。

講義概要

博物館には、博物館法によって資料を保管し、後世に伝えることが決められている。いってみれば博物館の基本は収蔵している資料にあるといっていい。そしてそれは博物館が拠って立つ所以ともなる重要な存在である。資料はまた「モノ」ともいい、「文化財」でもある。「モノ」を見失った博物館は博物館ではなく、単なる人寄せの場でしかない。こうした観点にたって、博物館について考えていく。ここでは「博物館学」という講義の場ではない。「モノ」から離反したアームチェア・ムゼオロジーではなく、実態に即した資料のあり方について考える。

授業の目標

資料とは博物館の根幹を成す存在で「モノ」と称され、近年では「文化財」と呼称される場合が多い。「文化財」は宝物であったり骨董、珍物であったりもするが、博物館ではこれらのほかに実際の生活に根ざした品々も「文化財」である。こうした観点から博物館の資料について考えていく。講義にあたってはそれぞれの博物館・研究所の学芸員、研究者の先生方をゲストにお招きしお話をうかがう。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	博物館における資料とは	博物館における資料の多様性について考える。 各地の特色ある博物館の例で考える。第一回目は日銀貨幣博物館が所蔵する貨幣関係資料と旧大塚盲学校が保管する近世・近代の視覚障害者教育資料について考察する。	佐々木　利和（北海道大学客員教授）	佐々木　利和（北海道大学客員教授）
2	博物館資料を展示する ※改訂回	沖縄県立博物館は2007年11月に開館。開館前に撮影した旧来の資料をいかに陳列するかなどの取材を含めて、博物館のその後の展開を追う。 【キーワード】 資料の整理と公開、アクセス権、調査研究活動	佐々木　利和（北海道大学客員教授）	佐々木　利和（北海道大学客員教授）
3	博物館資料の修復	博物館で収蔵する資料は損傷があるものが少なくない。装潢師（そうこうし）連盟関西支部にお邪魔して修理の実態に触れ、資料にとっての修理とはいかなることかを学ぶ。 【キーワード】 資料の修復と保存、修復の技術と技法	佐々木　利和（北海道大学客員教授）	佐々木　利和（北海道大学客員教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	大学における博物館	近年旧帝国大学系を中心に大学博物館が設立されている。大学博物館はその教育の中で蒐集された資料類が多くある。それらはどのように整理され、博物館教育に役立てているか、京都大学綜合博物館の例で学ぶ。 【キーワード】 博物館資料の収集・整理・活用、調査活動の意義と内容	佐々木　利和（北海道大学客員教授）	佐々木　利和（北海道大学客員教授）
5	博物館資料としての古文書	古文書をいかに調べ、展示するかは大きな課題である。ここでは京都・醍醐寺における資料調査の実態に触れ、あわせて古代・中世の文書について考える。 【キーワード】 資料の種類、古文書の扱い方、古文書の保存と展示	湯山　賢一（奈良国立博物館長）	湯山　賢一（奈良国立博物館長）
6	博物館資料としての絵画	絵画資料から何を読み取るか、そしてそれを展示にいかに生かしていくかを考える。 【キーワード】 資料の種類、絵画資料の整理と展示、絵画資料の意義	湊　信幸（東京国立博物館名誉館員）	湊　信幸（東京国立博物館名誉館員）
7	博物館資料としての個人収集品	幕末の蝦夷地探検家である松浦武四郎が収集した資料と同じ幕末の鷹見泉石収集の資料を中心に個人の収集品と博物館について考える。 【キーワード】 個人資料の収集理念と方法、個人資料の整理、個人資料の展示の課題、資料の登録、受け入れ手続き	佐々木　利和（北海道大学客員教授）	佐々木　利和（北海道大学客員教授）
8	博物館資料としての「近代文化遺産」 ※改訂回	近年、大きな問題となりつつある近代化遺産の資料性、保存の問題を国立科学博物館の例に考えてみる。 【キーワード】 近代産業資料とは、巨大な資料の展示、資料に関する研究	鈴木　一義（国立科学博物館科学技術史グループ長）	佐々木　利和（北海道大学客員教授） 鈴木　一義（国立科学博物館科学技術史グループ長）
9	博物館資料としての考古遺物 －小規模展示施設の模型作り－	考古遺物は発掘されたままか、それを復元した形での展示が多いが、羅臼町立郷土資料館は非常にユニークな展示法を試みている。その方法について学ぶ。 【キーワード】 考古資料とは、考古資料の整理と保存、考古資料の修復、考古資料の展示	涌坂　周一（元羅臼町郷土資料館長）	佐々木　利和（北海道大学客員教授） 涌坂　周一（元羅臼町郷土資料館長）
10	博物館資料としての写真	博物館には古い写真類を収蔵するところが少なくない。それの保存、複写、展示等の方法について学ぶ。 【キーワード】 写真資料の整理と保存、写真資料の展示、写真の肖像権と課題	岡塚　章子（江戸東京博物館学芸員）	佐々木　利和（北海道大学客員教授） 岡塚　章子（江戸東京博物館学芸員）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	デジタル写真撮影法 ※改訂回	博物館資料は多岐におよぶ。そしてそれぞれにあった撮影の方法について学ぶ。 博物館における資料整理とコンピュータの関係について学ぶ。 【キーワード】 写真撮影の技術、写真撮影機材、写真撮影・資料の分類・整理	城野　誠治 （東京文化財研究所職員/写真家）	佐々木　利和 （北海道大学客員教授） 城野　誠治 （東京文化財研究所職員/写真家）
12	博物館資料と展示ケース論 ※改訂回	博物館資料は多くの場合、露出展示することはなく、ケースに収めて観客に供するのが通例である。そのケースも近年いろいろな場合を想定して設計されている。モノに合わせてのケースの使用法を学ぶ。 【キーワード】 展示の歴史的変化、ケースの設計と設置、資料の保存	湯山　賢一 （奈良国立博物館長） 内藤　栄 （奈良国立博物館学芸部長補佐）	湯山　賢一 （奈良国立博物館長） 内藤　栄 （奈良国立博物館学芸部長補佐）
13	博物館資料の調査	日本国内におけるアイヌ民族資料の調査法および近世資料の調査法について学ぶ。 【キーワード】 調査研究活動の意義と内容、調査研究成果の整理と還元	佐々木　利和 （北海道大学客員教授）	佐々木　利和 （北海道大学客員教授）
14	博物館資料としての民俗	民俗資料は種類や数が多いだけにその整理や保存法は多岐にわたる。各地の民俗資料の特徴について学ぶ。 【キーワード】 民俗資料の整理と保存、民俗資料の展示、目録作成	佐々木　利和 （北海道大学客員教授）	佐々木　利和 （北海道大学客員教授）
15	民族資料論 －博物館における民族表象－	博物館とは 1. ものを展示する→イメージを醸し出す 2. アイヌ民族をめぐる展示を中心に講義を進める 【キーワード】 資料公開の理念と方法、展示の方法、展示の目的、展示が伝えるもの	本多　俊和 （放送大学客員教授）	本多　俊和 （放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554620	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　博物館資料保存論　　（’１２）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：本田　光子　（九州国立博物館特任研究員）〕

〔主任講師（現職名）：森田　稔　（九州国立博物館名誉館員）〕

【本学担当専任教員：稲村　哲也　（放送大学教授）】

講義概要

博物館資料「もの」の「保存」について、その考え方を理解し、知識を学び、技術に触れる。「もの」の保存は、その材料や製作技法を捉え、伝えてきた人や時代の判断を知り、「もの」に適した環境を整え、必要に応じて繕うことにより成り立つことを確認する。最新の科学技術による調査や環境整備ならびに日本の風土で育まれた「もの」をまもりつたえる考え方と手法を組み合わせ総合的な博物館資料の保存をめざす九州国立博物館の取り組みを中心として講義を展開する。

授業の目標

博物館学芸員として、資料保存に関する基本的な考え方ならびに基礎的な知識を修学し、学芸員自身が行うべきことと、専門家に依頼することを見極める力を養うこと。あわせて、博物館資料の保存は、博物館等施設における直接的な学芸業務以外の部門である事務、来館者サービス、警備や清掃他、およびボランティア活動等との連携の上に成り立つことをあらためて実感すること。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	博物館資料保存論の導入	博物館資料保存論の趣旨を具体的に説明する。博物館資料の保存は、①日常管理による環境維持、②資料に関する知識と丁寧な扱いに基づく点検・調査・研究・公開③歴史をふまえた保存修理により成り立つこと、博物館というステージで管理すべき危機（災害、温湿度、光、空気質、虫カビ、塵埃、輸送等の影響因子）について整理する。 【キーワード】 博物館資料、保存、環境維持、知識と扱い、点検・調査・研究・公開、保存修理、影響因子、災害防止	本田　光子（九州国立博物館特任研究員）	本田　光子（九州国立博物館特任研究員）
2	文化財保護の展開	日本の博物館資料の多くはかつて信仰が守り伝えてきた伝世の文化財である。いかにしてまもってきたか、説明する。（1）奈良時代から明治時代初めの「廃仏毀釈」までを概観する。（2）武家等の寄進により文化財がいかに保存されてきたか。（3）武家・公家・町衆による文化財修理の需要と修理技術者の育成。 【キーワード】 正倉院、曝涼、延喜式、修理、寄進、武家、公家、町衆	三輪　嘉六（元九州国立博物館館長）	三輪　嘉六（元九州国立博物館館長）
3	災害対策と保存論	我が国は「地震列島」と呼ばれるほど地震が発生しやすい。その対策を中心に概説する。 【キーワード】 地震、免震、耐震、展示方法、収蔵方法	森田　稔（九州国立博物館名誉館員）	森田　稔（九州国立博物館名誉館員）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	博物館の成り立ちと機能	文化財保護の歴史をふまえ、我が国の博物館の成立と機能について概説する。（1）明治時代初期における万国博覧会の意義 （2）古社寺保存法による文化財保護と国立博物館の役割 （3）文化財の保存と活用 【キーワード】 万国博覧会、悉皆調査、古社寺保存法、国宝、保存、活用	森田 稔（九州国立博物館名誉館員）	森田 稔（九州国立博物館名誉館員）
5	博物館資料の収蔵と保管	博物館収蔵庫の集大成ともいえる九州国立博物館の収蔵庫を例として収蔵と保存を解説。（1）ゾーニング （2）構造 （3）メンテナンス （4）危機管理 【キーワード】 ゾーニング、構造、メンテナンス、危機管理、環境	森田 稔（九州国立博物館名誉館員）	森田 稔（九州国立博物館名誉館員）
6	博物館資料の科学調査	博物館における科学調査事例について、九州国立博物館の最新設備の紹介もまじえて解説。分析科学と美術史・工芸史との共同研究の必要性を説明する。（1）現状調査 （2）材料調査 （3）構造調査 （4）環境調査 【キーワード】 現状調査、材料調査、構造調査、技法調査、環境調査、学芸員との協働	今津 節生（奈良大学教授）	今津 節生（奈良大学教授）
7	博物館と保存修理	博物館における文化財保存修理事業について、九州国立博物館の事例や施設紹介をもまじえて解説。博物館における文化財修理の意義、学芸員と修理技術者の協働の意義を考える。また博物館の役割としての修理技術者育成についても解説する。 【キーワード】 学芸員、修理技術者、博物館の役割	藤田 励夫（文化庁文化財調査官）	藤田 励夫（文化庁文化財調査官）
8	装潢の歴史	文化財としての書画に関する伝統的な修理技術を概説する。古来より行われてきた装こう技術による文化財修理の歴史を概観し、伝統保存技術の意義を解説する。また近年進んできた最新技術との関係について概説する。 【キーワード】 装こう技術、伝統保存技術、修理技術者、電子線劣化絹、すき嵌め	岡 興造（岡墨光堂会長、三代岡岩太郎）	岡 興造（岡墨光堂会長、三代岡岩太郎）
9	技術・材料の開発	書画、表具の材料、収納用具等、紙・絹文化財をまもり伝える周辺の歴史的背景について概説する。（1）文化財の構造 （2）劣化の特徴 （3）修復の方法 （4）修理後の注意点 【キーワード】 紙・絹文化財、文化財の構造、劣化の特徴、修復の方法、メンテナンス	岡 興造（岡墨光堂会長、三代岡岩太郎）	岡 興造（岡墨光堂会長、三代岡岩太郎）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	正倉院宝物の保存	「もの」の保存の原点である正倉院宝物の保存の在り方について解説。①正倉院は校倉の校木の開閉によりまもられてきたといわれてきたが、実際はどのようなものであったか。②正倉院宝物の定期的な曝涼と修理は明治期から本格的に行われてきたが、その内容と変遷について。③正倉院宝物の保存と点検に関する現在の基本的な考え方と取り組みについて紹介する。 【キーワード】 正倉院宝物、保存、修理、点検、校倉、曝涼	本田　光子（九州国立博物館特任研究員）	本田　光子（九州国立博物館特任研究員）
11	曝涼・曝書の歴史	博物館資料の多くを占める日本の美術工芸品は、この国の風土により育まれた資料管理システムである「扱い・収納・曝涼・修理」によりが正倉院から現代まで続いていることをとおして「もの」の保存の意味を考える。 【キーワード】 曝涼、曝書、伝統、気候、風土、図書館	本田　光子（九州国立博物館特任研究員）	本田　光子（九州国立博物館特任研究員）
12	文化財生物被害対策の歴史	博物館ガス燻蒸の歴史と臭化メチル全廃の経緯およびIPM導入の背景について解説。高度経済成長期に急増した博物館の虫菌害対策として短期間で処理できるガス燻蒸が行われてきたが、その弊害も指摘されてきた。その後の臭化メチル全廃に至る考え方を説明する。 【キーワード】 高度経済成長期、ガス燻蒸、臭化メチル、オゾン層、環境保護	森田　稔（九州国立博物館名誉館員）	森田　稔（九州国立博物館名誉館員）
13	博物館におけるIPM：総合的有害生物管理（1）	IPMとは何か、九州国立博物館の取り組みをとおして解説。臭化メチル全廃を受けた博物館の虫菌害対策として導入された「総合的有害生物管理(IPM)」の考え方を整理し、九州国立博物館の取り組みを具体的に説明する。 【キーワード】 ガス燻蒸、総合的有害生物管理(IPM)、環境配慮	本田　光子（九州国立博物館特任研究員）	本田　光子（九州国立博物館特任研究員）
14	博物館におけるIPM：総合的有害生物管理（2）	IPMの担い手について、九州国立博物館の取り組みをとおして解説。IPMを有効に実現するためには多くの人の目や行動が必要となる。九州国立博物館を例としてIPM実現に向けた取り組みを通し、その担い手たちのあり方、役割分担について説明する。 【キーワード】 IPM、担い手、役割分担	本田　光子（九州国立博物館特任研究員）	本田　光子（九州国立博物館特任研究員）
15	博物館危機管理としてのIPM	博物館資料保存の根幹はあらゆる影響因子を総合的に管理することであり、IPMの考え方によることでより理解と実践がしやすいことを伝える。 【キーワード】 IPM、危機管理、災害、温湿度、光、空気質、虫カビ、塵埃、輸送、自然との共生、市民協同	本田　光子（九州国立博物館特任研究員）	本田　光子（九州国立博物館特任研究員）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554875	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 博物館展示論 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Museum and Exhibition Studies (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：稲村　哲也　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

この講義では、人類の遺産、歴史、文化、自然や科学が、いかにして博物館の展示として表現されるのかを、事例を通じて理解するとともに、展示のもつメッセージ性について学ぶ。まず、博物館の種類、展示の種類、展示の構造などの概要を学んだあと、日本と世界の博物館の事例を通して、まず博物館展示の多様な特徴を理解する。さらに、博物館の設立や特別展、リニューアルなどの過程やその背景を知り、多様な展示を比較しながら、展示のコンセプトやメッセージがどのように表現されるのかを理解する。また、博物館展示と社会との相互作用や、展示にこめられたメッセージ性や政治性について考える。

授業の目標

まず、博物館の展示とは何かを理解し、多様な博物館の展示の手法、工夫、技術等について、事例を通して学ぶ。また、博物館の展示のコンセプトやメッセージが実際にどのようにして具現化されるのかを、博物館の設立、特別展示、リニューアルなどを通じて学ぶ。さらに、展示制作者（発信者）が、研究をどのように展示に活かすのか、観覧者（受信者）や社会とどのように向き合うのか、それをコンセプトにどのように組み込み、展示に反映させるのか、などの動的な営みについても学ぶ。最後に、国家や社会の体制、大きな歴史的な脈絡のなかで、博物館展示がどのようなメッセージ性や政治性をもつのかについて考える。

履修上の留意点

単位認定試験には、映像教材からも比較的多く出題する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	展示論とは・展示の構想と具現化 －リトルワールド本館展示	第1章では、まず、博物館展示とは何か、また、展示の多様な手法や特徴を整理して理解する。事例では、担当講師がその開設に携わった野外民族博物館リトルワールドの基本構想、本館展示のコンセプトの検討、その具現化までの過程を通じ、具体的な展示制作の流れについて学ぶ。 【キーワード】 展示の理論と実践、博物館の分類、展示の分類、コンセプト、メッセージ、展示の政治性、テーマ、展示の階層構造	稲村　哲也（放送大学教授）	稲村　哲也（放送大学教授）
2	現地調査と展示の具現化 －リトルワールド野外展示	本章では、リトルワールド野外展示場の3つの展示、アイヌ・コタン、ネパールの仏教寺院、ペルーのアシエンダ（大農園）領主邸宅の事例を通じて、展示のコンセプト、調査や収集の実際、さまざまな人との協力、状況に応じた判断と工夫など、博物館の展示活動全般に通じる事柄について学び、考察する。 【キーワード】 アイヌ・コタン、シェルパ、仏教寺院、チベット仏教、アシエンダ、インディオ（先住民）、日本人移民	稲村　哲也（放送大学教授）	稲村　哲也（放送大学教授）
3	国立博物館の展示 －東京国立博物館と九州国立博物館	展示は、博物館活動のなかでも中心的位置を占める重要なテーマである。本章では、独立行政法人国立文化財機構が設置する「国立博物館」の中でも、最古の東京国立博物館と最新の九州国立博物館の平常展示を取り上げ、それぞれの展示の概要や展示室の構造を理解したうえで、両者を比較し、展示の意味を考察する。 【キーワード】 平常展、総合文化展、テーマ展、文化交流展、コンセプト優先型、モノに語らせる、モノで語る	井上　洋一（東京国立博物館学芸企画部長）	稲村　哲也（放送大学教授） 井上　洋一（東京国立博物館学芸企画部長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	博物館のリニューアル －国立科学博物館と静岡科学館	博物館の展示は、規模の差はあるにしても、何らかの形でリニューアルされていくのが一般的である。本章では、国立科学博物館と静岡科学館を取りあげ、博物館のリニューアルの実際について学び、リニューアルは何故必要なのか、リニューアルする際に考えなければいけないことは何か、などについて考える。 【キーワード】 自然科学系博物館、博物館のリニューアル、展示のリニューアル、展示の再利用、メインテナンス	近藤　智嗣（放送大学教授）	稲村　哲也（放送大学教授） 近藤　智嗣（放送大学教授）
5	特別展の構想と具現化 －科博のグレートジャーニー展	本章では、国立科学博物館における特別展「グレートジャーニー」を取り上げ、この展覧会の作成過程を見ていきながら、コンセプトに沿った展示物の選定、展示方法のポイント、効果的な展示方法がどのように組み立てられていくかを具体的に学ぶ。更に展示の評価をどのように行うかについても理解する。 【キーワード】 人類の移動拡散、空間構成の工夫、イラスト・絵の活用、展示品選定の方法、グラフィックの工夫、ミニチュアやレプリカの活用、ケースの工夫、照明の工夫	関野　吉晴（武蔵野美術大学教授）	稲村　哲也（放送大学教授） 関野　吉晴（武蔵野美術大学教授）
6	民族文化の展示 －国立民族学博物館の舞台裏	近年、世界の民族学博物館では、展示のコンセプトや構成などが多様になっている。本章では、日本の国立民族学博物館で行われてきたいくつかの展示実践の事例を通じて、それらがどのような内容のもので、どのような研究をベースとし、どのような経緯で生まれたものであるのかなど、展示の背景について考える。 【キーワード】 民族学（文化人類学）、モノの収集、常設展示、企画展示、アフリカ展示、日本展示、アマゾン、イメージの世界	池谷　和信（国立民族学博物館教授）	稲村　哲也（放送大学教授） 池谷　和信（国立民族学博物館教授）
7	大学博物館の展示とその役割 －国立大学と私立大学	近年、大学博物館の重要性が大きくなっているが、大学博物館が学内及び社会に対して果たしている役割や意義は何だろう。大学博物館の展示のコンセプトや特徴は、大学によってどのように異なるだろう。本章では、国立4大学、私立2大学の事例を取り上げ、それらについて比較し、考える。 【キーワード】 学術標本、大学総合博物館化、研究・教育、知の蓄積と継承、フィールド・サイエンス	稲村　哲也（放送大学教授）	稲村　哲也（放送大学教授）
8	歴史系博物館の展示 －国立歴史民俗博物館と地方の博物館	本章では、まず国立歴史民俗博物館と東北歴史博物館の展示を比較検討し、歴史系博物館の展示のコンセプトとそのメッセージ性や政治性について考える。また、吹田市立博物館と知多市歴史博物館を取り上げ、地域密着型の歴史系博物館の特徴やその役割、また市民との共同などについて学ぶ。 【キーワード】 歴史系博物館、博物館の政治性、展示の政治性、地域の歴史、エミシ、地域密着、市民参画、ボランティア	稲村　哲也（放送大学教授）	稲村　哲也（放送大学教授）
9	沖縄の博物館 －固有の歴史と戦争体験をめぐる博物館展示	本章では、沖縄県立博物館・美術館と県平和祈念館を中心に、沖縄の歴史、文化、現状、戦争体験などが、展示にどのように表現されるのかを紹介し、博物館展示の意義と内容について考える。また、沖縄本島や離島（石垣島）の他の博物館も取り上げ、それらの博物館の展示が相互に補い合っていることについても学ぶ。 【キーワード】 琉球王国、沖縄戦、琉球政府、戦争体験、住民証言、いのちのことば、平和の礎、総合展示、部門展示	園原　謙（沖縄県立博物館・美術館班長）	稲村　哲也（放送大学教授） 園原　謙（沖縄県立博物館・美術館班長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	アイヌ民族と北海道の博物館 ー展示をめぐる立場と視点	博物館はアイヌ民族の歴史や文化をどのように展示してきたのだろうか。そこには博物館が乗り越えなければならないどのような課題があるのだろうか。本章では、主に北海道博物館のリニューアルを通じて、考える。また、北海道の他の博物館のアイヌ文化展示も取りあげ、博物館展示の相互補完的な関係についても学ぶ。 【キーワード】 アイヌ文化、時代性、通史展示、アイヌ民族の歴史、アイヌ民族の現在、無形文化の展示、テーマ別展示	出利葉　浩司（北海道博物館学芸員）	稲村　哲也（放送大学教授） 出利葉　浩司（北海道博物館学芸員）
11	北米の博物館 ーカナダ、アルバータ州の博物館を中心に	博物館の展示は学芸員だけによって作られるのではない。館外の人びとと共同で作りあげることがある。作る人が異なれば、価値観も異なり、「展示物」や、それをもとに「いいたいこと」も異なる。本章では、主にカナダのアルバータ州の2つの博物館の事例を通じて、こうした問題にどのように対応すべきかを考える。 【キーワード】 先住民、神話、ティピ、円形の広場、伝承活動、儀式、語り、博物館資料	出利葉　浩司（北海道博物館学芸員）	稲村　哲也（放送大学教授） 出利葉　浩司（北海道博物館学芸員）
12	南米の博物館 ーペルーにおける考古学と博物館	本章では、古代アンデス文明の膨大な文化遺産を抱える、ペルー共和国を対象として、国家、個人、研究者などさまざまな主体による博物館の設立、運営、展示活動とその背景について知る。考古資料の性質、研究の進展・動向、社会状況などが博物館のあり方に大きく影響することについても学ぶ。 【キーワード】 アンデス文明、考古資料、ナショナル・アイデンティティ、天野コレクション、遺跡博物館、クントゥル・ワシ遺跡、東京大学古代アンデス調査団	鶴見　英成（東京大学総合研究博物館助教）	稲村　哲也（放送大学教授） 鶴見　英成（東京大学総合研究博物館助教）
13	ヨーロッパの博物館 ーミュージアム展示の新たな方向性	ミュージアムはヨーロッパで始まり、日本には、明治政府による国造りの一環として取り入れられた。現代のヨーロッパでは、民族、移民、差別、個人など身近なテーマを取り上げ、市民参加や情報公開も積極的に行われている。本章では、ドイツ、イギリス、ベルギーにおけるミュージアムの展示から何が見えるか検証する。 【キーワード】 負の遺産、ナチス、日常性、個人、移民、偏見、ヨーロッパ民俗学、市民参加、情報公開	高橋　貴（愛知大学教授、日本展示学会会長）	稲村　哲也（放送大学教授） 高橋　貴（愛知大学教授、日本展示学会会長）
14	アフリカの博物館 ー南アフリカの野外博物館を中心に	ともすれば展示される側として見られがちなアフリカで、どのような展示が主体的に展開されているのだろうか。本章では、主に南アフリカのンデベレ民族のカルチュラル・ビレッジを取り上げ、ナショナル・アイデンティティ、観光など、展示における今日的な問題について考察する。 【キーワード】 植民地、独立、ナショナル・アイデンティティ、国立博物館、ンデベレ民族、カルチュラル・ヴィレッジ、観光、アフリカ美術、作者名	亀井　哲也（中京大学教授）	稲村　哲也（放送大学教授） 亀井　哲也（中京大学教授）
15	アジアの博物館 ーインドネシアとモンゴルの博物館を中心に	本章では、まずインドネシア国立博物館を取り上げ、植民地からの独立と博物館展示の関係について学ぶ。ついで、モンゴルの国立博物館と極西部のカザフ民族居住地区のバヤンウルギー博物館を取りあげ、社会主義下のマイノリティと博物館展示、民主化・市場経済化による博物館展示の大きな変化などについて考える。 【キーワード】 植民地、国民統合、社会主義、革命のイデオロギー、民主化と博物館、チンギス・ハーン、マイノリティ、チベット仏教、イスラーム	稲村　哲也（放送大学教授）	稲村　哲也（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554700	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　博物館情報・メディア論　　（’１３）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：西岡　貞一　（筑波大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：篠田　謙一　（国立科学博物館人類研究部長）〕

【本学担当専任教員：稲村　哲也　（放送大学教授）　】

講義概要

コンピュータ、ネットワークの発達によりデジタル技術は自動化や省力化のための道具としてだけではなく、コミュニケーションのためのメディアとして利用されている。
博物館においても研究、展示、教育を中心にメディアとしてのデジタル技術の利用が行われている。本講義では文化、技術、経営等の視点から博物館における情報やメディア・コンテンツの活用を考察する。
具体的な事例紹介を交えることで、理論や知識の獲得に加え、実践力の向上を目指す。

授業の目標

博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	博物館情報・メディア論を学ぶ	博物館情報・メディア論のねらいと、その位置づけについて概説する。情報とは何か、メディアとは何かを博物館の視点から定義する。デジタル技術の発達により博物館における情報技術やメディアの活用が増大している。 本章では「博物館情報・メディア論」でとりあげるトピックスを俯瞰的に紹介する。 【キーワード】 学芸員の業務、情報通信技術、メディア論	西岡　貞一（筑波大学教授）	西岡　貞一（筑波大学教授）
2	博物館における情報・メディアの意義	博物館では展示資料に加え文字、画像、映像、音声など様々な形で来館者に情報が伝達されている。博物館はまさに総合的なメディアといえる。本講では博物館において活用されている視聴覚メディアの代表例として、展示映像と音声ガイドを取り上げ、デジタルメディアの特性や、その活様における学芸員の果たす役割にについて学ぶ。 【キーワード】 メディアとコンテンツ、デジタルメディア、展示映像	西岡　貞一（筑波大学教授）	西岡　貞一（筑波大学教授）
3	博物館の機能からみた、情報の蓄積と活用	我が国ではICTを活用したネットワーク社会の形成や、知的財産であるデジタル・コンテンツの創生と活用を国家戦略として推進する中で、博物館コンテンツのデジタル・アーカイブ化の推進も明記されている。 本講では博物館の基本的機能ごとに情報化の流れを概観する。 【キーワード】 ICT社会の中の博物館	有田　寛之（国立科学博物館経営管理部経営管理課計画・評価室係長）	有田　寛之（国立科学博物館経営管理部経営管理課計画・評価室係長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	メディアで学ぶ、メディアを学ぶ 情報教育の意義と重要性	学芸員として来館者に質の高い展示や教育を提供するためには、メディアの特性を理解し使いこなす能力が求められる。本章では映像メディアの表示サイズに着目し、その特性を学ぶ。またインタラクティブメディアの活用やコンテンツの制作についても学習する。 【キーワード】 メディアリテラシー、メディア教育、インタラクティブメディア、コンテンツ制作	西岡　貞一（筑波大学教授）	西岡　貞一（筑波大学教授）
5	研究部門における情報化 ーデータベースの構築とその運用ー	博物館活動の情報化とは何を意味するのか。本講ではICT社会の中で、研究活動と展示業務、収蔵品の管理といった学芸員の日常業務と情報テクノロジーの関わり、特にデータベースの構築について解説する。 【キーワード】 博物館活動の情報化、、データベース	篠田　謙一（国立科学博物館人類研究部長）	篠田　謙一（国立科学博物館人類研究部長）
6	博物館標本のデジタル化の技法	博物館の活動の中で大きな比重を占め、最も情報技術の導入が期待される、収蔵品や資料のデジタル化やドキュメンテーションについて、現場でどのような導入がなされているのかを解説する。 【キーワード】 デジタル化、ドキュメンテーション	篠田　謙一（国立科学博物館人類研究部長）	篠田　謙一（国立科学博物館人類研究部長）
7	デジタルミュージアム	魅力的な展示・教育を行うために、新しいメディアの活用は大きな武器となる。学芸員には先端技術に対する好奇心と情報収集能力が求められる。 博物館・美術館の研究・保存・展示・教育機能を拡大する取り組みはデジタルミュージアムと呼ばれている。本講ではデジタルミュージアムを構成する基本技術を理解するとともに、先駆的な取り組みを題材に、その活用のための方法論を学習する。 【キーワード】 文化財のデジタル化、博物館機能の拡大、新たなメディア経験、バーチャルミュージアム	西岡　貞一（筑波大学教授）	西岡　貞一（筑波大学教授）
8	デジタル・アーカイブの現状と課題	デジタル・アーカイブは、博物館資料や文化財をデジタルデータの形で記録・保存し、これをデータベース化することにより検索性を付与し、調査・研究や二次利用を可能にするための文化の保存・公開の手段である。デジタル・アーカイブは学芸員自らの研究を支える道具として、そして博物館利用者に対する情報サービスの手段として、学芸員にとって無くてはならない情報通信技術である。本章ではデジタル・アーカイブの意義とその構築の流れを学習する。 【キーワード】 文化財のデジタル化、資料の継続的保存・管理、MLA連携、長期保存性、カラーマネージメント	西岡　貞一（筑波大学教授）	西岡　貞一（筑波大学教授）
9	博物館における情報通信技術の活用	情報端末の効果的な導入により、視聴覚メディアを活用した多様な利用者のニーズに応える情報提供が可能となる。本講では、情報機器の活用や管理、利用者の属性に応じた情報発信の手法について、主に近年の博物館展示における情報端末の活用事例をもとに解説する。 【キーワード】 情報機器の活用	有田　寛之（国立科学博物館経営管理部経営管理課計画・評価室係長）	有田　寛之（国立科学博物館経営管理部経営管理課計画・評価室係長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	開かれた博物館にむけて インターネットを活用した情報発信	人々と博物館のつながりは博物館の中だけにとどまらない。ホームページによる展覧会の告知はもとより、様々な収蔵品情報や学芸員の研究成果がインターネットを介して社会に提供されている。最近ではSocial Mediaを用いた情報発信・共有も始まっている。本講では博物館における情報発信力を高めるための情報通信技術の活用法を学ぶ。 【キーワード】 インターネットの活用、情報発信、知のオープン化、デジタルオーディエンス、ソーシャルメディア	西岡　貞一（筑波大学教授）	西岡　貞一（筑波大学教授）
11	博物館と知的財産	博物館にとって、知的財産権や肖像権等の保護と活用のバランスを図ることは、重要な課題となっている。情報通信技術の発展により、情報の伝搬スピードと範囲は劇的に拡大した。その結果、博物館の情報収集・発信手段は多様化したが、他方、博物館で取り扱う情報をめぐる法的処理も複雑化し、高度な知識が求められるようになった。そこで、この回では、博物館の業務と著作権を中心に、その問題を考えることとする。 【キーワード】 著作権、肖像権、権利処理	石井　夏生利（筑波大学准教授）	石井　夏生利（筑波大学准教授）
12	博物館と市民をつなぐ情報メディア	博物館が収集した資料からは様々な情報が引き出される。それらは調査研究の成果となってあらわれるだけではなく、展示や教育活動を通して生涯学習という形で社会に還元される。 本講では、博物館の展示や学習支援といった市民と直接つながる事業において情報をどのように活用し社会へ発信しているかについて、具体的事例とともに解説する。 【キーワード】 博物館と教育、評価	有田　寛之（国立科学博物館経営管理部経営管理課計画・評価室係長）	有田　寛之（国立科学博物館経営管理部経営管理課計画・評価室係長）
13	展覧会と情報メディア	展覧会の企画段階から，展示品の決定、会場デザインにいたるまで、現在の展覧会ではあらゆる段階でデジタル技術が利用されており、その傾向は更に加速していくことは間違いない。特に特にVirtual Realityの発展は、これまで標本の展示に限定されていた展覧会そのものの形を変える力を持っている。ここでは展覧会ができるまでの過程を通して、デジタル技術利用の実際を理解し、この技術が将来的にどのように使われていくのかを考える。また、デジタル時代の学芸員に求められる要件についても理解する。 【キーワード】 展覧会企画、展示映像、立体映像、超高精細映像、デジタルキュレーター	篠田　謙一（国立科学博物館人類研究部長） 西岡　貞一（筑波大学教授）	篠田　謙一（国立科学博物館人類研究部長） 西岡　貞一（筑波大学教授）
14	常設展示のイノベーション 博物館における情報メディアの活用	これからの学芸員にはデジタルメディアの活用能力と利用アイデアを生み出す発想力が求められる。 本講では、情報技術やメディアを常設展示に取り入れることで、鑑賞や来館者支援に成果をあげている各地の博物館の成功事例を基に、博物館の情報メディアの活用について学ぶ。 【キーワード】 テンプルミュージアム、ユニバーシティ・ミュージアム、ミュージアムシアター、デジタル復元、実物大復元、モバイルガイド	西岡　貞一（筑波大学教授）	西岡　貞一（筑波大学教授）
15	博物館情報・メディア論の未来	本講ではこれまでの講義で学んだことを総括すると共に、「博物館情報・メディア論」の今後を展望する。情報の活用や発信を目的として、情報技術やメディアを博物館と利用者の接点に応用することに焦点をあて考察する。 【キーワード】 アクティブシニア、デジタルオーディエンス、インタラクティブメディア、ビデオテーク、リサーチデスク	西岡　貞一（筑波大学教授）	西岡　貞一（筑波大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554719	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 博物館経営論 （’１３）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：佐々木　亨　（北海道大学大学院教授）　〕

〔主任講師（現職名）：亀井　修　（国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）〕

【本学担当専任教員：稲村　哲也　（放送大学教授）　】

講義概要

博物館は、建物や資料、学芸員を含む職員が存在するだけでは、成り立ちません。日々、実際にお客様をお迎えし、みなさま方に展示や教育プログラムを体験していただき、満足してお帰りいただくことが大切です。そして、また来館し、家族や友人に来館を勧めるといった行動につながることが重要です。
そのためには、博物館経営は必須の概念です。ここでは、博物館の組織、施設と人材の在り方、経営手法としてのマーケティングと評価、市民や地域社会との連携など、博物館経営に欠かせない事柄について学びます。また、海外の博物館経営の事例なども併せて紹介します。
博物館学芸員資格の取得を目指す方は、この科目が必須となります。

授業の目標

博物館の管理・運営について体系的に理解し、「博物館経営」という枠組みの中で博物館をみることができるようになります。
併せて、学芸員として博物館経営を実践する際の基礎的な能力を養います。

履修上の留意点

学芸員資格取得を目指す方は、「博物館経営論」を履修する前に「博物館概論」を履修することが望ましいです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	博物館になぜ経営が必要か	博物館にとって「経営」は必要不可欠な概念であることと、その特性を説明する。それとともに、博物館の使命、経営資源、ステークホルダーという、経営を考える際に必須となる基本的な要素について考察する。また最後に、この科目全体の構成について紹介する。 【キーワード】 経営、博物館経営論、使命、目標、経営資源、ステークホルダー	佐々木　亨（北海道大学大学院教授）	佐々木　亨（北海道大学大学院教授）
2	博物館を取り巻く人々と社会	博物館の価値と公共性について整理した上で、博物館への公的支援の根拠を説明する。併せて、博物館の価値を納税者や社会に広く伝えるための、広報活動の実態と今後を考察する。さらに、博物館の年報と企業のCSRレポートを比較検討し、博物館広報のあり方を検討する。 【キーワード】 博物館の価値、公共性、広報、年報、ステークホルダー、CSR	佐々木　亨（北海道大学大学院教授）	佐々木　亨（北海道大学大学院教授）
3	博物館の組織と人材、行財政	博物館が使命を遂行し社会的な機能を果すためには、それに適した制度、組織、あるいは人材が必要となる。博物館に関する一般の人々の認識、それを反映する行財政制度や個別の予算システムも重要な要素となる。それらについて、現状と課題を説明する。 【キーワード】 文書主義、行政組織、非営利組織、非常時や変化への対応	亀井　修（国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）	亀井　修（国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	博物館倫理・行動規範	博物館には、人類にとって貴重な資料や文化遺産を取り扱い、新しい知識や情報の創造に役立てるといいう使命がある。そのため、博物館関係者には極めて高い職業倫理が求められる。ここでは、代表的な倫理規程とその考え方について紹介する。 【キーワード】 倫理基準、行動規範、ICOM、専門職としての行為	亀井　修（国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）	亀井　修（国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）
5	博物館の経営手法①：マーケティング、利用者調査の手法	マーケティングの定義や基本的な枠組みについて紹介し、博物館で求められている経験について検討する。併せて、博物館利用者の行動や潜在的な期待を把握するための利用者調査について、具体的な事例を紹介する。 【キーワード】 マーケティング、博物館での経験、利用者調査、第三世代の博物館	佐々木　亨（北海道大学大学院教授）	佐々木　亨（北海道大学大学院教授）
6	博物館の経営手法②：使命と評価	実施した事業にどのような成果があったのかを検証し、今後の改善に活かすことは、使命達成に向けて必要なことである。ここでは、博物館に評価が導入された背景、評価の際の使命の重要性、および博物館を評価する手法およびシステムについて紹介する。 【キーワード】 使命、評価の設計、自己点検、外部評価、PDCAサイクル	佐々木　亨（北海道大学大学院教授）	佐々木　亨（北海道大学大学院教授）
7	ミュージアムショップとレストランの経営	博物館活動に必要な諸設備とともに、博物館の機能として経営の一部となっているミュージアムショップやレストランといった付帯施設の今日的在り方について説明する。 【キーワード】 ミュージアム経営、利用者サービス	山下　治子（雑誌「ミュゼ」編集長）	山下　治子（雑誌「ミュゼ」編集長）
8	指定管理者制度	2003年の法改正により新たに導入された指定管理者制度は、博物館経営にも大きな影響を与えている。指定管理者制度のしくみと制度導入の現状と課題について、いくつかの事例とともに解説する。 【キーワード】 地方自治法、指定管理者制度、官民連携、長崎歴史文化博物館、島根県立古代出雲歴史博物館	佐々木　亨（北海道大学大学院教授）	佐々木　亨（北海道大学大学院教授）
9	博物館における危機管理	生起確率の減少や発生時被害の軽減といったリスク・マネージメントの基本的考え方や、因果関係がはっきりしない事象への対処や予想される損益の評価に対応する意思決定等について、博物館が直面する事象をもとに説明する。 【キーワード】 リスクの認知、不確実性、意思決定	亀井　修（国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）	亀井　修（国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	博物館における連携①：ボランティア・市民・地域社会その1	博物館運営の充実に欠かせないボランティアや市民、地域社会との連携のありかたについて、歴史系の地域博物館の事例を踏まえて解説する。 【キーワード】 市民、ボランティア、地域社会、地域連携、ネットワーク、生涯学習、まちづくり、地域振興	竹内　有理（長崎歴史文化博物館教育普及グループリーダー）	竹内　有理（長崎歴史文化博物館教育普及グループリーダー）
11	博物館における連携②：ボランティア・市民・地域社会その2	ボランティア・市民・地域社会といった博物館における連携について、連携・相乗効果・新たな価値の創造といった視点から、科学系博物館での活動事例を中心に説明する。 【キーワード】 地域連携、国際連携、相乗効果、新たな価値の創造	亀井　修（国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）	亀井　修（国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）
12	博物館における連携③：他館、他機関、学協会	他館・他機関・学協会といった博物館における連携について、連携の相乗効果や新たな価値の創造の視点から、科学系博物館の事例を中心に説明する。 【キーワード】 連携、相乗効果、目的・手段・成果	亀井　修（国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）	亀井　修（国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）
13	事例紹介①：海外の博物館経営（イギリス）	博物館経営の重要性が注目されるようになった1980年代後半から現在にいたる、イギリスの博物館経営の取り組みについて、文化政策、経営戦略、資金獲得、社会的役割の視点から解説する。 【キーワード】 文化政策、経営戦略、資金獲得、社会的役割	竹内　有理（長崎歴史文化博物館教育普及グループリーダー）	竹内　有理（長崎歴史文化博物館教育普及グループリーダー）
14	事例紹介②：海外の博物館経営（アメリカの美術館）	アメリカでは多くの博物館が、非営利組織として経営されている。ここでは、非営利組織としての美術館に注目し、美術館経営に際して、最も重要視される使命（ミッション）や経営を支える「アーツ・アドミニストレーション」（芸術運営学）について説明する。 【キーワード】 ミッション（使命）、非営利組織、アーツ・アドミニストレーション、ファンドレイジング、寄附	鈴木　一彦（公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京プログラムオフィサー）	鈴木　一彦（公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京プログラムオフィサー）
15	事例紹介③：大学博物館の歴史と経営	大学博物館の歴史と日本におけるその現状を解説する。その上で、1990年代後半より整備され始めた、我が国のユニバーシティ・ミュージアム設置の経緯、その使命、および活動の現状を見ていく。現状については、北海道大学の総合博物館および植物園を事例に紹介する。 【キーワード】 大学博物館、ユニバーシティ・ミュージアム、北海道大学総合博物館、北海道大学植物園	佐々木　亨（北海道大学大学院教授）	佐々木　亨（北海道大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	総合科目	科目コード	1940015	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 音を追究する （’１６）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Exploring Sound (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：大橋 理枝 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：佐藤 仁美 （放送大学准教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

ヒトは日常生活の中で多様な音を聞き、認識・処理している。また、音を通してさまざまな表現を行い、音によってさまざまな影響を受けている。さらに、我々は音声言語を基本としていろいろな事柄を表現している。本科目では、物理的・生物的・精神的・文化的・芸術的視点など多角度から「音」というものにアプローチし、音の持つ意味を解き明かしつつ、最終的に我々が住み心地・生き心地をよくする音の活用に結び付けていきたい。
多領域にも携わるテーマのため、広い領域・分野層の学生に受講を勧めたい。

授業の目標

単独分野だけでは得られない、音に対する総合的な知見を得る。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	音との付き合い	身の回りにどんな音があるのかに気づくことを通して、この教材で扱う内容を概観すると共に、各章を理解するために前提として知っていることが必要な概念を学ぶ。 【キーワード】 音波、振動、聞こえ、選択的知覚、周期性、合奏、度、声、音響、録音、再生、言語、音声、メッセージ、鐘、響き、騒音	大橋 理枝（放送大学准教授） 岸根 順一郎（放送大学教授） 佐藤 仁美（放送大学准教授） 高松 晃子（聖徳大学教授） 亀川 徹（東京芸術大学教授） 坂井 素思（放送大学教授）	大橋 理枝（放送大学准教授） 岸根 順一郎（放送大学教授） 佐藤 仁美（放送大学准教授） 高松 晃子（聖徳大学教授） 亀川 徹（東京芸術大学教授） 坂井 素思（放送大学教授）
2	音とはなにか	多くの人が、「音の研究」といえば「音楽の研究」を思い浮かべる。しかし、音が生まれ、空間を伝わり、私たちの耳に届く直前までの過程、つまり音が音楽になる直前までの過程は物理学の対象である。物理学の対象としての音の研究は、音楽の研究と密接に関連しながら2500年の長きにわたって積み上げられてきた。本章では、物理現象としての音について基本的な見方・考え方を学ぶ。 【キーワード】 音と光、媒質、音の科学史、空気バネ、音圧 、デシベル	岸根 順一郎（放送大学教授）	岸根 順一郎（放送大学教授） 大橋 理枝（放送大学准教授） 佐藤 仁美（放送大学准教授）
3	音の知覚・認知・認識	音の知覚・認知・認識について、生理的・神経学的・心理学的観点から学ぶ。 【キーワード】 聴覚、蝸牛、伝音器、感音器、可聴範囲、難聴、耳鳴り	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授） 大橋 理枝（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	音の感覚と心理的要素	音から得られる感覚などと、音をめぐる心理的要素について学ぶ。 【キーワード】 共感覚、色聴、感覚モダリティ、スクリャービン	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
5	物理的な音	音を物理現象としてとらえる基本的な見方は第2章で述べた。本章では、もう少し立ち入って「波動としての音」つまり「音波」を捉える見方を述べる。 【キーワード】 振動と波動、重ね合わせの原理、音の3要素、定常波、音速	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
6	楽器	楽器になりうるものをできるだけ広く捉え、分類することから始める。続いて、自然や動物の音の模倣をする楽器を取り上げる。さらに、身近な楽器の歴史、構造、音程、音組織、音色などを扱い、楽器に凝らされているさまざまな工夫を理解する。 【キーワード】 楽器、音高、音程、倍音、調律、音色、うなり	高松　晃子（聖徳大学教授）	高松　晃子（聖徳大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授）
7	声	声の多様性を紹介する。地域や職業、音楽文化によって、標準とされる音色や技法が異なっていることを理解しよう。世界の多様な声は、どのように分類、説明されてきたのだろうか。 【キーワード】 発声、声帯、唱歌、マウス・ミュージック、リフレイン、ヴォカリーズ	高松　晃子（聖徳大学教授）	高松　晃子（聖徳大学教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
8	縦の音・横の音	「縦」と「横」という表現を手がかりに、さまざまな音楽文化における音と音との関係や、その好ましい関係を生み出すために人々がとる行動について考える。 【キーワード】 和音、和声、同時性、継時性、音程、協和、不協和	高松　晃子（聖徳大学教授）	高松　晃子（聖徳大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授）
9	音の響き	建物と音の関係に焦点を合わせ、コンサートホールや練習室の響きついて論じる。ホールによって音が違うのはどうしてか？　またホールの中でも客席で音が違って聞こえるのはどうしてなのか？　ステージで演奏された音が客席にどのように伝わっていくのかを理解し、音の響きについて考える。 【キーワード】 遮音、吸音、残響時間、拡散	亀川　徹（東京芸術大学教授）	亀川　徹（東京芸術大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	音の記録と再生	音をつくるための基礎知識として、録音技術、再生技術について論じる。エジソンの蓄音機から始まった録音の歴史を振り返りながら、マイクロホンの原理やデジタル録音、ステレオ録音について理解を深める。 【キーワード】 マイクロホン、スピーカー、デジタル録音、ステレオフォニック	亀川　徹（東京芸術大学教授）	亀川　徹（東京芸術大学教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
11	「言語」という音	人間がどうやって言語の音を作り出しているのかを理解すると共に、日本語における言語の音の捉え方や、実際に音声言語として日本語を話す際に聞こえる音などについて検討する。 【キーワード】 言語音、母音、子音、音節、モーラ、同化、融合	大橋　理枝（放送大学准教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授）
12	伝える音	音をことばとして表現する場合、そこにはどのような発想が込められているのか。コミュニケーションの現場では、音声はどのような役割を果たすのか。人工物に音を発生させることで、人はどのようなメッセージを伝えようとしているのか。これらの内容の検討を通して、私たちにとって音は何を伝えるものなのかを考えていく。 【キーワード】 擬音語、音象徴、言語の恣意性、非言語音声メッセージ、命じる音、警告する音、知らせる音	大橋　理枝（放送大学准教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授）
13	社会の音	音というものを社会的側面から捉える。寺や教会の鐘、港の霧笛、祭りの音、時報の鐘などの音は、共同体の人びとに共通に提供され、そして受け入れらてきた。ここでは、鐘の音や時の鐘を取り上げて、いかにして人びとが音の社会的関係を形成してきたのかをみていく。 【キーワード】 鐘の音、共同体の音、呼応関係、共振、同空間性、時の鐘、共同資源	坂井　素思（放送大学教授）	坂井　素思（放送大学教授） 大橋　理枝（放送大学准教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授）
14	騒音	騒音とは何かについて考える。騒音の歴史は、人間社会の近代化の歴史とほぼ重なる。機械音、工場音、交通音、広告・宣伝の音などにおける、主観的・客観的な騒音規制基準をみていく。 【キーワード】 ノイズ、機械音、工場音、交通音、生活音、望ましくない音、騒音規制、ローファイ革命、低周波騒音	坂井　素思（放送大学教授）	坂井　素思（放送大学教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
15	音の世界	これまでに触れてきた内容と絡めながら、私たち人間が音とどのように向き合っているのかを概観する。 【キーワード】 カクテルパーティー効果（現象）、絶対音感、同質の原理、沈黙	大橋　理枝（放送大学准教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授）	大橋　理枝（放送大学准教授） 岸根　順一郎（放送大学教授） 佐藤　仁美（放送大学准教授） 高松　晃子（聖徳大学教授） 亀川　徹（東京芸術大学教授） 坂井　素思（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234145	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　計算事始め　　（’１３）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：川合　慧　（放送大学名誉教授）〕

【本学担当専任教員：辰己　丈夫　（放送大学准教授）】

講義概要

情報の処理の基本は、抽象的な概念である情報の表現と、その表現に対する系統立った変換のやり方及びその性質の把握である。本科目では「計算」というキーワードでこれら全体をカバーする統一的な視点を学ぶことを目的とする。具体的な内容としては、数の概念、性質、扱い方、それに現実世界との対応などを学んだあと、様々な種類の計算について、その表し方や計算方法について調べる。とくに、情報概念についての人間の発達段階に応じた認識の様子や、計算手順の自然言語表現などについて詳しく学習する。人間の情報処理の基本原理に関する内容なので、特定のターゲットはなく、社会人が共通にもつべき素養を学習する。

授業の目標

コンピュータに偏ることのない、本質的な計算の概念とその性質とを理解し、具体的な問題解決に際して可能な限り広く応用できる力を身につける。とくに、日常生活に見られる種々の計算の性質や、自然言語で表現した計算についての性質、計算概念を身につけるための教育上のくふうなどに力点を置き、日常生活の中で見られる平易な場面設定をもととした理解を目指す。このことによって「計算」についての素養を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

「情報学へのとびら('16)」が関連する科目である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人間の活動と計算	人間が意識的に行っている活動の中から、計算という要素を抽出することの意味を、数々の実例について考える。計算というものが、「数式」という極度に抽象化されたものに限られることは決してなく、人間の日頃の活動全般に渡ってあてはまるものであることを認識する。 【キーワード】 計算、式、数	川合　慧（放送大学名誉教授）	川合　慧（放送大学名誉教授）
2	数の数え方	人間の計算活動は、最も単純な正の小さな整数を扱うことから始まった。ここでは、図示した場合に一目で把握できる大きさの正の整数から始め、「数」の考え方と、その表記方法である数字の構成原理とを学ぶ。 【キーワード】 数の概念、図形的整理、数え上げ、数の大きさ、数字	川合　慧（放送大学名誉教授）	川合　慧（放送大学名誉教授）
3	読書きそろばん	身の回りに見出される「計算」について、いろいろな数の数え方を紹介する。文化による数え方の違いや、スポーツゲームの点数の数え方について調べてみる。数字については10進法に限らない表現方法、たとえば2進表現や16進表現について調べ、計算と数の表現との関係について学ぶ。 【キーワード】 計算、2進法、10進法、0から数える、1から数える	高岡　詠子（上智大学教授）	高岡　詠子（上智大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	計算のしかけ	最も身近な計算である四則演算を「計算」という観点からとらえ直して理解する。各種の暗算の手法についても紹介する。古典的な計算補助器であるそろばんや計算尺による計算も紹介する。 【キーワード】 四則演算、暗算、そろばん、計算尺	高岡　詠子（上智大学教授）	高岡　詠子（上智大学教授）
5	数の性質と計算	現実社会で実行されている計算活動の重要性を、情報伝達の誤りを検知する手法や簡単な暗号、さらに素因数分解の困難性に基づいた暗号化方式であるRSA暗号を題材に学ぶ。 【キーワード】 誤り検知、ISBN、素数、素因数分解、暗号、RSA暗号鍵	高岡　詠子（上智大学教授）	高岡　詠子（上智大学教授）
6	絵と音を計算する	コンピュータは文章や数値データだけでなく、画像や音声、動画を表現することもできる。私たちが普通に接している画像や音声がどう表現されているか、そして計算によってどのように変化していくかについて学ぶ。 【キーワード】 音声や画像の表現、ビットマップ、ベクタ、色変換、画像処理、標本化、量子化、符号化	高岡　詠子（上智大学教授）	高岡　詠子（上智大学教授）
7	おはなしコンピュータ	コンピュータが計算を行う基本的な仕組みについて学ぶ。電源を入れてからコンピュータが計算を始めるまでの行動や、コンピュータが命令をどう実行しているのかについて学ぶ。次章で使う変数や反復などの概念の導入とする。 【キーワード】 変数、反復、ブートストラップ、命令の実行サイクル	高岡　詠子（上智大学教授）	高岡　詠子（上智大学教授）
8	コンピュータにおける式と手順	これまでに学んできた計算は、一定の約束のもとでコンピュータ上での式として表わされる。ここでは、コンピュータ上で式を記述し、それを「手順化」してプログラムとすることを学ぶ。 【キーワード】 手順化、プログラム、プログラム言語、制御構造	西田　知博（大阪学院大学准教授）	西田　知博（大阪学院大学准教授）
9	アルゴリズム	手順はより一般的にはアルゴリズムという形で表現できる。ここではアルゴリズムの定義とその表現方法を紹介する。また、その例を身近なテーマを交えて学ぶ。 【キーワード】 アルゴリズム、フローチャート、配列、貪欲法	西田　知博（大阪学院大学准教授）	西田　知博（大阪学院大学准教授）
10	問題解決とアルゴリズム	コンピュータを使用した問題解決では、問題をモデル化し、機械的手順で扱うことのできるデータによって表現し、それに基づいたアルゴリズムを作成する必要がある。ここではモデル化した問題のシミュレーションと、データを扱う統一的な形式であるデータ構造について学ぶ。 【キーワード】 問題解決、問題のモデル化、データ構造、配列、リスト	西田　知博（大阪学院大学准教授）	西田　知博（大阪学院大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	アルゴリズムと能率	特定の問題に対する解法は複数存在するのが普通で、しかもそれぞれ計算量が異なることが多い。ここでは計算手順に則した処理の手間に基づく能率の諸側面について探索アルゴリズムなどを通じて学ぶ。 【キーワード】 計算量、計算量のオーダ、探索	西田　知博（大阪学院大学准教授）	西田　知博（大阪学院大学准教授）
12	並び替えアルゴリズム	並び替え（ソート）は、多くのアルゴリズムの基本処理となり、コンピュータでのデータ処理において重要な役割を果たす。ここでは、複数のソートアルゴリズムを紹介し、それぞれの性質および、効率について説明する。 【キーワード】 ソート、分割統治法、再帰、空間計算量	西田　知博（大阪学院大学准教授）	西田　知博（大阪学院大学准教授）
13	図形アルゴリズム	アルゴリズムのうち図形を扱うものは、現実的な応用としても重要である。ここでは図形の面積や地図情報の扱いなどを例として、図形を扱うアルゴリズムについて学ぶ。 【キーワード】 幾何アルゴリズム、グラフアルゴリズム、ボロノイ図、ダイクストラ法	西田　知博（大阪学院大学准教授）	西田　知博（大阪学院大学准教授）
14	逆問題と最適化	現実問題の中には、解法は分かったとしても、その実行には時間がかかりすぎるため実質的には解くことができない問題も存在する。ここでは、逆問題から始めて、与えられた条件の中で最適な解を求める問題である最適化問題と計算の難しさを説明する。 【キーワード】 逆問題、方程式、最適化問題	川合　慧（放送大学名誉教授）	川合　慧（放送大学名誉教授）
15	計算と人間の思考	計算というものは、それ自身が数学的に存在する独立事象であるとともに、それを構成し解釈する人間に依存する要素も大きい。ここでは計算の定義や性質を、人間の考え方と照らし合わせて議論する。 【キーワード】 計算と人間、パターン照合、項置き換え、関数	川合　慧（放送大学名誉教授）	川合　慧（放送大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234153	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　デジタル情報と符号の理論　　（’１３）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：加藤　浩　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

情報科学の基礎知識として、確率論に基づいて情報を数量的にとらえたり、分析する手法を学ぶ。さらに、デジタル情報に関する本質的な理解を深めるとともに、デジタル情報の処理モデルを学ぶ。また、文字・音声・画像・動画などの様々なマルチメディア情報がどのようにデジタル情報に変換されているかを学び、その変換方法によってデータ量を圧縮したり、伝送時の誤りを検出できたり訂正できたりすることを理解する。

授業の目標

情報と確率論の関係を理解し、情報量やエントロピーなどの情報の量的な取り扱いができる。さらに、デジタル情報処理の特長を理解し、文字・音声・画像・動画などの情報の符号化と情報圧縮方式、伝送時の誤り訂正の方式を理解する。また、情報理論が社会でどのように使われているかについて学び、現代社会における情報理論の意義を理解する。

履修上の留意点

確率論、指数・対数関数、Σ(シグマ)についての数学的な内容を含むので、講義中でも簡単に復習はするが、事前に高校数学の理解が必要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	科目概要:アナログとデジタル	本科目で取り扱う内容を概観する。アナログ情報とデジタル情報との違いを明らかにし、それらの情報の処理方法の違いについて述べる。また、デジタル情報処理の利点を解説し、情報圧縮や誤り訂正の考え方も簡単に触れる。さらに、音や画像など様々な情報がどのようにデジタル情報として扱われているかを解説する。 【キーワード】 デジタル、アナログ、符号、符号化、復号、圧縮、誤り訂正	加藤　浩（放送大学教授）	加藤　浩（放送大学教授）
2	数の符号化	コンピュータ上で用いられる二進数を理解するため、位取り記数法の概念を述べる。また、日常用いられる十進数と、コンピュータと相性のよい二進数や十六進数の間における相互変換の方法を解説する。次に、コンピュータ上で数を表現する方法を、非負整数、負の整数、小数の順に解説する。 【キーワード】 位取り記数法、基数変換、浮動小数点数、二進数、十六進数	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）
3	確率論の基礎	以降の章の理解に最低限必要となる、確率の基礎を学ぶ。まず、起こりうる場合の数を数え上げる方法を解説する。次に、事象と確率に関する用語の定義を行い、同時確率、条件付き確率、確率分布等について解説する。 【キーワード】 順列、組み合わせ、事象、確率、同時確率、条件付き確率、確率分布	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	情報量	日常言語としての情報概念と、情報理論での情報概念の違いについて明らかにする。そして情報理論に基づき数学的に情報量を定義し、いくつかの具体的な事例で情報量の定義が直感ともうまく合致していることを確認する。次に、情報量の加法性について述べ、独立な事象ではない場合についての取り扱いについて解説する。 【キーワード】 情報、情報量、シャノン、対数、指数、確率、加法性	加藤　浩（放送大学教授）	加藤　浩（放送大学教授）
5	エントロピー	エントロピーという概念を導入し、それが情報源から得られる平均的な情報量という側面と確率分布の不確定さという側面を持っていることを解説する。さらに、熱力学でいうところのエントロピーとの関係についても述べる。次に、エントロピーの性質について解説し、条件付きエントロピー、相互情報量、カルバック・ライブラー情報量を定義する。 【キーワード】 エントロピー、不確定さ、条件付きエントロピー、相互情報量、カルバック・ライブラー情報量	加藤　浩（放送大学教授）	加藤　浩（放送大学教授）
6	ベイズの定理	ベイズの定理とその応用例について学ぶ。基本的なベイズの定理を導入し、例題を通してその使い方を理解する。また、例題を基にして、確率と情報量との関係をもう一度考える。ベイズの定理の応用例として、電子メールの自動分類や製品の不良率予測に関する問題を扱う。 【キーワード】 ベイズの定理、ベイズ更新、事前確率、事後確率、尤度	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
7	通信のモデル	通信のモデルについて学ぶ。情報をある場所から別の場所に伝達する情報伝達の基本モデルを考える。このモデルに含まれる情報源や通信路といった構成要素とその役割を説明する。また、通信路において伝達できる最大情報量としての通信路容量の概念、情報源の統計的表現を導入する。 【キーワード】 通信モデル、通信路、情報源、通信路容量、通信路符号化定理、状態遷移図、散布度	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
8	情報の圧縮	情報の圧縮について概要を学び、符号化の基本について理解する。まず、符号化の種類と役割を述べ、符号の種類と条件について説明する。符号の木を導入し、符号が成立するための条件を考える。次に、圧縮性能を表す平均符号長を導入し、符号化の限界について考える。基本的な符号化方式としてハフマン符号を紹介し、その構成法を示す。 【キーワード】 符号化、復号、符号、符号語、平均符号長、情報源符号化定理、ハフマン符号、符号の木	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
9	線形符号	通信路上で生じた雑音や誤りの影響を最小とするため、冗長度を与えて誤り検出と訂正を行う方法について、線形符号を取り上げ、ベクトル表現を使いながら、その生成法、誤り訂正の基礎を学ぶ。 【キーワード】 符号間距離、パリティ検査、線形符号、生成行列、シンドローム、ハミング符号	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	巡回符号と畳み込み符号	線形符号の一つである巡回符号について、その特徴を多項式表現を中心に学ぶ。また、時間的に区切らず符号化を行う畳み込み符号と最尤復号（さいゆうふくごう）について、符号化と復号法の基礎を学ぶ。 【キーワード】 巡回符号、生成多項式、シフトレジスタ、畳み込み符号、状態遷移図、トレリス図、ビタービ復号、最尤復号	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
11	テキストの符号化	コンピュータ上で文字情報を扱う方法を解説する。文字集合と文字コードの概念を述べ、文字とその属性が独立していることを明らかにする。ラテン文字や基本的な記号を表現できる文字コード、日本語で使われる文字を表現できる文字コード、世界中の文字を表現できる文字コードを紹介する。 【キーワード】 文字集合、文字コード、ASCII、JIS X 0208、Unicode	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）
12	音の符号化	コンピュータ上で音の情報がどのように符号化されているか解説する。音信号の表現方法について述べ、音データの圧縮技術を大まかに分類する。音の圧縮符号化方式として、音楽CDなどに使われる波形符号化、携帯電話などに使われる分析合成、音楽配信メディアなどに利用される聴覚心理符号化について理解する。 【キーワード】 音信号、波形符号化、PCM、分析合成、LPC、聴覚心理符号化、MP3	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
13	画像の符号化	コンピュータ上で画像情報がどのように符号化されているか解説する。画像の表現方法について述べ、画像とデータ量との関係を説明する。画像の圧縮符号化方式としてJPEGを扱い、その処理手順や圧縮技術を理解する。色情報を削減する手法や空間的な周波数を用いる手法を導入する。 【キーワード】 画素、画素値、三原色、離散コサイン変換、量子化、エントロピー符号化、JPEG	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
14	動画の符号化	コンピュータ上で動画情報がどのように符号化されているか解説する。動画の表現方法について述べ、動画の圧縮符号化方式を紹介する。動画データの圧縮技術として、フレーム間差分、動き補償予測の手法を理解する。また、MPEGの符号化処理およびフレーム構成ついて概要を説明する。 【キーワード】 フレーム、インタレース、プログレッシブ、フレーム間差分、動き補償予測、MPEG	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
15	数列の利用	周波数拡散、暗号、データ検索などに使われている複雑な数字の列として、M系列、暗号、ハッシュ値について、生成の方法や、応用方法を見ながらこれらの考え方を学ぶ。 【キーワード】 M系列、疑似ランダム系列、暗号、DES暗号方式、RSA暗号方式、公開鍵、秘密鍵、ハッシュ値	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234170	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日常生活のデジタルメディア （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Digital Media in Daily Lives (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：青木 久美子 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：高橋 秀明 （放送大学准教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

コンピュータをはじめとして、携帯電話、タブレット、電子書籍、デジタルカメラ、デジタルテレビ、ゲーム機器と、デジタルメディアも多様化している一方、クラウドコンピューティングに代表されるように、どれもインターネットに接続して情報が流通し、交換される、といった集約化も行われている。デジタル化された情報は、それが画像・音声・文字・動画といった中のどの形で表現されるものであろうとも、インターネットやコンピュータネットワーク上で流通可能であることが特徴である。こういったデジタルメディアの普及により、我々の日常生活がどのように変わってきているのか、変わりつつあるのか、また、変えていかなければいけないのか、この講義では、デジタルメディアの特性というものを理解しながら考えていく。

授業の目標

本科目は情報コースの導入科目であるため、より専門的な知識を身に付ける前に、又は、身に付けると同時に、日常的に触れている身の回りのデジタルメディアについての理解を深めることを目標とする。また、様々なデジタルメディアの仕組みを理解するのみならず、そういったメディアの活用がどのように個々人の生活や社会に影響を及ぼしているのかを考える枠組みを提供する。

履修上の留意点

この科目は学部の導入科目であるため、インターネット接続を必須としないが、デジタルメディアのより深い理解を得るためには、インターネット接続を推奨する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	情報社会の機会と課題	情報というものが資源として流通促進される情報社会が到来したと云われて久しい。その中心を担っているのが、インターネットに代表されるデジタルな情報通信技術である。こういった情報通信技術(ICT)が我々の日常生活の様々な場面に浸透し、大きな変化をもたらしてきている。第1回では、そういった変化について考える。 【キーワード】 情報社会、デジタル・デバイド、デジタルネイティブ、情報爆発	青木 久美子（放送大学教授） 高橋 秀明（放送大学准教授）	青木 久美子（放送大学教授） 高橋 秀明（放送大学准教授）
2	日常生活におけるデジタルメディアの利活用	デジタルメディアは我々の日常生活にどのような影響を与えているのだろうか。第1回では広く情報社会とは何かについて、またデジタルメディアの特性について検討した。第2回では、日常生活を営む“主体”からデジタルメディアをどのように捉えることができるか、事例を交えながら考察する。その上で、メディアを利活用する主体について振り返りながら、デジタルメディアがどのような特徴を持っているのかについて検討を加える。 【キーワード】 ライフイベント、ライフログ、生活時間、アクター、ストック、フロー、リニア、プッシュ型・プル型、ボット	高橋 秀明（放送大学准教授）	高橋 秀明（放送大学准教授） 青木 久美子（放送大学教授）
3	メディアのパーソナル化	第2回で個人とデジタルメディアの関係性について触れたが、第3回のテーマである「パーソナル化」は情報やメディアが一人ひとりの個人のためにカスタマイズされていることを指す。まず、パーソナル化とは何かを考え、そもそもパーソナリティ(人格)とは何か、さらにパーソナル化の諸側面について具体例を交えながら検討する。 【キーワード】 パーソナル化、レコメンデーション、メディア等式、パーソナル・ファブリケーション、自己メディア	高橋 秀明（放送大学准教授）	高橋 秀明（放送大学准教授） 青木 久美子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	コミュニティとしてのメディア	ソーシャルメディアと呼ばれるネット上のツールで、現在様々なコミュニティが形成されている。地理的要件に縛られないコミュニティで、多様なトピックについて情報共有・交換がなされている。こういったバーチャルなコミュニティにおいて集合知、又は集団的知性と呼ばれるものが存在するという説もある。第4回では、時間や地理的制約を受けずに存在するコミュニティについて考え、その可能性を探る。 【キーワード】 オンラインコミュニティ、集合知、情報共有、ソーシャルメディア	青木　久美子（放送大学教授）	青木　久美子（放送大学教授） 高橋　秀明（放送大学准教授）
5	モバイルメディア	携帯電話やスマートフォン、モバイル端末、タブレットPCなどモバイル機器は、現代の生活に欠かせないものとなってきている。コンピュータを使用しなくともインターネットに接続することで、いつでもどこでも情報収集・コミュニケーションが図れるモバイルメディアについて紹介する。 【キーワード】 携帯電話、ケータイ、スマートフォン、電子書籍、電子新聞、GPS	青木　久美子（放送大学教授）	青木　久美子（放送大学教授） 高橋　秀明（放送大学准教授）
6	電子商取引	今や、デジタルメディアは、家庭の中にも浸透しつつある。交通機関や小売店における電子マネー決済が普及している一方、ネット上で、簡単にモノやサービスを売買できるようにもなっている。また、銀行口座の残高確認や振り込みを行うネットバンキング、ネット上で金融取引等についても紹介する。 【キーワード】 電子マネー、ネットショッピング、電子商取引、電子決済、ネットバンキング	青木　久美子（放送大学教授）	青木　久美子（放送大学教授） 高橋　秀明（放送大学准教授）
7	ソーシャルメディアとビジネス	デジタルメディアは大企業はもちろんのこと、中小企業や個人がビジネスを行っていく上で大きな役割を担っている。また、デジタルメディアを活用することによって効率的・効果的にビジネスが行える、という側面もある。ソーシャルメディアをビジネスに活用したソーシャルコマースも一般化しつつある。第7回では、ソーシャルコマースを含むデジタルメディアのビジネスへの活用について考える。 【キーワード】 ソーシャルコマース、ソーシャルショッピング、エンゲージメント、ソーシャルグラフ、インタレストグラフ、キュレーション	青木　久美子（放送大学教授）	青木　久美子（放送大学教授） 高橋　秀明（放送大学准教授）
8	学習とデジタルメディア	Eラーニングといった言葉で代表されるように、デジタルメディアを介した学習も一般化してきている。学校や大学といった正式な場以外でも、様々な形で学習をすることが可能になってきている。また、デジタルメディアを活用するためのスキルも重要になってきている。第8回では、そういった学習・教育の可能性について論じる。 【キーワード】 CAI、オープンコースウェア、教育資源のオープン化、反転授業、デジタルリテラシー、デジタルシチズンシップ、21世紀スキル	青木　久美子（放送大学教授）	青木　久美子（放送大学教授） 高橋　秀明（放送大学准教授）
9	娯楽とデジタルメディア	娯楽とは、広く深い世界である。第9回では、まず日常生活における娯楽とは何かを考え、次に娯楽においてデジタルメディアがどのような形で利用されているかについて、事例を紹介しながら検討を加えていく。 【キーワード】 デジタル・アーカイブ、消費者生成メディアCGM、N次創作物	高橋　秀明（放送大学准教授）	高橋　秀明（放送大学准教授） 青木　久美子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	政治とデジタルメディア	政治とは、地域や近所の行事・会合への参加から、国政の政治まで、さまざまなレベルで考えることができる。デジタルメディアは、そのいずれのレベルの政治の在り方にも影響を及ぼしている。第10回では、このような政治におけるデジタルメディアの利活用について、事例を交えながら検討を加えていく。 【キーワード】 情報化政策、フラッシュモブ、電子政府、ネット選挙、電子投票、eデモクラシー	高橋　秀明（放送大学准教授）	高橋　秀明（放送大学准教授） 青木　久美子（放送大学教授）
11	健康とデジタルメディア	第11回では、日常生活において必要不可欠な健康に関する行動のうち、食事、医療・育児・介護などとデジタルメディアとの関連について、具体例も交えつつ検討する。 【キーワード】 ヘルス・リテラシー、電子カルテ、遠隔医療、エデュテイメント、介護ロボット	高橋　秀明（放送大学准教授）	高橋　秀明（放送大学准教授） 青木　久美子（放送大学教授）
12	危機とデジタルメディア	第12回では、まず危機とは何でありどのように捉えることができるのかを規定する。次に危機を知り、危機に備えるためにデジタルメディアをどのように利活用できるのかを検討する。危機の発生時、つまり緊急時にどのようにデジタルメディアが利活用されたかを、2011年3月11日の東日本大震災を事例に紹介する。 【キーワード】 経済危機、環境危機、国際危機、防災、3・11情報学、震災ビッグデータ	高橋　秀明（放送大学准教授）	高橋　秀明（放送大学准教授） 青木　久美子（放送大学教授）
13	デジタルメディアと安全・安心、危険性	本科目は日常生活が普通に営まれていることを前提としている。では、安全・安心に普通の日常生活を営むこととデジタルメディアとの関係にはどのようなものがあるのだろうか。また、その逆にデジタルメディアの利活用に関連した危険性にはどのようなものがあるのだろうか。第13回では、これらについて具体例をあげながら検討してみたい。 【キーワード】 安心・安全、情報セキュリティ、防犯、メディアの危険性、メディアの効果	高橋　秀明（放送大学准教授）	高橋　秀明（放送大学准教授） 青木　久美子（放送大学教授）
14	デジタルメディアの標準化	デジタルメディアの標準化には利点と欠点がある。第14回では、この利点と欠点を考察し、また、デジタルメディアの国際標準化動向について説明する。 【キーワード】 標準化、ネットワーク外部性、ネットワーク効果、クリティカル・マス、デファクト標準、デジュール標準、オープンスタンダード	青木　久美子（放送大学教授）	青木　久美子（放送大学教授） 高橋　秀明（放送大学准教授）
15	デジタルメディアと社会文化	これまで14回にわたって、デジタルメディアが我々の日常生活や社会にどのような影響を与えているのかを紹介、説明してきた。第15回では、本科目のまとめとして、デジタルメディアが従来の産業構造にどのような影響を与えているのか、また日常生活にどのような変化をもたらしているのかを論じる。 【キーワード】 メディアコンバージェンス、放送と通信の融合、ネットワーク社会、ブラックボックス化、メディア・コングロマリット、クロスメディア	青木　久美子（放送大学教授）	青木　久美子（放送大学教授） 高橋　秀明（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234196	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 情報社会の法と倫理 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Law and Ethics in the Information Society (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：尾崎　史郎　（放送大学客員教授）　〕

〔主任講師（現職名）：児玉　晴男　（放送大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

インターネットの普及した今日の情報社会においては、画像、音声等の様々なコンテンツをはじめとする大量の情報を誰でも容易に発信できるようになっている。大量の情報発信が一部の専門家にゆだねられていた時代にはそれなりの秩序が保たれていたが、誰でも大量の情報発信が可能な時代を迎え、不適切な情報発信も数多く見受けられるようになっている。この講義では、コンテンツと密接に関係する著作権をはじめとする知的財産権や個人情報の保護等について学び、情報社会の一員として持つべき法と倫理についての基本的な理解と認識を身につける。

授業の目標

誰でも容易に大量の情報が発信できる情報社会において、それぞれの立場の者がどのような権利を有しているのかについて理解し、自己の権利を適切に守るとともに、適切な情報発信と情報活用ができるようにするための基本的な知識を身につける。

履修上の留意点

情報社会と情報技術（情報通信技術）との関わりからは、さらに「情報のセキュリティと倫理(’14)」「進化する情報社会(’15)」を履修することが好ましい。この科目は、人文・社会科学系の履修者も対象としています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	情報社会の法のしくみ	情報通信技術の発達・普及は、各種の情報に接する機会を増加させている。それら情報を合理的に利活用するうえで、各種の情報がどのように保護されているかを知っておく必要がある。本講は、情報の創造・保護・活用に関する著作権法と知的財産法および情報法に関する基本的な知識とそれらに関連する情報倫理について概観する。 【キーワード】 高度情報通信ネットワーク社会、著作権法、産業財産権法、不正競争防止法、情報公開法・個人情報保護法、不正アクセス禁止法、プロバイダ責任制限法、情報倫理	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授）
2	情報倫理	コンピュータ、インターネット、モバイル通信に関する規範と価値に関する考え方の変遷を中心にして、2010年代における情報技術の活用がもたらすライフスタイルとそれを律する価値と規範の特徴について概観する。 【キーワード】 新技術受容の4段階説、政策と概念の真空地帯、専門家の倫理、万人の情報倫理、著作権、プライバシー	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）
3	コンテンツの保護1（保護対象）	デジタル化、ネットワーク化の進展に伴い、様々なコンテンツが多様な形態で流通しているが、その多くは著作権法により保護を受ける著作物と考えられる。そのため、どのようなものが著作物で、誰がその著作物の権利主体である著作者となるかについて解説する。 【キーワード】 著作物、著作物の種類、編集著作物、二次的著作物、著作者、法人著作	尾崎　史郎（放送大学客員教授）	尾崎　史郎（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	コンテンツの保護2（創作者の権利）	コンテンツ（著作物）の創作者である著作者は、自ら創作した著作物について、著作者の人格的利益を保護するための著作者人格権と経済的利益を保護するための著作権を有している。なかでも著作権についてはコピーする権利、放送やインターネットで送信する権利等利用態様に応じ様々な権利が定められている。そのため、著作者の有する権利とその保護期間について解説する。 【キーワード】 著作者人格権、著作権、無方式主義、複製権、公衆送信権、保護期間	尾崎　史郎（放送大学客員教授）	尾崎　史郎（放送大学客員教授）
5	コンテンツの伝達者の保護	著作権法では、コンテンツ（著作物）の伝達に重要な役割を果たす実演家、レコード製作者、放送事業者等にも、著作者に準じた権利が与えられている。実演家等の権利について、著作者の権利と比較しつつ解説する。 【キーワード】 実演、実演家、レコード、レコード製作者、放送、放送事業者、実演家人格権、著作隣接権	尾崎　史郎（放送大学客員教授）	尾崎　史郎（放送大学客員教授）
6	コンテンツ利用の許容範囲	著作物等を利用する場合は権利者の許諾を得るのが原則だが、著作権法では、一定の条件を満たす場合は、権利者の許諾なしに著作物等を利用することを認める規定が設けられている。そのため、どのような場合に権利者の許諾なしに著作物等を利用できるか解説する。 【キーワード】 著作権等の制限規定、私的使用のための複製、送信の障害の防止等のための複製、図書館等における複製、引用、教育機関における複製、営利を目的としない上演等	尾崎　史郎（放送大学客員教授）	尾崎　史郎（放送大学客員教授）
7	コンテンツの利用と管理	コンテンツ（著作物等）を利用する場合は、原則として権利者の許諾が必要となる。しかし、著作者等によっては、自由に利用することを認め、その旨を明示してコンテンツを公開する場合がある。また、著作物等は多様に利用されることから、個人で適切に管理することが困難な場合があるため、多数の権利者から権利を預かり管理する著作権等管理事業が発達している。そのため、コンテンツの利用と管理の観点から、利用する際の基本的な考え方、利用を容認するためのライセンス、著作権等管理事業について解説する。 【キーワード】 利用許諾、譲渡、裁定、GPL、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス、著作権等管理事業	尾崎　史郎（放送大学客員教授）	尾崎　史郎（放送大学客員教授）
8	肖像とパブリシティの保護	人はみだりに自己の容ぼう等を撮影・公表されない権利や、肖像や氏名のもつ顧客吸引力を利用する権利を有している。これらの権利は、法令上明記はされていないが判例上認められており、肖像権やパブリシティ権と呼ばれている。そのため、これまでの判例を中心に、これらの権利について解説する。 【キーワード】 肖像権、パブリシティ権	尾崎　史郎（放送大学客員教授）	尾崎　史郎（放送大学客員教授）
9	ソフトウェアの保護	ソフトウェアは、コンピュータ・プログラムの著作物として著作権法で保護される対象である。そのソフトウェアは、物の発明として特許法で保護される対象でもある。また、ソフトウェア特許としてビジネスモデル特許やシステム特許などがある。本講は、ソフトウェアの保護の変遷の経緯から、ソフトウェアが発明でどのように保護されているかについて概観する。 【キーワード】 発明、ネットワーク型特許、システム特許、ビジネスモデル特許、エコ・パテントコモンズ、特許法	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	デザインの保護	パソコンや携帯端末は、著作物や発明で保護されるソフトウェアを内蔵するハードウェアである。そして、発明として保護ざれるハードウェアの形態は、デザインとして意匠法で保護される対象になる。また、操作画面のデザインも意匠法の保護対象になる。本講は、情報端末自体とその操作画面、そしてそれらを形成する要素がデザインとしてどのように保護されるかを概観する。 【キーワード】 デザイン、審美性・機能性、意匠法、タイプフェイス、マスク面、半導体集積回路配置法	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授）
11	トレードマーク（サービスマーク）の保護	著作物や発明として保護されるソフトウェアまたは発明やデザインとして保護される情報関連機器は、現実の世界でも情報の世界でも、商品またはサービスとして商標（標章）が付されて流通している。その商標（標章）と商品またはサービスが一体となった形態は、商標法で保護される対象である。本講は、トレードマーク（サービスマーク）が登録商標としてどのように保護されているかを概観する。 【キーワード】 トレードマーク、サービスマーク、商品、役務（サービス）、登録商標、商標法	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授）
12	営業秘密の保護	営業秘密その他の事業活動に有用な技術上または営業上の情報は、著作権法と産業財産権法とは別な不正競争防止法で保護される。知的財産法の中で、営業秘密は公表・公開を前提としない保護の形態であり、また著作権法と産業財産権法で保護しえない対象も不正競争防止法の保護対象になる。本講は、営業秘密の保護と技術的保護（制限）手段など不正競争防止法に関する事項および独占禁止法との関わりについて考える。 【キーワード】 営業秘密、トレード・シークレット、ソースコード、オープンソース、技術的保護（制限）手段、不正競争防止法、独占	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授）
13	プロバイダの責任とセキュリティの保護	インターネットの普及に伴い、匿名性を利用した違法情報の発信や他人のID・パスワード等を悪用した不正なアクセスも増加している。そのため、プロバイダによる情報の削除や発信者情報の開示、不正アクセス行為の禁止について規定した法令が制定されている。これらは、今日のインターネット社会を象徴する法令であるため、その内容を概説する。 【キーワード】 プロバイダ責任制限法、不正アクセス禁止法	尾崎　史郎（放送大学客員教授）	尾崎　史郎（放送大学客員教授）
14	プライバシーの保護	高度情報通信社会における、個人情報とプライバシーの保護はどうあるべきか。民間部門を対象にする個人情報保護法、公的部門を対象にする行政機関個人情報保護法、住民基本台帳法に基づく住民基本台帳ネットワークシステム、さらに政府が検討中の「社会保障と税の共通番号制」などの内容について説明しながら、個人情報保護の過剰反応、プライバシーの権利の再構成についても、検討する。 【キーワード】 プライバシー、高度情報通信社会、個人情報、本人情報を知る権利、住基ネット、共通番号制、個人情報保護の過剰	三宅　弘（獨協大学法科大学院特任教授）	三宅　弘（獨協大学法科大学院特任教授）
15	情報社会の法と倫理を考える	情報通信技術が描く社会では、今日の法律の理解とは異なる見解が示されていた。倫理についても、情報ネットワークとネット環境において言語表記の一元化がすすむ一方で、文化的な多様性の保持が求められる。たとえば情報教育においては、著作権と情報倫理が主要なテーマになっている。本講は、情報教育における著作権と情報倫理との関わりから情報社会の法と倫理を考える。 【キーワード】 情報の所有、情報の共有、倫理、リテラシー、オラリティ	児玉　晴男（放送大学教授）	尾崎　史郎（放送大学客員教授） 児玉　晴男（放送大学教授） 土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授） 三宅　弘（獨協大学法科大学院特任教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234188	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 情報ネットワーク （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Information Network (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：芝﨑　順司　（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

情報通信技術の進展によってコンピュータのネットワーク化が進み、携帯電話の普及やインターネット利用の高まりにより社会的にも情報文化の面でも大きなインパクトを与えつつある。ここでは、情報通信ネットワークの基本技術について学習すると共に、情報通信システム、特に、インターネットに関連するサービスの概要について学習する。

授業の目標

1. ネットワークの基本技術を理解できること。
2. インターネットの仕組みを理解できること。
3. ネットワークを利用した情報サービスについて理解できること。

履修上の留意点

この科目の通信指導はWebのみでの提出となります。郵送では受け付けませんので、ご注意ください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	私たちの暮らしと情報ネットワーク	初めに情報ネットワークの概念や利点を明らかにする。その上で、情報ネットワークを利用したサービスの概要を紹介しする。また、本書で学習する範囲と構成を示す。 【キーワード】 ネットワーク、ノード、リンク、リソース、インターネット、クラウドコンピューティング、eラーニング	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
2	ディジタル信号の伝送	コンピュータで扱われるデータの特徴として、2進数について理解する。またや記憶容量や伝送速度に利用されるデータ量の単位について理解する。 【キーワード】 2進数、16進数、ディジタル化、ビット、バイト、bps	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
3	身近なネットワーク	身近なネットワークとして家庭内LANをきっかけに、LANやインターネットの基礎を学ぶ。 【キーワード】 NIC、LANケーブル、ハブ、ブロードバンドルータ、LAN、WANインターネットISP	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	通信プロトコルとOSI参照モデル	通信プロトコルについて理解するとともに、データ通信の階層モデルとしてOSI参照モデルについて理解する。 【キーワード】 通信プロトコル、アーキテクチャ、レイヤー、OSI参照モデル	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
5	TCP/IPモデルとパケット交換方式	インターネットの標準的アーキテクチャであるTCP/IPモデルについて理解する。その上でTCP/IPで採用されているパケット交換方式とカプセル化の概要を理解する。 【キーワード】 TCP/IP、回線交換方式、パケット交換方式	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
6	イーサネットとハブ	ネットワークインターフェース層の規格であるイーサネットと伝送媒体であるケーブルの規格およびLANケーブルの集線装置であるハブの機能について理解する。 【キーワード】 イーサネット、ツイストペアケーブル、ハブ、リピータ	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
7	MACアドレスとスイッチ	MACアドレスとそれを利用した通信について理解する。その上でスイッチの果たす機能を理解する。 【キーワード】 MACアドレス、フレーム、スイッチ、MACアドレステーブル	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
8	IPアドレスとサブネットマスク インターネット層（1）	インターネット層のプロトコルであるIPとIPアドレスについて理解する。その上で、サブネットマスクについて理解する。 【キーワード】 IPヘッダ、IPアドレス、サブネットマスク	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
9	ARPとルーティング インターネット層（2）	異なるネットワーク間の中継器であるルータとルータの機能であるルーティングとIPアドレスからMACドレスを参照するARP、エラー情報を発信元に報告するICMPなどのIP以外のインターネット層のプロトコルについて理解する。 【キーワード】 ルータ、ルーティング、ARP、ICMP	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
10	ポート番号とTCP ートランスポート層－	ポート番号およびトランスポート層のプロトコルであるTCP、UDPのそれぞれの特徴について理解する。その上で、TCPによる通信が行われる手続きについて理解する。 【キーワード】 ポート番号、コネクション型通信、コネクションレス型通信、TCP、UDP	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ドメイン名とIPアドレス アプリケーション層	アプリケーション層の役割について理解する。その上で、アプリケーション層のプロトコルのうち、DNSとDHCPのそれぞれの特徴と名前解決やIPアドレスの配布の手順を理解する。 【キーワード】 DNS、ドメイン名、名前解決、ドメイン空間、ゾーン、DHCP、IPアドレス	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
12	WWWサービス	WWW、ハイパーテキスト、HTTPなどの基礎的な学習をし、Webブラウザに Webページが表示される仕組みを理解する。 【キーワード】 WWW、ハイパーテキスト、HTTP、Cookie、プロキシ	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
13	ネットワークと情報サービス	情報ネットワークを利用したサービスには様々なものがあるが、ここでは、ネットワークを利用した情報サービスとしてよく利用されている、電子メールのサービスの概要や、送受信の仕組み、電子メールで利用されている文字コードなどについて学習する。 【キーワード】 メールアドレス、SMTP、POP3、IMAP4、ASCIIコード、MIME	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
14	インターネットへの様々な接続方法	インターネットへの様々な接続方法として、ADSL、FTTH、CATV、アナログ電話回線、ISDNについて学習する。またLTEやWiMAXなどのモバイルネットワークや無線LANの規格について学習する。 【キーワード】 ADSL、FTTH、CATV、アナログ電話回線、ISDN、LTE、WiMAX	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
15	情報ネットワークのセキュリティ	情報セキュリティの重要性、ネットワークに潜むリスクについて理解する。その上で、様々なセキュリティの方法について学習する。 【キーワード】 盗聴、不正アクセス、詐欺、コンピュータウイルス、暗号化、電子署名、認証局、セキュリティプロトコル、ファイヤーウォール	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570048	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　データ構造とプログラミング　　（’１３）＝　　(TV)

〔主任講師（現職名）：鈴木　一史　（放送大学准教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

計算機科学において重要な“データ構造”と“プログラミング”について学習する。基本的なデータ構造の例として、配列、スタック、キュー、連結リスト、ツリー、バイナリサーチツリー、平衡木、ハッシュテーブル、ヒープ、グラフ等について解説する。また、これらのデータ構造を利用したデータの基礎的な操作（探索、挿入、削除、整列）等について学習し、各データ構造の特性や計算量の関係を知ることによって、ソフトウェアの設計やプログラミングに応用できるようにする。

授業の目標

・データ構造の基礎および応用について学ぶ。
・ソフトウェア設計のために必要なデータ構造を選択できるようにする。
・プログラミング言語における効果的なデータ構造利用法について学習する。
・コンピュータに関する基礎概念や知識をもとに、様々な現象の本質を見極め、その知識を活用し問題解決ができるようにする。

履修上の留意点

計算機科学や情報工学の入門的科目を履修していることが望ましいが必須ではない。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	コンピュータプログラム	ハードウェア、ソフトウェア、プログラム、アルゴリズム、データ構造について学習する。プログラミング言語のデータ型について学ぶ。プログラミング言語における、入力・出力、条件、繰り返し、関数などの文法の仕組みを理解する。 【キーワード】 コンピュータサイエンス、ソフトウェア、プログラミング言語、コンパイラ、プログラム、アルゴリズム、データ構造	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
2	配列	基本的な配列の仕組みと構造について学習する。また、多次元の配列や構造体を要素にもつ応用的な配列構造について理解する。さらに、配列へのデータの挿入、削除、探索などの基本的な操作や、これらの操作に必要な計算量などについて学ぶ。 【キーワード】 配列、多次元配列、挿入、削除、探索、計算量、線形探索、二分探索、ビッグ・オー記法	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
3	スタックとキュー	基本的なデータ構造であるスタックとキューの仕組みについて学習する。また、スタックとキューに必要な操作や特徴、そして、スタックとキューがどのように使われるのか応用例について学ぶ。 【キーワード】 スタック、ポップ、プッシュ、ピーク、キュー、デキュー、エンキュー、挿入、削除、優先度付きキュー、双方向キュー	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	連結リスト	連結リストへのデータの探索、挿入、削除等の基本的な操作について学ぶ。また、連結リストと配列との操作効率の違いや、連結リストを拡張した環状リストや双方向連結リストの仕組みについて学習する。 【キーワード】 連結リスト、探索、挿入、削除、分割、マージ、環状リスト、双方向連結リスト	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
5	ツリー	ツリー構造とツリーに関する用語ににについて学ぶ。特に基本的なデータ構造であるバイナリツリーとバイナリサーチツリーの特徴や性質について学習する。 【キーワード】 ツリー、ノード、エッジ、バイナリツリー、バイナリサーチツリー、ツリーの走査、最小値、最大値	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
6	バイナリサーチツリー	バイナリサーチツリーに対する基本的な操作、探索、挿入、削除について学ぶ。また、バイナリサーチツリーの特徴、バイナリサーチツリーの操作に関する計算量について学習する。 【キーワード】 バイナリサーチツリー、探索、挿入、削除、順序内後継者、順序内前任者、計算量、平均計算量、最悪の計算量	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
7	ツリーの応用	マルチウェイツリー（多分木）の特徴について学ぶ。例として、クアッドツリー（四分木）やオクトツリー（八分木）の構造を理解する。また、平衡木（バランストツリー）の仕組みと性質について学習する。 【キーワード】 マルチウェイツリー、多分木、クアッドツリー、四分木、オクトツリー、八分木、平衡木、Bツリー	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
8	ハッシュテーブル	ハッシュ法はデータの数に関係なく定数計算量で、データの探索、挿入、削除を行うことができる最速の探索手法である。本章では、ハッシュテーブル、ハッシュ関数、ハッシュ値の衝突について学ぶ。また、連鎖法、オープンアドレス法の特徴について学習する。 【キーワード】 ハッシュ法、ハッシュ関数、ハッシュ値の衝突、連鎖法、オープンアドレス法、線形探査、平方探査、ダブルハッシング	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
9	再帰	再帰の仕組みと再帰プログラムについて学ぶ。再帰プログラムは自分自身を繰り返し呼び出し、そのたびに異なる引数を渡していくものである。末尾再帰、再帰とスタックの関係、末尾再帰プログラムと反復プログラムの関係について学習する。 【キーワード】 再帰、再帰呼び出し、末尾再帰、スタック、反復プログラム、フラクタル図形	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	基本的なソーティング	データをキーの値の大小関係に従って並べ替える操作であるソーティング（整列）について学習する。基本的な3つのソーティング、バブルソート、選択ソート、挿入ソートの特徴について学ぶ。 【キーワード】 バブルソート、選択ソート、挿入ソート、昇順・降順、安定なソート、計算量の比較	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
11	高度なソーティング	高度なソーティングの例として、クイックソート、マージソートの特徴について学ぶ。 【キーワード】 クイックソート、マージソート、計算量の比較	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
12	ヒープ	ヒープはツリーの一種であり、ノードの挿入と削除を高速に行うことができる。本章ではヒープの基本的な仕組みについて学ぶ。また、ヒープを応用した優先度つきキューとヒープソートについて学習する。 【キーワード】 ヒープ、ヒープ条件、挿入、削除、ヒープと配列、優先度付きキュー、ヒープソート	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
13	グラフ	グラフのデータ構造について学習する。グラフに関する用語と意味、そして、コンピュータにおけるグラフの表現方法、深さ優先探索（DFS）、幅優先探索（BFS）等のグラフの探索アルゴリズムについて学ぶ。 【キーワード】 頂点、エッジ、隣接リスト、隣接行列、深さ優先探索（DFS）、幅優先探索（BFS）	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
14	グラフの応用	最小全域木や有向無循環グラフについて学習する。そして、最小全域木を求めるプリム法の概要を理解する。最短経路問題を解くアルゴリズムには、どのようなものがあるか学習する。 【キーワード】 最小全域木、MST、有向無循環グラフ、DAG、プリム法、クラスカル法、最短経路問題、ダイクストラ法	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
15	データ構造の選択とプログラミング	基本的なデータ構造の仕組みと特徴を理解する。そして、与えられた問題に対し、適切なデータ構造を選択できるようにする。代表的なソーティング手法の長所と短所について理解する。グラフのアルゴリズムに関する計算量を比較する。 【キーワード】 プログラミング、データ構造、計算量、ソーティング、オブジェクト指向、ソフトウェアエンジニアリング、抽象データ、デバッグ、最適化	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570234	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ コンピュータの動作と管理 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Compter Operation and Management (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：葉田　善章　（放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

コンピュータはハードウエアとソフトウエアが組み合わさって初めて動作が実現される装置である。コンピュータの利用やソフトウエアの開発では、ハードウエアを管理し、アプリケーションソフトウエアの動作に必要となる機能を提供するオペレーティングシステム（OS、基本ソフトウエア）と呼ばれるソフトウエアが用いられることが一般的である。本科目では、パソコンや家電に組み込まれるマイコンなどを例にしながら、コンピュータの基本的な動作、オペレーティングシステムが持つ機能、コンピュータの利用について学ぶ。

授業の目標

コンピュータの基本的な演算のしくみや動作、コンピュータが持つ計算機資源の管理について学ぶことを通して、コンピュータのしくみについて理解を深めることを目標とする。

履修上の留意点

履修は必須ではないが、関連する科目は、「情報学へのとびら(’16)」「コンピュータのしくみ(’14)」「ソフトウェアのしくみ(’14)」である。
本科目は「コンピュータの動作と管理(’13)」を改訂した科目であり、重複する内容がある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	コンピュータの動作と管理	コンピュータはソフトウエアとハードウエアで構成されている。本章では、コンピュータを構成するソフトウエアとハードウエアの概要について説明するとともに、本科目の概要について述べる。 【キーワード】 ソフトウエア、ハードウエア、オペレーティングシステム、計算機資源	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
2	演算装置のしくみ	コンピュータを構成するハードウエアの違いを考えることを目的として、主要装置の一つである演算装置のしくみを直感的に考える。演算装置は論理回路により構成されており、性能向上のためにさまざまな工夫がなされている。コンピュータの性能を決めるプロセッサーの動作や構成について理解する。 【キーワード】 プロセッサー、クロック、ALU、命令、論理演算	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
3	演算装置による命令実行	プロセッサーはプログラムを構成する命令をどのように実行するのだろうか。コンピュータの演算装置で命令を実行するしくみについて学習する。プログラムを記述する言語、命令の構成や種類について概説し、プロセッサーの命令に対するアプローチの違いであるCISCとRISCについて紹介する。 【キーワード】 命令、機械語、命令実行、レジスター、実行サイクル、命令の種類	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	プロセッサーと周辺機器の通信	コンピュータは、接続された周辺機器の制御やデータの受け渡しを行うため、入出力インターフェースが備わっている。本章では、規模の小さなプロセッサーで採用されることが多い、レジスターを入出力ポートに使う方式に注目し、そのしくみについて考える。また、プロセッサーと周辺機器を接続し、データのやりとりを行うバスについて理解する。 【キーワード】 周辺機器、プロセッサー、入出力ポート、バス	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
5	効率的なプログラム実行	コンピュータの命令は、通常、アドレスの小さい順に実行される。一方で、キーボードやマウスなどの入力機器や、モニターやプリンターなどの出力装置への対応、データ転送の待ち受けなどの対応によって、プログラム実行の流れが変更されることがある。本章では、コンピュータに接続されたデバイスなどに対する処理を効率的に行うしくみである、割り込みについて説明する。 【キーワード】 割り込み、タイマー割り込み、スケジューリング	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
6	補助記憶装置とデータ記憶	コンピュータで作成したデータは、ハードディスクドライブやSSD、USBメモリーといった補助記憶装置に保存されることが一般的である。保存するデータは抽象化され、ファイルと呼ばれる形で取り扱われることにより、補助記憶装置に保存される。抽象化やファイルの取り扱い、補助記憶装置によるデータの記憶について学ぶ。 【キーワード】 抽象化、ファイル、フォルダー、補助記憶装置	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
7	OS構造と周辺機器	コンピュータの利用は、周辺機器の利用が必須である。OSは、周辺機器を利用するためにデバイスドライバーを組み込み、周辺機器を利用可能にする。デバイスドライバーの組み込みや、OSが周辺機器を利用するしくみを学ぶため、ソフトウエアの構造化やOSのアーキテクチャーを学ぶ。また、データ転送を高速化する方法について学ぶ。 【キーワード】 OSの構造、ソフトウエア構造化、周辺機器の利用、デバイスドライバー、データ転送の高速化	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
8	プログラム実行の管理	OSが提供するプログラムを実行するしくみについて考える。プロセスやスレッドと呼ばれる単位でプログラムを実行するしくみや、仮想プロセッサーをプロセスやスレッドに割り当て、マルチタスク処理と呼ばれる同時実行を行うしくみについて学ぶ。また、ハードウエアやOSによるプロセスやスレッドの管理について学ぶ。 【キーワード】 プロセス、スレッド、プログラム処理、スケジューリング	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
9	プロセスの協調動作とメモリー	OSが実行するプロセスやスレッドを協調して実行するしくみについて考える。プロセスが資源を利用する場合などに必要となる相互排除やセマフォ、デッドロック、プロセス間で実行状況のデータ交換で使われるプロセス間通信について学ぶ。また、プログラム実行で必要となるメモリー管理や仮想メモリーについて学ぶ。 【キーワード】 プロセスの協調、メモリー管理、仮想記憶	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	記憶装置とOS起動	コンピュータで使われる記憶装置である半導体メモリーや、リムーバブルメディアについて考える。メインメモリーに使われるRAMや、USBメモリーといったフラッシュメモリーの働きや、記憶装置の記録方式、利用について学ぶ。また、OSの起動や終了、コンピュータの省電力動作モードであるサスペンドやハイバネーションについて学ぶ。 【キーワード】 半導体メモリー、リムーバブルメディア、起動、省電力動作モード	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
11	OSの種類と基本動作	OSは、コンピュータで目的となる処理を実現するために利用される。コンピュータで利用されるOSや、プログラム実行を制御するスケジューリングについて学ぶ。また、パソコンのようにさまざまな用途に対応できる汎用OSや、機器の制御といった特定用途のために用いられる組み込みOSについても学ぶ。 【キーワード】 OSの種類、スケジューリング、汎用OS、組み込みOS、リアルタイム処理	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
12	OSとソフトウエア開発	ソフトウエア開発を効率的に進めるために、OSや特定の機能を持つプログラムはある機能を持った部品と捉えられる形にしておき、組み合わせながらソフトウエア開発が行われている。パソコンや組み込み機器の開発を例に、OSの利用や選択、プログラムからOSの機能を用いる方法について学ぶ。また、開発環境や、プログラムの互換性、環境に依存しないプログラム、サービスの変化に対応するしくみについても学ぶ。 【キーワード】 OSの利用や選択、プログラム開発、ソフトウエア再利用、プログラムの動作環境	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
13	ユーザーインターフェース	OSやハードウエアが提供するユーザーインターフェースについて学ぶ。コンピュータ利用形態の移り変わりや、本科目で学ぶインターフェースの分類、GUI の設計、キーボードやマウスといった入出力インターフェース、モバイル端末のインターフェース、ウエアラブルコンピューティング、IoTによるコンピュータの利用について概観する。 【キーワード】 コンピュータ利用の遷移、ユーザーインターフェース、GUI	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
14	OSとセキュリティー	コンピュータのOSは、複数のユーザーがそれぞれ専用の環境とともに利用できるようにするマルチユーザー機能を持つことが多い。OSが管理するファイルなどの資源を保護するアクセス制御について学ぶ。また、コンピュータを安心して利用するためのセキュリティーについて考えるとともに、暗号化について学ぶ。 【キーワード】 マルチユーザー、アクセス制御、セキュリティー、暗号化	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
15	コンピュータの利用形態とOS	本科目のまとめとして、ネットワークを利用したコンピュータの利用形態について概観する。近年のコンピュータの利用形態を支えるシステム開発をとりまく環境について学んだ後、ユビキタスコンピューティング、クラウドコンピューティングについて見る。その後、近年のコンピュータ利用で基盤技術となっている仮想化技術について学ぶ。最後に、これまでのコンピュータの利用形態を踏まえ、近年注目されるようになったモノのインターネット(IoT)の概要について学ぶ。 【キーワード】 システム開発、ユビキタスコンピューティング、クラウドコンピューティング、仮想化技術、モノのインターネット(IoT)	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570099	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ソフトウェアのしくみ （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 How Software Works (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：岡部　洋一　（放送大学長）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

ソフトウェアはどのような原理でハードウェアであるコンピュータを動かすのであろうか。そのしかけについて、説明する。C、Java といった高水準プログラム言語とコンピュータの動きの関係を中心に据え、マルチメディア、データベースなどとの関係を説明し、さらによく使われる応用ソフトウェアのしくみ、大規模ソフトウェアの開発法などについて解説する。

授業の目標

ソフトウェアと、それによって動かされるコンピュータの関係を理解する。
高水準プログラム言語の構造と直接コンピュータに結びついている機械語の関係を理解する。
応用ソフトウェアと大きな関わりをもっているマルチメディア、データベースなどとの関係を理解する。
さらに、代表的な応用ソフトウェアの動作原理を理解するとともに、大規模ソフトウェアの開発法を知る。

履修上の留意点

前後は問わないが「コンピュータのしくみ」を履修すると理解が深まる。また、プログラム言語を多用する講義との関連が深い。
※この科目の通信指導はWebのみでの提出となります。郵送では受け付けませんので、ご注意ください。
※テーマには放送教材のテーマを記載しています。印刷教材の該当章につきましては( )内をご参照ください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ソフトウェアとは（1、2章）	ソフトウェアとは何か、ハードウェアとの比較、ハードウェアとの関連の説明から始め、コンピュータというハードウェアに対するソフトウェアであるプログラムについて概説する。また、コンピュータの機能と概念を理解し、プログラムとどう関わりうるのかを学習する。 【キーワード】 ソフトウェア、ハードウェア、コンピュータ、プログラム、機械語、蓄積プログラム方式、高水準プログラム言語	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
2	プログラム（3、4章）	プログラムの概念を理解する。機械語と高水準プログラムとの関係を理解すると共に、コンパイラ、インタプリタの存在を知る。また、ジャンプ命令で実現される分岐、ループといった作業と、それを読みやすくするための工夫である構造化プログラミングについて述べる。 【キーワード】 機械語、アセンブラ言語、アセンブラ、高水準プログラム言語、コンパイラ、インタプリタ、応用ソフトウェア、構造化プログラミング	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
3	制御構造と構造化プログラミング（4章残り）	分岐、ループといった作業と、それを読みやすくするための工夫である構造化プログラミング、さらに構造化されたいくつかのプログラム構造である制御構造について述べる。 【キーワード】 制御構造、構造化プログラミング、ジャンプ命令、ジャンプ、分岐、ループ、goto文	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	サブルーチン（5章）	ジャンプ命令で実現される制御構造と並ぶもう一つの重要な概念がサブルーチンである。ある程度まとまった仕事、特に同じような仕事を繰り返すような場合、その仕事を主な流れから括り出してブロック化したものであり、将来、オブジェクト指向言語などにつながっていく重要な概念である。 【キーワード】 サブルーチン、関数、引数、戻り値、アドレス演算子、ポインタ、主プログラム	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
5	アルゴリズム（5章残り、6章）	再帰呼び出し可能なリエントラントサブルーチンについて述べる。続いて、プログラミング作成の基礎的な流れであるアルゴリズムについて解説する。実際にプログラミングする際には、計算速度、記憶の占有量、読み易さなど、いろいろなことを意識して作成する必要があることを示す。 【キーワード】 再帰呼び出し、アルゴリズム、計算速度、ステップ数、メモリー、構造化プログラミング	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
6	高水準プログラム言語（7章）	高水準プログラム言語にもいろいろな種類がある。どのような種類の言語があるか、また、それを実行するしかけについて説明する。 【キーワード】 高水準プログラム言語、宣言型プログラム言語、関数型プログラム言語、論理型プログラム言語、コンパイラ、インタプリタ、ライブラリー、ロード、実行プログラム	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
7	オブジェクト指向プログラム言語①（8章）	プログラムを擬人化して、相互に分担する仕事を分類し、互いに仕事を頼み合うという形で作成するオブジェクト指向言語についてその概念を説明する。 【キーワード】 オブジェクト指向言語、OOP、オブジェクト、メソッド、メッセージ、インスタンス	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
8	オブジェクト指向プログラム言語②（8章残り）	オブジェクト指向言語についてその実例を示す。 【キーワード】 is-a関係、has-a関係、継承、カプセル化、多態性、インスタンス生成、メッセージの実行	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
9	マルチメディア（9章）	音声、静止画、動画といったマルチメディアの情報をどう扱うかを解説する。また、印刷機とのやりとり、電子ブックなどのしくみについても説明する。 【キーワード】 データ圧縮、音声、画像、静止画、動画、印刷、電子ブック	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	オペレーティングシステム（10章）	現在のコンピュータでは、複数のプログラムが置いてあり、また、それを同時に動かすことも可能である。また、仕様の異なる入出力装置と接続することも可能である。こうした仕事を行っているオペレーティングシステムについて解説する。 【キーワード】 オペレーティングシステム、OS、ドライバ、メモリー割付	岡部 洋一（放送大学長）	岡部 洋一（放送大学長）
11	リスト構造とデータベース①（11章）	ある程度多くのデータを処理するとき、これらのデータを探しやすくし、かつ効率よく記憶しておく工夫が必要である。こうした場合に威力を発揮するのが、リスト構造である。 【キーワード】 配列、ハッシュ関数、スタック、キュー、線形リスト	岡部 洋一（放送大学長）	岡部 洋一（放送大学長）
12	リスト構造とデータベース②（11章残り）	適切に管理されたデータの集合はデータベースと呼ばれる。これらについてリスト構造と関連して解説する。 【キーワード】 ツリー構造、データベース	岡部 洋一（放送大学長）	岡部 洋一（放送大学長）
13	応用ソフトウェア（12章）	ソフトウェアの一例として、ワープロのようなテキストを扱うプログラム、表計算ソフトウェア、プレゼン表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェアなどの動作原理、プログラミングを概観する。 【キーワード】 応用プログラミング、テキストエディタ、ワードプロセッサー、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア	岡部 洋一（放送大学長）	岡部 洋一（放送大学長）
14	Web（13章）	世界中に存在するデータへのアクセスを容易にした Web のしくみについて概観する。また、近年、多くのプログラムが Web 上で実施できるようになったが、そのしくみについても解説する。 【キーワード】 Web、ハイパーリンク、HTML、Web アプリケーション、XML	岡部 洋一（放送大学長）	岡部 洋一（放送大学長）
15	ソフトウェア工学（14章）	巨大なソフトウェアの開発に当たっては、一人で書くソフトウェアとは異なる智慧が必要である。どのように連携をとるかなどについて解説する。 【キーワード】 ソフトウェア工学、構造化分析、設計、テスト、バグ、プロジェクトマネージメント	岡部 洋一（放送大学長）	岡部 洋一（放送大学長）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570161	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　アルゴリズムとプログラミング　（’１６）＝　(R)

英文名　＝　〔 Algorithms and Programming (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：鈴木　一史　（放送大学准教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

計算機科学における基礎的なアルゴリズムやプログラミングについて学習する。データ型、変数、条件文、分岐、繰り返し、関数、配列、構造体、ファイル、メモリ等の基本的な知識について学ぶ。データの探索やソーティングなどを例として、アルゴリズムの効率や計算量について考える。また、リスト構造を用いたスタックやキューといったデータ構造の実装について学習する。なお、プログラミングの学習にはC言語の例を用いる。

授業の目標

初歩的なプログラミング技術について学習する(C言語を利用)。
情報科学・計算機科学におけるソフトウェア作成の手続きを学習する。
基本的なアルゴリズム、データ構造、計算量などについて学習する。

履修上の留意点

※オペレーティングシステムやコンパイラのインストールができるコンピュータ知識や初歩的なC言語のプログラミング経験があることが望ましい。印刷教材の一部の応用的な演習課題解答例(C言語のコード等)は、Web補助教材に掲載するのでWebを閲覧できる環境があることが望ましい。
※「情報」に関連した基盤科目や導入科目、プログラミングを扱った面接授業等を先に受講することを勧める。
※関連科目としては、「データ構造とプログラミング('13)」(専門科目)等がある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	プログラミング	アルゴリズムやプログラミングについて学習する。コンパイラによるソースコードから実行可能なターゲットプログラムへの変換の大まかな流れについて学習する。C言語を例として、簡単なデータの入力、データの出力、変数、式、コメント記述等の基礎的なプログラミングについて学ぶ。 【キーワード】 アルゴリズム、プログラミング言語、コンパイラ、インタプリタ、入力、出力、変数、式、コメント記述	鈴木　一史(放送大学准教授)	鈴木　一史(放送大学准教授)
2	条件分岐	条件分岐について学習する。条件分岐文では、設定した条件にしたがって実行するコードを変更することができる。C言語によるif文、if-else文、条件分岐に使われる比較演算子、switch文、条件演算子、goto文について学習する。 【キーワード】 条件分岐、if文、if-else文、比較演算子、switch文、条件演算子、goto文	鈴木　一史(放送大学准教授)	鈴木　一史(放送大学准教授)
3	ループの仕組み	コンピュータは大量の繰り返しの計算を高速かつ正確にこなすことができる。プログラミングにおいて、何らかの命令を繰り返し実行する処理は非常に重要である。ループ(loop)はこのような計算を実行するために使われる。ループとは、ある条件が満たされるまで、繰り返し実行される一連の命令のことである。 【キーワード】 繰り返し、ループ、入れ子型ループ、無限ループ、for文、while文、do-while文、for文とwhile文の変換	鈴木　一史(放送大学准教授)	鈴木　一史(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ループの応用	ループを応用したプログラムの例として、モンテカルロ法による円周率πの計算シミュレーションについて学習する。また、アルゴリズムの動作に必要な資源の量を評価する計算量について考える。アルゴリズムの速度を比較するための方法として、ビッグ・オー記法について学習する。 【キーワード】 モンテカルロ法、円周率、計算量、時間計算量、空間計算量、ビッグ・オー記法、関数の増加率	鈴木　一史 (放送大学准教授)	鈴木　一史 (放送大学准教授)
5	関数	頻繁に使うコードは関数として1つのコードにまとめると繰り返し利用することが可能になり便利である。関数の“引数”と“戻り値”について学習し、“値渡し”と“参照渡し”の違いについて考える。さらに、関数などが自分自身を呼び出し実行する“再帰呼び出し”の概念について学ぶ。 【キーワード】 関数、スコープ、引数、戻り値、値渡し、参照渡し、再帰、終了条件	鈴木　一史 (放送大学准教授)	鈴木　一史 (放送大学准教授)
6	配列の仕組み	配列の仕組みについて学習する。配列の宣言、初期化、配列要素の読み出しや書き込みについて学ぶ。また、多次元配列の仕組みや多次元配列の応用的な使い方について学ぶ。さらにC言語における配列を利用した文字列の表現や文字列に関連する関数等の使い方を学習する。 【キーワード】 配列、添字、多次元配列、文字列、ヌル文字、構造体の配列、構造体のポインタ配列	鈴木　一史 (放送大学准教授)	鈴木　一史 (放送大学准教授)
7	配列の操作	配列に対する操作として、挿入、削除、探索などの基本的な操作を学習する。線形探索と順序配列を利用した二分探索の仕組みを学習し、それぞれ探索の特徴について学ぶ。また、C言語による線形探索と二分探索のプログラム実装について考える。 【キーワード】 配列、挿入、削除、探索、配列と関数、線形探索、順序配列、二分探索、計算量	鈴木　一史 (放送大学准教授)	鈴木　一史 (放送大学准教授)
8	配列の応用	配列を使った応用的なコード例を学習する。スタックとキューという基本的なデータ構造と操作について学習する。そして、C言語による配列を利用したスタックとキューの実装例について学ぶ。配列と関数を利用したコードの応用例として、コンウェイのライフゲームについて考える。 【キーワード】 配列、スタック、プッシュ、ポップ、キュー、エンキュー、デキュー、ライフゲーム	鈴木　一史 (放送大学准教授)	鈴木　一史 (放送大学准教授)
9	ファイル	ファイルの読み込みや書き込みに関するコードについて学習する。ファイル内のデータ値を読み込んで計算を行うコードについて考える。簡単な画像データのファイル形式や仕組みについて学習する。画像ファイルのデータをメモリへ読み込んで、メモリ上でデータの処理を行った後に、処理したデータを画像ファイルへ書き出すコードについて学ぶ。 【キーワード】 ファイル、画像ファイル、画像フィルタリング、輪郭抽出、ラプラシアンフィルタ、ソーベルフィルタ	鈴木　一史 (放送大学准教授)	鈴木　一史 (放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	ソーティング	バブルソート、選択ソート、挿入ソートなどの基本的なソーティングのアルゴリズムについて学び、これらのアルゴリズムのC言語によるコード例について学習する。また、これらのソーティングアルゴリズムの計算量や特徴について考える。 【キーワード】 整列、昇順、降順、バブルソート、選択ソート、挿入ソート、qsort関数、計算量	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
11	高速なソーティング	値の大小比較による高速なソーティング例として、クイックソートについて学習する。クイックソートは分割統治アルゴリズムであり、再帰プログラムで実現することができる。本章では、C言語によるクイックソートの実装について学ぶ。また、値の大小の比較によらないソーティングの例として、基数ソートについて学習する。 【キーワード】 クイックソート、分割統治、再帰、スタック、ビンソート、基数ソート	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
12	メモリ	メモリはコンピュータプログラムにとって主要な資源の一つである。プログラムを作成するにあたって、メモリがプログラムでどのように利用できるか知っておくことは重要である。本章では、一般的なコンピュータにおけるプログラムのメモリレイアウトについて学習する。また、C言語における要素数の大きな配列の利用方法などについて考える。 【キーワード】 メモリ、プログラム内蔵式計算機、メモリレイアウト、セグメント、ガベージコレクション、スタックメモリ領域、ヒープメモリ領域	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
13	連結リスト	連結リストは基本的なデータ構造の一つである。本章では、連結リストのデータの挿入と削除といった主要な操作について学ぶ。また、データの探索、表示等の操作についても学習し、C言語による連結リストの実装について考える。そして、連結リストと配列を比較してその利点や問題点について考える。また、連結リストの操作に関する計算量について学習する。 【キーワード】 リスト、連結リスト、ノード、挿入、削除、探索、表示、計算量	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
14	連結リストの応用	連結リストを用いたスタックとキューのデータ構造の実装例について学習する。また、連結リスト（片方向連結リスト）の構造を拡張した、双方向連結リスト、環状連結リスト、環状双方向連結リスト等について学ぶ。そして、これらのリスト構造における利点や欠点、連結リストへのデータの挿入や削除の計算量について考える。 【キーワード】 連結リスト、スタックの実装、キューの実装、双方向連結リスト、環状連結リスト、双方向環状連結リスト、番兵、優先度付きキュー	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
15	アルゴリズム「ハフマン符号化法」	ソーティング等のアルゴリズムや基本的なデータ構造は、より複雑なアルゴリズムの中で利用されることがある。本章では、ハフマン符号化法の事例について学習する。ハフマン符号の実装には、ソーティングアルゴリズムや優先度付きキューなどのデータ構造が使われることが多い。本章では、ハフマン符号化のアルゴリズムを学習するとともに、接頭符号、ハフマンツリー、カノニカル・ハフマン符号の例についても学ぶ。 【キーワード】 符号化、ハフマン符号化法、カノニカル・ハフマン符号、接頭符号、ハフマンツリー	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	5570018	履修制限	無	単位数	1

科目名（メディア） ＝ Javaプログラミングの基礎 （’１６）＝ （OL）

英文名 ＝ 〔 Introduction to Java Programming (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：柳沼　良知　（放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

Java言語を題材にプログラミングの基礎を学びます。変数・型・演算などの概念や、制御構造・クラスなどについて解説します。この授業では、プログラミングを正確に網羅的に学ぶというよりも、プログラミングを実際に体験してみることを第一の目標とします。

授業の到達目標

プログラミングの基礎的な考え方を学ぶとともに、最終的には、簡単なプログラムを自分で書けるようになることを目指します。

成績評価の方法

通信指導、単位認定試験および再試験は行いません。
成績評価は、小テスト(30%)、中間レポート(30%)、最終レポート(40%)の評価により行います。

履修上の留意点

コンピュータを使って実習を行いますので、ファイル操作など基本的なパソコンのスキルが必要です。また、Javaの開発環境を自分で用意できることが履修の条件になります。(学習センターのPCは利用できません。)Javaの開発環境の構築方法については、オンライン授業体験版(http://online-open.ouj.ac.jp)の「Javaプログラミングの基礎」のページを参照してください。
※本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
1	Javaプログラムの実行	第1回から第4回では、テストの点数を入力し、平均点と偏差値を求めるプログラムを例に、Javaプログラムの書き方について学ぶ。第1回では、Javaプログラムの開発環境の構築や、Javaプログラムの実行方法について学ぶ。 【キーワード】 Java、統合開発環境	柳沼　良知（放送大学教授）
2	データ型と入出力	整数、小数、真偽値などの基本的なデータを格納するためのデータ型や、それらのデータの入出力について学ぶ。また、複数のデータをまとめて扱うための配列についても学ぶ。 【キーワード】 データ型、入出力、配列	柳沼　良知（放送大学教授）
3	処理の繰り返し	Javaにおける制御構造の例として、処理の繰り返しについて学ぶ。主に、for文の使い方について学ぶ。平均点と偏差値の計算をどのような手順で実現するかについても学ぶ。 【キーワード】 繰り返し、for文	柳沼　良知（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　師　名 （所属・職名）
4	条件分岐	Javaにおける制御構造の例として、条件分岐について学ぶ。主に、if文の使い方について学ぶ。また、第1回から第4回で学んだことのまとめとして、テストの点数を入力し、平均点と偏差値を求めるプログラムを完成させる。 【キーワード】 条件分岐、if文	柳沼　良知 （放送大学教授）
5	ユーザインタフェース	人工知能研究の初期の頃に作成された自動会話プログラムの1つとしてElizaがある。第5回から第8回では、JavaでEliza風のごく簡単な自動会話プログラムを作成する。第5回は、ボタンやテキストエリアといったユーザインタフェースの作成について学ぶ。 【キーワード】 ユーザインタフェース、GUI	柳沼　良知 （放送大学教授）
6	文字列	文字列処理について学ぶ。文字列のコピー、結合、比較、置換といった処理や、指定した文字が含まれるかの判断等の処理をどのように実現するかを学ぶ。 【キーワード】 文字列処理	柳沼　良知 （放送大学教授）
7	ファイル入出力	ファイルの入出力について学ぶ。テキストデータの読み書きや、タブ区切りの数値データの読み書き等の処理をどのように実現するかを学ぶ。 【キーワード】 ファイル入出力	柳沼　良知 （放送大学教授）
8	オブジェクト指向とクラス	プログラミングを行う上での概念であるオブジェクト指向や、Javaにおけるクラスの利用について学ぶ。また、第5回から第8回で学んだことのまとめとして、ごく簡単な自動会話プログラムを完成させる。 【キーワード】 オブジェクト指向、クラス	柳沼　良知 （放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570242	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 問題解決の数理 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Mathematical Approaches to Problem Solving (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：大西　仁 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

本講義では、主に決定問題を数理モデルを用いて解く方法を解説する。問題の目的や制約条件を数理モデルで定式化することにより、計算機に問題を解かせることが可能になり、手計算では解けない複雑な問題でも解けるようになる。決定問題は、工学のみならず、日常生活、経営、行政等のあらゆる場面に現れる。実用レベルの問題は計算機で解く必要があり、そのためのソフトウエアも普及していることから、解法の数学的詳細より、具体的な問題を簡単な数式により定式化することに重点をおく。

授業の目標

問題を解く計算は計算機に任せることができるが、問題を数理モデルとして定式化するのは問題を解決する人間が行う必要がある。したがって、具体的な問題を数理モデルとして定式化できるようになることが、全受講生の最初かつ最大の目標である。問題の解法の特徴を理解していると、より効率的に解を得られることがある。また、より専門的な学習を円滑にすることから、解法の考え方と特徴を理解し、問題に対して適切な方法を選択できるようになることが、特に問題の解法に興味を持つ受講生の一歩進んだ目標となる。

履修上の留意点

大学初年次程度の数学の知識を前提とする。「問題解決の数理(’13)」の単位取得者も受講可能であるが、重複する内容が多いことを承知の上で受講すること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	線形最適化法(1)：一次式による問題の定式化	線形最適化法(線形計画法)は、目的と制約条件を一次式で記述し、制約を満たす最適解を求める手法である。制約のある資源で最大の効果を得たり、最小のコストで目的を達成するために用いられる。線形最適化問題について応用例を交え解説する。 【キーワード】 線形最適化問題、生産計画問題、食事問題、輸送問題	大西 仁 (放送大学教授)	大西 仁 (放送大学教授)
2	線形最適化法(2)：線形最適化問題の解法	線形最適化問題の最適解を求める代表的なアルゴリズムであるシンプレックス法について解説する。 【キーワード】 線形最適化法、標準形、シンプレックス法	大西 仁 (放送大学教授)	大西 仁 (放送大学教授)
3	ネットワーク最適化法	ネットワーク最適化問題は、点と点が線で結ばれたネットワーク上で、特定の目的に関する最適解を求める問題で、カーナビゲーションシステムにおける最短経路の発見など幅広く応用されている。ネットワーク最適化問題とその解法について応用例を交え解説する。 【キーワード】 グラフ、ネットワーク、最短路問題、最大流問題	大西 仁 (放送大学教授)	大西 仁 (放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	スケジューリング：プロジェクトの管理	プロジェクトとは特定の目的を達成するための作業群のことであり、プロジェクトを構成する各作業の開始時刻を定めた計画をスケジュールと呼ぶ。本章では、プロジェクトを効果的・効率的に遂行するためのスケジュールを作成する方法について解説する。 【キーワード】 プロジェクト、スケジューリング、PERT、CPM	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
5	在庫管理	在庫管理問題とその解法について解説する。工場や小売店で在庫を余計に抱えることは、保管コストの増加や時間経過による商品の価値低下を招く。一方、在庫切れは利益を得る機会の損失である。在庫を適切に管理することが経営において重要である。基本的な在庫管理モデルについて解説する。 【キーワード】 在庫管理、経済発注量、定量発注方式、定期発注方式、ABC分析、ロットサイズ決定問題	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
6	階層分析法：主観と勘を有効活用する意思決定	階層分析法の代表的な方法について解説する。階層分析法(Analytic Hierarchy Process；AHP)は、複数の選択基準からなる代替案の選択問題において、問題を目標、選択基準、代替案の3階層に分け、各階層において比較評価を行い、総合評価にまとめる。客観評価ができずに、決定者の主観や勘に頼らざるを得ない場面で特に威力発揮する。 【キーワード】 階層分析法、AHP (Analytic Hierarchy Process)、一対比較	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
7	ゲーム理論：協調と競合の数理（1）	ゲーム理論の初歩的な事項について解説する。ゲーム理論は、利害の必ずしも一致しない状況における合理的意思決定や合理的配分方法を数理的に分析する方法である。政治、経済、軍事、経営、社会など幅広い応用分野を持つ。 【キーワード】 ゲーム理論、ナッシュ均衡解、マキシミン戦略、混合戦略	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
8	ゲーム理論：協調と競合の数理（2）	前回に引き続きゲーム理論について解説する。展開型ゲーム、無限繰り返しゲームによる協調の出現、ゲーム理論によるオークションの分析について述べる。 【キーワード】 展開型ゲーム、先読み推論(逆向き推論)、繰り返しゲーム、協調、オークション	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
9	統計的決定：不確実状況下での決定	統計的意思決定の方法について解説する。現実世界では、決定に関わる状況に不確実性が伴うことが多い。不確実性が伴う状況で合理的に決定を行うためには、統計的なアプローチが必要である。統計的決定法として期待効用最大化原理について解説する。次いで、パタン認識と信号の検出について統計的決定の観点から述べる。 【キーワード】 効用、主観確率、期待効用最大化原理、パタン認識、信号検出理論	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	問題の状態空間モデルと探索	問題の解決の状態空間モデルと状態空間を含むグラフの探索法について解説する。問題解決は、状態空間を探索して初期状態からゴールへ至る系列を発見することと定式化することもできる。パズルやゲームなどを状態空間の探索により解くことは、人工知能の最初期からの研究課題であったが、1990年代にはチェスの世界チャンピオンに勝利するほど探索の技法は高度化した。探索技法はパズルやゲームに限らず、様々な問題解決のツールとして利用できる。 【キーワード】 状態空間モデル、系統的探索、ヒューリスティック探索	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
11	待ち行列理論：待ちの数理	待ち行列理論とは、店舗におけるレジ待ちの行列や電話回線の混雑による着信拒否といった現象を確率論に基づくモデルにより解析するための理論である。初歩的な待ち行列モデルと解析法について解説する。 【キーワード】 待ち行列、ケンドールの記号、リトルの公式、M／M／cシステム	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
12	非線形最適化法	現実世界の問題では線形式で定式化できない問題が多い。また、統計モデルのパラメタ推定や機械学習の多くも非線形最適化問題である。非線形最適化法のうち基本的な手法について解説する。 【キーワード】 非線形最適化問題、最急降下法、ニュートン法	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
13	統計モデル	統計モデルは、誤差を含むデータの背後にある規則性、そのようなデータを発生させる仕組みを数式で表したものである。統計モデルにより誤差を含む観測データから現象を分析したり、予測を行うことができる。代表的な統計モデルとパラメタの推定法について解説する。 【キーワード】 統計モデル、回帰モデル、パラメタ推定、最小二乗法、尤度、最尤推定法	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
14	組み合わせ最適化法	組み合わせ最適化問題とは、条件を満たす変数の組み合わせの中で最適なものを求める問題である。組み合わせ最適化問題は実世界にあふれている。その多くは解くための計算量が莫大になり、素朴な探索では解くことができないが、様々な工夫が施され、年々規模の大きな問題を解くことができるようになっている。代表的な組み合わせ最適化問題と解法について解説する。 【キーワード】 組み合わせ最適化問題、分枝限定法、欲張り法、動的計画法	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）
15	メタヒューリスティクス	メタヒューリスティクスの代表的な手法を解説する。数理的な問題を解くための計算技術や計算機の性能向上により、複雑な問題を解くことができるようになった。しかし、現実の問題にはさらに複雑な問題があふれている。そこで、質の良い近似解を高速に得る方法であるメタヒューリスティクスが盛んに研究されている。 【キーワード】 メタヒューリスティクス、局所探索法、タブー探索法、遺伝的アルゴリズム	大西 仁（放送大学教授）	大西 仁（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570188	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ データの分析と知識発見 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Introduction to Data Analysis (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：秋光　淳生　（放送大学准教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

現在、ICTの進歩に伴い、大量のデータが収集、蓄積され、それを元に大量の計算がなされ多くの情報・知識を得ることができるようになった。現在氾濫するデータや情報にどう接し、それとどう付き合っていくべきなのか、また、そういった情報を抽出するためにはどういった処理をすれば良いのか、といった事について、具体的に演習を通して身につけることを目指す。

授業の目標

大量のデータをどのように処理し、分析するのか、またそういった分析をすることで、どういった知識が抽出できるかについて、具体的な実践を通して身につけることを目標とする。

履修上の留意点

データ分析の手法を説明するとともに、Rを用いて実際の分析の手順についても説明する。理解するには大学初年次程度の数学の知識や基本的なパソコン操作が行えることを前提として講義を行う。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	はじめに	データ分析の流れと尺度水準について説明する。講義で導入するソフトウェアとしてRやRStudioについて説明し、Rを用いた基本的な計算について説明する。 【キーワード】 R、データ分析の流れ、尺度水準	秋光　淳生（放送大学准教授）	秋光　淳生（放送大学准教授）
2	関数とパッケージ	Rにおける関数の使い方や定義の仕方について説明し、パッケージの追加や利用の仕方について説明する。RStudioを用いてレポートを作成する方法について説明する。 【キーワード】 平均、分散、関数、パッケージ	秋光　淳生（放送大学准教授）	秋光　淳生（放送大学准教授）
3	多次元データとファイル操作	多次元のデータを扱うことを考え、配列やリストといったデータの形式について説明する。ファイルからデータを読み込むための方法について述べる。 【キーワード】 相関係数、分散、行列、データフレーム、リスト	秋光　淳生（放送大学准教授）	秋光　淳生（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	データの視覚化	データをグラフにすることによって、データの持つ特徴を視覚的に把握することができ、より多くの情報を得ることができる。ここでは、代表的なグラフの種類や書き方について説明し、グラフを作成する上で気をつけるべき事柄について述べる。 【キーワード】 散布図、棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、ヒストグラム	秋光　淳生 (放送大学准教授)	秋光　淳生 (放送大学准教授)
5	表の作成	質的データを分析する方法としてクロス集計について説明する。クロス集計表において項目間の関連を判断するための指標について説明し、データを読み込み、Rで表を作るための方法について学ぶ。 【キーワード】 クロス集計表、シンプソンのパラドックス、ユール係数、ファイ係数	秋光　淳生 (放送大学准教授)	秋光　淳生 (放送大学准教授)
6	検定	検定はデータを元に何か判断を下す場合の定量的な根拠となる。根拠を得るためには確率分布の知識が必要となる。そこで検定の考え方、確率分布について説明し、Rでカイ2乗検定を行う手順を説明する。 【キーワード】 仮説検定、帰無仮説、統計分布、カイ2乗検定	秋光　淳生 (放送大学准教授)	秋光　淳生 (放送大学准教授)
7	回帰分析	回帰分析とは、データの中のある変数を他の変数の線形結合によって表現しようとする方法である。まず回帰分析の係数の導出法や、当てはまりの指標について説明し、Rでシミュレーションを行う。 【キーワード】 目的変数、説明変数、最小2乗法、偏相関係数	秋光　淳生 (放送大学准教授)	秋光　淳生 (放送大学准教授)
8	主成分分析	主成分分析とは、多次元の成分の中で主となる成分を見つけ出す手法のことであり、それによって、多次元のデータを低次元で表現することも可能になる。主成分分析について説明し、Rを用いてシミュレーションを行う。 【キーワード】 主成分分析、分散行列、中心化、標準化、寄与率	秋光　淳生 (放送大学准教授)	秋光　淳生 (放送大学准教授)
9	多次元尺度法	距離をもとに座標を計算する方法である多次元尺度法について説明する。まず、距離の公理について説明したのち、手法について説明し、Rでシミュレーションを行う。 【キーワード】 距離、三角不等式、古典的多次元尺度法	秋光　淳生 (放送大学准教授)	秋光　淳生 (放送大学准教授)
10	因子分析	主成分分析と似た方法として因子分析がある。因子分析はデータの中に潜む共通の要因を見つけようとするものである。因子分析の概要、および因子負荷量の計算について説明し、Rでシミュレーションを行う。 【キーワード】 因子分析、共通因子、独自因子、軸の回転	秋光　淳生 (放送大学准教授)	秋光　淳生 (放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	クラスター分析	データの集まりの中で似た特徴をもつまとまりのことをクラスターという。最初に近い特徴を持つものから順にクラスターを結合する階層的クラスター分析について説明し、次に非階層的クラスター分析の方法として、k-means法について説明する。 【キーワード】 階層的クラスター分析、非階層的クラスター分析、k-means法	秋光　淳生（放送大学准教授）	秋光　淳生（放送大学准教授）
12	アソシエーション分析	データの関係として関係があるかどうかを表すのが相関であった。ここでは、データを元に「AであればBである」といった因果関係を導く方法であるアソシエーション分析について説明し、Rでシミュレーションを行う。 【キーワード】 支持度、信頼度、期待信頼度、リフト値、アプリオリ	秋光　淳生（放送大学准教授）	秋光　淳生（放送大学准教授）
13	決定木	決定木とは条件の分岐を木構造で表現したものである。それは、データをある条件をもとに分割していく手法である。そこで、まず木構造について説明し、次にどのようにデータを分割するかという判断基準について説明し、Rでシミュレーションを行う。 【キーワード】 二分木、分類木、ジニ係数、不純度	秋光　淳生（放送大学准教授）	秋光　淳生（放送大学准教授）
14	ニューラルネットワーク	ニューラルネットワークについて説明する。それを踏まえ、例題を元に学習を行う教師あり学習について説明し、データの中からルールを学び予測する方法について説明し、Rでシミュレーションを行う。 【キーワード】 ニューラルネットワーク、教師あり学習、汎化、過学習	秋光　淳生（放送大学准教授）	秋光　淳生（放送大学准教授）
15	テキストマイニング	講義のまとめとしてテキストを分析する手法の例について紹介する。この章では形態素解析をするフリーのソフトウェアを利用して文書から形態素解析によってテキストから定量的なデータを導き、今までに説明した手法を用いて文書の分類を行う例を示す。 【キーワード】 形態素解析、形態素、MeCab	秋光　淳生（放送大学准教授）	秋光　淳生（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570064	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 記号論理学 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Symbolic Logic (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：加藤　浩　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：土屋　俊　（大学改革支援・学位授与機構教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

記号論理学とは、論理を論理式という数式のような記号で表して、厳密なやりかたで処理する方法の体系です。推論、すなわち、ある事態が成り立っている(真である)とき、そこから別の確実に成り立っている事態を導き出したり、また、その推論の正しさを証明したりするのが記号論理学の役割です。記号論理学は、数学をはじめとして、哲学、計算機科学などの基礎となるほか、論文執筆や議論やプレゼンテーションなどのコミュニケーションの基礎として重要です。本科目では、命題論理、一階述語論理などの意味を理解して自然言語と対応付けられるようにし、さらに論理式の計算方法を学びます。

授業の目標

一階述語論理の表現の意味の理解、日本語の表現の翻訳、および推論の妥当性の点検ができる。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	論理学とは何か	論理学は推論について研究する学問であり、日常生活や学問において重要な役割をはたしている。 【キーワード】 推論、前提、結論、命題、議論、論争、常識、学問、科学、経験	土屋　俊 (大学改革支援・学位授与機構教授)	土屋　俊 (大学改革支援・学位授与機構教授) 加藤　浩 (放送大学教授) ゲスト:久木田水生(名古屋大学准教授)、大西　琢朗(京都大学研究員)
2	記号を使う	推論を厳密に表現し、検討するために記号を使う。 【キーワード】 自然言語、形式言語、普遍言語	土屋　俊 (大学改革支援・学位授与機構教授)	土屋　俊 (大学改革支援・学位授与機構教授)
3	記号・式・命題	一階述語言語の文法を導入し、式や代入や閉じた式を定義する。 【キーワード】 記号、式、代入、閉じた式、命題、構文論	加藤　浩 (放送大学教授)	加藤　浩 (放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	命題の意味	一階述語言語の式の真偽と、それにもとづいて、一階述語言語の意味論を定義し、理論とモデルの概念について解説する。 【キーワード】 意味論、モデル、解釈、真偽	加藤　浩（放送大学教授）	加藤　浩（放送大学教授）
5	推論の妥当性を厳密に定義する	前提となる命題のすべてが同時に真であるとき、かならず帰結の命題も真であるならば、その推論は妥当であることを知る。しかしそもそも妥当な推論とは何であるか、それはどのように確かめられるのかを理解する。 【キーワード】 妥当性、論理的同値	加藤　浩（放送大学教授）	加藤　浩（放送大学教授）
6	タブローによる妥当性のチェック(1)	推論の妥当性をチェックするための手続きであるタブローの方法を導入する。 【キーワード】 妥当性、タブロー	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）
7	タブローによる妥当性のチェック(2)	量化記号や同一性述語を含んだ推論をチェックするタブローについて解説する。 【キーワード】 タブロー、量化、同一性述語	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）
8	多重量化	∃x∃yWxyや∀y∃xWxyのように量化記号が多重に使われているような命題を取り上げて検討する。量化記号を組み合わせることで、日本語としては意味の違いがわかりにくい命題が、一階述語論理では命題の形式的な違いとして明確に区別できる。 【キーワード】 多重量化、全称量化記号、存在量化記号、量化の順番、スコープ、翻訳	加藤　浩（放送大学教授）	加藤　浩（放送大学教授）
9	日本語から形式言語への翻訳	日本語で書かれた命題を一階述語言語に翻訳する方法を学ぶ。日本語命題はその意味するところをモデルにあてはめて表現し、そこから命題に翻訳する。その際に陥りやすい誤りや注意すべき点を解説する。 【キーワード】 翻訳、自然言語、集合、個体	加藤　浩（放送大学教授）	加藤　浩（放送大学教授）
10	数を数える命題	「少なくともn個ある」「ちょうどn個ある」「多くともn個である」など個体の数量を表す命題について学ぶ。一階述語言語には数字を一切用いないで、自然数の個体の存在について述べる記述能力がある。 【キーワード】 全称量化、存在量化、同一性、翻訳	加藤　浩（放送大学教授）	加藤　浩（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	日本語の推論の妥当性(1)	日本語で表現された推論を形式言語に置き換え、その妥当性をタブローによってチェックする。 【キーワード】 タブロー、日本語での推論、妥当な推論のパターン	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）
12	日本語の推論の妥当性(2)	日本語の推論の妥当性をチェックする。とくに推論の際に暗黙のうちに前提される命題を特定する練習をする。 【キーワード】 タブロー、隠された前提	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）
13	日本語の推論の妥当性(3)	誤りやすい推論、論証について学び、それをタブローによってチェックする練習をする。 【キーワード】 タブロー、誤謬	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）
14	タブローの方法の健全性と完全性	論理体系の健全性、完全性、決定可能性の概念について解説する。 【キーワード】 健全性、完全性、決定不可能性	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）
15	役立つ記号論理学	これまで学んだ範囲を越えて、記号論理学とその背景となる考え方がどのように活用されてきたか、また、どのように活用することができるかということについて検討する。数学の証明、コンピュータ科学の発達、科学的理論の構造、批判的思考という4つの側面がもつ背景と課題を学ぶ。 【キーワード】 証明、不可能性、コンピュータ、人工知能、観察、理論、反証、検証、論理と修辞、合成性の原則、曖昧さ、隠された前提	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授）	土屋　俊（大学改革支援・学位授与機構教授） 加藤　浩（放送大学教授） ゲスト：久木田水生（名古屋大学准教授）、大西　琢朗（京都大学研究員）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570137	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 数値の処理と数値解析 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Numerical Computing and Analysis (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：櫻井　鉄也　（筑波大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：大西　仁　（放送大学准教授） 】

講義概要

数学や物理で現れる方程式は、式が複雑になると答えを与える公式がない、あるいは簡単には答えが得られない場合も多い。このようなとき、コンピュータを用いて数値計算で解を求めるのが数値解析である。数値解析は、自然現象のシミュレーションやデータの分析、製品の設計や開発、信号処理や画像解析など、幅広い分野で利用されている。本講では、コンピュータを用いて数値計算を行うときに必要となる数値の表現や処理について理解する。また、各種の問題に応じた計算方法について基本的な手法を修得する。計算方法を記述するためのアルゴリズムやそれをコンピュータに指示するためのプログラムについても概説する。

授業の目標

本講では、コンピュータを用いた数値解析によって数学や物理で現れる問題を解くために、そこで表れる数値計算の仕組みやアルゴリズムの基本的な性質を理解することを目標とする。あわせて、数値計算のためのアルゴリズムをどのように記述するかや、プログラミングの基礎的な考え方についても修得する。

履修上の留意点

計算法の説明では線形代数や微積分が現れるため、これらの基礎知識があることが望ましい。講義中で扱う例は線形代数や微積分の応用例にもなっており、これらの理解にも役立つ。数値計算は実際にコンピュータ上で実行して結果を確認することがより深い理解につながるため、実際に数値計算を経験してみることを勧める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	コンピュータと数値計算	数値解析と数値の処理に関する概観と、数値計算の手順を示すアルゴリズムや計算量などの基本的な概念を説明する。また、コンピュータを使って計算をするときによく現れる漸化式や直接法、反復法といったことがらについても説明する。 【キーワード】 アルゴリズム、漸化式、計算量、反復計算	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）
2	計算アルゴリズムの表現	数値計算のアルゴリズムをどのように記述するかについて説明する。コンピュータで計算を実行するために用いるプログラム言語や、アルゴリズムを表すための擬似コードについて述べる。計算結果のグラフ表示についても説明する。 【キーワード】 数値計算のプログラム、変数と代入、条件分岐と繰り返し、計算結果の表示	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）
3	コンピュータにおける数値の表現と処理	コンピュータの中で数値がどのように表現され、処理されるかについて説明する。数学で現れる実数はいくらでも多くの桁を考えることができるが、コンピュータでは有限のデータ量で表す必要がある。そのために起こる計算上の問題点や、数値計算をする上で知っておくとよい知識などについて解説する。 【キーワード】 2進数と10進数、整数と浮動小数点数、オーバーフローとアンダーフロー、計算誤差	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	行列とベクトルの計算	行列やベクトルは数値計算においてよく現れるため、これらについて習熟しておくことが必要である。ここでは、行列やベクトルについて、基本的な概念や性質について説明する。また、行列やベクトルを用いた数値計算の方法についても述べる。 【キーワード】 行列とベクトル、行列の演算、ノルム、基本線形代数プログラム	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）
5	連立一次方程式の解法	与えられた条件をみたすようないくつかの値を決める問題で、とくに線形の関係がある場合には連立一次方程式が現れる。このような方程式をコンピュータで解くときに用いる方法について説明する。まず、人が手で計算できるような少ない変数の例題から始め、より一般的に多くの変数の場合の扱いについて示す。 【キーワード】 連立一次方程式の解法、LU分解、前進後退代入	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）
6	多項式と有理式	コンピュータでは、四則演算の組み合わせで、より複雑な計算を行っている。このとき、多項式や有理式がよく用いられる。ここでは、多項式や有理式の表現や計算方法について述べる。また、近似や積分などの計算で重要な役割を果たす直交多項式についても説明する。 【キーワード】 多項式、多項式の演算、直交多項式、有理式	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）
7	関数の近似	与えられた関数やデータに対して、それを表す近似式の計算方法を紹介する。高階導関数を用いたテイラー展開による近似や、与えられた点を通る多項式を求める多項式補間などについて説明する。また、有理式による近似についても示す。 【キーワード】 多項式補間、標本点と標本値、有理関数近似	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）
8	非線形方程式の解法	非線形の関数では、変数の値が2倍になったときに、その関数の値は2倍になるとは限らない。非線形方程式の解は、一般には直接求める解の公式が存在しない。そのため、適当な近似解から始めて反復改良を行うことで解に近づけていく。このような反復法の基礎について説明する。 【キーワード】 代数方程式、反復法、不動点、ニュートン法	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）
9	行列の固有値問題	固有値問題は、与えられた行列に対してある性質をもった特別なベクトルと値の組を求める問題である。人気のあるWebページの推定やナノレベルのシミュレーションなどは固有値問題に帰着する。固有値問題の考え方や基本的な解法について紹介する。 【キーワード】 固有値、固有ベクトル、相似変換、ベキ乗法	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	最小二乗法と特異値分解	測定データなどが与えられたときに、そのデータの分布を近似的に表す直線や2次式などを求める問題は最小二乗問題となる。この問題は一般の次数の多項式によってデータの分布を表す問題へと拡張できる。ここでは、多項式補間や連立一次方程式と関連づけて計算方法を説明する。 【キーワード】 最小二乗法、QR分解、特異値分解、データ解析	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）
11	数値積分法	定積分をコンピュータで数値計算する方法について説明する。多くの数値積分の計算法は、あらかじめ決められた点で求めた関数の値に対して適当な数をかけて足し合わせる形で表される。このとき、関数を計算する点や関数にかける値を変えることでさまざまな公式が得られる。 【キーワード】 定積分、台形則、補間型積分則、ガウス積分則	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）
12	常微分方程式の解法	時間に依存する物体の運動など、さまざまな現象が常微分方程式で表され、これを解くことで結果の予測や制御などが可能となる。ここでは最初の状態を与えて微分方程式の解がどのように変化するかを求める初期値問題の解法について説明する。 【キーワード】 常微分方程式、オイラー法、ルンゲクッタ法、硬い方程式	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）
13	偏微分方程式と差分法	熱や波の伝播、液体や気体の流れ、構造物の変形、分子や原子の状態などの現象は偏微分方程式で表され、それを解くことでさまざまな現象の解明につながる。ここでは板に熱が伝わる現象を例にして、偏微分方程式の基本的な解法について説明する。 【キーワード】 偏微分方程式、ラプラス方程式、差分法、定常反復	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）
14	疎行列の計算法	シミュレーションなどを行うとき、行列の要素の多くが0となるような疎行列が現れることが多い。このような疎行列の効率的なデータ表現方法や計算法について説明する。また、疎行列を係数行列とする連立一次方程式の解法について紹介する。 【キーワード】 疎行列、行列ベクトル積、共役勾配法、前処理	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）
15	スーパーコンピュータによる数値計算	理論や実験による科学の手法に対して、コンピュータによる計算によって現象の解明や予測を行う分野を計算科学という。このとき現れる計算は大規模になることが多く、スーパーコンピュータが用いられる。ここでは、スーパーコンピュータを用いた高速な計算がどのようにして行われるのか基礎的な内容について説明する。 【キーワード】 逐次計算と並列計算、速度向上率、アムダールの法則、分散処理	櫻井　鉄也（筑波大学教授）	櫻井　鉄也（筑波大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570196	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ＣＧと画像合成の基礎 （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Fundamentals of Computer Graphics and Image Synthesis (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：浅井　紀久夫　（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

コンピュータグラフィックス(CG)と画像合成について解説する。映画やCM、商品カタログなど、身の回りの映像、画像には、CGや画像合成が広く使われるようになった。CG描画と画像合成の仕組みに重点を置き、その技術の基本原理を、描画例や応用例を示しながら平易に説明する。まず、CGの描画手順、座標変換、3次元形状の生成、画像の生成、質感表現など、CGの原理及び描画の基本的な手法を扱う。そして、リアリティを追求したイメージベースの手法を導入し、パノラマ画像や写真合成といった画像合成へとつなげる。

授業の目標

CGの作成および描画、画像合成の処理に関する基本原理を理解することが、本授業の目標である。単にCGを作成したり画像を編集したりするだけであれば、その原理を知る必要はない。しかし、高いリアリティで速く、しかも簡単に描画したり、新しい映像表現を創出したりするには、CGおよび画像合成の処理技術に関する基礎知識と基本的な考え方が必要である。製作したいCGや合成画像に対して、採用すべき処理や手法を選択できるようになることが、一歩進んだ目標である。

履修上の留意点

画像処理や映像制作に関連する科目として、「デジタル情報の処理と認識('12)」や「映像コンテンツの制作技術('16)」がある。これらの科目は本科目履修の条件ではないが、参考にできる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	CGレボリューション	CG(コンピュータグラフィックス)は、線画から始まった。現在では、実写と見分けが付かない程度のリアリティを備えるまでになった。そのCGの歴史を概観し、どのような場面で利用されているかの応用例を示す。また、コンピュータゲームなど、CGを取り巻く状況について概説する。 【キーワード】 CGの歴史、応用、映画、コンピュータゲーム	浅井　紀久夫(放送大学准教授)	浅井　紀久夫(放送大学准教授)
2	コンピュータによる3次元形状の描画	CGの描画手順、カメラモデル、座標系について概説する。現実世界でカメラを使って写真を撮るとき、光が物体を照らし、その光が反射して、カメラの撮像素子に到達する。CGでも同様の仕組みを考えることができる。 【キーワード】 描画手順、カメラモデル、ビューイングパイプライン	浅井　紀久夫(放送大学准教授)	浅井　紀久夫(放送大学准教授)
3	図形の変換	3次元形状を作成するために2次元図形を利用したり、3次元形状を2次元面に表示したりするには、2次元図形および3次元形状に対する幾何学的変換が必要である。平面上と空間内における基本的変換について解説する。 【キーワード】 座標系、基本変換、合成変換、投影変換	浅井　紀久夫(放送大学准教授)	浅井　紀久夫(放送大学准教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	3次元形状の作成	コンピュータで物の形を表現しようとするとき、数値で記述する必要がある。これを、モデリングという。このモデリングの手法を紹介する。3次元形状である多面体の表現法、曲線・曲面の表現法、立体形状を多角形の集合であるポリゴンで表す方法を示す。 【キーワード】 モデリング、立体形状、表現法、ポリゴン曲面	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
5	3次元モデルを2次元画像に	3次元形状を2次元画像に変換して絵として描画する手法について解説する。この描画のための処理をレンダリングという。レンダリングを構成する処理過程を示し、図形に対応する画像の色を描くラスタ化、見えない面を消去する隠面消去の手法について説明する。また、デジタル画像で実際には存在しない模様が現れる現象についても取り上げる。 【キーワード】 レンダリング、ラスタ化、隠面消去、エイリアシング	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
6	質感表現	物体が光に照らされたとき、物体に陰影ができる。その陰を計算するシェーディングの手法を紹介する。基本的なシェーディングでは、環境光による反射成分、拡散反射成分、鏡面反射成分を足し合わせて面の明るさを表現する。また、物体の背後にできる影を生成する影付けの手法について説明する。 【キーワード】 シェーディング、環境光、拡散反射、鏡面反射、影付け	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
7	コンピュータアニメーション	アニメーションは、静止画を連続的に表示することにより動きを表現する。カメラを動かすことで動きを生み出す方法、複数枚の絵の中でキーとなるものを補間して動きを生成したり、軌跡を指定して動きを与えたりする方法、骨格構造の動きを補間して生成する方法について説明する。 【キーワード】 アニメーション、カメラワーク、キーフレームアニメーション、パスアニメーション、インバースキネマティクス	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
8	写実性を高める ー間接光の影響	3次元形状を写実的に表現するには、形状表面の明るさを精密な照明計算モデルに基づいて算出する必要がある。間接光の影響を考慮したグローバルイルミネーションについて説明する。また、擬似的に間接光を表現する手法を紹介する。 【キーワード】 グローバルイルミネーション、ラジオシティ法、フォトンマッピング法、環境遮蔽	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
9	リアルタイム性を高める ーマッピングの手法	利用者の入力情報に基づいてCGが描画され、次の入力が行われるといったインタラクティブな表現には、実時間でCGを描画する必要がある。質感向上のために形状表面に模様や凹凸などの効果を付加するマッピング処理について説明する。 【キーワード】 テクスチャマッピング、バンプマッピング、環境マッピング、シャドウマッピング	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	カメラの幾何学	カメラが被写体を写す幾何学について解説する。レンズのないピンホールカメラを考え、レンズの役割を説明する。複数のカメラを使って、奥行き距離を求めるためのステレオ対応の原理を紹介する。 【キーワード】 ピンホールカメラ、レンズ、カメラ校正、ステレオ対応	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
11	パノラマ画像	カメラで、複数の視点から写真を撮って、それをつなぎ合わせれば、画角の広いパノラマ写真ができる。そのパノラマ写真を作る仕組みについて説明する。複数の画像ペアの間で正確に位置合わせを行うための手法を導入する。 【キーワード】 パノラマ画像、特徴点、特徴点抽出、幾何学的変換	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
12	画像に基づく3次元復元	2次元画像から3次元形状を復元する技術とCGのレンダリング技術を組み合わせて、写実的な描像を得る手法について解説する。また、複数の視点から撮影した画像に基づいて、3次元構造を推定する手法を説明する。 【キーワード】 イメージベーストレンダリング、運動からの構造復元	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
13	ハイダイナミックレンジ	CGに写実性を与えるため、間接光を与えるグローバルイルミネーションを扱った。光源の照明環境を記録して、CGを描画すれば、その写実性は格段に増す。これを実現する輝度範囲の広い画像や環境マップの技術について解説する。 【キーワード】 イメージベーストライティング、ハイダイナミックレンジ、環境マップ、トーンマッピング	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
14	写真の合成	コンピュータ処理による写真合成の手法について解説する。まず、光線空間であるライトフィールドの考え方を導入する。ライトフィールドを用いて、レンズを通過した光が平面上に像を形成する過程を再現することにより、写真が合成されることを示す。 【キーワード】 ライトフィールド、ライトフィールドレンダリング、ライトフィールドカメラ、コンピュテーショナルフォトグラフィ	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）
15	拡張現実感	現実シーンに情報を重畳して提示する拡張現実感について解説する。拡張現実感を実現するには、現実世界を計測し、その場所を特定して、適切な情報を現実シーンに重ねて提示する必要がある。これに必要な技術的要素と、拡張現実感の応用を示す。 【キーワード】 複合現実感、拡張現実感、幾何学的整合性、光学的整合性	浅井　紀久夫（放送大学准教授）	浅井　紀久夫（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570200	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 映像コンテンツの制作技術 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Creative Technologies for Digital Contents (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：近藤　智嗣　（放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

情報コースのマルチメディア領域の科目として、映像コンテンツの制作技術を体系的に学ぶ科目である。映像コンテンツの制作工程としては、プリプロダクション、プロダクション、ポストプロダクションの3つに大きく分けることができ、映像制作に必要な技能としては、技術面と表現面がある。商用の映像制作では、これらの各分野で細かく分業化されているが、本科目は各専門職を養成することが目的ではないため、映像制作について体系的に扱う。また、一般的な映像制作講座ではなく、高等教育の学問分野として映像コンテンツの制作を位置づけている。

授業の目標

本科目の目標は、映像コンテンツの制作における表現面と技術面の両側面を体系的に身につけることである。表現面としては、企画・構成、シナリオ、カメラワーク、照明、編集などがあり、技術面としてはカメラの仕組み（色温度、レンズなど）、音声収録、色調整などがある。本科目は、映像のクリエイターを養成することが目的ではなく、映像コンテンツの制作技術を学ぶことをとおして、マルチメディアの基礎技術を理解し、映像の表現技法を習得することである。

履修上の留意点

この科目を履修した後に「CGと画像合成の基礎（’16）」などに進んでいくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	動画の原理	動画は静止画が連続的に表示されるものであるが、なぜ静止画の集まりが動いて見えるのだろうか。映画は、どのような経緯をたどって誕生したのだろうか。現在のテレビなどの映像フォーマットはどうなっているのだろうか。これらの疑問について解説する。 【キーワード】 残像、仮現運動、ハイビジョン、4K、8K	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）
2	モンタージュ	モンタージュとは一言で言うと「演出を伴った映像編集」のことである。ただ撮影しただけの映像と映画やテレビドラマなどの編集された映像には、どのような違いがあるのだろうか。現代の映画に至るまでの歴史的な経緯から映像編集の基本を考えてみる。 【キーワード】 映像編集、モンタージュ、クレショフ効果	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）
3	ビデオカメラの基本機能	ビデオカメラに付いているスイッチ類は、何の機能なのか。また、操作するときは何に気をつければよいのだろうか。そして、これらを操作すると映像はどのように変化するのだろうか。ビデオカメラのスイッチ類のうち、基本的な機能であるズーム、フォーカス、ホワイトバランスについて解説する。 【キーワード】 ビデオカメラ、ズーム、フォーカス、ホワイトバランス	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	明るさの調節	ビデオカメラには、明るさの調整に関係する機能がある。アイリス、シャッタースピード、ゲイン、NDフィルターの4つである。これらは、どのように使い分けるのか、そして、映像はどのように変化するのだろうか。また、適正な明るさとは何か。これらの疑問について解説する。 【キーワード】 アイリス、シャッタースピード、ゲイン、NDフィルター、波形モニター	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）
5	カメラワーク	手ぶれ防止のためにもカメラは三脚で固定させるのが基本である。しかし、ビデオカメラは動かしながらでも撮影できる。手ぶれを抑えてカメラを動かすには、どうすればよいのか。また、どのような装置があるのだろうか。さらに、動かすことによってどのような効果があるのだろうか。これらの疑問について解説する。 【キーワード】 三脚、カウンターバランス、移動撮影、カメラワーク	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）
6	構図とイマジナリーライン	人物を撮影するとき、体全体を入れることもあれば顔のアップにすることもある。画面に映る被写体のサイズはどのように決めればよいのか。風景を撮影するときは、どんな構図にすればよいのか。また、2人の人物を交互に撮影するときは、どの方向から撮影すればよいのだろうか。これらの疑問について解説する。 【キーワード】 画面サイズ、構図、イマジナリーライン	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）
7	照明	暗い場所で撮影するときは光量を補うために照明をつける。しかし、ただ明るくするだけでいいはずがない。では、照明を使うときは何を考慮すればよいのだろうか。照明の色はどうするか、照明を置く場所はどうするか。これらの疑問について解説する。 【キーワード】 ホワイトバランス、色温度、三点照明、内式ライティング、フィルター	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）
8	マイク	ビデオカメラには内蔵マイクが付いているが、トーク番組などでは、出演者が胸にピンマイクを付けている。なぜ、プロは内蔵マイクを使っていないのだろうか。マイクにはどんな種類があり、どう使い分けているのだろうか。これらの疑問について解説する。 【キーワード】 カクテルパーティ効果、マイク、指向性	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）
9	音声	音とは何だろうか。音量が小さすぎると聞き取れないし、大きすぎると割れてしまう。収録するときの音量は何を基準に決めればいいのだろうか。機材にはメーターがついているが単位は何なのだろうか。音声の編集はどうすればいいのだろうか。これらの疑問について解説する。 【キーワード】 VUメーター、ピークメーター、dB、ナレーション	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	プリプロ／ポスプロ	映像制作で撮影に入る前の段階がプリプロ、最後の仕上げの工程がポスプロである。それぞれの工程では何をするのか。映像編集はポスプロの工程に含まれるが、その他には何があるのだろうか。映像や音声の最終調整はどのように行うのか。テロップはどのように入れるのがよいのか。これらについて解説する。 【キーワード】 ポスプロ、カラーコレクション、テロップ	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）
11	シナリオ	ストーリー展開の一方法として、起承転結があるが、シナリオの中ではどのように展開すればよいのだろうか。そのほかの方法はあるのだろうか。シナリオはどのように書くのだろうか。また、実際の撮影に入る前には何を準備すればよいのだろうか。シナリオを中心にプリプロでやるべきことを解説する。 【キーワード】 プリプロダクション、シナリオ、三幕構成、起承転結	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）
12	撮影実践	シナリオには、どんなショットを撮影すればいいかの詳細は記されていない。これを決めるには、どんな考え方があるのか。後で編集するためには、何を撮影しておけばよいのか。このような実際の撮影に関する疑問について解説する。 【キーワード】 マッチカット、カットアウェイ、ロケ	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）
13	編集実践	撮影した映像素材は編集して作品になっていく。編集では何を基準にして、ショットの長さ、切り替えのタイミングなどを決めていけばよいのか。状況説明、場面転換、時間経過を表現するにはどのような編集技法があるのか。これらの編集技法について解説する。 【キーワード】 ジャンプカット、オーバーラップ、ワイプ	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）
14	CGとの合成	多くの商業用映画やテレビドラマには、コンピュータグラフィックス（CG）が使用されている。実写映像とCGなどはどのように合成するのだろうか。この方法について解説する。また、スマホなどでリアルタイムに実写映像とCGを合成するミクストリアリティ技術についても紹介する。 【キーワード】 キーイング、クロマキー、バーチャルスタジオ、マッチムーブ、MR/AR	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）
15	3D映像	3D映画は、今や話題になることもないほど一般的なものである。3D映画を見るときは専用のメガネをかけることが多いが、どんな仕組みで、どんな種類があるのか。平面なスクリーンを見ているのになぜ立体に見えるのだろうか。これらの立体視の原理と仕組みについて解説する。 【キーワード】 立体視、奥行き知覚、両眼視差	近藤　智嗣（放送大学教授）	近藤　智嗣（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554573	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　デジタル情報の処理と認識　　（’１２）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：柳沼　良知　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：鈴木　一史　（放送大学准教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

コンピュータは、計算する機械である一方で、文字、画像、音声、映像といった情報も扱うことができる。しかし、これらがどのように扱われているかは、外からは見えにくい。このため、本講義では、文字、画像、音声、映像といった情報の処理がコンピュータ上で実際にどのように行なわれているかについて概説する。また、これらの認識の例として、発話の認識を行う音声認識や、図形や写真の認識を行う画像認識等がどのように行われるかについて、具体例を交えながら述べる。

授業の目標

コンピュータによる画像認識や音声認識の仕組みを知るとともに、それらの基礎となる情報の処理手法について習得する。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	音の表現	音声認識は、コンピュータ上で発話の認識を行う技術である。本章では、コンピュータ上で音声情報を扱うために必要となる音のデジタル化や、音の大きさ、高さ、音色といった音の属性について述べる。 【キーワード】 標本化、量子化、音の大きさ、音の高さ、音色	柳沼　良知（放送大学教授）	柳沼　良知（放送大学教授）
2	音声周波数の分析	音声認識の第一段階としては、話者が「あ」と発音しているのか、「お」と発音しているのかの違いを認識する必要がある。本章では、人の発声の仕組みについて述べるとともに、このような音素を識別する方法として周波数分析について学習する。 【キーワード】 音色、基音、倍音、フーリエ変換	柳沼　良知（放送大学教授）	柳沼　良知（放送大学教授）
3	音声認識	音声認識のうち、コンピュータにあらかじめ登録された単語やコマンドを認識するものは、単語認識やコマンド認識と呼ばれる。また、コンピュータに対して、制限のない自由文を連続的に認識させるのがディクテーションである。本章では、このような音声認識について述べるとともに、音声による話者同定についてもあわせて述べる。 【キーワード】 単語認識、ディクテーション、話者同定	柳沼　良知（放送大学教授）	柳沼　良知（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	文字の表現	本章では、文字の情報がコンピュータ上でどのように扱われているかについて述べる。具体的には、コンピュータ上で文字を表現するために用いられる文字コードや文字のデザインであるフォント、Web文書の記述に用いられるHTML等について述べる。 【キーワード】 文字コード、フォント、DTP、HTML	柳沼　良知（放送大学教授）	柳沼　良知（放送大学教授）
5	自然言語処理	音声認識により、発話された音声を文章へと変換することができる。そしてこのような文章の処理を行うのが自然言語処理である。本章では、自然言語と人工言語について述べるとともに、日本語処理の基礎となる、文章を単語に分割する形態素解析や文章の構造を解析する構文解析等の処理について述べる。 【キーワード】 形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析	柳沼　良知（放送大学教授）	柳沼　良知（放送大学教授）
6	自然言語処理の応用	自然言語処理の応用として、日本語から英語といった言語間の翻訳を機械的に行う機械翻訳や、多量のテキスト情報を検索するための全文検索の実現方法について述べる。また、音声インタフェースの構築の際に不可欠となる音声合成についてあわせて述べる。 【キーワード】 機械翻訳、全文検索、音声合成	柳沼　良知（放送大学教授）	柳沼　良知（放送大学教授）
7	色の表現	コンピュータ上で画像や映像を表現するための基礎になるのが色の表現である。本章では、色の物理的な性質について述べるとともに、コンピュータ上での色の表現や画像の表現について述べる。 【キーワード】 色の表現、画像の表現	柳沼　良知（放送大学教授）	柳沼　良知（放送大学教授）
8	デジタル画像	デジタル化された2次元画像のしくみや、画像の性質を表す画像統計量、画像ヒストグラムついて解説する。また、画像反転、画像コントラスト等について学習する。 【キーワード】 デジタル画像、画像統計量、ヒストグラム、画像反転	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
9	画像とフィルタリング	デジタル画像データは数値データの集合であり、様々な数値演算を行うことで画像を加工することができる。画像の加工や特徴抽出に用いられるフィルタリング処理について学習するとともに、フィルタを利用したノイズ除去の例について解説する。 【キーワード】 モザイク、フィルタリング、平滑化、ノイズ除去	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	デジタル画像とモーフォロジー	デジタル画像の加工処理のひとつであるモーフォロジー演算について学習する。モーフォロジー演算による、膨張、収縮を応用したノイズの除去や輪郭抽出についてもあわせて学ぶ。 【キーワード】 モーフォロジー、膨張演算、収縮演算、ノイズ除去、輪郭抽出	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
11	クラスタリング	認識等の処理に必要となる、データを複数のグループに分類するクラスタリング手法について学習する。階層的クラスタリングと非階層的クラスタリングについて学ぶとともに、階層的クラスタリングによる樹形図の作成や非階層的クラスタリング手法であるk平均法について学ぶ。 【キーワード】 クラスタリング、樹形図、k平均法、領域分割、減色	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
12	パターン検出と画像特徴	画像内のパターンを検出する手法であるテンプレートマッチングについて学習する。また、デジタル画像からの特徴計算の例について説明するとともに、局所特徴を利用したBoF(Bag of Features)モデルによる画像分類や検索の概要について学ぶ。 【キーワード】 テンプレートマッチング、特徴点、画像特徴、BoFモデル	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
13	データの分類	データの分類手法について学習する。基本的な分類手法のひとつであるk近傍法について解説するとともに、k近傍法の問題点や応用例を示す。 【キーワード】 類似度、距離、k近傍法、分類、数値予測	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
14	検索システムの評価	検索システムの評価方法として、データベースの検索システムの評価で広く使われている適合率と再現率の計算方法、適合率-再現率グラフについて学習する。また、システム評価に用いられるベンチマークデータの事例について解説する。 【キーワード】 適合率と再現率、適合率-再現率のグラフ、ベンチマーク	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）
15	画像特徴の計算と応用	画像特徴を画像索引として利用する内容検索について学習する。画像特徴の一つであるLBP(ローカル・バイナリー・パターン)を例として画像特徴の計算法を学ぶとともに、画像の類似度、画像データベースの類似検索について解説する。 【キーワード】 画像特徴、内容検索、類似度、類似検索、LBP	鈴木　一史（放送大学准教授）	鈴木　一史（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570153	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 自然言語処理 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Natural Language Processing (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：黒橋　禎夫　（京都大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：秋光　淳生　（放送大学准教授）】

講義概要

日本語や英語などの自然言語は人間の知的活動の根幹をささえるメディアである。自然言語のコンピュータ処理に関する研究・技術分野を自然言語処理と呼ぶ。近年のコンピュータおよびコンピュータネットワークの進展とともに自然言語処理技術は劇的に進展し、ウェブサーチ、対話システム、機械翻訳などの応用システムが我々の日常に浸透しはじめている。本講では、その背後にある自然言語処理の仕組み、難しさ、今後の展開などを解説する。

授業の目標

自然言語の性質、自然言語をコンピュータで処理するアルゴリズム、難しさ等を理解する。これによって、ウェブサーチや機械翻訳などの自然言語処理の応用システムを健全に利活用する能力を身につける。

履修上の留意点

計算機科学および確率統計の入門的科目を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	自然言語処理の概要と歴史	まず、言語の働きと特徴を整理する。次に、自然言語をコンピュータで扱うことの難しさをまとめ、自然言語処理の基本問題、応用システムの概要を本講の構成とともに説明する。また、自然言語処理の歴史を概観する。 【キーワード】 自然言語、言語の働き、自然言語処理の難しさ、自然言語処理の歴史	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）
2	文字列・テキスト処理の基礎	コンピュータで自然言語を扱う上での基礎的事項として、文字コードのきまり、文字列の辞書式順序、文字列の探索の基本アルゴリズムなどを解説する。 【キーワード】 文字コード、辞書式順序、ハッシュ法、トライ法	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）
3	系列の解析(1)	文を単語に分割し、各単語の品詞、活用形などを求める形態素解析の方法を解説する。ラティス構造による文の分割結果からビタビアルゴリズムにより解を求める方法、また日本語解析において重要となる未知語の処理について説明する。 【キーワード】 形態素解析、ラティス構造、ビタビアルゴリズム、未知語処理	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	コーパスに基づく自然言語処理	近年の自然言語処理の発展は、文書を大規模に収集し、さらにそこに言語的解釈を与えたコーパスの活用によるところが大きい。コーパス構築の概要と意義、コーパス活用事例として言語モデル、さらに、分類問題としての自然言語処理の導入を行う。 【キーワード】 生コーパス、注釈付与コーパス、言語モデル、分類問題	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）
5	系列の解析（2）	隠れマルコフモデル(HMM)による品詞タグ付け、さらに、機械学習に基づく系列ラベリングとしての品詞タグ付け、固有表現認識について説明する。 【キーワード】 隠れマルコフモデル(HMM)、品詞タグ付け、系列ラベリング、CRF、固有表現認識	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）
6	意味の解析（1）	語の意味をどのように定義するか、また、辞書やシソーラスにおける意味の定義について説明する。さらに、同義性、多義性の問題を整理し、大規模コーパス中の共起をもとに計算する分布類似度、および語義曖昧性解消について説明する。 【キーワード】 内包的定義、外延的定義、メタファー、メトニミー、辞書、シソーラス、同義性、分布類似度、多義性、語義曖昧性解消	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）
7	構文の解析（1）	文は一次元の語の並びであるが、その中には構文、すなわち語の結びつきの構造がある。その表現形式である依存構造表現と句構造表現、また、構文のコンピュータ処理の基礎となる文脈自由文法および代表的な構文解析法であるCKY法を解説する。 【キーワード】 依存構造表現、句構造表現、文脈自由文法、CKY法	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）
8	構文の解析（2）	自然言語の文には多くの場合、構文的曖昧性がある。構文的曖昧性の解消の手がかりを整理した後、機械学習に基づく構文解析の代表的な手法であるグラフに基づく依存構造解析について、non-projectiveの場合、projectiveの場合のアルゴリズムを説明する。 【キーワード】 構文的曖昧性、グラフ表現に基づく依存構造解析、Chu-Liu-Edmonds法、MSTParser	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）
9	意味の解析（2）	文の意味表現として、述語を中心とした述語項構造を考え、述語と項の関係として格や意味役割を考える。英語の注釈付与コーパスに基づく意味役割付与、また、日本語の大規模コーパスからの格フレーム構築とこれに基づく格解析について解説する。 【キーワード】 述語項構造、格、意味役割、意味役割付与、格フレーム、格解析	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	文脈の解析	あるまとまった情報や意図は文章として表現される。文章には、語句の間の照応関係や節・文の間の談話関係など、さまざまなつながりが存在する。これらの関係を明らかにする文脈解析について解説する。 【キーワード】 結束性、一貫性、共参照、照応、ゼロ照応、談話構造、RST	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）
11	情報抽出と知識獲得	テキストからの情報抽出および知識獲得について説明する。情報抽出では主に固有名に関連する属性や、特定のイベントの主要な項目を発見する手法を説明する。知識獲得については、事態の間の関係の獲得と、それをまとめたスクリプトの構築について述べる。 【キーワード】 関係抽出、イベント情報抽出、事態間関係、スクリプト	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）
12	情報検索	情報検索の基礎である転置インデックス、語の重要度の計算、情報検索の評価尺度について解説する。また、ウェブ検索におけるページの重要度尺度であるページランクを紹介する。 【キーワード】 転置インデックス、TF-IDF法、適合率、再現率、F値、MAP、ページランク	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）
13	対話システム	音声認識・合成技術の成熟、自然言語処理技術の向上、携帯端末などの普及により、人間と自由に対話することができる対話システムが身近なものとなってきた。発話の意味、質問に対する応答、現在の音声対話システムの仕組みなどを解説する。 【キーワード】 ELIZA、SHRDLU、発話の意味、会話の公理、質問応答、音声対話、チューリングテスト	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）
14	機械翻訳	ウェブの出現やグローバル化の進展にともない機械翻訳への期待がますます高まっている。近年の、コーパスに基づく機械翻訳の進展、それを支える統計モデルと評価尺度について解説する。 【キーワード】 統計的機械翻訳、用例に基づく翻訳、IBMモデル、単語アライメント、BLEU	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）
15	まとめ	本講のまとめとして、これまでに説明してきた自然言語処理の基本解析のまとめと問題点の整理を行い、今後の改善について議論する。さらに、自然言語処理の応用システムの発展の方向性を展望する。 【キーワード】 クラウドソーシング、テキスト含意認識、多言語言論ネットワーク、言語生成	黒橋　禎夫（京都大学教授）	黒橋　禎夫（京都大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570250	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 教育のためのICT活用 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 ICT Utilization for Education (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：中川 一史 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：苑 復傑 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

初等中等教育におけるICT、高等教育におけるICTを活用した授業、教育とICTに係る著作権の問題、ICTを活用した障害者のための教育、教育におけるeラーニングの活用など、ICTと学校教育に関する基礎知識を具体的な事例にそくして扱う。

授業の目標

学校教育におけるICTの位置づけや活用に関する現状や課題などの具体的な事例から知識を習得し、他の関連科目でさらに学習を深めるようにする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	オリエンテーション及び初等中等教育におけるICT活用の考え方	15回の解説をするとともに、学習指導要領などでICT活用についてどのような現状であるか解説する。 【キーワード】 学校教育、初等中等教育、ICT、学習指導要領、教育の情報化	中川 一史(放送大学教授)	中川 一史(放送大学教授)
2	初等中等教育におけるICT活用 ～知識・理解・技能～	初等中等教育において、知識・理解・技能に関してインターネットや電子黒板、タブレット端末等のICT機器がどのように活用されているか解説する。 【キーワード】 ICT活用、事例、知識の習得、理解の促進、技能の習得	中川 一史(放送大学教授)	中川 一史(放送大学教授)
3	初等中等教育におけるICT活用 ～思考・表現～	初等中等教育において、思考・表現に関してインターネットや電子黒板、タブレット端末等のICT機器がどのように活用されているか解説する。 【キーワード】 初等中等教育、思考を深め・広げるICTの活用、表現するためのICT活用	中川 一史(放送大学教授)	中川 一史(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	障害のある子どもの教育とICT活用	学校教育において特別な支援を必要とする子ども達の学びは、多様である。本稿では、多様な障害特性を理解したうえで、それぞれの子どもの抱える困難とニーズという視点から、どのようなICT活用が役に立つのか、実際の情報支援機器も紹介しながら考えてみたい。 【キーワード】 特別支援教育、障害特性、発達障害、ケータイ・スマートフォンの活用	広瀬　洋子（放送大学教授）	広瀬　洋子（放送大学教授）
5	初等中等教育におけるICT活用に関する教員研修	初等中等教育に関して各地域で行われている教員研修がどのように行われているか解説する。 【キーワード】 初等中等教育、地域、学校、教員研修	中川　一史（放送大学教授）	中川　一史（放送大学教授）
6	初等中等教育における情報モラル	初等中等教育に関して情報モラルに関する授業や学校の取り組みがどのように行われているか解説する。 【キーワード】 情報モラル、授業、情報社会	中川　一史（放送大学教授）	中川　一史（放送大学教授）
7	高等教育におけるICT活用	高等教育におけるICTの活用は、従来の授業にICTを利用するというだけでなく、広い社会的な意味をもっている。そうした広がりをみるために本稿では、まずICTがどのような特質を持っているのか(第1節)、それが大学教育の理念や組織とどのように関わるのか(第2節)、そしてそれが社会的な課題にどのように結びつくか(第3節)、さらにICT活用のスコープを考える。 【キーワード】 高等教育、大学教育、情報通信技術、ICT、インターネット、教育機会	苑　復傑（放送大学教授）	苑　復傑（放送大学教授）
8	放送大学・インターネット大学	放送を中心とするICTを用いて教育機会を拡大する放送大学は1970年代から世界の各国で活動してきた。本稿では放送大学の代替教育機関としての役割を整理し、日本の放送大学の成立と問題点を述べ（第1節）、いま拡大しつつあるインターネット大学の展開とその問題点について述べる(第2節)。さらに中国における遠隔教育による成人教育の拡大メカニズムを分析する（第3節）。 【キーワード】 放送大学、インターネット大学、高等教育の機会拡大、ICTの代替機能	苑　復傑（放送大学教授）	苑　復傑（放送大学教授）
9	大学の授業とICT活用	大学教育の質的改善にICTは大きな役割を果たすことができる。本稿ではアメリカの大学の事例をとってICT活用がどのように行われているかを概観し（第1節）、日本におけるその展開を述べる（第2節）とともに、特に日本の大学教育のどのような構造的特質が、ICT活用への抵抗を生んでいるかを述べる（第3節）。 【キーワード】 大学の授業、視聴覚教育、混合授業、反転授業、学修管理システム、LMS、大学教育改革、ICTの補完機能	苑　復傑（放送大学教授）	苑　復傑（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	開放型授業とMOOC	ICT活用は、これまでの個別大学の枠を超えて教育機会を提供することを可能とする。本稿ではインターネットの利用が、大学と授業、そして学生との間の関係にどのような変化をもたらすかを整理し（第1節）、その具体的な形態として大学におけるインターネットを用いた授業(第2節)、授業や教材の大学外への公開(第3節)、そしてその発展としての大規模オープンオンラインコース（MOOC）について述べ（第4節）、最後にMOOCの可能性と課題を考える(第5節)。 【キーワード】 情報通信技術、ICT戦略、SNS、グローバル化、OCW、MOOC、ICTの開放機能	苑　復傑 (放送大学教授)	苑　復傑 (放送大学教授)
11	高等教育における障害学生支援とICT活用	日本の高等教育における障害者支援の変遷を概観しつつ、メディアを活用した支援の在り方を視覚障害、聴覚障害への支援を中心に学ぶ。特に学習の根幹にかかわる「読む」「聞く」「書く」「話す」の困難を乗り越えるメディア活用について理解を深めていく。 【キーワード】 高等教育機関、障害学生、ICT活用	広瀬　洋子 (放送大学教授)	広瀬　洋子 (放送大学教授)
12	海外の高等教育における障害者支援とICT	国連の障害者権利条約や、ユネスコの「すべての人に教育を」の提唱を待つまでもなく、世界の国々では、障害者が高等教育で学ぶ環境作りが進んでいる。本稿では、障害者の高等教育について、米国と英国、EU諸国など海外の動きを中心に紹介する。 【キーワード】 ユニバーサルデザイン、障害者支援、高等教育、米国、EU、英国	広瀬　洋子 (放送大学教授)	広瀬　洋子 (放送大学教授)
13	高等教育における学習コンテンツ	高等教育においては、これまで様々なICTの活用が行われてきた。本稿では授業を効果的に実施するための学習コンテンツに着目する。学習コンテンツの種類やその特徴を整理した上で制作方法や配信方法について説明する。 【キーワード】 ICT活用教育、学習コンテンツの種類、コンテンツ制作、インターネット配信	辻　靖彦 (放送大学准教授)	辻　靖彦 (放送大学准教授)
14	オンライン教育におけるICT活用	eラーニングやMOOCなど、これまで高等教育における様々なオンライン型の教育形態においてICTが広く活用されてきた。本稿ではオンライン授業を効果的に実施するためのICT活用方法について、概観する。 【キーワード】 eラーニング、LMS、MOOC、反転授業	辻　靖彦 (放送大学准教授)	辻　靖彦 (放送大学准教授)
15	現代社会の学修要求とICT活用	本稿では、教育へのICT活用の可能性と課題とを展望する。まずICTの発展によって生じる新しい可能性について述べ（第1節）、ICTを活かすための社会的、制度的、経済的な条件を整理し（第2節）、さらにICT活用が直面する基本的な課題について考えてみたい（第3節）。 【キーワード】 ICT活用、ICT技術の発展、大学教育改革、主体性	苑　復傑 (放送大学教授)	苑　復傑 (放送大学教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570218	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ユーザ調査法 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 User Survey and Research Methods (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：黒須　正明　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：高橋　秀明　（放送大学准教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

コンピュータやインターネットが普及するにつれて、私たちはさまざまなハードウェアやソフトウェア、サービス、そしてシステムに取り巻かれて生活するようになった。こうしたものを私たちにとって便利で使いやすいものとするためには、まず、それらの情報機器を利用するユーザについての的確な理解を得ることが大切であり、そうした情報を得たうえでシステムの設計を行うことが必要である。本科目では、そのための調査法を多面的に取扱い、情報学のための研究方法の基礎として位置づける。

授業の目標

コンピュータやインターネットの技術をつかってハードウェアやソフトウェアなどの設計(たとえばウェブサイトの設計など)を行うとき、そのユーザについて、その特性やニーズ、利用状況を的確に把握したうえで、使いやすく有用性の高いものづくりを進めてゆく方法論について理解し、実際にその方法を利用して情報システムの設計に取り組めるようにする。

履修上の留意点

この科目では、心理学的な概念や手法を利用することが多いので、受講者は、「心理学概論」「心理学研究法」「認知心理学」などを受講しておくことが望ましい。また、統計的な手法を利用することもあるので「心理統計法」「社会統計学入門」を受講しておくことも望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ユーザを知る1：考え方(1)	・使いにくい、分かりにくい情報機器は、ユーザのことを考えずに開発されたことが大きな原因であることを理解する。 ・ユーザについてきちんと調べてからものづくりをするという、人間中心設計の考え方の必要性を理解する。 ・ユーザ調査法が主に認知心理学の研究法を応用していることを理解すると同時に、ユーザを調査する際の注意点を理解する。 【キーワード】 ユーザ、人間中心設計、認知心理学	黒須　正明（放送大学教授） 高橋　秀明（放送大学准教授）	黒須　正明（放送大学教授） 高橋　秀明（放送大学准教授）
2	ユーザを知る2：考え方(2)	・ユーザを知ることは、本来的に困難であることを理解する。 ・ユーザについて考える際には、認知心理学における人間についての捉え方が参考になることを理解する。 【キーワード】 内観、人間工学、情報処理系、生態心理学、社会文化的アプローチ	高橋　秀明（放送大学准教授）	高橋　秀明（放送大学准教授）
3	ユーザを知る3：人間の多様性	・ユーザとなりうる人々が、どのような側面に関して異なっており、その多様性の広さがどの程度であるかを理解する。 ・また、その多様性が、どのような場合に問題になるのかを理解する。 【キーワード】 多様性、特性、障害、性別、志向性、状況、環境	黒須　正明（放送大学教授）	黒須　正明（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ユーザの心理を知る1:感情・感性、心理学的測定	・消費者の感情、感性は製品の評価や購入に影響を与える。また、感情、感性は近年盛んに研究され、その性質と重要性が明らかになりつつある。 ・感情と感性に関する性質、および感情や感性を測定する手法について説明する。 ・学習目標は、(1) 感情、感性の重要性を説明することができる、(2) 感情、感性の測定・評価課題に対して適切な方法を構成できることである。 【キーワード】 感情、感性、情動、心理学的測定	大西 仁 (放送大学教授)	大西 仁 (放送大学教授)
5	ユーザの心理を知る2:質問紙調査法	・ユーザの心理・背景・態度・意見・好み・動機・認知度等を知るにあたってよく使われる手法である質問紙調査法について説明する。 ・本章の学習目標は、以下の3点である。(1) 質問紙調査におけるデータ収集方法について理解し、調査を具体的に設計することができる、(2) 調査票を適切に作成する際の注意点について学び、既存の調査票を評価することができるとともに、適切な調査票が作成できる、(3) 質問紙調査の対象者の選定方法について理解し、質問紙調査の結果の一般化の可能性について説明できる。 【キーワード】 質問紙調査、アンケート調査、データ収集、調査票	青木 久美子 (放送大学教授)	青木 久美子 (放送大学教授)
6	ユーザの心理を知る3:インタビュー法	・情報システムや情報サービスの利用における文脈や状況を利用者の視点に立って把握するために実施するインタビュー法を紹介する。 ・本章の学習目標は、以下の3点である。(1) 構造化、半構造化、非構造化の違い、単独インタビューとグループインタビューの違いを理解し、調査目的に応じて適切なインタビュー手法を選択することができる、(2) 調査の準備や協力者とのコンタクト方法、合意書の作成方法を含む、インタビュー調査に必要な手続きを理解し、手順を踏んでインタビュー調査を進めることができる、(3) インタビュー調査結果の分析方法を理解し、適切な方法により内容分析を実施することができる。 【キーワード】 インタビュー調査、データ収集、内容分析	三輪 眞木子 (放送大学教授) 青木 久美子 (放送大学教授)	三輪 眞木子 (放送大学教授) 青木 久美子 (放送大学教授)
7	ユーザの認知を知る1:言語プロトコル法・視線分析法	・ユーザ調査にあたり、課題分析を行う必要性を理解する。 ・ユーザ調査において、課題解決の結果と過程とについてそれぞれデータを収集できることを理解する。 ・課題解決の過程に関するデータ収集法として、言語プロトコル法と視線分析法とについて理解する。 【キーワード】 課題分析、結果と過程、言語プロトコル法、眼球運動、視線分析法	高橋 秀明 (放送大学准教授)	高橋 秀明 (放送大学准教授)
8	ユーザの認知を知る2:実験法	・実験から結論を得るためには適切な実験を計画する必要があり、そのためには実験の考え方を理解することが重要である。 ・実験の考え方、実験の計画と実施方法、実験を行う際の注意点について説明する。 ・学習目標は、(1) 実験と調査の区別ができる、(2) 興味ある事象について、具体的な実験を計画できるようになることである。 【キーワード】 因果関係、統制、独立変数、従属変数、実験計画、倫理的配慮	大西 仁 (放送大学教授)	大西 仁 (放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	ユーザの日常生活を知る1：ログ解析	・ログ（ログデータ）とは計算機や通信機器の利用状況や処理を記録したデータのことであり、それに類したデータは身の回りに溢れている。これらのデータを活用して様々な問題解決が行われている。 ・ログデータとその解析法の概要について説明する。 ・学習目標は、ログデータから必要な情報を抽出する方法を提案できるようになることである。 【キーワード】 ログ（ログデータ）、ネットワーク、統計解析、機械学習、テキストマイニング	大西　仁（放送大学教授）	大西　仁（放送大学教授）
10	ユーザの日常生活を知る2：談話分析・日記法・観察法	・本章では、日常生活のさまざまな場面で利用者の心理や行動を知るための方法として、談話分析、日記法、観察法をとりあげる。 ・本章の学習目標は、以下の4点である。（1）談話分析のデータ収集方法を理解し、調査を具体的に設計することができる、（2）日記法のデータ収集手法を理解し、協力者に日常生活を記録してもらう方法を選択できる、（3）観察法によるデータ収集の手順を理解し、チェックリストを作成することができる、（4）質的研究を評価する視点を理解し、それを用いて先行研究を評価することができる。 【キーワード】 談話分析、日記法、観察法、質的調査法、研究の評価	三輪　眞木子（放送大学教授）	三輪　眞木子（放送大学教授）
11	ユーザの日常生活を知る3：事例研究・エスノグラフィー	・本章では、事例研究とエスノグラフィーの2つの研究アプローチを紹介する。 ・本章の学習目標は、以下の3点である。（1）事例研究のデータ収集とデータ分析の方法を理解し、調査を具体的に設計することができる、（2）エスノグラフィーのデータ収集とデータ分析の方法を理解し、調査を具体的に設計することができる、（3）収集した多様なデータを一括管理して分析プロセスを記録する方法を説明できる。 【キーワード】 談話分析、日記法、観察法、質的調査法	三輪　眞木子（放送大学教授）	三輪　眞木子（放送大学教授）
12	ユーザを知りつくす：多面的観察	・多面的観察の必要性を理解する。多面的観察では、さまざまなデータを時間推移表にまとめ分析することを理解する。 ・多面的観察の応用問題として、エラー分析・事故分析について学ぶ。 【キーワード】 多面的観察、時間推移表、エラー分析、事故分析	高橋　秀明（放送大学准教授）	高橋　秀明（放送大学准教授）
13	ユーザによる評価1：ユーザビリティとその評価	・ユーザから製品やシステムのユーザビリティの評価に関する情報を得る手法について説明する。 ・これらは、設計中のハードやソフトのユーザビリティを向上させる目的でも利用されるが、現在、生活や仕事の場面で使っているものにどういう問題があるかを把握するためにも利用されるものである。 【キーワード】 ユーザビリティ評価、ユーザビリティテスト、インスペクション法、有効さ、効率、満足度	黒須　正明（放送大学教授）	黒須　正明（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	ユーザによる評価2：ユーザ経験(UX)とその評価	・設計段階で用いるユーザ調査の手法の他に、設計が終わり、製品などが市場にリリースされて以降の段階で行う調査手法がある。 ・ここでは、多面的な品質特性を考慮し、かつそうした長期的なスパンを視野に含めようとするユーザ経験(UX: User Experience)の考え方を説明し、それをどのように評価・測定するかについて述べる。 【キーワード】 ユーザ経験(UX)、品質特性、設計品質、利用品質、経験サンプリング法、当日再構築法、時間枠ダイアリー、AttrakDiff、UXカーブ	黒須　正明(放送大学教授)	黒須　正明(放送大学教授)
15	ユーザ調査法：まとめ	・ユーザを知るためには、心理学や社会学、ユニバーサルデザインなど、様々な分野で開発されてきた考え方の枠組みや手法がある。 ・これらを活用して、どのようにハードウェアやソフトウェアを設計すべきかについて、科目内容の全体をまとめながら整理する。 【キーワード】 ISO13407、ISO9241-210、倫理的配慮	黒須　正明(放送大学教授) 高橋　秀明(放送大学准教授)	黒須　正明(放送大学教授) 高橋　秀明(放送大学准教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570072	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 情報社会のユニバーサルデザイン （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Universal Design in the Information Society (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：広瀬 洋子 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：関根 千佳 （同志社大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

人間が生きていく上で、社会との接点を確保することは非常に重要である。しかし、現代社会においては、多様なニーズを持つ人々が、情報、教育、放送メディア、社会活動などに「アクセス」することは、困難な場合もまだある。この講義では、情報や教育のアクセシビリティを中心に、国内外の状況、支援技術やユニバーサルデザインの状況を理解し、高齢化、情報化の進む21世紀における人間と情報の在り方について考える。

授業の目標

・ユニバーサルデザインやアクセシビリティの概念と世界的な流れを把握し、企業や社会活動において、多様なユーザーのニーズを考慮した情報発信やユーザー支援が行えるようになる。
・グローバルな観点から、人間の多様性と、今後の情報社会の在り方について自分の意見を持つようになる。

履修上の留意点

インターネット接続が可能であること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	アクセシビリティおよびユニバーサルデザインとは	全体の説明 アクセシビリティ、およびユニバーサルデザインの定義、概要、歴史的背景、分類について説明する。「アクセシビリティ」という概念の誕生や、モノ・人間をとりまく環境・メディア環境の変化、および社会・文化・歴史的背景について解説する。ユニバーサルにデザインという考え方・社会の在り方を強調 【キーワード】 アクセシビリティおよびユニバーサルデザインの定義	広瀬 洋子（放送大学教授）	広瀬 洋子（放送大学教授） 関根 千佳（同志社大学教授）
2	ユニバーサルデザインを支える概念	ユニバーサルデザインに関連するノーマライゼーション、インクルージョン、デザインフォーオールなどの概念の整理と、国内外におけるその流れについて解説する。ユニバーサルデザインの主要な要素であるアクセシビリティとユーザビリティとの概念整理を行う。 【キーワード】 ユニバーサルデザイン関連概念の整理	関根 千佳（同志社大学教授）	関根 千佳（同志社大学教授） 広瀬 洋子（放送大学教授）
3	ユニバーサルデザインのまち・もの・サービス	アクセシビリティは、情報のみならず、建築・公共交通といったハード部分でも重要な概念であり、かつ公共サービス・公民権行使・教育体制・放送メディアなどのソフトやサービス部分においても重要である。ここではその広がりとカバーする範囲について解説する。 【キーワード】 ハードウェアのアクセシビリティ、ソフトやサービスのアクセシビリティ	関根 千佳（同志社大学教授）	関根 千佳（同志社大学教授） 広瀬 洋子（放送大学教授） ゲスト:川内美彦(東洋大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	アクセシビリティやユニバーサルデザインに関する条約・法律・国際標準	国連の障害者権利条約、各国の法律、国際標準などにおいて、アクセシビリティがどのように扱われ、確保されているかを解説する。 【キーワード】 障害者権利条約、リハビリテーション法、ISO、JIS	関根　千佳（同志社大学教授）	関根　千佳（同志社大学教授） 広瀬　洋子（放送大学教授） ゲスト：長瀬　修（立命館大学客員教授）
5	ユーザー理解（障害者）	アクセシビリティやユニバーサルデザインを理解するためには、ユーザーが具体的に　どのような問題を抱えているかを知る必要がある。ここでは、障害の特性と問題点を中心に解説する。 【キーワード】 ユーザー理解、障害学、ダイバーシティ	近藤　武夫（東京大学准教授）	近藤　武夫（東京大学准教授） 広瀬　洋子（放送大学教授）
6	ユーザー理解（高齢者）	アクセシビリティやユニバーサルデザインを理解するためには、ユーザーが具体的に　どのような問題を抱えているかを知る必要がある。ここでは、高齢者の問題点を中心に解説する。 【キーワード】 ユーザー経験、ジェロントロジー、加齢変化	榊原　直樹（(株)ユーディット取締役主任研究員）	榊原　直樹（(株)ユーディット取締役主任研究員） 関根　千佳（同志社大学教授）
7	ICTのアクセシビリティ	コンピュータ、モバイル機器、オフィス機器、家電、公共端末などの様々なICTデバイスは、多様な人の利用を考慮し、アクセシブルに作られるべきものである。ここでは機器やサービスのアクセシビリティを中心に解説する。 【キーワード】 ICTアクセシビリティ、デジタルデバイド	近藤　武夫（東京大学准教授）	近藤　武夫（東京大学准教授） 広瀬　洋子（放送大学教授）
8	情報のアクセシビリティとその確保	IT機器やWebサイト、広報物や駅のサイン計画にいたるまで、社会にあふれる「情報」に対し、どのようにアクセシビリティを確保し、確実に伝えるべきなのか、概観する。また、アクセシビリティの向上のために、企業や自治体がどのように取り組んでいるか、実例を挙げて解説する。 【キーワード】 情報のアクセシビリティ、ユーザー経験、Webアクセシビリティ	榊原　直樹（(株)ユーディット取締役主任研究員）	榊原　直樹（(株)ユーディット取締役主任研究員） 関根　千佳（同志社大学教授）
9	Webアクセシビリティ概要	Webサイトのアクセシビリティを確保するために必要な、ユーザーの多様性に関する知識と、スクリーンリーダーなどの支援技術についての基礎知識を解説する。また国内外の法律や標準化動向、および、その基盤となる技術や自治体等における改善プロセスについて説明を行う。 【キーワード】 Webアクセシビリティ、スクリーンリーダー、X8341	榊原　直樹（(株)ユーディット取締役主任研究員）	榊原　直樹（(株)ユーディット取締役主任研究員） 広瀬　洋子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	高等教育におけるユニバーサルデザイン	世界的に、社会があらゆる人々に教育の機会を提供する努力が広がりつつある。あらゆる事が刻々と変化する現代において、多様な人々が人生のあらゆるステージにおいて高等教育で学ぶことを求めている。前半では、障害者の高等教育について、米国・英国・EU・日本の状況について焦点をあてる。後半は高齢者の学びに関する新しい動きを紹介する。 【キーワード】 高等教育、ユニバーサルデザイン、障害者支援、米国、EU、高齢者	広瀬　洋子（放送大学教授）	広瀬　洋子（放送大学教授） 関根　千佳（同志社大学教授）
11	教育のアクセシビリティにおける合理的配慮	ICTや人的支援を活用することは、多様な学生が学びの場に参加するためには不可欠なものとなるケースがある。こうした配慮は、莫大にコストがかかったり、配慮の提供により他の学生に極端に不利に働くなど、度を超えたものとならない範囲（合理的な範囲）で、提供する義務があることが国際的に定められつつある。教育での合理的配慮とは何か、試験や教室での配慮の実例を題材として紹介する。 【キーワード】 教育のアクセシビリティ、合理的配慮	近藤　武夫（東京大学准教授）	近藤　武夫（東京大学准教授） 広瀬　洋子（放送大学教授）
12	遠隔教育のアクセシビリティ	eラーニングを使った教育は、地域や通学範囲といった物理的な制約のみならず、病院や家庭から療養中などの理由で離れることができない学生にもメリットをもたらす。ここでは、英国のオープンユニバーシティを中心に、遠隔教育におけるアクセシビリティの事例とそこで用いられている解決策について解説する。放送大学のアクセシビリティについても紹介する。 【キーワード】 遠隔教育、e-ラーニング、英国オープンユニバーシティ、放送大学	広瀬　洋子（放送大学教授）	広瀬　洋子（放送大学教授） 関根　千佳（同志社大学教授）
13	放送メディアのアクセシビリティ	欧米ではテレビやビデオ、ラジオやインターネット放送において、字幕や音声解説が義務付けられ、多様な人がリアルタイムに情報にアクセスできるようになっている。日本でもその動きは加速している。字幕はテキストがあれば、映像資料の検索や外国語への変換なども簡単にでき、今後その重要性は増していくだろう。本章では、その仕組みや技術、カバーする法律や制度について、社会歴史的背景も交えて解説する。 【キーワード】 字幕、音声解説、デコーダ法、CVAA、音声認識技術	広瀬　洋子（放送大学教授）	広瀬　洋子（放送大学教授） 関根　千佳（同志社大学教授）
14	図書のアクセシビリティ	図書（書籍や教科書なども含む印刷物）を読む上で求められるアクセシビリティについて解説する。読むことをサポートする対面朗読や拡大図書、録音図書などを取り上げるほか、著作権法についても解説する。電子書籍のアクセシビリティ向上となった事例などを紹介する。 【キーワード】 読むことの権利、Daisy、著作権法、電子書籍アクセシビリティ	近藤　武夫（東京大学准教授）	近藤　武夫（東京大学准教授） 広瀬　洋子（放送大学教授）
15	ユニバーサルデザインの未来	世界各国で研究が行われている、触覚や視線入力などの新たなユーザーインターフェースによるアクセシビリティの動向や、高齢者が増える中で、アクセシビリティが今後の企業経営や、社会のあり方に対して果たす大きな役割について解説する。 【キーワード】 次世代ユーザーインターフェース、ジェロントロジー、ソーシャルイノベーション、企業経営とアクセシビリティ	関根　千佳（同志社大学教授）	関根　千佳（同志社大学教授） 広瀬　洋子（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570145	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 情報化社会と教育 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Education in the Information Society (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：苑　復傑　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：中川　一史　（放送大学教授）　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

この授業は情報化社会における教育のあり方と問題点とを、多角的な視点から考えるものである。まず第1章では、情報と教育との間の関係を、その基礎的な意味に立ち戻って考える。続く第2章から第5章までは、高等教育を中心として、情報化社会のもつ意味と問題点とを考える。さらに第6章から10章までは、初等教育、中等教育の情報化社会への対応、授業での取り組み、そして第11章から15章までは、情報化社会における各学校段階でのメディア教育の内容と実態、メディア・リテラシーの実際とその意味を論じる。

授業の目標

情報化社会における教育の現状や課題に関する知識を習得する。情報技術の応用に関して用いられる様々な新しい用語について基本的な知識を得る一方で、情報技術との関連を通して教育および学習の意味について考えなおす機会とする。

履修上の留意点

この科目の通信指導はWebのみでの提出となります。郵送では受け付けませんので、ご注意ください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	情報と教育	情報化社会の進展が教育に大きな可能性を拓いているが、教育は情報化社会の発展に重要な役割をもっている。しかしそれだけではなく、情報化社会がもたらす問題にも教育は対処しなければならない。この第1回の授業ではまず、①情報化社会とは何かを整理し、②その教育との基本的な関係を考えたうえで、③とくに高等教育と情報化社会との関係を概観して、第2回から第5回の授業での論点を紹介する。 【キーワード】 情報通信技術、情報化社会、情報、知識、教育、学校、大学教育	苑　復傑（放送大学教授）	苑　復傑（放送大学教授）
2	大学の授業改革と情報通信技術	情報通信技術は、旧来からの大学の組織や授業の方法をより効果的なものとするのに大きな役割を果たす。しかしその一方でそれを促進するためには多大な費用と組織的な努力が必要となる。この授業ではまず、①現代の高等教育の問題点とその改革の方向、②授業のあり方における情報通信技術の活用の具体的な形態、③組織的な授業改革の中での情報通信技術の役割を考える。 【キーワード】 ICT、授業改革、学習管理システム、LMS、ファカルティ・ディベロップメント、FD、教育力	苑　復傑（放送大学教授）	苑　復傑（放送大学教授）
3	インターネット大学	情報通信技術の発展は、従来の組織的な制約を乗り越えて大学がその教育機能を発展させることを可能にしている。それは伝統的な形態の大学に代替するものとして、バーチャルな大学が可能となることを意味する。この授業ではまず①伝統的な大学の社会的な制約を整理し、②一部の授業をインターネットで配信する大学、③インターネットによって完全に大学教育課程を提供する大学の事例を紹介し、そうした大学についての質保証、社会的認証などいくつかの問題点を指摘する。 【キーワード】 バーチャル大学、インターネット大学、インターネット授業、混合型学習	苑　復傑（放送大学教授）	苑　復傑（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	大規模公開オンライン授業	2000年代に入ってから、伝統的な研究大学においては、その授業を公開する運動が広がってきた。この授業では、まず①オープンコースウエアと称する公開授業教材（OCW）を取り上げ、②2010年ごろ発生した大規模公開オンライン授業ムーク（MOOC）の実態について紹介し、そして③その背景、MOOCの可能性、そしてその潜在的な問題点を論ずる。 【キーワード】 公開授業教材、オープン・コース・ウェア（OCW）、大規模公開オンライン授業、ムーク（MOOC）	苑　復傑（放送大学教授）	苑　復傑（放送大学教授）
5	情報化社会と高等教育の未来	高等教育における情報化の発展は、多様な可能性を切り開くものであった。しかし他方で、これまでの高等教育になかった問題点をも作りだす。この授業では情報通信技術の進展とその高等教育への導入が、高等教育にもたらす基本的な課題を、①対面授業を中心とする授業のあり方、②大学を支える市場メカニズムと質保証の枠組みに関して論じ、さらに③情報化社会において必要とされる人間像と学習のあり方について考える。 【キーワード】 コンピテンシー、学習成果の評価、市場メカニズム、質保証、学生の主体性、相互作用としての学習	苑　復傑（放送大学教授）	苑　復傑（放送大学教授）
6	学校における児童・生徒をとりまく情報化社会への対応	児童・生徒が情報化社会に対応する力を育むには、学校において、情報社会に参画する態度形成だけでなく、言語活動の充実、コミュニケーション力の育成、そしてそれらを支える環境整備も重要になってくる。この授業では、これらを視野に入れて、学校における児童・生徒をとりまく情報化社会への対応について検討する。 【キーワード】 児童・生徒、情報化社会、ネット環境	中川　一史（放送大学教授）	中川　一史（放送大学教授）
7	情報化社会と小学校の授業の実際・学校の取り組み	情報化社会への対応とは、必ずしも、インターネットでメールを送ったり、有害情報の対処をしたりすることだけではない。この授業では、学習指導要領に見る情報化社会への対応と小学校の授業の実際および情報化社会に対応する小学校の取り組みについて紹介する。 【キーワード】 小学校、情報化社会、授業、カリキュラム	中川　一史（放送大学教授）	中川　一史（放送大学教授）
8	情報化社会と中学校の授業の実際・学校の取り組み	この授業では、学習指導要領に見る情報化社会への対応と情報化社会に対応する中学校の取り組み、および中学校での情報化社会に関する授業の実際やカリキュラムのあり方について紹介する。 【キーワード】 中学校、情報化社会、授業、カリキュラム	中川　一史（放送大学教授）	中川　一史（放送大学教授）
9	情報化社会と高等学校の授業の実際・学校の取り組み	この授業では、学習指導要領に見る情報化社会への対応と情報化社会に対応する高等学校の取り組み、および高等学校での情報化社会に関する授業の実際やカリキュラムのあり方について紹介する。 【キーワード】 高等学校、情報化社会、授業、カリキュラム	中川　一史（放送大学教授）	中川　一史（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	家庭・地域における児童・生徒をとりまく情報化社会への対応	これまで学校種による授業の実際やカリキュラムについて紹介してきたが、この授業では、情報化社会への家庭・地域における対応や、研修会・教材の配信等について論じていく。 【キーワード】 家庭、地域、児童・生徒、情報化社会	中川　一史（放送大学教授）	中川　一史（放送大学教授）
11	メディア・リテラシーの概要	この授業では、メディア教育によって育まれるメディア・リテラシーという能力の概要について解説する。まず、メディア・リテラシーという言葉の定義について先行研究を取り上げて整理する。また、ICTによるコミュニケーションの変化やデジタルネイティブという世代の登場を踏まえ、ICT時代、あるいはソーシャル・メディア時代のメディア・リテラシーを研究する重要性について検討する。 【キーワード】 メディア、リテラシー、定義、ICT、デジタルネイティブ	中橋　雄（武蔵大学教授）	中橋　雄（武蔵大学教授）
12	メディア教育の歴史的展開	この授業では、時代や社会に応じたメディア・リテラシーのあり方を問い直していく必要があることについて考える。例として、イギリス、カナダ、日本の歴史的な系譜について扱う。また、日本でメディア・リテラシーが注目された理由のひとつといえる情報教育の展開を確認することから、「情報活用能力」の育成を目指す情報教育と「メディア・リテラシー」の育成を目指すメディア教育の接点を探る。 【キーワード】 歴史的系譜、イギリス、カナダ、情報教育、情報活用能力	中橋　雄（武蔵大学教授）	中橋　雄（武蔵大学教授）
13	メディア教育の内容と方法	この授業では、メディア教育が何をどのように学ぶものとして捉えられてきたか、ということについて整理する。メディア教育として学習者が理解すべき内容である「メディアの特性」とはどのようなものか、これまでどのように整理され、どのように学ばれてきたのか、先行研究を取り上げて紹介する。その上で、メディアを活用して子どもたちが表現する授業デザインを探究してきたD-projectの取り組みを事例として取り上げる。 【キーワード】 メディア、リテラシー、メディアの特性、教育内容、教育方法	中橋　雄（武蔵大学教授）	中橋　雄（武蔵大学教授）
14	学校教育におけるメディア教育	この授業では、日本の学校教育においてメディア教育がどのように位置付いているのか解説する。特に学習指導要領における指針、学力テストの内容に見られる位置付け、教科としての実践開発研究の取り組みについて紹介する。 【キーワード】 学校教育、学習指導要領、学力テスト、研究開発学校	中橋　雄（武蔵大学教授）	中橋　雄（武蔵大学教授）
15	メディア教育を支援する教材とガイド	この授業では、わが国の学校教育におけるメディア教育が、学校外の機関によってどのように支援されてきたかについて学ぶ。メディア教育用の教材は、総務省、公共放送、研究者など、様々な立場のもとで開発されてきた。これらは、どのような学習内容を取り上げ、どのような方法で学習を促進させようとしてきたのか確認する。また、こうした支援を継続的に行う上での課題について検討する。 【キーワード】 教材、リソースガイド、総務省、学校放送、研究者	中橋　雄（武蔵大学教授）	中橋　雄（武蔵大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	5570026	履修制限	無	単位数	1

科目名（メディア） ＝ 感性工学入門 （’１６）＝ （OL）

英文名 ＝ 〔 Sensibility Engineering (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：黒須　正明　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

感性についての学問領域としては、感性工学や感性科学などがあり、そこには心理学やデザイン、美学、マネジメント、生理学、工学、ユーザエクスペリエンスなどからの多面的な研究アプローチが含まれています。しかし、感性ということばは、日常的に使っていても、いざきちんと明確に説明しようとすると捉え所がなく難しいものです。この感性という概念について、これまでに行われてきた多面的な研究アプローチを紹介し、その輪郭を明らかにすると同時に、感性工学のアプローチのあり方を示すことを目的とします。全体で8回とコンパクトにまとめ、斯界の代表的な方々をゲストとしてお招きしてインタビューを行い、感性工学の導入科目として理解しやすくしました。

授業の到達目標

感性工学について、その概念、デザインや心理学、美学、マネジメントなどとの関係、その評価や計測のやり方などについて基本的な理解を得ることを目標とします。この科目の履修によって、感性と感性工学とについてバランスの取れた理解が可能になり、関連した書籍が理解できるようになることを目指します。

成績評価の方法

通信指導、単位認定試験および再試験は行いません。
回ごとの小テスト(80%)とディスカッション(20%)によります。

履修上の留意点

感性工学はユーザインタフェースに対する取り組みのひとつであることから、本科目の履修後にヒューマンインタフェースの概論科目を受講して、さらに知識の体系化を行っていただきたいと思います。受講にあたっては、特に高度なパソコン利用スキルは必要としませんが、基本的なPC操作(インターネット利用を含む)や文書作成などはできることを前提にします。
※本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
1	感性と感性工学	感性をモノ(人工物)の品質と捉えた場合、人間にとって刺激となる人工物に備わっている感性品質(美しさや可愛さ)と、その刺激によって受け手の内部に生起する感性体験(美しい、可愛いというものの他に、嬉しい、楽しい、好き嫌いなど感情的なものも含まれている)とが区別される。感性品質を工学的にどのようにして人工物に作り込むかも重要であるが、感覚や知覚、認知、感情といった心的メカニズムと関連した感性体験が生まれる仕組みやその質的な違いも重要な課題である。また日本語としての感性がどのような歴史を辿って生まれてきたものか、それは外国語のどのような概念に対応するかなど、第一回は感性と感性工学に関する概要を講義する。 【キーワード】 感性、感性工学、感性科学、感性品質、感性体験、感覚、知覚、認知、感情	黒須　正明(放送大学教授) ゲスト:長町三生(広島大学名誉教授)
2	感性のデザイン	感性品質を作り込むデザインという活動は、どのようなプロセスを辿るのか。アートとはどう違うのか。感性デザインのプロセスはどのような流れを経るのか。感性を作り込む仕事をしているデザイナーやクリエイターとはどのような技能や心理特性を持った人々なのか、またデザイナーにはどのような職分があるのか。感性に関連したデザイン評価というのはどのようなアプローチか。第二回は、デザインを巡るこれらの問いに対する解を探る。 【キーワード】 デザイナーの感性、クリエイター、ユーザの感性	黒須　正明(放送大学教授) ゲスト:黒須美彦(シンガタクリエイティブディレクター)

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　師　名 (所属・職名)
3	感性と認知・感情	感性という体験(経験)は、まず対象を知覚することから始まる。しかし感性という心理的活動は、知的なものだけから構成されるのではなく、感情との関連性も深い。感情については、その生理学的な基礎や、現象的な分類について、多くの研究がなされてきた。第三回は、人間の知的情報処理に関する知覚心理学的知見と、感情の心理学に関する知見とをあわせて、感性という体験の実態を明らかにすることを目指す。 【キーワード】 認知、感覚、知覚、情報処理、感情	黒須　正明 (放送大学教授) ゲスト:三浦佳世(九州大学教授)
4	感性の評価・計測	感性品質を評価することは難しい。なぜなら分析者が評価を行おうとした途端にそれは評価者としての感性体験になってしまうからである。そのため感性の評価や計測に関するアプローチは、その大半が感性体験の評価や計測に関わるものである。現在、感性の評価や計測には、SD法や評定尺度などの心理学的なアプローチと、眼球運動のような人間工学的アプローチ、脳波や心拍などの生理学的なアプローチが共存している。第四回は、その多様なアプローチを整理して、どこまで、どのように感性に肉薄できるのかを学ぶ。 【キーワード】 評価、計測、心理学的手法、生理学的手法	黒須　正明 (放送大学教授) ゲスト:橋爪絢子(首都大学東京助教)
5	美しさとかわいらしさ	美しさについては、従来、美学という研究領域があり、感性品質としての美しさを生むための工夫(たとえば黄金分割)があり、また感性体験としての美しいという気持ち(感動)に関する分析も行われてきた。さらに美は芸術と関連性が深いが、この二つの概念は全く同じものではない。また、かわいいは現在ではkawaiiとして外国でも用いられる概念になっている。これら、美しさとかわいらしさにまつわる課題を明確化することを第五回の目標とする。 【キーワード】 美しさ、美しい、可愛い、カワイイ、感性品質、感性体験、美学、芸術	黒須　正明 (放送大学教授) ゲスト:大倉典子(芝浦工業大学教授)
6	感性とクリエイティビティ	感性が強く関係する領域は芸術である。芸術と美しさは必ずしも同じではないが、相互に深い関係をもっている。今回は、芸術のうちから美術と音楽をとりあげ、その歴史的変化における感性のあり方や、その心理学的メカニズムとの関係などについて整理する。さらに、芸術に代表される領域では、創造性(クリエイティビティ)が重要とされている。クリエイティビティと感性は同じものではないが、作品や製品に感性を適切に表現するためには高いクリエイティビティも要求される。第六回は、美術や音楽と感性の関係、そしてそこで重要な創造性について学ぶ。 【キーワード】 美術、音楽、クリエイティビティ(創造性)	黒須　正明 (放送大学教授) ゲスト:加藤彩(画家)
7	感性とビジネス	感性は、商品開発や販売、広告・宣伝においても重要な特性である。どのようにしたら消費者を魅了する感性的魅力を高めることができるのかを考える。2007年の感性価値創造イニシアチブから始め、消費者行動論にも話を広げ、さらに商品開発における感性マネジメントと、商品企画七つ道具などについても説明する。第七回は、感性的魅力を高めるために必要な感性マネジメントについて学ぶ。 【キーワード】 商品開発、消費者行動論、販売、広告、宣伝、消費者、感性的魅力	黒須　正明 (放送大学教授) ゲスト:長沢伸也(早稲田大学教授)
8	感性とこれからの社会	21世紀は感性の時代ともいわれる。たしかに感性は時代を牽引する重要なキーワードの一つではある。感性には時代につれて変化する部分と不変な部分とが考えられるが、特に前者については感性工学の立場からどのように考え、対処すべきだろうか。また感性に関わる教育のあり方や、社会システムのあり方など、これからの社会にとって感性が果たす役割について論じる。第八回は、椎塚の感性3.0の提案をベースにして、これからの感性工学のあり方を考える。 【キーワード】 感性の時代、感性教育、感性社会	黒須　正明 (放送大学教授) ゲスト:椎塚久雄(工学院大学名誉教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	5570034	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　メディアと知的財産　　（’１６）＝　　（OL）

英文名　　＝　〔 Media and Intellectual Property (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：児玉　晴男　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

本科目は、ウェブ環境でグローバルに提供される知的財産を三つのかたち(コンテンツ、知的財産、財産的情報)に分類し、それらがどのように創造され、保護され、活用されているかを、知財権法の基礎的な知識と身近な例による権利の関係を明らかにしながら、解説します。

授業の到達目標

本科目は、大学学部レベルの知財権法に関する総合的な知識を提供するものです。本科目は、ウェブ環境で創造され流通する知的財産と知的財産権の個別の法律を知的財産の保護と活用の均衡の観点から整理して説明し、メディアと知的財産との関わりから理解することを目標とします。

成績評価の方法

通信指導、単位認定試験および再試験は行いません。
成績評価は、小テスト(50%)、ディスカッション(50%)により行います。

履修上の留意点

「情報社会の法と倫理」と「著作権法概論」は、履修しておくとよいでしょう。大学院科目「知的創造サイクルの法システム」は、適宜、参照されるとよいでしょう。
※本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テ　ー　マ	内　　容	担当講師名(所属・職名)
1	知的財産の法のしくみ	知的財産は、著作権法、知的財産法、不正競争防止法の視点から、コンテンツ、知的財産、財産的情報に対応づけられます。本講は、知的財産基本法の知的財産と知的財産権との対応関係から、知財権法の全体像を解説します。 【キーワード】 コンテンツ、知的財産、財産的情報、知的財産権、知的財産基本法、コンテンツの創造、保護及び活用の促進に関する法律	児玉　晴男(放送大学教授)
2	知的財産の国際条約のしくみ	知財権法の国際的な枠組みのベルヌ条約、パリ条約は閉塞状態となっています。他方、経済摩擦やデジタル環境への対応等で新たな国際的な枠組みが形成されています。本講は、知的財産の国際条約の全体像を解説します。 【キーワード】 ベルヌ条約、ローマ条約、世界知的所有権機関条約、パリ条約	児玉　晴男(放送大学教授)
3	コンテンツの創造、保護および活用の促進法のしくみ(1)	コンテンツの創造と保護は、コンテンツの創造、保護及び活用の促進に関する法律および著作権法に関係します。本講は、保護される客体のコンテンツ(著作物)、主体(著作者、著作権者、著作隣接権者)、権利の構造について解説します。 【キーワード】 コンテンツの創造、保護及び活用の促進に関する法律、著作権法、コンテンツ、著作物、著作者の権利	児玉　晴男(放送大学教授)

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
4	コンテンツの創造、保護および活用の促進法のしくみ(2)	コンテンツの活用は、著作権等の帰属とコンテンツ（著作物）の著作権等管理および著作権等の制限に関わりをもっています。本講は、コンテンツ（著作物）の利用と、公表されたコンテンツ（著作物）の使用について解説します。 【キーワード】 著作隣接権、著作権等管理事業法、著作権等の制限、罰則、オープンデータ、オープンコンテンツ	児玉 晴男（放送大学教授）
5	電子書籍・電子図書館	電子書籍と電子図書館は、コンテンツ流通と文化的所産の公正な利用に関与します。本講は、電子書籍の著作・制作・流通に関する権利の関係と、電子図書館における電子情報を使用するうえの権利の関係について解説します。 【キーワード】 著作物の公表、著作物の発行、電子情報、出版権、引用、納本、アーカイブ	児玉 晴男（放送大学教授）
6	データベース・プログラム	データベースとプログラムは、デジタル環境で生み出されたコンテンツになります。本講は、著作権法で保護されるデータベースとプログラムについて、著作物と著作権との関わりから解説します。 【キーワード】 創作性のないデータベース、編集著作物、データベースの著作物、プログラム著作物の登録	児玉 晴男（放送大学教授）
7	音楽	音楽の著作は、特色ある創作活動といえます。本講は、音楽の著作権等管理について解説し、あわせて著作者の一身専属の著作者人格権・実演家人格権（同一性保持権）と著作権等管理の課題について説明を加えます。 【キーワード】 著作者、実演家、レコード、著作権等管理、著作権等管理事業者、同一性保持権	児玉 晴男（放送大学教授）
8	映画	映画の著作物は、他の著作物と比べて複雑な構造を有しています。本講は、実演家が含まれる映画の著作物と映画製作者および映画の著作物の著作者の権利の関係ならびに映画の著作物の著作権の帰属との関係について解説します。 【キーワード】 映画製作者、著作権の帰属、映画の著作物の著作者、職務著作、実演家	児玉 晴男（放送大学教授）
9	知的財産の創造、保護および活用の促進法のしくみ(1)	コンテンツの機能性と審美性は、知的財産に関係しています。本講は、電子化知的財産や知的資産とよばれる知的財産（発明、考案、意匠の創作）の保護を、特許法、実用新案法、意匠法との相互の対照関係から解説します。 【キーワード】 発明、考案、意匠の創作、特許権、実用新案権、意匠権	児玉 晴男（放送大学教授）
10	知的財産の創造、保護および活用の促進法のしくみ(2)	コンテンツは、知的財産権管理にも関係しています。本講は、知的財産（発明、考案、意匠の創作）の活用を、特許法、実用新案法、意匠法における産業財産権の帰属と信託管理および産業財産権の制限から解説します。 【キーワード】 専用実施権、通常実施権、信託業法、産業財産権の制限、罰則、特許権オープン化	児玉 晴男（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	担　　当 講　師　名 （所属・職名）
11	ソフトウェア・デザイン	ソフトウェアは、コンテンツであり、また知的財産（発明、考案、意匠の創作）にもなります。本講は、知的財産を横断するソフトウェアとデザインについて、知財権法との関わりから解説します。 【キーワード】 物の発明、システム特許、ビジネス方法特許、GUI、マスク面	児玉　晴男 （放送大学教授）
12	ブランド	コンテンツと知的財産が商品・役務として標章・登録商標が付されて流通し、地域ブランドの地理的表示との関係で登録商標（地域団体商標）と登録標章が併存します。本講は、ブランドと知的財産との関係について解説します。 【キーワード】 標章、登録商標、商標権、地域ブランド、地域団体商標、登録標章	児玉　晴男 （放送大学教授）
13	キャラクター・パブリシティ	知的財産として保護される権利は、知財権法で規定されるだけでなく、判例で形成されたものがあります。本講は、キャラクターの権利とパブリシティ権について、最高裁の判例をもとに解説します。 【キーワード】 著作権、肖像権、プライバシー権、パブリシティ権、物のパブリシティ	児玉　晴男 （放送大学教授）
14	財産的情報	ウェブ環境で流通する情報には技術的保護（制限）手段と権利管理情報が付加されています。また、非公表・非公開を原則とする営業秘密なども知財権の保護の対象になります。本講は、不正競争防止法で保護される財産的情報を解説します。 【キーワード】 技術的保護（制限）手段、権利管理情報、営業秘密、ソースコード、不正競争防止法	児玉　晴男 （放送大学教授）
15	知財権法と他法との関係	知財権法は、国際条約の生物多様性条約、そして情報公開法、産業技術力強化法、独占禁止法などの他法が関与しています。本講は、知的財産の合理的な活用をはかるうえの他法と知財権法との関わりについて解説します。 【キーワード】 公文書、不開示情報、医薬品データ、伝統的文化表現、伝統的知識、遺伝資源	児玉　晴男 （放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570102	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ コンピュータのしくみ （’１４）＝（ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 How Computers Work (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：岡部　洋一　（放送大学長）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

※この科目は「コンピュータのしくみ（’０８）」の一部改訂科目です。
改訂回は第１回と第15回です。

講義概要

現在、コンピュータは、各種電算機処理のみならず、インターネット上のサーバーや一般家庭にもパソコン、家電製品内のマイコンという形で、オールマイティの情報処理を行う正に頭脳の役割をしているが、その内容についてはあまり理解されていない。ここではコンピュータの構造、動作原理といったしくみについて全15回にわたって講義する。もっとも簡単な回路である論理回路、さらに過去の履歴に依存してその動作を変えていくシークエンス回路を基礎として、これらを組み合わせた電卓の構造と動作原理を示し、さらに何でも処理できるコンピュータについて学習を進めていく。

授業の目標

全15回の講義を通じ、一見複雑そうに見える情報処理機械が実は簡単な回路の大規模な合成によって構成されていることを理解し、またコンピュータを動かすプログラムとの関連を理解することを目標とする。コンピュータを単なるブラックボックスとして理解するのではなく、その原理を理解することにより、どんな情報処理機械でも設計できるようになることを最終の目標とする。

履修上の留意点

この科目の通信指導はWebのみでの提出となります。郵送では受け付けませんので、ご注意ください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ディジタルとアナログ（第1章）【改訂回】	わかっているようでわかっていない「ディジタル」という用語を「アナログ」との比較から説明し、ディジタルでは各種の物理的情報をどう表現し、どう処理するかについて概念的な理解を深める。さらに、現在、急速にディジタル処理が増えてきた理由、ディジタル処理の歴史について説明する。 【キーワード】 ディジタルとアナログ、連続量と不連続量、トランジスタとLSIの発展	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
2	スイッチ素子（第2章－第3章 3.2節）	論理回路の要素となるスイッチ素子について紹介し、現在のコンピュータがトランジスタの集合体である集積回路で構成されていることを学ぶ。さらに、論理を作るための基本構成要素であるNOT、AND、ORについて、その動作を理解し、基本論理回路でもっとも重要なNOTをトランジスタを使ってどう実現するかを示す。 【キーワード】 スイッチ素子、トランジスタ、集積回路、基本論理、NOT、AND、OR	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
3	基本論理回路と組合せ論理回路(第3章残り－第4章 4.3節)	ANDとORに対し、トランジスタで実現しやすいNAND、NORの回路の動作と構成を学ぶ。さらに、こうした機能要素を組み合せて実現できる組合せ論理回路という概念をEORや加算器を例に理解する。 【キーワード】 基本論理回路、NAND、NOR、組合せ論理回路、EOR、加算器	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	組合せ論理回路の構成法（第4章　残り）	多入力多出力を持った任意の論理回路を実現する一般的方法を示し、これらがNOT、AND、ORの組合せだけで構成できることを示す。さらにAND、ORをNANDで置き換えることにより、どんな組合せ論理回路もNANDだけで構成できることを示す。 【キーワード】 ドモーガンの法則、組合せ論理回路、真理値表、AND-OR回路、NAND-NAND回路	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
5	状態遷移図、状態遷移表とシークエンス回路(第5章 5.2節まで)	回路が内部状態を持ち、出力が入力のみでなくその内部状態に依存して決定される回路をシークエンス回路と呼ぶが、その原理を理解する。またどんなシークエンス回路も状態遷移図および状態遷移表を作成することにより、組合せ論理回路および遅延回路の組み合せで実現できることを示す。 【キーワード】 シークエンス回路、内部状態、遅延回路、状態遷移図、状態遷移表	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
6	遅延回路とパストランジスタ（第5章　残り）	1クロックだけ遅延させる遅延回路として、Dフリップフロップの動作原理を学ぶ。また、Dフリップフロップと同じような原理で動作する記憶回路である各種レジスタ、プリチャージ論理回路などについても説明する。 【キーワード】 Dフリップフロップ、パストランジスタ、レジスタ、プリチャージ論理回路	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
7	二進加減算(第6章 6.3節まで)	コンピュータの中では数値データはどう扱われるのか。また加減算といった算術計算は二進数でどうなされるのか、それに必要なコンピュータのしくみについて学ぶ。 【キーワード】 内部表現、二進表現、符号なし整数、符号あり整数、算術計算、加算、減算	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
8	二進乗除算とデータの内部表現(第6章 残り)	前回に引き続いて、算術計算の乗除算が二進数でどうなされるのか、それに必要なしくみについて学ぶ。さらに小数、文字、文字列はどうように扱われるのかを理解する。 【キーワード】 乗算、除算、小数、文字、文字列	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）
9	コンピュータの概要(第7章)	コンピュータの構成の概要について学び、中央処理装置を中心に、外部メモリー、周辺装置のあることを学ぶ。また中央処理装置の中にはデータ処理部と制御部があるが、データ処理部に必要な部分回路、データ処理部と制御部の関係について理解する。 【キーワード】 コンピュータの構成、中央処理装置、外部メモリー、周辺装置、データ処理部、制御部	岡部　洋一（放送大学長）	岡部　洋一（放送大学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	プログラム（第8章）	コンピュータの動作になくてはならない機械語のプログラムとは何か。それを構成している命令にはどのようなものがあるか。コンピュータはこれら命令をどのように実行していくのか。現在のコンピュータの基本である蓄積プログラム方式とは何か、その特長と合せて説明する。 【キーワード】 プログラム、機械語、命令、蓄積プログラム方式、高水準プログラム言語	岡部 洋一（放送大学長）	岡部 洋一（放送大学長）
11	データ処理部1(第9章 9.5節まで)	コンピュータのデータ処理部の具体的な回路の構造について学ぶ。バス、レジスタ、入出力、シフタといった部分回路について詳細な説明を行う。 【キーワード】 バス、レジスタ、入出力回路、シフタ	岡部 洋一（放送大学長）	岡部 洋一（放送大学長）
12	データ処理部2(第9章 残り)	前回に引き続き、コンピュータのデータ処理部の具体的な回路の構造、特にその中核となる算術論理回路ALUの構成法や構造について詳細な説明を行う。 【キーワード】 算術論理回路、ALU	岡部 洋一（放送大学長）	岡部 洋一（放送大学長）
13	制御部1(第10章 10.3節まで)	コンピュータ全体の頭脳ともいうべきデータ処理部を動かす制御部の役割について学ぶ。特に歴史的進化を追って、電卓の動作までを説明する。 【キーワード】 命令レジスタ、プログラムカウンタ、フェッチ、電卓	岡部 洋一（放送大学長）	岡部 洋一（放送大学長）
14	制御部2(第10章 残り)	コンピュータを大きく進化させた蓄積プログラム方式について、その動作を学ぶ。さらに、その後のコンピュータに大きな影響を与えたマイクロプログラム、RISC、パイプライン処理、SIMDといった概念とともにアーキテクチャの意味を習得する。 【キーワード】 蓄積プログラム方式、マイクロプログラム、RISC、パイプライン処理、SIMD、アーキテクチャ	岡部 洋一（放送大学長）	岡部 洋一（放送大学長）
15	今後の発展（第11章）【改訂回】	コンピュータは今までのようにどんどん進化していくのか。何らかの限界があるのかといったコンピュータの進化論と合わせて、将来のコンピュータについて概説する。 【キーワード】 コンピュータ、進化、スケール則、汎用コンピュータ、専用コンピュータ	岡部 洋一（放送大学長）	岡部 洋一（放送大学長）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570226	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 身近なネットワークサービス （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Networking Services in Our Life (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：葉田　善章 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

現代の社会において、コンピューターどうしを接続するネットワークはさまざまな場所で用いられるようになった。ネットワークのとらえ方や通信のしくみといった理解する上で基礎となる知識、ネットワークを中心としたコンピューターの利用形態、私たちの身近で実現されるようになったネットワークを使ったサービスについて解説する。ネットワークによるサービスを実現するために不可欠となったコンピューター技術についても学ぶ。

授業の目標

ネットワーク技術やコンピューター技術に関する理解を深め、昨今のネットワークにより提供されるようになったサービスの概略について見識を広めることが目標である。

履修上の留意点

必須ではないが、「情報学へのとびら(’16)」「コンピュータのしくみ(’14)」「コンピュータの動作と管理(’17)」「情報ネットワーク(’14)」「通信概論(’14)」「Webのしくみと応用(’15)」といった、コンピューターやネットワークに関連する科目を受講していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ネットワークによるサービス	本科目の概要について述べる。これから学ぶコンピューターネットワークに関する基本について整理し、接続されるコンピューターやネットワークの分類、ネットワークにより提供されるサービスについて学ぶ。PCやモバイル端末、メディアプレーヤー、AV機器、生活家電、自動車で用いられるコンピューターやネットワークについて学ぶとともに、ネットワークが提供する仮想世界や実世界との関係、生活支援などについて考える。 【キーワード】 コンピューター、ネットワーク、サービス、実世界、仮想世界	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
2	ネットワークの規模と通信	ネットワークは単独で利用されることは少なく、他のネットワークと接続して利用されることが一般的である。ネットワークは規模によって分類されており、お互いに関連しあって通信が行われることや、それぞれの役割について、有線ネットワークと無線ネットワークに分けて考える。また、ネットワークを考えるための基礎知識について学ぶ。 【キーワード】 有線ネットワーク、無線ネットワーク、WAN、MAN、LAN、PAN	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
3	通信モデル	有線LANや無線LAN、WiMAXや携帯電話通信網など、異なる通信規格を用いたネットワークを用いてもインターネットへの接続や通信が可能である。これは、通信規格の持つ機能が階層で整理されており、層ごとに交換が可能になっているためである。通信の種類について学んだ後、異機種間のデータ通信を目的として作成されたOSI参照モデルについて紹介するとともに、インターネットで用いられているTCP/IPについて学ぶ。 【キーワード】 OSI参照モデル、TCP/IP、プロトコルスタック、パケット通信	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ネットワークと端末	ネットワークにはPC、モバイル端末、デジタル家電といったさまざまなコンピューターが接続される。機器の構築で用いられるコンピューターのしくみや、頭脳となるプロセッサーの種類、これまで学んできたネットワーク機能のコンピューターへの実装について学ぶ。また、音楽や映像などのコンテンツや機器の制御、センサー情報といった、ネットワークの導入が利用形態の変化につながるサービスについて考える。 【キーワード】 PC、モバイル端末、プロセッサー、SoC、DSP	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
5	通信プロトコル	インターネットでの通信は、インターネットプロトコル(IP)が基本となっているが、通信品質を保証するためにTCPやUDPと呼ばれるプロトコルが用いられている。インターネットプロトコルについて学んだ後、TCPやUDPの働きについて理解するとともに、TCPやUDPにもとづいて構築されたデータ通信や制御、マルチメディア配信などで用いられるプロトルについて学ぶ。 【キーワード】 IP、TCP、UDP、制御システム、コンテンツ配信	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
6	コンピューターの利用形態	コンピューターをネットワークに接続し、利用する形態について学ぶ。集中処理や分散処理、分散処理から集中処理への回帰としてクラウドコンピューティングについて理解する。そして、ネットワーク上で用いられるコンピューターの活用形態として、グリッドコンピューティングやユビキタスコンピューティングについて学ぶ。 【キーワード】 集中処理、分散処理、グリッドコンピューティング、ユビキタスコンピューティング、クラウドコンピューティング	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
7	有線ネットワーク	有線ネットワークの構築と運用に関する基本となる知識について学ぶ。パケットを中継するネットワーク機器であるリピーターやブリッジ、ルーターについて学んだ後、構築されたネットワークの通信で作成される通信路について、端末間の通信や、端末のネットワークへの接続、WANとの通信の場合について考える。そして、通信路と伝送路や、コンピューターの利用と通信速度、LANケーブルや有線LANの規格について考える。 【キーワード】 有線LAN、ネットワーク機器、通信路、伝送路、通信速度	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
8	無線ネットワーク	無線ネットワーク構築と運用の基本となる知識について学ぶ。電波と周波数や変調、電波の特性を説明し、無線LANで用いられる周波数帯やチャネルについて理解する。そして、インフラストラクチャーやアドホックといった無線通信の形態、構築のための機器などについて学ぶ。また、無線ルーターを構成する技術であるソフトウェア無線や、無線LANの規格、高速化のための技術について考える。 【キーワード】 電波、周波数、チャネル、無線LAN、ソフトウェア無線	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	ホームネットワーク	家庭でのコンピューターを活用したネットワークとして、ホームネットワークについて紹介する。ネットワークにPC、モバイル端末、家電などの機器を接続し、統合的なサービスを実現するしくみについて学ぶ。プロトコルが異なるネットワークどうしを接続するゲートウェイ(GW)や、使いやすいネットワーク環境を実現するために必要となるプラグアンドプレイ、用途に応じた通信規格の選定などについて考え、応用例としてDLNAやECHONET Liteについて見る。 【キーワード】 ホームネットワーク、UPnP、DLNA、ECHONET Lite、VoIP	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
10	近距離無線通信	LANよりも狭い範囲でネットワークを構築する近距離無線通信について学ぶ。コンピューターと周辺機器を接続する方法として、マスタースレーブ型の通信や、近距離通信の規格や種類について見る。その後、コンピューターと周辺機器を接続する無線PANとしてBluetoothについて学ぶ。クラシックBluetoothとBluetooth Low Energyの2種類について見る。また、非接触通信と呼ばれる短距離通信技術であるNFCやTransferJetについて学ぶ。 【キーワード】 PAN、Bluetooth、NFC、TransferJet、O2O	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
11	モノをつなぐネットワーク	モノとモノをつなぐネットワークとして、M2Mについて学ぶ。ネットワークの利用主体について整理し、IoTとの関連を考えた後、M2Mアーキテクチャーについて学ぶ。その後、M2M型の通信の特徴を考えた後、HEMSで用いられるスマートメーターの通信を例に、M2Mによる通信について学ぶ。そして、IoTやユビキタスコンピューティングを実現するために、実世界の情報を反映するために用いられるセンサーについて紹介し、センサーの利用やセンサーをつなぐネットワークであるZigBeeについて考える。 【キーワード】 M2M、IoT、HEMS、センサー、ZigBee	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
12	クラウド上のコンピューター	クラウドコンピューティングでは、仮想化技術を用いてネットワークの中に仮想マシンと呼ばれるコンピューターが置かれる。そして、さまざまな情報を集約して解析を行い、利用者の端末で情報を利用する。コンピューターをネットワークに置くために必要となる仮想化技術や、提供されるサービスの構築や利用について学ぶ。仮想マシンを用いたサーバーやネットワークの構成について見るとともに、クラウドコンピューティングの形態について学ぶ。 【キーワード】 仮想化技術、計算機資源、仮想マシン、クラウドコンピューティング	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
13	車載ネットワークとITS	ネットワーク技術の応用として、コンピューターが数多く搭載されるようになった自動車に関するネットワークについて考える。これまでのカーナビゲーションシステムによる交通渋滞の提供だけでなく、自動車にカメラなどのセンサーを搭載し、コンピューターどうしをつなぐ車載ネットワークとの連携により、自動ブレーキなどの高度な運転支援システムが提供されていることを学ぶ。また、プローブデータと呼ばれる交通情報などのデータを収集して活用が進められていることや、ユーザーインターフェースの高度化、スマートフォンなどとの連携についても学ぶ。 【キーワード】 ITS、車載ネットワーク、自動運転、ユーザーインターフェース	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	ネットワークサービスの構築	ネットワークを使ったサービスの利用や構築について概説する。開発で考慮する利用者の視点や、構築の視点について考えた後、ネットワークをまたぐ通信について考える。グローバルアドレスやプライベートアドレスといったネットワーク構築で用いるIPアドレスの種類について学んだ後、インターネットにおけるネットワークどうしの通信や、インターネットからホームネットワークへの通信について考える。その後、WWWブラウザーを使ったシステム開発について学ぶ。 【キーワード】 サービスの利用と構築、IPアドレス、ネットワーク間の通信、HTML5	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）
15	ネットワークと私たちの生活	これまで学んできた内容をとりまとめ、今後のネットワークによるサービスの高度化について考える。ネットワークに接続されたコンピューターやセンサーなど多種多様な機器から得られた、さまざまな情報を活用するために利用するサービスについて学ぶ。その後、ネットワークに多数の機器を接続するために必要となるIPアドレスについて見る。現在の主流であるIpv4から膨大なアドレスを持ったIpv6への移行について考えるとともに、ネットワークサービスへの影響について見る。最後にインターネットで重視される標準化や、サービスの構築や活用の際に用いられるオープンソースやオープンデータについて学ぶ。 【キーワード】 サービスの高度化、Ipv4、Ipv6、標準化、オープンソース、オープンデータ	葉田　善章（放送大学准教授）	葉田　善章（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570080	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 情報のセキュリティと倫理 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Information Security and Ethics (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：山田 恒夫 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

情報化は社会のさまざまな側面で進行し、多くの利便性を人類社会に提供する一方、コンピュータやインターネットを使った犯罪が増加するなど、「影」の部分への対応が日々必要になっている。また、情報化が広範に、そして基幹的な部分に拡大するほど、それが機能しなくなった場合のリスク管理は不可欠となる。そして、情報技術と情報リテラシーの高度化にともない、ユーザひとりひとりが被害者にも、そして意図せず加害者になる可能性も増している。本科目では、情報セキュリティの問題を、システム開発運用および利用者（ユーザ）教育の2つの観点から解説し、その全体像を明らかにする。

授業の目標

・情報セキュリティのシステム的・運用的な課題を理解する。
・情報リテラシー（フルーエンシー）教育における情報倫理の課題を理解する。
・社会における一利用者として必要な、情報倫理を身につける。
・本分野は、技術革新の著しい分野であり、その表現型は短期間で変化する。このため、最新の動向を、継続的に学習できるためのコンピテンシー（能力）を身につける。

履修上の留意点

パソコンとインターネットを利活用できるリテラシーを有することがのぞましい。特に、パソコンやインターネットの未経験者は、面接授業、基盤科目「初歩からのパソコン」を履修しておくことがのぞましい（ただし、履修の要件とはしない）。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	情報化社会における光と影2014	高度情報化社会の進展とともに、情報のセキュリティと倫理に関して、どのような問題が生じているか、概観を得る。こうした現象を理解するための基本的な概念と事例を学ぶ。本科目の構成および発展学習の指針を知る。 【キーワード】 情報化社会、情報セキュリティ、情報倫理、リスク、脅威、脆弱性、情報セキュリティマネジメントシステム、情報モラル教育、本科目の学び方	山田 恒夫（放送大学教授）	山田 恒夫（放送大学教授）
2	サイバー犯罪の諸相と問題解決1：利用者の視点から	インターネットの一般利用者の立場から、サイバー犯罪とは何かを学ぶ。次にそれらの犯罪から身を守るために、マルウェアの種類や感染経路を学習し、パソコンやネットワークを利用・管理する際の注意点を確認する。 【キーワード】 パスワード管理、コンピュータウイルス、ワーム、不正アクセス、マルウェア、パソコンや記憶媒体の廃棄、無線LANの管理	中西 通雄（大阪工業大学教授）	中西 通雄（大阪工業大学教授）
3	サイバー犯罪の諸相と問題解決2：子どもに対する視点から	ネット詐欺以外のネットワーク利用犯罪と、インターネットの利用者間で生じる様々なトラブルについて学ぶ。この回で紹介する事件やトラブルでは、子どもが被害者や加害者になることが多く、情報社会が抱えた大きな問題といえる。事例を示しながら、問題解決のために、その社会的背景と問題の所在について検討を加える。 【キーワード】 ネットワーク利用犯罪、出会い系サイト、ネット犯行予告、著作権、ネットいじめ、セクスティング、炎上	村田 育也（福岡教育大学大学院教授）	村田 育也（福岡教育大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	サイバー犯罪の諸相と問題解決3：管理者の視点から	サーバクライアントモデル、サーバー管理の立場から、スパイウェアやインジェクションなどのサーバを攻撃する手法、サイバー犯罪などについて学ぶ。また、ハクティビズムについても理解を深める。 【キーワード】 サーバ管理、インジェクション、クロスサイトスクリプティング、サーバOS、ファイアウォール、アクセス制限、サイバー犯罪、ハッカー、ハクティビズム	辰己　丈夫（放送大学教授）	辰己　丈夫（放送大学教授）
5	情報セキュリティの基盤技術1：暗号と認証の基礎	情報セキュリテイの基盤技術としての暗号と認証について学ぶ。暗号と認証の基本的な考え方および両者の関係、古典暗号と現代暗号の違い、現代暗号の標準化プロセス、暗号の危殆化、代表的現代暗号について知る。 【キーワード】 暗号、認証、古典暗号、現代暗号、暗号の危殆化	上原　哲太郎（立命館大学教授）	上原　哲太郎（立命館大学教授）
6	情報セキュリティの基盤技術2：公開鍵暗号系	暗号応用として最も重要な公開鍵暗号系について学ぶ。共通鍵暗号と公開鍵暗号の違い、中間者攻撃、DH鍵交換の仕組み、公開鍵暗号と電子署名、公開鍵認証基盤（PKI）の仕組み、PKIの運用について知る。 【キーワード】 公開鍵暗号、電子署名、中間者攻撃、DH鍵交換、公開鍵認証基盤（PKI）	上原　哲太郎（立命館大学教授）	上原　哲太郎（立命館大学教授）
7	情報セキュリティの基盤技術3：さまざまな認証技術	ID管理、パスワード、生体認証、機器認証などの認証技術について、その運用もあわせ学ぶ。また、不正アクセスを防ぐためのファイアォール技術や、IDSなどの攻撃検出技術について知る。 【キーワード】 ID管理、パスワード、生体認証、機器認証、IDS	上原　哲太郎（立命館大学教授）	上原　哲太郎（立命館大学教授）
8	情報セキュリティマネジメント	情報セキュリティを維持するために必要となる危機管理の考え方、情報セキュリティポリシー、情報セキュリティ管理者、情報セキュリティ教育などについて学ぶ。また、情報セキュリティを評価する方法について理解する。 【キーワード】 情報セキュリティポリシー、機密性、完全性、可用性、情報セキュリティ担当者、監査、法令	辰己　丈夫（放送大学教授）	辰己　丈夫（放送大学教授）
9	情報通信技術とプライバシー	情報通信技術の進展に伴い、その意味が変化したプライバシーについて学ぶ。プライバシー観の歴史的変遷、情報通信技術がプライバシーに及ぼした影響および行動トラッキングや固定IDに代表される新しいプライバシー問題について考える。 【キーワード】 プライバシー、個人情報保護法、行動トラッキング、固定ID問題	上原　哲太郎（立命館大学教授）	上原　哲太郎（立命館大学教授）
10	セキュリティと法	情報セキュリティで守られる対象となる知的財産権や個人情報などに関する法令について、その内容と目的、法令の存在意義、ジレンマ状況などについて学習する。また、サイバー犯罪などと関連する法令については、具体的に理解を深める。 【キーワード】 著作権法、個人情報保護法、出会い系サイト規制法、不正アクセス禁止法、プロバイダ責任法、迷惑メール防止法、ジレンマ	辰己　丈夫（放送大学教授）	辰己　丈夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	インターネットの特性と子どもによるインターネット使用の問題	インターネットには高い匿名性があり、それを理解して適切に利用するには、豊かな人生経験に裏付けられた社会性が必要である。また、インターネットを利用する際に用いるパソコンや携帯電話などのインターネット端末には高い個人性があり、利用者は一人で判断して操作する必要がある。今回は、これらのインターネットの特性に関する内容を学び、その後、子どもによるインターネット使用の問題について考える。 【キーワード】 匿名性、個人性、子ども、責任能力、社会性、匿名でのコミュニケーション	村田　育也（福岡教育大学大学院教授）	村田　育也（福岡教育大学大学院教授）
12	初等中等教育における情報倫理教育	初等中等教育における情報倫理教育は、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を育成する情報モラル教育として位置づけられている。情報モラル教育を考えるために必要不可欠な子どもの社会性と責任能力の発達過程を充分に考慮した上で、その内容と方法について考え、インターネットを適正に利用するには情報モラルと責任能力と社会性が必要であることと、そのため情報モラル教育とともに年齢に応じた情報メディアの使用制限が必要であることを学ぶ。 【キーワード】 初等中等教育、子ども、社会性、責任能力、情報モラル、使わせ方の4段階	村田　育也（福岡教育大学大学院教授）	村田　育也（福岡教育大学大学院教授）
13	生涯学習における情報倫理教育	初等中等教育における情報教育の普及によって、若い世代では問題が高度化する一方、高等教育以降の情報倫理教育のあり方が問われている。教育の国際化にともない、既習内容そして文化的背景も多様な留学生に向けた教育も必要になっている。海外の状況も視野に入れながら、生涯学習における情報倫理教育の主要なトピックについて学ぶ。 【キーワード】 高等教育、生涯学習、情報倫理教育、情報セキュリティ教育、教育の国際化、留学生教育	山田　恒夫（放送大学教授）	山田　恒夫（放送大学教授）
14	技術者倫理と情報セキュリティ人材育成	情報技術者は情報通信技術に直接関わらない問題にも直面する。技術者として倫理的な考察が必要となったときどのような段階を踏んで考えればよいか、内部告発の問題点は何か、倫理綱領には何が定められているかを学ぶ。これらを踏まえ、情報通信技術に関わるいくつかの問題を見ることで、技術者としてのアプローチ方法を考える。最後に、セキュリティ人材の育成についても動向を見る。 【キーワード】 技術者倫理、内部告発、倫理綱領、情報セキュリティ人材育成	中西　通雄（大阪工業大学教授）	中西　通雄（大阪工業大学教授）
15	まとめと展望	インターネット依存症（インターネット中毒）など、高度情報通信社会の近未来を左右しかねない社会的現象を学びながら、今後の学問分野としての展望と、継続学習のポイントを考察する。ICTやインターネット技術の将来を占うことは大変困難なことであるが、近未来の情報セキュリティや情報倫理の分野において顕著になるであろう課題を検討する。 【キーワード】 インターネット依存症、ネットいじめ、個人情報保護、サイバー社会、仮想社会、批判的公共圏、ビッグデータ、プライバシー、情報フルーエンシー、ハッカー、クラッカー	山田　恒夫（放送大学教授）	山田　恒夫（放送大学教授） 中西　通雄（大阪工業大学教授） 村田　育也（福岡教育大学大学院教授） 辰己　丈夫（放送大学教授） 上原　哲太郎（立命館大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570129	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 通信概論 （’１４）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Introduction to Telecommunications (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：近藤　喜美夫 （放送大学名誉教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：浅井　紀久夫 （放送大学教授） 】

講義概要

通信は現代のネットワーク社会の発展を支える重要な基盤といえる。通信の具体的な方法には物理学、数学などの様々な発見、発想から導かれた多くの工夫や検討結果が用いられている。本講義では、このような基本的で興味深いいくつかの考え方、工夫の基礎を学ぶことを通して通信全体を概観する。

授業の目標

通信の基礎を理解することにより、通信について、またその応用などについて積極的に考えることができるようになることを目標とする。

履修上の留意点

文章より理解しやすいと考えられる箇所では数式での記述を用いている。数学的厳密さは避け補足説明を諸処に添えているが、高校数学の教科書、行列の入門書、オンライン学習システム(UPO-NET)の「リメディアル数学」等も参考になると思われる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	信号の性質	信号を伝えるとき重要な役割を果たす波の性質と表現法を学ぶ。また波形とスペクトルの関係を理解し、波形がスペクトル成分の合成として表現される事を学ぶ。 【キーワード】 波長、スペクトル、通信モデル、フーリエ級数、フーリエ変換	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
2	通信路と伝達関数	信号を伝える通信路について、その周波数特性など伝達特性が、通信路に加えられたインパルス応答から導かれた伝達関数により議論できることを理解するとともにフィルターの考え方を学ぶ。 【キーワード】 通信路、畳み込み、インパルス応答、伝達関数、フィルター、波形伝送、標本化定理	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
3	情報伝送と情報量	情報量とその平均情報量の意味を理解し、符号化の方法とそのために必要な符号長と通信路で伝えられる情報量について学ぶ。 【キーワード】 情報量、無記憶情報源、マルコフ情報源、エントロピー、相互情報量、通信路行列、符号語、瞬時復号可能、通信路容量	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	変調の方法	データを伝送するための変調、また信号の歪みによる符号間干渉や、SN比を最大にするための整合フィルターの考え方を理解し、変調信号の誤り率について学ぶ。 【キーワード】 ベースバンド、搬送波通信、ナイキスト間隔、符号間干渉、整合フィルター、誤り率	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
5	アンテナ	無線通信で用いられる電波について、空間における電磁波の性質を理解するとともに、アンテナの特性や給電方法、また代表的アンテナ形式についてその基礎を学ぶ。 【キーワード】 変位電流、マクスウェル方程式、アンテナ利得、導波管、パラボラアンテナ、配列アンテナ	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
6	伝搬特性と通信	電波が伝搬することにより遮蔽、減衰の他、様々なところで反射、回折された波と相互に重なり合い、信号レベルの変動を生じる。この変動特性とこのような状況での通信の基礎を学ぶ。 【キーワード】 隠れ端末問題、マルチパス波、フェージング、ダイバーシチ、MIMO	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
7	誤り訂正符号	伝送途中で生じた誤りを検出、あるいは訂正する仕組みを、線形符号と線形符号の一つである巡回符号、また畳み込み符号を通して学ぶ。 【キーワード】 線形符号、巡回符号、畳み込み符号、生成行列、パリティ検査行列、シンドローム、ビタービ復号	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
8	通信の高速化	動画など高密度な情報伝送や伝搬路での複数の反射波への対応特性に優れた変調方式として、周波数拡散変調と複数キャリア変調などの基礎を学ぶ。 【キーワード】 多値変調、周波数拡散変調、M系列、マルチキャリア変調、OFDM、ガードインターバル	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
9	光の利用	光の信号を遠距離まで伝送できる光ファイバーや、光を効率的に発生する半導体レーザなどを用いて可能となっている光通信の基礎を学ぶ。 【キーワード】 全反射、光変調、半導体レーザ、光ファイバー、シングルモード、フォトダイオード	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
10	音、動画の符号化	動画など情報量が大きいとき、耳や目の特性、また画像の特性を利用して情報量を圧縮する方法について、空間周波数による表現方法など、その考え方の基礎を学ぶ。 【キーワード】 情報源符号化、非線形量子化、知覚符号化、空間周波数、DCT、フレーム間相関、エントロピー符号化、動きベクトル	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	衛星通信	広い範囲での通信を可能とする衛星通信について、静止衛星、中継器特性などの基礎を理解するとともに、複数の局が同時に衛星を利用する多元接続などの考え方を学ぶ。 【キーワード】 静止衛星、通信衛星、中継器、回線設計、C/T、多元接続、VSATシステム	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
12	放送	広い範囲に存在する不特定多数の受信者に信号を配信する放送について、デジタルテレビ放送の伝送方式とデータ放送の仕組みを学ぶ 【キーワード】 MPEG-2システム、PES、TS、PS、ISDB、HDTV、DRM、HDCP	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
13	インターネット通信	コンピュータ間を相互に接続して信号の交換を行うネットワークについて、その信号のやりとりの方法とこれを可能にする信号の宛先情報、また宛先に応じて転送をおこなう仕組みを学ぶ。 【キーワード】 パケット交換、LAN、イーサネット、MACアドレス、IPアドレス、アドレス解決、TCP/IP、ルータ	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
14	インターネット応用	ネットワークにおいて複数のコンピュータに信号を届ける通信方法、また複数の利用者にサービスを提供する仕組みなど、ネットワークを介してコンピュータが連携する方法を理解する。 【キーワード】 ブロードキャスト、マルチキャスト、サーバ・クライアント方式、ブラウザ、HTTP、ストリーミング	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）
15	安全な通信	情報漏洩など意図しない信号伝送、あるいは情報の変更に対してこれを防ぐ方法について、ファイアウォール、暗号、電子署名などの工夫とその考え方の基礎を学ぶ。 【キーワード】 ファイアウォール、VPN、暗号、共通鍵、公開鍵、ハッシュ値、電子署名、認証	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）	近藤　喜美夫（放送大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570110	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ Webのしくみと応用 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Technology and Application of the Web (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：森本　容介　（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

日常生活や仕事を進める上で、Webは重要な役割を果たしている。Webに関する規格やWebシステムを実現するための技術を学び、普段意識せずに使っているWebの仕組みを理解する。そして、Webの応用事例を概観する。

授業の目標

Webシステムが動作する仕組みを理解することを目標とする。Webに関する規格、動的なWebサイトを実現する仕組み、データベース技術、Webのセキュリティ、Webシステムの具体例や応用などを学ぶ。

履修上の留意点

できるだけ前提知識を必要とせずに学習できるように留意しているが、ある程度のコンピュータやインターネットについての知識が必要である。特に、インターネット自体の解説は行っていない。「情報ネットワーク(’14)」を学習していると、本科目の理解に役立つ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	身近なWeb	Webは、情報提供、商業取引、コミュニケーション、情報管理・共有、娯楽など、様々な目的に利用されるようになった。Webの仕組み、Webシステムの特徴、データベースの位置づけなどを概観する。 【キーワード】 Web、ハイパーメディア、URI、HTTP、HTML、Webシステム、データベース	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）
2	Webの基礎	URIとHTTPは、Webの実現に重要な役割を果たしている規格である。Webブラウザが Webサーバへアクセスし、Webページを表示する流れを解説する。 【キーワード】 クライアントサーバモデル、URI、HTTP、ステータスコード、メディアタイプ	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）
3	ハイパーメディアとHTML	ハイパーリンクにより関連情報にアクセスできる仕組みは、Webの大きな特徴である。これを実現するために、Webページの内容記述に使われるHTMLの基礎を解説する。 【キーワード】 HTML、タグ、要素、属性、ハイパーリンク	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	HTMLとCSS	Webページの文書構造はHTMLで、スタイルはCSSで記述する。CSSの役割と記述方法を概観する。また、Webページにおける図表の利用方法を解説する。 【キーワード】 文書構造とスタイル、CSS、RGBカラーモデル、図表のマークアップ	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）
5	HTTP(1)	第2回で見たように、WebブラウザとWebサーバがHTTPで通信することによってWebが実現されている。今回は、HTTPのメッセージについてさらに詳しく解説する。 【キーワード】 RFC、HTTPメッセージ、持続的接続、チャンク転送、HTTPメソッド、ステータスコード	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）
6	HTTP(2)	HTTPが持つ機能のうち、コンテントネゴシエーション、キャッシュ制御、認証機能について解説する。また、Webサイトのアクセス解析に利用されるメッセージヘッダを紹介する。 【キーワード】 コンテントネゴシエーション、キャッシュ制御、条件付きGET、HTTP認証、アクセス解析	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）
7	動的なWebサイト	クライアントからのリクエストに応じて返送するリソースを生成することにより、動的なWebサイトを実現することができる。動的なWebサイトを実現する一般的な方法を解説する。 【キーワード】 JavaScript、フォーム、POSTメソッド、Webサーバ、CGI	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）
8	クライアントサイドの技術	Webサーバ側で動作するプログラムと、クライアント側で動作するプログラムを組み合わせることによって、高度なWebシステムを実現することができる。クライアントサイドの技術と、その代表であるJavaScriptの機能を解説する。 【キーワード】 プラグイン、JavaScript、イベント	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）
9	リレーショナルデータベース	Webシステムに限らず、多くの情報処理システムではデータの管理にデータベースを利用している。データベースの役割と、主要なデータベースであるリレーショナルデータベースの基礎を解説する。 【キーワード】 データベース、リレーショナルデータベース、キー、テーブルの演算、正規化、制約	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）
10	SQLとデータベース管理システム	リレーショナルデータベースの操作に用いるSQLについて解説する。また、データベース管理システムが提供する機能を概観する。 【キーワード】 SQL、データ定義、データ操作、データベース管理システム、トランザクション	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	認証とセッション管理	Webシステムを利用するユーザーの正当性を確認する作業であるユーザー認証の方法と、ステートレスなプロトコルであるHTTPでセッション情報を保持するための仕組みを解説する。 【キーワード】 ユーザー認証、フォームベース認証、セッション、ステート、クッキー	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）
12	Webのセキュリティ	Webには様々なセキュリティ上の脅威が存在する。Webの利用者の視点、およびWebシステムの開発者・提供者の視点から、Webのセキュリティについて解説する。 【キーワード】 SSL/TLS、フィッシング、SQLインジェクション、クロスサイトスクリプティング、セッションハイジャック	森本　容介（放送大学准教授）	森本　容介（放送大学准教授）
13	Webの応用(1)	第13・14・15回では、Webに関連した話題を紹介する。今回は、多くのアクセスのあるWebシステムでパフォーマンスの問題を解決する技術や、サービスとしてWebアプリケーションを提供する事業形態などについて解説する。 【キーワード】 負荷分散、データセンター、CDN、ASP	伊藤　一成（青山学院大学准教授）	伊藤　一成（青山学院大学准教授）
14	Webの応用(2)	膨大な量のWebサイト・Webページから必要なコンテンツを探すことができる検索エンジンについて説明する。また、Webページの特定の要素に対して意味付けを行い、コンピュータによる自動的な処理、高精度の検索、情報の関連付けなどを目指すセマンティックWebについて概観する。 【キーワード】 検索エンジン、Webクローラ、メタデータ、セマンティックWeb、Linked Open Data	伊藤　一成（青山学院大学准教授）	伊藤　一成（青山学院大学准教授）
15	Webの応用(3)	Webサイトは必ずしもPC上で動作するWebブラウザからアクセスされるものではない。多様化する端末、OS、Webブラウザへの対応を概観する。また、Webブラウザ以外から利用する応用事例や、複数のWebシステムの認証を一度で済ませる技術について解説する。 【キーワード】 HTML、端末の多様化、フィード、Web API、SSO	伊藤　一成（青山学院大学准教授）	伊藤　一成（青山学院大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1570269	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ データベース （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Introduction to Databases (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：辻　靖彦　（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：芝﨑　順司　（放送大学准教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

日常生活や仕事を進める上で重要なシステムではほとんど利用されているデータベースについて、その概念、歴史、仕組みと応用を、例を交えて基本から解説する。身近なデータベースの活用例から始まり、データベースを使うとどのような所が便利なのか、データベースの意義や役割を明らかにし、もっとも利用頻度の高いデータベースであるリレーショナルデータベースの設計・管理方法を解説する。さらに、データベース技術の応用として、複雑な処理が必要になるデータモデルや近年様々なシステムで汎用的に使われているマークアップ言語であるXML、そして分散データベースなども併せて扱う。

授業の目標

データベースが動作する仕組み及びデータベースの設計手法を理解すると共に、現在の主流であるリレーショナルデータベースの概念を基本から理解することを目標とする。データベースの概念設計、論理設計、SQLによるデータベース操作、DBMSの基本構成、Webでの利用やNOSQLなどの応用についての知識を習得する。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	イントロダクション ーデータベースとは何かー	データベースの基本的な概念と簡単な仕組みや事例、利点と欠点について学ぶことを通じてデータベースを概観する。 【キーワード】 データベース、データベース管理システム	辻　靖彦（放送大学准教授） 芝﨑　順司（放送大学准教授）	辻　靖彦（放送大学准教授） 芝﨑　順司（放送大学准教授）
2	私たちの周りのデータベース	具体的なイメージを得るために、私たちの身のまわりで活用されているデータベースの例を示す。 【キーワード】 検索エンジン、企業データベース	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）
3	データベースの仕組み	データベースの概念を説明し、なぜデータベースを使うのか、システムを導入するとどのような利点があるのかを述べる。その上で、データベースの概念を説明し、データベース管理システムの役割について述べる。 【キーワード】 DBの概念、DBMS、システム導入の利点	芝﨑　順司（放送大学准教授）	芝﨑　順司（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	データベースの歴史	どのようにデータベースが発祥し今日まで進展したのかを述べる。 【キーワード】 DBの発祥、DBMSの出現、RDB、データベース言語	芝﨑 順司（放送大学准教授）	芝﨑 順司（放送大学准教授）
5	データベースの動作環境	データベースが動作するためにはどのようなネットワーク環境やハード・ソフトウェア環境が必要なのかを説明する。 【キーワード】 プラットフォーム、オープンソース、Web、XML	芝﨑 順司（放送大学准教授）	芝﨑 順司（放送大学准教授）
6	データベースにおける概念設計	データベースを設計する際に行う概念設計手法について説明する。データベース設計全体を概観した上で、実世界の概念をどのように概念データモデルに落とし込むのかについて説明する。 【キーワード】 概念設計、概念データモデル	辻 靖彦（放送大学准教授）	辻 靖彦（放送大学准教授）
7	リレーショナルデータモデル	データベースにおける論理データモデルであるリレーショナルデータモデルについて説明する。さらに、概念データモデルから論理データモデルを作成する一例として、実体－関連モデルをリレーショナルデータモデルに変換する手法について述べる。 【キーワード】 リレーショナルデータモデル、リレーション、リレーションスキーマ	辻 靖彦（放送大学准教授）	辻 靖彦（放送大学准教授）
8	データ操作	リレーショナルデータベースを操作するための演算体系を解説する。リレーショナル代数について詳述し、基本的な演算の組み合わせでデータ操作が行えることを示す。 【キーワード】 リレーショナル代数、射影演算、選択演算、結合演算	辻 靖彦（放送大学准教授）	辻 靖彦（放送大学准教授）
9	正規化	作成したリレーショナルモデルに対し、正規化する方法について述べる。手法に着目するだけでなく、なぜ正規化を行うのか、正規化を行うとどのようなメリットがあるかにも触れる。 【キーワード】 関数従属性、正規化、第1正規形、第2正規形、第3正規形、ボイスコッド正規形	辻 靖彦（放送大学准教授）	辻 靖彦（放送大学准教授）
10	データベース言語～データの定義と操作～	データベース言語の役割を述べ、代表的なリレーショナルデータベース言語であるSQLについて説明する。データ定義言語の文法に加え、データ操作言語について説明する。 【キーワード】 データベース言語、SQL、データ定義言語、データ操作言語	辻 靖彦（放送大学准教授）	辻 靖彦（放送大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	データベース管理システム(1)	コンピュータ上に構築されたデータベースを操作したり、管理したりする仕組みを概観する。データベース管理システムの構成と機能、格納方式、問い合わせ処理について述べる。 【キーワード】 データベース管理システム、メタデータ、格納方式、問い合わせ処理	浅井　紀久夫(放送大学准教授)	浅井　紀久夫(放送大学准教授)
12	データベース管理システム(2)	データベース管理システムにおける処理単位のトランザクションとその処理が持つべき特性を説明する。また、様々なアクセスを並列に処理する同時実行制御、障害時の回復方法について解説する。 【キーワード】 トランザクション、ACID特性、同時実行制御、障害、回復	浅井　紀久夫(放送大学准教授)	浅井　紀久夫(放送大学准教授)
13	データベースの発展技術(1)	リレーショナルデータベース以外にも、データベースには様々なモデルが存在する。データベースの機能とデータ形式から分類を行い、それぞれの特徴について説明する。 【キーワード】 キーバーリューストア、列指向型データベース、ドキュメント指向データベース、グラフデータベース、NOSQL	小林　亜樹(工学院大学准教授)	小林　亜樹(工学院大学准教授)
14	データベースの発展技術(2)	リレーショナルモデルとは大きく異なるデータモデルを採用するグラフデータベースについて説明する。データモデルや問い合わせ言語について述べる。 【キーワード】 グラフデータベース	小林　亜樹(工学院大学准教授)	小林　亜樹(工学院大学准教授)
15	データベースの発展技術(3)	近年の大規模化が進むデータベースに求められている高機能、高速性を実現する要素について説明する。分散データベースの特性について述べる。 【キーワード】 分散データベース、CAP定理、BASE特性	小林　亜樹(工学院大学准教授)	小林　亜樹(工学院大学准教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234234	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの生物学 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Introduction to Biology (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：松本　忠夫　（放送大学客員教授）　〕

〔主任講師（現職名）：二河　成男　（放送大学教授）　〕

※この科目は「初歩からの生物学（’08）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第 1,2,8,9,10,15回です。

講義概要

生物とはいかなるものかという課題について、大学レベルにおける基礎から講義する。さらに、人々が日常生活を行っていく上で関係する生物学上の知識を講義する。

授業の目標

生涯教育の場における学生にとっては、最近の生物学の進歩は著しいので、過去の教育で受けた内容が古くなっていることが多い。そこで、本科目では、生物学を基本から解きほぐすことを目標とする。取り上げる題材はできるだけ日常生活と関係する事柄にするが、さらに、現在における先端的研究でのトピックスも、できるだけやさしく講義したい。

履修上の留意点

生物学に関する過去の知識を前提としないで理解できるよう、できるだけ分かり易い講義にしたいが、もし、分からない事柄が出て来た場合には、世の中には種々の啓蒙書があるので、それらを積極的にひもといて学習をしてほしい。また、インターネットによる知識収集も大いに役立つので利用して欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生物学を学ぶ意義 ※改訂回	本章は全体の序章として、生物学とはいかなるものか、そして学ぶ意義について考える。そのために、生物学とはどのような学問構造をしているか、また、どのような研究課題があるかの大筋を学ぶ。 【キーワード】 生物学、生命科学、科学と技術、生命倫理、方法論	松本　忠夫 （放送大学客員教授）	松本　忠夫 （放送大学客員教授）
2	生物の特性 ※改訂回	生物には、他の物体には見られない顕著な特徴がある。この章では”生命・生物の世界”が、”非生命・非生物の世界”とどのように異なるのかを学ぶ。そのためには、地球の40億年前に、生命体がいかなる場所で、どのようにして誕生したかについて、また、宇宙全体での生命体の存在可能性についての考えを及ばす必要がある。 【キーワード】 生物圏、非生物圏、生命、非生命、生命体の誕生、宇宙生命体	松本　忠夫 （放送大学客員教授）	松本　忠夫 （放送大学客員教授）
3	生物の誕生と歴史	太古の地球において最初の生物が誕生し、長い年月をかけて世代交代を繰り返しながら徐々に変化し、現在のような多種多様な生物たちが共存する世界が形成されるにいたった。このような生物の歴史と、生物の時間的な変化、すなわち進化のしくみについて学ぶ。 【キーワード】 生物の誕生、進化	二河　成男 （放送大学教授）	二河　成男 （放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	多様な生物の世界(1)	現在の地球にはどのような生物が存在しているのか、大分類について説明する。2回にわたるが、この回では単細胞生物に関して、その栄養獲得様式と、生活型について説明する。また、多細胞生物では、光合成生物、従属栄養生物などにふれる。 【キーワード】 単細胞生物、栄養獲得、生活型、多細胞生物、光合成	松本　忠夫（放送大学客員教授）	松本　忠夫（放送大学客員教授）
5	多様な生物の世界(2)	前回に引き続いて、現在の地球にはどのような生物が存在しているのか、特に動物についてその栄養獲得様式と生活型について説明する。さらに動物の形態、生理、生態などいろいろな側面から説明する。 【キーワード】 動物、栄養獲得、生活型、適応放散	松本　忠夫（放送大学客員教授）	松本　忠夫（放送大学客員教授）
6	細胞：生命の最小単位	私たちの体も、他の生物と同様に細胞からできている。細胞といっても多種多様なものが存在する。その一方で、細胞全般に共通するしくみもたくさんある。このような相違点と共通点について、細胞のかたちや中身といった物理的な特徴と、移動や分裂といった機能的な特徴から考える。 【キーワード】 細胞、細胞小器官、細胞核、細胞骨格、細胞分裂	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
7	生命活動を支える物質	生物は細胞からできている。では、細胞は何から構成されているのであろうか。細胞も、われわれの身の回りにある物と同様に分子から構成されている。細胞を構成する分子には非生物世界を構成する分子とは違った特徴があること、さらに地球上のすべての細胞は基本的には共通の分子を利用して共通のしくみで活動していることを学ぶ。 【キーワード】 分子、水、タンパク質、糖、脂質、核酸	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
8	生体内の化学反応 ※改訂回	様々な生命活動は、体内で合成される物質や、物質を分解することによって得られるエネルギーによって支えられている。このような物質の合成や分解は、代謝とよばれ、その実体は良く制御された化学反応の連鎖である。生物が営む化学反応の特徴と、主な代謝の反応経路について学ぶ。 【キーワード】 酵素、代謝、光合成、呼吸	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
9	個体の統合と恒常性 ※改訂回	多細胞体制をとる生物の体は、細胞、組織、器官、器官系、個体といった階層化された構造からなる。各構造の働きをほどよく調節することによって、個体としての統一性が保たれている。ここでは、個体にみられる細胞を基盤とした階層構造と、統一性を支える生体内の調節機構について学ぶ。 【キーワード】 組織、器官、内部環境、恒常性	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	個体の再生産 ※改訂回	生物は、自己とほとんど同じものを産生することによって、増殖する。ここではその個体の再生産を、生殖、発生、成長、繁殖、老化といった、多細胞体制を捕る生物に一般的に見られる個体のライフサイクルに沿って解説する。 【キーワード】 生殖、性、受精、発生、成長、繁殖、老化	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
11	世代を越えた情報の伝達	子は親に似る。このことはすべての生物に共通に見られる現象である。これは遺伝情報を担ってるDNAが親から子に受け渡されるためである。この遺伝のしくみと、DNAの情報を細胞がどのようにして読み取るかについて学ぶ。 【キーワード】 遺伝、染色体、遺伝子、DNA、RNA、タンパク質	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
12	情報の交換（1） 個体内の情報伝達	細胞は、さまざまな物質を利用してお互いの間での情報伝達を行っている。その結果、われわれの体全体の細胞が協調して働くことができたり、子孫の細胞に遺伝情報を伝達することができる。ここでは、いくつかの代表的な体の中の情報伝達について学ぶ。 【キーワード】 シグナル分子、受容体、神経細胞	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
13	情報の交換（2） 個体間の情報伝達	生物は個体間でさまざまな手段を使って情報交換を行っているが、その様相を同種間の場合、異種間の場合で説明する。そして、それらの情報交換の機能や進化的由来について考察する。 【キーワード】 情報伝達、情報交換、同種間、異種間	松本　忠夫（放送大学客員教授）	松本　忠夫（放送大学客員教授）
14	生物群集の成り立ち	生物は多数の種が競争、共生、寄生、捕食などの関係をもって同所的に存在して群集を構成している。そして、群集はさらにそれぞれのおかれた地域環境とともに、生態系をなしている。この回では、おもに沖縄県の八重山諸島を例にとって、そこでの生物群集の様相、そしてその生物群集の保全活動について説明する。 【キーワード】 群集、生態系、八重山諸島	松本　忠夫（放送大学客員教授）	松本　忠夫（放送大学客員教授）
15	生き物としての人間 ※改訂回	いうまでもなく人類も生き物であり、哺乳類の霊長類の仲間である。しかし、人類は他の霊長類に見られない特別な進化をとげた。人類は他の霊長類からどのような経緯で進化したのだろうか。今や人類は世界拡散をとげ、著しく個体数が増大し、すべての他生物に多大な影響を与えているが、その様相を環境生物学の視点から見ることにする。 【キーワード】 霊長類、類人猿、人類の特徴、二足歩行、ヒト、人口爆発、野生生物の減少、人間、ケニア、マダガスカル	松本　忠夫（放送大学客員教授）	松本　忠夫（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1760017	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 生物環境の科学 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Environmental Ecology (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：加藤　和弘　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

生物のそれぞれの個体を取り巻く全てのもの、すなわち環境は、生物の生息のありようを大きく左右する。環境の構成要素として、非生物的な条件がもっぱら認識されるが、周囲にいる他の生物もまた、環境の構成要素である。というのは、生物はほとんどの場合単独では生きておらず、同種あるいは他種の生物と密接な関係を保ちながら生きているからである。本講では、生物の生息に影響を及ぼす環境条件について、生物的条件や景観に関わる条件なども含めて説明する。さらに、長期的な視点に立った場合に、環境が進化や種分化にどのように関わり得るのか、その概要を紹介する。

授業の目標

・生物にとっての環境とはどのようなものであるのか、生物的環境も含めて理解すること。
・生物個体の相互の関係が、生物の生息、生存にとって重要であることの概要を把握すること。
・人間が他の生物の生活に大きな影響を及ぼしていることについて、都市、農村、河川などにおける具体例を通じて認識を深めること。
・生物にとっての環境を理解することは、生物の進化を考える上で不可欠であることを学習すること。

履修上の留意点

本講義を履修するにあたっては、学部での導入科目の「初歩からの生物学」を履修しておくこと、あるいは同水準の生物学を既習していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生物にとって環境とは何か	野外での生物の生息状況を考える際には、「環境」という言葉あるいはその考え方が決まって登場する。いったい「環境」とはどのようなものだろうか。具体的に、何をどのように考えればよいのだろうか。本科目で生物にとっての環境について学習するにあたり、最初に関連する必要な用語や考え方(概念)を紹介し、学習の出発点としたい。 【キーワード】 環境、主体、個体群、群集、生息場所、ビオトープ、ランドスケープ、生態系	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）
2	気候と生物	地球全体を通してみると、気候の違いに対応した生物相が見られる。共通の気候のもとで成立する一定の外観を持つ植生(植物群系)と、その上で維持されている他の生物群集をあわせてバイオームと呼ぶ。世界におけるバイオームの分布が気候とどのように関係しているかを説明した上で、主なバイオームについて紹介する。また、気候以外に生物の地球規模での分布を規定する地史的な要因についても概説する。 【キーワード】 気候帯、植物群系、バイオーム、生物圏、気温、降水量、生物地理区	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）
3	地形と生物	同一の気候帯でも、生息する生物は場所によって異なることがある。そのような違いをもたらす要因の中から、地形とそれに関連する環境条件を取り上げる。山地、河川の水辺、海岸の砂浜を例に、生物相の場所による違いがどのようにしてもたらされるのかを紹介する。 【キーワード】 山地、垂直分布、砂浜、河川の水辺、比高、地形	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	植生と植生遷移	植物は、他の生物が利用する有機物を生産するとともに、それらが生きていくための空間的な構造をも作り出す。そこで、ある土地における生物群集や生態系のあり方を理解するためには、そこにおける植物のありようを理解することが重要である。植物は通常、複数の種の個体が集団となって成育している。この集団が植生である。植生のあり方の概要を示すとともに、時間の経過に伴って植生がその生育環境とともに変化していく過程である植生遷移についても紹介する。 【キーワード】 植生、植物群落、植物群落の分類、相観、植生遷移、極相、樹冠ギャップ	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）
5	植生と動物との関係	従属栄養生物である動物にとって、植物は有機物の供給のおおもとである。また、多くの動物は、植物が成長することで形作られた空間や、植物体そのものを、生活の場として利用している。従って植生のありかたは、多くの動物にとって重要な環境条件となる。植生のあり方と動物群集の関係について具体的に解説するとともに、植生の状態に応じて動物の生息状況が実際に変化している様子を示す。 【キーワード】 植食動物、種子散布、花粉、デトリタス、腐食連鎖、植生の構造	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）
6	水域生態系における生産者と分解者	水中では、付着藻類と植物プランクトンが主な生産者である。どちらも、肉眼では個々の個体がほとんど識別できない微生物が中心である。分解者としても、水中では細菌など微生物の役割が大きい。分解者がいなければ死骸や糞が分解されず、植物に必要な栄養分が循環しなくなるのは陸上と同じだが、水中では、食物網において分解者が捕食者に食べられる過程の重要度が高い。 【キーワード】 付着藻類、植物プランクトン、動物プランクトン、微生物、一次生産、分解	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）
7	生物的環境	生物は、その周囲の他の生物と関わりあいながら生きている。個々の生物にとって、周囲に生息する他の生物もまた、環境を構成する重要な要素である。生物どうしの関係は、その関わり合う生物にとって、有益であったり生存に不可欠であったりするが、逆に有害な場合も少なくない。生物とその周囲に生息する他の生物との種々の相互関係に注目し、それらが生物の生存にどのような影響を及ぼしているかを解説する。 【キーワード】 捕食者、種間競争、資源、共生、種子散布、生態系エンジニア	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）
8	生態系における撹乱	生物の中には、生息場所における生物相の消失（撹乱）と再生の過程が繰り返される中で、生き続けることができる種類もある。増水に伴う裸地化とその後の再生を繰り返す河川の水辺は、高い頻度で撹乱が起こる代表的な場所である。他の例も交えながら、「撹乱」と、その背景にある生物種間の競争について説明する。 【キーワード】 撹乱、中規模撹乱仮説、河川の水辺、撹乱依存種、植生遷移、種間競争	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）
9	景観生態学的要因	ある場所に生息、生育する生物の種類や量は、その場所の環境条件によって左右されるが、それだけではない。その場所を取り巻く空間のあり方にも影響される。なぜそのようなことが起こるのだろうか。本章では、ある場所を取り巻く空間の様子が、その場所の生物の生息、生育に影響を与える理由と、そのような空間を評価するための考え方を、説明する。 【キーワード】 生息地の面積、資源、移入、孤立性、島嶼生物地理学、メタ個体群、境界効果	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	人間による環境改変1：都市化	人間の活動は、生物多様性を損ない、より単調な生物相をもたらすことが多い。この回では、都市化による影響を取り上げる。都市化が生物多様性の低下に結びつく理由、都市化に伴う生物多様性や生物相の変化のあり方、都市に生息・生育する生物の特徴について、考えていただきたい。 【キーワード】 都市化傾度、生物学的均一化、都市に特徴的な生物、資源の利用可能性、生息場所	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）
11	人間による環境改変2：農村の場合	都市だけでなく、農業基盤や社会基盤の整備に伴う土地や水路の人工化が進んだ農村でも、生物多様性の低下が顕著にみられる。しかし一方で、伝統的な農法や土地管理のもとで高い生物多様性が保たれてきた農村もある。日本の里山を例に、どのようにして高い生物多様性が保たれてきたかを、ここまでに説明した内容を踏まえて紹介する。 【キーワード】 里山、植生管理、中程度の撹乱、生物の移動可能性、生息場所のモザイク	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）
12	人間による環境改変3：河川の改変とその生物への影響	河川もまた、人間の活動によって大きく様相が変えられた空間である。河川の生物に対する人為的な影響としては、水質汚濁や富栄養化、そして酸性化などが注目を集めやすい。しかし、そのような変化だけが生物に影響を与えるのではない。河川の生物にとっての環境条件として何が重要であり、生物にどのような影響をもたらすのかを整理して紹介する。 【キーワード】 河川、水の化学性、水文学的条件、流速、堆積物、川岸の状態	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）
13	生物多様性と進化	地球の生物圏には多様な生物種が生きている。種の多様性は、遺伝的な多様性の上に成り立っている一方、多様な種の存在が可能であることの背景として生息場所の多様性も重要である。こうした多様性は今日、人間による活動の結果として全地球的に危機にさらされている。ここでは、生物多様性とその起源、および関連する考え方について説明する。 【キーワード】 種の多様性、遺伝的多様性、群集の多様性、生態系サービス、進化	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）
14	生物の進化1：種分化と種間関係	生物の種間には、時に密接な関係が存在する。ある種において他種との関係で有利になる形質が進化し、これに対応する形で相手方の種の形質も進化したと考えられる例は多々ある。密接な関係を持った複数の種が、互いに影響を及ぼしあいながら共に進化していく過程は共進化とよばれ、種の多様化が生じる要因の一つとされている。共進化に関わると考えられる種間関係の例を取り上げ、種間関係から種分化や種の多様化に至る過程について考える。 【キーワード】 生物的環境、種間関係、相利共生、片利共生、進化的軍拡競争	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）
15	生物の進化2：孤立した生物生息場所が持つ意味	孤立した個体群が長期にわたって存続できた場合には、その個体群の遺伝的な状態が徐々に変化し、時には新たな生物種の分化へと至ることがあり得る。このような現象が実際に起こったと考えられるのが、海洋の中に孤立して存在する海洋島である。人為的な影響が小さな海洋島では固有性の高い生物が多く見られる。海洋島を例に挙げながら、生物生息場所の地理的な隔離が生物の進化にどのように結びつくのかを考える。 【キーワード】 海洋島、地理的隔離、種分化、適応放散、創始者効果	加藤　和弘（放送大学教授）	加藤　和弘（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1760025	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの物理 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 An Introduction to Physics (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：岸根　順一郎　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：米谷　民明　（東京大学名誉教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

本科目は「自然と環境コース」が提供する物理系4科目（下記「関連する科目名」参照）への導入としての役割を果たす。対象として自然科学に関心を持つすべての学生を念頭に置き、「物理法則に基づいて自然現象を記述する」見方、考え方を伝える。第1回で物理的自然観を概観し、第2～4回で物理学の基盤である力学の論理と方法、第5～7回で環境問題を含む熱学的自然観、第8～9回では波動現象と場の考え方を扱う。第10～13回は、電気と磁気、電磁波そして相対性理論の初歩を扱う。さらに第14、15回で物質の原子・分子からの成り立ちや、さらにミクロな世界を理解するのに必要な量子の世界の法則を垣間見る。

授業の目標

物理法則に基づいて自然現象を把握するための発想法と方法論に親しむ。それによってより進んだ学習への動機を高める。また、原子力や環境問題など人類と自然の共生に関わる問題を物理学の視点で理解する力を身に着ける。

履修上の留意点

物理の学習に一歩を踏み出そうとするすべての方を念頭において、物理の見方・考え方を解説する。物理の学習にある程度の数学の使用は避けられないが、本科目では高校程度以上の数学の使用は避ける。本科目と「物理の世界」をともに受講することで物理という学問の全体像をつかむことができるようになっている。これらの科目を学んだ後、さらに本格的に物理学の学習を深めたい方には、「力と運動の物理」「場と時間空間の物理」「量子と統計の物理」という3つの専門科目が用意されている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	自然現象を物理的にとらえよう	自然現象を物理的に把握する方法を述べる。物理学における実験と一般化の役割、自然法則に基づく現象の統一的記述といった物理学の特徴を強調する。	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授） 米谷　民明（東京大学名誉教授）
2	力は運動を引き起こす	物理学の対象として最も古くから探究されてきたのが「物体の運動」である。そして、ニュートンによって力と運動の関係が確立されたことが現代につながる物理学の基盤となった。この回では、運動とは何かという問題から始めてニュートンの力学法則を紹介する。	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
3	運動方程式を読み解く	運動方程式 ma=f は大変シンプルな格好をしているが、その内容を探り使いこなすことで実に多様な力学現象が記述できる。この回では、加速度、力、質量それぞれの内容を探り、運動方程式の意味を明らかにする。	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	運動方程式からの展開	運動方程式には物理的な運動についてのすべての情報が込められている。これを解析することで運動の変化を追跡することができる。それだけでなく、運動方程式には時間がたっても不変に保たれる「保存量」が潜んでいる。	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
5	エネルギーの捉え方	エネルギーという言葉は身近な分だけ誤解や混乱も招きやすい。まずは力学的エネルギーについて述べ、さらに物理学全体におけるエネルギー概念の意義を述べる。散逸や不可逆性といったキーワードにも触れる。	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
6	温度と熱	エネルギーと並んで身近な言葉である熱。その内容を正しく理解することで、膨大な数の粒子からなるマクロな体系の論理が明らかになる。	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
7	エントロピーとは何か	熱力学サイクルの効率の問題を通して、エントロピーの概念に誘う。エントロピーが乱雑さ・不可逆性と直結していることを述べる。	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
8	振動と波動	振動する源が波動を生み出す仕組みを述べる。弦の振動、音といった力学的波動の捉え方を通して位相の概念を説明する。源が発信源となって波が生まれる仕組みを通して、粒子と場の概念へ誘う。線形と非線形の概念にも触れる。	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
9	波としての光	光と物質の関係は物理学の主題のひとつである。ここでは光を巡る研究の歴史を踏まえ、電磁場理論の完成直前までの光学理論を紹介する。これによって第10回以降の電磁場の物理へつなげる。	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
10	電気って何だろう	電気は私たちの日常生活に欠かせない。静電気の実験から、電気の本性とは何なのか探求を始める。電気は便利に利用できるというだけではなく、電気こそ私たちの体を含む宇宙のすべての物質をつくる力である。その理解のために重要な電場の考え方を解説する。	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	電気と磁気の切っても切れない関係	電気と磁気は密接に関係している。磁石の性質から出発して磁場の性質を学ぶ。そして、電流によって磁場が生じること、磁場の変化が電場を生み、電場の変化が磁場を生み出す電磁場の法則の初歩を学ぶ。	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
12	電気磁気は電子の世界を読み解く鍵	電気と磁気の起源の探求を始める。原子を構成している電子と原子核が電気と磁気の起源であることを学び、そこから電気磁気の様々な現象、特に電磁波が説明できることを学ぶ。	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
13	電磁波とアインシュタイン	電磁波が真空中で伝わる速度は常に一定の普遍定数である。このことは私たちが経験で培って来た素朴な時間と空間の考え方が正しくないことを示している。アインシュタインがこの問題にどう取り組み、新しい時間と空間の概念を提唱したか考え方を学ぶ。	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
14	量子の世界とはどんなものか	原子や分子の成り立ちを説明するには、これまで学んできたニュートンの力学やファラデー・マックスウェルの電磁場の考え方では不十分である。量子の考え方によって初めてこの世界が説明できるようになる。その初歩を学ぶ。	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
15	私たちはどこまで宇宙を理解できるか	第13回、14回で学んだ新しい時間空間の考え方、および量子の考え方によって現代の物質理解はどこまで進んでいるのか、そしてどのような謎が残っているのか、本科目の最後のテーマとして現代物理学の世界を垣間みる。	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234021	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの化学 （’１２）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：髙柳　正夫　（東京農工大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：安池　智一　（放送大学准教授）】

講義概要

物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、高分子化学など化学のさまざまな分野について、基礎的・基本的な事項を講義する。身近に用いられている物質や反応などを例として用いたり、簡単な実験を見せたりすることにより、化学が我々の生活に密着した学問分野であることを実感してもらう。

授業の目標

化学を全く学んだことがない、わずかしか学んでいない、あるいは以前に学んだがほとんど忘れてしまったという受講者を主な対象とする。化学がどんな学問分野であるかを理解して、専門的な勉強を始めるためのきっかけ的な知識を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

限られた時間で化学の主な分野を概観する講義となっているので、各分野についてさらに詳しく勉強をしたい場合には、本講義を履修後に、化学系のさらに進んだ講義を履修することを薦める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	化学の世界	身近な物品（例えば電化製品や自動車）に使われている化学製品や化学反応を紹介する。また、身の回りで起きている化学的な現象を紹介する。これらを通じて化学が身近で重要な学問分野であることを理解する。化学がどんな細目分野（物理化学、有機化学、分析化学など）から成り立っているのか、それぞれの分野がどんな内容を扱い、まためざしているのかについても述べる。 【キーワード】 身近な化学、生活と環境、材料、反応、化学の細目分野	髙柳　正夫（東京農工大学教授）	髙柳　正夫（東京農工大学教授）
2	空気は何からできている? －物質の成り立ち	物質を混合物と純物質に、純物質を化合物と単体に分類し、物質の成り立ちを考える。元素とは何か、どのように発見されて周期表として整理されたのかについて述べる。原子や分子の実在がどのように確かめられて、どのような意味があるのかについても述べる。 【キーワード】 混合物と純物質、化合物と単体、元素、原子と分子、周期表	髙柳　正夫（東京農工大学教授）	髙柳　正夫（東京農工大学教授）
3	物質を構成する粒子 I －原子の構造と周期律	原子の構造について述べる。原子は、原子核とその周囲を運動する電子から成る。殻や軌道への電子の配置の原理と、最外殻の電子（価電子）が原子核から受ける力を検討することにより、原子の性質や周期表の仕組みが理解できることを説明する。 【キーワード】 原子の構造、原子核、電子、殻と軌道、周期律	髙柳　正夫（東京農工大学教授）	髙柳　正夫（東京農工大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	物質を構成する粒子 Ⅱ －分子の成り立ち	原子と原子が結合を作る原理について述べる。閉殻構造の完成による結合形成の考え方と、分子軌道への電子収容に伴うエネルギー低下による結合形成の考え方について述べる。σ結合とπ結合の定義とそれらの違いや、異なる種類の原子の間の結合における結合のイオン性についても述べる。 【キーワード】 化学結合、分子軌道、共有結合、σ結合とπ結合、結合のイオン性	髙柳　正夫（東京農工大学教授）	髙柳　正夫（東京農工大学教授）
5	金属と非金属	元素を、単体の示す性質や原子の電子構造にしたがってさまざまに分類する。特に、金属元素の単体の性質や遷移元素について、電子構造と関係づけながら説明する。また、無機化合物の成り立ちについて述べる。 【キーワード】 金属元素と非金属元素、元素の単体、遷移元素、無機化合物、配位結合	髙柳　正夫（東京農工大学教授）	髙柳　正夫（東京農工大学教授）
6	酸性雨の化学 －酸と塩基	環境問題となっている酸性雨の発生機構と被害を引き起こす機構に対する理解を深めることを目指し、物質の基本的な性質である酸性と塩基性について、定義、性質、中和反応について述べる。酸や塩基が示す反応の一つで、重要な物質変化の過程でもある酸化と還元についても述べる。 【キーワード】 酸性雨、酸と塩基、中和反応、酸化と還元、イオン化傾向	髙柳　正夫（東京農工大学教授）	髙柳　正夫（東京農工大学教授）
7	炭素がつくる化合物 －有機化合物の構造	有機化合物とは何かを定義する。身近にさまざまな有機化合物が使われていることを認識する。有機化合物の多様性の原因について述べる。有機化合物の基本骨格をなす炭素－炭素結合の仕組みについて述べる。基本骨格と官能基により有機化合物を体系的に整理する方法を概説する。 【キーワード】 有機化合物、炭化水素、混成軌道、官能基、異性体	髙柳　正夫（東京農工大学教授）	髙柳　正夫（東京農工大学教授）
8	薬や染料をつくる －有機化合物の反応	生活の中で使われる多種多様の有機化合物を合成するために、様々な反応が用いられている。ここでは、有機反応を分類し、代表的な有機反応の機構を理解する。薬や染料の具体的な合成法を示し、簡単な有機合成反応の実験手順について述べる。 【キーワード】 有機反応機構、置換反応、付加反応、脱離反応、転位反応	髙柳　正夫（東京農工大学教授）	髙柳　正夫（東京農工大学教授）
9	プラスチックと繊維 －高分子化学	身近に用いられているプラスチックや合成繊維を紹介しながら、高分子化合物の定義や特徴について述べる。代表的なプラスチックと合成繊維の構造と合成方法を述べる。石油を原料として作られるプラスチックや合成繊維が、資源問題や環境問題とどのように関わるかを考える。 【キーワード】 高分子化合物、プラスチック、合成繊維、重合反応、連鎖反応	髙柳　正夫（東京農工大学教授）	髙柳　正夫（東京農工大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	固体と液体 －分子間相互作用	分子間に働く力である分子間相互作用を理解しながら、固体と液体の特徴をまとめる。固体の中で構成粒子（原子や分子）がどのように集まっているのかを、結晶構造や粒子間に働く力から理解する。分子間相互作用の働きで形成される高次の構造や機能を持った分子集合体について述べる。 【キーワード】 固体、液体、分子間相互作用、結晶、超分子	髙栁　正夫（東京農工大学教授）	髙栁　正夫（東京農工大学教授）
11	物質の三態とその変化 －物質の状態	物質の三態（固体、液体、気体）および三態間の変化を、構成粒子（原子や分子）が持つエネルギー、運動の激しさと関係付けながら解説する。気体の圧力、体積、温度の間にある関係について述べ、その関係を構成粒子の運動やエネルギーの立場から解説する。 【キーワード】 物質の三態、状態変化、状態図、気体の状態方程式、理想気体と実在気体	髙栁　正夫（東京農工大学教授）	髙栁　正夫（東京農工大学教授）
12	エネルギーの利用 －エネルギーの保存と収支	身近に使っているエネルギーがどのように作り出されているのかを考えながら、エネルギー保存則（熱力学第一法則）について述べる。化学反応に伴うエネルギーの収支の見積もり方と、その意味を解説する。エネルギーを与えたり奪ったりしたときに気体（理想気体）が示す挙動を通じて、エネルギーと熱と仕事の関係を考える。 【キーワード】 エネルギー、エネルギー保存則、化学反応のエネルギー収支、熱と仕事、理想気体の状態変化	髙栁　正夫（東京農工大学教授）	髙栁　正夫（東京農工大学教授）
13	変化が進む方向 －エントロピーと自由エネルギー	物質の変化が起こる方向が、エネルギーと、乱雑さの指標であるエントロピーにより決まることを説明する。エネルギーとエントロピーの双方を考慮した自由エネルギーにより、変化の起こる方向が決まることを説明する。平衡状態と自由エネルギーの関係や、物質の変化に伴い放出あるいは吸収されるエネルギーと自由エネルギーの関係について述べる。 【キーワード】 変化の方向、エントロピー（乱雑さ）、熱力学第二法則、自由エネルギー、平衡	髙栁　正夫（東京農工大学教授）	髙栁　正夫（東京農工大学教授）
14	安心・安全を守るⅠ －分析化学の基礎	我々の生活の安心・安全を守るために分析化学が果たしている役割を考える。分析化学の方法を分類し、目的に合わせた方法の選択が必要であることを説明する。基本的な定性分析および定量分析について、実例を挙げながら述べる。 【キーワード】 分析化学、定性分析と定量分析、非破壊分析、重量分析、容量分析	髙栁　正夫（東京農工大学教授）	髙栁　正夫（東京農工大学教授）
15	安心・安全を守るⅡ －機器分析	身近で行われている分析を題材として、機器分析による定量分析の原理を理解する。分光分析、質量分析、クロマトグラフィーを概観し、それぞれがどのように用いられているのかについて述べる。現在の分析化学で主流となっている機器分析の長所と短所を概説する。 【キーワード】 機器分析、ランベルト・ベールの法則、分光分析、質量分析法、クロマトグラフィー	髙栁　正夫（東京農工大学教授）	髙栁　正夫（東京農工大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	導入科目	科目コード	1760076	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 化学結合論－分子の構造と機能 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Chemical Bond Theory (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：橋本 健朗 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

分子が示す様々な機能は、分子の構造と電子状態によって決まる。これらは化学結合論により関係づけられる。本科目では、共有結合・イオン結合・配位結合といった代表的化学結合とそれらができる仕組み、分子の立体構造、さらに分子間相互作用を、電子の振る舞いにまで踏み込み、量子力学の観点から整理する。その上で、機能性材料の設計指針となる分子および分子集合体の構造形成・機能発現の原理、放射線による化学結合の破壊と生体影響、生体分子の構造と機能および医薬品の働きの学習を通して、化学結合を総合的、俯瞰的に理解する。

授業の目標

1. 原子や分子の大きさ、電子の振る舞いの特徴、化学結合ができる仕組みを理解する。
2. 炭素化合物の構造多様性とその原因を結合論、原子軌道、分子軌道の観点から理解する。
3. 材料として機能する分子とその集合体の構造、電子状態と機能の関係を具体例を通じて理解する。
4. 分子レベルでの遺伝の仕組み、放射線による化学結合の破壊とその生体への影響を理解する。
5. 生体物質の化学結合、構造、機能、反応および医薬品の働きを理解する。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	原子、分子の世界	実験結果に基づき、電子などミクロな世界での粒子の運動状態の記述には、従来の物理学に代わる新しい理論が必要であることを示す。水素原子の離散的なエネルギー準位、電子の波動性と粒子性の二面性が重要である。原子の大きさ、励起エネルギーのオーダーも押さえる。 【キーワード】 光子、エネルギー準位、量子数、プランク定数、物質波、ボーア半径	橋本 健朗（放送大学教授）	橋本 健朗（放送大学教授）
2	量子化学の基礎	量子力学の基礎方程式(シュレーディンガー方程式)を作り、その性質を調べ、さらに理論に基づく予想と実験とを比較する。シュレーディンガー方程式を境界条件のもとに解くと、波動関数と離散的なエネルギー準位が得られる。水素原子が離散的エネルギー準位を持つ理由を電子の運動と結びつけて理解する。 【キーワード】 波動関数、変数分離解、シュレーディンガー方程式、ハミルトニアン、固有値方程式、固有値、確率密度、独立粒子近似	橋本 健朗（放送大学教授）	橋本 健朗（放送大学教授）
3	水素原子・水素様原子	水素原子の状態は、三つの量子数で指定される。波動関数は原子軌道と呼ばれ、量子数の組み合わせに応じて名前がついている。原子軌道は、動径成分と角度成分の積で与えられ、動径成分は軌道の広がりを、角度成分は軌道の方向を担う。節の数と形状、それらの量子数依存性を押さえる。 【キーワード】 原子軌道、主量子数、方位量子数、磁気量子数、縮重、動径成分、角度成分(球面調和関数)	橋本 健朗（放送大学教授）	橋本 健朗（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	原子と周期表	原子の姿を掴む。周期表を俯瞰的に見て、元素の並び方の規則を読み解く。元素の性質の原子番号依存性とその理由を解き明かす。水素様原子に多電子効果を取り込む考え方と、その結果が種々の原子の類似点、相違点（元素の多様性）にどうつながるのかを学ぶ。 【キーワード】 遮蔽効果、有効核電荷、電子スピン、電子配置、構成原理、パウリの原理、フントの規則、周期律	橋本　健朗（放送大学教授）	橋本　健朗（放送大学教授）
5	化学結合ができる仕組み	化学結合ができる仕組みを、量子力学に基づいて説明する。分子軌道法の考え方、結合性軌道、反結合性軌道、分子の電子配置を理解する。本章で学ぶ原理、規則を活用して、二原子分子ができるのか、できないのかを予想する。また、相対的な二原子分子の結合の強さを理論的に説明できるようになる。 【キーワード】 分子軌道法、軌道相互作用、結合性軌道、反結合性軌道、ポテンシャルエネルギー曲線	橋本　健朗（放送大学教授）	橋本　健朗（放送大学教授）
6	共有結合とイオン結合	二つの原子の原子軌道から、どのように分子軌道が構成されるかを予想するには、理論に裏付けられた簡単な指針がある。軌道相互作用と電子配置を合わせると、結合の強さや、分子内の電荷の偏りが説明できる。量子化学を活用して、化学結合の多様性とその原因を理解する。 【キーワード】 軌道相互作用、軌道相関図、占有数、結合次数、極性、共有結合、イオン結合	橋本　健朗（放送大学教授）	橋本　健朗（放送大学教授）
7	有機化合物：混成軌道がもたらす構造多様性	混成軌道の考え方を基に、有機化合物の炭素－炭素単結合、二重結合、三重結合がどのように形成されるのか、分子の立体構造と結合の種類にどんな関係があるのかを理解する。また非共有電子対の立体構造への影響も学ぶ。二つの電子に占有された軌道と隣の原子の空軌道の相互作用による配位結合も理解する。 【キーワード】 オクテット則、sp3混成軌道、sp2混成軌道、sp混成軌道、σ結合、π結合、立体配座、非共有電子対、VSEPR理論、遷移金属錯体	佐藤　総一（首都大学東京准教授）	佐藤　総一（首都大学東京准教授）
8	分子間相互作用と固体、液体	結晶の種類、構造、性質を分子間相互作用及び化学結合をもとに理解する。金属の電子状態は、原子軌道が無限に繋がったという考えを基にしたバンド理論で説明される。不純物半導体は、構成原子の電子構造の類似点、相違点を巧みに利用している。原子と固体の電子構造を結びつけて、化学の理解を深める。 【キーワード】 分子結晶、共有結晶、イオン結晶、金属結晶、ファンデルワールス力、水素結合、自由電子、バンド理論、半導体	橋本　健朗（放送大学教授）	橋本　健朗（放送大学教授）
9	π共役系と色素	我々の身の回りの製品は、たくさんの色で彩られている。π結合が共役したπ電子系からなる色素が、多彩な色の表現を可能にしている。π共役系が、吸収する可視光の波長を精密に制御でき、無数の色を作れる理由について量子化学的な観点から理解する。また、色の表現だけに留まらない機能性色素にもふれる。 【キーワード】 ヒュッケル分子軌道法、HOMO－LUMO遷移、染料、顔料、フォトクロミズム	西長　亨（首都大学東京准教授）	西長　亨（首都大学東京准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	分子結晶と有機半導体	π共役系の分子結晶では、その配列構造が結晶内でのπ電子の移動経路を決めており、電気伝導性に大きな影響を与えていることを理解する。また、適度に相互作用したπ共役系分子の集合体は、外部刺激に応答して伝導度を発現し、軽量で柔軟性の高い様々な半導体素子への応用が可能であることを学ぶ。 【キーワード】 分子結晶、半導体、有機光導電体、有機エレクトロルミネッセンス、有機電界効果トランジスター、有機薄膜太陽電池	西長　亨（首都大学東京准教授）	西長　亨（首都大学東京准教授）
11	電離放射線の生体影響Ⅰ	電離放射線とは、原子に電離作用を及ぼす放射線の総称である。本章では、電離放射線の種類と物理化学的性質、電離放射線が化学結合を崩壊させる過程を学ぶ。さらに、生物の遺伝の仕組みを学び、電離放射線が生体に影響を及ぼすメカニズムを理解する。 【キーワード】 電離放射線、遺伝子、DNA	廣田　耕志（首都大学東京教授）	廣田　耕志（首都大学東京教授）
12	電離放射線の生体影響Ⅱ	電離放射線によって引き起こされる障害に、しきい値が存在する「確定的影響」としきい値が存在しない「確率的影響」があり、その違いについて学ぶ。また、電離放射線の強さを表す様々な単位について学び、電離放射線の強さによる生体影響の違いについて理解する。 【キーワード】 電離放射線、確定的影響、確率的影響、シーベルト(Sv)	廣田　耕志（首都大学東京教授）	廣田　耕志（首都大学東京教授）
13	タンパク質の構造	タンパク質は、多数のアミノ酸が直鎖状に重合した分子であるが、多くの場合、折りたたまれたかたちで存在する。タンパク質の構造中では、水素結合によって形成されたαヘリックス、βシートとよばれる特徴的な構造（二次構造）がみられることや、タンパク質の立体構造の分類法等を本章で学習する。 【キーワード】 アミノ酸、水素結合、αヘリックス、βシート、一次構造、二次構造、三次構造、四次構造	三島　正規（首都大学東京准教授）	三島　正規（首都大学東京准教授）
14	生命機能とタンパク質の立体構造	細胞内でおこる様々な化学反応において、触媒として働いているのが酵素である。酵素の多くはタンパク質であり、触媒として機能する際には、多様な化学結合が重要な役割を果たしている。本章ではDNAポリメラーゼを例にとり、酵素による触媒（本章の例ではDNA伸長）メカニズムを解説する。 【キーワード】 酵素、DNA伸長、DNAポリメラーゼ、求核置換反応	三島　正規（首都大学東京准教授）	三島　正規（首都大学東京准教授）
15	タンパク質の立体構造と医薬品	医薬品は、一般に、体内で特定のタンパク質に結合し、そのタンパク質が生体内で果たしている機能に影響を及ぼすことで、薬としての作用を現す。医薬品とタンパク質との結合では、さまざま化学結合が形成されているが、本章ではサリドマイドとノイラミニダーゼ阻害剤を例に解説する。 【キーワード】 サリドマイド、セレブロン、ユビキチン、プロテアソーム、インフルエンザ、ノイラミニダーゼ阻害剤	三島　正規（首都大学東京准教授）	三島　正規（首都大学東京准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	導入科目	科目コード	1760068	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 物理の世界 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 The World of Physics (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：岸根　順一郎　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：松井　哲男　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

本科目は「自然と環境コース」が提供する物理系5科目の中で、「初歩からの物理」から専門3科目（「力と運動の物理」「場と時間空間の物理」「量子と統計の物理」）への橋渡しをする役割を果たす。「物理法則に基づいて自然現象を記述する」見方、考え方を伝えることに重点を置き、数学的な技法にもある程度立ち入る。第1回で物理学の全体像を示し、各分野の学び方を提示する。第2～4回で「力学」、第5・6回で「熱力学」、第7・8回で「振動と波動」、第9～11回で「電気と磁気」、第12・13回で「量子の世界」、第14回では「相対性理論入門」を扱う。さらに第15回では専門的な物理学の学習への展望を示すとともに、現在の物理学の先端を紹介し、さらなる学習への弾みをつける。科目の方針として、印刷教材、放送教材を通して19世紀を代表するファラデーと、21世紀の先端を走る欧州原子核研究機構（CERN）を対比させ、その間を繋ぐ形で物理学の世界を俯瞰することを柱とする。

授業の目標

大学教養課程程度の物理学の見方・考え方を示すと同時に、物理学の対象領域の全体像を示す。これによって、より進んだ物理学の学習への契機を提供する。
本科目の具体的到達目標は以下のとおりである。
・物理学自然観を修得する
・物理学の骨格となる力学、電磁気学、熱・統計力学、量子力学の基本法則を理解し、簡単な例に応用する力を身に付ける
・現代の物理学の到達地点を教養レベルで把握する

履修上の留意点

本科目の内容を習得するためには、「初歩からの物理」の履修あるいは同程度の内容をすでに習得していることが必要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物理の世界への序章	ガリレオ、ニュートン、ファラデー、アインシュタイン、ボーアといった物理学の巨人達の思考の跡を辿りながら、物理学がいかにつくられてきたか、その成立の原点を歴史的背景とともに述べる。「力と運動」、「粒子と場」、「エントロピー」、「量子」といった重要な考え方が物理学的な自然認識において果たす役割を解説する。特に、ファラデーの自然観を通して実験観察が物理学に果たす役割を強調する。さらに、今後物理学の学習をどのように進めたらよいのかを述べる。 【キーワード】 物理学はいかにつくられてきたか、物理学的自然観、物理学の構成	岸根　順一郎（放送大学教授） 松井　哲男（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授） 松井　哲男（放送大学教授）
2	力と運動の基本法則	物理学の出発点は「力と運動の物理」つまり「力学」である。ここでは、力を受けた粒子の運動を記述する方法を学ぶ。特に、ニュートンの運動方程式を微分方程式として捉え、これを解くことで運動を解析する方法の基礎を学ぶ。例として、雨粒の落下運動などを扱う。また、欧州原子核研究機構（CERN）の加速器を例に、力学の基本原理と先端物理学の繋がりを述べる。質量の起源にも触れる。 【キーワード】 運動学、相互作用と力、運動法則、微分方程式、簡単な運動	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	運動に潜む保存量	運動の過程で変化しない量、つまり保存量に着目して運動を捉える見方は、物理学全体を通して極めて重要である。一見複雑な運動に潜む保存量を見つけ出し、これを活用する方法を学ぶ。特に、力学的エネルギー保存則の起源とその役割を強調する。ついで、角運動量保存則を学び惑星運動の解析（ケプラー問題）において保存則が果たす役割を述べる。さらに、CERNでの加速器実験を例に運動量保存則の重要性を述べる。 【キーワード】 力学的エネルギー保存則、保存力、角運動量、ケプラー問題	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
4	質点系から剛体へ	相互作用するたくさんの粒子からなる系の運動をどのように記述するのかを述べる。さらにここからの展開として、形と大きさを持つ「剛体」の力学について初歩的な事柄を扱う。コマの動きを通して量子力学的なスピンの概念を紹介し、ファラデーが終世追い続けた電気と磁気の関連性にも触れる。 【キーワード】 多粒子系、相互作用、剛体、慣性モーメント	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
5	熱とエネルギー	マクロな系を記述する論理は、個々の粒子の運動を追跡する論理とは大きく異なる。ここではまずマクロな系の熱平衡状態の概念を導入し、このようなマクロ状態が体積、圧力、粒子数といった数少ない情報で指定できることを説明する。さらに、エネルギー保存則の拡張としての「熱力学第1法則」を導入し、その応用を述べる。 【キーワード】 ミクロとマクロ、熱平衡状態、温度と熱、熱力学第1法則、熱力学サイクル、カルノーサイクル	松井　哲男（放送大学教授）	松井　哲男（放送大学教授）
6	熱とエントロピー	「熱」を正しく理解することがマクロ系の物理学を捉える上でのキーである。熱を正確に記述するためには「エントロピー」の概念が必須であることを述べ、その意味を解説する。 【キーワード】 エントロピー、熱力学第2法則	松井　哲男（放送大学教授）	松井　哲男（放送大学教授）
7	振動から波動へ	振動現象は自然界のいたるところで見られる。ここでは、振動現象の普遍性を強調し、いろいろな振動現象を紹介する。さらに、その数学的記述法を学ぶ。 【キーワード】 振動、振幅と位相、様々な振動現象	松井　哲男（放送大学教授）	松井　哲男（放送大学教授）
8	波の伝播と干渉	振動状態が伝搬する波動現象について、具体例を交えて述べる。さらに波動の基礎方程式である波動方程式を導入する。さらに、あらゆる振動・波動現象が三角関数的な波（調和波）の重ね合わせで書けること（フーリエ級数）にも触れる。 【キーワード】 波動現象、波動方程式、フーリエ級数、音波	松井　哲男（放送大学教授）	松井　哲男（放送大学教授）
9	電気と磁気の世界：場のとらえ方	ニュートン力学は「粒子」の物理であるのに対し、電気と磁気の物理は「場」の物理である。ここでは粒子と場の対比を強調しながら、場の記述方法を学ぶ。また、ファラデーの実験研究の足跡をたどりながら場の概念がいかに誕生したかを述べる。 【キーワード】 粒子と場、電場、磁場、ローレンツの力、力線、クーロンの法則	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	電場と磁場の法則	電荷が電場をつくり、電流が磁場をつくる仕組みを記述する方法を学ぶ。関連して、金属の性質、電流の捉え方を述べる。物質の電磁気的性質についても少し触れる。ファラデーの電磁誘導の法則と、これが現代物理学、工学に及ぼした多大な影響を強調する。 【キーワード】 ガウスの法則、ビオ・サバールの法則、誘電体、磁性体	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
11	電磁場と物質	「光が電磁波である」という認識は、古典物理学の一つの最高到達点である。ここでは、時間変化する電磁場の論理を紐解きながら、電磁波の起源を学ぶ。電磁波を生み出す機構にも触れる。ファラデーが発見した磁気光学効果にも触れ、光と物質の相互作用を概観する。 【キーワード】 電磁場の基本法則、電磁波としての光、電磁波の発生	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
12	時間と空間：相対論の世界	相対性理論は、量子力学と並ぶ現代物理学の根幹である。相対性理論が時空の捉え方にどのようなパラダイム転換をもたらしたかを述べ、その具体的内容を概観する。実例として、CERNの加速器実験において、光速に近い粒子の運動において相対論効果が如何に現れるかを述べる。 【キーワード】 特殊相対性理論、ローレンツ変換、電磁場の相対性	松井　哲男（放送大学教授）	松井　哲男（放送大学教授）
13	光子と電子：量子論の世界	これまで学んできた古典物理学の到達点とその限界を概観した後、20世紀前半に物理学におけるパラダイム転換をもたらした「量子力学」の成立過程を学ぶ。 【キーワード】 波動性と粒子性、波動関数、シュレーディンガー方程式	松井　哲男（放送大学教授）	松井　哲男（放送大学教授）
14	極微の世界へ	量子力学の論理と方法の基礎を学び、そこから得られる種々の帰結を述べる。特に量子力学が粒子の「状態」をどうとらえるかを強調し、波動関数の概念、さらにシュレーディンガー方程式へと誘う。CERNの加速器実験の現場で量子力学がどのように生きているかを強調する。 【キーワード】 特殊相対性理論、ローレンツ変換、電磁場の相対性	松井　哲男（放送大学教授）	松井　哲男（放送大学教授）
15	物理の世界の広がり	これまでに学んできたことを踏まえて19世紀を代表するファラデーと、21世紀の先端を走る欧州原子核研究機構（CERN）を対比させ、その間を繋ぐ形で物理学の世界全体を俯瞰する。特にCERNで進行している物理学研究の先端がどのようになっているのかを覗いてみる。物理学の特徴は、先端研究が基礎的な物理法則と直結する点である。この点を強調しながら物理学の特徴をもう一度整理し、今後の物理学の学習を展望する。 【キーワード】 放射能、原子核の発見	岸根　順一郎（放送大学教授） 松井　哲男（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授） 松井　哲男（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234285	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ はじめての気象学 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Introduction to Meteorology (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：田中 博 （筑波大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：伊賀 啓太 （東京大学准教授） 〕

【本学担当専任教員：大森 聡一 （放送大学准教授） 】

講義概要

お天気の科学としての気象学、気象の統計的平均としての気候学は、大気全般の基礎科学として大気科学と呼ばれています。大気現象を支配している太陽放射、地球から宇宙に向けて生じる地球放射、南北の温度差で生じる中緯度の偏西風とジェット気流、熱帯に見られる貿易風やモンスーン循環などの大気大循環について説明し、その循環を駆動する気圧と風の関係や地球の自転の効果を学びます。さらに、私たちにとって身近な雲と降水、積乱雲や雷、竜巻、ヒートアイランド現象や温帯低気圧などについても解説します。さらに、地球温暖化の問題や気候変動、成層圏のオゾンホールの問題などの地球環境問題に対しても解説します。

授業の目標

私たちにとって身近なお天気についてのリテラシーを高め、その背景にある気象学、気候学、大気科学の基礎を学ぶことで、身の回りで生起する大気現象についての理解を深めることを授業の目標とする。

履修上の留意点

気象学の理解のためには、基本的な物理学、数学、化学の知識が必要であるが、極力、難解な数式は用いないで気象学の解説を試みる。そのため、厳密さを欠いたり、もどかしい表現になったりすることがあるかもしれないが、初歩的な専門用語を用いるときには、その定義を丁寧に説明してから用いることとする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地球大気の歴史	この講義では、地球が誕生し今日に至るまでの46億年の地球大気の歴史を振り返る。マグマオーシャンの時代から、地球が冷えて海と大気が形成される過程や、38億年前の生命体の誕生と、光合成による二酸化炭素の吸収および酸素の放出といった大気組成の変遷について学ぶ。そのうえで、すべての生命体を包み込む、かけがえのない今日の大気のありがたさを認識する。 【キーワード】 地球上の生命体を包み込むかけがえのない大気の歴史	田中 博（筑波大学教授）	田中 博（筑波大学教授）
2	地球大気の鉛直構造と気温の南北分布	地球大気は気温の鉛直分布により、下層から対流圏、成層圏、中間圏、熱圏に区分される。大気の組成を調べると、その約99%は窒素と酸素で占められていて、高度約80kmの中間圏まではほぼ均質大気となっている。ただし、水蒸気は大気下層の対流圏に集中し、下部成層圏にはオゾン層が偏在する。この講義では、他の惑星の気温分布と比較しながら、地球大気の特徴について学ぶ。 【キーワード】 大気の組成、気温の鉛直分布で区分する大気の構造	田中 博（筑波大学教授）	田中 博（筑波大学教授）
3	太陽放射と熱のバランス	太陽放射は地球上で起こるすべての大気現象のエネルギー源となっている。一方、太陽放射により暖められた地球は、宇宙空間に向かって赤外線を放射して冷えることで、地球の温度をほぼ一定に保っている。これを地球放射という。ここでは、太陽放射と地球放射のエネルギーバランスから導かれる放射平衡温度と、大気がもたらす温室効果について学ぶ。 【キーワード】 太陽放射と地球放射、放射平衡温度、温室効果	田中 博（筑波大学教授）	田中 博（筑波大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	気圧と風	天気予報の概況を聞いていると、必ずと言っていいほど「気圧」という言葉が出てくることからもわかるように、気象を考える上で気圧は非常に重要な物理量である。ここでは、気温と気圧の分布の間に成り立つ関係や気圧の違いによって風が生じるしくみなど、気圧と風に関する基本的な性質を学ぶ。 【キーワード】 気圧、気圧傾度力、静水圧(静力学)平衡、海陸風、山谷風、季節風	伊賀　啓太（東京大学准教授）	伊賀　啓太（東京大学准教授）
5	地球の回転の効果	地球が一日に一回転の自転をしていることは、大気の運動の様子に非常に大きな影響を与え、回転系で働くコリオリの力という見かけの力によって、大気の運動は日常生活の常識とは異なったものになる。回転台を用いた実験を通して回転の効果を学び、回転系で吹く風の基本的な形である地衡風を理解する。 【キーワード】 地球の自転、遠心力、コリオリの力、地衡風、温度風	伊賀　啓太（東京大学准教授）	伊賀　啓太（東京大学准教授）
6	グローバルな大気循環	グローバルな大気の流れを大気大循環という。年間を通して恒常的に吹く赤道付近の東風を偏東風、中緯度の西風を偏西風というが、これらは地球を循環するグローバルな流れである。この講義では、これらの水平方向の循環に加え、鉛直方向のグローバルな対流としてのモンスーン循環や、ハドレー循環といった大気大循環の特徴を学ぶ。 【キーワード】 熱帯のハドレー循環、モンスーン循環、偏東風、偏西風	田中　博（筑波大学教授）	田中　博（筑波大学教授）
7	雲と降水	空に浮かぶ雲や空から降ってくる雨や雪は、多くの人にとって日常的になじみある身近な気象であろう。この講義では、大気の中に含まれる水蒸気が凝結して雲ができ、降水となって地上に降ってくるまでの過程を理解するとともに、雲の形態や雨や雪の形状についても学習する。 【キーワード】 飽和水蒸気圧、エアロゾル、凝結核、雲、雨、雪	伊賀　啓太（東京大学准教授）	伊賀　啓太（東京大学准教授）
8	温帯低気圧	天気予報では、悪天をもたらす原因として「低気圧」がよく登場するが、日本など中緯度地方で見られる低気圧の多くは、水平方向に温度勾配がある場所で発生・発達する温帯低気圧と呼ばれる種類の低気圧である。偏西風の変動とも関わりの深い温帯低気圧の発生や、前線を伴った温帯低気圧の構造について学ぶ。 【キーワード】 温帯低気圧、移動性高気圧、前線、温度勾配、傾圧不安定、偏西風波動	伊賀　啓太（東京大学准教授）	伊賀　啓太（東京大学准教授）
9	台風と熱帯低気圧	熱帯では、海から蒸発する大量の水蒸気をエネルギー源にした熱帯低気圧が、渦を巻きながら発達する。台風は日本の南で発生発達する熱帯低気圧のひとつである。この講義では、水蒸気が凝結する際に放出される潜熱加熱が、上昇気流を加速し、地球の自転の効果も加わって台風に発達する仕組みを理解し、目の構造や台風がもたらす大気海洋相互作用について学ぶ。 【キーワード】 大気海洋相互作用、潜熱加熱、台風の発達、目の構造	田中　博（筑波大学教授）	田中　博（筑波大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	積乱雲の起こす嵐	積乱雲は、激しい対流運動によって形成され、しばしば強い風雨をもたらす雲である。さらに、竜巻やダウンバーストなどの大きな被害をもたらす大気現象は、発達した積乱雲に伴って生じる。ここでは、不安定な大気の中で積乱雲が発達していく過程と、積乱雲が引き起こすさまざまな形態の嵐について学習する。 【キーワード】 断熱減率、積乱雲、雷、突風、ダウンバースト、竜巻	伊賀　啓太（東京大学准教授）	伊賀　啓太（東京大学准教授）
11	日本の四季の気象	中緯度帯に位置する日本には四季の変化があり、季節ごとに異なった気象状況になる。この講義では、冬の降雪や梅雨・秋雨期の大雨など特徴的な季節の気象とその仕組みを理解し、日本の一年の気象の移り変わりを学ぶ。 【キーワード】 梅雨、集中豪雨、太平洋高気圧、秋雨、季節風、降雪	伊賀　啓太（東京大学准教授）	伊賀　啓太（東京大学准教授）
12	ヒートアイランド	同じ地域の中でも街の中心部では郊外より気温が高くなる傾向にあり、この現象はヒートアイランドという名前で知られている。都市は、人工的な排熱や地表面の状態の違いのために大気の状態に影響を与えるのである。この講義では、人間の活動によってできた都市に特有の気候について学ぶ。 【キーワード】 都市気候、大気境界層、ヒートアイランド	伊賀　啓太（東京大学准教授）	伊賀　啓太（東京大学准教授）
13	天気予報	天気予報は、気象学で学んだ知識の応用として、社会に大いに貢献している。風とは質量をもった大気の運動のことであり、ニュートンの運動の法則により、力が働くことで加速する。温度の分布や気圧の分布を調べて加速度が分かれば、風の時間変化が分かり、将来の風の分布の予測が可能になる。このようにして、力学法則に基づいて作られる天気予報の仕組みについて学ぶ。 【キーワード】 大気力学、風の加速度、将来予測、天気予報の作り方	田中　博（筑波大学教授）	田中　博（筑波大学教授）
14	エルニーニョと大気海洋相互作用	地球大気は、大気海洋相互作用により、常に海面との間で熱や水蒸気のやり取りを行っている。したがって、長期予報を行う際には、グローバルな海の構造と海流についても知る必要がある。熱帯太平洋の海面水温が異常に高くなる現象がエルニーニョで、逆に低くなる現象がラニーニャである。これらの海面水温の異常が、大気海洋相互作用により地球規模の大気に影響をもたらす仕組みについて学ぶ。 【キーワード】 海洋の構造と海流、エルニーニョ、ラニーニャ、大気海洋相互作用	田中　博（筑波大学教授）	田中　博（筑波大学教授）
15	異常気象と気候変動	地球大気は太陽放射の変化や火山活動などにより長期的に変化し続けている。これらの自然変動に加えて、人類の活動が原因となって引き起こされる地球温暖化やオゾンホールの問題は、近年、地球環境問題として重要視されるようになった。天気予報の原理を応用して長期的な気候変動の将来予測を行い、人類みずから将来を制御し、地球環境問題を解決する道筋について考える。 【キーワード】 異常気象、気候変動、自然変動、地球温暖化、オゾンホール	田中　博（筑波大学教授）	田中　博（筑波大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	導入科目	科目コード	1760084	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの宇宙の科学 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Introduction to Astronomy (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：吉岡　一男　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

本講義は、理系・文系を問わず、現代の天文学が得た宇宙の知見を理解してもらう入門講座として開設された。人間と宇宙との古くからの関わりに始まり、太陽系の新しいイメージ、多様な恒星、銀河とその集団そして宇宙の膨張にいたる現代の宇宙の構造を学び、また、そのような構造をとるに至った宇宙の進化について学ぶ。それと並行して、どのような理論と観測からこのような知見に至ったかも学ぶ。本講義では、導入科目としての性格を考慮し、全体的な把握を目ざして、分かりやすく講義する。

授業の目標

宇宙について現代の市民が教養として持つべき知識を、文系の学生にも十分分かりやすい形で講義し、把握してもらうことが目標である。細かいことや教養のレベルを超える知識を必要とすることは専門科目に譲り、宇宙の全体像や本質を伝えたい。そして、専門科目を履修する際にも、それが宇宙像のどこを学んでいるかを俯瞰できるようになってもらいたい。

履修上の留意点

この講義では、専門的知識は前提としない。また、論理の流れは丁寧に説明してあるので、受講生は自分のペースで学べば、十分理解できるであろう。本講義をもとに個別のテーマをより深く理解したい場合は、日本評論社で刊行中の『シリーズ・現代日本の天文学』が参考になるだろう。とくに第1巻の『人類の住む宇宙』は、宇宙の全体的概念をつかむのによい。また、放送大学の専門科目には、「太陽系の科学」「宇宙とその進化」がある。本科目は導入科目「宇宙を読み解く」の閉講に伴い開設された科目であるが、説明の仕方が大きく変わり、扱われる内容にも変わった個所が多いので、再履修可となっている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	中世以前の天文学	宇宙の科学とはどのような学問かを理解してもらうために、天文学が発展してきた歴史を学ぶ。1回目は、天文学の起源とそれが古代から中世に至るまで、どのように発展してきたかを述べる。とくに天動説に基づく惑星の運動のモデルに焦点を当てて説明する。 【キーワード】 4大文明、古代ギリシァ、ヘレニズム時代、ヨーロッパ中世、イスラムの世界、太陽系のモデル	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
2	近代までの天文学	近代までの天文学の歴史を学ぶ。それまでは幾何学的な考察が主であった天文学が、自然科学とくに物理学の一分野である力学が発達したガリレオやニュートンの時代以降、その法則を宇宙に適用することにより、大いに発展してきた。その歴史を以後の章の理解に必要な知識の説明とともに学ぶ。 【キーワード】 中世、地動説、ケプラーの法則、運動の法則、万有引力、自転と公転の証拠	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	現代までの天文学	前章で学んだ時期の天文学は、天体力学や位置天文学の分野の天文学が主流だったが、その後、天体物理学の分野が盛んになり、現代の天文学につながっていく。本章ではこの時期の天文学の歴史を述べる。ただし、前提となる必要な知識量が大幅に増えるので、それを1つの章で丁寧に扱うことはできない。詳しい内容は後の章に委ねることにして、ここでは基礎的な物理法則を交えながら全体の流れを述べる。 【キーワード】 スペクトル、電場・磁場、太陽のエネルギー源、恒星の進化、宇宙の膨張	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
4	地球と月	前章までで天文学の歴史を今後の理解に必要な科学的な基礎知識とともに学んだ。これから現代の天文学と宇宙科学が得た宇宙の知識を具体的に学ぶことになるが、本章ではまず、私たちに最も身近な天体である地球と月および相互の影響について述べることにする。 【キーワード】 地球の形、地球の半径・質量、地球の層構造、月の運動、日食・月食、ジャイアント・インパクト説	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
5	太陽とその影響	本章では太陽系の中心天体である太陽について述べる。太陽がどのような天体であるかを概観し、またその知識がどのような観測や理論から分かったかを学ぶ。さらに太陽が私たちや地球にどのような影響を与えているかについても学ぶ。 【キーワード】 太陽の物理量、黒体放射、ウィーンの変位法則、ステファン・ボルツマンの法則、太陽の内部構造、太陽活動周期、ミランコビッチ説	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
6	惑星の世界	太陽系の主要メンバーは惑星である。惑星は、地球を含めた地球型惑星と木星型惑星に大別され、さらに木星型惑星は巨大ガス惑星と巨大水・氷惑星に分けられる。これらの種類の惑星は、その特徴に対照的な違いが見られる。これらの違いを概観するとともに、個々の惑星についても学ぶ。 【キーワード】 地球型惑星、巨大ガス惑星、巨大水・氷惑星、衛星、環	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
7	太陽系小天体の世界	本章では、惑星を除いた太陽系のメンバーについて述べる。それは準惑星と太陽系小天体である。太陽系小天体は、小惑星、彗星、太陽系外縁天体、惑星間塵に分けられる。ここでは、これらの天体やそれに関る現象について述べる。さらに、太陽系がどのようにして誕生し、どのような過程でこれらの種類の天体が形成されたかについて、現代の考え方を述べる。 【キーワード】 太陽系小天体、小惑星、隕石、彗星、流星、太陽系外縁天体、惑星間塵、太陽系形成論	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	恒星の世界	本章では恒星の研究に大きな役割を演じてきたHR図について学ぶ。恒星はHR図上での位置をもとに主系列星、巨星・超巨星、白色矮星に分類される。また、可視光の観測に用いられる光学望遠鏡や電波の観測に用いられる電波望遠鏡に関する知識やスペクトルの研究に欠かせない量子論についても触れる。 【キーワード】 見かけの等級、絶対等級、光学望遠鏡、電波望遠鏡、HR図、主系列星、赤色巨星・超巨星、白色矮星、スペクトル型、量子論	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
9	多様な恒星	恒星の中には周期的に明るさを変えている星もある。さらには、激しい爆発をする星もある。また、2個以上の恒星がたがいのまわりを公転する星もあり、その中には、たがいに相互作用を及ぼして、単独な星には見られない現象を起こすものもある。本章では、これら恒星の多様な姿を学ぶとともに、恒星において成り立つ一般的な性質についても学ぶ。 【キーワード】 質量光度関係、ビリアルの定理、脈動変光星、セファイド、周期光度関係、新星、超新星、連星、パルサー、X線星	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
10	恒星の進化	観測されている恒星の多様な姿は、恒星が誕生し、変化し、最後を遂げる変化（恒星の進化という）のいろいろな段階で示す姿である。ここでは、恒星の進化の道筋が、どのようにして観測や理論が導かれたかを述べる。そして、現在分かっている具体的な恒星の進化経路を学ぶ。また、恒星の進化が元素の生成と関わっていることも学ぶ。 【キーワード】 分子雲、分子雲コア、原始星、主系列星、赤色巨星、漸近巨星分枝星、惑星状星雲、中性子星、ブラックホール、近接連星	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
11	天の川銀河とその発見	私たちの太陽系は、恒星や星間物質の大集団である天の川銀河に属している。本章では、天の川銀河の存在がどのようにして認識されてきたかを述べる。天の川銀河は、円盤部とその中心に位置するバルジとそれらを取り囲むハローから構成されている。円盤部の天体は、天の川銀河の中心のまわりをほぼ円運動している。そして天の川銀河の中心には巨大ブラックホールが存在している。本章ではこれらのことについても学ぶ。 【キーワード】 ハーシェルのモデル、シャプレーのモデル、円盤部、バルジ、ハロー、星間物質、種族Ⅰ・Ⅱ、巨大ブラックホール	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
12	銀河とその種類	天の川銀河の外側の宇宙には、天の川銀河と同じ規模の天体の集団である銀河が多数存在している。本章では、まず、このような銀河の存在が認識されてきた歴史を学ぶ。銀河は、渦巻銀河や楕円銀河や不規則銀河などの種類に分類される。さらに銀河には、激しい活動をしているものもある。最後に、本章では、宇宙には電磁波を放たないダークマターと呼ばれる正体不明な物質が大量に存在していることも学ぶ。 【キーワード】 ハッブルの分類、渦巻銀河、楕円銀河、不規則銀河、スターバースト銀河、AGN、ダークマター	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	銀河の集団と大規模構造	銀河は単独で存在するものよりも集団で存在するものの方が多い。銀河は銀河群や銀河団と呼ばれる集団をなす。さらに超銀河団が連なって大規模構造と呼ばれる宇宙最大のスケールの構造を形成している。集団をなしている銀河では、銀河同士の相互作用が、銀河の進化に大きな影響を与えている。さらに本章では、遠方の銀河の観測とそれから得られた宇宙初期の銀河の進化についても学ぶ。 【キーワード】 銀河群、局部銀河群、銀河団、超銀河団、局部超銀河団、大規模構造、ボイド、宇宙の階層構造、ライマンブレイク銀河	吉岡　一男 (放送大学教授)	吉岡　一男 (放送大学教授)
14	相対性理論に基づく宇宙	宇宙では、非常に高いエネルギーのもとで起きたり、光速度に近い速さで運動する物質に関わる現象が起きることも多い。そのような場合には、特殊相対性理論の知識が必要になる。また、宇宙全体の構造を論ずる場合には、重力が大きな役割を演じるが、そのような場合には一般相対性理論の知識が必要になる。本章では、これらの知識を、高校程度の数学の式も交えて、できるだけ分かり易く説明する。また、宇宙の膨張の発見とその意義についても述べる。 【キーワード】 ガリレイ変換、ローレンツ変換、特殊相対性理論、等価原理、一般相対性理論、重力赤方偏移、ハッブルの法則子、宇宙の膨張	吉岡　一男 (放送大学教授)	吉岡　一男 (放送大学教授)
15	宇宙の進化	本章では、前章までで学んだ知識ももとにして、現在理解されている宇宙全体の進化の流れを過去から現在まで述べていく。宇宙は、インフレーションと呼ばれる急激な加速膨張を経て、超高温で超高密度の状態からビッグバンと呼ばれる減速膨張の時期に移った。その時期に恒星や銀河が誕生し、大規模構造が形成されていった。現在は、再び加速膨張に移っている。これらの過程とともに、重力波や地球外惑星や生命の探査についても述べる。 【キーワード】 重力波望遠鏡、力の分岐、インフレーション、宇宙の晴れ上がり、加速膨張、ダークエネルギー、系外惑星の観測	吉岡　一男 (放送大学教授)	吉岡　一男 (放送大学教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1760033	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ダイナミックな地球 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Dynamic Earth (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：大森　聡一　（放送大学准教授）　〕

〔主任講師（現職名）：鳥海 光弘（東京大学名誉教授、海洋研究開発機構特任上席研究員)〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

地球科学への入門科目である。地球の様々な活動は、しばしば「地球は生きている」とたとえられるが、その本質はなんであろうか？　地球内部から宇宙との関係まで、様々な時間・空間スケールへ視点を移動させながら、進化しダイナミックに変動する地球について学ぶ。

授業の目標

生命惑星地球の成り立ちと現在の地球で起きている現象の学習を通して、自然現象を探求するために、様々な時間・空間スケールからの視点が重要であることを理解する。

履修上の留意点

地球科学分野への入門科目であり、これまで履修した科目に関する制限はない。この科目を履修した後、さらに興味を持った学生は、「はじめての気象学(’15)」「太陽系の科学(’14)」などの自然と環境コース科目を履修するとよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	イントロダクション：地球を4次元的に概観する	科目の導入として、これから学習しようとする地球をさまざまな時間・空間スケールで概観する。このスケールを支配しているのは対流という物理現象であることを、直感的に理解してもらう。ダイナミックな地球への探究を始めよう。 【キーワード】 宇宙の中の地球、天体の密度と大きさ、現象の時間空間スケール、対流	鳥海　光弘（東京大学名誉教授、海洋研究開発機構特任上席研究員）	大森　聡一（放送大学准教授） 鳥海　光弘（東京大学名誉教授、海洋研究開発機構特任上席研究員）
2	100億年スケールの歴史	宇宙における地球の位置づけを明らかにする。また、地球の形成過程、原料、およびすべての物質の起源である元素の生成にさかのぼって解説する。 【キーワード】 宇宙の中の地球、系外惑星、宇宙の歴史、元素の生成、地球の形成、太陽系の最後	鳥海　光弘（東京大学名誉教授、海洋研究開発機構特任上席研究員）	鳥海　光弘（東京大学名誉教授、海洋研究開発機構特任上席研究員）
3	10億年スケールの循環	地球における「循環」を概観する。特に、ダイナミックな地球の根源的原動力である、地球内部の循環を紹介する。 【キーワード】 地球の「循環」、地球の内部構造、マントル対流、プレートテクトニクス	鳥海　光弘（東京大学名誉教授、海洋研究開発機構特任上席研究員）	鳥海　光弘（東京大学名誉教授、海洋研究開発機構特任上席研究員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	数億年スケールの循環（1）	地球内部の循環は、生命の住む表層環境にも大きな影響を与えている。プレートテクトニクスの紹介を中心に、大陸移動やプレートの沈み込み、造山運動など、地球が少しずつ、しかし強力かつ大規模に、表層を改変してゆく現象を取り扱う。 【キーワード】 表層のテクトニクス、プレートテクトニクス、大陸移動、造山運動、山はなぜ高いか？	鳥海　光弘（東京大学名誉教授、海洋研究開発機構特任上席研究員）	鳥海　光弘（東京大学名誉教授、海洋研究開発機構特任上席研究員）
5	数億年スケールの循環（2）：プレートの沈み込み	プレートテクトニクスは、地表の地形的様相を変化させるだけではなく、化学的な環境変動にも大きな役割を持っている。地表を構成する岩石の成因から、マントルと表層環境を結ぶ物質循環までを扱う。 【キーワード】 物質循環、岩石学、風化、堆積、沈み込み帯を経由する物質循環	大森　聡一（放送大学准教授）	大森　聡一（放送大学准教授）
6	気候変動：1000万年～数万年のダイナミックス	数千万年スケールで起きる表層のテクトニクスは、大気、海洋の循環にも関連し、短い時間で表層環境を変化させる。また、太陽系内における地球の運動が、表層の環境に周期的な変動をもたらしていることがわかってきた。人類史にも関わるこのような変動とその原理を紹介する。 【キーワード】 気候変動、大陸配置、ミランコビッチサイクル、フィードバック	大森　聡一（放送大学准教授）	大森　聡一（放送大学准教授）
7	海洋の循環（1）	現在の海洋の循環の様相、およびその原因について、解説する。 【キーワード】 海流、風成循環、海洋上層観測、海洋の貯熱量と気温	河野　健（海洋研究開発機構地球環境観測研究開発センター長）	河野　健（海洋研究開発機構地球環境観測研究開発センター長）
8	海洋の循環（2）	海洋の循環が、地球表層の環境に与える影響について解説する。また、その実例として、約1万年前に起きた大規模な気候変動を紹介する。 【キーワード】 熱塩循環、熱塩循環と気候の関係、ヤンガードライアス、海洋の深層観測、深層の水温上昇	河野　健（海洋研究開発機構地球環境観測研究開発センター長）	河野　健（海洋研究開発機構地球環境観測研究開発センター長）
9	大気の循環 －基本的な大気の流れ	地球上を循環する大規模な大気の流れについて、その基本的な構造を解説する。とくに大気の流れを作り出し、また逆に流れによって作り出される「雲」の主要な発生メカニズムが熱帯と中緯度で大きく異なることを理解する。 【キーワード】 子午面（ハドレー・フェレル・極）循環、東西（ウォーカー）循環、温帯低気圧・高気圧、赤道波	米山　邦夫（海洋研究開発機構分野長、神戸大学客員教授）	米山　邦夫（海洋研究開発機構分野長、神戸大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	大気の循環 －天気と気候に影響を与える大規模変動	定常的に観測される大気の状態に対して、発生間隔は変化するものの、ある程度の周期性を持ち、各地の天気や気候を根幹から変える力を持つ代表的な大気変動現象について解説する。 【キーワード】 エル・ニーニョ／南方振動、マッデン・ジュリアン振動、北大西洋振動	米山　邦夫（海洋研究開発機構分野長、神戸大学客員教授）	米山　邦夫（海洋研究開発機構分野長、神戸大学客員教授）
11	地震と火山のダイナミックス	地震や火山活動など、固体地球起源の変動現象について解説する。日本に住んでいれば、地震や火山は、一生の間に必ず遭遇するといってもよい現象である。しかし、その原動力は、数億年スケールのプレート運動であることを学ぶ。 【キーワード】 地震、火山、プレートテクトニクス	大森　聡一（放送大学准教授）	大森　聡一（放送大学准教授）
12	一方通行の歴史 (1)：地球史の研究方法	地球のダイナミクスの探求を、地球形成時から現在に至るまでの時間に拡大する。この様な研究がなぜ可能なのか、その説明として、地球史研究で用いられている研究方法の概要を紹介する。 【キーワード】 地球史、研究方法、地層、岩石、鉱物	大森　聡一（放送大学准教授）	大森　聡一（放送大学准教授）
13	一方通行の歴史 (2)：地球史概観とその特性	地球の歴史を概観する。地球が生命の惑星になった理由はなんだろうか？　惑星が冷却してゆく過程で一度だけ起きる現象と、繰り返す現象、そしてこれらと表層環境・生命の進化との関連について考察する。 【キーワード】 地球と生命の歴史、地球型惑星の運命、地球の冷却	大森　聡一（放送大学准教授）	大森　聡一（放送大学准教授）
14	日本列島の形成史	日本列島の形成史と地球における地学的位置づけを紹介する。ここまで学習した内容を、日本列島を例に復習しながら、その個性と一般性について理解を深める。 【キーワード】 日本列島、日本列島形成史、日本海の拡大、付加体	大森　聡一（放送大学准教授）	大森　聡一（放送大学准教授）
15	まとめと発展	これまでの学習を振り返り、地球システムとしてまとめる。システムの範囲を拡げて、火星と地球の類似性や、地球環境と太陽系・銀河系との関わりに関する、最近の研究の一部を紹介する。 【キーワード】 地球システム、人類圏、太陽系、銀河系、火星	大森　聡一（放送大学准教授）	大森　聡一（放送大学准教授） 鳥海　光弘（東京大学名誉教授、海洋研究開発機構特任上席研究員）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234200	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 解析入門 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Introduction to Real and Complex Analysis (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：河添　健　（慶應義塾大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：石崎　克也（放送大学教授） 】

講義概要

1変数の実関数の微積分を学んだ次のステップとして、多変数の実関数の微積分および複素関数について学習します。多変数の実関数としては主として2変数関数を扱い、その可視化、微分、多項式近似、極値問題、積分、面積・体積の求め方などを考えます。次にその発展として複素関数の微積分を扱います。 実変数を複素変数に変えるだけですが、複素関数は実関数にない不思議な性質もっています。それらの性質を調べるとともに、応用として留数の原理にもとづく定積分の計算を紹介します。
全体に1変数の実関数の微積分を復習しつつ講義を進め、実際の応用例、計算方法、歴史的な背景などを交えて分かり易く解説します。

授業の目標

2変数関数に関する理解と計算力を養います。また発展として複素関数の不思議な性質を紹介します。全体に証明の理解よりは、概念の把握、計算力、応用への理解を目標とします。

履修上の留意点

1変数の実関数の微積分にも多くの面白さや応用がありましたが、それを多変数の実関数や複素関数に拡張することにより、さらなる面白さや応用が広がります。したがって「入門微分積分(’16)」で学んだ1変数の実関数についての微積分の基礎があることが必要です。しかし完璧に覚えている必要はありません。講義ではそれらを復習しつつ進めます。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	多変数関数の連続性	15回の講義を通して何を目的に勉強するかを紹介する。1変数の実関数の微積分を多変数の実関数や複素関数に拡張することの意義を紹介する。とくにこの章では多変数関数の可視化、切り口と等高線、連続と不連続について理解する。 【キーワード】 多変数関数、定義域、値域、切り口、等高線、連続、不連続	河添　健（慶應義塾大学教授）	河添　健（慶應義塾大学教授）
2	多変数関数の微分可能性	なめらかさを表す概念が微分である。1変数の微分の概念－接線とその傾き－を多変数関数に拡張する。このとき2つの考え方があり、それらが偏微分と全微分になる。また幾何学的な意味として、勾配ベクトル、接平面、法線ベクトルになどにも注目する。 【キーワード】 偏微分、方向微分、全微分、接平面、勾配ベクトル、法線ベクトル	河添　健（慶應義塾大学教授）	河添　健（慶應義塾大学教授）
3	偏微分の計算	1変数関数の微分計算を復習するとともに、多変数関数の偏微分の計算方法を習得する。とくに多変数関数の合成関数の微分公式や高階の偏微分の公式を紹介する。また陰関数と呼ばれる新しい関数の表記を学び、その微分と偏微分との関係を理解する。 【キーワード】 合成関数とその微分、高階の偏微分、陰関数とその微分	河添　健（慶應義塾大学教授）	河添　健（慶應義塾大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	テイラー展開	3章の高階の偏微分を用いて、多変数関数のテイラー展開を導く。誤差項が小さくなる場合はテイラー級数となる。テイラー展開から多変数関数の近似－線形近似や多項式近似－が得られることを理解する。 【キーワード】 テイラー展開、テイラー級数、線形近似	河添 健（慶應義塾大学教授）	河添 健（慶應義塾大学教授）
5	極値問題	4章のテイラー展開の応用として極値問題を扱う。すなわち多変数関数の1次近似（線形近似）や2次近似を用いて、多変数関数の極大点・極小点・停留点を探すことを考える。さらに応用のうえで重要な制約条件があるもとでの極値問題も考える。 【キーワード】 極大・極小、停留点、鞍点、ヘシアン、条件付き極値問題	河添 健（慶應義塾大学教授）	河添 健（慶應義塾大学教授）
6	2変数関数の積分	1変数関数の定積分や微積分学の基本定理を復習する。リーマン和の概念を拡張し、長方形領域で定義された多変数関数の重積分を定義する。さらに一般の領域での重積分を考える。とくに定数関数1を積分することにより面積定義を与える。また重積分を計算する累次積分の方法を紹介する。 【キーワード】 微積分学の基本定理、リーマン和、重積分、面積確定、縦線・横線集合、累次積分	河添 健（慶應義塾大学教授）	河添 健（慶應義塾大学教授）
7	座標変換と面積・体積	1変数関数の置換積分－変数変換－の拡張として、多変数変換の置換積分を考える。とくに直交座標で書かれた関数の重積分を極座標や円柱座標に変換して積分する場合を取り上げる。また具体的な例を中心に、重積分を用いて面積や体積の計算を行う。 【キーワード】 変数変換、ヤコビアン、極座標、円柱座標、面積・体積	河添 健（慶應義塾大学教授）	河添 健（慶應義塾大学教授）
8	複素数	この章から複素数とそれを変数とする複素関数について考える。最初に複素数の四則演算や複素数と複素数平面との対応、複素数の極形式について学ぶ。 【キーワード】 複素数、複素数平面、極形式、ド・モアブルの定理	河添 健（慶應義塾大学教授）	河添 健（慶應義塾大学教授）
9	複素関数	複素数を変数とする複素関数について、その定義域や値域を理解する。多変数関数のときと同様に、連続な複素関数や微分可能な複素関数－正則関数－を定義することができる。さらにすべての正則関数が満たすコーシー・リーマンの微分方程式を紹介する。 【キーワード】 複素数列、収束、極限、連続、微分可能、正則、コーシー・リーマンの方程式	河添 健（慶應義塾大学教授）	河添 健（慶應義塾大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	整級数	級数の基本的な性質を復習する。つぎに級数で定義される正則関数をいくつか紹介し、その一般化である整級数を定義する。整級数の収束半径の求め方や微分可能性などの基本的な性質を調べる。また実変数の対数関数や指数関数を複素変数に拡張する。 【キーワード】 整級数、収束半径、コーシー・アダマール公式、オイラーの公式、対数関数、指数関数	河添　健（慶應義塾大学教授）	河添　健（慶應義塾大学教授）
11	複素積分	複素関数の積分を考える。リーマン和の考え方を拡張して、複素関数を複素数平面上の曲線にそって積分する。この線積分を用いて原始関数の概念を導入する。また次章で使う2変数関数のグリーンの公式を紹介する。 【キーワード】 線積分、原始関数、グリーンの公式	河添　健（慶應義塾大学教授）	河添　健（慶應義塾大学教授）
12	コーシーの積分定理	正則関数の線積分に関するコーシーの積分定理を紹介し、前章で紹介したグリーンの定理を用いてその証明を行う。この定理より積分路の変形原理を紹介する。さらにコーシーの積分公式を導く。 【キーワード】 コーシーの積分定理、コーシーの積分公式	河添　健（慶應義塾大学教授）	河添　健（慶應義塾大学教授）
13	テイラー級数と正則関数	コーシーの積分公式に注目し、正則関数が常にテイラー級数展開できることが分かる。その結果として実関数では成り立たない一致の定理や最大値の原理を紹介する。 【キーワード】 テイラー級数、一致の定理、最大値の原理	河添　健（慶應義塾大学教授）	河添　健（慶應義塾大学教授）
14	ローラント級数と特異点	この章では正則でない複素関数を扱う。具体的な例を用いて正則でない関数に対するローラント級数展開を導入する。これにより極などの特異点の分類を行う。さらに留数を定義し、その計算の仕方や留数の原理を紹介する。 【キーワード】 ローラント級数、特異点、極、留数、留数の原理	河添　健（慶應義塾大学教授）	河添　健（慶應義塾大学教授）
15	留数の原理とその応用	14章で得られた留数の原理を用いて1変数の実関数の定積分を計算する。実関数の定積分を求めるには、いろいろな積分公式や技術を要したが、ここではその計算が留数の原理を用いることにより簡単に得られることをいくつかの例を用いて紹介する。 【キーワード】 定積分の計算	河添　健（慶應義塾大学教授）	河添　健（慶應義塾大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	導入科目	科目コード	1234218	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 入門線型代数 （’１４）＝（ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 Introduction to Linear Algebra (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：隈部　正博　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

※この科目は「入門線型代数（’０９）」の一部改訂科目です。
改訂回は第１、２、３、４、５回です。

講義概要

線型代数を初めて学ぶ人向けの講義である。予備知識は特に仮定しない。平面や空間といった素朴な概念から初め、数ベクトル空間を定義する。その後行列の概念を導入する。このとき、連立方程式の解法といった親しみやすい事柄の復習を通して、行列の演算を解説する。そして行列式、逆行列の求め方を学ぶ。また空間から空間への線型写像、部分空間の種々の性質をみる。これらを通して、行列の階数、あるいは空間の基底、次元がどういうものか解説する。さらに固有値、固有ベクトルを定義し、基底の変換を解説する。いわゆる数ベクトル空間について講義し、抽象的、公理的な議論はなるべく避けるようにする。

授業の目標

平面や空間といった素朴な概念を、数ベクトル空間としてとらえることから始める。また連立方程式の解法を、行列を使って解く方法を学ぶ。また、行列式、逆行列の求め方を理解する。また、線型写像、線型空間とはどういうものか解説する。さらに、ベクトルの線型独立、そして空間を構成する基底を学び、さらに空間の大きさを測る次元とはどういうものか学ぶ。次に基底の変換を解説し、これにより、座標の表示がどのように変わるかを理解する。合わせて固有値、固有ベクトルを解説し、基底の変換に応用する。

履修上の留意点

この授業は初めて線型代数を学ぶ人向けの授業である。従って予備知識は特に要求しない。できれば数学にいくらかの親しみをもっていればありがたい。より入門的な数学の講義、例えば初歩からの数学、をとっていればなおさらいい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	数ベクトル空間 【改訂回】	我々が日常目にする平面や空間と行った概念を、数ベクトル空間としてとらえる。 【キーワード】 平面、空間、数ベクトル、数ベクトル空間	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
2	行列 【改訂回】	行列がどういうものか定義し、行列の和や積演算について解説する。 【キーワード】 行列、行列の型、行列の和、積	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
3	連立一次方程式の解法 【改訂回】	連立一次方程式の消去法による解法を復習し、その後、これを行列を使って掃き出し法によって解くことを学ぶ。 【キーワード】 連立一次方程式、掃き出し法、行基本変形	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	階数 【改訂回】	連立一次方程式の行列による解法を整理し、行基本変形、列基本変形、そして階段行列を定義する。さらに行列の階数を定義する。さらに逆行列の求め方を学ぶ。 【キーワード】 行列の基本変形、行列の階数、正則行列、逆行列	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
5	置換 【改訂回】	行列式を定義するにあたって、必要な準備として、置換について解説する。 【キーワード】 置換、互換、巡回置換、偶置換、奇置換、置換の符号	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
6	行列式	二次や三次の正方行列の行列式の求め方からはじめ、一般の場合について定義する。 【キーワード】 行列式	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
7	行列式の性質	前章で定義した行列式のもつ種々の性質について学び、また行列式を特色づけを行う。また行列式の求め方を実際に練習する。 【キーワード】 行列式の展開	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
8	行列式の展開	行列式を列や行で展開する方法を学び、幾つかの性質を理解する。これを使って、行列の逆行列の求め方を学び、さらに連立方程式の解法についても再考する。 【キーワード】 逆行列、余因子行列、クラメルの公式	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
9	独立と従属	幾つかのベクトルをを使って他のベクトルを書き表す、線型結合について学ぶ。また線型独立や線型従属の意味することを理解する。 【キーワード】 線型結合、線型独立、線型従属	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
10	部分空間	数ベクトル空間の部分集合で、部分空間とよばれるものの定義をする。 【キーワード】 部分空間、生成する空間、基底、部分空間の和、共通部分	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	線型写像	数ベクトル空間から数ベクトル空間への線型写像を定義し、行列がどのように関わっているか学ぶ。また線型写像の像や核について学ぶ。 【キーワード】 線型写像、行列表現、像、核	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
12	次元	行列の階数と基本変形との関連について、より一般的に解説する。次に空間の大きさを測る次元を定義する。さらに次元と階数との関係について述べる。 【キーワード】 階数、基底、次元、次元公式	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
13	基底の変換	線型空間の基底が与えられた時、基底を変えることによって、与えられたベクトルの成分表示がどのように変わるかを見る。また線型写像を表す行列がどのように変わるかもみる。 【キーワード】 基底の変換、座標変換、線型写像の行列表示	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
14	固有値と固有ベクトル	固有値や固有ベクトルを定義し、その意味について解説する。 【キーワード】 固有値、固有ベクトル、固有方程式、不変部分空間、ケーリーハミルトンの定理	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
15	行列の対角化	固有値と固有ベクトルの求め方について幾つか練習する。またこれを使って、基底の変換を行い、線型変換の行列表示がどのように変わるかをみる。最後に授業のまとめをする。 【キーワード】 基底の変換、行列の対角化	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	導入科目	科目コード	1760041	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 入門微分積分 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 An Introduction to Calculus (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：石崎　克也 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

微分積分学が自然科学・工学の発展において中心的な役割を果たしていることは言うまでも無い。ある量の変化に伴って、他の量の値も変化する関数の関係はどの分野においても重要である。二つの変量の間に関数の関係があれば、それらの変化量の割合を記述するものとして、導関数を考える。一般に導関数を求めることを微分するという。その逆演算として積分がある。積分法を理解するということは、面積・体積などへの応用手段を獲得するというだけでなく、関数方程式を取り扱う領域への入場券を手にすることなる。この授業科目では、微分積分についての知識を前提とせず、大学レベルの微分積分を展開する。

授業の目標

微分積分学の基本事項を理解することを目標とする。一般論の理論の把握に努め、具体的な計算では自ら手を動せるようになることを期待する。新しい概念を真に身につけるためにはその概念になじむことが必要であり、数学的な言い回し、数学記号も繰り返し使用することによって違和感がなくなることを実感してほしい。また、基本事項をおろそかにせず、丁寧に積み上げることの重要性を体得することを心がけていただきたい。

履修上の留意点

本科目は実一変数関数の微分積分に限っている。実多変数関数や複素変数関数へ勉強を進めたい学生へは「解析入門(’14)」を履修することを推奨する。また、積分法の先にある微分方程式論については、「微分方程式(’17)」を履修することをお勧めする。印刷教材を参照しながらノートを作成し、演習問題などを自ら解答することが望ましい。更に、放送授業によって理解の確認をされることを期待する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	実数・数列	微分積分学を学ぶにあたり、その基本的な概念を学習する。登場する用語や記号に慣れることを目標とする。集合・実数・数列などの基本性質を学習する。 【キーワード】 集合、有理数、実数、上界・下界、上限・下限、数列、数列の極限、収束・発散、ε-N(イプシロンーエヌ)論法	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
2	関数	関数とは何かを理解し、極限や連続性を学習する。最大値・最小値の命題や、中間値の定理を理解し応用できるようになることを目標とする。 【キーワード】 関数、関数の極限、ε－δ(イプシロンーデルタ)論法、関数の連続性、最大値・最小値、中間値の定理	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
3	単調関数・逆関数	関数の性質を理解し、単調性や周期性を学ぶ。また、逆関数が存在する条件を把握できるようにする。理解のために、逆三角関数をひとつの題材として取りあげる。また、関数の合成について説明する。 【キーワード】 単調性、周期性、定義域・値域、逆関数、逆三角関数、合成関数、双曲線関数	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	導関数	関数の極限を復習し、微分可能性、導関数の定義をする。図形的な意味を把握できるようになる。具体的な関数に対して、定義から導関数が求められるようになることを目指す。 【キーワード】 平均変化率、微分係数、微分可能性、接線・法線、導関数、多項式の微分	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
5	微分法の基本公式	微分法についての一般的な基本公式を学ぶ。更に、各論的な諸公式と併せて、具体的な関数の導関数を計算できるようになる。 【キーワード】 積・商の微分、合成関数の微分、三角関数の微分、逆関数の微分、指数関数・対数関数の微分、関数の媒介変数表示	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
6	曲線の概形	微分法の応用として、関数の増減を調べ、極値を求められるようになる。更に、増減表から曲線の概形を描くことを学ぶ。最大最小問題や不等式の証明に応用できるようになる。 【キーワード】 関数の増減、極大値・極小値、ロルの定理、平均値の定理、凹凸、変曲点、漸近線、最大・最小、不等式への応用	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
7	平均値の定理の応用	高階導関数を求める方法を紹介する。また、平均値の定理の意味を理解し、近似値、テーラー展開へと発展させる。 【キーワード】 高階導関数、テイラー展開、マクローリン展開、近似式、方程式の実数解の近似	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
8	不定形の極限	関数の振る舞いを学習する。不定形を理解し、微分法の応用としてロピタルの定理やテイラー展開を用いて不定形の極限を求める方法を学習する。 【キーワード】 高位の無限小、不定形の極限、ロピタルの定理、ランダウの記号、テイラー展開の応用	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
9	不定積分	微分法の逆演算として、不定積分を導入する。導関数と原始関数の関係や積分定数の意味を理解する。また、基本的な関数の不定積分を求められるようになる。 【キーワード】 原始関数、不定積分、多項式の積分、指数関数の積分、三角関数の積分	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	積分法の基本公式	積分法についての一般的な基本公式を学ぶ。更に、各論的な諸公式と併せて、具体的な関数の不定積分を求められるようになる。また、有理関数の不定積分が初等的な方法で求められることを学習する。 【キーワード】 置換積分、部分積分、有理関数の積分、無理関数の積分、三角関数の積分	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
11	定積分と面積	定積分を定義し、面積との関係を学ぶ。微積分学基本定理の意味を理解する。具体的な関数について、グラフの囲む面積が求められるようになる。 【キーワード】 定積分、面積、微分積分学基本定理、積分可能性、置換積分、部分積分	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
12	広義積分	連続でない関数や積分区間が有限でない場合の広い意味での定積分を取り扱う。ガンマ関数など広義積分で定義される特殊関数も紹介する。 【キーワード】 広義積分、不連続点、無限区間、判定条件、特殊関数、ガンマ関数、ベータ関数	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
13	体積・曲線の長さ	定積分の応用として、体積や曲線の長さを求める方法を学習する。また、具体的な問題を通して理解が進むようにする。更に、関数の表現を変えて面積を求める方法を紹介する。 【キーワード】 体積、回転体の体積、曲線の長さ、極座標と面積	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
14	級数	基本的な数列の学習からはじめ、一般の数列の和を取り、更に、無限項加えるときの状況を考察する。級数の収束・発散を理解し、判定ができるようになることを目標とする。 【キーワード】 級数、収束・発散、正項級数、交項級数、収束判定法、絶対収束、条件収束	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
15	整級数・関数の表現	関数を項に持つ級数の収束・発散を学習する。更に、関数が級数で表現される範囲について学ぶ。級数や無限乗積で定義される特殊関数を紹介する。微分方程式への応用なども紹介する。 【キーワード】 整級数、収束半径、項別微分、項別積分、微分方程式への応用	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562622	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　生命分子と細胞の科学　　（’１３）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：二河　成男　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

生物は、細胞を基本単位としている。そして、細胞は自身の持つ遺伝情報を基に、自らの活動に必要な生体高分子を作り出す。これらの生体高分子の働きにより、細胞が様々な機能を発現し、生物の生命活動は維持される。本講義では、生命活動の基となる個々の分子の働きを見るとともに、多数の分子が協調的に働くことによって生み出される様々な機能について、遺伝情報の発現、細胞分裂、情報伝達、分化等の細胞に特徴的に見られる現象を中心に紹介する。これらの理解を基に発展してきた、遺伝情報や細胞を利用する新たな技術についても解説する。

授業の目標

DNAに記された遺伝子の情報からどのようにしてタンパク質が作られるのか、タンパク質がどのように働いて細胞の活動が維持されるのかを理解することにある。これらの生物に共通のしくみに関する知識の習得を通して、生命科学を基盤とする新たな技術やその倫理的な側面について、自分自身で考える力を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

「初歩からの生物学(’14)」を学んでおくことが望ましい。「動物の科学(’15)」「植物の科学(’15)」もあわせて学ぶことにより、分子や細胞の働きによって生物個体が維持されていることを総合的に理解できる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	分子と細胞の世界	細胞や分子の視点から生物学を理解する利点を解説する。また、細胞の基本構造、細胞を構成する分子である、核酸、タンパク質、脂質、糖についてその基本的な特徴を説明する。 【キーワード】 細胞、細胞小器官、生体高分子、多量体、サブユニット	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
2	タンパク質の構造と機能	タンパク質は、細胞内での化学反応や、細胞構造の維持、情報の伝達といった、細胞の機能的分子として、多様な役割をになっている。このようなタンパク質の構造と機能の全体像を概説する。 【キーワード】 タンパク質、アミノ酸、折りたたみ、酵素、酵素反応速度論	石浦　章一（東京大学大学院教授）	石浦　章一（東京大学大学院教授）
3	遺伝子とDNA	DNAの構造と機能の全体像を明らかにし、遺伝子の分子実体はDNAの特定領域であることを説明する。また、親から子への遺伝情報を伝達するためのDNAの複製反応についても紹介する。 【キーワード】 DNA、ヌクレオチド、塩基対、二重らせん構造、半保存的複製、DNAポリメラーゼ、染色体、遺伝子	藤原　晴彦（東京大学大学院教授）	藤原　晴彦（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	DNAからRNAへの転写とその調節	遺伝情報が生体で利用されるためには、DNAに記された遺伝情報がいったんRNAにコピーされる必要がある。この過程は転写と呼ばれ、遺伝情報の発現量や発現時期を調節する重要なステップである。転写機構、転写に関わる酵素、転写を調節する因子などについて述べる。 【キーワード】 転写、mRNA 、RNAポリメラーゼ、オペロン、調節領域、転写因子	藤原　晴彦（東京大学大学院教授）	藤原　晴彦（東京大学大学院教授）
5	RNAプロセシング	真核細胞では、転写されたRNAがそのまま働くことは少なく、核の中で様々な修飾・加工（プロセシング）を受ける。スプライシングやキャッピングなどの真核細胞のmRNAに特有なプロセシング、さらには転写後の発現調節のしくみについて解説する。 【キーワード】 エキソン、イントロン、スプライシング、選択的スプライシング、キャッピング、ポリA付加	藤原　晴彦（東京大学大学院教授）	藤原　晴彦（東京大学大学院教授）
6	翻訳　mRNAからタンパク質へ	遺伝情報がタンパク質に変換される最後の過程が翻訳である。mRNAを鋳型にして正しくタンパク質が作られるしくみを学ぶ。またその後、翻訳されたタンパク質が機能を持つように修飾される機構についても解説する。 【キーワード】 翻訳、遺伝暗号、コドン、リボソーム、rRNA、tRNA、アミノアシルtRNA、終止コドン、フォールディング、翻訳後修飾	石浦　章一（東京大学大学院教授）	石浦　章一（東京大学大学院教授）
7	ゲノムとゲノム科学	ある生物の持つ遺伝情報の総和をゲノムという。ヒトをはじめ、多くの生物のゲノム情報が明らかとなり、あらゆる生物学の分野に大きな影響を与えている。ゲノムが持つ情報を解説し、そこから何がわかるかを示す。 【キーワード】 ゲノム、ゲノム解析、トランスクリプトーム	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
8	細胞膜　その構造と機能	細胞膜は、細胞を囲む膜であり、細胞の内と外を区別する。一方、細胞膜を通して、細胞の生命活動に関連する分子だけが膜を通過できる選択性を持つ。このような細胞膜の構造と機能について説明する。 【キーワード】 脂質二重層、リン脂質、選択(的)透過性、小胞の働き	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
9	細胞内の化学反応	細胞内での化学反応は、酵素によって制御されている。生体内のエネルギーの基となるATPも、複数の酵素やその他の分子の働きによって合成される。このような一連の酵素反応は、代謝経路という。この回では、細胞内での代謝経路の役割と制御について解説する。 【キーワード】 代謝、代謝経路、解糖系、代謝の制御	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	細胞分裂と細胞周期	細胞は繰り返して分裂することによってその数を増やす。細胞周期とは、その分裂から次の分裂までの1周期のことをいう。この回では、細胞分裂や細胞周期がどのように制御されているかを解説する。 【キーワード】 細胞分裂、細胞周期、サイクリン、サイクリン依存性キナーゼ、チェックポイント	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
11	細胞のシグナル伝達	細胞は、ホルモンや成長因子、あるいは近隣の細胞との接触といった、外部からの様々なシグナルを受け取り、それを内部に伝えて、自身の増殖や分化を制御している。これらの機構について解説する。 【キーワード】 シグナル分子、受容体、タンパク質リン酸化	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
12	細胞分化	動物や植物といった生物は、様々な種類の細胞からその個体が形成されている。これは受精卵に由来する全く同じ遺伝情報を持つ細胞が、異なる性質を持つ細胞へと変化していくためである。この細胞分化という現象について解説する。 【キーワード】 細胞分化、全能性、幹細胞、細胞死	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
13	ウイルス	ウイルスは、細菌とは異なり、生物の細胞内でなければ増殖できない。一方で、DNAあるいはRNAに自身の遺伝情報を保持し、タンパク質や脂質によって粒子状の形態を形作っている。このような生物ともいえる性質を持つウイルスについて、その基本的な特徴、分子生物学への利用、新たなウイルス誕生の可能性について、解説する。 【キーワード】 ウイルス、ウイルスの利用、ウイルスの脅威	渡邊　雄一郎（東京大学大学院教授）	渡邊　雄一郎（東京大学大学院教授）
14	遺伝子の検出と操作	DNA型鑑定や遺伝子検査といった遺伝子検出の技術や、遺伝子組み換え生物を作出する遺伝子操作の技術はどのようなものか、その実例や将来の可能性を紹介する。 【キーワード】 PCR法、遺伝子検査、遺伝子組み換え技術、遺伝子治療	渡邊　雄一郎（東京大学大学院教授）	渡邊　雄一郎（東京大学大学院教授）
15	生命科学の現在と未来	21世紀は生命科学の時代であり、分子あるいは細胞レベルの生物学はその基礎として重要性を増すにいたっている。ここでは、ゲノムから明らかになった生命のしくみ、病気の治療法の開発など私たちのまわりの問題と、それにまつわる生命倫理について講義する。 【キーワード】 遺伝子と老化、歴史学とDNA、遺伝子と環境の相互作用	石浦　章一（東京大学大学院教授）	石浦　章一（東京大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562851	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 生物の進化と多様化の科学 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Evolution and Diversity of Life (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：二河 成男 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

地球上で誕生した生物は、40億年近くかけて進化してきた。その結果、今日では大きな生物多様性が見られるようになった。この生物の変遷について、生物の誕生から、細胞の進化、様々な生物の繁栄と絶滅、植物や動物の多様化、そして人類の誕生に至るまでを紹介する。また、このような生物の進化のしくみについて、ダーウィンが明らかにした自然選択説、木村資生による分子進化の中立説といった、基本的な理論についての説明や、最近の知見である、形態やゲノムの進化機構、あるいは寄生や共生といった生物間の関係の進化と変遷についても合わせて紹介する。このように本講義では、「進化学」の入門として、生物の進化とそれに伴う生物の多様化について総合的にみていく。

授業の目標

生物がもつ独特の性質である進化するという特徴、その結果として、生物界が多様化していく現象に関して、基本的なしくみを学ぶ。さらに、化石となった過去の生物、現在の地球上で暮らす生物がどのような進化の道筋をたどってきたか、そして生物の進化は遺伝情報の進化でもあることから遺伝情報そのものについての進化についても、具体例を通して学んでもらう。

履修上の留意点

本講義を履修するにあたっては、学部での導入科目の「初歩からの生物学」を履修しておくこと、あるいは同水準の生物学を既習していることが望ましい。また、「生物環境の科学(’16)」「生命分子と細胞の科学(’13)」「動物の科学(’15)」「植物の科学(’15)」も合わせて学習するとよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生物の進化と多様化	地球上の生物は共通の祖先に由来する。そして、その共通の祖先から、現在の地球に生きるたくさんの生物種が生じた。この生物の多様化の筋道とそのしくみを明らかにすることが、進化生物学の課題である。ここでは、この生物の変遷の歴史を概観し、生物の進化を調べる方法と、生物学における「進化」という言葉の意味について解説する。 【キーワード】 進化、多様化、化石、分類、生物種、種分化、地質年代、系統樹、DNA	二河 成男（放送大学教授）	二河 成男（放送大学教授）
2	自然選択と適応	生物はその生息する環境に適した特徴をもつ。このような特徴は進化によって生じたものであり、そのような進化を引き起こす原因は自然選択である。どのような条件の時に自然選択による進化が起こるのか。具体例を交えて、どのようにして環境に適した特徴が、自然選択によって進化するのかを紹介する。また、進化は遺伝情報の変化を伴うことから、遺伝子と突然変異についてもその基礎を解説する。 【キーワード】 自然選択、適応、変異、遺伝、人為選択、集団、DNA、突然変異	二河 成男（放送大学教授）	二河 成男（放送大学教授）
3	中立進化と偶然	生物のもつ遺伝情報に生じた突然変異には、生存や繁殖に対して、有利でも不利でもない中立な性質を持つものがある。そのような突然変異は、自然選択よりも、遺伝的浮動という偶然によって進化の方向が左右される。これは分子進化の中立説として知られている。この回では中立説と中立進化を基盤とする分子時計について解説する。 【キーワード】 分子進化の中立説、遺伝的浮動、偶然性、固定、分子時計	二河 成男（放送大学教授）	二河 成男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	生命の誕生	地球上で生命はどのようにして誕生したのか。生物が共通にもつ化学的な特徴や遺伝子のはたらきから、この未解決の問題について考察する。 【キーワード】 化学進化、ミラーの実験、自己複製、リボザイム、RNAワールド、タンパク質ワールド	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
5	ミクロな生物の進化	生物は、その共通の祖先から、まずは、真正細菌、古細菌、真核生物の3つの生物群に分かれた。これらの生物群の進化的な関係と、真核生物のもつ細胞である、真核細胞の誕生と多様化について解説する。 【キーワード】 共通祖先、原核細胞、真核細胞、真正細菌、古細菌、真核生物、ドメイン、細胞小器官、細胞内共生	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
6	カンブリアの大爆発と多細胞動物の起源	化石を手がかりとして、生物の歴史を解き明かすのが、古生物学である。ここでは、カンブリア紀やそれ以前の動物の化石から、動物の誕生と、その後に起こった「カンブリアの大爆発」という、動物の爆発的な多様化について概観する。 【キーワード】 カンブリアの大爆発、多細胞動物、ドウシャンツオの化石生物群、エディアカラ化石生物群、酸素濃度	大野　照文（三重県総合博物館長）	大野　照文（三重県総合博物館長）
7	大量絶滅	地球上の生物は、カンブリア紀以降、5度の大量絶滅によってその数や多様性を失った。これらの大量絶滅は、3つの時期、多様性が減少する絶滅期、その状態が維持される生き残り期、そして多様性が回復する回復期に分けることができる。オルドビス紀末の大量絶滅を例にこれらのことを説明する。 【キーワード】 大量絶滅、絶滅期、生き残り期、回復期、オルドビス紀	大野　照文（三重県総合博物館長）	大野　照文（三重県総合博物館長）
8	植物の陸上進出と多様化	水中生活をしていた緑藻類から、陸上の植物は進化した。この植物の陸上への進出を可能としたのは、乾燥や重力といった環境への耐性の獲得である。陸上への進出に伴って、植物の細胞や組織はどのように進化したか。そして、陸上に進出後、どのようにして現在の多様な植物が誕生したかを解説する。 【キーワード】 頂端分裂組織、配偶体、胞子体、気孔、水通導組織、コケ植物、維管束植物、種子植物	長谷部　光泰（基礎生物学研究所教授）	長谷部　光泰（基礎生物学研究所教授）
9	花の進化 ～陸上植物の生殖器官の進化～	被子植物の生殖器官である花はどのように進化してきたか。花を持たない植物の生殖器官と比較することから、このことについて概観する。 【キーワード】 花、造精器、造卵器、胞子嚢、接合藻類、コケ植物、小葉類、シダ類、裸子植物、被子植物	長谷部　光泰（基礎生物学研究所教授）	長谷部　光泰（基礎生物学研究所教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	動物の発生と進化	動物のからだの形や基本設計は、実に多様である。これらの進化を理解するために、動物のからだの形成とその制御に関する知見を踏まえて進化を考察する、進化発生学的な視点が役に立つ。この回では、動物の系統関係と形態との関係を概観し、進化発生学を通して見えてきた、動物の進化と発生の関係について考察する。 【キーワード】 発生、発生プログラム、ボディプラン、Hox遺伝子群、遺伝子発現調節	工樂　樹洋（理化学研究所ユニットリーダー）	工樂　樹洋（理化学研究所ユニットリーダー）
11	ゲノムの進化と生物の多様化	生物進化の過程で、各生物の設計図ともいえるゲノムもまた進化してきた。突然変異や遺伝子重複だけでなく、ゲノム全体の重複や、発現調節領域の獲得や喪失、個々の遺伝子の喪失、利己的因子の増幅などが、生物の表現型の進化との関係が見えてきた。ここでは、実例をあげながら、ゲノム進化の特徴を解説する。 【キーワード】 遺伝子重複、ゲノム重複、遺伝子発現調節、転移因子、エピゲノム	工樂　樹洋（理化学研究所ユニットリーダー）	工樂　樹洋（理化学研究所ユニットリーダー）
12	寄生 ～その生態と進化～	一生、あるいは生活環のある時期に、他の生物に寄生する生物を寄生生物とよぶ。寄生生物では、体の構造や機能が退化してしまう例がよく知られている。一方で、寄生している寄主の構造や行動を改変する能力を進化させている。これら寄生に伴う生物の進化について概観する。 【キーワード】 寄生、宿主特異性、操作、延長された表現型、虫こぶ、ボルバキア	深津　武馬（産業技術総合研究所首席研究員）	深津　武馬（産業技術総合研究所首席研究員）
13	内部共生がもたらす進化	地球上の生物は、異なる生物種であっても、お互いが様々な形で関わり合っている。中でも他の生物の体内に入り込む内部共生や細胞内に入りこむ細胞内共生という生物の関係は、最も密接な生物間の関係である。このような共生関係がどのように進化するのか、そして、共生する宿主や共生体がどのように進化するのかを紹介する。 【キーワード】 内部共生、細胞内共生、相利、片利、宿主、共生体	深津　武馬（産業技術総合研究所首席研究員）	深津　武馬（産業技術総合研究所首席研究員）
14	性と進化	どうして、多くの生物が、性という性質をもつのだろうか。この回では、どのように性が進化してきたのか、性があることによって生物にどのような変化が生じるのかを考察する。 【キーワード】 有性生殖、無性生殖、減数分裂、性染色体、組み換え	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
15	人類の進化	他の類人猿と分岐後、ヒトの祖先は独自の進化をたどって、現代人であるHomo sapiensとなった。その進化的変遷と、ヒトに特徴的な形質の進化過程について解説する。 【キーワード】 ヒト科、化石人類、現生人類、アフリカ起源説、二足歩行、脳	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562738	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 植物の科学 （’１５）＝（ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 Plant Science (’15) 〕

〔主任講師（現職名）： 塚谷 裕一 （東京大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 荒木 崇 （京都大学教授） 〕

【本学担当専任教員：二河 成男 （放送大学教授） 】

講義概要

生物界の基礎生産を行ない、酸素の供給源ともなっている植物に関して、その多様性、生理、発生、生化学、生殖、成長、他の生物との相互作用について説明する。さらに、合わせて医薬、食料や環境修復、園芸など暮らしとの関わりに関する応用植物科学の側面も講義する。「動物の科学」とペアになる講義である。

授業の目標

21世紀に生きるわれわれは、いわゆる地球温暖化問題や生物多様性の喪失、大幅な人口増加とそれに伴う食糧不足や環境悪化など、いずれも即効性のある答えが簡単には見いだせない問題に直面している。こうした問題に取り組むための方策を模索するうえで、われわれに科学的な基盤を与えてくれる自然科学の重要な分野が、植物の成り立ちやはたらき、環境やほかの生物との関わりを研究する「植物科学」である。植物に対して広い関心と理解、そして愛着を育むことが本講義の大きな目標である。

履修上の留意点

テキストおよび放送教材の内容のみにとどまらず、それを基礎として、各種参考文献に自らあたって知見を広げることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	さまざまな植物たち ～その多様性と暮らし～	この講義全体を通じて、植物の暮らしそのものの理解と共に、私たち人との関わりにも理解を深めてもらうことを目指している。その最初の導入として、まず植物とは何かを扱う。いかにさまざまな植物が、地球上で私たちの身の回りにいるかを紹介し、生物多様性の理解を進める。 【キーワード】 植物とは、生物多様性、形態多様性、単子葉類、真正双子葉類	塚谷 裕一（東京大学教授）	塚谷 裕一（東京大学教授）
2	光合成と一次代謝	植物の生の営みの特色の1つは、光のエネルギーを化学エネルギーに変換する光合成過程である。植物が光エネルギーを受け取り、化学エネルギー に変換するしくみとその多様性、二酸化炭素や窒素などの無機養分が有機物に同化される過程、さらに、光合成産物が一次代謝に利用されていく関係を解説する。 【キーワード】 酵素反応、異化代謝、同化代謝、代謝産物、炭素固定、ATP、電子伝達系、カルビン・ベンソン回路、解糖系、クエン酸回路	平井 優美（理化学研究所チームリーダー）	平井 優美（理化学研究所チームリーダー）
3	成長・発生（1） ～植物の体制と胚発生～	植物の成長発生について、6回にわたって紹介する。この回では植物の体制（ボディープラン）がどのような仕組みでできあがるのか、胚の発生を中心に扱う。また、胚発生の過程で重要な植物ホルモンのはたらきについても紹介する。 【キーワード】 植物の体制（ボディープラン）、胚発生、頂端分裂組織、オーキシン	深城 英弘（神戸大学教授）	深城 英弘（神戸大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	成長・発生(2) ～休眠・発芽と伸長～	完成した胚を含む種子は、水分を失い乾燥種子として休眠状態に入るが、水、酸素、光といった適切な環境刺激のもとで発芽が可能になる。発芽した芽生えは光環境に応じた成長をおこなう。種子の休眠と発芽の仕組み、それに関わる植物ホルモン、種子や芽生えが光を感じて成長を調節する仕組みなどについて紹介する。 【キーワード】 種子休眠、発芽、植物ホルモン、光受容体、生物時計	荒木　崇（京都大学教授）	荒木　崇（京都大学教授）
5	成長・発生(3) ～根～	根は土壌から水分や養分を吸収して、植物体の生育を支えている。根の多様性やその構造とはたらきについて紹介する。また、根の成長発生に関して、側根の形成や重力に対する屈性反応などを取り上げ、それらの仕組みと関連する植物ホルモンについて紹介する。 【キーワード】 根端分裂組織、放射パターン、側根、重力屈性、オーキシン	深城　英弘（神戸大学教授）	深城　英弘（神戸大学教授）
6	成長・発生(4) ～シュート～	植物の地上部は、茎の周りを葉が取り巻く「シュート」という構造から成っている。その形作りの仕組みを紹介し、どのようにして植物のシュートが発達していくのかを解説する。特に、シュート頂分裂組織から葉ができる仕組み、その配置のルール、さらに葉の形態の多様性とその遺伝的な仕組みなどについても紹介する。 【キーワード】 SAM（シュート頂分裂組織）、葉序、葉、花	塚谷　裕一（東京大学教授）	塚谷　裕一（東京大学教授）
7	成長・発生(5) ～花芽形成～	植物は適切な環境条件におかれると、シュートを変形させて花を作り出す。その切り換えを花芽形成という。特に日の長さは花芽形成を促す重要な環境要因である。植物が日の長さを感じて花芽形成を開始する仕組みや花を構成する器官、ABCモデルと呼ばれる花の形づくりのしくみなどについて紹介する。 【キーワード】 花芽形成、日長、光受容体、生物時計、フロリゲン、ABCモデル	荒木　崇（京都大学教授）	荒木　崇（京都大学教授）
8	成長・発生(6) ～受粉と受精～	花は生殖器官を含み、受粉と受精の場として機能する。生殖器官の形成、自己と他者の花粉を区別する仕組みや卵細胞を含む胚嚢まで花粉管を導く仕組みなど、受粉から受精にいたる過程を紹介し、このシリーズの初回で学んだ胚発生の出発点である受精卵ができるまでを扱う。 【キーワード】 花粉、胚嚢、受粉、花粉管、受精、自家不和合性	荒木　崇（京都大学教授）	荒木　崇（京都大学教授）
9	形態の可塑性 ～環境適応～	植物は固着性の生活をしているため、予め決められた発生プログラムの他に、環境に合わせて随時、可塑的に形態を変化させる仕組みを持っている。その仕組みとその生態学的意味について紹介する。さらに、外界の環境に応じてどのようにその姿を変えるのかについて、重力応答や頂芽優勢など、具体例を紹介する。 【キーワード】 可塑性、環境適応、重力、光環境、頂芽優勢	塚谷　裕一（東京大学教授）	塚谷　裕一（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	動物との相互作用 ～食害、送粉、種子散布～	植物はさまざまな動物とかかわり合って生きている。植物は多様な植食性昆虫の食害を受けており、一方でそれに対する対抗進化を遂げている。また、多くの植物は報酬を支払って、動物に送粉（受粉や授粉）や種子散布を託している。植物と動物との間に見られるこのような搾取や共生の関係について俯瞰する。 【キーワード】 食植性昆虫、化学防衛、送粉共生、ハナバチ、種子散布共生	加藤　真 （京都大学教授）	加藤　真 （京都大学教授）
11	植物間の相互作用 ～競争、生殖隔離、交雑～	隣接する植物同士は、光や水をめぐって競争関係にある。寄生植物や着生植物のように、他の植物に依存して生きる植物もあれば、アレロパシーによって他の植物の生育を阻害するものもある。このような植物間の多様な相互作用を概観したのち、近親交配を避けるしくみや、近縁種間の生殖隔離機構、交雑を介した種分化について紹介する。 【キーワード】 競争、寄生植物、着生植物、生殖隔離、交雑	加藤　真 （京都大学教授）	加藤　真 （京都大学教授）
12	微生物との相互作用 ～病害、共生、寄生～	動くことのできない植物は、菌類やバクテリア、ウイルスなどの病原微生物から身を守るために、独自の防御システムを進化させてきた。一方で、菌根菌と呼ばれる菌類や根粒菌というバクテリアと共生し、地球の生態系に大きな変化をもたらした。また、最近の研究からさまざまな微生物との関わりが植物の生存や健全な成長に重要であることがわかってきた。そのような微生物との関係について紹介する。 【キーワード】 病原抵抗性、共生、根粒菌、アーバスキュラー菌根菌	荒木　崇 （京都大学教授）	荒木　崇 （京都大学教授）
13	二次代謝と私たちの暮らし	植物はもちろん、我々人間とも密接な関係にある。この回では、香辛料、染料、医薬品など、植物がつくり出す様々な低分子量の二次代謝 産物を通して人間の暮らしに関わる面について解説し、二次代謝産物が作られる多様な生合成経路について紹介する。 【キーワード】 多様性、遺伝子の発現、恒常性、環境応答、オミクス研究	平井　優美 （理化学研究所チームリーダー）	平井　優美 （理化学研究所チームリーダー）
14	現代社会と植物科学	植物を人間の役に立つよう品種改良するという作物育種の歴史は古い。育種の歴史と最近開発されつつあるゲノム育種、遺伝子組換え技術につい て、その実例を紹介しつつ、その利点と可能性、特に、環境保全あるいは環境修復において植物が持つ可能性に関する正確な理解を目指す。 【キーワード】 化学肥料の生産と使用、育種、必須元素、バイオ燃料、地球温暖化、バイオマス、コストの問題、ヒトの健康と植物	平井　優美 （理化学研究所チームリーダー）	平井　優美 （理化学研究所チームリーダー）
15	最後に ～植物と植物学～	最後に、もう一度、植物の素顔を振り返る。ここまでのこの科目の内容を復習しつつ、見直すことで、植物の生のあり方を認識し直すことができるはずである。そこを出発点として、私たちと植物との関係を、もう一度まとめて理解していくことが、本科目全体の目標である。 【キーワード】 園芸、品種改良、適応、有性生殖、人との関わり、植物とは	塚谷　裕一 （東京大学教授）	塚谷　裕一 （東京大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562720	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 動物の科学 （’１５）＝ （ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 Zoological Science (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：二河　成男　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：東　正剛　（北海道大学名誉教授）〕

講義概要

動物とは、他の生物が作った有機物を摂食して生きている多細胞生物の総称である。最も祖先的なカイメンから、多様な昆虫、運動性にすぐれた脊椎動物など、実に多彩な種類が存在する。本講義では、私たち人間を含めて、動物たちがどのようにこの地球上で生きているのか。そして、その基盤となる生殖、発生、感覚受容、行動といった生理的な機構がどのようなものかを紹介する。そして、動物の姿を科学的に理解することは、私たち人間自身を理解する上で極めて有用であることを示す。

授業の目標

動物は、私たち人間とこの地球環境を共有し、 その食を支え、時には愛情を注ぎうる相手である。現代の生物科学や医学の発展にも多大な役割を担ってきた。これら人も含めた動物の生活様式や、生理機構を理解することが、授業の目標の一つである。そして、このような人間も含めた動物そのものの姿を基盤として、環境や食といった現代的な諸問題を、人間に取っての有用性という視点からだけではなく、より広い視点から、科学的に思考する能力を習得する。

履修上の留意点

本講義を履修するにあたっては、導入科目の「初歩からの生物学」を履修しておくこと、あるいは同水準の生物学を学んでいることを前提としている。また、本講義と専門科目の「植物の科学」は、いわば姉妹講義の関係となっている。さらには、導入科目の「生物環境の科学」、専門科目の「生命分子と細胞の科学」「生物の進化と多様化の科学」、そして総合科目の「暮らしに役立つバイオサイエンス」は、生物科学の関連した科目として設置されている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	多様な動物の世界	動物とはどのような生物をさすのか、そして、動物はどのような特徴を共有するのか、動物の起源、進化、分類はどこまであきらかになっているのかといった、動物学の全般的な内容について説明する。まずは、動物という生き物のイメージをふくらませるところから始めよう。 【キーワード】 動物の定義、多細胞体制、従属栄養生物、感覚、運動、動物の起源、進化、分類体系	二河　成男（放送大学教授）	二河　成男（放送大学教授）
2	野生動物の進化と系統	生物は共通の祖先から種分化をくり返しながら多様化してきた。その一方で、異なる大陸や島の間では、祖先が違う系統の間でよく似た形態や行動を示す動物もみることができる。ここでは、野生動物の種分化、適応放散、収斂進化について解説し、系統分類をしばしば混乱させる収斂進化を見抜くことに貢献してきた分子系統学の方法と成果を紹介する。 【キーワード】 生殖隔離、種分化、適応放散、収斂進化、北方獣類、アフリカ獣類、南米獣類	東　正剛（北海道大学名誉教授）	東　正剛（北海道大学名誉教授）
3	家畜動物の起源と育種	人間が利用する目的で野生動物から遺伝的に改良された動物を家畜という。ここでは、様々な家畜動物の起源とその利用の方法、そして、育種のための、基本的な遺伝学的手法や人工授精技術について紹介する。 【キーワード】 家畜、育種、表現形分散、遺伝分散、環境分散、遺伝率、異系交配、近親交配、雑種強勢、人工授精	東　正剛（北海道大学名誉教授）	東　正剛（北海道大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	動物の運動	動物は、捕食や逃避などのために、運動の能力を利用している。その特徴は、特定の動作を短時間に繰り返すような反復した動きにある。このような動きを可能にしているのが、筋肉である。動物の動く目的や筋肉の微細構造について解説する。 【キーワード】 運動、筋肉、アクチン、ミオシン、鞭毛、繊毛	二河 成男（放送大学教授）	二河 成男（放送大学教授）
5	動物の子孫の残し方	子孫を残す生殖のしくみは、無性生殖と有性生殖に分けられる。動物の多くは、有性生殖の仕組みを保持している。有性生殖の本質は、異なる2種類の配偶子、動物なら精子と卵子が形成され、異なるタイプの配偶子が出会い、受精することによって、新たな命が動き始めるところである。ここでは、動物における生殖について、有性生殖の仕組みを中心に紹介する。 【キーワード】 有性生殖、性決定、配偶子形成、減数分裂、受精	二河 成男（放送大学教授）	二河 成男（放送大学教授）
6	動物の発生	受精卵という1個の細胞が分裂を繰り返しながら、分化し、胚、幼生を経て成体となる。この複雑な過程を発生という。どのようにして、発生の過程で動物の体制が形成されていくかを解説する。また、体の様々な軸や構造の形成と、タンパク質や遺伝子の関係についても解説する。 【キーワード】 発生、体制、ボディプラン、胚、予定運命図、背腹軸、頭尾軸、左右軸、Hox遺伝子群、細胞の分化、幹細胞	二河 成男（放送大学教授）	二河 成男（放送大学教授）
7	動物の表現型可塑性とその進化	生物の形質は、遺伝子がすべてを決めているわけではなく、環境に応じて適切な表現型を発現する精巧なシステムを有している。この性質は「表現型可塑性」と呼ばれ、全ての生物に備わっているものである。ここでは、動物における表現型可塑性の例を示しながら、どのような仕組みで環境に応答した表現型が発現するのかを解説する。 【キーワード】 表現型可塑性、表現型多型、直接発生、間接発生、性決定、多型現象、環境適応	三浦 徹（北海道大学大学院准教授）	三浦 徹（北海道大学大学院准教授）
8	動物の神経細胞のかたちとはたらき	動物は、外界の環境を感覚神経で受け取り、その情報を脳内で処理した後に、環境に適応した行動を取ることにより生活を営む。これを可能にするため、動物は中枢化した「脳」という構造を進化させてきた。ここでは、脳を形作る主要な構成要素である神経細胞（ニューロン）の基本的な構造と機能について、脊椎動物を例に解説する。 【キーワード】 中枢神経系、神経細胞の構造、ニューロン、静止膜電位、活動電位	岡 良隆（東京大学大学院教授）	岡 良隆（東京大学大学院教授）
9	生体情報を伝える神経系と内分泌系	神経系は、主に電気信号を作り出すことによってはたらく。一方、内分泌系はホルモンを全身の血流を介して広く行き渡らせることによってはたらく。このように異なる特徴を持ちながらも、両者は動物の生体情報を伝えるという点では、分子的な仕組みやそのはたらきにおいて多くの共通点をもっている。これらの神経系と内分泌系が協調して働く仕組みを学ぶ。 【キーワード】 シナプス、神経伝達、神経分泌、神経修飾、脳下垂体、ホルモン	岡 良隆（東京大学大学院教授）	岡 良隆（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	親による子供への投資と性選択	多くの動物では、子供への投資量は雄親よりも雌親に偏っている。このような親の子供への投資量の雌雄差は行動や形態の性差、つまり性的二型を生み出す根本的な要因と考えられている。ここでは特に、動物の進化を考える上で親による子供への投資がいかに重要であるかを学ぶ。 【キーワード】 同性内性選択、雌雄間性選択、繁殖戦略、優良資源仮説、優良遺伝子仮説、雄の魅力仮説、フィッシャーの性比理論、投資	東　正剛（北海道大学名誉教授）	東　正剛（北海道大学名誉教授）
11	動物の社会生態	動物には集団を形成し、その個体間で様々な協力行動をするものたちがいる。そのような協力行動はいかなる背景の元に成立しているのであろうか。そして、協力行動の結果、それぞれの種固有の社会生態が成立しているが、その進化はどのようなものだろうか。ここでは、最近、大きく進展をとげた社会生物学の要点を講義する。 【キーワード】 協力行動、利他行動、社会進化、血縁選択、分業、カースト分化	三浦　徹（北海道大学大学院准教授）	三浦　徹（北海道大学大学院准教授）
12	動物の脳とその機能	脳が大きくなることによって、動物は知能や行動というすばらしい能力を獲得してきた。また、ヒトに進化することによって「精神」と呼ばれるものも兼ね備えてきた。ここでは、脳の働き、神経の機能、ヒトが持つ特殊な能力、モデル動物を用いた遺伝子と各能力との関係などについて、例とともにわかりやすく紹介する。 【キーワード】 神経細胞、脳機能、精神活動、言語野、記憶	石浦　章一（東京大学大学院教授）	石浦　章一（東京大学大学院教授）
13	動物の行動生理	動物の行動は、ホルモンと呼ばれる細胞が分泌した物質によって規定される場合がある。性に応じた行動や、ストレス応答などがその代表例である。脊椎動物を例にとって、内分泌器官のはたらきと動物の行動との関係を紹介する。 【キーワード】 ホルモン、自律神経、神経伝達物質、ヒトの行動、アセチルコリン、ドーパミン	石浦　章一（東京大学大学院教授）	石浦　章一（東京大学大学院教授）
14	動物の免疫応答	脊椎動物の免疫応答はほぼ無限に多様な病原体を特異的に排除できる。これには自然免疫系による適応免疫系の発動が大きく貢献しており、T細胞受容体、B細胞受容体、MHCタンパク質が重要である。ここではこれらのタンパク質を生み出す分子基盤と、抗原への特異性を生み出すメカニズムの理解を目指す。 【キーワード】 T細胞、B細胞、T細胞受容体、B細胞受容体、MHCタンパク質、クローン選択、免疫記憶、自己免疫寛容、遺伝子再編成、HIV	東　正剛（北海道大学名誉教授）	東　正剛（北海道大学名誉教授）
15	応用動物科学の課題：人獣共通感染症	20世紀半ば頃から新しい人獣共通感染症が現れ、しばしば世界的な大流行を起こすようになった。その病原体はウイルス、プリオン、細菌、原虫、条虫などさまざまであり、動物は伝播に関わるだけでなく、ウイルスなどの病原性を高めてしまうこともある。ここでは、5つの典型的な人獣共通感染症を詳しく学ぶ。 【キーワード】 人獣共通感染症、パンデミック、インフルエンザウイルス、伝達性海綿状脳症、プリオン、ボツリヌス菌、マラリア原虫、エキノコックス、終宿主、中間宿主	東　正剛（北海道大学名誉教授）	東　正剛（北海道大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562630	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 力と運動の物理 （’１３）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：米谷　民明　（東京大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：岸根　順一郎　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

近代物理学の出発点は、ガリレイとニュートンに始まる「力学」にある。それ以来、19世紀までに発展しつづけた古典物理学は、20世紀に入って相対論と量子論を柱とする「現代物理学」によって乗り越えられ、現在の物質と宇宙の理解のための土台になっている。しかし、現代物理学においても、古典力学の展開の過程で生み出された数々の概念と方法論が、展開のための基礎として生きている。また、我々が日常親しんでいる物理現象の理解には、依然として古典力学が欠かせない。本科目では、運動と力の捉え方から始めて、運動方程式の意味、取り扱い方、典型的運動の解析、さらに解析力学と呼ばれる力と運動のより一般的な見方と数学的方法を学び、最後に古典力学と相対性理論と量子論との関係についても触れる。

授業の目標

力学の基礎概念に親しむだけでなく、運動方程式を具体的な問題に応用して運動を解く手法を習得すること、典型的運動の詳しい解析を通じて、様々な異なったスケールで出現する多様な運動の特徴に親しむこと、さらに、相対論や量子論を理解するのに必要な基礎概念を習得すること、などを目標とする。

履修上の留意点

力学は物理学を学ぶ上で土台になる科目である。放送大学学部導入科目「物理の世界」を履修していることが望ましい。「物理の世界」を履修していない場合でも、同程度以上の知識を持つことを前提とした講義であることを念頭におくこと。また、数学については、微分積分、ベクトルと線形代数の初歩に関しての理解および計算力を前提とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	力と物理学の世界	力は自然界で起こっているすべての現象を支配している。この章では、力と運動についての認識の歴史を概観するとともに、力と運動の物理を学ぶことの意味を考える。どんな問題を調べるにして、力と運動は物理科学への出発点だ。これから物理学を本格的に学ぶための基礎的事項について最初の土台固めから始めよう。 【キーワード】 プリンキピア、力、座標系と位置ベクトル、次元と単位	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
2	運動をどう表現するか	運動を調べるという観点から、ベクトルをどう取り扱うかについてさらに立ち入って調べる。運動を表すには、異なった座標系の間の関係をできるだけ明確に表現することが大事である。座標系の変換を通して、ベクトルの2種類の積(内積と外積)を導入し、その役割や応用を学ぶ。 【キーワード】 ベクトルの合成、座標系の変換、基底ベクトル、内積と外積	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
3	力とはどういうものか	力に関する経験を調べ直すと、力もベクトルであることがわかってくる。力とは何か、どのような種類があるのか、どう扱うのか、を考えながら、力と運動の関係を理解するための準備を進める。 【キーワード】 力のつりあい、内力と外力、力のモーメント、仮想仕事の原理	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	力と運動の法則	前章までで力と運動の関係を調べる準備が整った。この章では、ニュートンがまとめあげた運動の基本法則を学び、力が満たす一般的性質である作用反作用の法則と、万有引力やクーロン力が満たしている性質である中心力について、運動の立場からの意味を考えよう。それが運動量と角運動量の保存則だ。 【キーワード】 慣性の法則、ガリレイ変換、運動方程式、運動量と角運動量の保存則	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
5	仕事とエネルギー	運動量と角運動量に加えて、力と運動を特徴づけるのに重要な概念がエネルギーだ。仕事とエネルギーの関係、運動方程式とエネルギーの関係について学ぶ。そこから、エネルギーの保存則を理解し、さらにこの立場から仮想仕事の原理を拡張した運動を調べるための新たな見方に進む。 【キーワード】 仕事、エネルギー、保存力、安定と不安定、ラグランジュ方程式	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
6	典型的な粒子運動を調べる1	自然界に遍在する運動形態である振動現象について系統的に学ぶ。調和振動（単振動）から出発し、摩擦による減衰振動、外力による強制振動の運動方程式の解析法を学ぶ。さらに、非線形振動の具体例とその意義にも触れる。 【キーワード】 調和振動、減衰振動、強制振動、非線形振動	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
7	典型的な粒子運動を調べる2	人工衛星や天体の運行の問題の解析を通して万有引力が引き起こす運動を詳しく調べる。ケプラー問題はクーロン斥力による散乱現象にも応用できる。本章では、科学史的にも極めて重要な意義を持つこれらの問題を解析する。 【キーワード】 ケプラー問題、天体の軌道、ラザフォード散乱	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
8	典型的な粒子運動を調べる3	静電プリズム、ローレンツ顕微鏡、小惑星探査機のイオンエンジンなどの応用例を題材として、電磁場中での荷電粒子の3次元運動について学ぶ。また、電磁場中の荷電粒子の運動をラグランジュ形式に基づいて捉えなおす。これによって、磁場がベクトルポテンシャルによって記述される必要性を学ぶ。 【キーワード】 ローレンツ力、サイクロトロン運動、ベクトルポテンシャル	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
9	多粒子系の運動	星団や銀河に代表される重力多体系の運動を題材として、相互作用する多粒子からなる系の運動を解析する方法を学ぶ。特に、保存則の重要性を強調する。また、燃料ガスを噴射しながら推進するロケットの加速機構についても触れる。 【キーワード】 重心運動と相対運動、ビリアル定理、ロケットの推進	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	剛体の運動	変形しないマクロな連続体である剛体の運動を、前章で展開した多粒子系の論理に基づいて解析する。特に回転運動の記述法を詳しく学び、角運動量の意味を理解する。一般論を学んだあと、おもちゃやコマの動きといった身近ではあるが複雑な剛体運動の理解を試みる。 【キーワード】 剛体、慣性モーメント、コマの運動	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
11	連続体の力と運動	変形する物体に働く力と運動を連続体近似で調べる。弾性体の歪と応力、弾性体を伝わる波、非圧縮性流体のつりあいと流れ、などについて考え方の基礎を学び、具体例で日常親しんでいる現象を理解する。 【キーワード】 歪テンソル、応力テンソル、波動方程式、流体のオイラー方程式、ベルヌーイの定理	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
12	運動する座標系	非慣性系での運動方程式を座標系の変換により導く。遠心力やコリオリ力などについて、具体例で理解を深める。また、等価原理の意味を理解し、一般相対性理論とのつながりについて知る。 【キーワード】 慣性力、回転座標系、遠心力、コリオリ力、等価原理	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
13	作用原理の展開	5章で触れたラグランジアンの方法の発展として、作用原理に基づき、運動についての新たな見方(一般に「解析力学」とよばれる)に進むための基礎を述べる。この方法をいくつかの応用、および、保存則と対称性との関係の理解などへの応用を通じて学ぼう。 【キーワード】 ラグランジアン、一般化座標、相空間、ハミルトン方程式、対称性と保存則	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
14	力と運動の見方を発展させる	作用原理の展開によって学んだ見方をさらに発展させ、相空間やハミルトンの方程式の取り扱いを拡張し、ハミルトン・ヤコビの方法という運動の取り扱いに関する新しい考え方に進む。 【キーワード】 拘束条件、ハミルトン・ヤコビ方程式、作用変数と角変数	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
15	古典力学の深まりと現代物理	前章に続き、古典力学の見方のさらなる展開を学ぶ。最後に「力と運動の物理」のまとめとして、古典力学の到達点と限界は何かを理解し、現代物理学への飛躍とは何か、そこにおいてこれまで学んできた考え方が果たす役割を学ぶ。 【キーワード】 正準形式、ポアソン括弧、正準変換、相対性理論、量子力学	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562681	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 場と時間空間の物理 （’１４）＝ （TV）

－電気、磁気、重力と相対性理論－

英文名 ＝ 〔 Physics of Fields and Spacetime (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：米谷　民明　（東京大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：岸根　順一郎　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

電気・磁気の法則を出発点として、自然界の基本的な力と物質の性質を正確に記述し、数学的に調べるための出発点である「古典場」の考え方を取り扱う。電磁場と荷電粒子の相互作用、物質中の電磁場、特殊相対性理論、一般相対性理論と重力場の理論、およびその応用に向けた基礎的な考え方と数学的方法論について、具体例を多く扱い、論理の筋道を明確にした上で物理的意味を重視した講義を行う。

授業の目標

本科目では、導入科目「初歩からの物理」から出発し「物理の世界」へと進んで概観してきた物理学の基礎について、古典的な電気・磁気、場の理論、相対性理論などの考え方と応用を、専門科目としてより深く追求する。電気と磁気の法則を古典場の物理として扱うための数学的方法としてのベクトル解析、電気・磁気の法則を正しく捉えるために必要な時間と空間そのものについての法則である特殊相対性理論、および、特殊相対性理論を拡張した一般相対性理論とテンソル解析の初歩、さらに重力の場の理論の考え方の基礎と初歩的応用を会得することを目標とする。

履修上の留意点

物理学全般について「物理の世界」程度以上の知識を前提とする。また、本科目は、物理関係の専門科目として「力と運動の物理」の次に学ぶべき科目として位置づけられている。数学の予備知識としては、「入門線型代数」「入門微分積分」「微分方程式」で学ぶ程度の知識と運用力を前提とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	力と場、場と粒子	力を場とみなす考え方、粒子と場の違いと互いの関係などについて、歴史的な発展も含めて概観し、本科目の位置づけ動機づけを与える。古典場の最も典型的な例である電場と磁場がどう定義されるかを学ぶ。そして、電磁場の力学を扱うための数学的方法であるベクトル解析の初歩を学ぶ。 【キーワード】 ローレンツ力、電場、電気力線、磁場、磁力線、電荷、電流、ベクトル場の回転と発散、ガウスの公式、ストークスの公式	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
2	電磁場とマックスウェル方程式	電気磁気の現象に関する日常経験および、静電気、静磁場、電流、電磁誘導などの電磁場の基礎的法則を復習しながら、電磁場の発散と回転の性質を調べる。それらの基本法則を、マックスウェル方程式として整理する。 【キーワード】 クーロンの法則、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導の法則、マックスウェル方程式、電磁ポテンシャル	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
3	導体と静電場	時間変化しない電荷密度が真空中に作る静電場をマックスウェル方程式に基づいて解析する。さらに導体と静電場の関係を調べる。 【キーワード】 スカラーポテンシャル、導体、ラプラス方程式、鏡像法	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	定常電流と静磁場	定常電流が真空中に作る静磁場を解析し、電流と磁場を結びつけるビオ・サバールの法則を導く。さらに電流間のローレンツ力につい て考える。 【キーワード】 ベクトルポテンシャル、定常電流、ビオ・サバールの法則、オームの法則、電流間相互作用	岸根 順一郎（放送大学教授）	岸根 順一郎（放送大学教授）
5	時間変化する電磁場と保存則	荷電粒子と電磁場を合わせてひとつの閉じたシステムと捉える見方を学ぶ。この見方を通して荷電粒子の運動エネルギー、運動量、角運動量といった力学量が電磁場に受け継がれ、システム全体として大局的な 保存則が成り立っていることを導き出す。これによって独立な物理的実体と しての電磁場の意味が明らかになる。 【キーワード】 電磁場のエネルギー、電磁場の運動量、電磁場の角運動量	岸根 順一郎（放送大学教授）	岸根 順一郎（放送大学教授）
6	時間変化する電磁場と電磁波	マックスウェル理論の大きな成果は、光を電磁波として記述することに成功したことである。本章ではまず、電磁波の基本的性質を学ぶ。ついで時間変化する電荷密度、電流密度が電磁波を生み出すメカニズム を学ぶ。 【キーワード】 平面電磁波、遅延ポテンシャル、電磁波の放射	岸根 順一郎（放送大学教授）	岸根 順一郎（放送大学教授）
7	物質中のマックスウェル方程式	物質中に電磁場が入り込むと、内部のイオンや電子の状態が変化する。特に、身軽な電子は敏感に応答して物質の性質(物性)を大き く変える。本章では、物質の成り立ちを踏まえながら物質中の電磁場が満たすべき基本方程式を導く。 【キーワード】 ミクロな電磁場、自 由電荷、束縛電荷、電気分極、磁化	岸根 順一郎（放送大学教授）	岸根 順一郎（放送大学教授）
8	物質中の電磁場	前章で導いた物質中のマックスウェル方程式に基づいて、マクロな物質中の電磁場の振る舞いを調べる。特に電場・磁場に対する物質の応答がそれぞれ電気感受率と磁化率によって記述されることを学ぶ。さら に誘電体、導体中の電磁波の振る舞いを調べる。 【キーワード】 電気感受率、磁化率、磁性、電磁波の反射と屈折、偏光、表皮効果、プラズマ振動	岸根 順一郎（放送大学教授）	岸根 順一郎（放送大学教授）
9	時間空間と電磁場：特殊相対性理論	電磁場を相対性原理の立場から見直し、特殊相対性理論へといたる。アインシュタインがニュートンの絶対時間、絶対空間を乗り越えて切り開いた、時間と空間の現代的な捉え方を学ぶ。 【キーワード】 マイケルソン・モーリーの実験、光速不変の原理、相対性原理、ローレンツ変換、同時性の相対性、ミンコフスキー空間	米谷 民明（東京大学名誉教授）	米谷 民明（東京大学名誉教授）
10	電磁場の相対論的定式化	電磁場、および電磁場と荷電粒子の相互作用を扱うための道具であるテンソル解析の初歩を学び、マックスウェル方程式を作用原理に基づき相対論的に定式化する。 【キーワード】 4元ベクトル、テンソル、電磁場テンソル、電磁場のローレンツ変換、ドップラー効果、光向差	米谷 民明（東京大学名誉教授）	米谷 民明（東京大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	電磁力学の相対論的定式化	荷電粒子の運動と電磁場の相互作用を、作用原理により相対論的に定式化する。それに基づき、粒子の相対論的エネルギー運動量、電磁場のエネルギー運動量テンソルを定義し、応用をいくつかの例で学ぶ。 【キーワード】 固有時間、4元運動量、エネルギー運動量テンソル、放射圧	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
12	古典電磁場理論の展開と限界	相対論的な電磁場理論の応用として荷電粒子からの制動放射およびチェレンコフ放射を導く。また、電磁波の荷電粒子による散乱と輻射を具体例により調べる。最後に電磁場の古典理論の限界について触れる。 【キーワード】 制動放射、シンクロトロン輻射、チェレンコフ放射、レイリー散乱、プラズマ振動、自己エネルギー	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
13	重力と相対性原理	特殊相対性理論の拡張としての重力と時間・空間の理論である一般相対性理論の考え方の基礎を学ぶ。また、曲がった時空の幾何学(リーマン幾何学)に入門する。 【キーワード】 等価原理、一般座標不変性、一般共変性、計量テンソル、局所慣性系、リーマン幾何学、クリストッフェル記号、測地線	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
14	一般相対性理論Ⅰ	一般相対性理論にとって重要なリーマン幾何学の基礎概念を学び、重力場の作用原理に進む。アインシュタインの重力場の方程式を導き、その意味を考察する。 【キーワード】 共変微分、曲率テンソル、アインシュタインテンソル、アインシュタイン・ヒルベルト作用、重力場の方程式	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
15	一般相対性理論Ⅱ	重力場の方程式の電磁場理論との類似、ニュートン近似、重力波、シュワルツシルト解、ブラックホール、など一般相対性理論の帰結について学ぶ。最後に古典重力場の理論の限界と課題についても触れる。 【キーワード】 ニュートン近似、重力波、シュワルツシルト時空、近日点移動、重力レンズ効果、赤方偏移、ブラックホール、宇宙定数	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562754	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 量子と統計の物理 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Quantum and Statistical Physics (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：米谷　民明　（東京大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：岸根　順一郎　（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

量子力学の基礎と応用、統計物理の基礎と応用を扱う。量子論による原子、分子、凝縮系、原子核、素粒子の取り扱いへの入門として位置づけられる。

授業の目標

放送大学導入科目「物理の世界」で物理学全般についての基礎知識を概論的に学んだ上で、さらに物理学専門科目「力と運動の物理」および「場と時間空間の物理」を履修した学生が、量子力学と統計力学について学部レベルでの専門的な知識と運用力を身につけることができるように構成する。

履修上の留意点

物理学の専門科目としては、「力と運動の物理」（2013年度開設、おもに古典力学を扱う）、「場と時間空間の物理」（2014年度開設、主に古典電磁気学、相対性理論を扱う）の2科目と併せて、量子物理学および熱統計力学を扱う本科目が3本柱の役割を果たす。本科目は古典物理学の専門的知識を十分に持つ者を対象とするので、履修者はこれらの専門科目をすでに履修しているのと同等以上の知識が必要。数学に関しては、放送大学導入科目以上のレベルの知識と運用力が必須である。特に線型代数、微分方程式に関して数学専門科目（「非ユークリッド幾何と時空」「微分方程式」）のいくつかをすでに履修しているか、同時に履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	量子と統計の世界	「量子と統計」の物理学における位置づけ、熱統計の基礎的な考え方を整理した後、熱放射の問題に応用し、量子論への手掛かりへ進む。 【キーワード】 熱力学、エントロピー、ボルツマンの原理、黒体放射、プランク定数	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
2	シュレーディンガー方程式	量子の意味をさらに追求し、古典力学を乗り越えて量子力学の考え方に飛躍する。量子論の状態を支配する法則としてのシュレーディンガー方程式の考え方の基礎に進む。 【キーワード】 光量子仮説、物質波仮説、位相波、シュレーディンガー方程式	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
3	状態関数と確率	状態関数の意味についてさらに追求し、波束、不確定性を議論し量子力学から導かれる特徴的な現象の具体例を主に1次元で調べる。 【キーワード】 波束、確率保存、2重スリット実験、ハイゼンベルク方程式、調和振動子、生成消滅演算子	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	量子力学の枠組みと展開Ⅰ	量子力学の一般的枠組みを整理し、不確定性関係を導く。さらなる展開としてディラックのブラ・ケット記号により状態空間の扱いを整理し、時間発展を古典的経路の重ね合わせとして表す経路積分の初歩へ進む。 【キーワード】 不確定性関係、パウリ行列、ディラックのブラ・ケット、経路積分	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
5	量子力学の枠組みと展開Ⅱ	角運動量の量子力学を学んだ後、電磁場中の荷電粒子を取り扱う例として、水素原子の量子力学、ゼーマン効果、アハロノフ・ボーム効果について述べる。続いてスピンと磁気能率に進む。 【キーワード】 軌道角運動量、球面調和関数、水素原子、ゼーマン効果、スピン	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
6	量子力学の枠組みと展開Ⅲ	対称性の現れ方とその取り扱いを具体例で調べた後、さらなる発展として、光子の量子力学、量子統計とボース粒子、フェルミ粒子、およびその定式化としての粒子の生成消滅演算子による表示の初歩に進む。 【キーワード】 対称性、保存則、縮退、光子、ボース粒子、フェルミ粒子	米谷　民明（東京大学名誉教授）	米谷　民明（東京大学名誉教授）
7	量子状態の遷移とダイナミクス	2状態系を題材として「状態の混じり合い」、「状態間の遷移ダイナミクス」といった量子力学特有の効果を味わって見る。「散乱問題」にも触れる。 【キーワード】 2状態系の量子論、遷移とダイナミクス、散乱問題	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
8	多粒子系の状態	この宇宙に存在するすべての電子は互いに区別できない。これは量子力学特有の「粒子の置換対称性」の帰結である。ここでは、置換対称性を考慮した量子状態の記述法を学ぶ。 【キーワード】 置換対称性、自由電子ガス、原子の構造、同種粒子の散乱	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
9	熱力学から統計力学へ	膨大な数の粒子からなるマクロな体系の状態を記述する論理として、熱力学と統計力学がある。ここでは、熱力学のエッセンスを復習したのち、エントロピーの概念を介して微視的な自由度の情報がマクロな状態の自由度にどうつながるかを学ぶ。 【キーワード】 ミクロとマクロ、熱力学的エントロピー、ミクロカノニカルアンサンブル、ゴム弾性、アインシュタイン模型	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）
10	カノニカル分布とその応用	ギブスによって導入されたカノニカル分布の方法では、系の温度を一定に保つよう束縛を課し、エネルギーに幅を持たせたサンプリングを行うことで最も確からしいエネルギーの値を抽出する統計分布を探る。この結果、系の熱力学量は分配関数から直接導き出すことができる。 【キーワード】 カノニカル分布、グランドカノニカル分布	岸根　順一郎（放送大学教授）	岸根　順一郎（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	量子統計の初歩	マクロ系の量子状態の意味を明らかにし、エントロピーの量子力学的意味を探る。ついで量子統計を記述する分布関数を導く。 【キーワード】 マクロ系の量子状態、量子統計と分配関数	岸根　順一郎(放送大学教授)	岸根　順一郎(放送大学教授)
12	量子統計の応用	ボーズ粒子とフェルミ粒子は、それぞれの量子統計性を反映したマクロ挙動を示す。個別粒子の単純な集積としては捉えきれない多様な量子統計挙動は、物質の多様性の起源を理解する重要な手がかりである。ここでは、分布関数の性質を詳しく検討することでこの問題を探る。 【キーワード】 古典統計と量子統計、熱的ド．ブロイ波長、ボーズ・アインシュタイン凝縮、フェルミ気体と金属電子	岸根　順一郎(放送大学教授)	岸根　順一郎(放送大学教授)
13	量子力学と特殊相対性理論	相対論的量子力学の考え方の初歩を説明する。スピン0粒子を量子場として扱う方法から始めて、スピン1/2粒子の場の方程式であるディラック方程式に進む。 【キーワード】 クライン・ゴルドン方程式、粒子と反粒子、ディラック方程式、スピン軌道相互作用	米谷　民明(東京大学名誉教授)	米谷　民明(東京大学名誉教授)
14	ディラック場の量子論	ディラック方程式の応用として、クーロン場中の電子の相対論的取り扱いを述べる。続いて量子場としてのディラック場の性質、最後に光子との相互作用(量子電気力学)の初歩へと進む。 【キーワード】 微細構造、量子電気力学、自発遷移、誘導遷移、ラムシフト	米谷　民明(東京大学名誉教授)	米谷　民明(東京大学名誉教授)
15	量子力学の意味	量子力学の発展の到達点をまとめ、量子力学の意味を考える。そして、時間反転対称性、状態の重ね合わせ、確率解釈等を中心に再考し、隠れた変数の可能性に関するベルの定理へと進む。 【キーワード】 時間反転、CPT定理、隠れた変数、EPRパラドックス、ベルの定理	米谷　民明(東京大学名誉教授)	米谷　民明(東京大学名誉教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562746	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 分子分光学 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Molecular Spectroscopy (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：濱田　嘉昭　（放送大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：安池　智一　（放送大学准教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

分光学は「見るという行為」を突き詰める学問である。目的に応じてエネルギー・時間・空間の観点で高度化した光を用いることにより、肉眼の限界を超えて自然の本性に迫ることが可能となる。本講義では、適宜必要となる光学・電磁気学・量子力学・量子化学の知識を整理しながら、特に分子を観測する分光法について学ぶ。分子を見るために高度な発展を遂げた分光手法の適用領域は、生命機能を含む物質科学全般に拡がっている。それらの応用事例についても学び、最先端の物質科学研究を概観する。

授業の目標

量子力学に基づいた分子の構造と性質、光と分子の相互作用を理解する。分子の量子的な性質を利用した各種の測定法の原理とその適用例を学ぶことによって分子に対する理解を深める。これらを通じて、分子に基づいて様々な現象を理解するものの見方を習得する。

履修上の留意点

「初歩からの物理」「初歩からの化学」を予め履修していることが望ましい。また、「物理の世界」も参考になろう。量子力学についてより詳しく学びたければ、併せて「量子と統計の物理」を履修するとよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	序論 ー光と物質	光は電磁波であると同時に光子と呼ばれる粒子の集まりである。光の色は、波動描像では電磁波の振動数、粒子描像では光子のエネルギーと関係する。分子の観測手段には、顕微鏡や回折法に加えて、光を当てて減少した特定の色成分から分子の情報を得る分光法がある。電子のような物質粒子にも波と粒子の二重性があり、光と相補的な測定手段として利用される。 【キーワード】 光の波動性と粒子性、物質波、ミクロの世界の観測法	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）
2	ミクロの世界の力学	ミクロの世界を支配する量子力学の要点を学ぶ。ド・ブロイの物質波のアイディアを元に、シュレーディンガー方程式を導く。箱の中の粒子の問題を例にとって、エネルギー準位が離散化されることを学ぶ。ベクトル空間でシュレーディンガー方程式を書き下し、量子力学の体系を概観する。 【キーワード】 シュレーディンガー方程式、箱の中の粒子、重ね合わせの原理とベクトル空間、固有値問題、交換関係と不確定性原理	安池　智一（放送大学准教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）
3	光と分子の相互作用	分子は多数の荷電粒子で構成されているため、電磁波である光と相互作用する。このことを利用して、光を用いた分子のエネルギー準位の構造の観測が可能となる。光と分子の相互作用の基礎を学び、スペクトル強度の理解に必要な遷移双極子モーメントの概念を理解する。 【キーワード】 電磁ポテンシャル、ゲージ変換、相互作用表示、時間依存摂動論、誘導吸収と誘導放出、自然放出、遷移双極子モーメント	安池　智一（放送大学准教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	原子の量子力学と周期表	量子力学を水素原子に適用し、典型的な原子軌道の形の特徴をつかむ。軌道近似とパウリの排他原理から一般の原子の基底電子配置が予言できること、すなわち化学の根幹をなす周期表が多体系の量子力学によって理解できることを学ぶ。 【キーワード】 原子軌道、スピン、波動関数の対称性、軌道近似、パウリの排他原理、Aufbau原理	安池　智一（放送大学准教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）
5	分子の対称性	比較的小さな分子は、ある種の変換に対して不変、すなわち対称性を持つ。分子を不変に保つ変換は点群と呼ばれる群をなすことが知られている。この点群の知識を用いると、分子の様々な性質を対称性によって分離して扱い、統一的に理解できることを学ぶ。 【キーワード】 対称操作、群、表現、指標	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）
6	分光測定法	第7章以降で述べる様々な分光法における実際の測定に必要な光源や検出器について概説する。とくに、近年の分光学において欠かすことのできない重要な光源であるレーザーについて、その発振原理や短パルス化について基本的な概念を理解する。 【キーワード】 電磁波の波長と分子運動、計測、光源、検出器、レーザー	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）
7	電子分光1 ー光電子分光	光電子分光法とは、光電効果を利用して分子の電子構造を直接観測することが可能な分光法である。分子の電子構造を特徴づける分子軌道について学び、その結合性・反結合性について理解する。実測の光電子スペクトルに基づいて、分子内の化学結合についての議論が可能であることを学ぶ。 【キーワード】 光電効果、二原子分子のハミルトニアン、ボルン・オッペンハイマー近似、分子軌道、二原子分子のAufbau原理と化学結合	安池　智一（放送大学准教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）
8	電子分光2 ー紫外・可視分光	紫外可視領域の電磁波の光子エネルギーは数eVに相当し、電子がその運動形態を変化させるのに必要なエネルギーに対応する。電子遷移の選択則について学び、光によって誘起される電子励起の特徴をつかむ。また、π共役系の電子励起を簡便に扱うことのできるヒュッケル法について学ぶ。 【キーワード】 電子励起状態、遷移モーメント、電子励起の選択則、フランク・コンドン因子、ヒュッケル法	安池　智一（放送大学准教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）
9	振動分光1 ー分子振動の理論	赤外領域の電磁波の光子エネルギーは分子振動のエネルギーに対応する。微小振動近似の下で、二原子分子の分子振動は調和振動子に帰着し、正確に解くことができる。多原子分子の場合には、微小振動を仮定しても個々の原子の変位が結合し複雑な振動を示すが、基準座標の導入によって独立な調和振動子の重ね合わせと見なせることを理解する。 【キーワード】 調和振動子の量子論と古典論、基準座標	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	振動分光2 ―赤外・ラマン分光法	分子振動の観測手段として、赤外吸収法とラマン散乱法について学ぶ。光の吸収過程と散乱過程の違いを理解し、両手法における選択則の違いを、分子の対称性による基準振動の分類に基づいて議論する。 【キーワード】 赤外吸収、ラマン散乱、振動遷移の選択則、グループ振動	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）
11	回転分光	吸収スペクトルのマイクロ波・遠赤外線領域には、分子の純回転運動が反映される。回転運動によるエネルギー準位について学び、分子の構造とスペクトルの関係を理解する。 【キーワード】 角運動量、慣性モーメント、回転定数、振動回転スペクトル	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）
12	電子スピンと核スピン	量子力学的な粒子は、内部自由度としてスピンを持つ。スピン間の相互作用を利用することで、電子や原子核が存在する局所的な環境に関する情報を得ることができることを理解する。複雑な生体関連物質の立体構造解析への応用事例についても学ぶ。 【キーワード】 スピン角運動量、磁気モーメント、Zeeman効果、ESR、NMR	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）
13	電子線回折とX線回折	物質内の原子間隔と同程度の空間スケールの波長を持つ波を照射すると、原子による回折が顕著となり原子配置の情報を得ることができる。Braggの回折条件について学び、X線や中性子線を用いた結晶構造解析の基礎原理を理解する。 【キーワード】 回折、Bragg反射、動径分布関数、Laueの条件、単位格子、Miller指数	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）
14	時間分解分光	短パルスレーザーによって、フェムト秒の時間スケールで起こる分子の運動や化学反応を時々刻々追跡することが可能である。短パルスレーザーによる量子波束の生成および観測手法を理解し、超高速分光の応用例を学ぶ。 【キーワード】 短パルスレーザー、ポンプ・プローブ法、波束の生成と観測、コヒーレント状態	安池　智一（放送大学准教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）
15	空間分解分光	エネルギー領域の拡大、時間分解能の向上に加えて、近年とくに意識されるようになった空間分解能を持つ分光法について学ぶ。顕微鏡の原理を学ぶことによって光学顕微鏡の空間分解能の限界を理解し、光学顕微鏡の制限を超えた高い空間分解能を実現するいくつかの手法について学び、各々の特徴を理解する。 【キーワード】 回折限界、顕微分光法、近接場	安池　智一（放送大学准教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 安池　智一（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562690	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 生活と化学 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Chemistry in Daily Life (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：濱田　嘉昭　（放送大学名誉教授）　〕

〔主任講師（現職名）：花岡　文雄（筑波大学生命領域学際研究センター長）〕

【本学担当専任教員：安池　智一　（放送大学准教授）　】

講義概要

私たちは、衣食住のあらゆる段階で、様々な物質に囲まれあるいは利用して生活をしている。それらの物質は使用法によっては益にもなるし、害にもなる。それは物質と私たちの体の間で何らかの相互作用があるからである。別の言い方をすれば、物資にはそれぞれに異なる性質があるからである。この物質の性質を理解するには、物質を構成する原子や分子のミクロの観点から考察するのが、最も近道になろう。この講義では、化学の立場から、日常生活にある物質の性質を理解し、正しい扱い方を知る手がかりを伝えたい。そして、化学研究の未来についても考えを膨らませたいと考える。

授業の目標

化学物質、すなわち分子の成り立ちとその性質を学ぶと同時に、生活の様々な場面で現れる化学物質についての正しい理解を得ることを目標とする。

履修上の留意点

「初歩からの化学」および「化学結合論－分子の構造と機能」など、放送大学が提供する導入科目を学んでおくことが望まれるが、この教材を学習してから、その内容のさらなる基本的な学習に、前記の科目を履修する方法も考えられる。本教材の化学的な理解が完璧でなくとも、化学物質の生活上の意義を深く理解した上で、化学の基礎の学習を始めるのも重要であると考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	化学が関わる世界	日常生活において、どのようにたくさんの”化学物質”に囲まれあるいはそれらを利用しているかを、改めて見直してみよう。それらは化学物質のさまざまな機能を利用したものである。機能があるとは、他の物質あるいは生物に化学的な性質を通じて働きかけていることでもある。生物、特に人にとっての有益性は、使用法によっては害毒にもなる。これらのことを理解するための化学の基本について学ぶことにする。 【キーワード】 分子、構造式、分子式、分子の性質	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 花岡　文雄（筑波大学生命領域学際研究センター長）
2	分子の構造と性質	マクロの物質の性質を発現する基本の物質が分子である。分子の大きさや形、性質を理解するためには、それらが形成された仕組みを知っておくことが重要である。生体分子を理解するための基礎を確認しておく。 【キーワード】 原子の構造、電子雲、化学結合、立体構造、光学異性体	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）
3	溶液の性質と化学反応	生体内の分子の反応は、主に水溶液中で起こっている。溶媒としての液体の性質を理解しておくことは、その中の分子の性質と反応挙動を理解する上で重要である。特に酸性・アルカリ性、酸化・還元について、基礎的なことを学習する。 【キーワード】 溶液構造、水素イオン濃度、酸と塩基、酸化・還元	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	大気環境と化学物質	地球温暖化に関係すると言われる二酸化炭素、オゾン層破壊の元凶と考えられているクロロフルオロカーボン、その他、環境問題に関連する化学物質について、自然環境とどのようなメカニズムで関係するのかを説明する。 【キーワード】 温室効果、オゾン層、二酸化炭素、クロロフルオロカーボン	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）
5	水環境と化学物質	地球上の自然現象に水がどのように関わっているかを、水の物理的、化学的な機構をもとに理解する。また水を汚染する化学物質と規制に関して学ぶ。 【キーワード】 水の分布、淡水、水の性質とミクロの機構、水環境と化学物質	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）
6	土環境と化学物質	ヒトを含め、地球の陸上生物がよって立つ基盤である、地殻と土壌について学ぶ。地下資源に関して学ぶ。また、土壌に生きる微生物の織り成す生態系について理解する。 【キーワード】 地殻構造、地下資源、土壌生態系	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）
7	食品添加物の化学	私たちが毎日口にする食品や飲料の多くは、品質の劣化を防ぐため、味を良くするため、見た目を良くするためなどの目的で様々な添加物が加えられている。このような食品添加物にはどのようなものがあり、それらはどのような分子構造をしているのか、またどのようなメカニズムで作用を発揮するのかなどについて学ぶ。 【キーワード】 食品添加物、甘味料、酸化防止剤、着色料、香料、食品衛生法	中村　洋（東京理科大学薬学部嘱託教授）	中村　洋（東京理科大学薬学部嘱託教授）
8	香粧品の化学	化粧品や香水は身の回りを清潔にしたり、見た目を美しくしたりすることなどに使用され、特に女性においてはクオリティーオブライフを向上させるのに有用である。ここでは、香粧品の種類、化学構造、作用機構などについて学習する。 【キーワード】 化粧品、香水、オーデコロン、クリーム、シャンプー、口紅	中村　洋（東京理科大学薬学部嘱託教授）	中村　洋（東京理科大学薬学部嘱託教授）
9	洗剤の化学	私たちの毎日の暮らしの中で、洗剤は入浴、洗濯、食器洗いなどに欠かせないばかりか、工業製品の洗浄にも大変重要である。ここでは、洗剤の種類と分子構造の特徴、汚れが落ちるメカニズム、人体への影響、排水による環境汚染などについて学ぶ。 【キーワード】 石鹸、界面活性剤、表面張力、合成洗剤、排水問題	中村　洋（東京理科大学薬学部嘱託教授）	中村　洋（東京理科大学薬学部嘱託教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	放射線と化学	放射線とは何か、どのような性質をもち、どの程度、どこにあるのかの基本を確認しておく。さらに、放射線の生体への影響のメカニズム、生体の防御機構について学ぶ。放射線についての正しい知識と、間違った情報に惑わされないことは、現在の日本の私たちにとって特別に重要なことと考える。これらについて学び、考える基本的な情報を提供したい。 【キーワード】 放射線の種類と性質、放射線の起源、放射能汚染、生物濃縮、内部被ばく、外部被ばく	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 花岡　文雄（筑波大学生命領域学際研究センター長）	花岡　文雄（筑波大学生命領域学際研究センター長）
11	微生物と化学	微生物と人類の付き合いは長い。納豆や味噌などの発酵食品は消化を助け、酒は生活の楽しみをもたらしている。一方で、病原体は人類に大きな恐怖を与え続けている。抗生物質などの医薬品は人類と微生物の戦いの歴史を反映している。生態系での微生物の役割も忘れるわけにはいかない。ここでは微生物の働きを化学の立場から考えてみる。 【キーワード】 抗生物質、微生物、発酵、腐敗	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	花岡　文雄（筑波大学生命領域学際研究センター長） ゲスト：川松　正孝（発酵学研究者）
12	光学活性分子と生命	地球上の生命体を形づくる基本分子のうち、アミノ酸や糖では、鏡像関係にある立体配座のうち、ほぼ1つのみが用いられている。これらの分子の違いは光の偏光面を傾けることのみが異なっており、化学的な性質は同じである。一方で、生体における働きはまったく異なる場合が多い。場合によると、薬と毒の関係にもなる。この光学活性分子に関して、基礎的な事柄、生命との関係を学ぶ。 【キーワード】 対掌体、光学活性、毒と薬	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）
13	タンパク質の働き	タンパク質の構造はどのようにして決められるのか。その実験的方法とタンパク質の動的な姿を紹介する。アミノ酸の配列がどのように自然淘汰されてきたのかについて、進化との関係で考察する。自己防衛、免疫を司るタンパク質についても考えたい。 【キーワード】 ペプチド結合、1，2，3，4次構造、自己と非自己	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	花岡　文雄（筑波大学生命領域学際研究センター長）
14	高分子が開く世界	天然の繊維は通常の化学結合で結ばれた高分子である。このことがどのような経緯でわかったのか、それを人工的に作るためにどのような努力がなされてきたのかを歴史的に振り返りながら、新たな機能をもった高分子、プラスチックスの生活上の意義を考える。 【キーワード】 ゴム、人造繊維、合成繊維、構造材料、機能性材料	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）
15	知的冒険としての化学	化学は物質を原子・分子のミクロの観点から捉えると同時に、目で見て、手で触ることのできるマクロの物質に関する理解と技術であり、人間の想像力と実践力を確かめる知的冒険の行いであることを紹介する。 【キーワード】 物質観、自然科学のなかの化学、知的探究としての化学、グリーンケミストリー	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授）	濱田　嘉昭（放送大学名誉教授） 花岡　文雄（筑波大学生命領域学際研究センター長）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562800	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 化学反応論－分子の変化と機能 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Chemical Reaction Theory (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：安池 智一 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

現在膨大な種類の分子が知られているが、それらの分子に含まれる元素の種類は意外にも少ない。このことはつまり、物質の多様性の起源が化学結合の組み替えにあることを意味する。この結合の組み替えが化学反応である。化学反応の理解を通じて我々は様々な物質を合成して生活を豊かにしてきたし、我々の生命活動自体が複雑な化学反応のネットワークに支えられている。本科目では、化学平衡、反応速度、触媒作用などの化学反応論の一般的な側面を熱・統計力学に基づいて演繹的に導くとともに、化学者が経験的に明らかにしてきた典型的な反応のパターンについて整理し、基礎理論に基づいた体系的な理解を目指す。

授業の目標

1. 化学反応の駆動力としての自由エネルギーについて理解する
2. 化学反応速度に対する遷移状態理論の概要を理解する
3. 典型的な化学反応のパターンに基づいて反応の分類ができるようになる
4. 典型的な化学反応についてその反応の原理を理解する

履修上の留意点

「エントロピーからはじめる熱力学(’16)」「化学結合論－分子の構造と機能(’17)」を履修済であるか、併せて受講することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	序論：Alchemy to chemistry	人類がいかにして物質変化についての認識を深め、化学という学問を成立させたかを概観し、化学反応論で議論すべきことの全体像をつかむ。 【キーワード】 火の利用、金属の精錬、錬金術、機械論的自然観、親和力	安池 智一（放送大学准教授）	安池 智一（放送大学准教授）
2	化学平衡と反応の駆動力	化学反応の駆動力の本質が、ギブズ自由エネルギー変化にあることを理解し、反応ギブズエネルギーと平衡定数の関係を導く。また、平衡近傍での系の自発的変化についてのルシャトリエの原理を理解する。 【キーワード】 反応熱、ヘスの法則、自発的変化、平衡条件、ギブズエネルギー、化学ポテンシャル、反応進行度、ルシャトリエの原理	安池 智一（放送大学准教授）	安池 智一（放送大学准教授）
3	化学反応の速度	速度定数に対するアレニウスの式について学ぶ。ファントホッフの式と組み合わせることで反応の途中に現れる遷移状態の存在を導く。化学反応の理解には、熱力学的側面と速度論的側面の両者が重要であることを理解する。 【キーワード】 アレニウスの式、遷移状態、反応における熱力学支配と速度論的支配	安池 智一（放送大学准教授）	安池 智一（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	酸塩基反応	酸塩基に対するブレンステッド・ローリーの定義、ルイスの定義を導入する。これらの酸塩基概念によって、従来の中和反応よりもより一般的な反応を酸塩基反応と捉え統一的な議論が可能となることを学ぶ。酸解離定数 pKa の表や HSAB 則の分類表を用いて、ある反応が進行するかどうかを判定できるようにする。 【キーワード】 アレニウスの電離説、ブレンステッド・ローリーの定義、共役酸、共役塩基、酸解離定数、ルイスの定義、HSAB 則	安池　智一（放送大学准教授）	安池　智一（放送大学准教授）
5	酸化還元反応	電子の授受過程として酸化還元反応を捉える。標準電極電位が物質の酸化力および還元力の指標であること、酸化還元反応がどちらに進むかは、半反応の標準電極電位の値から定量的に議論できることを学ぶ。また、酸化数の概念の導入によって、より広範な反応が酸化還元反応として理解できることを理解する。 【キーワード】 電子の授受としての酸化還元、酸化還元平衡、半反応、標準電極電位、起電力、酸化数	安池　智一（放送大学准教授）	安池　智一（放送大学准教授）
6	分子軌道からみた化学反応	分子の電子状態が分子軌道でどのように表現されるかを復習し、分子間の相互作用において HOMO-LUMO 相互作用が重要となることを導く。HOMO, LUMO の形状や軌道エネルギーがどのように化学反応を支配するかを理解する。 【キーワード】 分子の電子状態、分子軌道、軌道相互作用、フロンティア軌道、絶対硬度、軌道の重なりとペリ環状反応	安池　智一（放送大学准教授）	安池　智一（放送大学准教授）
7	有機化学1：炭素骨格の構築法	有機化合物の合成に重要なのは炭素骨格の構築である。本章では、イオン的な反応に基づく C-C 結合生成反応を学ぶ。 【キーワード】 合成計画、逆合成解析、合成等価体、C-C結合生成反応、カルボカチオン、カルボニル化合物	鈴木　啓介（東京工業大学教授）	鈴木　啓介（東京工業大学教授）
8	有機化学2：官能基変換	官能基は有機化合物の性質や反応性を特徴づけ、また、化合物の合成を行う上でも鍵となる。本章では、酸化度の観点から官能基を整理し、相互変換について学ぶ。 【キーワード】 官能基、酸化度、酸化還元、カルボアニオン、グリニャール反応、合成等価体、遷移金属触媒	鈴木　啓介（東京工業大学教授）	鈴木　啓介（東京工業大学教授）
9	有機化学3：光学異性体を作り分ける	本章では、生体物質の関連で重要な分子不斉について学び、光学分割や不斉合成の基礎を解説する。 【キーワード】 不斉炭素原子、光学活性、キラル、エナンチオマー、ジアステレオマー、メソ体、ラセミ体、光学分割、不斉合成	鈴木　啓介（東京工業大学教授）	鈴木　啓介（東京工業大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	無機化学：金属錯体の反応	金属錯体と呼ばれる一群の化合物を HSAB 則に基づいて整理する。ルイス塩基である配位子の硬さによる中心金属の酸化数制御の原理を学び、それが生体内での電子伝達にも利用されていることを学ぶ。 【キーワード】 フロスト図、ウェルナー錯体、非ウェルナー錯体、有機金属化合物、シトクロム、電子伝達系、多核錯体、酸素発生	安池　智一（放送大学准教授）	安池　智一（放送大学准教授）
11	電気化学：電池と酸化還元反応	化学反応は突き詰めると物質間の電子移動に帰着する。電極を通じた電子移動の制御によって化学反応が誘起できること、また逆に物質から電流が取り出せることを学ぶ。 【キーワード】 起電力、電極電位、液絡、電池図式、電気分解、理論分解電圧、過電圧、エリンガム図、ネルンストの式	安池　智一（放送大学准教授）	安池　智一（放送大学准教授）
12	エネルギー変換の化学	化学反応を通じて様々な形態のエネルギーを相互に変換可能であることを学ぶ。とくに、人工光合成を中心としたエネルギー変換過程における化学反応について現状を整理する。 【キーワード】 励起分子の酸化および還元力、光電池、本多・藤嶋効果、色素増感型太陽電池、Z スキーム、ATP 合成酵素	安池　智一（放送大学准教授）	安池　智一（放送大学准教授）
13	触媒化学：人類を救った化学反応	窒素固定反応を題材として、速度式の取扱いと触媒反応の基礎を学ぶ。多段階反応における定常状態近似の有用性、逐次反応においては最も平衡から離れた素反応が律速段階となって全体の反応速度が決まることを学ぶ。 【キーワード】 窒素固定反応、触媒、逐次反応、定常状態近似、律速段階	安池　智一（放送大学准教授）	安池　智一（放送大学准教授）
14	化学反応が支える生命：酵素の生化学	生体内においては、穏やかな条件下にありながら様々なタイプの化学反応が実現するのは酵素と呼ばれる生体触媒の存在による。酵素による反応制御について学び、生体内反応の特徴を理解する。 【キーワード】 代謝、酵素、ミカエリス・メンテン機構、基質特異性、阻害剤、鍵と鍵穴	安池　智一（放送大学准教授）	安池　智一（放送大学准教授）
15	複雑な化学反応ネットワークの理解に向けて	開放系では非平衡定常状態として振動現象が現れる可能性があり、そのような律動の存在は生体リズムと関連して興味深い。化学反応ネットワークが示す典型的な振動系の性質について学び、振動を生み出すメカニズムの基礎を学ぶ。 【キーワード】 閉鎖系、開放系、定常状態の安定性、BZ 反応、ブリュッセル振動子、リミットサイクル、アトラクタ、生体リズム	安池　智一（放送大学准教授）	安池　智一（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562789	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ エントロピーからはじめる熱力学 （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Start from Entropy: Thermodynamics and Molecular Picture for Beginners (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：安池 智一 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：秋山 良 （九州大学准教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

私たちは日々の暮らしで、エンジンやエアコン、冷蔵庫など、多くの熱と仕事を相互に変換する装置（熱機関）を利用している。熱と仕事の変換が可能であるのは、両者が同じエネルギーの一形態であるためである。一方で同じエネルギーでありながら熱と仕事には等価でない側面がある。巨視的な量の間に成り立つそうした関係は、膨大な実験を通じて確かめられてきた。そうして蓄積された知識を極めてシンプルな数学的体系にまとめあげることに成功したのが熱力学である。その点で、熱力学はサイエンスのお手本であるとも言える。この講義では、初学者にとって体系の全貌が比較的つかみやすいスタイルを選んだ。すなわち、エントロピーを出発点として熱力学を演繹的に導いていくスタイルを採用する。ただし、熱力学の生物、物理、化学に関わる現象への応用を考え、分子論との繋がりについても配慮した。

授業の目標

1.熱力学をその数学的な面に注目して学び、使えるようにする。特にエントロピーを出発点に置くことで学習上の困難を避けつつ、熱・温度・仕事・エネルギーなどの熱力学的な概念の定義とその物理的な意味を理解する。
2.巨視的な熱力学を分子論的な見方と関係付けるために、統計力学への導入も行う。
3.相平衡や化学平衡、生物物理化学現象などの具体的な問題に幅広く熱力学の考え方が適用できることを理解する。

履修上の留意点

「初歩からの物理」を予め履修していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	理想気体分子運動論ではPV=NRTに行き着けない？	分子運動論から理想気体の状態方程式PV=NRTには到達し得ないことを出発点に、温度について考える。ボルツマンの原理とエントロピーを熱力学関数にとった熱力学を格子気体に適用して、数え上げの数学でPV=NRTを導出する。この議論を元に、熱力学に必要な枠組みと数学の有効性を示す。統計力学へのイントロダクションも行う。 【キーワード】 状態方程式、気体分子運動論、ボルツマンの原理	秋山 良（九州大学准教授） 安池 智一（放送大学准教授）	秋山 良（九州大学准教授） 安池 智一（放送大学准教授）
2	まずエントロピーより始めよ	熱力学が対象とする系および平衡状態について学ぶ。系を指定する熱力学変数には示量変数と示強変数があることを理解する。エントロピーと呼ばれる熱力学変数に対する要請について学び、エントロピー最大の原理から平衡状態が導かれることを理解する。 【キーワード】 エントロピー、平衡状態、エントロピー最大の原理、示量変数	秋山 良（九州大学准教授） 安池 智一（放送大学准教授）	秋山 良（九州大学准教授） 安池 智一（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	思索の飛び道具：数学	数学を用いることで、日常言語では到達できない論理のつながりを辿ることが可能となる。偏微分と全微分、指数、対数、三角関数、積分などをユーザーの観点から整理し、そのような思索の飛び道具としてこれらが使えるようになることを目指す。 【キーワード】 偏微分と全微分、指数、対数、三角関数、積分	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）
4	示強変数の定義と平衡状態の予測	示量変数に共役な変数として、示強変数を定義する。熱力学において温度は、エントロピーの内部エネルギーに共役な変数として、逆温度の形で定義されることを学ぶ。 【キーワード】 示強変数、温度の定義、ネルンストープランクの仮説、エントロピーの凸性	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）
5	熱＝仕事！？：エネルギーの移動	エネルギー移動の二つの様式である熱と仕事についてその等価性に注目して学ぶ。 【キーワード】 熱、仕事、熱力学第1法則、熱の仕事当量、準静的過程	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）
6	熱≠仕事！？：状態変化の方向性	エネルギー移動の二つの様式である熱と仕事についてその非等価性に注目して学ぶ。 【キーワード】 熱力学第2法則、エントロピー増大則、可逆過程と不可逆過程、熱力学サイクル、クラウジウスの不等式	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）
7	エントロピーに代わるより使いやすい熱力学関数を求めて	ルジャンドル変換を用いてエントロピー以外の熱力学関数を導出し、(U、V、N)以外の物理量で状態を設定できるようにする。熱力学関数の1階微分によって様々な熱力学量が得られることを学び、熱力学変数から状態方程式が導かれることを確認する。 【キーワード】 ルジャンドル変換、エンタルピー、ヘルムホルツの自由エネルギー、ギブズの自由エネルギー	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）
8	自由に使ってよいエネルギーは限られている：様々な熱力学関数と仕事再訪	様々な状況設定に応じた熱力学関数に対して、平衡を定める極値定理を導く。また、系の変化に応じたそれらの減少分が系から取り出せる最大仕事となることを学ぶ。仕事の一般化についても議論する。 【キーワード】 様々な熱力学関数と極値条件、熱力学関数と仕事、最大仕事の原理	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）
9	熱力学的な物質の特性：2階微分と安定性	熱力学系の応答は熱力学関数の2階偏導関数によって与えられる。熱力学関数が全微分可能であることから、2階偏導関数どうしの関係式（マクスウェルの関係式）を導く。また、安定性条件から応答関数に対する不等式を求め、これがルシャトリエの原理と関係していることを学ぶ。 【キーワード】 マクスウェルの関係式、基礎的な応答関数、熱力学系の安定性、ルシャトリエの原理	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	水と水蒸気とどちらが安定か：物質の三態と相平衡	示量的な熱力学関数の和を考えることで単相単成分系の議論が多相多成分系に適用されることを学び、相平衡や相図について議論する。 【キーワード】 2相の平衡、化学ポテンシャル、相平衡とギブズ自由エネルギー、相図、ギブズの相律	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）
11	液体と気体は区別できるのか？：相転移	ファンデルワールス気体を例に気相－液相転移について学ぶ。気体と液体の連続性について紹介する。水の相図について考えることで、常温常圧の水もまた超臨界水であることを示す。カノニカル分配関数の紹介を行う。 【キーワード】 ファンデルワールス気体、分子間力、平均場理論	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）
12	エントロピーが支配する希薄な系：束一的性質	沸点上昇や凝固点降下、浸透圧などの溶質の種類によらずその濃度だけで決まる溶液の性質を束一的性質と呼ぶ。束一的性質の本質が混合エントロピーの増大によって理解されることを学んだ上で、混合エントロピーについて統計力学の観点から議論する。 【キーワード】 束一的性質、沸点上昇と凝固点降下、浸透圧、混合エントロピー	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）
13	世界を救った熱力学：窒素固定の化学熱力学	化学平衡の平衡定数が反応に伴うギブズエネルギー変化によって決まること、平衡定数の温度変化から反応に伴うエンタルピー変化が求まることを学ぶ。また、化学平衡を正逆反応が釣り合った状態であると捉えることで、反応速度論への展開が可能であることを示す。 【キーワード】 化学平衡、化学ポテンシャル、ギブズ・ヘルムホルツの式、ファントホッフ・プロット、化学反応、活性化エネルギー	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）
14	自己組織化≠エントロピー減少：斥力支配の溶液内実効相互作用	朝倉大沢理論を軸にして、エントロピーにまつわる誤解を招きやすいイメージの払拭を試みる。その例として自己組織化がエントロピー減少に繋がるとは限らないことを示す。 【キーワード】 自己組織化、疎水性相互作用、溶媒分子の並進運動効果、ファンデルワールス描像、排除体積	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）
15	生物を熱力学で捉え、統計力学で考える	第14回で議論した排除体積のアイディアに基づいて分子認識や蛋白質の天然構造が安定である理由について議論する。また水和（自由）エネルギーが極めて大きいことを紹介する。生体のエネルギー通貨と言われるATPの加水分解に伴う自由エネルギー変化も水和エネルギーの変化を無視しては議論できないことについて述べる。 【キーワード】 分子認識、蛋白質の天然構造、水和エネルギー、ATPの加水分解	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）	秋山　良（九州大学准教授） 安池　智一（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	専門科目	科目コード	5560012	履修制限	無	単位数	1

科目名（メディア） ＝ 物理演習 （’１６）＝ （OL）

英文名 ＝ 〔 Problems and Exercises in Physics (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：岸根　順一郎　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：齋藤　雅子　（宇都宮大学非常勤講師）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

物理学の根幹をなす「力学」の問題演習を行う。物体の運動や力を数式で表現する方法から始めて、公式に頼らずに、力学の基本的な問題を解く方法を学ぶ。授業では、問題を解くための簡単な説明と例題の解説を行い、それをもとに受講生各自に演習問題を解いてもらう。自分で問題を解くことで、基本法則から数学を利用して現象を理解する物理学の考え方が体得できるだろう。また、物理学の専門科目へ進む人は、本演習で自分で問題を読み解く力を養ってほしい。

授業の到達目標

力学の基本的な問題を題材に、自分自身で状況を整理し物理学の法則に則って考える力をつける。問題に応じて自分で適切な数式を設定し問題解決に利用できること、運動方程式や保存則を正しく使えること、数学を利用して現象を定量的に理解する物理学の考え方を習得すること、を目標とする。

成績評価の方法

通信指導、単位認定試験および再試験は行わない。
各回の最後に課す「小テスト」(30%)、「中間レポート」(20%)、「期末レポート」(50%)で評価する。

履修上の留意点

高校卒業程度の数学の知識を有していることを前提とする。とくに、微分積分、ベクトル、三角関数は頻繁に使用するので、十分な基礎力が必要である。また、力学については、「初歩からの物理」「物理の世界」の力学の部分を理解していることが望ましい。これらを履修していない場合でも同時に履修するか、同程度以上の知識を持つことを前提に、諸概念、物理法則の詳しい説明は省略する。
※中間レポート、期末レポートは web で提出していただきます。本科目の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。詳細は本学ホームページをご参照ください。

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
1	位置・速度・加速度を数式で表す	1－4回では、運動方程式を使って物体の運動を解くことを学ぶ。1回目は準備として、運動を数式で記述する方法を身につける。適当な座標を設定して、物体の時刻tでの位置をベクトルで表し、そこから微分を用いて速度・加速度を求めよう。 【キーワード】 運動を解く、座標の設定、運動の記述、位置ベクトル、速度、速さ、加速度	岸根　順一郎（放送大学教授） 齋藤　雅子（宇都宮大学非常勤講師）
2	力を数式で表す	力は大きさと向きのあるベクトル量である。重力、ばねの弾性力、万有引力など基本的な力を理解し、問題の状況から物体に働く力を読み取って数式で表すことを学ぶ。また、合力、力のつり合いの考え方を確認しよう。 【キーワード】 力、いろいろな力、合力、力のつりあい	齋藤　雅子（宇都宮大学非常勤講師）

回	テーマ	内容	担当講師名（所属・職名）
3	運動方程式を立てて解く	運動方程式を使って物体の運動を解く。座標を設定して、物体の位置・速度・加速度と物体に働く力を数式で表し、運動方程式を立てる。運動方程式は微分方程式なので、微積分を用いて解き、物体の時刻tでの位置を求める。放物運動や斜面での落下などの基本的な問題を解く。 【キーワード】 運動方程式、微分方程式、放物運動、斜面での落下	齋藤　雅子（宇都宮大学非常勤講師）
4	振動現象	運動を解く応用問題として、振動現象の解析を行う。2階線形微分方程式の解き方を紹介し、これを用いて、ばね、振り子の振動を調べる。抵抗のあるばねの振動も取り上げ、振動が減衰する様子を導く。 【キーワード】 ばねの弾性力、2階線形微分方程式、単振動、減衰振動、振り子の振動	齋藤　雅子（宇都宮大学非常勤講師）
5	仕事と運動エネルギー	5－8回では、運動中に変化しない保存量を理解し、利用法を学ぶ。5回目は、エネルギーと関係の深い「仕事」という物理量を扱う。仕事は力の線積分で表されるので、線積分の方法を学び、仕事を計算する。また、仕事と運動エネルギーの関係を具体例で確認する。 【キーワード】 仕事、ベクトルの内積、線積分、運動エネルギー	齋藤　雅子（宇都宮大学非常勤講師）
6	位置エネルギーと力学的エネルギー保存則	仕事が経路によらない保存力に対しては、位置エネルギーが定義できることを学び、その計算を行う。保存力下では力学的エネルギーが保存することを導き、具体例で確認する。 【キーワード】 保存力、位置エネルギー、力学的エネルギー保存則	齋藤　雅子（宇都宮大学非常勤講師）
7	力学的エネルギー保存則の利用、運動量	力学的エネルギー保存則を利用して問題を解く練習をする。また、運動の勢いを表す運動量は、外力が働かない2体系では保存することを学び、運動量保存則を用いて問題を解く。 【キーワード】 力学的エネルギー保存則の利用、運動量、力積、2体系、内力・外力、作用・反作用の法則、重心、運動量保存則	齋藤　雅子（宇都宮大学非常勤講師）
8	角運動量	回転運動の勢いは角運動量で表される。また、回す力の効果は、トルク(力のモーメント)で表される。これらの物理量をベクトルの外積の式で定義し、その計算法を学ぶ。角運動量とトルクの関係と、中心力下での角運動量保存則を理解する。 【キーワード】 角運動量、トルク(力のモーメント)、ベクトルの外積、中心力、角運動量保存則	岸根　順一郎（放送大学教授） 齋藤　雅子（宇都宮大学非常勤講師）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562762	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 宇宙とその進化 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 The Universe and Its Evolution (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：吉岡　一男　（放送大学教授）〕

講義概要

宇宙は超高温・超高密度の状態からビッグバンで始まり、現在の状態に至ったと考えられている。この宇宙の進化に対する現代の宇宙科学の知見を講義する。最初に、宇宙の進化に対する古代ギリシャ時代から現代までの科学の考え方を辿る。また、現代の知見を得るもととなる情報を与える現代の宇宙の観測を概観する。その後、恒星の進化、銀河の進化、宇宙全体の進化の3つの側面から宇宙の進化をおもに理論的に辿る。結論のみではなく、そのような知見がどのような物理法則をもとにどのような根拠で得られてきたのかをできるだけ教養学部の枠内で分かりやすく解説する。

授業の目標

宇宙の進化について、教養学部としてのレベルで必要な知識を身に付ける。すなわち、恒星の進化と銀河の進化およびそれらを含む宇宙全体の進化の基本的な知見とそれらの知見に至った観測的および理論的根拠を学ぶ。さらに、宇宙の進化の本質とその原動力についても学ぶ。ただし、物理学や数学等の専門的な知識を必要とする定量的な詳しい内容までは踏み込まず、教養学部の物理学や数学等の知識で理解できる範囲の全体的な流れを把握することを目標とする。

履修上の留意点

導入科目の「初歩からの宇宙の科学」を履修して宇宙やその観測についての全体的な知識を得た後に、本科目を履修すると理解しやすいであろう。また、専門科目の「太陽系の科学」と並行して履修すると、さらに理解が深まるであろう。本講義の内容にかかわる参考書としては、『シリーズ現代の天文学』(評論社刊) 第1巻『人類の住む宇宙』や他の巻がよい参考になるだろう。さらに、大学院科目「宇宙・自然システムと人類」は、より高度な参考になるだろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	宇宙の進化説の発展	本講義の導入として、宇宙の進化について人類がどのように考えてきたかを概観する。また、本講義の全体的な流れとそれぞれ章での留意点についても述べる。 【キーワード】 宇宙観とその変遷、恒星の進化、銀河の進化、宇宙の進化	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
2	電磁波による宇宙の観測	可視光を始めとした電磁波による宇宙の観測の原理とその例について述べる。その中で、光学望遠鏡の性能や大気圏外での観測あるいは熱放射の性質についても説明する。 【キーワード】 可視光、光学望遠鏡、角分解能、大気の窓、電波、赤外線、紫外線、X線、ガンマ線	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
3	電磁波以外の手段による宇宙の観測	電磁波以外の手段である宇宙線やニュートリノや重力波による宇宙の観測の原理とその例について述べる。とくにこれらの手段は、宇宙の激しい現象や天体の内部の情報を得るのに適していることを説明する。 【キーワード】 宇宙線、空気シャワー、ニュートリノ、カミオカンデ、重力波、レーザー干渉計型重力波検出器	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	恒星の誕生と原始星の進化	ヘルツシュプルング・ラッセル図を導入し、分子雲から星が誕生する過程を学ぶ。原始星の進化、原始惑星系円盤、林の道筋について述べる。 【キーワード】 HR図、星の誕生、原始星の進化、原始惑星系円盤、林の道筋	有本　信雄（国立天文台教授）	有本　信雄（国立天文台教授）
5	主系列星から赤色巨星までの進化	恒星の内部構造を決定する基本法則を導入し、主系列星内部での核融合反応と等温コアの成長、赤色巨星進化、ヘリウムフラッシュについて述べる。連星系の進化を理解する。 【キーワード】 主系列星、陽子－陽子連鎖反応、CNOサイクル反応、赤色巨星、ヘリウムフラッシュ、連星系の進化	有本　信雄（国立天文台教授）	有本　信雄（国立天文台教授）
6	赤色巨星以降の進化	赤色巨星以降の複雑な進化について学ぶ。水平分枝星、漸近分枝進化、ダストの形成と放出、惑星状星雲の形成について述べる。軽い星の末路、重い星のたまねぎ構造について述べる。 【キーワード】 水平分枝星、漸近分枝星、惑星状星雲、白色矮星、たまねぎ構造	有本　信雄（国立天文台教授）	有本　信雄（国立天文台教授）
7	超新星爆発、中性子星、ブラックホール	重い星の末路は生まれたときの質量に応じて、白色矮星、中性子星、ブラックホールに分かれる。超新星爆発のメカニズム、元素合成、パルサー、ブラックホールについて述べる。 【キーワード】 Ⅰa型超新星、Ⅱ型超新星、元素合成と物質循環、中性子星、ブラックホール	有本　信雄（国立天文台教授）	有本　信雄（国立天文台教授）
8	銀河の世界	銀河がどのような姿をしているのか、またどのような基本的な性質が観測されているかを理解する。天の川銀河の構造を理解し、円盤渦巻銀河、楕円銀河の形態、光度分布の特徴について学ぶ。銀河の質量の大半を占める暗黒物質について考察する。 【キーワード】 銀河、光度関数、暗黒物質	山田　亨（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）	山田　亨（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）
9	宇宙の大規模構造	天の川銀河を含む局所銀河団の構成と、局所銀河団周辺の宇宙の銀河分布構造について理解する。銀河団について、質量、構造、高温ガスの存在、重力レンズ現象、暗黒物質の存在などについて学ぶ。宇宙の大規模構造とその成り立ちについても学習を進める。 【キーワード】 銀河、銀河団、暗黒物質、宇宙の大規模構造	山田　亨（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）	山田　亨（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）
10	銀河宇宙史	宇宙における銀河の形成・進化の歴史を理解する。現在～80億年前、80～100億年前、100～120億年前の時代に分けて、観測される銀河の進化の全体的な様子を学ぶ。楕円銀河、円盤銀河についてその形成と進化についての考察を行う。 【キーワード】 赤方偏移、星形成率、星質量、銀河進化、銀河形成	山田　亨（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）	山田　亨（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	銀河の形成と進化	銀河の形成過程について学ぶ。宇宙の平均的な星形成史、星質量進化史を理解し、銀河の形成が宇宙における構造形成全体と密接に関係していることを理解する。銀河中心の巨大ブラックホールの存在について学び、クェーサー現象と銀河との関係を考察する。宇宙最初期の銀河形成についての研究成果に触れる。 【キーワード】 銀河形成史、冷たい暗黒物質モデル、巨大ブラックホール、最遠方銀河、宇宙再電離	山田　亨（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）	山田　亨（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）
12	一般相対論的宇宙モデル	一般相対論とは何かをごく簡単に概観した後、一般相対論的宇宙モデルの帰結である宇宙膨張の概念を紹介する。広く用いられている「宇宙は点から始まった」という表現は、かなり誤解されていることを合わせて説明する。 【キーワード】 一般相対論、宇宙原理、アインシュタイン方程式、フリードマン方程式、膨張宇宙	須藤　靖（東京大学教授）	須藤　靖（東京大学教授）
13	膨張宇宙の発見とビッグバンモデル	一様等方宇宙モデルとその中の物質進化を結びつけたビッグバンモデルを紹介する。特にその観測的証拠であるハッブルの法則、ビッグバン元素合成、宇宙マイクロ波背景輻射を説明した後、それらから導かれる宇宙の性質を論ずる。 【キーワード】 ビッグバンモデル、$\alpha\ \beta\ \gamma$ 理論、ハッブルの法則、ビッグバン元素合成、宇宙マイクロ波背景輻射、宇宙の組成	須藤　靖（東京大学教授）	須藤　靖（東京大学教授）
14	宇宙史概観：始まりから現在まで	ミクロな世界を記述する物理法則とマクロな宇宙の進化の関わりに注目しながら、140億年におよぶ宇宙の歴史を概観する。 【キーワード】 インフレーション、4つの相互作用、ビッグバン元素合成、宇宙の晴れ上がり	須藤　靖（東京大学教授）	須藤　靖（東京大学教授）
15	新しい宇宙観	質量にして約5%の元素、25%の冷たいダークマター、70%の宇宙定数の3つが宇宙の主成分である。この標準宇宙モデルによって、宇宙の大局的な進化はほぼ矛盾無く説明される。しかし、宇宙の組成を知ることは、宇宙のさらなる理解に向けての第一歩に過ぎない。今後の宇宙論研究の方向性をかなり個人的な意見を交えながら展望する。 【キーワード】 人間原理、マルチバース、太陽系外惑星、トランジット惑星、ハビタブル惑星、ペールブルードット、レッドエッジ	須藤　靖（東京大学教授）	須藤　靖（東京大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562703	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 太陽系の科学 （’１４）＝（ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 Modern View of Our Solar System (’14) 〕

〔主任講師（現職名）： 吉岡 一男 （放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 海部 宣男 （国立天文台名誉教授、放送大学客員教授） 〕

※この科目は「太陽系の科学(’10)」の一部改訂科目です。
改訂回は5，6，7，8，9，13，15回です。

講義概要

太陽系と惑星の理解は、急速に進んでいる。数多くの無人探査機によって各惑星や衛星の詳しい様子が分かってきたことに加え、地上からの観測で冥王星の仲間である太陽系外縁天体が多数発見され、惑星軌道の外側に広大に拡がる太陽系の外縁部が見えてきた。そうした新しい知見をもとにいまや太陽系の形成と46億年にわたる歴史が具体的に理解されるようになった。その中で、地球を他の諸惑星との比較でとらえる比較惑星学が新たに確立してきた。さらに1990年代から夜空に輝く恒星を回る太陽系外の惑星が続々と発見されている。この発見によって、われわれの太陽系を無数の惑星系の中のひとつとして考え、その特徴や位置づけを研究する比較惑星系論も、生まれつつある。本講義はこれら科学の新しい発展を広く総合的に見わたし、太陽系と惑星について現代科学が獲得した斬新な見方と理解を提供するものである。学生諸子は本講義を履修しながら、われわれの太陽系と地球、そして人間存在そのものについても、科学的な視点で捉え、また考えていただきたい。

授業の目標

放送大学では太陽系についてのまとまった講義は一時途絶えていたが、その間、太陽系の理解は急速に進んだ。地球環境の変動や文明社会の未来が世界的に大きな関心を呼ぶようになったいま、太陽系の物理的・歴史的な理解は、地球市民が持つべき基本的教養としても、また人類社会の現在と未来を科学的に考える上でも、重要である。本講義は、一新された太陽系の構造や起源、歴史の理解に加え、新たに成立しつつある比較惑星学・比較惑星系学をも基礎に、宇宙の中の地球とその上の生物・人間を見直すことを目標としている。現代社会に生きる教養人・地球市民として、本講義により新しい太陽系像を身につけ、宇宙の大きな空間・時間のスケールで、地球とその上で進化してきた生物・私たち人間を考える視野を育てて欲しい。

履修上の留意点

本講義は、2010年度開講「太陽系の科学」の部分改訂版である。放送授業も含め比較的大きな改訂を行ったのは、5章、6章、7章、8章、9章、13章、15章である。以前開設されていた「太陽系の科学(’95)」(小尾・吉岡)は力学を中心とした内容だったが、本講義では、最近の太陽系探査や観測の前進によって獲得された太陽系と惑星についての物理学的理解を展開する。力学の理解を深めたい受講生は、上記旧教科書を参考にされたい。本講義の内容にかかわる参考書としては、『シリーズ現代の天文学』(評論社刊)第1巻『人類の住む宇宙』および同第9巻『太陽系と惑星』がある。やや専門的になるが『惑星地質学』(東京大学出版会)も、参考になるだろう。天文学一般に関しては、放送大学教材「初歩からの宇宙の科学」が一般的入門として、また同「宇宙とその進化」がやや専門的な参考となる。大学院教材「宇宙・自然システムと人類」は、より高度な理解の参考になるだろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	太陽系の「発見」	本講義の導入として、人間による太陽系の認識の発展を、「発見」をキーワードとして整理する。古代の人々にとって、日月五惑星は神だった。惑星と太陽系はどのように発見され、認識され、理解されてきたか。惑星の動きの観察や占星術から発展した天文学は、人間が生んだ最初の科学だったともいえる。望遠鏡の登場とともに急速に進んだ太陽系像の拡大をたどり、冥王星問題の背景ともなった大きな発見まで、太陽系についての基本的な認識をまず確保しよう。 【キーワード】 星座、惑星の運動、占星術、望遠鏡、天体力学、冥王星問題、太陽系外縁天体	海部 宣男(国立天文台名誉教授、放送大学客員教授)	海部 宣男(国立天文台名誉教授、放送大学客員教授)

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
2	天体力学と惑星の運動	惑星の運動は、天体間に働く万有引力という概念の成立によってどのように理解されただろうか。彗星の運動や惑星をまわる衛星の運動も同様に説明されることなど、太陽系を支配する力学について、入門的に概説する。さらに、太陽系の惑星の軌道が長い年月にわたって安定であることやその理由を理解する。 【キーワード】 力と運動、ケプラーの法則、万有引力、天体力学、太陽系の安定性	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
3	地球と月	私たちが住む惑星・地球について、その形成、構造、プレートテクトニクス概念の成立などによって理解されてきた内部運動、海洋、気候などを理解する。また地球に一番近い天体である月について最新の探査データを元にその真の姿に触れ、その誕生についての考え方を知る。さらに、地球と月の相互作用や、暦との関係を理解する。 【キーワード】 地球の内部構造、地球の歴史、プレートテクトニクス、大陸と海洋、月、巨大衝突説	吉川　真（JAXA宇宙科学研究所准教授）	吉川　真（JAXA宇宙科学研究所准教授）
4	太陽と地球	太陽系の中心である太陽がどのような天体であるかを、その内部構造の理解を通して把握する。また、外層構造や太陽表面で磁気プラズマが引き起こす諸現象について俯瞰し、これらの太陽活動によって表面から放たれる放射や粒子の風である太陽風が周りを取り巻く惑星にどのような影響を及ぼしているかについて考える。そうした例として、特に地球の気候変動に及ぼす太陽の影響をとり挙げる。 【キーワード】 核融合反応、水素燃焼、太陽表層の活動、磁気プラズマ、太陽の放射、地球の気候、ミランコヴィッチ・サイクル	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
5	無人探査機が広げる惑星観 【改訂回】	1960年代から打ち上げが始まった数多くの太陽系無人探査ロケットにより、惑星や衛星についての理解は非常に大きな飛躍を遂げた。地球型の小型岩石惑星、特に金星と火星については驚くべき発見が相次ぎ、地球を含めた比較惑星学が発展しつつある。木星や土星など巨大惑星の衛星も、それぞれに特徴的な活動を示すことが明らかになり、惑星物理学の理解の飛躍をもたらした。ここではまず、そうした惑星探査機の活躍を概観する。 【キーワード】 宇宙開発、無人探査機、バイキング、ボイジャー、ガリレオ、ホイヘンス、はやぶさ、比較惑星学	長沼　毅（広島大学教授）	長沼　毅（広島大学教授）
6	火星：地球に似ていた惑星 【改訂回】	火星の探査が、近年急速に進められている。火星表面では探査車が砂だらけになって地質調査を行い、上空からは数十センチメートルの大きさを判別できるカメラを搭載した探査機が、徹底的に表面を調査している。現在では凍りつき、極度に乾燥しているこの星は、かつては温暖湿潤気候を持ち液体の水を豊富に蓄えていたようだ。最新の火星探査の成果を、美しい画像と共に概観する。 【キーワード】 火星探査、流水地形、火山地形、海、惑星地質学	宮本　英昭（東京大学准教授）	宮本　英昭（東京大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	地球型惑星の比較【改訂回】	外国を旅することで、かえって自国について理解が深まることがある。同様に、地球と似た天体を調べることは、地球の深い理解へとつながるはずだ。ここでは特に、地表面の痕跡や熱損失などのキーワードで地球型惑星を比較し、地球の特異性と他天体との類似性について考察する。なぜ地球に人類が存在するかという究極的な問いに対するヒントを探りたい。 【キーワード】 水星、金星、火星、火山、プレートテクトニクス、気候変動、衝突現象	宮本　英昭（東京大学准教授）	宮本　英昭（東京大学准教授）
8	巨大惑星の世界【改訂回】	地球型の小型岩石惑星の外側を公転する木星、土星、天王星、海王星の4つの惑星は、地球型惑星よりはるかに大きな質量を持つ巨大惑星である。それらは木星型(巨大ガス惑星)と天王星型(巨大水・氷惑星)に分けられるが、内部構造や表面活動その他の面で地球型惑星とは大きな違いを示す。また巨大惑星は、それが及ぼす重力で太陽系の天体の運動にさまざまな影響を与えている。ここでは、これら巨大惑星の世界を訪ねよう。 【キーワード】 太陽系の構造、巨大ガス惑星、巨大水・氷惑星、質量と角運動量の分布	吉岡　一男（放送大学教授）	吉岡　一男（放送大学教授）
9	巨大惑星の衛星たち：驚くべき多様な世界【改訂回】	太陽系で最も火山活動が活発な天体は、地球ではなく巨大惑星の衛星である。地下に海が存在するもの、温泉が噴き出ているもの、さらには極度に歪なものや表面が無数の断層で引きちぎられているものなど、驚くべき多様性を持つ衛星について、近年の探査で次々と明らかにされた新事実を整理し、この多様性の持つ意味合いについて議論する。 【キーワード】 イオ、エウロパ、エンケラドゥス、潮汐加熱、間欠泉、カッシーニ探査機	宮本　英昭（東京大学准教授）	宮本　英昭（東京大学准教授）
10	小惑星と彗星、隕石と流星	小惑星や彗星のような「太陽系小天体」というものがどのような天体なのかを、最近の観測や探査の結果を参照しながら概観する。また、これらの天体の分布や軌道運動、物理的性質を知り、小惑星や彗星が太陽系の起源を調べる鍵になっていることを理解する。さらに隕石、流星そして天体の地球衝突問題について知識を深める。 【キーワード】 小惑星、彗星、太陽系小天体、隕石、流星、オールト雲	吉川　真（JAXA宇宙科学研究所准教授）	吉川　真（JAXA宇宙科学研究所准教授）
11	太陽系の果て	海王星の軌道付近やその外側に、近年、多数の小天体が発見されている。これらを太陽系外縁天体と総称するが、冥王星もその1つである。また、冥王星については、2006年に惑星ではなくて準惑星と定義された。さらに、より遠方にも天体が発見され始めた。このような太陽系外縁天体について現在までに分かったことを理解する。 【キーワード】 冥王星、太陽系外縁天体、カイパーベルト、オールトの雲、太陽系のサイズ	吉川　真（JAXA宇宙科学研究所准教授）	吉川　真（JAXA宇宙科学研究所准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	太陽系誕生のシナリオ	太陽系がどのように形成されたのかについて、まず歴史的な考察を行う。ついで、理論と太陽系外縁天体の発見などの観測から得られた現代の太陽系形成論を概観し、最新の理解を述べる。講義で見てきた太陽系の諸天体や多彩な特徴がかなり見事に説明できることがわかり、われわれが住む地球という天体の位置付けについても、理解が深まるだろう。 【キーワード】 暗黒星雲、星間分子雲、京都モデル、原始惑星系円盤、雪境界線、微惑星、原始惑星、雪境界線、惑星の成長時間	海部　宣男 (国立天文台名誉教授、放送大学客員教授)	海部　宣男 (国立天文台名誉教授、放送大学客員教授)
13	無数の惑星系の中で 【改訂回】	太陽系外の恒星を回る惑星が続々と発見され、太陽系はこの宇宙に満ちる無数の惑星系の一つにすぎないことが分かった。ドップラー法による1995年の第一発見をはじめ、観測の目覚ましい成果を概観する。その結果、太陽系をもとに考えられてきた惑星の概念には、大きな変化がもたらされた。太陽系外惑星の特徴、惑星系形成論の新たな発展、またその中で進む「第二の地球」検出への歩みと生命存在発見の可能性など、形成されつつある新しい惑星観について述べる。 【キーワード】 太陽系外惑星、ドップラー法、灼熱巨大惑星、楕円軌道惑星、原始惑星系円盤、軌道安定性	海部　宣男 (国立天文台名誉教授、放送大学客員教授)	海部　宣男 (国立天文台名誉教授、放送大学客員教授)
14	他の惑星・衛星に生物は存在するか？	太陽系外の無数の恒星を回る惑星が普遍的に存在することが分かった現在、地球外生命の探求も現実味を帯びて論じられている。ここでは、地球外生命が存在する可能性が議論されている太陽系天体として、火星、エウロパ、タイタン、エンケラドゥス等について考察する。その上で地球外生命の発見の意義を考察し、さらに太陽系外惑星の生命探査計画についても述べる。 【キーワード】 火星、エウロパ、タイタン、エンケラドゥス、系外惑星、ハビタブル・ゾーン	長沼　毅 (広島大学教授)	長沼　毅 (広島大学教授)
15	地球の生物：過去・現在・未来 【改訂回】	地球の生物史は、地球そのものと同じくらい長い。地球史の中で進化を重ねてきた地球生物を、これまでの講義で得られた太陽系についての知見を踏まえながら概観し、理解の整理を試みる。さらに地球生物系の中での人類を進化の中で位置付け、未来にはどのような可能性があるかについても、時間スケールも含めて考察してみよう。これは本講義のまとめであるとともに、地球と私たち人間という存在を見直す作業でもある。 【キーワード】 初期地球、生命の起源、原核細胞生物、真核細胞生物、多細胞生物、第四生物、環境変動、人類文明	海部　宣男 (国立天文台名誉教授、放送大学客員教授)	海部　宣男 (国立天文台名誉教授、放送大学客員教授)

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562770	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 非ユークリッド幾何と時空 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Non-Euclidean Geometry and Spacetime (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：橋本　義武　（東京都市大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：隈部　正博　（放送大学教授）】

講義概要

ユークリッドの幾何学は天文学と並ぶ古代の叡智の結晶であり長い歴史を通じて西洋のすべての学問の模範であったが、自らの内に平行線の公理の独立性の問題と三大作図問題というアポリアを抱えていた。19世紀においてそれぞれの難問は非ユークリッド幾何、ガロア理論の誕生によって乗り越えられる。こうして現れたビジョンが現代数学の源流となったのである。
この講義では、準備として平面と球面の幾何を概観したのち非ユークリッド幾何と双曲三角法を取り扱う。そして非ユークリッド幾何のモデルの一つである二葉双曲面を媒介として、特殊相対論の舞台でもあるミンコフスキー空間の幾何へと考察を進めていく。

授業の目標

三角法、球面三角法、双曲三角法の類似点と相違点を理解する。
非ユークリッド幾何のさまざまなモデルに親しむ。
特殊相対論の数理的基礎、特にミンコフスキー空間の基本事項について学ぶ。

履修上の留意点

「入門線型代数」「入門微分積分」を履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	天文学と幾何学	天文学と幾何学は最古の科学と言えるだろう。天文学は「予言とその成就」、幾何学は「定理とその証明」という説得の形式を持っていた。古代における天文学と幾何学の成果は、それぞれプトレマイオス(トレミー)の天動説とエウクレイデス(ユークリッド)の「原論」に結実した。 【キーワード】 定理と証明、「原論」	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）
2	ユークリッド幾何	幾何学が古代において確立しえたのは、「図形は誰にでも描ける」ということによる。しかし、たとえば「三直線が一点で交わる」というような命題は、いくら正確に作図しても誤差は0ではないので、本当に正しいのかどうかはわからない。この問題を乗り越えたのが、「定理とその証明」という対話的形式であった。 【キーワード】 作図、定理、証明、公理	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）
3	平行線の公理と三大作図問題	学問の模範としての完璧さを誇ったユークリッドの幾何学にも二つのアポリアがあった。平行線の公理の独立性と三大作図問題である。19世紀に入って、平行線の公理の問題は非ユークリッド幾何を、三大作図問題はガロワ理論を生んだ。現代においてこの2つは相互作用して、人類に新しいヴィジョンを与えている。 【キーワード】 平行線の公理、角の三等分・立方体倍積・円積問題	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	三角関数と平面三角法	すべて多角形は三角形に分割され、三角形は2つの直角三角形に分割される。直角三角形について徹底的に知るならば、私たちは図形を知ることになるだろう。直角三角形の角と辺の関係を与えるのが三角関数である。これにより、三角形の合同条件の示唆する公式が余弦定理・正弦定理という形で具体化する。 【キーワード】 直角三角形、三角関数、ピタゴラスの定理・余弦定理・正弦定理	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）
5	球面三角法	球面上の大円を、平面において直線の果たした役割を果たすものと見立てると、球面上でも平面と同様に幾何学を展開することができる。球面上にも余弦定理・正弦定理の対応物が存在する。これらは、天文学や航海術に応用された。 【キーワード】 球面三角形、球面上のピタゴラスの定理・余弦定理・正弦定理	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）
6	いろいろな地図投影法	完全な地図は存在しない。地図の図法には、角度を正確にあらわすもの、面積を正確にあらわすもの、中心からの方位や距離を正確にあらわすもの、などがある。これらの事実は、距離空間という現代数学における図形概念に関わっている。 【キーワード】 図法、座標、距離空間	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）
7	双曲面と双曲線関数	球面上には平行線の対応物が存在しなかった。一方、直線Lとその上にない点Pに対し、Pを通りLに平行な直線が無限に存在するような幾何学がある。そのような幾何学を、球面と似た方程式で表される双曲面という図形の上で実現する。球面幾何では三角関数が活躍したが、双曲面上の幾何では双曲線関数が活躍する。 【キーワード】 平行線、双曲面、双曲線関数	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）
8	双曲三角法	双曲平面上にも直線、長さ、角に相当する概念があり、三角関数と双曲線関数によって記述された余弦定理・正弦定理の対応物がある。このようにして双曲平面上の三角法を展開することができる。 【キーワード】 双曲平面上のピタゴラスの定理・余弦定理・正弦定理	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）
9	クライン円板と双対性	双曲面の「地図」としてクライン円板というものがある。これは、双曲面上の直線を円板内の線分で表すものである。距離や角の大きさは同一ではない。クライン円板上で、直角5角形や直角6角形について調べる。また、双曲余弦定理の双対について述べる。 【キーワード】 クライン円板、一葉双曲面、双対双曲余弦定理、直角5角形、直角6角形	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）
10	ポアンカレ円板と立体射影	双曲面にも角の大きさを正確に反映した「地図」がある。それはポアンカレ円板というもので、球面の場合と同様にして立体射影によって与えられる。ポアンカレ円板上で双曲幾何を展開する。 【キーワード】 ポアンカレ円板、立体射影、光錐面	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	半球面・半平面上の双曲幾何	ポアンカレ円板以外にも、角の大きさを正確に反映した双曲面の「地図」がある。一つは半球面という「地図」であり、これはクライン円板とポアンカレ円板の間をつなぐ役割を果たす。また、半球面から立体射影によって半平面という「地図」も得られる。 【キーワード】 半球面、半平面	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）
12	地動説・慣性・光	ガリレオは自作の望遠鏡によって木星の衛星を発見。地球以外の星の周りを回っている星を自分の目で見てしまったことによって、彼にとって地動説は天体の運動の計算法を超えたリアリティーとなった。ガリレオは光速の測定を試みたが失敗に終わる。ガリレオの死後、レーマーが光速の見積もりに成功。その方法をもしガリレオが知ったならば驚きのあまり言葉を失ったことであろう。 【キーワード】 ガリレオ、地動説、木星の衛星、光速の測定	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）
13	光速と同時性	光は波の性質をもつ。波の速度は媒質に対するものである。光は真空中をも伝わる。一方、真空の速度を考えることはできない。これらを考え合わせると、光速は互いに等速直線運動する観測者に対して同じ値であるはず。これを受け入れるためには、同時性の概念を考え直さなければならない。この作業を行ったのがアインシュタインの特殊相対性理論である。 【キーワード】 光、波の速度、天球とエーテル、真空、同時性	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）
14	ミンコフスキー空間と時空	特殊相対性理論における光の幾何学を記述するのがミンコフスキー空間である。ローレンツ変換は、ミンコフスキー空間上の図形を「形を変えずに」動かす。 【キーワード】 ミンコフスキー空間、ローレンツ変換	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）
15	光錐面とトレミーの定理	第1回の講義で言及したトレミーの名を冠する定理がある。円に内接した四角形の4辺と2つの対角線の長さの関係を記述した公式である。ふしぎなのは、四角形が円に内接しなくてもこの6つの量の間には関係があるということだ。トレミーの定理はミンコフスキー空間上の定理として一般化される。 【キーワード】 トレミーの定理、光錐面、ホロ円、行列式	橋本　義武（東京都市大学教授）	橋本　義武（東京都市大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562819	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 微分方程式 （’１７）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Differential Equations (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：石崎　克也 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

微分方程式は、解析学の中心的役割をはたし、理工科系研究の基礎学術領域には欠かせない存在である。実際に、微分方程式は、微分積分学の更なる理解を深めるためにも重要であるだけではなく、自然現象や社会現象を数理的に表現し研究するための手段として、あるいは工学研究に必要な道具としても存在している。この講義では入門微分積分に続く科目として、微分方程式の初歩から分かり易く解説する。講義では、微分方程式の解の意味の理解を促し、問題解決型と知識伝達型を併用する形で進めていく。基本的な線形微分方程式を主な題材に、線形代数学、積分変換論など、様々な数学的な角度から考察していく。

授業の目標

微分方程式の解は、常に存在するわけではなく、存在が示されていても初等関数で記述できるとは限らない。どのような場合に解が存在するのかを考え、解の性質が記述できる場合はどのようなときかを理解することは重要である。講義では、微分積分学で学んだ基礎知識で一般解が求まる微分方程式の解法から始める。2階までの微分方程式を通して、微分方程式の基礎を理解することが目標となる。また、積分変換論などの解析的な道具を用いて、微分方程式を取り扱えるようになることも目標のひとつである。

履修上の留意点

微分積分学を勉強した上でこの講義を履修することが望ましい。具体的には、「入門微分積分(’16)」（または、「微分と積分(’10)」）が履修済みであることを期待する。また、講義の進行にともなって、学生自身が練習問題に取り組むことを推奨する。まず印刷教材を参照しながら解答し、放送授業によって正解と照らし合わせ理解の確認をすることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	微分方程式	微分方程式の解とは何であるか。解の意味と微分方程式を解くとは何かを理解する。微分方程式の解法に必要な微分積分学・線形代数学からの準備を行う。また、線形空間や複素数に関係する語句や記号の導入もおこなう。 【キーワード】 微分方程式、一般解、特殊解、付帯条件、積分計算、広義積分、級数、行列、行列式、固有値、線形空間、複素数	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
2	変数分離形	求積可能な1階の微分方程式として最も基本的な変数分離形常微分方程式を学習する。解法に必要な微分積分の公式を随時復習していく。適当な変換で変数分離形に帰着される微分方程式として、同次形などの方程式の解法を紹介する。 【キーワード】 求積法、変数分離形、置換積分、積分定数、同次形	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
3	1階線形微分方程式	定数変化法を用いて1階線形方程式を解く公式を導出する。1階線形方程式に帰着されるベルヌーイの方程式を学習する。また、ある条件の下に1階線形方程式に帰着されるリッカチ方程式の解法を理解する。 【キーワード】 1階線形方程式、定数変化法、ベルヌーイ方程式、リッカチ方程式	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	完全微分方程式	微分形式で表現された微分方程式を学習する。完全微分方程式の解法を理解する。必要に応じて、偏微分法の復習を行う。積分因子を用いて完全微分方程式に帰着される方程式を取り扱う。 【キーワード】 偏微分法、微分形式、全微分方程式、完全微分方程式、積分因子	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
5	数理モデル	自然現象や社会現象を数理的に表現する方法としての微分方程式を学習する。具体例を通して、微分方程式で記述される数理科学モデルの構成法を紹介する。ここでは、生物個体群の成長モデル、放射性物質の崩壊モデル、物体の落下モデル、電気回路のモデルなどを考察する。また、関数のグラフの特徴を利用して記述される微分方程式も学習する。 【キーワード】 数理モデル、生物個体群の成長モデル、マルサス方程式、ロジスティック方程式、1階微分方程式の応用	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
6	高階線形微分程式	高階線形微分方程式についての概論を述べる。一般論として、微分作用素、関数の1次独立性などを学習する。線形同次方程式の解の存在と一意性、一次独立性や基本解の性質を学ぶ。また、ローンスキー行列式を用いた一次独立性の判定法や微分方程式の構成法を説明する。 【キーワード】 高階微分方程式、微分作用素、一次独立性、ローンスキャン、基本解	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
7	2階線形微分方程式	2階線形微分方程式の基本性質を理解する。ここでは、ある形の2階線形微分方程式の一般解の求め方として、定数変化法、階数降下法、独立変数の変換を学ぶ。また、2階線形微分方程式とリッカチ方程式との関係や基本解の積・商のみたす微分方程式を紹介する。 【キーワード】 2階線形微分方程式、定数変化法、階数降下法、独立変数の変換、基本解の積・商	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
8	定数係数線形微分方程式	定数係数線形微分方程式の一般解について説明する。まず、2階の場合から学習し、特性方程式の使い方を体験する。特性方程式や微分作用素を通して一般論を学習する。複素数値関数解や微分演算子の計算についても解説する。 【キーワード】 定数係数線形微分方程式、特性方程式、微分作用素、複素数値解、演算子の計算、線形非同次微分方程式	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
9	連立線形微分方程式	連立線形微分方程式と高階線形微分方程式の関係を解説する。線形代数と関数行列の復習をし、微分方程式に応用する。とくに、連立線形微分方程式における定数変化法を通して、線形代数の微分方程式への関わりを学習する。 【キーワード】 連立線形微分方程式、高階線形微分方程式、線形代数、関数行列、定数変化法、行列の指数関数	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	級数解法	線形微分方程式の級数解法を学ぶ。整級数を用いた関数の局所的表現方法や収束判定法を復習する。2階線形同次微分方程式を題材にして、漸化式の取り扱いやルジャンドル関数、ベッセル関数などの特殊関数も紹介する。 【キーワード】 整級数、級数解法、収束判定法、2階線形同次微分方程式、正則点、漸化式、確定特異点、特殊関数	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
11	ラプラス変換	広義積分を復習し、ラプラス変換を定義する。具体的な例を考察しながら、ラプラス変換の基本性質を説明する。更に、ラプラス逆変換を学習し、線形微分方程式の初期値問題に応用する。 【キーワード】 広義積分、ラプラス変換、基本性質、ラプラス逆変換、線形微分方程式の初期値問題	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
12	フーリエ級数	三角関数を復習し、フーリエ係数の求め方を学習する。フーリエの定理を理解し、関数をフーリエ級数で表すことを学ぶ。さらに、フーリエ級数の持つ性質を学習する。また、直交関数系を学び一般フーリエ級数の性質に触れる。 【キーワード】 三角関数、フーリエ係数、フーリエ級数、直交関数系、ルジャンドル多項式、パーセバルの等式	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
13	線形偏微分方程式	偏微分方程式の一般論について学習する。1階および2階の線形偏微分方程式の解法を紹介する。重ね合わせの原理、変数分離解、フーリエ級数を応用して波動方程式やラプラス方程式の解を構成する。 【キーワード】 線形偏微分方程式、重ね合わせ原理、変数分離解、境界値問題、フーリエ級数、波動方程式、ラプラス方程式	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
14	積分変換の応用	代表的な積分変換であるラプラス変換、フーリエ変換を学習する。フーリエ級数からフーリエ積分へと発展させ、フーリエ変換を学ぶ。単位関数やデルタ関数を知識に加えラプラス変換における学習を深める。これらを応用して、常微分方程式、積分方程式、偏微分方程式を取り扱う。 【キーワード】 積分変換、フーリエ積分、フーリエ変換、単位関数、ラプラス変換、常微分方程式、積分方程式、偏微分方程式	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）
15	解の存在定理	正規形の常微分方程式の解の存在定理や解の一意性定理について学習する。準備として、一様収束やリプシッツ条件を学習し、今後の学びの発展に繋がる解析的手法を紹介する。逐次近似法、折れ線法などを利用した解の存在定理を説明する。 【キーワード】 正規形、一様収束、リプシッツ条件、グロンウォールの定理、解の存在定理、解の一意性定理、逐次近似法、折れ線法	石崎　克也（放送大学教授）	石崎　克也（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562665	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 統計学 （’１３）＝（R）

〔主任講師（現職名）：藤井　良宜　（宮崎大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：隈部　正博　（放送大学教授）】

講義概要

記述的な統計手法についてはすでに学習していることを前提として、統計解析の基本的な概念を深く理解したり、これから統計解析を実際に行ったりすることを目指す人々をターゲットとする。内容としては、母集団と標本の関係をベースにして、信頼区間による推定方法や統計的検定などの統計的推測の基本的な概念について詳しく解説するとともに、回帰分析や因子分析などの多変量解析の手法の基本的な考えについて、その手法の特徴に焦点を当てて説明をする。

授業の目標

確率の基本的な性質や様々な確率モデルの特徴を把握する。そして、ばらつきをもった現象に対して適切な確率モデルを選択し統計的推測を行うことや、複雑な現象に対して統計モデルを活用して表現し、その特徴を見出すことができるようになることを目標とする。

履修上の留意点

「身近な統計」の内容を学習しておくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	データのバラツキとモデル化	統計データに含まれるばらつきを把握するために必要な確率モデルや統計モデルについて概説する。 【キーワード】 確率分布モデル、統計モデル、問題解決	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
2	確率の基本性質	確率の基本的な性質を説明し、具体的な事象のばらつきを確率モデルを使って表現する。 【キーワード】 確率モデル、排反、独立、条件付き確率	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
3	確率分布の捉え方	データのばらつきを把握するために必要な確率分布の概念とその特徴のつかみ方について説明する。 【キーワード】 確率変数、確率分布表、累積分布関数、平均、分散、確率変数の和の分布	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	2項分布モデルと割合の推定	2項分布モデルやそれを適用できる現象の特徴について解説し、このモデルのもとでの割合の信頼区間の構成方法について説明する。 【キーワード】 2値データ、2項分布、割合の推定、信頼区間	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
5	多項分布モデルと統計的検定	多項分布モデルの特徴を解説し、クロス表解析を例に統計的な検定の基本的な考え方について説明する。 【キーワード】 クロス表、統計的検定、帰無仮説、有意水準、p値	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
6	ポアソン分布モデル	計数データに対するモデルとしてのポアソン分布モデルについて、その特徴や解析方法について説明する。 【キーワード】 平均、分散、散布度の検定、罹患率、標準化死亡率比	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
7	正規分布モデル	連続的な測定データに対するモデルである正規分布モデルの特徴について説明する。 【キーワード】 尺度の変換、独立な確率変数の和、標準化、偏差値	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
8	正規分布モデルでの統計的推測	正規分布モデルでの標本分布の特徴を把握し、それに基づいた統計的推定の方法について説明する。 【キーワード】 平均の推定、分散の推定、標準化、カイ2乗分布、t分布、中心極限定理	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
9	正規分布モデルでの群間の比較	正規分布モデルでの統計的検定方法や一元配置分散分析法について説明する。 【キーワード】 2標本問題、t検定、分散分析表、郡内変動、群間変動、F分布、多重比較	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
10	回帰分析	2つの変量の間の関係をつかむために必要な相関関係や直線による回帰分析の方法について説明する。 【キーワード】 相関係数、因果関係、寄与率、残差平方和、回帰平方和、全平方和、回帰直線	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	重回帰分析	単回帰分析の拡張として重回帰分析を導入し、重回帰分析の特徴と、結果の解釈方法について説明する。 【キーワード】 編相関係数、3つの平方和、寄与率、多重線形性、分散分析表	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
12	モデル選択	重回帰分析の場合に用いられる変数の選択問題について説明する。 【キーワード】 ステップワイズ法、情報量規準、AIC、最尤法、クロスバリデーション	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
13	ロジスティック回帰分析	結果変数が2値の場合への重回帰分析の拡張としてロジスティック回帰分析について説明し、一般化線形モデルについても簡単に触れることにする。 【キーワード】 ロジット変換、オッズ比、モデルの適合度	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
14	主成分分析と因子分析	多くの変数の間の関係を把握するための手法として因子分析について説明し、その拡張でもある共分散構造分析についても簡単に触れることにする。 【キーワード】 主成分、因子、固有値、共分散行列、相関行列、因子数の選択	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
15	複雑なデータと統計モデル	これまで説明してきた手法を利用して解析できる具体的なデータを紹介し、統計解析の流れや確率モデルや統計モデルの選択について考え、全体のまとめとする。 【キーワード】 問題解決、統計的な見方	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562673	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 数学の歴史 （’１３）＝ （TV）

〔主任講師（現職名）：三浦　伸夫　（神戸大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：隈部　正博　（放送大学教授）】

講義概要

数学の歴史を、西欧のみならずアラビア世界や日本など非西欧世界をも視野において講義する。その際、数学の中身にはもちろん触れるが、発想の源泉や理論の受容の社会的・文化的背景をも常に視座に置いて講じていく。とりわけ数学の文化・社会依存性の具体的有様を提示する。

授業の目標

文化における数学の歴史的具体相をみることによって、数学が孤立した学問ではなく、さまざまな要因のもとで展開していったこと、また多くの 学問領域に影響を与えたことを学ぶ。さらに高校時代までに学んできた数学の成立の背景を知り、数学が本来持つ多様性を再発見するとともに、今日私たちが抱く数学や科学のイメージを根本的に再検討する契機を与える。

履修上の留意点

従来の数学史ではあまり取り上げることのなかった題材、つまりアラビアや西洋中世の数学、教育との関係、女性と数学などにも言及するので、単に数学のみならず、広く文化史に関心のある学生にも参考となるであろう。取り上げる数学は17世紀頃までであるので、微積分学初歩の知識があれば十分である。講義内容はさまざまな学問領域にかかわるので、むしろ数学を超え広く学問一般に関心のある学生の受講を期待する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	古代エジプトの数学	古代エジプトの計算法を、文字に注目しながら具体的に紹介する。また誰がどの様な目的で計算を行ったか、という文化的社会的背景にも注目する。 【キーワード】 ヒエログリフ、単位分数、リンド・パピルス、円周率	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）
2	古代ギリシャの数学	前半は古代ギリシャの数学の発生と展開を概観し、古代ギリシャ数学の特徴を明らかにする。後半はアルキメデスの数学の発見的方法について検討する。さらに古代数学の行き着く先にも言及する。 【キーワード】 マテーマティカ、アルキメデス、円錐曲線	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）
3	エウクレイデス『原論』と論証数学	論証数学のモデルであるエウクレイデス『原論』の内容と構造を、比例論などを取りあげながら具体的に紹介し、ギリシャにおける論証数学の成立について考える。 【キーワード】 エウクレイデス、『原論』、論証数学、比例論	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	アラビア数学の成立と展開	アラビア数学の成立とその展開を、文化的背景を視野に置きながら述べていく。またアラビア数字やゼロの意味とそれを用いた計算法を紹介する。 【キーワード】 アルゴリズム、小数、アラビア数字、遺産分割計算	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）
5	アラビアの代数学	アラビア数学の中でもっとも発達した代数学を、ギリシャ数学との関係で理解する。そしてその成立から高度に展開するまでを概観する。また2次方程式、3次方程式の具体的解法にも言及する。 【キーワード】 ジャブルの学、フワーリズミー、不定方程式、オマル・ハイヤーム	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）
6	中世西洋の数学	12世紀にアラビアから西洋中世に数学が伝達されていく様子を紹介し、その数学が今度はいかに中世大学で展開していくかを、運動論と無限論を中心に論じていく。 【キーワード】 12世紀ルネサンス、中世大学、無限論	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）
7	中世算法学派	中世西洋で数学の展開に寄与したのは商人たちであるが、彼らの数学史上の意義について考察する。また紙の普及により、数学に用いられる記号が変遷していく様子を見る。 【キーワード】 フィボナッチ、紙の普及、省略記号、コス式規則、アバクス	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）
8	イタリアの3次方程式	数学史上有名なイタリアのカルダーノとタルターリャにおける3次方程式解法を紹介し、さらに発見を巡る優先権問題について考える。また方程式解法の中から新しい数概念が成立していったことを見る。 【キーワード】 3次方程式、優先権問題、ボンベッリ、カルダーノの公式、数学試合	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）
9	ルネサンス数学	ルネサンス期イタリアにおける古代ギリシャ数学の復興を概説し、当時の人文主義者たちと数学との関係を考える。さらに数学の実用性と新たな応用の具体的有様を、計算術師や画家たちの活動を通じて見ていく。 【キーワード】 数学讃歌、デューラー、計算術師、数秘術	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）
10	デカルトの時代の数学	17世紀科学革命期における数学の役割を概観し、なかでもデカルトとヴィエトの記号数学の成立と展開を見ていく。さらにデカルト『幾何学』のオランダにおける影響と、接線法や求長法への適用を理解し、微積分学成立前夜の様子を見る。 【キーワード】 科学革命、記号法、方程式論、求長法、接線	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	対数の発見	ネイピアとビュルギによる対数の発見と展開を、両者の置かれた社会的位置をも視野に置きながら比較検討する。さらに対数が単なる計算法から解析学に発展していく様子を見る。 【キーワード】 三角法、対数表、ネイピア、ビュルギ	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）
12	ニュートン	ニュートンの若き時代の数学的アイデアの源泉と、その展開を検討する。さらにニュートンの数学観にも触れ、主著『プリンキピア』の数学史上の位置付けを確認し、英国におけるニュートン数学の受容を考える。 【キーワード】 流率法、『プリンキピア』、大学教授ニュートン	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）
13	ライプニッツ	ライプニッツの微積分学の誕生と特徴を見ていき、それがニュートンの微積分学とどこが異なるのかを明らかにする。その際、両者の間の微積分学優先権論争にも言及する。さらに当時の微積分学の批判者たちの意見も視野に入れながら、微積分学が徐々に認知されていく様子を見ていく。 【キーワード】 無限小解析、優先権論争	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）
14	18世紀英国における数学の大衆化	18世紀英国では、アマチュアの数学愛好家がたくさん排出した。彼らの数学の特徴と役割を、数学器具や数学教育について言及しながら明らかにする。また、18世紀は少なからずの女性が数学に関心を持っていたが、その要因を具体的に見ていく。 【キーワード】 数学愛好家、数学器具、数学と女性、数学と教育	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）
15	和算	日本の伝統数学である和算は西洋数学とどのように異なるのかを比較検討し、西洋数学理解の一助とする。まず初期の和算である『塵劫記』の内容を紹介し、次いで盛期の和算の特徴を取りあげる。数学内容というよりは、むしろ文化や社会の中で和算がどの様に展開していったかに重点を置く。 【キーワード】 算額、洋算、西洋と日本、算博士	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）	三浦　伸夫（神戸大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562827	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 線型代数学 （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Linear Algebra (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：隈部　正博　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

初めに高等学校で学んだ平面や空間におけるベクトルの扱いを復習する。また、内積、外積を定義し、ベクトル空間に内積を取り入れることで、長さや角度が表せることをみる。こうして得られる計量ベクトル空間において、正規直交基底が構成できる。また、空間において形を変えない変換すなわち合同変換を例をあげながら解説し、その行列表示として直交行列を学ぶ。次に、ベクトルや行列の成分を複素数とすることで、複素ベクトル空間を考える。空間における基底の変換は本講義で重要な手法で復習を兼ねて講義する。その後、対称行列に基底の変換を施し対角化できることをみる。一般に、行列が対角化できるための条件や特徴付けを考える。与えられた行列はいつも対角化できるわけではないが、三角化と呼ばれる形、またジョルダンの標準形と呼ばれる形に変形する方法を学ぶ。次に、2次曲面を行列を用いて表すことを学ぶ。そしてこれまでの知識を応用して、2次曲面を標準形とよばれる形に変形し分類する。

授業の目標

ベクトル空間に内積を取り入れることで、長さや角度の概念が定義でき、こうして得られる計量ベクトル空間を理解する。ベクトル空間上の線型写像を表す行列に、基底の変換を施して簡単な形に変形することの意味と重要性を理解する。様々な形の行列をどのようにして簡単な形に変形していくか、その道筋や手順を理解する。最後に、2次曲面の分類に応用することでその理解を深める。

履修上の留意点

「入門線型代数('14)」を履修あるいは理解していることが望ましい。しかし学習上の無理がないように、できるだけ復習を交えながら講義をすすめていきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ベクトルと図形	平面や空間において、ベクトルを図示しその意味を理解する。そして直線や平面をベクトルをつかって表す方法を学ぶ。またベクトルの成分表示をつかい、直線や平面を表す方程式を導く。 【キーワード】 有向線分、ベクトル、位置ベクトル、成分表示、直線や平面のベクトル表示	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
2	内積	平面や空間における、長さや角度について学ぶ。次に内積を定義し、その意味や性質を理解する。また内積をつかっても、長さや角度の概念が定義できることをみる。 【キーワード】 長さ、角度、内積、座標系、計量ベクトル空間	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
3	外積	部分空間や線型独立の概念について復習する。平面や空間において、平行四辺形の面積を求める方法を考える。それらを通して、外積を定義し、その意味や性質を理解する。 【キーワード】 部分空間、線型独立、平行四辺形の面積、外積	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	正規直交基底と直交補空間	直和について復習し、直交補空間を定義する。次に正規直交基底を定義し、その性質を導き、またその構成方法を学ぶ。 【キーワード】 直和、直交補空間、正規直交基底	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
5	合同変換と直交行列	合同変換とはどのようなものか、対称移動や回転移動といった例をあげながら理解する。またその行列表示として、直交行列を定義し、その性質を導く。 【キーワード】 合同変換、対称移動、回転移動、直交行列	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
6	複素ベクトル空間	複素数について学ぶ。複素数を成分にもつベクトルや行列、空間を考える。また複素ベクトルの内積を定義し、その性質をみる。そして直交行列に対応する概念として、ユニタリ行列を学ぶ。また行列のブロック分割を学ぶ。 【キーワード】 複素数、複素ベクトル、複素行列、ユニタリ行列	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
7	基底の変換	基底の変換について復習し、理解をさらに進める。基底の要素の和、入れ替え、スカラー倍、といった基本操作によって、線型写像の行列表示がどのように変わるかをみる。 【キーワード】 線型写像、行列表示、基底の変換	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
8	対称行列	空間の直和分解をつかって、線型写像の行列表示を簡単に表すことを考える。これを利用して、対称行列を対角化する方法を学ぶ。 【キーワード】 直和分解、f－不変、対称行列、エルミット行列、対角化	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
9	正規行列	一般に対角化できる行列がどのようなものか特徴付けを考えることで正規行列を定義し、そして対角化する方法を学ぶ。また実正規行列を簡単に表す方法を考える。そして直交行列の標準形を導く。 【キーワード】 正規行列、直交行列の標準形	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
10	行列の三角化	行列を対角化することができるための条件を学ぶ。一般の行列はいつも対角化することはできないが、三角化はできることを示す。そしてその方法を学ぶ。 【キーワード】 対角化の条件、三角行列、行列の三角化	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	広義固有空間	固有空間や広義固有空間がどのようなものか学ぶ。そして空間を、広義固有空間の直和として表せることを示す。 【キーワード】 固有空間、広義固有空間、直和分解	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
12	行列の標準形	はじめに冪零行列を定義し、これをジョルダンの標準形と呼ばれる形に変形することを考える。これをつかい、一般の行列を標準形に変形する方法を学ぶ。 【キーワード】 冪零行列、ジョルダンの標準形、ジョルダン細胞	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
13	2次形式と2次曲面	2次形式とはどのようなものか定義し、行列をつかって表す。さらに今までの知識を用い、これを簡単な形にし、シルベスターの慣性律を解説する。次に2次曲線、2次曲面を定義し、これも行列を用いて表す。 【キーワード】 2次形式、係数行列、シルベスターの慣性律、符号数、2次曲線、2次曲面	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
14	2次曲面の合同変換	2次曲面に、合同変換、平行移動を施し、簡単な形にすることを簡単な形の場合について個別にみていく。 【キーワード】 2次曲面、合同変換、平行移動、回転移動	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）
15	2次曲面の標準形	今までの知識を総合し、一般の2次曲面を簡単な形に変形する。このとき係数行列の階数との関連について解説する。そして2次曲線、2次曲面を分類する。 【キーワード】 係数行列、符号数、階数、2次曲面の標準形、2次曲面の分類	隈部　正博（放送大学教授）	隈部　正博（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847457	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 安全・安心と地域マネジメント （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Safety, Security, and Regional Management (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：堀井 秀之 （東京大学大学院教授） 〕

〔主任講師（現職名）：奈良 由美子 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

地域社会の安全・安心の実現は重要な今日的課題のひとつである。この科目では、安全・安心を阻害する要因として自然災害に焦点をすえ、地域においてこれに対応することの意義、具体的手法、具体的事例、課題を扱う。
講義は大きく2部から構成される。前半では東日本大震災の実態、解釈、そして教訓を検討する。それらを受けて後半では、わが国の地域防災の向上のために今後何をすべきかについて、具体的事例も交えながらその課題と可能性を考える。安全・安心と信頼の意味を再考し、地域において災害対応のマネジメントシステムを構築することが、本科目の全体テーマである。

授業の目標

本科目の修学上の目標は、地域の安全・安心の実現の要件は何かを理解したうえで、実際の具体的事例を見ながら、災害対応のための地域マネジメントシステム構築の手法について知識を得、その意義と課題について検討する力をつけることである。できれば学習者には、本科目の内容を、住民、自治体職員、企業の一員といった立場で関わっている自分の地域にあてはめて考察することを試みていただきたい。

履修上の留意点

関連する科目として、「ダイナミックな地球(’16)」「社会技術概論(’12)」、「生活リスクマネジメント(’17)」（大学院科目）の履修により、本科目の内容についての理解と考察が一層進むと思われる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地域の安全・安心と社会技術	地域社会の安全・安心の実現は重要な今日的課題の一つである。この科目では、安全・安心を阻害する要因として自然災害に焦点を据え、地域においてこれに対応することの意義、具体的手法、具体的事例、課題を扱う。 講義は大きく2部から構成される。前半では東日本大震災の実態、解釈、そして教訓を検討する。それらを受けて後半では、わが国の地域防災の向上のために今後何をすべきかについて、具体的事例も交えながらその課題と可能性を考える。安全・安心と信頼の意味を再考し、地域において自然災害対応のマネジメントシステムを構築することが、本科目の全体テーマである。社会技術という概念を基盤として安全・安心のための地域マネジメントを論じる。 【キーワード】 安全・安心、自然災害、東日本大震災、地域防災、信頼、マネジメントシステム、社会技術	堀井 秀之（東京大学大学院教授）	堀井 秀之（東京大学大学院教授）
2	東日本大震災にみるわが国の防災の課題	東日本大震災では、なぜ“津波常襲地域”と呼ばれた三陸沿岸地域で1万8,000人を超える死者・行方不明者がでたのか。津波警報が発表されても避難しないことが常態化していた沿岸地域の実態と、その背景にある避難できない住民の心理、およびわが国の行政と住民の関係にみる防災の課題を解説するとともに、子どもへの教育を通じて地域に災害に備える文化を醸成しようと試みた釜石市津波防災教育の取り組み背景を紹介する。 【キーワード】 住民避難、津波警報、オオカミ少年効果、正常化の偏見、認知的不協和、災害対策基本法、災害過保護、防災教育、災害文化	片田 敏孝（群馬大学理工学研究院教授）	片田 敏孝（群馬大学理工学研究院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	災害に備える主体的姿勢を育む防災教育	東日本大震災において、岩手県釜石市の児童・生徒は、市街地を壊滅させるような大津波から、自らの主体的な避難行動をもって命を守り抜いた。ここでは、そのとき釜石市の子どもたちがとった行動とその背景にあった「避難三原則」に基づく当市での津波防災教育を紹介し、自然と正しく向かい合い、災いから命を守る主体的姿勢を育む防災教育について紹介する。また、子どもを中心に学校、家庭、地域に対して津波防災教育の波及を試みた取り組み事例を紹介する。 【キーワード】 避難三原則、津波ハザードマップ、脅し・知識・姿勢の防災教育、学校・家庭・地域での防災教育、津波てんでんこ、津波防災教育の手引き	片田　敏孝（群馬大学理工学研究院教授）	片田　敏孝（群馬大学理工学研究院教授）
4	これからの津波防災のあり方 －自然と共存する地域社会の構築－	東日本大震災を契機に、各地で大地震・大津波に関する新たな想定が発表されている。こうした想定に対し我々はどう理解し、備えればよいのか。大規模地震・津波の想定に対する国民理解の実態をみながら、そのあり方を考える。また、過去の津波被災地における復興過程、および各地にある防災に関わる伝統祭祀を紹介しながら、大津波の教訓を災害文化として次世代へ継承し、自然と共存しながら生きるこれからの地域社会のあり方について考える。 【キーワード】 災害想定、段階的避難所計画、災害復興、忘却と風化、災害文化の継承、伝統祭祀（ナーパイ）、自然との共存	片田　敏孝（群馬大学理工学研究院教授）	片田　敏孝（群馬大学理工学研究院教授）
5	原子力発電所事故の要因（1）	地域社会の安全・安心を実現することを考えるうえで、自然災害に対処するのと原子力事故等の人為的な危機に対処するのとでは、大きな違いが存在するはずである。東日本大震災では、その両者が起こってしまった。地域社会の安全・安心を実現するために何が重要であるのか、何を行わなければならないのかを明らかにするために、東日本大震災で起こったことを直視し、その本質を理解することによって、学ぶべき教訓を導き出さなくてはならない。 ここでは、福島第一原子力発電所事故に焦点を当て、人為的危機に地域社会として対処するための原点を明らかにすることを試みる。そのためには、なぜあのような事故が起こってしまったのかを理解し、そこから地域社会の安全・安心を実現するための社会技術の要件を考える。 【キーワード】 福島第一原子力発電所事故、津波対策、シビアアクシデント対策、政府事故調中間報告、要因抽出	堀井　秀之（東京大学大学院教授）	堀井　秀之（東京大学大学院教授）
6	原子力発電所事故の要因（2）	前章ではなぜ、福島第一原子力発電所の津波対策、シビアアクシデント対策が不十分であったのかを分析した。抽出された、対策が不十分にとどまった要因に対して因果分析を行い、冷温停止の失敗に至る因果関係図を描く。その結果に基づき、専門分化・分業の弊害、絶対安全を求める心理という二つの本質的な要因が抽出される。後者に焦点を当て、不安喚起モデルを用いて不安が解消される過程に基づき、対策が不十分にとどまった経緯との関係、信頼の役割、地域マネジメントの意義と役割を論ずる。 【キーワード】 因果分析、低温停止の失敗、専門分化・分業の弊害、絶対安全を求める心理、不安喚起モデル、信頼の役割、地域マネジメントの意義と役割	堀井　秀之（東京大学大学院教授）	堀井　秀之（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	自主解決の支援	第2章から第6章では、東日本大震災における津波防災教育に関わる事例と、原子力発電所事故の要因分析を取り上げた。自然災害である津波を引き起こすのは自然であり、人間がコントロールすることはできない。一方、原子力発電所は人間が造り出したものであり、事故自身を引き起こしたのが津波であったとしても、放射性物質の放出の源を造り出したのは人間である。一見、両者は無関係に思われるが、その背後には本質的な要点が存在している。本章では両者に共通する事柄を抽出し、地域社会の安全安心を確立するために重要な論点を導き出す。 【キーワード】 住民の心理、不安喚起モデル、自主解決、他社依存、思考停止、存在しない絶対安全、制御可能性、社会技術としての防災教育	堀井　秀之（東京大学大学院教授） 片田　敏孝（群馬大学理工学研究院教授）	堀井　秀之（東京大学大学院教授） 片田　敏孝（群馬大学理工学研究院教授）
8	リスクコミュニケーションと地域防災 －安全・安心科学技術プロジェクト（1）－	地域の安全・安心の実現には地域のステークホルダーの連携が不可欠となる。その際、具体的なリスク低減のための管理過程としてのリスクマネジメントに加えて、リスク情報を共有し意思疎通を図るための過程であるリスクコミュニケーションが重要な役割を果たすことになる。本章（回）では、リスクコミュニケーションを通じてステークホルダーが連携して取り組んだ地域防災の事例を紹介する。この時、特に情報の受信者・発信者という立場で住民をとらえ、円滑な情報の受発信を促進する技術とシステム、リスクコミュニケーションのあり方を検討する。 【キーワード】 ステークホルダー、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、安全・安心科学技術プロジェクト、住民・行政協働ユビキタス減災情報システム、地域防災SNS	奈良　由美子（放送大学教授）	奈良　由美子（放送大学教授） ゲスト：鈴木　猛康（山梨大学）
9	水害リスク軽減方策のコーディネーション －安全・安心科学技術プロジェクト（2）－	ハード対策のみならずソフト対策をも組み合わせた総合的水害リスク軽減の取り組みを進めるためには、関係主体を巻き込んだ計画立案が必要である。この回では、このような総合的水害リスク軽減に関する、滋賀県や熊本大学・熊本市を中心としたグループの取組みを取り上げ、マネジメントプロセスやコミュニケーションシステムの設計を中心に解説する。そのうえで、今後の発展の方向性や課題などについて議論していきたい。 【キーワード】 リスクガバナンスプロセス、住民参加、コミュニケーション、場づくり	多々納　裕一（京都大学防災研究所教授）	多々納　裕一（京都大学防災研究所教授） ゲスト：山田　文彦（熊本大学）
10	平常時・非常時の連動と地域防災 －安全・安心科学技術プロジェクト（3）－	非常時限定の防災はコストが大きすぎて形骸化しやすい。また、災害発生後は、住民の安否確認や被害状況の把握など情報管理のありようが損害最小化や迅速復旧の成否を分ける。発災後の情報管理を機能させるには平常時からの地域での情報システムの構築が欠かせない。この章では、平常時と非常時とを連動させた情報システムを構築することの意義と手法を、北海道遠軽町の取組みを中心に具体的事例を示しながら解説する。 【キーワード】 情報システム、平常時から非常時へのシームレスな移行、資源兼用、コスト、安否確認、自治体、住民	奈良　由美子（放送大学教授）	奈良　由美子（放送大学教授） ゲスト：角本　繁（東京工業大学）、畑山　満則（京都大学防災研究所）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	わが国の防災課題と今後のあり方 －人が死なない防災を目指して－	災害対策基本法に基づき行政主体で進められてきたわが国の防災は、阪神・淡路大震災や東日本大震災を除けば、災害犠牲者をここ最近の100人程度に激減させることに成功した一方、国民の災害に備える主体性の欠落をもたらした。ここでは、わが国の防災に対する国民意識にみる課題を整理するとともに、災害大国であるわが国において、国民一人ひとりが持つべき姿勢のあり方について考える。これをふまえ、災害に備える主体的姿勢を持つ国民を少しでも増やしていくための住民との防災教育、コミュニケーションのあり方について、事例を提示しながら考える。 【キーワード】 災害対策基本法、災害過保護、受け身の自助と内発的な自助、コミュニケーション、内部観察	片田　敏孝（群馬大学理工学研究院教授）	片田　敏孝（群馬大学理工学研究院教授）
12	大規模災害と防災計画 －総合防災学の挑戦－	「想定」を超える災害の発生可能性は常にあることに正面から向き合い、どのようにそのような事態に対処すべきなのか。本章では、まず、東日本大震災を現時点で振り返り、災害による影響の連鎖が被害を拡大していった過程を考察する。次いで、我が国における構造物の計画や設計の考え方を整理し、「想定」の果たす役割に関して考察する。さらに、想定を超えた場合の施設機能の付与に関する考え方を考察し、今後の防災施設整備の在り方に関して言及する。その上で、今回の災害がもたらした課題として、システムないしは地域総体としての災害に対する備えを構築すること、すなわち、総合的な災害リスク管理に関する方法論の構築が求められているという認識の下、この種のプロジェクトの評価を実施するための整合的被害評価の方法論を示して議論を締めくくる。 【キーワード】 超過外力、総合防災、整合的被害評価	多々納　裕一（京都大学防災研究所教授）	多々納　裕一（京都大学防災研究所教授）
13	災害と生活	地域マネジメントの最小単位の構成要素は生活者である。地域全体の防災力の向上という観点から、個々の生活者は防災の行為者であり、その能力と実践の向上は重要といえる。本章では、災害に対する生活リスクマネジメントについて考えていく。この時、被災の時間経過の中で生活が変化することを前提として、自助と共助の可能性と課題をとらえ直す。また、生活者の自らの防災に対する信頼、さらには地域に対する信頼の意義についても押さえたい。 【キーワード】 生活者、生活リスクマネジメント、被災と時間、自助と共助、地域への信頼	奈良　由美子（放送大学教授）	奈良　由美子（放送大学教授）
14	現場で役立つ防災技術 －プロセスの技術の重要性－	防災の現場で実際に役立つためには、技術はどのような要件を充足しなくてはならないのであろうか。本章では、現場で役立つ防災技術－プロセスの技術について、その概念や実践について検討したい。亀田弘行京都大学名誉教授は地震工学の権威であり、防災技術の研究・開発に永く関わってきた。文部科学省の安全・安心科学技術プロジェクトの立ち上げについてもリーダーとして関わり、その推進委員会の委員として現場で役立つ防災の技術、知恵、現場への適用戦略、プロセスの技術の重要性を常に指摘してこられた。ここでは、亀田名誉教授へのインタビューに基づき、プロセスの技術の重要性に関する亀田名誉教授の持論を紹介するとともに、防災技術の実装の課題について考える。 【キーワード】 現場で役立つ防災技術、プロセスの技術、現場への適用戦略、阪神・淡路大震災、アジア防災科学技術情報基盤(DRH)、災害情報システム、リスク対応型地域管理情報システム（RARMIS)、時空間GIS、安全・安心科学技術プロジェクト	堀井　秀之（東京大学大学院教授）	堀井　秀之（東京大学大学院教授） ゲスト：亀田弘行（京都大学名誉教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	地域社会の安全・安心を実現するための社会技術	前章までの内容をふまえて、設計基準外力を超える自然外力に対して人命を守る、避難等のソフト対策が有効に機能するようにするために必要な社会技術の要件を検討する。組織体制としては、行政と住民に支援組織を加えた3者モデルが必要である。支援組織が行う活動には、防災教育の支援、避難訓練等の支援、防災情報システムの研究開発があるが、それらの活動を進める際には、住民、行政の支援組織に対する信頼を醸成し、リスク認知やソフト対策への理解を深め、住民の行動変容を実現するように配慮しなければならない。防災教育や防災情報システムを個別に取り扱うのではなく、それらの要素を統合したシステム技術、すなわち社会技術としてとらえることが重要である。 【キーワード】 社会技術、3者モデル、支援組織、信頼、防災教育、避難訓練、防災情報システムの研究開発、住民の行動変容、システム技術	堀井　秀之 （東京大学大学院教授）	堀井　秀之 （東京大学大学院教授） 奈良　由美子 （放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847481	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 死生学入門 （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Introductory Lectures on Life and Death (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：石丸　昌彦　（放送大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

超高齢社会を迎え、人生の終わりを見つめこれに向かって歩んでいく時間は著しく長くなった。巨大な災害が一瞬にして数多くの人命を奪うありさまに直面したこともあって、「死」と隣り合わせの「生」についての人々の関心はこれまでになく高まっている。本科目では、不可避の宿命である「死」を人間がどのように受け止め、それをどのように「生」のあり方に反映しているかに注目し、さまざまな角度からこのテーマについて考える。執筆者一同の専門とする医療・看護領域を中心としつつ、はば広い文化領域を展望することを目ざしている。

授業の目標

「死」と「生」の意味づけはきわめて個人的なものである一方、社会的な背景や伝統の影響を強く受けている。本科目の履修を通じて受講者が「死」と「生」のそのような二面性を明確に意識し、社会の広がりと自己の内面とをバランス良く見渡しつつ、それぞれの死生観を育んでいくことを期待する。そうした作業に役立つ基礎知識と素材を提示し、考える機会を提供することが本科目の目標である。知識を習得すること以上に、考える姿勢を養うことを重視したい。

履修上の留意点

受講に先立つ予備知識は特に必要ないが、おのおのの関心に応じて広く関連事項を学んでいただきたい。自分自身の考えを明確にしていく主体性と共に、異なる立場や考え方に対して耳を傾ける謙虚な姿勢が、このテーマでは特に重要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	死生学とは何か	死生学は、複雑化した死生の問題に対応すべく生まれた新しい学問である。近代社会の進展は、人の死を隅々まで把握し公にすることを可能にした。また、医療者等の専門家は、死を自らの範疇に囲い込み、人々の日常生活から遠ざけた。加えて、都市化により伝統社会の解体が進み、病や死に応ずる集合的慣習が失われた。死生の問題は、当人や近親者等の私的な範囲か医療者等の専門家に頼ることで対処されることになった。さらに、死を囲い込んだ医療者は、近代医療の進展がもたらした新たな命の問題に直面することになった。これら死生をめぐる社会的状況が、死生学の登場と発展を促した。本章では、死生学の展開、定義、射程についても概観する。 【キーワード】 近代化の進展、公的な死と私的な死、死生観、終末期医療、死別悲嘆、デス・エデュケーション	山崎　浩司（信州大学准教授）	山崎　浩司（信州大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
2	死生観と宗教	死生観に関する人々の問いに答えを与えることは、宗教の重要な役割である。宗教の発信するメッセージが人々の死生観を支えるいっぽう、宗教の側でも他界を求める人々の心の求めに応じて教義を発展させてきた。今日の世界では、地域や文化によって宗教に対する人々の態度には大きな開きがあるが、宗教の影響は依然として死生観を考えるうえで重要な要因である。また、生命倫理に関する諸問題が浮上するにつれ、あらためて宗教の意義が問われている。本章では死生観と宗教のこのようなかかわりについて考察する。 【キーワード】 宗教、他界、キリスト教、仏教、神道、生命倫理	石丸　昌彦（放送大学教授）	石丸　昌彦（放送大学教授）
3	日本人の死生観	本章では日本人の死生観を歴史的に展望する。突発的に災害をもたらす自然条件や、仏教・神道と先祖の祭り、儒教と武士道などの文化的背景は、日本人の死生観に強い影響を与えてきた。明治維新以降の日本人は、開国に伴う大量かつ急速な情報の流入によってアイデンティティの動揺を来し、その中で死生観も大きく揺さぶられた。戦時体制下には偏った死生観が個人に押しつけられ、戦後はその反動として死生観に対する関心の低い時期が長く続いたが、近年ようやく冷静な目で生と死を見つめ考える機運が醸成されつつある。 【キーワード】 自然災害、固有信仰、武士道、文学、死生観の復権	石丸　昌彦（放送大学教授）	石丸　昌彦（放送大学教授）
4	喪と追悼：逝きし人〈死者〉と生者のつながり	死生観は自分自身の死に対する思索を深めるだけではなく、生きていく間に他者の死、死んだ人間と生きている自分がどのような関係を構築していくか、という課題も問いかけてくる。本章では、伝統的な喪、追悼、喪葬などの儀式を概観しながら、生者がどのように逝きし人〈死者〉との新たなつながりを作ろうとしているかを考えたい。 【キーワード】 葬儀・葬送、喪、看取り、死者と生者、回想	中山　健夫（京都大学教授）	中山　健夫（京都大学教授）
5	死生観：国と地域の視点から	死生観は「他人の死のありさま」に大きな影響を受ける。本章では国と地域の視点から、死亡を扱う統計で明らかにされる死の原因・理由、死の場所など死の態様、その延長として近年深刻化している孤立死の問題を考える。さらに「多くの人の死」が生じる災害という非日常でありながら、避けて通ることのできない問題を通して、苛烈な体験から死生観を問うことの困難さに触れたい。 【キーワード】 寿命、死因、在宅、孤立死、ソーシャルキャピタル（社会関連資本）、災害、PTSD	中山　健夫（京都大学教授）	中山　健夫（京都大学教授）
6	マスメディアで死生について考える	死生の問題は、老いた時、病いや障害に直面した時にだけ考えさせられるものではない。人は何気ない日常生活の中でも死生について考えさせられる。特にマスメディアには死生に関する情報が溢れており、読者や視聴者は実体験せずとも、それらを死生観や人生観を問いなおすべく活用できる。しかし、そもそも死生を題材にしたマスメディアの特徴は、どんなふうに捉(とら)えられてきたのだろうか。そして、どのようにマスメディアを活用すれば、死生に関する考察を深められるのだろうか。本章では、あるマンガを題材に死生の考察の具体例を示し、最後にその手順と留意点を確認する。 【キーワード】 マスメディア、死のポルノグラフィー、死のガイドライン、マンガ、メディア・リテラシー	山崎　浩司（信州大学准教授）	山崎　浩司（信州大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	「生と死」を生きる本人からの発信	1991年に誕生した根拠に基づく医療（evidence-based medicine: EBM）は世界の医療の大きな潮流となった。それに続き、一般論としてのエビデンスへの対照から、患者個人の内面的体験を重視するナラティブ・物語に基づく医療（narrative based medicine：NBM）が1999年に提唱され、多くの関心を集めている。今回は病気とともに生きる人々の手による「闘病記」の分析、がん患者の語りをデータベース化しインターネット上で公開する取り組みや、医療者教育への可能性などを通して、「生と死」を生きる本人からの発信という視点から死生学を考える。 【キーワード】 患者の語り・体験、ナラティブ、闘病記、インターネット、医療者教育	中山　健夫（京都大学教授）	中山　健夫（京都大学教授）
8	老いと死	老いとともに人は肉体的な衰えを自覚し、死に対する覚悟と準備を求められる。いっぽうで老いはエリクソンが指摘したとおり、発達の最終段階としての成熟と完成に至るプロセスであり、英知という肯定的な意味を獲得しうる段階でもある。こうした老年期を生きる人々が、目の前に迫る死とどのように向き合い、何を想い、いかなる最期を迎えているのか。超高齢社会を迎えた日本社会における老いの現状をふまえつつ、老いという生の成熟と、死という生の完成について考えてみたい。 【キーワード】 超高齢社会、老い、成熟、サクセスフルエイジング、健康な死	井出　訓（放送大学教授）	井出　訓（放送大学教授）
9	病い経験と「生」	病いがある人は、そうでない人々に比べて、「死」を意識したり様々な困難に直面したりすることが多いだろう。その病い経験は、その人の「生」に混乱を生じさせ、場合によっては将来展望や生きがい感を喪失させ、精神健康を悪化させるなど、ネガティブな影響を健康面にもたらす。しかしながら一方で、人生の再構築を図り、あるいはストレスをあたかも糧にするかのごとくに、家族や友人との関係の強化、自分自身の成長など、ポジティブな影響をもたらす場合も多いとされる。本章では、病い経験の中で、「病い」が「生」に対してもたらす影響について、ネガティブな面とともにポジティブな面について考えていく。 【キーワード】 病い経験、慢性疾患、人生の再構築、ストレス関連成長	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）
10	遺族の喪失体験とグリーフワーク	家族や友人など近い関係の人と死別し喪失した後の経験については、悲嘆やグリーフワークとしてしばしば論じられる。ここではまず、グリーフワークの基本的な考え方と歴史的動向について紹介する。また、犯罪被害などviolent deathによる死別と疾患などnatural deathによる死別との違いをはじめ、どのような死別であったのかによって遺族の悲嘆やグリーフワークの様相が大きく異なることを紹介する。特に、段階的に進むとしばしば指摘されていたグリーフワークだが、そう考えるのは必ずしも適切ではないと近年では指摘されていることも紹介する。さらに、遺族への接近や支援の仕方の一端についても学ぶ。 【キーワード】 死別、悲嘆、グリーフワーク、グリーフケア	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	自己決定権	現代社会においてはさまざまな領域で、自己に関連する決定はあくまでも本人自身に委ねられるという自己決定権が強く叫ばれている。本章では医療における自己決定権に焦点を当てる。歴史を振り返ってみて、自己決定権をまったく無視したヒトを対象とする科学研究がどのように行われてきたのだろうか。そして、その反省をもとに成立した現代医療における自己決定権について考えていく。 【キーワード】 自己決定権、ヒポクラテスの誓い、人体実験、ヘルシンキ宣言、インフォームド・コンセント	高橋　祥友（筑波大学教授）	高橋　祥友（筑波大学教授）
12	ターミナルケア	医療技術が画期的に進歩した現代社会においても、人はいつかかならず死を迎える。人生の終末期において、単に延命を図るのではなく、身体的苦痛や心理的苦痛を和らげ、生活の質を保ちつつ、穏やかに死を迎えられるようにするには、どのような点について考えていかなければならないのだろうか。誰にもいつか迫り来る死とその際にどのような治療を望むかについて考えていく。 【キーワード】 ターミナルケア、緩和ケア、終末期医療、ホスピス、QOL	高橋　祥友（筑波大学教授）	高橋　祥友（筑波大学教授）
13	自殺予防	わが国では1998年以来、年間自殺者数約3万人という緊急事態が続いている。このような現状を直視して、2006年には自殺対策基本法が成立し、自殺予防は社会全体で取り組むべき課題であると宣言された。本章では自殺予防のために、その現状、予防の基本概念、対応の原則について解説する。早期の段階で問題に気づき、適切な対応をとることで、自殺予防の余地は十分に残されている。 【キーワード】 自殺、自殺未遂、危険因子、事故傾性、自殺対策基本法	高橋　祥友（筑波大学教授）	高橋　祥友（筑波大学教授）
14	尊厳死	最近では、安楽死という言葉を用いずに、尊厳死がしばしば使われているが、尊厳のある死を迎えるというのはどのような意味があるのだろうか。世界に見られる尊厳死の合法化の動きを追いながら、消極的尊厳死、積極的尊厳死、医師の幇助による尊厳死などさまざまな概念を解説する。 【キーワード】 消極的尊厳死、積極的尊厳死、医師の幇助による尊厳死	高橋　祥友（筑波大学教授）	高橋　祥友（筑波大学教授）
15	死生学の理論と展望	本コースのまとめとして、死生学の基本的な共通言語たるべき理論をいくつか概観しつつ論じる。取り上げるのは、死のタブー化論、公認されない悲嘆論、環状島理論、共感都市理論であり、いずれも死生学原産とはいいがたいが、この学際的な学問の基盤を固め、今後の発展を促すと考えられる理論である。最後に死生学の展望についても若干考察し、核・原子力の問題に取り組んでゆくことが、特に日本の死生学にとってひとつの重要な役割であることを示唆したい。 【キーワード】 死のタブー化、公認されない悲嘆、環状島、共感都市、核・原子力	山崎　浩司（信州大学准教授）	山崎　浩司（信州大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847546	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 証券市場と私たちの経済 （’１５）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 The Role of Securities Market in Our Economy (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：野間 敏克 （同志社大学教授） 〕

【本学担当専任教員：坂井 素思 （放送大学教授） 】

講義概要

2008年のリーマンショックの時、証券市場で生じた問題が金融システム危機につながり、世界同時不況をもたらした。証券市場は、情報通信技術の発達や金融技術革新によって様変わりしており、社会的役割や経済に与える影響も変化している。日本では国民の大部分が預貯金だけを貯蓄手段とし、証券市場との直接的関係は薄かった。しかし企業や政府は証券市場に大きく依存しており、銀行や投資信託を通して、間接的には証券市場と国民生活との関係は密接になっている。この講義では、重要性を増している証券市場の仕組みを学び、それが私たちの経済社会に与える影響を幅広い観点から考える。

授業の目標

大きく分けて三つの目標がある。第一に、証券市場の仕組みと機能の基礎を学ぶこと、第二に、新しい証券投資の手段や金融技術を知ること、そして第三に、それらを生活者として利用するために、証券市場の動向を見る目を養い経済社会に与える影響を理解することである。 この講義は、様々な人々にとって有益だろう。目の前の資産運用が大きな関心となっている高齢者、住宅ローンを抱え老後が心配な現役世代、国債や年金という負担を押しつけられそうな若年世代など、多くの人にとって、証券市場の動向を知り、その機能を最大限に発揮させることは大きな生活課題であり、政策課題でもある。

履修上の留意点

「経済学入門」「現代経済学」「社会と銀行」を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	金融と証券	金融取引とは何か、それにどのような特徴や課題があって、金融市場や金融機関がどう対応しているのかを理解する。また日本の金融制度の基礎を学び、その中の有価証券の種類と代表的な証券市場を紹介する。 【キーワード】 貯蓄、借入、情報の非対称性、情報生産、不確実性、金融機関、金融市場、間接金融、直接金融、証券市場、発行市場、流通市場	野間 敏克（同志社大学教授）	野間 敏克（同志社大学教授）
2	家計貯蓄と証券	家計は、最大の貯蓄主体として巨額の金融資産ストックを保有している。しかしフローでみると、日本の貯蓄率は急速に低下した。その事実をデータで確認し、原因をさぐってみると、人口の高齢化や経済成長の低下と密接に関係していることがわかる。また、欧米に比べ証券保有の少ない日本でも、高齢者の高貯蓄者は比較的証券を保有している。その意味についても考えよう。 【キーワード】 貯蓄率、部門別資金過不足、ライフサイクル、流動性制約、高齢化、ジニ係数、金融資産構成	野間 敏克（同志社大学教授）	野間 敏克（同志社大学教授）
3	企業と証券市場	最大の赤字主体であった企業が行ってきた資金調達を振り返り、資金調達の決定に関する理論的な考え方を学ぶ。外部資金に依存する企業においてはエージェンシー問題が発生する。それを解決するコーポレート・ガバナンスの問題も資金調達と密接に関係していることを理解する。 【キーワード】 負債と資本、企業価値、資本コスト、モディリアーニ・ミラーの定理、エージェンシー問題、コーポレート・ガバナンス	野間 敏克（同志社大学教授）	野間 敏克（同志社大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	リスクと証券	証券によるリスク移転の機能を確認し、証券のリターンがリスクと密接に関係していることを学ぶ。投資を分散することによるリスク軽減効果などのポートフォリオ理論の基礎を、数字や数式も使いながら学ぶ。 【キーワード】 リターン、リスク、標準偏差、分散投資、ポートフォリオ理論、CAPM、リスク指標、ベータ	野間　敏克（同志社大学教授）	野間　敏克（同志社大学教授）
5	株式の役割	出資による資金調達の意味を理解する。譲渡自由の原則、有限責任制、所有と経営の分離など、現代の株式会社の特徴を学ぶ。コーポレートガバナンスのあり方について考察する。投資者の立場から株価の投資尺度と、株価と資金配分の効率性の関係を理解する。 【キーワード】 出資、譲渡、有限責任、所有と経営の分離、株主総会、コーポレートガバナンス（企業統治）、配当利回り、PER（株価収益率）、PBR（株価純資産倍率）	清水　葉子（福井県立大学准教授）	清水　葉子（福井県立大学准教授）
6	証券取引の仕組み	証券取引所と証券会社が証券の流通に果たす役割を理解する。証券取引所の諸制度と、市場間競争や取引所の株式会社化など新しい動きを学ぶ。証券会社の業務を理解し、インターネット証券の登場や証券販売チャネルの拡大などの変化について学ぶ。 【キーワード】 証券取引所、上場、清算と決済、自主規制、ブローカー業務、ディーラー業務、アンダーライティング業務、セリング業務、市場間競争、インターネット証券	清水　葉子（福井県立大学准教授）	清水　葉子（福井県立大学准教授）
7	債券投資の基礎	国債や社債などの債券は預金、株式と並んで個人投資家にとって重要な投資対象の一つである。本章では、債券の基本的性格と種類、発行条件といった基礎知識について説明し、その後に金利・債券の利回りと価格との関係、債券投資の性格とリスクについて説明する。 【キーワード】 債券、利回り、債券の価格、債券投資のリスク、格付け	須藤　時仁（獨協大学教授）	須藤　時仁（獨協大学教授）
8	国債市場拡大の意味	債券のなかで、発行市場でも流通市場でも最も大きな比重を占めるのが国債である。国債の種類や発行の仕方を整理した後、国債のリスクとリターンについて学ぶ。また、日本の国債発行と国債残高の推移を振り返り、それが経済社会全体にもっている意味を考えよう。 【キーワード】 国債発行市場、国債流通市場、個人向け国債、物価連動債、リスク、リターン	野間　敏克（同志社大学教授）	野間　敏克（同志社大学教授）
9	証券市場の社会的役割	証券市場は、資金配分やリスク配分の機能をはじめ、いくつかの機能をもっている。それらの機能が発揮されるためには、投資家が合理的で証券市場が効率的であることが重要なことを理解しよう。だが、実際には投資家は非合理だとする行動ファイナンスの議論もさかんに行われている。 【キーワード】 資金配分、リスク配分、資源配分、証券価格、トービンのq、効率的市場、アノマリー、行動ファイナンス	野間　敏克（同志社大学教授）	野間　敏克（同志社大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	バブル経済と証券	証券市場では、しばしばバブルが発生する。代表的なバブルの構図とその影響を振り返り、いくつかの共通点をさがそう。その後、代表的なバブルの理論を学び、最後に、日本の80年代後半のバブルの背景、原因、結末などを整理する。 【キーワード】 チューリップ・バブル、南海泡沫事件、大恐慌、配当割引モデル、合理的バブル、プラザ合意、円高不況、ブラックマンデー	野間　敏克（同志社大学教授）	野間　敏克（同志社大学教授）
11	投資信託の魅力	投資信託はその特性により、家計の主要な資産運用商品として期待されている。またNISA（少額投資非課税制度）の創設などにより、その重要性は増すことが予想される。本章では、投資信託の基礎的な仕組みと、家計が自らに適した投資信託を選別するために必要な情報等について理解することを目的とする。 【キーワード】 投資信託の仕組み、投資信託の手数料、投資信託の分類、目論見書、運用報告書、NISA（少額投資非課税制度）	若園　智明（日本証券経済研究所主任研究員）	若園　智明（日本証券経済研究所主任研究員）
12	証券投資における投資家保護	証券への投資は自己責任原則に基づく。しかしながら、このような自己責任原則を求めるためには、十分な投資家保護制度が整備される必要がある。本章では、日本の投資家保護制度の概要を理解し、また、広い意味での投資家保護と言える家計が備えるべき金融知識の普及・啓発について考えることを目的とする。 【キーワード】 自己責任原則、金融商品販売法、金融商品取引法、預託資産の分別管理、投資者保護基金、金融ADR制度、金融知識の普及・啓発	若園　智明（日本証券経済研究所主任研究員）	若園　智明（日本証券経済研究所主任研究員）
13	証券化商品	新しい金融商品のなかには、証券化技術を駆使したものも増えている。証券化の仕組みと、それによって投資対象となった代表的な商品の特徴を学ぶ。また、複雑化した金融の仕組みが新たな問題を生み出していることを、サブプライム問題を通して知る。 【キーワード】 市場型間接金融、資産担保証券、RMBS、REIT、サブプライム・ローン	野間　敏克（同志社大学教授）	野間　敏克（同志社大学教授）
14	デリバティブ	証券市場では、デリバティブと呼ばれる金融派生商品の開発がすすみ、既存の金融商品と組み合わせることで自らリスクヘッジする手段も増えてきた。複雑にみえるデリバティブのうち先物とオプションを取り上げて特徴を解説し、利用の仕方を考える。 【キーワード】 リスクヘッジ、先物、証拠金、差金決済、裁定取引、投機、スワップ、オプション	野間　敏克（同志社大学教授）	野間　敏克（同志社大学教授）
15	財政危機、通貨危機、金融危機	金融技術の発達、グローバル化、金融化などによって新たな金融危機が生まれ、財政との関係も密接になっている。現代社会が抱えている金融リスクに、消費者や企業がどう対応するのか考え、証券市場においても「信用」が最も重要なことを再確認する。 【キーワード】 グローバル化、金融化、財政危機、ギリシャ危機、ソブリンリスク、ユーロ危機、金融安定理事会、証券監督者国際機構	野間　敏克（同志社大学教授）	野間　敏克（同志社大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847465	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 途上国を考える （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Reconsidering Development (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：髙木 保興 （東京大学名誉教授） 〕

〔主任講師（現職名）：河合 明宣 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

これまで当たり前と思われていた途上国開発に関する分析や提言をもう一度考え直してみると、異なった考え方もできる、別の提言も可能になることを示すこと。それによって、学者の意見や国際機関から発せられる提言について、一人ひとりが鵜呑みにせずに、考えてみることの重要性を明らかにしたい。

授業の目標

一部の地域事情や成長率の推移、あるいは、個別の援助プロジェクトなどは各自で勉強してもらい、ここではもっと根本的と思われる問題を議論する。前半は途上国が直面する問題を、後半は先進国や国際機関、あるいは、国際NGOや大企業が「途上国のため」と判断して実行する「援助」について考える。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	イギリスの産業革命を考える	今日の南北格差の主原因は産業革命を達成したか否かによる。多くの途上国はなぜ産業革命を達成できないのか。この問題を考えるために、なぜ18世紀にイギリスで産業革命が起きたのかを調べ、途上国に欠けている条件は何かを考える。 【キーワード】 産業革命、市民革命、宗教改革	髙木 保興（東京大学名誉教授） 河合 明宣（放送大学教授）	髙木 保興（東京大学名誉教授） 河合 明宣（放送大学教授）
2	途上国「国家」を考える	多くの途上国に共通する特徴は、政治に不安定要素を抱えていることである。植民地統治の「負の遺産」の中で、宗主国による国境画定と民族・部族・宗教等のアイデンティティの強調政策を採りあげ、独立後の国民統合の困難さを考える。政府が安定性維持を最優先にすると、社会変化をもたらす産業革命は敬遠されるのではなかろうか。 【キーワード】 植民地時代の負の遺産、国家のまとまり	髙木 保興（東京大学名誉教授） 河合 明宣（放送大学教授）	髙木 保興（東京大学名誉教授） 河合 明宣（放送大学教授）
3	国際政治経済環境を考える －戦後から債務問題まで	途上国の置かれた戦後の国際政治経済環境は途上国の開発にとって望ましい状況を提供してくれたのであろうか。戦後から債務問題までの期間を検討する。 【キーワード】 国連開発の10年、石油危機、債務問題	髙木 保興（東京大学名誉教授） 河合 明宣（放送大学教授）	髙木 保興（東京大学名誉教授） 河合 明宣（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	国際政治経済環境を考える －構造調整から通貨危機まで	途上国の置かれた戦後の国際政治経済環境は途上国の開発にとって望ましい状況を提供してくれたのであろうか。構造調整から通貨危機までの期間を検討する。 【キーワード】 構造調整、冷戦崩壊、グローバリゼーション	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）
5	第一次産業の開発を考える	産業革命において、第一次産業の果たす役割を考える。農業部門の成長に大きく貢献したと思われる3つの挑戦を紹介し、産業革命に先だって、あるいは、産業革命と並行して求められる農業改革について考える。 【キーワード】 農業余剰、余剰労働、慣習の打破	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）
6	第二次産業の開発を考える	農業よりも生産性の高い雇用機会の提供が第二次産業に課された役割であるが、未成熟な国民国家という途上国に共通した特徴がなぜ工業化の阻害要因となるのか考える。 【キーワード】 社会（関係）資本、民族・部族間所得格差	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）
7	第三次産業の開発を考える	第二次産業と平行して、あるいは、第二次産業の後に比重が大きくなると考えられてきた第三次産業であるが、インドのIT産業の目覚しい発展は第二次産業とは独立に第三次産業の発展が可能であることを示した。途上国には、工業化（第2次産業化）を走り続ける中国と「知価革命」を進めるインドとの2つの選択肢が示された。どちらの道を目指すべきなのかを考える。 【キーワード】 インド型発展、輸出可能なサービス産業	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）
8	工業化に伴う問題を考える	途上国の首都によく見られる交通渋滞とスラム、それに環境問題。それぞれの問題に個別に対応しようとすると適切な対策が採用されにくい。急速な工業化に伴って発生してきた問題と考えると、対処が異なってくることを議論する。 【キーワード】 首都一極集中、スラム、環境問題	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）
9	国際社会のサポートを考える	1980年代の世界銀行や国際通貨基金（IMF）による構造調整やアジア通貨危機後にIMFが求めたコンディショナリティは多くの途上国には不適切なものであった。なぜ国際機関による提言や勧告は的を外れるのであろうか。政策が効果を発揮しうる「場」について考える。 【キーワード】 ワシントン・コンセンサス、コンディショナリティ	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）
10	貧困削減を改めて考える	貧困削減という言葉は2通りの意味合いに使用される。8項目からなるミレニアム開発目標にも両者が混在している。絶対的貧困と相対的貧困の間にはどのような関係があるのか考える。 【キーワード】 南北問題、ミレニアム開発目標	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	BOPビジネスを考える	1日2ドル以下で暮らす社会の底辺階層の人たちは、これまで民間企業の顧客とはみなされてこなかった。しかし、地球全体で40億人にも上るので、この人たちをターゲットにしたビジネスもうまくやれば利潤をあげることができるのではないかというアイデアがアメリカの経営大学院の先生から生まれた。事例として紹介されているBOPビジネスを検討し、援助関係者が途上国の開発にも役立つのではと力を入れ始めたBOPビジネスを考える。 【キーワード】 BOPビジネス、貧困層優先成長	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）
12	政府開発援助を考える	1つの途上国の1つの地域に10年から20年継続して政府開発援助（ODA)を注ぎ続けることは困難である。ODAによって有効な効果を期待することはできるのだろうか。どのような分野であれば、少なくとも望ましい効果を期待できるのだろうかを考える。 【キーワード】 ODA、説明責任、援助効果の持続性	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）
13	企業の社会的責任、非政府組織、そして、社会的企業を考える	政府、あるいは、国際機関以外に途上国の開発に関係しているアクターとして、民間企業と非政府組織（NGO)と非営利の社会的企業の長所と短所を比較し、今後大きな成果を上げるにはどうすれば良いかを考える。それぞれのアクターが個別に活動するよりも、各アクターの長所を生かせるような協力関係の構築も1つの選択肢である。 【キーワード】 企業の社会的責任（CSR)、NGO、社会的企業	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）
14	途上国政府の役割像を考える	国際社会は途上国に対してどのような政府の役割を期待し、勧告・提言を行ってきたか。1960年代から2000年代までその役割像の変遷を概観し、今後の途上国政府に期待される役割について考える。 【キーワード】 成長から生活保護へ、大きな政府から小さな政府へ、人間の安全保障	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）
15	途上国の明日を考える	国際社会の提言からの教訓は、途上国政府自ら自国に適した開発政策を考えることができる体制の構築である。ミレニアム開発目標に盛り込まれた目標は多くの途上国にとって実現不可能な目標ではないか。実現に必要な財源をいかにして捻出するのか。現在世代の生活保護か将来世代の生活水準アップか、どちらも重要で優劣付けがたいが、持続性を考えれば政策を継続できる財源確保を優先すべきではないかというのが著者の見解である。そのための政策の選択肢について考える。 【キーワード】 ブミプトラ政策、国営企業	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）	髙木　保興（東京大学名誉教授） 河合　明宣（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847554	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 世界の中の日本 （’１５）＝ (TV)

英文名 ＝ 〔 Japan in the Age of Globalization (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：高橋　和夫　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

幕末以来、日本人が手本としてきた外国は欧米の大国であった。しかし、それが本当に国民に幸福をもたらしたのだろうか。所得ばかりでなく、教育、医療、女性の社会進出、治安、環境の保全などの指標で測った際に世界最高の生活水準とされるのは、大国ではなく北欧諸国である。日本でも、大国の地位ではなく国民の生活水準の向上を国家目的とする選択が示されても良いのではないだろうか。
そうした問題意識の下で、北欧諸国の経験を踏まえながら、外交、人口減少、外国人労働者、移民、メディアなどの面での日本の課題に光を当てる。世界の中の日本を北欧という鏡に映し出しながら語りたい。

授業の目標

グローバル化は、世界の中に「日本」が入り込み、日本の中に「世界」が入り込むという「入れ子構造」を伴って進展している。その入れ子構造の実態を理解し、さまざまな境界が内と外から溶けていくかに見える社会変化の中で、その方向性を見据え、日本のアイデンティティや役割を考えよう。別の言葉で表現すれば、グローバル化と呼ばれる現象の中で日本社会が直面する問題を考えるための知的な枠組みを提供したい。

履修上の留意点

この科目は学部における学習の総仕上げを目指す総合科目である。社会学、国際政治、環境、メディアなど、幅広い領域の基礎知識をもって学んでいただきたい。「国際理解のために('13)」「現代の国際政治('13)」「ロシアの政治と外交('15)」「パレスチナ問題('16)」などの関連する分野の科目の履修が望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	新しい国家像を求めて ～大国モデルからの離脱～	北欧には大国が存在しない。そこにあるのは、しかしながら世界の羨望(せんぼう)の的となる福祉国家群である。特にノルウェーはUNDPの調査で毎年のように世界一の生活水準の国に選ばれている。また同時に福祉の基礎となる経済においても北欧諸国は高い競争力を誇っている。こうした北欧から日本を含む東アジアは何を学ぶべきなのだろうか。 【キーワード】 生活水準世界一、小国優位の時代、ノルウェーの中東政策、北極圏のイスラム、北海の分割、北極圏	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
2	戦うフィンランド	ソ連(ロシア)という隣国を持つフィンランドという小国が直面してきた苦難の歴史を振り返る。そのハイライトはソ連との冬戦争であり継承戦争である。そして第二次世界大戦後の「フィンランド化」と呼ばれる外交的な選択を解説する。 【キーワード】 「霧のカレリア」、冬戦争、継承戦争、マンネルハイム、「フィンランド化」	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	フィンランドのような国	日本を含む東アジアのハイテク国家群とフィンランドを含む北欧諸国との違いは、高い競争力でもないし、テストでの高い成績でもない。それは前者が社会基盤の存続を脅かすほどの少子高齢化に直面しているのに対し、後者が人口減少に歯止めをかけ出生率を再上昇させるのに成功している点だ。後者の成功を支えたのは、福祉の充実である。福祉は、贅沢（ぜいたく）ではなく社会を存続させ発展させるための不可欠の要素である。これがフィンランドのような国が東アジアに与える本当の教訓である。 【キーワード】 「アメリカの夢」、教育改革、PISAでの成功、フィンランドの本当の教訓	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
4	オスロ合意	北欧の小国ノルウェーが、なぜ中東和平で大きな役割を果たしたのだろうか。その理由は、この国が問題に対して中立であると見られたからではなかった。それはノルウェーが親イスラエル的だと認識されていたからである。 【キーワード】 「ノルウェーの森」、アラファト金脈の構図、抱擁の代価、親イスラエル国家ノルウェー、握手の報酬	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
5	ノルウェー外交の道	ノルウェーの外交の特徴を紹介する。その一つは、NGO（非政府機関）を通じた援助の実施であろう。これが現地に多くの自国民を派遣することを可能にしている。そして人的関与がノルウェーの国際的な存在感を生み出している。 【キーワード】 NGO、UNIFIL、NPA、NORWAC、イスラエルのガザ攻撃、クラスター爆弾禁止条約	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
6	北極圏のイスラム	ノルウェーのイスラム教徒の実情は。そして、いかにイスラム教徒はノルウェーに適応しているのか。さらに、いかにノルウェー社会がイスラム教徒を受け容れているのか。 【キーワード】 ユーラビア、ノルウェーのイスラム教徒、ダブル、白夜のラマダン	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
7	静かなる北海	伝統的な豊かな漁場として知られた北海で天然ガスと石油が発見された。この豊かな北海を周辺国は、いかに分割したのであろうか。北海の静かなる平和的な分割の過程を振り返る。 【キーワード】 青い目のアラブ人、トルーマンの海洋に関する宣言、大陸棚、中間線と等距離主義	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
8	北極海／クールな外交の海	地球温暖化が北極圏の氷を溶かし始めた。これによって北極圏を航行するルートが開かれた。また北極圏の資源開発が可能になってきた。誰が、この北極圏を支配するのか。北極をめぐる一番新しい国際政治を考える。 【キーワード】 冷戦、北極圏航路、イルリサット宣言、バレンツ海の分割、北極評議会	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
9	日本は広い	排他的経済水域を含めると日本という国は、驚くほど広い。この水域に広がる豊かな資源を紹介する。また資源を守るための努力に言及する。さらに領土問題の構造を論じる。 【キーワード】 排他的経済水域、海底熱水鉱床、メタンハイドレート、コバルトリッチクラスト、領土問題の構造	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	メディアの風景	インターネットの普及が、メディアの世界を大きく変えつつある。新聞購読者の減少、若者のテレビ離れなどが伝えられる。また福島での原発事故の報道は、日本のメディアのあり方に大きな疑問を投げかけた。こうしたメディアの新しい風景を描く。 【キーワード】 原発事故、戦争報道、再販制度、衛星テレビ、フリー・ペーパー、ニュー・メディア	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
11	三丁目の日没後／人口動態と国際政治	世界の人口動態を概観する。日本の少子高齢化問題を考える。そして人口動態が国際政治に与える影響を考える。 【キーワード】 長期的人口動態、人口構成、高齢化社会、限界集落、一人っ子政策	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
12	異邦人か、隣人か？外国人労働者	日本の少子高齢化が続き、労働者の不足が起こり始めた。そうした背景から、外国人労働者への期待も高まっている。日本における外国人労働者の実態をみる。外国人労働者受け入れ賛成の立場と、反対派の議論を紹介し、この問題を考える材料を提供する。 【キーワード】 「開国派」、「鎖国派」、高度人材、日本型移民政策、日本語教育、日系外国人、インドネシア人看護師候補者	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
13	郷に入れば四に従う／日本のイスラム教徒	日本とイスラム世界の関係は、一般に知られている以上に深い。第二次世界大戦前に日本の軍部はイスラム世界との関係を深めようとしていた。この埋もれた歴史を紹介する。しかし議論の焦点は、現在の日本で生活するイスラム教徒の実情である。少数派のイスラム教徒と多数派である非イスラム教徒の共存を考える。 【キーワード】 大日本帝国のイスラム政策、代々木のモスク、大川周明、査証免除協定、モスク・ブーム、中古自動車輸出業	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
14	「石巻の物語」／情けは人のためならず	世界で救援活動を経験したNGOが東北大震災での救援で果たした役割を考える。特にボランティアの組織化に注目する。将来の災害に備え、ボランティアを組織する人材の必要性を訴える。 【キーワード】 NGO、海外での経験、阪神淡路大震災、ボランティア元年、東北大震災、善意の組織化、次の災害に備えて	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）
15	グローバル化、北欧、日本	グローバル化が日本に引き起こしているのは、急激な社会変動である。グローバル化とは急速な社会変化の別名でもある。この変化への対応が日本に求められている。しかし、変化は飛躍のための機会でもある。この変化の時代に、日本の行くべき方向を考える。 【キーワード】 ハブ、コール・センター、バンガロール、大連	高橋　和夫（放送大学教授）	高橋　和夫（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847520	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 多様なキャリアを考える （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Considering the Diversified Career of Occupation and Life (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：道幸 哲也 （北海道大学名誉教授） 〕

〔主任講師（現職名）：原田 順子 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

この授業はキャリア全般を論じ、本学の多様な学生が各ライフステージで自身の道を選択したり、キャリア上の決断を行ったりする一助となることを目指す。最初に、「職業キャリア」について、なぜその発展が必要なのかを、いくつかの観点（個人の幸せ、経済的自立と家族、外国との競争、企業間の競争等）から解説する。次に、職業キャリアの形成がどのように行われるか、職業訓練や企業内キャリア形成の現状を学習する。さらに、労働者の権利に関して、法律論を展開する。たとえばパワーハラスメントのように、比較的新しい概念を紹介することで、社会人学生の興味にも応えたい。さらに、ライフコースの概念を紹介し、職業キャリア以外にも「キャリア」（たとえば、学齢期のキャリア、どういう友人を作ったかというキャリア、地域生活のキャリア、地域間移動のキャリア等）があることを理解する。現代人は、人生の随所に、お金を稼いでいない時期がある。専業の学生、子育て、介護、定年退職などの時期を実り豊かに生きることは、本人にとって重要である。くわえて、それらの時期の社会への影響について議論する。

授業の目標

現在、一般の大学において「キャリア教育」を実施することが義務化されており、放送大学においてもこれについて学習したいと考える。しかし、本学の学生には、様々な働き方をしている人々、定年退職者、主婦、障がいをお持ちの方など、多様な方がいる。したがって、金銭的対価を得る労働以外の価値について、「ライフコース」という概念を含めて考える。本学の学生にとって自己の「キャリア論」確立の助けとなり、かつ他人のキャリアの方向性を理解する素地をつくる。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	キャリアについて	この講義を通じて考える「多様なキャリア」について説明する。全15回・章において、職業キャリアを主軸にしながらも、その他の多様なキャリアにも議論を広げる。 【キーワード】 キャリア、ライフコース、産業人材の育成、職業的自己概念	原田 順子（放送大学教授）	原田 順子（放送大学教授）
2	日本人の職業キャリアと勤続性 －職業キャリアには、どのような特徴があるのだろうか－	なぜ人は働くのか。現代社会において、労働者が職業キャリアを積んでいくという現象がなぜ重要だと考えられるのだろうか。この章では、職業キャリアの特徴について見ていくが、経済的目的だけが働く目的ではなく、それ以外の重層的で多様な目的についても、キャリア形成の上では重要であることに注目する必要がある。職業・雇用の勤続性という在り方にどのような特徴がありうるのか、という点を見ていきたい。 【キーワード】 人的資本、勤続性、功績性、技能、生きがい、長期雇用、働く目的	坂井 素思（放送大学教授）	坂井 素思（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	日本の労働市場変化と職業キャリア ー賃金カーブはなぜフラット化するのだろうかー	賃金プロファイルは、年齢上昇に応じて、どのくらいの賃金水準を得ているかについての軌跡を追っているものであるが、この動きを観察すれば、職業キャリアの様相を間接的に見ることができる。賃金水準には、職業キャリアが直接・間接的に評価され反映されていると見ることができる。この賃金水準を決定している日本の労働市場では、「年功賃金制」から「職能資格制度」、そして「成果主義賃金制度」へと、それぞれ併行しながらも、変化をとげてきている。この章では、賃金プロファイルの動向を観察しながら、日本の労働市場にどのようなことが起こって来ているのか、あるいは、職業キャリアがどのような対応を迫られているのかについて考えていく。 【キーワード】 賃金プロファイル、年功賃金制度、職能資格制度、成果主義	坂井　素思（放送大学教授）	坂井　素思（放送大学教授）
4	正規と非正規雇用労働者の職業キャリア ーなぜ非正規雇用は増大するのだろうかー	近年、非正規雇用が急速に増大傾向を見せている。この章では、非正規雇用には、どのような特徴が存在するか、さらになぜ非正規雇用は、増大するのか、について見ていくことにする。非正規雇用の在り方は、従来と異なる職業キャリアのパターンを見せることになる。 【キーワード】 非正規雇用、少子高齢化、サービス経済化、グローバル化	坂井　素思（放送大学教授）	坂井　素思（放送大学教授）
5	職業キャリアの形成	社会において職業キャリアは、企業、行政、家計の力に支えられている。人的資本の形成の様々な側面について解説する。 【キーワード】 人的資本、一般的技能、企業特殊的技能、自律的キャリア開発	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）
6	企業が求める人材の変化	企業が求める人材の変化を歴史的に解説する。 【キーワード】 人材ニーズ、雇用形態の多様化、コミュニケーション能力	角方　正幸（リアセックキャリア総合研究所所長）	角方　正幸（リアセックキャリア総合研究所所長）
7	キャリア開発支援の動向	高校生～社会人が身につけるべきキャリア・アダプタビリティとその支援の動向を解説する。 【キーワード】 キャリア・アダプタビリティ、キャリア自律、早期離職	角方　正幸（リアセックキャリア総合研究所所長）	角方　正幸（リアセックキャリア総合研究所所長）
8	職場の人間関係と法	働き方に余裕がなくなっている。人間関係が希薄になっているとともに職場において多様な紛争が増加している。本章では職場の人間関係、とりわけ最近のハラスメント紛争の背景や特徴、さらに法的紛争化を回避する工夫を検討する。 【キーワード】 セクハラ、パワハラ、労働者人格権、プライヴァシー、自己決定権、職場いじめ	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）
9	企業内キャリア	ひとつの企業・組織のなかに様々な雇用形態が含まれる。人材育成を重視することは日本企業の特徴とされてきたが、雇用形態による差異があることを含み説明する。 【キーワード】 OJT、Off-JT、雇用ポートフォリオ	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	キャリア権の考え方	職業的キャリアを支えるキャリア権の考え方を憲法規定や職業開発法制の関連規定にもとづき検討し、さらに生成途上にある労働契約上の位置づけについて関連裁判例を素材に考察する。 【キーワード】 キャリア権、幸福追求権、労働契約、就労請求権、職業訓練法制、労働者人格権、教育研修、競業避止義務	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）
11	多様な働き方と労働法の役割	生活を現実的に支えるためには仕事や労働中心のキャリアが重要である。本章では労働の現状とそれに対する政府の基本方針を検討し、法的ルールの観点から雇用と雇用以外との比較さらに正規と非正規の働き方の違いを考える。 【キーワード】 非正規労働、規制緩和、雇用政策、労働者概念、賃金差別、職務専念義務	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）	道幸　哲也（北海道大学名誉教授）
12	ライフコースの考え方	ライフコースの視点と考え方は、1970年代にアメリカの社会学・歴史学・心理学の研究者たちによって開発され採用されるようになった。日本には、80年代に入ってから導入され、急速に普及した。先鞭をつけたのは家族社会学者である。標準的なコースをたどる家族が日本でも減少することによって、家族周期やライフサイクルという従来の概念の有効性が低下したためである。また、ライフコースの考え方が豊かな成果をもたらす可能性を秘めていることに気づいたためでもある。この回では、ライフコースとは何か、ライフサイクルという捉え方にはどのような限界があったのか、個人のライフコースと社会構造はどのように関連しているのか、これらの点について説明しながらライフコース論の特色について論ずる。 【キーワード】 ライフコース、キャリア、役割移行、ライフサイクル、ライフステージ、社会規範	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
13	社会の変動とライフコース	ライフコース論の特質は、歴史的社会的出来事と家族における出来事、そして個人の出来事の三つの関連を重視する点にある。このため、その出来事を何歳の時に経験したか（時機・タイミング）、どういう順番で出来事は起きたのか、そして、出生コーホートによってこれらの出来事がライフコースに与える影響はどのように違うのか、こうした諸点を注意深く考察することになる。この回では、出生コーホートによる戦争体験のちがいとその後のキャリアへの影響のしかたについて、また産業化の初期段階における職業キャリアと家族キャリアの関連について、具体的に説明してゆく。 【キーワード】 時機（タイミング）、出来事、出生コーホート、家族キャリア、職業キャリア、産業化	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
14	パーソナル・ネットワークとライフコース	個人のライフコースにそって、パーソナル・ネットワークもまた変化を遂げてゆく。戦争という社会的出来事も、就職、結婚、転勤、退職という個人の人生にとって重要な出来事も、それぞれにパーソナル・ネットワークに大きな影響を与えている。同様に個人は、これらの出来事を契機として主体的にネットワークの再編成に取り組んでいる。この回では、まずパーソナル・ネットワークについて説明し、次いでネットワークの再編過程の様相を事例分析を通して具体的に明らかにする。 【キーワード】 パーソナル・ネットワーク、第一次ゾーン、年賀状、事例分析	森岡　清志（放送大学教授）	森岡　清志（放送大学教授）
15	多様なキャリア ～女性のキャリアを考える～	女性労働者の働き方は男性と異なっている。その状況について把握し、現代社会において関心がもたれている事柄について解説する。 【キーワード】 非正規、労働力率、カンターモデル、キャリア	原田　順子（放送大学教授）	原田　順子（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847538	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 環境と社会 （’１５）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Environment and Society (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：植田　和弘　（京都大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：大塚　直　（早稲田大学教授）〕

【本学担当専任教員：岡田　光正　（放送大学教授）】

講義概要

環境問題の歴史的な流れを概観し、その変遷の中でどのような解決の努力が払われてきたか解説する。環境問題を解決するというのはどういうことか、環境というものの価値をどのように評価するのか、そこにおいて経済学はどのような役割を果たすのか、そして法はどのような使命を有しているのかを考える。わが国は、そして世界は、どのような努力をしているのかを概観し、持続可能な社会の実現に向けた課題と現在の取り組みについて解説する。

授業の目標

人間活動が現在直面している温暖化の問題など、将来ますます深刻化していく地球環境の変化は、人間活動に起因するものであり、その結果が生態系の劣化や人間生存の危機をもたらすという深刻な事態に至ることが危惧されている。このようなリスクを解決し、真に持続可能な人間社会を実現するための諸々の考え方を身に付け、現在、社会的にどのような手法がとられているのか、国際的な対応はどのようになされているのかなどの概要を理解する。

履修上の留意点

環境問題の解決に向けた技術的な取り組みの詳細については、他の講義に譲り、本講義においては社会科学的な観点からの環境問題への取り組みを理解してもらうことを主眼とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	環境問題とは何か	環境とはなにかを考え、環境問題に対する先駆的考え方の例としてレイチェル・カーソンやケネス・ボールティングなどを紹介し、これらの考え方と現在の主要課題となっている「持続可能性」の関連を理解する。環境問題の基本が、有限な地球における人間活動の拡大と質的変化に起因することを理解する。 【キーワード】 エンバイロンメントとエコロジー、人間活動の拡大、宇宙船地球号の経済	植田　和弘（京都大学教授）	植田　和弘（京都大学教授）
2	環境問題の歴史－公害問題、地域環境問題	人間活動の展開とともに生じてきた種々の環境問題の変遷に関し、初期の公害問題の例として足尾鉱毒事件、イタイイタイ病、水俣病、地域環境問題の例として水域の富栄養化などを概観し、環境問題の影響が人間の健康、生活環境に及ぶものであることを理解する。 【キーワード】 産業公害、地域環境問題、水俣病、足尾鉱毒事件、富栄養化	植田　和弘（京都大学教授）	植田　和弘（京都大学教授）
3	環境問題の歴史－地球環境問題	人間活動の影響が地球規模に及ぶこととなった。地球環境問題の典型的な例として、地球温暖化問題などについて、問題の流れを概観する。 【キーワード】 地球環境問題、地球温暖化、二酸化炭素、持続可能性	植田　和弘（京都大学教授）	植田　和弘（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	環境問題と経済学	経済学の目的と内容の説明から始まり、環境問題が経済学においてどのように取り扱われてきたか、その主要な源流・学説と理論的枠組みを解説する。また市場経済制度が環境制御に失敗する原因を考察し、外部不経済の内部化論の意義と限界を明らかにする。環境経済学の展開過程と課題を説明する。 【キーワード】 環境経済学、外部不経済、資源環境制約、市場の失敗	植田　和弘（京都大学教授）	植田　和弘（京都大学教授）
5	環境の経済価値と評価	環境は価格のつかない価値物である。環境の価値とは何か。環境の価値は経済的にどのように評価されるか、環境の評価に関する考え方、具体的な評価の例を紹介し、環境評価における課題について考える。さらに、環境影響評価の意義と課題を確認する。 【キーワード】 環境と経済、環境の経済価値、環境評価、環境影響評価	植田　和弘（京都大学教授）	植田　和弘（京都大学教授）
6	環境政策の目的と手段	環境政策の生成と発展についてまず概説する。環境政策の目的を達成するための政策目標と政策手段はいかにあるべきか。目標設定の考え方について解説するとともに、多様な環境政策手段を分類して、各々の政策手段の機能と特徴を明確にする。 【キーワード】 環境政策、政策目標、政策手段	植田　和弘（京都大学教授）	植田　和弘（京都大学教授）
7	気候変動問題と炭素経済	気候変動問題の深刻化から明らかになるように、低炭素社会への移行が求められている。温暖化を緩和する方策としての二酸化炭素排出削減を推進するための炭素経済はどのように考えられているか、地球温暖化防止の難しさの原因はどこにあるかを確認する。さらに、スターン・レビューに依拠しつつ炭素経済を解説する。 【キーワード】 炭素経済、低炭素社会、環境経済戦略、スターン・レビュー	植田　和弘（京都大学教授）	植田　和弘（京都大学教授）
8	「環境と経済の両立」から持続可能な発展へ	環境保全と経済のトレードオフ関係の克服を目指す議論を紹介し、経済発展の方向を明らかにする。「環境と開発に関する世界委員会」が提示した持続可能な発展の理念を具体化する方向性について、P.ダスグプタの理論を紹介しつつ、資本資産と制度の役割について考える。 【キーワード】 持続可能な発展、ダスグプタ理論、資本資産、制度	植田　和弘（京都大学教授）	植田　和弘（京都大学教授）
9	環境税	環境税の基礎理論をピグー及びボーモル＝オーツの議論によりつつ概説する。環境税は、租税政策手段としての側面と財源調達手段としての側面を併せ持つことを確認する。さらに、エネルギー税との関連について考える。また、地方環境税の現状と課題について解説する。 【キーワード】 環境税、ピグー税、ボーモル＝オーツ税、エネルギー税、地方環境	植田　和弘（京都大学教授）	植田　和弘（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	環境とエネルギーの経済学	福島原発事故を受けてエネルギー政策の見直しがすすんでいる。再生可能エネルギー開発、電力システム改革の方向性や発電コストの評価を基礎にしつつ、エネルギー政策と気候変動政策の統合のあり方を考える。 【キーワード】 再生可能エネルギー、原発、発電コスト、電力システム改革	植田　和弘（京都大学教授）	植田　和弘（京都大学教授）
11	環境における法規制の役割	法とはなにか、環境問題対応における法の役割は何かを考察する。社会における公平性確保のため法はどのようなものであるべきか、環境問題に対する法的対応はどのような変遷を遂げてきたか、法規制と経済的誘導策の役割の分担は如何にあるべきか、法規制の果たす技術革新への機能などについて説明を行う。 【キーワード】 法規制、公平性、財産権、不確実性、比例原則、マスキー法	大塚　直（早稲田大学教授）	大塚　直（早稲田大学教授）
12	環境基本法と環境法の理念・原則	環境基本法の成り立ち、環境基本計画との関係に関する解説を行う。環境権とは何か、環境法の理念・原則としてはどのようなものがあるかについて考察する。また、環境行政における自治体の役割について説明する。 【キーワード】 環境基本法、環境基本計画、環境権、環境法の理念、地方自治体の役割	大塚　直（早稲田大学教授）	大塚　直（早稲田大学教授）
13	個別環境法の仕組みと環境影響評価法	我が国において、個別の環境法はどのような規制の構造をもっているかについてイメージをつかむとともに、最近改正のなされた環境影響評価法を扱い、その意義を考えてみよう。 【キーワード】 大気汚染防止法、水質汚濁防止法、廃棄物処理法、環境影響評価法、自然公園法	大塚　直（早稲田大学教授）	大塚　直（早稲田大学教授）
14	環境訴訟	環境問題については様々な訴訟が提起され、裁判が下されてきた。その中には国の環境政策に大きな影響を与えたものも少なくない。損害賠償や差止に関する民事訴訟と、行政訴訟について勉強してみよう。 【キーワード】 損害賠償、差止、行政訴訟、過失、因果関係	大塚　直（早稲田大学教授）	大塚　直（早稲田大学教授）
15	原発規制と放射性物質による汚染への対処	東日本大震災に伴って生じた福島第1原発事故は、脱（減）原発への世論を巻き起こすとともに、原発規制に関する根本的な改革を迫ることになった。原発規制や放射性物質による汚染に対する対処は今や環境法の一分野であることが認識されている。これらについて考えてみよう。 【キーワード】 原子力発電所規制、放射性物質、バックフィット、環境基本法、環境影響評価法	大塚　直（早稲田大学教授）	大塚　直（早稲田大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847511	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ エネルギーと社会 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Energy and Society (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：迫田　章義 （東京大学生産技術研究所教授） 〕

〔主任講師（現職名）：堤　敦司 （東京大学生産技術研究所特任教授） 〕

【本学担当専任教員：岡田　光正 （放送大学教授） 】

講義概要

原子力発電所(原発)の事故を契機に、原発稼働の是非、地球温暖化対策の在り方など、エネルギー問題は国民の最大の関心事のひとつになっている。しかしながら、再生可能エネルギーの利用可能性、更なる省エネルギーの可能性など、エネルギー問題を定量的、科学的に理解した議論は必ずしも十分とは言えない。本講義では、持続可能な社会の構築に向けて、再生可能エネルギーや地産地消型のエネルギーなどの多様な側面を理解するとともに、エネルギー問題をその基礎から社会的な側面までを俯瞰的、系統的に解説する。

授業の目標

エネルギー論の基礎的な解説から講義を始め、持続可能な社会の構築に向けた再生可能エネルギーや地産地消型のエネルギーなどエネルギー源の多様な側面を理解するとともに、エネルギー問題をその基礎から社会的側面まで、俯瞰的、系統的に身につけることをめざす。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	エネルギー資源とエネルギー利用史	人類がエネルギーをどのように利用してきたのか、エネルギー利用史としてまとめ、地球におけるエネルギー資源の賦存状況と将来の枯渇化などエネルギー資源問題について解説する。トピックスとしてシェールガスやメタンハイドレートなどの非在来型化石資源についても紹介する。 【キーワード】 エネルギー利用史、シェールガス、メタンハイドレート	堤 敦司（東京大学特任教授）	堤 敦司（東京大学特任教授）
2	エネルギーと社会	現代の人類の社会活動・生活におけるエネルギー消費と供給(エネルギー需給)の現状と問題点、エネルギーと経済の関係などエネルギーと関連する社会・経済的課題について解説する。 【キーワード】 エネルギー需給、エネルギーと経済、現代の社会・生活におけるエネルギー消費、エネルギーと物質の生産	堤 敦司（東京大学特任教授）	堤 敦司（東京大学特任教授）
3	エネルギーと地球温暖化	まず、地球温暖化のメカニズムについて解説する。そして、地球温暖化の主因が化石エネルギー消費に依る二酸化炭素の排出であることを述べ、エネルギー需給と温暖化予測について解説し、地球温暖化を抑制するための温暖化ガス排出削減対策について概説する。 【キーワード】 地球温暖化問題と温暖化ガス排出削減、温暖化のメカニズム	藤井 康正（東京大学教授）	藤井 康正（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	エネルギーの基礎	エネルギーとは何か、その基礎的事項について学ぶ。力学的エネルギーと熱エネルギーの等価性に関するジュールの実験、熱と仕事の概念、熱エネルギーを力学的エネルギーに変換する熱機関など、熱力学について解説する。エネルギーおよび動力の単位とエネルギー変換の評価指標について解説する。 【キーワード】 単位、評価指標、熱と仕事、ジュールの実験、保存則、熱力学	堤　敦司（東京大学特任教授）	堤　敦司（東京大学特任教授）
5	エネルギーとエクセルギー	エネルギーの本質を理解し、省エネルギー化を進める上で重要な「エクセルギー」の概念を解説する。化学エネルギー、熱エネルギーおよび機械あるいは電気エネルギーなど各エネルギー形態間のエネルギー変換プロセスで、エクセルギー損失がどのように発生していくのかについて学ぶ。 【キーワード】 エネルギー形態、エクセルギー率、エネルギー変換ダイヤグラム	堤　敦司（東京大学特任教授）	堤　敦司（東京大学特任教授）
6	エネルギーとエネルギーシステム	石油、天然ガス、石炭などの化石エネルギーを、利用しやすい燃料と電気という二次エネルギーに変換し、それを供給・利用する現在のエネルギーシステムについて解説し、問題点と今後の課題について議論する。 【キーワード】 石油精製、LNG、パイプライン、電力網	迫田　章義（東京大学教授）	迫田　章義（東京大学教授）
7	再生可能エネルギー	低炭素社会の実現に不可欠な再生可能エネルギーについて、その原理やポテンシャルなどを整理する。薪・炭、バイオガス、太陽熱、地熱などの熱利用技術と太陽光エネルギー、風力・海洋エネルギーなどの電力利用についてその技術の現状と将来の展望についてまとめる。 【キーワード】 地球のエネルギーの流れ、薪・炭、バイオガス、太陽熱、地熱、太陽光エネルギー、風力・海洋エネルギー	迫田　章義（東京大学教授）	迫田　章義（東京大学教授）
8	バイオマスエネルギー	再生可能エネルギーの中でも期待されているバイオマスエネルギーに関して、バイオマス発電、バイオガス、バイオディーゼル、バイオエタノールなどバイオマスエネルギー技術についてまとめるとともに、バイオマス燃料とともにプラスチックなどの物質も生産するバイオマスリファイナリーについて紹介する。 【キーワード】 バイオマスリファイナリー、バイオガス、バイオディーゼル、バイオエタノール	迫田　章義（東京大学教授）	迫田　章義（東京大学教授）
9	原子力エネルギーと核融合	原子力エネルギーに関して、原子力発電の仕組み、原子力発電の安全性と原発事故、核燃料サイクルと放射性廃棄物など、原子力発電の現状と課題を中心に解説する。さらに、次世代の原子力エネルギー技術である核熱の産業利用を目的とした高温ガス炉、高速増殖炉および核融合炉について開発の現状と展望をまとめる。 【キーワード】 原子力発電、高温ガス炉、核燃料サイクル、放射性廃棄物、核融合	寺井　隆幸（東京大学教授）	寺井　隆幸（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	エネルギーの有効利用と省エネルギー	エネルギー消費を削減させる方策として、エネルギー変換・利用効率の向上、高効率機器の導入とライフスタイルの変革も含めた節約型の省エネルギー、主に需要側での最適運用・制御によるHEMSやBEMSなどを学ぶとともに、産業構造・社会システムの低炭素化についても考察する。 【キーワード】 エネルギー変換・利用効率の向上、省エネルギー・節約、ライフスタイル、HEMS、BEMS、産業構造・社会システムの低炭素化、ITS	岩船 由美子（東京大学准教授）	岩船 由美子（東京大学准教授）
11	物質とエネルギーの循環利用	生産と消費という一方向ではなく、物質とエネルギーの流れを同時に捉え生産―利用―再生という物質とエネルギーの循環システムを実現することが循環型社会構築の上で重要である。廃棄物や廃エネルギーの問題をまとめるとともに、3R術や物質・エネルギー再生によるエネルギーと資源の削減について学ぶ。 【キーワード】 3R、資源とエネルギー、廃棄物問題、物質・エネルギー再生	堤 敦司（東京大学特任教授）	堤 敦司（東京大学特任教授）
12	エネルギーの熱利用	エネルギーの熱利用におけるエネルギーの有効利用技術について学ぶ。まず、従来の省エネ化の原理である熱回収と熱のカスケード利用について学び、ピンチテクノロジーによる工場の省エネやコジェネレーションの導入などエネルギーインテグレーションの事例を解説する。また、従来の燃焼・加熱ではない、新しい熱利用技術である、ヒートポンプや自己熱再生技術について解説する。 【キーワード】 ヒートポンプ、自己熱再生、エネルギーインテグレーション、ピンチテクノロジーコジェネレーションとコプロダクション	堤 敦司（東京大学特任教授）	堤 敦司（東京大学特任教授）
13	高効率発電技術	蒸気タービンやガスタービン、複合サイクル発電など現在の発電システムの基礎を学ぶ。さらに、A-USC、高温ガスタービン、IGCC/IGFCなどエネルギーの動力・電力利用におけるエネルギーの有効利用技術、高効率発電技術の開発動向について解説する。 【キーワード】 IGCC/IGFC、超臨界スチームタービン、高温ガスタービン、複合サイクル発電	堤 敦司（東京大学特任教授）	堤 敦司（東京大学特任教授）
14	燃料電池とその応用	次世代の発電システムである燃料電池の原理と仕組みについて学ぶ。応用分野として燃料電池自動車、家庭用燃料電池コジェネレーションおよび石炭ガス化燃料電池発電(IGFC)を中心に、燃料電池システムの開発の現状と課題を解説する。 【キーワード】 FCV、燃料電池コジェネレーション、水素インフラ、IGFC	堤 敦司（東京大学特任教授）	堤 敦司（東京大学特任教授）
15	エネルギーと持続可能な社会	太陽光や風力発電などの再生可能エネルギーの利用拡大、電気自動車・プラグイン・ハイブリッド自動車あるいは燃料電池自動車の導入にともなう充電・水素インフラの整備等、持続可能な社会の構築に向けて、エネルギーシステムの大きな変革が求められている。二電池による電力貯蔵、スマートグリッド、水素エネルギーネットワークなど最新のエネルギー技術開発動向を紹介するとともに、今後の展望と課題をまとめる。 【キーワード】 二次電池とその応用技術、スマートグリッド、水素社会	堤 敦司（東京大学特任教授）	堤 敦司（東京大学特任教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847449	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　文学のエコロジー　　（’１３）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：宮下　志朗　（放送大学特任教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

本講義では、通常の文学論やテクスト読解とは異なり、「文学」を取り囲み、支えてきた秩序や制度について、その歴史を視野に収めながら、考察していきます。たとえば「口承文学」、「写本」と「活字本」、「著作権」、「識字率」、「読書」「電子本時代の出版」といったトピックを通じて、文学の「生態学（エコロジー）」について、さまざまな角度から考える試みといえましょう。「エコロジー」という命名には、現在、変革と危機の状況に置かれている「文学」の「環境保護」という願いも込められています。なお、「放送教材」では、「武勲詩」を講談師に朗読してもらうなど、工夫を凝らしてあります。

授業の目標

「文学」について、いわば搦め手から攻めることで、あらためてこの言語芸術作品に興味をいだいてもらうと同時に、「文学」が、たとえば法律や経済など、さまざまな領域と密接に関連した存在であることを実感してください。

履修上の留意点

扱う主な対象は、ヨーロッパと中国ですが、特に外国語の深い知識は必要としません。導入科目「世界文学への招待（’16）」、専門科目「ヨーロッパ文学の読み方－古典篇（’14）」とは、アプローチが異なりますが、それゆえに相互補完的な科目となると思います。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	口承文学と写本	まず、エコロジー（生態学・環境学）という視点から「文学」を見ることについて、説明をおこなう。次に、中世フランスで成立した叙事詩『ロランの歌』を鑑賞しつつ、口承性、作者の問題といったことについて考えてみる。 【キーワード】 エコロジー（生態学）、武勲詩、口承性（オラリティ）、作品と固有名	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）
2	中世の読書とその変容	ヨーロッパ中世の時代、文学は徐々に音声やパフォーマンスの現場を離れていくことになる。読みのふるまいの変容を、聖と俗、大学とスコラ学といった観点から考察してみる。 【キーワード】 韻文と散文、音読と黙読、写本文化、修道院、大学、スコラ学	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）
3	中世文学とパトロン－謹呈と恩赦	文学・芸術とパトロネージ（パトロン・システム）は、切っても切れない関係にある。中世の作者は、特定の庇護者を第一の読者と想定して、物質的な見返りや赦免を期待して作品を執筆していた。そうした実情を探る。 【キーワード】 パトロン、謹呈、想定読者、恩赦、シャルル・ドルレアン、ヴィヨン	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ルネサンス人の読書のエコロジー	ペトラルカ、マキァヴェッリ、モンテーニュという、ルネサンスを代表する3人の著作家の、読みのふるまいと、その象徴性について具体的に考察する。 【キーワード】 外と内の往還、政治と隠遁、書斎、閑暇（otium）、小型本	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）
5	著作権前史	近代的な著作権の前身としての「特認」システムについて学び、次いで私信の公刊をめぐる裁判を通して、著作権のモノからの離陸について解説する。 【キーワード】 「特認」、版元vs作者、手紙と著作権、「書簡裁判」	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）
6	アジア漢字圏における本と読書（1） 明末における白話小説の成立	『三国志演義』や『水滸伝』などの白話小説は、中国明代の後期に突然のように出現した。この現象はなぜ起こったのか。この問題について、その精神的及び物理的背景について考える。 【キーワード】 『三国志演義』、『水滸伝』、白話、民衆の発見、出版文化	大木　康（東京大学教授）	大木　康（東京大学教授）
7	アジア漢字圏における本と読書（2） 明清時代における文学作品の出版と流通	明清時代における文学作品の出版と流通をめぐる状況を、より広い観点から解説する。 【キーワード】 詩文集、写本、刊本、『金瓶梅』、『聊斎志異』、『紅楼夢』、李漁、版権	大木　康（東京大学教授）	大木　康（東京大学教授）
8	読み書きの民主化 ー識字率について	書かれたものとしての「文学」を受容する前提は、文字を読めることである。「識字率」とその変遷について、過去の人々の読み書き能力を知る方法などについて学ぶ。 【キーワード】 識字率、婚姻署名、性差、フィレンツェの「カタスト」	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）
9	バルザックのメディア戦記	出版業、活字製造業、ブッククラブと、さまざまな試みをしたあげく借金まみれとなったおかげで《人間喜劇》を残せた、バルザックの戦いの人生をたどり、19世紀の「文学のエコロジー」が抱えていた諸問題を浮き彫りにする。 【キーワード】 「市場の芸術家」、バルザック、実業家と作家、著作権、「人物再登場の手法」	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）
10	文学と金銭 ーフロベールのジレンマ	「文学」と「金銭」とは、両立可能なものなのだろうか？　一度も職業につくことなく、ひたすら小説の書き直しを続けたフロベール が、原稿料に対すて示した逆説的なふるまいについて、具体的に解説する。 【キーワード】 買い取り制と印税、純文学、フロベール『書簡集』、「辻芸人」	宮下　志朗（放送大学特任教授）	宮下　志朗（放送大学特任教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	「文芸家協会」「アカデミー」「文学賞」	読者マーケットと対峙することになった作家たちの、象徴的なふるまいとして、「文学」をめぐる保護や顕彰のシステムの成立について解説する。 【キーワード】 「文芸家協会」、「アカデミー・フランセーズ」、「ゴンクール賞」	宮下　志朗 （放送大学特任教授）	宮下　志朗 （放送大学特任教授）
12	近代中国における文学出版の環境	中国における近代文学という制度の成立およびその政治との関係の過程，加えてその背景となった大都市におけるマスメディア・出版社の発展過程，また著作権制度や原稿料制度の動きについて解説する。 【キーワード】 近代文学，マスメディア，職業作家，原稿料，政治と文学	尾崎　文昭 （東京大学名誉教授）	尾崎　文昭 （東京大学名誉教授）
13	「手紙と著作権」再考、そしてインターネットの世紀へ	第5回で、イギリスにおける書簡の著作権をめぐる裁判を紹介したが、わが国では、ごく最近もこの問題が裁判沙汰となっている。「三島由紀夫手紙事件」について、判決を読んでみる。最後に、電子媒体としての文学について簡単にふれる。 【キーワード】 手紙と著作権、「書簡裁判」、著作権法、紙媒体と電子媒体	宮下　志朗 （放送大学特任教授）	宮下　志朗 （放送大学特任教授）
14	出版の経済学	出版とはどういう仕事なのか。出版業界とはどういう仕組みで動いているのか。本作りから編集～印刷・製本を経て取次・書店から読者へ。本のコストとは？　出版には企画立案、初版部数と定価決定など、さまざまな局面があり、そうした諸問題について出版現場から報告する。 【キーワード】 専門書と一般書、出版企画、編集技術、出版流通	西谷　能英 （未来社社長）	西谷　能英 （未来社社長）
15	文学のこれから、出版のこれから	14回までの内容に関して、おたがいに疑問点を出して、理解を深める。また、紙の本の文化の大切さを基調としながら、電子ブックなど、インターネット環境における、文学・人文書のあり方について話し合う。 【キーワード】 電子ブック、紙の本、本の過去と未来	宮下　志朗 （放送大学特任教授） 西谷　能英 （未来社社長） 尾崎　文昭 （東京大学名誉教授） 大木　康 （東京大学教授）	宮下　志朗 （放送大学特任教授） 西谷　能英 （未来社社長） 大木　康 （東京大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847473	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 国際ボランティアの世紀 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 The Century of International Volunteers (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：山田　恒夫　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

国際ボランティア活動は、グローバル化した21世紀の市民社会の形成に大きな役割をはたすものと考えられている。国際ボランティア研究のトピックとその実践における多様な側面を紹介することで、国際ボランティア活動に対する理解を深めると同時に、国際ボランティアを自らのキャリアとのかかわりの中で考えられるようにする。国際ボランティアは市民の参加する活動であり、市民が世界の課題に目を向け、その課題解決に自らが関わることを目指すものである。国際ボランティア活動とその体系化には我が国が大きな貢献を果たしており、その実践活動と学問内容を知ることには大きな意味がある。国際ボランティアは、東日本大震災をはじめ、最近の巨大災害で社会で注目を浴び、企業や中高年層が大きな関心を持っている分野である。

授業の目標

①知識としての国際ボランティア活動ではなく、自らも参加できる国際ボランティア活動であることを知る。
②国内外における国際ボランティア活動の多様な実践を知り、身の回りでも自分のできることがあることを知る。
③そのためのいろいろな組織があり、学ぶ場があることを知る。
④ボランティア活動は、他者を支援する機会というばかりでなく、ボランティア自身が人として学ぶ場、相手からたくさんのことを教えてもらう場であることに気づく。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	国際ボランティア学とは	ボランティアおよびボランティア活動の定義と特徴、国際的な文脈でのボランティア活動の意義を説明しながら、学問としての国際ボランティア学の概要を紹介する。隣接領域の学問と関連させながら、国際ボランティア学の学問的な特徴とその体系、基本的な方法論について説明する。本科目の構成とその学び方を解説する。 【キーワード】 国際ボランティア活動、国際ボランティア学、国際ボランティア、自発性、カリキュラム、キャリアデザイン	山田　恒夫（放送大学教授） 内海　成治（京都女子大学教授）	山田　恒夫（放送大学教授） 内海　成治（京都女子大学教授）
2	保健医療協力と国際ボランティア	保健医療協力においては、国連ミレニアム開発目標（MDGs）に掲げられている感染症対策や母子保健分野が重要課題である。同時に、地域での保健医療を支える人材の育成や仕組みづくりも必要である。インドネシアやスーダンでの事例を中心に、健康を守るボランティア活動について考えてみる。 【キーワード】 プライマリヘルスケア、保健システム強化、感染症対策、母子保健、母子健康手帳	中村　安秀（大阪大学教授） 小川　寿美子（名桜大学教授）	中村　安秀（大阪大学教授） 小川　寿美子（名桜大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	教育協力と国際ボランティア	開発途上国への教育協力は日本人にとって最も関心が高い分野の一つである。国際協力においても教育は最も重要な分野である。本章では、国際教育協力の現状を述べ、次に国際ボランティア活動におけるこの分野を検討する。海外からの教育支援やボランティア活動が実際に役に立つようにするには様々な工夫が必要である。例えば、その国の教育政策や文化的背景・風土、教育の方法などを考えねばならない。ケニアの乾燥地域での学校作りを例として、何が行われ、どのような工夫が必要なのかを考える。 【キーワード】 教育協力、教育政策、学校建設、ケニア	内海　成治（京都女子大学教授）	内海　成治（京都女子大学教授）
4	村落支援と国際ボランティア	いくつかの事例を紹介しながら、多くの困難を抱える開発途上国の農漁山村への国際ボランティア活動を考える。グローバル化の恩恵から取り残された地域には、さまざまな「周縁化（marginalization）」の問題が山積する。国際ボランティア活動にも、個別地域に応じた、独創的できめの細かい対応が求められる。村落支援活動の多面性、活動の持続性に関わる要因について解説する。 【キーワード】 村落支援、少数民族、地域経済、周縁化、開発途上国	山田　恒夫（放送大学教授）	山田　恒夫（放送大学教授）
5	フェアトレードと国際ボランティア	フェアトレードとは開発途上国の人々への支援の一環として、より公正な価格での取引を目指す活動である。フェアトレードは比較的新しい言葉であるがすでに市民権を得ていると思われる。そしてフェアトレードは市民が国際ボランティアに関わる手軽で、かつ大きなインパクトを与える活動である。しかし、実際にどのようなことが行なわれているのか、フェアトレードを行っている団体は何をしているか、あまり明らかではない。本章ではフェアトレードは何かを概説し、特に重要な商品であるコーヒーについて説明し、実際に東ティモール支援としてコーヒーのフェアトレードを行っているNGO(ピース・ウインズ・ジャパン)の活動を紹介し、フェアトレードと国際ボランテイアについて考えることにしたい。 【キーワード】 フェアトレード、コーヒー、東テイモール、国内でできる国際ボランティア活動	内海　成治（京都女子大学教授）	内海　成治（京都女子大学教授）
6	子どもを守る国際ボランティア	子どもが生まれ、健康に育ち、教育を受ける機会を得て、大人に成長する。その成長の過程が、安全に保障されている国や地域は決して多くはない。「子どもの権利条約」がめざすものは何か、世界のなかで、子どもたちを守るために、どのような取り組みが行われているのか。そして、グローバル世界の活動を知ることにより、日本において子どもは守られているのだろうかという問いかけを返してみたい。 【キーワード】 子どもの権利条約、子どもの参画、子どもの保護、児童労働	中村　安秀（大阪大学教授）	中村　安秀（大阪大学教授）
7	緊急支援と国際ボランティア	地震や水害等緊急支援では多くの国際ボランティア活動が行われる。緊急人道支援は他の支援と異なりスピーディな支援と現地政府や国際機関との連携が必要である。インドネシア・アチェにおける地震・津波災害支援をもとに緊急災害救援の仕組みや課題を紹介しつつ、東日本大震災の支援についても考えてみたい。 【キーワード】 自然災害、人道支援、インドネシア、東日本大震災、心理社会的ケア	中村　安秀（大阪大学教授）	中村　安秀（大阪大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	国内の外国人に対する国際ボランティア	日本には多くの外国人が暮らしている。地域住民である外国人の保健医療福祉などの環境はどうなっているのだろうか？　国籍や民族などの異なる人びとが、地域社会の構成員として対等な関係性の中で、ともに暮らしていける社会をめざすには、何が求められているのか。保健医療に焦点をあてるなかで、共生のあり方を考えていく。 【キーワード】 在住外国人、保健医療、医療通訳士	中村　安秀（大阪大学教授）	中村　安秀（大阪大学教授）
9	キャリアとしての国際ボランティア：成長過程とコンピテンシー	国際ボランティア活動を国際ボランティアという、それに従事する人間の視点から考察する。ひとりの人間において、国際ボランティア活動が実現されるとき、どのような成長過程をたどるのか、国際ボランティアとして成熟する過程でどのような知識や技能、その総体としての能力（コンピテンシー）を必要とするか、国際ボランティアとしてのキャリアパスにはどのようなものがあるか、検討する。 【キーワード】 生活史（ライフ・ヒストリー）、ライフ・ストーリー、コンピテンシー、キー・コンピテンシー、ESDコンピテンシー、キャリアパス	山田　恒夫（放送大学教授）	山田　恒夫（放送大学教授） 小川　寿美子（名桜大学教授）
10	NGOと国際ボランティア	NGOは国際ボランティア活動を担う組織であり、国際ボランティアへの市民の参加のための、最も重要な組織である。しかし、広く認知されるようになったとはいえ日本におけるNGOはまだ発展途上である。財政面、人材面において大きな課題を抱えている。NGOとはどのような組織であり、何を目指しているのか、そしてNGO活動の現状と課題とは何か、紹介する。 【キーワード】 NGO、ピース・ウィンズ・ジャパン、ジャパン・プラットフォーム、南スーダン	内海　成治（京都女子大学教授）	内海　成治（京都女子大学教授） 小川　寿美子（名桜大学教授）
11	企業CSRと国際ボランティア	企業の国際ボランティア活動の現状と課題を取り上げる。企業による国際ボランティア活動は企業の社会的責任（CSR）として近年活発になっているが、必ずしもCSRに関する論点は明確になっていない。またCSRが効果を発揮するためには、現地での適切な活動と国内及び企業内での適切な広報活動が不可欠である。こうした課題を東ティモールでのトイレ支援を例として検討する。 【キーワード】 CSR、CRM、東ティモール、トイレ	内海　成治（京都女子大学教授）	内海　成治（京都女子大学教授）
12	青年海外協力隊（JOCV）とシニア海外ボランティア（SV）	青年海外協力隊は政府の行う国際ボランティアの代表的事業であり、また40歳以上のシニアを派遣するシニア海外ボランティア事業は市民の参加する国際ボランティアとして重要性を増している。2015年には創設50周年という節目の年を迎える青年海外協力隊事業は、その派遣分野や、派遣国など、近年、青年海外協力隊をめぐる状況にも大きな変化が見えている。本章では政府開発援助による国際ボランティア派遣事業の設立経緯、現状、課題を解説する。 【キーワード】 青年海外協力隊（JOCV）、シニア海外ボランティア（SV）、政府開発援助（ODA）、海外技術協力事業団（OTCA）、国際協力機構〔旧称、国際協力事業団〕（JICA）、コロンボプラン、平和部隊（Peace Corp）、非営利組織（NPO）、非政府組織（NGO）	小川　寿美子（名桜大学教授）	小川　寿美子（名桜大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	世界の国際ボランティア	先進国を中心とした世界の政府支援による国際ボランティア組織の設立目的とその取り組みを紹介する。具体的には、米国のPeace Corp（平和部隊）、カナダのCanadian University Service Overseas-Volunteer Service Overseas (CUSO-VSO)、フランスのFrance Volonitaries（FV）、英国のVolunteer Service Overseas United Kingdom（VSOUK）を例に、それぞれの国際ボランティア組織の変遷、形態、活動内容、帰国後の活動、国内での活躍の場などを学び、日本における今後の国際ボランティア活動の発展形態を考える。 【キーワード】 平和部隊、CUSO-VSO、FV、VSO、ディアスポラ・ボランティア、帰国ボランティア、キャリアパス、無償のボランティア活動と契約に基づくボランティア活動、社会のつながり、パブリック・エンゲージメント（市民参加、公的関与）	小川　寿美子（名桜大学教授）	小川　寿美子（名桜大学教授）
14	学校と国際ボランティア活動	小中学校、高等学校等における学校教育では、総合的な学習の時間や特別活動において、ボランティア活動など社会奉仕体験活動が導入されている。大学等高等教育機関では、ボランティア関連科目が開講され、ボランティアセンター等を中心に、国際ボランティア活動が教育活動の一環として組み込まれているケースがある。生涯学習の視点から、国際ボランティア活動の学習とその支援について解説する。 【キーワード】 学校教育、高等教育、学習指導要領、社会奉仕体験活動、総合的な学習の時間、ボランティア学習、市民性教育、サービス・ラーニング、生涯学習、成人教育	山田　恒夫（放送大学教授）	山田　恒夫（放送大学教授）
15	国際ボランティア活動の新展開：まとめにかえて	日本の国際ボランティア活動に与えた東日本大震災の影響を振り返りながら、国際ボランティア学の、学問としての体系化について総括しつつ、高度情報化社会、生涯学習社会における国際ボランティアの社会的意義と将来について展望する。 【キーワード】 東日本大震災、ICTと国際ボランティア活動、生涯学習者と国際ボランティア活動、高齢化時代の国際ボランティア	山田　恒夫（放送大学教授） 内海　成治（京都女子大学教授） 中村　安秀（大阪大学教授） 小川　寿美子（名桜大学教授）	山田　恒夫（放送大学教授） 内海　成治（京都女子大学教授） 中村　安秀（大阪大学教授） 小川　寿美子（名桜大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847490	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 技術マネジメントの法システム （’１４）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Law Systems of Technology Management (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：児玉 晴男 （放送大学教授） 〕

【本学担当専任教員： 】

講義概要

産業、看護、情報などの教科科目の中の多くが、法規との関連の内容を含む。それらが対象とする法規を一つにまとめて総合科目として知識を提供することは、それら科目に関連する法規を重点的に理解するうえからも効率的である。本講義は、技術分野で関与する人間、情報、環境に関連する法システムの知識を技術マネジメントとの関連で提供する。本講義は、人的資源マネジメント、情報マネジメント、社会環境マネジメント等に関する法システムの個別な内容の解説とともに、それらを横断した観点からの説明も加える。

授業の目標

本授業は、とくに理工系や学際系の視点から、人間、情報、環境に関連する法システムに関する内容を編成したものである。本授業の目標は、人的資源マネジメント、情報マネジメント、社会環境マネジメント等に関わる労働法、情報法、環境法などの知識を社会技術の観点から習得し、さらにそれらを科学技術法の観点から総合的に理解することにある。本授業は、専門科目から大学院科目へとスムーズに展開する内容とする。

履修上の留意点

知的財産権法（著作権法、産業財産権法）と情報法に関しては「情報社会の法と倫理（’14）」、環境法に関しては「環境と社会（’15）」で学習してください。この科目では、技術系だけでなく文系あるいは社会科学系の履修者も対象としています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	技術マネジメントと倫理	技術マネジメントを行ううえで、法的な判断だけでなく、倫理・モラルが問われることが生じうる。倫理と法は、本来、相互に入り込むものではないが、倫理も法も道徳規範にかかわりをもつ。本講は、技術者が技術マネジメントの倫理で必要とされる倫理的な側面を学ぶ。 【キーワード】 科学技術倫理、生命倫理、情報倫理、環境倫理、コンプライアンス、ソフトロー	児玉 晴男（放送大学教授）	児玉 晴男（放送大学教授） 加藤 浩（日本大学教授） 山川 隆一（東京大学教授）
2	技術マネジメントと法	技術マネジメントと法とは、企業と法務とのかかわりを要している。その法律は、消費者保護関連法、労働関係法、情報法、環境関連法と関連する。本講は、経済性マネジメントと消費者保護関連法を説明したのち、人的資源マネジメントと労働関連法、情報マネジメントと情報法、社会環境マネジメントと環境関係法について概観する。 【キーワード】 経済性、人的資源、情報、安全、社会環境、科学技術法、社会技術	児玉 晴男（放送大学教授） 加藤 浩（日本大学教授） 山川 隆一（東京大学教授）	児玉 晴男（放送大学教授） 加藤 浩（日本大学教授） 山川 隆一（東京大学教授）
労働法				
3	人的資源マネジメントと労働法の基礎・労働契約（労働法1）	労働法の意義や体系など総論的な事項を把握したうえで、使用者と個々の労働者との間の個別的労働関係に焦点を当て、労働契約の概念や成立要件、労働条件の設定等の機能をもつ就業規則の法的効力、人事管理における配転・出向・懲戒処分等の法的根拠や限界、労働契約の終了をもたらす解雇の効力など、主に労働契約法にかかわる項目について検討を行う。 【キーワード】 労働契約、就業規則、配転、出向、懲戒、解雇	山川 隆一（東京大学教授）	山川 隆一（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	人的資源マネジメントと賃金、労働時間、安全衛生、労災補償（労働法2）	労働契約法と並び個別的労働関係にかかわる主要な法律である労働基準法を中心に、賃金の支払義務や支払方法にかかわる法律問題、労働時間規制の原則や例外にかかわる法律問題などについて学ぶ。進んで、職場における労働者の安全や健康の確保にかかわる労働安全衛生法のしくみを理解するとともに、現実に労働災害が起きた場合につき、労働者災害補償保険法による保険給付と安全配慮義務違反を理由とする損害賠償請求についても学習する。 【キーワード】 賃金、労働時間、安全衛生、労災補償、労災保険、安全配慮義務	山川　隆一（東京大学教授）	山川　隆一（東京大学教授）
5	人的資源マネジメントと雇用平等、ワーク・ライフ・バランス、非典型雇用（労働法3）	労働市場への女性の進出などを背景に重要性を増している雇用平等問題、また、少子高齢化の中で取組みが不可欠になっているワーク・ライフ・バランスの法政策について学び、進んで、期間の定めのある契約に基づく労働（有期労働）、派遣労働、パートタイム労働など、いわゆる非典型雇用形態をめぐる法的規律につき考える。 【キーワード】 雇用平等、ワーク・ライフ・バランス、有期労働契約、派遣労働、パートタイム労働	山川　隆一（東京大学教授）	山川　隆一（東京大学教授）
6	人的資源マネジメントと労使関係・紛争解決（労働法4）	使用者と労働組合との間の集団的労働関係を規律する労働組合法につき、その基本的枠組みを理解したうえで、労働組合の加入と結成、団体交渉、労働協約、不当労働行為制度などの事項について学ぶ。あわせて、労働審判制度や個別労働紛争解決促進制度など、労働紛争の解決システムの概略を理解する。 【キーワード】 労働組合、団体交渉、労働協約、不当労働行為、労働紛争、労働審判、個別労働紛争解決促進制度	山川　隆一（東京大学教授）	山川　隆一（東京大学教授）
情報法				
7	情報マネジメントと著作権（情報法1）	創作され開発される著作物（コンテンツ）にはどのような権利が発生し、だれに帰属するのかを学ぶ。そして、著作物が活用されるうえでどのような権利が情報マネジメントの権利管理の対象になり、または対象とならないかについて考える。また、コンテンツの権利の保護と制限から、オープンコンテンツや権利の侵害について考える。 【キーワード】 著作物、著作物の伝達行為、著作権と関連権、職務著作、著作権等管理、著作権等の不正利用	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授）
8	情報マネジメントと特許権・実用新案権（情報法2）	研究開発によって得られた発明に付与される特許権には、どのような効力があり、どのように活用することができるかについて考える。また、特許戦略を構築するうえで、情報マネジメントとして、特許権をどのように経営に活かしていくべきかについて考える。さらに、実用新案権についても、同様に、経営に活かすための活用方法について考える。 【キーワード】 特許権、実用新案権、発明、考案、ライセンス、職務発明	加藤　浩（日本大学教授）	加藤　浩（日本大学教授）
9	情報マネジメントと意匠権・商標権（情報法3）	デザインに対する意匠権やブランドに対する商標権には、どのような効力があり、どのように活用することができるかについて考える。また、デザイン戦略やブランド戦略を構築するうえで、情報マネジメントとして、意匠権、商標権をどのように経営に活かしていくべきかについて考える。 【キーワード】 意匠権、商標権、デザイン、ブランド、ライセンス	加藤　浩（日本大学教授）	加藤　浩（日本大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	情報マネジメントと秘密情報管理（情報法4）	秘密情報は、どのように管理し、どのように保護されるのかについて考える。とくに、不正競争防止法に規定される営業秘密について、保護を受けるための要件を整理したうえで、営業秘密の管理方法及び活用方法について考える。また、営業秘密の要件の一つである秘密管理性について、この要件を満たすための具体的な管理のあり方について考察する。 【キーワード】 不正競争行為、営業秘密、秘密管理性、有用性、非公知性、秘密保持義務、競業避止義務	加藤　浩（日本大学教授）	加藤　浩（日本大学教授）
11	情報マネジメントと知る権利（情報法5）	情報ネットワークとウェブ環境では、情報の自由な流れとプライバシー保護との相反する価値が共存する。それは、情報の開示と不開示情報との関係に見られる。その関係は、知る権利に対する情報マネジメントになる。不正アクセス禁止や迷惑メールの防止、通信内容の保護・規制、ウェブ環境の名誉や信用の保護のための規範、人為的な情報リスクとの対策と関わりから考える。 【キーワード】 情報公開、個人情報保護、不開示情報、不正アクセス、プロバイダ責任、メール爆弾	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授）
		環境法		
12	社会環境マネジメントと環境権・環境保全（環境法1）	社会環境の問題として、地球環境問題がある。科学技術の進歩や経済成長は、地球環境問題を招いたといわれる一方で、地球環境問題を実際に解決していく条件にもなりうる。本講は、社会環境マネジメントの対象となる環境権について考え、環境問題への対応である環境基本法、地球環境問題への対応である地球温暖化対策推進法について学ぶ。 【キーワード】 環境権、環境保全、環境負荷、汚染者負担原則、地球温暖化、京都議定書	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授） ゲスト：勝田　悟（東海大学教授）
13	社会環境マネジメントと環境物質（環境法2）	循環型社会の形成を推進するためには、資源の有効利用と、廃棄物の適正な処理や化学物質等の管理が求められる。社会環境マネジメントの対象となるのは、環境物品、廃棄物、化学物質などの環境物質になる。本講は、循環型社会の形成、資源の有効活用、リサイクルに関する資源有効利用の促進とリサイクル関連、廃棄物の適正な処理から化学物質の製造・輸入・排出などの管理について学ぶ。 【キーワード】 循環型社会、省資源、リサイクル、環境物品、廃棄物、化学物質、ライフサイクルアセスメント（LCA）	児玉 晴男（放送大学教授）	児玉 晴男（放送大学教授） ゲスト：勝田　悟（東海大学教授）
14	社会環境マネジメントと環境アセスメント・環境基準（環境法3）	環境保全のためには、環境アセスメントの評価対象と手続きおよび評価方法が必要になる。その環境アセスメントの評価方法は、環境基準に基づく。環境アセスメントと環境基準の関係が、社会環境マネジメントの対象になる。本講は、環境アセスメントの評価対象と手続と、環境アセスメントの評価方法である大気の汚染、水質の汚濁、土地の汚染の防止について学ぶ。 【キーワード】 環境アセスメント、大気の汚染、水質の汚濁、土地の汚染、環境基準	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授） ゲスト：勝田　悟（東海大学教授）
15	技術マネジメントシステムと国際動向	技術マネジメントと法システムの関係をつなぐものがマネジメントシステムである。そのマネジメントシステムは、労働安全衛生マネジメント、情報セキュリティマネジメント、環境マネジメントなどに見られる。本講は、マネジメントシステムと国内・国際規格について概観し、国際動向を展望する。 【キーワード】 労働安全衛生マネジメントシステム、情報セキュリティマネジメントシステム、情報セキュリティ管理基準、環境マネジメントシステム、環境アカウンタビリティ	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授） 加藤　浩（日本大学教授） 山川　隆一（東京大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847562	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 進化する情報社会 （’１５）＝ （ＴＶ）

英文名 ＝ 〔 Evolving ICT and Sustainable Society (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：児玉　晴男　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：小牧　省三　（大阪大学名誉教授）　〕

※この科目は「進化する情報社会(’11)」の一部改訂科目です。
改訂回は4, 5, 6, 7, 10, 11, 12回です。

講義概要

情報通信技術(ICT)の進歩が社会、経済、産業、科学研究、医療、政治、地方自治、生活、コミュニケーション、国際関係などにもたらしている変化を確認し、情報社会の将来を展望するとともに、人間の幸福に資する技術発展のあり方について考えます。

授業の目標

科学技術的な知識の習得を主な目的とするのではなく、社会科学的な視野から、総合的に、情報通信技術(ICT)と社会とがどのようにダイナミックな相互作用のもとに進化しているかを理解することを目標とします。すでにICTがなければ成り立たなくなっている産業や暮らしの局面、いま大きく変化しつつある領域、ICTが破壊し淘汰しつつある分野などに注意を払い、進化する情報社会の中でICTの適切な利活用の仕方を探求してみましょう。

履修上の留意点

コンピュータの仕組みやプログラムについては「情報学へのとびら(’16)」、大学院レベルの情報科学や計算科学の基礎知識については、大学院科目の「コンピューティング(’15)」および「数理科学(’15)」で学習して下さい。この科目では、技術系だけでなく文系あるいは社会科学系の履修者も対象としています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	情報通信技術(ICT)と社会	コンピュータの進展、ハードウェア・ソフトウェアの進展、ネットワークの進展について、それぞれ情報通信技術と社会制度(政策、制度)の背景との相互のかかわりから概観する。わが国と欧米および東アジアの中の日本という二つの観点から、情報通信技術と社会について考える。 【キーワード】 技術情報、コンピュータアーキテクチャ、半導体集積回路、プログラミング言語、コンピュータネットワーク	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授）
2	メディア融合と社会	情報通信技術の進展が社会に与える影響は、近年、飛躍的に大きくなってきている。本講では、メディア発展の歴史とそれを支える技術を振り返り、現在進んでいるインターネットやスマートフォンを中心とするメディア融合の位置づけとその社会への影響を理解する。 【キーワード】 マスメディア、ニューメディア、マルチメディア、メディア融合、ブロードバンド、ユビキタスネットワーク	小牧　省三（大阪大学名誉教授）	小牧　省三（大阪大学名誉教授）
3	将来通信網はどのようなものか	将来通信網の特徴はどのようなものだろうか？　また、そのオープン化がなぜ可能になっているのだろうか？　オープン化によってもたらされる社会的効果はどのようなものであろうか？　これらを理解することにより、これから到来するポスト情報化社会がどのようなものになるのかを考える。 【キーワード】 レイヤ、ストラタム、コアネットワーク、アクセスネットワーク、FTTH、オープン化、競争施策、次世代移動通信	小牧　省三（大阪大学名誉教授）	小牧　省三（大阪大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	情報通信と経済成長	情報通信と経済成長との間には密接な関係があり、「経済力」「知力」「社会力」の3つの経路を通じて情報通信が成長に寄与するものと理論的かつ実証的に整理できる。情報通信の豊かな潜在力を引き出すには、外部効果の高い知的資本や社会関係資本の蓄積を進めて「知力」「社会力」の経路を強化することが有効であり、知識・情報のデータ連携や社会の紐帯を深めるような利活用政策が成長戦略に必要となる。 【キーワード】 生産性、情報資本、高技能労働、知的資本、社会関係資本、ビッグデータ、オープンデータ、ソーシャルメディア	今川　拓郎（総務省地域通信振興課長）	今川　拓郎（総務省地域通信振興課長）
5	情報通信と地域再生	日本は光ファイバ網などの情報基盤の面では世界最高水準であるが、行政、医療、教育、農業など各分野での利活用が遅れている。情報通信技術（ICT）の利活用は地域の様々な課題を解決するための切り札であり、創意工夫次第で地域の活性化や安心・安全を実現できる。本章ではICTを活用した地域再生のモデルを概観し、持続性の確保や優良事例の横展開等の必要な取組を考察する。 【キーワード】 ICT競争力、ICT基盤、ICT利活用、課題解決、地域情報化、持続性確保、優良事例の横展開	今川　拓郎（総務省地域通信振興課長）	今川　拓郎（総務省地域通信振興課長）
6	スマートICT社会	インターネットには、我々人間以外に車、電力メータといったセンサーがつながるようになった。センサーから時々刻々送られてくる大量の情報を分析することによって、エネルギー消費量を減らしたり、交通渋滞を減らしたりといったことが行える。いつでも、どこでもだれとでも情報がやり取りできる、ユビキタスネットワーク社会が進展し、これらの端末やセンサーから集められる様々な情報いわゆるビッグデータを分析することでより「スマート」な社会が実現されつつある。ここでは、ユビキタス技術をはじめとする様々な情報通信技術がスマートICT社会を実現する方法を解説し、その課題を探る。 【キーワード】 サイバーフィジカルシステム、IoT、P2P、スマートグリッド	下條　真司（情報通信研究機構上席研究員、大阪大学教授）	下條　真司（情報通信研究機構上席研究員、大阪大学教授） ゲスト：寺西　裕一（大阪大学准教授）
7	大学の情報化	大学の教務の情報化と大学教育の情報化について、遠隔教育を推進する放送大学が取り組む事例を中心に、学生へのICT活用教育、学習環境、学習コンテンツの整備の試みについて紹介する。大規模公開オンライン授業（MOOC）によるネット講義と単位認定とを連携させた仕組みの展開を考える。 【キーワード】 学習管理システム、学習環境、オープンコンテンツ、学習コンテンツ、ネット配信、大規模公開オンライン授業	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授）
8	セキュリティとプライバシー	ネットワーク社会のセキュリティはどのようにして守られているのだろう？　また、プライバシー権とは何か、それが将来社会に果たす役割はどのようなものだろうか？　それにかかわる技術と仕組みを理解することにより、ネットワーク社会の課題と社会構成員の責務を理解する。 【キーワード】 セキュリティ、共通鍵方式、公開鍵方式、セキュリティホール、バックドア、プライバシー権、データ・プライバシー、インフォメーション・プライバシー、個人情報とその保護、公共的共通利用	小牧　省三（大阪大学名誉教授）	小牧　省三（大阪大学名誉教授） ゲスト：中西　浩（マレーシア工科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	情報通信技術（ICT）と産業	ICTは、ムダを可視化（見える化）することを通じて効率化を可能にする力や、情報を新たな資源とする新価値創造をする力を持っている。その本質と産業への応用可能性について概観する。 【キーワード】 効率化、BPR、可視化、新価値創造、情報資源	國領　二郎（慶應義塾大学教授）	國領　二郎（慶應義塾大学教授）
10	情報社会のプラットフォーム	ネットワーク社会の大きな特徴は多様な主体やシステム（主体）が結合して大きな価値を生み出すことである。しかし、多様な主体が結合するためには、共通の基盤－プラットフォーム－がなければならない。その構造を理解する。 【キーワード】 プラットフォーム、多様性、共通性、信頼、インセンティブ、インターフェース	國領　二郎（慶應義塾大学教授）	國領　二郎（慶應義塾大学教授）
11	情報技術によって変貌を遂げる科学	情報通信技術を最初にどん欲に取り入れ始めるのは、科学そのものである。このように情報通信技術と強く結合した科学の方法論のことをe-Scienceやデータ活用型科学とよぶ。ここでは、e-Scienceやデータ活用型科学の様々な例に触れながら、最先端の情報通信技術により科学の方法論がどのように変わってきたかを展望する。 【キーワード】 e-Science、データ活用型科学、学術研究ネットワーク	下條　真司（情報通信研究機構上席研究員、大阪大学教授）	下條　真司（情報通信研究機構上席研究員、大阪大学教授） ゲスト：大石　雅寿（国立天文台准教授）
12	情報社会の生き方	急速に進化する情報社会を個人はどう生きればいいのか。ここでは、これまでみてきた技術的な進歩から、急速に進化する情報社会、サービスやデバイスが変化させる我々の生活や社会と個人との関わりを教育現場の実情を踏まえながら考察する。 【キーワード】 情報リテラシー、インターネットの脅威、ソーシャルメディア、スマートフォン、クラウド	下條　真司（情報通信研究機構上席研究員、大阪大学教授）	下條　真司（情報通信研究機構上席研究員、大阪大学教授） ゲスト：林　健太（甲南大学准教授）
13	デジタルコンテンツと著作権	デジタルコンテンツは、どのように創造されて、保護されて、活用されているかを著作権制度とのかかわりで概観する。電子書籍、コンピュータグラフィックス（CG）や音楽、映画がどのように創作されて、それらがどのような権利の関係によって保護され、そして活用されるときの問題点について考える。 【キーワード】 著作物、著作者人格権、著作権、著作隣接権、デジタル権利管理、補償金制度	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授） ゲスト：タケカワ　ユキヒデ（作曲家）
14	情報倫理と知的財産	印刷技術と情報通信技術との対比から、情報社会におけるメディア環境を理解する。そして、保護される情報の性質について、情報倫理と知的財産の関係から考える。さらに、情報社会における社会文化的な多様性が持続されるための情報の性質を理解する。 【キーワード】 知的財産権、コモンズ、アクセス、プライバシー、倫理綱領	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授）
15	持続可能な情報社会を目指して	技術、政策、制度、経済、文化、国際関係などの分析からのそれぞれの価値観から、進化する情報社会の光と影を超えて、情報通信技術、情報通信政策、情報通信法制と地球環境との関わりから総合し、持続可能な情報社会を展望する。 【キーワード】 持続可能性、地球環境、グリーンIT、新たな情報通信技術戦略、情報通信法	児玉　晴男（放送大学教授）	児玉　晴男（放送大学教授） 小牧　省三（大阪大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	総合科目	科目コード	1847503	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 暮らしに役立つバイオサイエンス （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Living with Bioscience (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：岩橋 均 （岐阜大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：重松 亨 （新潟薬科大学教授） 〕

【本学担当専任教員：二河 成男 （放送大学教授） 】

講義概要

“バイオサイエンス”は人類の歴史の中で、より豊かな暮らしを求めたときに始まった科学と考えられます。そして、“バイオサイエンス”の中で、重要な位置を占めるのが微生物学で、約6000年前から人類は微生物を利用してきたと言われています。本講義では、微生物の定義、姿、環境に占める位置を先ず学び、暮らしに貢献する微生物を人類はどのように利用し、どのように利用しようとしているのかを解説します。

授業の目標

「微生物」は、味噌、酒などの醸造食品、抗生物質、化成原料などの有用物質生産、病原性大腸菌等による疾患、汚染物質の分解等の排水処理等など、様々な分野で我々の暮らしと深く関わっています。このことを知り、各人の「微生物」に対する理解を深め「微生物」に対する科学的概念の構築を促します。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	バイオサイエンスの主役、微生物とは	バイオサイエンスの主役とも言える微生物は、目に見えない程小さい生物の総称です。動物や植物のように日頃、目にする事はありません。時にはキノコのように我々の前に姿を現し、赤潮などのように存在を確認できることはあります。微生物の姿を観察し、どのような種類の微生物がいるかを学びます。 【キーワード】 微生物、バイオサイエンス、バクテリア、アーキア、ユーカリア	岩橋 均（岐阜大学教授）	岩橋 均（岐阜大学教授）
2	微生物の利用と微生物の発見	微生物利用の歴史は古く、ワインなどのアルコール飲料、豆科植物を利用した圃場への施肥など、微生物の存在を認識することなく、人類は利用してきました。初めて微生物を観察したのは17世紀に入ってからです。その後、微生物の理解は、生物の自然発生説を否定し、微生物学は近代生物学の発展に大きく貢献してきました。微生物学の「いにしえ」を学びます。 【キーワード】 微生物利用技術、発酵・醸造食品、微生物学、微生物の分類	重松 亨（新潟薬科大学教授）	重松 亨（新潟薬科大学教授）
3	自然界の微生物	微生物は自然界のいたる所に存在します。そして、生態系を構成する一員となっています。微生物は過酷な環境下でも上手に適応しながら生きています。本講義では、微生物がどのような場所に住んでいるのか、一般的な微生物から始まり、空飛ぶ微生物、深海微生物、極限環境微生物を学びます。 【キーワード】 環境と微生物、深海微生物、極限環境微生物	安部 博子（産業技術総合研究所主任研究員）	安部 博子（産業技術総合研究所主任研究員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	微生物から食品を守る	自然界のいたる所に微生物がいることは既に学びました。人類は微生物を利用する一方で、食品を微生物から守る必要もありました。微生物はどのような条件で生育し、食品を汚染するのかを学びます。さらに、微生物から食品を守る方法を学びます。 【キーワード】 微生物制御、化学的環境因子、物理的環境因子、増殖抑制、除菌、殺菌、滅菌	井口　晃徳（新潟薬科大学助教）	井口　晃徳（新潟薬科大学助教）
5	微生物を利用した伝統食品	中央アジアの遊牧民が家畜の乳をしぼり、放置したところ、酸味をもつ液体になっていました。最初の発酵食品と言われています。ワインやヨーグルトのように、多くの発酵食品はある一定の条件に、食材を温めることで生産されます。このとき微生物が食材に働きかけ、別の食材を我々に提供してくれます。このとき、微生物はどのような働きをしているのかを学びます。 【キーワード】 伝統食品、発酵食品、乳酸菌、酵母、酢酸菌	岩橋　均（岐阜大学教授）	岩橋　均（岐阜大学教授）
6	微生物を用いた匠の時代	食酢やビールは、単に食材を温めるだけで生産することは至難の業です。一度、アルコールやブドウ糖に変化させた後に、微生物によって新たな食材へと変化させていきます。人類は単純な発酵から、複雑な発酵技術を開発しました。これは、ある食材を微生物から守り、目的の微生物だけを生育させるという、高度な技を必要としていました。微生物などを組み合わせて、目的の食材に変化させる匠の技を学びます。 【キーワード】 味噌、醤油、日本酒、麹、複発酵	岩橋　均（岐阜大学教授）	岩橋　均（岐阜大学教授）
7	匠から技術へ、微生物工業の夜明け	フレミングによるペニシリンの発見は、食品を提供する微生物から、医薬品や工業品を提供してくれる微生物へ、微生物を利用したバイオサイエンスの発展のきっかけとなりました。医薬品を生産するために、微生物の育種技術や微生物を大量に効率よく生育させる発酵技術が開発されたからです。多くの製品が我々の暮らしに供給され始めました。微生物の育種技術や発酵技術を匠の技と比較しながら学びます。 【キーワード】 抗生物質、ペニシリン、微生物工業、発酵工学、育種、培養装置	髙橋　淳子（産業技術総合研究所主任研究員）	髙橋　淳子（産業技術総合研究所主任研究員）
8	生産する微生物	発酵槽の開発と培養工学の進展、育種学の進展により、微生物を小さな工場にして、多くの工業製品が生産され始めました。味の素などの調味料、ペニシリンに代表される抗生物質など、暮らしに役立つ製品が次々に生産されています。どのようにして微生物工場を設計し、生産しているのかを学びます。 【キーワード】 アミノ酸発酵、フィードバック阻害、代謝制御、アナログ耐性	岩橋　均（岐阜大学教授） 安部　博子（産業技術総合研究所主任研究員）	岩橋　均（岐阜大学教授）
9	変換する微生物	微生物工場が有する機能の一部だけを利用して、物質を変換することも可能です。飲料の甘み成分として利用される異性化糖はブドウ糖を果糖に変換して甘みを増してくれます。変換技術や変換技術の主役となる微生物酵素の生産を学びます。 【キーワード】 酵素、物質変換、微生物酵素の生産	重松　亨（新潟薬科大学教授）	重松　亨（新潟薬科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	分解する微生物	微生物のもっとも得意とする技は、物質を分解する事です。元々自然界で活躍していた分解力を、人類は暮らしの中に取り入れました。排水処理や有害物質の分解処理などです。日頃、目にすることはありませんが、我々の暮らしと環境を陰で支える、微生物の分解力を学びます。 【キーワード】 物質循環、環境汚染、環境浄化、活性汚泥	髙橋　淳子（産業技術総合研究所主任研究員）	髙橋　淳子（産業技術総合研究所主任研究員）
11	遺伝子組換え微生物の登場	20世紀後半に革新的な技術が登場します。遺伝子の操作技術です。遺伝子とは生物の設計図ですが、これを書き換えることが可能になりました。その結果、微生物の生産、変換、分解能力が格段に向上しました。遺伝子操作技術の基本原理を学び、遺伝子組換え微生物をどのように設計、利用していくかを学びます。 【キーワード】 遺伝子、DNA、プラスミド、形質転換、遺伝子組換え	重松　亨（新潟薬科大学教授）	重松　亨（新潟薬科大学教授）
12	遺伝子組換え（微）生物を用いた新しい技術	遺伝子組換え技術により、ブタのインシュリンを毎日利用していた糖尿病患者は、微生物が生産するヒト・インシュリンを利用できるようになりました。こうして始まったバイオ医薬品は、タンパク質工学の進歩に伴って抗体医薬品へと発展しました。一方、遺伝子組換え技術を応用した食品も登場してきました。このように、遺伝子組換えによって可能になった新しい技術を学びます。 【キーワード】 バイオ医薬品、サブユニットワクチン、抗体医薬品、遺伝子組換え食品添加物、遺伝子組換え作物	重松　亨（新潟薬科大学教授）	重松　亨（新潟薬科大学教授）
13	解読される微生物遺伝子	遺伝子操作技術は、目的遺伝子の増幅を容易にし、遺伝子の構造解読が進んでいます。さらに、今世紀に入ると、バイオサイエンスがナノテクノロジーやインフォマティクスと融合し、微生物を中心に飛躍的に遺伝子の解読が進んでいます。生物学そのものも変わりつつあります。その変化を学びます。 【キーワード】 微生物ゲノム、DNAシーケンシング、環境メタゲノム解析、遺伝子診断	井口　晃徳（新潟薬科大学助教）	井口　晃徳（新潟薬科大学助教）
14	現代のバイオサイエンス関連産業	暮らしの中で微生物がその役割を果たしていることは、これまでに学びました。それでは、グローバルに展開される現代産業の中で、バイオサイエンス関連産業はどのように貢献しているのでしょうか。伝統発酵食品から始まる微生物を主役とするバイオサイエンス関連産業の復習をしながら、産業への貢献を学びます。 【キーワード】 レッド・ホワイト・グリーンバイオテクノロジー、バイオサイエンス関連産業、サービス産業	岩橋　均（岐阜大学教授）	岩橋　均（岐阜大学教授）
15	バイオサイエンスをささえる微生物に与えられた課題	食品から始まった微生物の利用技術は、医薬品を中心とした工業技術、環境技術へと発展して来ました。現在は、化成品生産への期待、バイオエタノールで知られるエネルギー生産への期待が高まっていますが、本当に可能なのでしょうか。現在の技術では何ができて何ができないのか、何を解決しなければならないのかを学びます。 【キーワード】 難培養性微生物、名古屋議定書、生物多様性、遺伝資源、カルタヘナ議定書、遺伝子組換え	重松　亨（新潟薬科大学教授）	重松　亨（新潟薬科大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１７年度	科目区分	夏季集中科目（司書教諭）	科目コード	1291920	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 学校経営と学校図書館 （’１７）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 School Management and School Library (’17) 〕

〔主任講師（現職名）：野口 武悟 （専修大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）：前田 稔 （東京学芸大学准教授） 〕

【本学担当専任教員：岩崎 久美子 （放送大学教授） 】

講義概要

この講義では学校図書館に関する基本的事項について学校経営の視点から学ぶ。いわば、「学校図書館概論」ともいうべき内容の講義である。具体的には、学校教育における学校図書館の理念と教育的意義、学校図書館の発展過程、教育行政と学校図書館、教育課程・方法と学校図書館、学校図書館経営のあり方、学校図書館の施設と設備、学校図書館メディアの選択と提供、学校図書館の諸活動、公共図書館との連携・協力やネットワーク、学校図書館の評価と改善などの基本的事項について概説していく。また、学校図書館の今日的な課題、研究動向にも触れ、これからの学校図書館を展望する。

授業の目標

学校教育における学校図書館の理念、教育的意義、教育課程との関わり、経営のあり方など、学校図書館全般の基本的事項についての理解を深めることを目標とする。また、司書教諭の仕事に関する基本的事項をふまえつつ、学校経営の視点から、司書教諭の任務についての理解を深めることを目指す。学校図書館は図書が置いてあるだけの部屋という意識の受講者も少なくないものと思われるが、この講義を通して、学校図書館は学校教育の目的の達成と教育課程の展開のためになくてはならない機能を果たす重要な存在であることを知り、学校図書館に対するこれまでの意識をぜひ刷新してもらいたい。

履修上の留意点

上記の「講義概要」でも述べたように、この科目は学校図書館に関する概論的性格をもつものである。したがって、司書教諭の資格取得に資する科目5科目のなかで最初に履修することをお勧めする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校図書館の理念と教育的意義	学校図書館の理念と教育的意義、生涯学習社会・知識基盤社会における学校教育のあり方などを検討し、今日の学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにする。 【キーワード】 学校教育、学校図書館の理念、学校図書館の役割	野口 武悟（専修大学教授）	野口 武悟（専修大学教授）
2	学校図書館の歴史：日本を中心に	学校図書館の発展過程について、主にわが国の歴史を中心に論じる。今日の学校図書館制度が確立した第二次世界大戦後の時期、とりわけ、学校図書館法の成立とその後の展開を中心に取り上げる。 【キーワード】 日本の学校図書館史、学校図書館法の成立と改正	野口 武悟（専修大学教授）	野口 武悟（専修大学教授）
3	学校図書館の現状と課題	文部科学省や全国学校図書館協議会などが実施している学校図書館に関する調査の結果から、学校図書館の現状を概観するとともに、どのような課題があるのかを把握する。 【キーワード】 学校図書館調査、学校図書館の現状と課題	野口 武悟（専修大学教授）	野口 武悟（専修大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	教育法制・行政と学校図書館	学校図書館法、学校教育法、学校図書館施策（国・地方自治体）など学校図書館を取り巻く法制上、行政上のかかわりや仕組みについて幅広く論じる。著作権制度の法的な理念や、図書館の自由にも言及する。 【キーワード】 学校図書館法、学校図書館施策・行政	前田　稔（東京学芸大学准教授）	前田　稔（東京学芸大学准教授）
5	教育課程・方法と学校図書館	学校図書館は、学校の教育課程の展開に寄与することが求められる。学校の教育課程について学習指導要領との関わりに触れながら把握する。また、能動的な教育方法が教育界で注目されているなかで、学校図書館がどのように位置づけられるかについて論じていく。 【キーワード】 教育課程、学習指導要領、教育方法	前田　稔（東京学芸大学准教授）	前田　稔（東京学芸大学准教授）
6	校内体制の構築と教職員との協働	学校図書館の経営や利活用は、担当者である司書教諭だけでなされるわけではない。学校図書館に関する組織体制（校務分掌）を明確にし、司書教諭・学校司書はもちろん、他の教職員やボランティア・図書委員会とも協働していくことを論じる。 【キーワード】 校務分掌、司書教諭、学校司書、協働	前田　稔（東京学芸大学准教授）	前田　稔（東京学芸大学准教授）
7	学校図書館の経営	学校図書館経営について、目標管理を通じたマネジメントサイクルを参照しながら、企業経営と比較しつつ把握する。また、学校図書館経営の実際について概観することで、第9回以降で学ぶ各論的事項を経営の観点で位置づけていく。 【キーワード】 学校図書館の経営、マネジメントサイクル	前田　稔（東京学芸大学准教授）	前田　稔（東京学芸大学准教授）
8	学校図書館の評価と改善	学校図書館の経営は、計画的・組織的に行われる。学校図書館の問題点・課題等は年度末の評価によって明らかにし、次年度以降の経営計画はそれらに対する改善策を盛り込んで立案する。どのように評価し、その結果をもとにどのように改善に結び付けていくかについて論じる。 【キーワード】 学校図書館の評価、評価基準、学校図書館の改善	森田　盛行（全国学校図書館協議会理事長）	森田　盛行（全国学校図書館協議会理事長）
9	学校図書館の施設・設備	学校図書館が、学習情報センター、読書センターの役割を十分に果たすためにもよりよい環境を整備し、設備や備品を設置する必要がある。この回では、子どもたちの読書環境・学習環境を現代のニーズに合わせて整えるための施設・設備の基本的な考え方と具体例について解説する。 【キーワード】 学校図書館の設備、学校図書館の環境、学習環境デザイン	村上　恭子（東京学芸大学附属世田谷中学校司書） 前田　稔（東京学芸大学准教授）	村上　恭子（東京学芸大学附属世田谷中学校司書） 前田　稔（東京学芸大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	学校図書館のメディア・情報資源	学校図書館メディア・情報資源の意義と種類（印刷メディア、視聴覚メディア、電子メディア、ネットワーク情報資源など）、選択と提供について概観し、教育の中で期待される役割について論じる。また、教育の情報化と学校図書館の未来についても言及する。 【キーワード】 印刷メディア、視聴覚メディア、電子メディア	前田　稔（東京学芸大学准教授）	前田　稔（東京学芸大学准教授）
11	学校図書館の活動：概論	学校図書館活動は、主に児童生徒と教職員を対象に展開する図書館サービスである。この回では具体的な内容と方法について論じるとともに、学校図書館活動の拡大についても取り上げる。また、学校図書館活動の展開に際して考慮すべき著作権の運用についても触れる。 【キーワード】 学校図書館活動、資料提供サービス、情報提供サービス	福田　孝子（東京学芸大学非常勤講師） 野口　武悟（専修大学教授）	福田　孝子（東京学芸大学非常勤講師） 野口　武悟（専修大学教授）
12	学校図書館の活動：小・中学校の事例	今回と次回は、学校図書館活動の実際について具体的事例を通して紹介する。この回では、小学校と中学校の学校図書館活動を取り上げる。 【キーワード】 学校図書館活動、小学校の学校図書館、中学校の学校図書館	福田　孝子（東京学芸大学非常勤講師） 野口　武悟（専修大学教授）	福田　孝子（東京学芸大学非常勤講師） 野口　武悟（専修大学教授）
13	学校図書館の活動：高校・特別支援学校の事例	前回に引き続き、学校図書館活動の実際について具体的事例を通して紹介する。この回では、高等学校と特別支援学校の学校図書館活動を取り上げる。 【キーワード】 学校図書館活動、高等学校の学校図書館、特別支援学校の学校図書館	野口　武悟（専修大学教授）	野口　武悟（専修大学教授）
14	図書館協力とネットワーク	ひとつの学校図書館が単独で児童生徒、教職員の求めるメディアや情報を余すところなく提供することは施設や予算の制約から難しい。そこで重要になってくるのが図書館協力とネットワークである。この回では、図書館協力のねらいと意義、図書館ネットワーク形成の必要性とその実際などについて論じる。 【キーワード】 図書館協力、図書館ネットワーク、学校図書館支援センター	野口　武悟（専修大学教授）	野口　武悟（専修大学教授）
15	学校図書館に関する研究と展望	司書教諭・学校司書は、スキルの研修だけでなく、学校図書館および隣接領域を俯瞰し、未来を見据えた学校図書館の課題解決のための研究活動に取り組みたい。この回では、学校図書館の研究領域、方法を取り上げる。また、研究に必要な基本的な文献等も紹介する。 【キーワード】 学校図書館の課題、研究の意義、基本文献	野口　武悟（専修大学教授）	野口　武悟（専修大学教授） 森田　盛行（全国学校図書館協議会理事長）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	夏季集中科目（司書教諭）	科目コード	1527274	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 学校図書館メディアの構成 （’１６）＝ (R)

英文名 ＝ 〔 Selection and Organization of School Library Media (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：北　克一 （相愛大学特任教授） 〕

〔主任講師（現職名）：平井　尊士 （武庫川女子大学准教授） 〕

【本学担当専任教員：岩崎　久美子 （放送大学教授） 】

講義概要

学校図書館メディアの構成についての理解と運営能力の取得を目ざしながら、学校図書館メディアの専門職である司書教諭として基礎的な知識の獲得を目的とする。まず知識情報社会に伴う学習環境の変化を学習し、そこでのメディアの教育的意義と役割について取り上げ、併せて各種学校図書館メディアの種類と特性を理解する。続いて、学校図書館メディアの構築のために適切な資料・情報の選択と収集・提供を目的に、多様なメディアの評価を行う能力を得る。さらに、司書教諭は、学校図書館メディアの維持と展開に責任を負うものとして、メディアの選択・収集・更新・廃棄を企画、実行する能力を獲得する。後半では、メディアの組織化についてその目的・意義と業務プロセスを理解したうえで、学校図書館の当分野における現在の展開と今後の方向性を学習し、学校図書館メディアの構成についての総合的な理解を得る。

授業の目標

学校図書館経営の中心となる専門職である司書教諭として、学校図書館メディアの構成についての基本的な知識の獲得を目的とし、さらに当該分野についての継続的な自己学習の遂行の基礎を養成することを目的とする。

履修上の留意点

学習者の身近にある学校図書館、公共図書館を見学し、資料・情報がどのように提供されているのかを把握しよう。また、そのような図書館サービスを持続的に展開するには、どのような業務がバックヤードで行われているかを考えてみよう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校図書館メディアの意義と役割	知識情報社会における学校と学校図書館について、その学習環境の変化とそこでの学校図書館メディアの現状を取り上げる。さらに、教育課程の変化と学校図書館メディアの意義について講義する。 【キーワード】 知識情報社会、学校図書館メディア、教育課程の変化	北　克一 (相愛大学特任教授) 米谷　優子 (関西大学非常勤講師)	北　克一 (相愛大学特任教授) 米谷　優子 (関西大学非常勤講師)
2	学校図書館におけるメディアの種類・特性と活用	学校図書館メディアの種類について取り上げる。さらに学校図書館メディアの特性を学習した後、その学習への活用を論じる。 【キーワード】 学校図書館メディアの種類、学校図書館メディアの特性、学校図書館メディアの学習への活用	平井　尊士 (武庫川女子大学准教授)	平井　尊士 (武庫川女子大学准教授)
3	学校図書館メディアの構築	学校図書館のメディア構築に関する業務の基本を学習する。学校図書館メディアの収集方針の基本を述べ、併せて学校図書館メディアの選択指針を取り上げる。さらに、学校図書館メディア「蔵書」の評価についても基本的な視点を論じる。 【キーワード】 学校図書館メディアの収集方針、学校図書館メディアの選択指針、学校図書館メディア「蔵書」の評価	平井　尊士 (武庫川女子大学准教授)	平井　尊士 (武庫川女子大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	学校図書館メディアの収集方針と選択	学校図書館メディアの収集方針と、それに基づく 選択と収集、学校図書館図書標準を取り上げる。さらに、学校図書館メディアの選択のための情報源を解説すると共に、独自の情報ファイル資料の構築も講義する。そして、学校図書館メディアの維持に必要な除籍・廃棄について学習を進める。 【キーワード】 学校図書館メディアの収集方針と選択・収集、学校図書館図書標準、選択のための情報源、情報ファイル資料、学校図書館メディアの除籍・廃棄	平井　尊士（武庫川女子大学准教授）	平井　尊士（武庫川女子大学准教授）
5	学校図書館メディアの組織化の意義	学校図書館メディア（デジタルネットワーク情報資源を含む）の組織化の意義とそのプロセスを講義する。続いて、学校図書館メディアの配架について学習を進める。さらに、学校図書館メディアの組織化の新しい展開を取り上げる。 【キーワード】 学校図書館メディアの組織化、資料組織化の意義、記述目録法、主題索引法	平井　尊士（武庫川女子大学准教授）	平井　尊士（武庫川女子大学准教授）
6	学校図書館メディアの組織化(1)	学校図書館メディアの配架の基礎を論じ、さらに、必要に応じた学校図書館メディアの別置を取り上げる。そして、学校図書館のサイン計画を総合的に考える。 【キーワード】 学校図書館メディアの配架、学校図書館メディアの別置、学校図書館のサイン計画	平井　尊士（武庫川女子大学准教授）	平井　尊士（武庫川女子大学准教授）
7	学校図書館メディアの組織化(2)	学校図書館メディアの目録（典拠コントロール機能を含む）の意義と機能を講義する。続いて、目録の構成と種類を論じ、さらに、カード目録からコンピュータ目録へ流れの中で、現在のコンピュータ目録の検索機能、ネットワーク機能、総合目録などを取り扱う。 【キーワード】 目録の意義と機能、典拠コントロール、目録の構成と種類、コンピュータ目録の検索機能、コンピュータ目録のネットワーク機能、総合目録	北　克一（相愛大学特任教授） 川瀬　綾子（京都精華大学特任講師）	北　克一（相愛大学特任教授） 川瀬　綾子（京都精華大学特任講師）
8	学校図書館メディアの記述目録法(1)	学校図書館の目録政策を遂行するための基本的事項を解説し、さらに学校図書館の目録の水準の考え方を取り上げ、最後に、 学校図書館のための目録[規則]を論じる。 【キーワード】 学校図書館の目録政策、学校図書館の目録水準、学校図書館のための目録[規則]	北　克一（相愛大学特任教授） 米谷　優子（関西大学非常勤講師）	北　克一（相愛大学特任教授） 米谷　優子（関西大学非常勤講師）
9	学校図書館メディアの記述目録法(2)	記述目録法と書誌レコードについて講義する。続いて、書誌レコードの構成要素と検索の手がかりであるアクセスポイントの付与を論じる。さらに、MARCの利用、OPACからのダウンロードについて、学校図書館での活用の側面を述べる。 【キーワード】 記述目録法と書誌レコード、書誌レコードの構成要素、アクセスポイントの付与、MARCの利用、OPACからのダウンロード、API	北　克一（相愛大学特任教授） 米谷　優子（関西大学非常勤講師）	北　克一（相愛大学特任教授） 米谷　優子（関西大学非常勤講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	学校図書館メディアの主題索引法(1)	学校図書館メディアの主題索引法の基礎概念と実際を講義する。続いて、学校図書館メディアの分類法・件名標目法及び分類目録、件名目録の意義と機能について取り上げ、学校図書館での実際を学習する。 【キーワード】 学校図書館メディアの主題索引法、学校図書館メディアの分類法・件名標目法、分類目録・件名目録の意義と機能	米谷　優子（関西大学非常勤講師）	米谷　優子（関西大学非常勤講師）
11	学校図書館メディアの主題索引法(2)	学校図書館メディアの分類法として、分類表の特性とその構成を講義する。続いて、学校図書館での分類指針と分類作業を論じ、さらに、分類標目と所在記号について学習を行う。 【キーワード】 分類表の特性とその構成、分類指針と分類作業、分類標目と所在記号	米谷　優子（関西大学非常勤講師）	米谷　優子（関西大学非常勤講師）
12	学校図書館メディアの主題索引法(3)	学校図書館メディアの件名標目法として、件名標目表の特性とその構成を講義する。続いて、学校図書館での件名指針と件名作業を論じ、さらに、件名標目と参照、細目などについて学習を行う。 【キーワード】 件名標目表の特性とその構成、件名指針と件名作業、件名標目と参照、細目	米谷　優子（関西大学非常勤講師）	米谷　優子（関西大学非常勤講師）
13	学校図書館の情報資源の管理と運用	学校図書館総合システムの選定、管理、運用の基礎的な事項を取り上げる。続いて、地域総合目録と相互協力から全国総合目録までを解説する。さらに、学校図書館でのネットワーク情報資源の組織化と活用を概観する。 【キーワード】 学校図書館総合システムの選定・管理・運用、地域総合目録と相互協力、全国総合目録、ネットワーク情報資源の組織化と活用	北　克一（相愛大学特任教授） 川瀬　綾子（京都精華大学特任講師）	北　克一（相愛大学特任教授） 川瀬　綾子（京都精華大学特任講師）
14	特別な支援を要する児童生徒と学校図書館メディア	特別な支援を要する児童生徒と学校図書館メディアの構成を講義する。視覚や聴覚などの障害のある児童生徒への支援、学習障害のある児童生徒への支援、日本語を母語としない児童生徒への支援などについて、学校図書館メディアの構成のあり方を学習する。 【キーワード】 特別な支援を要する児童生徒と学校図書館メディアの構成	北　克一（相愛大学特任教授） 川瀬　綾子（京都精華大学特任講師）	北　克一（相愛大学特任教授） 川瀬　綾子（京都精華大学特任講師）
15	学校図書館の機能を支えるメディア組織化の将来	講義のまとめとして、学校図書館と地域図書館総合目録、相互協力、物流体制等の整備などの課題と将来を論じる。続けて、学校図書館でのネットワーク情報資源の組織化と活用を考え、さらに、学習環境の変化と学校図書館の役割、司書教諭の任務についてまとめる。 【キーワード】 地域図書館総合目録、相互協力、物流体制等の整備、ネットワーク情報資源の組織化と活用、学習環境の変化と学校図書館の役割、司書教諭の任務	北　克一（相愛大学特任教授） 米谷　優子（関西大学非常勤講師）	北　克一（相愛大学特任教授） 米谷　優子（関西大学非常勤講師）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	夏季集中科目（司書教諭）	科目コード	1527266	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 学習指導と学校図書館 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 School Curriculum and School Library（’16） 〕

〔主任講師（現職名）：堀川　照代　（青山学院女子短期大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：塩谷　京子　（関西大学非常勤講師）　〕

【本学担当専任教員：岩崎　久美子（放送大学教授）　】

講義概要

本科目は、学校図書館の「読書センター」と「学習・情報センター」という2つの機能のうちの後者の機能を対象として解説するものである。学校図書館は、学習・情報センターとして、必要な情報や資料を利用者に提供し、児童生徒の学びを幅広く豊かにし、そして、児童生徒が主体的に情報や資料を活用できる力、つまり情報リテラシーを身につけ、情報活用のプロセスを会得することができるように、指導・支援する。こうした学校図書館の機能について、その歴史・理論・実践の面から解説する。

授業の目標

現代のデジタル化社会において、生涯にわたって必要な情報活用能力を、小・中・高等学校において、実際にどのように育成していったらよいのかを理解し、将来、司書教諭として勤務する場合、この情報活用能力の育成の重要性を学校全体の教員に認識させ、学校全体の情報リテラシーのカリキュラムの計画・実行・評価のリーダーシップを身につけることを目標とする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育課程と学校図書館	現在の教育課程改革の潮流において、児童生徒に求められている力を確認し、教育課程における学校図書館の意義・機能を明確にする。また、学習指導要領やその解説で記述されている学校図書館の役割を押さえ、実際に学校図書館を利用するとはどういうことかを理解する。 【キーワード】 PISA調査、読解力、21世紀型スキル、教育課程改革、学習指導要領、生きる力、言語活動の充実、探究的な学習、総合的な学習の時間	堀川　照代（青山学院女子短期大学教授）	堀川　照代（青山学院女子短期大学教授）
2	学校図書館利用指導から情報リテラシー教育へ	学校図書館は、図書館という枠の中で図書館利用指導を行っていた時代から、司書教諭がどの教科にも基礎となる情報リテラシーの教育へ関わり、それを推進する立場をとるようにと変化してきた。その変化と意味について、米国の歴史を踏まえながら理解を深める。 【キーワード】 図書館教育、図書館利用指導、『学校図書館の手引き』、学校図書館基準、情報リテラシー	堀川　照代（青山学院女子短期大学教授）	堀川　照代（青山学院女子短期大学教授）
3	情報リテラシーの理論	情報リテラシーの育成の必要性や情報リテラシー研究の動向、代表的な情報リテラシーモデル等に関して説明し、情報活用プロセスの指導におけることばかけの重要性について考える。 【キーワード】 利用教育、情報リテラシー教育、情報リテラシーモデル、情報活用プロセス、Big6スキルモデル、探究モデル	堀川　照代（青山学院女子短期大学教授）	堀川　照代（青山学院女子短期大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	情報リテラシー教育の推進	情報リテラシーを育成するには、学級担任や教科担当教員が個々に実施するよりも、全校で組織的体系的に取り組む方が効果的である。まず、校内の教職員に情報リテラシーに関する理解を図った上で、その教育の推進組織を明確にし、全体計画や年間指導計画等を作成する必要がある。本章では、これらの作成の仕方について理解を深める。 【キーワード】 コーディネーター、体系表、全体計画、年間指導計画、指導案、評価	塩谷　京子（関西大学非常勤講師）	塩谷　京子（関西大学非常勤講師）
5	情報リテラシーの育成（1） 課題の設定	情報活用プロセス（探究の過程）を4段階でとらえると、第1段階は課題の設定である。本章では、テーマ（課題）の設定の仕方、情報探索の計画を立てる時の留意点について理解を深める。 【キーワード】 情報リテラシー、情報活用プロセス、探究の過程、情報活用スキル、課題の設定、テーマの設定、ウェビング、情報探索の計画	塩谷　京子（関西大学非常勤講師）	塩谷　京子（関西大学非常勤講師）
6	情報リテラシーの育成（2） 情報の収集	テーマの設定ができたら次は、情報を収集する段階に入る。情報を収集するためには、まず学校図書館の使い方やルールを知る必要がある。また、自分が必要としていた情報にたどり着くための方法や集めた情報を手元に置く方法も知っておきたい。本章では、学校図書館のオリエンテーションから始まり、情報の集め方と記録の仕方について理解を深める。 【キーワード】 オリエンテーション、分類、目録、情報探索、参考図書、ファイル資料、情報カード、要約、引用、目次、索引、インタビュー	塩谷　京子（関西大学非常勤講師）	塩谷　京子（関西大学非常勤講師）
7	情報リテラシーの育成（3） 整理・分析	情報収集後は、手元に情報カードなどが数多く集まる。これらを整理したり分析したりして主張を導くのが「整理・分析」の段階である。本章では、整理・分析の仕方について理解を深める。 【キーワード】 整理する、比較する、分類する、関連づける、多面的にみる、順序立てる、シンキングツール	塩谷　京子（関西大学非常勤講師）	塩谷　京子（関西大学非常勤講師）
8	情報リテラシーの育成（4） まとめと表現、学習の評価	整理・分析後は、事実や意見をもとに自分の主張を見出し、それを表現する段階に入る。主張を伝えるには、いくつかの根拠から主張を導き出す筋道が必要になる。本章では、まとめる方法や、相手に伝える方法について理解を深める。また、学び方を振り返ったり、自己のテーマに関する進捗状況を振り返ったりするなど、振り返る（評価する）時間は欠かせない。情報リテラシー育成の終章である本章において、評価の視点についても考える。 【キーワード】 組み立てる、ピラミッドチャート、レポート、発表会、振り返り、評価	塩谷　京子（関西大学非常勤講師）	塩谷　京子（関西大学非常勤講師）
9	教科における学校図書館活用（1）	さまざまな教科学習において、学校図書館および資料・情報をどのように活用すべきかを考える。学校図書館（機能）活用の前提としてどのようなことが必要なのか、また単元の展開、一時間の授業の展開過程では、どのような活用が可能なのか、実例を元に検討する。授業展開のなかで、児童生徒・教員・司書教諭・学校司書がどのようにかかわっているかについても検討する。 【キーワード】 知識基盤社会、情報リテラシー、教科学習に対応した学校図書館コレクション、目録の整備、資料を探しやすい図書館、利用指導、座席表	鎌田　和宏（帝京大学教授）	鎌田　和宏（帝京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	教科における学校図書館活用(2)	さまざまな教科学習において、学校図書館および資料・情報がどのように活用されて授業が展開していくかについて、実例を紹介しながら考察する。 【キーワード】 教科等での学校図書館活用、言語活動、並行読書、ブックトーク、レポート作成、新聞活用	鎌田　和宏（帝京大学教授）	鎌田　和宏（帝京大学教授）
11	総合的な学習における学校図書館活用	総合的な学習において、学校図書館及び資料・情報がどのように活用されて授業が展開していくかについて、実例を紹介しながら考察する。 【キーワード】 総合的な学習の時間、調べ学習、探究的学習、情報リテラシー、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現	鎌田　和宏（帝京大学教授）	鎌田　和宏（帝京大学教授）
12	特別支援教育と学校図書館	特別な支援を必要とする児童生徒の学習に関して、学校図書館をどのように整備し、司書教諭や学校司書はどのように関われればよいかについて述べる。 【キーワード】 特別な教育的ニーズ、特別支援教育、DAISY図書、LLブック、墨字図書、点字図書、拡大図書、拡大読書機、対面朗読	鎌田　和宏（帝京大学教授）	鎌田　和宏（帝京大学教授）
13	ICTを活用した教育・デジタルコンテンツの活用と学校図書館	学校教育においてデジタル教科書をはじめデジタル資料の利用が普及してきている。情報教育やNIEなどの教育と学校図書館の活用および情報活用能力の育成との関わりについて考える。 【キーワード】 情報教育、情報活用能力、デジタルコンテンツ、電子黒板	鎌田　和宏（帝京大学教授）	鎌田　和宏（帝京大学教授）
14	教授／学習活動を支援する情報サービス	学校図書館は、児童生徒の学習活動に対しても教職員の教育活動に対しても、その情報要求に対応する。レファレンスサービスをはじめとした情報サービスについて説明し、利用者に適切な情報提供をするためには、どのように準備が必要かを考える。 【キーワード】 情報サービス、レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス、パスファインダー	堀川　照代（青山学院女子短期大学教授）	堀川　照代（青山学院女子短期大学教授）
15	学習／教育のインフラとしての学校図書館	学校教育のインフラとして学校図書館が存在し機能すること、とくに学校図書館機能をカリキュラムに位置づける司書教諭の役割を理解する。また、カリキュラム展開における学校図書館活用について、児童生徒の学習効果と関連付けて評価する方法を学ぶ。 【キーワード】 学習／教育のインフラ、年間指導計画、司書教諭と学校司書の協働、学習評価、学校図書館活用評価、アセスメント	堀川　照代（青山学院女子短期大学教授）	堀川　照代（青山学院女子短期大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	夏季集中科目（司書教諭）	科目コード	1527240	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 読書と豊かな人間性 （’１５）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Reading for Developing Human Nature (’15) 〕

〔主任講師（現職名）：朝比奈　大作　（放送大学客員教授）　〕

〔主任講師（現職名）：米谷　茂則　（放送大学客員教授）　〕

【本学担当専任教員：岩崎　久美子　（放送大学教授）　】

講義概要

子どもの読書活動の推進は、現在では最も重要な文教政策のひとつとなっており、都道府県、市町村、それぞれのレベルで、多くの読書推進計画が立案されている。が、肝心の学校図書館が貧弱なままではそれらも画餅に帰すであろう。ここでは有効な読書推進活動を行うための学校図書館のあり方を考え、司書教諭の果たす役割を理解すると共に、実際の読書指導の内容と方法について具体的に学習していく。

授業の目標

「本を読むことは面白い」と子どもたちに思ってもらえることを前提に、そのためには、どのような学校図書館が必要か、どのような学校図書館活動が有効かを理解した上で、具体的な発達段階に合わせた読書指導の方法を学習する。狭義の読書指導を自己完結的に捉えるのではなく、学習指導との関わりをも重視し、また、家庭や地域との連携をも考えて、子どもたちをむしろ学外の社会へ送り出すような学校図書館のあり方を考えたい。

履修上の留意点

自分なりに子どもの本に興味を持ち、実際の読書材を数多く見ておいてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	読書活動の意義と目的	読書は人間形成に重要な意味を持つ。読書の喜びを知ってもらうために、教科教育とは異なる視点から、適書に出会う機会を作ること、良好な読書環境を整備することなどが読書指導の第一歩である。 【キーワード】 教科書、一斉授業、直接経験と間接経験、読書と人間形成、適書・不適書、除籍・廃棄・更新、読書環境の整備	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）
2	読書能力の発達	読書能力とは、ことば（書かれた言葉）からイメージを喚起する想像力のことである。一般的な読書能力の発達段階をおさえた上で、その発達を刺激しうる指導のあり方を考えてみる。 【キーワード】 識字（リテラシー）、イメージ化の力、（読書の）レディネス、ストーリー、社会化、発達段階、読書能力	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）
3	読書興味の発達	読書指導の中心は、児童生徒の読書興味の発達に応じて、読書へのモチベーションを高めることにある。一定の年齢までは共通性が高いといわれる読書興味の発達段階を理解しておく。 【キーワード】 読書興味の発達、動機づけ(motivation)、ヤングアダルト、自由読書、軽読書	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	読書の導入的な指導－楽しむ読書を中心に－	健全な読書活動のために、各校種ごと、学校全体として読書環境を整え、児童生徒の読書の効果ある指導法を考えて、まず読書を楽しめるような具体的な指導内容を解説する。 【キーワード】 児童生徒と本を結ぶ、学校図書館の整備、読書の時間の確保、読書の習慣化、朝の読書、読書活動集会	米谷　茂則（放送大学客員教授）	米谷　茂則（放送大学客員教授）
5	読書の展開的な指導－調べ学習を中心に－	各教科や総合的な学習における調べ学習は、本来的な意味での児童生徒の学習の中心となる活動である。その自主的な学習を進めていくための具体的な指導内容について解説する。 【キーワード】 調べ学習のテーマ、参考図書等の整備、調べ学習の具体的学習過程、日常体験の大切さ、自分の考えの形成	米谷　茂則（放送大学客員教授）	米谷　茂則（放送大学客員教授）
6	読書の発展的な指導－考える読書を中心に－	主体的な読書活動を展開するためには、児童生徒自身が読書の目標や計画を持てるようにできるとよい。読書によって自らの考えを形成し、深めていく具体的な方法について解説する。 【キーワード】 絵本の絵を読む読書、テーマ読書、複数の資料の比較、読書レポート、読書感想を深める指導、読書会	米谷　茂則（放送大学客員教授）	米谷　茂則（放送大学客員教授）
7	発達段階に対応した読書	小学校、中学校、高等学校の児童生徒は、戦後において、どのような作品を中心に読書してきたのかを提示し、校種ごとに、児童生徒が読み継いできた作品の傾向を解説する。 【キーワード】 自由読書で読み継いできた作品、考える読書で読み継いできた作品、ノンフィクション読書、自然科学分野の読書のすすめ、日本人女性の被伝者	米谷　茂則（放送大学客員教授）	米谷　茂則（放送大学客員教授）
8	集団読書と個人読書	集団読書では、集団で思考を高めていくことによって各個人が読書により興味を増すようにしていく。読書会を中心に解説する。個人読書として絵本読書、マンガ読書についても解説する。 【キーワード】 読書会、「泣いた赤おに」「くもの糸」の読書、話し合いの柱、絵本読書、日本文化としてのマンガ、マンガ読書	米谷　茂則（放送大学客員教授）	米谷　茂則（放送大学客員教授）
9	読書資料の多様化と活用	読書の本質は想像力を駆使した結果、「ああ面白かった」という感動を得る点にある。とすれば、現代においては類似の活動は多様に存在する。マルチメディア時代における読書活動の問題を、本質的に整理し直しておく。 【キーワード】 克己と勉強、童心主義、通俗書、マルチメディア化、子どもの読書傾向、不読児、娯楽としての読書	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）
10	読書資料の選択	司書教諭の最も重要な仕事の一つは「子どもたちに新しい本を沢山買ってあげる」ことである。出版界の実情や問題点を把握し、地域の実態や児童生徒の要望をもふまえて、選択・収集していくことが重要である。 【キーワード】 現代の出版流通、多品種少量生産、委託販売、読書の習慣化、ブラウジング、ブックリスト、図書の紹介、フロアワーク	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	読書体験の表現	「豊かな人間性」を培うための読書の観点とそのための作品を提示する。また、小学校上学年と中学校における読書会をどのように進めていったらよいのかを具体作品で解説する。 【キーワード】 読書体験の表現の方法、読書感想画、『何をどう読ませるか』、豊かな人間性の育成、読書会の進め方、読書会における教師の役割、「よだかの星」・「車輪の下」・「高瀬舟」の読書	米谷　茂則（放送大学客員教授）	米谷　茂則（放送大学客員教授）
12	読書体験の交流	読書活動を活発にするために、読書体験の交流を多くしていきたい。「読書週間」「読書会」など、全校、学年、学級レベルでの交流について解説する。高校における読書会について具体作品をとりあげて解説する。 【キーワード】 読書週間の活動内容、読書集会、読書週間設定の意義、親子読書、合同読書会、「人間失格」・「こころ」の読書、「夏の庭」の読書	米谷　茂則（放送大学客員教授）	米谷　茂則（放送大学客員教授）
13	家庭読書との連携	児童生徒の読書活動を発展させ、豊かな人間形成を図っていくためには、家庭や地域との連携が欠かせない。日頃から積極的、継続的な協力関係を取っていくことが司書教諭には求められる。 【キーワード】 読解から通読・多読へ、選択能力、読書調査、家庭への働きかけ、地域との連携、総合的な学習	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）
14	公共図書館などの活用	子どもの読書活動を学校の中だけで豊かにすることはできない。公共図書館を利用し、自ら図書を選択購入するなど、学外の活動に誘い、卒業後も豊かな読書活動を継続させていくことが、読書指導の本質である。 【キーワード】 社会教育、生涯学習、公共図書館、公民館、博物館、子どもの読書活動の推進に関する法律（子どもの読書活動推進法）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）
15	司書教諭の役割	学校の教育課程の編成における学校図書館と司書教諭の位置づけを確認し、読書指導といわゆる図書館利用指導とのかかわりを重視する立場から、司書教諭の専門性を考察して、この科目のまとめとする。 【キーワード】 教育課程における司書教諭の役割、（図書館）利用指導と読書指導、学校司書との連携、専門識者（プロフェッショナル）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	夏季集中科目（司書教諭）	科目コード	1527258	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 情報メディアの活用 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Utilization of School Library Media (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：山本　順一　（桃山学院大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：気谷　陽子　（獨協大学非常勤講師）〕

【本学担当専任教員：岩崎　久美子（放送大学教授）】

講義概要

この講義においては、学習情報センターおよび読書活動センターとしての機能が期待されている、日本の学校図書館制度のなかで、とりわけ前者の学習情報センターの機能発揮のために、同僚教員と協働しつつ、児童生徒に向き合う、司書教諭に対して求められる、高度情報通信社会に対する時代感覚とインターネット、情報通信機器とアナログを含むコンテンツの学校教育における活用能力にかかわる知識の伝達とスキル修得を支援する内容を展開するものとする。

授業の目標

児童生徒たちに対して、学校図書館と教室等を舞台に、21世紀を生きる、クリティカル・シンキング（critical thinking）と課題解決の能力を備え、情報倫理や知的財産権に関する本質的認識を身につけた、主体的な生涯学習者として育っていくことを支援する司書教諭にとって、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術に加え、進展を続ける情報通信環境のもとで基本的に求められる知識とスキル、方向感覚を修得していただくことをこの授業の目標としている。

履修上の留意点

印刷教材をよく読み、できる限り放送教材を視聴し、関係文献に眼を通すとともに、PCの操作やインターネット接続を前提とするところでは、実際に自分自身で作業をし、関係する知識とスキルの修得に努めてほしい。単位認定試験課題については、現職の教員や教育実習を受けた学生が自分の経験とその感想をまとめるだけでは所期の成果が得られたことにはならず、不合格となります。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校図書館の現状と情報メディアの利用	本講義の導入的内容。岡山県の公立学校に付設される学校図書館の現状を紹介し、学校教育に望まれる学校図書館と情報メディアの利用の在り方について考える。 【キーワード】 プライバシー、インターネット検索、著作権法、調べ学習	山本　順一（桃山学院大学教授） 大園　京子（岡山県立岡山大安寺中等教育学校司書）	山本　順一（桃山学院大学教授） 大園　京子（岡山県立岡山大安寺中等教育学校司書）
2	情報社会化という視点からの歴史的変動	人間社会の歴史は、超長期的視点からみれば、生存に必要な‘モノ’の生産から、その陰に隠れていた‘情報’を重視する社会への変遷と見ることもできよう。本講では、古代からの歴史変動の中で、そこに生きる個々の人間と社会のあり方も変わってきていることを指摘したい。 【キーワード】 インターネット・コミュニティ、サイバーハラスメント、ソックパペット、スマートフォン等の利用	山本　順一（桃山学院大学教授）	山本　順一（桃山学院大学教授）
3	情報通信の基盤の技術的背景	現代社会における情報通信は、インターネットを代表とする通信ネットワークを基盤としている。この通信ネットワークを実現している情報技術であるパケット交換方式、DNS、暗号化などの技術を解説し、その長所や限界を指摘する。 【キーワード】 パケット交換方式、IPアドレス、DNS、暗号化、検索エンジン、クローリング	高鍬　裕樹（大阪教育大学准教授）	高鍬　裕樹（大阪教育大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	学校教育と情報リテラシー	情報リテラシーとは、様々な種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力であり、情報リテラシーの範囲は多岐にわる。学校図書館において、各学校段階で求められる情報リテラシー教育について学習する。 【キーワード】 情報リテラシー、知識基盤社会、学校教育の情報化、情報利用の過程、オープン教材	気谷　陽子（獨協大学非常勤講師）	気谷　陽子（獨協大学非常勤講師）
5	学習情報ニーズに応える情報探索と情報収集	インターネット上の資源が豊富となり、膨大な情報の中から、目的にあう情報を検索して収集するスキルの重要性がますます高まっている。情報検索と情報収集の基礎知識とそのスキルについて学習する。 【キーワード】 情報検索の過程、人的支援サービス、検索漏れ、ノイズ、蔵書計画、相互貸借	気谷　陽子（獨協大学非常勤講師）	気谷　陽子（獨協大学非常勤講師）
6	伝統的な情報資源と電子情報資源の特性と活用方法	学校図書館は、印刷資料を中心とする従来型の図書館から、多様な情報メディアを供給するメディアセンターに変貌することが期待されている。伝統的な情報資源である印刷資料と電子資料のそれぞれの特性を検討し、そのメリット、デメリットを認識した活用方法等について学習する。 【キーワード】 オープンアクセス、レファレンスブック、デジタル教科書	気谷　陽子（獨協大学非常勤講師）	気谷　陽子（獨協大学非常勤講師）
7	探求学習に有用・有益な各種インターネット情報資源	学校や学校図書館で活用可能なインターネット情報資源とその使い方について具体的に紹介する。書誌情報（文献探索に資する情報）そのものや、必要な書誌情報を絞り込むための情報資源を紹介する。さらに法律や統計情報へのアクセスを可能とする情報資源を紹介する。 【キーワード】 文献情報、雑誌記事情報、法律情報、統計情報	高鍬　裕樹（大阪教育大学准教授）	高鍬　裕樹（大阪教育大学准教授）
8	学校（図書館）で有用なソフトウェアの使い方：文献管理と発想法	学校（図書館）で情報を収集し活用する際に有用なソフトウェアを紹介・解説する。文献情報を保存し管理するためのソフトウェア「DiSCUS」を紹介し、使い方を解説する。また、コンピュータ上でKJ法を実現するソフトウェア「IdeaFragment2」を紹介し、その使い方を解説する。 【キーワード】 ソフトウェア、DiSCUS、文献情報、IdeaFragment2、KJ法	高鍬　裕樹（大阪教育大学准教授）	高鍬　裕樹（大阪教育大学准教授）
9	学校（図書館）で有用なハードウェアの使い方：情報の集約と編集	学校（図書館）で情報を収集し活用する際に有用なハードウェアを紹介・解説する。スキャナやデジタルカメラなど情報をコンピュータのなかに取り込み加工・活用することを支援するハードウェアを紹介し、その有効な使い方を提案する。適宜有用なソフトウェアについても紹介・解説する。 【キーワード】 ADFスキャナ、書籍用スキャナ、OpticBook、斜め補正、SQS、RectAce	高鍬　裕樹（大阪教育大学准教授）	高鍬　裕樹（大阪教育大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	情報メディアの利用と知的財産制度	授業や学校図書館で利用される各種情報メディアに関連する知的財産権を中心として、知的財産権制度一般について概観する。 【キーワード】 知的財産権、特許権、意匠権、育成者権、学業秘密、商標権、著作権、オープンアクセス	山本　順一（桃山学院大学教授）	山本　順一（桃山学院大学教授）
11	著作物の利用と創造に関連する諸問題	児童生徒が授業その他で既存の著作物を利用し、あたらしい著作物を創造する場合に関連する法規範や情報倫理について検討を加える。 【キーワード】 著作権、パブリックドメイン、TEACH Act、引用、パブリシティ権、表現の自由	山本　順一（桃山学院大学教授）	山本　順一（桃山学院大学教授）
12	児童生徒の創造的活動と法的規律	調べ学習など授業を通じての児童生徒の学校図書館を利用しての創造的活動、図書委員の文化祭等の行事その他の諸活動に関連して、知的財産権や情報倫理など注意しなければならないことについて論じる。 【キーワード】 図書委員会、図書館だより、表紙画像、文化祭、レポート、プレゼンテーション	大園　京子（岡山県立岡山大安寺中等教育学校司書） 山本　順一（桃山学院大学教授）	大園　京子（岡山県立岡山大安寺中等教育学校司書） 山本　順一（桃山学院大学教授）
13	学校図書館のネットワークと社会的連携	児童生徒や教職員の情報ニーズは多様であり、学校図書館が単独で全てのニーズに対応できるわけではない。学校内の教職員や児童生徒、保護者、地域のボランティアなど地域社会との連携、公共図書館との連携協力が欠かせない。学校図書館どうしの相互協力ネットワークや学校図書館支援センターを含め、学校図書館をめぐる様々な連携協力について学習する。 【キーワード】 情報サービス、相互協力、学校図書館支援センター、公共図書館	気谷　陽子（獨協大学非常勤講師）	気谷　陽子（獨協大学非常勤講師）
14	特別支援教育と情報資源利用	特別支援教育とは、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導および必要な支援を行おうとするものである。情報メディア利用を中心に、特別支援教育における学校図書館の役割と活動について学習する。 【キーワード】 インクルーシブ教育、合理的配慮、特別支援教育、プリントディサビリティ、アシスティブテクノロジー(AT)	気谷　陽子（獨協大学非常勤講師）	気谷　陽子（獨協大学非常勤講師）
15	学校図書館と情報メディアの課題と展望	本講義の全体を振り返り、それぞれの講師の立場から、あらためて社会と学校教育、学校教育と学校図書館の現状を整理し、今後の学校図書館の近未来的将来像と司書教諭に期待される教育的役割について話し合い、受講生に対して一定の方向感覚の獲得をうながす。 【キーワード】 アリゾナの学校図書館、情報活用能力、デジタル教科書、学校図書館予算	山本　順一（桃山学院大学教授） 高鍬　裕樹（大阪教育大学准教授） 気谷　陽子（獨協大学非常勤講師） 大園　京子（岡山県立岡山大安寺中等教育学校司書）	山本　順一（桃山学院大学教授） 高鍬　裕樹（大阪教育大学准教授） 気谷　陽子（獨協大学非常勤講師） 大園　京子（岡山県立岡山大安寺中等教育学校司書）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	夏季集中科目（看護師）	科目コード	1887262	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 成人看護学 （’１４）＝ （R）

英文名 ＝ 〔 Adult Nursing (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：井上　洋士　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

※この科目は「成人看護学(’10)」を一部改訂した科目です。
改訂回は第1、3、4、8、10、11、13、15回です。

講義概要

成人期にある人々を対象に、その人にとって最適な健康を促進、維持、増進するための看護援助を学ぶ。成人期は期間が長く、人口も多いため、成人看護学も看護学のなかで重要な位置を占めるが、その幅はきわめて広い。そこで本科目では、特に内容を精選する工夫をしており、また全15回から全体を構成・網羅しているが、お互いに関連し一貫性のある構造になるよう工夫している。

授業の目標

青年期から中年期に至る成人期にある人々の、特徴的な健康障害や慢性的な障害、突発的な危機をもたらす状況についての理解を深め、成人の健康回復・維持のための具体的な看護援助方法ならびに人生途上の死に直面して人生の終末段階を生きる人々への看護支援について、その概要を知ること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	成人期にある人の特徴と健康問題（※改訂回）	成人看護学が対象とする成人について概説する。具体的には、成人とはどのような人のことを指すのか、成人期の人の心身の変化と各期の特徴と発達課題、わが国の成人を取り巻く状況とライフスタイル、成人期にある今日の健康動向、そして成人期の人を対象とする看護の基本的考え方について、紹介する。 【キーワード】 ライフサイクル、成人期、発達課題、健康動向	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）
2	手術を受ける患者の治療過程と生活過程での援助	手術療法を受ける患者は、その選択までの意思決定、術前の心身の準備や術後の侵襲からの回復、さらには家庭や社会への復帰、術後の自己管理や定期受診など、治療や生活の過程で多くの課題に直面する。ここでは、周手術期看護の理念、意思決定を支援する看護、術前患者の身体的・心理的準備を整えるための看護、術後患者の心身の回復を促進する看護、そして手術患者の家庭・社会復帰を支援する看護について説明する。 【キーワード】 手術、意思決定、術前、術後、退院指導	佐藤　まゆみ（千葉県立保健医療大学教授）	佐藤　まゆみ（千葉県立保健医療大学教授）
3	慢性的な経過をたどる健康障害と看護（※改訂回）	成人期に発症する疾患や受傷による健康障害は、多くの場合慢性に経過する。そこで、こうした慢性的な経過をたどる健康障害、それらと共に生きる患者の特徴、生活習慣病とそれらに対する近年の対策、慢性病をもつ患者への看護援助方法、慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の生活支援における看護の役割について説明する。アドボケイトやリハビリテーションについても紹介する。 【キーワード】 慢性疾患、セルフケア、人生再構築	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	呼吸機能障害のある成人への援助（※改訂回）	「呼吸をすること」は、生命維持に不可欠な人間の生理的欲求である。この回では、呼吸機能とその障害、呼吸機能障害による生命や生活への影響、呼吸機能障害のある患者の主な検査と治療およびその看護、そして呼吸機能障害のある患者の看護について詳説する。 【キーワード】 呼吸機能障害、呼吸管理、生活調整	林　優子（大阪医科大学看護学部長・教授）	林　優子（大阪医科大学看護学部長・教授）
5	循環機能障害のある成人への援助	循環機能障害は、生命の危機的状態から日常生活における生活調整の必要性といった様々な健康問題に影響を及ぼす。ここでは、循環機能障害の病態および原因となる疾患、循環機能障害患者が受ける検査・治療、再発・悪化予防のための生活調整に関する看護援助について、教授する。 【キーワード】 循環機能障害、生活習慣、心臓リハビリテーション	野澤　明子（前浜松医科大学教授）	野澤　明子（前浜松医科大学教授）
6	消化・吸収機能と栄養代謝障害のある成人への援助	消化・吸収および栄養代謝にかかわる身体機能と、それらの障害のある患者への看護援助方法のポイントについて、胃がん、食道がん、ウイルス性肝炎、肝硬変症などを例に紹介する。さらに、関連して出現しやすい主な症状と、それらの発現している患者への看護援助方法を説明する。 【キーワード】 栄養摂取障害、食事、消化器	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）
7	生体防御機能障害のある成人への援助	成人の生体防御機能障害について概説し、二次バリア障害による主な疾患としてアレルギー、膠原病、HIV感染症などをとりあげ、特徴およびそれらのある成人への看護援助のポイントを説明する。さらに、看護における感染防御として、スタンダードプリコーションとそれに基づく感染予防策についても紹介する。 【キーワード】 生体防御機能障害、免疫機能低下、感染症	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）
8	感覚機能障害のある成人への援助（※改訂回）	感覚機能と、それが人間の生活にもたらす影響について説明した上で、特殊感覚機能の特徴とその障害をもつ成人への援助の説明へと進める。さらに、聴覚・視覚機能の障害を学び、中途視覚障害への理解を深め、基本的な援助方法についても紹介する。 【キーワード】 感覚機能、特殊感覚、聴覚、視覚、中途視覚障害者、ロービジョンケア	高柳　千賀子（城西国際大学准教授）	高柳　千賀子（城西国際大学准教授）
9	糖・脂質代謝障害のある成人への援助	糖・脂質代謝障害は、生活習慣に起因する疾患の発症や糖尿病や心疾患などの増悪・合併症の出現に大きく関連している。そこで、糖尿病と脂質異常症を軸に、それぞれの症状や治療について概観した上で、看護アセスメント、看護目標、看護援助のポイントを説明する。 【キーワード】 療養支援、糖尿病、生活習慣、行動変容	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	内部環境調節障害のある成人への援助（※改訂回）	生命を維持するためには内部環境を一定に保持することが重要である。この回では、内部環境調節とその障害について扱う。具体的には、内部環境調節障害による生命や生活への影響、内部環境調節障害のある患者の主な検査と治療およびその看護、内部環境調節障害のある患者の看護について紹介する。 【キーワード】 体温調節障害、腎機能障害、腎不全、自己管理	林 優子（大阪医科大学看護学部長・教授）	林 優子（大阪医科大学看護学部長・教授）
11	脳・神経機能障害のある成人への援助（※改訂回）	脳・神経機能障害は、日常生活上の困難性や、意欲の低下ならびに社会生活における不安や孤立といった影響をもたらす。ここでは、脳・神経機能障害の特徴、脳・神経機能障害を引き起こす原因疾患、そして脳・神経機能障害を持つ患者の安全を配慮し日常生活自立へ向けた援助方法について説明する。 【キーワード】 意識障害、高次脳機能障害	野澤 明子（前浜松医科大学教授）	野澤 明子（前浜松医科大学教授）
12	運動機能障害のある成人への援助	運動機能障害は、運動器系、神経系、運動調節系など様々な原因により起こり、人の活動や参加などに影響を与える。活動性の低下は、新たな合併症の併発につながる危険性がある。ここでは、運動機能障害の基本的特徴、運動機能障害が生活機能に及ぼす特徴とアセスメント方法、そして運動機能障害に伴って起こりやすい合併症を予防し生活を整える看護について紹介する。 【キーワード】 運動機能障害、活動、生活機能	野澤 明子（前浜松医科大学教授）	野澤 明子（前浜松医科大学教授）
13	排泄機能障害のある成人への援助（※改訂回）	「排泄すること」は、生命維持に不可欠な人間の生理的欲求である。この回では、排泄機能とその障害について、排泄機能障害による生命や生活への影響、排泄機能障害のある患者の主な検査と治療およびその看護について、そして排泄機能障害のある患者の看護について紹介する。 【キーワード】 排便機能障害、排尿機能障害、ストーマ造設、排泄管理	林 優子（大阪医科大学看護学部長・教授）	林 優子（大阪医科大学看護学部長・教授）
14	性・生殖機能障害のある成人への援助	性行動・性機能の障害はセクシュアリティの障害として広く人々の生活や人生に影響を及ぼす。そこで、これらの特徴と看護援助について説明する。また、セクシュアリティの障害の原因となる疾患の代表的なものと看護のポイントについても説明する。さらに主な性感染症についても紹介する。 【キーワード】 性・生殖機能障害、セクシュアリティ	井上 洋士（放送大学教授）	井上 洋士（放送大学教授）
15	がん罹患及び人生の終末期を生きる人への援助（※改訂回）	わが国のがん政策の動向とがんの疫学、がん患者の特徴と主たるがん治療の概要を説明する。また、がん患者を看護するうえで必要な概念を説明する。終末期のがん患者が呈する症状、特にがん性疼痛に対する治療原則、ターミナルステージの各期の患者の特徴と患者・家族に対するケアについても紹介する。 【キーワード】 がん、がん対策、がんサバイバー、意思決定、終末期、緩和ケア、症状マネジメント、家族ケア	林 直子（聖路加国際大学教授）	林 直子（聖路加国際大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１３年度	科目区分	夏季集中科目（看護師）	科目コード	1887238	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　老年看護学　　（’１３）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：井出　訓　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

本科目は、老年期を生きることの意味と価値との理解を深め、生物学的な老化から高齢者施策を含む社会的な視点に立ちつつ高齢者を捉えながら、老いを生きる人々への看護を考えていく授業である。授業の構成としては、老年看護学が対象とする高齢者の生活と健康を、高齢期に体験される「老い」という視点から理解したうえで、加齢に伴う心身の変化の特徴を、全人的な多角的観点から学習する。さらに、高齢者の権利擁護、老年期における生活機能の管理、老年期に特有の疾病・症候と看護支援、認知症高齢者へのケア、要介護高齢者へと家族への支援、最後に高齢者の終末期ケアについて学習する。

授業の目的

老年期を生きる高齢者の理解を深め、看護者として高齢者にかかわるために必要とされる知識、技術と理念の統合に向けた基盤づくりを図る。また、一般的な高齢者に対する固定観念にとらわれることなく、個性豊かな高齢者の姿をとらえる視点を学習する。さらに、老年期におこる特徴的な心身の変化への理解を深めるとともに、生涯発達という視点から人間としての豊かな暮らしを成就していく老年期を生きる高齢者の姿を学習し、終末期をも含めた高齢者の健康生活を支える看護実践にむけた基本的知識の習得を目的とする。

履修上の留意点

看護師国家試験の試験科目ともなる老年看護学の基本的事項に焦点を当てている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	老年期を生きる高齢者の理解と老年看護の理念	老年看護学を学び始める入り口として、老いるとはどのようなことかを紐解きながら今日の社会で老年期を迎え生きる人々への理解を深めていくとともに、高齢者の生活を支援する看護のありかたを解説する。また、老年看護における対象者の特性、ならびに老年看護の理念と目標について述べる。 【キーワード】 加齢と老い、発達、老年期、人生の統合、健康維持	井出　訓（放送大学教授）	井出　訓（放送大学教授）
2	わが国の高齢者と高齢者施策（高齢者保健施策と高齢者ケア施設）	高齢社会における保健医療福祉の動向を、老人福祉法、老人保健法、ゴールドプラン、介護保険法を中心に概説する。また、高齢者ケアを支える諸施設および職種とその役割について学び、高齢者をとりまく社会の変化とそれに対応した看護の場、看護職の役割を考察する。 【キーワード】 保健医療福祉制度、介護保険法、看護の場と役割、高齢者ケアにかかわる他職種	勝野　とわ子（首都大学東京教授）	勝野　とわ子（首都大学東京教授）
3	加齢に伴う心身の変化と看護の支援	加齢に伴って変化する高齢者の身体的、精神的、社会的機能の特徴を概説するとともに、加齢変化が高齢者に与える影響について解説する。また、高齢者の加齢変化を理解するうえで重要となるヘルスアセスメント方法の原則とポイントを述べる。 【キーワード】 加齢に伴う諸機能の変化、ヘルスアセスメント	勝野　とわ子（首都大学東京教授）	勝野　とわ子（首都大学東京教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	高齢者の権利擁護と倫理課題	今日の社会における高齢者への差別や偏見を考えながら、高齢者へ権利擁護を解説する。また、在宅や施設に暮らす高齢者への虐待、身体拘束など、倫理的な課題を学習するとともに、看護者としての支援の在り方を考察する。 【キーワード】 権利擁護（アドボカシー）、虐待、身体拘束、成年後見	井出　訓（放送大学教授）	井出　訓（放送大学教授）
5	老年期の生活機能マネジメント1 －生活リズム	高齢者が日常生活を営む上での生活リズムの特徴とリズム調整の意義とを説明し、リズムの乱れを生み出す行動のアセスメントや、睡眠と覚醒の変化について学習する。また、高齢者の生活リズムを整える看護支援について考察する。 【キーワード】 生活リズム、睡眠、覚醒	萩野　悦子（北海道医療大学准教授）	萩野　悦子（北海道医療大学准教授）
6	老年期の生活機能マネジメント2 －活動	老年期に生じがちな身体運動機能の障害について説明するとともに、その影響として現れる行動範囲、活動性の変化、廃用症候群、転倒・骨折の危険性等について学習する。また、高齢者の運動機能に関するアセスメントと看護、および予防について説明する。 【キーワード】 日常生活動作、ロコモティブシンドローム、廃用症候群、転倒・転落、機能維持、機能回復	原　等子（新潟県立看護大学准教授）	原　等子（新潟県立看護大学准教授）
7	老年期の生活機能マネジメント3 －食事	高齢者に見られる特徴的な歯・口腔の変化や、咀嚼、摂食・嚥下のプロセスにおける障害の発生と影響要因を解説し、摂食と嚥下、また栄養状態のアセスメントとともに、高齢者の食事に関する看護ケアについて学習する。 【キーワード】 低栄養、摂食・嚥下障害、口腔機能低下	原　等子（新潟県立看護大学准教授）	原　等子（新潟県立看護大学准教授）
8	老年期の生活機能マネジメント4 －排泄・清潔	高齢者の排泄（排便・排尿）能力がどのように障害されていくか、その特徴と影響要因ついて解説し、排泄のアセスメントと看護の援助について学習する。また、高齢者に特徴的な皮膚の変化について解説し、清潔に関するアセスメント、およびスキンケア、褥瘡対策の方法について述べる。 【キーワード】 失禁、便秘、排泄コントロール、ドライスキン、褥瘡、疥癬、スキンケア	原　等子（新潟県立看護大学准教授）	原　等子（新潟県立看護大学准教授）
9	老年期に特有の疾病・症候と回復に向けた看護支援1 －呼吸・循環	高齢者の呼吸機能、循環機能とその障害、ならびに影響要因について解説し、呼吸・循環機能のアセスメントについて学習するとともに、疾病に伴う生活障害にむけた看護支援について考察する。 【キーワード】 呼吸・循環機能の加齢変化、機能アセスメント、呼吸不全、心不全	井出　訓（放送大学教授）	井出　訓（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	老年期に特有の疾病・症候と回復に向けた看護支援2 ー脳神経・認知機能	高齢者の脳神経系、認知機能系障害と影響要因にいつて解説し、高齢者に特有の痛みや睡眠障害、せん妄状態などの身体的、精神的、社会的課題、ならびにアセスメント方法を説明する。また、疾病に伴う高齢者の生活障害にむけた看護支援について述べる。 【キーワード】 脳卒中、パーキンソン病、せん妄、うつ	萩野　悦子（北海道医療大学准教授）	萩野　悦子（北海道医療大学准教授）
11	老年期に特有の疾病・症候と回復に向けた看護支援3 ーリハビリテーション	老年期におけるADLと生活意欲の捉え方について述べ、ADLの拡大、生活意欲の向上に向けた看護支援のあり方について解説するとともに、高齢者の自律した生活をめざす看護援助の意義について述べる。 【キーワード】 リハビリテーション、生活機能障害、ADL、生活意欲、QOL	井出　訓（放送大学教授）	井出　訓（放送大学教授）
12	認知症の基本構造とケアの理解	認知症とは何かという基本構造を解説し、認知症高齢者を中心としたケアのあり方について述べる。また、認知症高齢者が急増する時代の中で看護師が果たす役割と担うべきケアとを確認しつつ、実例を交えながら認知症の人への先駆的ケアを紹介する。 【キーワード】 認知症ケア、中核症状と周辺症状、ステージ別アプローチ	永田　久美子（認知症介護研究研修東京センター研究部副部長）	永田　久美子（認知症介護研究研修東京センター研究部副部長）
13	認知症高齢者への看護ケア実践	なじみの関係、なじみの環境といった認知症高齢者のケアの基盤となる環境調整ととコミュニケーションのあり方を説明する。また、認知症の人の安定した暮らしの継続に向けたチームアプローチについて解説し、看護師の具体的な活動の様子を実例から紹介する。 【キーワード】 なじみの関係作り、なじみの環境作り、日常生活支援、地域支援、チームアプローチ	永田　久美子（認知症介護研究研修東京センター研究部副部長）	永田　久美子（認知症介護研究研修東京センター研究部副部長）
14	在宅で生活する高齢者、およびその家族への看護	家族とは何か、家族アセスメントモデルなどについて解説するとともに、在宅で暮らす要介護高齢者、特に認知症高齢者と家族への看護活動の重要性を説明する。また、家族への看護援助のプロセスを事例を通して学習し、他職種との協働による支援のありかたについて考察する。 【キーワード】 家族、家族アセスメント、家族支援、他職種との協働	勝野　とわ子（首都大学東京教授）	勝野　とわ子（首都大学東京教授）
15	終末期における看護支援	生まれ、成長し、老いて、死ぬ人の人生において、老年期という人生の終盤をいかに豊かに生きるか。人間の発達という視点から老いを考えつつ、発達の最終段階としての老年期を生きる高齢者の支援について、また看とる家族へのかかわりについて解説し、高齢者の終末期看護について考察する。 【キーワード】 老年期、発達、終末期ケア、リビングウイル、看取り	井出　訓（放送大学教授）	井出　訓（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１６年度	科目区分	夏季集中科目（看護師）	科目コード	1887289	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 小児看護学 （’１６）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Child and Family Nursing (’16) 〕

〔主任講師（現職名）：江本 リナ （日本赤十字看護大学教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 〕

【本学担当専任教員：井上 洋士 （放送大学教授） 】

講義概要

近年の子どもと家族を取り巻く社会は、子どもの貧困、児童虐待、いじめや自殺、災害による子どもの生活変化などの厳しい局面にさらされている。また、小児医療においては、高度医療に伴い子どもの疾病は複雑で重症化し、医療依存度の高い子どもや成人期に持ち越される慢性疾患をわずらう子どもが増加するなどの課題も多い。このような状況にある子どもが、最善の利益が守られ健やかに成長・発達できるよう、個々の発達段階と健康レベルに応じた援助を学び、子どもと家族に対する看護の役割を考える。

授業の目標

本科目では、変化する社会で生きる子どもと家族の背景を捉え、子どもの最善の利益を守る看護の役割を考えることを目標としている。

履修上の留意点

社会状況は常に変化しているため、出生率、死亡率、死亡順位、受療率などの統計数値は、最新のものを各自確認すること。
また、予防接種、小児特定慢性疾患治療研究事業の対象となっている疾患群、児童虐待、障がいなどに関する法律は、最新情報を各自確認すること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	小児看護の役割	近年の社会・医療事情を踏まえ、子どもと家族が置かれている状況を踏まえ、子どもと家族の最善の利益を目指した小児看護の役割を考える。 【キーワード】 母子保健施策、子どもの最善の利益、子どもの権利、子どもへの説明、小児看護の役割	江本 リナ（日本赤十字看護大学教授）	江本 リナ（日本赤十字看護大学教授）
2	乳児期の子どもと家族	乳児は生理的適応課程にあり、身体機能が著しく成長・発達しながら栄養・睡眠・排泄のリズムや言語を獲得し、基本的信頼関係を築くという過程にある。そこで、実際の乳児の生活を示す映像を通して、成長・発達の実際、成長・発達を育む家族の役割、子どもと家族への支援について学ぶ。 【キーワード】 成長・発達の原則、乳児期の心身の成長・発達、家族の役割、乳児と家族への支援	江本 リナ（日本赤十字看護大学教授）	江本 リナ（日本赤十字看護大学教授）
3	幼児期の子どもと家族	幼児期は心身の成長・発達が著しく、基本的生活行動を確立させていく過程にある。運動機能の発達により行動範囲が広がり、認知や言語の発達によりコミュニケーション能力が向上する。そこで、実際の幼児の生活を示す映像を通して、この発達過程と子どもを育むための家族の役割、子どもと家族への支援について学ぶ。 【キーワード】 幼児の心身の成長・発達、生活習慣の自立、コミュニケーション、家族の役割、幼児と家族への支援	川名 るり（日本赤十字看護大学准教授）	川名 るり（日本赤十字看護大学准教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	学童期・思春期の子どもと家族	学童期は学校生活を中心として友達との関わりの中で達成感や有能感を獲得していく時期である。また、思春期は身体の劇的な成長や性的な変化を体験し、精神的な動揺の大きい時期であるが、その中で自我同一性を模索し、獲得していく。そこで、実際の学童期・思春期の子どもの生活を示す映像を通して、このような子どもの成長発達の特徴と家族関係の変化について学ぶ。また、それぞれの発達の過程に特徴的な問題行動や逸脱行動について説明し、健康教育について考える。 【キーワード】 第二次性徴、学校生活、子どもと家族関係の変化、学童・思春期の子どもへの支援	川名　るり（日本赤十字看護大学准教授）	川名　るり（日本赤十字看護大学准教授）
5	病気や入院などが子どもと家族に与える影響	病気や入院などが子どもと家族に与える影響は大きく、様々な因子によって変化する。そこで、実際の病棟および外来の映像を通して、病院の環境を考える。また、子どもの発達段階別、入院形態別などによる援助、および面会や付き添いについて学ぶ。 【キーワード】 病気・入院・病棟環境の影響と看護、面会、付き添い	筒井　真優美（日本赤十字看護大学名誉教授）	筒井　真優美（日本赤十字看護大学名誉教授）
6	急性期症状のある子どもと家族（1）	急性期疾患を抱える子どもの場合、症状の悪化を防ぎ、安定した状態になることを目指す。そこで、子どもに多く見られる急性期症状を示す、発熱・嘔吐・下痢・脱水・呼吸困難・けいれん・てんかんを取り上げ、病態、観察ポイント、症状緩和に対する援助、家族への支援を学ぶ。 【キーワード】 発熱、脱水、呼吸困難、けいれん、てんかん、症状緩和と家族への支援	江本　リナ（日本赤十字看護大学教授）	江本　リナ（日本赤十字看護大学教授）
7	急性期症状のある子どもと家族（2）	急性期症状を示す感染症の予防と伝播を防ぐ予防接種、乳幼児突然死症候群、児童虐待を取り上げ、子どもが健やかに育つために必要な子どもと家族への支援を学ぶ。 【キーワード】 予防接種、乳幼児突然死症候群、児童虐待、子どもと家族への支援	江本　リナ（日本赤十字看護大学教授）	江本　リナ（日本赤十字看護大学教授）
8	先天性疾患のある子どもと家族	子どもの先天性の疾患は、成因の違いによって、単一遺伝子病、染色体異常症、多因子遺伝病、そして、外因による先天異常とに分類される。それぞれの代表的な疾患を挙げ、病態、治療、予後、子どもと家族への援助について学ぶ。 【キーワード】 先天性疾患、マス・スクリーニング、心疾患、治療と予後、子どもと家族への援助、Drotar	川名　るり（日本赤十字看護大学准教授）	川名　るり（日本赤十字看護大学准教授）
9	手術を受ける子どもと家族	子どもの手術の特徴と手術を必要とする代表的な疾患を挙げ、病態、治療、予後、子どもと家族への援助について学ぶ。また、近年増加している日帰り手術について説明する。 【キーワード】 子どもの手術の特徴、手術が必要な疾患、手術の決定、治療と予後、日帰り手術、子どもと家族への援助	川名　るり（日本赤十字看護大学准教授）	川名　るり（日本赤十字看護大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	感染症と隔離／活動制限が必要な子どもと家族	小児期特有の感染症の特徴、観察ポイントについて説明し、子ども自身や周囲の人を感染から防ぐための隔離と隔離された子どもへの援助について学ぶ。 また、治療・検査のために一時的に体動が制限される場合の子どもへの影響と、子どもと家族への支援について学ぶ。 【キーワード】 小児期に特有な感染症、隔離、活動制限、子どもへの影響	江本 リナ（日本赤十字看護大学教授）	江本 リナ（日本赤十字看護大学教授）
11	慢性期にある子どもと家族／外来における看護	慢性疾患を抱えながら学校や幼稚園・保育園に通い、地域で生活している子どもと家族に対して必要とされる継続的な援助について学ぶ。さらに、地域医療を担うクリニックの実際の映像を通して、小児科外来の特徴と看護の役割(日常的な疾患への対応、継続的なケアを必要とする子どもへの援助、健康増進活動)について学ぶ。 【キーワード】 小児慢性特定疾患治療研究事業、慢性疾患を持つ子どもと家族の生活、子どものセルフケア、子どもと家族への援助、小児科外来の特徴と看護	川名 るり（日本赤十字看護大学准教授）	川名 るり（日本赤十字看護大学准教授）
12	小児がんを患う子どもと家族	小児がんの代表的な疾患を取り上げ、小児がんの特徴、病態、治療法、治療によって生じる影響、予後、子どもと家族への援助について学ぶ。また、子どもが体験する痛み、影響する要因、痛みの客観的評価、痛みの緩和への援助について説明する。 【キーワード】 小児がん、小児がんを患う子どもと家族、子どもと家族への援助、子どもの痛み、痛みの緩和援助	江本 リナ（日本赤十字看護大学教授）	江本 リナ（日本赤十字看護大学教授）
13	子どもの死と家族	死にゆく子どもとその子どもを看取る家族にどのような援助が必要かを考える。死に対する子どもの反応や、他人の死を子どもにどのように伝えるかなど、死をめぐる課題を説明する。また、災害（自然災害及び人為的災害）時の子どもと家族への援助について学ぶ。 【キーワード】 死にゆく子ども、死の概念、他人の死、災害、子どもと家族への援助	筒井 真優美（日本赤十字看護大学名誉教授）	筒井 真優美（日本赤十字看護大学名誉教授）
14	障害のある子どもと家族	医療依存度の高い身体障害児とその家族の生活場所に対する意思決定と移行支援、および、子どもが成長発達に応じた通常の生活をするために必要な在宅ケアにおける看護師の役割を説明する。また、発達障害児にも焦点をあて、子どもと家族への支援について説明する。これらについて、在宅ケアの実際や、発達障害トレーニングの様子など、現場の映像や当事者の話を通して学ぶ。 【キーワード】 障害と障害受容、発達障害、障害のある子どもと家族、重症心身障害児、超重症児、医療的なケア、長期入院、療養場所の選択と意思決定、在宅への移行支援、在宅療養、在宅ケア、訪問看護	鈴木 真知子（京都大学大学院教授）	鈴木 真知子（京都大学大学院教授）
15	子どもの事故とその対応	不慮の事故は常に乳幼児死亡の原因の上位を占めている。発達段階によって異なる子どもの事故の特徴、虐待との鑑別、事故の予防策について、実際の映像を交えて学ぶ。また、気管内異物、誤飲、溺水、熱傷などの事故に対する救急処置について、実演を交えて学ぶ。そして、子どもが健やかに成長・発達するための看護の役割を改めて考える。 【キーワード】 子どもの事故、事故防止、気道内異物、誤飲、熱傷、救急処置	江本 リナ（日本赤十字看護大学教授）	江本 リナ（日本赤十字看護大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１４年度	科目区分	夏季集中科目（看護師）	科目コード	1887254	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 母性看護学 （’１４）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Maternity Nursing (’14) 〕

〔主任講師（現職名）：齋藤　いずみ　（神戸大学大学院教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：井出　訓　（放送大学教授）　】

講義概要

母性看護学は、妊産褥婦および新生児に関する基礎的知識と看護について学ぶマタニティサイクルと、女性の生涯にわたる性と生殖に関する健康を支援に関わるライフサイクルを主とした学習に大別される。周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児期）を中心に、女性の一生においては思春期から更年期・老年期までの女性とそのパートナー、子供、家族を主な看護の対象とする。それらの人々に、社会・国内外の動向をたえず考慮しながら、科学的根拠に基づき、適切な看護を提供可能とするための知識を学ぶ。また母性看護学および関連分野の研究成果を充分に反映した内容とする。

授業の目標

マタニティサイクル、およびライフサイクル各期の基礎的メカニズムとその看護について科学的根拠に基づき理解できること、およびウィメンズヘルスの視点からの女性の性と生殖に関する健康支援に関する方策を理解できること、さらに国際的視野からわが国の少子化および育児支援に関する社会システムや政策を考える機会となることを目標とする。

履修上の留意点

妊娠・出産・産褥・新生児期に関する医学的基礎知識を、参考書や市販の教科書で補完することにより、母性看護学本来の看護部分への理解が深まり、母性看護学の楽しさも一層味わえるものとなる。また受講生の皆様の居住する地域の自治体や職場の母子保健制度を調べることによって、一層身近な問題としてとらえることが可能となり、また市民として賢く制度を利用できると思われる。看護職以外の視聴者の皆さまにも、現代のあるいは将来の、妊娠・分娩・子育て期の人々に、役立ち楽しめる科目構成となることも一部念頭に置く。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	母性看護学の概要	母性という基本的概念を学び、マタニティサイクル、ライフサイクル各期に関する考え方を理解する。母性看護学の学問としての成り立ちと変遷を学び、学問体系を理解する。セクシュアリティやジェンダーの視点について概観し、母性看護学に深く影響する理論について学ぶ。 【キーワード】 母性の概念、マタニティサイクル、ライフサイクル、ウィメンズヘルス、セクシュアリティ、ジェンダー、リプロダクティブヘルスアンドライツ、母性看護学、助産学	齋藤　いずみ（神戸大学大学院教授）	齋藤　いずみ（神戸大学大学院教授）
2	統計値から見る日本の母子保健水準	統計値を読み理解し、将来の政策や作戦を考える宝庫が、母子保健統計である。母子保健統計を読むために必要となる用語の定義を理解し、人口動態統計を概観する。ベビーブーム、 ひのえうま現象、人口減少局面にある日本の現状、周産期・新生児・乳児・妊産婦死亡率、 合計特殊出生率等から日本の母子保健水準の概要を理解する。 【キーワード】 人口動態、周産期・新生児・乳児・妊産婦死亡率、合計特殊出生率、ひのえうま現象	齋藤　いずみ（神戸大学大学院教授）	齋藤　いずみ（神戸大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	統計値から見る諸外国の母子保健水準	世界各国の母子統計統計値と日本の値を比較検討し、世界の中で日本の置かれている状況を理解する。各国の母子保健政策を学び、将来の日本の方向性を考える基礎的知識を学ぶ。視聴覚教材においては、後発開発途上国の母子保健の現状について学び、わが国の医療職の海外における活動について理解する。 【キーワード】 諸外国における周産期・新生児・乳児・妊産婦死亡率・合計特殊出生率、日本との比較、後発開発国の母子保健の現状	齋藤 いずみ（神戸大学大学院教授）	齋藤 いずみ（神戸大学大学院教授）
4	生殖のメカニズム	女性生殖器の構造、月経周期とホルモン調節の関わりを理解し、月経周期におけるホルモン分泌と子宮内膜の変化を学ぶ。射精、排卵、受精、着床、妊娠にいたる妊娠の成立にいたる過程を学ぶ。 【キーワード】 女性生殖器、性周期、女性ホルモン、卵子、精子、受精、着床、妊娠の成立	定方 美恵子（新潟大学大学院教授）	定方 美恵子（新潟大学大学院教授）
5	妊娠期	妊娠の進行に伴う全身の変化と胎児の成長、並びに胎児発育に関わる胎盤ホルモンの作用を理解し、妊娠各期に生ずる身体的、心理社会的変化を学ぶ。この時期の女性におこりやすい健康課題に対する看護の援助方法を学ぶ。 【キーワード】 妊娠初期・中期・末期、妊娠期の健康診査、保健指導、育児・出産準備	定方 美恵子（新潟大学大学院教授）	定方 美恵子（新潟大学大学院教授）
6	分娩期	分娩開始と分娩経過を理解し、分娩進行に伴う産婦の身体的・心理社会的変化と胎児に対する看護の援助方法を学ぶ。また、分娩に伴い起こりやすいリスクと医療による対応について解説する。 【キーワード】 分娩経過、分娩の三要素（娩出力・産道・娩出物）、産痛緩和、周産期医療システム	定方 美恵子（新潟大学大学院教授）	定方 美恵子（新潟大学大学院教授）
7	産褥期	産褥0日から7日までの母体の正常な進行性・退行性変化について理解し、その時期の女性が抱えやすい健康問題や不安とそれに対する看護の援助方法を学ぶ。また退院後1か月健診までの経過についても概観する。 【キーワード】 進行性変化、母乳、乳汁分泌、ポジショニング、ラッチオン、退行性変化、子宮復古、悪露、親役割	三隅 順子（東京医科歯科大学講師）	三隅 順子（東京医科歯科大学講師）
8	新生児期	出生直後、および生後0日から生後7日未満までを中心に新生児の正常な生理的・身体的変化を理解する。正常からの逸脱の予防や早期対処としての看護の援助方法を学ぶ。また生後28日未満までの変化についても概観する。 【キーワード】 出生時体重、週数相当、低出生体重児、アプガール・スコア、成熟兆候、肺サーファクタント、胎児循環、生理的体重減少	三隅 順子（東京医科歯科大学講師）	三隅 順子（東京医科歯科大学講師）
9	ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児	妊娠・分娩・産褥期、新生児期の代表的異常事例を学ぶ。また、身体的ハイリスクのみならず、母親や子どもの社会的ハイリスクについても理解し対応を学ぶ。 【キーワード】 周産期、身体的異常、心理的ハイリスク、社会的ハイリスク	三隅 順子（東京医科歯科大学講師）	三隅 順子（東京医科歯科大学講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	ハイリスク妊娠・分娩・産褥期の事例	既往疾患、精神疾患などを合併し妊娠・分娩・産褥期を経過する複雑な困難事例に対する母性看護専門看護師のアプローチの実際を学ぶ。 【キーワード】 母性看護専門看護師、他分野の専門看護師・認定看護師との協働	佐藤　陽子（昭和大学・昭和大学病院講師、母性看護専門看護師）	佐藤　陽子（昭和大学・昭和大学病院講師、母性看護専門看護師）
11	周産期の安全と質の保証	医療事故、医療の安全と質に関する基礎的知識を学び、周産期における医療の安全と質に関する理解を深める。また助産外来と院内助産の概要を学び、産婦人科医師が減少した状況下における、安全と質について考察する。分娩期の看護事例を基に、分娩曜日、時刻、疾患のグレードの違いなどの視点から、安全な分娩時の看護体制についてデータから導き出す方法を学ぶ。 【キーワード】 医療事故、医療の安全と質、産婦人科診療ガイドライン、周産期の安全と質に関する研究事例	齋藤　いずみ（神戸大学大学院教授）	齋藤　いずみ（神戸大学大学院教授）
12	母性看護学における倫理的諸問題	母性看護学分野の実践において、かかわることが多い倫理的課題について理解し、医療倫理と看護倫理の視点からの検討について学ぶ。生殖にかかわる生命倫理の話題として不妊治療の場面を通して看護倫理の在り方を学ぶ。 【キーワード】 不妊治療、生命倫理、出生前診断、看護倫理	定方　美恵子（新潟大学大学院教授）	定方　美恵子（新潟大学大学院教授）
13	ライフサイクル思春期	思春期における心身の変化と特徴について理解する。思春期に起こりやすい心身の異常や性の問題について学び、健全な成長への支援について考える。 【キーワード】 第二次性徴、月経異常、ボディイメージ、やせ・肥満、人工妊娠中絶、学校保健	千場　直美（神戸大学大学院准教授）	千場　直美（神戸大学大学院准教授）
14	ライフサイクル更年期・老年期	更年期における女性の心身の変化と特徴を理解する。更年期女性に起こりやすい様々な症状や疾患を理解し、予防法、健康維持方法、及び治療法等について学ぶ。 【キーワード】 更年期、閉経、更年期症状、ホルモン補充療法、健康寿命	千場　直美（神戸大学大学院准教授）	千場　直美（神戸大学大学院准教授）
15	世界の周産期医療システムと日本の課題	世界の医療システム・周産期医療システムについて概観し、各国の周産期に関わる看護職の果たす役割について学ぶ。アメリカ、イギリス、オランダ、フランス、カナダなどと日本のシステムの比較検討を行う。院内助産システムなどを例に、日本の周産期を中心に母子保健における課題と対策を考察する。 【キーワード】 世界の医療・周産期医療システム、周産期に関わる看護職の活動、アメリカ・イギリス・オランダ・フランス・カナダ、日本の現状と課題	齋藤　いずみ（神戸大学大学院教授）	齋藤　いずみ（神戸大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１５年度	科目区分	夏季集中科目（看護師）	科目コード	1887270	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 精神看護学 （’１５）＝ （TV）

英文名 ＝ 〔 Psychiatric Nursing（’15） 〕

〔主任講師（現職名）：松下　年子　（横浜市立大学教授）〕

【本学担当専任教員：戸ヶ里　泰典　（放送大学教授）】

講義概要

精神看護学は狭義の精神看護、いわゆる精神科医療を想定した精神科看護のみならず、急性疾患や慢性疾患、また生活習慣病など身体疾患を抱えた患者のメンタルヘルス、さらには、一般生活者の精神健康増進を主眼としたメンタルヘルスを包含するものである。看護学領域において、人を生物学的存在として、また心理社会学的存在として捉える全人的観点は必須であり、いかなる臨床場面においても、そうした観点から提供される看護、すなわち「こころの看護」が求められている。これに資するのが精神看護学である。なお、個人をトータルな存在としてみる精神看護学にあっては、個人の心理や身体のみに着眼するのではなく、対象を、心身両面から構成される「精神活動の主体」、他者とともに自立した、かつ相補的な「対人関係を構築していく主体」、ライフサイクルやスピリチュアルな面からは常に「成長し続ける主体」、「地域で生活する主体」として捉え、その主体の自立を促すよう支援することを究極の目的としている。さらに、看護職者には、患者ないし個人のアドボケーターとしての役割が期待されることから、他者を擁護することの意味と責任を自覚し、擁護を適切に遂行する能力も不可欠である。こうした能力の育成に資するのも、精神看護学である。個人対個人の関係だけではなく集団、組織、社会という枠組みと、それらの力動を理解し、個人や集団の安寧とQOL、倫理や公平を配慮しつつ介入する能力の獲得を目指す。
本科目のカリキュラム構成であるが、「概論」として、精神看護の本質と課題、精神看護の歴史、人権擁護や社会保障を含む精神科医療福祉の制度と法律、こころの構造・機能と発達、精神科薬物療法、精神障害者のアセスメントと危機介入、精神科リハビリテーション、地域精神看護、最後に、コンサルテーション活動および、精神看護と看護の将来を展望する観点から、精神看護領域における高度実践看護のあり方を用意した。また「各論」として、統合失調症およびうつ病、双極性障害、不安症、パーソナリティ障害、心身症、適応障害、てんかん、自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症（ADHD)の看護、アディクション看護を設けた。なおアディクション看護では、アディクション問題が精神看護学のみならず全看護学領域にて共有されるべき、領域横断的な課題であることを教授しつつ、一方で、精神看護ならではのコンサルテーション能力を育むことを目指す。精神看護領域における高度実践看護のあり方では、「看護師特定能力認証制度」の成立を目前とした今だからこそ、学生が精神看護の発展可能性をイメージできるよう、海外の高度実践看護師の活動と歴史を紹介する。本科目は「看護師資格取得に資する科目」である。

授業の目標

第1に、精神医療と社会の関係、精神看護と社会の関係、こころの病と看護の関係、メンタルヘルスと看護の関係を時間軸をもって理解すること、第2に、こころの健康と非健康の連続性、行動制限と人権の関連、精神疾患の病理とその治療と社会復帰の実際、そこで果たす看護の役割を理解すること、第3に、地域精神医療における高度実践看護のあり様について考案できることを目標とする。

履修上の留意点

「基礎看護学（’16）」「在宅看護論（’17）」「成人看護学（’14）」「老年看護学（’13）」「小児看護学（’16）」「母性看護学（’14）」など。また、脳神経系に関する解剖生理学および、薬理学の基礎を事前に学習しておくこと、「今日のメンタルヘルス（’15）」において基礎的な精神保健の知識を身につけておくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	精神看護の本質と課題	①現代社会における精神保健医療の問題と課題、②精神看護とは何か、その目的と役割、対象について、さらに、③精神看護の将来に向けた課題、可能性について解説する。 【キーワード】 精神、こころの看護、社会病理、アドボケーター、自立支援	松下　年子（横浜市立大学教授）	松下　年子（横浜市立大学教授）
2	精神看護の歴史	精神看護の歴史を解説すると共に、古代から現代までの国内外の精神医療の展開と法制史も概観する。東洋と西洋の精神障害者に対する接し方の違いを家族と地域の視点から明らかにし、最後に、現代日本の精神障害者への地域ケアの困難さの背景について説明し、看護者及び家族の精神障害者への関わり方を解説する。 【キーワード】 精神看護史、精神障害者の人権、宗教観、法制史、家族看護	日下　修一（聖徳大学教授）	日下　修一（聖徳大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	精神科医療福祉の制度と法律	精神障害者はこれまでややもすると、偏見や社会防衛の観点から社会から排除され、人権侵害を被ることが少なくなかった。家族も同様である。こうした状況を考慮して法制度がどのように整備されてきたかを解説する。さらに看護師が法制度を理解しておくことがケアの展開になぜ必要なのかを理解する。 【キーワード】 障害者、制度と法律、権利擁護、障害者権利条約、障害者基本法、精神保健福祉法	末安　民生（天理医療大学教授）	末安　民生（天理医療大学教授）
4	こころの構造・機能と発達	①こころの構造と機能、特に、精神力動的観点をもってのこころのメカニズムの理解、②防衛機制と対処行動の実際、③こころの発達段階と、より健康的、適応的にこころが成長するための要件と資源について、さらに、④こころの機能・発達をより促進するための看護のあり様について解説する。 【キーワード】 こころの構造、こころの機能、防衛機制、対処行動（コーピング）、こころの発達（発達理論）、ライフサイクル、発達課題、危機	松下　年子（横浜市立大学教授）	松下　年子（横浜市立大学教授）
5	精神科薬物療法	精神科薬物療法の概要を解説する。向精神薬の開発の過程、アドヒアランス等についても触れる。 【キーワード】 精神科薬物療法、向精神薬、抗精神病薬、アドヒアランス	吉浜　文洋（佛教大学教授）	吉浜　文洋（佛教大学教授）
6	精神障害者のアセスメントと危機介入	精神看護に有用とされるオレム・アンダーウッドのセルフケア理論に基づくアセスメントについて解説し、具体的事例として、精神科救急医療での看護、自殺未遂や自傷行為、離院等の緊急事態に対するアセスメントと危機介入（看護介入・看護管理）及び急性期の精神科入院患者への接し方について述べる。 【キーワード】 セルフケア理論、アセスメント、精神科急性期看護、精神科看護管理	日下　修一（聖徳大学教授）	日下　修一（聖徳大学教授）
7	統合失調症の看護	①統合失調症の病理、疫学、治療、②陽性症状や陰性症状に代表される、各精神症状に対する看護の基礎について、③統合失調症患者への看護について、さらに、④統合失調症患者の家族への支援について解説する。 【キーワード】 統合失調症、精神科診断、DSM-5、陽性症状、陰性症状、修正型電気けいれん療法、行動制限	松下　年子（横浜市立大学教授）	松下　年子（横浜市立大学教授）
8	うつ病・双極性障害の看護	①うつ病・双極性障害の病理、疫学、治療、②各精神症状に対する看護の基礎について、③うつ病・双極性障害患者への看護について、さらに、④うつ病・双極性障害患者の家族への支援について解説する。 【キーワード】 うつ病・双極性障害、抗うつ薬、修正型電気けいれん療法、社会復帰、自殺、自殺念慮	松下　年子（横浜市立大学教授）	松下　年子（横浜市立大学教授）
9	不安症、パーソナリティ障害、心身症、適応障害、てんかんの看護	不安症、パーソナリティ障害、心身症、適応障害、てんかんの病理と治療、看護について解説する。これらの障害を抱えた人を取り巻く社会背景について考えるとともに、今後の社会的課題や対応についても触れる。 【キーワード】 不安症、パーソナリティ障害、心身症、適応障害、てんかん	森　真喜子（国立看護大学校教授）	森　真喜子（国立看護大学校教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症（ADHD）の看護	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症（ADHD）の病理と治療、看護について解説する。このような障害を抱えた人を取り巻く社会背景について考えるとともに、今後の社会的課題や対応と同時に、発達障害者支援法についても触れる。 【キーワード】 自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症（ADHD）	森 真喜子（国立看護大学校教授）	森 真喜子（国立看護大学校教授）
11	アディクション看護（1）	①アディクション（嗜癖）や依存症の本質（病理と種類）、②アディクション（嗜癖）や依存症の疫学と回復について、③システムズアプローチに基づく当事者および家族支援について、さらに、④アルコール使用障害の治療とリハビリテーション（回復）の具体について解説する。 【キーワード】 アディクション、嗜癖、依存症、嗜癖行動障害、世代伝播、システムズアプローチ、否認、ハームリダクション、セルフヘルプグループ	松下 年子（横浜市立大学教授）	松下 年子（横浜市立大学教授）
12	アディクション看護（2）	①薬物使用障害の治療、リハビリテーション（回復）の具体について、②ギャンブル障害と買い物依存症の治療、リハビリテーション（回復）について、③自傷行為を繰り返す人への治療と看護、④共依存と虐待（小児虐待・DV・高齢者虐待・障害者虐待）の関連と対応について、さらに、⑤神経性やせ症・神経性過食症の病態、治療、看護、家族への支援について解説する。 【キーワード】 薬物使用障害、常容量依存、置換療法、共依存、DV、高齢者虐待、神経性やせ症・神経性過食症、クロスアディクション	松下 年子（横浜市立大学教授）	松下 年子（横浜市立大学教授）
13	精神科リハビリテーション	精神科病院の在院日数短縮化と地域精神医療への移行を背景に、精神科リハビリテーションがいかに変化しつつあるのか、また、主に入院医療で提供される回復を支援するための資源の種類とその活用方法の実際を解説する。 【キーワード】 精神科リハビリテーション、SST、退院支援、リカバリー、システムズ・アプローチ、レジリアンス、ストレングス、High EE	森 真喜子（国立看護大学校教授）	森 真喜子（国立看護大学校教授）
14	地域精神看護	精神障害者の地域生活を支えるために看護職に必要な原則や制度、支援のための方法と課題、期待されている役割を解説する。特に、訪問活動や就労支援の実際と課題について説明する。 【キーワード】 訪問活動とアウトリーチサービス、地域生活支援事業、就労支援、退院後生活環境相談員、多職種アプローチ	末安 民生（天理医療大学教授）	末安 民生（天理医療大学教授）
15	コンサルテーション活動および精神看護領域における高度実践看護のあり方	①看護場面におけるコンサルテーション活動の実際、②プロセス・コンサルテーションの理論と技法、③リエゾン精神看護について、身体科における精神看護の専門性とその活用法について、④わが国におけるこれまでの看護および精神看護の専門性の発展について、さらに、⑤諸外国の看護の専門性確立を参照しながら、わが国の精神看護の専門性の将来と発展可能性を展望する。 【キーワード】 コンサルテーション、プロセス・コンサルテーション、リエゾン精神看護、高度実践看護、APN、CNS、ナースプラクティッショナー（NP）、看護師特定能力研修制度	松下 年子（横浜市立大学教授）	松下 年子（横浜市立大学教授）

事務局記載欄	開設年度	２０１２年度	科目区分	夏季集中科目（看護師）	科目コード	1887220	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　看護管理と医療安全　　（’１２）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：大島　弓子　（豊橋創造大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：飯島　佐知子　（順天堂大学教授）　〕

【本学担当専任教員：井上　洋士　（放送大学教授）　】

講義概要

臨床における看護管理とは、患者や家族に看護ケア、治療への助力、安楽を与えるために看護職員が行う仕事の過程である。本科目ではマネジメントサイクル、組織構造、看護提供システム、目標管理、キャリア開発、リーダーシップ理論、労務管理、看護の質の評価と管理、情報管理等について講義する。医療安全では、医療事故の定義、看護業務における医療事故の分類、看護事故防止の考え方、注射、輸液、内服、経管栄養、チューブ管理、転倒・転落、入浴中の事故の防止など看護関連事故の具体的方法について講義する。

授業の目標

「看護管理」は医療施設などの組織で働く看護職が専門職業人として社会情勢の変化や医療政策の変化に対応し責任を持って働く姿勢を身につけるために必要な知識の獲得を目標とする。「医療安全」は、組織的に取り組む安全管理の考え方を学び、看護職に多い医療事故を防ぐための具体的方法について学ぶことを目標とする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	看護管理学とは、看護職と法制度	看護管理とは何かの概念と意義をを理解し、看護管理の発達と学問的な位置づけを概括的に知る。看護の活動・教育・研究を担う看護専門職の概念と定義を理解し、看護が専門的な活動であることの概観をつかむ。その活動は、看護に関わる法制度に則り、患者・家族のニードにそった質の高い看護を提供するシステムであることを理解する。また、看護専門職として患者・家族の自律と権利を尊重するなどの倫理規範を持っていること、その育成の教育制度についても概括を理解する。 【キーワード】 看護管理学の定義、看護職の定義、専門職の定義、看護にかかわる法制度、看護システム、患者の権利の尊重、職業倫理、看護職の教育制度	大島　弓子(豊橋創造大学教授)	大島　弓子(豊橋創造大学教授)
2	健康保険制度	保健医療サービスの提供組織の管理を行うためには、医療保険制度についての知識が不可欠である。本講義では、他の先進国との比較から我が国の医療制度の現状と課題について学び、我が国の健康保険制度について学習する。 【キーワード】 健康保険制度、看護政策	飯島　佐知子(順天堂大学教授)	飯島　佐知子(順天堂大学教授)
3	診療報酬制度と看護の報酬	我が国の診療報酬制度について学び、そのどのような仕組みで医療行為に報酬が支払われているのかを学ぶ。また、どのような看護行為に診療報酬の対価が支払われているのかを学び、診療報酬制度の課題について考える。 【キーワード】 診療報酬制度、看護の診療報酬	飯島　佐知子(順天堂大学教授)	飯島　佐知子(順天堂大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	看護組織の管理	患者のニーズに沿った医療を提供するためには、看護師や医師など保健・医療サービスの提供者を組織化する必要がある。病院では看護師は最も人数の多い専門職集団であり、患者に直接接することから、常に組織の構成員である看護職員の仕事へのモチベーションを高め、質の良い看護を提供できる組織づくりが求められる。ここでは、組織の成り立ちと構想、動機づけ理論などの基礎理論について学ぶ。 【キーワード】 組織とは、看護部門の組織構造、組織の理念と目標、「科学的管理法」「人間関係論」「目標による管理」、動機付け理論	勝山　貴美子（横浜市立大学教授）	勝山　貴美子（横浜市立大学教授）
5	看護ケアのマネジメント	看護ケアのマネジメントは対象者に提供されるケアを対象者ごとに個別にマネジメントすることである。対象者の状態を目標に近づけるために医師や医療従事者などの提供するサービスも含めて、全ての資源を活用し、確認、評価、調整することである。 【キーワード】 看護基準、看護手順、看護ケア提供システム、他職種との協働、クリニカル・パス	勝山　貴美子（横浜市立大学教授）	勝山　貴美子（横浜市立大学教授）
6	リーダーシップ	リーダーシップは、組織を活性化させ、目標・目的に向かって人を導いていくことであり、より具体的には目標達成に向けて他の人達の行動について指導、教育、動機付け、指示を行うことである。また、特定の個人のもつ資質や能力によるものではなく、学習によって習得可能な行動であるとされている。 【キーワード】 リーダーシップ、特性理論、パス・ゴール・モデル、SL理論、変革理論、PM理論	田中　幸子（東京慈恵会医科大学教授）	田中　幸子（東京慈恵会医科大学教授）
7	看護師のキャリア開発	キャリアとはホールによれば、組織内の昇進、専門職の体系的なステップ、生涯にわたる職業経歴、仕事に関連した生涯にわたる諸経験などである。組織の一員として働く看護職が、生涯における職業を通じての組織内で自己実現を果たし、どのように組織の発展への貢献していく仕組みについて学ぶ。 【キーワード】 キャリアの定義、キャリア開発、キャリア発達、クリニカルラダー、セカンドキャリア	田中　幸子（東京慈恵会医科大学教授）	田中　幸子（東京慈恵会医科大学教授）
8	病院の財務会計と管理会計	我が国の医療施設の経営は厳しい状況にあり、その中で質の良い医療サービスを提供することが求められている。看護職も例外ではない。本章では病院の費用の管理に関する基本的な用語について学ぶ。 【キーワード】 病院会計准則、財務諸表、原価計算、費用効果分析	飯島　佐知子（順天堂大学教授）	飯島　佐知子（順天堂大学教授）
9	情報管理(1)	看護管理における情報管理の目的は、看護管理に関わる様々な状況で意思決定を行えるように、情報を活用することである。情報管理のもう一つの目的はセキュリティにある、そこで本章では、情報活用とそのために必要な知識・技術であるリテラシーと、セキュリティを維持向上する方法と患者のプライバシーを扱う医療者としての作法としての情報倫理について学ぶ。 【キーワード】 情報、情報活用、リテラシー、セキュリティ、プライバシー、情報倫理	波多野　浩道（藍野大学教授） 兒玉　慎平（鹿児島大学講師）	波多野　浩道（藍野大学教授）

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	情報管理(2)	看護管理における情報管理には、情報技術(IT)が強力なツールとして活用される。情報のIT化によるシステム構築が、看護部門独自に、医療施設単位で、さらには地域レベルで、現在試みられている。そこで、医療情報システムについて、オーダリングシステム、電子カルテシステム等を概観する。看護情報の標準化と看護管理にどのように情報システムが活用できるかを看護必要度等により学び、最後に、情報管理の現状と看護師の役割を総括する。 【キーワード】 医療情報システム、オーダリングシステム、電子カルテ、標準化、看護必要度	波多野　浩道(藍野大学教授) 兒玉　慎平(鹿児島大学講師)	波多野　浩道(藍野大学教授)
11	看護の質の評価と管理	質の良い看護を提供することはこれまでも看護職の目標であったが、今日、医療・看護を基準に基づいて評価し、改善を図ろうとる統合したシステムが取り入れられている。その概念枠組みや評価基準の実際について学ぶ。 【キーワード】 医療の質の定義、構造、過程、結果の指標、第三者評価、看護の質の評価指標	飯島　佐知子(順天堂大学教授)	飯島　佐知子(順天堂大学教授)
12	医療事故と事故防止の考え方	1999年のY大学病院の医療事故以来我が国でも医療事故防止への組織的な取り組みが社会的要請となり、医療の質と安全性の向上のためにリスクマネジメントが行われるようになった。ここでは、医療事故の定義や発生の現状について学ぶ。 【キーワード】 医療事故の定義、医療事故の発生件数、事故防止の考え方	飯島　佐知子(順天堂大学教授)	飯島　佐知子(順天堂大学教授)
13	診療補助に伴う事故の防止	注射や投薬など看護職が行う診療補助業務における事故は医療提供者側の要因で発生することが多い。診療補助業務には、医師の指示から実施までに複雑なプロセスが存在する。各プロセスにおける危険要因を整理し、それらの要因の背景にある危険因子について学ぶ。 【キーワード】 注射業務、輸液ポンプ、輸血業務、経管栄養、内服与薬業務、チューブ管理の事故防止	森田　恵美子(公立瀬戸旭看護専門学校副校長)	森田　恵美子(公立瀬戸旭看護専門学校副校長)
14	療養上の世話における事故の防止	療養上の世話における事故の中で最も多い事故は転倒・転落によるものである。本章では転倒・転落のについて、発生状況、患者側のリスクアセスメント、予防対策について具体的に説明する。 【キーワード】 転倒の定義、発生率、発生状況、転倒リスクアセスメント、転倒予防対策	飯島　佐知子(順天堂大学教授)	飯島　佐知子(順天堂大学教授)
15	組織としての医療安全対策	1つの不幸な事故の背景には何十、何百もの同様のニアミスが存在するといわれている。事故防止に組織的に取り組むためにはそのような、ニアミスや事故の情報を的確に収集し分析し、対策立案、評価するシステムの構築が必要である。 【キーワード】 安全管理指針、ヒヤリ・ハット、事故報告による情報収集と事故分析、国の対策	森田　恵美子(公立瀬戸旭看護専門学校副校長)	森田　恵美子(公立瀬戸旭看護専門学校副校長)

この冊子に掲載した 2017 年度新規開設科目の講義内容は、教材の原稿等を作成する時点で主任講師等が執筆しております。実際に印刷教材及び放送教材を制作する時点で内容等を組み替えていることもあり、必ずしも最終的な印刷教材・放送教材と一致していない部分がありますので、ご容赦ください。

なお、放送大学ホームページに掲載されている講義内容については、最新の内容に随時更新しております。

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています